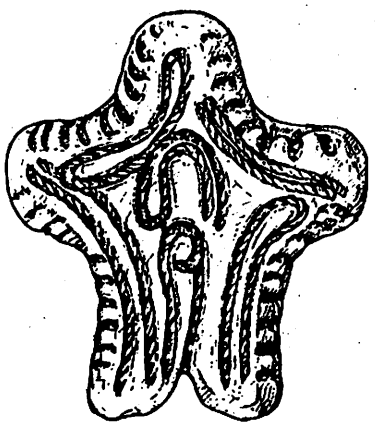
余市町
フゴッペ貝塚

―北後志東部地区広域営農団地農道整備事業用地内埋蔵文化財発掘調査報告書―



本 文 編

平成元・2年度

財団法人　北海道埋蔵文化財センター

北埋調報　72

余市町
フゴッペ貝塚

―北後志東部地区広域営農団地農道整備事業用地内埋蔵文化財発掘調査報告書―

本 文 編

平成元・2年度

財団法人　北海道埋蔵文化財センター



FH—16出土の土偶（実大）

口絵２



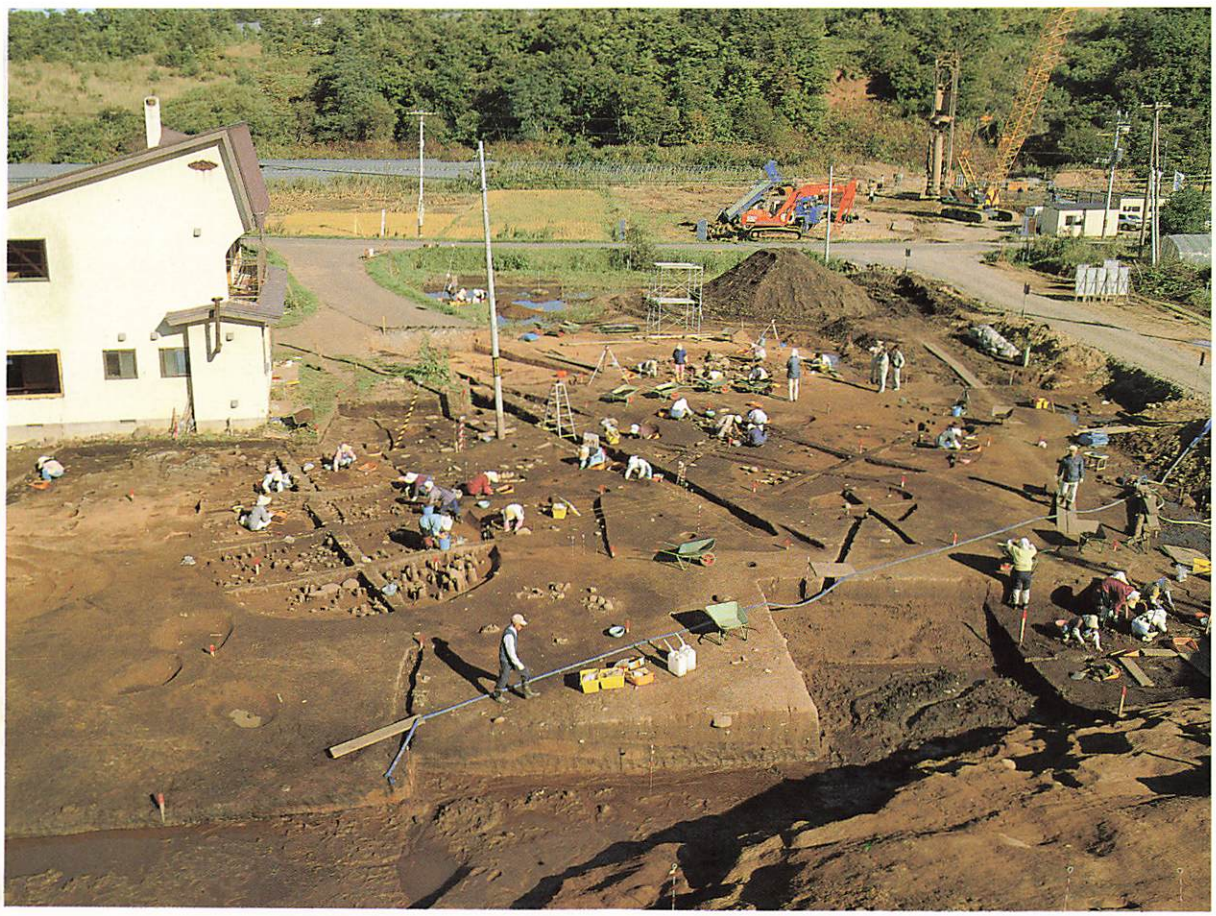
航空写真１（余市町市街・東から）



航空写真２（蘭島方面・南西から）



調査状況1（南側住居跡と旧河道・西から）



調査状況2（北側住居跡と旧河道・西から）



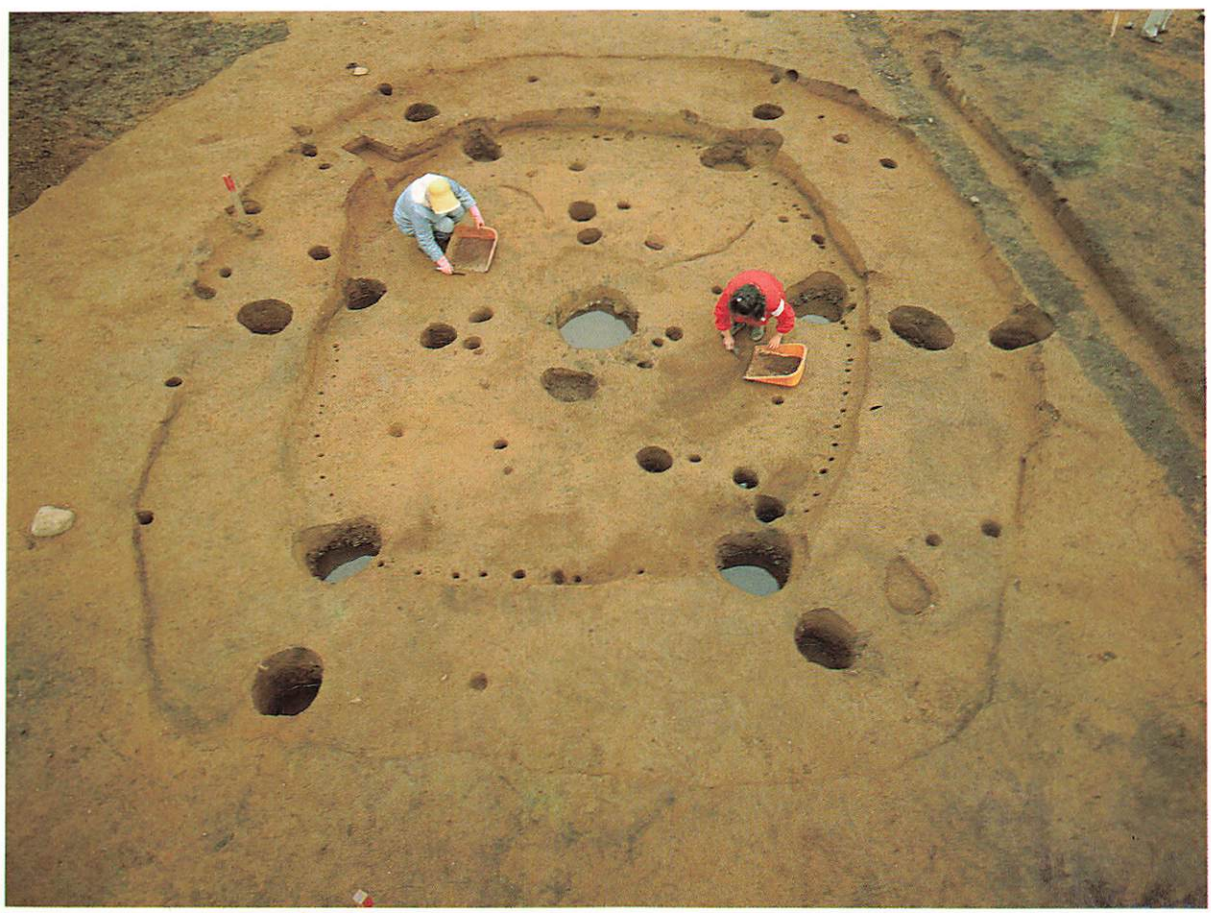
FH—12 調査状況 （東から）



FH—12 遺物出土状況 （東から）



FH—12 土器出土状況（東から）



FH—12 全　景（東から）

口絵6



ＦＨ―16遺物出土状況（東から）



住居跡群（人のいるところが住居跡・西から）



FH—12出土の土器

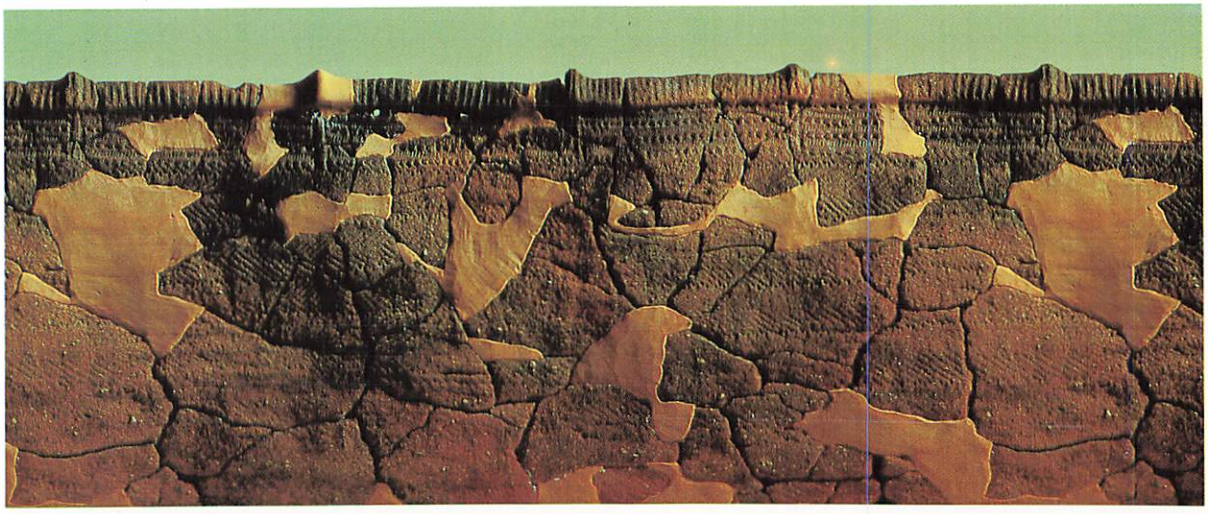


住居跡出土の土器



土壙・包含層出土の土器

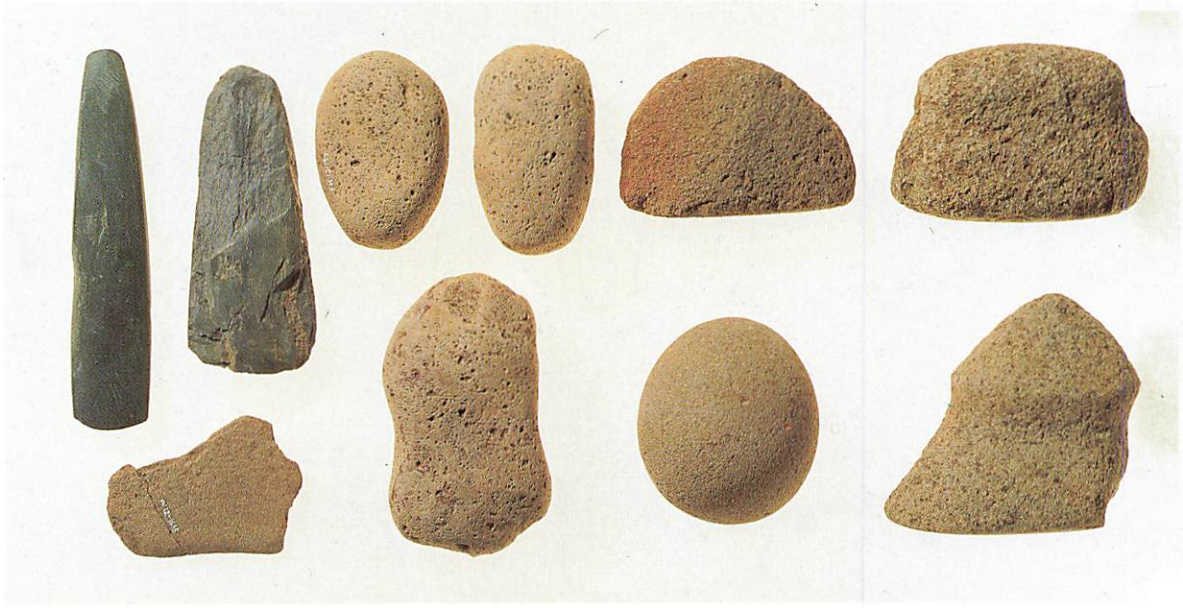
口絵8



ＦＰ―26 出土土器の展開写真



ＦＨ―12 出土の剝片石器



ＦＨ―12 出土の礫石器



貝塚（ＦＳｂ－１～３）全景（西から）



ＦＦ－22断面・ＦＳｂ－3上面（南から）



ヒラメ椎骨出土状況（南から）

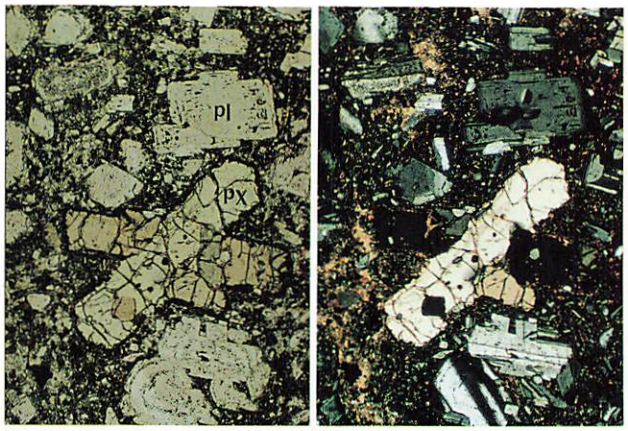


骨角器

口絵10

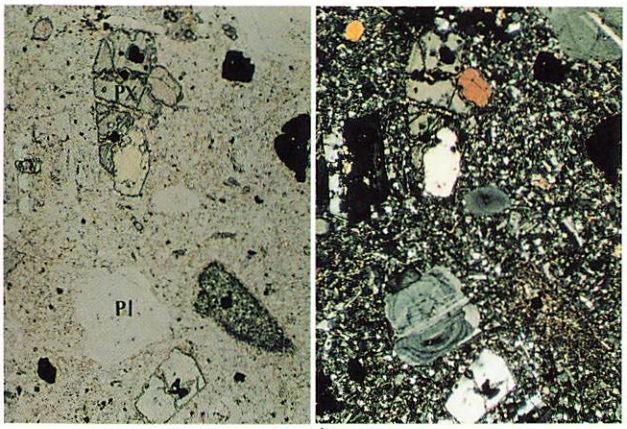


土・石製品



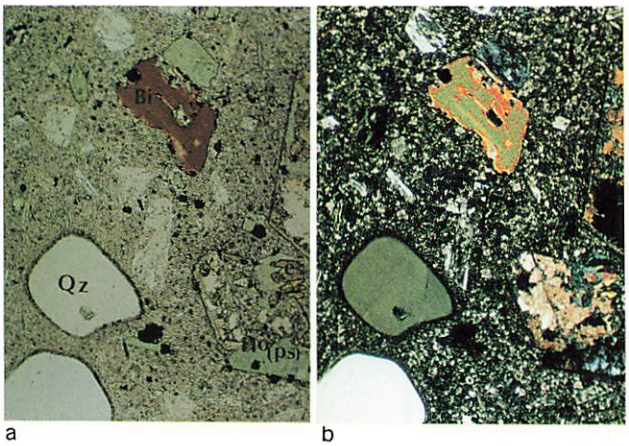
a b

1　輝石安山岩



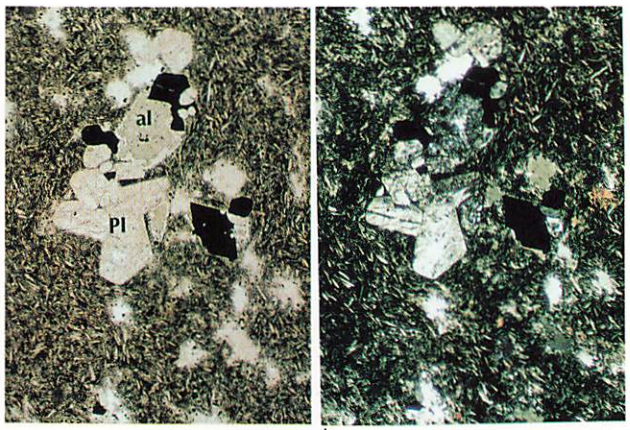
a b

6　斜長石ヒン岩



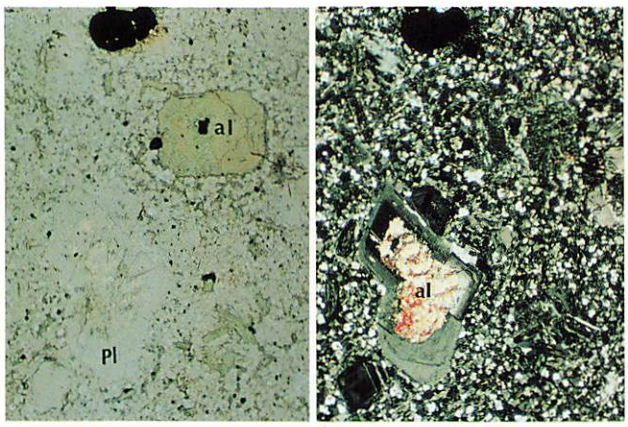
a b

7　黒雲母一角閃石一石英斑岩



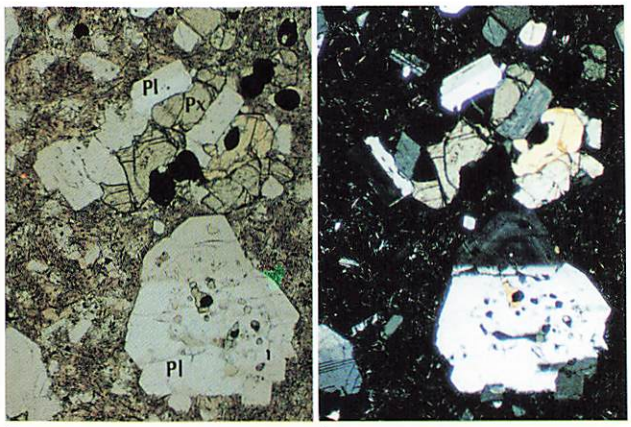
a b

8　斜長石安山岩



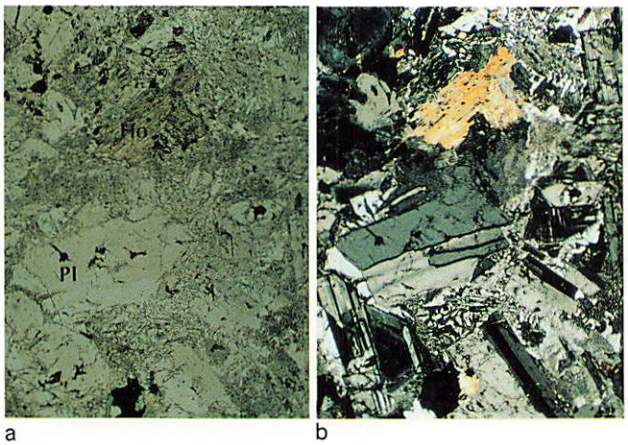
a b

9　斜長石斑岩



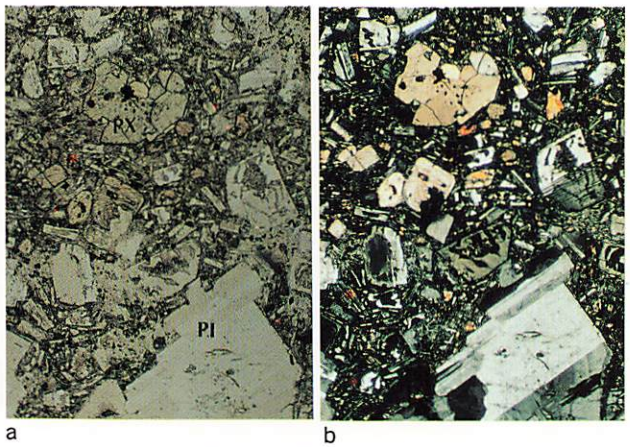
a b

10　斑晶質輝石安山岩



a b

13　変質石英閃緑岩



a b

14　輝石一斜長石玄武岩質安山岩

口絵12



a



b

18　輝石玄武岩ー玄武岩質安山岩

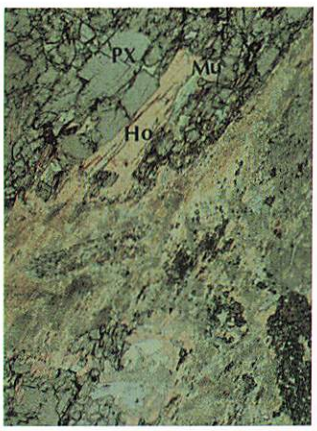


a



b

21　石英岩



a



b

24　強変質火成岩



a



b

29　変輝緑岩



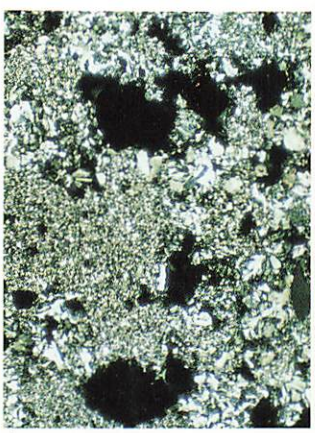
a

3　珪質堆積岩



a

4　単斜輝石含有無斑晶
～微斑晶質安山岩



b

15　石英質砂岩（？）



b

16　輝石安山岩



a

23　輝石安山岩



b

26　強変質酸性火山岩



a

28　無斑晶質玄武岩



a

30　ローソン石
ー藍閃石含有変玄武岩

例　　言

1　この報告書は，北後志東部広域営農団地農道整備事業に伴って，平成元・２年度に財団法人北海道埋蔵文化財センターが実施した余市町フゴッペ貝塚の埋蔵文化財発掘調査に関するものである。

2　本書の作成は，調査部調査第４課で行ったが，編集は千葉英一・長沼孝・熊谷仁志が担当した。また，図版作成，原稿執筆は遺構は長沼，土器は熊谷，石器は千葉が主に担当したが，各章または節の執筆は以下のとおりである。

II2 花岡正光，Ⅰ4(4)，III1(1)・3(1)～(4)千葉英一・長沼孝・熊谷仁志，Ⅰ1・2，III1(3)・3(6)，V3 千葉英一，III1(2)，3(5)，V2 熊谷仁志，Ⅰ3・4(1)～(3)・5，II1・3，III2・3(7)・(8)，V1 長沼孝

3　第Ⅳ章の各種分析・同定については，次の方々に執筆を依頼した。

1(1)山田悟郎（北海道開拓記念館），1(2)㈱ウイングス，1(3)吉崎昌一（北海道大学文学部），1(4)三野紀雄（北海道開拓記念館），２山田治（京都産業大学理学部），3(1)藁科哲男・東村武信（京都大学原子炉実験所），3(2)渡辺暉夫（北海道大学理学部）3(3)・(4)中野寛子・明瀬雅子・長田正宏（㈱ズコーシャ総合科学研究所），中野益男・福島道広（帯広畜産大学畜産環境学科），3(6)金子浩昌（早稲田大学考古学研究室）

なお，3(5)は花岡正光・熊谷仁志が執筆した。

4　現地及び遺物の写真撮影は菊池慈人が行った。

5　遺構図は，調査員が作成したものを，千葉・長沼・熊谷・鈴木が整理し，大森佐知子がトレースした。

6　遺物の実測は，伊藤幸子，渡部久美子，久末真紀子，藤内まゆみ，山岸利江，小林春美，木元睦子，湊啓枝が行い，トレースは伊藤幸子，渡部久美子，久末真紀子が行った。

7　口絵２の航空写真は，シン航空写真株式会社より提供をうけた。

8　写真図版111～120の土器展開写真撮影は，小川忠博氏へ依頼した。

9　出土遺物は余市町教育委員会，写真・実測図などの記録類は㈶北海道埋蔵文化財センターが保管している。

10　調査にあたっては下記の機関および人びとの指導ならびに協力を得た（順不同，敬称略）。

文化庁，奈良国立文化財研究所，国立歴史民俗博物館，北海道教育委員会，余市町教育委員会，青森県立郷土館，八戸市立博物館，秋田県埋蔵文化財センター，八竜町教育委員会，宮古市教育委員会，井戸尻考古館，尖石考古館，天理大学付属参考館。

宮本長二郎，西本豊弘，松井章，ゲーリー・クロフォード，吉崎昌一，林謙作，椿坂恭代，渡辺暉夫，百々幸雄，石田肇，大島直行，芹沢長介，金子浩昌，輿水達司，福田友之，三宅徹也，三浦圭介，大野亨，高橋憲太郎，富樫泰時，大野憲司，小林克，谷地薫，可児通宏，原川雄二，小平恭，小林深志，平出一治，近江昌司，置田雅昭，小川忠博，黒住耐二，藁科哲男，野村崇，平川善祥，右代啓視，山田悟郎，三野紀雄，赤松守雄，上野秀一，高橋正勝，直井孝一，園部真幸，野中一宏，上屋真一，

田村俊之，佐藤一夫，工藤肇，小林広勝，宮宏明，熊崎農夫博，大島秀俊，内山真澄，
吉田玄一，矢吹俊男，寺崎康史，久保泰，三浦孝一，柴田信一，藤田登，藤島一巳，
鈴木正語，菅野文二，高橋豊彦，長谷部一弘，千代肇，古屋敷則雄，阿部千春，
斉藤傑，瀬川拓郎，友田哲弘，石川朗，佐藤和利，北沢実，松下亘，佐藤利雄，
青木延広，田中征男

凡　　例

1　遺構・遺物の図・写真などは，基本的に以下の縮尺に統一しているが，分布図，出土状況図，集成図などは任意の縮尺である。

住居跡：1/40・1/60，土壙：1/20，焼土：1/20・1/40・1/80，土器実測図：1/4，土器拓本・写真：1/3，剝片石器・石斧・写真：1/2，石皿・台石を除く礫石器類・写真：1/3，石皿・台石：1/6，骨角器・写真：1/1，土製品・写真：1/1・1/2，石製品：1/1・1/3，陶磁器写真：1/3，金属製品・写真：1/1，動物遺存体写真：2/1・1/1・1/2

2　遺構図中の方位は平面直角座標の北，レベルは標高（単位m）を示す。

3　遺物の出土状況図では，遺物の形状を図示したほか，以下の記号を使用した。また遺物に付した番号は挿図番号と一致する。

▲剝片石器，△Cコア，△フレイク・チップ，■礫石器（■s石皿・台石，■gすり石・北海道式石冠，■hたたき石），□礫△・R礫，●土器片，★土・石製品

4　遺構の規模は以下の内容である。

確認面での長軸長×短軸長／床・底面での長軸長×短軸長／確認面からの最大深（単位m）

5　一覧表の計測値はいずれも最大のもので，欠損している場合は（　）を付けた。

目　　次

口絵1～12（カラー）
例言・凡例
目次・挿図目次・表目次・図版目次
I　調査の概要…… 1
1　調査要項…… 1
2　調査体制…… 1
3　調査の経緯…… 1
4　調査概要…… 4
(1)　発掘区の設定…… 4
(2)　調査の方法…… 5
(3)　整理の方法…… 7
(4)　分析試料のサンプリングと同定資料の抽出…… 7
(5)　遺構，遺物の分類…… 9
(6)　遺跡の概要……15
II　遺跡の位置と環境……27
1　遺跡の位置と周辺の遺跡……27
2　遺跡周辺の地形・地質……32
3　遺跡の層序……41
III　遺構と遺物……41
1　A地区……41
(1)　土壙……41
(2)　焼土……80
(3)　包含層出土の土器……81
(4)　包含層出土の石器……88
2　B地区……96
3　C地区……96
(1)　住居跡……96
(2)　土壙　I群1類，I群2類，II群…… 288
(3)　貝塚…… 402
(4)　焼土…… 438
(5)　包含層出土の土器…… 439
(6)　包含層出土の石器…… 494
(7)　遺構・包含層出土の土・石製品…… 507
(8)　包含層出土の陶磁器・金属製品…… 521
IV　各種分析・同定…… 523
1　環境…… 523
(1)　フゴッペ貝塚の古植生について（山田　悟郎）…… 523

(2) フゴッペ貝塚住居跡（FH—16）出土の炭化植物種子（㈱ウィングス） …… 531
(3) フゴッペ貝塚から出土した植物遺体とヒエ属種子についての諸問題
（吉崎　昌一）…… 535
(4) フゴッペ貝塚出土の炭化木片について（三野　紀雄）…… 549
2　年代測定…… 553
(1) ^{14}C年代測定結果（山田　治）…… 553
3　遺物…… 554
(1) フゴッペ貝塚出土のヒスイ製垂飾玉の産地分析（藁科　哲男・東村　武信） 554
(2) フゴッペ貝塚出土石器石材の岩石鑑定（渡辺　暉夫）…… 563
(3) フゴッペ貝塚から出土した石冠に残存する脂肪の分析
（中野寛子・明瀬雅子・長田正宏・中野益男・福島道広）…… 569
(4) 栄町5遺跡の土壙に残存する脂肪の分析
（中野寛子・明瀬雅子・長田正宏・中野益男・福島道広）…… 578
(5) フゴッペ貝塚出土土器の胎土分析…… 585
(6) フゴッペ貝塚出土の動物遺体と骨角貝製品（金子浩昌）…… 600
Ⅴ　まとめ…… 635
1　遺構…… 635
2　土器…… 636
3　石器…… 644
表一覧…… 651
写真図版１～190（モノクロ）（別冊）

挿図目次

図Ⅰ－ 1 遺跡の位置と広域農道路線図…… 2
図Ⅰ－ 2 調査区域図…… 3
図Ⅰ－ 3 発掘区設定図…… 4
図Ⅰ－ 4 調査区域の現況と地区割図…… 6
図Ⅰ－ 5 土器分類模式図…… 10
図Ⅰ－ 6 石器分類模式図(1)…… 13
図Ⅰ－ 7 石器分類模式図(2)…… 14
図Ⅰ－ 8 遺構分布図…… 17
図Ⅰ－ 9 発掘区別遺物点数(1)…… 20
図Ⅰ－ 10 発掘区別遺物点数(2)…… 21
図Ⅰ－ 11 発掘区別遺物点数(3)…… 22
図Ⅰ－ 12 発掘区別遺物点数(4)…… 23
図Ⅰ－ 13 発掘区別遺物点数(5)…… 24
図Ⅰ－ 14 発掘区別遺物点数(6)・重量…… 25
図Ⅱ－ 1 遺跡の位置と周辺の遺跡（国土地理院発行2万5千分の1地形図余市を縮小）……27
図Ⅱ－ 2 遺跡周辺の地形図……29
図Ⅱ－ 3 フゴッペ貝塚研究略史(1)……30
図Ⅱ－ 4 フゴッペ貝塚研究略史(2)……31
図Ⅱ－ 5 遺跡周辺の地形分類図……32
図Ⅱ－ 6 遺跡の表層地質……33
図Ⅱ－ 7 基本層序模式図……34
図Ⅱ－ 8 遺跡土層断面図(1)……35
図Ⅱ－ 9 遺跡土層断面図(2)……37
図Ⅲ－ 1 A地区遺構分布図……42
図Ⅲ－ 2 FP－ 1・2……44
図Ⅲ－ 3 FP－ 3・4……45
図Ⅲ－ 4 FP－ 5・7……46
図Ⅲ－ 5 FP－ 6……47
図Ⅲ－ 6 FP－ 8・9……48
図Ⅲ－ 7 FP－10・11……50
図Ⅲ－ 8 FP－12・13……51
図Ⅲ－ 9 FP－17～19……52
図Ⅲ－ 10 FP－51・52……54
図Ⅲ－ 11 FP－53・54……55
図Ⅲ－ 12 FP－55・56……56
図Ⅲ－ 13 FP－57・58……57
図Ⅲ－ 14 FP－59・60……58
図Ⅲ－ 15 FP－61・62……59
図Ⅲ－ 16 FP－63・64……60
図Ⅲ－ 17 FP－65・66……61
図Ⅲ－ 18 FP－67・68……62
図Ⅲ－ 19 FP－69・81……63
図Ⅲ－ 20 FP－82・83……66
図Ⅲ－ 21 FP－84・86・87……67
図Ⅲ－ 22 FP－88～90……68
図Ⅲ－ 23 FP－91・92……69
図Ⅲ－ 24 FP－ 1～4遺物……73
図Ⅲ－ 25 FP－ 5・6遺物……74
図Ⅲ－ 26 FP－ 6～10遺物……75
図Ⅲ－ 27 FP－11・12遺物……76
図Ⅲ－ 28 FP－13・18・19・51～57遺物……77
図Ⅲ－ 29 FP－58・62～69・82遺物……78
図Ⅲ－ 30 FP－83・91・92遺物……79
図Ⅲ－ 31 FF－ 2・3……80
図Ⅲ－ 32 A地区包含層の土器(1)……82
図Ⅲ－ 33 A地区包含層の土器(2)……83
図Ⅲ－ 34 A地区包含層の土器(3)……85
図Ⅲ－ 35 A地区包含層の土器(4)……86
図Ⅲ－ 36 A地区包含層の土器(5)……87
図Ⅲ－ 37 A地区包含層の石器(1)……89
図Ⅲ－ 38 A地区包含層の石器(2)……90
図Ⅲ－ 39 A地区包含層の石器(3)……91
図Ⅲ－ 40 A地区包含層の石器(4)……92
図Ⅲ－ 41 A地区包含層の石器(5)……93
図Ⅲ－ 42 A地区包含層の石器(6)……94
図Ⅲ－ 43 A地区包含層の石器(7)・石製品……95
図Ⅲ－ 44 C地区遺構分布図……97
図Ⅲ－ 45 C地区住居跡分布図……99
図Ⅲ－ 46 FH－ 1…… 100
図Ⅲ－ 47 FH－ 1遺物(1)…… 101
図Ⅲ－ 48 FH－ 1遺物(2)…… 102
図Ⅲ－ 49 FH－ 2(1)…… 103
図Ⅲ－ 50 FH－ 2(2)…… 104
図Ⅲ－ 51 FH－ 2遺物(1)…… 105
図Ⅲ－ 52 FH－ 2遺物(2)…… 106
図Ⅲ－ 53 FH－ 3(1)…… 108
図Ⅲ－ 54 FH－ 3(2)…… 109
図Ⅲ－ 55 FH－ 3遺物(1)…… 110
図Ⅲ－ 56 FH－ 3遺物(2)…… 111
図Ⅲ－ 57 FH－ 3遺物(3)…… 112
図Ⅲ－ 58 FH－ 4(1)…… 114
図Ⅲ－ 59 FH－ 4(2)…… 115
図Ⅲ－ 60 FH－ 4遺物(1)…… 116
図Ⅲ－ 61 FH－ 4遺物(2)…… 117
図Ⅲ－ 62 FH－ 5…… 119
図Ⅲ－ 63 FH－ 6…… 120
図Ⅲ－ 64 FH－ 7…… 121
図Ⅲ－ 65 FH－ 5・6・7遺物…… 122
図Ⅲ－ 66 FH－ 8…… 124

図Ⅲ－ 67　FH－ 8 遺物 …… 125
図Ⅲ－ 68　FH－ 9・10(1) …… 126
図Ⅲ－ 69　FH－ 9・10(2) …… 127
図Ⅲ－ 70　FH－ 9・10 遺物 …… 128
図Ⅲ－ 71　FH－11 …… 130
図Ⅲ－ 72　FH－11 遺物 …… 131
図Ⅲ－ 73　FH－12(1) …… 132
図Ⅲ－ 74　FH－12(2) …… 133
図Ⅲ－ 75　FH－12(3) …… 134
図Ⅲ－ 76　FH－12(4) …… 135
図Ⅲ－ 77　FH－12(5) …… 136
図Ⅲ－ 78　FH－12(6) …… 137
図Ⅲ－ 79　FH－12 遺物(1) …… 140
図Ⅲ－ 80　FH－12 遺物(2) …… 141
図Ⅲ－ 81　FH－12 遺物(3) …… 142
図Ⅲ－ 82　FH－12 遺物(4) …… 143
図Ⅲ－ 83　FH－12 遺物(5) …… 144
図Ⅲ－ 84　FH－12 遺物(6) …… 145
図Ⅲ－ 85　FH－12 遺物(7) …… 146
図Ⅲ－ 86　FH－12 遺物(8) …… 147
図Ⅲ－ 87　FH－12 遺物(9) …… 148
図Ⅲ－ 88　FH－12 遺物(10) …… 150
図Ⅲ－ 89　FH－12 遺物(11) …… 151
図Ⅲ－ 90　FH－12 遺物(12) …… 152
図Ⅲ－ 91　FH－12 遺物(13) …… 153
図Ⅲ－ 92　FH－12 遺物(14) …… 154
図Ⅲ－ 93　FH－12 遺物(15) …… 155
図Ⅲ－ 94　FH－12 遺物(16) …… 156
図Ⅲ－ 95　FH－12 遺物(17) …… 157
図Ⅲ－ 96　FH－12 遺物(18) …… 158
図Ⅲ－ 97　FH－12 遺物(19) …… 159
図Ⅲ－ 98　FH－14・15(1) …… 161
図Ⅲ－ 99　FH－14・15(2) …… 162
図Ⅲ－100　FH－14・15(3) …… 163
図Ⅲ－101　FH－14 遺物(1) …… 164
図Ⅲ－102　FH－14 遺物(2) …… 165
図Ⅲ－103　FH－14 遺物(3)・15 遺物(1) …… 166
図Ⅲ－104　FH－15 遺物(2) …… 167
図Ⅲ－105　FH－16(1) …… 170
図Ⅲ－106　FH－16(2) …… 171
図Ⅲ－107　FH－16(3) …… 172
図Ⅲ－108　FH－16(4) …… 173
図Ⅲ－109　FH－16(5) …… 174
図Ⅲ－110　FH－16(6) …… 175
図Ⅲ－111　FH－16 遺物(1) …… 176
図Ⅲ－112　FH－16 遺物(2) …… 177
図Ⅲ－113　FH－16 遺物(3) …… 178
図Ⅲ－114　FH－16 遺物(4) …… 179
図Ⅲ－115　FH－16 遺物(5) …… 181
図Ⅲ－116　FH－16 遺物(6) …… 182
図Ⅲ－117　FH－16 遺物(7) …… 183
図Ⅲ－118　FH－16 遺物(8) …… 184
図Ⅲ－119　FH－16 遺物(9) …… 185
図Ⅲ－120　FH－16 遺物(10) …… 186
図Ⅲ－121　FH－16 遺物(11) …… 187
図Ⅲ－112　FH－16 遺物(12) …… 188
図Ⅲ－123　FH－16 遺物(13) …… 189
図Ⅲ－124　FH－16 遺物(14) …… 190
図Ⅲ－125　FH－17 …… 192
図Ⅲ－126　FH－18 …… 193
図Ⅲ－127　FH－17・18 遺物 …… 194
図Ⅲ－128　FH－19(1) …… 195
図Ⅲ－129　FH－19(2) …… 196
図Ⅲ－130　FH－19 遺物(1) …… 197
図Ⅲ－131　FH－19 遺物(2) …… 198
図Ⅲ－132　FH－20 …… 200
図Ⅲ－133　FH－20・31 遺物 …… 201
図Ⅲ－134　FH－21(1) …… 202
図Ⅲ－135　FH－21(2) …… 203
図Ⅲ－136　FH－21 遺物 …… 205
図Ⅲ－137　FH－22(1) …… 206
図Ⅲ－138　FH－22(2) …… 207
図Ⅲ－139　FH－22 遺物(1) …… 208
図Ⅲ－140　FH－22 遺物(2) …… 209
図Ⅲ－141　FH－22 遺物(3) …… 210
図Ⅲ－142　FH－23 …… 213
図Ⅲ－143　FH－23 遺物 …… 214
図Ⅲ－144　FH－24(1) …… 215
図Ⅲ－145　FH－24(2) …… 216
図Ⅲ－146　FH－24 遺物(1) …… 217
図Ⅲ－147　FH－24 遺物(2) …… 218
図Ⅲ－148　FH－25(1) …… 219
図Ⅲ－149　FH－25(2) …… 220
図Ⅲ－150　FH－25 遺物 …… 221
図Ⅲ－151　FH－26(1) …… 222
図Ⅲ－152　FH－26(2) …… 223
図Ⅲ－153　FH－26 遺物 …… 224
図Ⅲ－154　FH－27 …… 226
図Ⅲ－155　FH－27 遺物 …… 227
図Ⅲ－156　FH－28(1) …… 228
図Ⅲ－157　FH－28(2) …… 229
図Ⅲ－158　FH－28(3) …… 230
図Ⅲ－159　FH－28 遺物(1) …… 231
図Ⅲ－160　FH－28 遺物(2) …… 232
図Ⅲ－161　FH－28 遺物(3) …… 233
図Ⅲ－162　FH－28 遺物(4) …… 234

図Ⅲ－163　FH－29（1）…… 236
図Ⅲ－164　FH－29（2）…… 237
図Ⅲ－165　FH－29（3）…… 238
図Ⅲ－166　FH－29（4）…… 239
図Ⅲ－167　FH－29 遺物（1）…… 241
図Ⅲ－168　FH－29 遺物（2）…… 242
図Ⅲ－169　FH－29 遺物（3）…… 243
図Ⅲ－170　FH－29 遺物（4）…… 244
図Ⅲ－171　FH－29 遺物（5）…… 245
図Ⅲ－172　FH－30 …… 247
図Ⅲ－173　FH－31 …… 248
図Ⅲ－174　FH－30・31 遺物 …… 249
図Ⅲ－175　FH－32 …… 250
図Ⅲ－176　FH－32 遺物 …… 251
図Ⅲ－177　FH－33（1）…… 252
図Ⅲ－178　FH－33（2）…… 253
図Ⅲ－179　FH－34 …… 257
図Ⅲ－180　FH－33 遺物（1）…… 258
図Ⅲ－181　FH－33 遺物（2）…… 259
図Ⅲ－182　FH－33 遺物（3）・34 遺物 …… 260
図Ⅲ－183　FH－35（1）…… 262
図Ⅲ－184　FH－35（2）…… 263
図Ⅲ－185　FH－35 遺物（1）…… 264
図Ⅲ－186　FH－35 遺物（2）…… 245
図Ⅲ－187　FH－35 遺物（3）…… 266
図Ⅲ－188　FH－36（1）…… 268
図Ⅲ－189　FH－36（2）…… 269
図Ⅲ－190　FH－36 遺物（1）…… 270
図Ⅲ－191　FH－36 遺物（2）…… 271
図Ⅲ－192　FH－36 遺物（3）…… 272
図Ⅲ－193　FH－37 …… 273
図Ⅲ－194　FH－37 遺物 …… 274
図Ⅲ－195　FH－38（1）…… 276
図Ⅲ－196　FH－38（2）…… 277
図Ⅲ－197　FH－38 遺物（1）…… 278
図Ⅲ－198　FH－38 遺物（2）…… 279
図Ⅲ－199　FH－38 遺物（3）…… 280
図Ⅲ－200　FH－38 遺物（4）…… 281
図Ⅲ－201　FH－39（1）…… 282
図Ⅲ－202　FH－39（2）…… 283
図Ⅲ－203　FH－39 遺物（1）…… 284
図Ⅲ－204　FH－39 遺物（2）…… 285
図Ⅲ－205　FH－40 …… 287
図Ⅲ－206　FH－40 遺物 …… 288
図Ⅲ－207　C地区土壙分布図 …… 289
図Ⅲ－208　FP－104・110 …… 292
図Ⅲ－209　FP－114・116 …… 293
図Ⅲ－210　FP－123・124 …… 294
図Ⅲ－211　FP－128・130 …… 295
図Ⅲ－212　FP－139・141 …… 297
図Ⅲ－213　FP－145・146 …… 298
図Ⅲ－214　FP－147・149 …… 299
図Ⅲ－215　FP－104・110・114・116 遺物 …… 301
図Ⅲ－216　FP－123・124・130・139・145 遺物 …… 302
図Ⅲ－217　FP－146・147 遺物 …… 303
図Ⅲ－218　FP－14・20 …… 305
図Ⅲ－219　FP－21・23 …… 306
図Ⅲ－220　FP－22・24 …… 309
図Ⅲ－221　FP－25 …… 310
図Ⅲ－222　FP－26・31 …… 311
図Ⅲ－223　FP－32・36 …… 312
図Ⅲ－224　FP－37・40 …… 315
図Ⅲ－225　FP－41・42 …… 316
図Ⅲ－226　FP－43・44 …… 317
図Ⅲ－227　FP－45・70 …… 318
図Ⅲ－228　FP－46・47 …… 321
図Ⅲ－229　FP－48・49 …… 322
図Ⅲ－230　FP－50 …… 323
図Ⅲ－231　FP－71・72 …… 324
図Ⅲ－232　FP－73・74 …… 327
図Ⅲ－233　FP－76・77 …… 328
図Ⅲ－234　FP－78 …… 329
図Ⅲ－235　FP－79・80 …… 330
図Ⅲ－236　FP－93・94 …… 333
図Ⅲ－237　FP－95・96 …… 334
図Ⅲ－238　FP－97・98 …… 335
図Ⅲ－239　FP－99・100 …… 336
図Ⅲ－240　FP－101～103 …… 341
図Ⅲ－241　FP－105 …… 342
図Ⅲ－242　FP－106 …… 343
図Ⅲ－243　FP－107～109 …… 344
図Ⅲ－244　FP－111・112 …… 345
図Ⅲ－245　FP－113 …… 346
図Ⅲ－246　FP－115・117 …… 351
図Ⅲ－247　FP－118・119 …… 352
図Ⅲ－248　FP－120・121 …… 353
図Ⅲ－249　FP－122・125 …… 354
図Ⅲ－250　FP－126 …… 355
図Ⅲ－251　FP－127・129・131 …… 356
図Ⅲ－252　FP－132・133 …… 358
図Ⅲ－253　FP－134・135 …… 359
図Ⅲ－254　FP－136・137 …… 360
図Ⅲ－255　FP－138・140 …… 361
図Ⅲ－256　FP－142・143 …… 362
図Ⅲ－257　FP－144・148 …… 363
図Ⅲ－258　FP－150・151 …… 364

図Ⅲ－353　分類別土器分布図（３）……489
図Ⅲ－354　分類別土器分布図（４）…… 490
図Ⅲ－355　分類別土器分布図（５）…… 491
図Ⅲ－356　Ｃ地区包含層の石器（１）…… 496
図Ⅲ－357　Ｃ地区包含層の石器（２）…… 497
図Ⅲ－358　Ｃ地区包含層の石器（３）…… 498
図Ⅲ－359　Ｃ地区包含層の石器（４）…… 499
図Ⅲ－360　Ｃ地区包含層の石器（５）…… 500
図Ⅲ－361　Ｃ地区包含層の石器（６）…… 501
図Ⅲ－362　Ｃ地区包含層の石器（７）…… 502
図Ⅲ－363　Ｃ地区包含層の石器（８）…… 503
図Ⅲ－364　Ｃ地区包含層の石器（９）…… 504
図Ⅲ－365　Ｃ地区包含層の石器(10) …… 505
図Ⅲ－366　Ｃ地区包含層の石器(11) …… 506
図Ⅲ－367　土製品（１）・土偶 …… 507
図Ⅲ－368　土製品（２）…… 508
図Ⅲ－369　土製品（３）…… 509
図Ⅲ－370　土製品（４）…… 510
図Ⅲ－371　土製品（５）…… 511
図Ⅲ－372　土製品（６）…… 512
図Ⅲ－373　土製品（７）…… 513
図Ⅲ－374　土製品（８）…… 514
図Ⅲ－375　土製品（９）…… 515
図Ⅲ－376　土製品(10) …… 516
図Ⅲ－377　土製品(11) …… 517
図Ⅲ－378　石製品（１）…… 518
図Ⅲ－379　石製品（２）…… 519
図Ⅲ－380　石製品（３）…… 520
図Ⅲ－381　金属製品 …… 522
図Ⅳ－　1　フゴッペ貝塚から産出した主な花粉・胞子 …… 528
図Ⅳ－　2　住居跡（FH－16）出土炭化植物種子 … 533
図Ⅳ－　3　出土炭化植物種子（1a～2b）とヒエの現生標本（3a～5b） …… 538
図Ⅳ－　4　出土炭化植物種子 …… 539
図Ⅳ－　5　出土炭化植物種子 …… 540
図Ⅳ－　6　出土炭化植物種子・現生標本 …… 544
図Ⅳ－　7　ハマナス野・臼尻Ｂ遺跡出土ヒエ属種子の長幅比 …… 545
図Ⅳ－　8　FH－29山土炭化材の試料番号と樹種 … 551
図Ⅳ－　9　ヒスイ原産地およびヒスイ製遺物の分析遺跡 …… 555
図Ⅳ－ 10　日高産ヒスイ原石の蛍光Ｘ線スペクトル 557
図Ⅳ－ 11　糸魚川産ヒスイ原石の蛍光Ｘ線スペクトル …… 557
図Ⅳ－ 12　フゴッペ貝塚出土の垂飾玉（21836）の蛍光Ｘ線スペクトル …… 557
図Ⅳ－ 13　ヒスイ原石の元素比値 Zr/Sr 対 Sr/Fe の分布および分布範囲 …… 559
図Ⅳ－ 14　ヒスイ原石の元素比値 Ca/γ 対 Sr/Fe の分布および分布範囲 …… 559
図Ⅳ－ 15　フゴッペ貝塚出土のヒスイ製垂飾玉 Zr/Sr 対 Sr/Fe の分布 …… 560
図Ⅳ－ 16　フゴッペ貝塚出土のヒスイ製垂飾玉 Ca/γ 対 Sr/Fe の分布 …… 560
図Ⅳ－ 17　岩石鑑定した石器類（1/3） …… 566
図Ⅳ－ 18　残存脂肪の分析をした北海道式石冠 …… 569
図Ⅳ－ 19　試料に残存する脂肪の脂肪酸組成 …… 571
図Ⅳ－ 20　試料に残存する脂肪のステロール組成 …… 572
図Ⅳ－ 21　試料に残存する脂肪の脂肪酸組成樹状構造図 …… 575
図Ⅳ－ 22　試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成による種特異性相関 …… 576
図Ⅳ－ 23　土壙内外の土壌試料採取地点 …… 578
図Ⅳ－ 24　土壌試料に残存する脂肪の脂肪酸組成 … 579
図Ⅳ－ 25　土壌試料に残存する脂肪のステロール組成 …… 580
図Ⅳ－ 26　試料に残存する脂肪の脂肪酸組成樹状構造図 …… 581
図Ⅳ－ 27　試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成による種特異性相関 …… 582
図Ⅳ－ 28　胎土分析供試土器 …… 587
図Ⅳ－ 29　土器胎土の一次鉱物組成 …… 596
図Ⅳ－ 30　火山ガラスのスケッチ …… 597
図Ⅳ－ 31　土器の胎土型における試料の分布 …… 598
図Ⅳ－ 32　主要微小貝の出土数 …… 607
図Ⅴ－　1　フゴッペ式土器模式図 …… 641

表 目 次

表Ⅰ－1　遺構一覧……16
表Ⅰ－2　出土遺物一覧……19
表Ⅲ－1　FSb－1A 水洗データ …… 431
表Ⅲ－2　FSb－1B 水洗データ …… 431
表Ⅲ－3　FSb－2 水洗データ …… 431
表Ⅲ－4　FSb－3 水洗データ …… 432
表Ⅲ－5　FSb－4 水洗データ …… 432
表Ⅲ－6　FSb－5 水洗データ …… 434
表Ⅲ－7　FF－20 水洗データ …… 435
表Ⅲ－8　FF－21 水洗データ …… 436
表Ⅲ－9　FF－22 水洗データ …… 436
表Ⅲ－10　FF－24 水洗データ …… 437
表Ⅲ－11　貝塚水洗データ…… 437
表Ⅳ－1　フゴッペ貝塚から産出した花粉・胞子（1） 524
表Ⅳ－2　フゴッペ貝塚から産出した花粉・胞子（2） 525
表Ⅳ－3　住居跡（FH－16）採取土壌のフローテーション
データと出土炭化植物遺体…… 532
表Ⅳ－4　フゴッペ貝塚フローテーション台帳…… 535
表Ⅳ－5　フゴッペ貝塚出土炭化植物遺体表…… 537
表Ⅳ－6　フゴッペ貝塚 FH－29出土炭化木片の
樹種同定結果…… 550
表Ⅳ－7　ヒスイ製遺物の原石産地の判定基準（1）… 558
表Ⅳ－8　ヒスイ製遺物の原石産地の判定基準（2）… 558
表Ⅳ－9　フゴッペ貝塚出土のヒスイ製垂飾玉の
元素分析値の比昼と原材産地の推定…… 561
表Ⅳ－10　フゴッペ貝塚出土のヒスイ製垂飾玉の
重量と比重…… 561
表Ⅳ－11　岩石鑑定石器一覧…… 564
表Ⅳ－12　蛍光X線分析法による全岩主成分化学組成値
…… 568
表Ⅳ－13　試料の残存脂肪抽出量…… 570
表Ⅳ－14　試料に分布するコレステロールと
シトステロールの割合…… 572
表Ⅳ－15　試料に残存する脂肪の脂肪酸組成から算出した
動物脂肪の分布割合…… 573
表Ⅳ－16　試料に残存する脂肪の分布割合（%）…… 576
表Ⅳ－17　土壌試料の残存脂肪抽出量…… 579
表Ⅳ－18　土壌試料に分布するコレステロールと
シトステロールの割合…… 580
表Ⅳ－19　供試土器観察表…… 558
表Ⅳ－20　胎土型とみかけ比重…… 597
表Ⅳ－21　微小貝一覧…… 605
表Ⅳ－22　魚骨部位集計表…… 608
表Ⅳ－23　FSb－1A 獣骨一覧 …… 616
表Ⅳ－24　FSb－1B 獣骨一覧 …… 616
表Ⅳ－25　FSb－2 獣骨一覧 …… 616
表Ⅳ－26　FSb－3 獣骨一覧 …… 616
表Ⅳ－27　FSb－4 獣骨一覧 …… 616
表Ⅳ－28　FSb－1A 獣骨一覧 …… 618
表Ⅳ－29　FF－20獣骨一覧 …… 619
表Ⅳ－30　FF－22獣骨一覧 …… 619
表Ⅳ－31　FF－24獣骨一覧 …… 619
表Ⅳ－32　貝塚獣骨一覧…… 619
表Ⅳ－33　FSb－1A 魚類一覧 …… 620
表Ⅳ－34　FSb－1B 魚類一覧 …… 620
表Ⅳ－35　FSb－2 魚類一覧 …… 621
表Ⅳ－36　FSb－3 魚類一覧 …… 621
表Ⅳ－37　FSb－4 魚類一覧 …… 622
表Ⅳ－38　FSb－5 魚類一覧 …… 626
表Ⅳ－39　FF－20魚類一覧 …… 626
表Ⅳ－40　FF－21魚類一覧 …… 626
表Ⅳ－41　FF－22魚類一覧 …… 627
表Ⅳ－42　FF－24魚類一覧 …… 627
表Ⅳ－43　貝塚魚類一覧…… 628
表Ⅳ－44　FSb－1A 貝類一覧 …… 629
表Ⅳ－45　FSb－1B 貝類一覧 …… 629
表Ⅳ－46　FSb－2 貝類一覧 …… 629
表Ⅳ－47　FSb－3 貝類一覧 …… 630
表Ⅳ－48　FSb－4 貝類一覧 …… 630
表Ⅳ－49　FSb－5 貝類一覧 …… 631
表Ⅳ－50　FF－22貝類一覧 …… 633
表Ⅳ－51　FF－24貝類一覧 …… 633
表Ⅳ－52　貝塚貝類一覧…… 634
表 1　住居跡一覧（1）・規模…… 651
表 2　住居跡一覧（2）・遺物…… 652
表 3　土壙一覧…… 654
表 4　A地区土壙掲載実測土器一覧…… 659
表 5　A地区土壙掲載拓本一覧…… 659
表 6　A地区土壙掲載石器一覧…… 660
表 7　A地区包含層掲載実測土器一覧…… 660
表 8　A地区包含層掲載拓本一覧…… 660
表 9　A地区包含層掲載石器一覧…… 665
表10　住居跡掲載実測土器一覧…… 667
表11　住居跡掲載拓本一覧…… 668
表12　住居跡掲載石器一覧…… 681
表13　C地区土壙掲載実測土器一覧…… 689
表14　C地区土壙掲載拓本一覧…… 690
表15　C地区土壙掲載石器一覧…… 695
表16　貝塚掲載実測土器一覧…… 697
表17　貝塚掲載拓本一覧…… 697

表18　貝塚掲載石器一覧 ……698
表19　貝塚・遺構掲載骨角製品一覧…… 700
表20　C地区焼土掲載拓本一覧…… 700
表21　C地区焼土掲載石器一覧…… 700
表22　C地区包含層掲載実測土器一覧…… 700
表23　C地区包含層掲載拓本一覧…… 702
表24　C地区包含層掲載石器一覧…… 720
表25　遺構・包含層掲載土製品・石製品一覧…… 721
表26　遺構・包含層掲載石製品一覧…… 724
表27　金属製品一覧…… 724

I 調 査 の 概 要

1 調 査 要 項

事 業 名　広域営農団地農道整備北後志東部地区埋蔵文化財発掘調査
委 託 者　北海道後志支庁
受 託 者　財団法人北海道埋蔵文化財センター
遺 跡 名　フゴッペ貝塚（北海道教育委員会登載番号：D－19－2）
所 在 地　余市郡余市町栄町87，343～346，376，507～511，513，522
調査面積　5,833m²
調査期間　平成元年4月20日～平成2年3月31日　（現地調査5月10日～11月11日）
　　平成2年4月5日～平成3年3月30日　※ 整理作業のみ

2 調 査 体 制

理 事 長　澤　宣彦（平成2年5月31日まで）
　　寺山　敏保（平成2年6月1日から）
専務理事　永田　春男
常務理事　竹田　輝雄
業務部長　伊藤　庄吉
調査部長　中村　福彦

	〔平成元年度〕	〔平成2年度〕
調査第4課長	千葉　英一（発掘担当者）	同　左
主任	長沼　孝（発掘担当者）	同　左
主任	熊谷　仁志	同　左
文化財保護主事	中田　裕香	同　左
嘱託	鈴木　信	

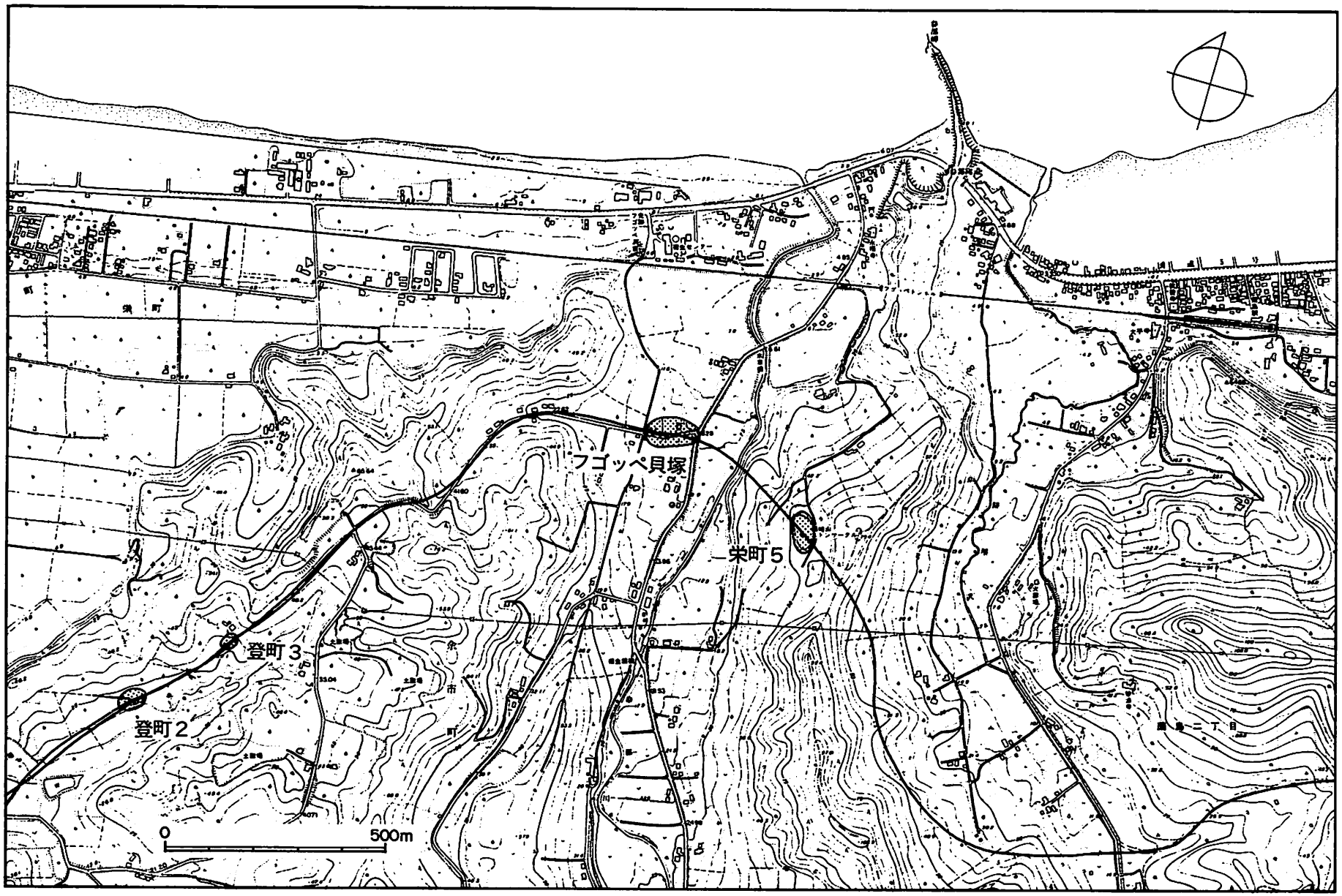
3 調 査 の 経 緯

北海道は，北後志における農産物の円滑な輸送，生活環境の整備，農業経営の安定向上などをはかることを目的とした北後志東部地区営農団地整備計画の一環として，小樽市，余市町，仁木町の1市2町にわたる広域農道の整備計画を策定した。

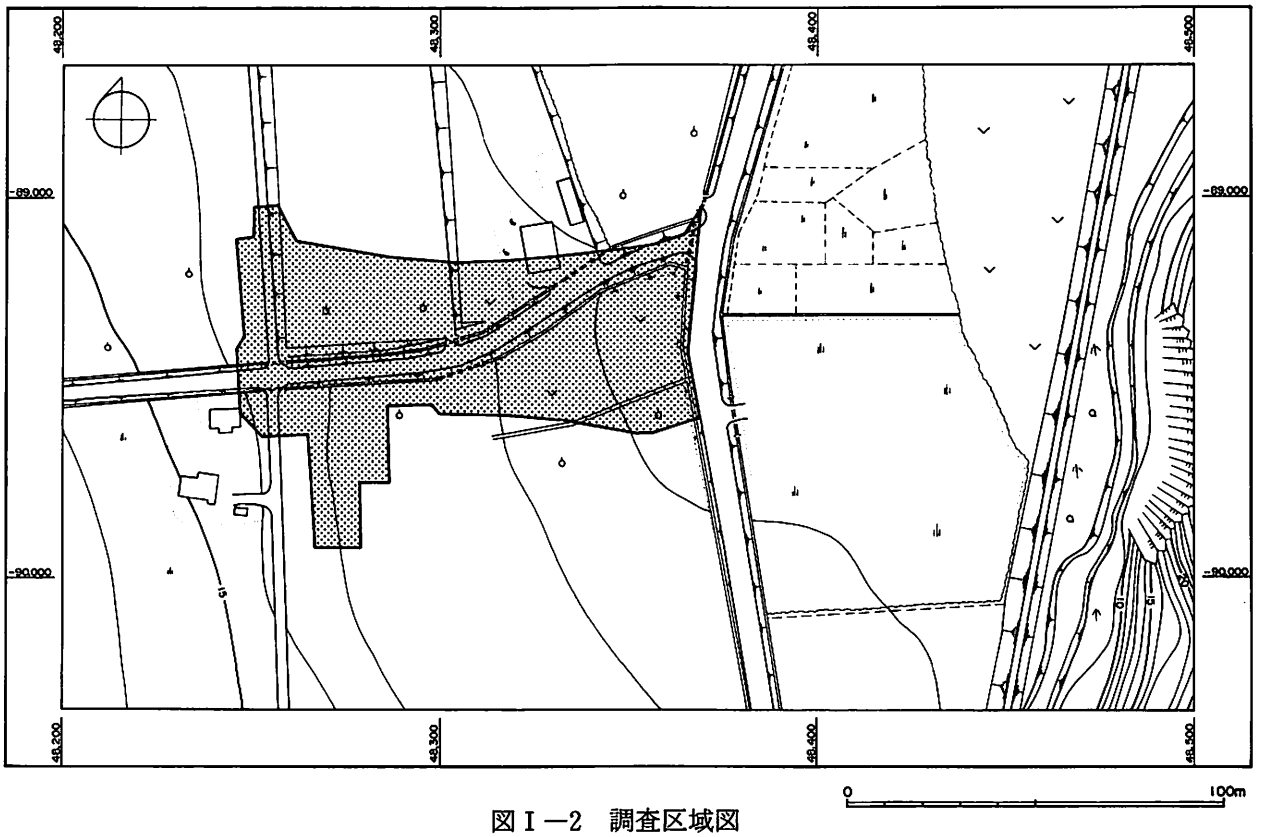
一方，小樽西部から余市町にかけての地域には，国指定史跡忍路環状列石・フゴッペ洞窟，道指定史跡地鎮山巨石記念物・西崎山ストーンサークルなどの著名な遺跡のほか多数の埋蔵文化財包蔵地が所在することが古くから知られていた。

そのような状況で，昭和58年4月，後志支庁（以下支庁）から北海道教育委員会（以下道教委）に埋蔵文化財保護のための事前協議書が提出された。以後，1市2町の該当遺跡について，道教委による所在・範囲確認調査が行われ，支庁，道教委，地元教育委員会などによる協議を経て，一部については記録保存のための発掘調査が実施された。

小樽市に関わる発掘調査は，昭和59年に忍路11遺跡（調査主体　小樽市教育委員会），昭和60～62年に忍路土場・忍路5遺跡（調査主体　㈶北海道埋蔵文化財センター），余市・仁



図Ⅰ—1　遺跡の位置と広域農道路線図



図Ⅰ—2　調査区域図

木町に関わる調査は，昭和63年に栄町５遺跡・モンガク遺跡群，平成元年に登町２・３遺跡（調査主体　㈶北海道埋蔵文化財センター）で行われ，いずれも報告書が刊行されている（小樽市教育委員会　1985，㈶北海道埋蔵文化財センター　1989・1990a・1990b・1990c）

当遺跡に関する協議と調査は下記のとおりである。

昭和59年10月　所在確認調査

昭和60年７月　範囲確認調査（発掘必要面積　2,340m²）

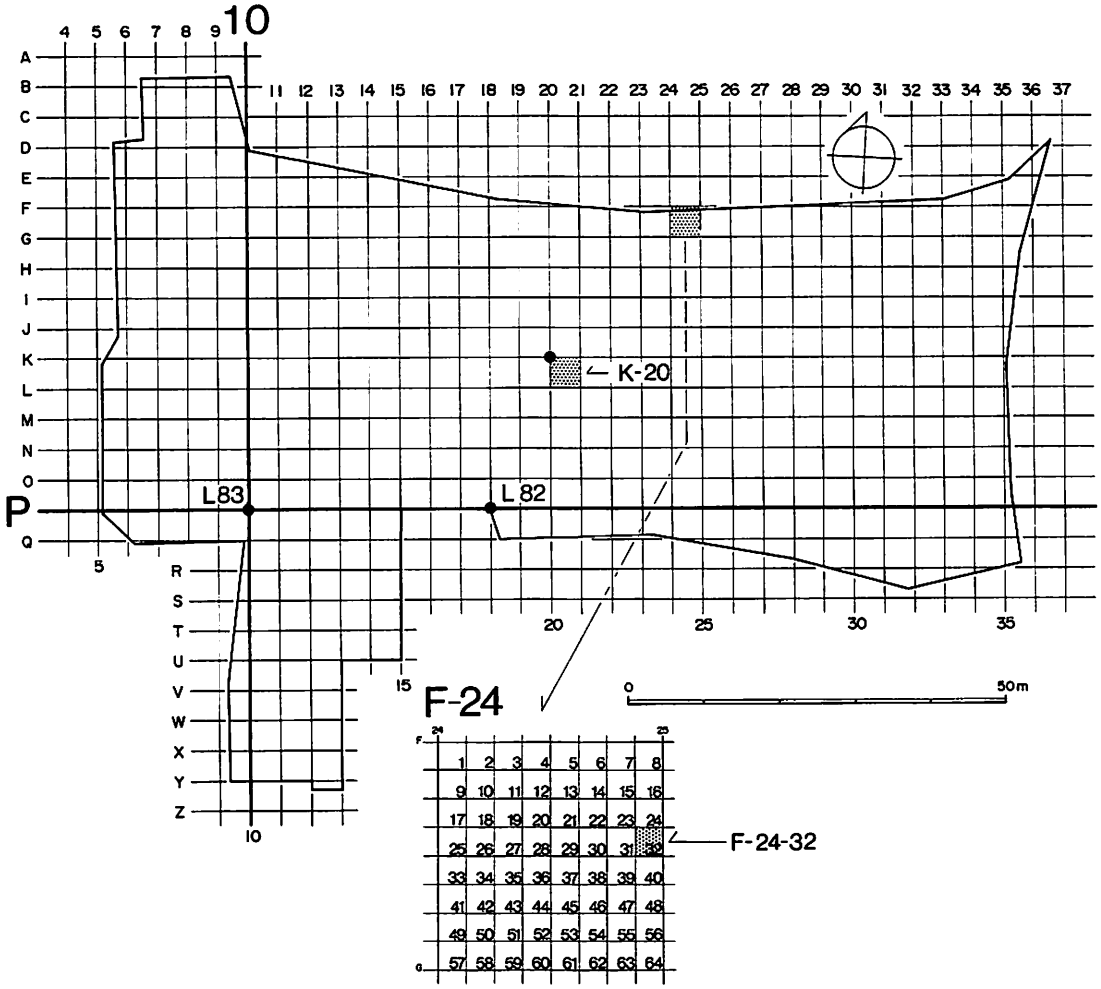
昭和63年２月　事前協議書（４次・西崎ストーンストンサークル周辺を含む）提出
（ルート・工事内容決定のため）工事内容変更のため対象面積増

昭和63年10月　範囲確認調査（工事面積増加分）

以上の結果，昭和63年12月，フゴッペ貝塚については工事着工以前に5,606m² の発掘調査が必要との回答が道教委から支庁に出された。その後，道教委と支庁に㈶北海道埋蔵文化財センター（以下埋文センター）が加わった３者で協議の結果，平成元・２年度（現地調査は平成元年５～10月，平成２年度は整理・報告書作成のみ）に埋文センターが発掘調査を実施することとなった。

調査開始後，面積の増加，調査区域内の住宅移転の遅延，予想を大きく上回る遺構・遺物の出現などの事態が生じた。再度，支庁，道教委，埋文センターの３者で協議の結果，元年度中に現地作業を終了することを最優先として調査を進めることとなった。その結果，現地作業は11月中旬まで行い，遺物の水洗・注記などの一次整理作業は冬期間も札幌のセンターで実施し，貝塚およびその他の土壌のフローテーション，ウォーターセパレーション作業は翌２年度に行うこととした。最終的な調査面積は5,833m² である。

なお，報告書刊行後も継続していた忍路土場遺跡出土木製品の保存処理（㈶元興寺文化



図Ⅰ—3　発掘区設定図

財研究所へ委託分）も終了し，本年度をもって，北後志東部地区の広域農道整備事業に関わる委託業務は，一応終了したことになる。

4　調　査　概　要

(1)　発掘区の設定

発掘区は，アルファベットの大文字と数字の組合せで表示し，規格は4×4mとした。設定の基準は，道路用地の境界杭L82・L83で，それらを結んだ線を南北の基線（Pライン），その線に直交しL83を通る線を東西の基線（10ライン）とし，図Ⅰ—3のように4m間隔でラインを設定した。その結果，調査区域は，南北はA～Zライン，東西は5～37ラインの間となった。なお，L82・L83の測量成果は下記のとおりである。

L82　X＝－89955.89m　Y＝48297.67m

L83　X＝－89957.76m　Y＝48265.53m　（平面直角座標　第Ⅺ系）

発掘区の呼称は，4m四方の区画の北西隅のラインの交点で表示した。例えばKラインと20ラインの交点の南東側がK—20区画ということになる(図Ⅰ—3)。また，貝塚部分の調査では貝塚・土壌のサンプリングのため4×4mの発掘区を50×50cmの小区画に細分し

た。小発掘区の呼称は数字の1～64と，北西隅が1で，東ないし南方向に進み，南東隅が64である。表示は4×4m発掘区の呼称の次に1～64の数字を追加することにした。例えばF—24区の32区画はF—24—32である（図I—3）。

発掘区の方向は，平面直角座標の南北方向とN—3°19′47.5″—Eである。したがって，遺構図の作成にあたって方位は，南北方向のライン（数字）と方位記号の角度を3°にした。なお，各遺構の標高の測定にあたっては，調査区域の北方250m，町道栄町本通り線水車橋の基礎部分に設置された工事用のB. M. No. 2（H＝5.495m，昭和63年10月調査）を利用した。

(2) 調査の方法

調査区域の現況は，図I—4のように畑地，道路，宅地と多様で，人工的な盛土や削平が著しい状況であった。また，調査区域を東西に横断する道路の通行止めができなかったため，調査の全面的な同時展開ができず，図I—4の中段のように地域割をして，1～4の順に調査を進めた。しかし，整理・報告書作成の段階では，図I—4の下段のように地形的な相違からA，B，Cの三つの地区に分け遺構，遺物を整理した。

畑地部分は杭打ち後，直ちに発掘区の掘開を行ったが，道路や盛土部分は重機で二次的な堆積物を除去した後，杭打ち，発掘区の掘開を行った。

発掘区の掘開は，いずれの地域も全体の25%を行い，続いて遺構，遺物の出現状況や排土の運搬路などを勘案し，順次進めた。

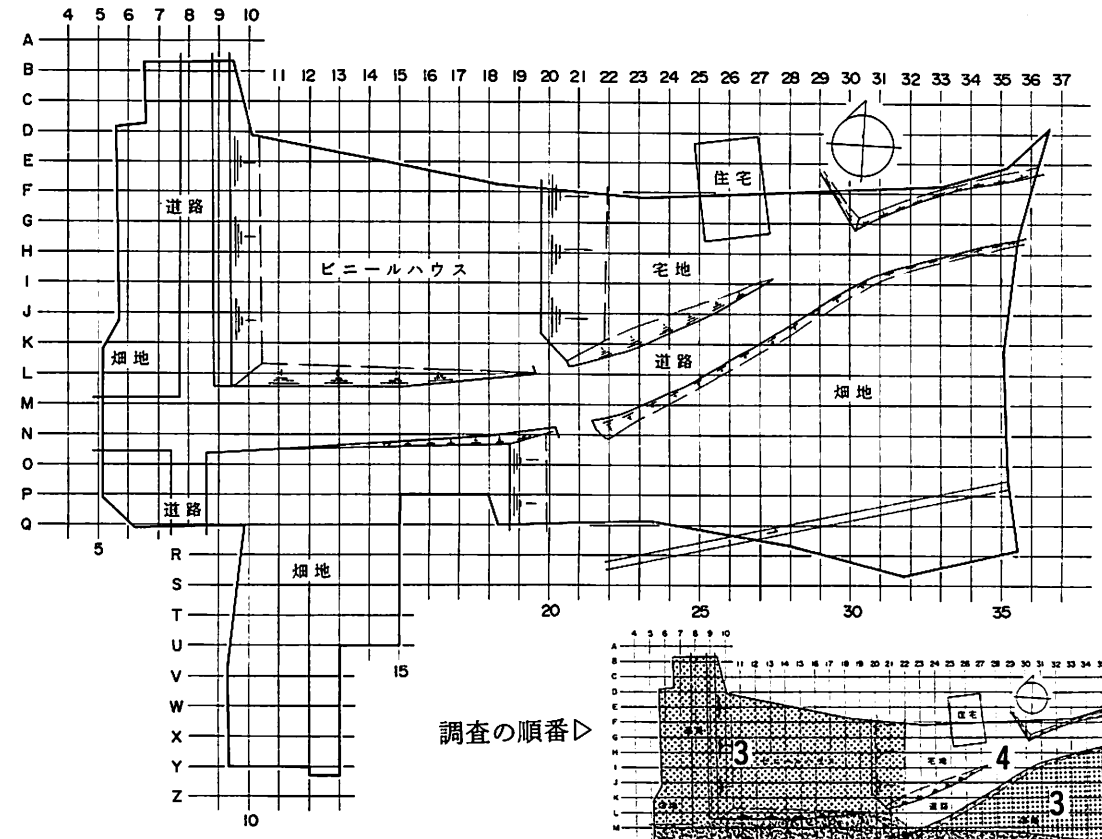
調査区域の東端，町道栄町本通り線の側溝部分は常時流水があり，その周辺は湿潤な状態であった。したがって，調査区域の東側には遺物を含んだ泥炭層の存在が予想され，側溝に接する部分に鋼矢板を打ち込んで調査を行う予定であった。しかし，調査の進行とともに，31ラインより東側はフゴッペの氾濫原で，水は湧いてくるが，プライマリーな状態で遺物を含んだ泥炭層は存在しないことが判明した。I—34，N—33区でバックホーを使用して氾濫原部分の土層の状況を確認したところ地表面から50cmぐらいまでが埋土，その下には20～30cmの灰褐色粘土層(旧水田)，1.2～1.5mの青灰色粘土と砂の互層が堆積し，以下が厚い砂礫層であった。砂礫層は地表下約4mまで確認できたが，それ以上は調査が不可能であった。また，砂礫層と青灰色粘土層の間には流木や植物がみられたが，いずれも生の状態で，人工的な遺物類は全くみられなかった。

土地所有者によると，氾濫原部分は，以前水田として利用していたところで，畑地とするために，西側の斜面を削り客土して均平化を行った，とのことであった。調査結果も土地所有者の話しと符合し，最上部の客土部分からは多量の遺物が出土し，さらに水田土壌からも陶磁器とともに各時期の遺物が若干みられる状況であった。

以上の状況から，氾濫原部分については，鋼矢板の打ち込みなどは全く行わず，上部の客土・旧水田土壌部分の遺物採取的な調査のみを行うこととした。

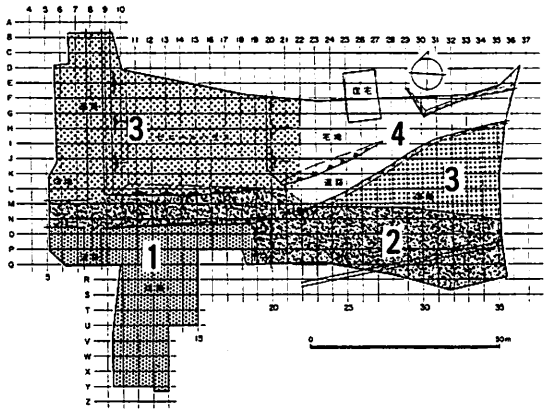
調査区域北東部の宅地・住宅部分は最も遺構の密集した部分で，住宅下は全面住居跡であった。また，住宅西側には貝塚も確認された。したがって，住宅の取り壊しは地上部分は重機で行ったが，基礎については人力で行い，貝塚や住居跡の損傷を最小限にするよう配慮した。

調査区域の19～24ライン，地形からみると丘麓緩斜面と沖積低地の境部分は，南北に走

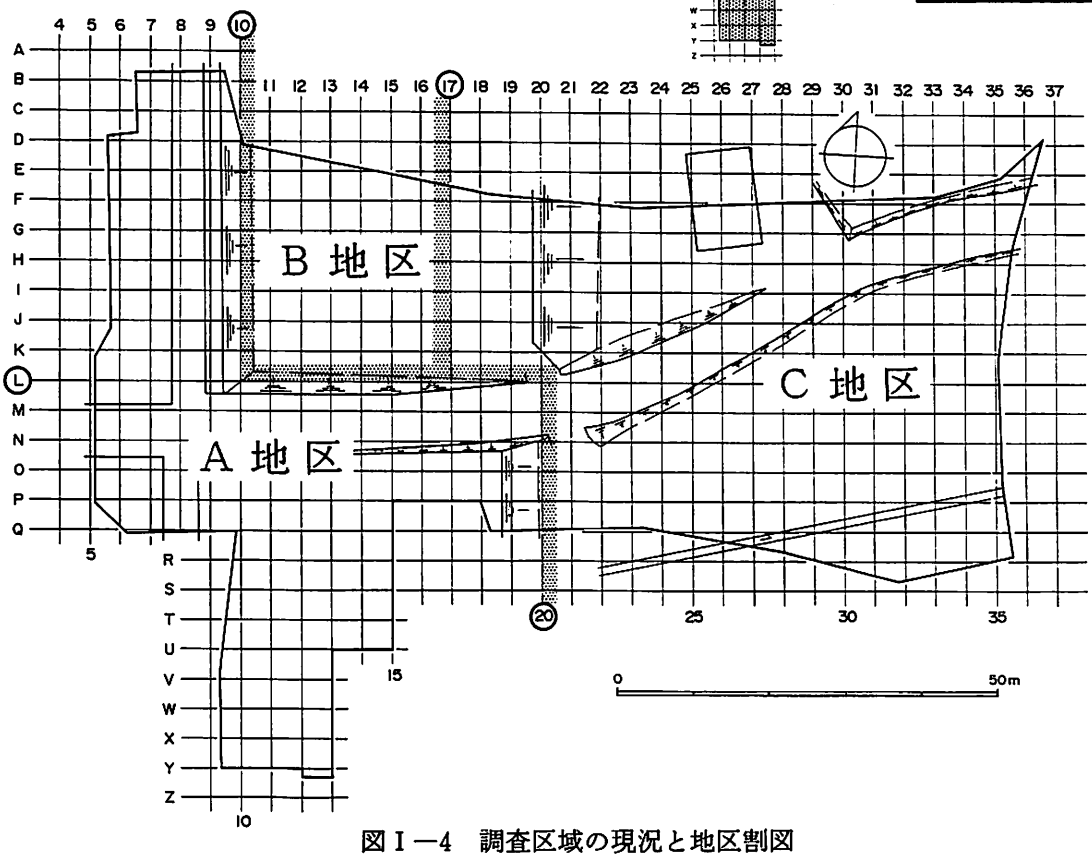


△調査区域の現況

調査の順番▷



▽地区割



図Ⅰ—4　調査区域の現況と地区割図

る旧河道とみられ，標高6.8～7.0mの最下部では常に水が湧いてくる状況であった。しかし，有機物を含んだ泥炭層は全くなく，遺物も土器・石器類は多いものの，有機質のものはなかった。したがって，この部分の調査は，水をポンプアップしながら順次行っていった。

遺物の取り上げは，まず遺構と包含層に大別し，包含層は4×4mの発掘区単位で層位別に行った。遺構出土の遺物については可能な限り出土状況を記録し，図化したが，一括して取り上げたものも多い。また，F・G—24区を中心とした貝塚部分については，土壌以外の土器・石器類についても50×50cm単位の小区画で取り上げた。

遺構の確認は第II層の調査終了後，第IIb層ないし第III層の上面で行った。したがって，実測図に示した断面は厳密な意味で遺構本来の深さを示してはいない。

調査は当初第IV層を5～10cm掘り下げた面で終了する予定であったが，第IV層中に縄文時代早期（I群B2類）の遺物を含む暗灰褐色粘質土（第IVB層）が確認されたため，層が存在するC地区の沖積低地部分については第IVB層をすべて掘り上げた。しかし，住居跡や土壙ですでに掘り上げられている部分が多く，第IVB層からの出土遺物は少量であった。

(3) 整理の方法

当初，遺物の水洗は現地，注記は札幌のセンターにおいて現地調査期間中に行う予定であった。しかし，遺物量が予想を大きく上回ったため，冬期間も水洗・注記作業を継続した。また，貝塚部分土壌のウォーターセパレーション，焼土などのフローテーションは平成2年度に札幌のセンターにおいて行った。

土器類の接合・復元作業は遺構と縄文時代前・中期のものを優先したが，表面の摩耗が著しく，接合に手間がかかった。最終的には168個体が復元できたが，口縁から底部まで全てそろっているものは少ない。

石器類は水洗後，器種別の大分類を行い収納した。また，現場において自然礫と礫石器の識別は困難であったので，礫類はすべて取り上げ，水洗後識別を行った。その際，加工の痕跡の全くみられない小型の礫類は数量を記録した後廃棄したが，二次加工のある礫（R礫），有意と考えられる礫（礫△），焼けた痕跡のある礫（焼け礫）などはすべて収納した。

貝塚の整理方法については後述するが，50×50cmの小区画単位とブロック単位で貝類や魚類の数量が把握できるように努めた。また，骨角器，獣骨，魚骨の一部については脱水後，パラロイドB72で強化を行った。

報告書作成段階で，優先的に図化を行ったのは住居跡・貝塚出土の土器・石器類であるが，土・石製品，骨角器はほぼ全点行った。その数量は，実測土器168点，拓本土器2,010点（土器片総数の0.78%），石器1,701点（石器総数の12.77%），土・石製品213点（粘土塊などを除く土・石製品の100%），骨角器など15点（100%），金属製品11点（古銭の44%），総数4,118点である。

(4) 分析試料のサンプリングと同定資料の抽出

今回の調査ではいろいろな角度から遺跡の状況を明らかにするため，各種の分析・同定作業を行った。それぞれの分析・同定は専門の機関または個人にお願いしたが，ここでは試料サンプリングまたは資料抽出に関する基本的な考え方や方法を述べておく。

環境や生業の復元に関しては，花粉分析，植物遺存体の検出・同定，炭化材の樹種同定などを行った。

花粉分析（第IV章1(1)） 分析試料はP—22南壁（第IV層），P—24南壁（第III～IIb層），J—26南壁（第IV層上面～第IVB層）などでサンプリングした。P—22，P—24部分は南北にのびる旧河道部分で腐植土が比較的厚く堆積している場所である。J—26南壁は第IVB層（縄文時代早期東釧路IV式土器包含層）形成前後の古植生を明らかにする目的で，サンプリングした。

植物遺存体の検出・同定（第IV章1(2)・(3)） 住居跡の土壌と焼土を採取し，フローテーション法で植物遺存体を検出した。対象とした住居跡は最も大型のFH—16で，床面直上（第3層）とその上部の炭化物を多量に含んだ層（第2～3層）を採取した。作業はフローテーション作業・同定作業等すべて委託して行った。処理した土壌は772.8*l*，得られた浮遊物は490g，予想に反して種子は少なく，大部分は炭化材であった。

焼土は，FH—12(HF—1・2)，FH—16(HF—1～4)，FH—28(HF—1～5)，FH—36(HF—1～7)，FF—1・16～18・23から採取したもので，フローテーション後，同定を依頼した。焼土の量は278.1*l*（住居跡内焼土174.4*l*，その他の焼土103.7*l*），得られた浮遊物は125.6g（住居跡内焼土56.3g，その他の焼土69.3g）である。

炭化材の樹種同定（第IV章1(3)） 火災住居とみられるFH—29から132点の試料を採取した。炭化材は覆土中にもかなりみられたが，残存状態が良く材の形状がある程度判断できた北西部床面のものを平面分布と材の木取りなどを記録し，フィルムケースに採取した。

年代測定は^{14}C法のみ行った。

^{14}C年代測定（第IV章2(1)） 貝類2，炭化物6試料を測定した。貝類は松下地点から表面採取したマガキと今回調査したセンター地点・FSb—2（F—24—55・混土貝層）のイガイである。炭化物はI—21南西隅・第IIC層最下部，FH—3・HP—1，FH—12・ベルト7・覆土4層，FH—12・ベルト5・床面，FH—16・HP—3・3層，FH—29・床面炭化材No.128の6試料で，FH—29の炭化材以外は，土壌とともに採取したものを乾燥後，フローテーション作業を行い，炭化物を選別したものである。

遺物に関しては，ヒスイの産地分析，石器石材の岩石鑑定，動物遺存体の同定，石器・土器の残存脂肪酸分析・解析，土器の胎土分析などを行った。

ヒスイの産地分析（第IV章3(1)） 土壙墓とみられるFP—130の壙底から出土したヒスイについて，非破壊分析を依頼した。

石器石材の岩石学的鑑定（第IV章3(2)） 本遺跡の一つの特色として，多量の礫石器類の出土があり，それらは器種毎に石材の選択的利用を行っていると判断され，それらに岩石学的な裏付けを求めた。鑑定資料はスクレイパー1点，石斧2点，たたき石10点，すり石1点，北海道式石冠6点，くぼみ石2点，砥石2点，石皿・台石3点，R礫1点，礫2点の30点である。2点の石斧は昭和63年に調査した栄町5遺跡の出土資料をあてた。資料は全て岩石カッターで切断後，プレパラートを作成し，検鏡を行っている。鑑定結果は，肉眼的識別が可能な範囲でいくつかのグループに分け，鑑定資料以外の石器にも応用した。

動物遺存体の同定（第IV章3(6)） 貝塚部分の土壌をすべて採取し，乾燥，ウォーターセパレーション，乾燥，選別，収納の手順で作業を進めた。詳細は第III章2(3)で説明するが，同定した動物遺存体の数量的把握ができるように心懸けた。

残存脂肪酸の分析・解析　（第IV章3(3)・(4)）　残存脂肪酸の分析・解析は土器と石器について行った。土器は10点，水洗後，土器表面に炭化物の付着がみられるものを選んだ。10点のうち2点は栄町5遺跡出土の晩期の資料で，比較資料として分析した。

石器はFH—16出土の北海道式石冠3点（FH—16—1・895・981）である。出土状況を記録した後，アルミ箔に包み収納した。さらに，石冠の周囲の土壌も採取したので，分析試料は6点である。また，栄町5遺跡のP—8の性格を解明するために行った分析結果も合わせて掲載した。

土器の胎土分析　（第IV章3(5)）　土器胎土の一次鉱物組成を調べ，その特色と土器の時期・文様の相違関係を明らかにすることを目的とした。抽出した土器片は，当遺跡で出土量の最も多い縄文前・中期を主体にした。さらに，すでに分析を行った栄町5遺跡の結果と比較するため，晩期の土器も加えた。

(5)　遺構，遺物の分類

遺構

遺構は，住居跡，土壙，貝塚，焼土が確認され，それぞれH(House)，P(Pit)，Sb(Shell block)，F (Fire place) の略号を付けた。さらに「フゴッペ」のFを頭に付け，FH，FP，FSb，FFとし，その後の通し番号を付けた。

住居跡は39軒(FH—1～40，13は欠番)，縄文時代前期末～中期初頭と中期末の二つの時期のものがあり，大きさ，平面形などにバラエティがあるが，特に分類はしていない。

土壙は150基（FP—1～151，85は欠番），時期は大きく（縄文時代前・中期と晩期の二つ時期のものがあり，前・中期をI群，晩期をII群とした。さらにI群は土壙墓と考えられる1類と性格不明の2類に分けた。

貝塚は5ヵ所（FSb—1～5），混土貝層2ヵ所（FSb—2・3），混貝土層2ヵ所（FSb—4・5），混土貝層＋混貝土層1ヵ所（FSb—1A・B）で，時期はすべて縄文時代中期末である。

焼土は24ヵ所（FF—1～24），屋外炉と考えられるもの6ヵ所（FF—1～3・18・19・23，うちFF—23は石組炉），二次的に堆積したもの18ヵ所（FF—4～17・20～22・24）である。

遺構の図化にあたっては，現場で記録した遺物の出土状況図を可能な限り掲載するように努め，土壙に関しては遺物出土状況の断面および見透し図を作成した。また，図化した遺物のうち出土位置が記録されているものは示し，さらに図化していないものについては状況図で記号化して示した。

土器

フゴッペ貝塚から遺構・包含層から約250,000点にも及ぶ土器等が出土している。これらには，縄文時代から擦文時代，近世・近，現代ものもがある。便宜的に縄文時代を早期から晩期に5期にわけ，早期をI群，前期をII群，中期をIII群，後期をIV群，晩期をV群とし，続縄文時代のものをVI群，擦文時代のものをVII群として大別した。そして，その内に2・3の類を設けて記載することにした。近世・近現代と思われる遺物には，陶磁器類やガラス製品等がある。これらについては，別項を設け，分類記号をあたえなかった。

I群土器

前半期の貝殻文土器，後半期の縄文の施された土器がある。

I群A類　腹縁による条痕文，押圧文が施された貝殻文土器である。器形は尖底になる


Ⅰ群A類
Ⅰ群B1類
Ⅰ群B2類
Ⅱ群A1類
Ⅱ群A2類
Ⅱ群B1類
Ⅱ群B2a類
Ⅱ群B2b類
Ⅱ群B2c類
Ⅲ群A1類
Ⅲ群A2類
Ⅲ群B1類
Ⅲ群B2類
Ⅲ群B3類
Ⅳ群A類
Ⅳ群B類
Ⅴ群a類
Ⅴ群b類
Ⅵ群
Ⅶ群

図Ⅰ—5　土器分類模式図

ものと思われる。

I群 B1類　東釧路III式に相当し，組紐圧痕文・短縄文・縄圧痕文等が組み合されたものが多い。

I群 B2類　東釧路IV式に相当し，短縄文・撚糸文・自縄自巻の原体による羽状縄文が多用されたものが多い。

II群土器

前半期に位置付けられる繊維を多く含む尖底土器と後半に位置付けられる円筒土器下層式に相当するものとに，大きく2分される。前者には綱文式，中野式やそれに相当する土器がある。後者は円筒土器下層a式から円筒土器下層c式に相当するものと，円筒土器下層d式及びそれに相当するものがある。

II群 A1類　綱文式に相当し，太い横走する縄文が施されている。

II群 A2類　中野式に相当し，斜行縄文が施されたものが多く，内面にも施されているものもある。

II群 B1類　円筒土器下層a～c式に相当するものと思われる梭川式やサイベ沢I式である。器形は口縁部がやや外反する筒形である。口唇断面は角型ないし丸型である。口頸部には綾絡文的なものや縄線，条痕，沈線文が施され，口頸部と体部を区画する貼付帯（以下，文様区画帯と称す）のあるものもある。体部は撚り戻しの斜行縄文や単軸撚糸文を施すものもある。口縁部内面に縄文が施されるものが多く，条痕文が施されたものも少量認められた。底面に縄文が施されたものもある。胎土は，少量の繊維，多量の砂粒を含む。内面調整は粗雑である。

なお，縄線文，内面縄文を特徴とする大麻V式も本類に含めた。

II群 B2a類　円筒土器下層d式に相当するものである。器形は口縁部がやや外反する筒形である。口唇断面は尖る。刺突文が加えられた口頸部文様区画帯をもつ。内面は丁寧に磨かれている。体部には単軸・多軸による各種の撚糸文が施されているものが多く，結束羽状縄文や連続山形の押型文が縦位に施されたものもある。

なお，道北・道東の前期後半に位置付けられると思われる櫛状工具・棒状工具による櫛目文や刺突文が施された土器群や胎土に繊維を含む厚手の無文土器群も出土している。便宜的に本類に含める。

II群 B2b類　円筒土器下層d式から円筒土器上層a式に相当するものと思われるものである。口頸部文様帯の主要文様要素として縄線文が用いられている土器群である。主要文様要素が異なるが器形・文様構成・胎土等においてII群 B2c類に類似する。器形は頸部が強くくびれるものと，ストレートに広がるものとがある。口唇断面はやや間延びした切り出し状のものと切り出し状のものがある。口頸部文様は，縄線文が半截竹管状工具や竹管状工具による刺突文が押引文・貼付帯と組み合わされている。口頸部文様区画帯として薄い貼付帯と縄線文・縄圧痕文・刺突文・押引文が用いられている。体部には，結束羽状縄文，結束斜行縄文，斜行縄文が施されている。そして，体部縄文の施文原体は，口頸部に施文された縄線文の同一原体が用いられているものがあった。胎土は多量に繊維を含む。器面調整は丁寧である。類似資料は石狩町花畔E遺跡，岩内町東山遺跡等に認められている。

II群 B2c類　円筒土器下層d式から円筒土器上層a式に相当するものと思われるもの

である。器形・文様構成・胎土等はII群 B2b 類に類似する。口頸部文様帯に絡条体圧痕文が主要文様要素として用いられている土器群である。口唇断面は切り出し状のものが多い。施文原体は5 cm 前後で，曲線的な文様も描かれていることから比較的柔らかな軸が用いられていたものと思われる。類似資料は石狩町花畔E遺跡・岩内町東山遺跡等に認められている。

なお，少量であるが縄線文と絡条体圧痕文との併用が認められた，便宜的にII群 B2 c 類に含めた。

III群土器

前半期をA類とし，円筒土器上層 a，b 式・サイベ沢VII式・見晴町式がある。後半期をB類とし，天神山式・柏木川式・トコロ 6 類・煉瓦台式等がある。

III群 A1 類　円筒土器上層 a，b 式に相当し，前半の古い段階に位置付けられると思われるものがある。

III群 A2 類　サイベ沢VII式・見晴町式に相当し，前半の新しい段階に位置付けられると思われるもの。

III群 B1 類　天神山式に相当し，貼付帯や半截竹管状工具による刺突文・押引文が多用されるものである。本遺跡においては縄線文や縄圧痕文が多用されたものが多い。

III群 B2 類　柏木川式に相当し，貼付帯・半截竹管状工具による刺突文・押引文が多用されるものである。

III群 B3 類　トコロ 6 類・煉瓦台式がある。また，これらに伴うと思われる大木系土器群もこれに含めることとする。

IV群土器

大きく前葉をA類とし余市式・手稲砂山式・入江式等があり，中葉をB類とし手稲式・ホッケマ式があり，後葉をC類とし堂林式等がある。

IV群A類　余市式は，口縁部にタガ状の貼付帯が多用されたものが多く，縄線文と併用されたものもある。このほか指頭による押圧が認められる貼付帯のある手稲砂山式(ニセコ式)，沈線文・磨消縄文等を特徴的文様要素とする入江式・ウサクマイC式等に相当するものがある。

IV B類　沈線文・磨消縄文等を特徴的文様要素とする手稲式や磨消縄文・刻目文等を特徴的文様要素とするホッケマ式に相当するもの等がある。

V群土器

中葉から後葉のものが出土している。そして，磨消文・沈線文等が多用された大洞系土器群のものと，撚糸圧痕文・縄線文・沈線文・刺突文等が多用された在地系土器群がある。前者をa類，後者をb類とした。

V群a類　大洞C2～A 式に相当するもので，札苅II群・聖山I式，聖山II式・尾白内I式に類似し，横位連繋入組文，横位連続工字文・沈線文等が主要文様要素で大洞系土器群の影響が窺えるもの。

V群b類　大洞C2～A 式に相当するもので，撚糸圧痕文・沈線文・縄線文・刺突文等が主要文様要素でタンネトウL式・ヌサマイ式に類似するもの。

VI群土器

続縄文文化期の土器群で，本遺跡では，後北式土器が出土している。後北式土器には

縄文・微隆起線・三角形刺突文をもつものと，縄文のみのものとがある。

Ⅶ群土器

擦文文化期の土器群で，北大式・擦文土器やそれに伴うと思われる。須恵器・土師器が出土している。

石器

出土した石器には石鏃，石錐，ポイントもしくは両面加工のナイフ，つまみ付きナイフ，スクレイパー類，楔形石器，異形石器等の剝片石器と石斧，いわゆる北海道式石冠を含むすり石，球石，たたき石，くぼみ石，砥石，石鋸，石錘，石皿・台石等の礫石器とがある。

この他に石核（コア），二次加工のある剝片（retouched flake），刃こぼれ状の使用痕のある剝片（utilised flake），剝片・石屑（フレイク・チップ），二次加工のある礫（R礫），有意と考えられる礫（礫△），自然礫，焼礫，黒曜石・緑色泥岩等の原石などがある。

楔形石器・異形石器を除く剝片石器と石斧については下記のように記号による細分をおこない，礫石器については器種別の大分類にとどめてある。

なお，ベンガラ等の赤色顔料の付着が認められる場合には，スクリーントーンでその範囲を示してある。

石鏃

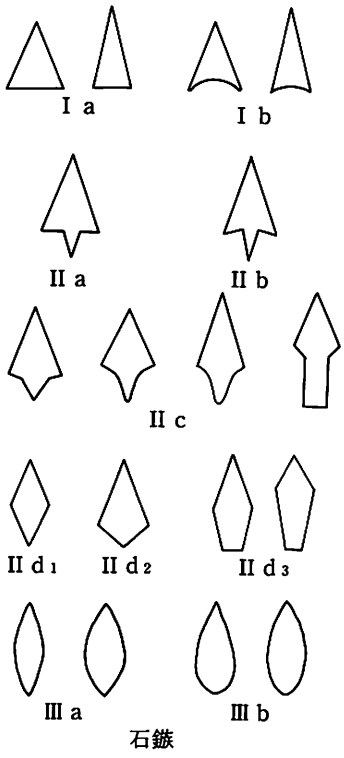
I　無茎
　a　平基　　b　凹基
II　有茎
　a　平基　　b　凹基　　c　凸基
　d　菱形もしくは五角形
　　1　正菱形　　2　偏菱形　　3　五角形
III　木葉形
　a　尖基　　b　円基
IV　不明

石錐

I　棒状
II　有柄
　a　柄と機能部の区分が明瞭なもの
　b　不明瞭なもの　　c　石鏃等の転用
III　剝片の一端に機能部を作出したもの
　a　黒曜石以外のもの　　b　黒曜石
IV　不明

ポイントもしくは両面加工のナイフ

I　有茎
　a　有茎　　1　かえしが明瞭なもの
　　2　不明瞭なもの
　b　菱形もしくは五角形
II　木葉形
III　有柄



図Ⅰ—6　石器分類模式図(1)

IV　不明

a　尖端部　　b　身部　　c　基部

つまみ付きナイフ

I　縦形　　a　周辺加工

II　斜形　　b　片面加工

III　横形　　c　両面加工

IV　不明　　d　つまみの作出のみ

Ib_1 早期に伴うもの

スクレイパー類

I　両面加工　　a　縦長剝片を素材

II　片面加工　　b　横長剝片を素材

III　周辺加工

IV　尖頭状（convergent）

V　抉入り（notched）もしくは鋸歯状（denticulate）

VI　不明

E　エンド・スクレイパー

I　両面加工　　II　片面もしくは周辺加工

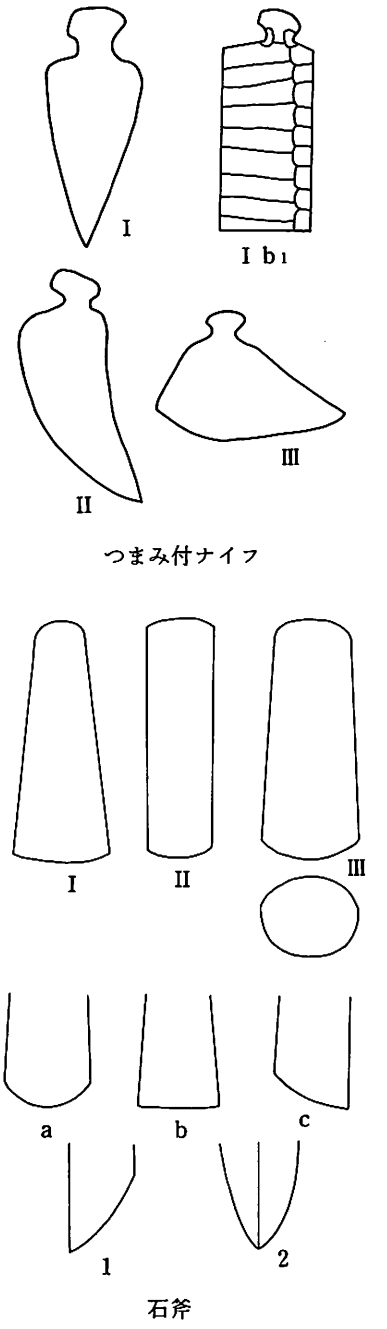
石斧

I　撥形　　a　曲刃　　1　片刃

II　短冊形　　b　直刃　　2　両刃

III　乳棒状　　c　斜刃

IV　不明



図Ⅰ—7　石器分類模式図（2）

石材

剝片石器の石材には，赤井川産を主とする黒曜石と頁岩（珪質頁岩・めのう質頁岩を含む）が多く用いられており，礫石器ではたたき石に珪岩が，他の器種では安山岩が多い。

北海道大学理学部助教授渡辺暉夫氏の同定によれば（第IV章），安山岩は輝石安山岩，斜長石安山岩，玄武岩質安山岩など多彩であり，肉眼による識別は困難なことから，「安山岩」として一括した。北海道式石冠に多く用いられている斜長石ひん岩，斜長石斑岩，石英斑岩についても同じ理由から，一括して「斑岩」とした。

また，たたき石に多用されている「珪岩」のなかには強変質酸性火山岩があり，この識別も困難なことから，「珪岩」に含めている。

なお，表における石材の略号は次のとおりである。

Aga	(Agate)	めのう	And	(Andesite)	安山岩
Ba	(Basalt)	玄武岩	Che	(Chert)	チャート
Gr-Mud	(Green Mudstone)	緑色泥岩	Gr-Sa	(Green Sand)	緑色砂岩

Gr-Sch	(Green Schist)	緑色片岩	Jad	(Jade)	ひすい
La-Ba	(Lawsonite Basalt)	ローソン石玄武岩	Mud	(Mudstone)	泥岩
Obs	(Obsidian)	黒曜石	Per	(Peridotite)	橄欖岩
Por	(Porphyry)	斑岩	Qua	(Quartzite)	珪岩
Qz	(Quartz)	石英岩	Rhy	(Rhyolite)	流紋岩
Sa	(Sandstone)	砂岩	Sch	(Schist)	片岩
Ser	(Serpentinite)	蛇紋岩	Sh	(Shale)	頁岩
Tal	(Talc)	滑石	We-Tu	(Welded Tuff)	熔結凝灰岩

土・石製品

土製品としては，土偶，有孔・有溝土製品，杓子形土製品，台，把手，擦切板状土製品のほか再生土製円盤が多数ある。再生土製円盤は無孔・有孔のほか穿孔途中のものもあるが，欠損しているものが多い。

石製品としては，玦状耳飾，垂飾，玉のほか小型の石斧，大型の石棒がある。

陶磁器

陶磁器類はプライマリーな層順で出土したものはなく，すべてI層の表土・盛土などから出土している。中国製の可能性のある青磁1点のほか幕末までさかのぼる可能性のある磁器もわずかにあるが，大部分は近・現代の陶磁器類である。

金属製品

古銭のほかは近・現代の鉄製品が大部分である。古銭は寛永通宝，天保通宝のほか，近・現代の旧貨幣がみられる。

その他

その他としてはビール，薬などのガラス製品があるが，すべて近・現代のものである。

(6) 遺跡の概要

発見された遺構と遺物は表I—1・2のとおりである。

遺構は，住居跡39軒，土壙150基，貝塚5ブロック，焼土24カ所である。

住居跡は39軒，縄文時代前期末～中期初頭・II群B2b・c類・「フゴッペ式」の時期のもの35軒，中期末葉・III群B3類・「トコロ6類」の時期のもの4軒である。平面形は楕円形，円形，隅丸長方形，隅丸五角形，卵形などバラェティーに富んでいる。大きさは最大のもので長径9.86×短径6.80m（確認面）・面積55.34m²，最小のものは長径2.50×短径2.26m（確認面）・面積4.48m²，平面形同様バラェティーがある。構造は単純なものが大半であるが，二段構造のものが3軒ある。また火災住居が1軒確認されている。

土壙は150基，縄文時代前・中期のI群は92基，晩期のII群は58基である。I群のうち土壙墓と考えられる1類は14基，掘り方がしっかりしていて平面形は楕円形，断面形は長方形である。人骨が確認できたものはないが，壙底部にベンガラがみられたものがいくつかある。また，土層の堆積状況を観察すると，2類とは異なり人為的な埋め戻しの痕跡を示している。時期は縄文時代前期末～中期初頭・II群B2b・c類・「フゴッペ式」の時期と考えられる。I群2類は78基，時期でみると縄文時代前期末～中期のもの71基，中期末・III群B3類・「トコロ6類」のもの7基に分けることができるが，性格は不明である。平面形は楕円形のものが大半であるが，大きさ深さなどはバラェティーに富んでいる。断面形は

表I—1　遺構一覧

種類 / 時期	住居跡	土壙				貝塚	焼土
		I1(墓)	I2	II	計		
縄文時代前・中期	35	14	71		85		14
〃 中期末	4		7		7	5	7
〃 晩期				58	58		3
合計	39	14	78	58	150	5	24

皿状のものが大半で，土層の堆積状況も1類とは異なり，流れ込みと考えられるものが多い。II群は58基，平面形は円形のものが多く，自然礫がまとまって出土するものもみられる。

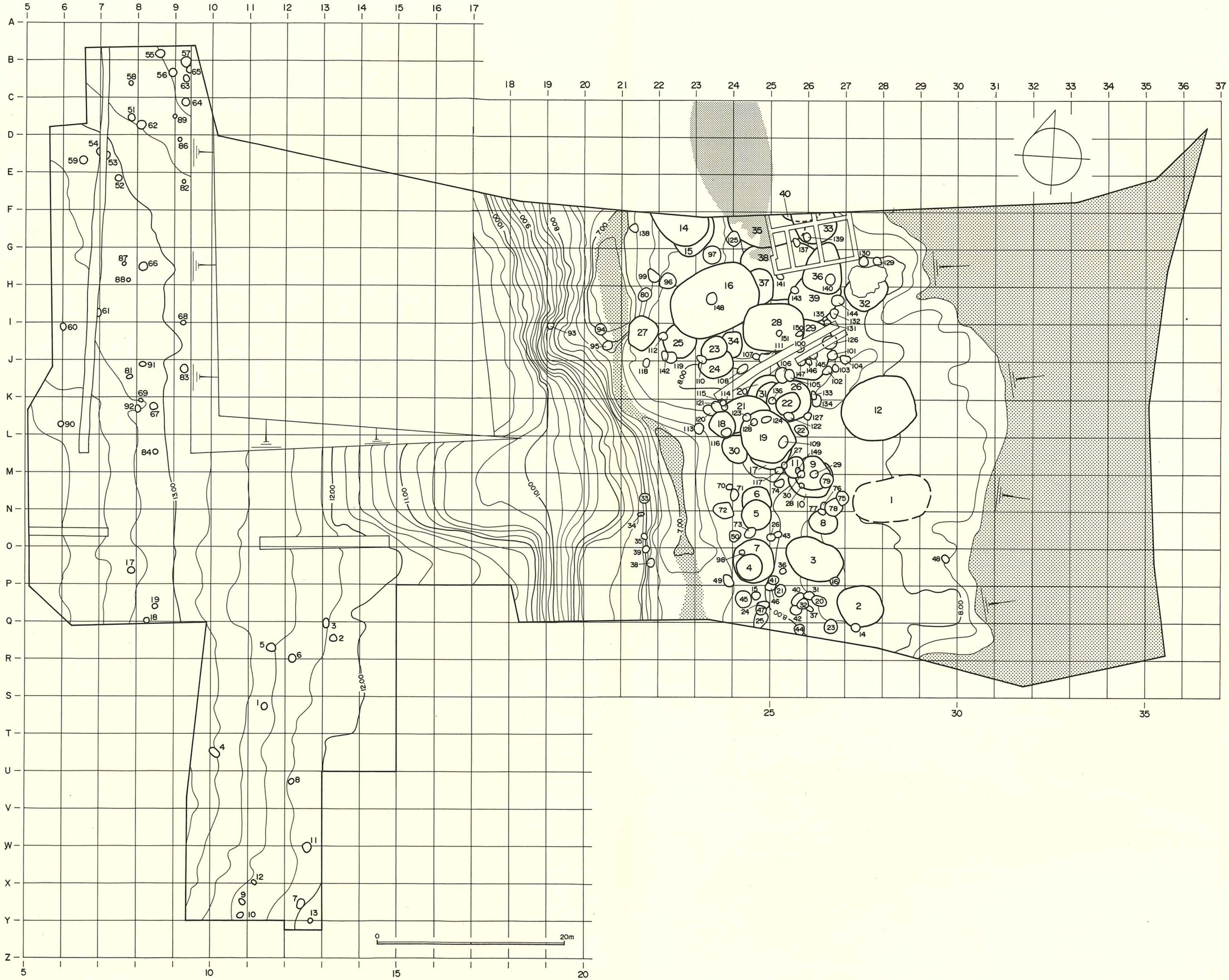
貝塚は5ブロック，混土貝層と混貝土層があるが，いずれも時期は縄文時代中期末・III群B3類・「トコロ6類」である。5つのブロックは4カ所の焼土とともに住居跡の凹みに廃棄されたものと考えられる。貝塚の貝類はイガイが主体で，約43種類，鳥獣骨類は全体的に少いが，陸獣骨より海獣骨が多い。魚類は約15種類，ニシン，ホッケ，カレイ類が多く，大型のヒラメがみられるのが特徴である。

焼土は24カ所，屋外炉とみられるのは6カ所，他は二次堆積と考えられる。二次堆積の18カ所うち4カ所は貝塚ブロックと同様，廃棄されたもので，残りの14カ所は斜面の凹みに堆積したものである。時期は縄文時代前・中期と晩期のものがみられる。

遺物総数は1,246,393点(表採などを加えると1,247,735点)，最も多いところでは4×4mの発掘区で80,419点出土している。1m²あたりの出土点数は最大で5,744点，平均は214点である。遺構出土の遺物は233,449点，全体の19%に相当する。土器の総数は253,735点(20%)，縄文時代早期～晩期，続縄文・擦文時代のものがあるが，縄文時代前・中期のものが全体の86%を占めている。石器の総数は20,992点(1.7%)，剝片石器7,607点，礫石器13,385点と，礫石器が全体の64%を占めるという特徴がある。剝片石器では石鏃，スクレパー類，礫石器では北海道式石冠を含むすり石，たたき石，石皿・台石が多い。フレイク類は737,552点(59%)，大部分は黒曜石である。R礫・礫△・焼礫・礫などは217,289点(17%)，大半が安山岩類である。土・石製品は276点，土偶，玦状耳飾などもみられるが，再生土製円盤が大半である。骨角製品は14点，貝塚から12点，住居跡から1点出土している。また表採品の1点は貝塚部分から表採されていた貝製平玉で，貝塚出土と考えてよいものである。金属製品は，若干の古銭と近・現代の新・旧貨幣のほかは近・現代のものがみられる。

土器類を除いた遺物の総重量は31,017kg，礫石器類の多さを反映している。

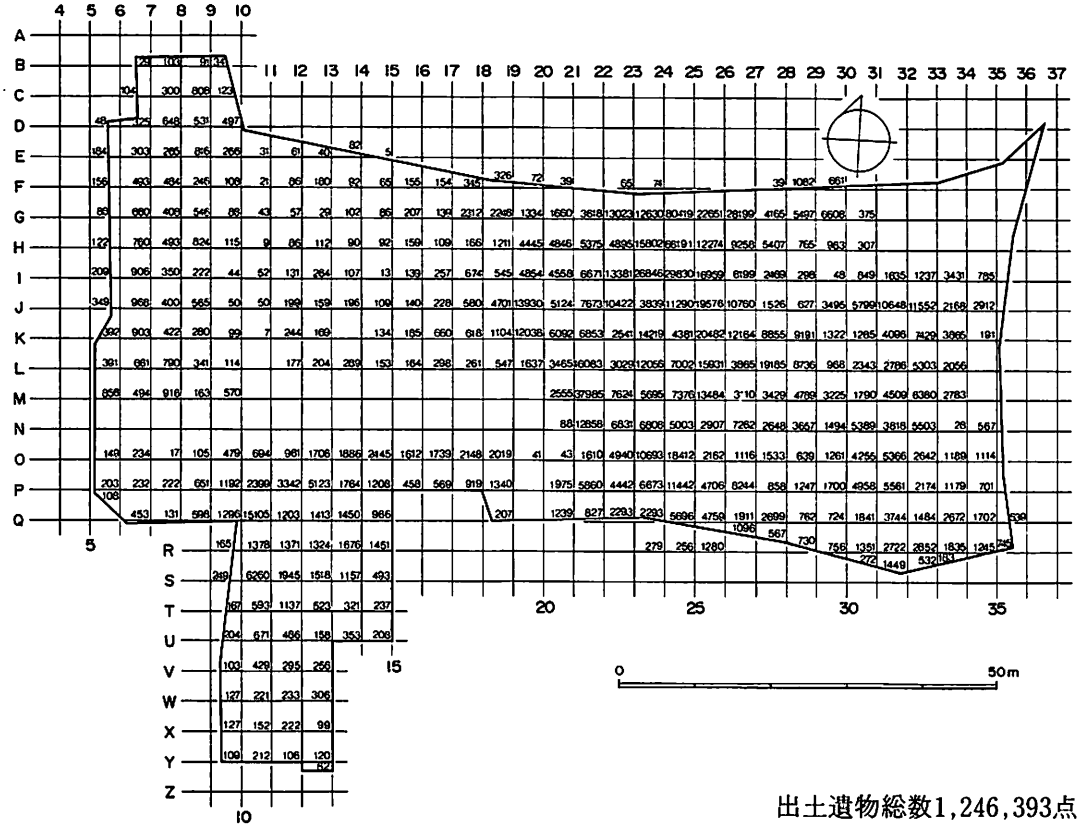
当遺跡は多量の遺構・遺物が発見されたが，大雑把に言うと三つの性格を指摘できる。一つは，縄文時代前期末～中期初頭の住居跡，土壙群，次は縄文時代中期末の住居跡・土壙群と貝塚，最後は縄文時代晩期後葉の土壙群である。



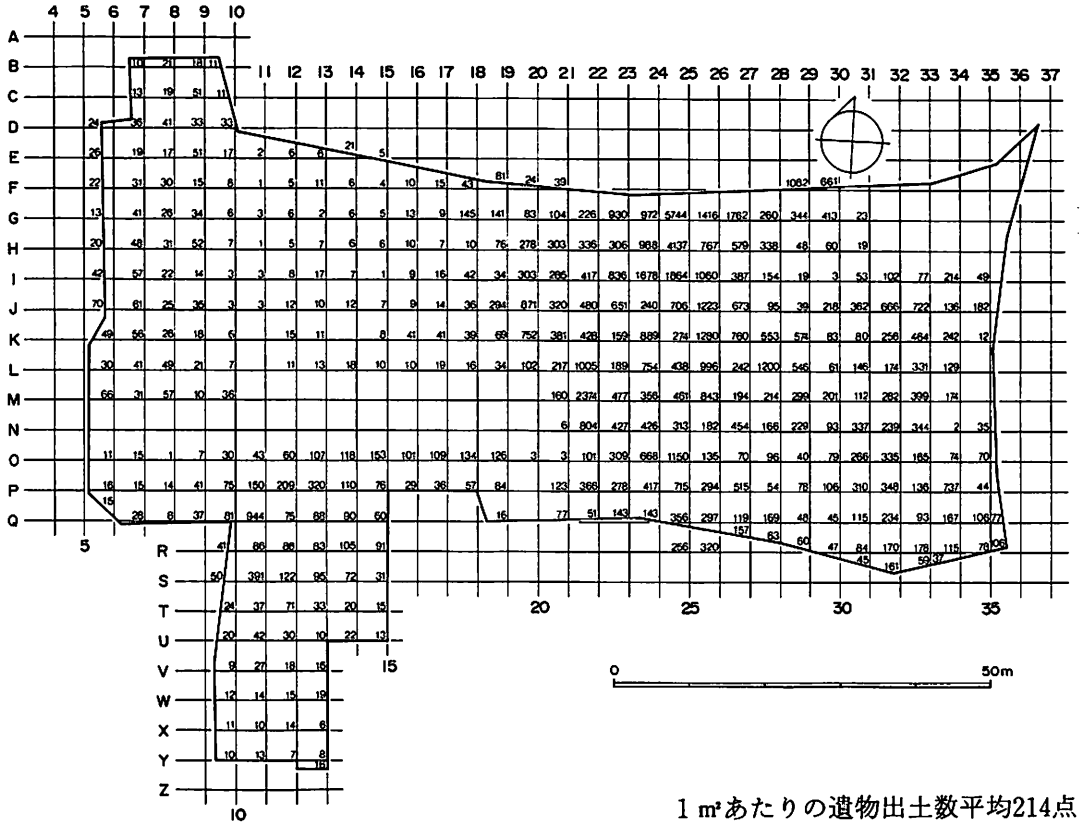
図Ⅰ—8　遺構分布図

表I—2　出土遺物一覧

出土位置 / 種類	遺構				貝塚	包含層	小計	表採排土ほか	合計
	住居跡	土壙	焼土	計					
縄文早期土器（I）	241	86		327	2	1,798	2,127		2,127
縄文前期土器（II）	34,976	3,580	39	38,595	2,759	113,929	155,283	349	155,632
縄文中期土器（III）	2,368	370	148	2,886	2,636	57,065	62,587	168	62,755
縄文後期土器（IV）	4	22		26	3	1,950	1,979	3	1,982
縄文晩期土器（V）	4	607		611		11,164	11,775	8	11,783
続縄文土器						28	28		28
擦文土器						118	118		118
陶磁器	14	1		15	3	1,658	1,676		1,676
不明	57			57	19,727	54	19,838	1	19,839
土器等計	37,664	4,666	187	42,517	25,130	187,764	255,411	529	255,940
石鏃	436	43	1	480	36	2,056	2,572	5	2,577
石錐	41	2		43	114	160	317		317
ポイント・ナイフ	160	17		177	21	1,007	1,205	2	1,207
つまみ付きナイフ	121	12		133	5	445	583		583
スクレイパー	452	27	2	481	43	2,212	2,736	11	2,747
楔形・異形石器	14			14		180	194		194
剝片石器計	1,224	101	3	1,328	219	6,060	7,607	18	7,625
石斧	71	7		78	4	438	520	2	522
石斧片	125	7		132	78	676	886	1	887
すり石	218	26	2	246	24	1,062	1,332	1	1,333
北海道式石冠	173	23		196	11	415	622	1	623
球石	75	7		82	11	863	956		956
たたき石	686	131		817	44	3,689	4,550	9	4,559
くぼみ石	70	11		81	10	332	423		423
石錐	27	3		30	3	24	57		57
砥石	359	40	1	400	49	575	1,024	1	1,025
石皿・台石	374	125	11	510	23	2,385	2,918	10	2,928
石錘	4			4		7	11		11
礫石器計	2,182	380	14	2,576	257	10,466	13,299	25	13,324
コア	420	126	5	551	36	7,052	7,639	12	7,651
フレイク	109,280	20,340	153	129,773	82,541	525,238	737,552	597	738,149
U・Rフレイク	710	122	3	835	91	5,170	6,096	21	6,117
R礫	20			20		66	86		86
礫△	5,098	710	26	5,834	790	14,131	20,755	31	20,786
焼礫	624	145	1	770	89	2,099	2,958	2	2,960
原石	9	15		24	3	75	102		102
コア・フレイク等計	116,161	21,458	188	137,807	83,550	553,831	775,188	663	775,851
礫	43,153	5,856	105	49,114	5,274	139,188	193,576	100	193,676
土製品	96	5		101	5	145	251		251
石製品	4	1		5	1	6	12		12
骨角製品	1			1	12		13	1	14
金属製品ほか						1,036	1,036	6	1,042
合計	200,485	32,467	497	233,449	114,448	898,496	1,246,393	1,342	1,247,735

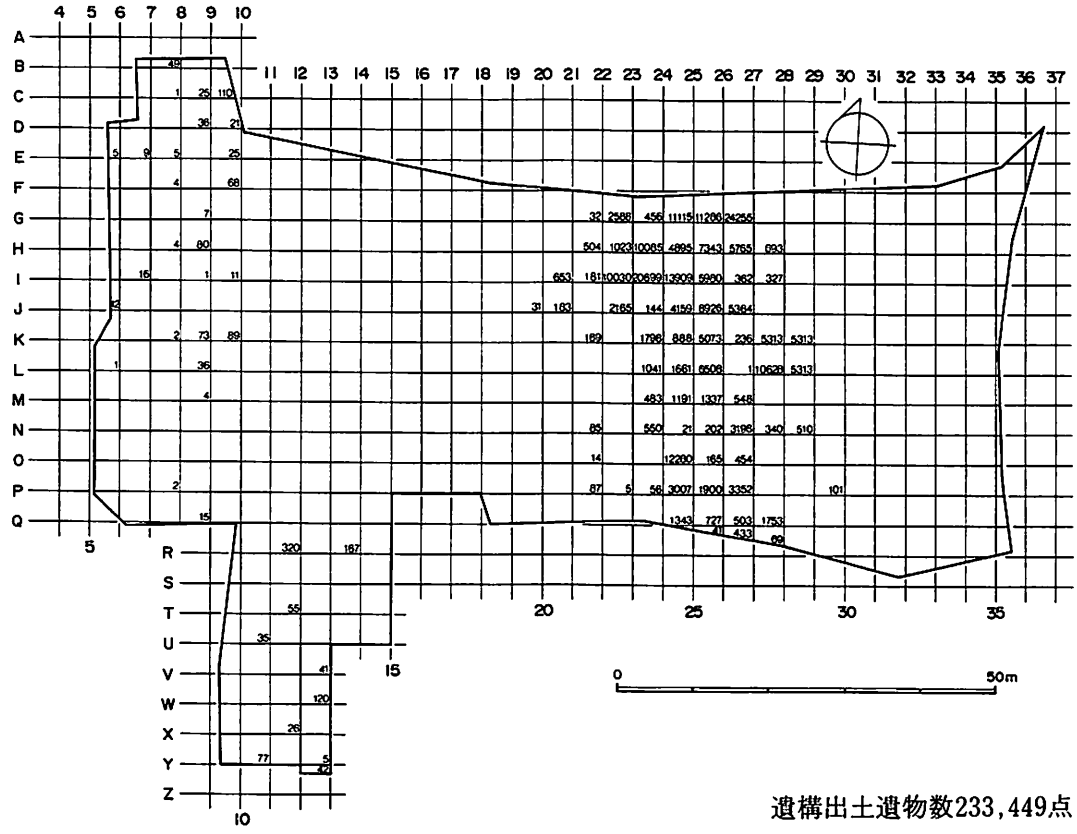


出土遺物総数1,246,393点

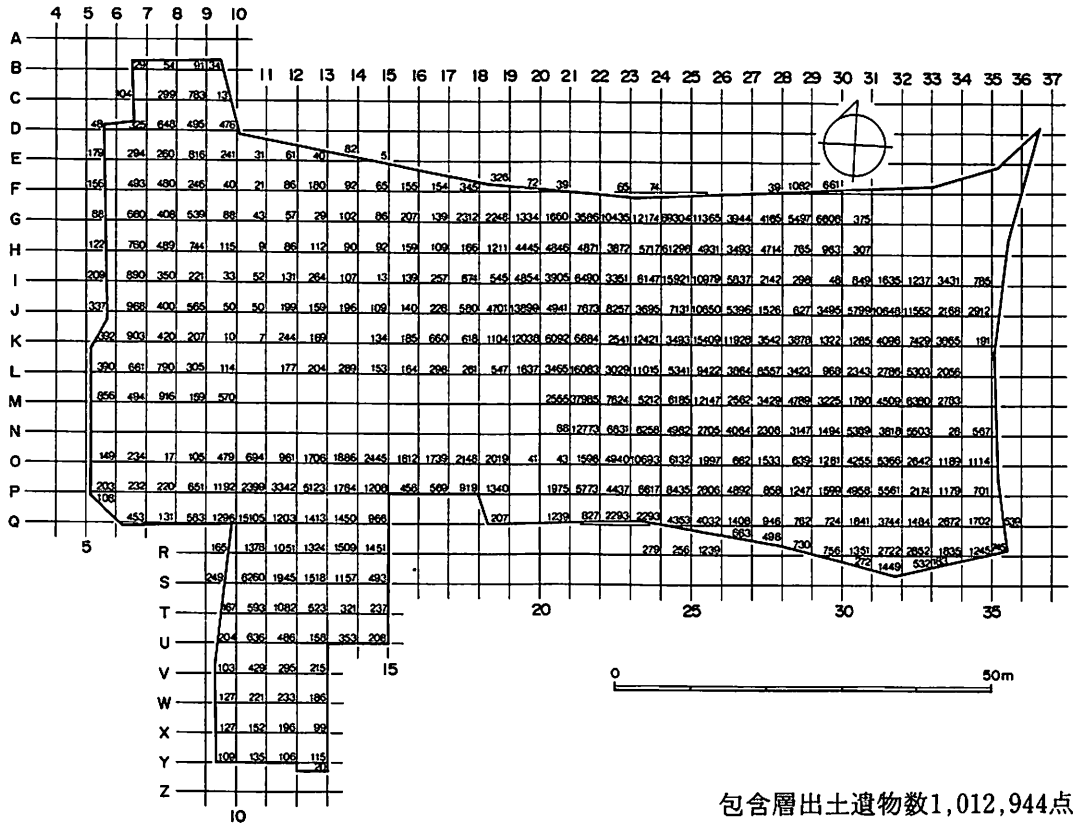


1㎡あたりの遺物出土数平均214点

図Ⅰ—9　発掘区別遺物点数(1)

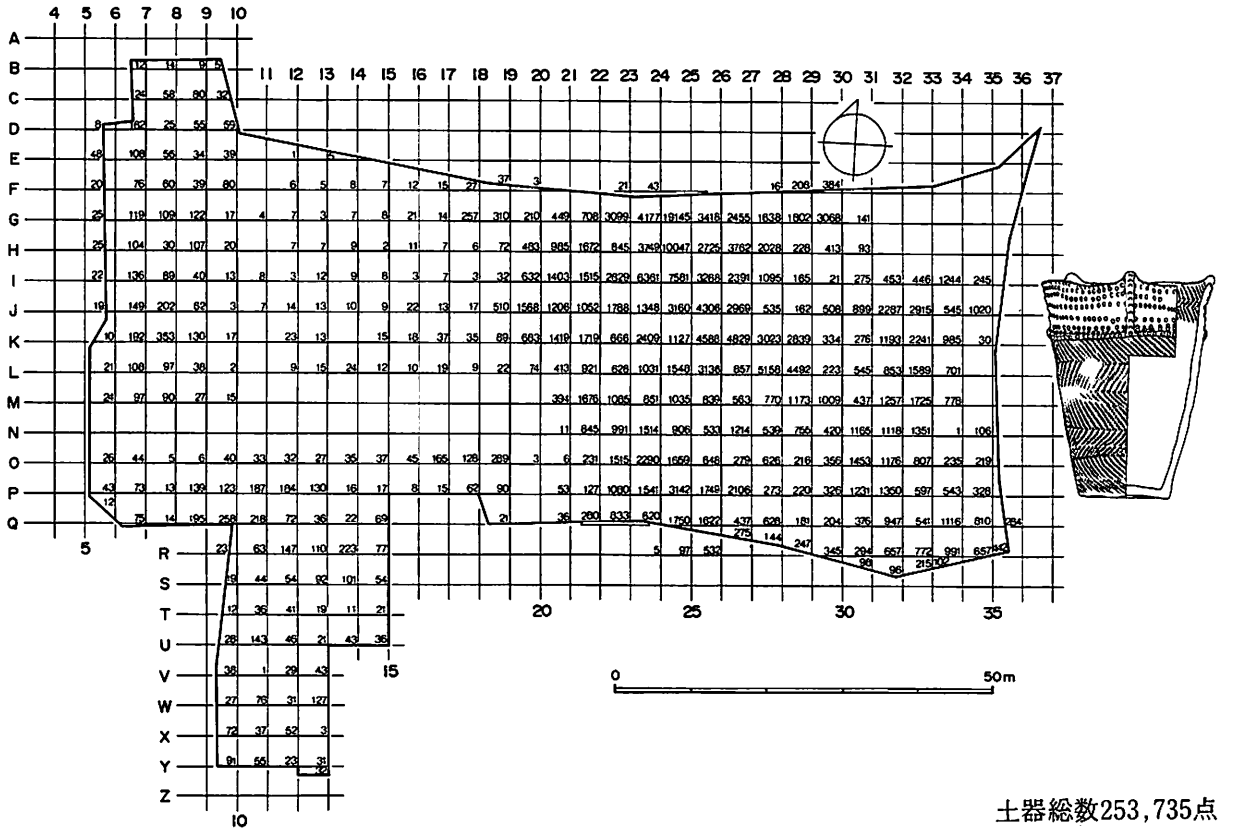


遺構出土遺物数233,449点

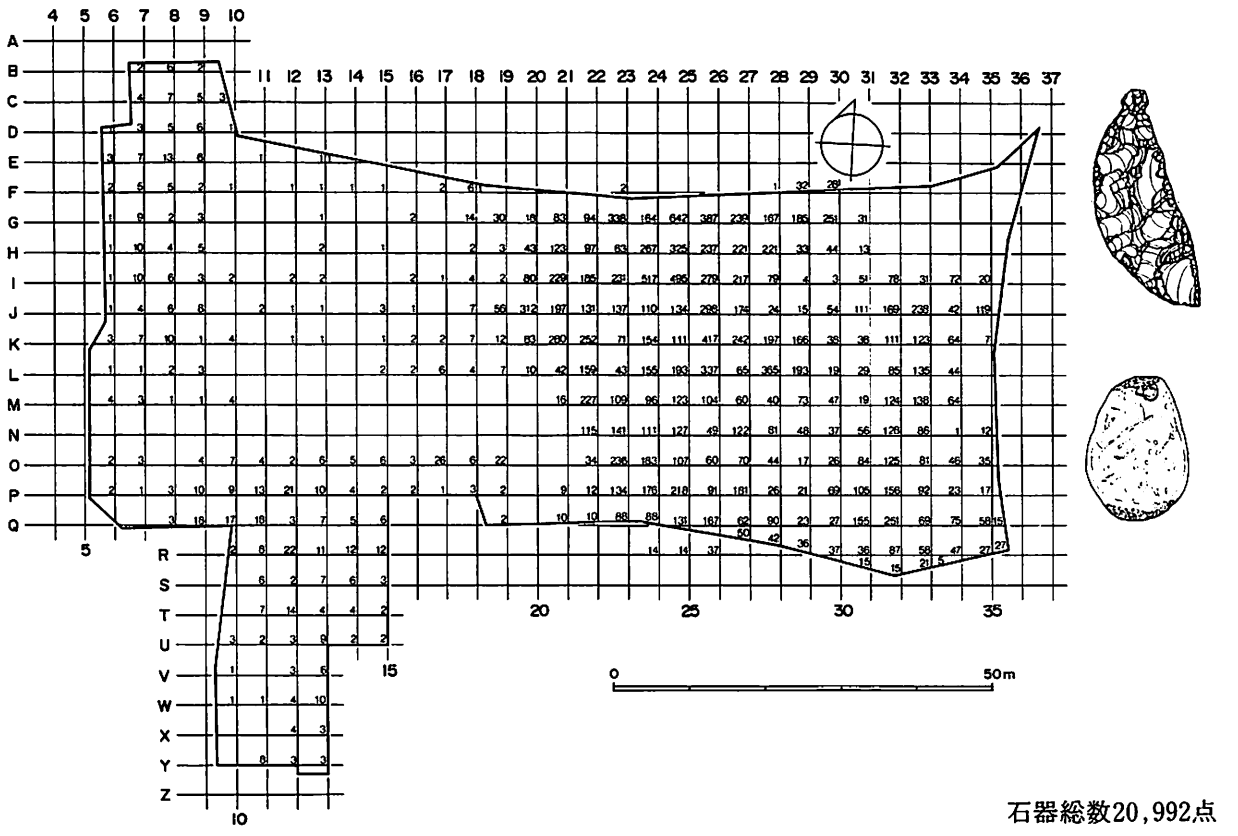


包含層出土遺物数1,012,944点

図Ⅰ—10　発掘区別遺物点数(2)

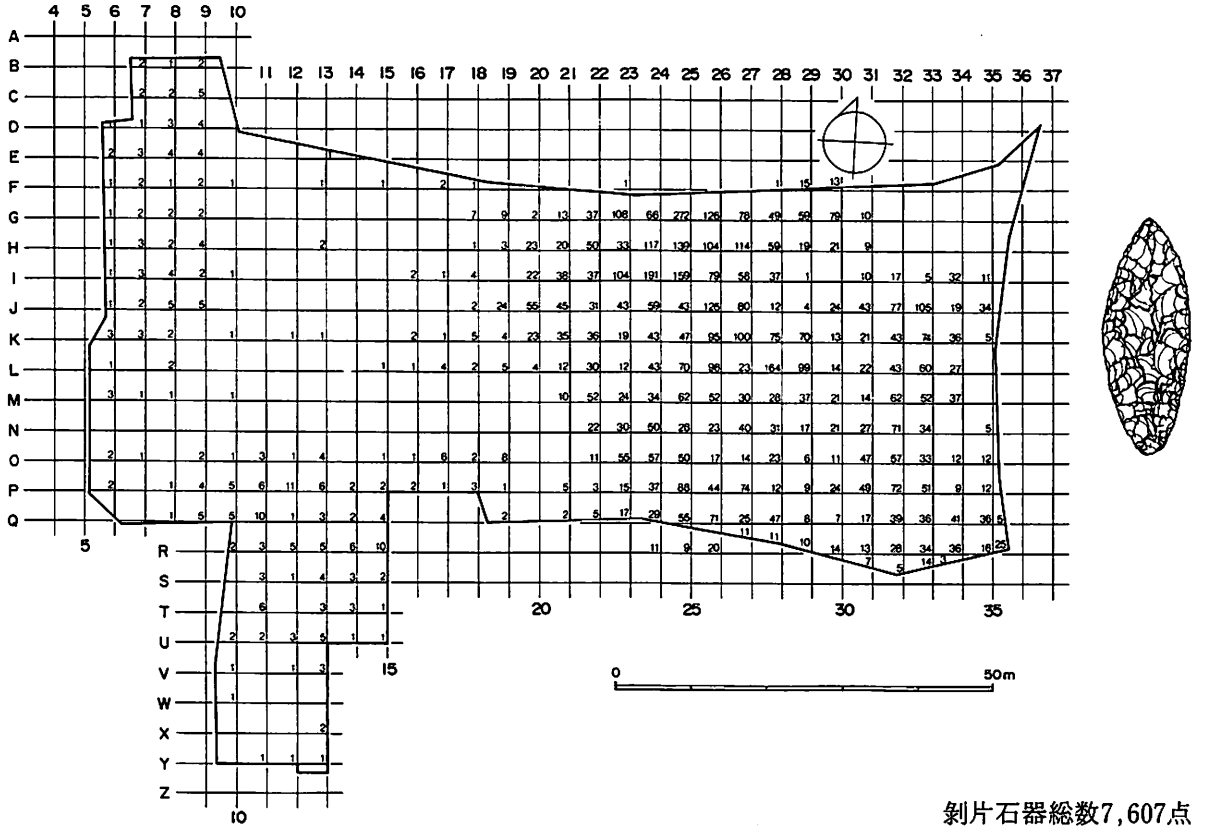


土器総数253,735点

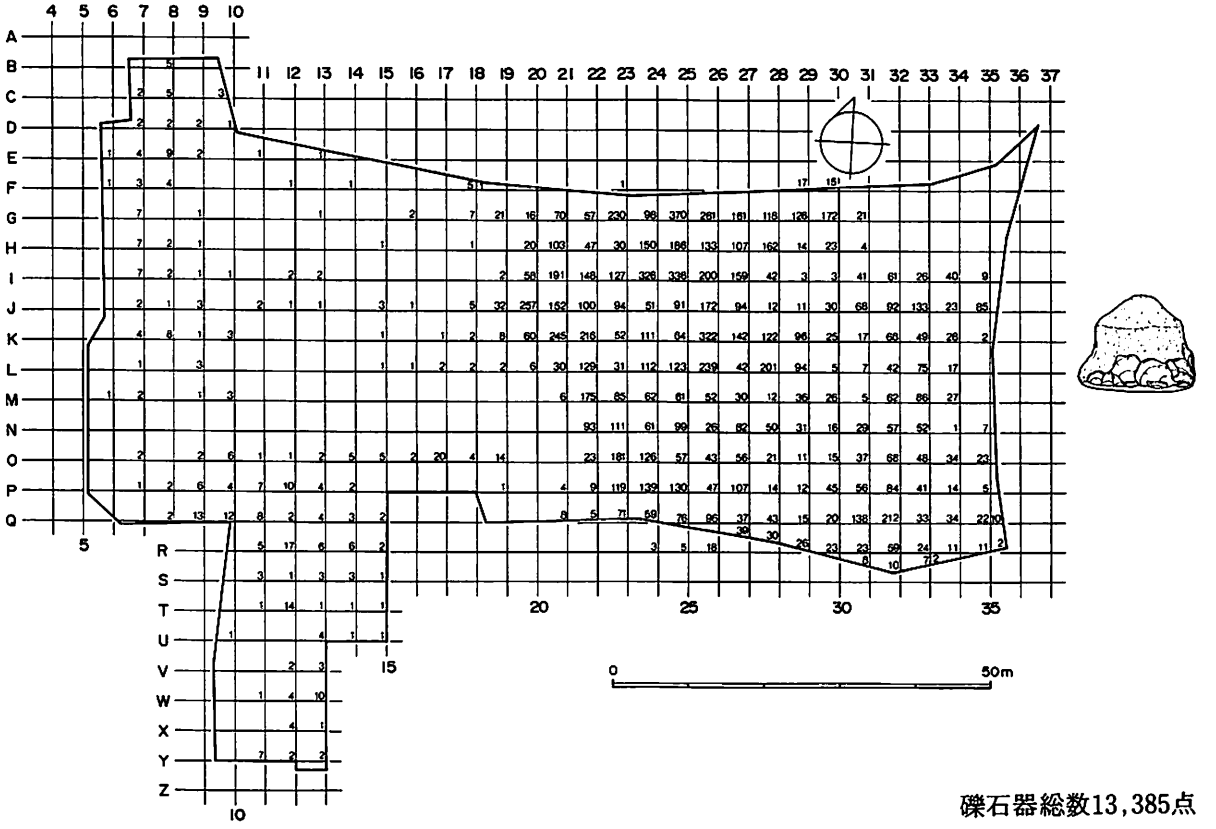


石器総数20,992点

図Ⅰ—11　発掘区別遺物点数(3)

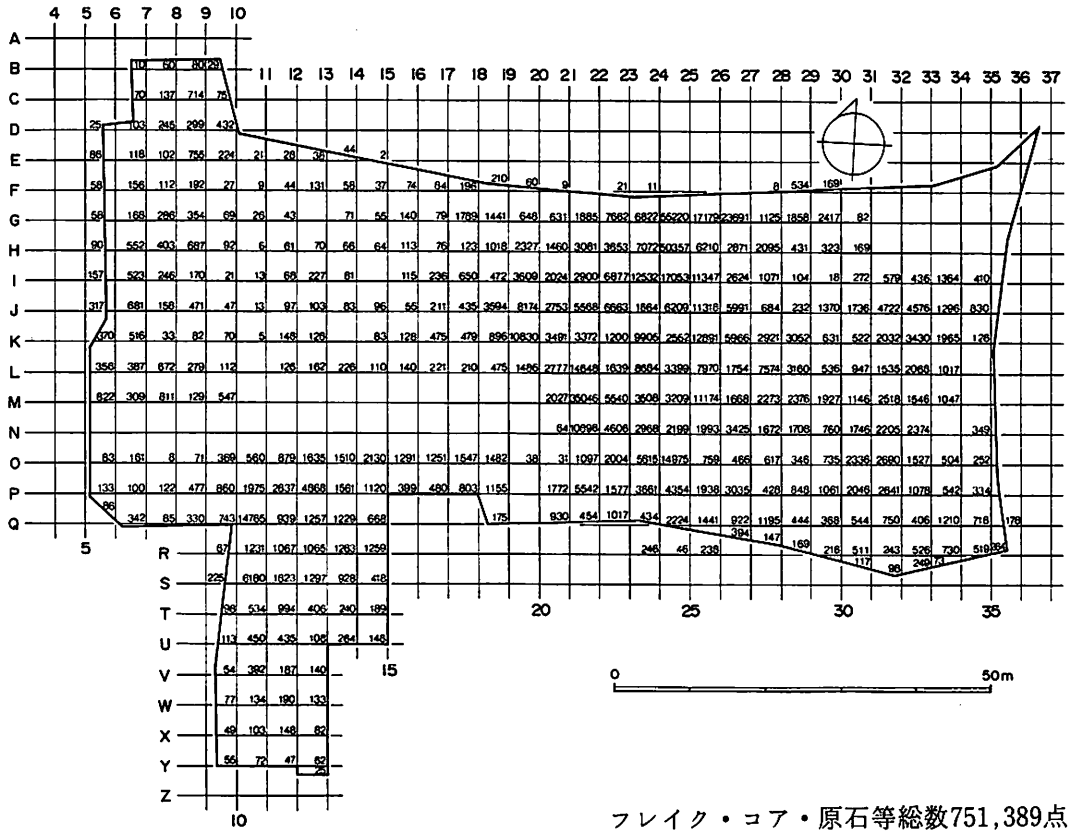


剥片石器総数7,607点

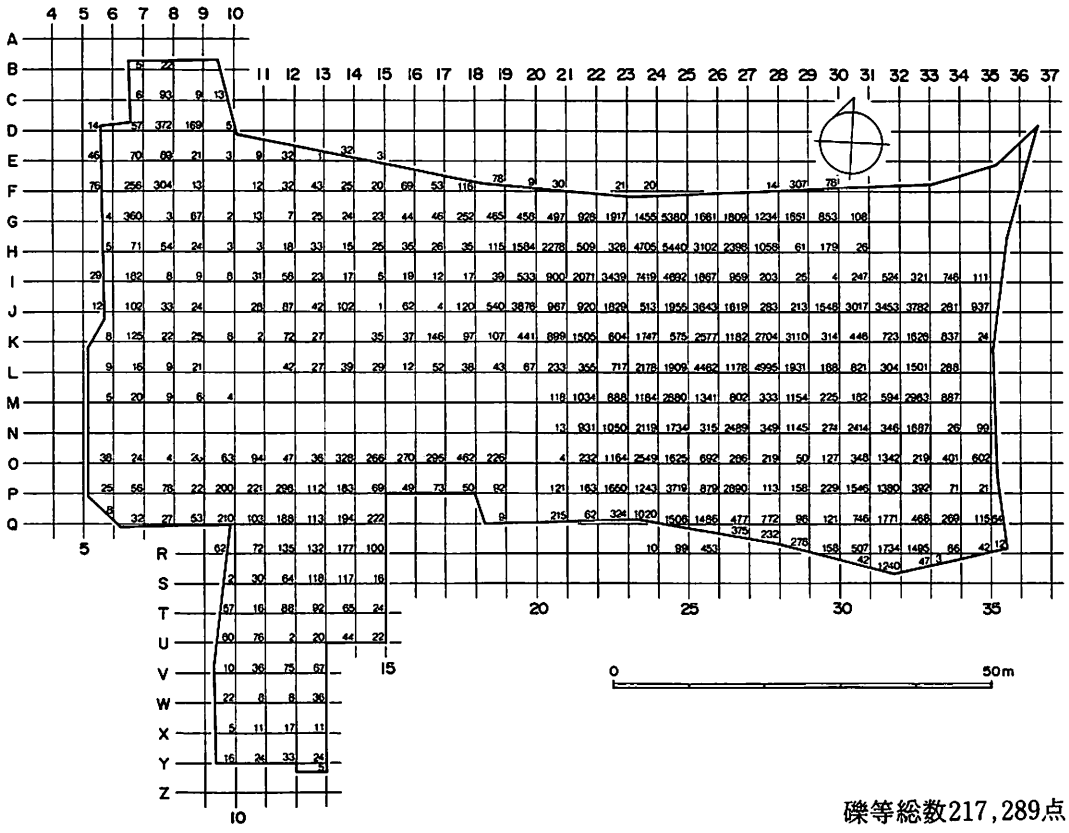


礫石器総数13,385点

図Ⅰ—12　発掘区別遺物点数(4)

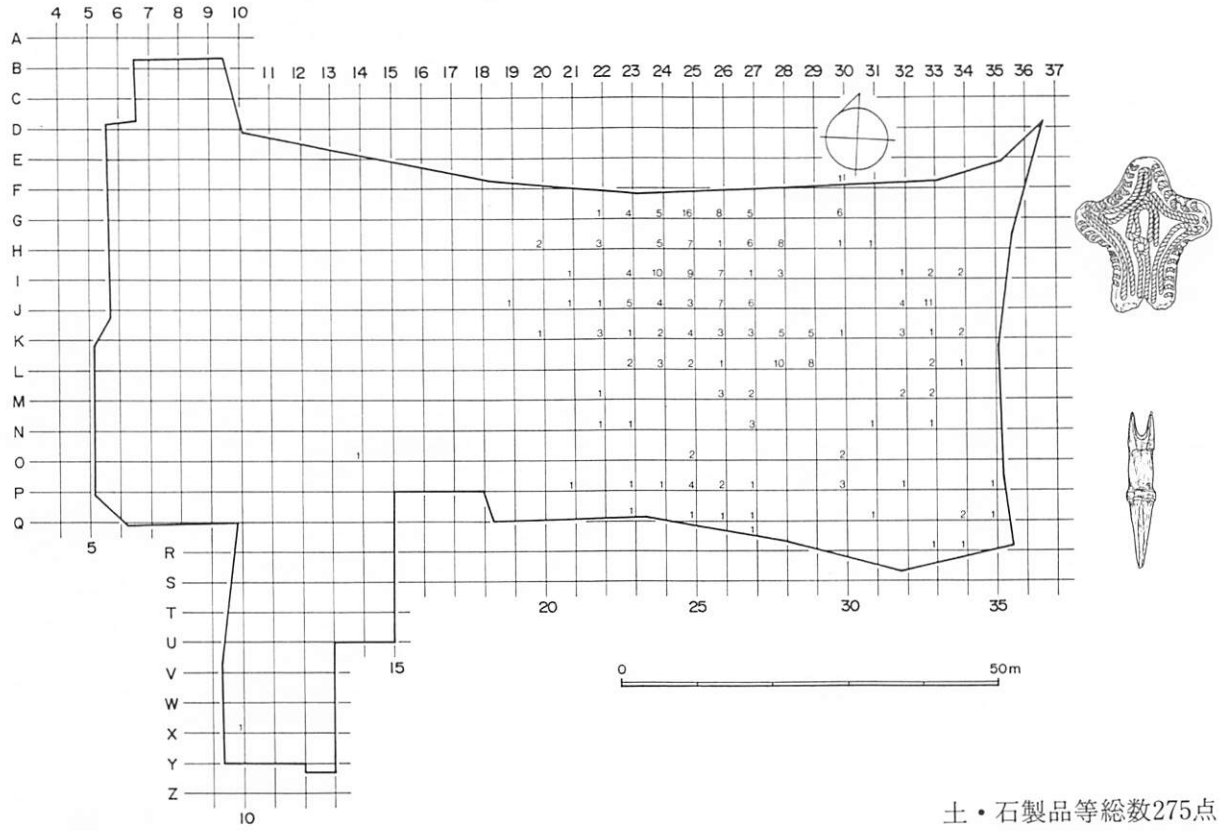


フレイク・コア・原石等総数751,389点

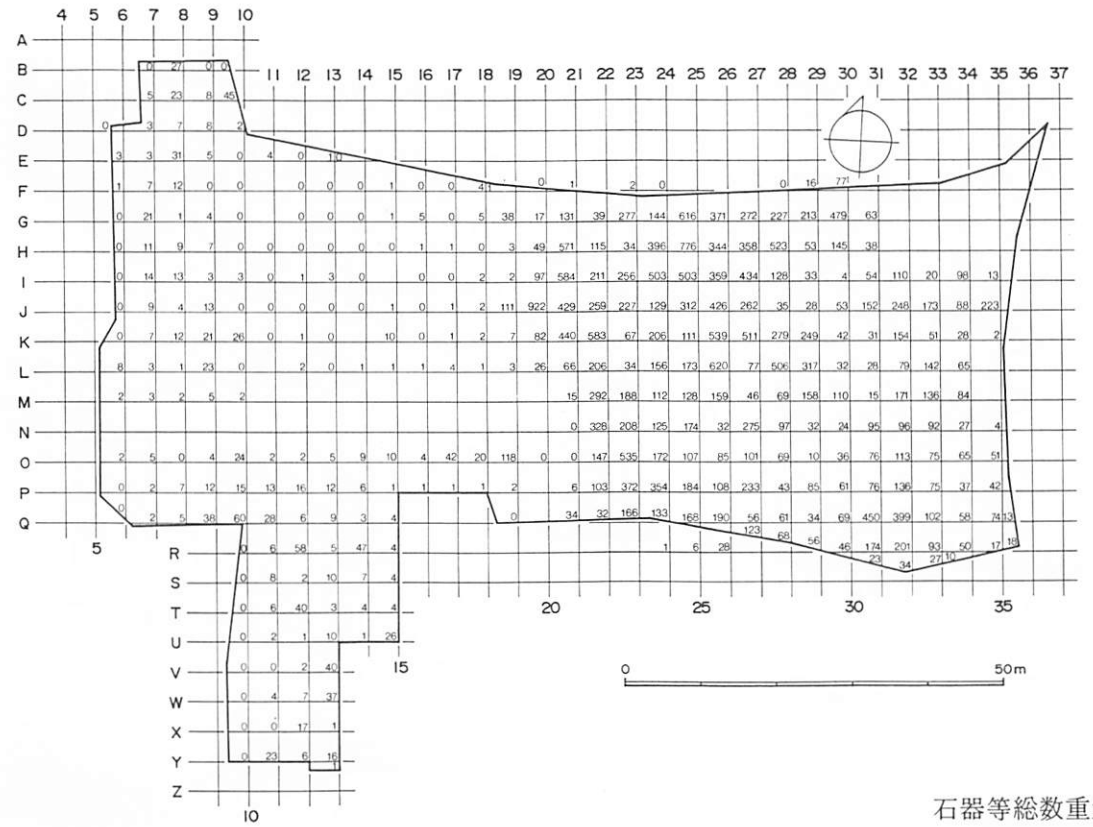


礫等総数217,289点

図Ⅰ—13　発掘区別遺物点数(5)



土・石製品等総数275点



石器等総数重量31,017kg

図Ⅰ—14　発掘区別遺物点数(6)・重量

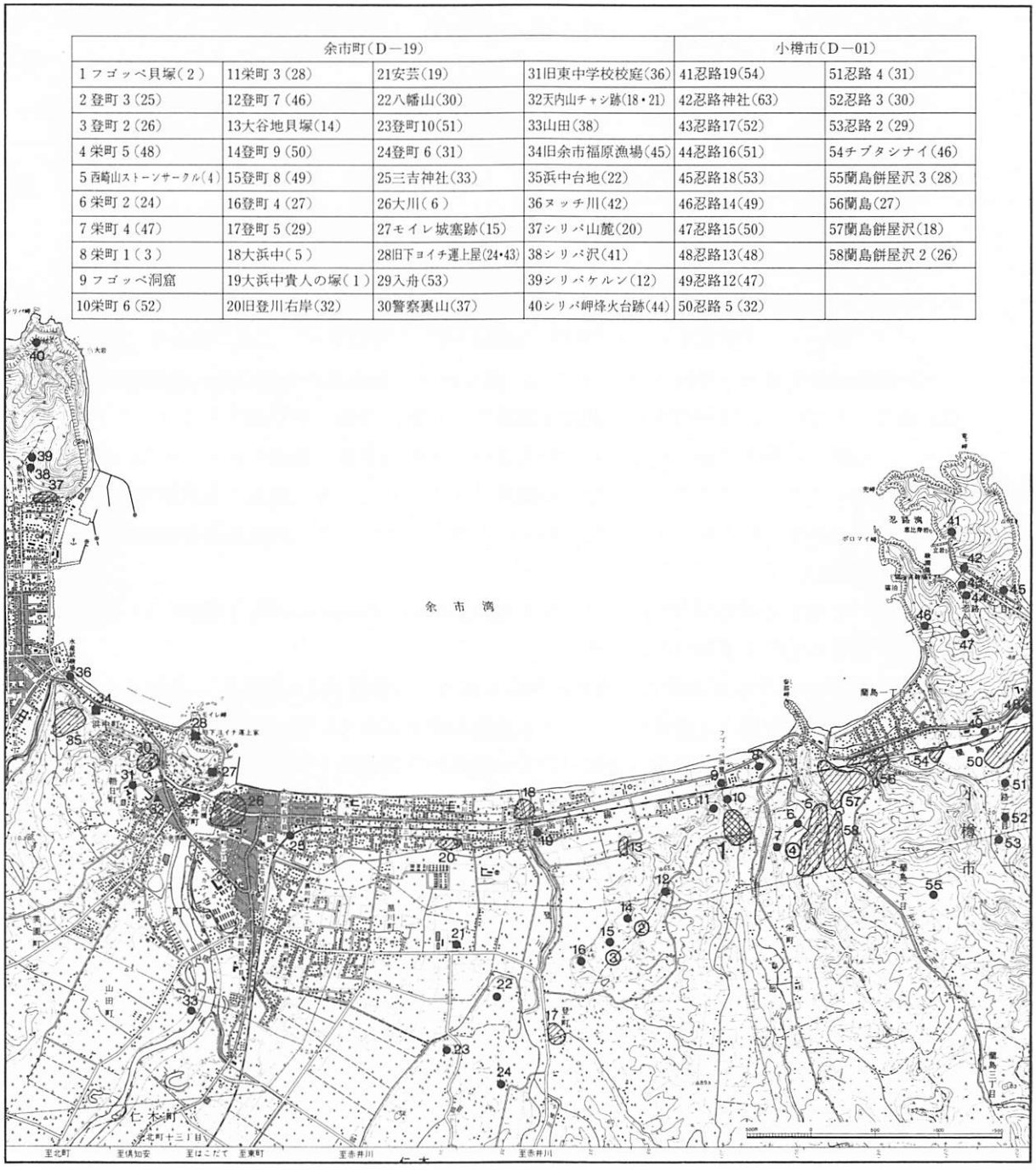
II　遺跡の位置と周辺の環境

1　遺跡の位置と周辺の遺跡

遺跡の所在する余市町は後志(しりべし)支庁管内の東部にあり，東は小樽市，南は赤井川村・仁木町，西は古平町に囲まれ，北は日本海に面している。町は西のシリパ岬と東の兜岬に挟まれた余市湾に沿って広がり，遺跡のある栄町は小樽市に接する町の東端に位置している。

当貝塚は蕃部(ふごっぺ)川左岸，南北にのびる丘陵の東斜面から沖積低地にかけて立地し，その範

余市町(D－19)				小樽市(D－01)	
1 フゴッペ貝塚(2)	11栄町 3 (28)	21安芸(19)	31旧東中学校校庭(36)	41忍路19(54)	51忍路 4 (31)
2 登町 3 (25)	12登町 7 (46)	22八幡山(30)	32天内山チャシ跡(18・21)	42忍路神社(63)	52忍路 3 (30)
3 登町 2 (26)	13大谷地貝塚(14)	23登町10(51)	33山田(38)	43忍路17(52)	53忍路 2 (29)
4 栄町 5 (48)	14登町 9 (50)	24登町 6 (31)	34旧余市福原漁場(45)	44忍路16(51)	54チプタシナイ(46)
5 西崎山ストーンサークル(4)	15登町 8 (49)	25三吉神社(33)	35浜中台地(22)	45忍路18(53)	55蘭島餅屋沢 3 (28)
6 栄町 2 (24)	16登町 4 (27)	26大川(6)	36ヌッチ川(42)	46忍路14(49)	56蘭島(27)
7 栄町 4 (47)	17登町 5 (29)	27モイレ城塞跡(15)	37シリパ山麓(20)	47忍路15(50)	57蘭島餅屋沢(18)
8 栄町 1 (3)	18大浜中(5)	28旧下ヨイチ運上屋(24・43)	38シリパ沢(41)	48忍路13(48)	58蘭島餅屋沢 2 (26)
9 フゴッペ洞窟	19大浜中貴人の塚(1)	29入舟(53)	39シリパケルン(12)	49忍路12(47)	
10栄町 6 (52)	20旧登川右岸(32)	30警察裏山(37)	40シリパ岬烽火台跡(44)	50忍路 5 (32)	



図II－1　遺跡の位置と周辺の遺跡（国土地理院発行
2万5千分の1地形図余市を縮小）

囲は南北300m，東西200m程と推定できる。従来，「フゴッペ貝塚」と呼ばれているのは推定範囲の北西部，標高14～20mの丘陵東斜面，昭和17年に松下亘氏が試掘調査を行った(松下　1983）部分で，現在も畑地にマガキなどの貝殻が散布している。

今回調査を行ったのは，推定範囲の南部，標高14～10mの丘腹緩斜面と標高8m前後の沖積低地部分である。貝塚が確認されたのは，調査区域北東部の沖積低地（標高8.40m前後）で，宅地内に貝殻が散布していた部分である。したがって，同じフゴッペ貝塚内における立地・時期の異なる2ヵ所の貝塚を区別する意味で，ここでは前者を松下地点，後者を埋文センター地点と呼ぶこととする。前述したように従来の文献に登場する「フゴッペ貝塚」は松下地点のことで，その詳細は不明であるが，縄文時代後期初頭余市式の時期の貝塚である。「フゴッペ貝塚」の研究史については松下　1983に詳しいので，ここでは余市町東部の遺跡について説明する。

余市町の遺跡は，立地のうえから大きく丘陵部のものと沖積平野のものと二つに分けることができる(図II-1)。丘陵部の遺跡はさらに余市川を挟んで東西に分けられ，東側は登川と畚部川の流域に集中している。

当貝塚の東方，畚部川右岸の南北にのびる丘陵上には，道指定史跡「西崎山ストーンサークル」を含む西崎山ストーンサークル群(5)のほか，栄町3(6)・栄町4(7)・栄町5(4)遺跡があり，さらに北側の畚部岬へつながる丘陵先端部分はかつて「畚部チャシ」(西田　1932)，「フゴッペ岬チャシ・蘭島チャシ」（河野　1958a・b）と呼ばれているが，確かではない。

昭和63年に調査された栄町5遺跡(4)では，縄文時代晩期後葉の土壙31基，遺物102,330点が発見されている。31基のうち6基は土壙墓で，石鏃，石錐，やり先，ナイフ，スクレイパー，石斧，石斧未成品，石斧原石，たたき石，矢柄研磨器，石器未成品，石核，棒状原石，Uフレイク，フレイク，玉類などの副葬品が出土している。また，当遺跡で発見されている礫の詰まった円形の土壙と同様のものが調査されている（㈶北海道埋蔵文化財センター　1990a)。

当遺跡の立地する畚部川の左岸では，松下地点北西部の丘陵上に栄町3遺跡(11)，同北方の沖積低地に栄町6遺跡(10)がある。

登川の流域では，平成元年度に当遺跡と同時に調査した登町2(3)・登町3(2)遺跡があり，いずれも縄文時代中期の北筒式を主体とする遺物が発見されている（㈶北海道埋蔵文化財センター　1990b)。また，登町5遺跡(17)では縄文時代後期の土偶2点，登町4遺跡(16)付近では縄文時代晩期の土偶1点が採集されている（名取・峰山　1968)。さらに登町4(16)・登町6(24)遺跡では配石遺構，八幡山遺跡(22)では配石遺構と石棒などが発見されている（佐藤　1977，余市町教育研究所編集委員会　1982，登郷土誌作成委員会　1986)。

沖積平野に立地する遺跡は，主に黒川・大川砂丘に分布し，二つの砂丘の形成と遺跡の立地についての概要は久保　1996に述べられている(図II-4)。内陸部に位置する黒川砂丘上で登載されているのは安芸遺跡(21)のみであるが，他にも縄文時代前・中期を中心とした遺跡が点在するらしい。国道5号線が走る大川砂丘では縄文時代晩期以降から近世にわたる遺跡が点在する。最も西側に位置する余市川河口の大川遺跡(26)は，古くから珍しい形の土器（山岸　1934）や土偶（犀川会　19，名取　19）などが知られ，昭和33年には一部調査が行われていた（名取・峰山　1961）が，昨年度から河川改修工事に伴う広範な発掘調査が実施されて，続縄文～中・近世の遺構・遺物が多数発見されている（余市町教育



図II－2　遺跡周辺の地形図

北海道小樽市旧忍路郡塩谷村

先史時代遺跡調査誌

昭和49年2月

北海道枝幸郡枝幸町栄町

南宗谷考古学会

序

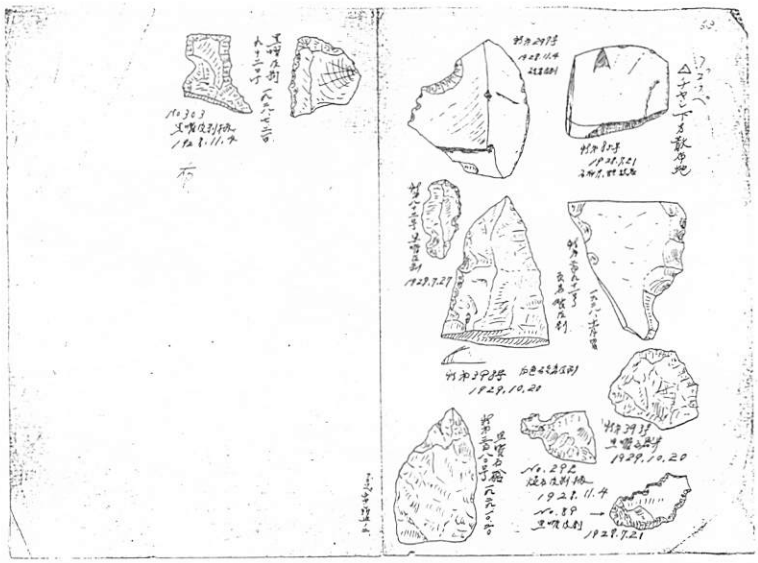
此の旧忍路郡（オショロクン）塩谷村遺跡調査誌は昭和3年9月に同村で発会した忍路郡考古学研究会が調査した、同村内外の遺跡略図と、蒐集遺物のスケッチを集録したものである。

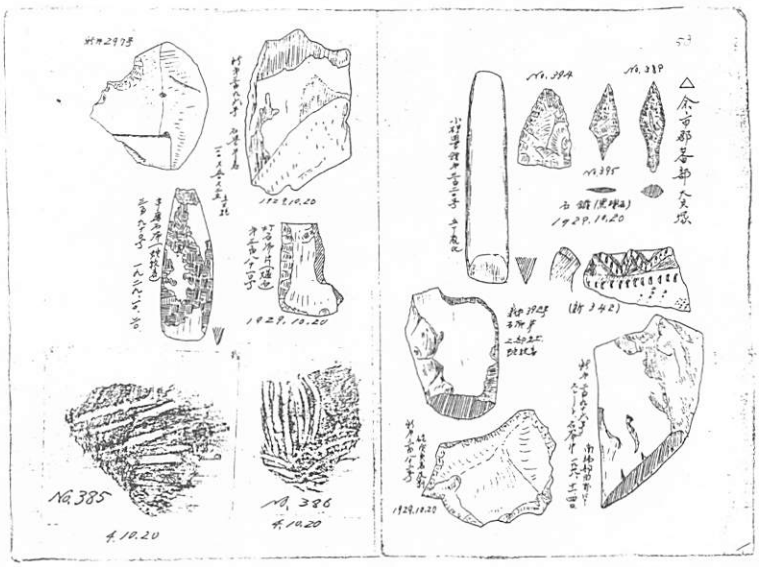
塩谷村は余市町と小樽市の間にはさまれた1郡1村の小さい漁村で、塩谷、銭内、忍路、前島の4つの大字よりなり、かつては鰊漁場で栄えたが、今は小樽市に合併され、樽臼に伊藤整の育った村、テレビドラマ「放浪」のロケなどで人口に膾炙した程度である。

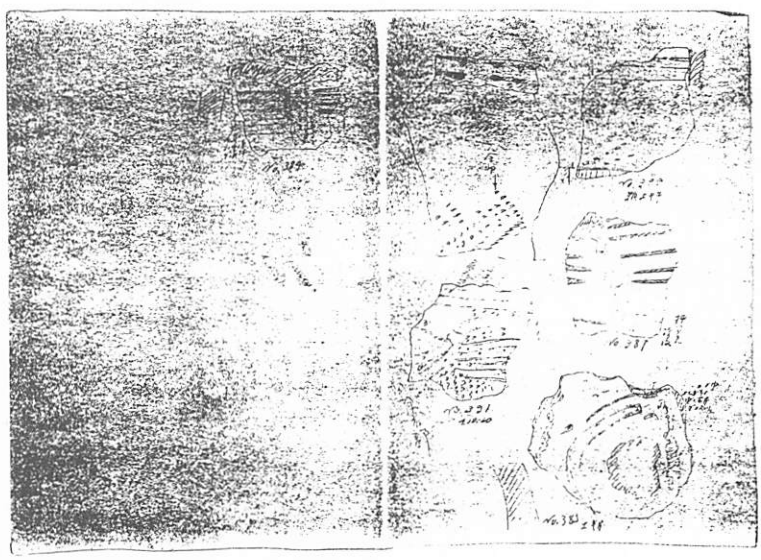
火山性の断崖が海に迫りシヨーヤ（塩谷）の語源は岩礁の海岸の意であり、僅かに開けた平地や小川に沿って多くの遺跡が眠っている。私を含めて約20名の会員の多くは小樽中学校（現潮陵高校）の生徒で、毎休日を遺跡調査に歩き廻り、その報告は「貝塚」という粗末なパンフレットに報じられ、第16輯迄継続した。

本遺跡調査誌は、以上の成果を手直しで纏かに1部作製され、今迄40余年間私の書庫で眠っていたのであるが、本道考古学研究史上の古典として、また既に消滅した同地方の遺跡を理る手懸りとして、何等かの参考になれば幸いと思い、茲に載録を懇請し関係機関に寄贈したい。

昭和49年2月15日　北海道枝幸郡枝幸町栄町
南宗谷考古学会
会員　新岡武彦





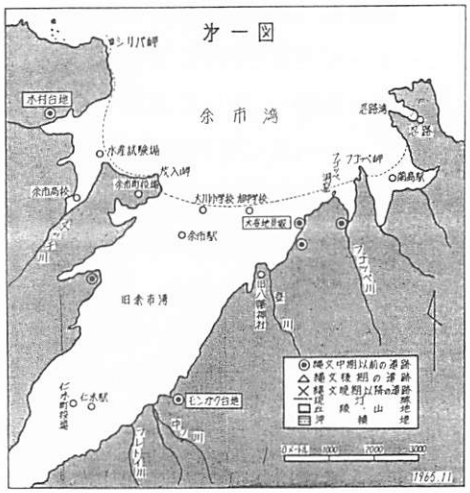


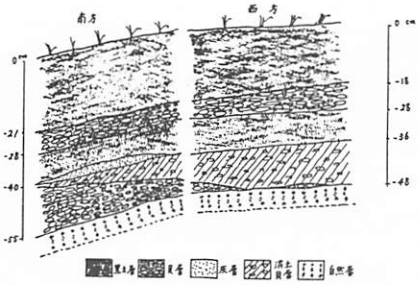
図II—3　フゴッペ貝塚研究略史（1）

第五圖ノ二

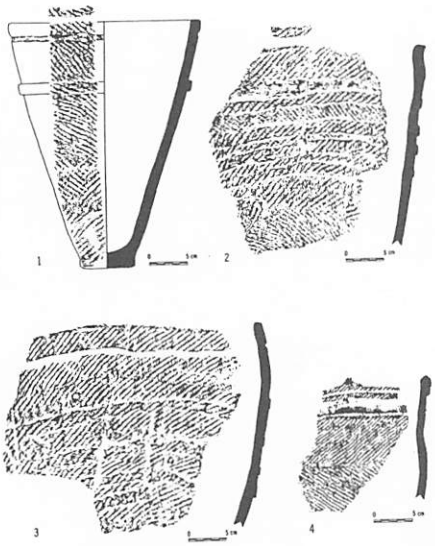


寺田1918・遺跡位置地図



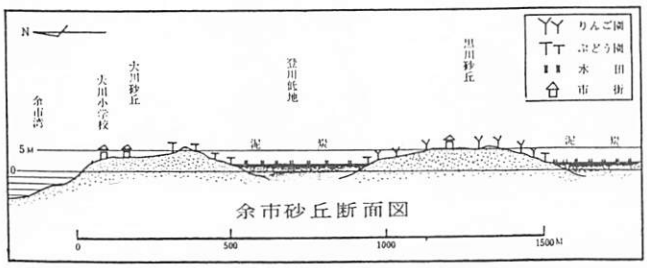


松下1983・
松下地点試掘穴土層
断面・土器拓本









久保1966・余市海岸砂丘の形成と遺跡の位置

図II—4　フゴッペ貝塚研究略史(2)

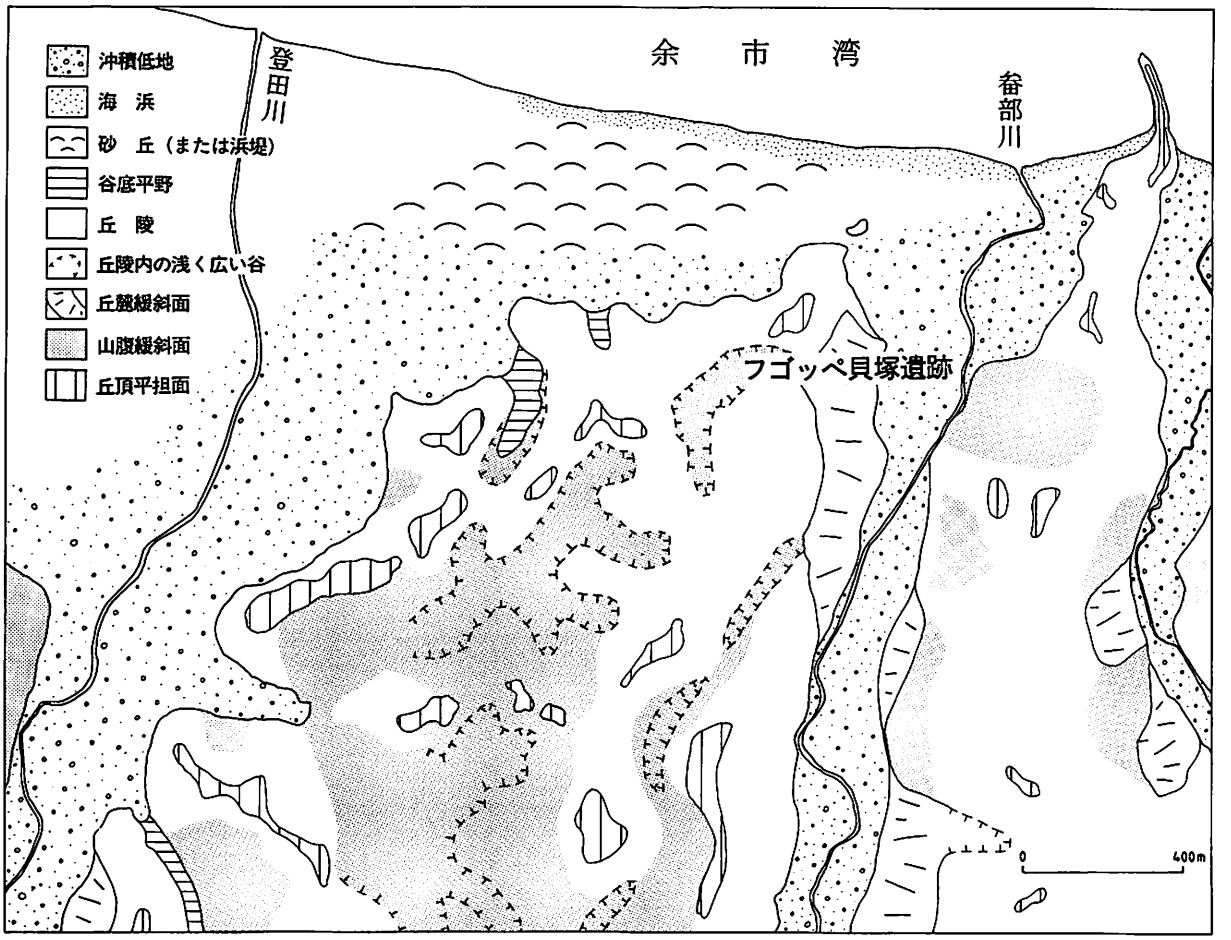
委員会　1990)。登川の河口に位置する大浜中遺跡(18)では15世紀代の中国製磁器がまとまって発見され(松下　1973)，また，最近では刀装具や甲冑の部品が注目を浴びている(佐藤　1990)。砂丘の西部では国指定史跡フゴッペ洞窟(9)のほか栄町1遺跡(8)がある。フゴッペ洞窟は海蝕洞窟に残された続縄文時代後半の遺跡で，昭和25年発見され，昭和26・28年の学術調査（名取・峰山ほか　1970）を経て，昭和28年に国指定の史跡となっている。洞窟内の多数の彫刻は全国的にも例が少なく，現在はカプセル方式による施設ができ，公開されている。また，カプセル化の工事に伴う前庭部の調査（峰山ほか　1972）では，土壙墓に伴い，7世紀の円頭大刀が発見されている（野村・瀧瀬　1990)。

フゴッペ洞窟の南西400m，大川砂丘の南側，丘陵部に接する部分に縄文時代後期初頭余市式の貝塚として有名な大谷地貝塚(13)がある。また，大谷地貝塚では貝塚のほか，道内では数少ない大型の中空土偶が出土している（清野　1969)。

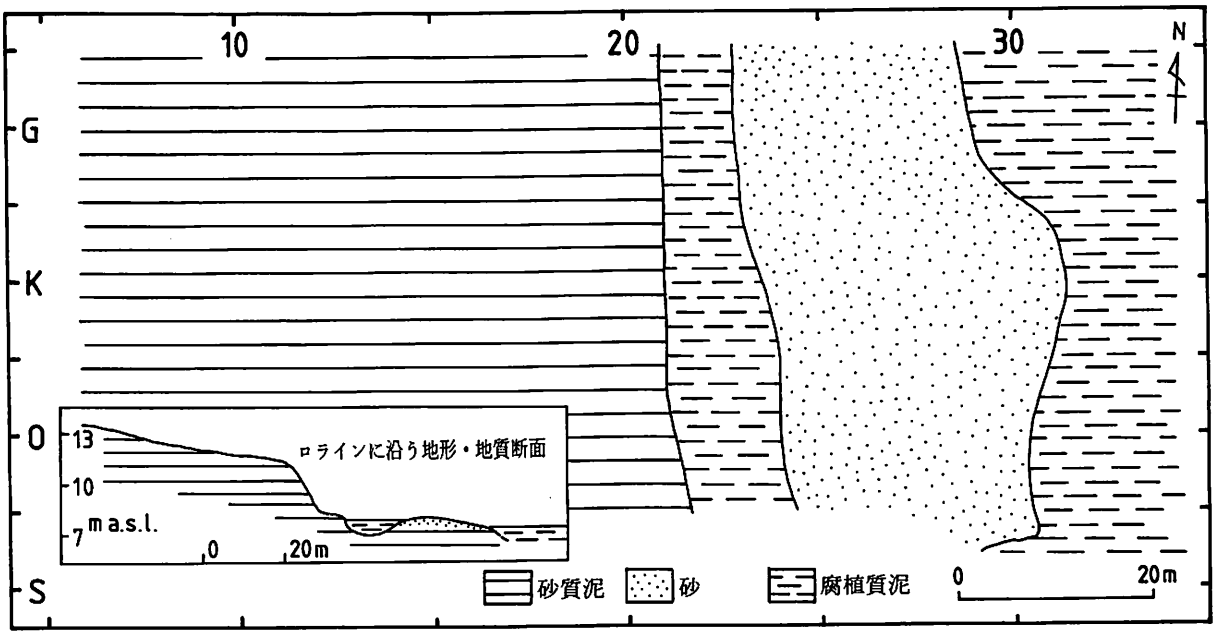
2　遺跡周辺の地形・地質

遺跡周辺は，主に丘陵・砂丘（または浜堤）・沖積低地から成る。丘陵は固結度の低い凝灰質砂岩と安山岩質火山角礫岩から成り，それぞれ小樽累層の下部凝灰質砂岩層と上部集塊岩層（猪木・垣見　1954）に対比される。奇部岬ではハイアロクラスタイトが認められる。

図II—5に遺跡周辺の地形分類を示す。最も広く分布するのは丘陵で，丘頂高度40—120mの従順な地形を呈する。丘陵は，形態と地形上の位置から，さらに丘頂平坦面，丘腹緩



図II—5　遺跡周辺の地形分類図



図II—6　遺跡の表層地質

斜面，及び丘麓緩斜面に細分することができる。丘頂平坦面は丘陵の頂部に位置し，平坦ないしやや凸型の地形である。丘腹緩斜面は，丘頂平坦面を取り巻く斜面のうち，比較的緩傾斜で丘麓緩斜面より高所に位置する。丘麓緩斜面は，丘陵周縁に発達する傾斜10°以下の平滑またはやや凹型の緩斜面である。丘腹緩斜面の一部には，周囲を丘頂で囲まれ，谷の横断形が皿状を呈するものがある。これを丘陵内の浅く広い谷とした。

丘陵地では赤褐色の風化層が現地表下に発達することが多い。佐々木ほか（1964）は，小樽附近で古赤色土を認めている。遺跡周辺の丘陵地における赤褐色の風化層は，現地表面に平行的に産出する場合や，赤褐色に汚染された凝灰質砂岩とそうでない凝灰質砂岩が互層状に産出する場合がある。また，現地表面と直交するような傾斜で赤褐色帯「平行ラミナ状に発達する場合もある。赤褐色帯と地形・地質との対応関係は未詳である。本遺跡周辺の赤褐色の風化層が古赤色土であるか否かは不明であるが，少なくとも一部はその産状から古赤色土とは認定し得ない。

砂丘（または浜堤）としたものは，現汀線に平行な高まりで，畚部川河口から西方へ分布する。現登川河口附近の沖積低地との比高は約2.5m である。

沖積低地は畚部川と登川に沿って発達している。丘麓緩斜面との境界は不明瞭なことが多い。

その他に，発達度は悪いが，現汀線沿いには未固結の砂・貝殻片から成る海浜，丘陵内には侵蝕性低地である谷底平野が認められる。

本遺跡は，図II—5 に示すように，丘陵緩斜面とその前面の沖積低地にかけて立地している。遺跡の表層地質を図II—6 に示す。丘麓緩斜面は砂質泥から成る。これは，丘陵を構成す凝灰質砂岩の風化二次堆積物様で，白色岩片と石英を比較的多く含み，海綿骨針と火山ガラスがまれに認められる。緩斜面形成に関係した斜面堆積物と考えられる。この斜面堆積物の東隣には，腐植質の泥質堆積物が旧河道を埋積している。湿地的環境下で埋積されていったものであろう。腐植質泥の隣りには砂層から成る平坦地が発達している。砂層は白色・赤褐色・橙色の岩片を多く含み，角閃石と火山ガラスが比較的多く，黒雲母がまれ

に認められる。砂層の平坦地には微高地があり，そこに住居跡が集中している（図Ⅰ—8)。

地形と遺物・遺構の分布との関係は次の通りである。縄文時代早期の遺物は，丘麓緩斜面と沖積低地から出土する。縄文時代前期末—中期初頭ピーク，及び北筒式（同中期末）時期の遺物と遺構は沖積低地に分布する。縄文時代晩期の土器を伴う土壙は，丘麓緩斜面に分布する。遺構の時期と地形上の分布との相関は，縄文時代後期頃に地表環境の変化があったことを推定させる。

3 遺跡の層序

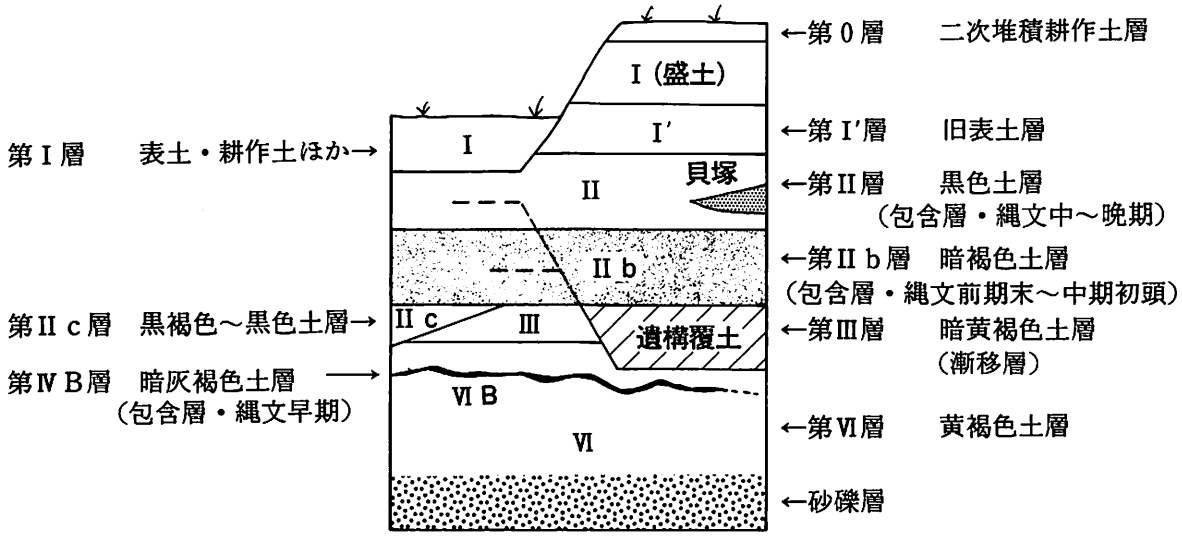
遺跡の層序および層厚は場所によって異なるが，概ね次のように整理できる。

第 0 層：耕作土・黒褐色土層（20cm)，B地区のみにみられる。同一発掘区内の表土・盛土（第Ⅰ層)，旧表土（第Ⅰ′層）と区別するために設定した。畑地の造成にあたり，最初に除去され，造成終了後にふたたび戻されたものと考えられる。

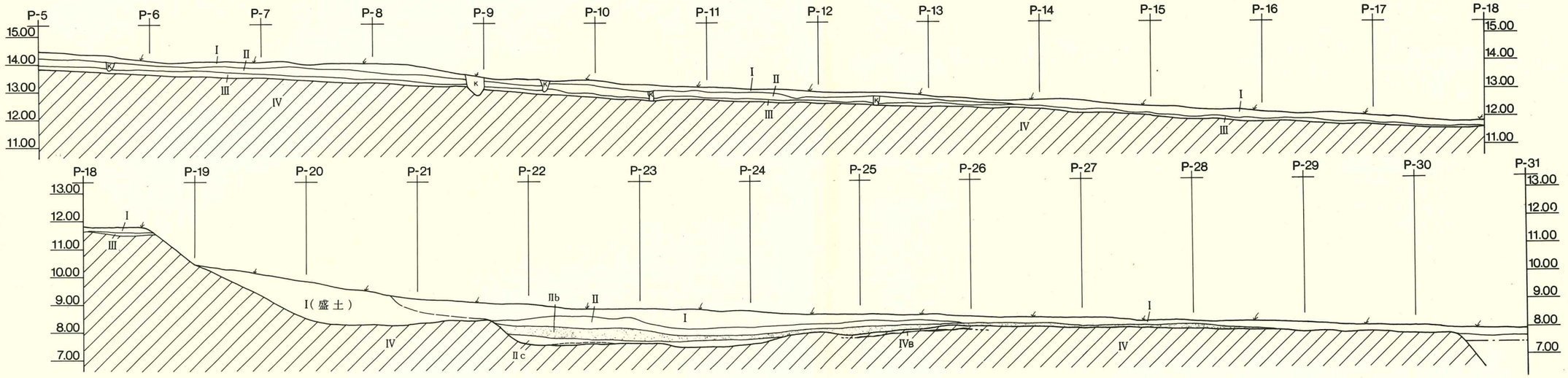
第 Ⅰ 層：表土・耕作土・黒褐色土層（20～30cm)，盛土・攪乱層，調査区のほぼ全域にみられる。A・C地区ともに耕作土が大部分であるが，B地区東側からC地区西側の畑地造成部分，C地区道路部分などでは1～2m の厚さの盛土がみられた。また，C地区東側のフゴッペ川氾濫原部分では1.5～2m の厚さで，遺物も多量に出土した。

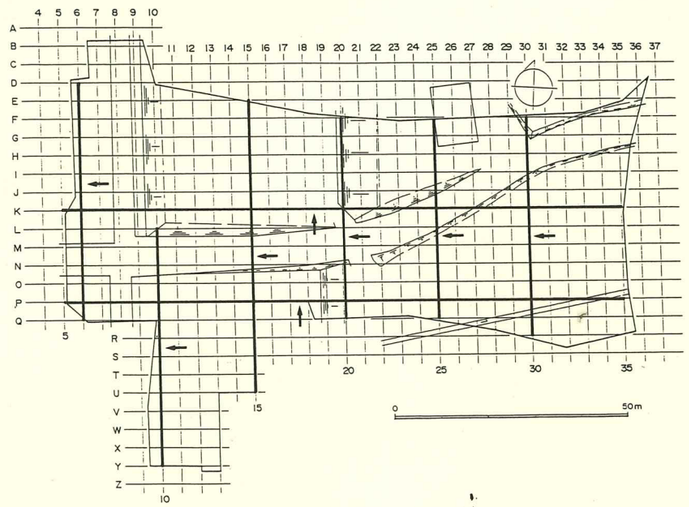
第 Ⅰ′ 層：旧表土・黒褐色土層（20～30cm）B地区東側からC地区西側の畑地造成部分，C地区道路部分などの盛土下にみられた。また，C地区東側フゴッペ川氾濫原部分の水田土壌も相当する。遺物の取り扱いは基本的には第Ⅰ層と変わりない。

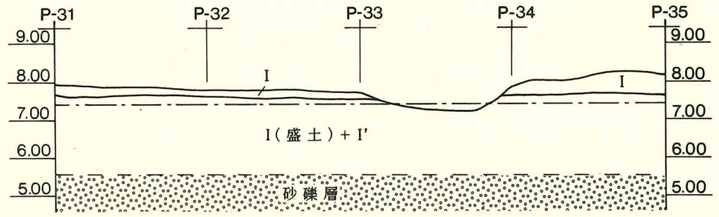
第 Ⅱ 層：黒色土層(10～50cm)（包含層)丘麓緩斜面のA地区，C地区の旧河道部などで

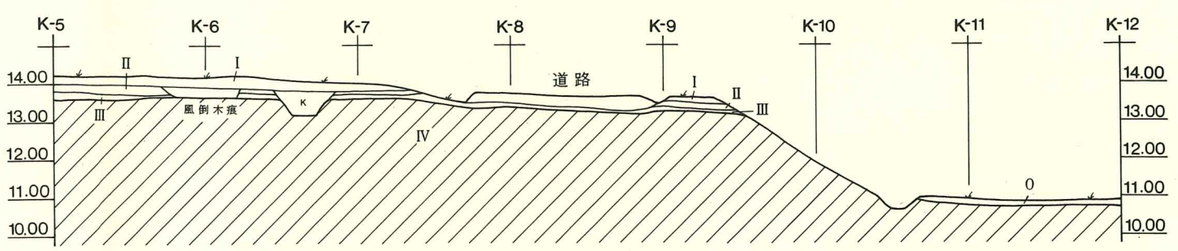


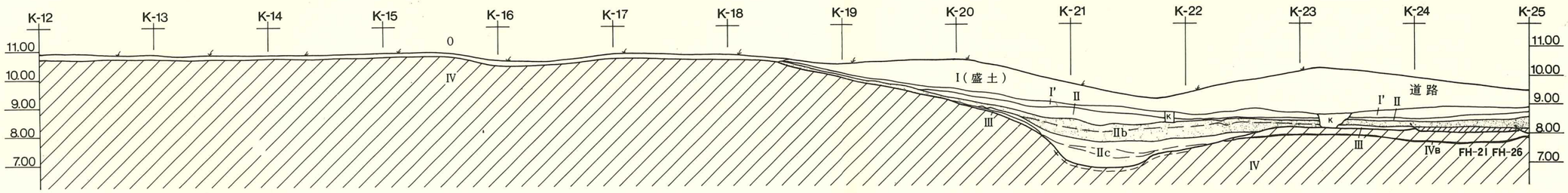
図Ⅱ—7　基本層序模式図

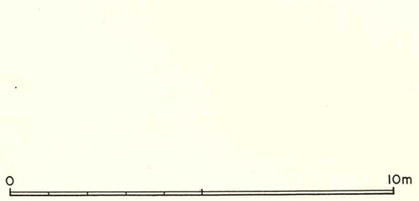


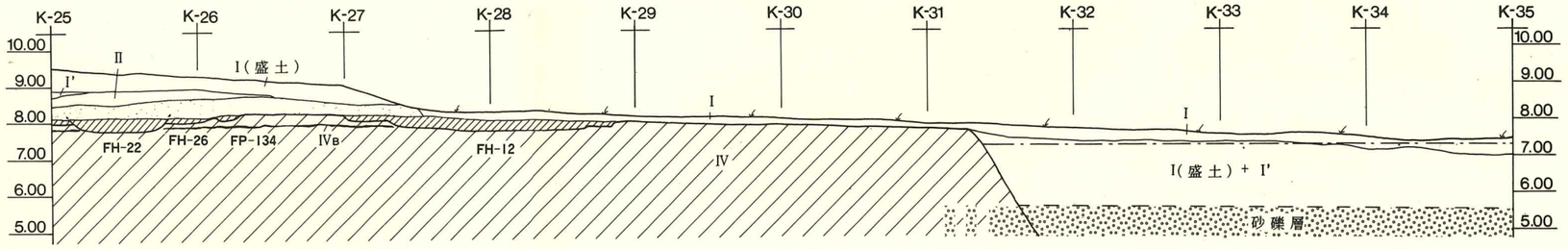




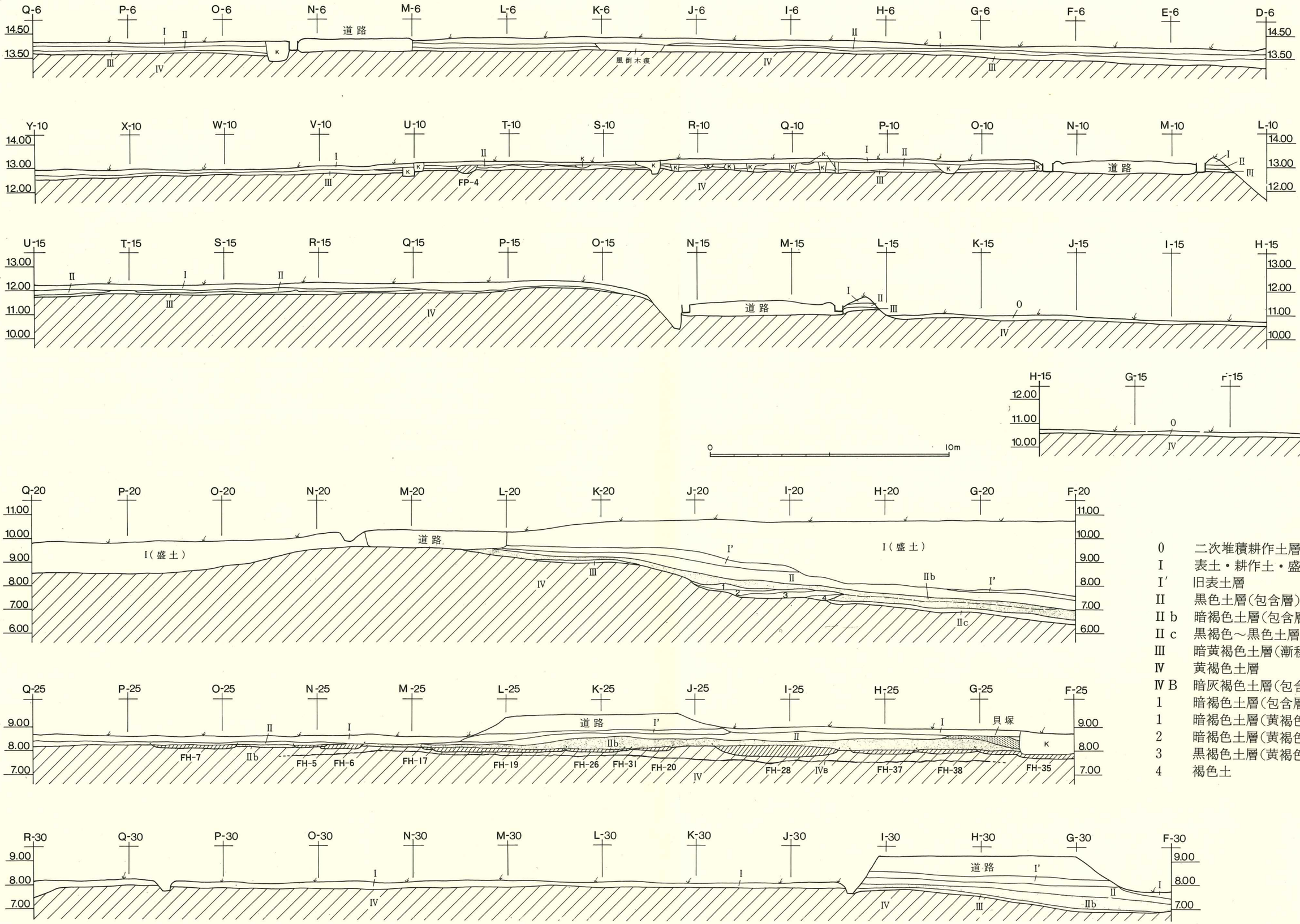








図II—8　遺跡土層断面図(1)



0 二次堆積耕作土層
I 表土・耕作土・盛土層
I′ 旧表土層
II 黒色土層(包含層)
II b 暗褐色土層(包含層)
II c 黒褐色～黒色土層
III 暗黄褐色土層(漸移層)
IV 黄褐色土層
IV B 暗灰褐色土層(包含層)
1 暗褐色土層(包含層)
1 暗褐色土層(黄褐色土少量)
2 暗褐色土層(黄褐色土多量)
3 黒褐色土層(黄褐色土多量)
4 褐色土

図II—9 遺跡土層断面図(2)

みられるものはローム質，C地区の沖積低地では砂質である。保存状態の良好なC地区旧河道部，道路下などでは，上部から縄文時代晩期の遺物，下部から中・後期の遺物が出土し，貝塚も基本的には本層中にみられる。したがって，晩期の土壌や中期末の住居跡・土壙の掘り込み面は本層の上部および下部にあると思われるが，現場で確認することは困難であった。

第 IIb 層：暗褐色土層(10～50cm)（包含層)丘麓緩斜面のA地区では全くみられない。C地区旧河道部，住居跡の集中部分などで厚く堆積し，砂質である。当遺跡の主体を占める縄文時代前期末～中期初頭の遺物は本層から出土する。また，同時期の住居跡の覆土も大部分は本層が流れ込んだものと考えられる。したがって，住居跡や土壙の掘り込み面は本層の上部にあると思われるが，現場段階でその確認は困難であった。C地区旧河道部（土層図ではKライン21・22，20ライン H・G 付近）では2層に分かれ，下部はやや明るい色調で砂礫を含んでいる。

第 IIc 層：黒褐色～黒色土層（10～100cm）C地区旧河道部（土層図ではKライン21・22，20ライン H～F 付近）にだけみられる。最も厚く堆積している旧河道部では黄褐色土（第IV層）や砂礫の混り具合で大きく3層に分けられるが，細かくみるとそれぞれの層の中では，黒色土や黄褐色土が互層をなしている。南から北への旧河道の流れに西方丘麓緩斜面からの土層の流れ込みがあったため形成された層と考えられる。遺物は第IIb 層同様縄文時代前期末～中期初頭の時期のものであるが，量的には少ない。Ⅰ－21区の最下層の土壌から採取した炭化物で年代測定を行ったところ3,940±80y. B. P. という年代が得られた。

第 III 層：暗黄褐色土層・漸移層（5～20cm）丘麓緩斜面ではローム質，沖積低地では砂質である。沖積低地では稀にII群A類の土器が出土している。

第 IV 層：黄褐色土層（地山）丘麓緩斜面ではローム質，沖積低地では砂質である。沖積低地部分では場所によって砂礫を含んだり，粘質であったりする。基本的に遺物は出土しないが，第IVB 層には縄文時代早期の土器がみられた。

第IVB層：暗灰褐色土(5 cm)（包含層)C地区の沖積低地のみにみられる。旧河道部およびフゴッペ川氾濫原付近では明確でない。縄文時代早期・Ⅰ群B類土器が出土している。

第IV層も細かくみると粘土と砂礫の互層で，いくつかに細分される。第IV層以下の砂礫層は部分的にしか確認できていないので，詳しいことは不明であるが，フゴッペ川氾濫原部分で地表下4 m まで続いていることは確認できた。

土層断面の記録は発掘区の方向に沿って行い，東西方向は2ライン（K・P ライン），南北方向は6ライン（6・10・15・20・25・30ライン）を示した（図II－8・9)。

以下，土層の状況を地形とともに簡単に説明する。

Pライン　5～18中間までは丘麓緩斜面で，東側に向かってゆるやかに傾斜し，5～14付近

までは第II層が残存しているが，それより東側は第III層まで耕作が行われている。18中間～22までは地山の第IV層が皿状に凹んでいるが，本来は緩斜面が21付近まで続いていたと思われる。22～24部分は旧河道部で第IIc層が堆積し，その上部は第II・IIb層が厚く堆積している。第II層は26付近でみられなくなるが，第IIb層は29付近までわずかではあるが残存している。30中間より東側はフゴッペ川の氾濫原で，標高7.3m前後で水が湧いてくる状況である。

Kライン　5～9中間までは丘麓緩斜面，8・9付近は砂利敷の道路で，第II層は削平されていた。9中間～18中間は畑地の造成で段状に削られた部分で，本来は緩斜面であったと思われる。18中間～27中間は畑地造成と道路の盛土が厚く堆積していたが，第I′層の旧表土をはじめ遺物を最も多く包含している第II・IIb層の遺存状況は良好であった。21・22部分は旧河道の最深部で第IIc層が最も厚く堆積し，常に水が湧いている状況であった。第IVB層は22～27付近まで確認できたが，住居跡によって部分的に削られている。28～31部分はフゴッペ川の氾濫原部分を埋めるために第IV層まで削平されていて，第II～III層は全く残っていなかった。

6ライン　丘麓緩斜面部分，標高14m前後，ほぼ平坦で，道路によって削平されている部分もあるが，第II層がほぼ全域に残存している。

10ライン　丘麓緩斜面部分，標高13m前後，ほぼ平坦で，第II層はU～N付近に残存している。N～M部分の道路は第IV層まで削平されていた。

15ライン　丘麓緩斜面・削平部分。第II層は6・10ラインに比べると薄く，U～Q部分とLの手前付近にしかみられない。N～M部分，L～E部分は第IV層まで削平されていたが，L～E部分は戻された耕作土（第0層）がみられる。

20ライン　丘麓緩斜面と沖積低地の境目で，Q～L部分は第IV層まで削平され，L～F部分は畑地造成による厚い盛土がみられる。L～F部分は盛土のため旧表土（第I′層）以下の残存状況が良好で，第II・IIb層が厚く堆積している。また，I中間～F部分には旧河道部を埋積している第IIc層がみられる。J～I部分の第IIb層下部にみられる1～4層は西側斜面からの流れ込みと思われ，基本土層と区別したが，含まれている遺物は第IIb・IIc層と変わらない。

25ライン　沖積低地の住居跡が最も密集している部分である。第IV層上面の標高は8m前後，Q～M部は耕作の影響で第II層も薄いが，M～F部分は第II・IIb層が厚く堆積し，G付近では貝塚もみられる。第IVB層はN～G部分で確認できたが，それ以外では明確でない。

30ライン　沖積低地，R～J中間部分は第IV層まで削平されているが，J中間～F部分は道路の盛土のため旧表土（第I′層）以下の保存状態が良好である。I—F部分は北側にゆるやかに傾斜し，第II・IIb層もG付近で厚く堆積している。

Ⅲ 遺構と遺物

遺構と遺物は基本的にA～Cの地区別に説明する。A地区は土壙，包含層，C地区は住居跡，土壙，貝塚，焼土，包含層の順である。B地区は概要のみの説明で遺物は掲載していない。住居跡は番号順，土壙は群別の番号順に説明する。住居跡は平面形，規模，面積，重複関係，特徴，遺物時期の順，土壙は平面形，規模，重複関係，特徴，遺物時期の順で説明する。また，出土遺物は住居跡は住居跡別，土壙は群別にまとめて挿図を作成した。遺物の配列は，実測土器，土器拓本，石器，土製品，石製品の順である。また，土製品と石製品については一括して説明する。なお，各遺構の大きさ，出土遺物，掲載遺物の大きさ，重量，石質，出土位置，層位などは巻末の一覧表を参照願いたい。

1 A地区の遺構と遺物

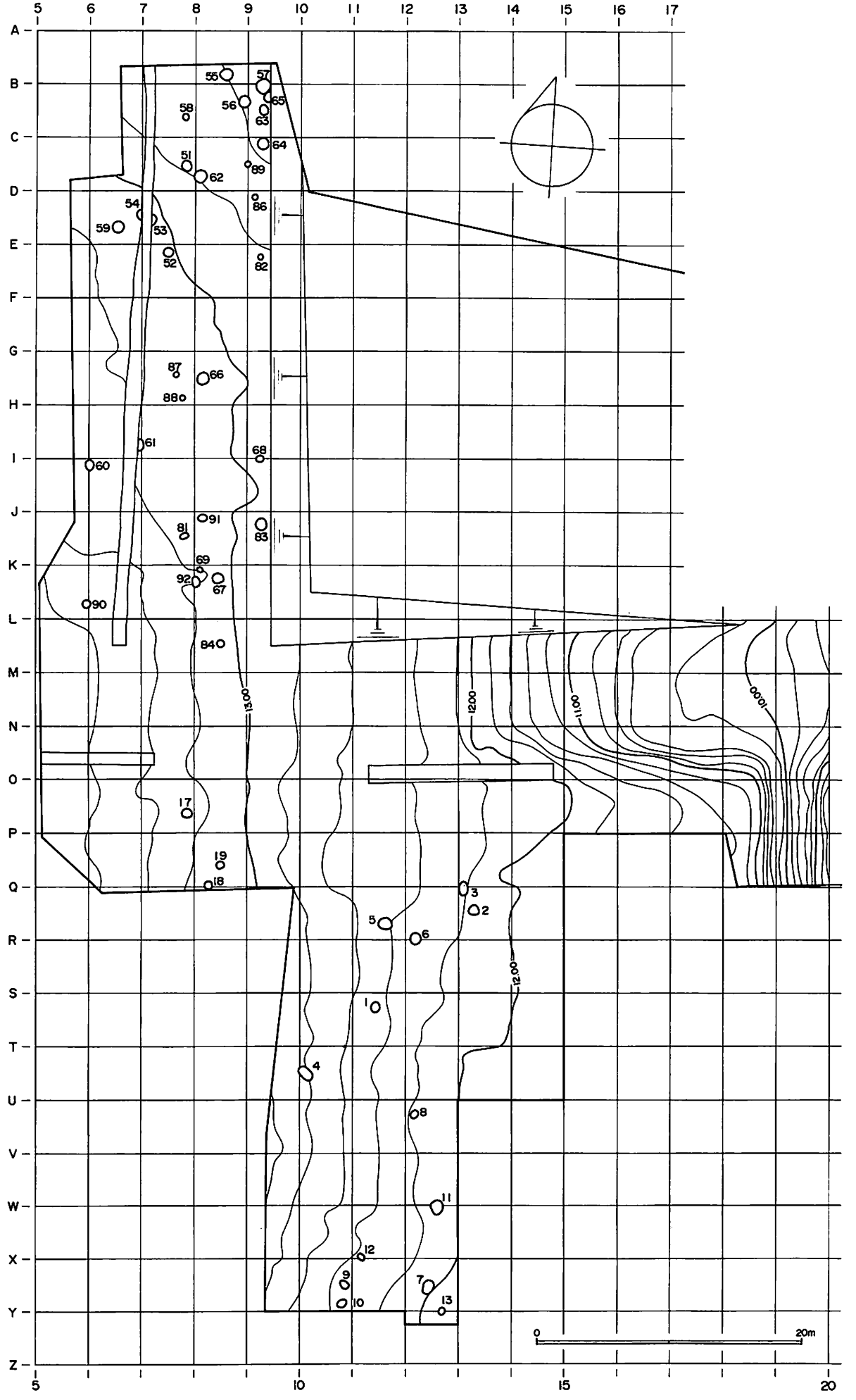
A地区で発見された遺構は土壙46基，焼土2カ所である（図Ⅲ—1）。土壙，焼土ともに縄文時代晩期の時期と考えられる。

(1) 土　　壙

46基の土壙（FP—1～13，17～19，51～69，81～84，86～92）はすべてⅡ群土壙である。中央の道路部分を除きほぼ全域に分布しているが，Nラインを境に大きく南北に分かれ，さらにそれぞれが3カ所程度にまとまっている。南群は16基，標高12.00～13.20m前後に分布している。南側のまとまりは6基（FP—7・9～13），南東の調査区域外にもいくつか存在すると思われる。中央のまとまりは7基（FP—1～6・8），間隔をあけて南北に広がって分布している。北側のまとまりは3基（FP—17～19），道路下で確認された小型土壙，南側の調査区域外にもいくつかありそうである。北群は30基，標高12.60～13.60m前後にみられる。南側のまとまりは8基（FP—67，69，81，83，84，90～92），東西にひろがっている。中央のまとまりは6基（FP—60，61，66，68，87，88），南側同様東西にひろがっている。北側のまとまりは16基（FP—51～59，62～65，82，86，89），南北にひろがり，北側が密集している。

FP—1（図Ⅲ—2・24，図版6—1・2）
平面形 円形　　**規模** 0.62×0.61／0.45×0.35／0.15m　　**重複** なし
特徴 上部が削平され，壙底に近い部分のみが残存している。壙底は皿状で，凹凸がある。
遺物 土器3点（Vb），すり石2点，砥石1点，石皿・台石9点，フレイク27点，礫△2点，礫11点出土。礫石器，礫類は上部のものは若干動いているが，下部のものは原位置で，重さなるような状況で確認された。1はほぼ全面を，2は長軸の一端を使用した安山岩製のすり石。3は火熱によって表面が剝落している砥石で，両面と片側面に砥面がみられる。4は小型の石皿・台石で，わずかに潰打痕がみられる。

FP—2（図Ⅲ—2・24，図版6—3）
平面形 円形　　**規模** 0.68×0.70／0.60×0.58／0.11m　　**重複** なし



図Ⅲ—1　A地区遺構分布図

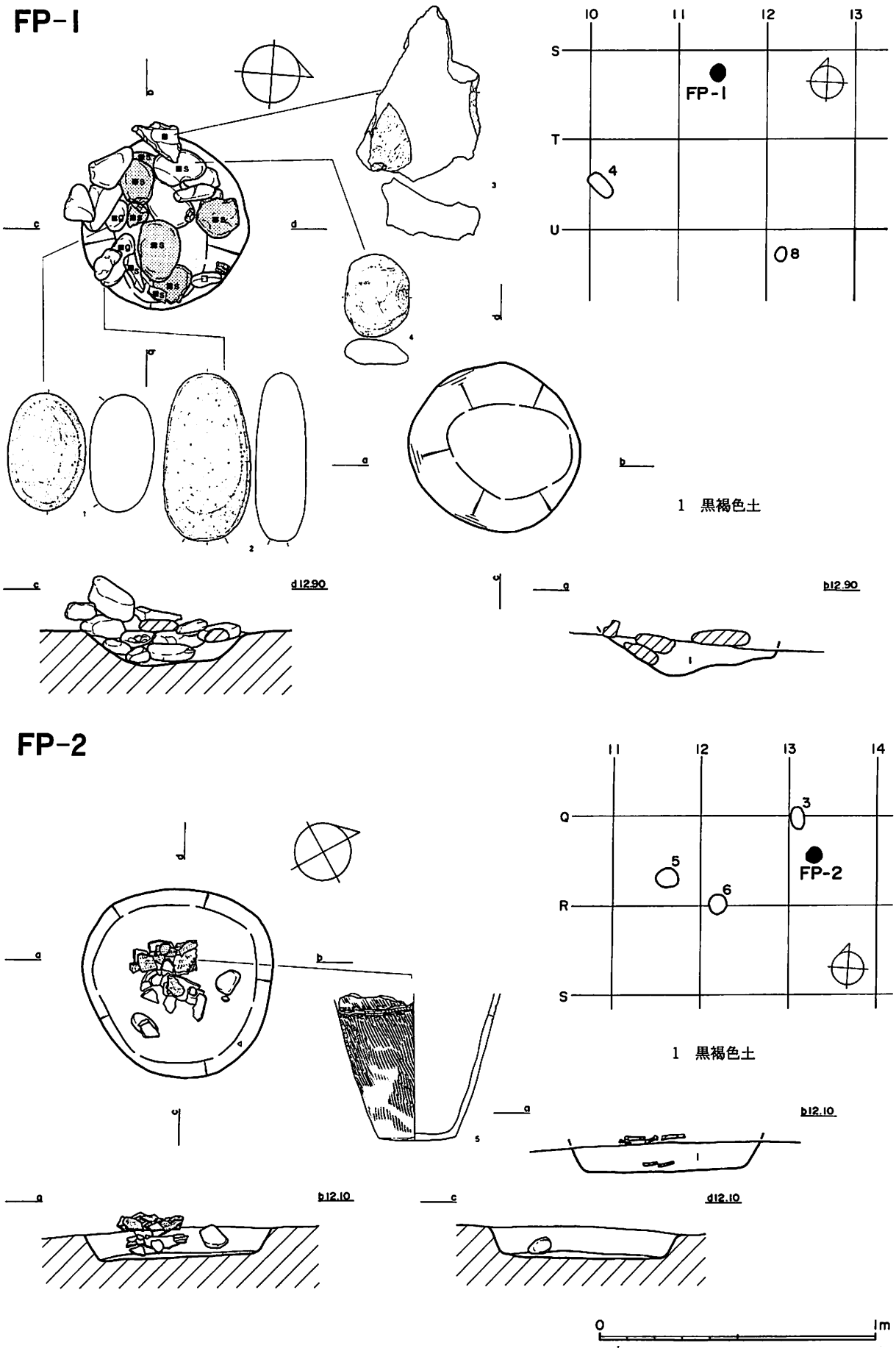
特徴　壙底は平らで，壁面は比較的急角度で立ち上がる。
遺物　土器58点（Vb），コア１点，フレイク16点，礫２点が出土。土器はほぼ中央の覆土中から，つぶれたような状況で確認された。５はロ縁部が欠損している深針形土器，体部に斜行縄文と横位の刺突文と２本の沈線が施されている。底部は丸底気味である。

FP—3（図Ⅲ—3・24，図版6—5・6）
平面形　楕円形　　**規模**　0.98×0.65／0.85×0.48／0.21m　　**重複**　なし
特徴　壙底はわずかに凹凸があり，壁面の角度は急である。
遺物　土器８点（ⅢB１・2，Vb・6），くぼみ石１点，石皿・台石５点，フレイク67点，礫△２点，礫７点が出土。礫石器，礫類は土壙のほぼ中央，長軸に沿って浮いた状況で確認された。６はⅢ群 B1 類土器，ロ唇断面は角形で，半截竹管状工具による刺突がみられる。７は三面に凹み（使用痕）がみられるくぼみ石である。

FP—4（図Ⅲ—3・24，図版6-4）
平面形　楕円形　　**規模**　1.12×0.72／0.56×0.28／0.27m　　**重複**　なし
特徴　壙底はやや傾斜し，壁面の傾斜も緩やかで，ともに凹凸がある。
遺物　土器11点（Va・1，Vb・5，V・5），フレイク18点，礫△１点，礫５点が出土。遺物は土壙のほぼ中央，覆土上部で確認された。８はV群A類の壺形土器，ロ縁部内側に蓋受状の張り出しがあり，器厚は薄く，器表の調整は丁寧である。

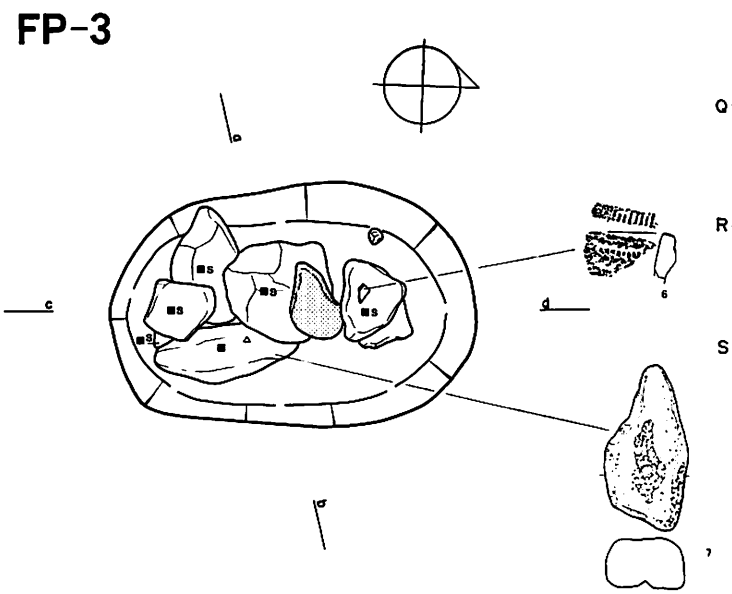
FP—5（図Ⅲ—4・25，図版7—1）
平面形　楕円形　　**規模**　1.04×0.86／0.70×0.55／0.35m　　**重複**　なし
特徴　壙底は皿状で，壁面の傾斜も比較的緩やかである。
遺物　土器26点（ⅢB1・5，Vb・21），石鏃１点，スクレイパー１点，すり石１点，たたき石１点，砥石１点，石皿・台石３点，コア１点，フレイク101点，Uフレイク１点，礫△２点，焼礫１点，礫７点が出土。遺物は土壙の中央および東側の底と覆土上部で確認された。９はV群ａ類，10・13～15はV群ｂ類，11・12はⅢ群 B1 類土器である。９は浅鉢，ロ頸部に幅広の無文帯があり，頸部下端にB状突起貼付後，２条の沈線が施されている。10も浅鉢，体部に斜行縄文施文後，上半部に沈線が施され，底部は揚げ底気味である。11は半截竹管状工具による刺突文が施された貼付帯がみられる。
16は茎部を作出しただけの石鏃，17は直線状の刃部をもつスクレイパー，18はほぼ全面を使用したすり石，19は長軸の一端に使用痕のあるたたき石，20は片面にのみ砥面のみられる砥石，21は小型の石皿・台石である。

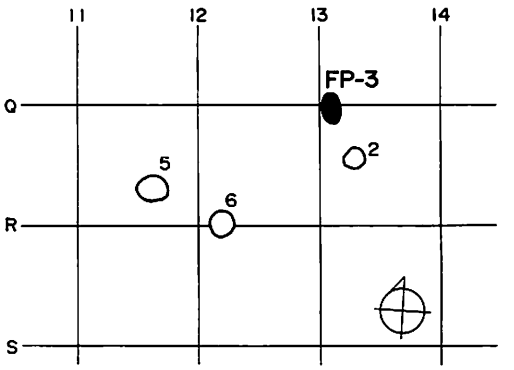
FP—6（図Ⅲ—5・25・26，図版7—3・4）
平面形　楕円形　　**規模**　0.90×0.78／0.43×0.38／0.40m　　**重複**　なし
特徴　壙底は確認面に比べ小さく，壁面の傾斜は比較的緩やかで，段状になっている。
遺物　土器41点（ⅡB・1，ⅢA・1，ⅢB1・2，Vb・36，V・1），たたき石１点，砥石３点，石皿・台石５点，コア２点，フレイク81点，礫△３点，焼礫２点，原石11点，礫23点，軽石１点が出土。遺物は土壙のほぼ全域にみられるが，石皿・台石類はほぼ中央に重なるよ


FP-1
10
11
12
13
S
T
U
FP-1
4
8
1 黒褐色土
d12.90
b12.90
FP-2
11
12
13
14
Q
R
S
3
5
6
FP-2
1 黒褐色土
b12.10
b12.10
d12.10
0
1m

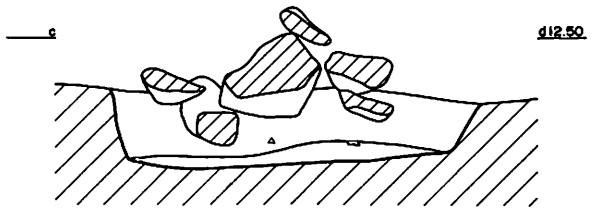
図Ⅲ—2 FP—1・2

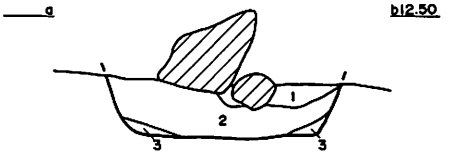
FP-3



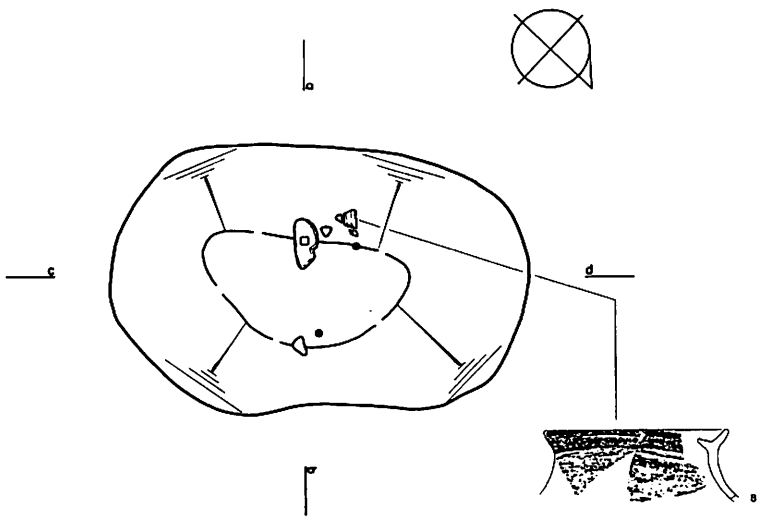


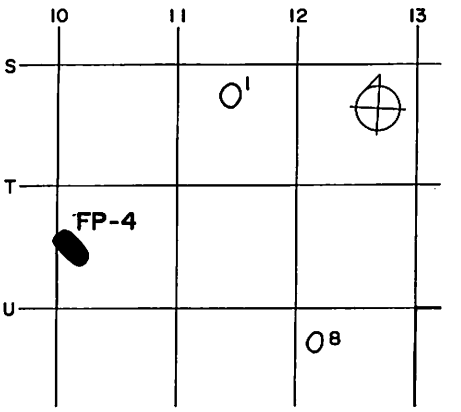
1　暗褐色土
2　黒褐色土（黄褐色土粒を含む）
3　黒褐色土（黄褐色土ブロックを含む）



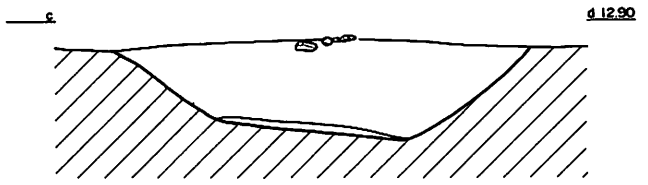


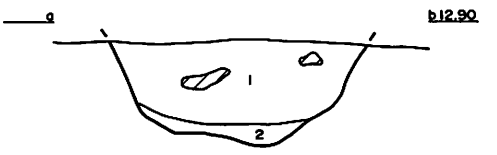
FP-4

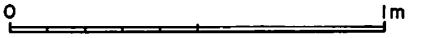




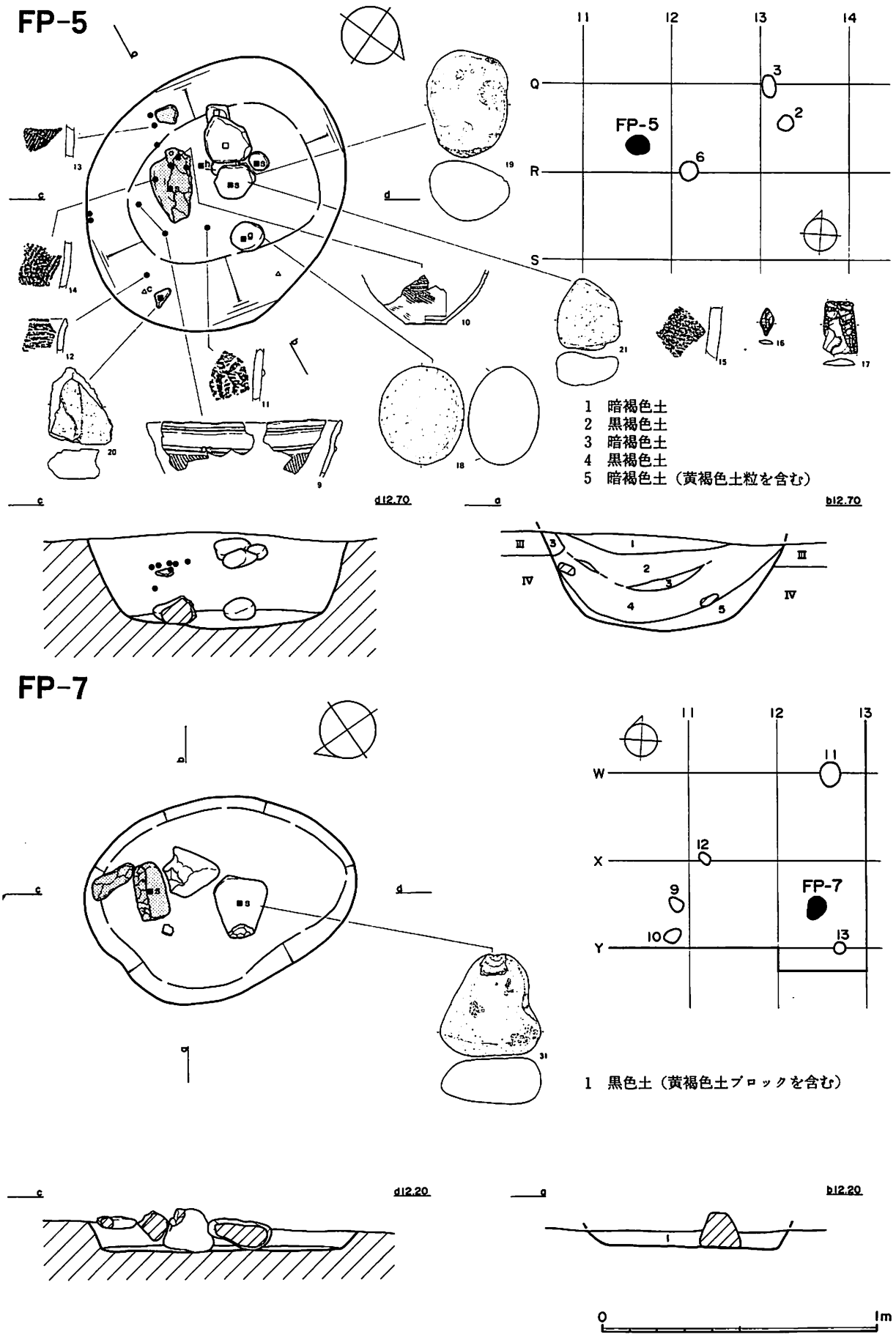
1　黒褐色土
2　黒褐色土（黄褐色土ブロックを含む





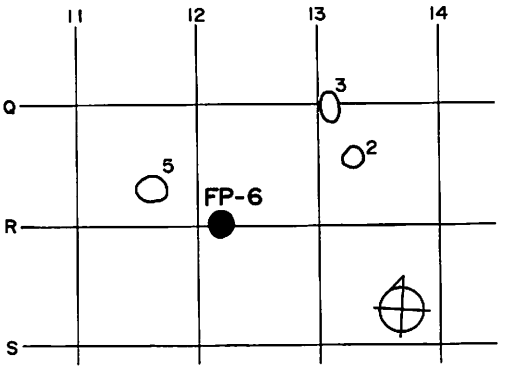


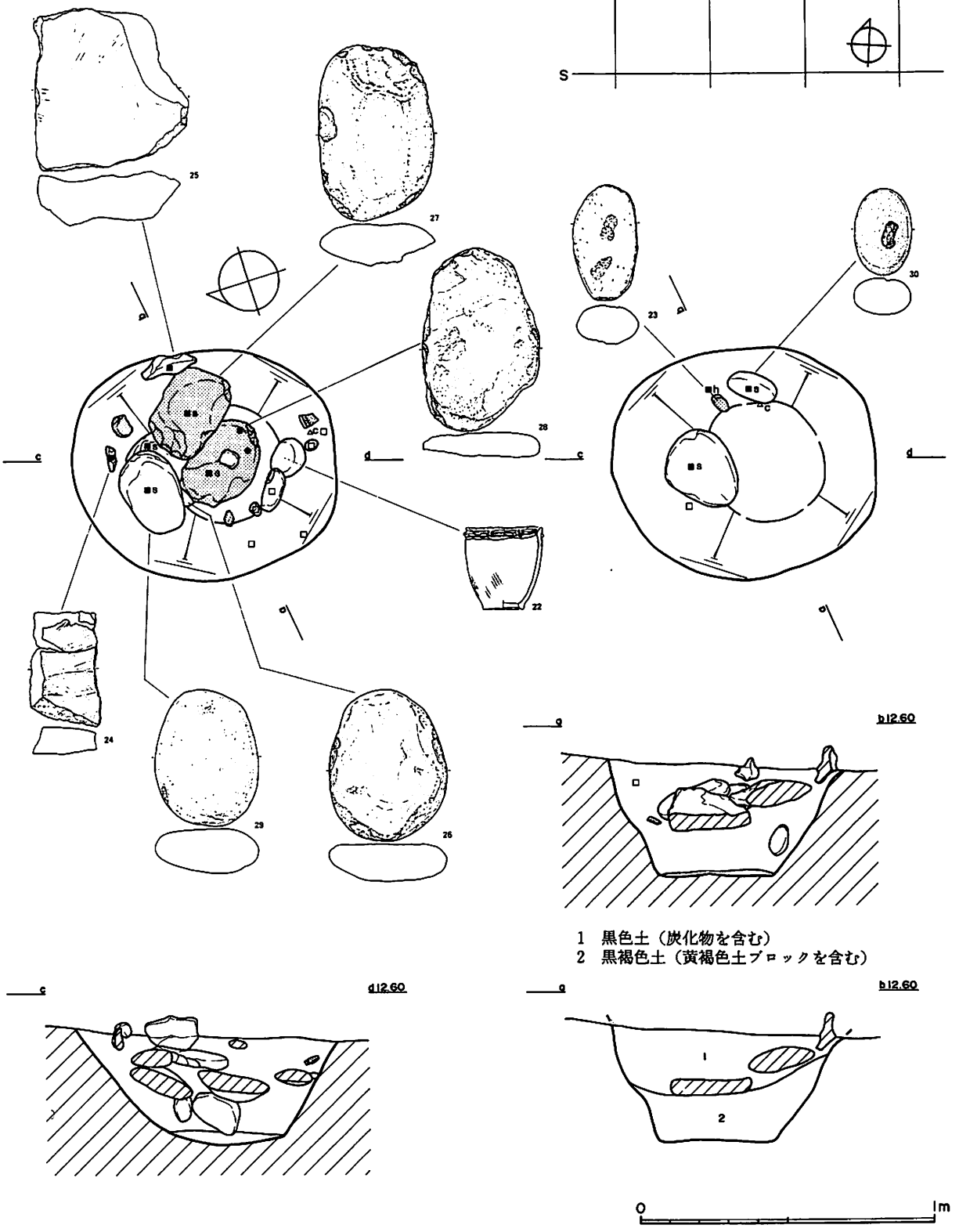
図Ⅲ—3　FP—3・4


FP-5
11
12
13
14
Q
R
S
FP-5
1 暗褐色土
2 黒褐色土
3 暗褐色土
4 黒褐色土
5 暗褐色土（黄褐色土粒を含む）
d12.70
b12.70
FP-7
11
12
13
W
X
Y
FP-7
1 黒色土（黄褐色土ブロックを含む）
d12.20
b12.20
0
1m

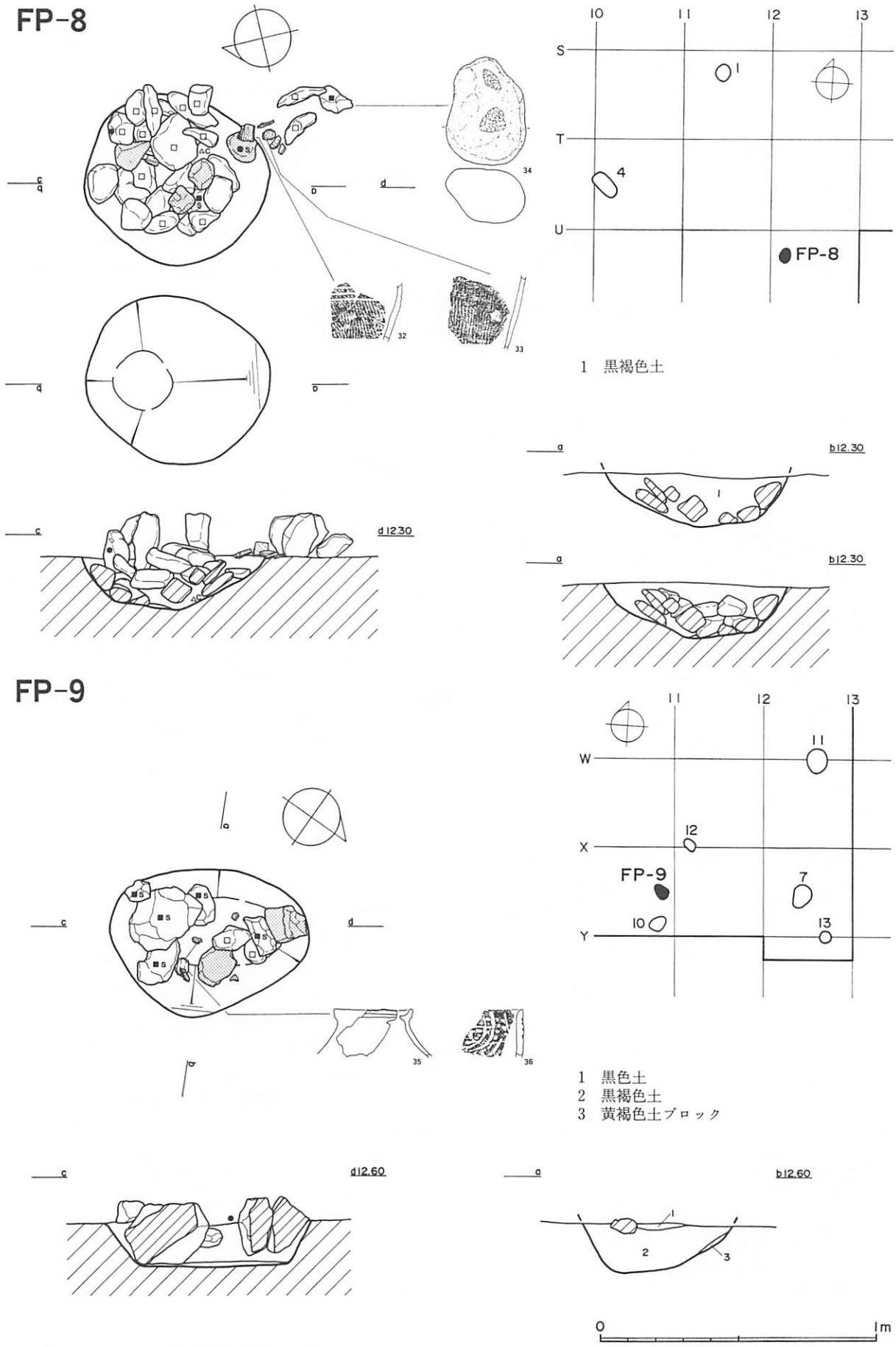
図Ⅲ—4　FP—5・7

FP-6


11
12
13
14
Q
R
S
3
2
5
FP-6
4


25
27
28
23
30
22
24
29
26
c
d
a
b
b12.60
d12.60
1　黒色土（炭化物を含む）
2　黒褐色土（黄褐色土ブロックを含む）
0
1m

図Ⅲ—5　FP—6


FP-8
10
11
12
13
S
T
U
1
4
FP-8
1 黒褐色土
c
a
b
d
32
33
34
d12.30
a
b12.30
FP-9
11
12
13
W
X
Y
11
12
FP-9
7
10
13
1 黒色土
2 黒褐色土
3 黄褐色土ブロック
d12.60
b12.60
0
1m

図Ⅲ—6 FP—8・9

うな状況で確認された。すべて覆土中である。22はⅤ群ａ類の小型鉢形土器，口縁部に刻みのある粘土瘤を貼付後，３条の沈線が施されている。体部は斜行縄文で底部は揚げ底である。23は長軸の両端と両腹面に使用痕のあるたたき石，24・25は両面に砥面のみられる砂岩製の砥石，26～29は安山岩製の石皿・台石である。28の片面にはベンガラとみられる赤色顔料が付着している。

FP—7（図Ⅲ—4・26，図版7—2）

平面形　楕円形　　**規模**　0.99×0.74／0.90×0.63／0.12m　　**重複**　なし

特徴　壙底は比較的平らで，壁面の傾斜は急角度である。

遺物　土器１点（Ⅴ），石皿・台石２点，焼礫１点，礫１点が出土。遺物は土壙中央北東寄りの底および覆土で確認した。31は一部に剝離のみられる安山岩製の石皿・台石である。

FP—8（図Ⅲ—6・26，図版7—5・6）

平面形　楕円形　　**規模**　0.07×0.60／0.22×0.21／0.19m　　**重複**　なし

特徴　断面は皿状で，壙底および壁面ともに凹凸がある。心土破砕による攪乱を受け，遺物も南側に引っぱられている。

遺物　土器９点（ⅢＡ・1，Ⅴb・6，Ⅴ・2），たたき石１点，くぼみ石１点，石皿・台石２点，コア１点，フレイク１点，礫△12点，焼礫３点，礫11点が出土。遺物は土壙全域の底および覆土に重さなるような状況で確認，一部心土破砕のため移動しているものもある。本来的には土壙内にすべて詰まっていたものと思われる。32・33はⅤ群ｂ類の浅鉢ないし壺形土器，33は体部に不規則な斜行縄文施文後，３条の沈線が加えられ，33は不規則な縦位の縄文がみられる。34は両面に２ヵ所ずつ浅い凹みのある安山岩製のくぼみ石である。

FP—9（図Ⅲ—6・26，図版8—1）

平面形　楕円形　　**規模**　0.72×0.54／0.40×0.25／0.19m　　**重複**　なし

特徴　横断面は皿状であるが，壙底は比較的平らである。

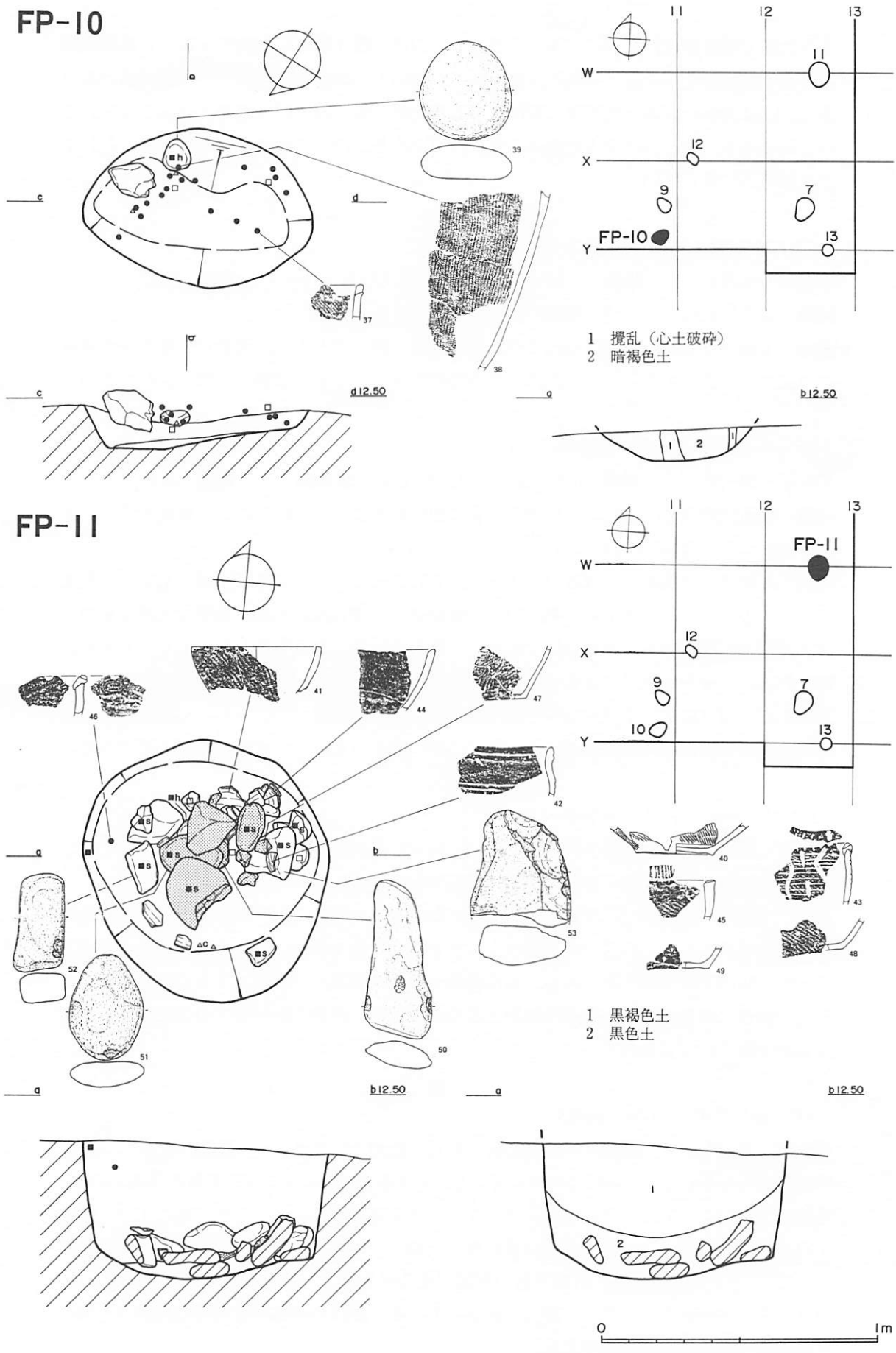
遺物　土器23点（ⅢＢ・1，Ⅴb・22），石皿・台石５点，礫△２点，焼礫２点が出土。遺物は土壙全域にみられ，石皿・台石類は立ったような状況で確認されたものもある。35はⅤ群ａ類，36はⅤ群ｂ類土器である。35は壺形土器の口頸部，口縁部に１条の沈線がみられるが，頸部は無文である。36は深鉢形土器の口縁部で，単節の斜行縄文の上に弧状の沈線と刺突が施されている。

FP—10（図Ⅲ—7・26，図版8—2）

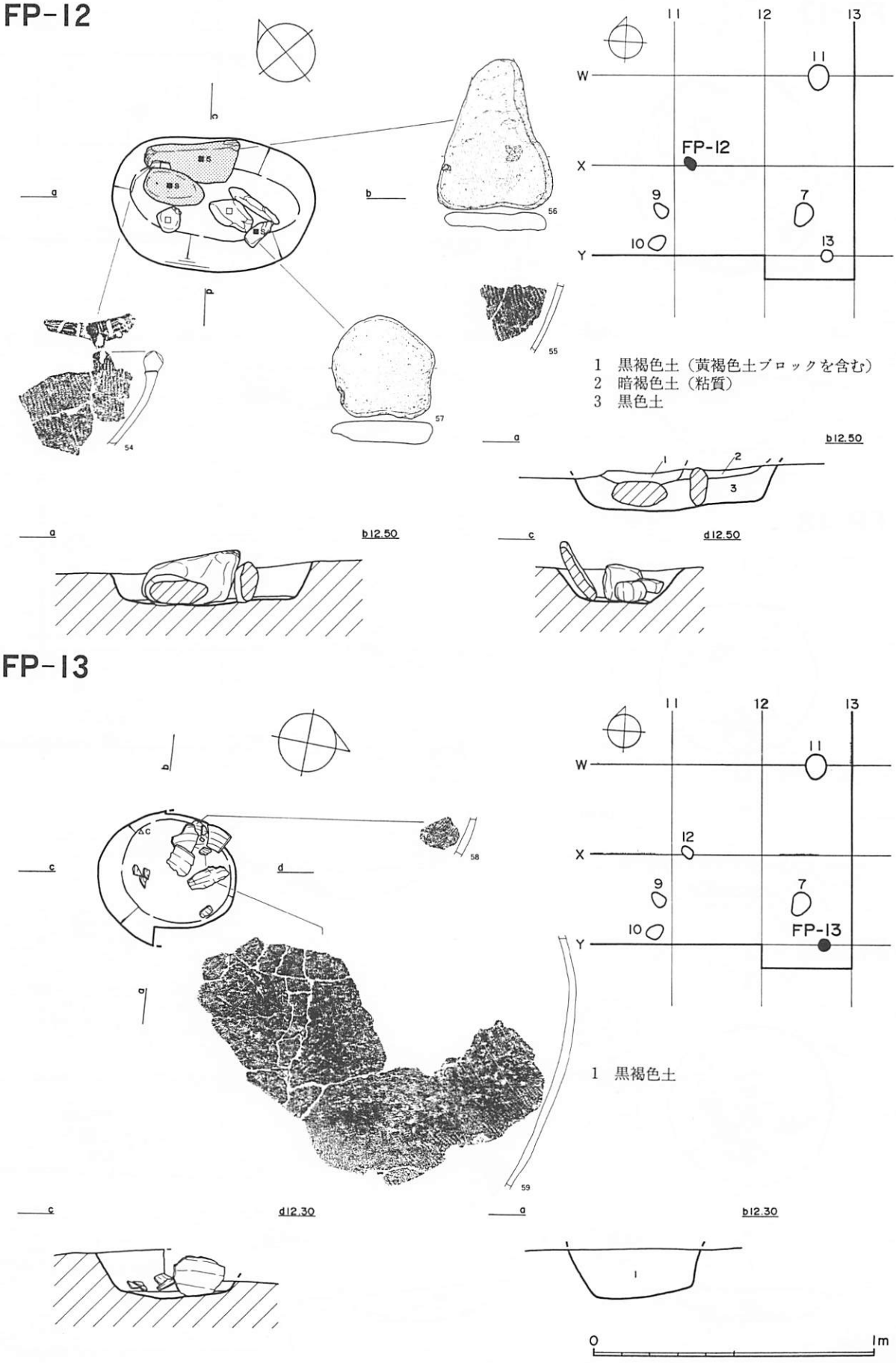
平面形　楕円形　　**規模**　0.83×0.57／0.72×0.30／0.16m　　**重複**　なし

特徴　横断面形は皿状，壙底は傾斜している。中央部に木根による攪乱が数か所みられる。

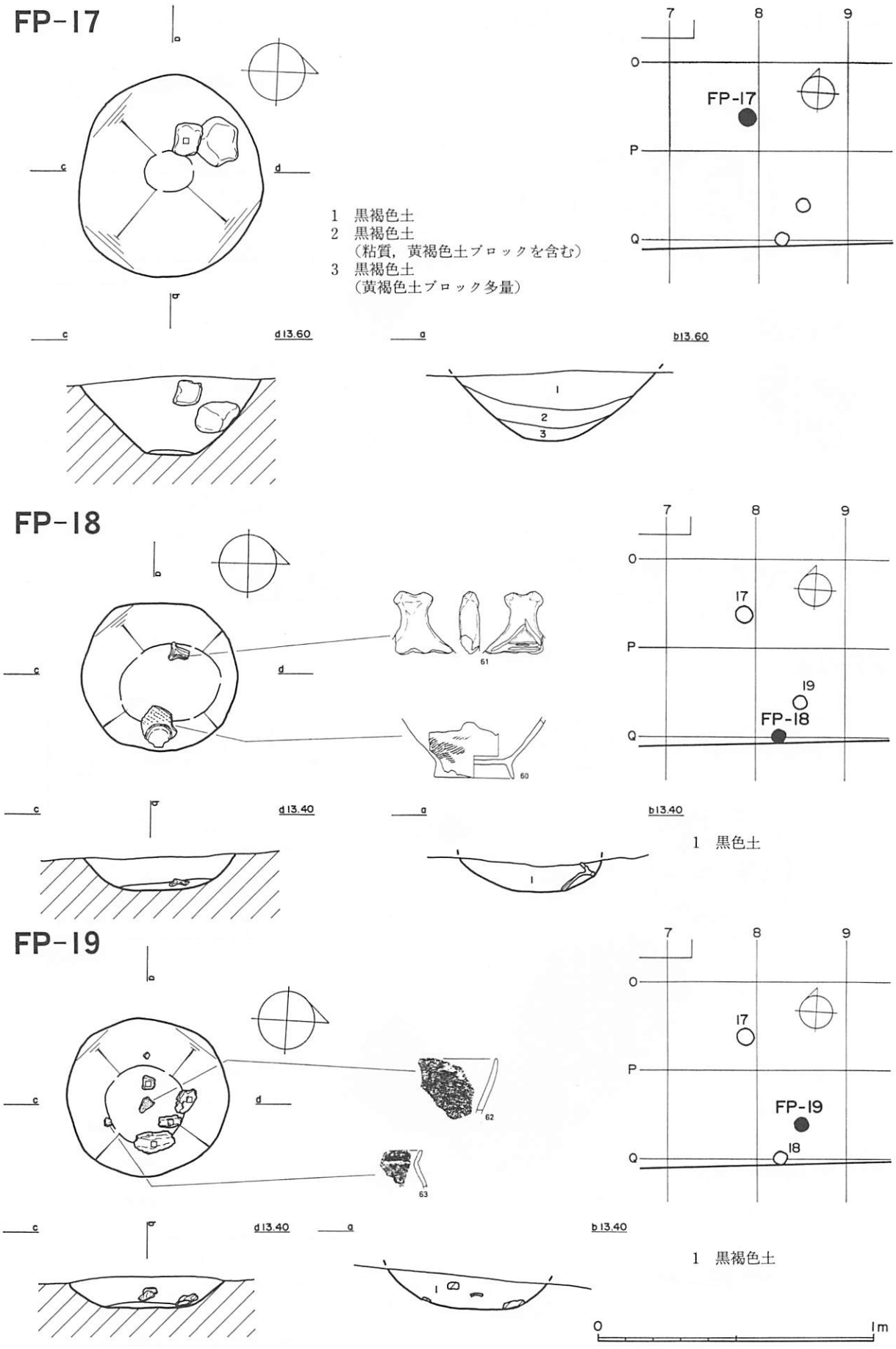
遺物　土器30点（Ⅴb），たたき石１点，フレイク７点，Ｒフレイク１点，礫△１点，焼礫１点，礫４点が出土。土器は土壙全域の覆土上部，たたき石，礫類は東側覆土で確認された。37・38はⅤ群ｂ類土器，37は口唇の断面が切り出し状で，口唇端部に貼付突起がある。38は大型の体部破片で，縦位の縄文が施されている。39はやや扁平な円礫の周縁の一部に使用痕のみられるたたき石である。


FP-10
FP-11
11
12
13
W
X
Y
FP-10
FP-11
1 攪乱（心土破砕）
2 暗褐色土
1 黒褐色土
2 黒色土
d 12.50
b 12.50
0
1m

図Ⅲ—7　FP—10・11



図III—8　FP—12・13


FP-17
1 黒褐色土
2 黒褐色土
（粘質，黄褐色土ブロックを含む）
3 黒褐色土
（黄褐色土ブロック多量）
FP-18
1 黒色土
FP-19
1 黒褐色土
0 1m

図Ⅲ—9　FP—17～19

FP—11（図III—7・27，図版8—3・4）

平面形　楕円形　　**規模**　0.94×0.87／0.69×0.80／0.50m　　**重複**　なし

特徴　掘り方がしっかりしていて，壙底はわずかに皿状に凹んでいるが，壁面は垂直に近く立ち上がる。

遺物　土器82点（Va・12，Vb・69，V・1），たたき石2点，砥石1点，石皿・台石8点，コア1点，フレイク12点，Uフレイク1点，礫△2点，焼礫5点，原石2点，礫4点が出土。土器，フレイク類は覆土中から散発的にみられたが，礫石器，礫類は覆土2層から壙底にかけて重さなるような状況で確認された。42はV群a類，40・41・43～49はV群b類土器である。40は浅鉢の底部で，揚げ底である。42の口唇断面は角形で，体部には斜行縄文が施されている。43は貼付瘤のある口唇部に刻目，口縁部に横位の細い沈線と縦位の太い沈線が組み合わされた文様がみられる。44は無文の浅鉢，45・46は口唇部内面や突起部に撚糸や棒状工具による圧痕がある。50は両側縁と腹面の一部に使用痕のあるたたき石，51～53は安山岩製の石皿・台石である。

FP—12（図III—8・27，図版8—5）

平面形　楕円形　　**規模**　0.72×0.48／0.60×0.25／0.17m　　**重複**　なし

特徴　壙底はわずかに凹凸があるが，比較的平らで，短軸方向の壁面の傾斜は緩やかである。

遺物　土器15点（Vb），石皿・台石3点，フレイク1点，礫△2点，礫5点が出土。礫石器，礫類は壙底に接して2ヵ所にかたまって確認された。54は浅鉢形土器，突起のみられる口唇部内側に撚糸と棒状工具による圧痕が施され，体部は縦位の縄文である。56・57は扁平な安山岩製の石皿・台石である。

FP—13（図III—8・28，図版9—1）

平面形　楕円形　　**規模**　(0.49)×(0.47)／0.38×0.36／0.17m　　**重複**　なし

特徴　壙底は皿状で，壁面の傾斜も比較的緩やかである。

遺物　土器28点（Vb），コア1点，フレイク11点，礫2点が出土。大型の土器片がまとまって出土している。58は斜行縄文の施された体部破片，59は大型壺形土器の体部破片で，上半部には擦痕，下半部には斜行縄文がみられる。

FP—17（図III—9，図版9—2）

平面形　楕円形　　**規模**　0.72×0.66／0.15×0.18／0.28m　　**重複**　なし

特徴　横断面形は皿状で，壙底は確認面に比べ非常に小さい。

遺物　礫△1点，礫1点が土壙内北西部の覆土中から出土。

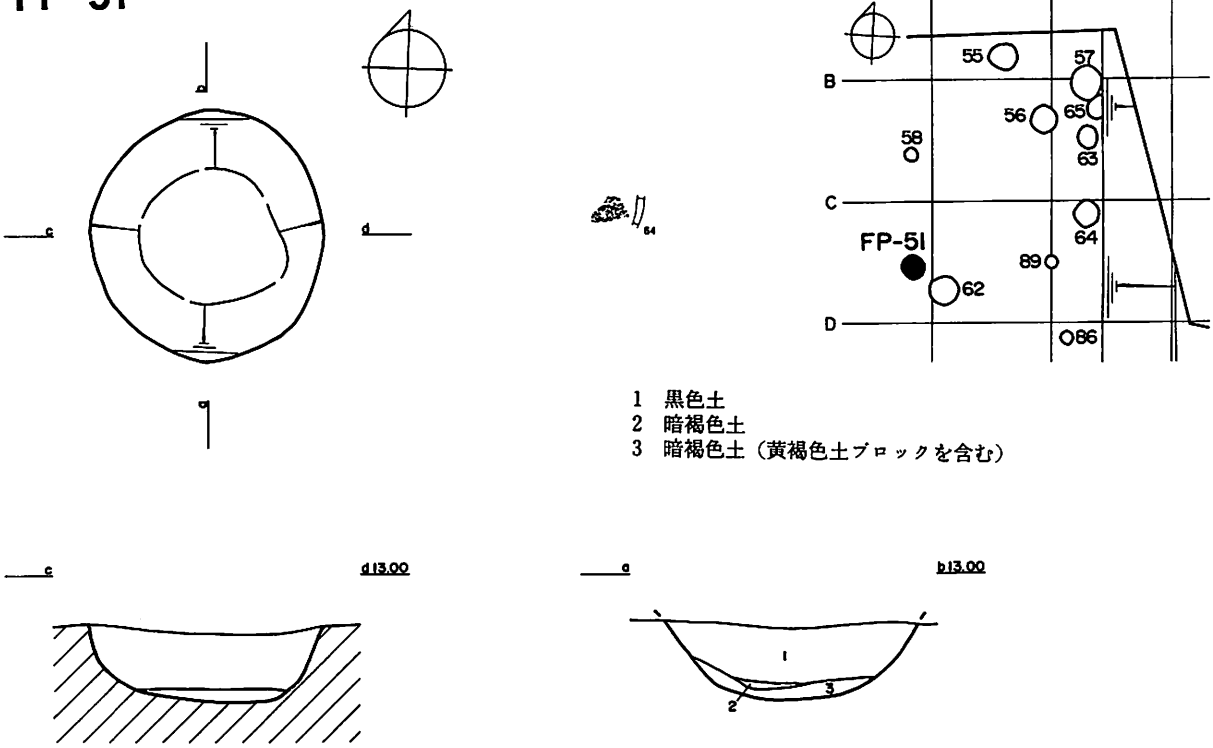
FP—18（図III—9・28，図版9—3）

平面形　円形　　**規模**　0.57×0.54／0.36×0.28／0.13m　　**重複**　なし

特徴　横断面形が皿状の小型土壙である。

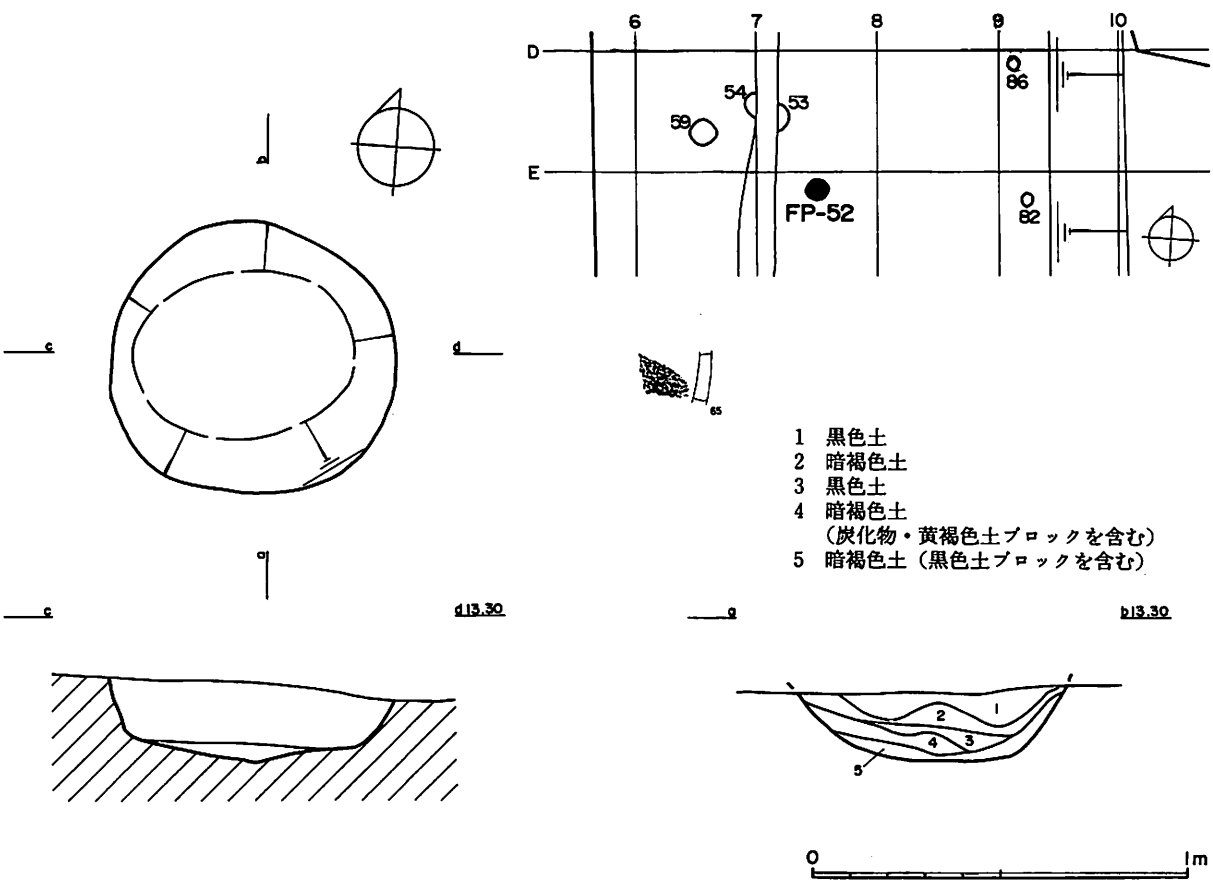
遺物　土器8点（Va）が出土。土器は覆土中から散発的にみられたが，図示した2点は壙底で確認された。60は台付浅鉢，体部に斜行縄文がみられる。61は突起部で，内面に沈線

FP-51



1 黒色土
2 暗褐色土
3 暗褐色土（黄褐色土ブロックを含む）

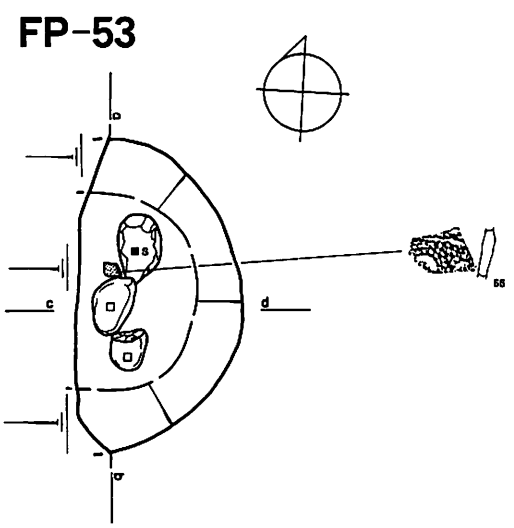
FP-52

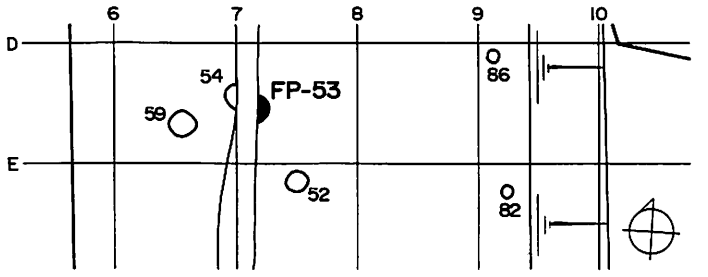


1 黒色土
2 暗褐色土
3 黒色土
4 暗褐色土
（炭化物・黄褐色土ブロックを含む）
5 暗褐色土（黒色土ブロックを含む）

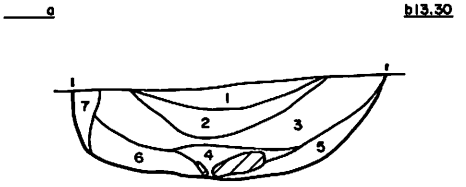
図Ⅲ—10 FP—51・52

FP-53

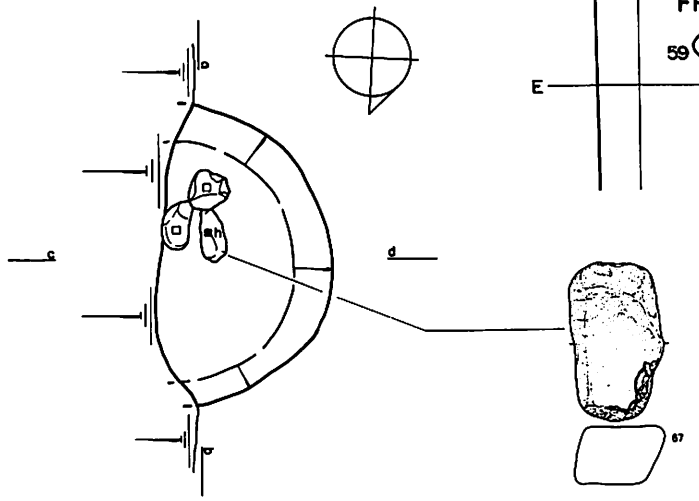


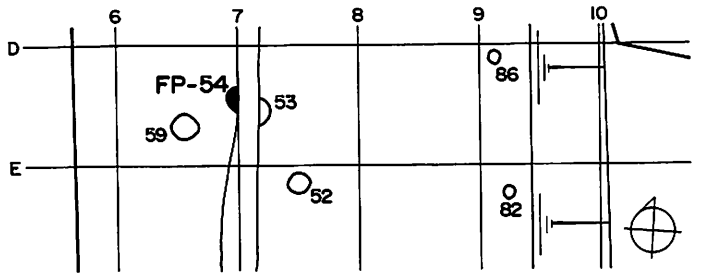


1 黒色土
2 暗褐色土（炭化物を含む）
3 黒色土（炭化物少量）
4 黒色土（炭化物多量）
5 暗褐色土
6 暗褐色土（黄褐色土ブロックを含む）
7 暗褐色土（黄褐色土ブロック多量）

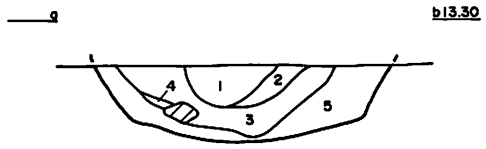


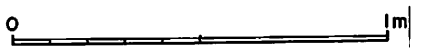
FP-54





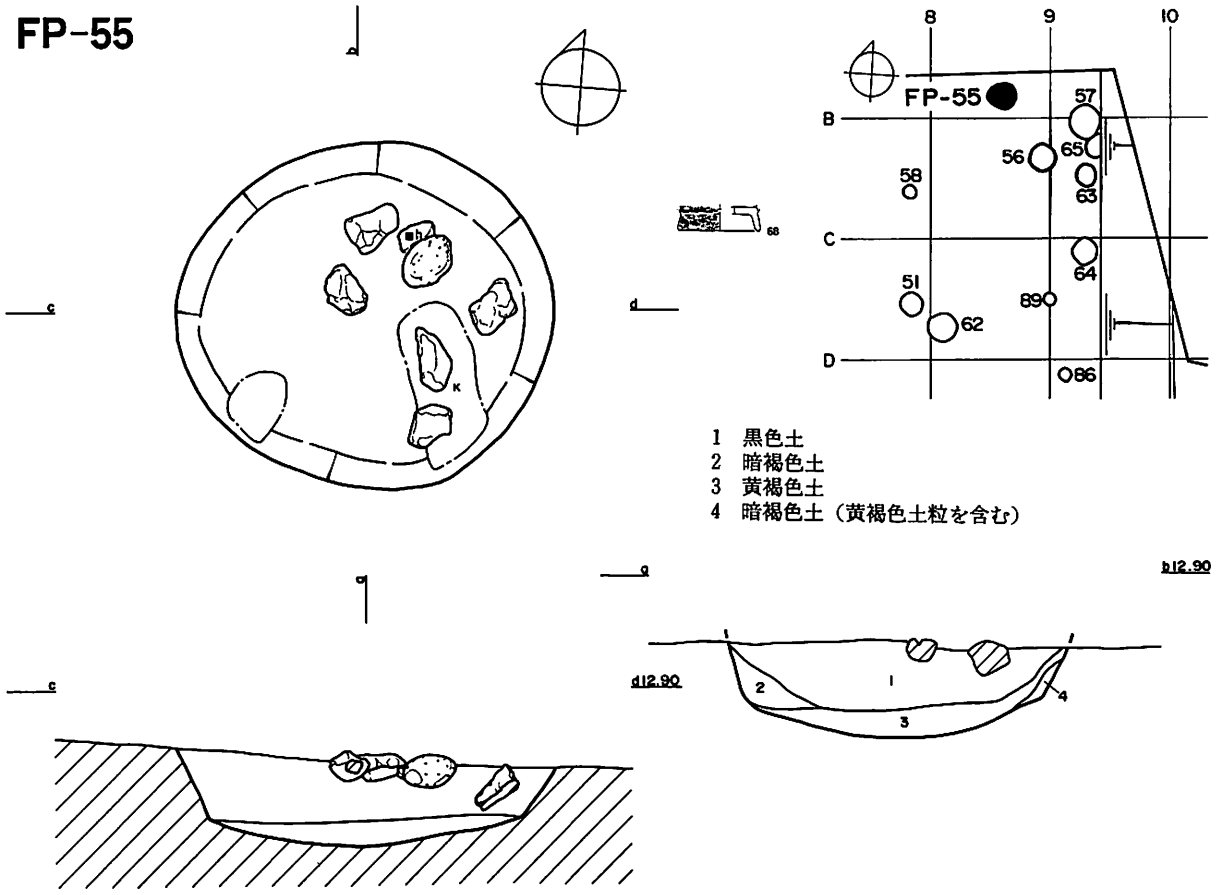
1 暗褐色土（しまり悪くボソボソ）
2 黒色土
3 黒褐色土
4 黒色土
5 暗褐色土（黄褐色土粒少量）





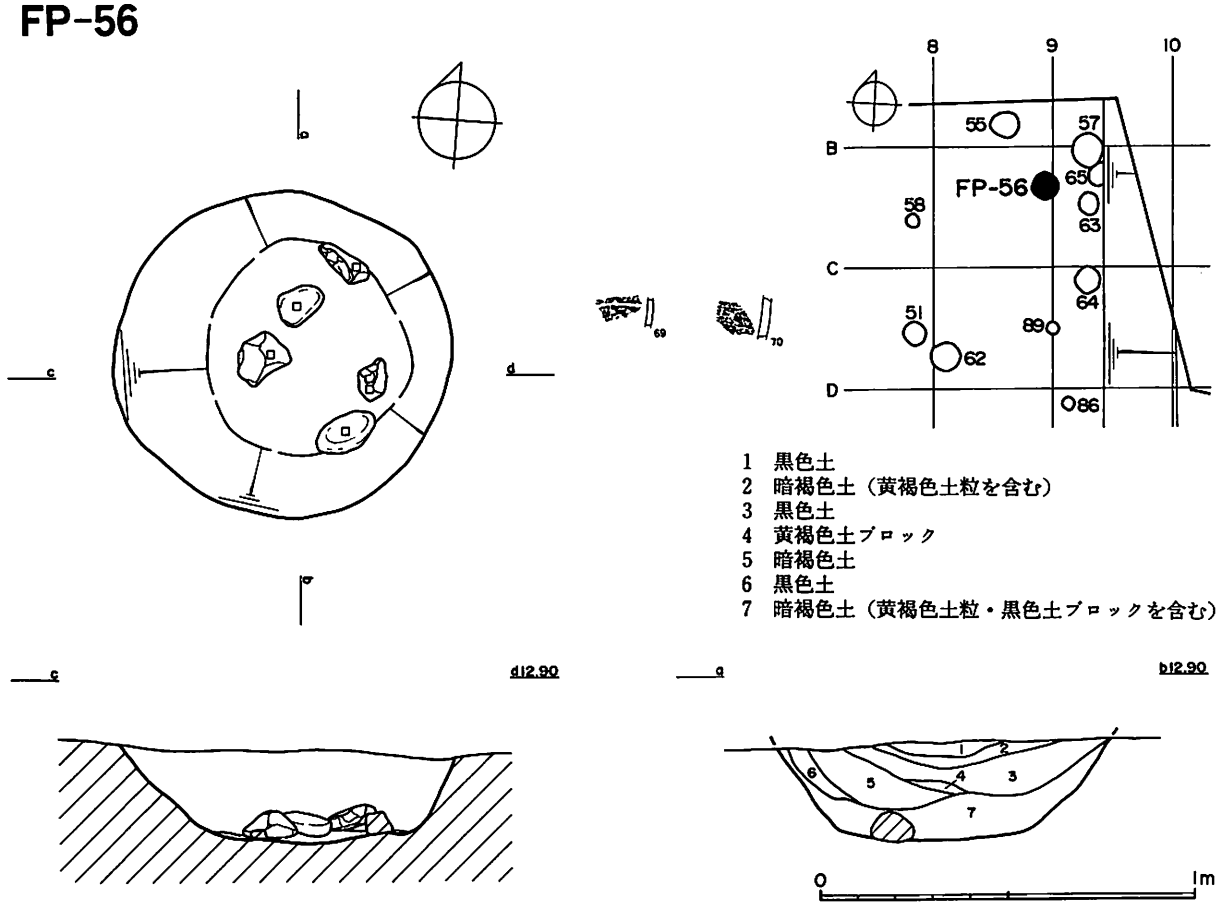
図III—11 FP—53・54

FP-55



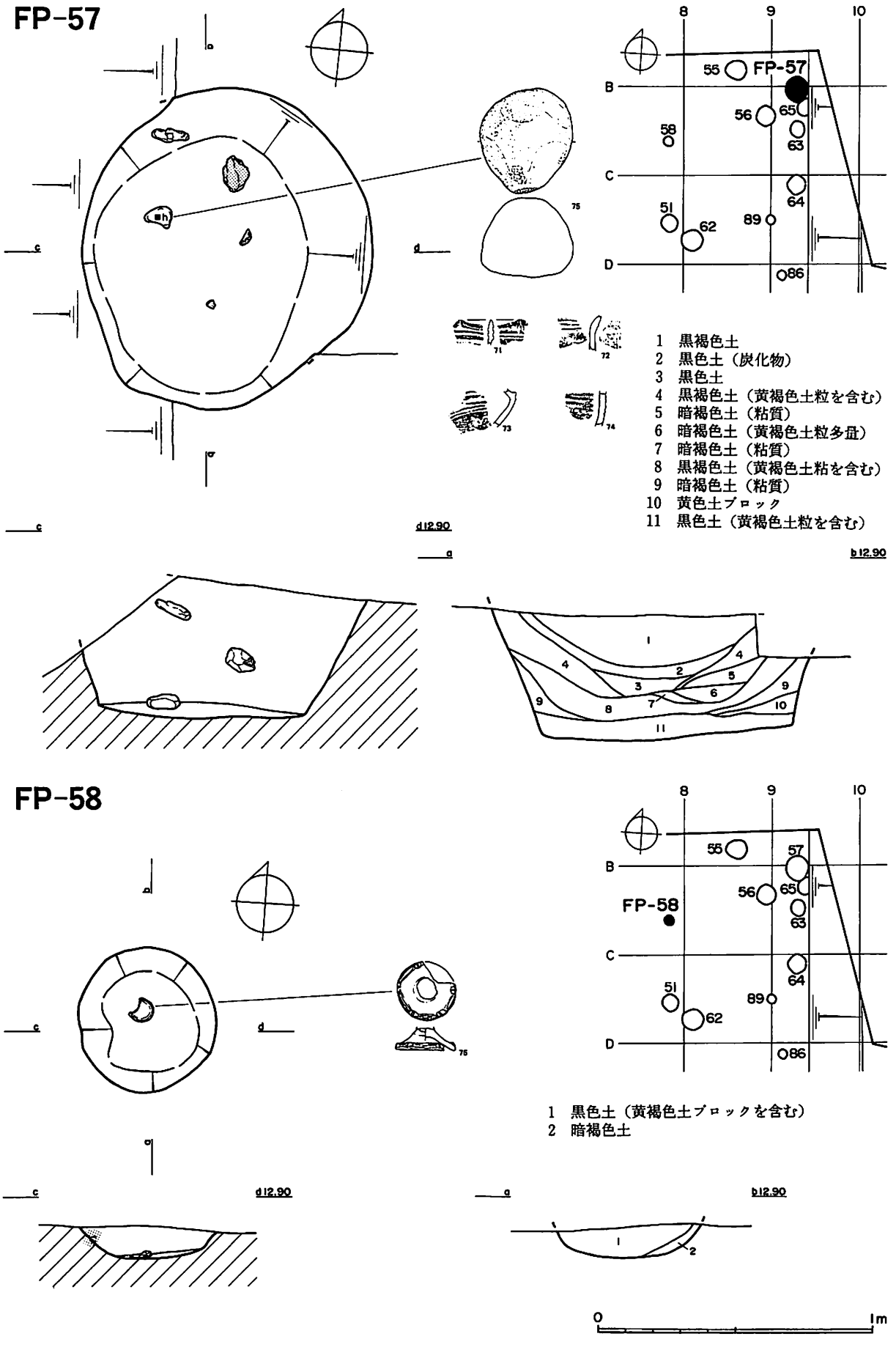
1 黒色土
2 暗褐色土
3 黄褐色土
4 暗褐色土（黄褐色土粒を含む）

FP-56



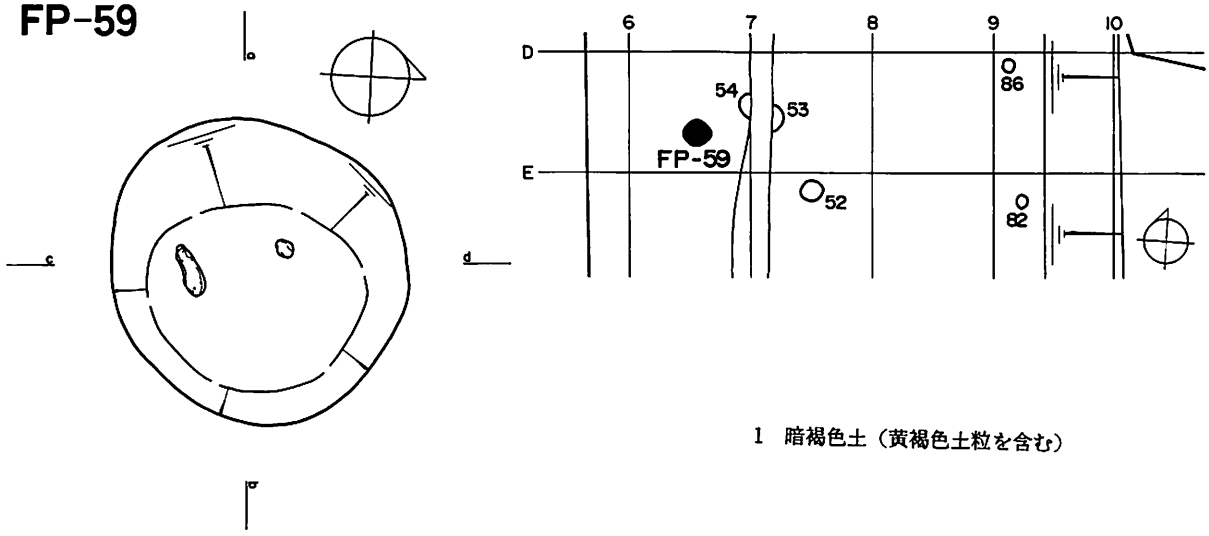
1 黒色土
2 暗褐色土（黄褐色土粒を含む）
3 黒色土
4 黄褐色土ブロック
5 暗褐色土
6 黒色土
7 暗褐色土（黄褐色土粒・黒色土ブロックを含む）

図Ⅲ—12　FP—55・56

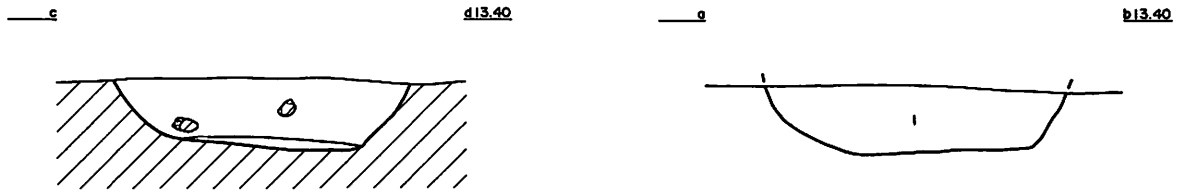


図III—13 FP—57・58

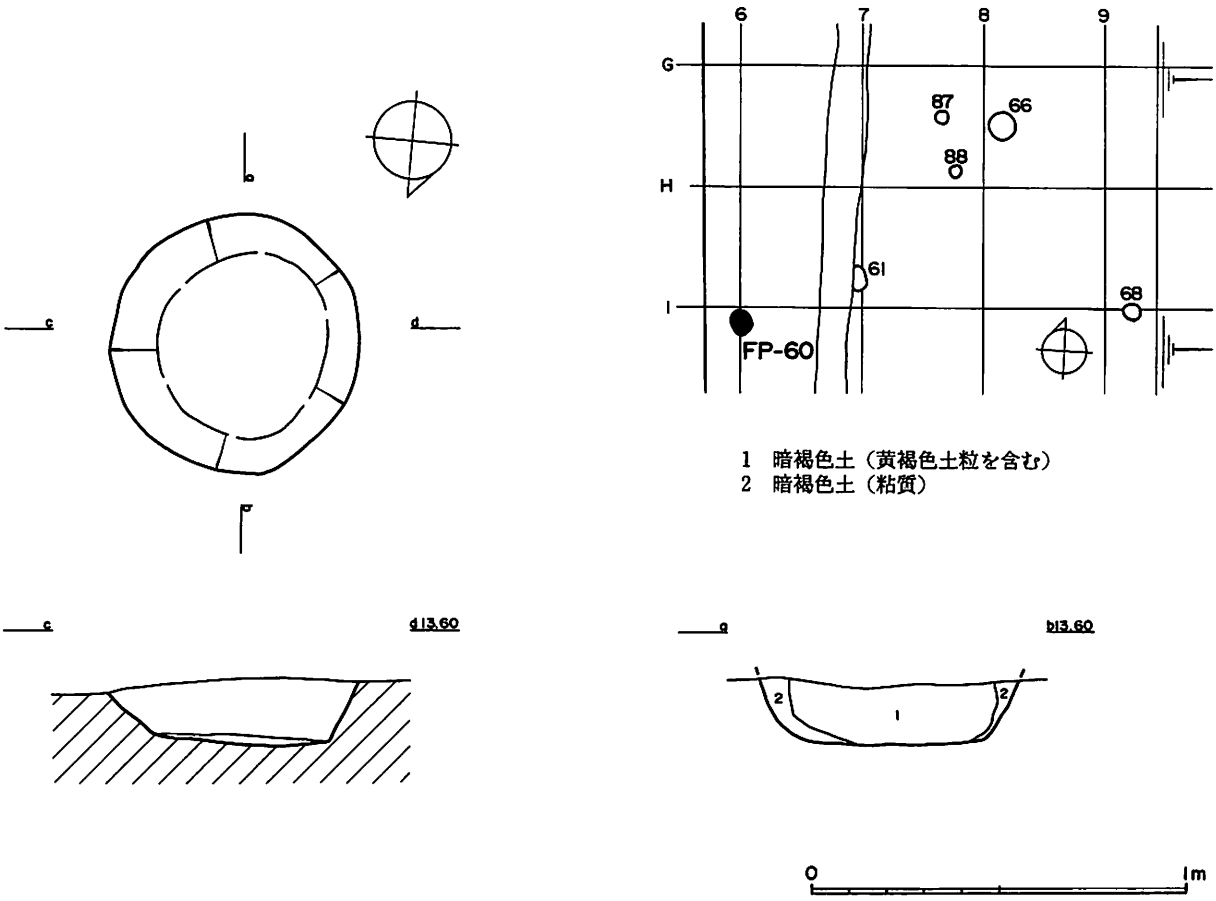
FP-59



1　暗褐色土（黄褐色土粒を含む）



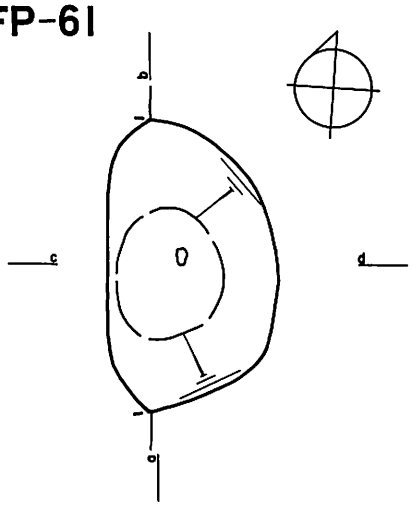
FP-60

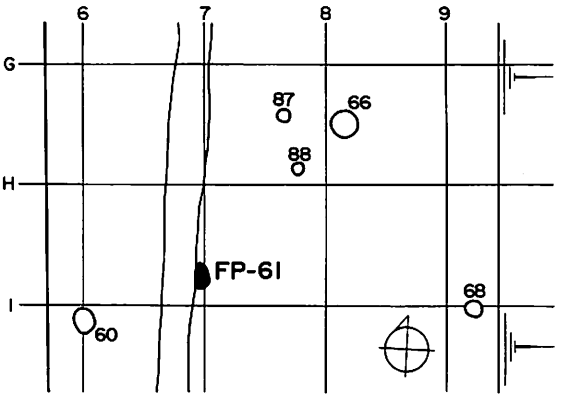


1　暗褐色土（黄褐色土粒を含む）
2　暗褐色土（粘質）

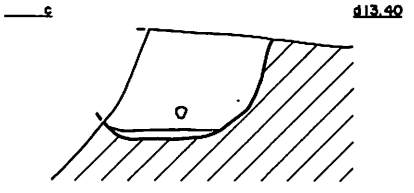
図Ⅲ—14　FP—59・60

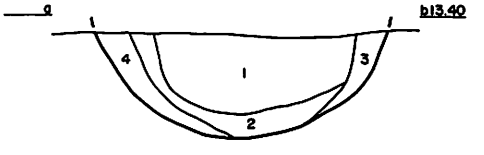
FP-61



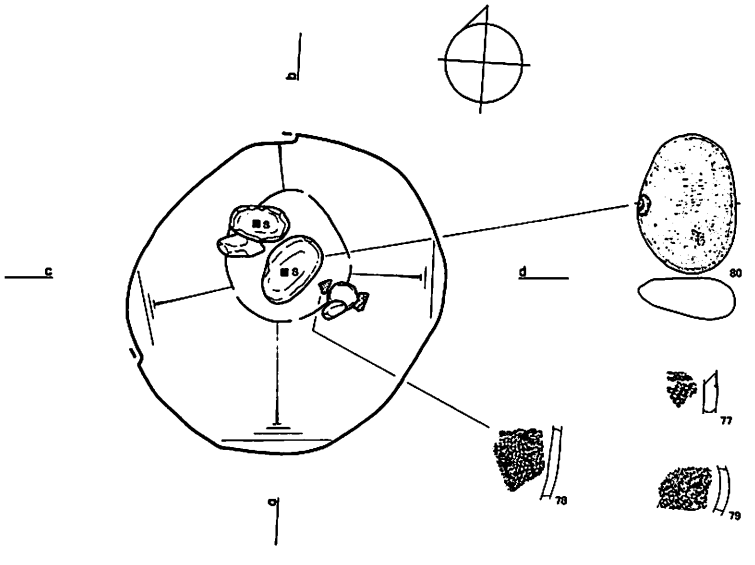


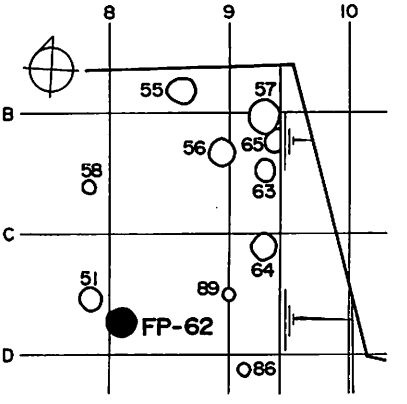
1　黒色土
2　黒色土（黄褐色土粒を含む）
3　黒色土（黄褐色土ブロックを含む）
4　暗褐色土（黒色土ブロックを含む）



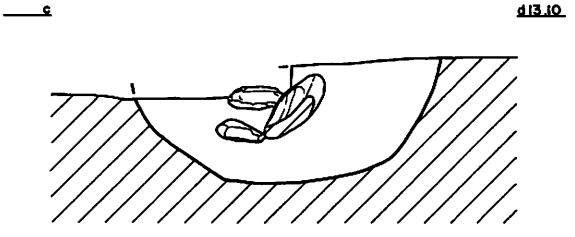


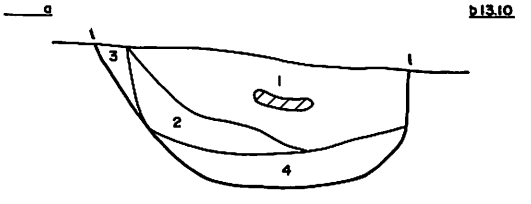
FP-62

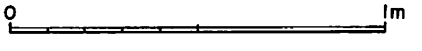




1　黒色土
2　黒色土（黄褐色土粒を含む）
3　暗褐色土（粘質）
4　暗褐色土

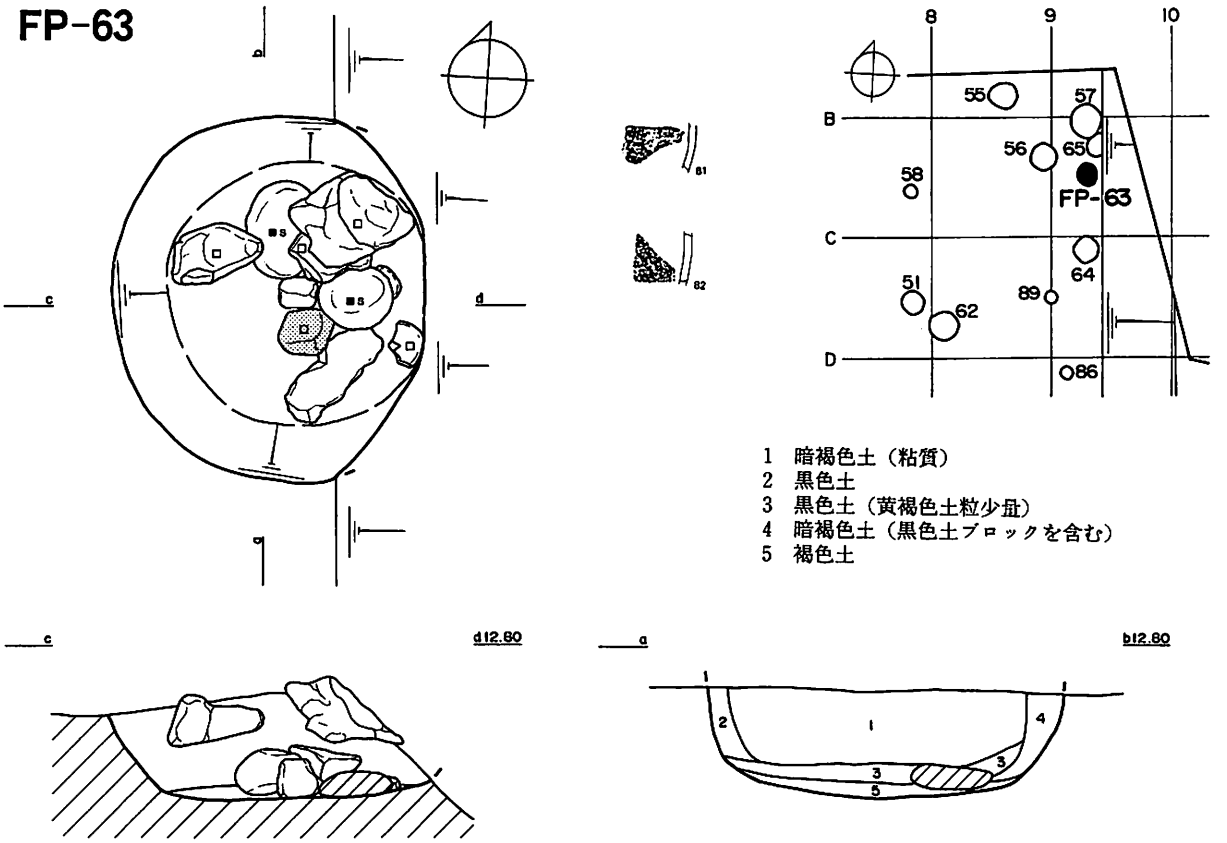




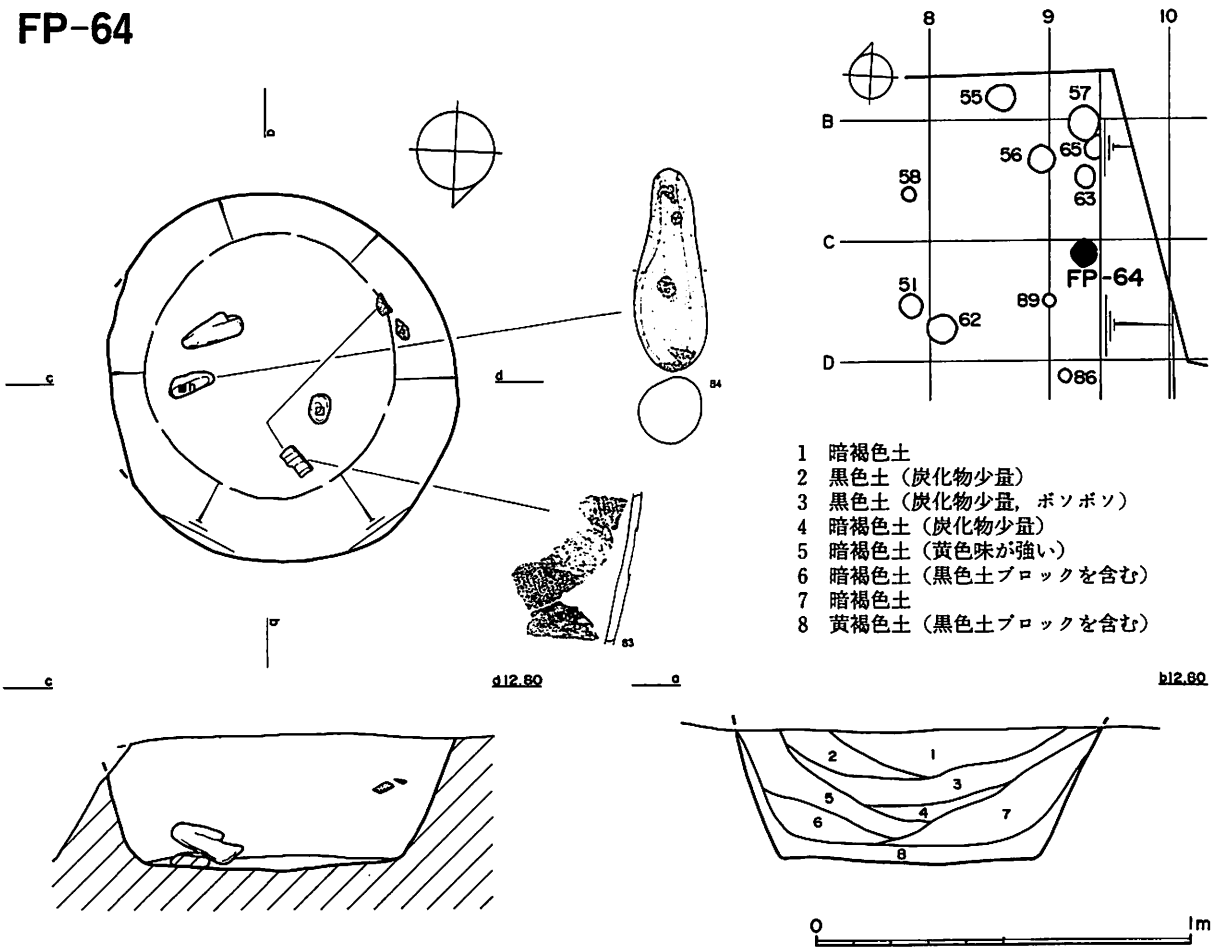


図Ⅲ—15　FP—61・62

FP-63

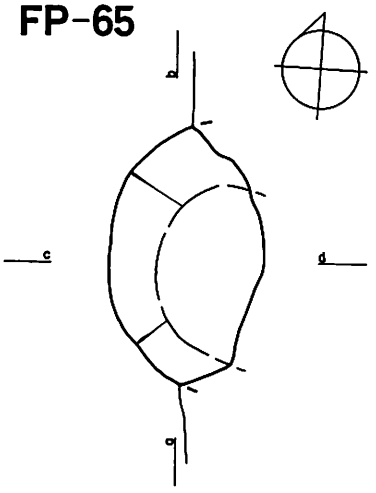


FP-64

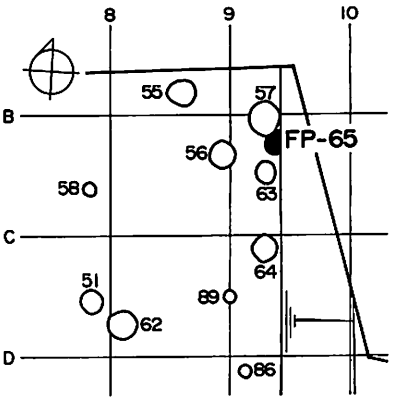


図Ⅲ—16　FP—63・64

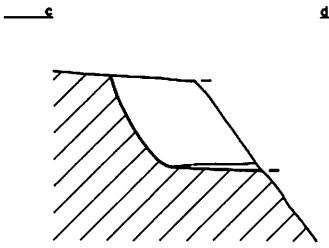
FP-65

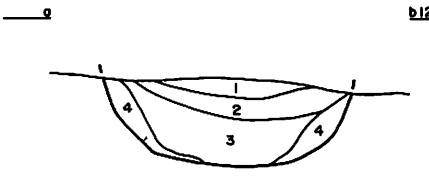




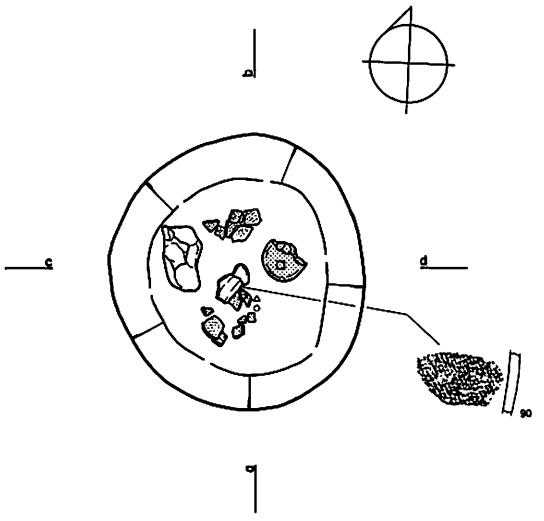


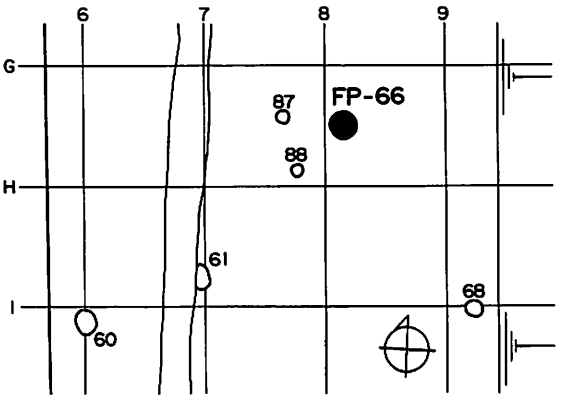
1　暗褐色土
2　黒色土
3　暗褐色土
4　暗褐色土（黄色味が強い）





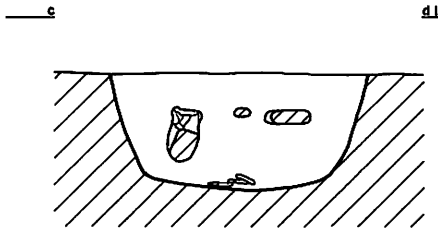
FP-66

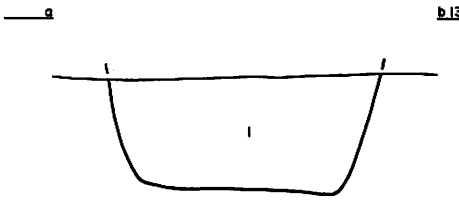


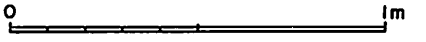




1　黒色土

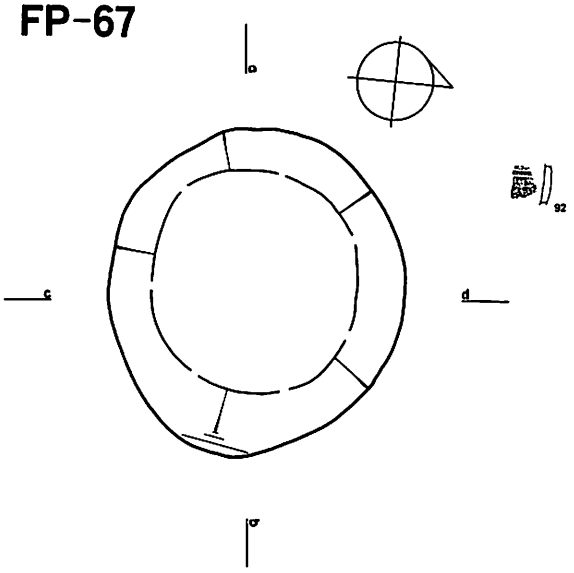


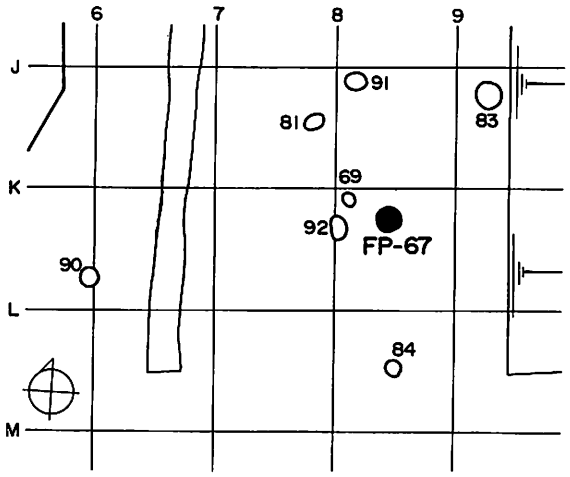




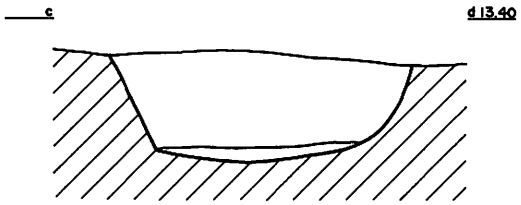
図Ⅲ—17　FP—65・66

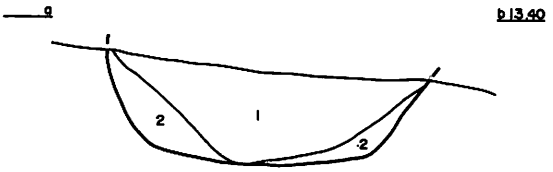
FP-67



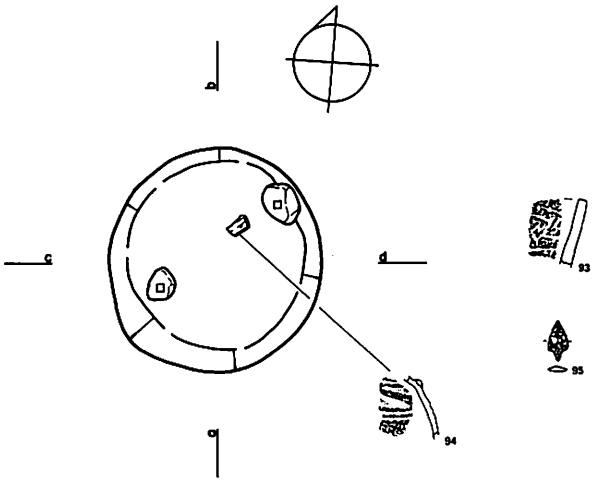


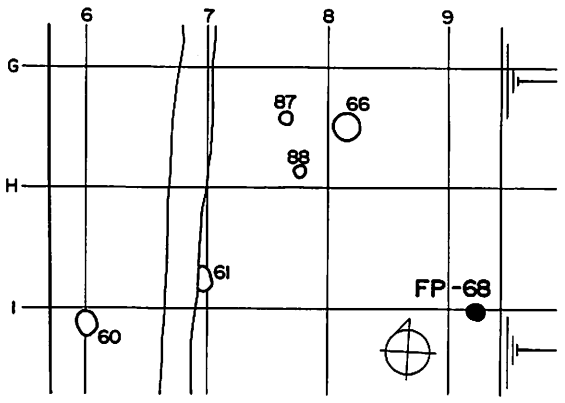
1 暗褐色土
2 暗褐色土
（黄褐色土ブロック・黒色土を含む）



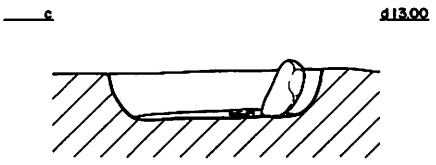


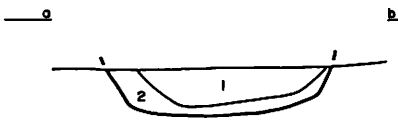
FP-68

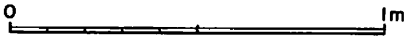




1 黒色土
2 暗褐色土（黄褐色土ブロックを含む）

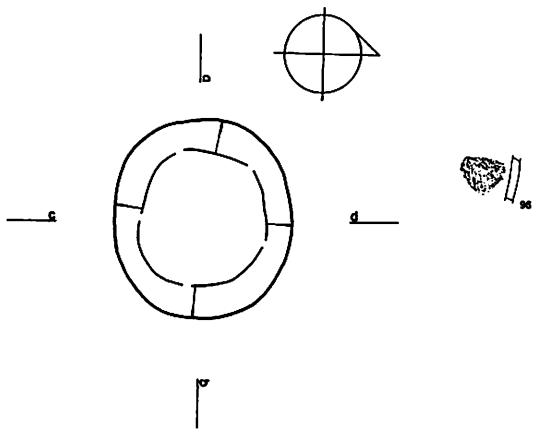


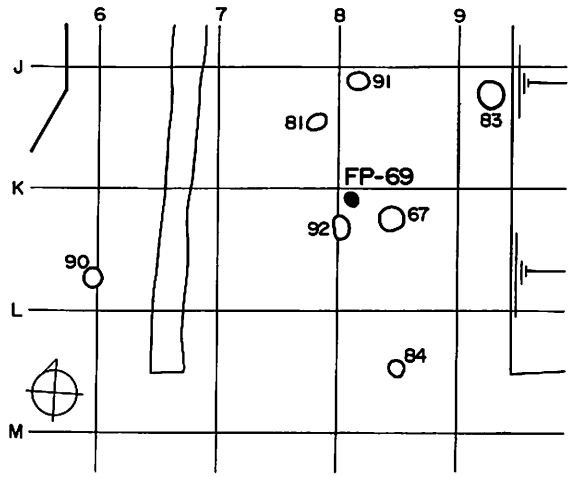




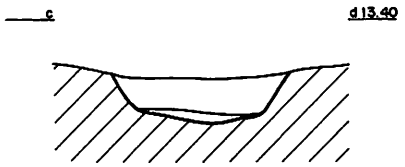
図Ⅲ—18　FP—67・68

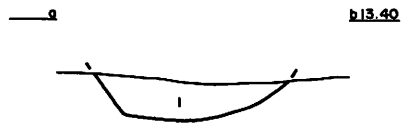
FP-69



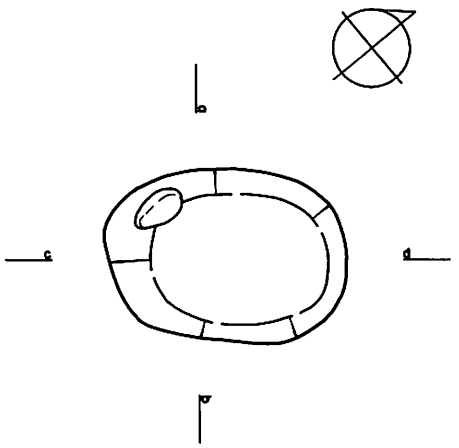


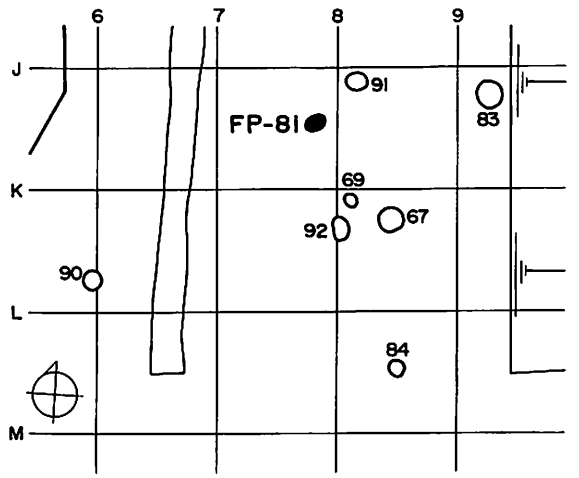
1 黒褐色土



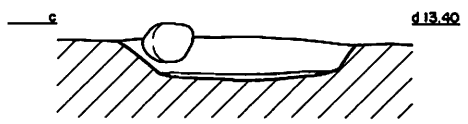


FP-81

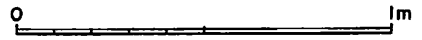




1 黒色土
2 暗褐色土（黄褐色土ブロックを含む）







図III—19 FP—69・81

文が施されている。

FP—19（図Ⅲ—9・28，図版9—4）
平面形　円形　　**規模**　0.59×0.58／0.29×0.30／0.13m　　**重複**　なし
特徴　壙底面の直径は確認面のほぼ半分，横断面形は皿状である。
遺物　土器3点（Vb），礫△4点のみが出土。遺物は土壙中央やや北寄りの覆土・壙底で確認された。62は横ナデ整形が施された無文の浅鉢形土器，63は無文の壺形土器の口頸部である。

FP—51（図Ⅲ—10・28，図版9—5）
平面形　楕円形　　**規模**　0.67×0.62／0.36×0.37／0.20m　　**重複**　なし
特徴　壙底は皿状で，壁面の傾斜は比較的緩やかである。
遺物　土器1点（V），礫1点が覆土から出土。64は無文の体部破片である。

FP—52（図Ⅲ—10・28，図版9—6）
平面形　楕円形　　**規模**　0.76×0.72／0.60×0.45／0.23m　　**重複**　なし
特徴　横断面は皿状，壙底はわずかに凹凸がある。
遺物　土器1点（IIB），フレイク2点，礫1点が出土。65は体部破片であるが，表面の摩滅が著しく，胎土は砂礫を多量に含んでいる。

FP—53（図Ⅲ—11・28，図版10—1）
平面形　—　　**規模**　0.82×(0.44)／0.52×(0.32)／0.24m　　**重複**　なし
特徴　西側半分が溝状の攪乱によって破壊されている。壙底は皿状で，緩やかに凹み，壁面につながっている。平面形は円形の可能性が強い。
遺物　土器1点（Vb），礫△3点，礫1点が出土。礫△3点は土壙の中央，壙底で確認された。66は太い沈線と刺突文がみられる破片である。

FP—54（図Ⅲ—11・28，図版10—2）
平面形　—　　**規模**　0.79×(0.47)／0.64×(0.36)／0.21m　　**重複**　なし
特徴　東側半分が溝状の攪乱によって破壊されている。壙底は皿状に凹んでいる。平面形は円形の可能性が強い。
遺物　たたき石1点，礫△2点，礫2点が，土壙中央南寄りの覆土下部から出土。67は長軸の一端に使用痕がみられるたたき石である。

FP—55（図Ⅲ—12・28，図版10—3）
平面形　楕円形　　**規模**　0.97×0.92／0.84×0.74／0.25m　　**重複**　なし
特徴　壙底は皿状で，壁面の傾斜は比較的急角度である。部分的に木根による攪乱がみられる。
遺物　土器5点（Vb・1，V・4），石皿・台石1点，フレイク37点，礫6点が出土。礫石器，礫類は土壙の東側，覆土上部で確認された。68はV群b類の台の破片で，一条の沈線

が施されている。

FP—56（図Ⅲ—12・28，図版10—4・5）
平面形　楕円形　　**規模**　0.91×0.86／0.55×0.56／0.27m　　**重複**　なし
特徴　横断面形は皿状に近く，壙底・壁面ともに若干の凹凸がみられる。
遺物　土器8点（ⅡB・1，Vb・5，V・2），フレイク10点，礫△5点，礫2点が出土。礫類は土壙のほぼ中央，壙底で確認された。69・70はV群b類土器，69は沈線による区面内に半截竹管状工具を用いた刺突文が施され，70は無文である。

FP—57（図Ⅲ—13・28，図版11—1）
平面形　楕円形　　**規模**　(1.16)×(1.05)／0.92×0.77／0.42m　　**重複**　なし
特徴　東側上部が畑地造成のため破壊されている。壙底はわずかに凹んでいるが，比較的平らで，壁面の傾斜は急角度である。覆土は黒色土と黒褐色土が主体で，黄褐色土の混り具合で，いくつかに分層した。
遺物　土器15点（ⅢB・2，ⅢB2・1，Va・4，Vb・7，V・1），たたき石1点，コア1点，フレイク53点，礫△1点，焼礫1点が出土。礫石器，礫類は土壙の中央南側の覆土中で確認された。71～73はV群a類，74はV群b類土器である。71の口唇断面は切り出し状で，口縁部の内外に2条の沈線が，72は頸部に幅広の無文帯がみられる。73はソロバン玉状の器形とみられ，施文・器面調整は丁寧で，体部に貼付瘤があり，体部は細かい不規則な縄文が施されている。74は沈線による区画内に刺突文がみられる。75は長軸の一端に使用痕のみられる安山岩製のたたき石である。

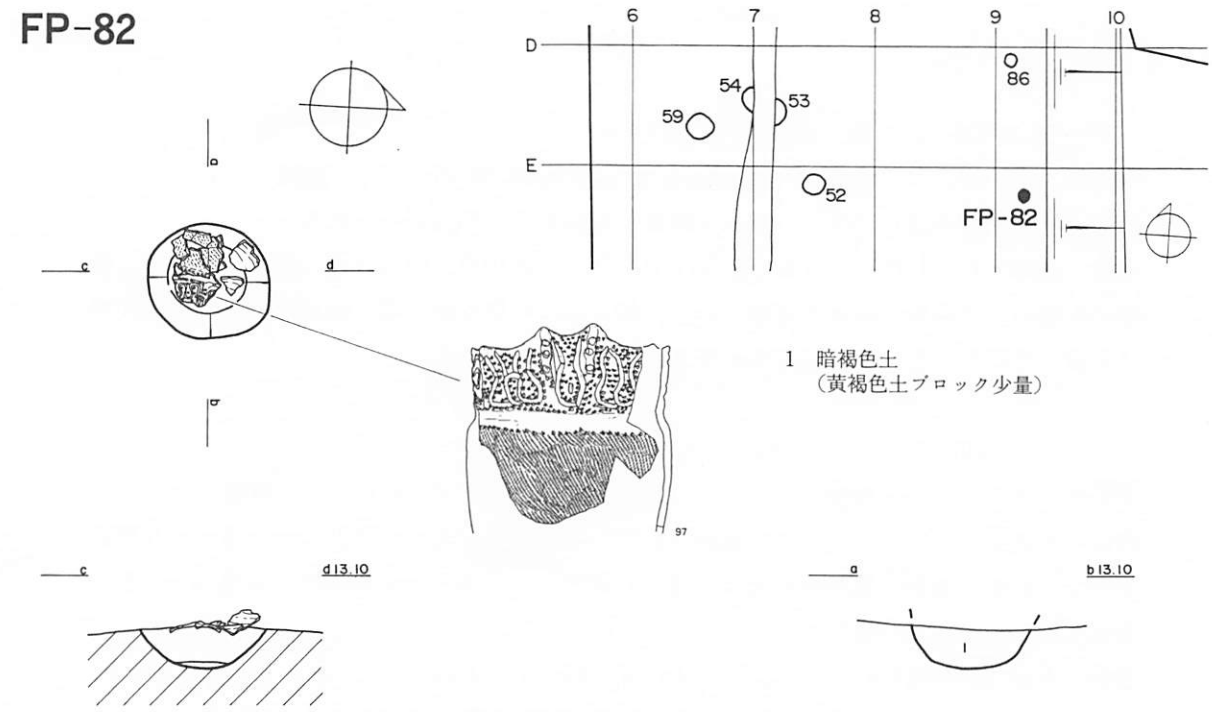
FP—58（図Ⅲ—13・29，図版11—2）
平面形　円形　　**規模**　0.52×0.50／0.37×0.32／0.12m　　**重複**　なし
特徴　断面が皿状の小型の土壙である。
遺物　土器1点（Va）のみが土壙のほぼ中央，壙底から出土。76は台部のみで，刻みのある貼付瘤間を沈線で結んでいる。

FP—59（図Ⅲ—14，図版11—3）
平面形　円形　　**規模**　0.82×0.78／0.56×0.52／0.18m　　**重複**　なし
特徴　壙底はやや傾斜し，壁面の角度も緩やかである。
遺物　フレイク5点，礫4点が覆土中から散発的にみられた。

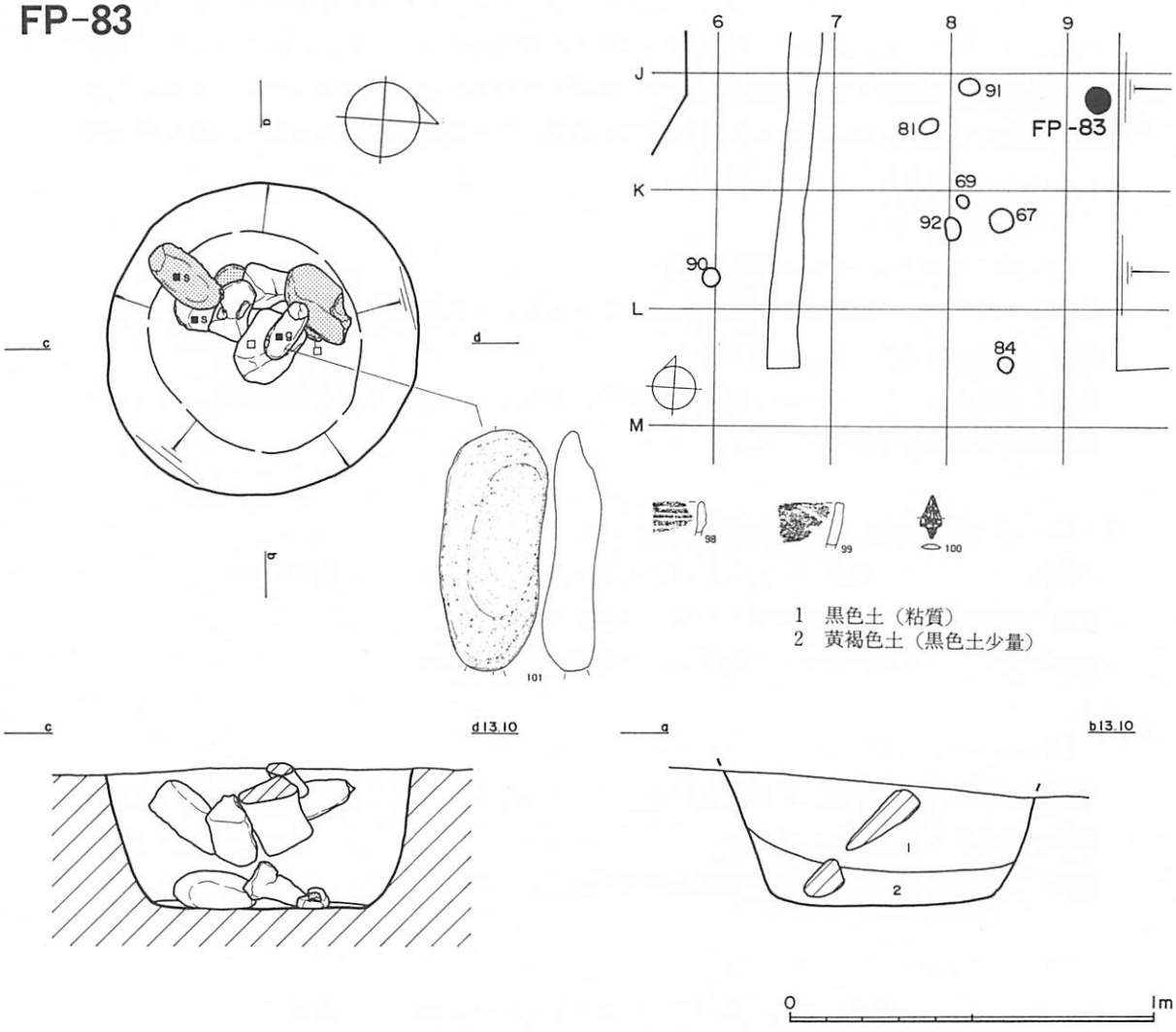
FP—60（図Ⅲ—14，図版11—4）
平面形　円形　　**規模**　0.69×0.67／0.50×0.46／0.19m　　**重複**　なし
特徴　壙底は比較的平らである。
遺物　フレイク12点のみが覆土中から散発的に出土した。

FP—61（図Ⅲ—15，図版11—5）
平面形　—　　**規模**　0.77×(0.45)／0.35×0.29／0.29m　　**重複**　なし

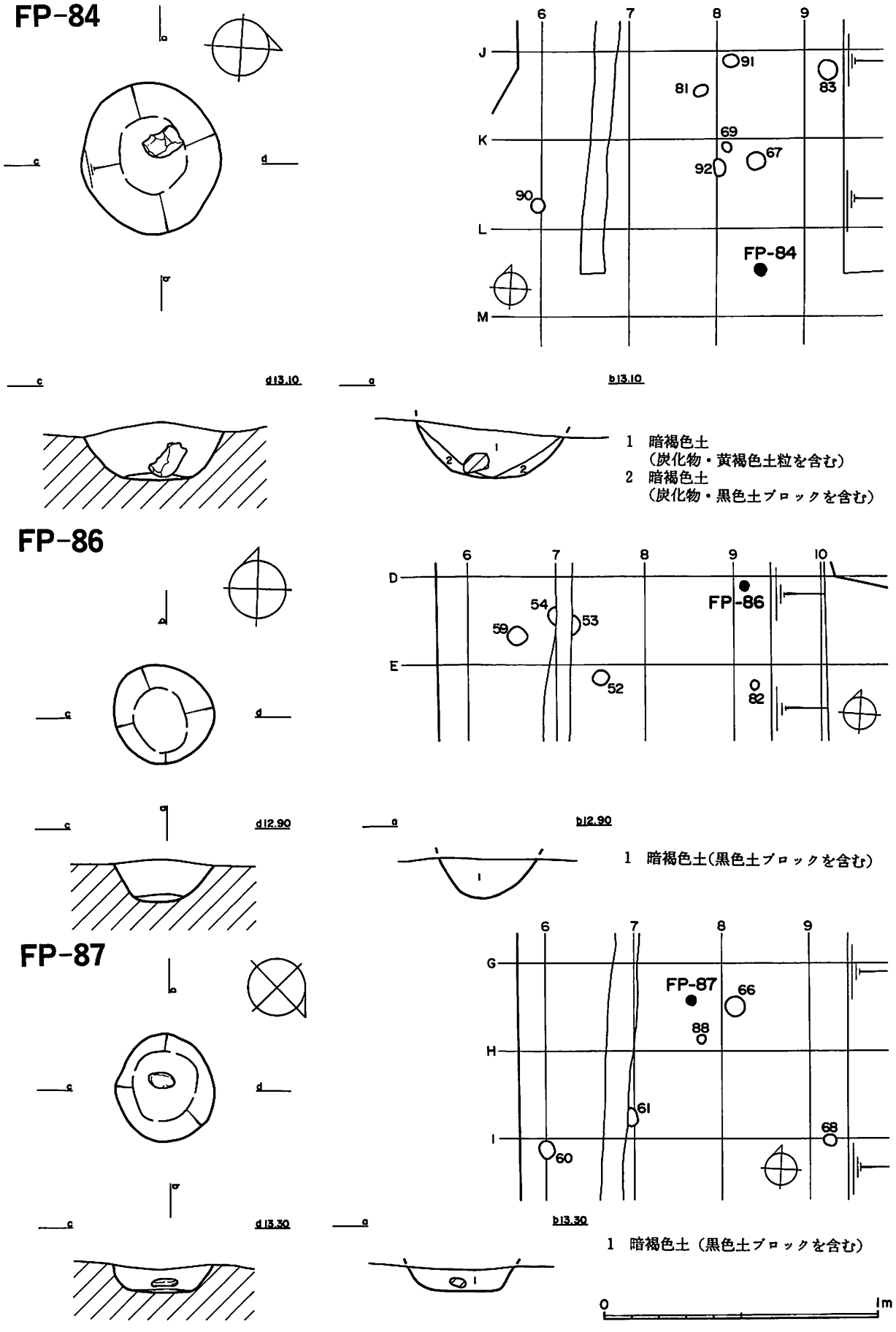
FP-82



FP-83

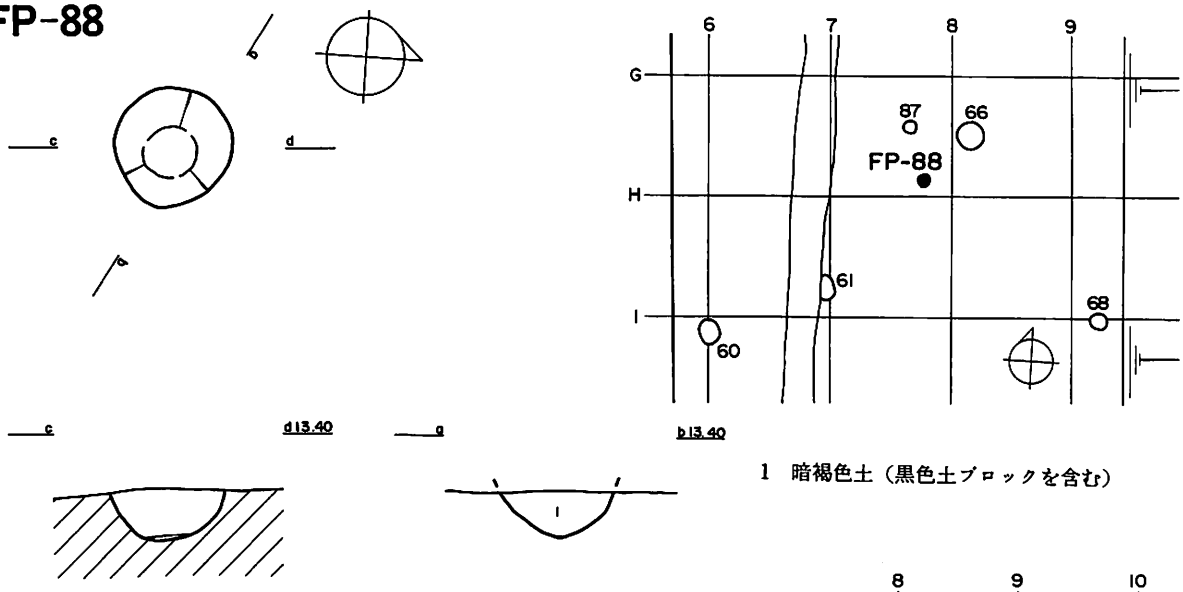


図Ⅲ—20　FP—82・83



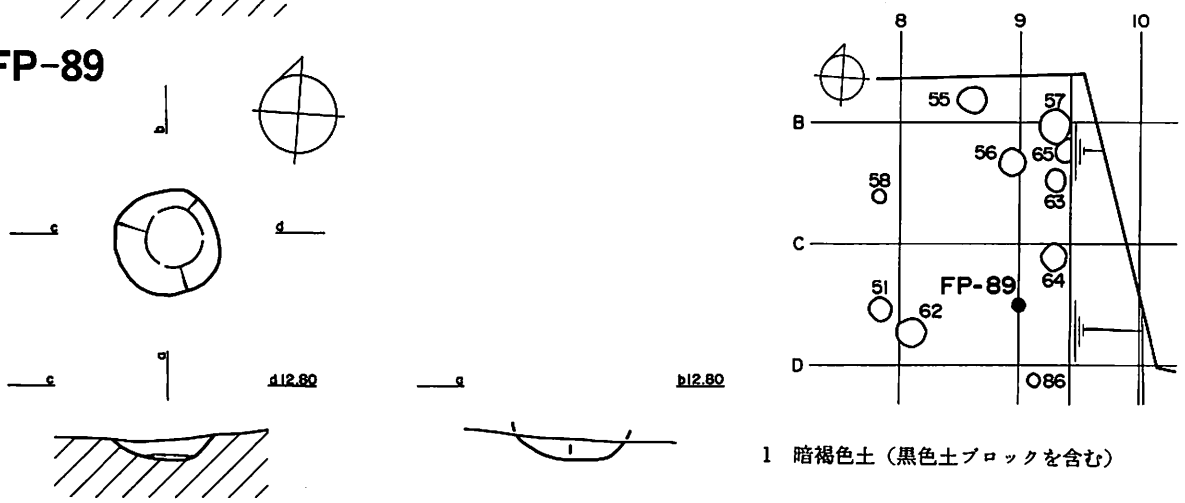
図Ⅲ—21　FP—84・86・87

FP-88



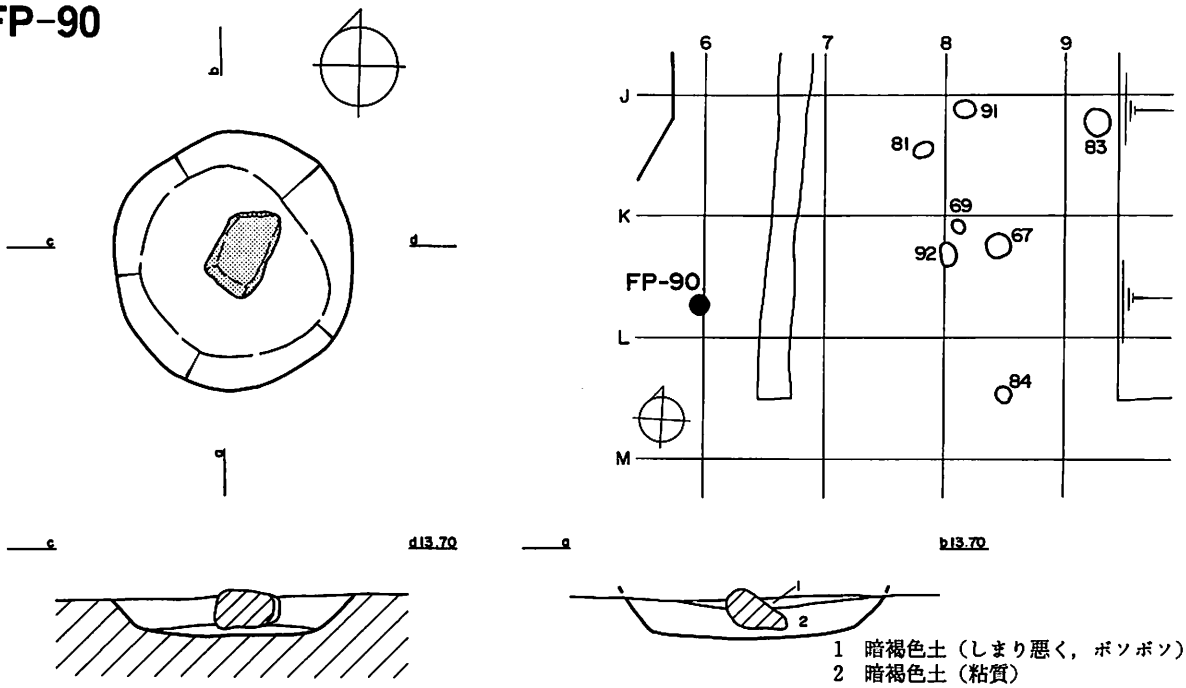
1　暗褐色土（黒色土ブロックを含む）

FP-89



1　暗褐色土（黒色土ブロックを含む）

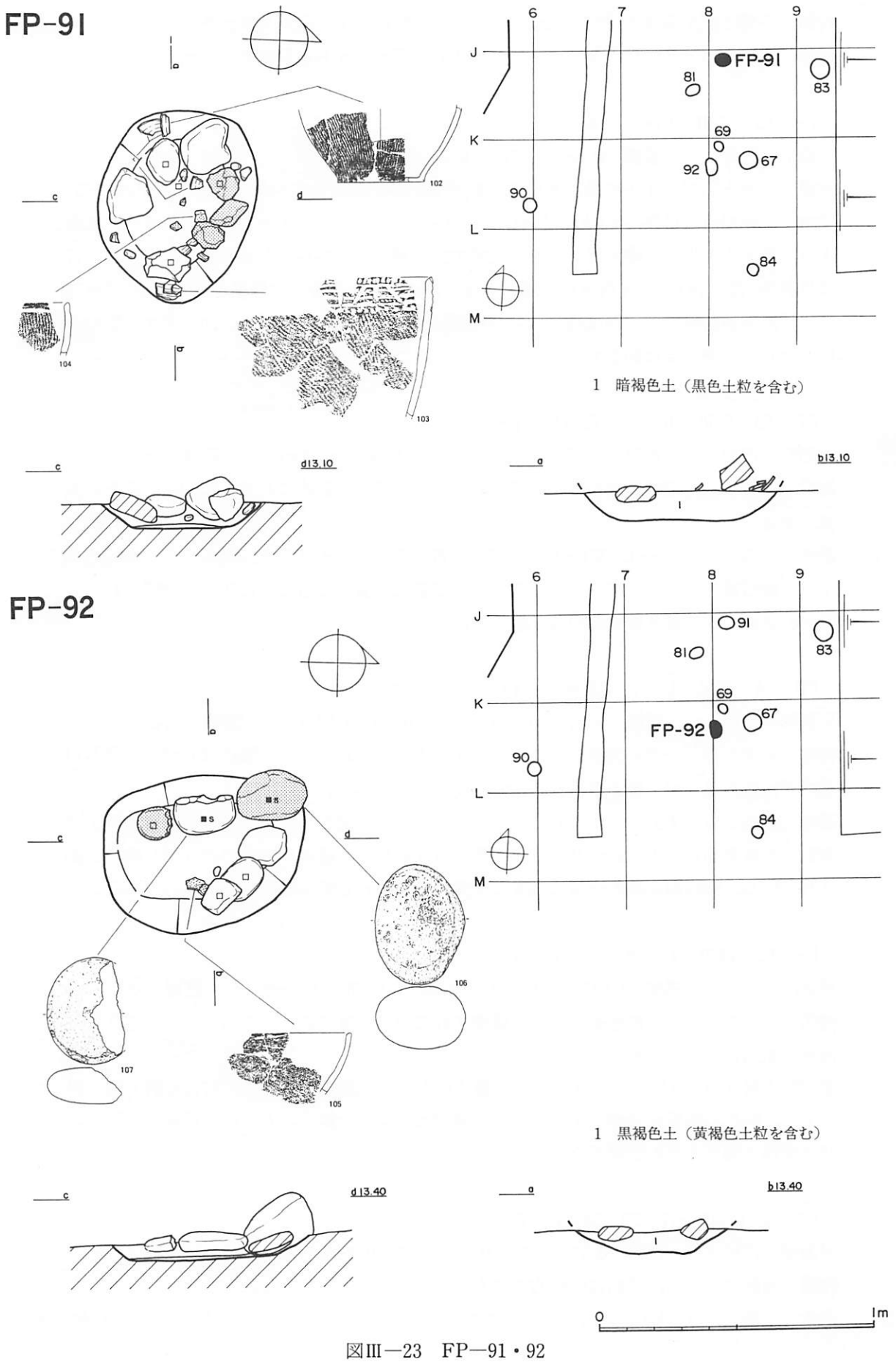
FP-90



1　暗褐色土（しまり悪く，ポソポソ）
2　暗褐色土（粘質）

0　1m

図Ⅲ—22　FP—88～90



図III—23　FP—91・92

特徴　西側上部が溝状の攪乱で破壊されている。断面は半円状に丸味がある。
遺物　土器７点（Ｖb），フレイク８点，礫１点が覆土中から散発的にみられた。

FP—62（図Ⅲ—15・29，図版11—6）
平面形　円形　　**規模**　0.88×(0.76)／0.33×0.33／0.34m　　**重複**　なし
特徴　西側上部がわずかに攪乱されている。断面は半円状に丸味があるが，少し歪んでいる。
遺物　土器12点（ⅢB2・2，Ｖb・10点），石皿・台石２点，フレイク９点，礫△４点，焼礫１点，礫６点が出土。礫石器，礫類は土壙中央の覆土上部からかたまって確認された。77はⅢ群Ｂ1類，78・79はＶ群ｂ類土器である。77は薄い貼付帯上に押引がみられる。78・79はいずれも体部破片で，78は縦位に，79は斜位に縄文が施されている。80は安山岩製の石皿・台石で，使用痕は顕著でない。

FP—63（図Ⅲ—16・29，図版12—1・2）
平面形　円形　　**規模**　0.97×(0.82)／0.70×(0.68)／0.30m　　**重複**　なし
特徴　東側上部が畑地造成の際に破壊されている。壙底は皿状にわずかに凹み，壁面は丸味がある。
遺物　土器５点（Ｖa・1，Ｖb・4），石皿・台石２点，フレイク７点，礫△５点，礫５点が出土。礫石器，礫類は土壙中央部の覆土および壙底で重さなるような状況で確認された。81・82は無文のＶ群ｂ類土器の体部破片である。

FP—64（図Ⅲ—16・29，図版12—3・4）
平面形　円形　　**規模**　0.97×(0.92)／0.71×0.66／0.32m　　**重複**　なし
特徴　東側上部の一部が畑地造成の際にわずかに破壊されている。壙底はわずかに凹凸があるが比較的平らで，壁面は直線的に急角度で立ち上がる。
遺物　土器５点（Ｖb），たたき石１点，フレイク９点，礫△１点，礫２点が，覆土および壙底から散発的に出土。83はＶ群ｂ類土器の体部破片で，縦位に複節の撚り戻し縄文が施されている。84は棒状礫の一端に顕著な使用痕のみられる安山岩製のたたき石である。

FP—65（図Ⅲ—17・29，図版12—5）
平面形　—　　**規模**　(0.68)×(0.42)／(0.47)×(0.28)／0.26m　　**重複**　なし
特徴　東側の大部分が畑地造成の際に破壊されている。壙底および壁面は丸味があり残存部分の断面は半円状である。
遺物　土器９点（Ｖb），フレイク４点が覆土中から散発的に出土。85～87はＶ群ｂ類土器である。85の口唇断面は切り出し状で，口縁部に１条の沈線があり，頸部は無文である。86は頸部下端に３条の沈線がみられる。

FP—66（図Ⅲ—17・29，図版12—6）
平面形　円形　　**規模**　0.72×0.68／0.52×0.47／0.28m　　**重複**　なし
特徴　壙底は皿状で，壁面は直線的に立ち上がる。
遺物　土器37点（ⅡB・3，Ｖb・34），スクレイパー１点，フレイク30点，Ｕフレイク１点，

礫△1点，礫10点が出土。礫類は土壙中央の覆土中から，土器は覆土下部から比較的まとまって確認された。88～90はV群b類土器，88は体部から底部にかけての破片で，幅広の無文帯と刺突文が，89は小突起がみられる。91は尖頭部のある黒曜石製のスクレイパーである。

FP—67（図III—18・29，図版13—1）
平面形　楕円形　　**規模**　0.87×0.80／0.58×0.56／0.31m　　**重複**　なし
特徴　壙底は皿状にわずかに凹み，壁面は西側は直線的で，東側は丸味がある。
遺物　土器1点（Vb），フレイク3点，礫1点が覆土中から散発的に出土。92は体部破片，斜行縄文の後に2条の沈線が施されている。

FP—68（図III—18・29，図版13—2）
平面形　円形　　**規模**　0.60×0.57／0.50×0.47／0.13m　　**重複**　なし
特徴　壙底は比較的平らで，壁面の傾斜は急であるが丸味がある。
遺物　土器4点（IIb・2，IVA・1，Va・1），石鏃1点，フレイク2点，礫△2点，礫2点が覆土および壙底から散発的に出土，93はIV群A類，94はV群a類土器である。93の口唇断面は角形で，口縁部は斜行縄文地に「Z」状の沈線が施されている。94は壺形土器で，体部上半に連繋入組文がみられる。95は有茎凸基（IIc）の石鏃である。

FP—69（図III—19・29，図版12—3）
平面形　楕円形　　**規模**　0.53×0.48／0.36×0.35／0.14m　　**重複**　なし
特徴　壙底は皿状に凹み，壁面の傾斜は緩やかであるが，断面は歪んでいる。
遺物　土器2点（Vb），フレイク9点が，覆土中から散発的に出土。96は斜行縄文の施された体部破片である。

FP—81（図III—19，図版13—4）
平面形　楕円形　　**規模**　0.65×0.46／0.47×0.35／0.12m　　**重複**　なし
特徴　壙底はわずかに皿状に凹んでいる。
遺物　フレイク1点，礫1点が覆土中から出土したのみである。

FP—82（図III—20・29，図版13—5・6）
平面形　円形　　**規模**　0.34×0.31／0.21×0.18／0.12m　　**重複**　なし
特徴　断面が半円状の小型の土壙である。
遺物　土器68点（IIIB1・2，IIb・66）が覆土中から出土。97はV群b類の深鉢形土器で，覆土の上部からまとまって出土した。口縁部に貼付による2個1対の突起があり，口唇断面は切り出し状である。口縁部は無文地上に曲線的な沈線文と半截竹管状工具による刺突文，頸部には刺突文が区画された無文帯がある。

FP—83（図III—20・30，図版14—1・2）
平面形　円形　　**規模**　0.89×0.86／0.56×0.60／0.32m　　**重複**　なし

特徴　壙底は平らで，壁面はわずかに丸味があるが，急傾斜である。

遺物　土器17点（IIB・5，IIIB2・3，Va・9），石鏃1点，すり石1点，石皿・台石1点，フレイク57点，Uフレイク3点，礫△2点，焼礫2点，礫4点が出土。礫石器，礫類が土壙中央西側寄りの覆土および壙底で接するようにまとまって確認された。98・99はV群b類土器，98の口唇断面は切り出し状で，沈線文が施され，99の口唇断面は角形で，体部には斜行縄文がみられる。100は有茎平基（IIb）の石鏃，101は長軸の一端を使用したすり石である。

FP—84（図III—21，図版14—3）

平面形　円形　　**規模**　0.55×0.52／0.29×0.25／0.21m　　**重複**　なし

特徴　断面が半円状の小型土壙である。

遺物　フレイク2点，礫2点が出土。大型の礫は土壙中央やや北西寄りで壙底からわずかに浮いた状況で確認された。

FP—85（欠番）

FP—86（図III—21，図版14—4）

平面形　円形　　**規模**　0.37×0.36／0.24×0.20／0.15m　　**重複**　なし

特徴　断面が半円状の小型土壙である。

遺物　土器11点（IIIB・2，Va・9），フレイク14点が覆土中から散発的に出土。

FP—87（図III—21，図版14—5）

平面形　円形　　**規模**　0.39×0.36／0.26×0.23／0.10m　　**重複**　なし

特徴　壙底が比較的平らな小型土壙である。

遺物　フレイク1点，礫1点が出土。扁平な礫が土壙のほぼ中央，壙底よりわずかに上の部分で確認された。

FP—88（図III—22，図版14—6）

平面形　円形　　**規模**　0.31×0.30／0.14×0.14／0.13m　　**重複**　なし

特徴　断面が半円状の小型土壙である。

遺物　フレイク2点のみが覆土中から出土。

FP—89（図III—22，図版15—1）

平面形　円形　　**規模**　0.29×0.28／0.15×0.15／0.06m　　**重複**　なし

特徴　残存しているのは壙底に近い部分のみで，断面皿状の小型土壙である。

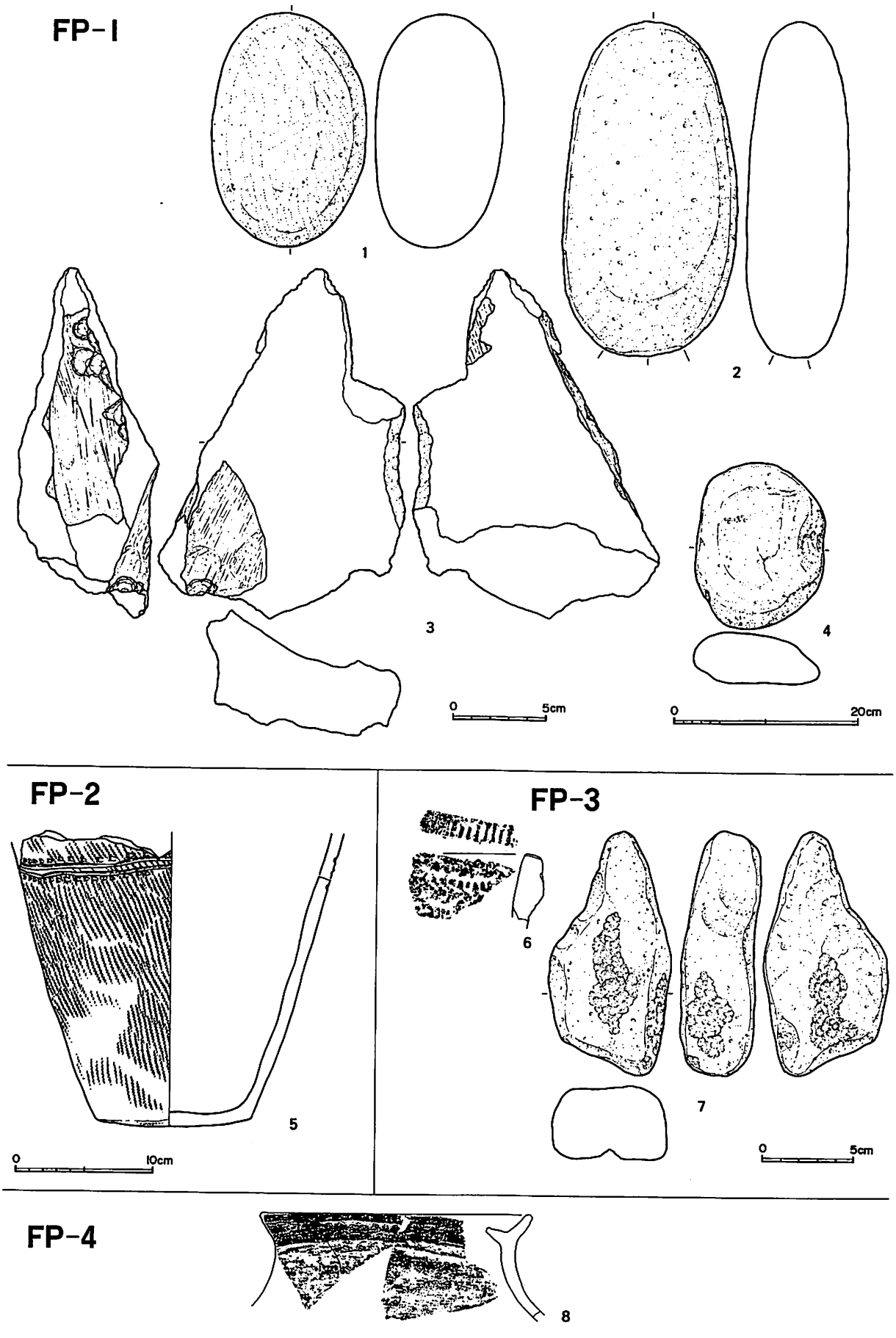
遺物　土器1点（Va），フレイク2点が覆土中から散発的に出土したのみである。

FP—90（図III—22，図版15—2）

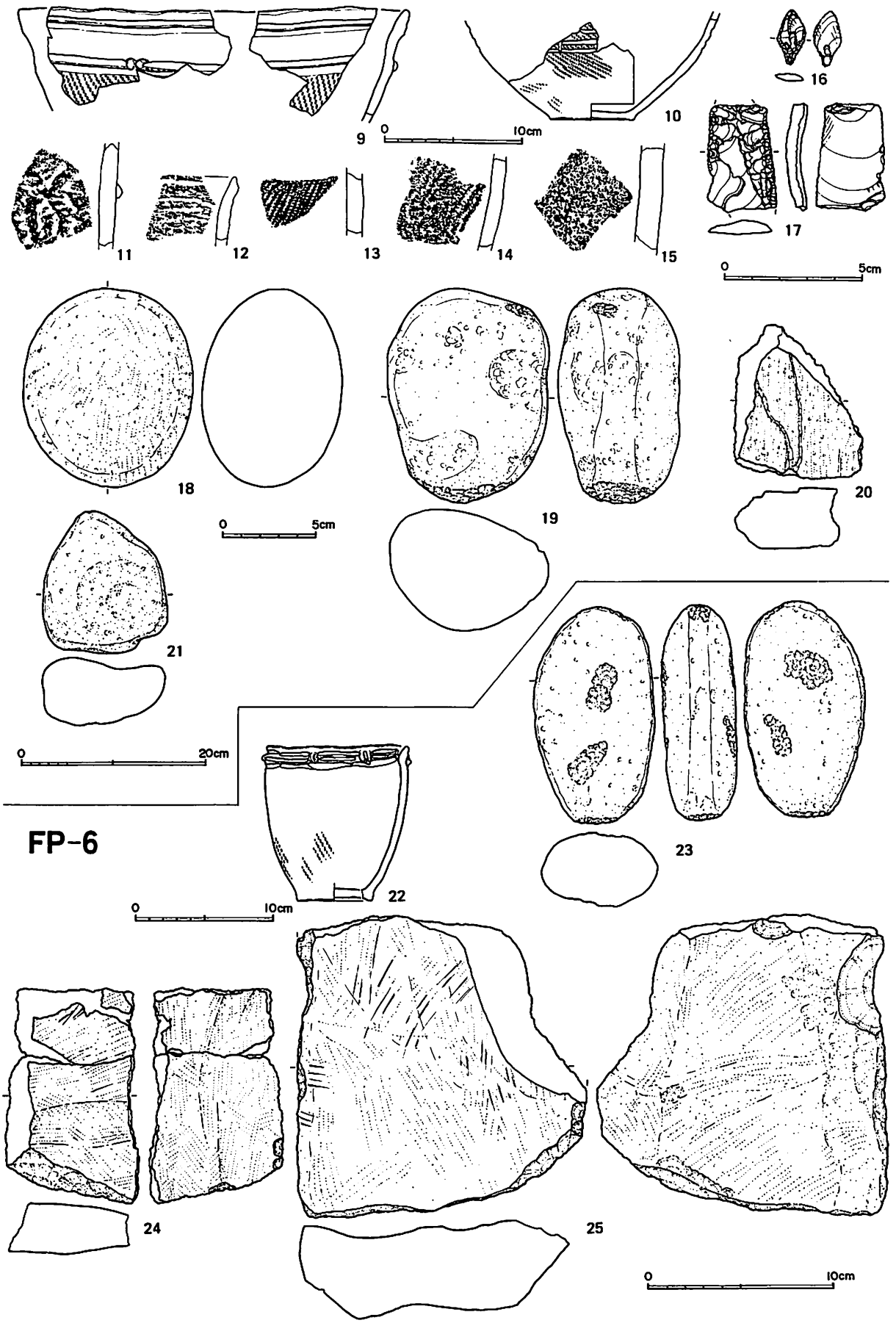
平面形　円形　　**規模**　0.68×0.66／0.48×0.52／0.11m　　**重複**　なし

特徴　壙底は比較的平らで，壁面の傾斜も緩やかである。

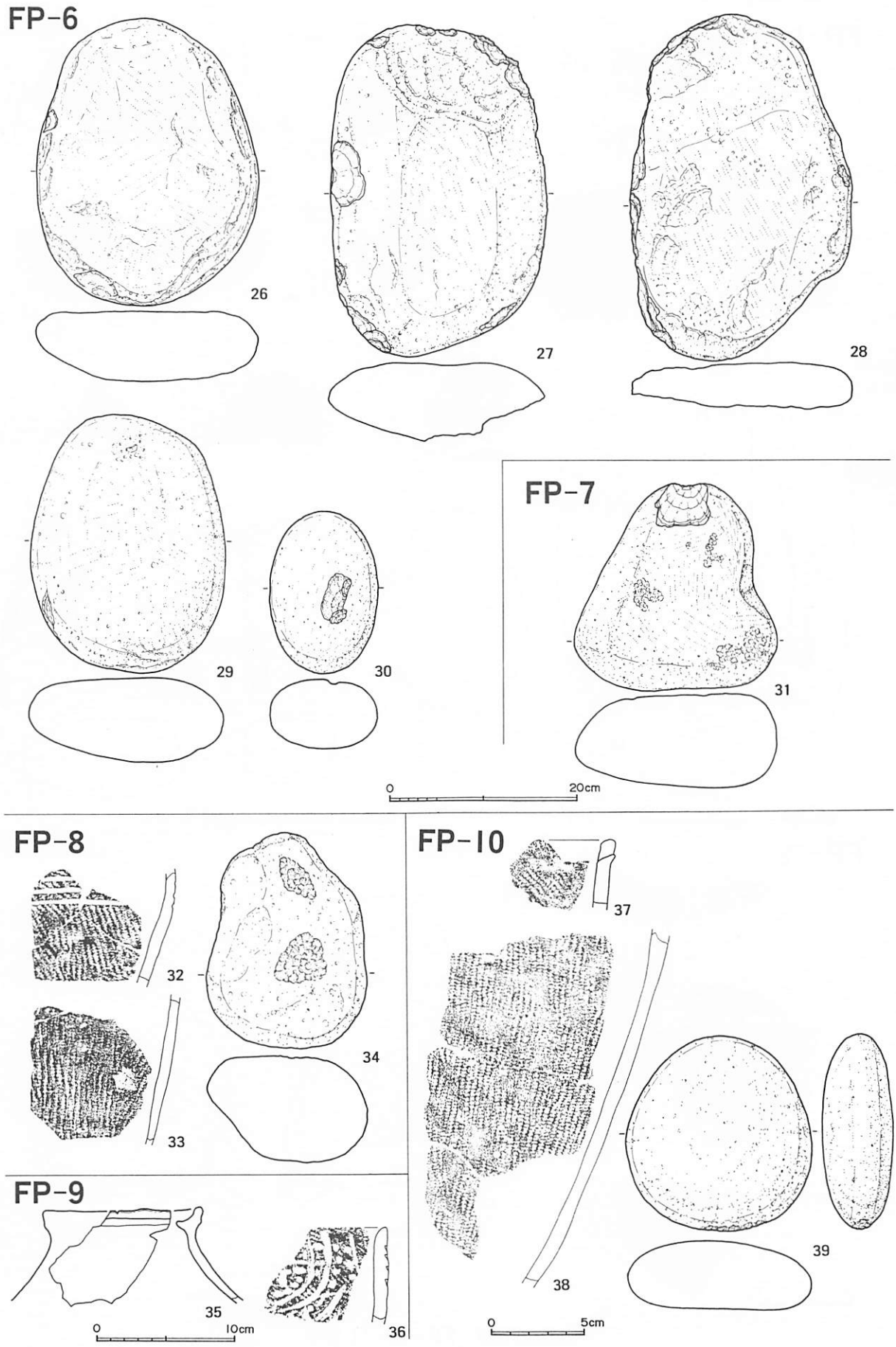
遺物　土壙のほぼ中央，壙底より少し上の部分から焼礫が1点出土したのみである。



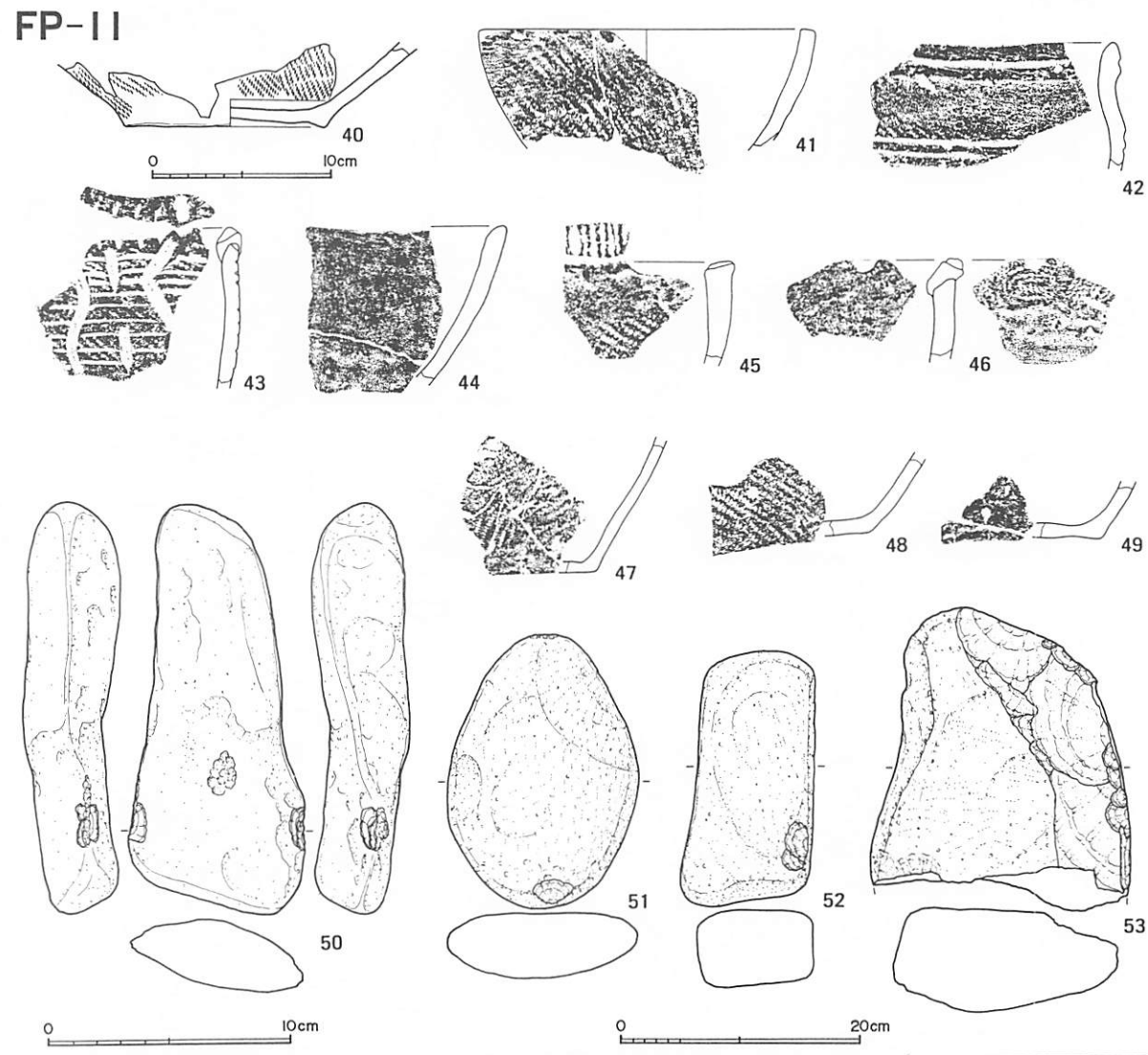
図Ⅲ—24　FP—1～4遺物

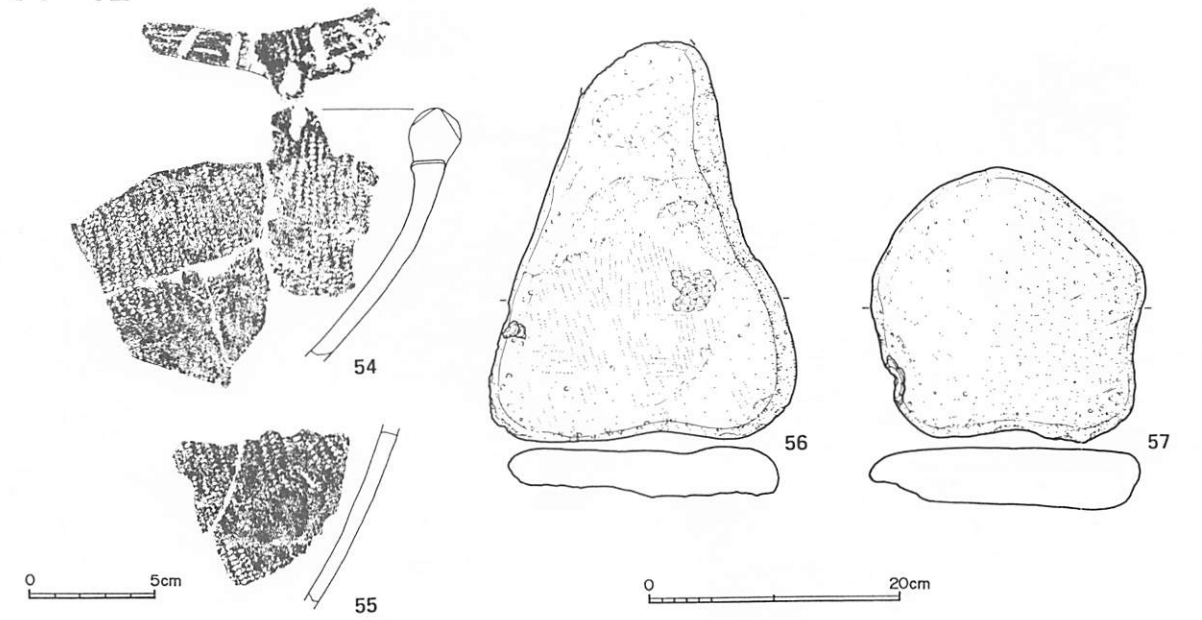

FP-5
9
10
16
11
12
13
14
15
17
0 10cm
0 5cm
18
19
20
21
0 5cm
0 20cm
23
FP-6
22
0 10cm
24
25
0 10cm

図Ⅲ—25　FP—5・6遺物

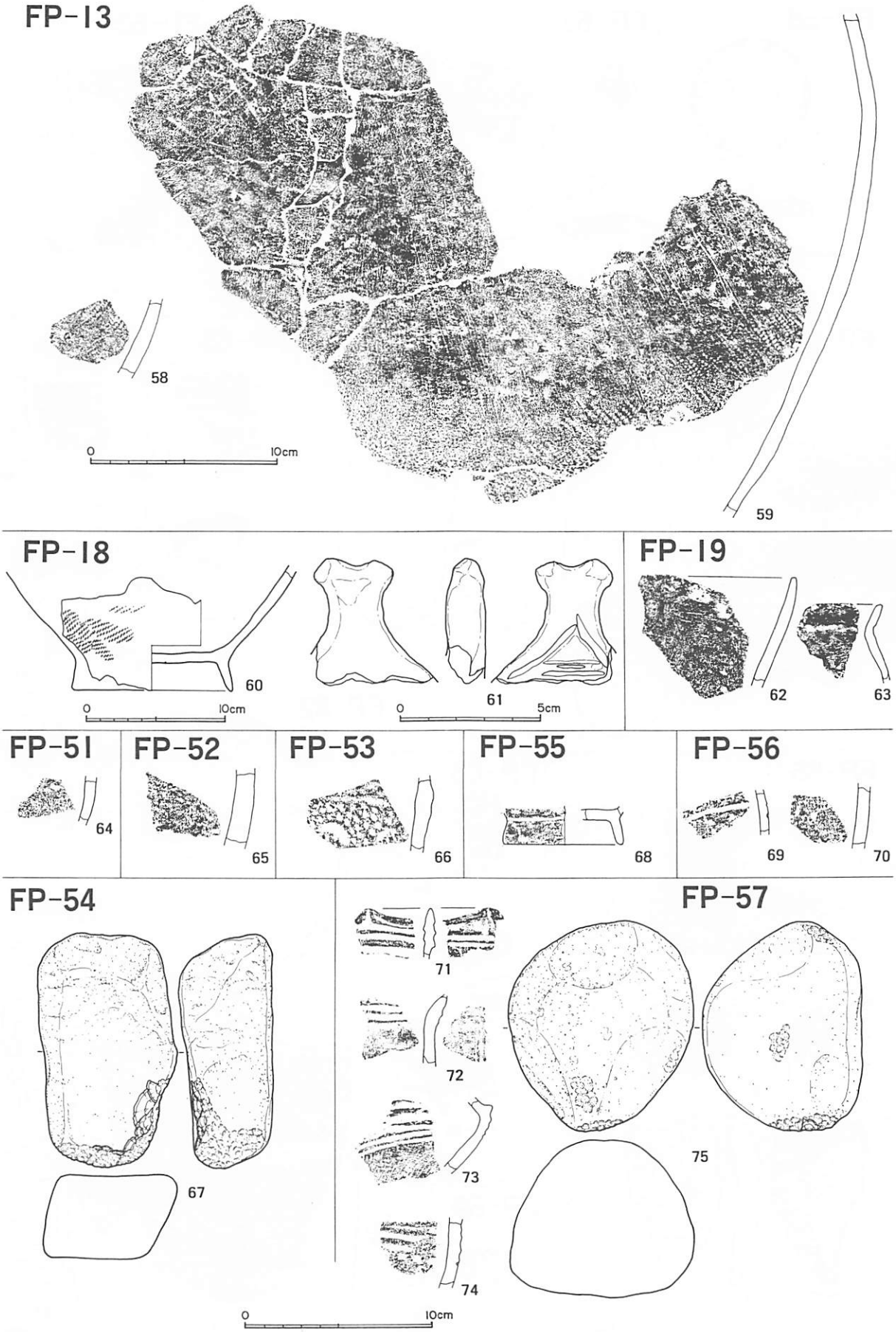


図III—26　FP—6～10 遺物

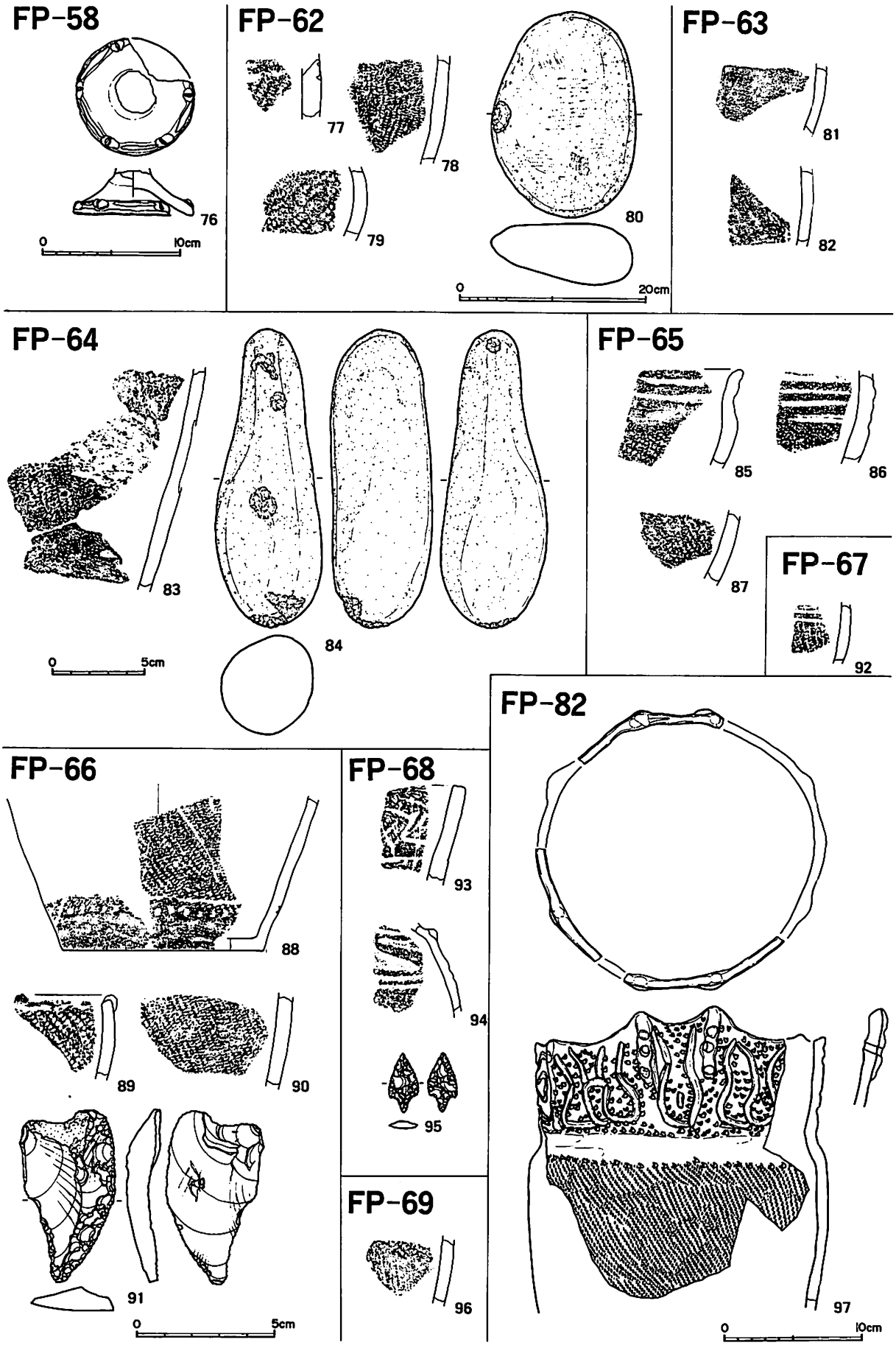




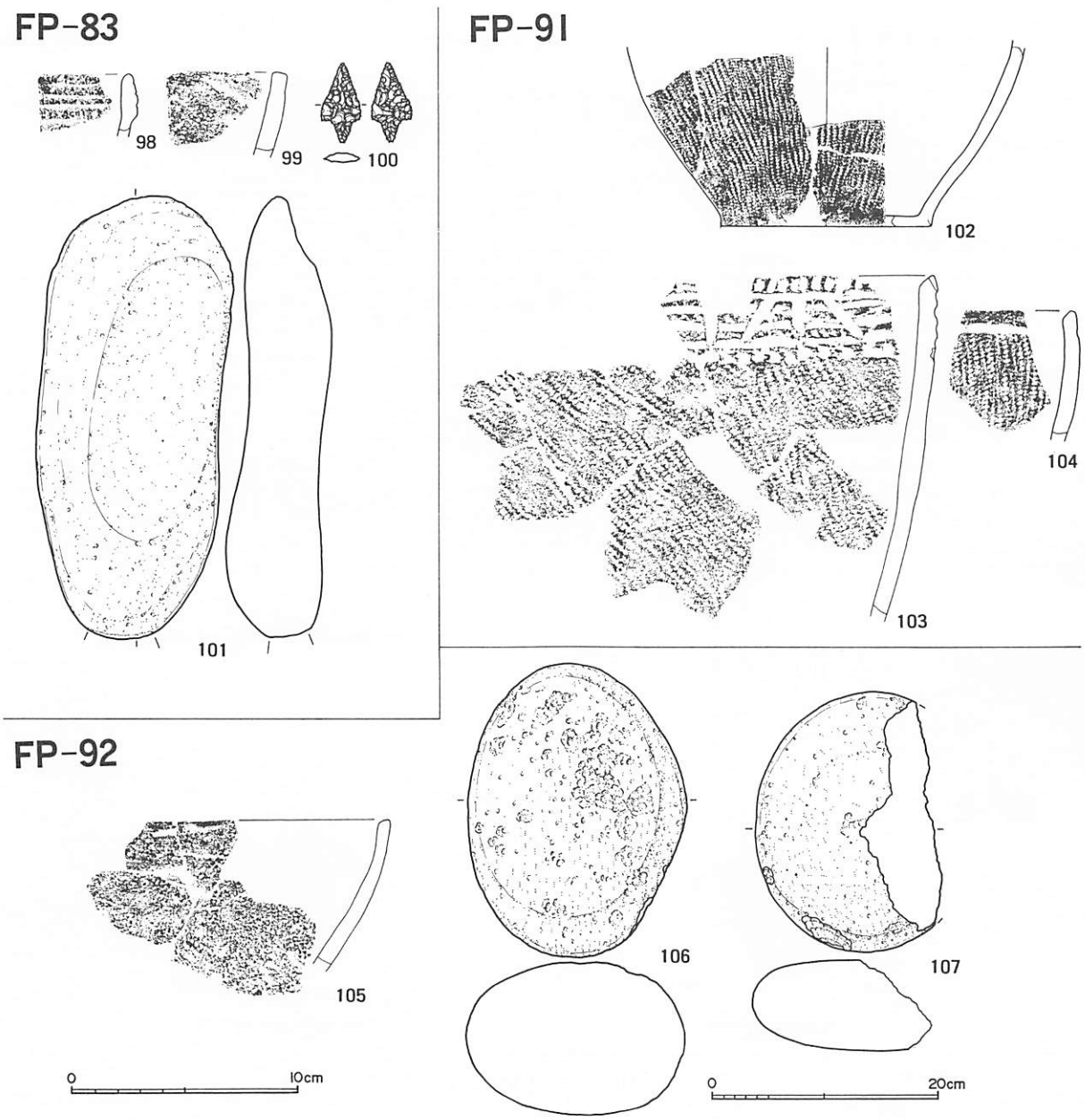
図Ⅲ—27　FP—11・12 遺物



図Ⅲ—28　FP—13・18・19・51～57 遺物



図Ⅲ—29　FP—58・62～69・82遺物



図III—30　FP—83・91・92遺物

FP—91（図III—23・30，図版15—2）

平面形　楕円形　　**規模**　0.70×0.56／0.45×0.36／0.10m　　**重複**　なし

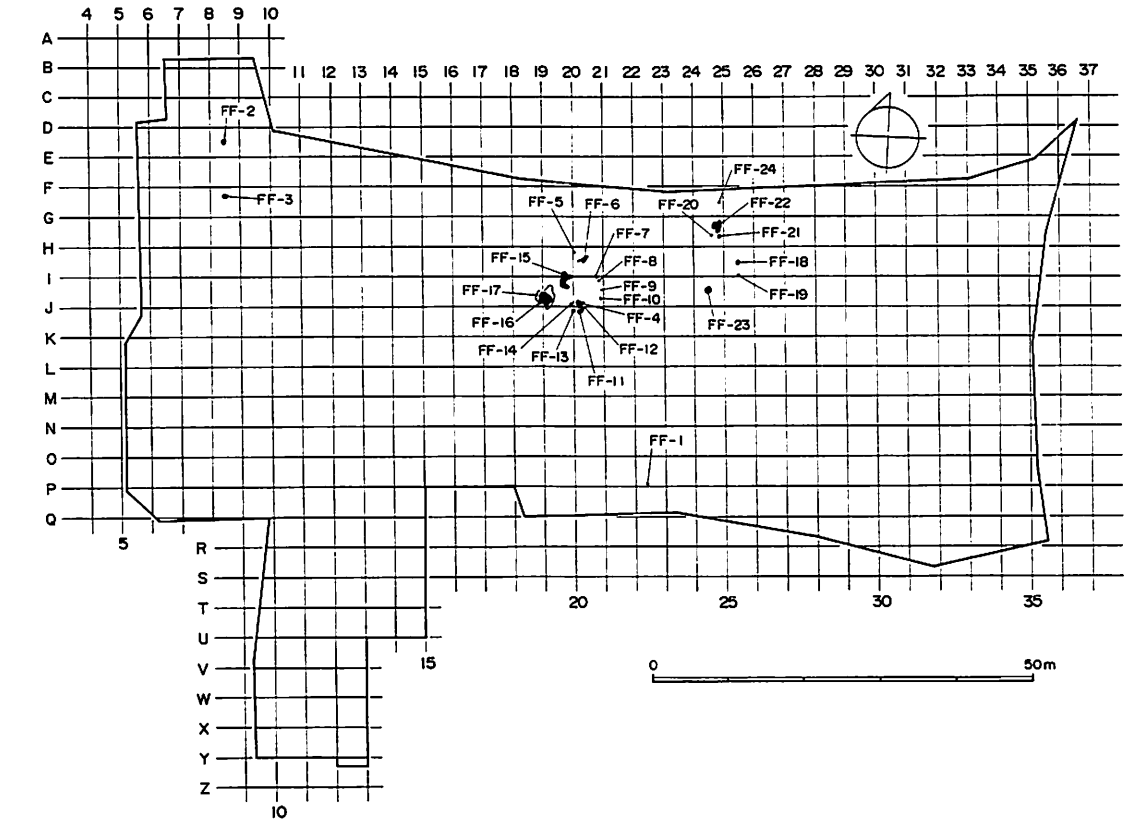
特徴　残存していたのは壙底に近い部分だけで，断面が皿状の土壙である。

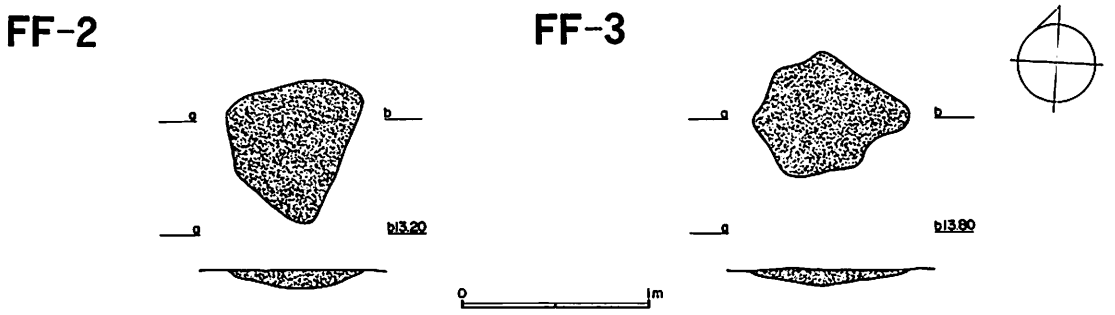
遺物　土器48点（Va・18，Vb・30），フレイク4点，Uフレイク1点，礫△4点，焼礫2点，礫14点が出土。遺物は土壙全域で確認されたが，礫類はドーナツ状に分布している。102はV群a類，103・104はV群b類土器である。102は縦位の縄文が施された体部下半から底部にかけての破片，103・104の口唇断面は切り出し状で，103には4条の沈線とその縦ないし斜めの短い沈線と刺突文，104には口縁部に1条の沈線が施されている。

FP—92（図III—23・30，図版15—4・5）

平面形　楕円形　　**規模**　0.73×0.57／0.57×0.35／0.09m　　**重複**　なし

特徴　壙底は若干の凹凸がみられるが，比較的平らである。残存しているのは壙底に近い





図Ⅲ—31　FF—2・3

部分だけである。

遺物　土器13点（Vb），石皿・台石２点，礫△３点，礫２点が出土。礫石器，礫類は壙底より少し上の部分で，２列に連らなって確認された。105は鉢形土器の破片で，口唇断面は切り出し状，体部には斜行縄文が施されている。

(2)　焼　　土

確認された焼土は２カ所（FF—2・3），いずれも調査区域の北側（D・F—8）にある。時期は周囲にあるII群土壙同様縄文時代晩期と考えられる。

FP—2（図Ⅲ—31）大きさは0.80×0.76m，最大厚10cm，遺物は出土していない。

FP—3（図Ⅲ—31）大きさは0.82×0.66m，最大厚８cm，FF—2同様遺物は出土していない。

(3) 包含層の土器（図III—32～36）

A地区は縄文時代早期（I群B2類）から擦文時代（Ⅶ群）までの土器が出土している。そのうちV群がもっとも多く，III群B1類がそれに続く。また，本遺跡の土器の多くを占めるII群B類・III群B3類が少なく，C地区との違いを明瞭に示している。

II群B1類（1）

1は体部破片で，撚り戻しの縄文が斜位に施されている。

II群B2b類（2・3）

2は切り出し状の口唇部断面で，口縁部に縄線文・縄圧痕文が施され，体部は斜行縄文である。3は口唇部・頸部に縄線文が施されている。

II群B2c類（4～7）

4は口唇部・頸部に絡条体圧痕文が施されたものである。口唇部断面は切り出し状の口唇部下端に半截竹管状工具による刺突文が加えられている。5は頸部に鋸歯状の絡条体圧痕文が施されている。6は頸部に，7は口唇部に絡条体圧痕文が施されているものである。

III群B1類（8～55・78～82）

A地区出土の本類は，いずれも胎土に砂粒を多く含み脆弱である。口縁部・突起が未発達のものが多く，サイベ沢Ⅶa式と天神山式の間に位置付けられ，萩ヶ岡1・2式に類似するものと思われる。それらは文様構成からさらに4つに分けられる。縄線文と刺突文とが組み合わされているもの（8～11），絡条体圧痕文と刺突文とが組み合わされているもの（13～15），刺突文ないし押引文のみのもの（13・16～32），縄文のみのもの（33～39）がある。貼付帯は突起から「Y」字状に垂下するものがほとんどで，半截竹管状工具による刺突文・押引文が加えられている。24は口唇部に半截竹管状工具による刺突と沈線が組み合わされている。40～56は体部破片である。40～52は，半截竹管状工具による刺突文・押引文が施された貼付帯・貼付紐があるもの，51は「S」字状に垂下する貼付帯と沈線が組み合わされているもの，53は半截竹管状工具内面の沈線と棒状工具による沈線文が組み合わされたものである。54は2本一組の沈線文が施されている。55は押引文が施されたものである。42の体部文様は結束羽状縄文であるが，ほとんどのものは斜行縄文である。56は横環する沈線と垂下する「S」字状の沈線文が組み合わされたものである。78～82は底部である。いずれも斜行縄文が施され，底面にも縄文が加えられているものもある。

III群B2類（57）

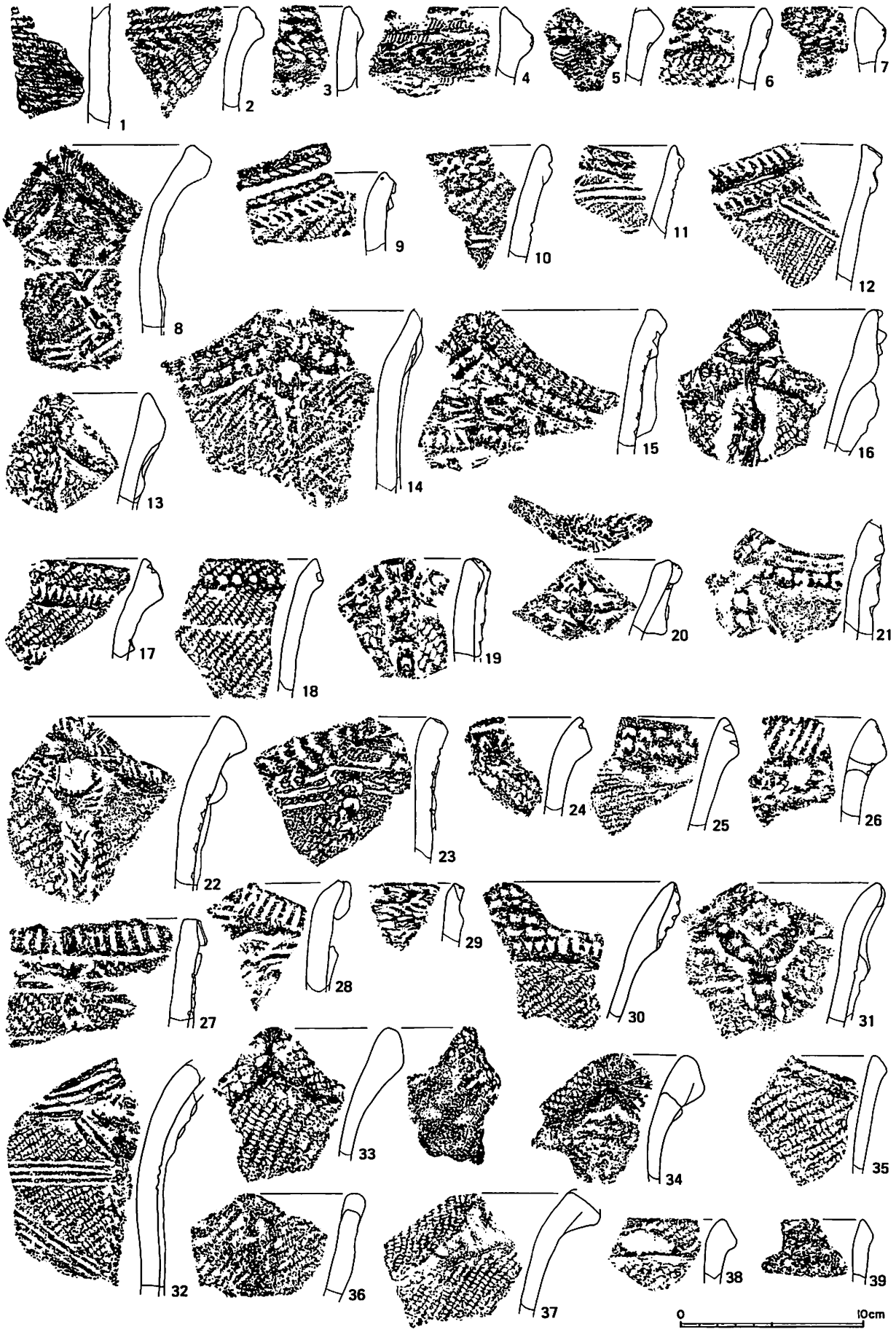
57は円形刺突文が加えられた縦位の貼付帯が施され，体部は不規則な斜行縄文である。

III群B3類（58～62）

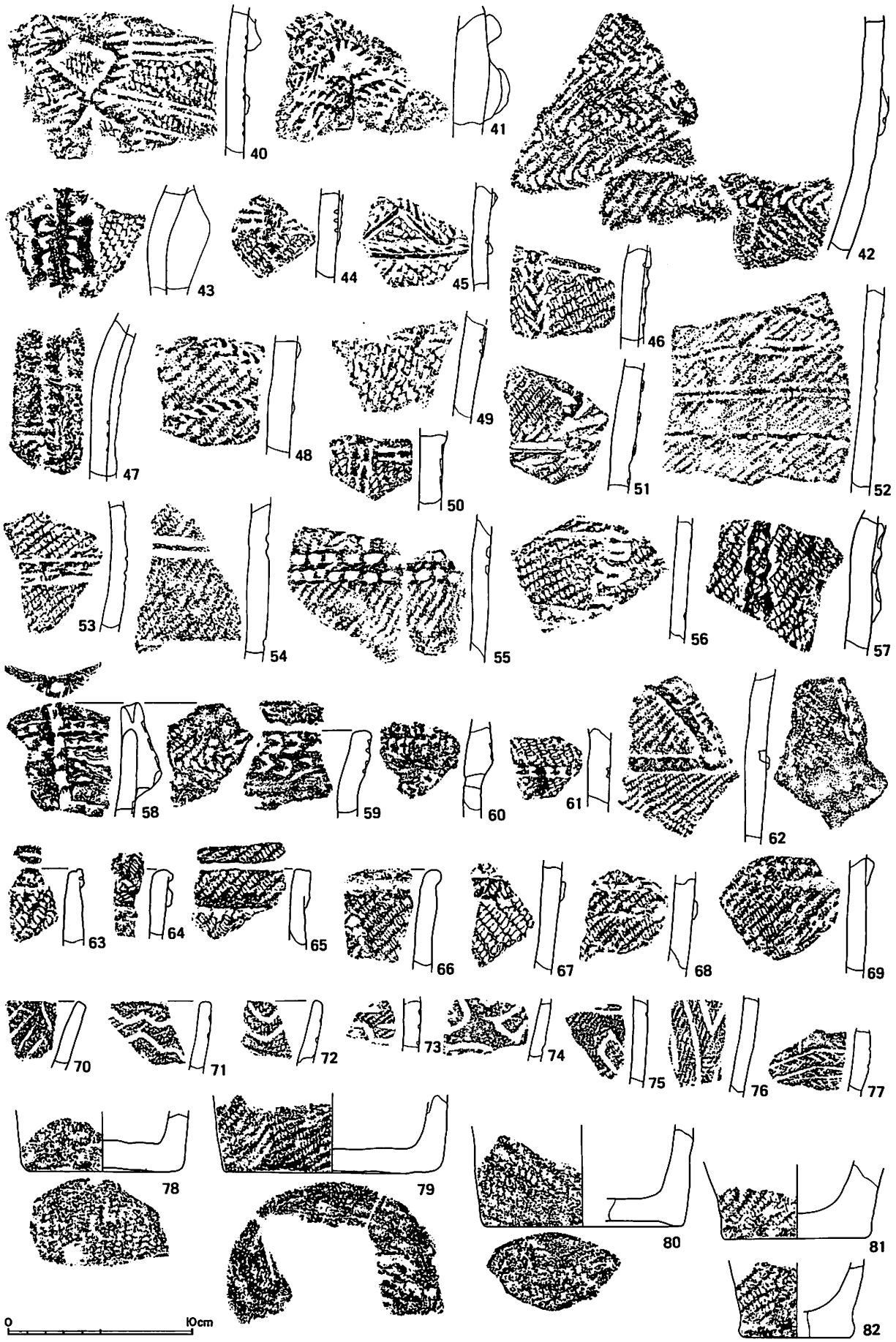
58～60は口縁部破片である。58の口唇部断面は切り出し状で，篦状工具による押引が施されて，突起頂端部に棒状工具による刺突が加えられている。内面に結束羽状縄文が施されている。59の口唇部断面は角形で，半截竹管状工具内面による押引が施されている。61・62は体部破片，62は羽状縄文の地文上に縄文が施された貼付帯が加えられ，貼付帯の交点に円形刺突が加えられている。

IV群A類（63～77）

本類は文様構成から余市式土器に類似するもの（63～69）と十腰内系土器群に類似するもの（70～77）に分けられる。63は口縁部に刺突が加えられた貼付帯があり，体部は斜行



図Ⅲ－32　A地区包含層の土器（1）



図Ⅲ－33　A地区包含層の土器（2）

縄文である。64・65は口縁部に貼付帯をもつもので，64は貼付帯上に縄線圧痕文が加えられているもの。66は丸味をもつ口唇部断面で，縄線圧痕文が加えられている。67～69は体部破片，70～72は口縁部破片である。いずれも口唇部断面が角形気味で，地文上に鋸歯状の沈線文が加えられている。73～77は体部破片である。73は「Z」字状の沈線文，74～76は沈線文が描かれている。77は小型土器，口唇部断面は角形で，体部は細い沈線に区画された「く」字状の沈線文と刻目文が施されている。

V群a類(83・84・86～139)

皿形（86）

86は底部破片，無文地の体部・底面に連繋入組文が施されている。

浅鉢形（83・84・87～106）

83は内面に刻み目のある切り出し状の口縁部に，頸部に3条の沈線が加えられている。84～89は頸部に幅広の無文帯をもつものである。84は台付きで，頸部は2条の沈線で区画され，体部は無文である。87は「V」字状の粘土紐で2個一対の小突起を作出し，頸部下端部は沈線とB状突起と組み合わされている。90は連繋入組文が施され，体部外面に赤色顔料の付着がある。91は横位連続工字文である。92・93は頸部に数状の沈線文が施されているものである。94～96は口唇突起部分で，頸部形態は不明である。97は口唇部内面に刻みをもつ。98は幅の狭い無文帯をもつもの，99～101は明瞭な頸部をもたないものである。102～105は体部破片で，いずれもA状突起をもつ。106は斜行縄文のみのもので，内面に2条の沈線が加えられている。

深鉢形（107～119・121～130）

107～127は口縁部破片である。107～112・121は頸部に無文帯をもつもので，107～110は幅広のもの，111・112・121は幅の狭いものである。113～115は頸部に数条の沈線が施されるものである。116～119・122～126は明瞭な頸部が認められず，口縁部に数条の沈線が施されたものである。126は口縁部に幅広の沈線が4条施され，体部は擦痕文である。127～134は体部破片，127は連繋入組文，130は無文の幅広の無文帯をもち，体部に縦位の縄文が施されている。134は頸部に無文帯をもち体部は擦痕文である。

壺形（135～139）

135・136は口縁部で，135は無文，136は口縁部に浅い2条の沈線が施されている。

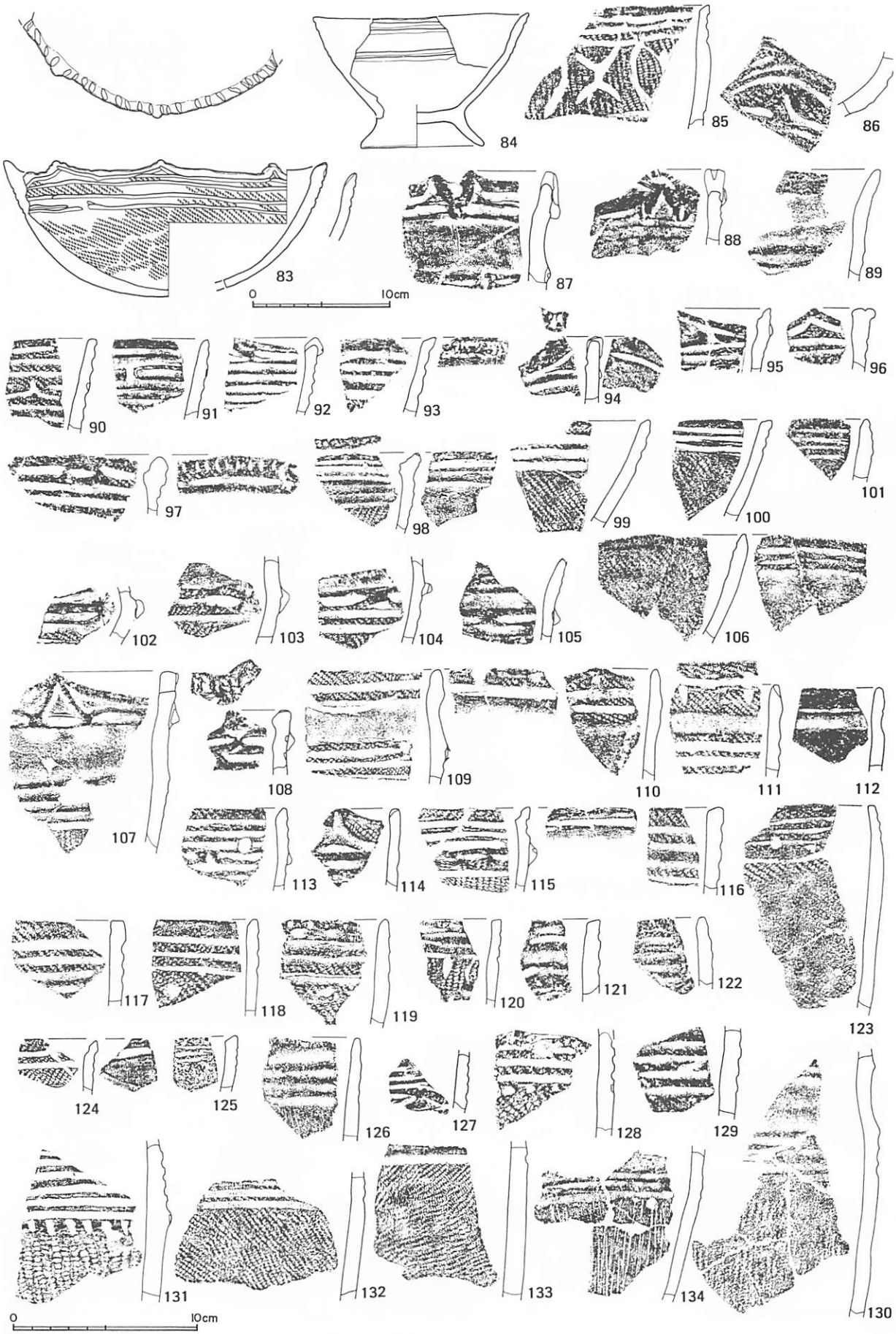
V群b類（85・140～185）

浅鉢形（140・153～171・181）

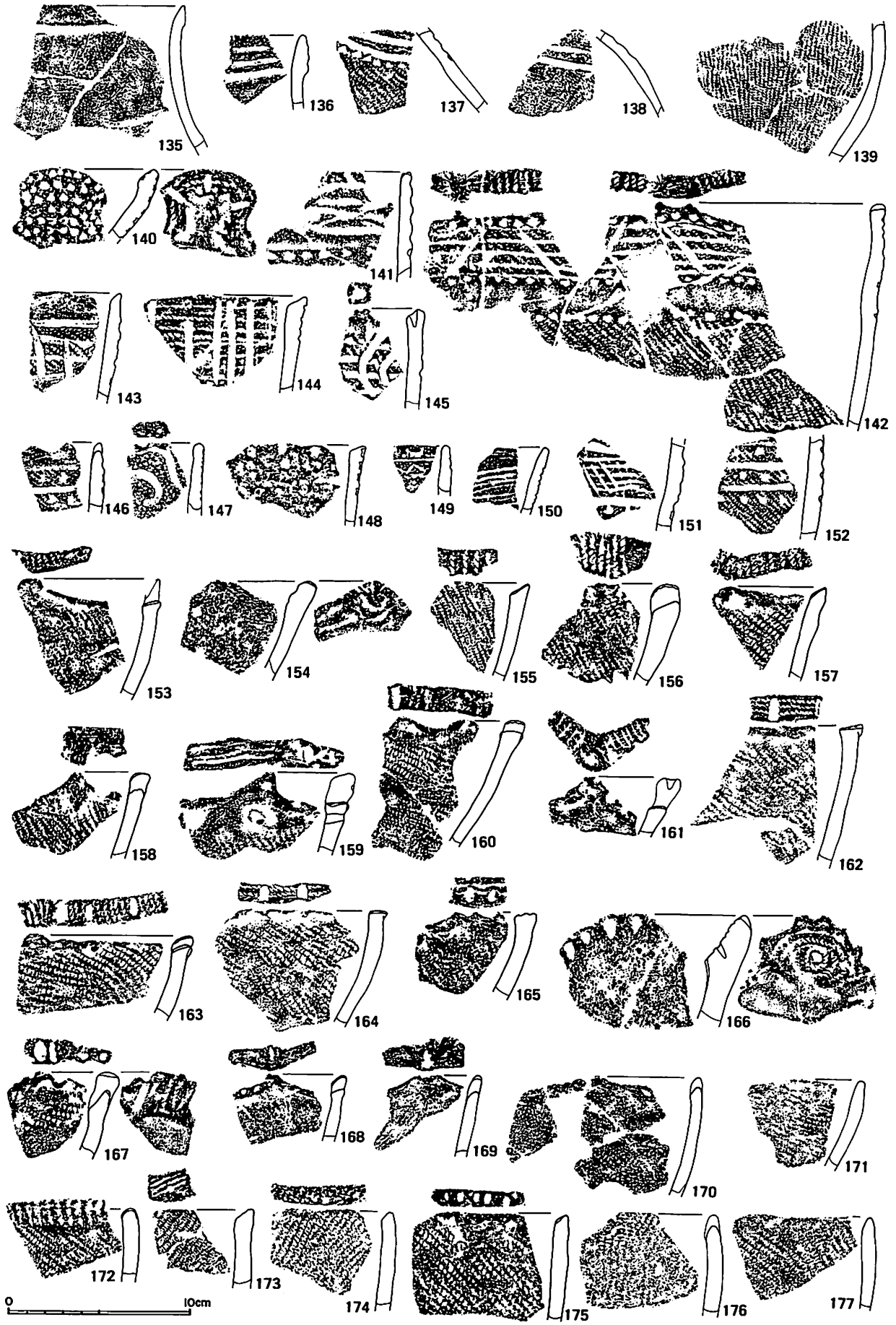
口唇内面の文様が縄圧痕文のみのもの（153～157・168），撚糸圧痕文のみのもの（158・181），縄圧痕文と棒状工具の圧痕・刺突が組み合わされているもの（159～567），棒状工具の圧痕のみのもの（169），口唇部内面に文様をもたないもの（170・171）がある。いずれも体部に斜行縄文が施されている。158は突起下部の体部に，161は突起頂端部に，刺突文が加えられている。166・168は口唇部の外面に棒状工具の圧痕がある。181は無文の頸部をもつ。

深鉢形（141～152・172～180・184・185）

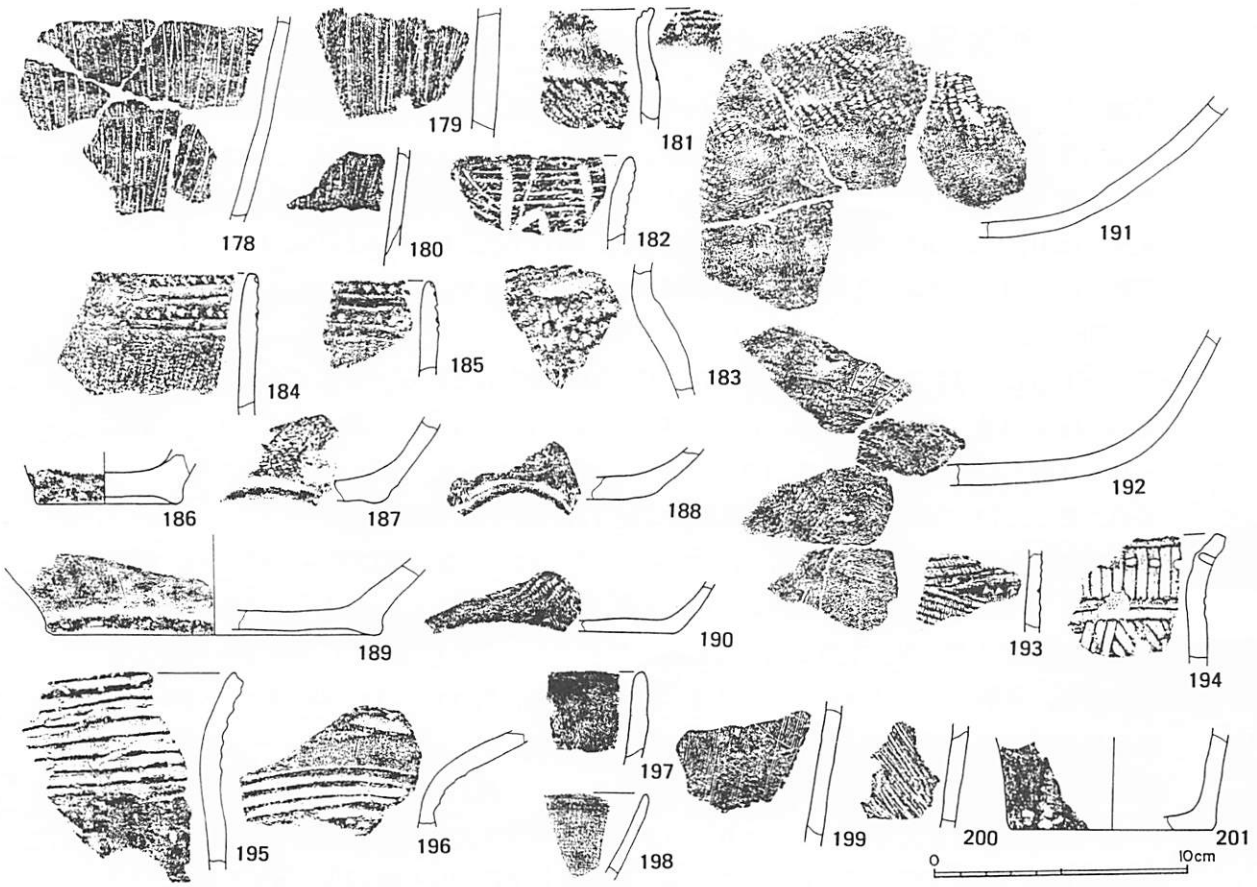
141～150・172～177・184・185は口縁部である。141は刺突文に区画された頸部に入組文的な文様が描かれている。口縁部文様には，縄線文と沈線文が組み合わされたもの（142・144），沈線文と刺突文のもの（143・145～150）がある。172～177は口縁部文様がないもの



図Ⅲ－34　A地区包含層の土器（3）



図Ⅲ－35　A地区包含層の土器（4）



図III－36　A地区包含層の土器（5）

で，口唇部の内面に172は縄圧痕文，173・174は縄文，175は棒状工具の圧痕が加えられている。

なお，184・185は同一個体で口縁部に浅い沈線文と刺突文が施されている。類例が少ないため本類に含めた。151・152・178～180は体部破片である。

壺形（182・183）

182は地文上に沈線が描かれている。183は無文の頸部で，体部は櫛歯状工具の刺突文が施されている。

186～192は底部で，186・187・189は揚げ底，188・190は平底，191・192は丸底である。

VI群（193）

193は細い貼付紐と縞縄文・三角の刺突文が施されている。

VII群（194～201）

194は小型土器で，外面は微隆起線文が多用され，口縁部直下に先端の尖った棒状工具による刺突文が加えられている。195は口頸部に沈線文が多用されている。196は口頸部が強く外反し，頸部に沈線が施されている。197は段が認められる内黒の坏で，横ナデ調整である。198は須恵質土師と思われる口縁部破片である。199・200は擦痕が認められる体部破片，201は平底の底部である。

(4) 包含層の石器（図III—37～43）

石鏃（1～65）98点出土しており，その内訳は無茎平基（Ia）1点，無茎凹基（Ib）8点，有茎凹基（IIb）5点，有茎凸基（IIc）71点，偏菱形（IId_2）3点，五角形（IId_3）1点，木葉形尖基（IIIa）1点，木葉形円基（IIIb）3点，不明（Ⅳ）5点である。1～7は，Ⅰb，8～11はIIb，12～57・62はIIc，58～60はIId_2，61はIId_3，63・64はIIIb，65はIIIa。

石錐（66～69）4点出土しており，全例図示した。すべて柄と機能部の区分が不明瞭なもの（IIb）である。

ポイントもしくは両面加工のナイフ（70～79）31点出土している。有茎でかえしが明瞭なもの（Ia_1）3点，不明瞭なもの（Ia_2）2点，茎部（Ⅰ—）4点，木葉形（II）3点，不明（Ⅳ）19点となっており，Ⅳ類19点の内訳は尖端部（a）5点，身部（b）6点，基部（c）8点である。70～72はIa_1，73・74はIa_2，75～77はII，78・79はⅣa。

つまみ付きナイフ（80～88）14点出土している。その内訳は縦形周辺加工（Ia）2点，縦形片面加工（Ib）8点，縦形両面加工（Ic）1点，斜形周辺加工（IIa）1点，斜形片面加工（IIb）1点，不明（Ⅳ）1点となっており，横形のもの（III）は出土していない。80はIcであるが，有柄のナイフの可能性もある。81～85はIb，86・87はIa，88はIIaである。

スクレイパー類（89～106）122点出土しており，このうちエンドスクレイパー（E）は9点で，他は両面加工のもの（Ⅰ）13点，片面加工のもの（II）22点，周辺加工のもの（III）60点，尖頭状の刃部を有するもの（Ⅳ）3点，抉入りもしくは鋸歯状の刃部を有するもの（Ⅴ）4点，不明（Ⅳ）11点となっている。89～96はEII，97・98・100・101はIIa，99はIII—，102・103はⅣ，104・105はⅤ，106はIIIaである。

楔形石器（107～120）21点出土している。相対する縁辺に潰れたような細かい剝離痕が認められ，109・110・113・115の側面は裁断面となっている。図示していないものも含めて，全例黒曜石である。

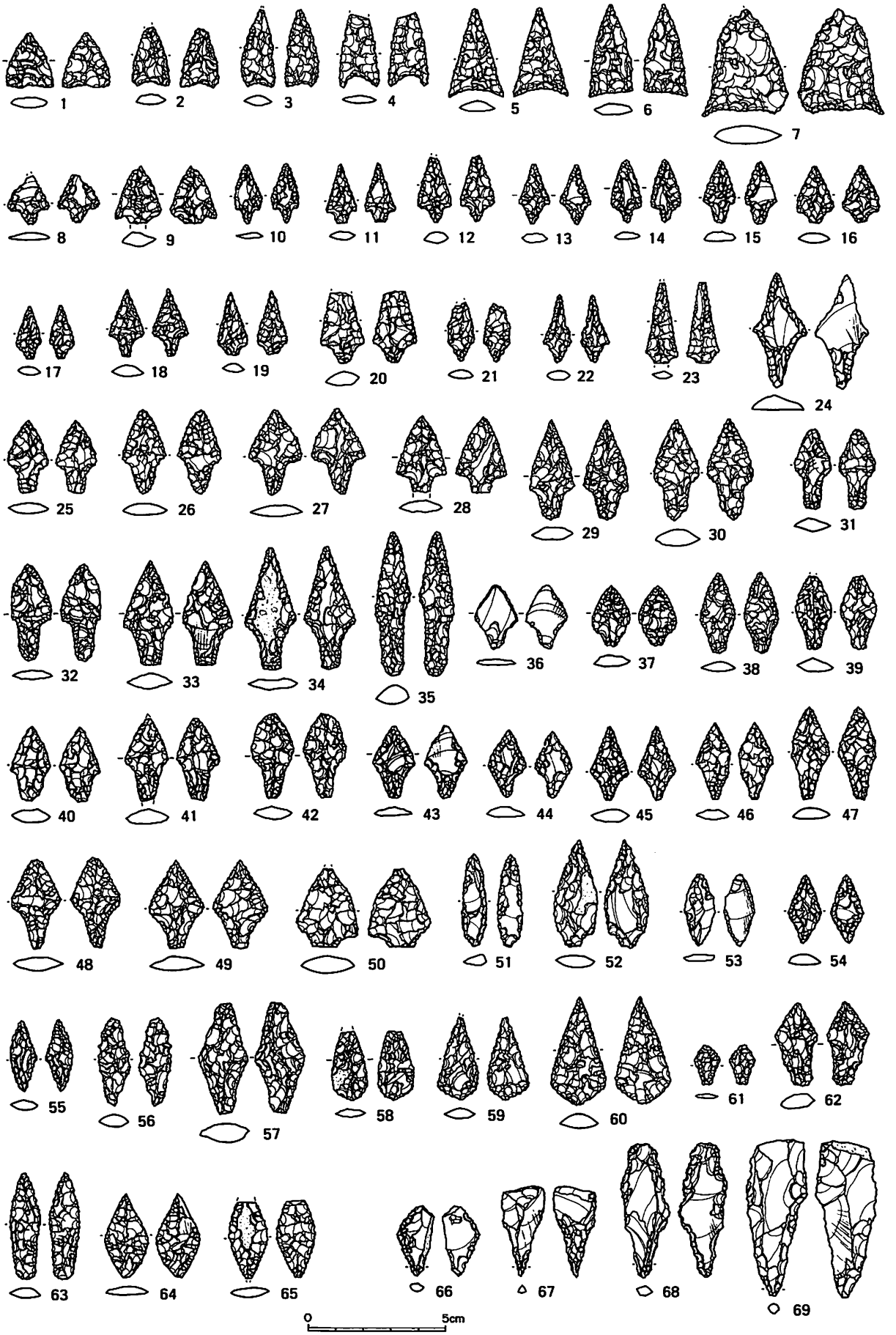
石斧（121～131）17点出土しており，撥形を呈するもの（Ⅰ類）3点，短冊形を呈するもの（II類）5点，乳棒状のもの（III類）2点，不明（Ⅳ類）7点である。刃部の形状では，曲刃（a）4点，直刃（b）4点，斜刃（c）3点，不明（—）6点となっている。121はIb_1，122・123はⅠ—，124・125はII—，126・129はIIa_2，127はⅣc_2，128はⅣb_2，130はIIIa_2，131はIIIc_2である。石材は緑色泥岩，蛇紋岩，片岩および変玄武岩（第Ⅳ章参照）と多彩である。

すり石（132～139）31点出土している。132～137は礫の一側を使用したものである。138は両側端部を使用しており，その結果両端とも尖頂を呈している。139は円礫の端部を使用したものである。

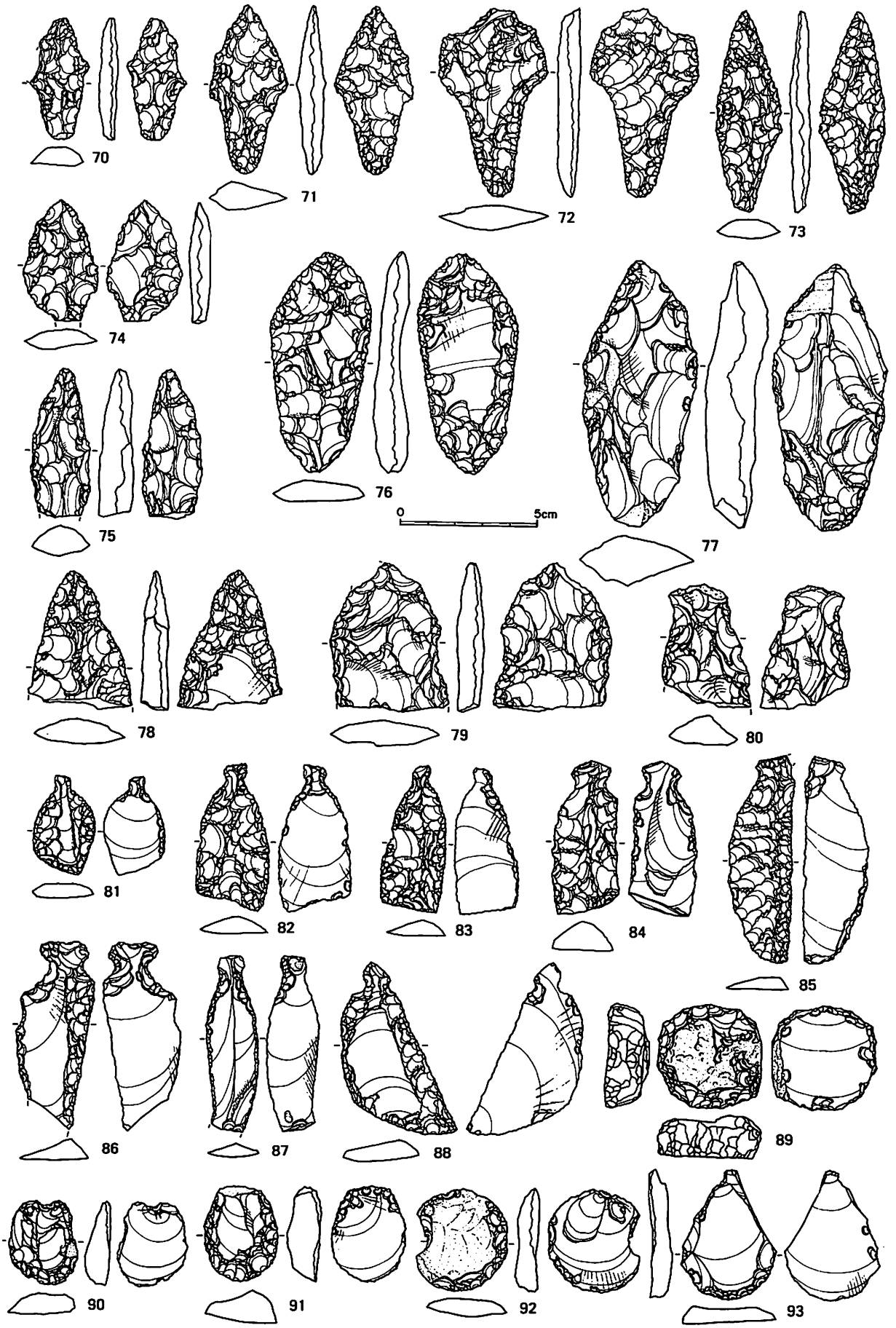
球石（140・141）32点出土している。肉眼では使用痕が判然としないが，すり石もしくはたたき石としての機能が考えられる。

たたき石（142～150）65点出土している。142は楕円球礫の一端に，143～146はほぼ全周に，147～149は長軸の両端に，150は両端と一側縁にそれぞれ使用痕が認められる。石材では珪岩，強変質酸性火山岩，安山岩が多用されている。

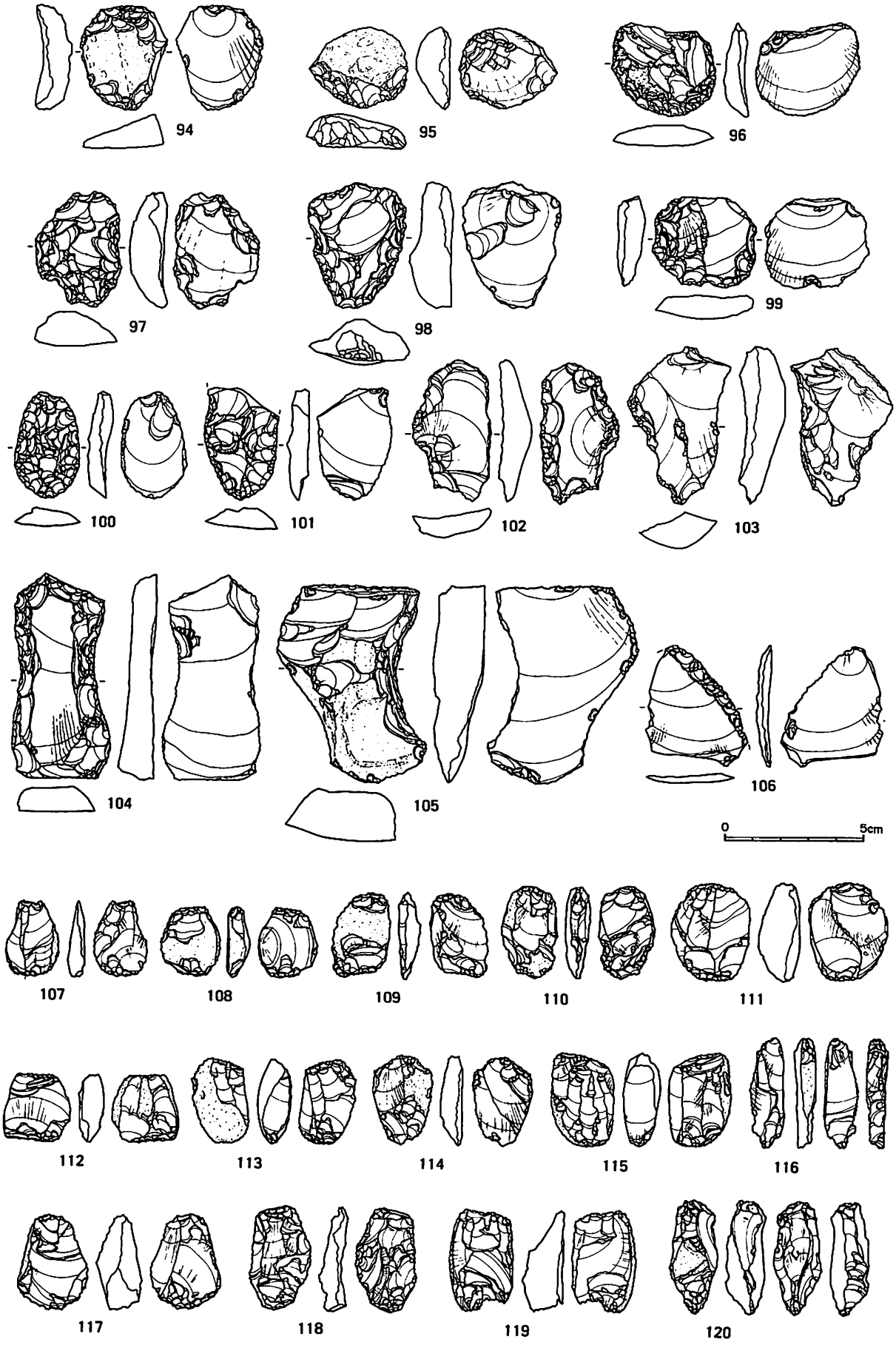
くぼみ石（151～155）6点出土している。151は縦横に破損しているが，両面二カ所に使用痕があったものと推される。152は両面二カ所に浅いくぼみがある。153は片面二カ所にく



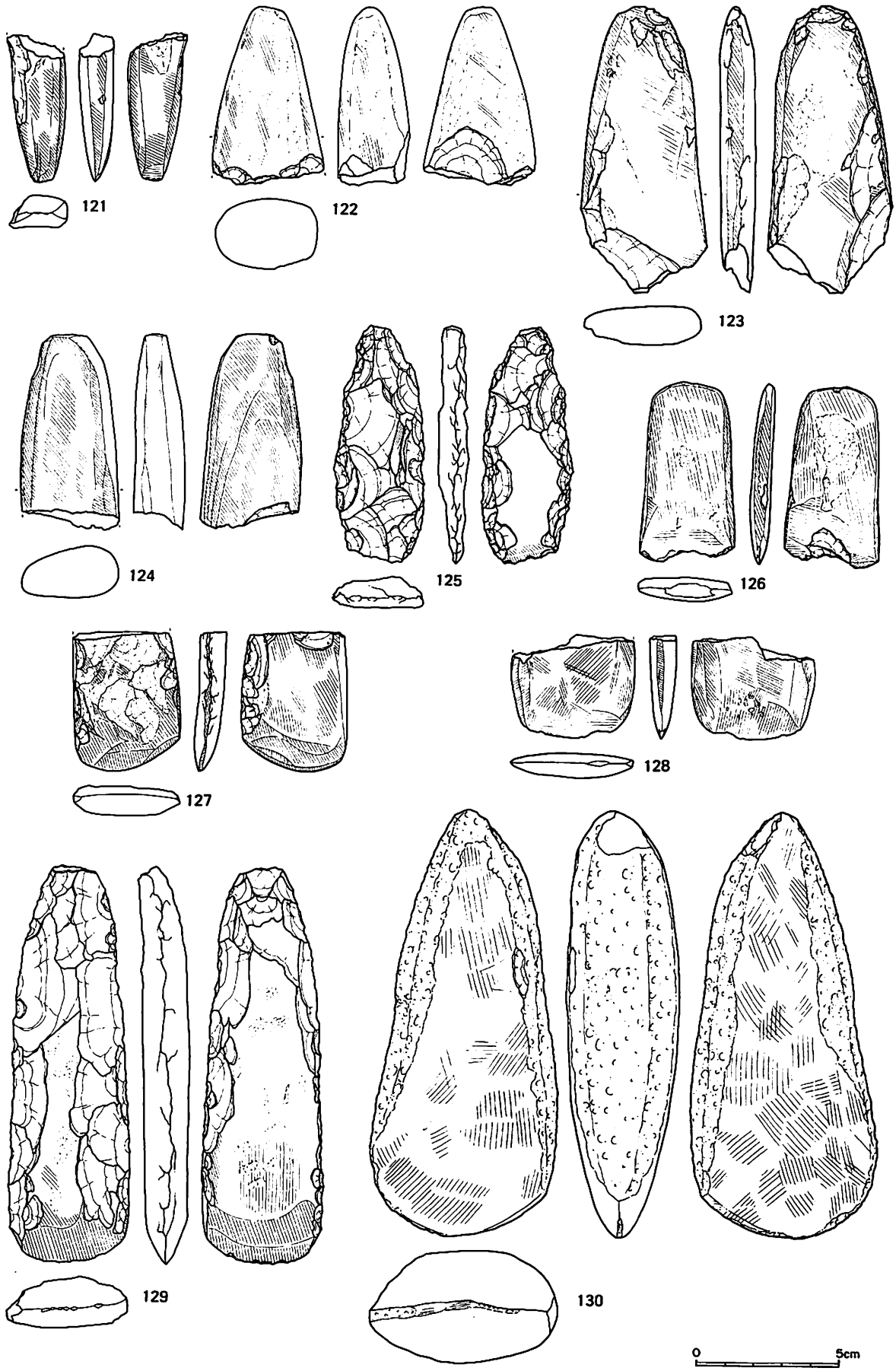
図Ⅲ－37　A地区包含層の石器（1）



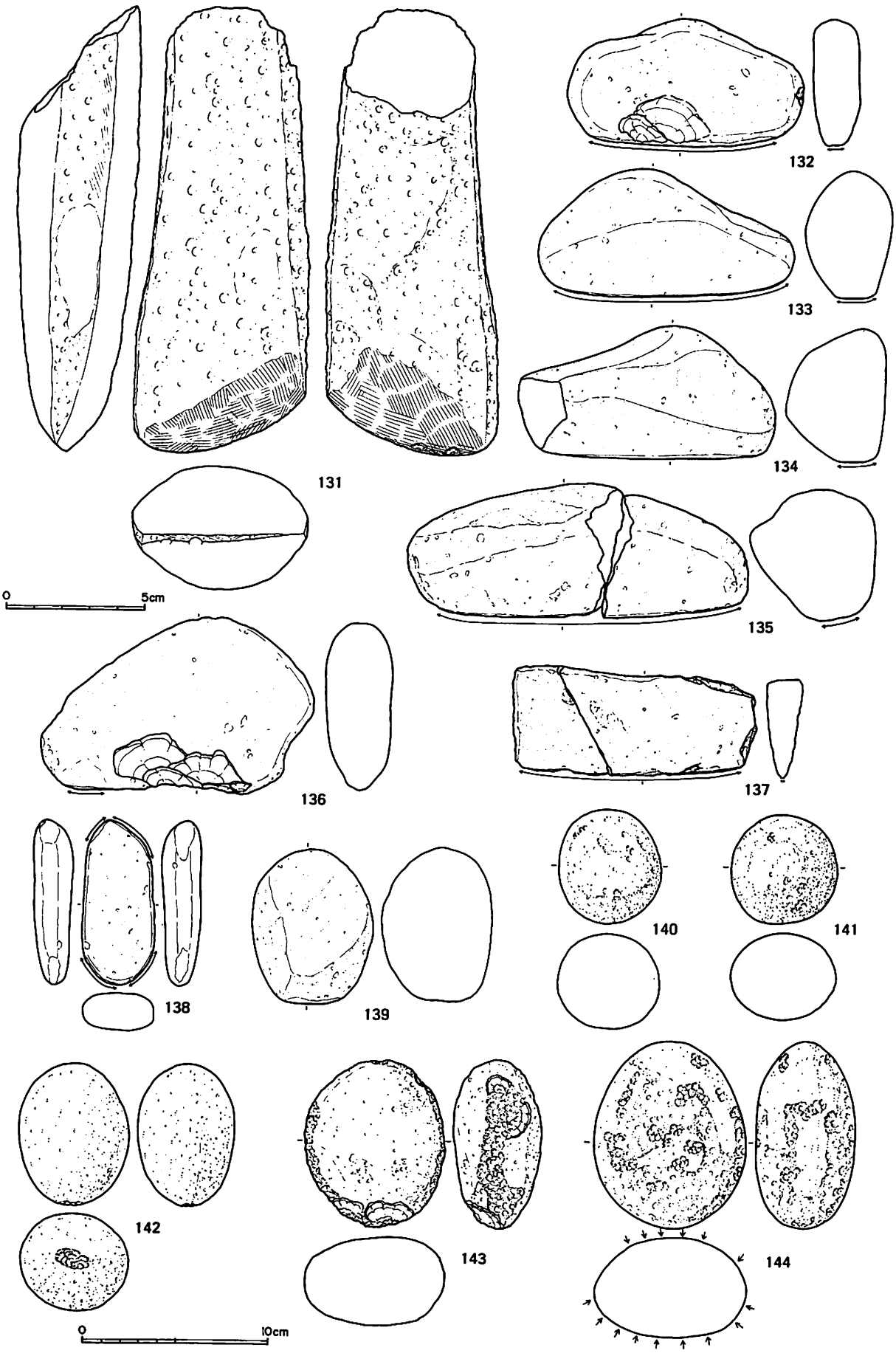
図Ⅲ－38　A地区包含層の石器（2）



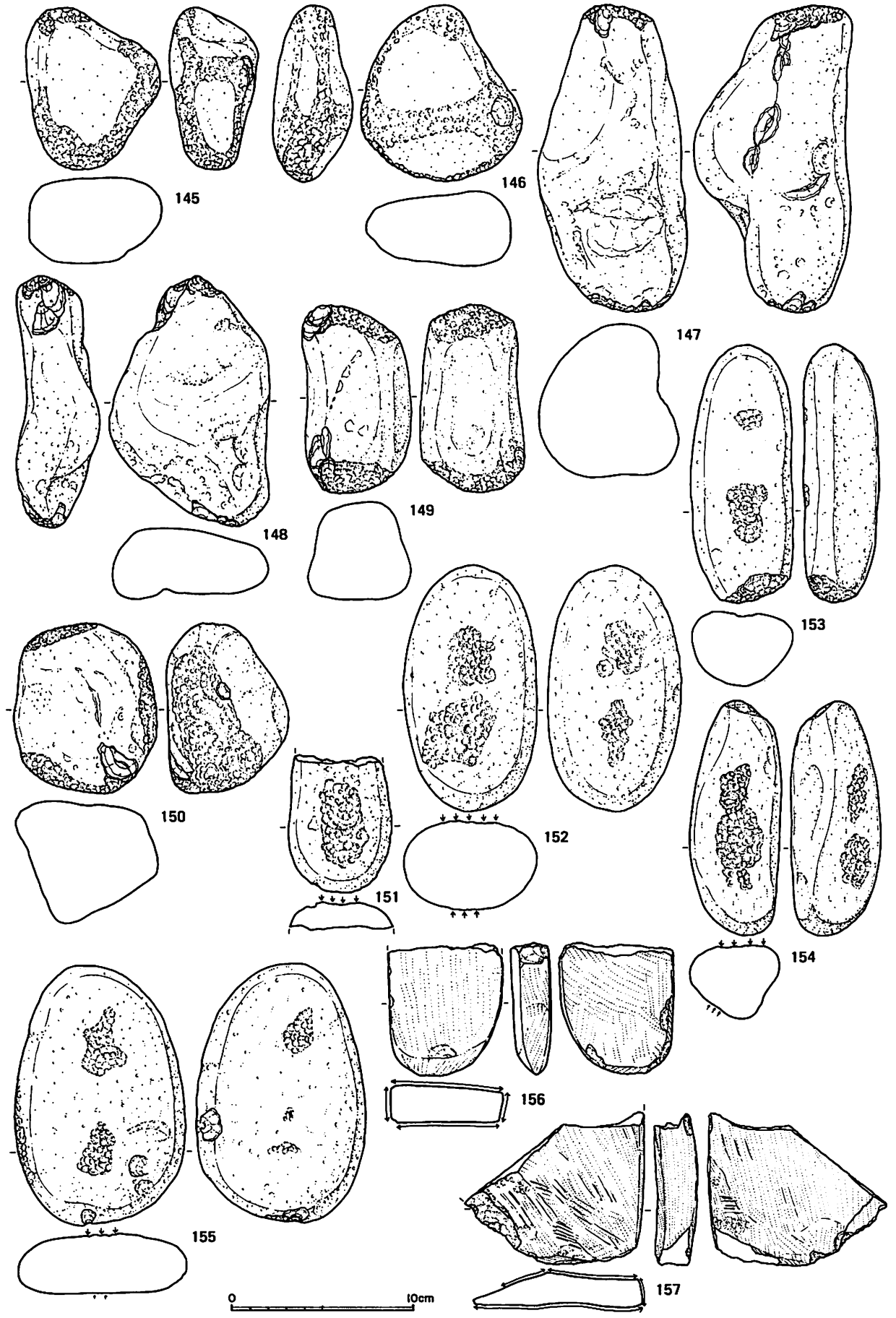
図III—39　A地区包含層の石器（3）



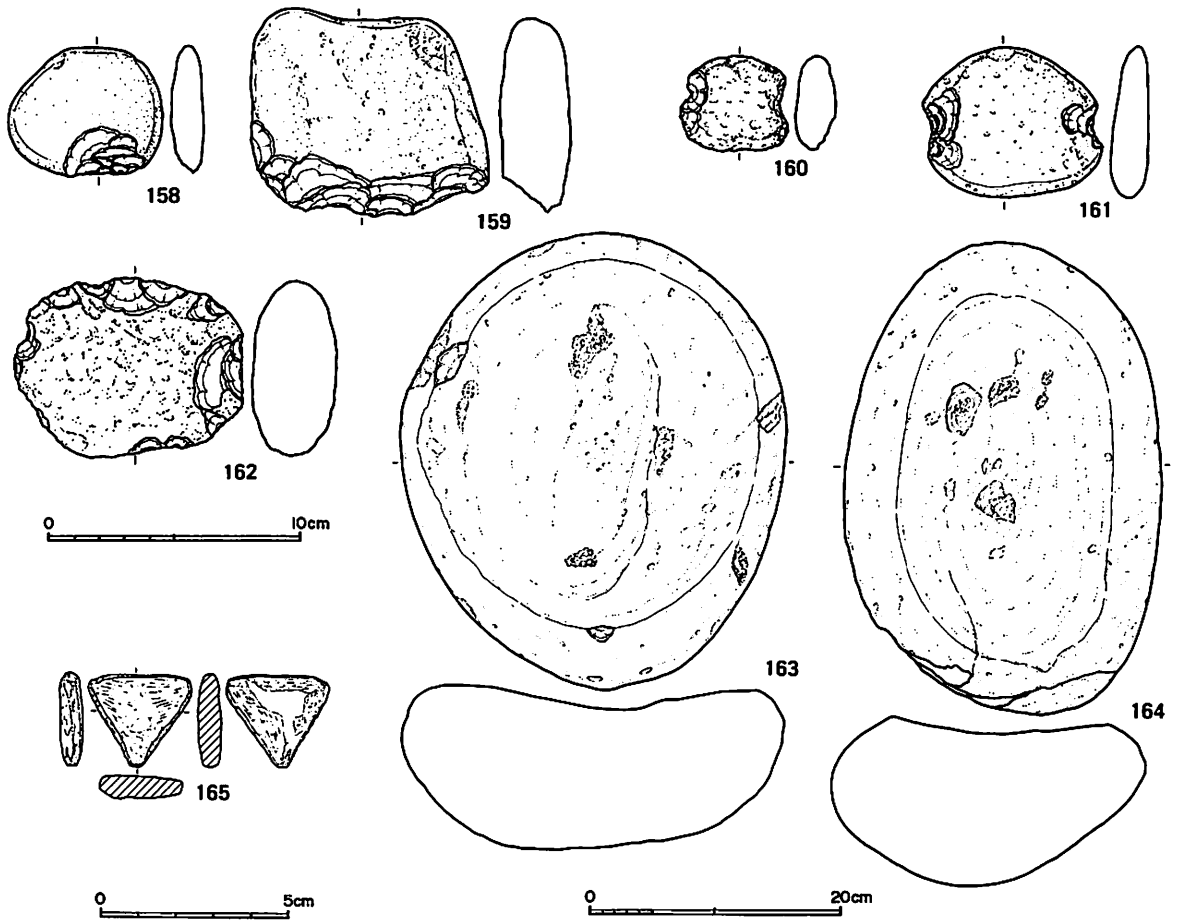
図Ⅲ－40　A地区包含層の石器（4）



図Ⅲ－41　A地区包含層の石器（5）



図Ⅲ－42　A地区包含層の石器（6）



図III－43　A地区包含層の石器(7)・石製品

ぼみがあり，また一端がたたき石として使用されている。154は三角柱状の礫の二面にくぼみがある。155は両面二カ所にくぼみがあり，周縁の一部には敲打痕が認められる。

砥石（156・157）小破片も含めて20点出土している。図示した2点はいずれも扁平で，欠損しているが，全面使用されたものと考えられる。

二次加工ある礫（158・159）4点出土している。図示した2点とも一側に打欠きが施されており，片刃の礫器（チョパー）か。

石錘（160～162）3点出土しており，全例図示した。160・161は扁平な円礫の両端を打欠いたもの。162はすり石の未成品の可能性がある。

石皿・台石（163・164）103点出土している。なかでも図示した2点はかなり使い込まれており，石材は安山岩である。

この他に石斧薄片13点，北海道式石冠2点，石核1,027点，Uフレイク419点，Rフレイク329点，フレイク・チップ85,988点，原石8点，有意の礫825点，焼礫103点，自然礫8,617点，石製品1点が出土しており，A地区包含層からは計97,903点の石器・石製品が出土した。

2　B地区の遺構と遺物

B地区は畑地造成によった地山を大きく切土された部分で，戻された耕作土中から遺物が確認されただけである。遺物は第0層として発掘区単位で取り上げたが，細片となっているものが多かった。出土遺物総数は7,030点，4×4mの発掘区で最大660点出土している部分もある。扱いはC地区の包含層の遺物と同様にしたが、図示したものはない。

3　C地区の遺構と遺物

C地区で発見された遺構は住居跡39軒，土壙104基，貝塚5ヵ所，焼土22ヵ所である(図III—44)。以下，住居跡（FH—1～40，FH—13欠番），I群1類土壙（FP—104・110・114・116・123・124・128・130・139・141・145～147・149），I群2類土壙（FP—14・20～26・31・32・36・37・40～50・70～74・76～80・93～103・105～109・111～113・115・117～122・125～127・129・131～138・140・142～144・148・150・151），II群土壙（FP—15・16・27～30・33～35・38・39・75），貝塚・焼土（FSb—1～5，FF—20～21・24），焼土（FF—1・4～19・23），包含層出土の土器，包含層出土の石器，遺構・包含層出土の土・石製品，包含層出土の陶磁器・金属製品等の順で説明する。

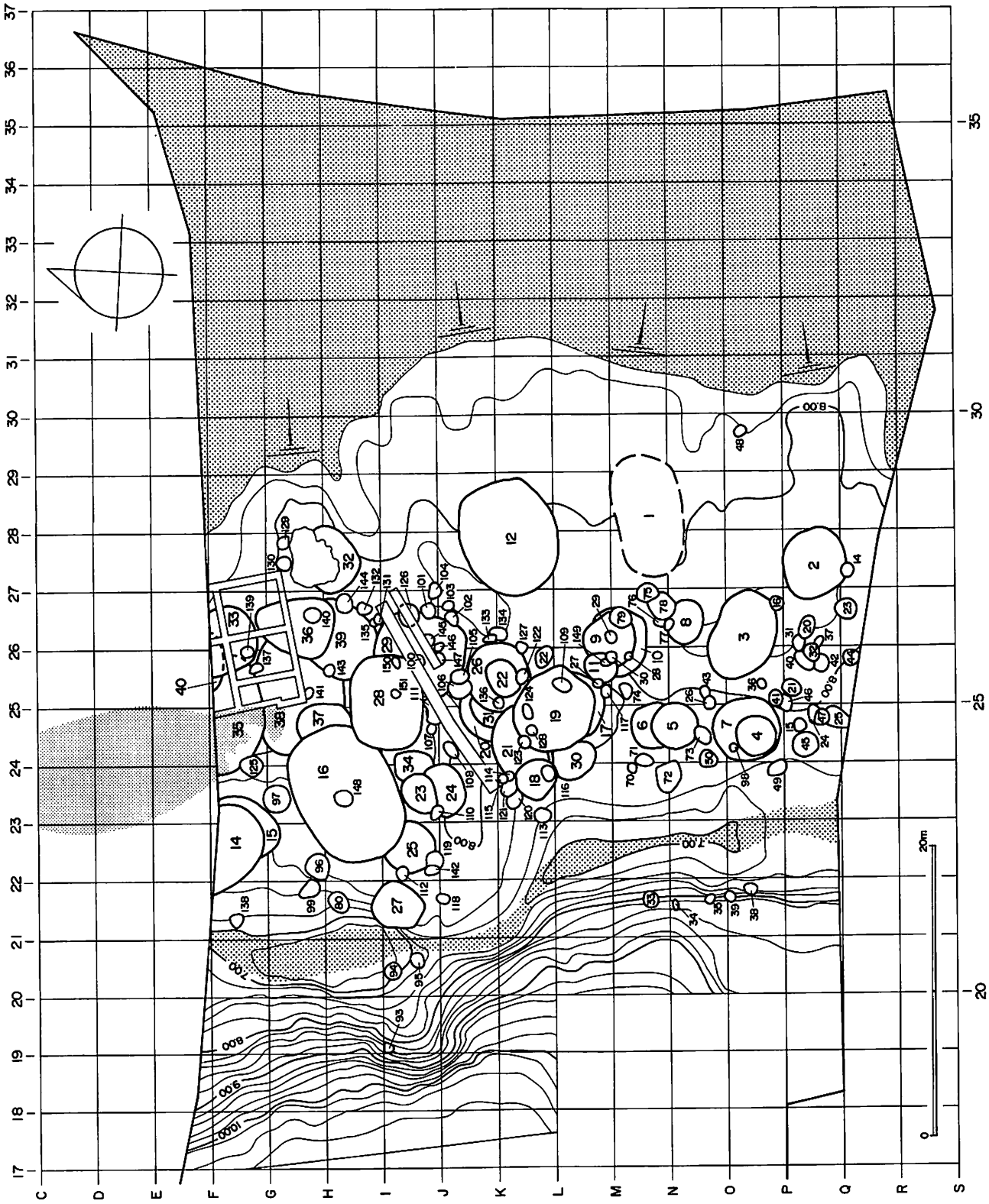
遺構出土の遺物は，基本的に住居跡は住居跡別，土壙は群別，貝塚・焼土と焼土は一括で示した。また，遺構出土の土・石製品については，それぞれの遺構の挿図と同時に，包含層出土のものと一括して示し説明する。

(1) 住　居　跡

39軒の住居跡は，フゴッペ川の氾濫原と旧河道に挟まれた沖積低地上，標高7.4～8.0mの南北にのびる微高地に分布している。分布密度は北側が高く，重複も著しい。重複していないのは6軒（FH—1～3・8・12・27）のみで，中央部は12軒（FH—9～11・17～22・26・30・31）が集中している。時期は縄文時代前期末～中期初頭と同中期末葉の2時期で，前者は35軒（FH—1～12・14～27・29～32・34・35・37・38・40），後者は4軒（FH—28・33・36・39）である。中期末の4軒は北側に孤状に分布し，丁度貝塚を囲むような形になっている。また，同時期の遺物分布も北側が濃密になることから考えて，その主体は調査区域のさらに北側に所在する可能性がある。

平面形は，楕円形，円形，隅丸長方形，隅丸五角形，卵形，不整形とバラエティーがあるが，楕円形のものが多い。大きさは最大のもの（FH—16）で長径9.86×短径6.80m（確認面），面積55.34m²，最小のもの(FH—11)は長径2.50×短径2.26m(確認面)，面積4.48m²と幅がある。構造は単純なものが多いが，二段構造のものが3軒（FH—12・26・35）ある。また，火災住居が1軒（FH—29）確認された。

住居跡から出土した遺物の総数200,484点，最多は50,160点，最少は7点である。遺物の内訳は土器等37,664点，石鏃436点，石錐41点，ポイント・ナイフ160点，つまみ付きナイフ121点，スクレイパー452点，楔形石器14点，石斧71点，石斧薄片125点，すり石218点，北海道式石冠173点，球石75点，たたき石668点，くぼみ石70点，石錘27点，砥石359点，石皿・台石374点，石錘4点，コア420点，フレイク109,280点，U・Rフレイク710点，R礫20点，礫△5,098点，焼礫624点，原石5点，礫43,153点，土製品96点，石製品4点でフレイ



図III—44　C地区遺構分布図

ク類が半数以上の55%を占め，礫の22%と土器の19%が次に多い。フレイク・礫類を除いた石器類は3,826点，全体の約2%，石鏃436点(石器類の11%)，スクレイパー452点(12%)，砥石359点（9%），石皿・台石374点（10%），コア420点（11%）などが目立つが，たたき石686点（18%）の多さが際立っている。

FH—1（図III—46～48，図版23）

平面形 楕円形？　**規模** —　／10.48×6.60／—　m　**面積** (60.45)m²

重複 上部がすべて削平されているので，重複関係は不明である。

特徴 27カ所の小ピット（HP—1～27）と10カ所の焼土（FF—1～10）の状況から住居跡の存在を推定した。上部が削平されているので，構造等は不明であるが，段は存在しないと思われる。小ピットは大きなものは直径1m，小さいものは直径10cm，深さは2～72cmとバラエティーがある。中央やや東寄りの大型のHP—3・4は断面が摺鉢状で，柱穴ではなく付属ピットと思われる。位置，深さなどからみて，HP—5～10の6カ所が主柱穴とみられる。10カ所の焼土は中央部東側に分布し，石組みなどを伴わない地床炉である。

遺物 出土遺物総数は850点，その内訳は土器105点，石器類31点，コア・フレイク類409点，礫類305点で，たたき石が12点と多い。遺物はすべて小ピットと焼土から出土している。

土器 I群A類(1)，II群A1類(2)，II群B1類(3・13)，II群B2a(4～9)，II群B類(10～12)

1は貝殻条痕文土器，胎土に砂粒を多く含む。2は横走縄文，3は口頸部に綾絡文状の縄文が施されている。4は幅広の口頸部に多段の条線文が施されている。5は口縁部にやや太めの縄線文，7は単軸撚糸文，8・9は多軸絡条体回転文である。10・12は結束羽状縄文，11は斜行縄文である。13は胎土に多量の繊維を含む。底面に不規則な縄文が施されている。

石器 14は縦形周辺加工のつまみ付きナイフ。15は楔形石器。16・17はすり石で，16は尖頂の北海道式石冠，17は使用面が幅広で山形を呈するもの。18～28はたたき石で，いずれも素材長軸の一端もしくは両端を使用している。このうち20は石材鑑定試料で，輝石安山岩である。29は両面を使用した砥石。

土製品 41は有孔の再生土製円盤である。

時期 縄文時代前期末～中期初頭，II群B2類土器の時期である。

FH—2（図III—49～52，図版24）

平面形 楕円形　**規模** 5.15×4.65／4.60×4.13／0.20m　**面積** 17.43m²

重複 FP—14より古い

特徴 床面は比較的平坦であるが，南から北に向ってわずかに傾斜し，壁面の傾きも緩やかである。小ピットは住居跡の内外に56カ所(HP—1～56)，大小さまざまで，重複しているものもある。したがって，建替えが何度かあったものと思われるが，基本的には4本ないし5本主柱（HP—1・7・25・30・36）の可能性が強い。炉跡は1カ所（HF—1），床面北東部にあり，焼土というよりも灰に近い状況である。覆土は全体に黄褐色土のブロックを含み，炭化物を多く含んだ二次堆積とみられる焼土（6層）もみられる。

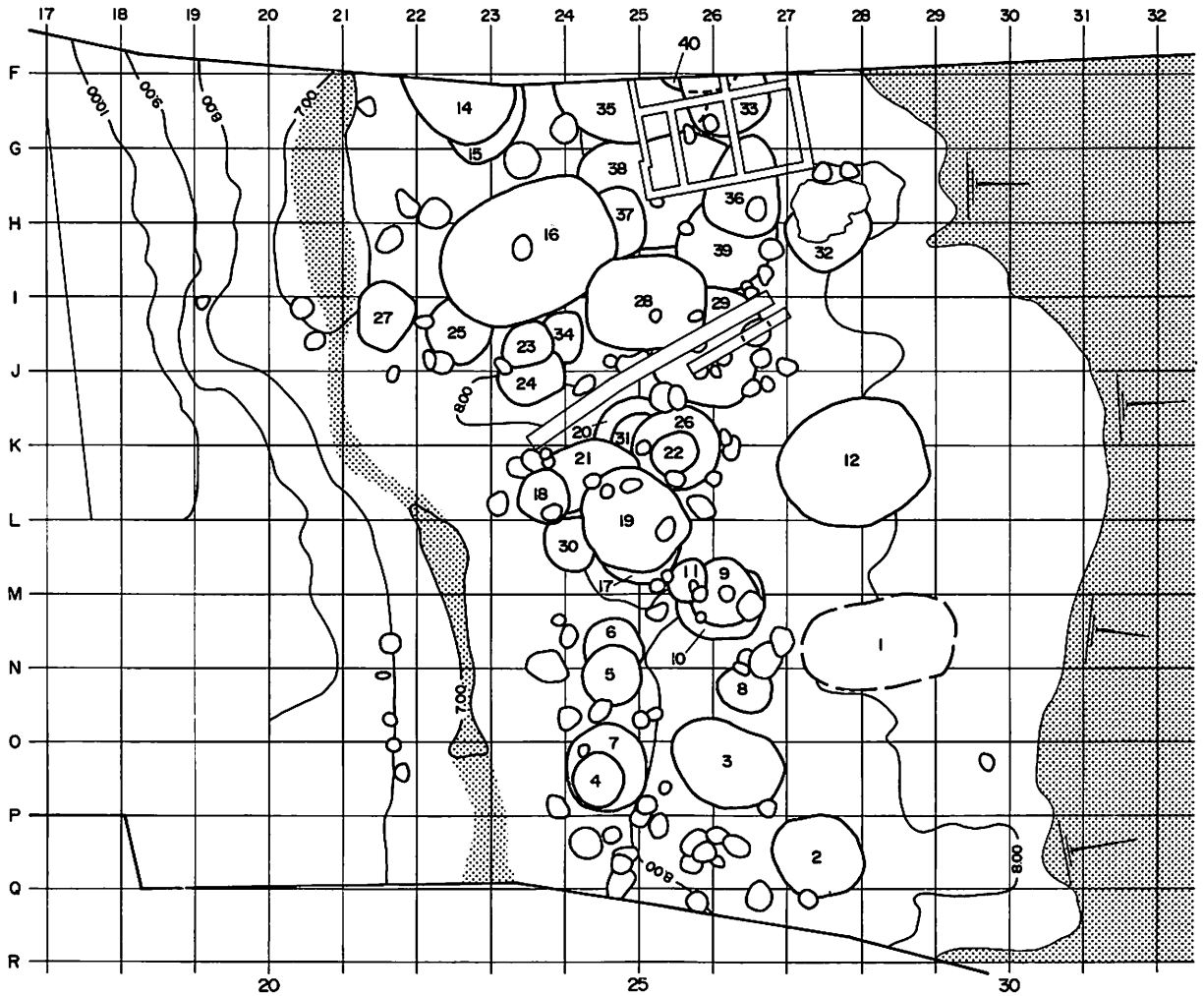
遺物 出土遺物総数は1,753点，その内訳は土器308点，石器類52点，コア・フレイク類768点，礫類624点，土製品1点で，石鏃（13点），スクレイパー（9点），たたき石（8点），

砥石（9点）が目につく。床面出土の遺物はわずかで，HP—22では一個体分の土器が横倒しになったような状態で出土した。覆土中の遺物分布は，北東と南西側に片寄り，礫石器と礫類はかたまって出土する傾向がある。

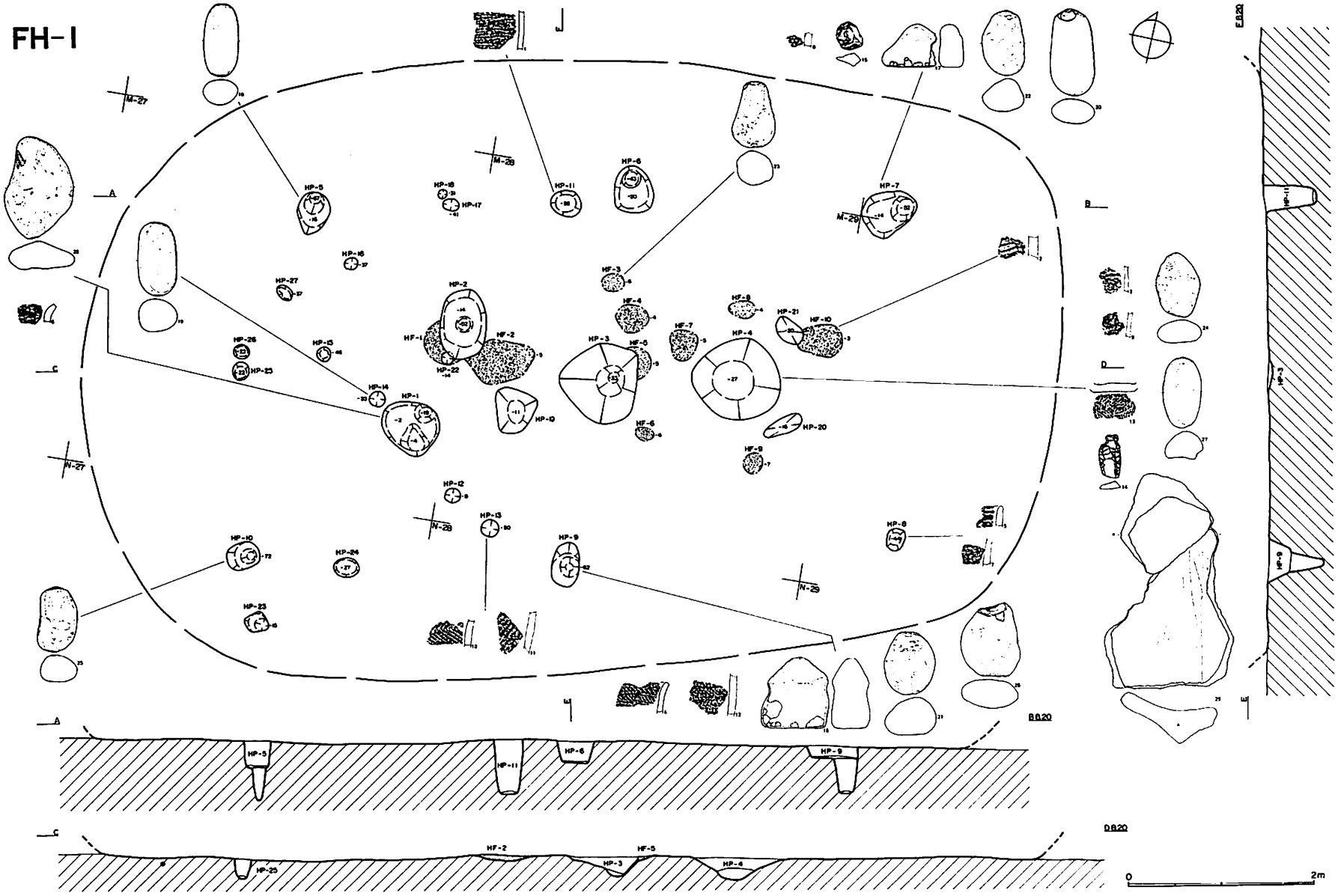
土器　II群B1類（2～4），II群B2a類（5・6），II群B2b類（1・7～10・13），II群B2c類（11・12），II群B類（14～19）

2は幅の狭い口頸部に綾絡文状の縄文が施されている。3は口頸部に綾絡文状の縄文が施され，上端に沈線が加えられている。4は撚り方向が同一の原体を結束し，施文している。5・6は多軸絡条体回転文である、1の口唇部断面は切り出し状で，円形刺突文に区画された口頸部には多段に弧線状の縄線文が施されている。体部は結束羽状縄文である。胎土に砂粒を多く含む。7は口頸部に弧線状の縄線文が施され，口唇部に縄線文と半截竹管状工具による刺突が加えられている。8～10は縄線文が多用されるものである。13は突起部分に縦位の縄線文が加えられている。11は切り出し状の口唇部断面で，刺突文で区画された頸部には絡条体圧痕文と半截竹管状工具の刺突文が施されている。17は丸味をもつ口唇部断面である。

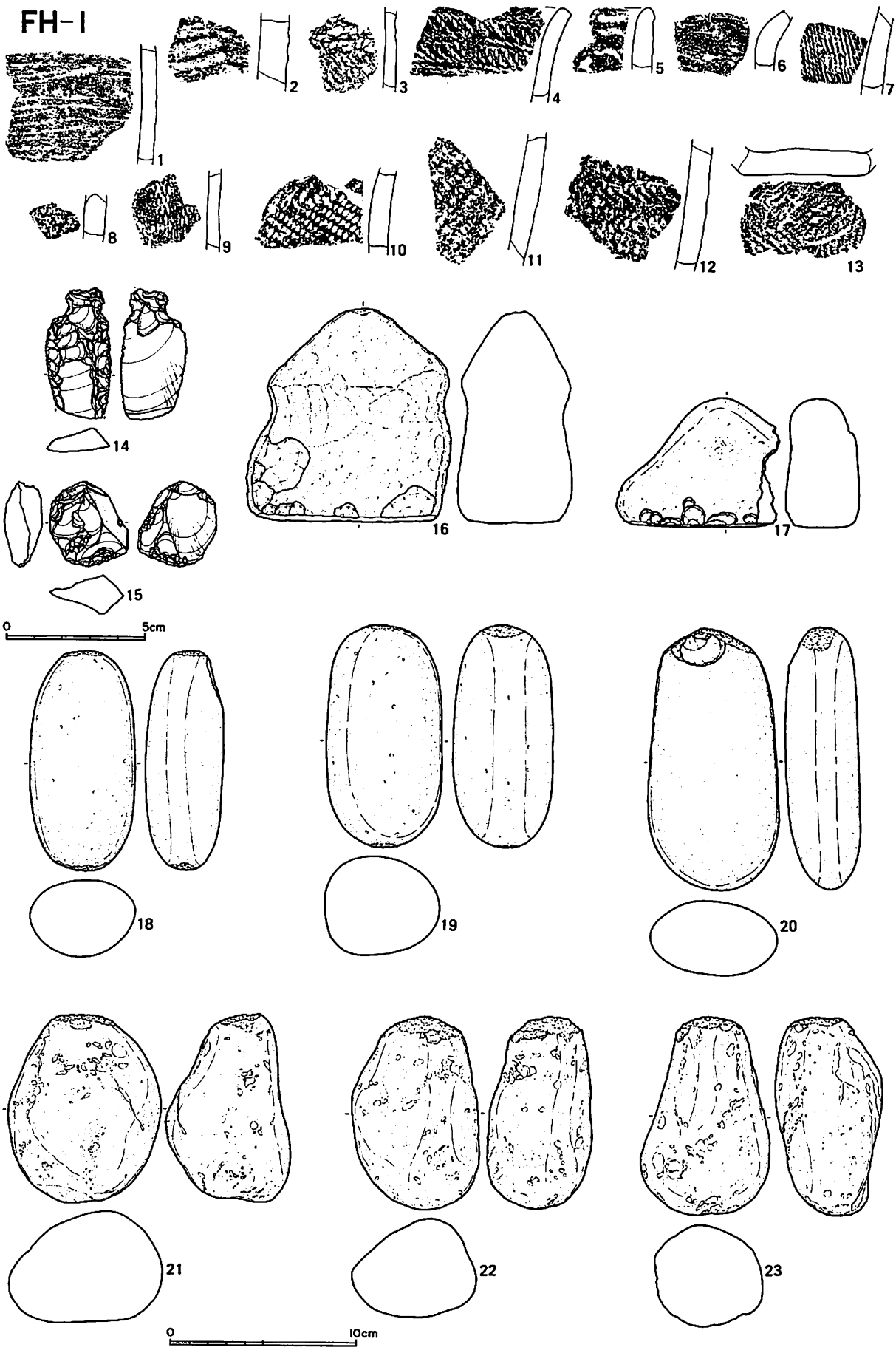
石器　20～24は石鏃で，20・21は有茎凸基，22は菱形，23は五角形，24は木葉形を呈するものである。25は有茎のポイントであるが，かえしは不明瞭である。26は縦形片面加工の



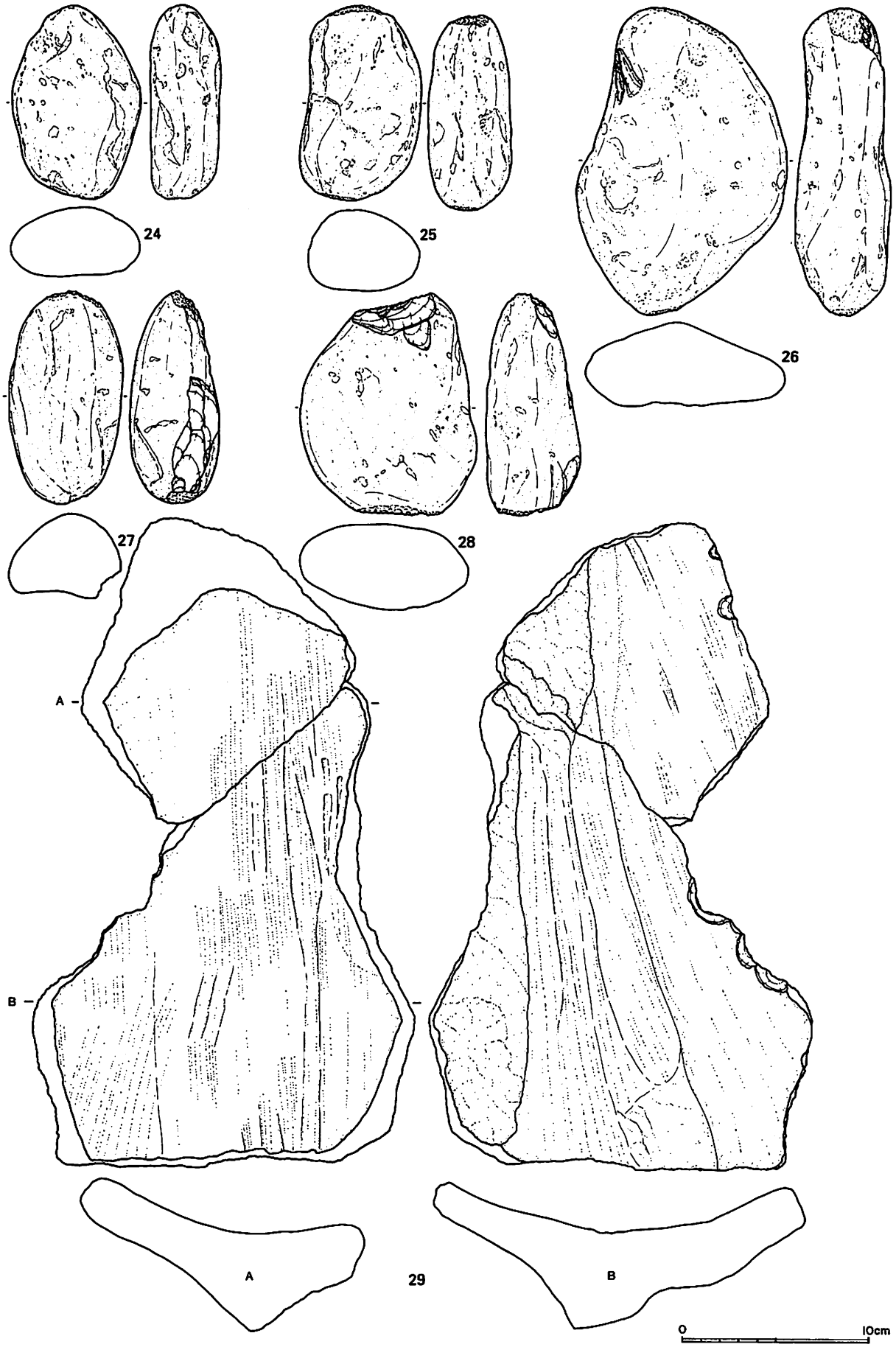
図III—45　C地区住居跡分布図


FH-1
M-27
M-28
N-27
N-28
N-29
HP-1
HP-2
HP-3
HP-4
HP-5
HP-6
HP-7
HP-8
HP-9
HP-10
HP-11
HP-12
HP-13
HP-14
HP-15
HP-16
HP-17
HP-18
HP-19
HP-20
HP-21
HP-22
HP-23
HP-24
HP-25
HP-26
HP-27
HF-1
HF-2
HF-3
HF-4
HF-5
HF-6
HF-7
HF-8
HF-9
A
B
C
D
E
BB20
DB20
0
2m

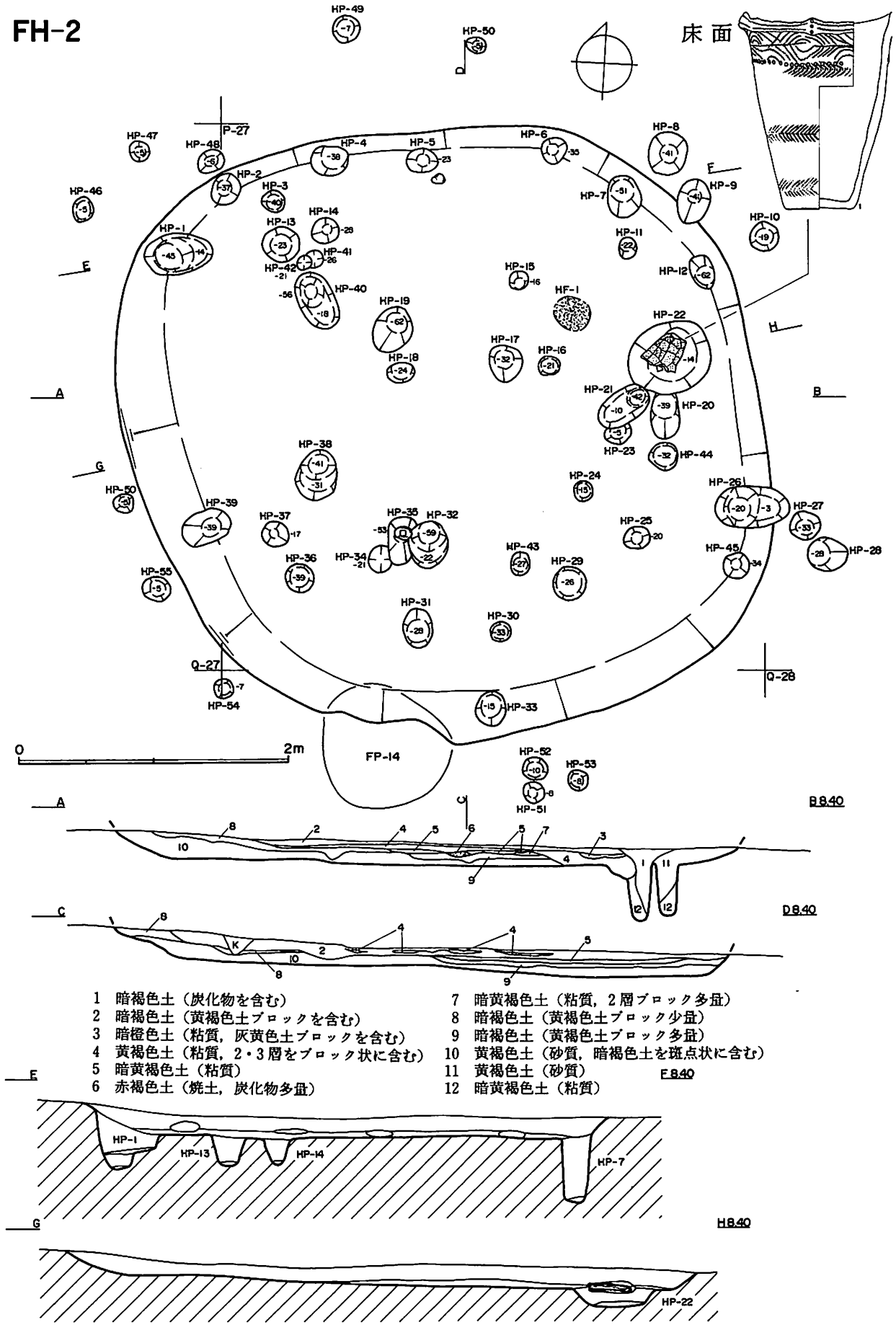
図Ⅲ—46　FH—1



図III—47　FH—1 遺物(1)



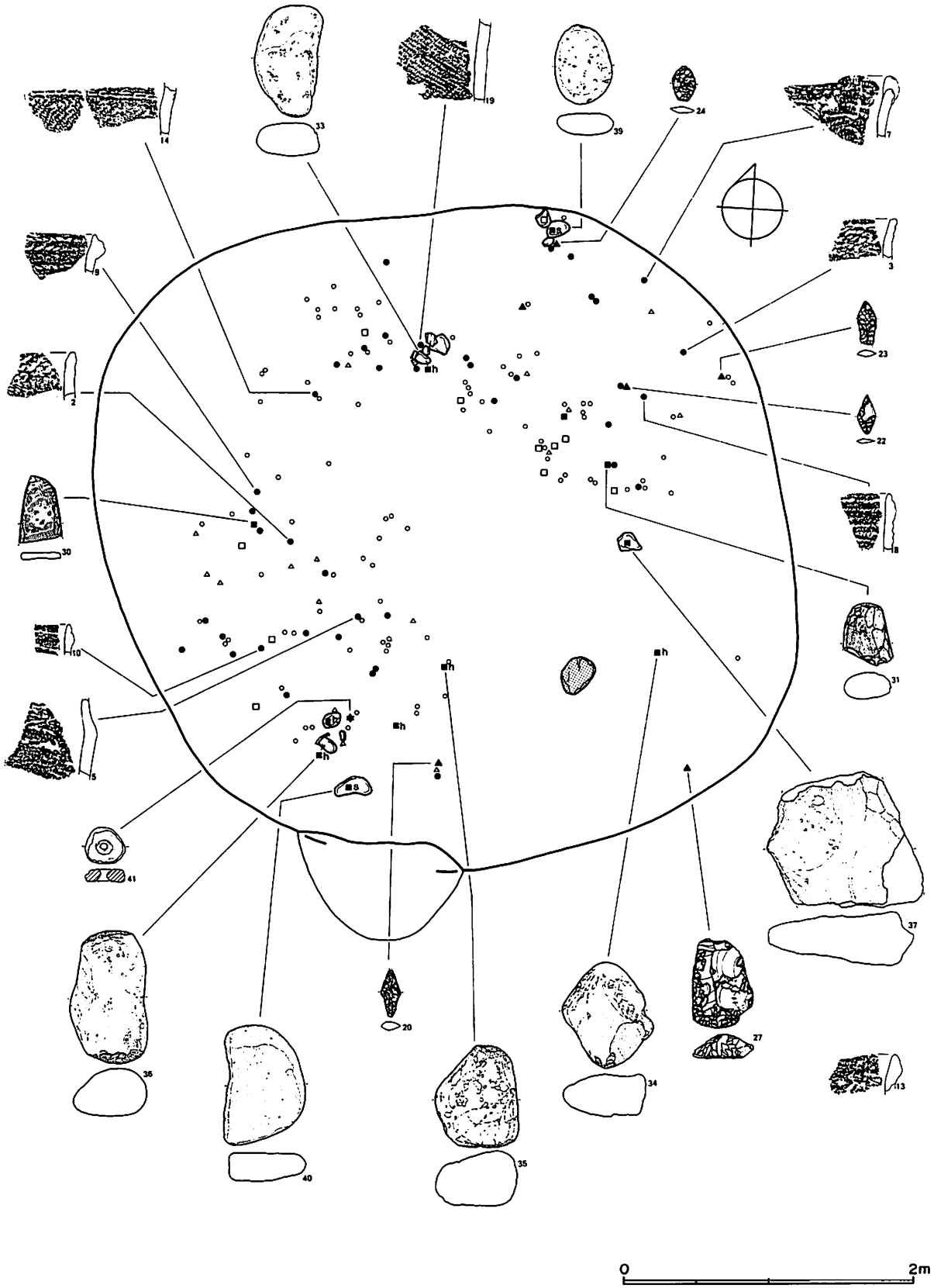
図Ⅲ—48　FH—1遺物(2)



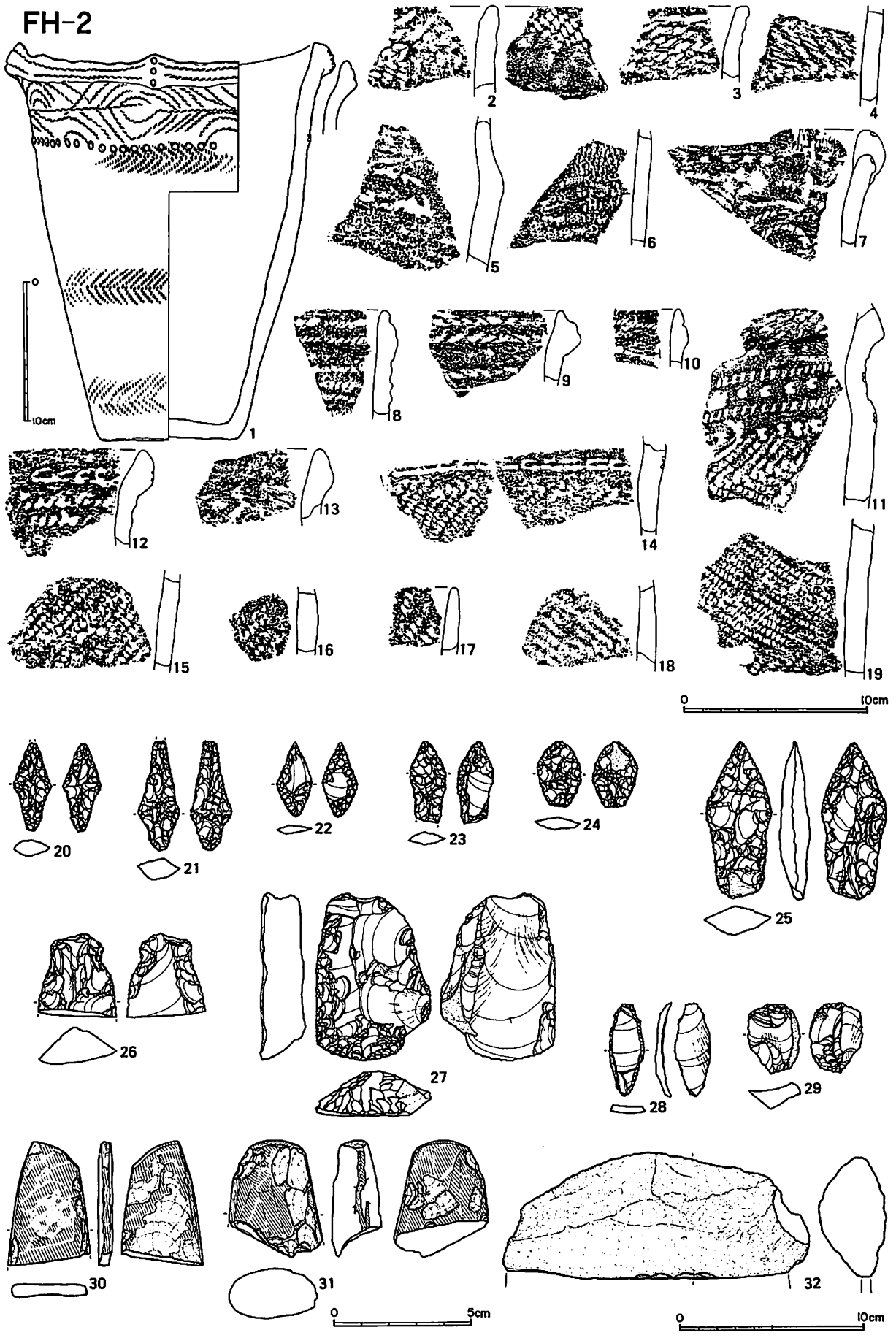
1　暗褐色土（炭化物を含む）
2　暗褐色土（黄褐色土ブロックを含む）
3　暗橙色土（粘質，灰黄色土ブロックを含む）
4　黄褐色土（粘質，2・3層をブロック状に含む）
5　暗黄褐色土（粘質）
6　赤褐色土（焼土，炭化物多量）
7　暗黄褐色土（粘質，2層ブロック多量）
8　暗褐色土（黄褐色土ブロック少量）
9　暗褐色土（黄褐色土ブロック多量）
10　黄褐色土（砂質，暗褐色土を斑点状に含む）
11　黄褐色土（砂質）
12　暗黄褐色土（粘質）

図Ⅲ－49　FH－2（1）

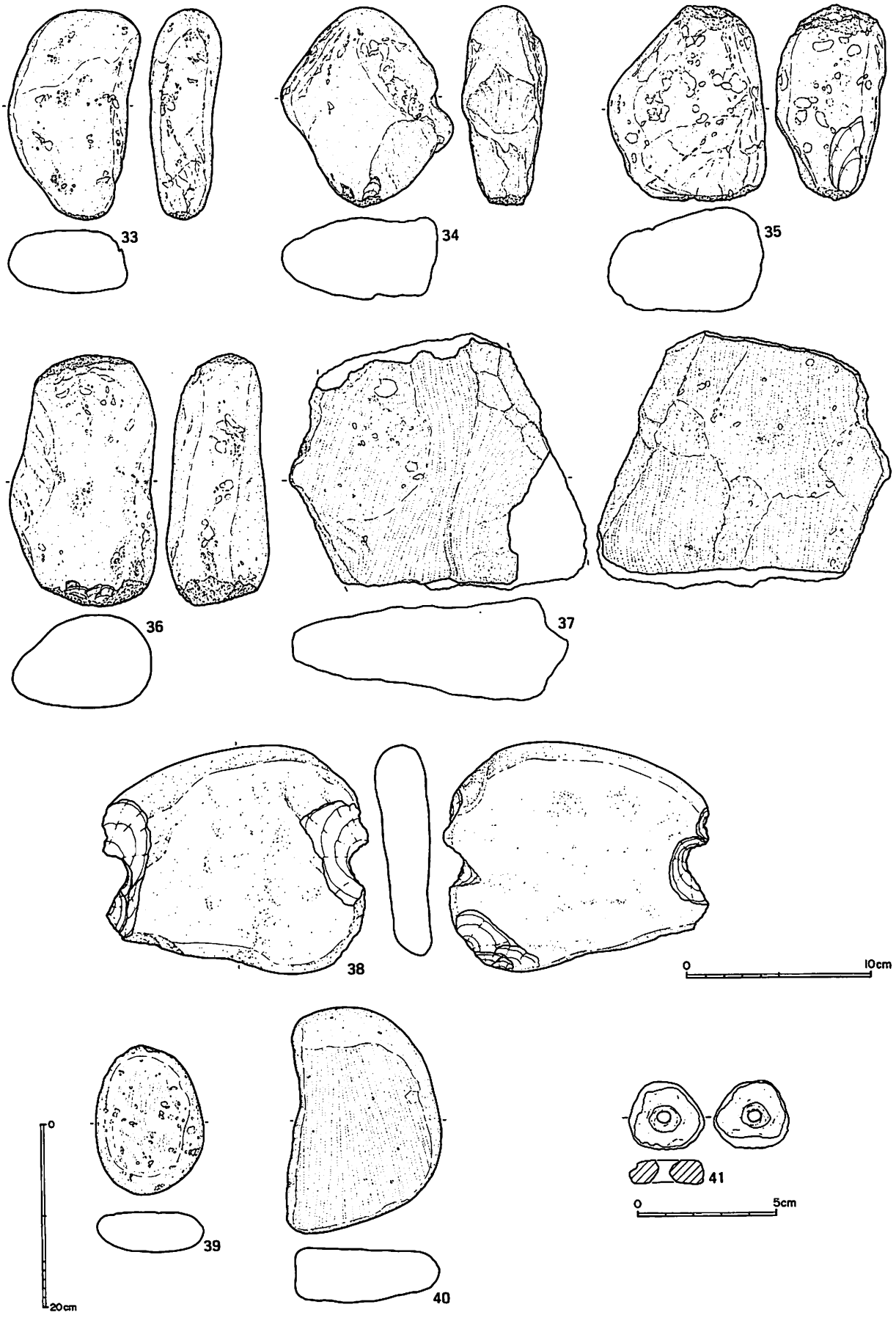
FH-2 覆土



図Ⅲ—50・FH—2（2）


FH-2
0
10cm
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
0
10cm
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
0
5cm
32
0
10cm

図Ⅲ—51　FH—2 遺物(1)



図Ⅲ—52　FH—2 遺物（2）

つまみ付きナイフ。27はエンドスクレイパー。28は尖頭部を有する周辺加工スクレイパー。29は楔形石器。30・31は撥形を呈する石斧で，どちらも刃部が欠損している。32は一側縁を使用したすり石。33～36はたたき石。このうち34は石材鑑定試料で，珪質堆積岩（珪質頁岩もしくは珪質岩）である。37は両面を使用した砥石。38は長軸の両端が打欠かれており，一応石錘としたが，すり石の未成品とも考えられる。39・40は石皿・台石である。

時期　縄文時代前期末～中期初頭，II群B2類土器の時期である。

FH—3（図III—53～57，図版24）

平面形　楕円形　　**規模**　6.25×4.50／5.86×4.25／0.32m　　**面積**　22.29m²

重複　FP—16より古い

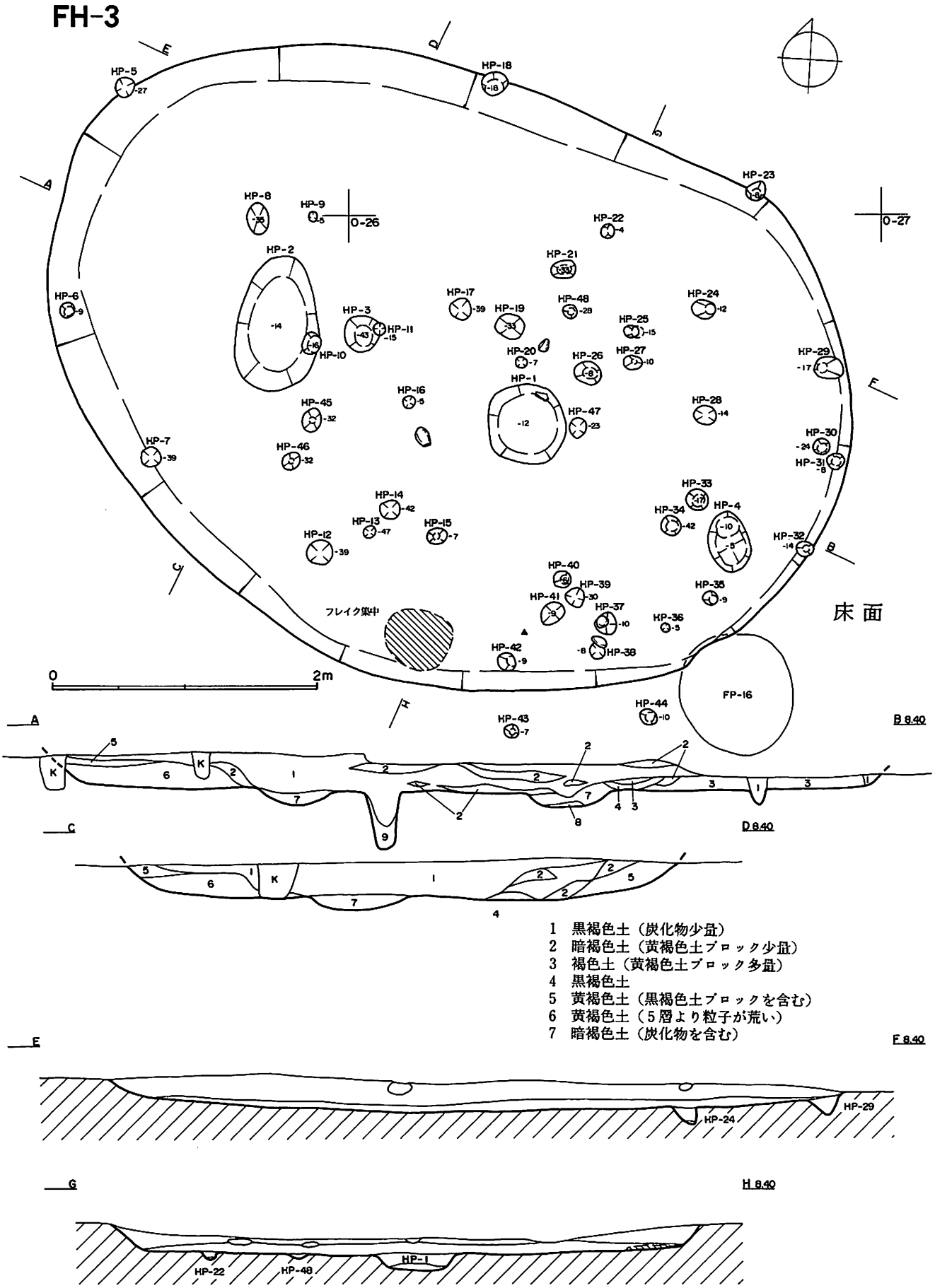
特徴　床面は比較的平坦であるが，全体に皿状になっていて，壁面の傾斜も緩やかである。小ピットは48カ所（HP—1～48），中央のHP—1・2は付属ピットで，他は柱穴である。深さ30cm以上の柱穴は12カ所（HP—3・7・8・12～14・19・21・34・39・45・46）あるが，位置的にみて，主柱は4ないし5本（HP—7・8・12・21・34）の可能性が強い。炉跡は確認されなかったが，HP—1では炭化物層が確認できた。覆土は炭化物を少量含んだ黒褐色土（1層）が主体で，黄褐色土ブロックを含んだ暗褐色土（2層），褐色土（3層）がちぎれ雲状にみられる。

遺物　出土遺物総数は4,656点，その内訳は土器1,111点，石器類46点，コア・フレイク類2,029点，礫類1,423点，石器の中では石鏃（14点），スクレイパー（13点），砥石（13点），石皿・台石（7点）が目に付くが，たたき石（27点）が際立っている。床面出土の遺物は少ないが，南隅にフレイクの集中がみられた。覆土の遺物は南西側が多く，土器と礫石器，礫類が2カ所に集中して確認された。

土器　II群B2b類（1・7～9），II群B2c類（2・10～14），II群B類（3～6・15～17）

1は上半部が開き気味の器形である。口唇断面は切り出し状で，縄線文が加えられ，体部は斜行縄文である。7の口唇断面は切り出し状である。口唇部には縄線文・縄圧痕文が施され，下端部に半截竹管状工具の刺突が加えられている。幅広の口頸部は半截竹管状工具で区画され，縄線文が施されている。体部は斜行縄文である。9は円形刺突文で区画された口頸部は弧状の縄線文が施されている。体部は結束羽状縄文である。10・11は口唇部・頸部に絡条体圧痕文が施されたもので，10は半截竹管状工具による押引文が施されている。12・13は絡条体圧痕文と半截竹管状工具の刺突文が施されている。15は斜行縄文が施された口唇部の上下端に半截竹管状工具の押引が加えられている。17は口唇部直下にナデ調整が加えられている。体部は結束斜行縄文である。

石器　18～24は石鏃で，18は無茎凹基，19・20はかえしの不明瞭な有茎凸基，21～24は木葉形を呈する円基のものである。25は木葉形のポイント。26・27は縦形周辺加工のつまみ付きナイフ。28～30はエンドスクレイパー。31は両面加工のスクレイパー。32・33は石斧で，いずれも刃部が欠損している。34～36はすり石で，34は半円状扁平打製石器と称されているもの，35は両側縁を使用したもの，36はいわゆる北海道式石冠。37は球石で，微かに磨痕が認められる。38～44はたたき石で，43の一部には赤色顔料の付着が認められる。45はくぼみ石か。片面一カ所に浅いくぼみがある。46は両面使用の砥石。47・48は石皿・台石である。



1 黒褐色土（炭化物少量）
2 暗褐色土（黄褐色土ブロック少量）
3 褐色土（黄褐色土ブロック多量）
4 黒褐色土
5 黄褐色土（黒褐色土ブロックを含む）
6 黄褐色土（5層より粒子が荒い）
7 暗褐色土（炭化物を含む）

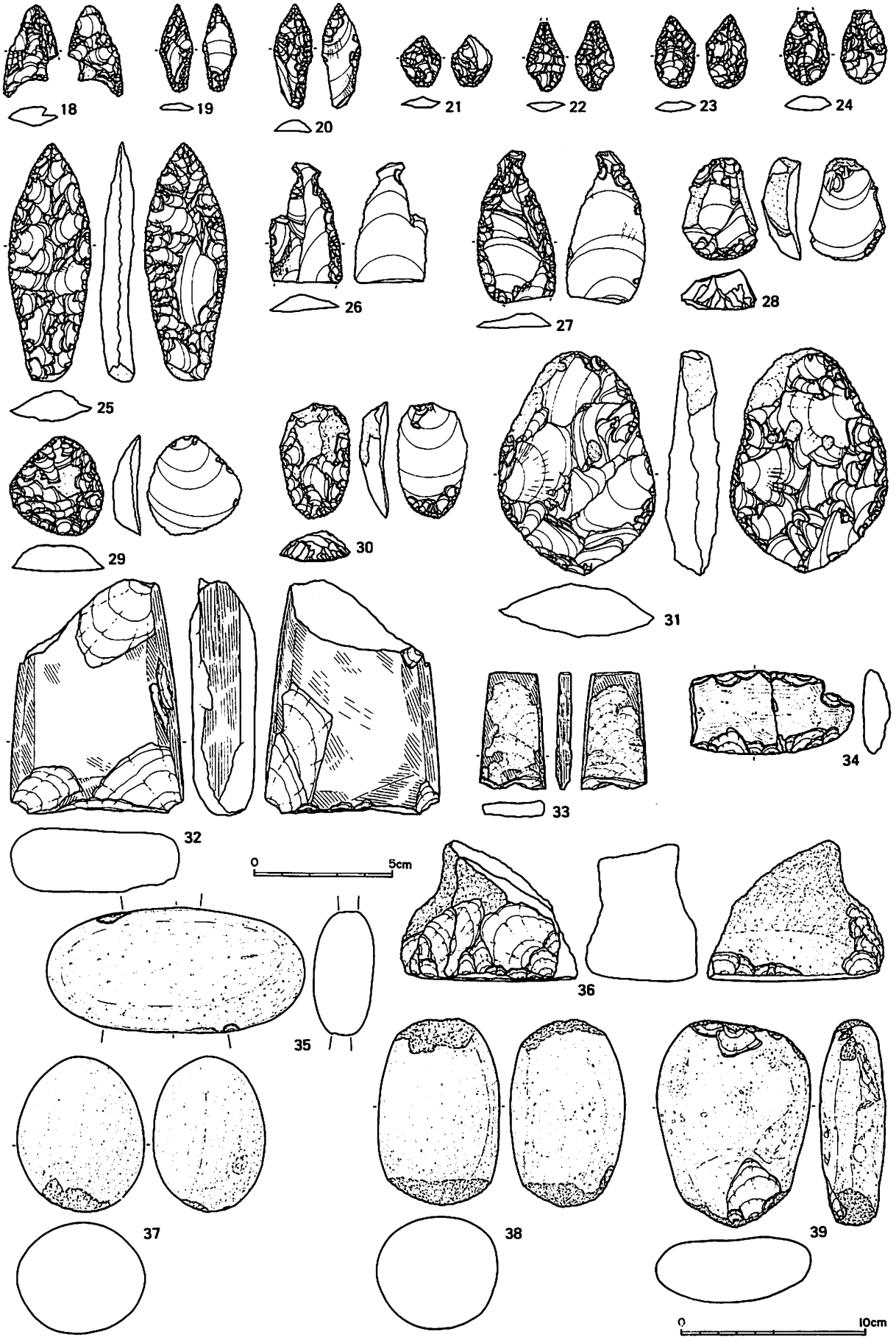
図Ⅲ—53 FH—3(1)



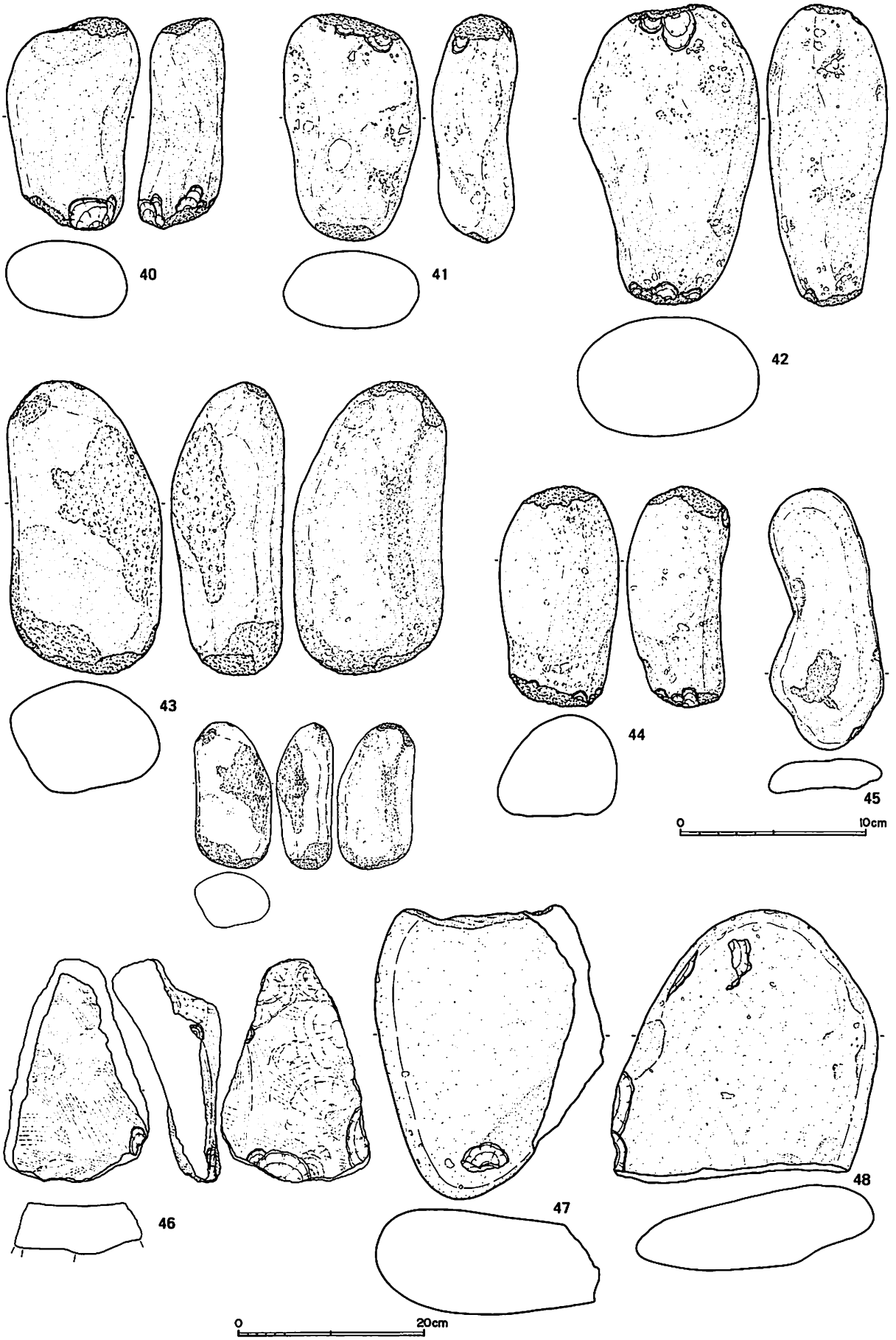
図Ⅲ—54　FH—3(2)



図Ⅲ—55　FH—3 遺物(1)


18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
0　5cm
0　10cm

図Ⅲ—56　FH—3遺物(2)



図Ⅲ—57　FH—3遺物(3)

時期　縄文時代前期末～中期初頭，II群B2類土器の時期である。HP—1の炭化物について^{14}C年代測定を行ったところ3,400±110 y. B. P.（KSU—2077）という年代が得られた。

FH—4（図III—58～61，図版25）

平面形　楕円形　　**規模**　2.94×2.72／2.71×2.47／0.25m　　**面積**　6.38m²

重複　FH—7より新しい。

特徴　床面は平坦で，北東側には周溝がみられる。周溝の幅は約5cm，断面はU字形で，半周している。壁面は直線的で，角度も急である。小ピットは22カ所（HP—3～23・25），HP—3・4の2カ所は付属ピットとみられ，主柱は4本（HP—7・8・16・20）と考えられる。他のピットはFH—7に伴うものである可能性が強い。炉跡はみられないがHP—4の最下層3層は炭化物を多量に含んでいた。覆土は明褐色土（2層）と暗褐色土（4層）が主体で，いずれも黄褐色土ブロックを多量に含んでいる。FH—7と重複しているが，4層中の境目は明確でない。

遺物　出土遺物総数は2,983点，その内訳は土器565点，石器類46点，コア・フレイク類1,223点，礫類1,149点，土器はII群B類が主体，石器の中ではスクレイパー（9点），たたき石（9点），石皿・台石（6点）が多い。床面で確認されたものは少ないが，石皿・台石1点のほか礫類とフレイクの集中がある。覆土中の遺物はほぼ全域に分布し，出土レベルは覆土の上部が大部分である。

土器　II群B2a類（3），II群B2b類(4～7)，II群B2c類(1・2・8～10)，II群B類(12～16)

3は口唇部に縄圧痕文，口頸部に縄線文が施されている。4は半截竹管状工具による刺突文で区画された幅の狭い口頸部に羽状の縄線文が施されている。体部は斜行縄文である。5は口唇部下端部に半截竹管状工具による押引文が加えられている。1は口唇部，口頸部に絡条体圧痕文と半截竹管状工具による刺突文が施されている。突起部下位の口頸部に山形状の絡条体圧痕文が施され，体部は結束羽状縄文である。2は押引文が施された切り出し状の口縁部である。半截竹管状工具の押引文で区画された口頸部に絡条体圧痕文が施されている。体部は結束斜行縄文である。8は絡条体圧痕文が施された口縁部である。口頸部に円形刺突文と絡条体圧痕文が施されている。体部は結束羽状縄文である。10は口頸部区画帯として円形刺突文が用いられている。13は口縁部がほぼ直角に外反する。14は口縁部直下にナデ調整による無文帯がある。体部は結束斜行縄文である。

石器　17は有茎凸基，18は木葉形尖基の石鏃である。19・20は有茎のポイント。21は縦形片面加工のつまみ付きナイフ。22～24はエンドスクレイパーで，23は素材の両端に刃部が作出されている。25は基部を欠くが撥形両刃の石斧。26～30はすり石で，26・28は一側縁を，27は長軸の端部を使用したもの。29・30は北海道式石冠。31～33はたたき石。34・35は石皿・台石である。

時期　縄文時代前期末～中期初頭，II群B2類土器の時期である。

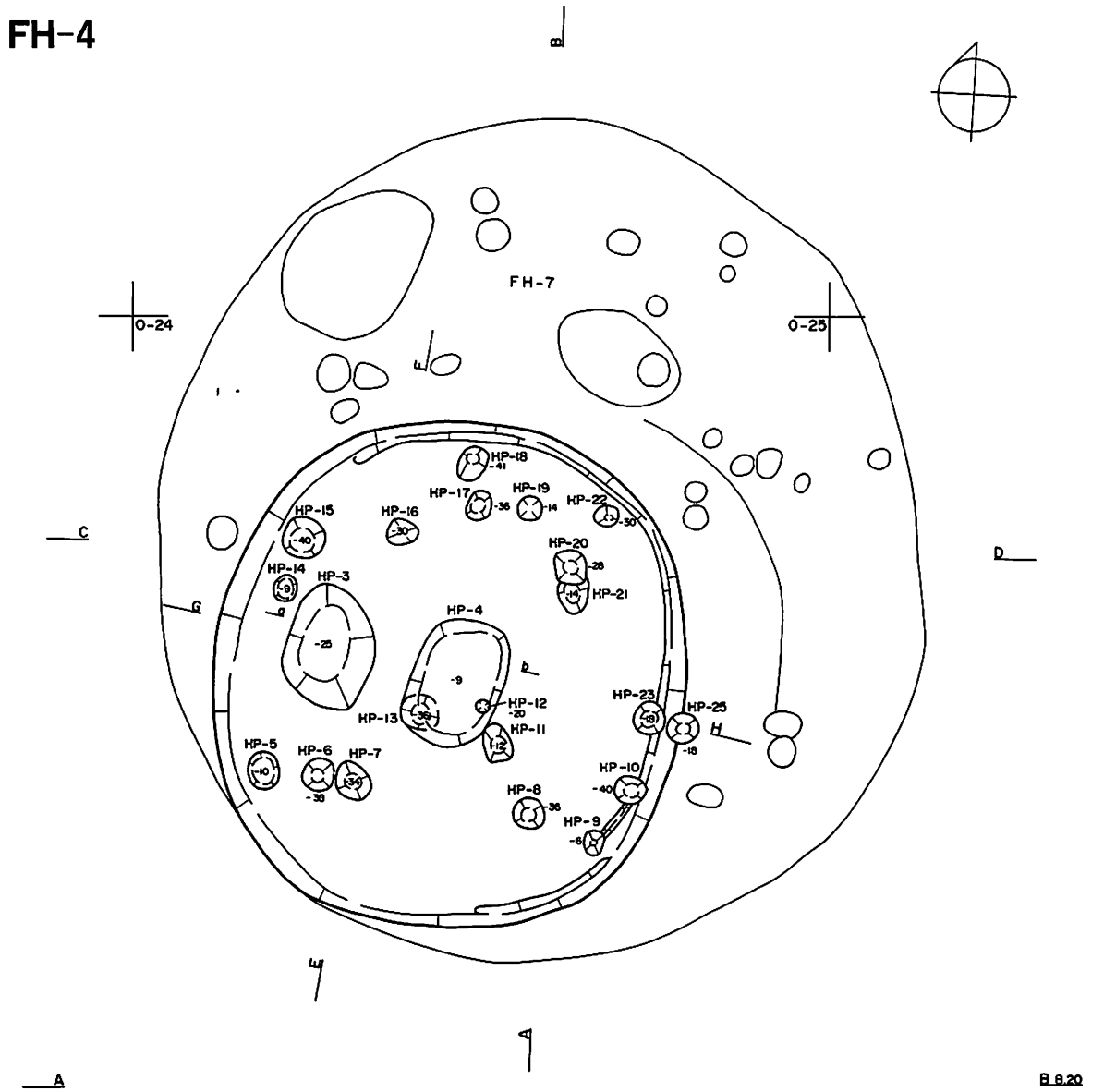
FH—5（図III—62・65，図版27）

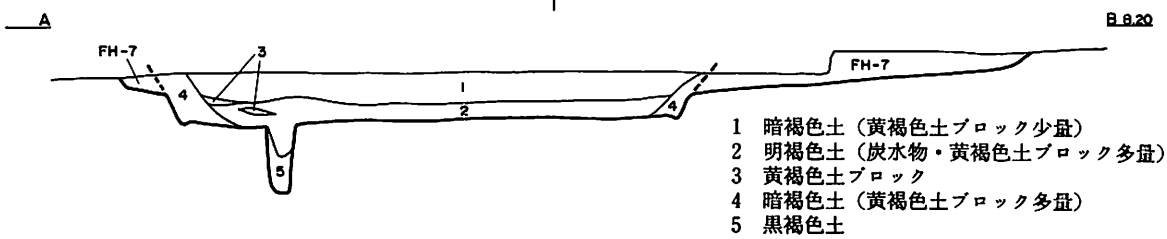
平面形　円形　　**規模**　3.14×3.10／3.04×2.98／0.16m　　**面積**　7.72m²

重複　FH—6より新しく，FP—73より古い

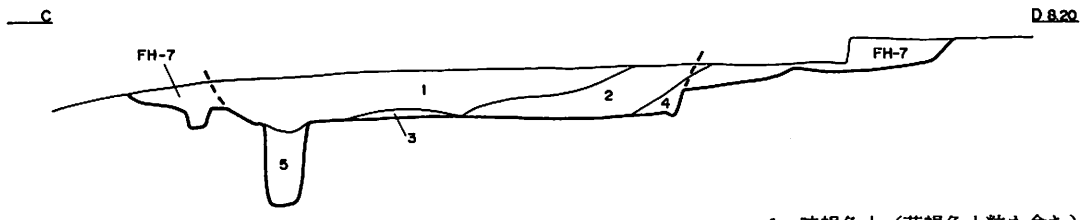
特徴　床面は比較的平坦で，わずかに皿状を呈し，壁面につながっている。壁面は丸味が

FH-4

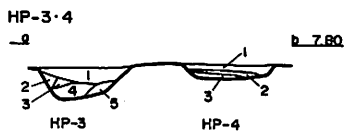




1 暗褐色土（黄褐色土ブロック少量）
2 明褐色土（炭水物・黄褐色土ブロック多量）
3 黄褐色土ブロック
4 暗褐色土（黄褐色土ブロック多量）
5 黒褐色土



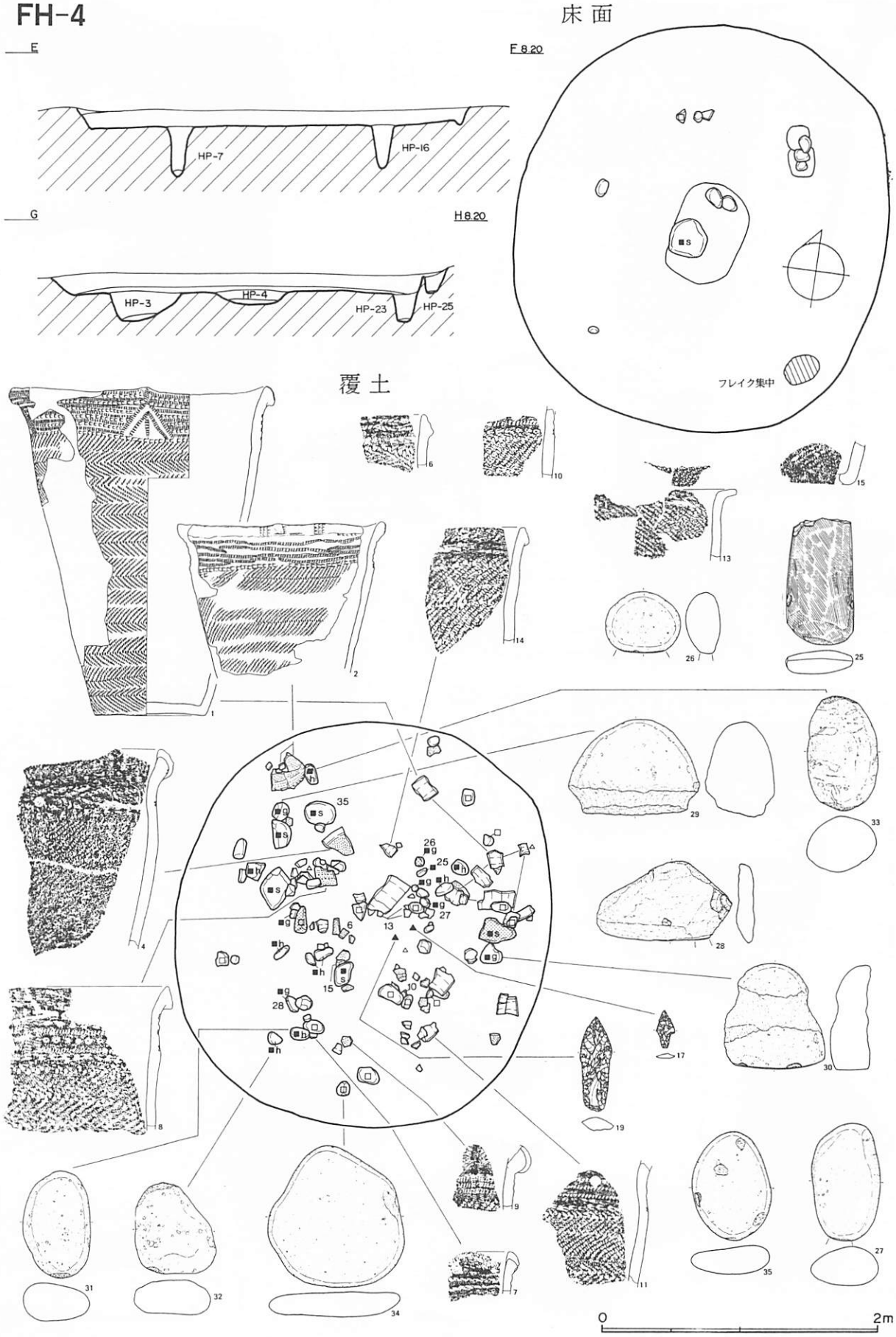
1 暗褐色土
2 暗褐色土（黄褐色土粒を含む）
3 暗褐色土（黄褐色土ブロックを含む）
4 灰黄褐色土
5 灰褐色土



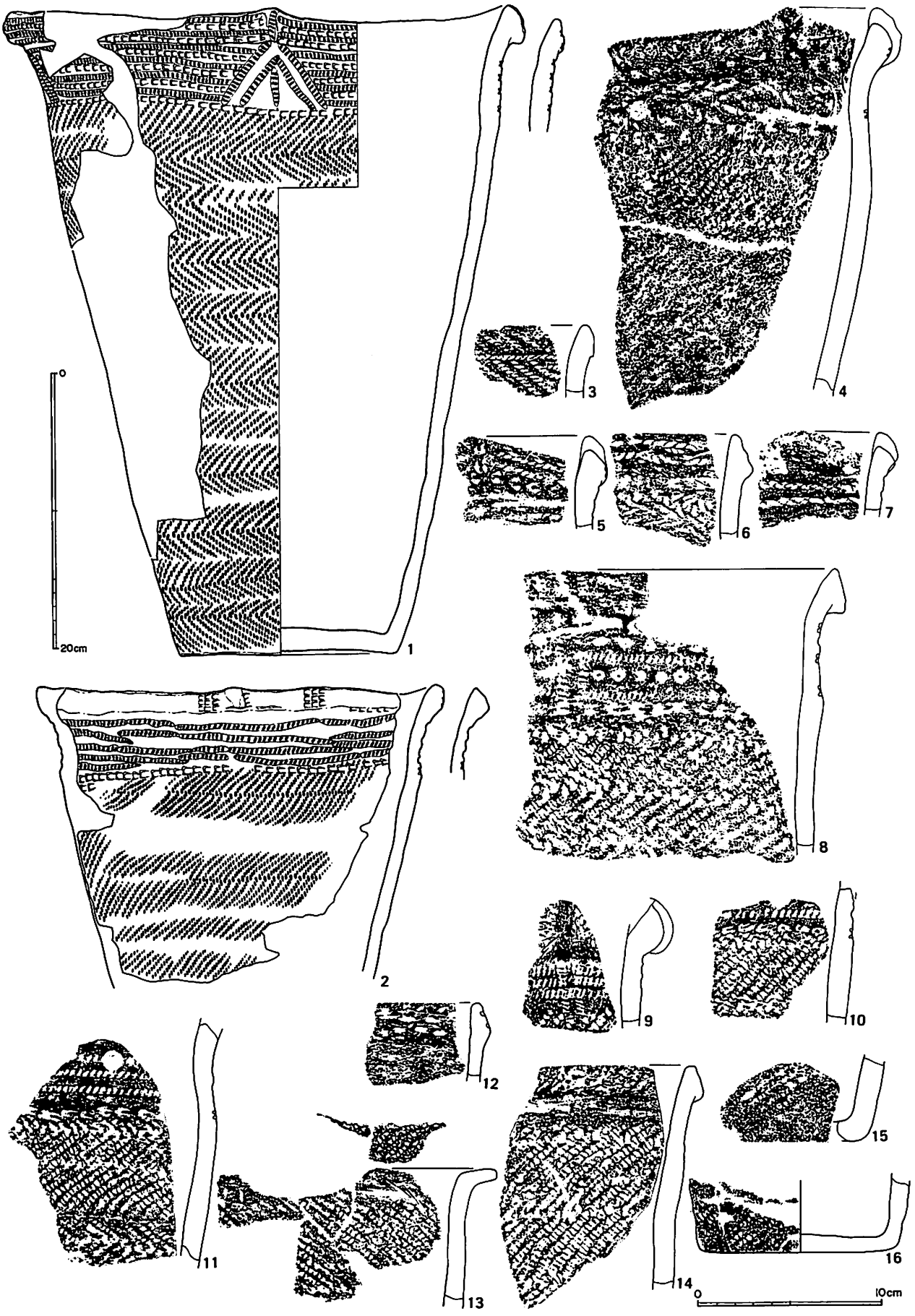
1 暗褐色土（黄褐色土粒を含む）
2 黄褐色土ブロック
3 暗褐色土（炭化物多量）

0 2m

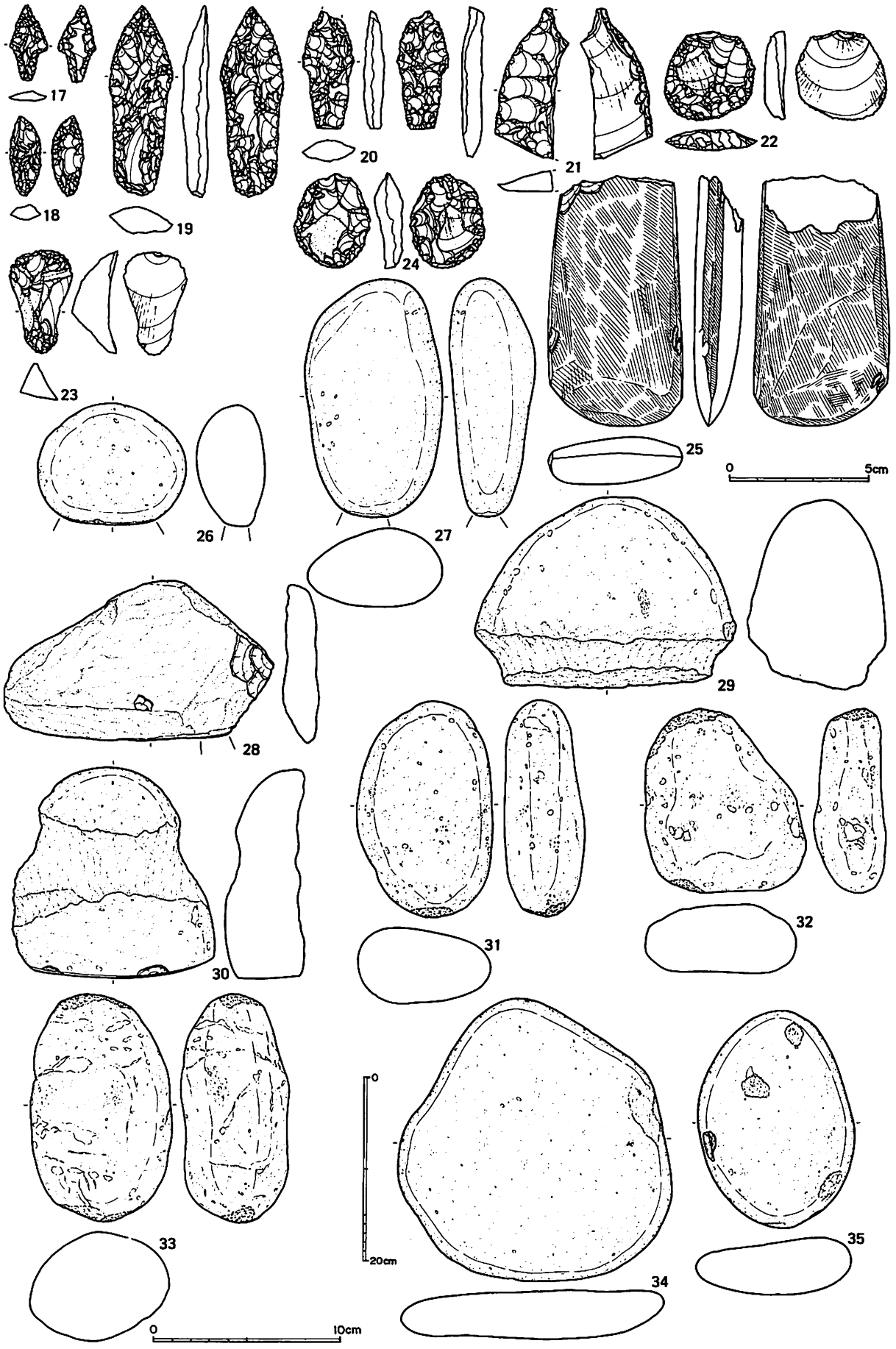
図Ⅲ—58 FH—4(1)



図III—59　FH—4(2)



図Ⅲ—60　FH—4 遺物(1)



図III—61　FH—4 遺物(2)

あり，10～16cmが残存しているにすぎない。小ピットは13カ所(HP—1～8，FH—6のHP—3・6・11)，FH—6の調査時に確認されたものが3カ所あるが，位置や深さからみて主柱は4本（FH—6のHP—3・6，HP—1・6・7のいずれか，HP—4・8～10のいずれか）とみられる。炉跡，付属施設とみられるピットは確認されていない。覆土中に焼土（3層）がみられるが，やや浮いた状態で，二次的に堆積したものと考えられる。

遺物　出土遺物総数は829点，その内訳は土器67点，石器類7点，コア・フレイク類592点，礫類163点，土器はII群B類が主体，石器はすり石，北海道式石冠，たたき石，砥石などがみられる。遺物の分布はほぼ全域で，すべて覆土中である。

土器　II群B2a類（1），II群B2b類（2・3），II群B類（4）

1は斜行縄文が施された切り出し状の口唇部である。口頸部に斜位の単軸絡条体回転文が施されている。2・3は口頸部に斜行縄文が施されたもので，2の口唇部下端には半截竹管状工具の刺突が加えられている。4は体部破片で，結束羽状縄文が施されている。

石器　剝片石器は出土していない。5・6はすり石で，5は半円状扁平打製石器，6は一側縁を使用したもの。7・8はたたき石で，7は両端に，8は両端から一側縁にかけて使用痕がある。

時期　縄文時代前期末～中期初頭，II群B2類土器の時期である。

FH—6（図III—63・65，図版27）

平面形　隅丸長方形　　**規模**　3.22×2.88／2.97×2.53／0.20m　　**面積**　7.99m²

重複　FH—5より古い

特徴　床面は比較的平坦であるが，北側にわずかに傾斜している。壁面の傾斜は緩やかで丸味があるが，南側上部はFH—5に壊されている。小ピットは9カ所（HP—1・2・4・5・7～10・12），位置と大きさなどからHP—1・4・7または8・12の4本が主柱と思われる。炉跡，付属施設のピットなどは確認されなかった。

遺物　出土遺物総数は21点，その内訳は土器1点，石器類7点，フレイク3点，礫類9点，石器はたたき石（7点）と石皿・台石（2点）のみである。遺物はすべて覆土中から出土し，分布は北側に片寄っている。

土器　II群B類土器1点のみ，小破片で摩滅が著しかったため掲載しなかった。

石器　剝片石器は出土していない。9～12はたたき石。このうち11は石材鑑定試料で，単斜輝石含有無斑晶～微斑晶質安山岩である。13・14は石皿・台石である。

時期　縄文時代前期末～中期初頭，II群B類土器の時期と思われる。

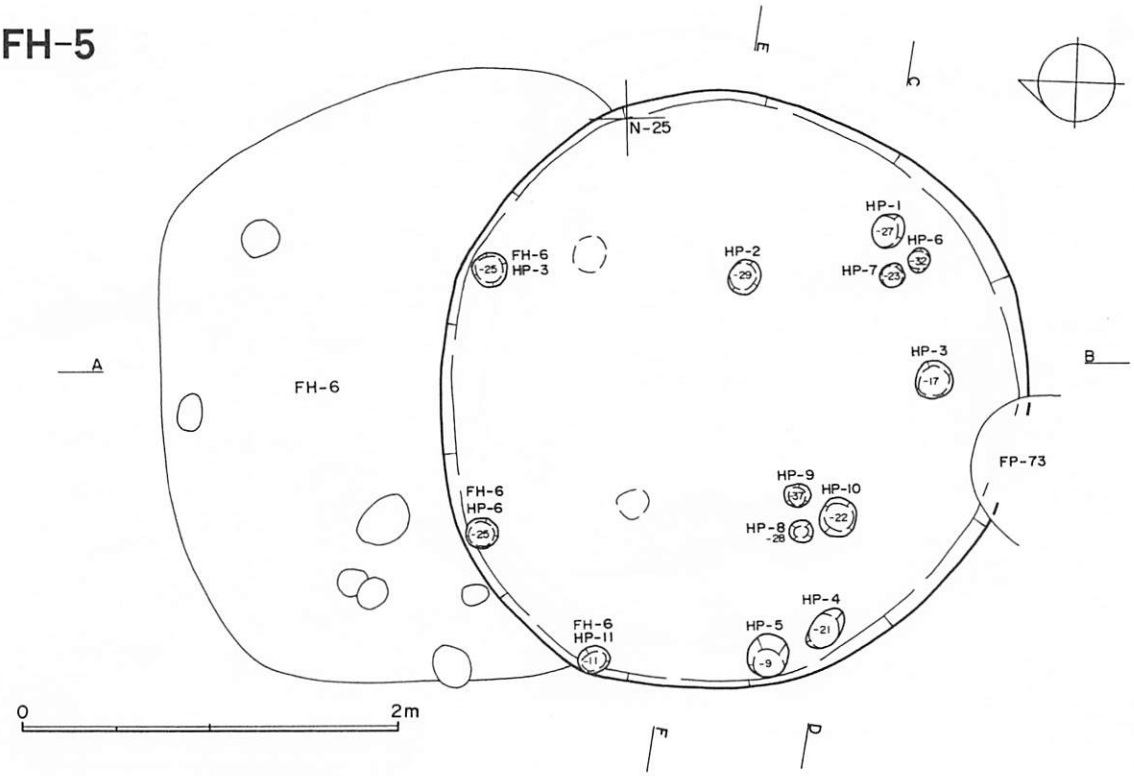
FH—7（図III—64・65，図版26）

平面形　楕円形　　**規模**　4.83×4.42／4.69×4.28／0.22m　　**面積**　16.57m²

重複　FH—4・FP—98より古い

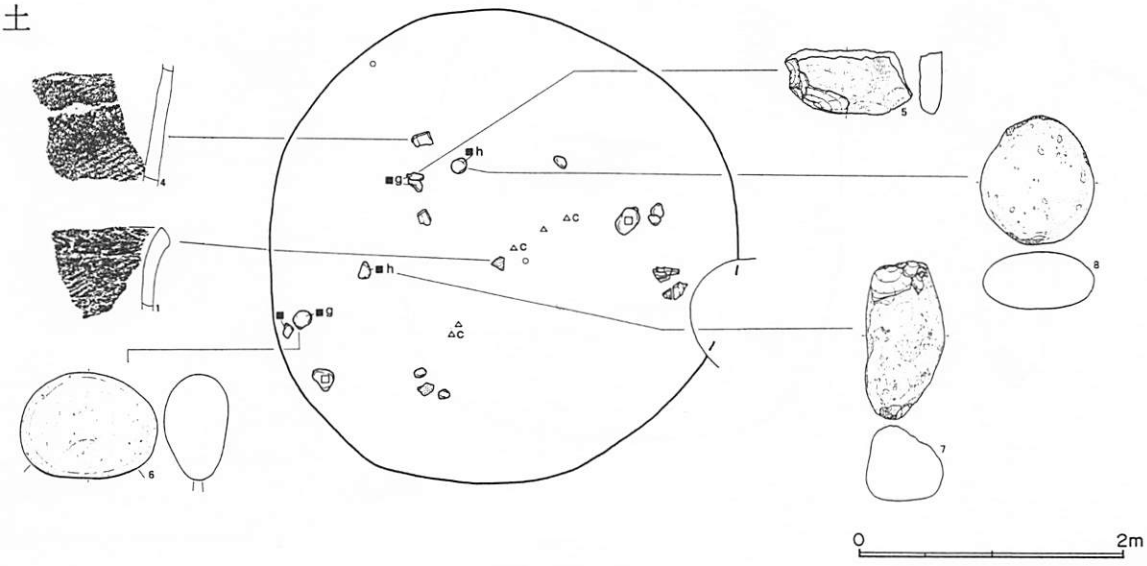
特徴　南西部がFH—4によって壊されているので，全体の状況は不明であるが，床面は全体に西側に傾斜し，壁面の傾斜も緩やかである。また，東側の床面は段状になっており，建替えまたはFH—4との間にもう1軒住居跡が存在した可能性がある。小ピットは23カ所（HP—1・24・26～46）であるが，FH—4で確認されたものの中にも当住居跡に伴うものがあると思われる。HP—26・27，29～31・4，32・33，40・41，43～45など2～4本の

FH-5



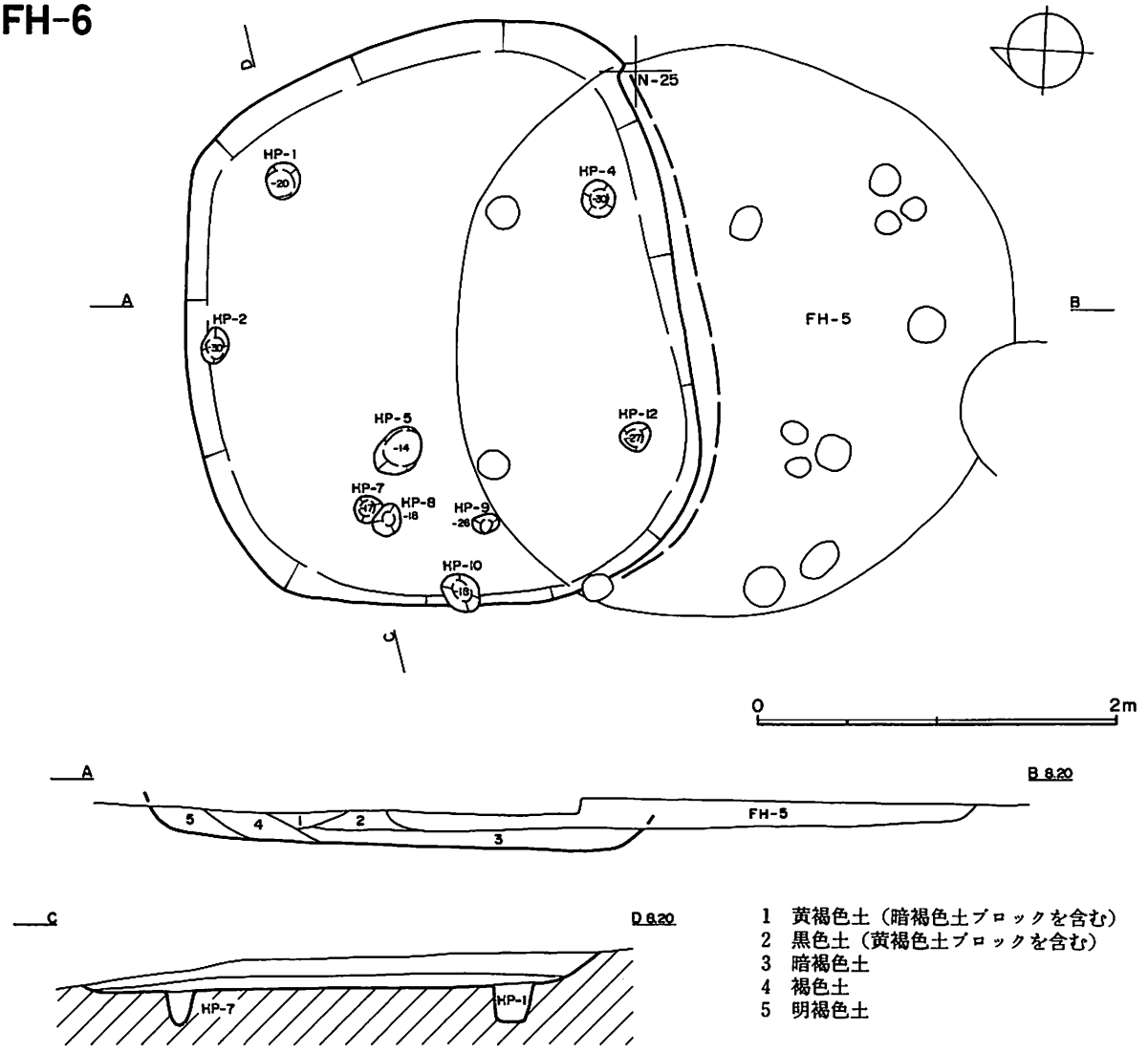
1　暗褐色土（炭化物多量）
2　褐色土（黄褐色土ブロック若干）
3　赤褐色土（焼土）
4　暗黄褐色土
5　黄褐色土ブロック

覆土



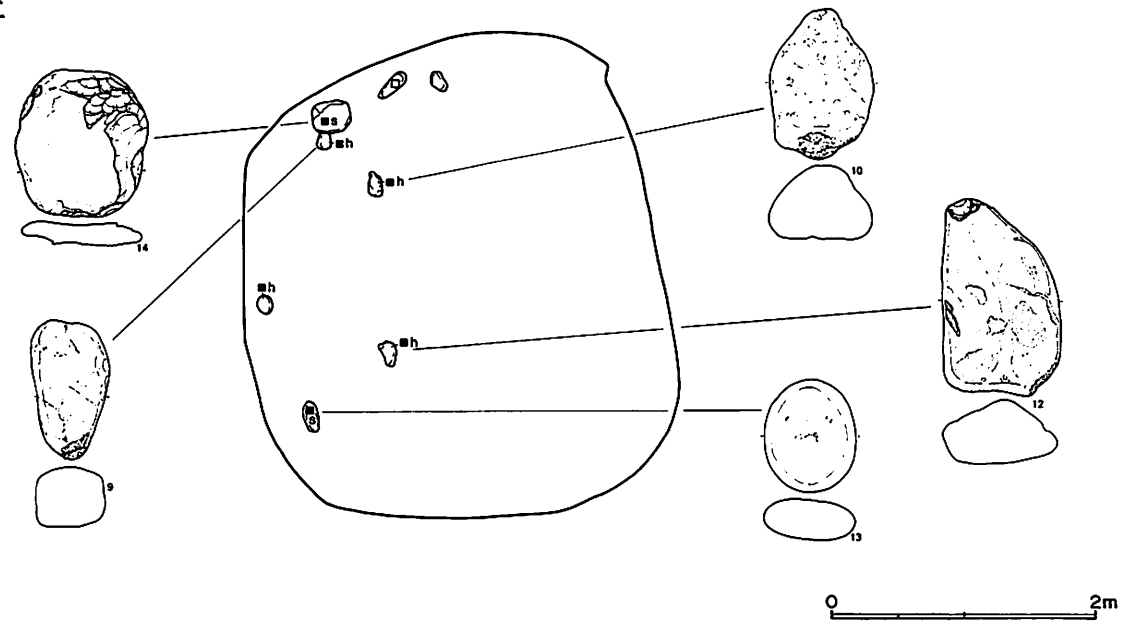
図Ⅲ—62　FH—5

FH-6



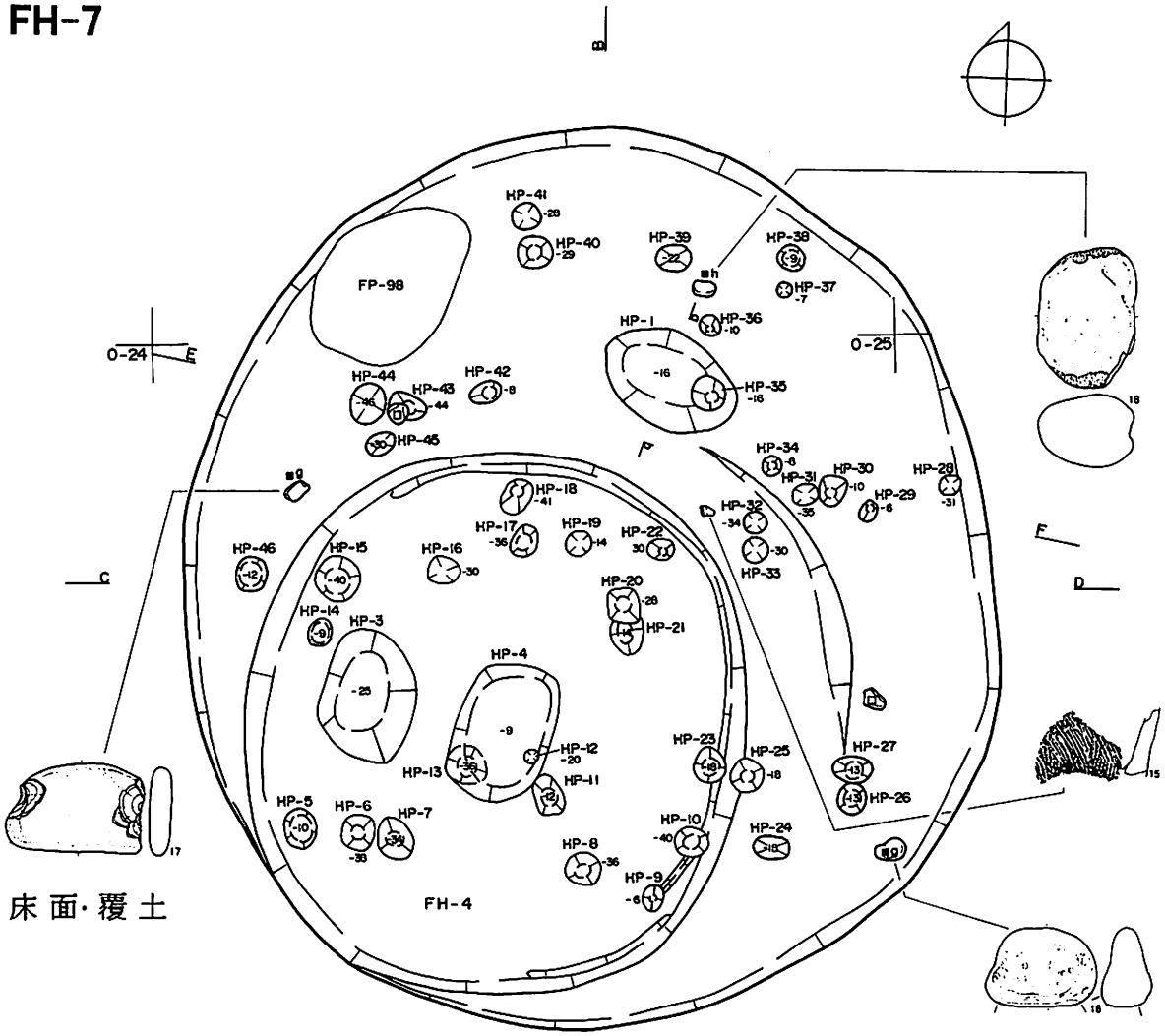
1 黄褐色土（暗褐色土ブロックを含む）
2 黒色土（黄褐色土ブロックを含む）
3 暗褐色土
4 褐色土
5 明褐色土

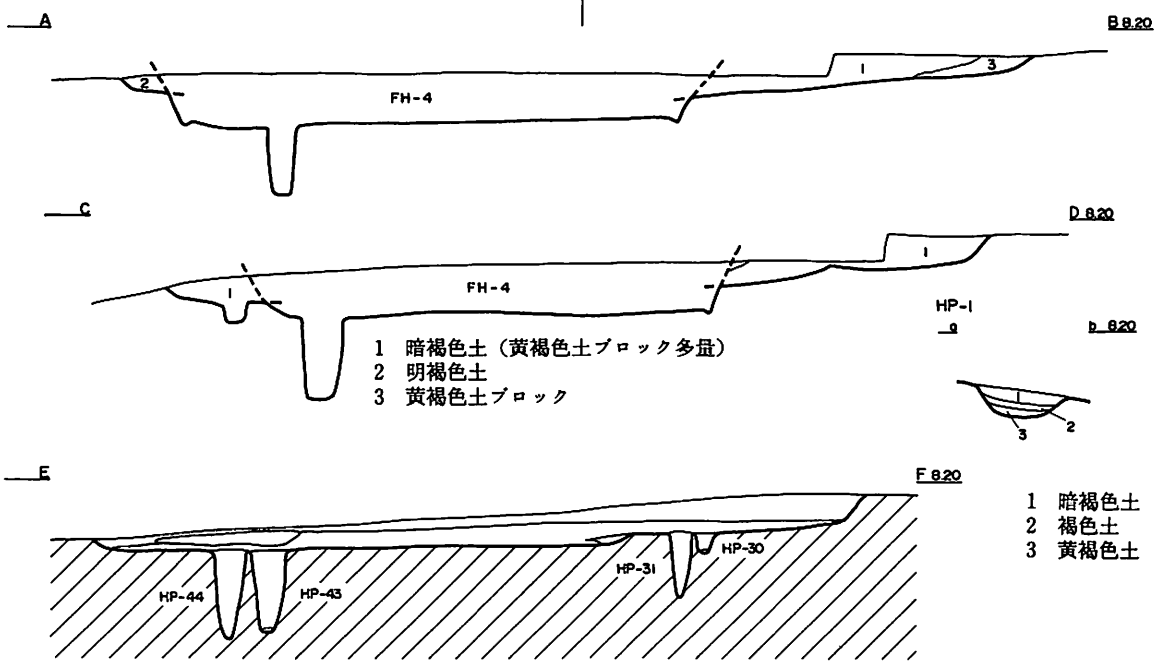
覆土



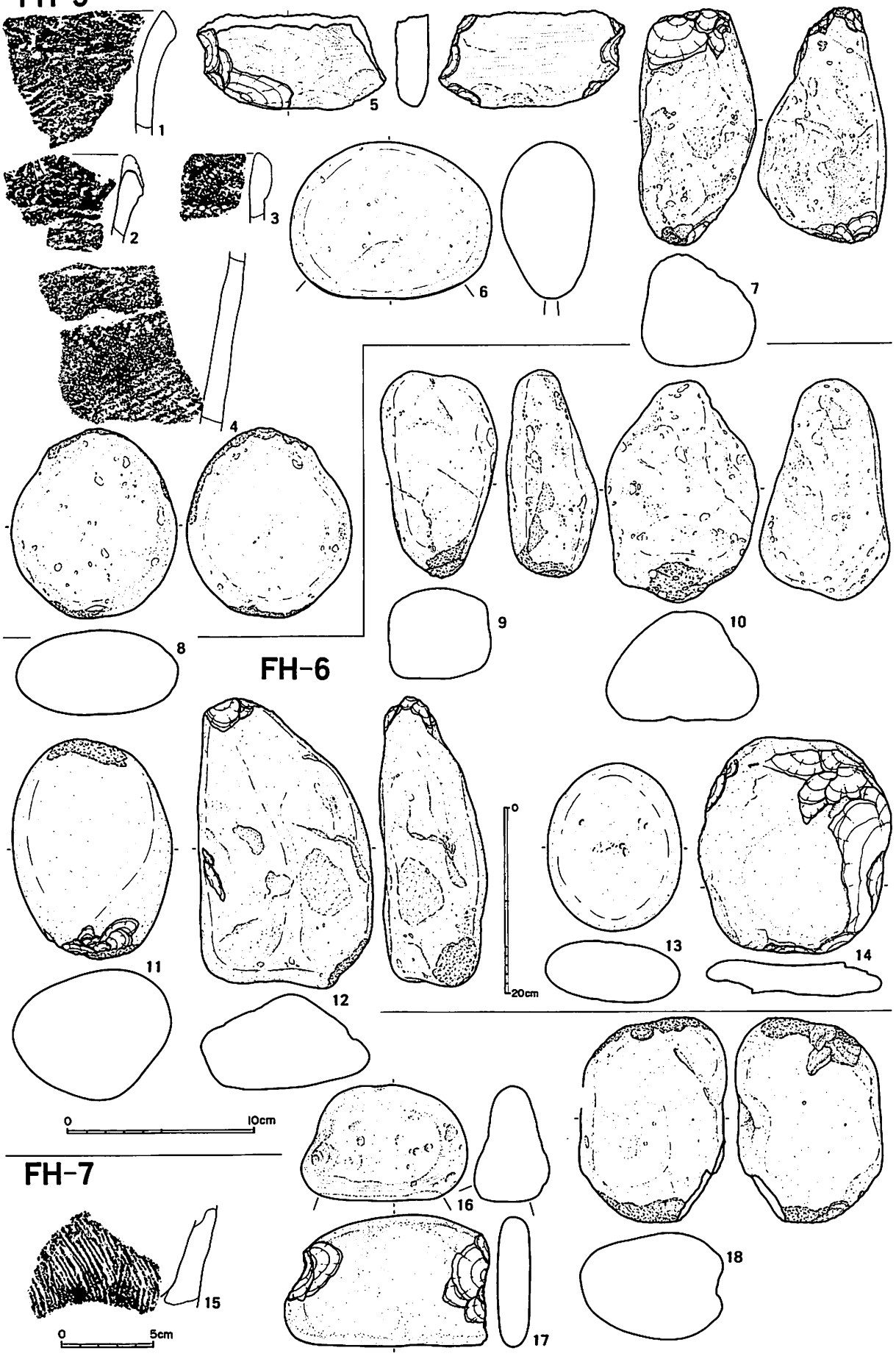
図Ⅲ—63 FH—6

FH-7





図III—64 FH—7



図Ⅲ—65　FH—5・6・7遺物

柱穴が近接していることなどから，何度かの建替えが行われた可能性があるが，基本的には4本ないし5本（例えばHP—5・24・31・39・43または44など）が主柱穴と考えられる。

遺物　出土遺物総数は7点，その内訳は土器1点，石器類3点，礫類3点，石器はすり石（2点）とたたき石（1点）である。遺物は床面および覆土から散発的に確認された。

土器　15は唯一の土器片で，体部に粗雑な単軸絡条体回転文が施されたII群B2a類土器の底部破片である。胎土に砂粒を含むことなどからII群B1類の可能性もある。

石器　剥片石器は出土していない。16・17はすり石で，17は両端を打欠いた石錘の可能性もあるが，未使用のすり石としておく。18は両端に使用痕のあるたたき石。

時期　縄文時代前期末～中期初頭，II群B類土器の時期である。

FH—8（図III—66・67，図版28）

平面形　楕円形　　**規模**　2.80×2.40／2.59×2.10／0.22m　　**面積**　5.38m²

重複　FP—77・78より古い

特徴　北側の一部がFP—77・78によって壊されているが，全体の状況は知ることができる。床面は皿状にわずかに凹み，壁面は丸味があり，傾斜も緩やかである。また，床面西側には，断面がU字形で，開いたコの字形にのびた溝がみられる。小ピットは9カ所(HP—1～9)，HP—1～4の4本は主柱，HP—5～8の4本は壁柱，HP—9は溝と関連するピットと考えられる。炉跡は1カ所(HF—1)，焼土というより灰層である。覆土は一部に攪乱がみられるが三層に分けられ，2・3層には黄褐色土ブロックが含まれている。

遺物　出土遺物総数は418点，その内訳は土器48点，石器数36点，コア・フレイク類184点，礫類150点，土器はII群のみ，石器はたたき石（29点）の多さが際立っている。遺物は全域にみられるが，床面は東側，覆土は西側に集中している。

土器　II群A2類（1），II群B1類（2），II群B2a（3），II群B類（4・5）

1は尖る口唇部で，口縁部に穿孔する円形刺突文が加えられている。トビノ式に類似する。体部には斜行縄文が施され，胎土は多量の繊維を含む。2は半截竹管状工具の刺突文で区画された口頸部に綾絡文状の不規則な縄文が施される。体部は斜行縄文である。3は体部に単軸絡条体回転文，4は結束羽状縄文，5は斜行縄文である。

石器　剥片石器は出土していない。6・7は北海道式石冠。8～14はたたき石で，9・11・12には剥片が接合している。15～17は石皿・台石。

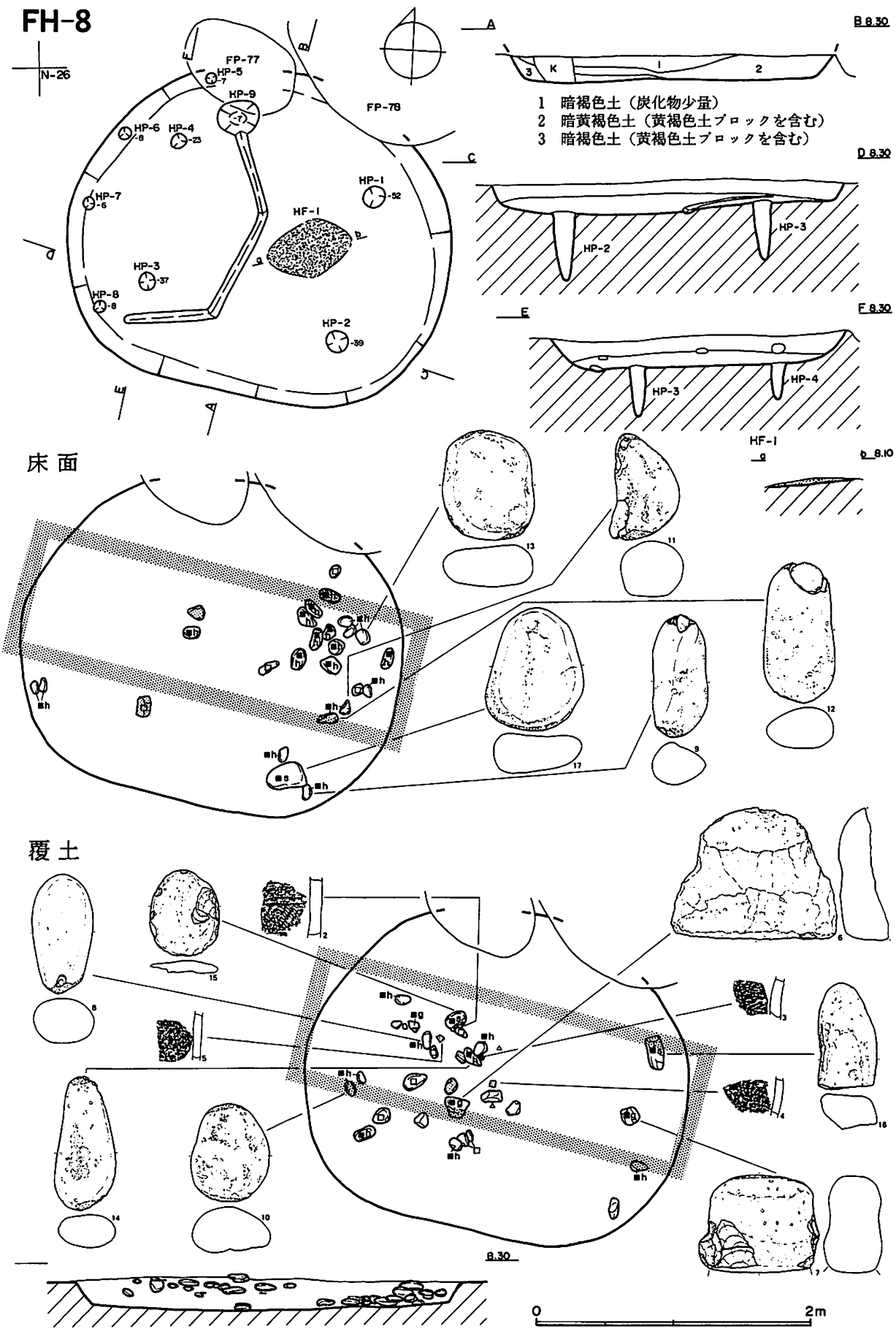
時期　縄文時代前期末～中期初頭，II群B類土器の時期である。

FH—9（図III—68～70，図版29）

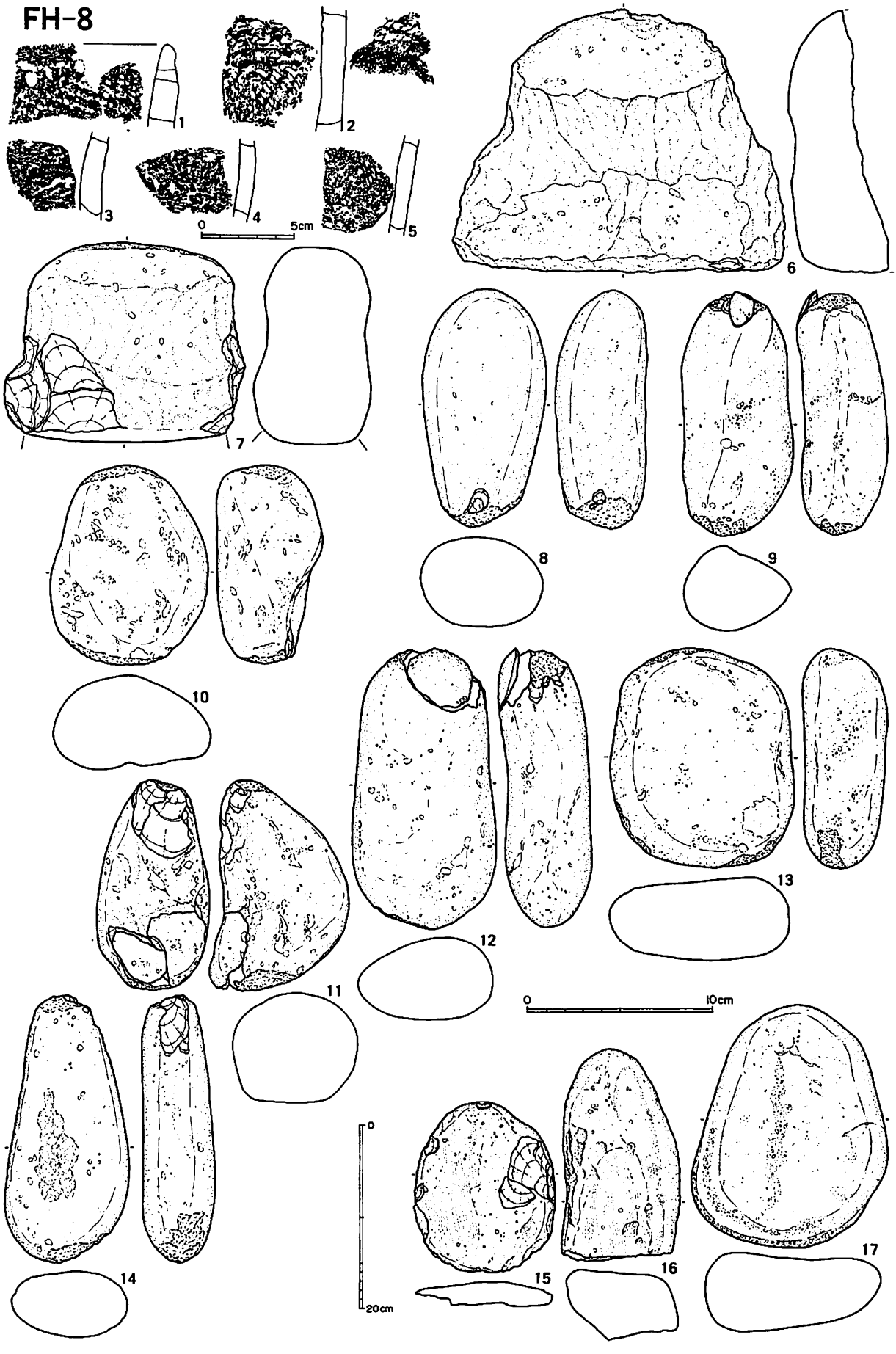
平面形　円形　　**規模**　3.76×3.50／3.61×(3.17)／0.12m　　**面積**　10.11m²

重複　FH—10より新しく，FH—11，FP—28～30，79より古い。

特徴　FH—11に西側，FP—79に東側，FP—28～30に中央南西側が壊されているが，ほぼ全体の形状は知ることができる。床面は平坦で，壁面の傾斜も緩やかである。小ピットは19カ所（HP—1～19），中央のHP—1・2は浅く付属ピットと思われる。他の小ピットはすべて柱穴と思われるが，深さが40cm以上の深いものが多い。位置的にみて，HP—5・10・14・16・18・19などが主柱の可能性がある。炉跡はみられないが，覆土2層中に焼土のブロックが含まれていた。

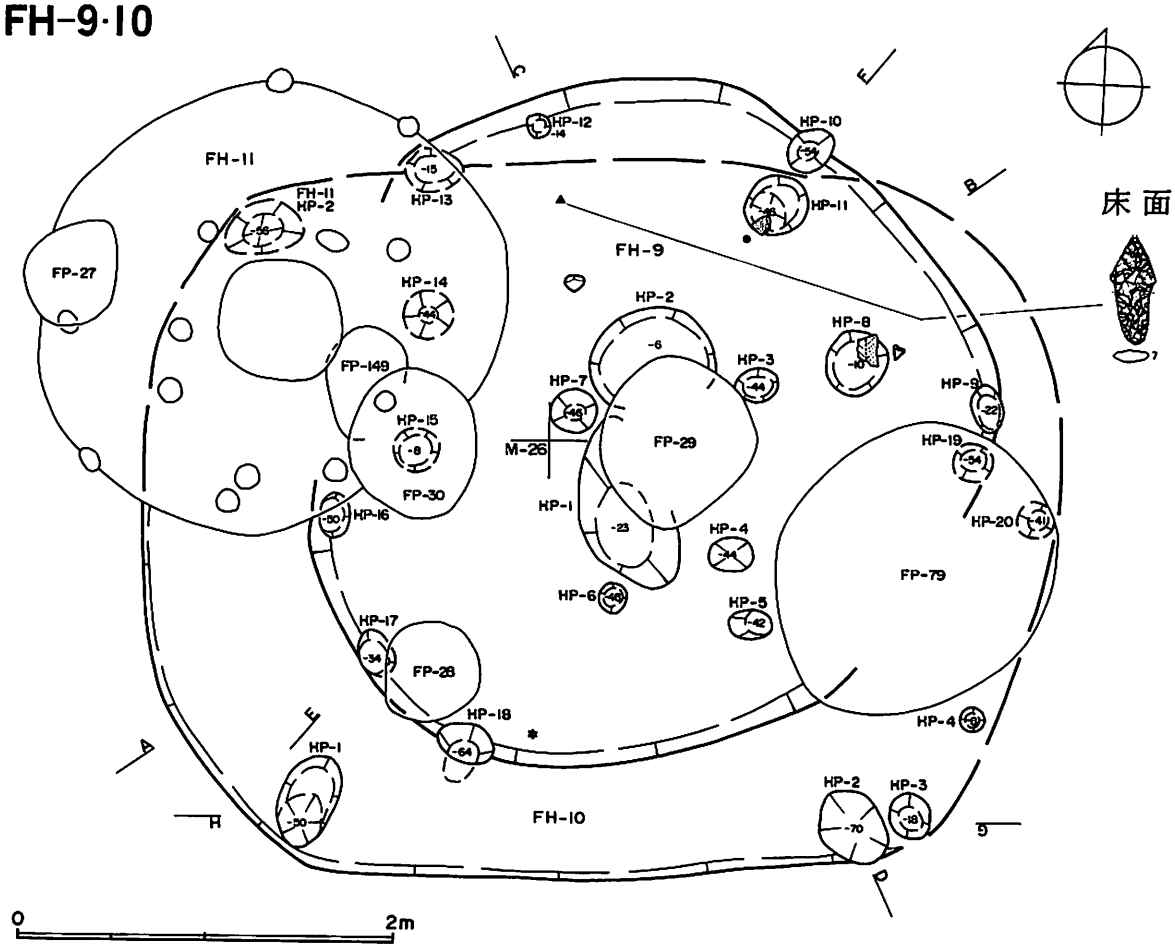

FH-8
N-26
FP-77
HP-5
HP-9
FP-78
HP-6
HP-4
HP-7
HP-1
HF-1
HP-3
HP-8
HP-2
A
B 8.30
1 暗褐色土（炭化物少量）
2 暗黄褐色土（黄褐色土ブロックを含む）
3 暗褐色土（黄褐色土ブロックを含む）
C
D 8.30
E
F 8.30
床面
覆土
HF-1
g
b 8.10
8.30
0
2m

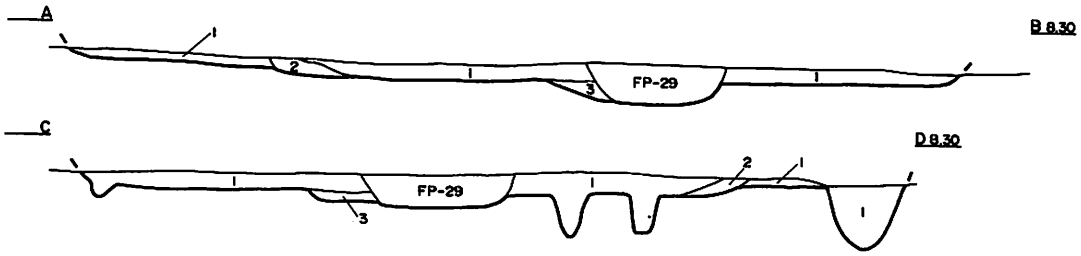
図Ⅲ—66　FH—8



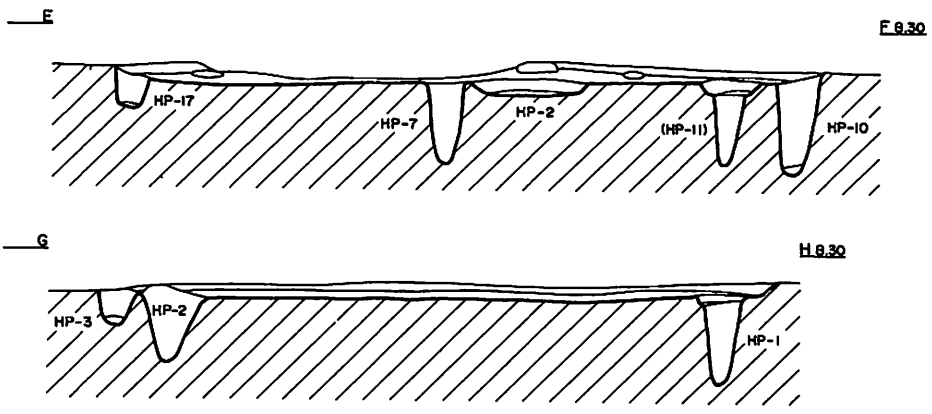
図Ⅲ—67　FH—8 遺物

FH-9·10



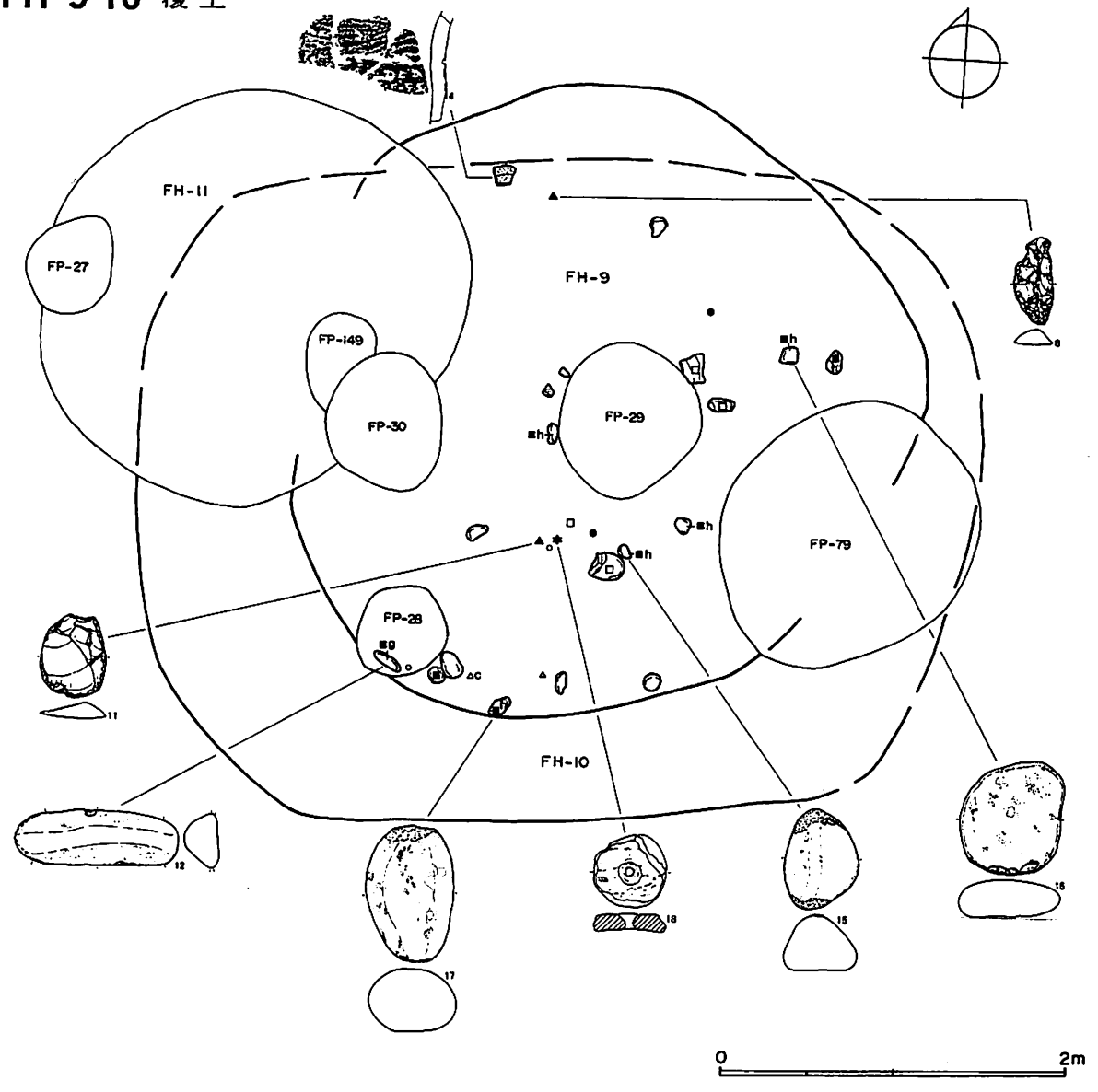


1 暗褐色土（炭化物多量）
2 暗褐色土（焼土ブロックを含む）
3 暗褐色土（黄褐色土ブロックを含む）



図Ⅲ—68　FH—9・10(1)

FH-9·10 覆土



図Ⅲ—69　FH— 9・10(2)

遺物　出土遺物総数は565点，その内訳は土器108点，石器類16点，コア・フレイク類260点，礫類177点，土製品４点，土器はII群のみ，石器はたたき石（６点）が多い。遺物は床面と覆土中にみられ，分布はほぼ全域であるが，中央南側がやや多い。

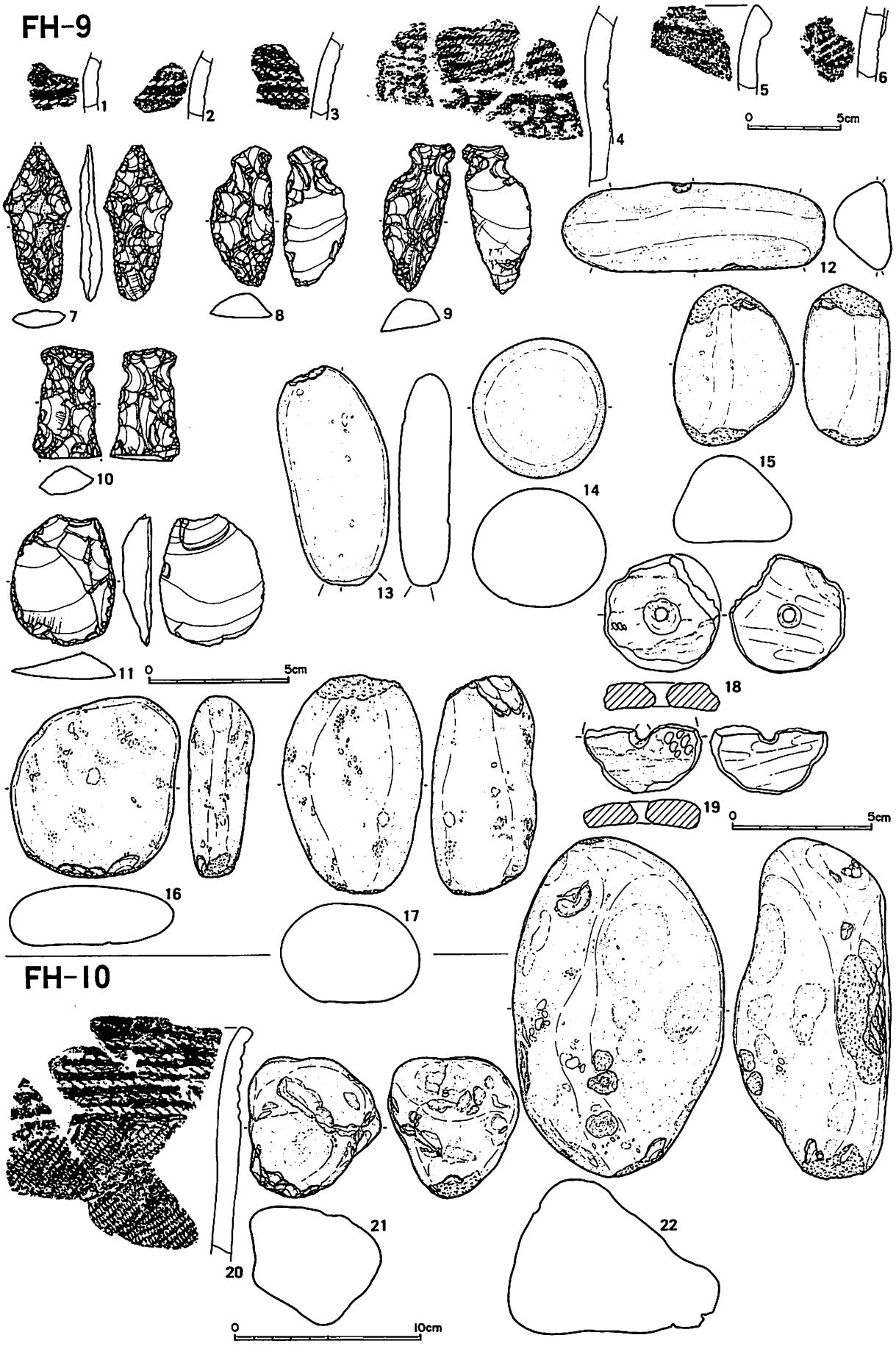
土器　II群 B2a 類（１～３），II群 B2b 類（４），II群B類（５），IV群 B1 類（６）

１～３は口頸部に縄線文が施されているものである。４は半截竹管状工具の刺突文で区画された口頸部に縄線文が施されている。５は切り出し状の口唇部断面で，体部には斜行縄文が施されている。６は貼付帯・３本一組の沈線文が施されている。

石器　７は有茎のポイント。8・9は縦形片面加工の，10は縦形両面加工のつまみ付きナイフ。11は外湾する刃部をもつ周辺加工のスクレイパー。12・13はすり石。14は球石。15～17はたたき石。

土製品　18・19は有孔の再生土製円盤である。

時期　縄文時代前期末～中期初頭，II群 B2 類土器の時期である。



図Ⅲ—70　FH— 9・10 遺物

FH—10（図III—68～70，図版29）

平面形　隅丸長方形　　**規模**　4.85×3.80／4.80×3.75／0.08m　　**面積**　16.15m²

重複　FH—9・11，FP—28～30・79より古い。

特徴　北側の大半がFH—9・11で壊されているが，柱穴の状況などから大まかな輪郭は推定できる。床面，壁面ともに南西部の一部が残っているにすぎないが，床面は平らである。床面が残存している部分で確認された小ピットは4カ所（HP—1～4）だけであるが，FH—9のHP—11・20，FH—11のHP—2などもFH—10に伴うものと思われる。位置，大きさなどからみて，HP—1・2，FH—9のHP—11，FH—11のHP—2の4本が主柱と考えられる。炉跡は不明である。

遺物　出土遺物総数は119点，その内訳は土器46点，石器類3点，コア・フレイク類46点，礫類24点，土器はII群B2a類が大半，石器は石鏃（1点）とたたき石（2点）のみである。遺物は覆土から散発的に確認されただけである。

土器　II群B2a類（20）

丸味をもつ口唇断面で，幅広の口頸部は無文地に縄線文が施されている。体部は斜行縄文である。

石器　剝片石器は図示していないが，石鏃の破片が1点出土している。21・22はたたき石である。

時期　縄文時代前期末～中期初頭，II群B2a類の時期である。

FH—11（図III—71・72，図版29）

平面形　楕円形　　**規模**　2.50×2.26／2.15×1.92／0.13m　　**面積**　4.48m²

重複　FH—9・10，FP—149より新しく，FP—27・30より古い

特徴　西側と東側の一部がFP—27とFP—30に壊されているが，全体の形状は知ることができる。床面は平坦で，壁面の傾斜は緩やかである。小ピットは15カ所（HP—1～15）確認されてるいるが，FH—9・10の柱穴も含まれていると考えられる。HP—2は位置や大きさなどからFH—10の主柱穴とみられるが，他のものは確定できない。中央に確認されたHP—1はHF—1を伴う付属ピットと考えられる。

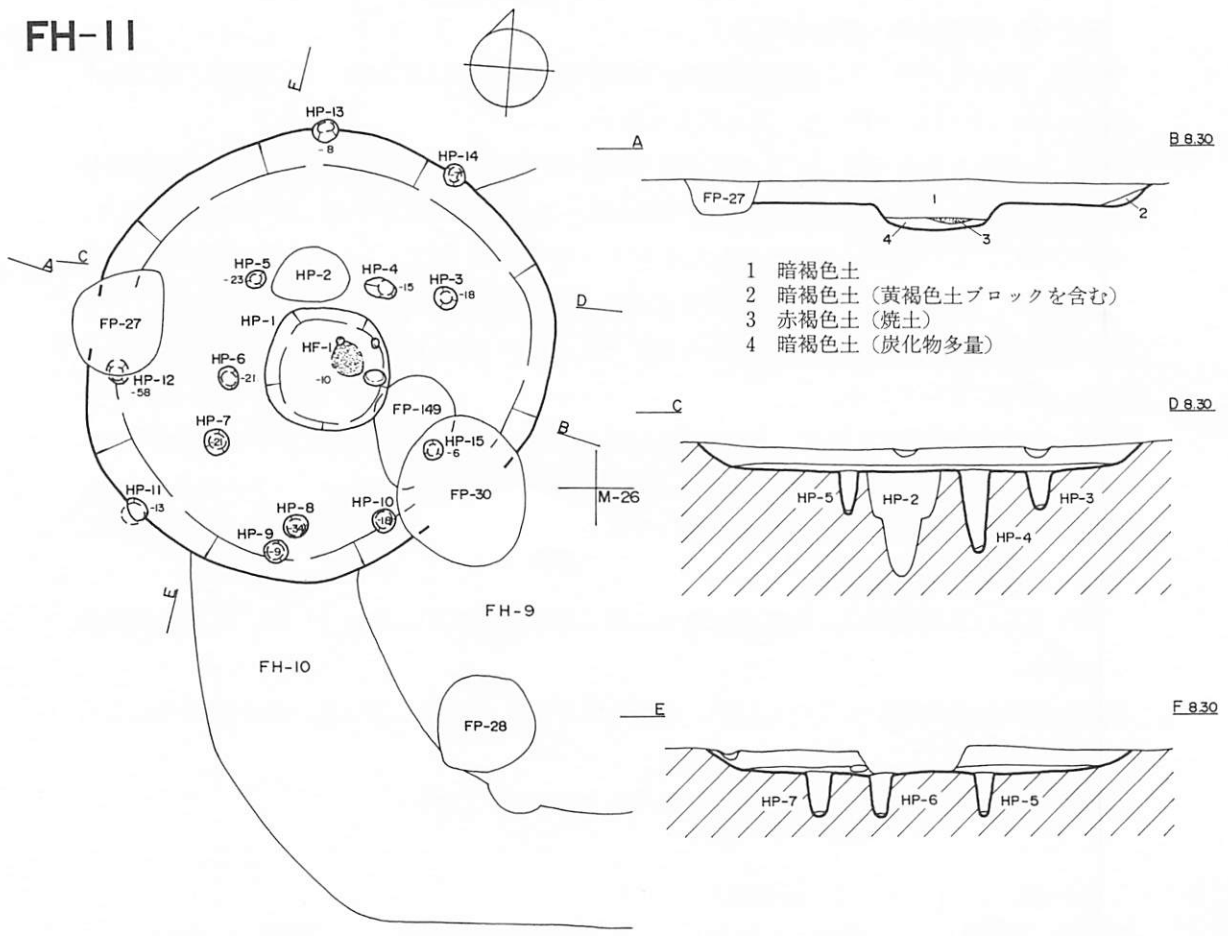
遺物　出土遺物総数は372点，土器56点，石器類13点，コア・フレイク類152点，礫類150点，土器はII群B2類が主体，石器はたたき石（5点）が多い。床面ではHP—1のHF—1周囲から礫類が確認されただけであるが，覆土中ではほぼ全域で遺物が確認されている。

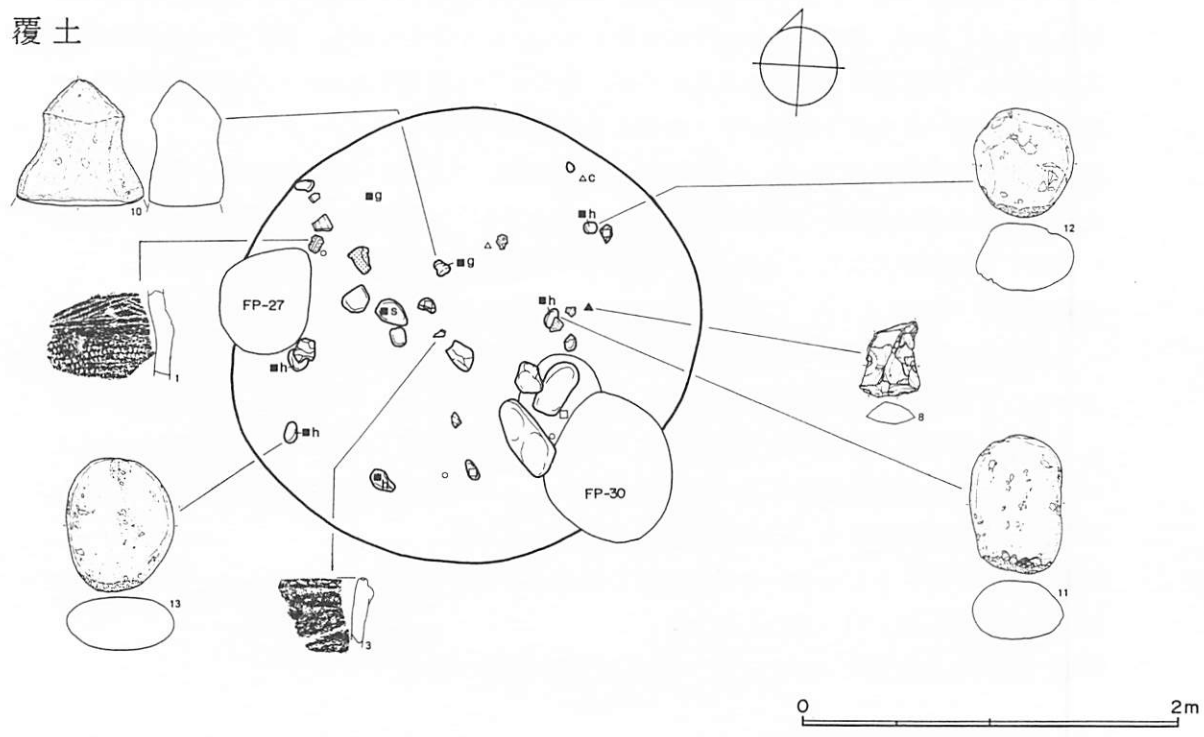
土器　II群B2a類（1），II群B2b類（2～4），II群B2c類（5），II群B類（6・7）

1は撚糸文が施されたくびれの強い口頸部破片で，体部には多軸絡条体回転文が施されている。2は上・下端部に半截竹管状工具の刺突文が施された口唇部で，口頸部には縄線文と半截竹管状工具の刺突文が施されている。3・4は切り出し状の口唇部に縄線文が施されている。5は半截竹管状工具の押引文で区画された口頸部に絡条体圧痕文が施されたものである。6は体部破片で結束羽状縄文が施されている。

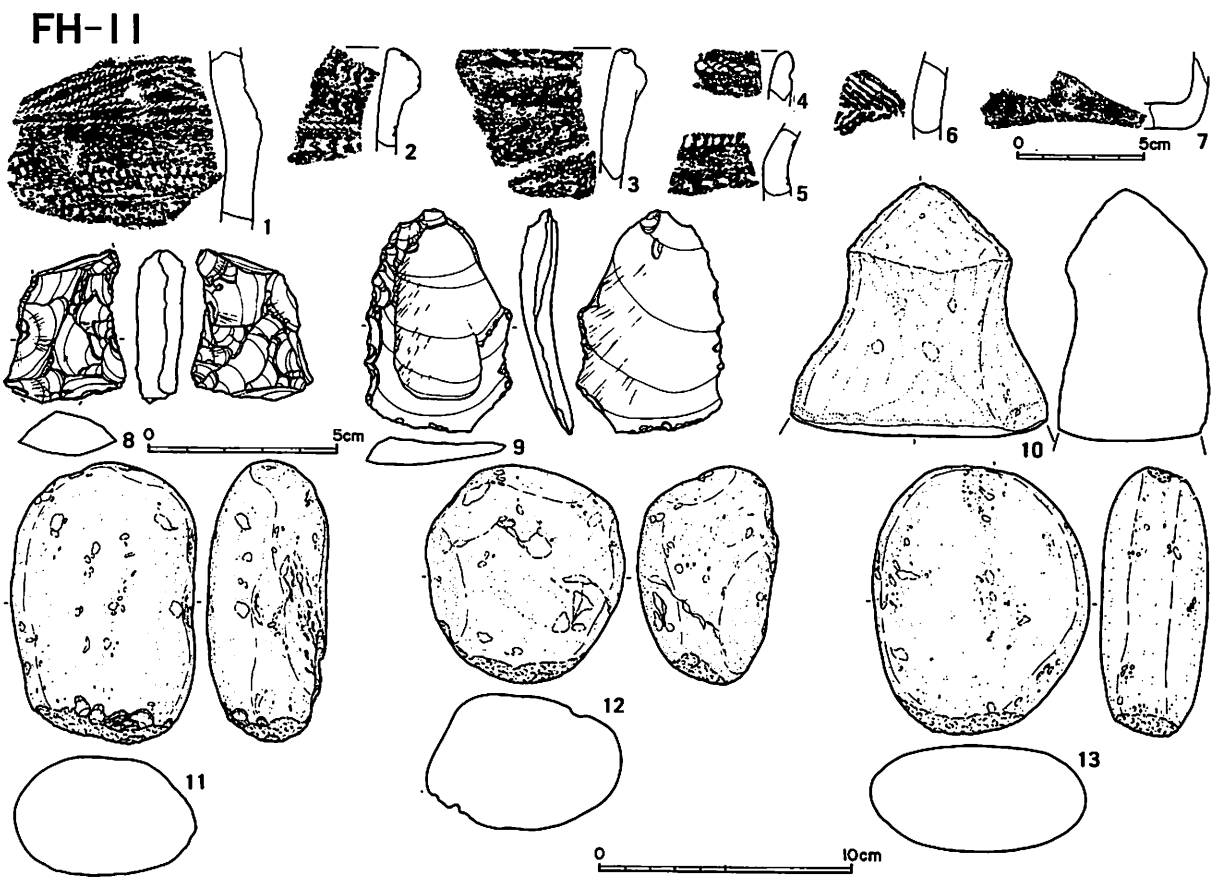
石器　8はポイントの一部。9は鋸歯状の刃部を有する周辺加工のスクレイパー。10は尖頂の北海道式石冠。11～13はたたき石。

時期　縄文時代前期末～中期初頭，II群B2類の時期である。


FH-11
HP-13
HP-14
HP-5
HP-2
HP-4
HP-3
HP-1
HF-1
HP-6
HP-12
HP-7
FP-149
HP-15
HP-11
HP-8
HP-10
HP-9
FP-27
FP-30
FH-9
FH-10
FP-28
M-26
A
B 8.30
FP-27
1
2
3
4
1 暗褐色土
2 暗褐色土（黄褐色土ブロックを含む）
3 赤褐色土（焼土）
4 暗褐色土（炭化物多量）
C
D 8.30
HP-5
HP-2
HP-3
HP-4
E
F 8.30
HP-7
HP-6
HP-5


覆土
FP-27
FP-30
0
2m

図Ⅲ—71　FH—11



図Ⅲ—72　FH—11遺物

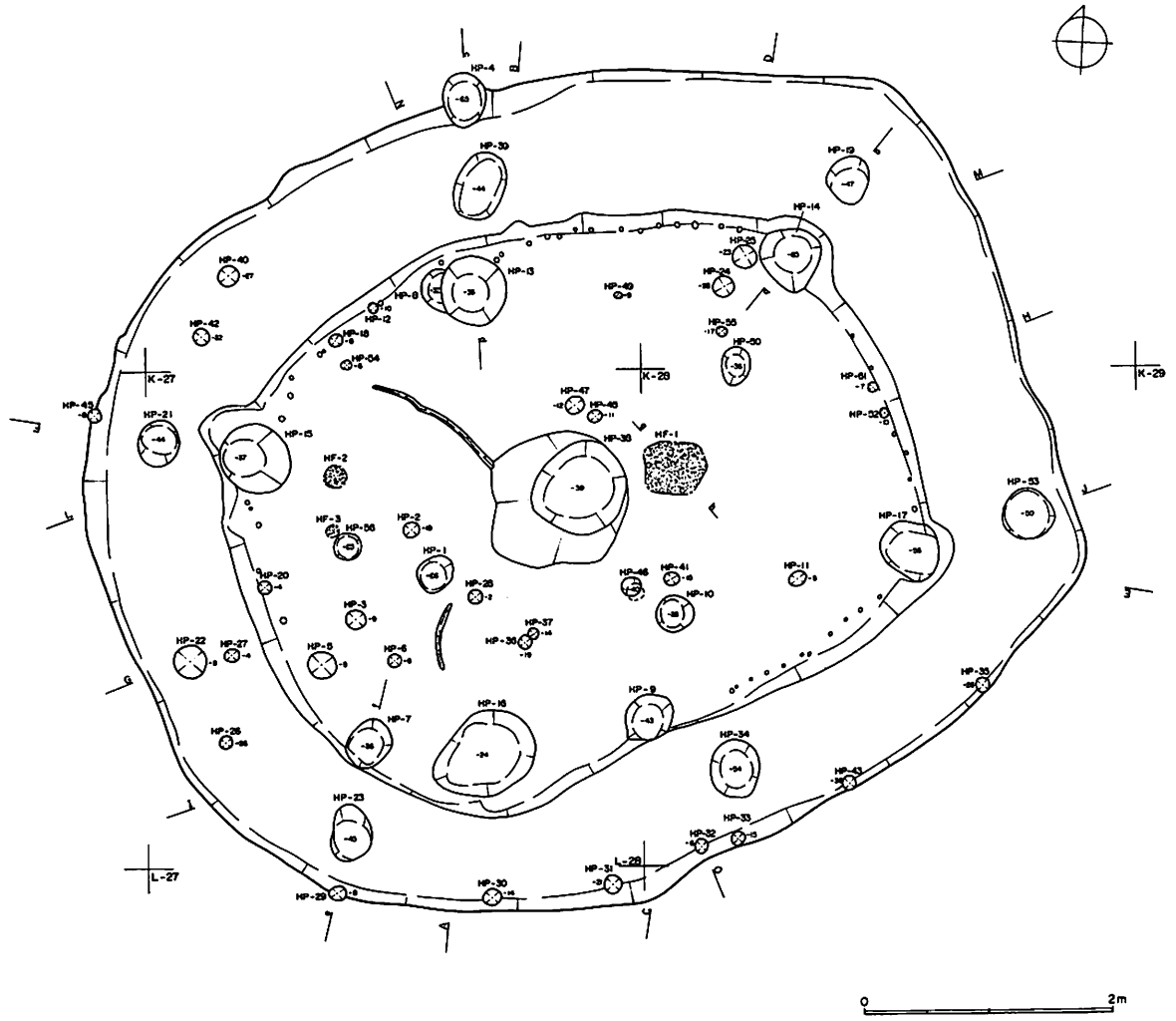
FH—12（図III—73～97，ロ絵4・5，図版30～33）

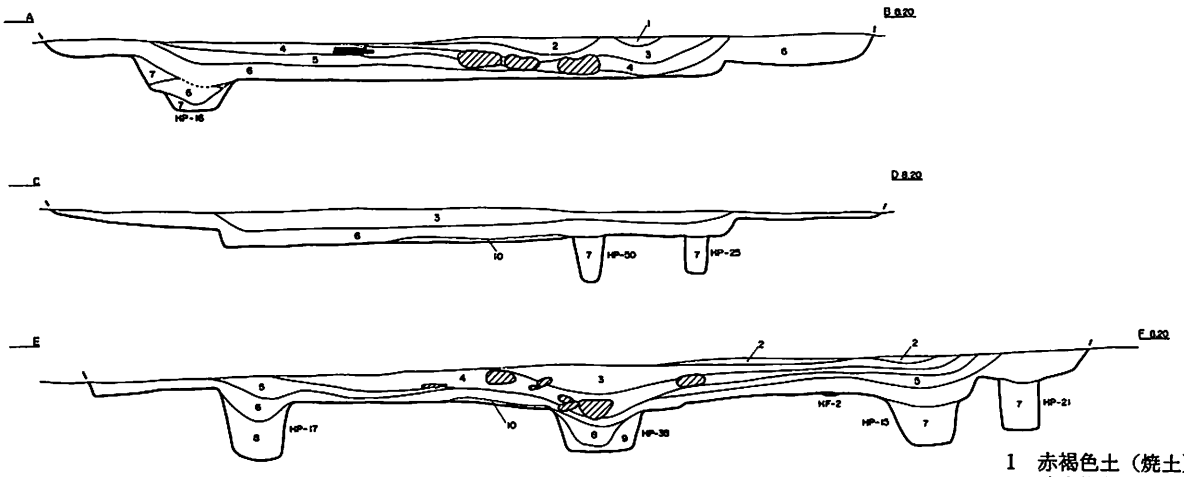
平面形　隅丸五角形　　**規模**　7.70×6.56／7.48×6.14／0.36m　　**面積**41.90m²

重複　なし

特徴　上部は削平されていたが，床面・壁面・遺物などの遺存状況はきわめて良好であった。床面は二段構造で，上段の幅は約1m，全周している。上段床面はわずかに凹凸があり，中央に向かって傾斜している。壁面は5～20cm残存しており，床面から急角度で立ち上がる。下段床面は凹凸がみられるが，比較的平坦で，上段へ続く壁面は急角度である。確認された小ピットは上段で20カ所，下段で35カ所，その他下段壁面際に43カ所の極小ピットがみられた。主柱は6本（HP—7・9・13～15・17）で，上段と下段の境に位置している。また，その6本に対応するように上段にも6本の柱穴（HP—19・21・23・34・39・53）がみられる。下段床面のHP—8とHP—13の重複関係からみて，本住居跡は当初HP—1・8・10・50の4本主柱の時期があったことが考えられる。壁柱とみられるものは上段では西側の一部と南側でみられ，下段では南西の一部を除いてほぼ全域でみられるが，大部分は43カ所の極小ピットである。極小ピットはすべて下段壁面の立ち上がり部分で確認され，確認面の直径は3cm程度，深さは5～10cm，先端は楔状で，枝状の材を打ち込んだものと思われる。おそらく，段の崩れ止めのために枝状の材を横にして，さらに縦方向の材を打ち込んで止めたものと考えられる。下段のほぼ中央で確認されたHP—38は，6本の主柱があれば，柱穴としては必要なく，別な機能のピットの可能性がある。また，一部切れてはいるが，北西と南西側に溝状の凹みがみられ，排水的な機能もあるのかもしれない。さら

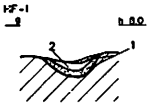
FH-12





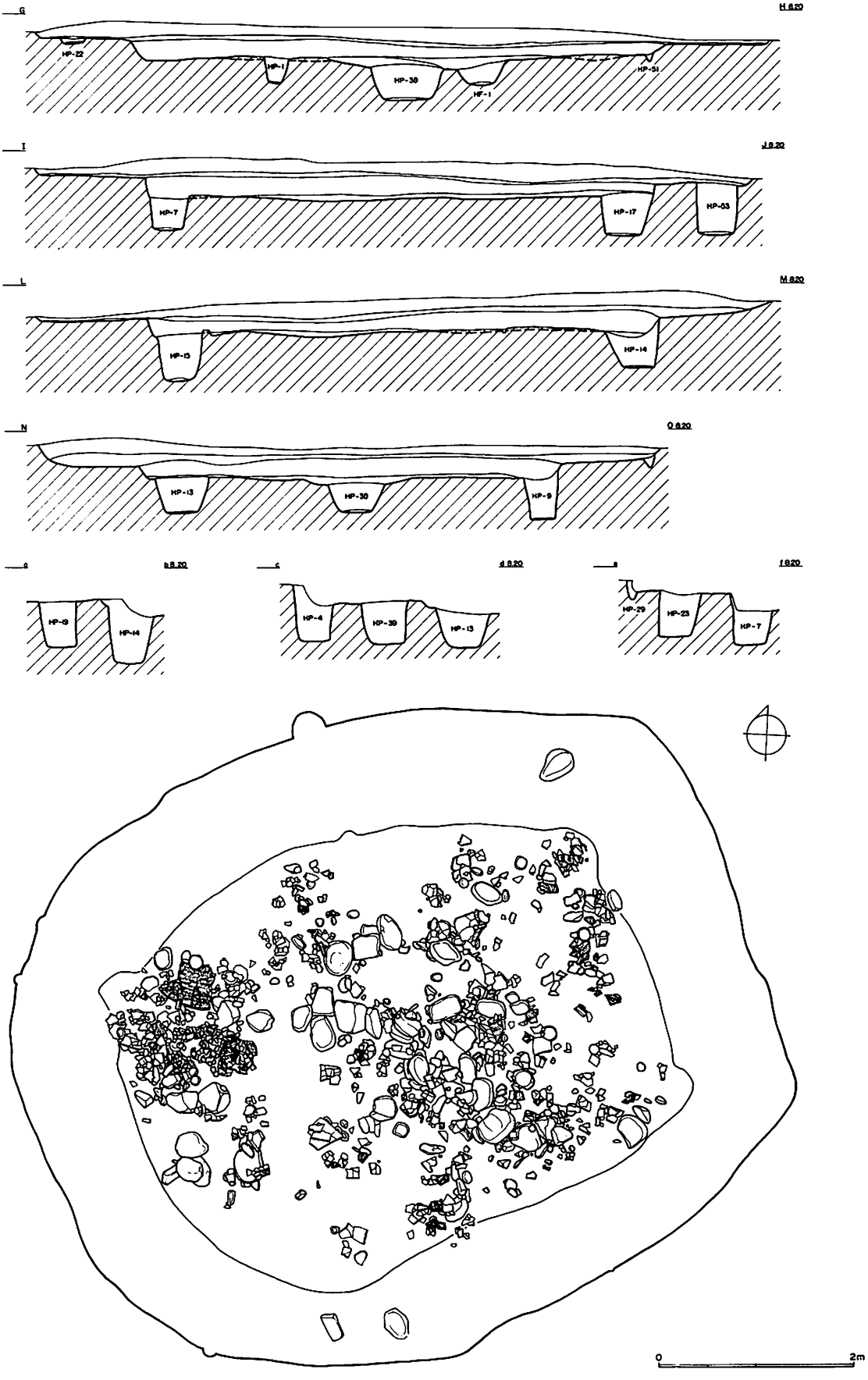
1 黒色土
2 黒色土と褐色土の互層（焼土・炭化物多量）
3 暗赤褐色土（焼土粒・炭化物・骨片を含む）
4 暗黄褐色土（焼土粒・炭化物多量・骨片を含む）
5 暗黄褐色土（焼土と炭火物の互層・骨片を含む）
6 暗黄褐色土（炭化物多量・骨片を含む）
7 黄褐色土
8 暗褐色土（黄褐色土粒を含む）
9 黄褐色土（砂礫を含む）
10 炭化物

1 赤褐色土（焼土）
2 暗赤褐色土

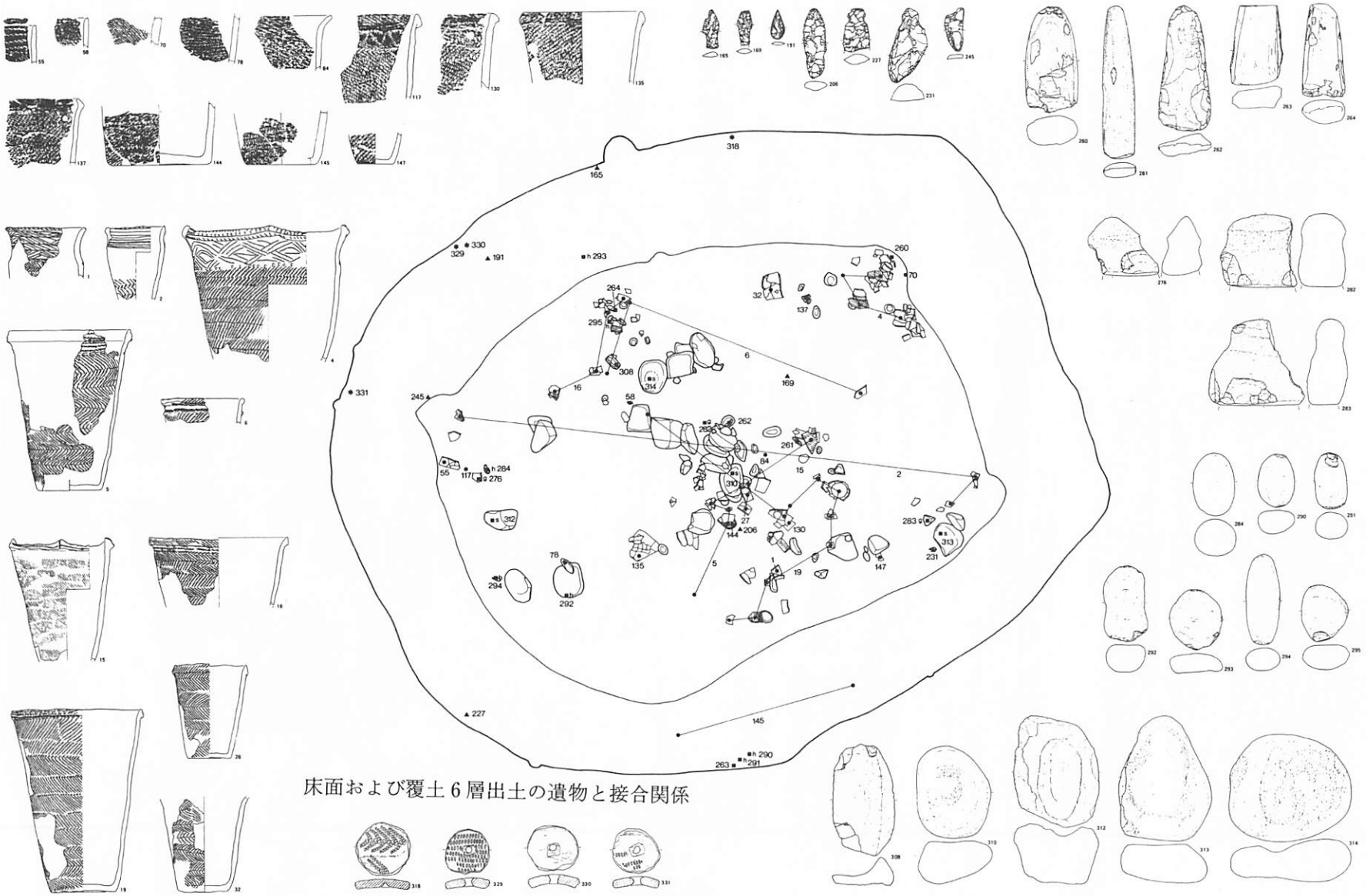


図Ⅲ—73 FH—12(1)

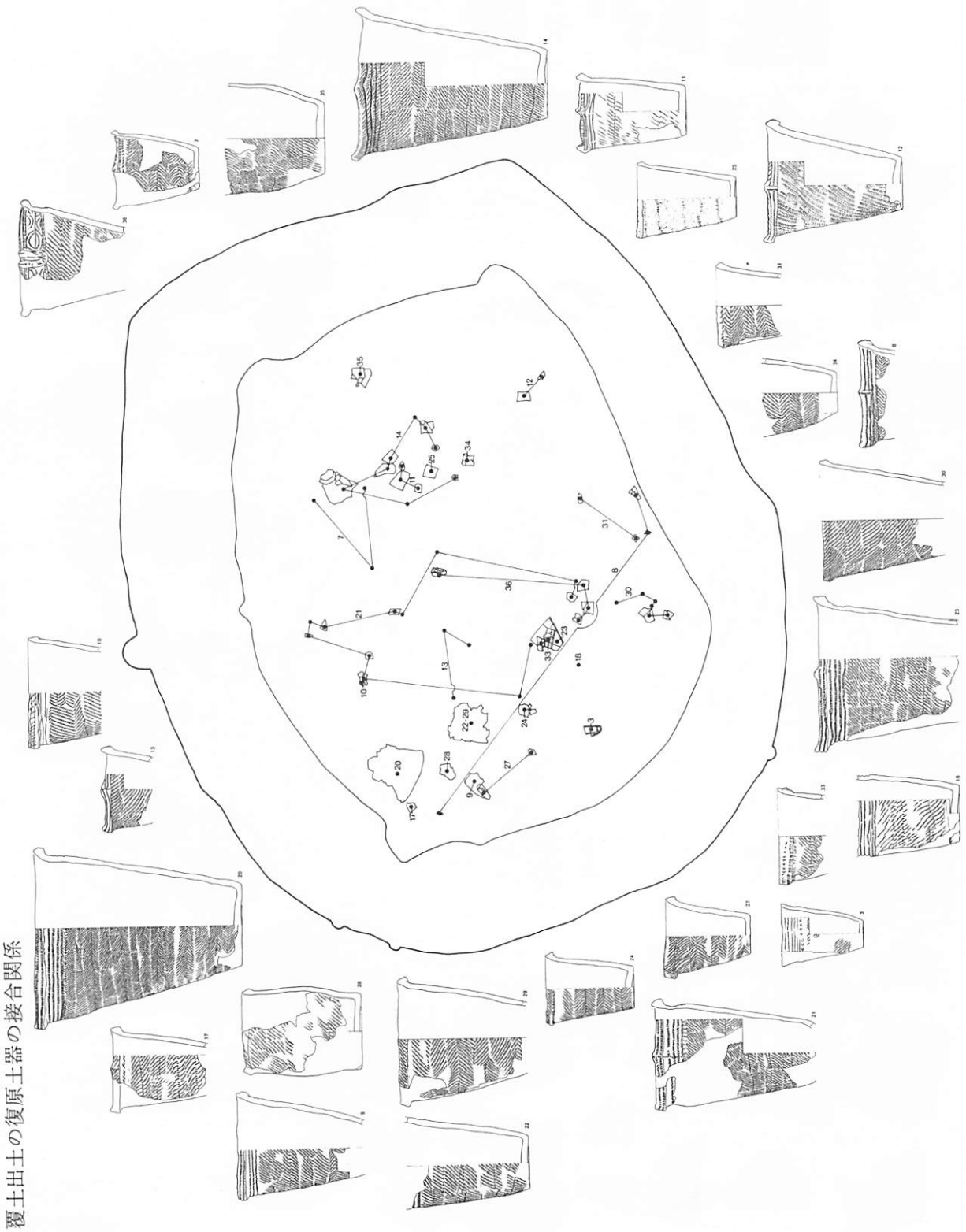
FH-12



図Ⅲ—74　FH—12(2)

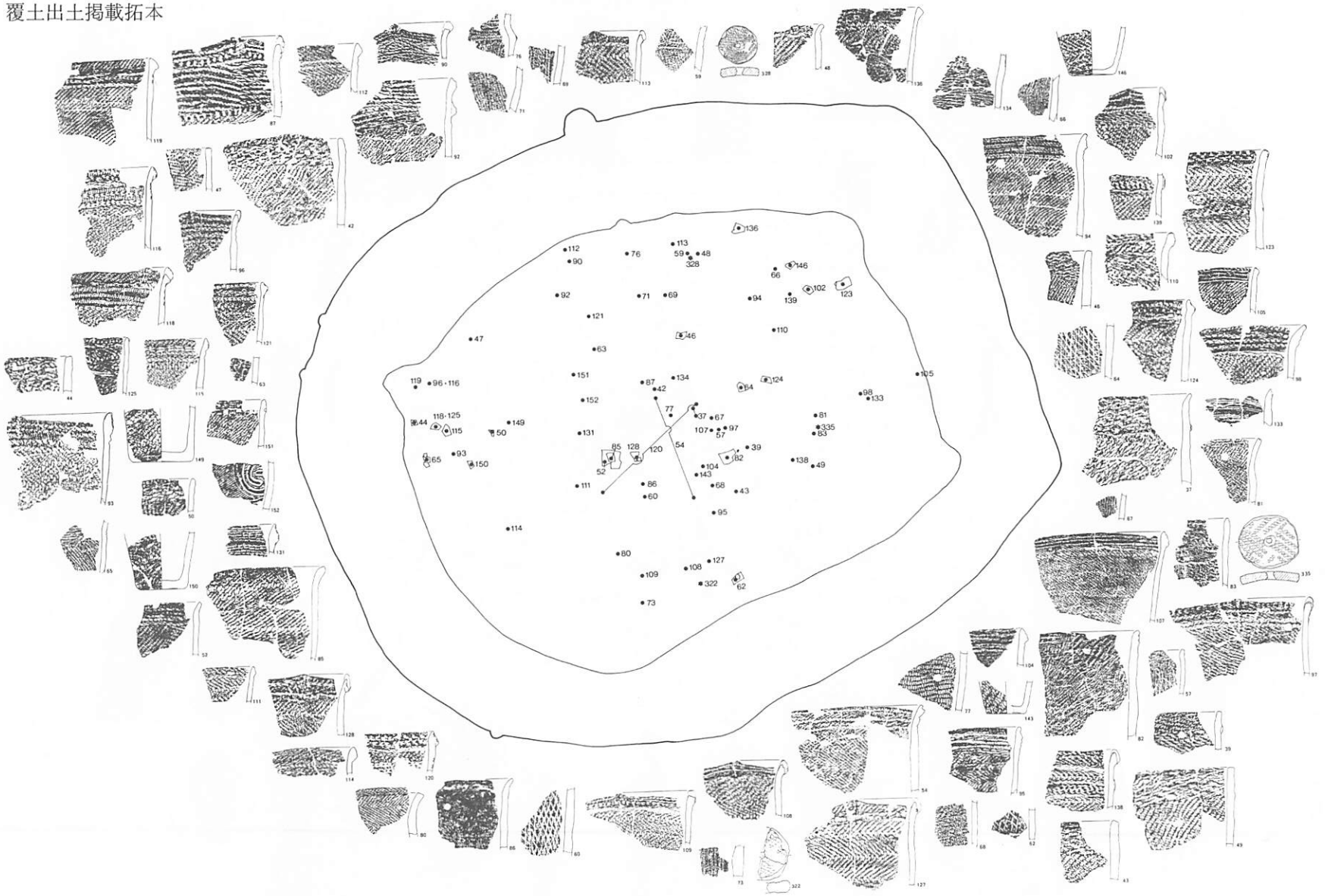


図Ⅲ—75　FH—12(3)

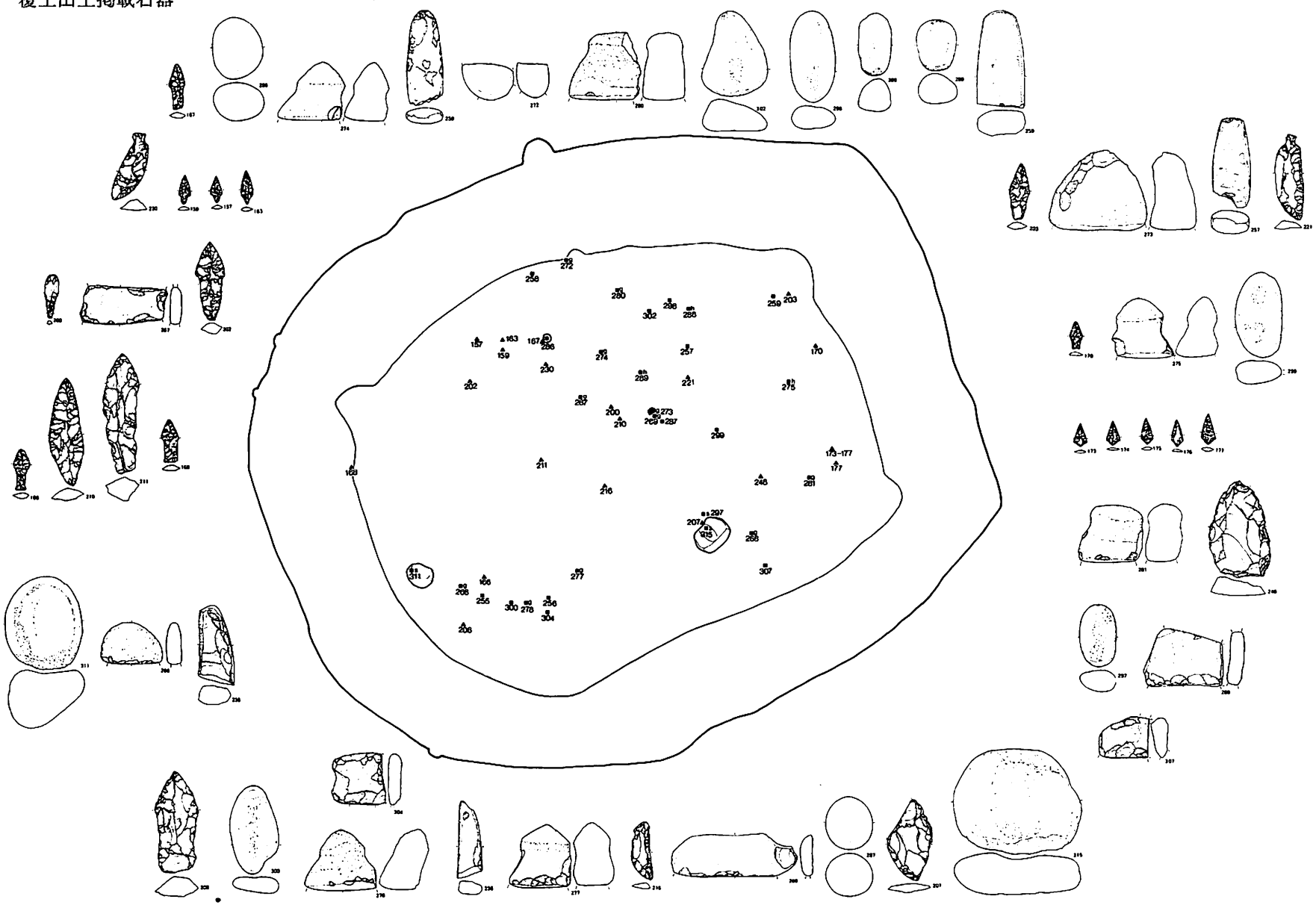


図Ⅲ－76　FH－12（4）

覆土出土掲載拓本



図Ⅲ—77　FH—12(5)



図Ⅲ—78　FH—12(6)

に，HP—38は砂礫層まで達しており，常時水が湧いている状況であった。井戸的な機能もあったかもしれない。炉跡は3カ所(HF—1～3)，最も大きなHF—1をフローテーションした結果，2粒のヒエ属種子と1粒のアカザ属種子が確認されている。詳細は第IV章1(3)を参照願いたい。覆土は十層に分けたが，主体は暗赤褐色土（3層）と暗黄褐色土（4～6層）でいずれも多量の焼土，炭化物を含んでいる。おそらく，住居廃絶後の凹みに多量の遺物とともに廃棄された土壌が多いと思われる。

遺物　出土遺物総数は26,567点，その内訳は土器10,496点，石器類586点，コア・フレイク類8,336点，礫類7,121点，土製品21である。土器はII群B類が大半，石器では石鏃(95点)，スクレイパー（66点），北海道式石冠（60点），たたき石（98点），石皿・台石（59点）が目立っている。遺物は覆土及び床面でみられたが，下段が大部分で上段部分からの出土は少ない。調査時には，床面と覆土6層を分離して取り上げたが，出土・接合状況を検討すると分離できない部分もあるので，最終的には一括して扱った。床面・覆土6層の遺物は石皿・台石などを中心に下段床面の中央部に集中し，土器類は柱穴に落ち込んだ状態で確認されたものが多い。覆土中の遺物はほぼ全面にみられたが，東側壁面に近い部分では三角形状の短い茎部をもつ特徴的な形態の有茎凸基石鏃が5点かたまって出土している（図版33—1)。

土器　II群B1類（37～86・140～142)，II群B2a類（1～3・72～79・145)，II群B2b類（4～19・31・87～115・138・139)，II群B2C類（20～23・116～118）II群B類（33・119～137・144・146～150)，III群B3類（151)，IV群A類（152)

II群B1類　37～41は口頸部文様帯が貼付帯によって区画されているものである。37は頸部・裏面に不規則な綾絡文状の縄文が施されているものである。貼付帯に指頭による押圧が加えられている。体部は撚り戻しの斜行縄文である。42～50・53・56・57は口頸部に不規則な綾絡状の縄文が，51・52・54は口縁部に縄線文が施されたものである。ほとんどのものは内面にも縄文が認められる。体部には不規則な斜行縄文が施される。40は頸部・体部に撚糸文が施されたものである。41は区画文に貼付帯・沈線文・指頭押圧が組み合わされたものである。47・48は頸部文様帯の幅が狭いものである。55～57・60～64は体部文様に網目状ないし菱目状の撚糸文が施されているもので，55は口縁部に縄線文が，56・57は綾絡状の縄文が施されている。58・59は口縁部・体部に撚糸文が，59は口頸部に鋸歯状の縄線文が施されている。65・66・68・69・71は胎土に砂粒が多い。器面調整は粗雑である。80～86は縄文・撚糸文のみが施されたものや無文のものである。80・81は羽状縄文，82は2本一組の撚糸文，83・84は撚り戻しの斜行縄文，85は結束斜行縄文，86は無文である。140は「横ハ」字状に下方斜めから刺突文が施されている。胎土に砂粒が多く，繊維を含まない。141・142は連続山形の回転押型文が施されている。胎土に繊維が多く，砂粒・小礫は含まない。器面調整は丁寧である。

II群B2a類　1は縄圧痕文が加えられた丸味をもつ口唇部で，円形刺突文に区画されたくびれの強い幅広の頸部には，多段の縄線文が施されている。体部は結束羽状縄文である。2は断面が切り出し状の口唇部で，縄線文が加えられた薄い貼付帯によって区画された幅広の頸部に縄線文が施されている。体部は結束羽状縄文である。3は丸味をもつ口唇断面で，半截竹管状工具による刺突文で区画された口頸部には縄線文が施されている。体部は斜行縄文である。72・73は2本一組の撚糸文である。74～79は多軸絡条体回転文である。

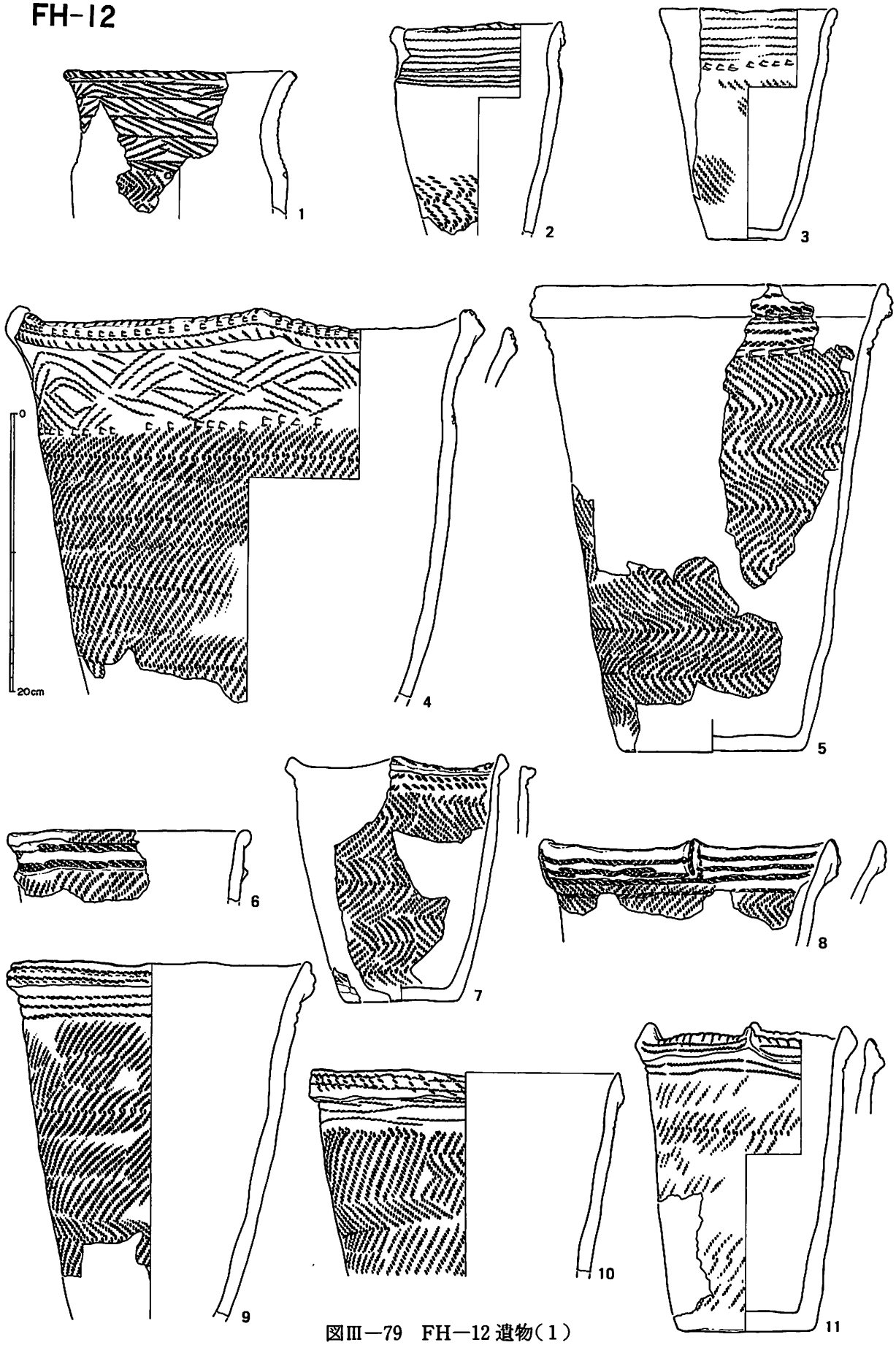
145は平底で，体部に多軸絡条体回転文が施されている。

II群B2b類　4・87～90は幅広の頸部に菱目状・曲線状（弧状）・鋸歯状の縄線文が施されているものである。4は縄線文・縄圧痕文・刺突文が施された切り出し状の口唇部で，刺突文で区画された幅広の頸部には，菱目状の縄線文が施されている。体部は結束羽状縄文である。36の口唇部から頸部にかけて縄圧痕文が加えられた「U」字状の貼付がある。口唇部には縄線文・縄圧痕文・刺突文が，刺突文の加えられた薄い貼付帯で区画された頸部には多段の弧状の縄線文が施されている。体部は結束羽状縄文である。91は半截竹管状工具による刺突文で，6・29は縄線文が加えられた貼付帯で頸部が区画されているものである。6は丸味をもつ口唇断面で，口唇部直下に縄線文が施し，縄線文が加えられた貼付帯で頸部を区画し，ナデ調整で無文帯を作出している。5・7～12・17・93～97・99～105は口唇部と口唇部直下に縄線文・縄圧痕文が施されたものである。5は無文地の口唇部・頸部に縄線文が施されている。8の口唇部・口唇部直下に結束のある長さ約5cmの原体で縄線文が施されている。体部は結束羽状縄文である。9の口唇部は斜行縄文・縄線文が施されている。頸部は無文地に縄線文が，体部には結束羽状縄文と結束斜行縄文が施されている。12の体部は，自縄自巻の原体で斜行縄文が施されている。底部は揚げ底である。13・15・31・98・106～110は口唇部に縄線文・縄圧痕文が施されたものである。13・15は縄線文・縄圧痕文が施された口唇部で，体部に13は斜行縄文，15は無節の斜行縄文が施されている。31は斜行縄文が施された口唇部で，口唇部下端に縄圧痕文が施されている。14・16・19・111～115は斜行縄文や半截竹管状工具による刺突文が施された切り出し状の口唇部直下に縄線文が施されたものである。14はやや波状気味の口縁部で，体部に結束斜行縄文が下から上に施文され，口唇部直下に長さ約6cmの原体で縄線文が加えられている。16の縄線文は結束のある長さ約8cmの原体で施文されている。19は斜行縄文・半截竹管状工具の刺突文が施された口唇部で，口唇直下に縄線文が施されている。体部は結束羽状縄文である。底部は揚げ底である。138・139は口唇・頸部に縄圧痕文が加えられたタガ状の太い貼付帯をもつものである。体部は結束羽状縄文である。100はIII群A1類に含まれるものかも知れない。

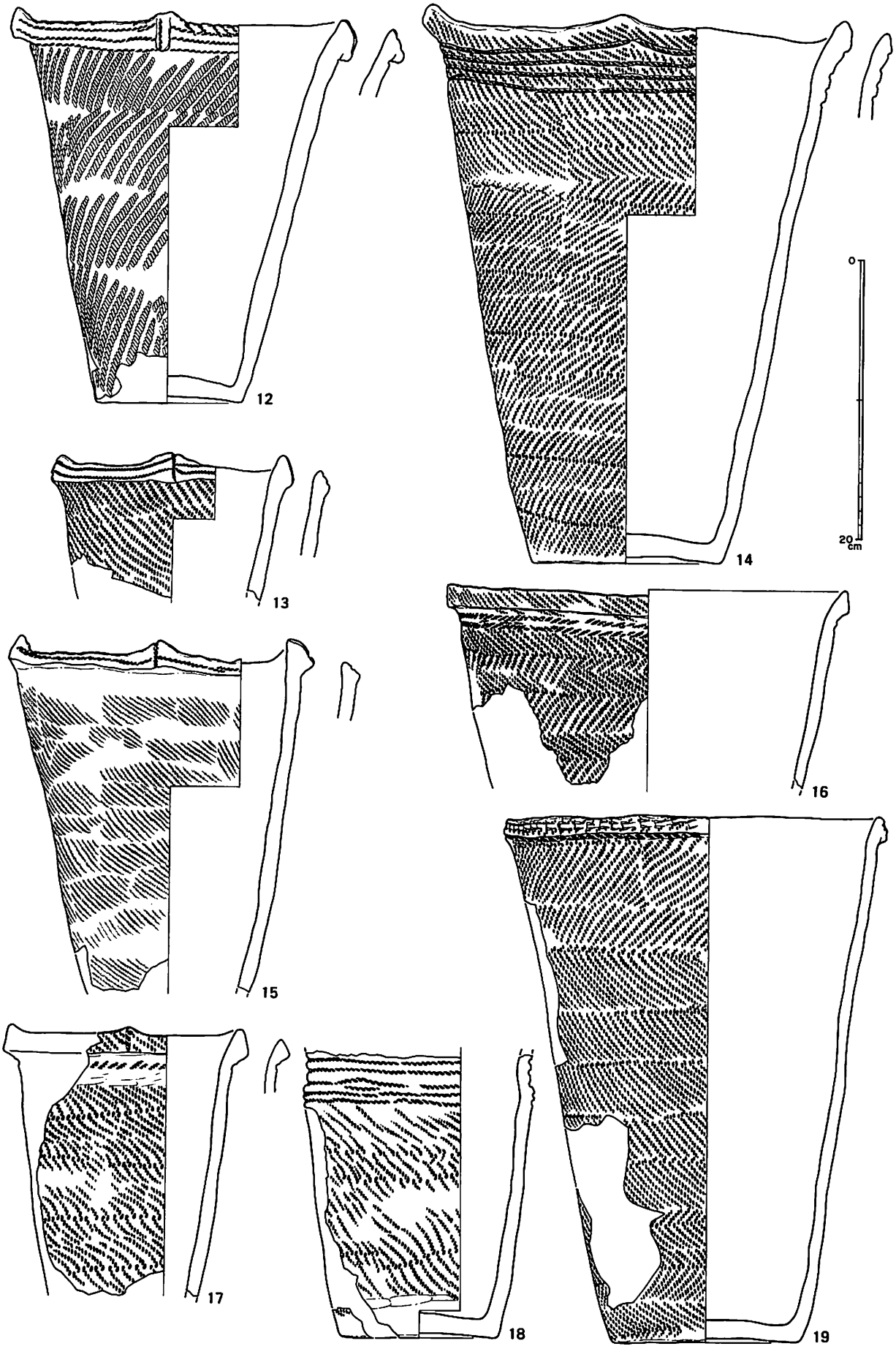
II群B2c類　20・21・23・116は口唇部，頸部に絡条体圧痕文が施されたもので，20の頸部は半截竹管状工具の刺突によって区画され，長さ約5cmの原体で絡条体圧痕文を施している。体部は節の小さい結束羽状縄文である。21の頸部は2列の半截竹管状工具で区画されている。23は無文地の口唇部・頸部に絡条体圧痕文が施されている。116は口唇部・頸部に絡条体圧痕文と半截竹管状工具の刺突文とが施されたものである。117・118は斜行縄文が施された切り出し状の口唇部で，縄線文が区画された無文地の頸部に絡条体圧痕文が，117は鋸歯状に，118は横位に施文されている。22は口唇部は不明だが頸部に約5cmの原体で絡条体圧痕文が施されている。体部は結束斜行縄文である。

II群B類　33・119～134は半截竹管状工具の刺突文・押引文が加えられているもの，24～30・135～137は縄文のみのものである。33は貼付帯で切り出し状の口唇断面を作出し，口唇部・口唇部直下に半截竹管状工具による刺突文を加えている。体部は結束斜行縄文である。119は幅狭い無文地の頸部に刺突文が施されている。120・121・123は口唇部・頸部及び体部に刺突文・押引文が施されているものである。122・124～130は口唇部に刺突文・押引文が施されているものである。131～134は外面全体に施されているものである。

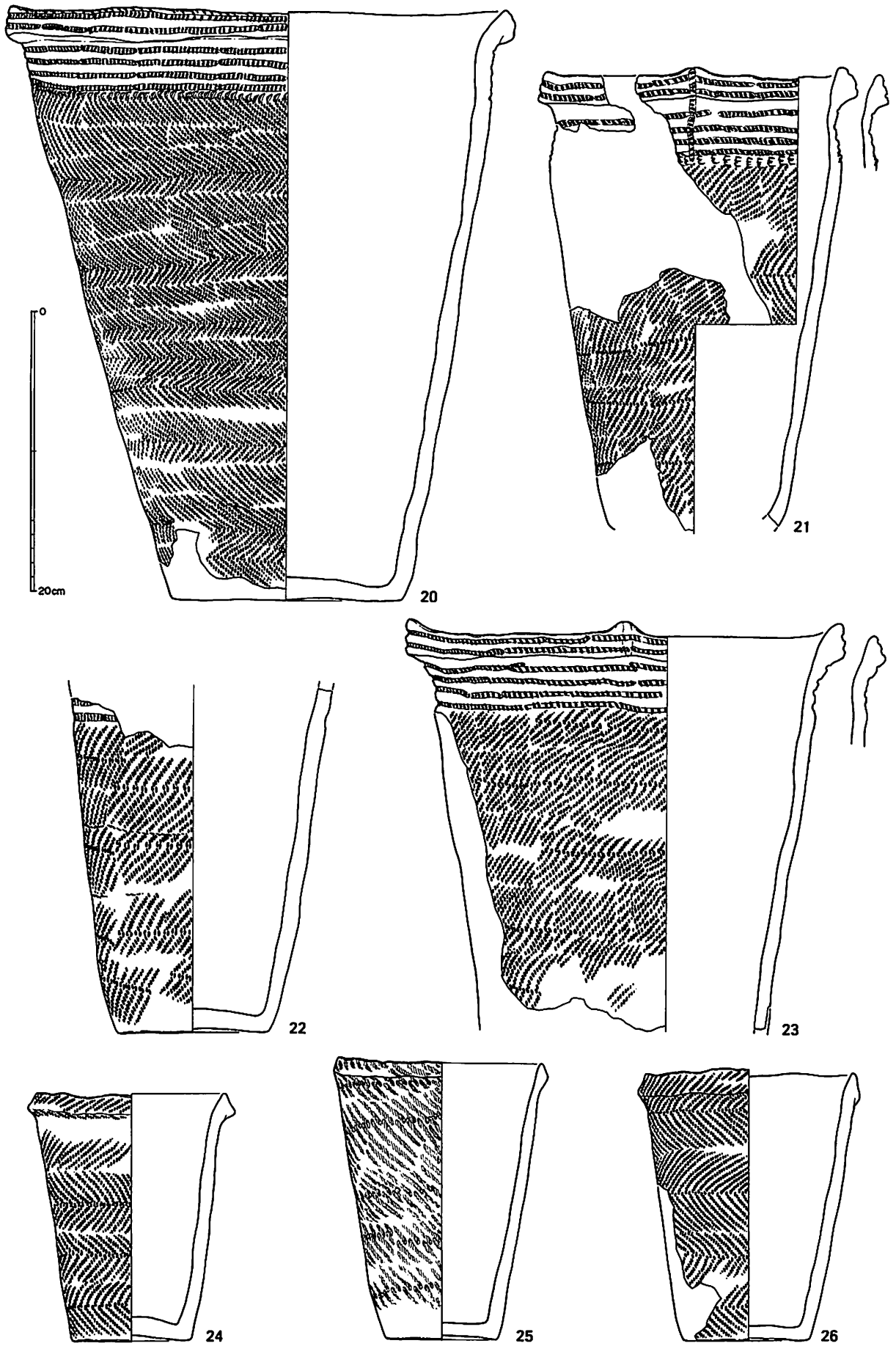
FH-12



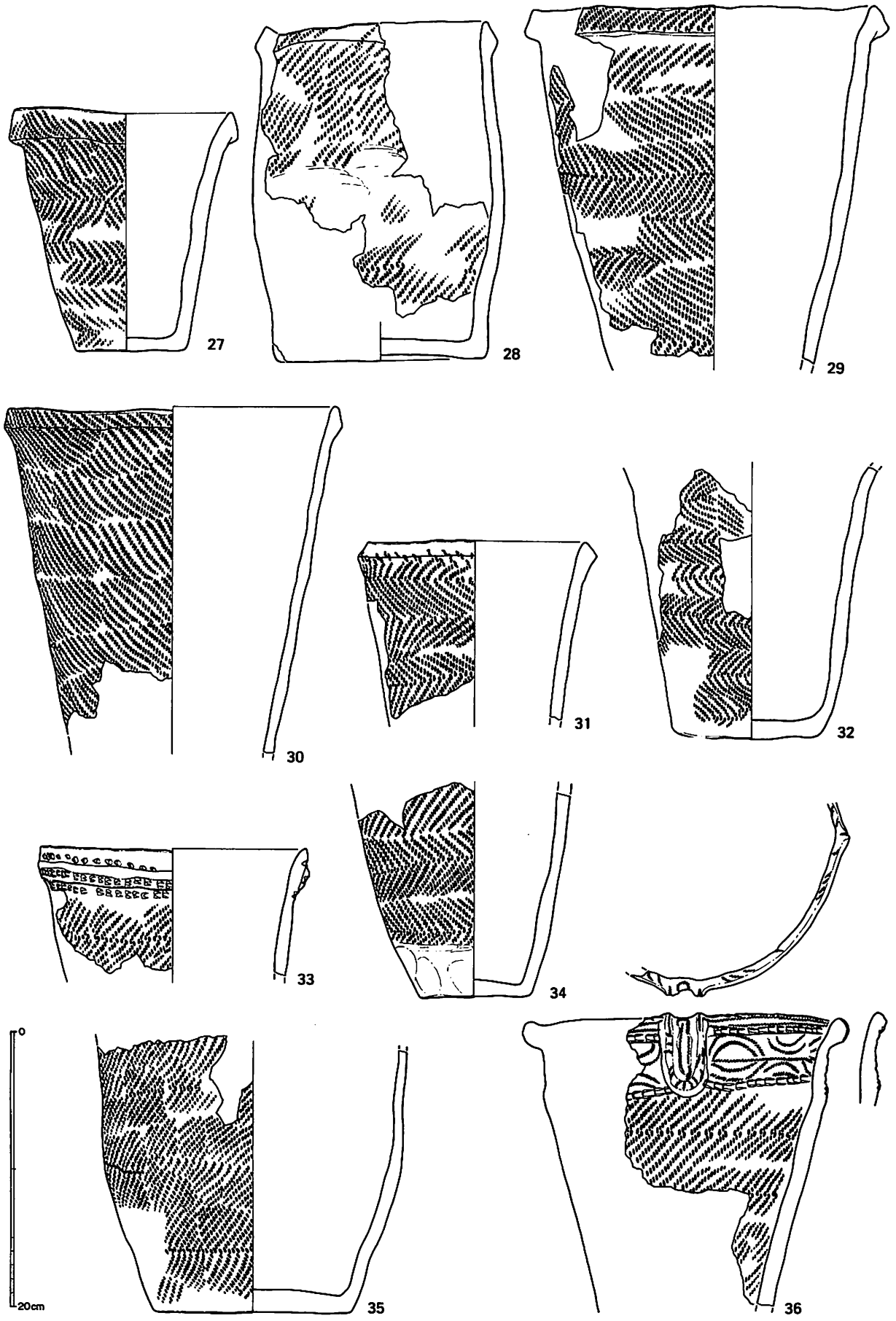
図Ⅲ—79　FH—12 遺物(1)



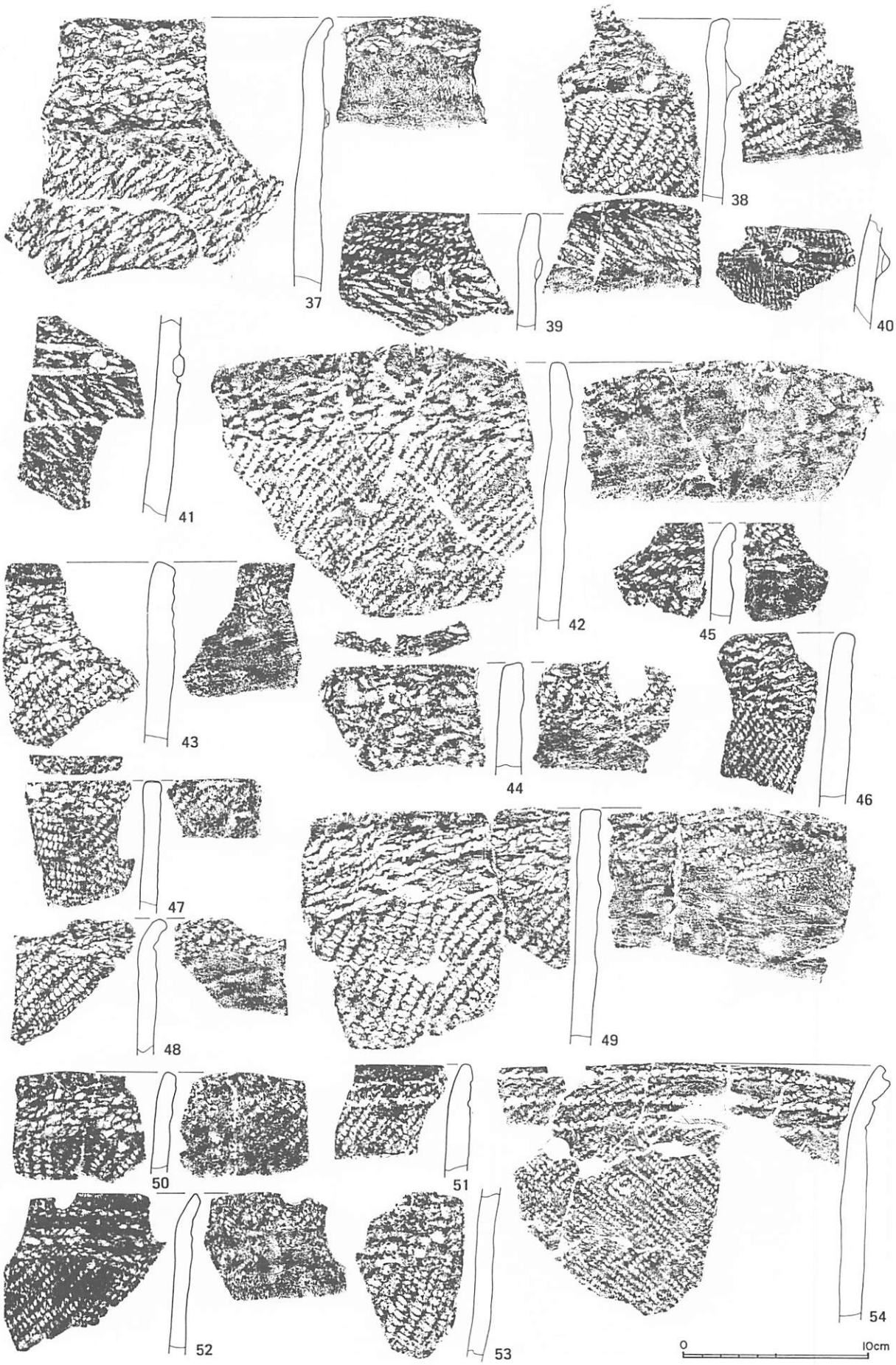
図Ⅲ—80　FH—12 遺物(2)



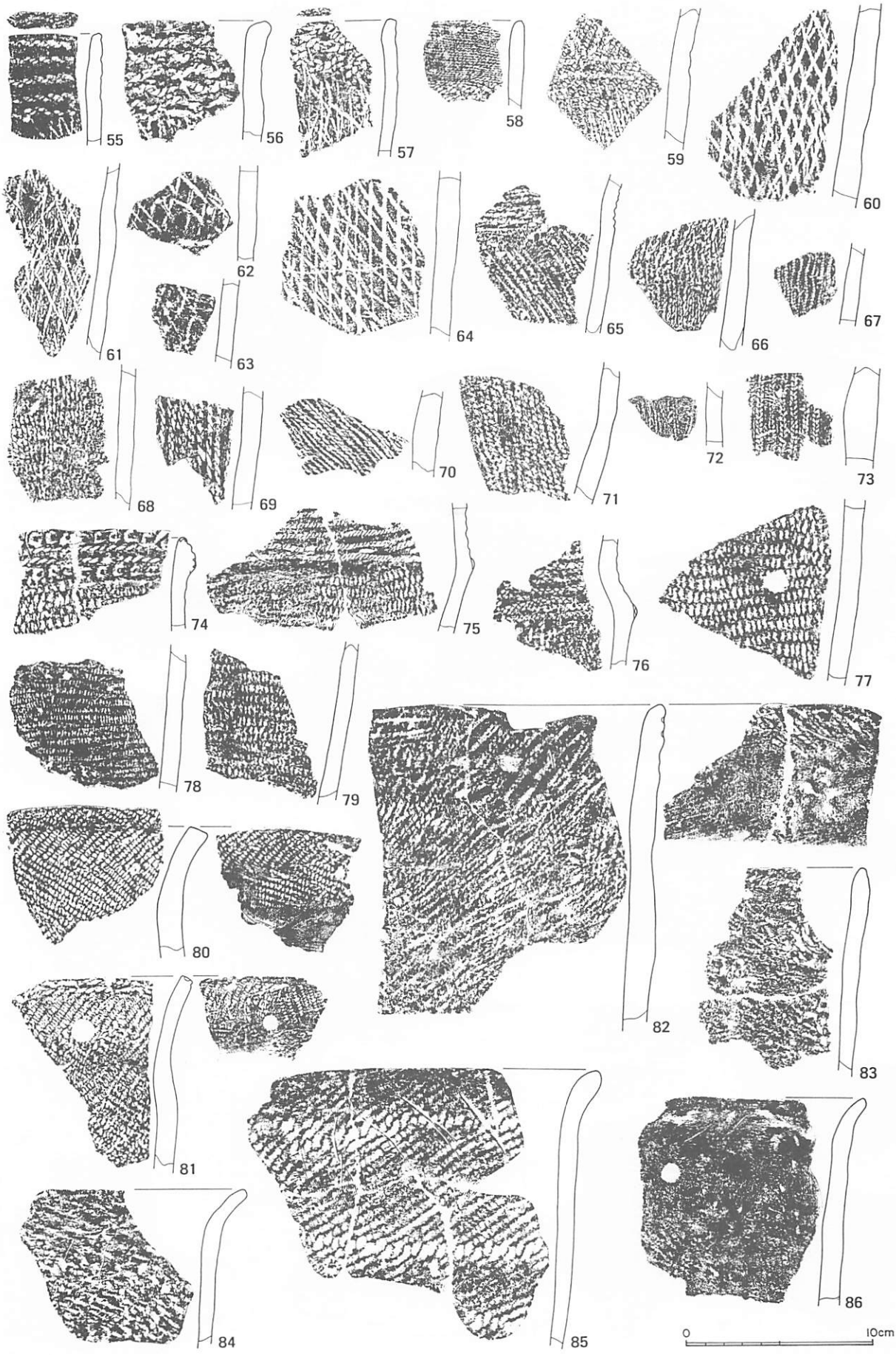
図Ⅲ—81　FH—12 遺物(3)



図Ⅲ—82　FH—12 遺物（4）



図Ⅲ—83　FH—12 遺物(5)



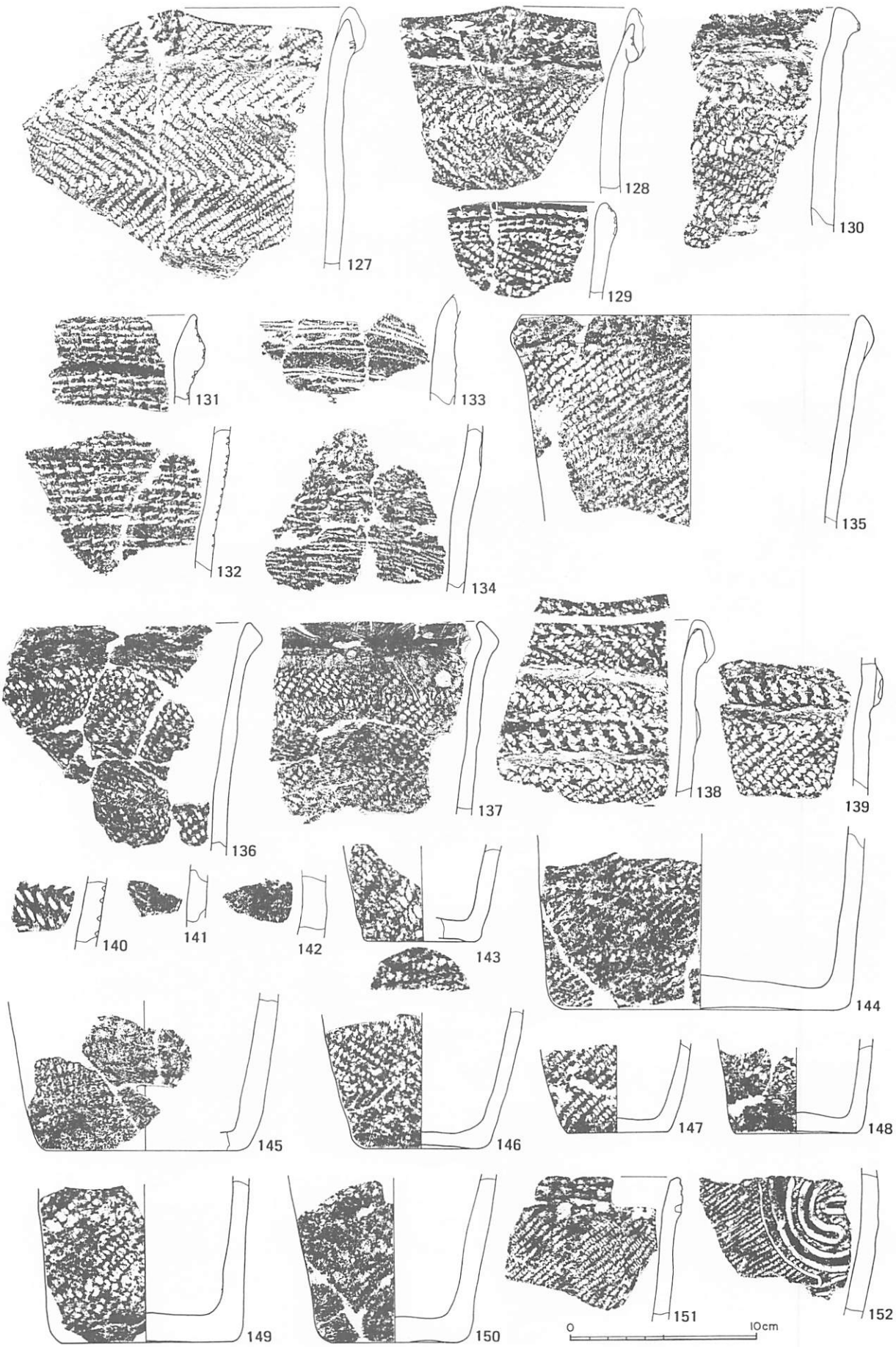
図III—84　FH—12 遺物（6）



図Ⅲ—85　FH—12 遺物（7）



図Ⅲ－86　FH－12 遺物（8）



図Ⅲ—87　FH—12 遺物(9)

135～137は縄文のみのものである。137のナデ調整が施された口唇部は強く内湾している。32・34・35・144・146～150は底部である。

III群B3類　151は半截竹管状工具による押引文が施された切り出し状の口唇部直下に、円形刺突文が施されている。体部は斜行縄文である。

IV群A類　152は斜行縄文施文後，渦巻状の沈線で磨消文を作出している。

石器

石鏃(153～193)　95点出土しており，その内訳は無茎平基(Ia) 2点，無茎凹基(Ib) 2点，有茎凸基（IIc) 40点，正菱形（IId_1) 2点，偏菱形（IId_2) 9点，五角形（IId_3) 1点，有茎不明（II一) 4点，木葉形尖基（IIIa) 12点，木葉形円基（IIIb) 16点，木葉形不明（III一) 3点，不明（IV) 4点となっている。153・154はIa。155・156はIb。157・158はIIcで，このうち164～168のように茎部の末端が左右に張り出すもの，170～172のように基部が内湾するもの，また173～181のように三角形状の短い茎部を有するものなどが特徴的である。182・183はIId_1。184～187はIId_2。188～192はIIIb。193はIIIaである。

石錐(194～201)　8点出土しており，棒状のもの（I) 2点，柄と機能部の区分が不明瞭なもの（IIb) 5点，不明（IV) 1点となっている。194・195はI，198はIV，他はIIbである。

ポイントもしくは両面加工のナイフ(202～211)　28点出土しており，有茎でかえしが明瞭なもの（Ia_1) 1点，不明瞭なもの（Ia_2) 4点，菱形もしくは五角形を呈するもの（Ib) 1点，木葉形(II)11点，不明(IV)11点となっている。202はIa_1，203～205はIa_2，206・207・209～211はII，208はIbである。

つまみ付きナイフ(212～233)　35点出土。縦形（I) 24点，斜形（II) 6点，横形（III) 1点，不明(IV) 4点である。212～221はIa，222～224はIb，225～227はIc，228～232はIIb，233はIIIaである。

スクレイパー類(234～249)　66点出土しており，エンドスクレイパー（E）は15点，両面加工のもの（I) 4点，片面加工のもの（II) 2点，周辺加工のもの（III) 35点，尖頭部を有するもの(IV) 5点，不明(VI) 5点である。234～240はEII，241はI，242・248はIIIa，243はIIa，244～247はIV，249はIIIbである。

楔形石器(250・251)　図示した2点のみの出土で，石材は黒曜石である。

石斧(252～264)　19点出土。撥形（I) 5点，短冊形（II) 10点，不明（IV) 4点である。252～254はミニアチュア。261は諸刃。263には擦切り痕が認められる。

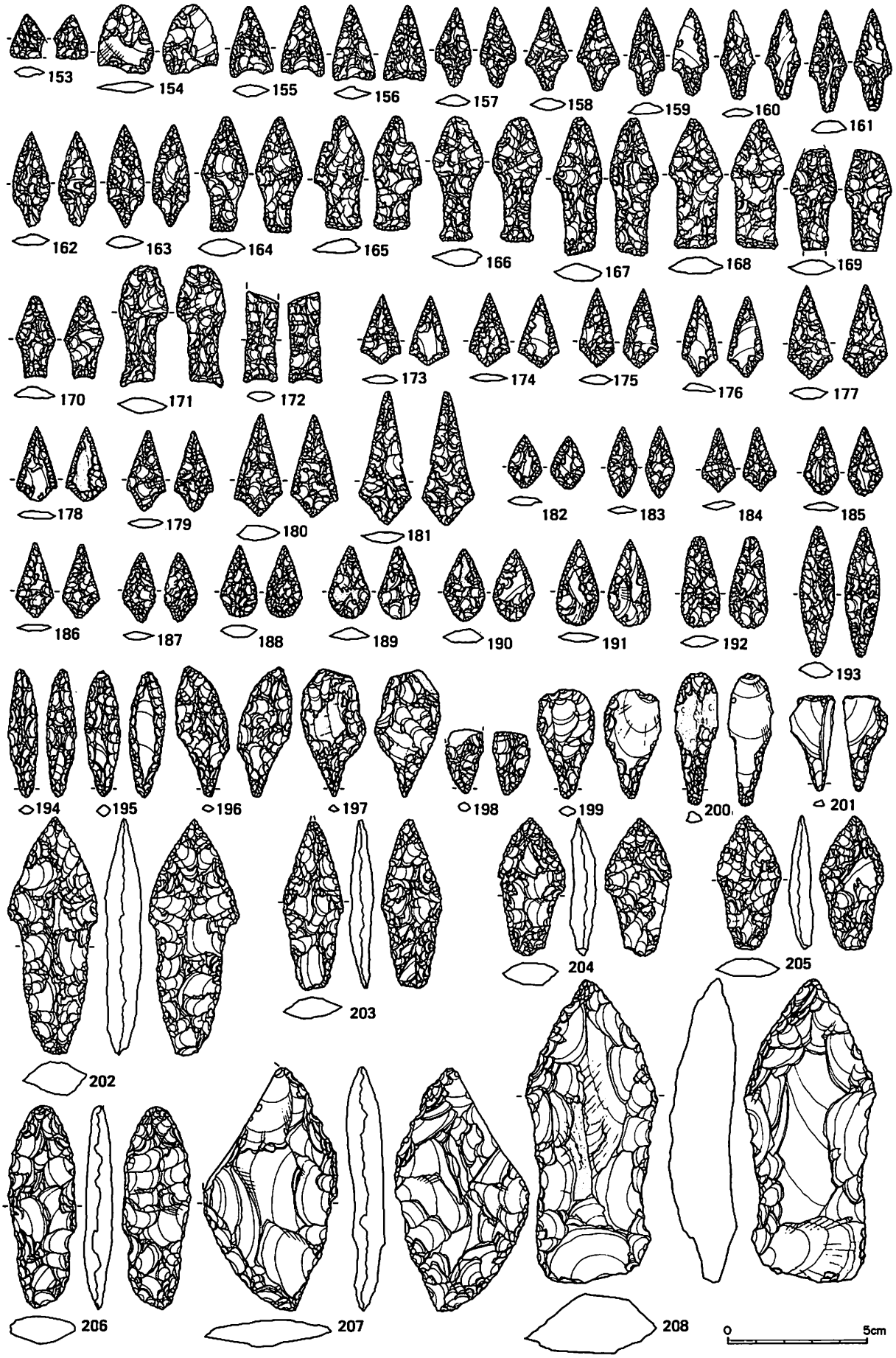
すり石(265～272)　北海道式石冠を除いて35点出土している。265・266・269・270は礫の一側に，267・268は両側に，272は端部にそれぞれ使用痕が認められる。271は両端を打欠いた段階の未使用のものである。

北海道式石冠(273～283)　60点出土。273には「鉢巻」が施されていない。278は石材鑑定試料で，斜長石斑岩である。

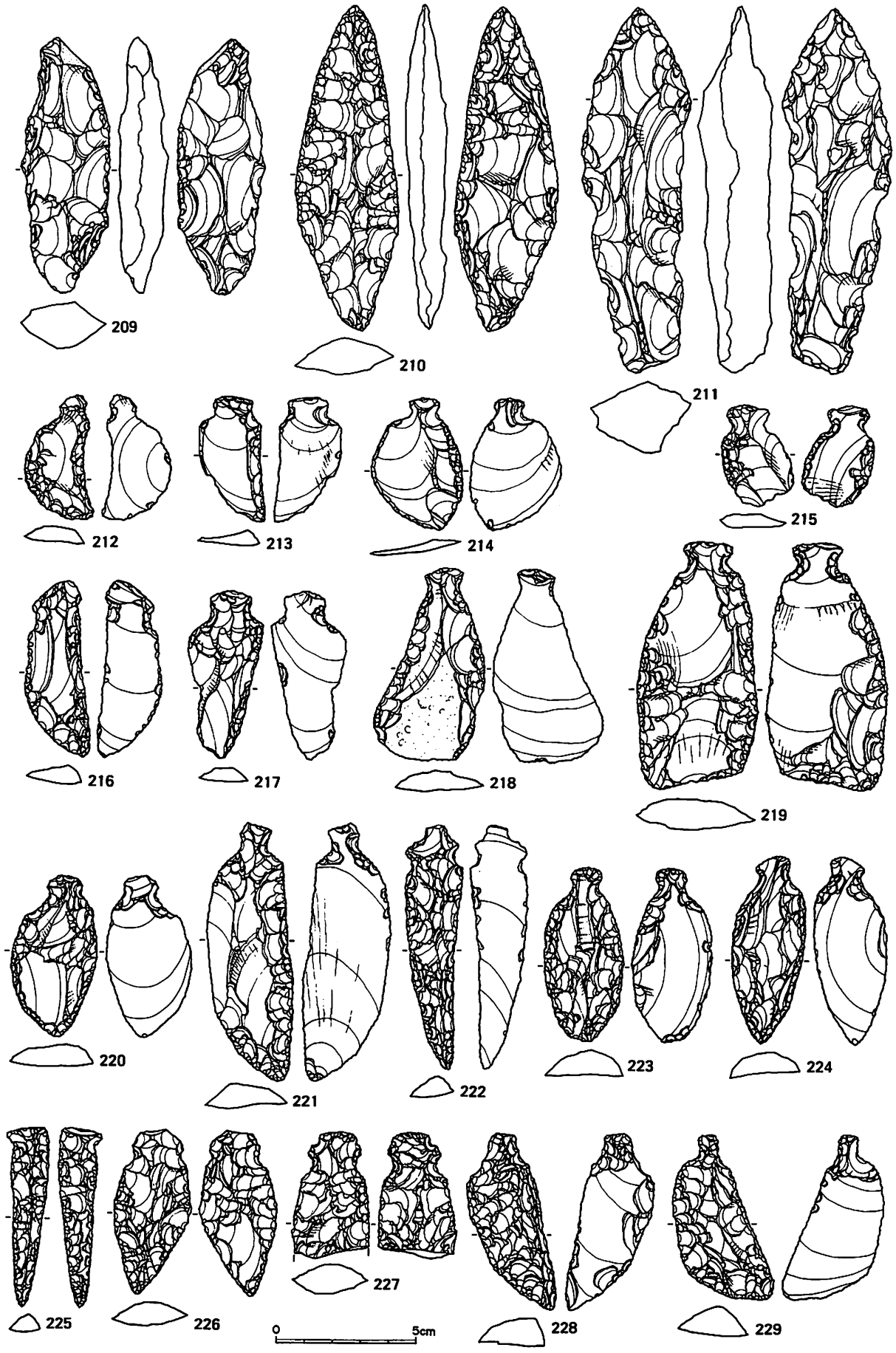
球石(284～287)　19点出土。正円球ないし楕円球を呈し，すり石もしくはたたき石としての機能が考えられる。

たたき石(288～297)　98点出土。288は石材鑑定試料で，斜長石安山岩である。297には赤色顔料の付着が認められる。

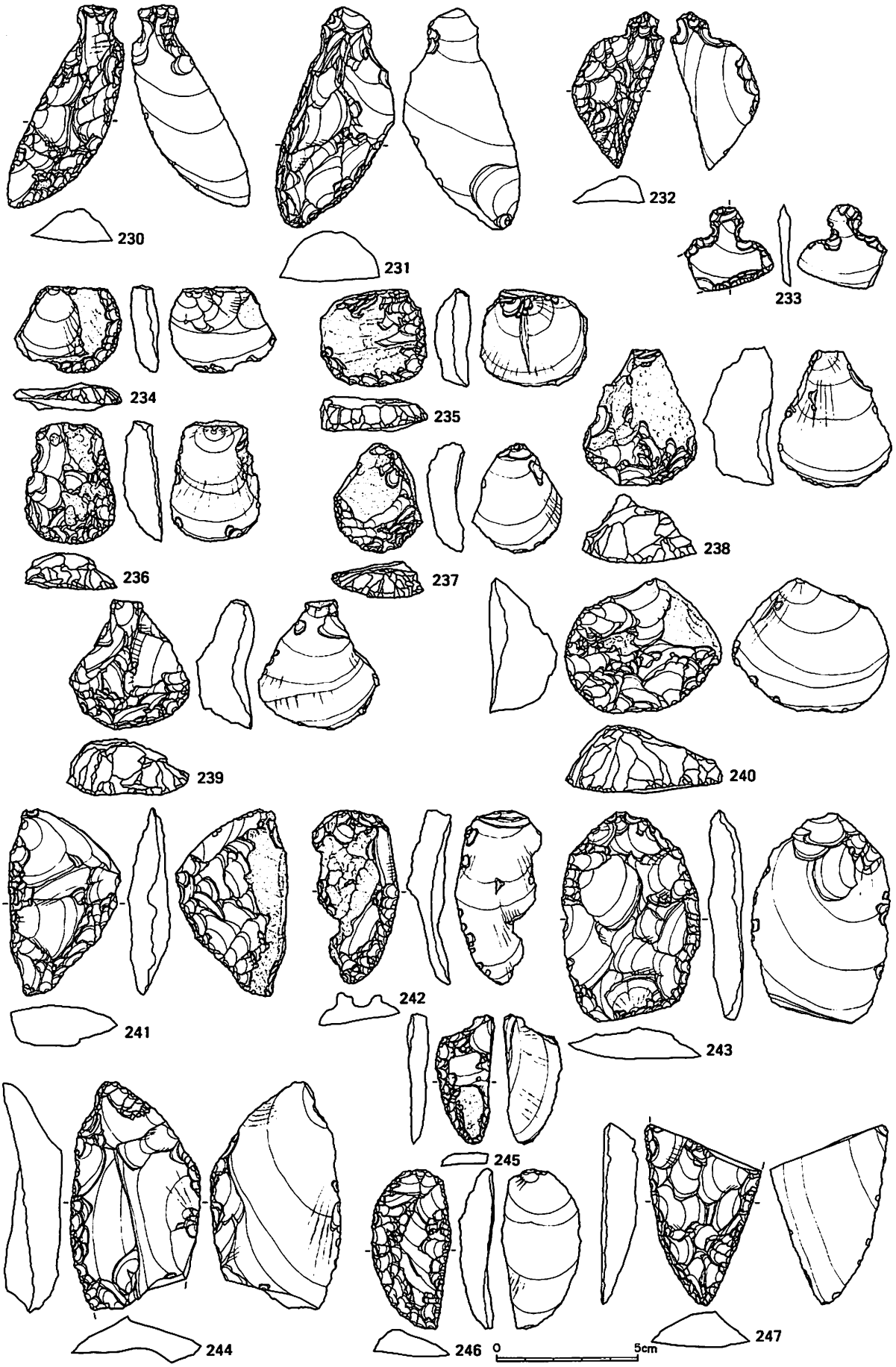
くぼみ石(298～303)　16点出土。299の一側にはすり石としての使用痕が認められ，また302には赤色顔料の付着が認められる。



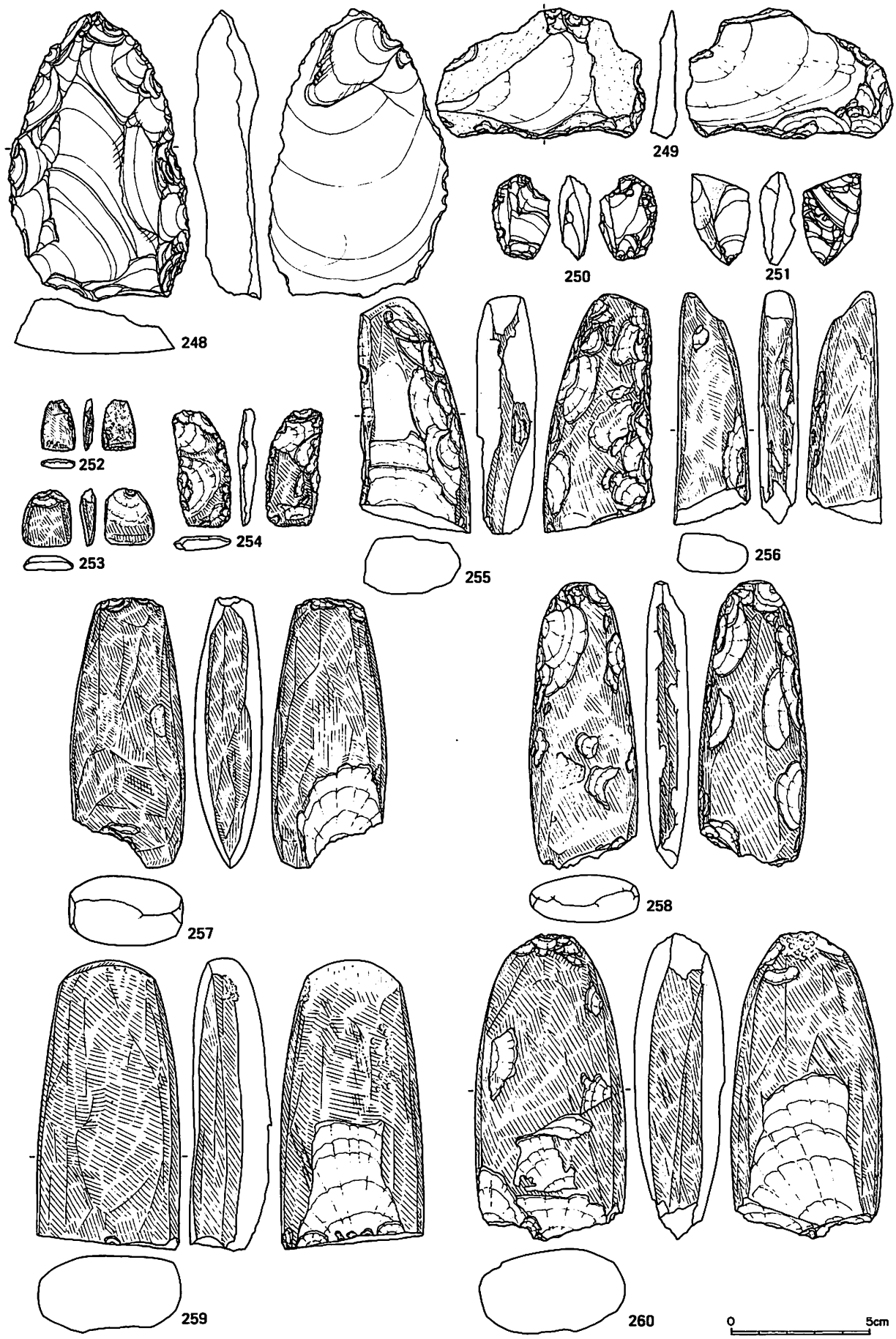
図Ⅲ—88　FH—12 遺物(10)



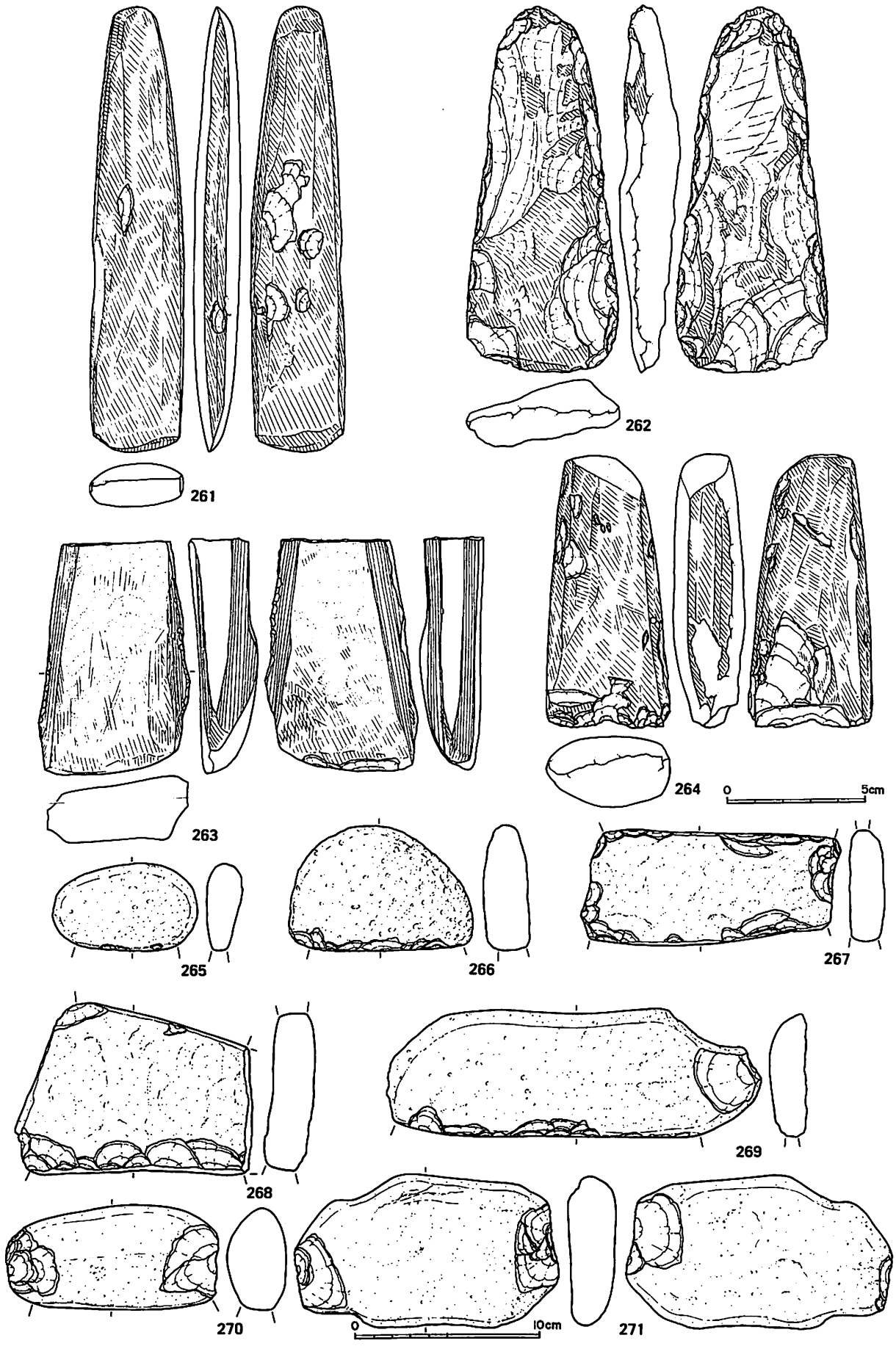
図Ⅲ—89　FH—12 遺物(11)



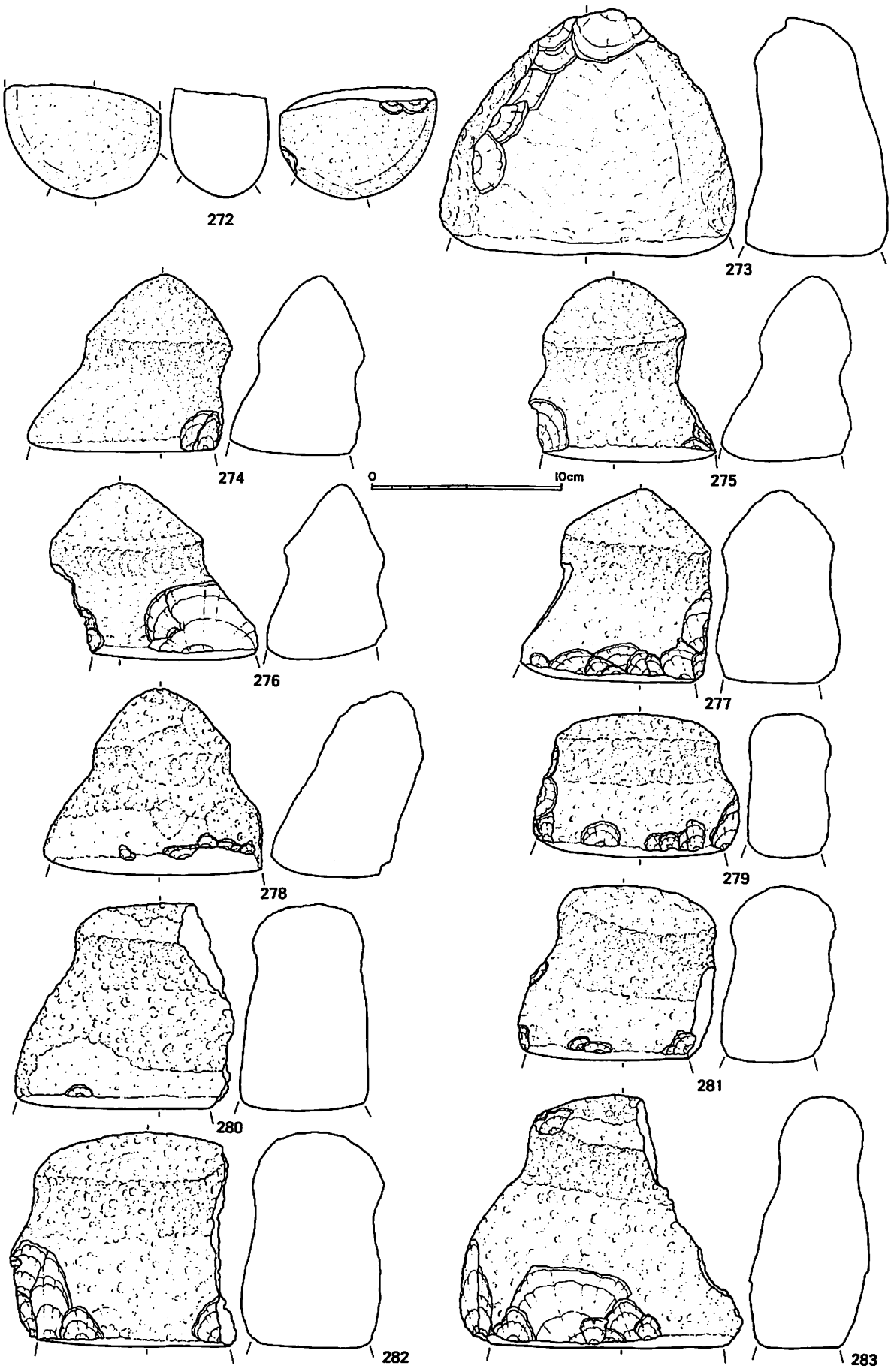
図Ⅲ—90　FH—12 遺物(12)



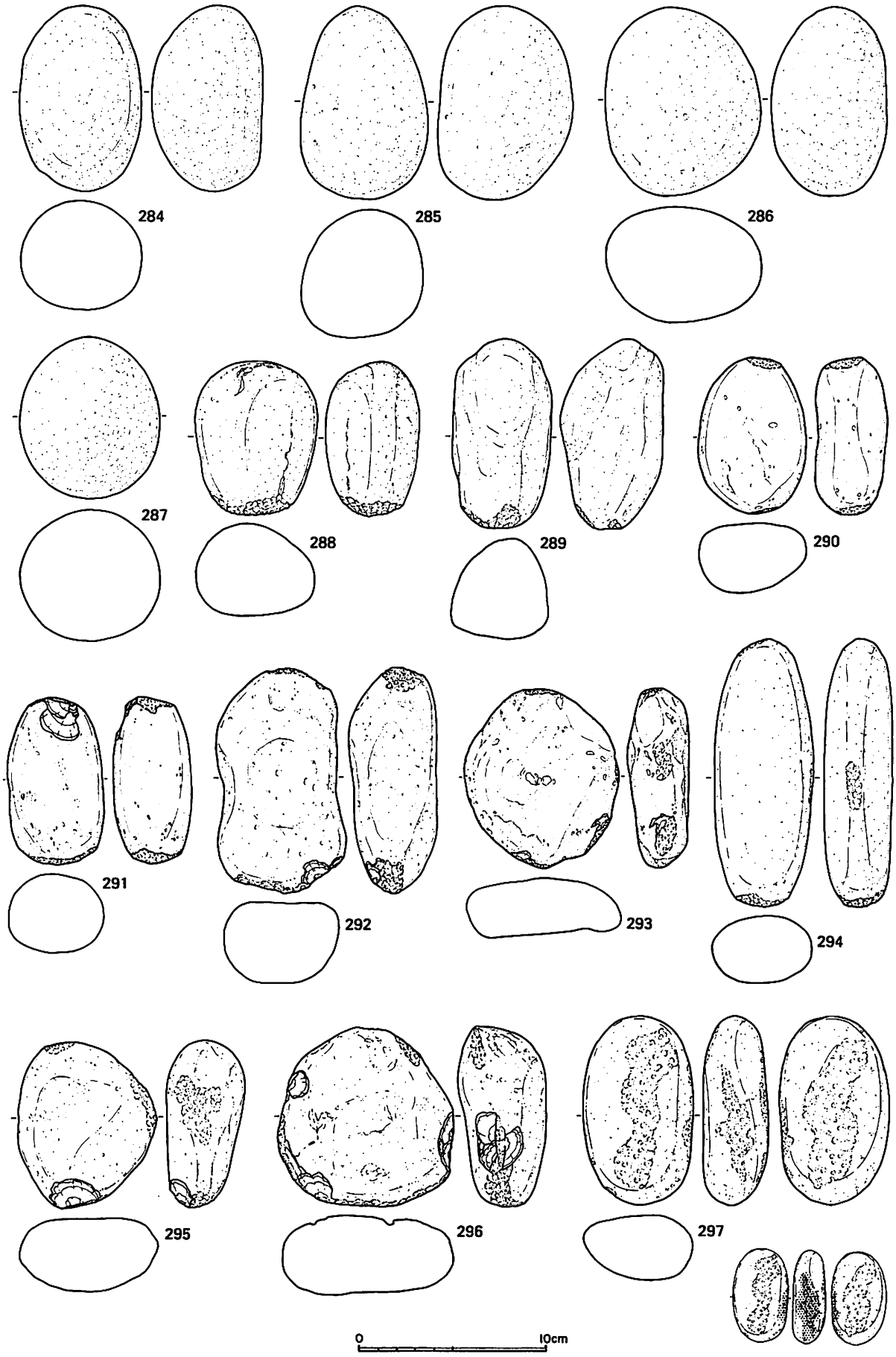
図Ⅲ—91　FH—12 遺物(13)



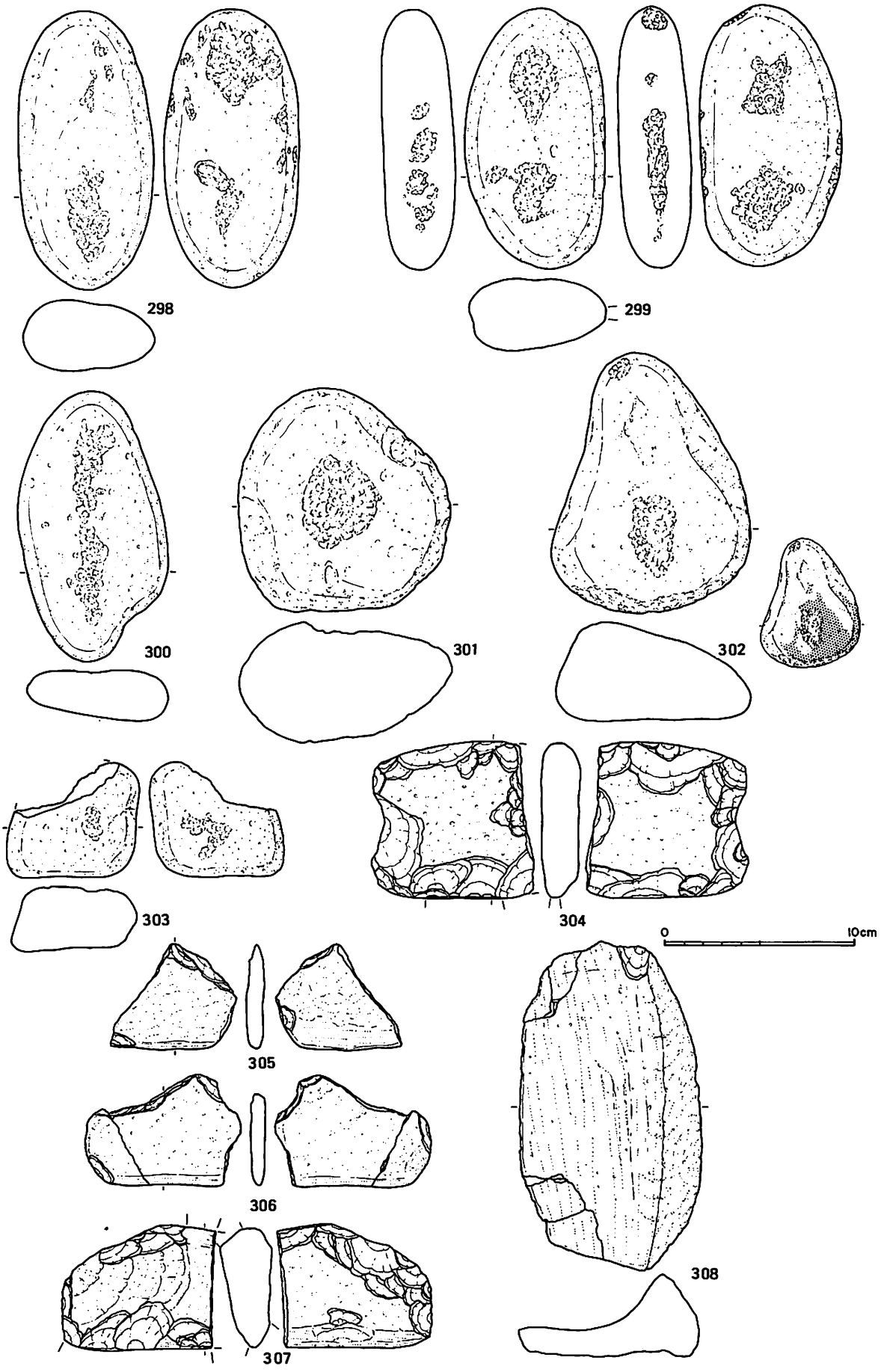
図Ⅲ—92　FH—12 遺物(14)



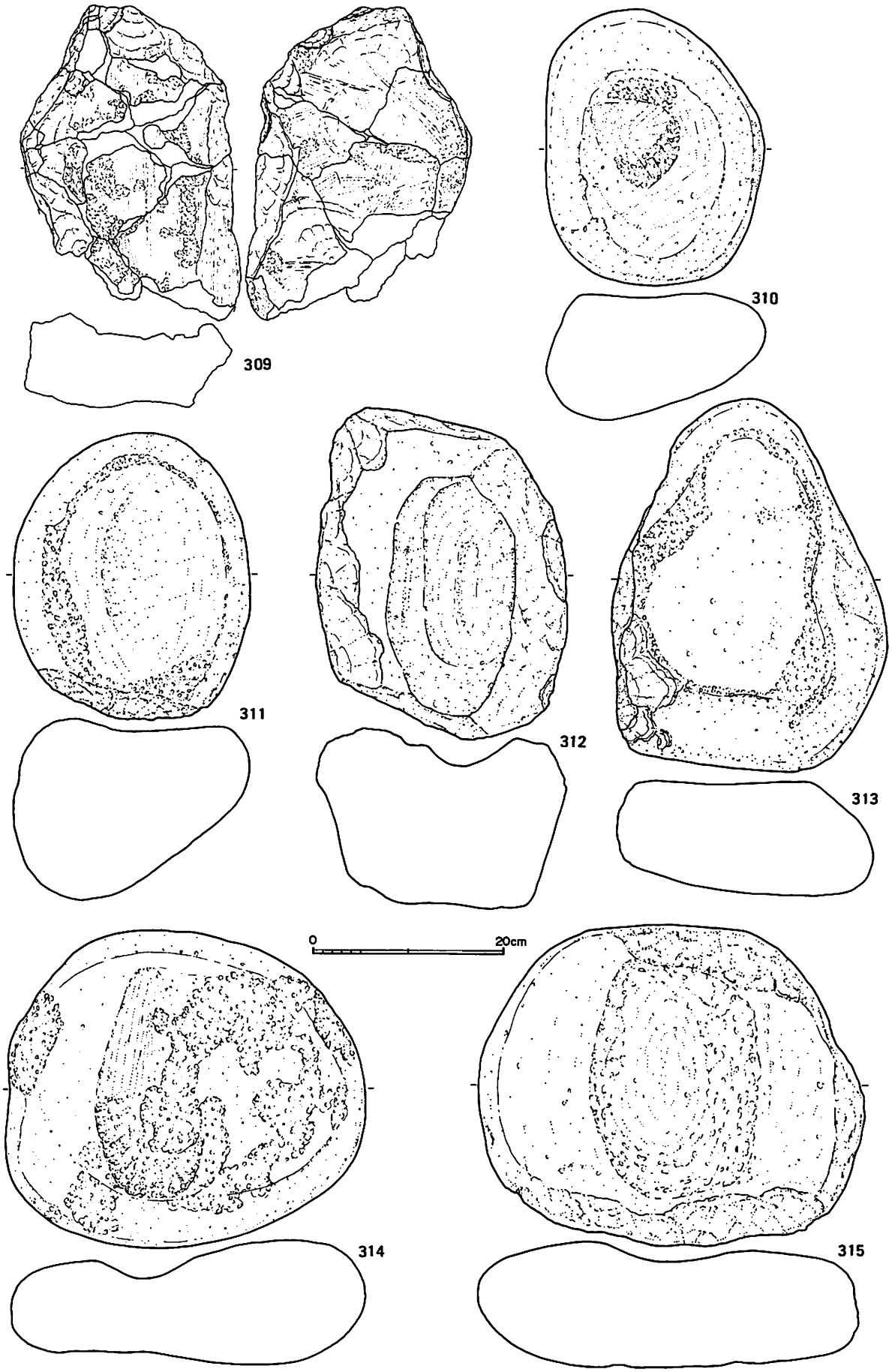
図Ⅲ－93　FH－12 遺物(15)



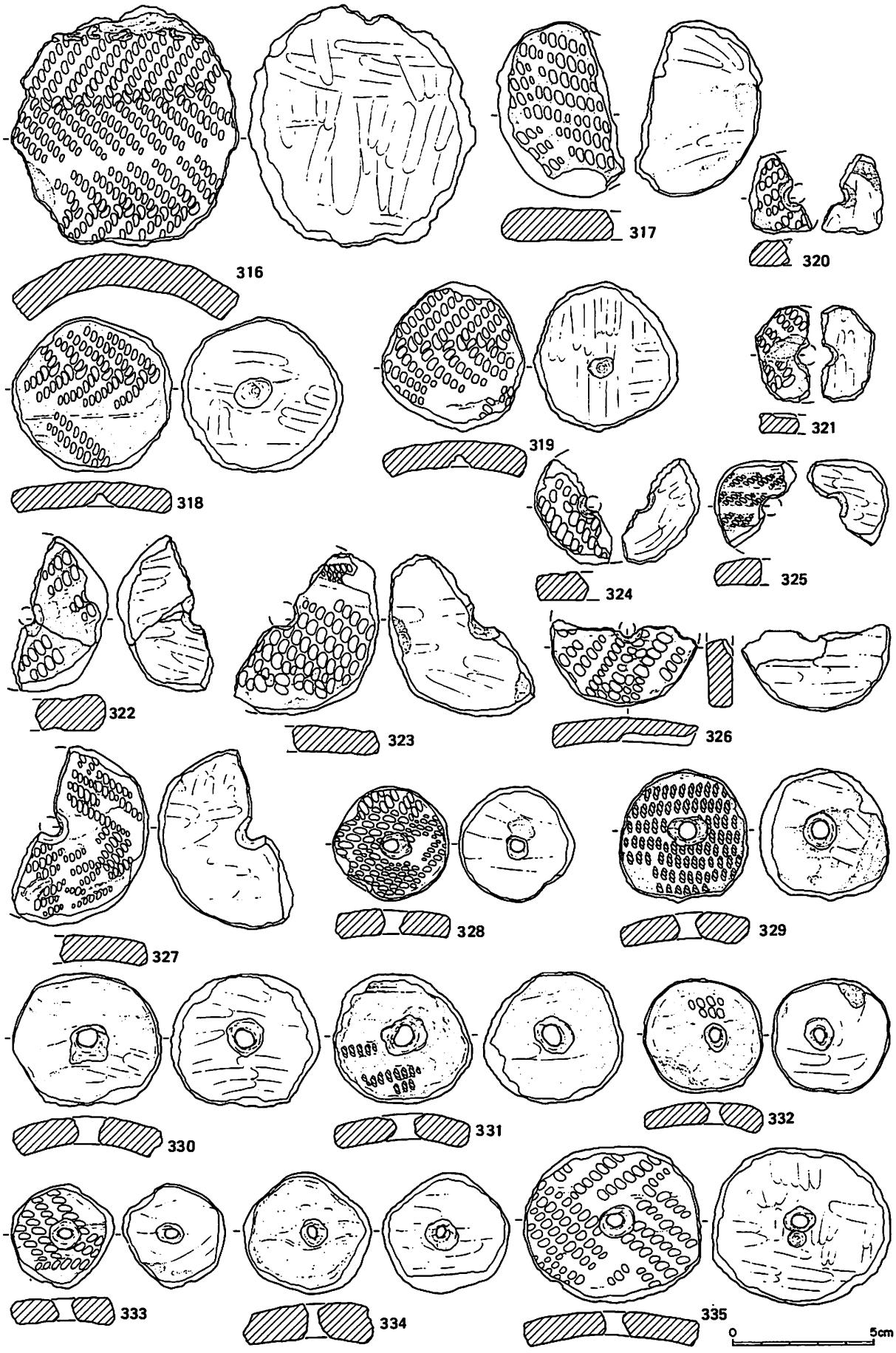
図Ⅲ—94　FH—12 遺物(16)



図Ⅲ—95　FH—12 遺物(17)



図Ⅲ—96　FH—12 遺物(18)



図Ⅲ—97　FH—12 遺物(19)

石錘？(304)　図示した1点だけの出土。すり石の破損面から打欠きが施されており，石錘として利用したものか。

石鋸(305～307)　4点出土。いずれも断面U字形を呈する。

砥石(308・309)　小破片を含めて27点出土。図示した2点はいずれも両面使用。

石皿・台石(310～315)　59点出土。

土製品　316～355は再生土製円盤，316・317は無孔，318・319は穿孔途中，320～335は有孔である。表面が磨滅しているものもあるが，すべてII群B類土器の体部破片を利用している。

時期　縄文時前期末～中期初頭，II群B2類土器の時期である。

FH—13（欠番）

FH—14（図III—98～103，図版34）

平面形　楕円形？　　**規模**　(4.54)×5.32／(4.37)×5.03／0.23m

面積　(15.94)m²　　**重複**　FH—15より新しい

特徴　北側が未調査区域へのびており，全体の2分の1程が調査できた。床面は比較的平坦であるが，南東から北西にむかってわずかに傾斜している。壁面は西側の一部が不明瞭であるが，確認できた部分は丸味があり，傾斜も緩やかである。小ピットは28カ所（HP—1～28），HP—14は焼土を伴う付属ピット，他は柱穴とみられる。柱穴は深さ40～60cmのものが13カ所あり，FH—15のものも含まれているので主柱は確定できない。炉跡はみられないが，HP—14内で焼土が確認された。覆土は暗褐色土が主体で，黄褐色土ブロックを含んでいる。

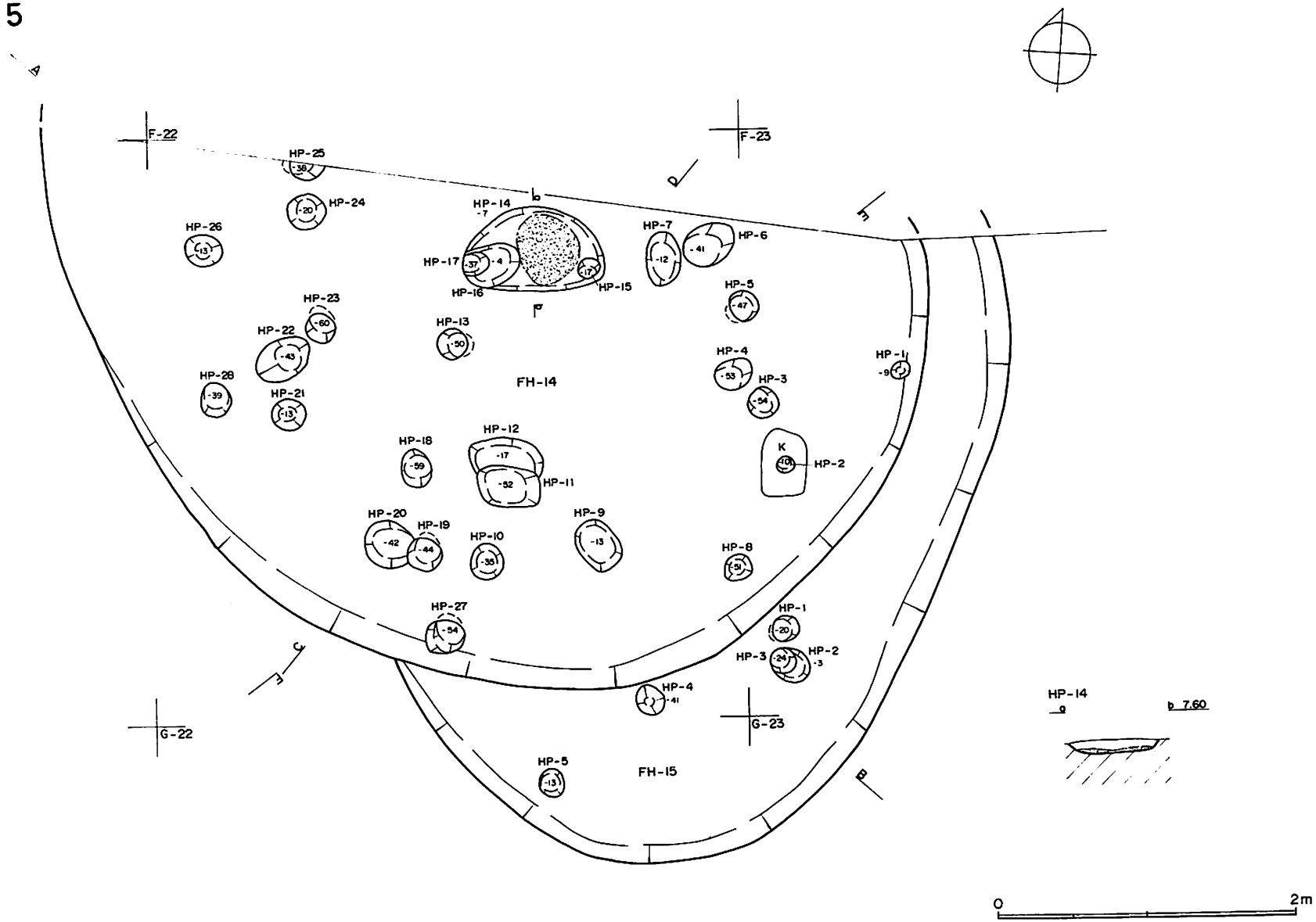
遺物　出土遺物総数は2,473点，その内訳は石器439点，石器類111点，コア・フレイク類861点，礫類1,060点，土製品2点，土器はII群B類が主体，石器では石鏃（24点），たたき石（17点），砥石（43点）が目に付く。遺物は床面，覆土ともに東側に集中し，礫石器，礫類が比較的かたまる傾向がある。

土器　I群B2類（2），II群B1類（3），II群B2b類（4・5），II群B2c類（1・6～11），II群B類（12～20），III群A1類（21），III群B3類（22）

2は尖った口唇部で，体部・口縁部裏面に絡条体圧痕文が施されている。3は角形の口唇部断面で，口頸部には格子目状の縄線文・半截竹管状工具の刺突文が施されている。4は口唇部に，5は半截竹管状工具の押引文で区画された口頸部に縄線文が施されている。1は口唇部断面は切り出し状である。縄文が施された口唇部下端部に半截竹管状工具の刺突文が加えられている。口頸部には，原体の長さが約5cmの絡条体圧痕文が施されている。体部は結束斜行縄文である。6・7・10は口頸部に鋸歯状に，9は斜位に絡条体圧痕文が施されている。12は口頸部に円形刺突文が施されている。13の口縁部上端はほぼ直角に外反する。21は切り出し状の口唇断面で，撚糸圧痕文が施された細い貼付紐と半截竹管状工具の刺突文が施されている。22は切り出し状の口唇断面で，体部は羽状縄文である。胎土は砂粒が多く，繊維を含まない。内面調整は粗雑である。

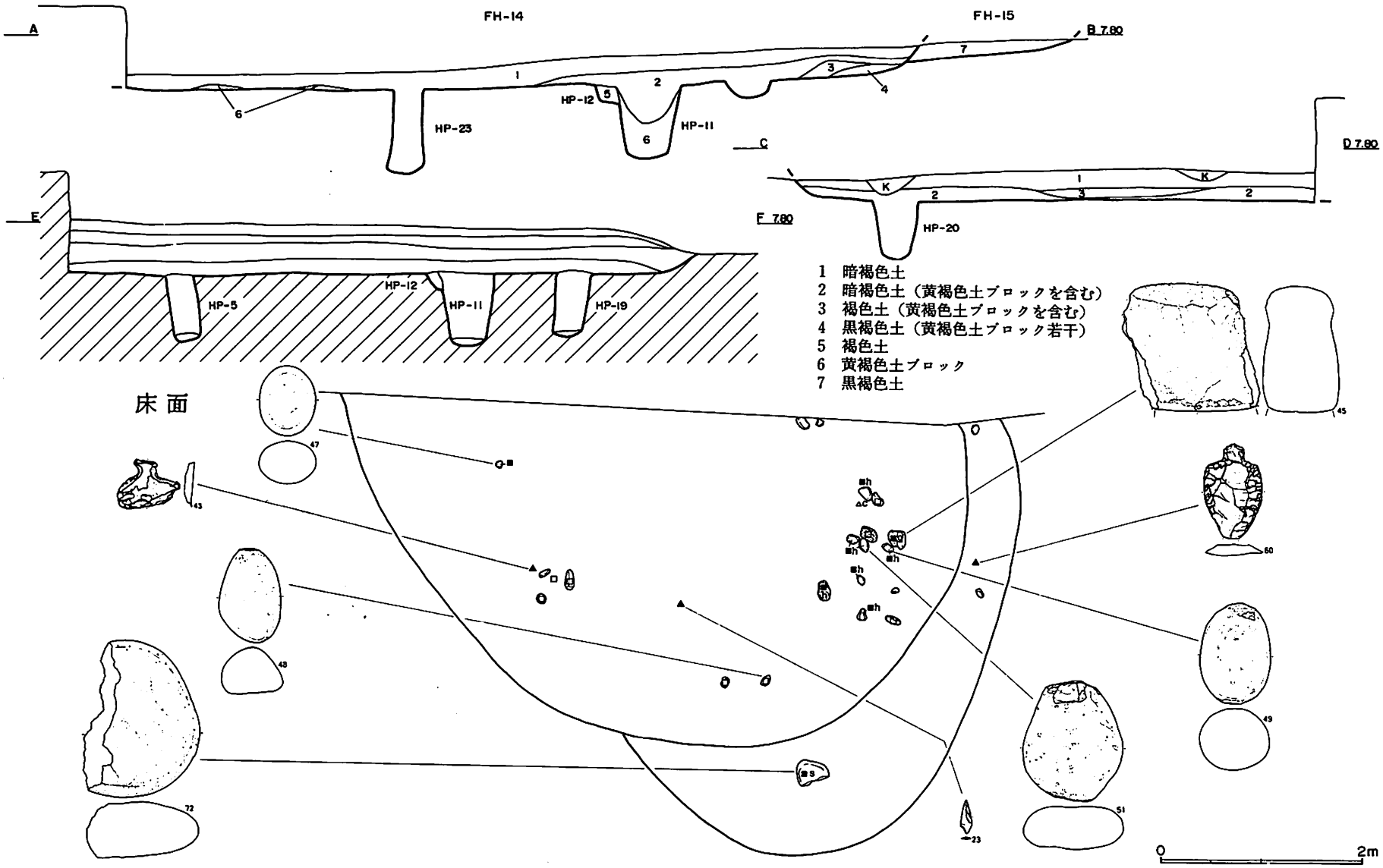
石器　23～34は石鏃。33・34は菱形を呈するもので，その他は有茎凸基。35・36はポイントで，36は木葉形を呈する安山岩製。37～43はつまみ付きナイフで，37～39は縦形，40・

FH-14·15



図Ⅲ—98　FH—14・15(1)

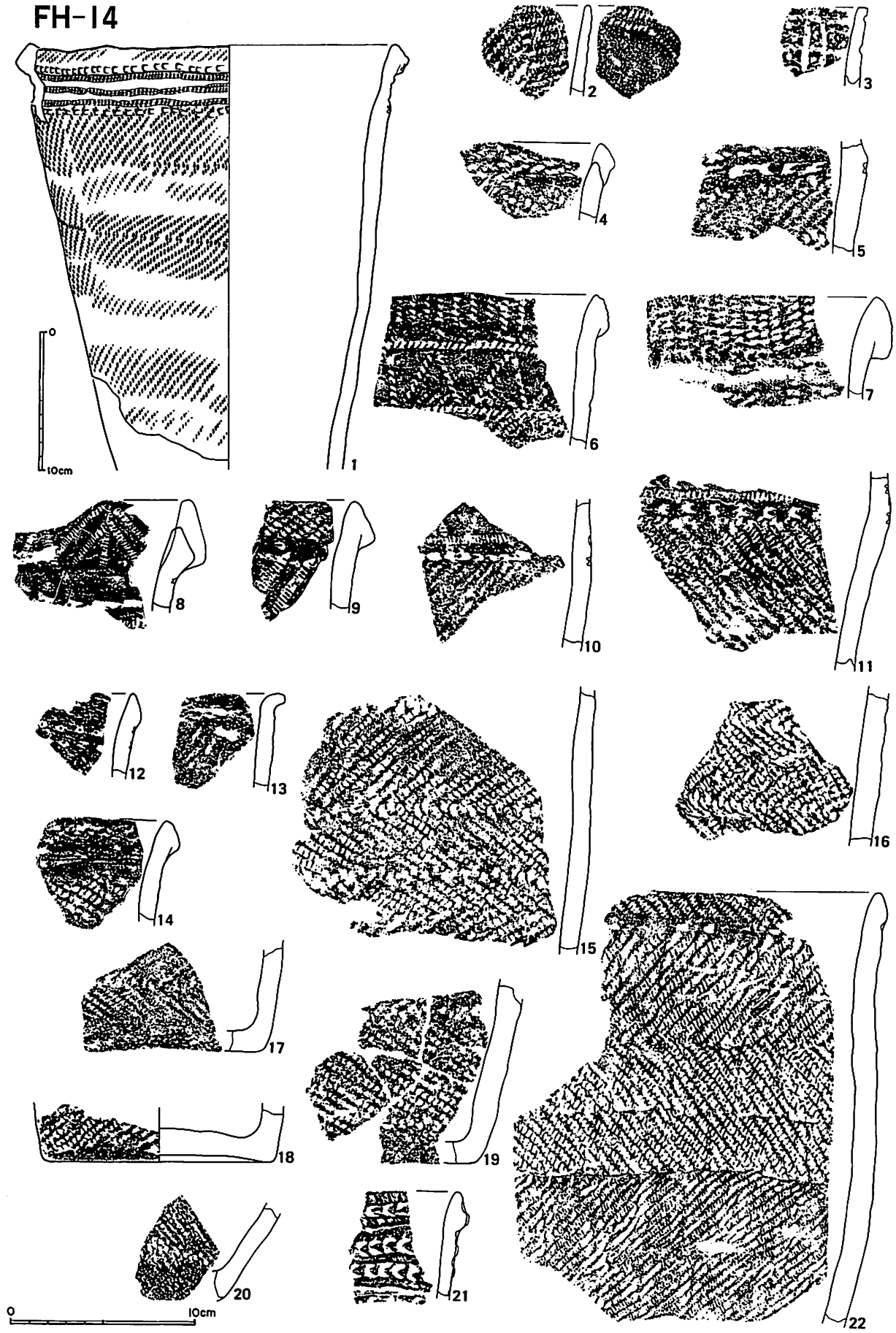
FH-14·15



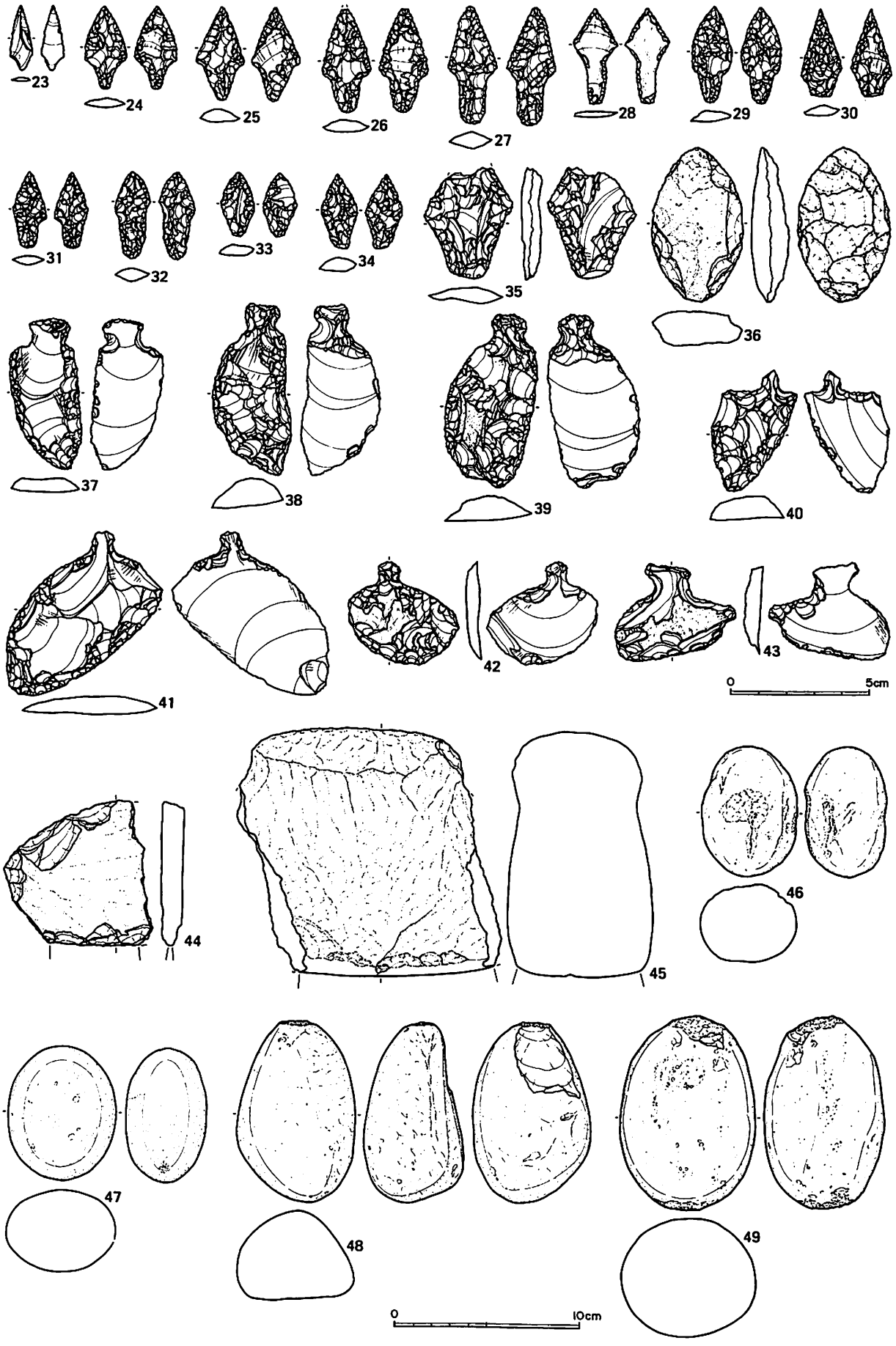
図Ⅲ—99　FH—14・15(2)



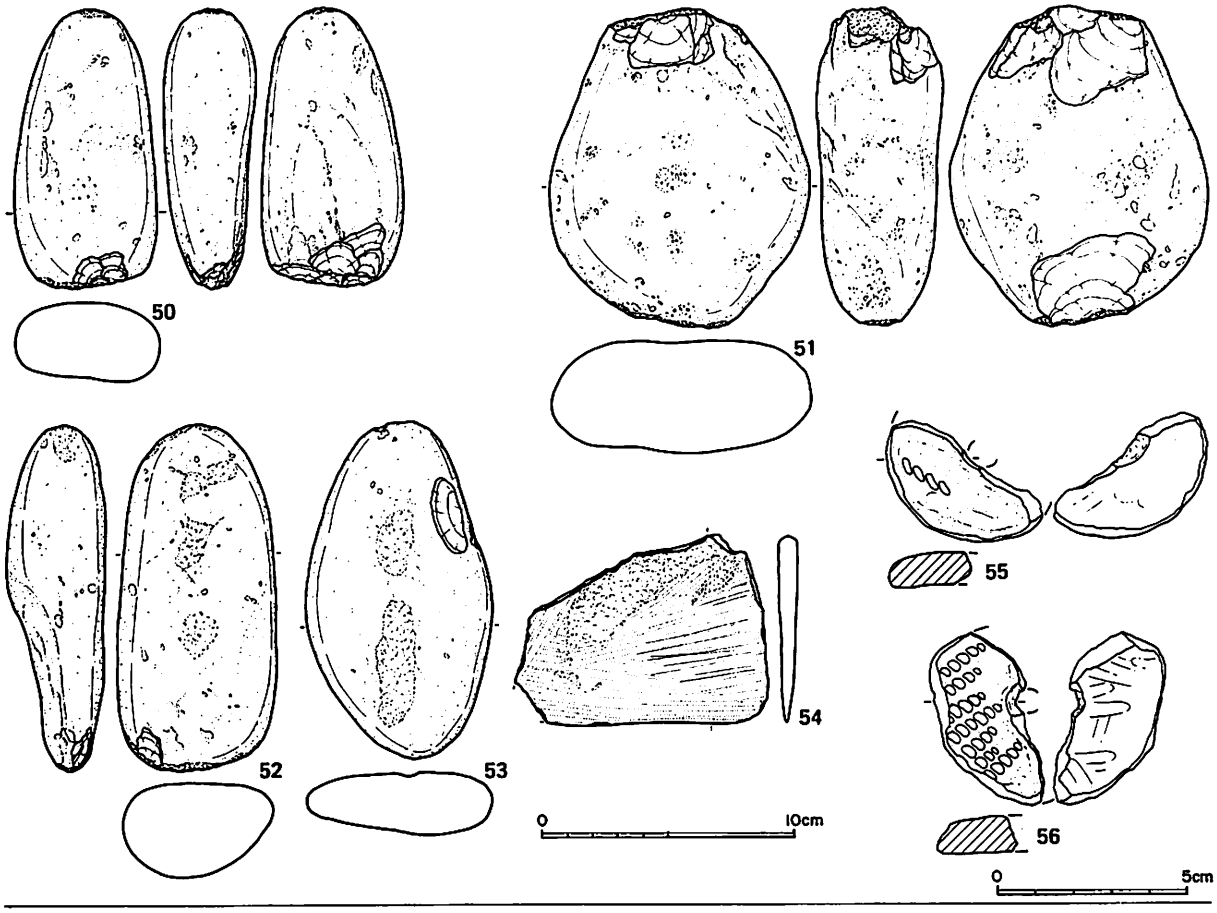
図Ⅲ—100　FH—14・15(3)



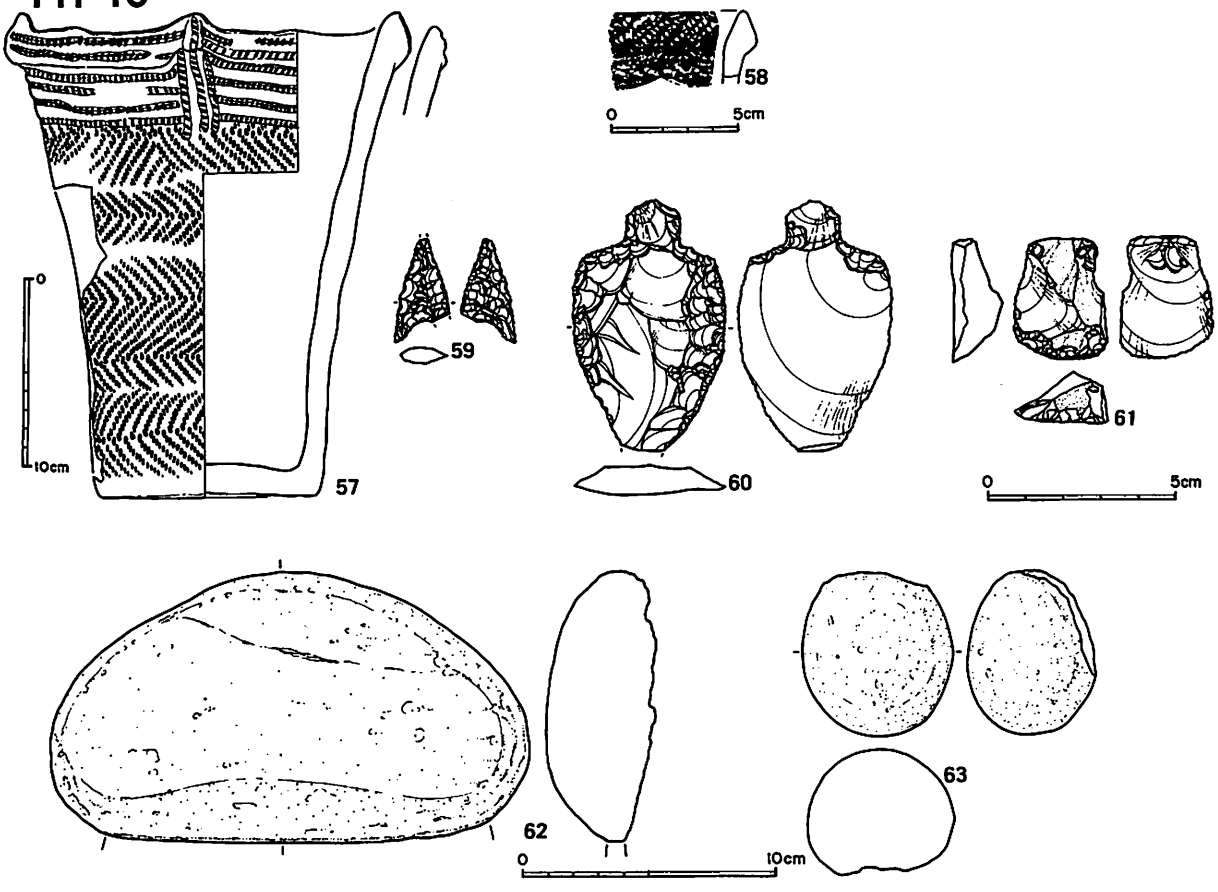
図Ⅲ—101　FH—14 遺物(1)



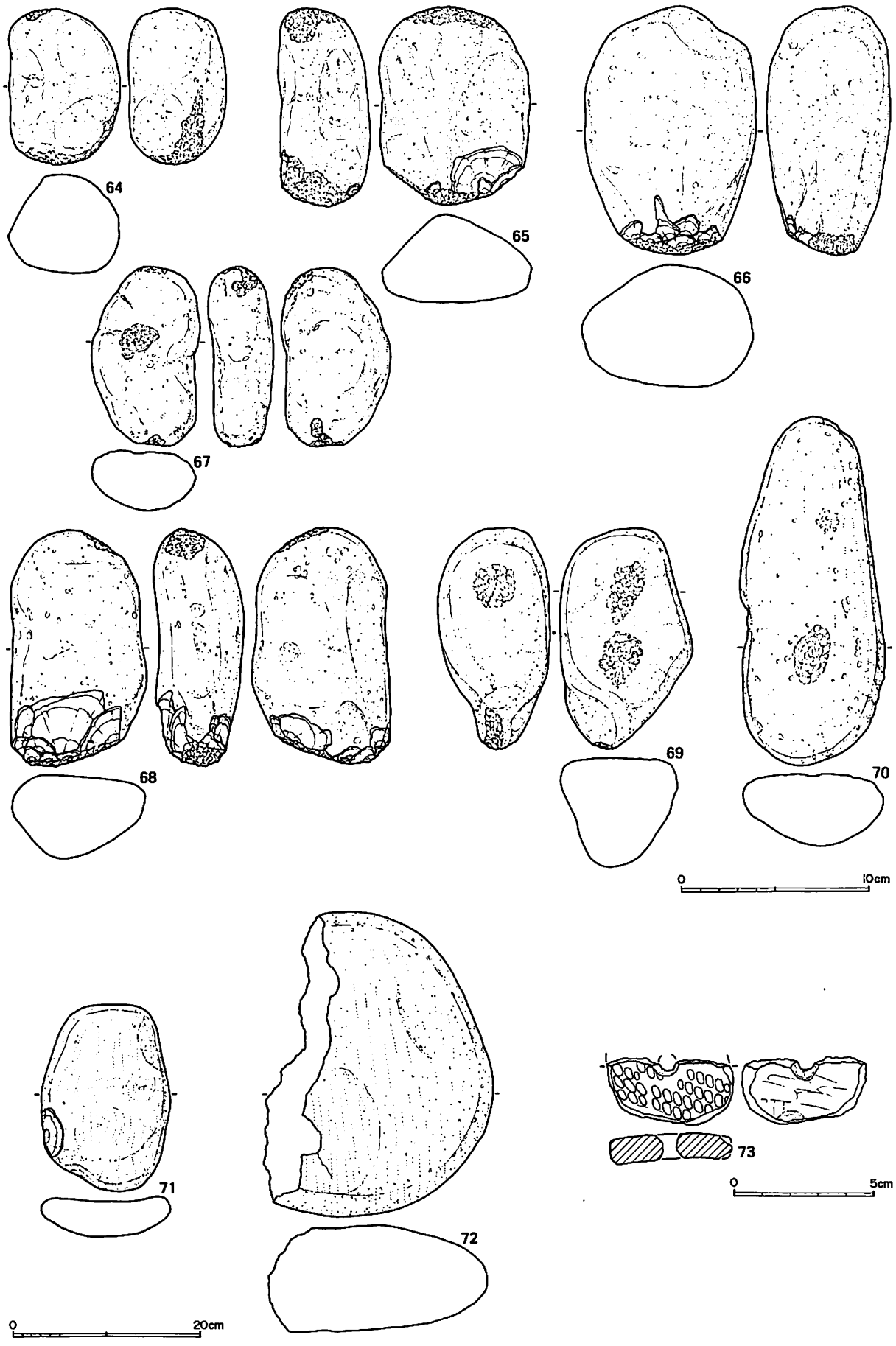
図Ⅲ－102　FH－14 遺物（2）



FH-15



図Ⅲ—103　FH—14 遺物(3)・FH—15 遺物(1)



図III—104　FH—15 遺物(2)

41は斜形，42・43は横形のもの。44は半円状のすり石。45は北海道式石冠。46・47は球石。48～52はたたき石。53はくぼみ石。54は断面V字形の石鋸。

土製品　55・56は有孔の再生土製円盤片である。

時期　縄文時代前期末～中期初頭，II群 B2 類の時期である。

FH—15（図III—98～100・103・104，図版34）

平面形　楕円形？　　**規模**　(4.42)×(4.21)／(4.30)×(4.04)／0.11m

面積　(5.10)m²　　**重複**　FH—14より古い

特徴　北西側の大部分がFH—14によって壊されている。残存している東側の床面は西側に向かってわずかに傾斜している。壁面は丸味があり傾斜は緩やかである。残存している床面で確認された小ピットは5カ所（HP—1～5）だけであるが，FH—14の床面で確認された小ピットの中にもFH—15のものが含まれていると思われる。炉跡は確認されず，覆土は黒褐色土（7層），一層のみである。

遺物　出土遺物総数は576点，その内訳は土器132点，石器類25点，フレイク類194点，礫類224点，土製品1点，土器はII群 B2 類が主体，石器はたたき石（9点）が目立つ。遺物は床面，覆土中にみられたが，覆土中では南東の一部で礫石器，礫類がかたまって確認された。

土器　II群 B2b 類（58），II群 B2c 類（57）

58は縄線文の施された切り出し状の口唇部で，口頸部に縄線文が施されている。57は切り出し状の口唇断面で，口唇部・口頸部に絡条体圧痕文が施されている。体部は同一原体の上下を変え，向きの異なる結束羽状縄文が施されている。底部はやや揚げ底気味である。

石器　59は無茎凹基の石鏃。60は縦形周辺加工のつまみ付きナイフ。61はエンドスクレパー。62はすり石。63は球石。64～69はたたき石で，69は長軸の一端と三腹面に使用痕があり，くぼみ石か。70はくぼみ石。71・72は石皿・台石。

時期　縄文時代前期末～中期初頭，II群 B2 類土器の時期である。

FH—16（図III—105～124，図版35～38）

平面形　楕円形　　**規模**　9.86×6.80／9.40×6.40／0.36m　　**面積**　55.34m²

重複　FH—28より古く，FH—25・37・38，FP—148より新しい

特徴　床面は平坦で，壁面の傾斜も緩やかである。南西部の床面が二段になっているが，これは二段構造というよりも拡張の可能性が強い。小ピットは80カ所（HP—1～80），大きさ，深さはバラエティーがあるが，平面形が楕円形で浅いHP—3・4は付属施設とみられ，それ以外は柱穴と考えられる。東側のものの中にはFH—28・37のものが含まれている。柱穴は重復しているものがいくつかみられ，近接しているものも多い。したがって，建替え，拡張等が行れていると思われる。構造は平面形などからみて，6ないし8本の主柱の可能性が強く，一例としてはFP—7・14・20・29・34・42・48・61の8本が考えられる。焼土は4カ所（HF—1～4），床面中央西側にあり，HF—1は，1.2×0.8mと広範囲にみられる。また，HP—3では炭化物を多量に含んだ層が確認され，^{14}C による年代測定を行った。ピットを除いた覆土は概ね七層に分けることができた。1層の黒褐色土層はIII群 B3 類土器の無含層であるが，以下はすべてII群 B2 類土器が多量に出土している。床面直上5cm（採取時は3層），炭化物を多量に含んだ7層（採取時は2～3層）については住居跡全体を8

分割して採取し，フローテーション後に炭化種子の同定を行った。得られた炭化物の大部分は炭化材であったが，オニグルミの内果皮片のほかキハダ，アカザ科の種子などが確認されている。また，HF—1～4の焼土についてもフローテーションを行ったところ，HF—1でオニグルミの内果皮片とニワトコ属の種子が確認された。

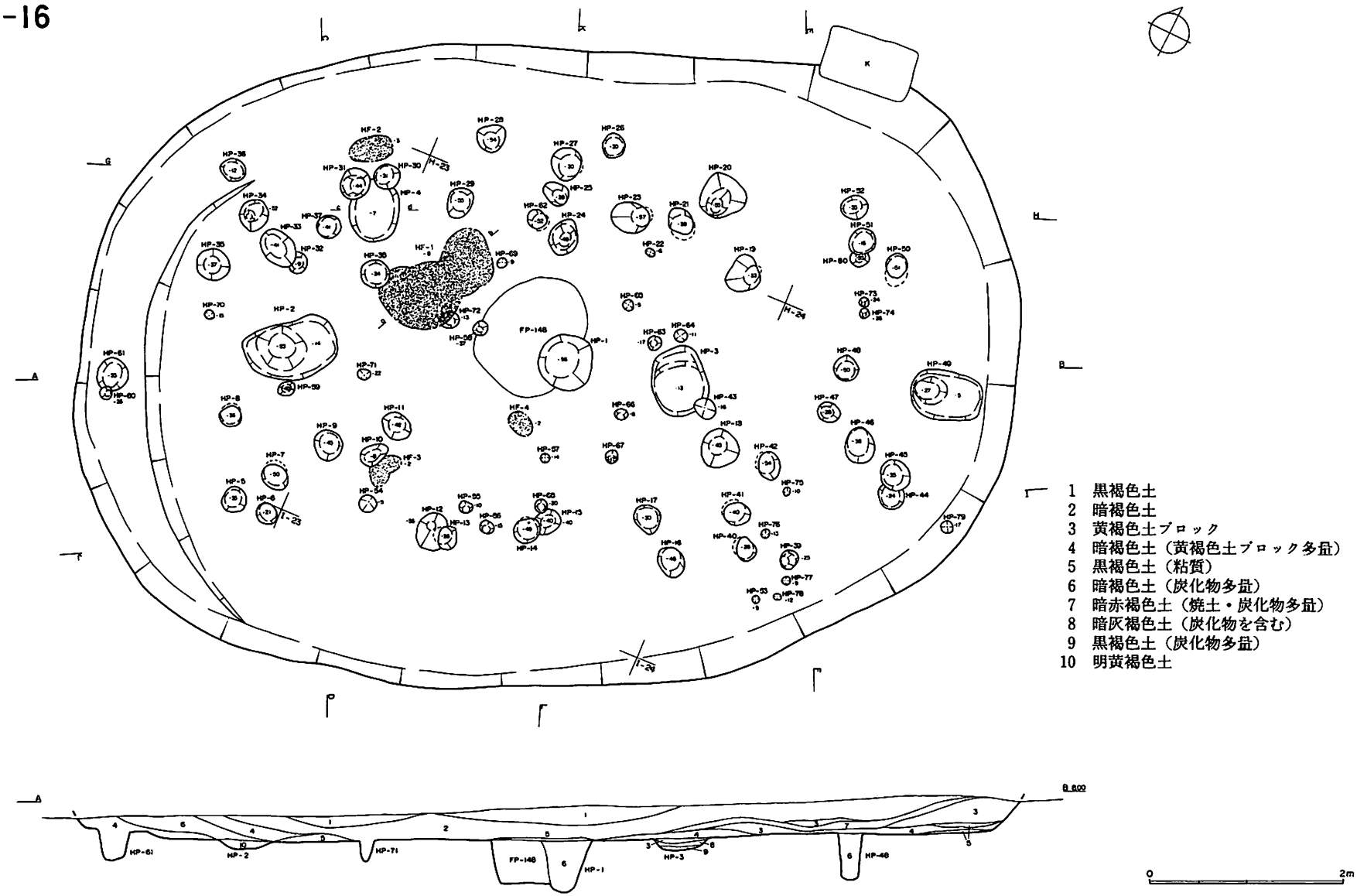
遺物　出土遺物総数は50,160点，その内訳は土器9,848点，石器類832点，コア・フレイク類24,108点，礫類15,350点，土・石製品22点，土器はII群B2類が主体，石器は石鏃（131点），スクレイパー（155点），たたき石（132点），砥石（108点），石皿・台石（69点）などが多い。土製品は再生土製円盤と粘土塊が多いが，完形の土偶が1点みられる。

床面からの遺物の出土は散発的であるが，南西側が多い。覆土の遺物は全域に分布しているが，東側は土器が多く，西側は礫石器，礫類が多い傾向がみられる。また，北海道式石冠と石皿・台石が近接して出土しているケースもあり，セットで使用された可能性が考えられる。

土器　II群B1類（1・13～18），II群B2a類（19～22），II群B2b類（2・23～29），II群B2c類（3・4・30～46），II群B類（5～11・47～52・56・57），III群A1類（12・53・54），III群B3類（58～60）

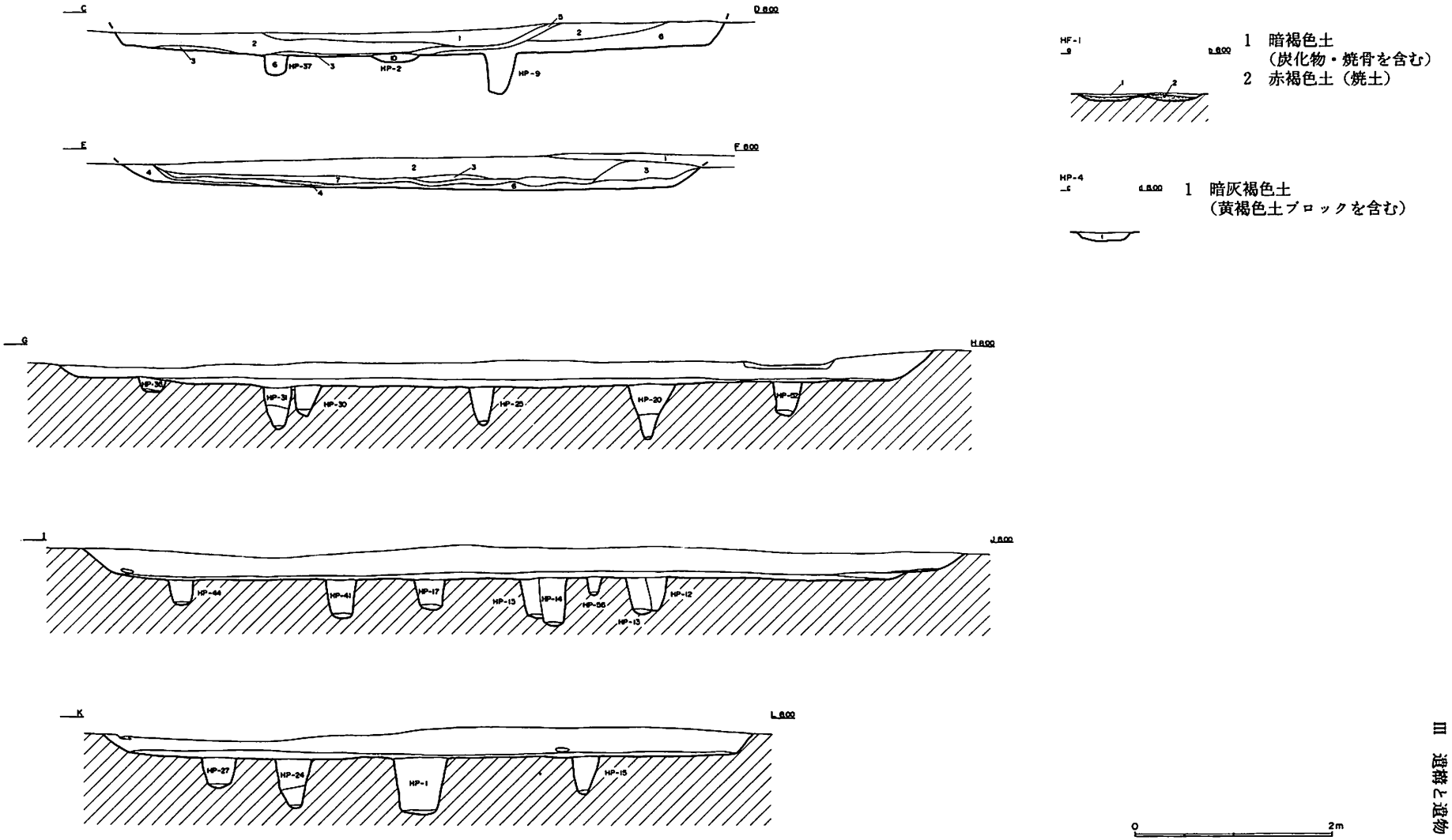
1は角形の口唇断面で，口唇端部・口縁部に複節の縄線文が施されている。体部は羽状縄文である。胎土には砂粒が多く，繊維は少ない。13は角形の口唇断面で，口縁部に結束のある縄線文が施され，体部には不規則な羽状縄文が施されている。胎土には多量の砂粒を含む。14は角形の口唇断面で，口縁部は強く外反する。口唇端部・口縁部上端に1条の縄線文と口縁部に垂下する2本一組の縄線文が施されている。表裏に不規則な羽状縄文が施されている。15・16は口縁部に綾絡文状の縄文が施され，体部は斜行縄文である。17は丸味をもつ尖る口唇断面で，口縁部には穿孔のある橋状の貼付把手がある。胎土は砂粒・繊維が多い。18は付加条の縄文が施されている。19・20は単軸絡条体回転文である。21は縄圧痕文に区画されたくびれの強い口頸部に縄線文が施されている。体部は多軸絡条体回転文である。22は多軸絡条体回転文である。2は斜行縄文が施された断面形が切り出し状の口唇部で，半截竹管状工具によって区画された無文地の口頸部には馬蹄形状の縄線文が施されている。体部は結束羽状縄文である。23は角形で縄線文・半截竹管状工具の押引文が施された口唇部である。半截竹管状工具の刺突文が加えられた薄い貼付帯で区画された幅広の口頸部には，斜行の縄線文が施されている。24の円形刺突文に区画された幅広の口頸部には多段の弧状の縄線文が施されている。25は半截竹管状工具の押引文で区画された幅広の頸部に鋸歯状の縄線文が施されている。26・28は口唇部・口唇部直下に，27は口唇部直下に，29・51は口唇部に，縄線文が施されたものである。51は口頸部に半截竹管状工具による刺突文・円形刺突文が施されている。3は斜行縄文・縦位の絡条体圧痕文が口唇部に，半截竹管状工具の刺突文で区画された口頸部には，長さ約5cmの原体で施された絡条体圧痕文がある。体部は結束羽状縄文である。4・30・31・37は絡条体圧痕文を無文地の切り出し状の口唇部・口頸部に施したもので，4は絡条体圧痕文で区画された口頸部には鋸歯状に，30は半截竹管状工具と組み合わされて，31は鋸歯状の絡条体圧痕文が施されている。37は絡条体圧痕文と刺突文とが組み合わされている。32・34・36・39・42は口唇部に斜行縄文，頸部に絡条体圧痕文が施されているものである。39は円形刺突文で区画された無文地の口頸部に2本一組の鋸歯状の絡条体圧痕文が施されている。33・35・40は口唇

FH-16



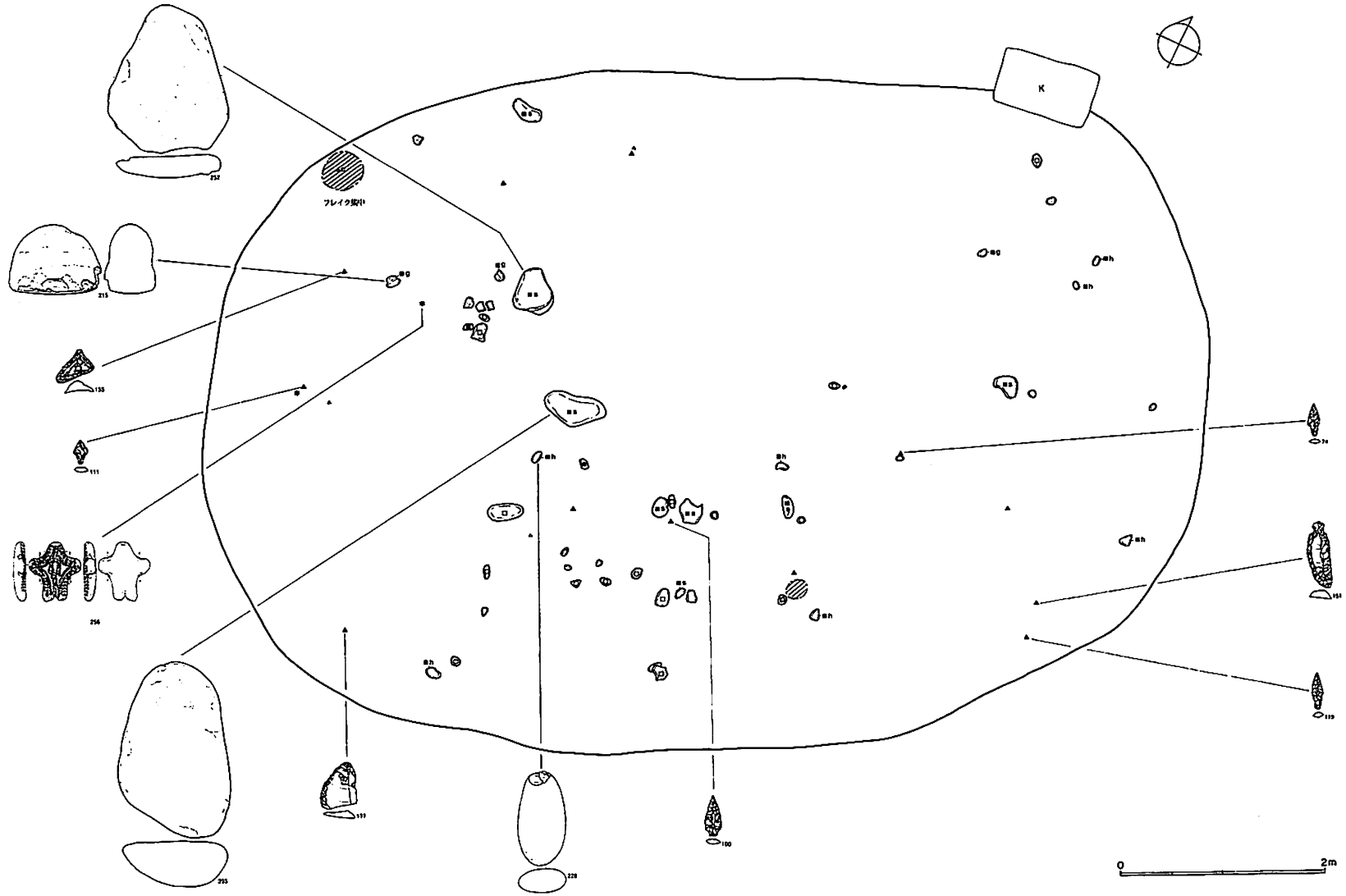
図Ⅲ—105　FH—16(1)

FH-16

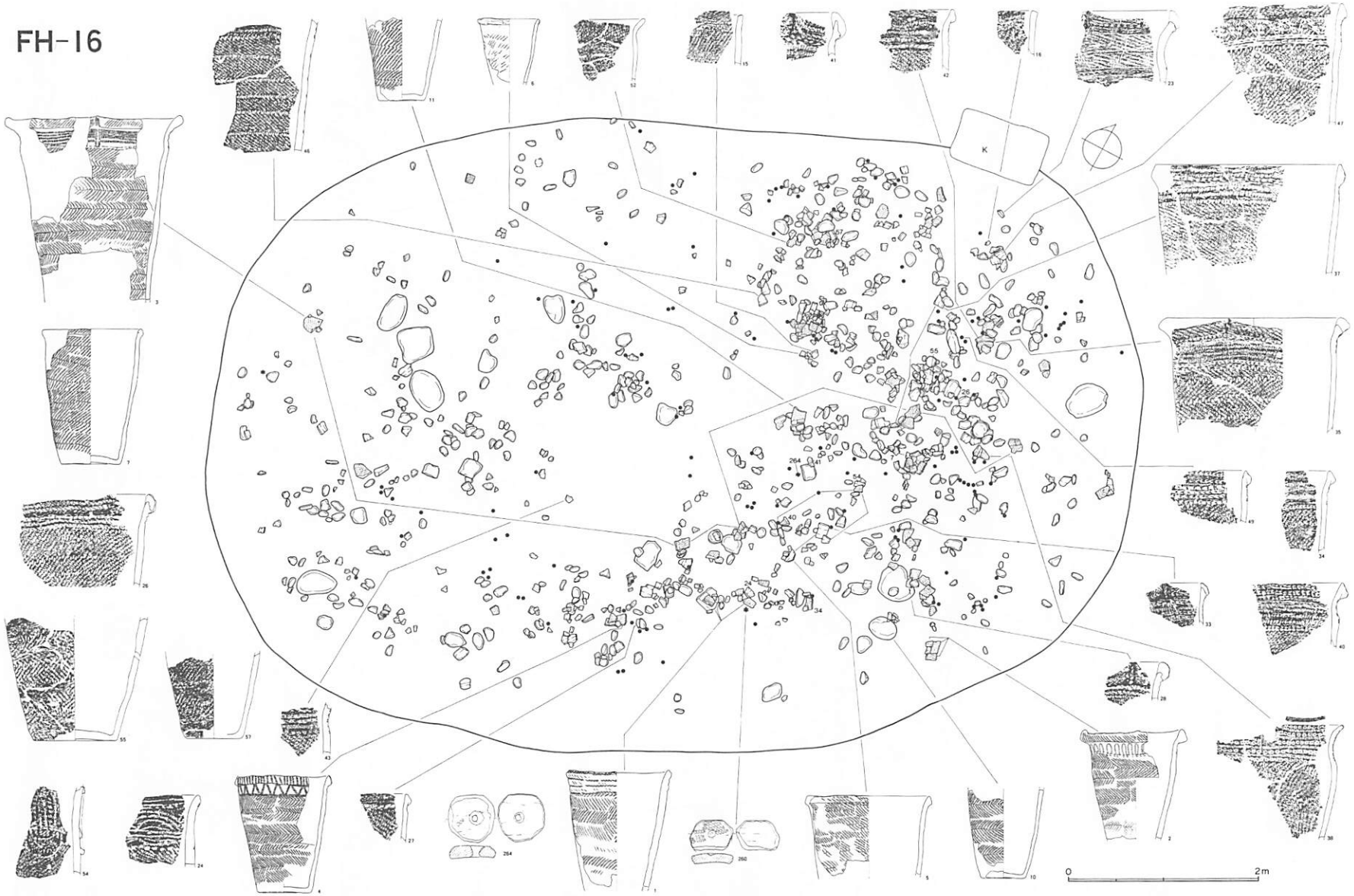


図Ⅲ—106　FH—16(2)

FH-16

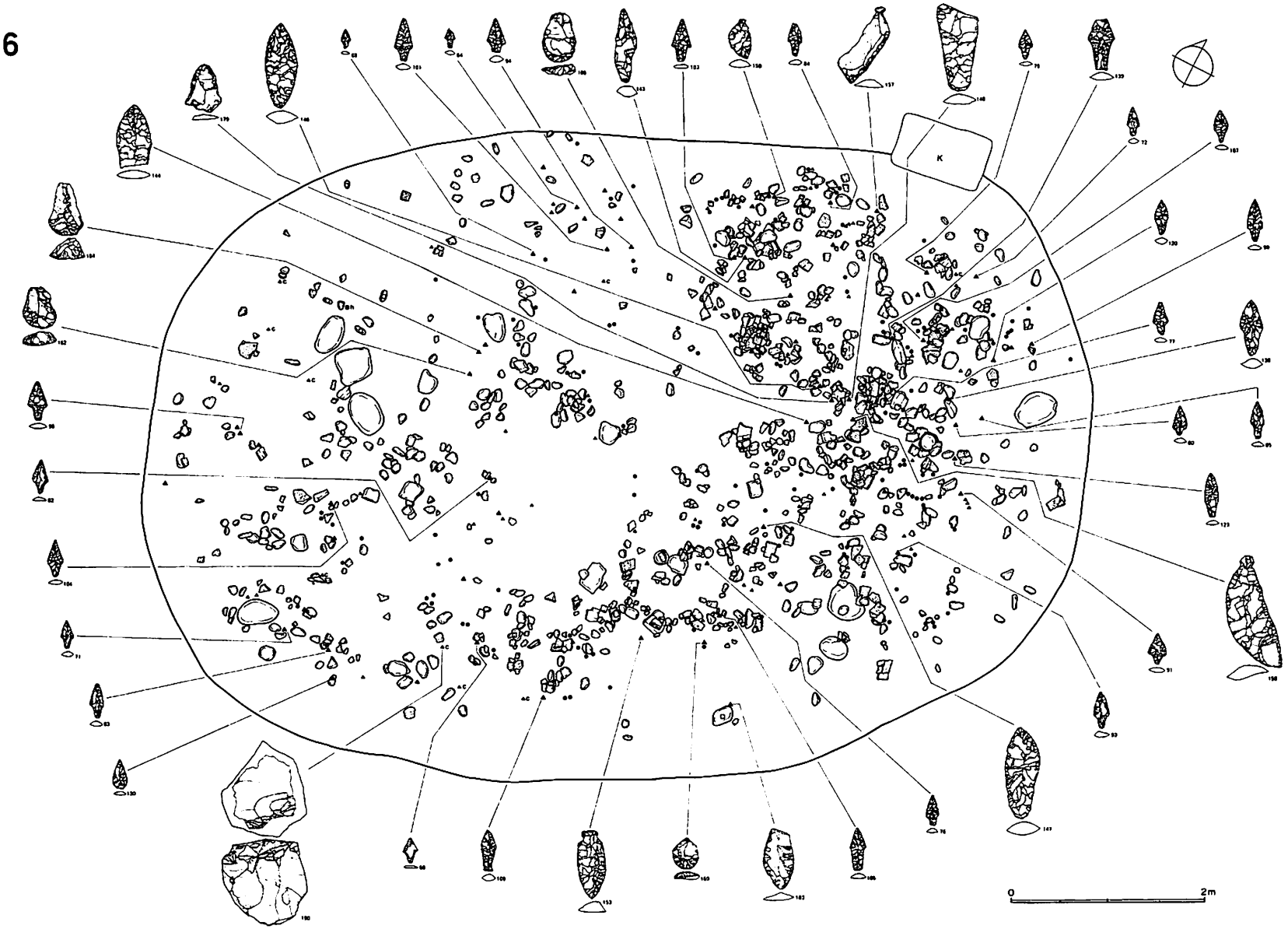


図Ⅲ—107　FH—16(3)

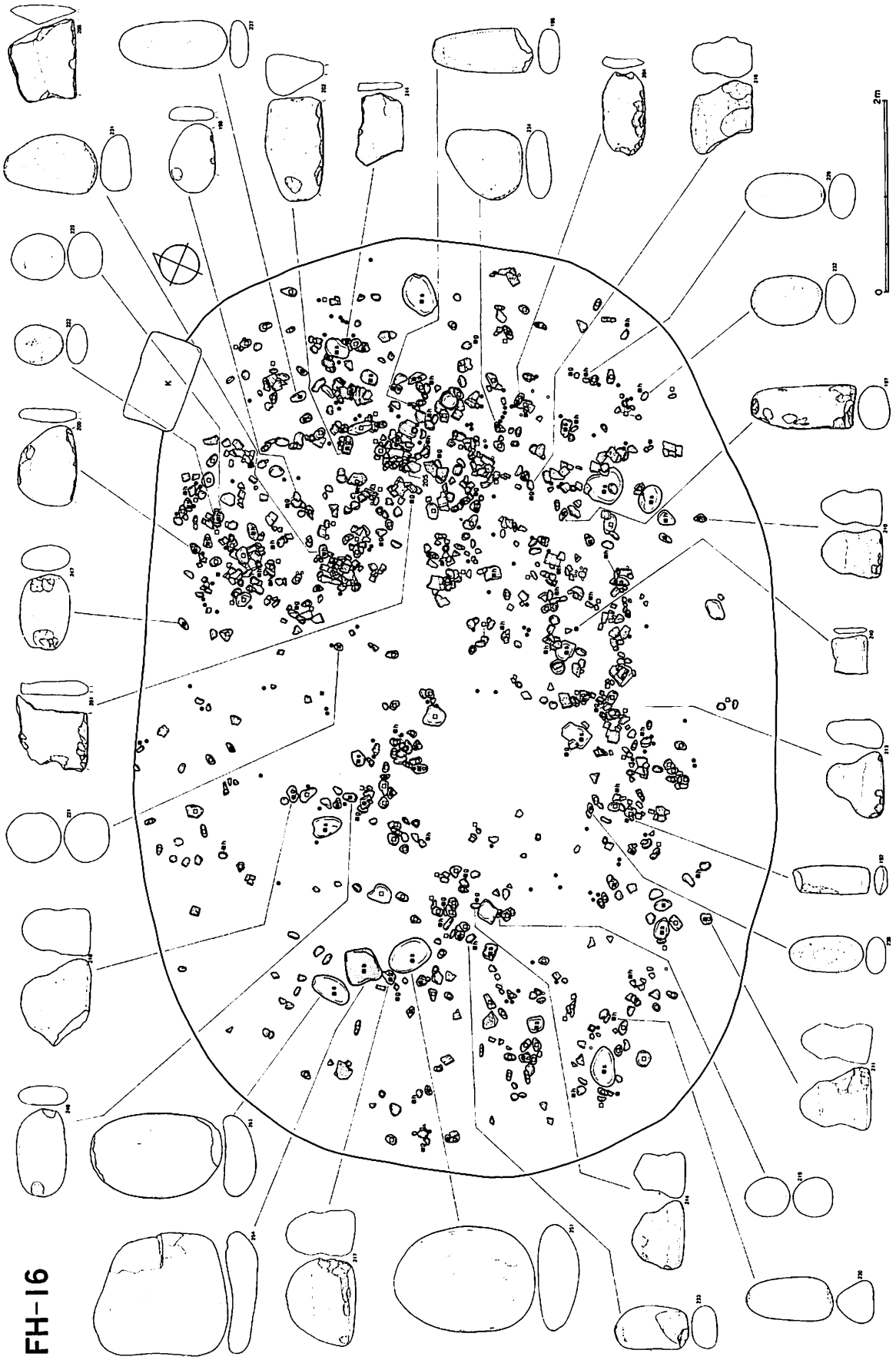


図III—108　FH—16(4)

FH-16



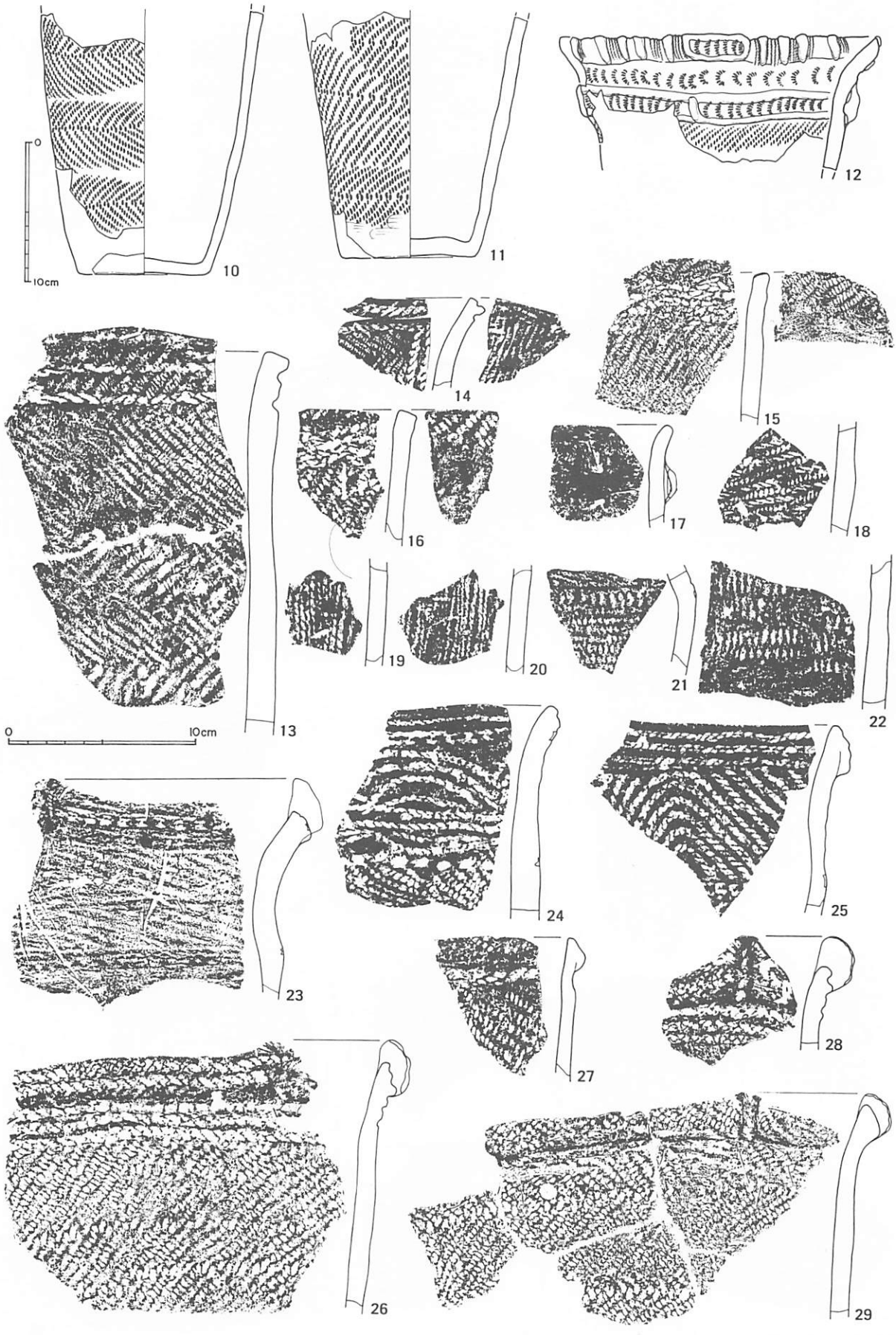
図Ⅲ—109　FH—16(5)



図Ⅲ−110　FH−16(6)



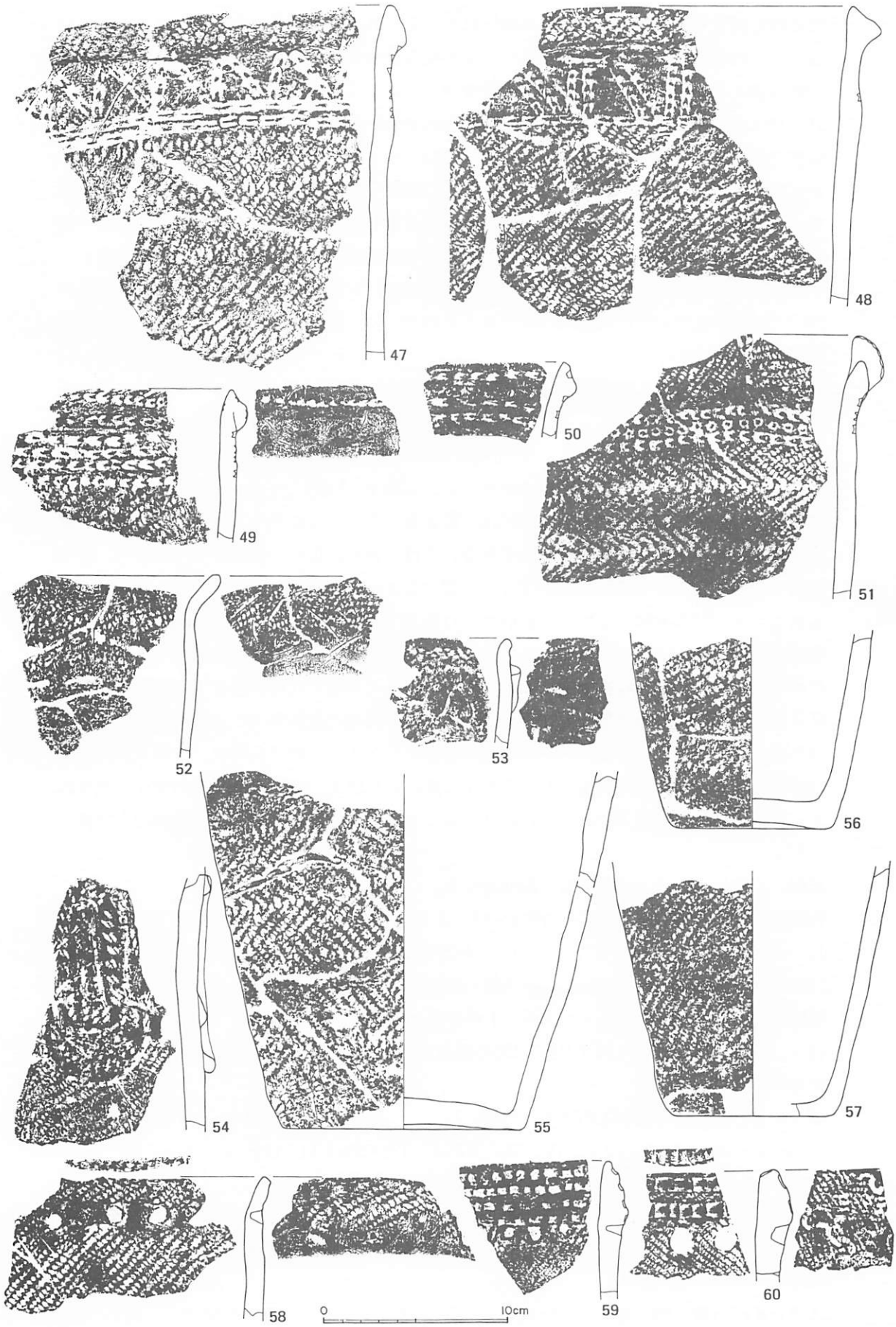
図Ⅲ—111　FH—16 遺物(1)



図Ⅲ—112　FH—16 遺物（2）



図Ⅲ—113　FH—16 遺物(3)



図III—114　FH—16 遺物（4）

部に斜行縄文・刺突文，頸部に絡条体圧痕文が施されているものである。38は尖る口唇断面で，口頸部に円形刺突文と絡条体圧痕文が組み合わされ用いられている。体部は不規則な縦位縄文である。40は無文地に半截竹管状工具による押引文が施された口唇部である。41・42・45は絡条体圧痕文と縄線文が組み合わされたもので，41・45は口唇部に，42は口頸部文様区画帯に縄線文が用いられている。43・44・46は体部破片で，46は斜行縄文の繋目に絡条体圧痕文が施されている。47～50は口唇部・口頸部に半截竹管状工具による刺突文・押引文が施されたものである。47・48は切り出し状の口唇部で，半截竹管状工具の押引文で区画した無文地の頸部に，47は1本の，48は2本一組の鋸歯状の押引文が施されている。体部はいずれも結束斜行縄文である。49・50は口唇部・口頸部に半截竹管状工具の押引文が施されている。49には内面にも1条の押引文が施されている。50は無文地の口唇部・口頸部に半截竹管状工具の刺突文が施されている。5～7・52は縄文のみのものである。5・7は切り出し状の口唇部で，体部に結束羽状縄文が施されている。6は無文地に指頭圧痕の施された切り出し状の口唇部で，体部は斜行縄文である。52は波状の口縁で，くびれをもつ。体部は結束羽状縄文，口縁部内面は不規則な斜行縄文である。53は丸味をもつ口唇断面で，口唇直下に縄線文が施されている。口頸部に「逆U」字状の貼付けがある。10・11・55～57は底部破片である。底部には平底と揚げ底のものがあり，体部には結束斜行縄文・結束羽状縄文・斜行縄文のものがある。8は口唇部が尖り，体部は無文である。器面調整は粗雑である。9は口唇部が尖り，体部は5～6本一組の櫛状工具による擦痕文が施されている。53は丸味をもつ口唇断面で，口唇直下に縄線文が施され，口頸部に「逆U」字状の貼付けがある。54は口頸部に縄圧痕が加えられた太い貼付帯が施されている。体部は斜行縄文である。12は撚糸文・貼付紐が施された切り出し状の口唇部である。口頸部に貼付紐・縄端による馬蹄形圧痕文が施されている。58は円形刺突文のみのもので，口唇部は角形である。円形刺突文はナデ調整後に施文している。体部は斜行縄文である。59・60は篦状工具による押引文が施された切り出し状の口唇部で，口唇部直下に刺突文が施されている。59の口唇部直下の刺突文は棒状工具によるものである。60の内面に結節羽状縄文が施されている。

石器　器種別に概略と掲載石器の説明をする。

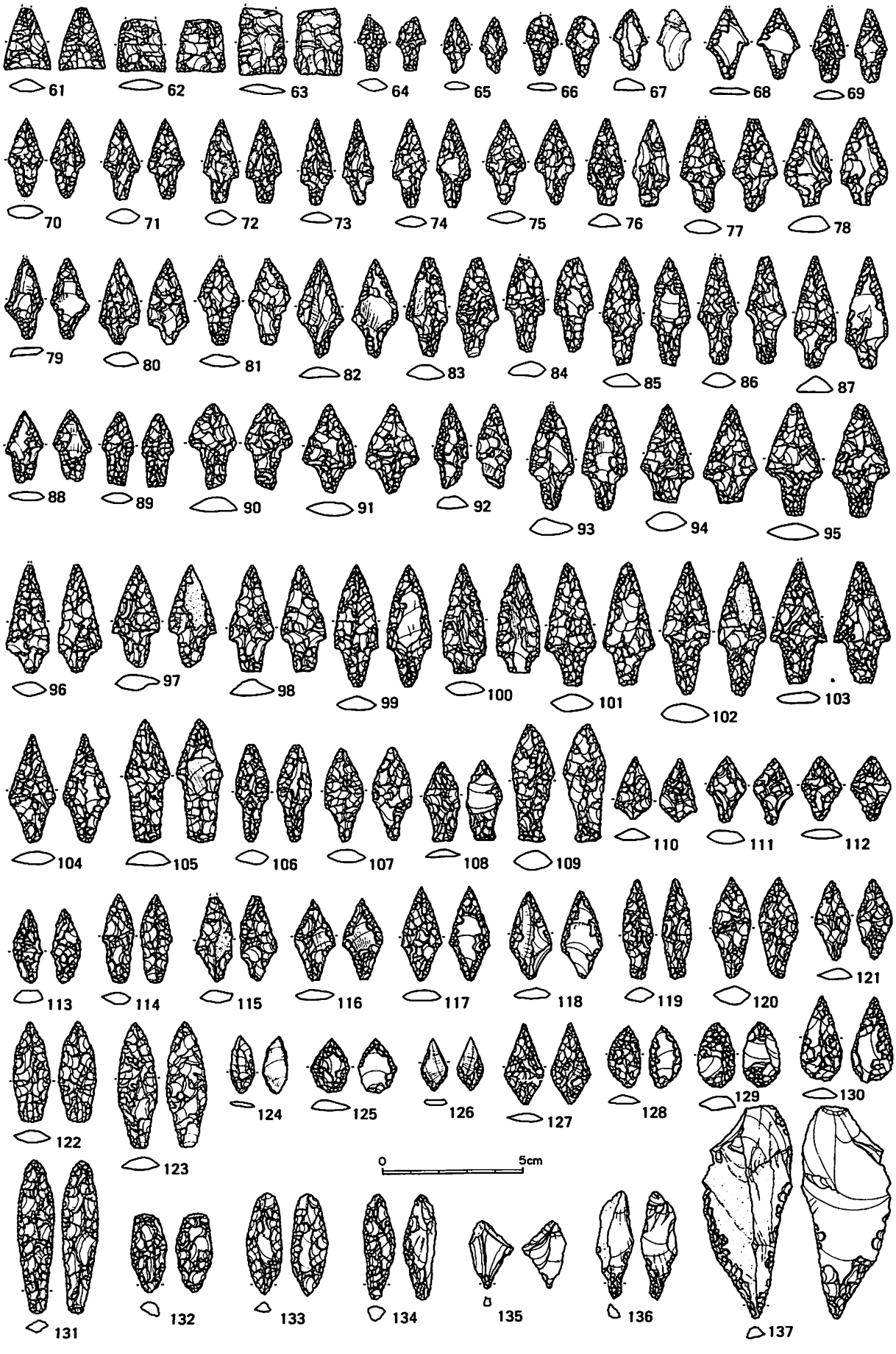
石鏃(61～130)　131点出土。その内訳はIaが3点，IIcが90点，IId_1が2点，IId_2が1点，II一が11点，IIIaが2点，IIIbが2点，IVが20点である。61～63はIa，64～124はIIc，125・126はIId_1，127はIId_2，128はIIIa，129・130はIIIb。

石錐(131～137)　8点出土しており，Iが5点，IIIaが2点，IIIbが1点である。131～134はI，135・137はIIIa，136はIIIb。135の素材（剝片）は191の石核から生産されたもので，接合する。

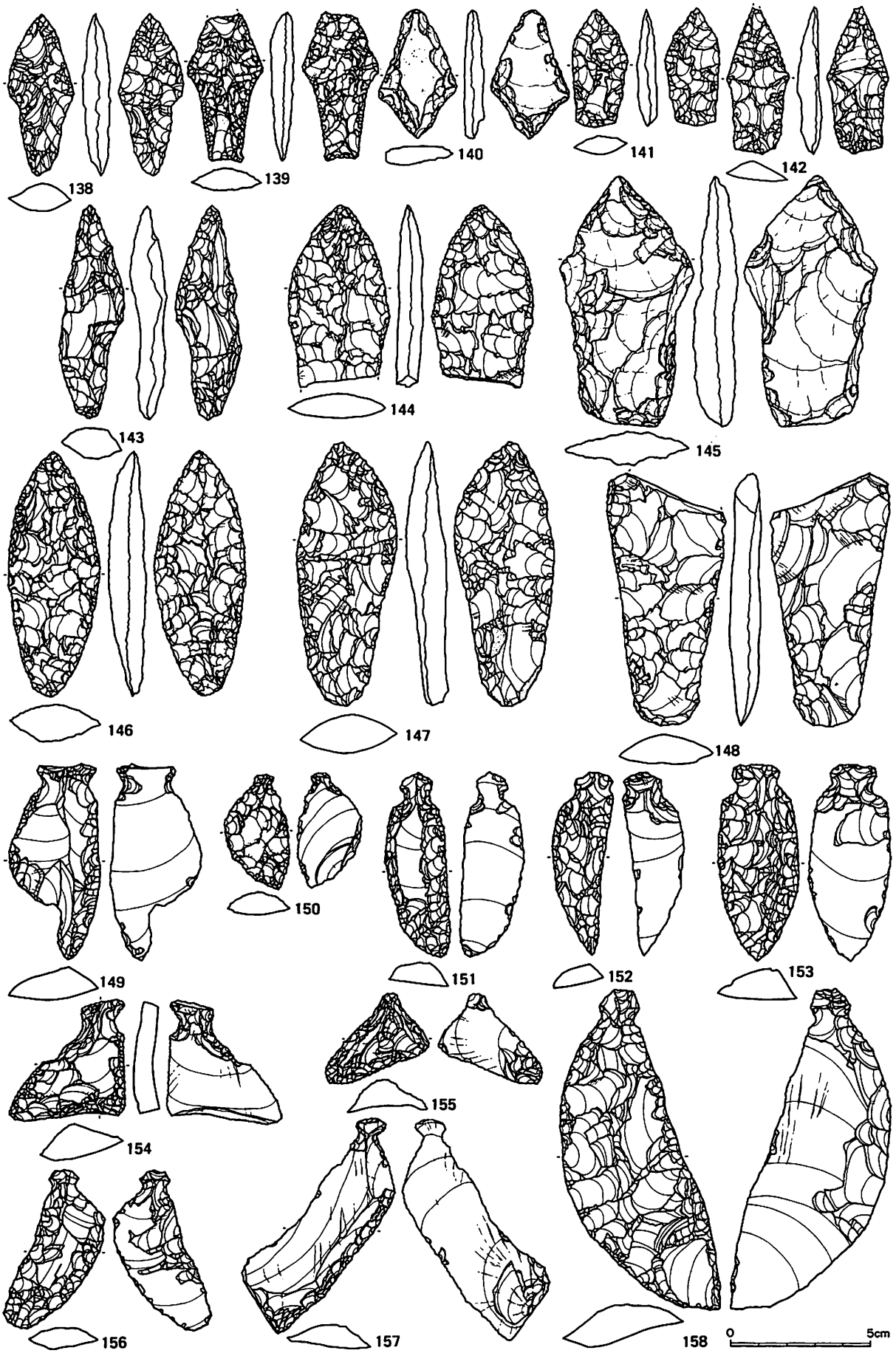
ポイントもしくは両面加工のナイフ(138～148)　33点出土。Ia_1が3点，Ia_2が5点，Ibが3点，I一が1点，IIが3点，IVが18点である。138・139はIa，140・143～145はIa_2，141・142はIb，146～148はII。このうち140・145の石材は安山岩である。

つまみ付きナイフ(149～158)　20点出土。Iaが5点，Ibが7点，IIaが3点，IIbが3点，IIIaが1点，IVが1点である。149はIa，150～153はIb，154・155・158はIIb，156・157はIIa。

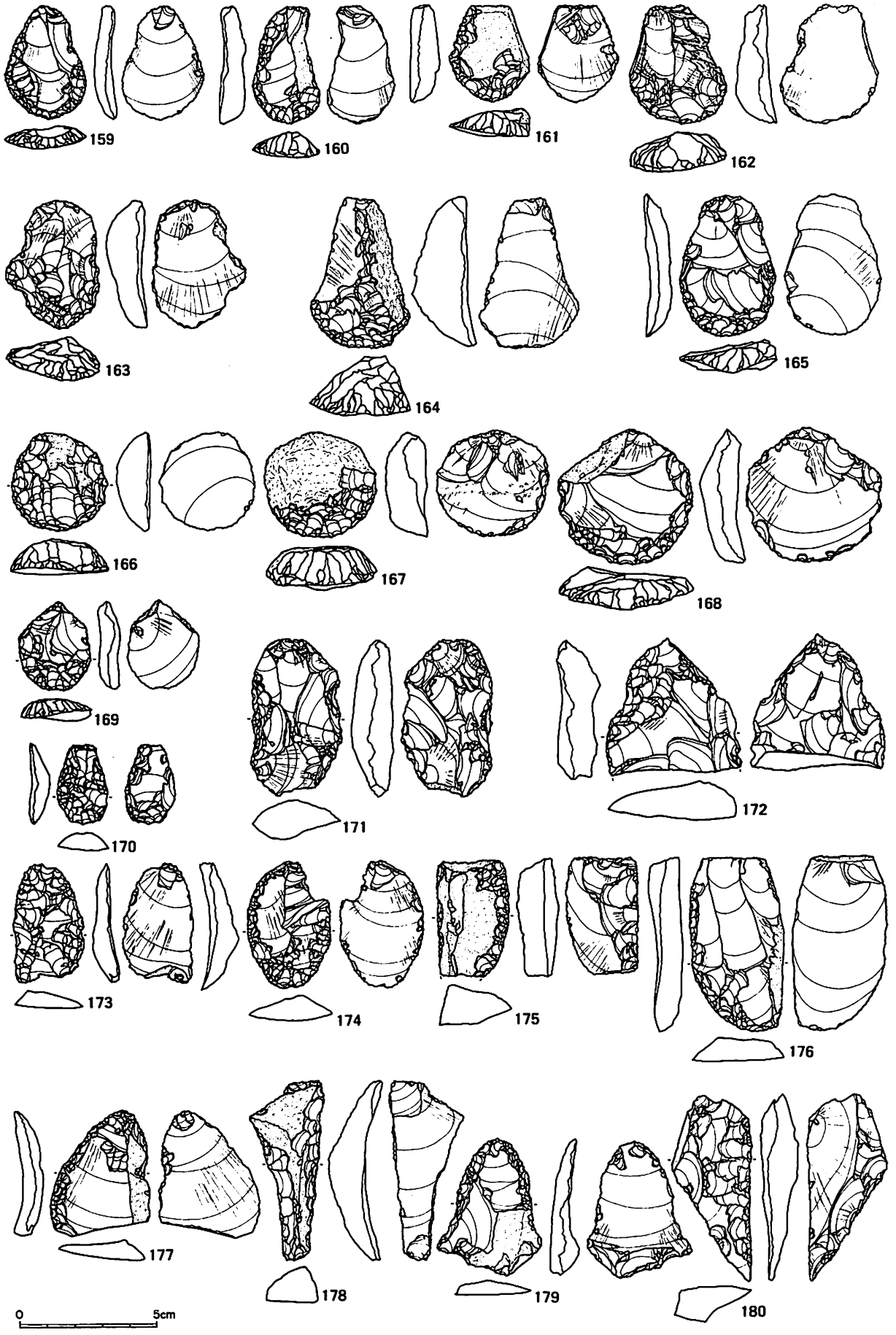
スクレイパー類(159～187)　155点出土。エンドスクレイパー（E）が30点，I類が10点，



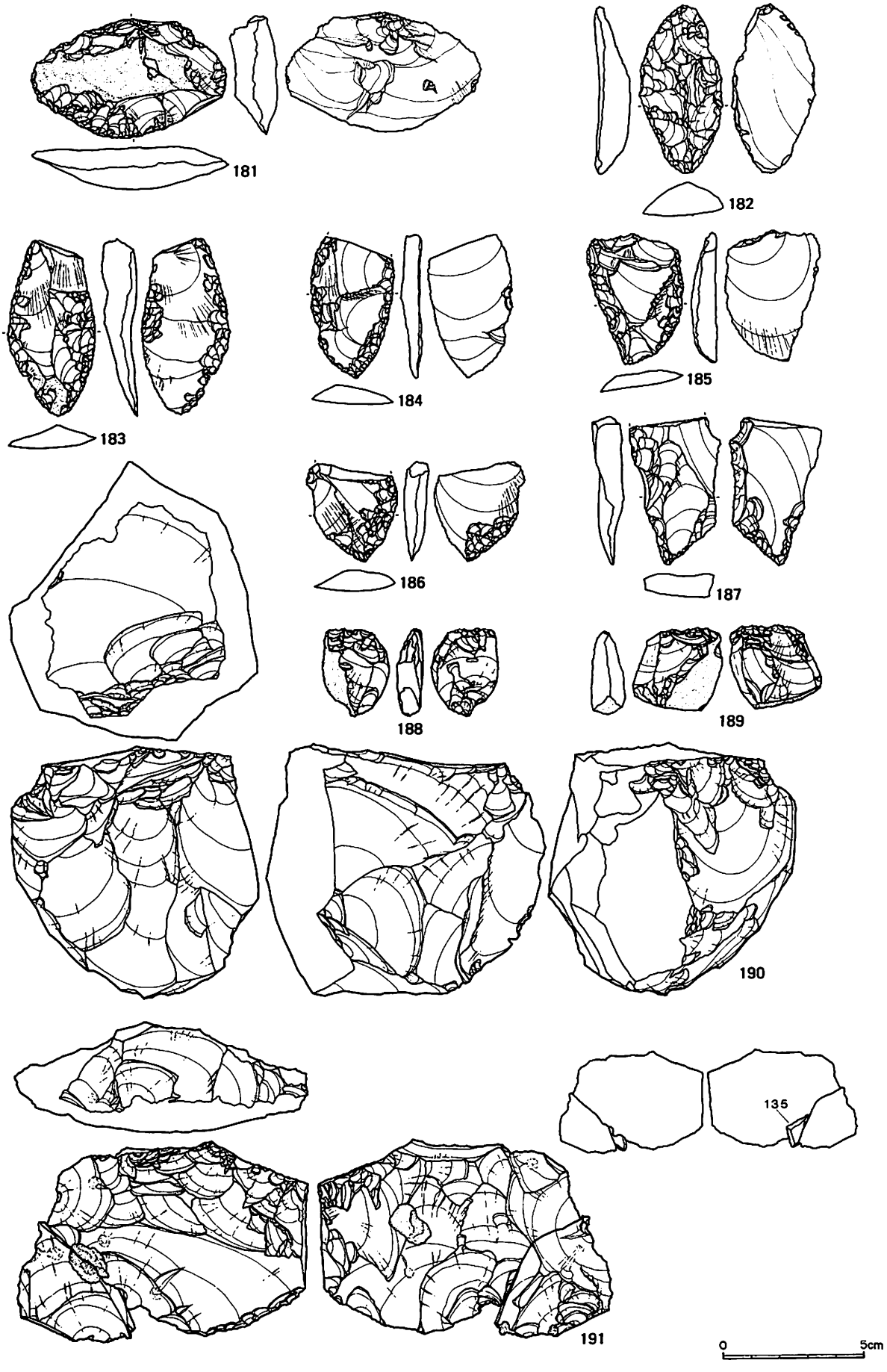
図Ⅲ－115　FH－16 遺物（5）



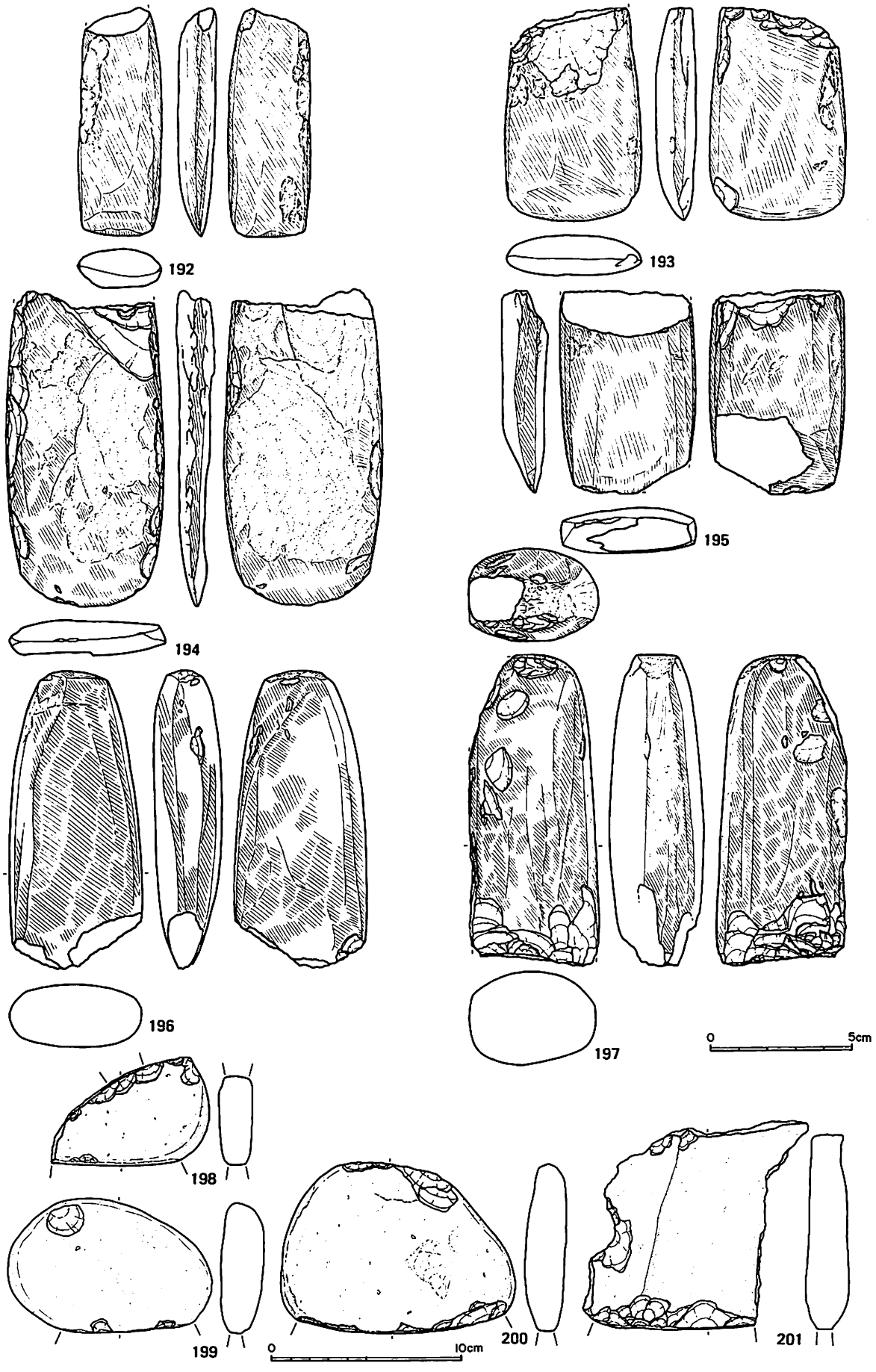
図Ⅲ—116　FH—16 遺物(6)



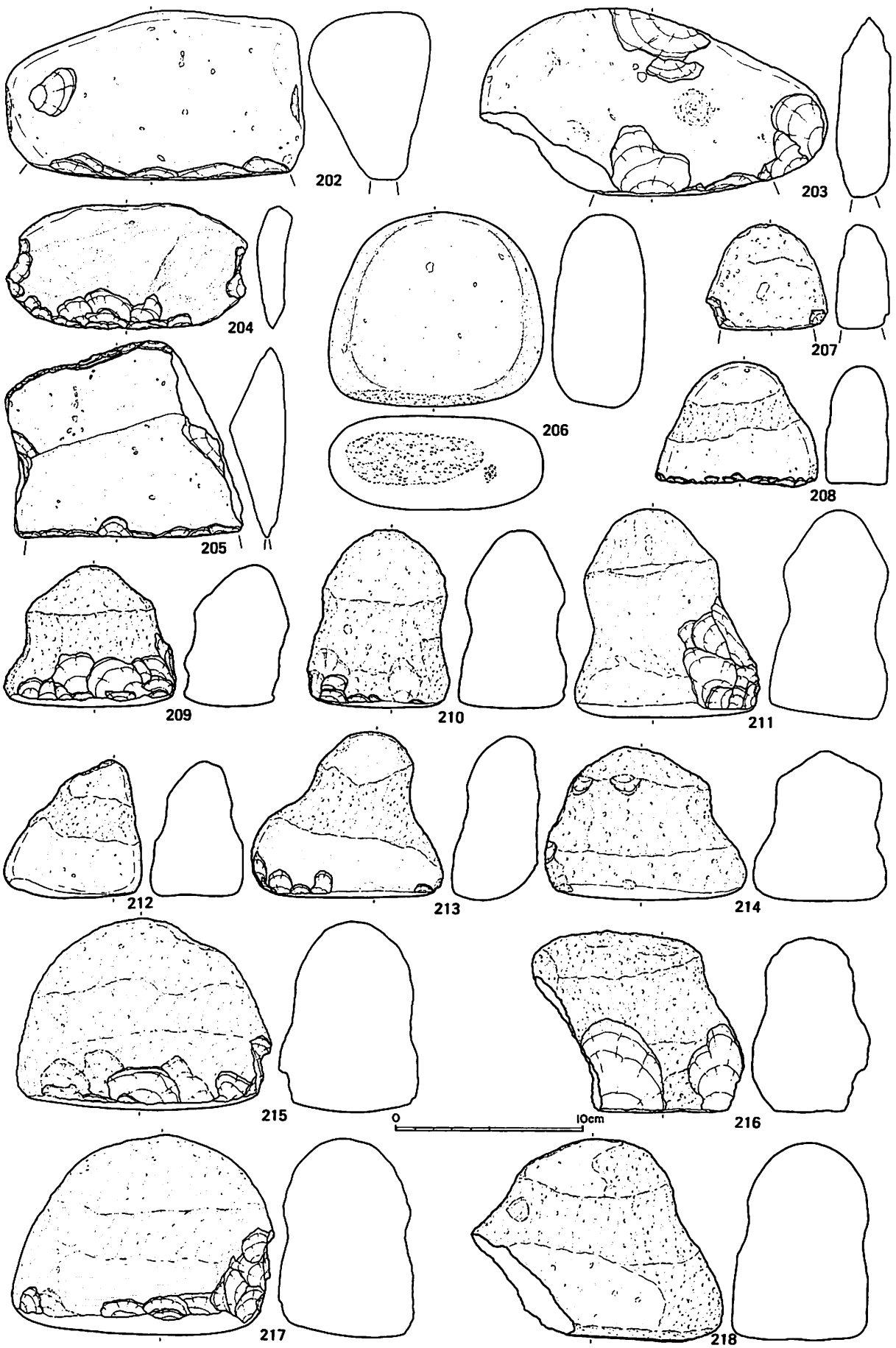
図III—117　FH—16 遺物(7)



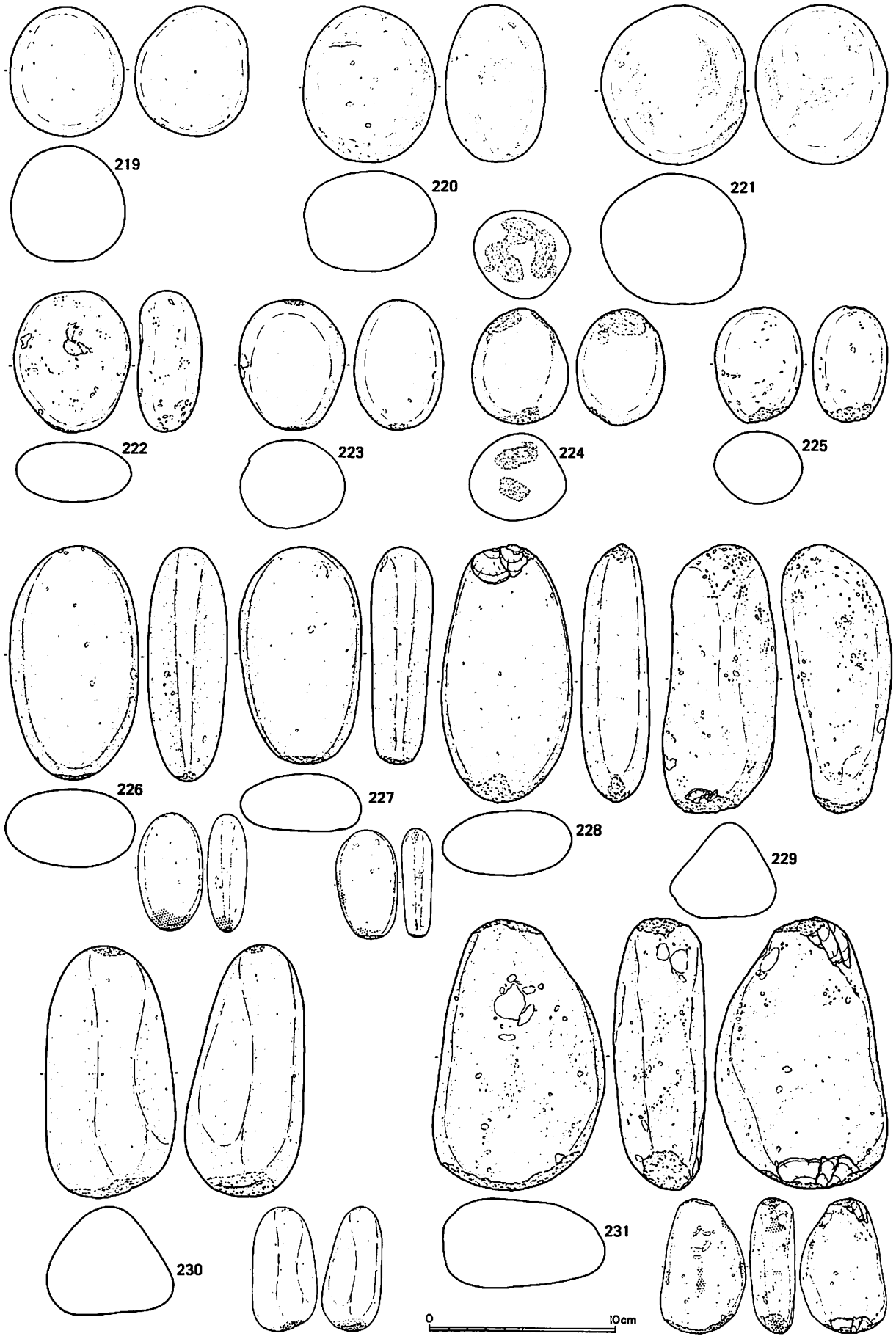
図Ⅲ—118　FH—16 遺物(8)



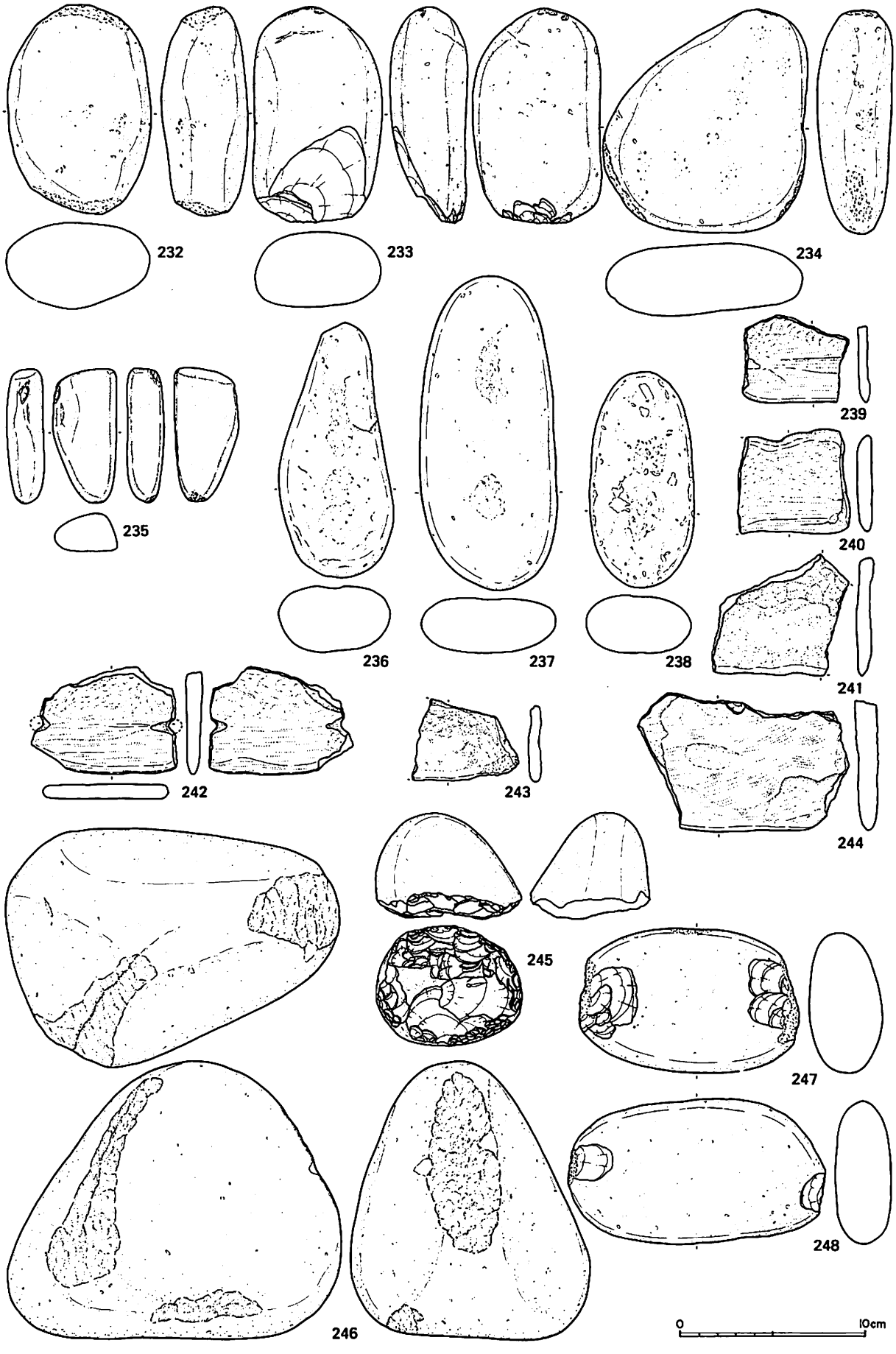
図Ⅲ—119　FH—16 遺物(9)



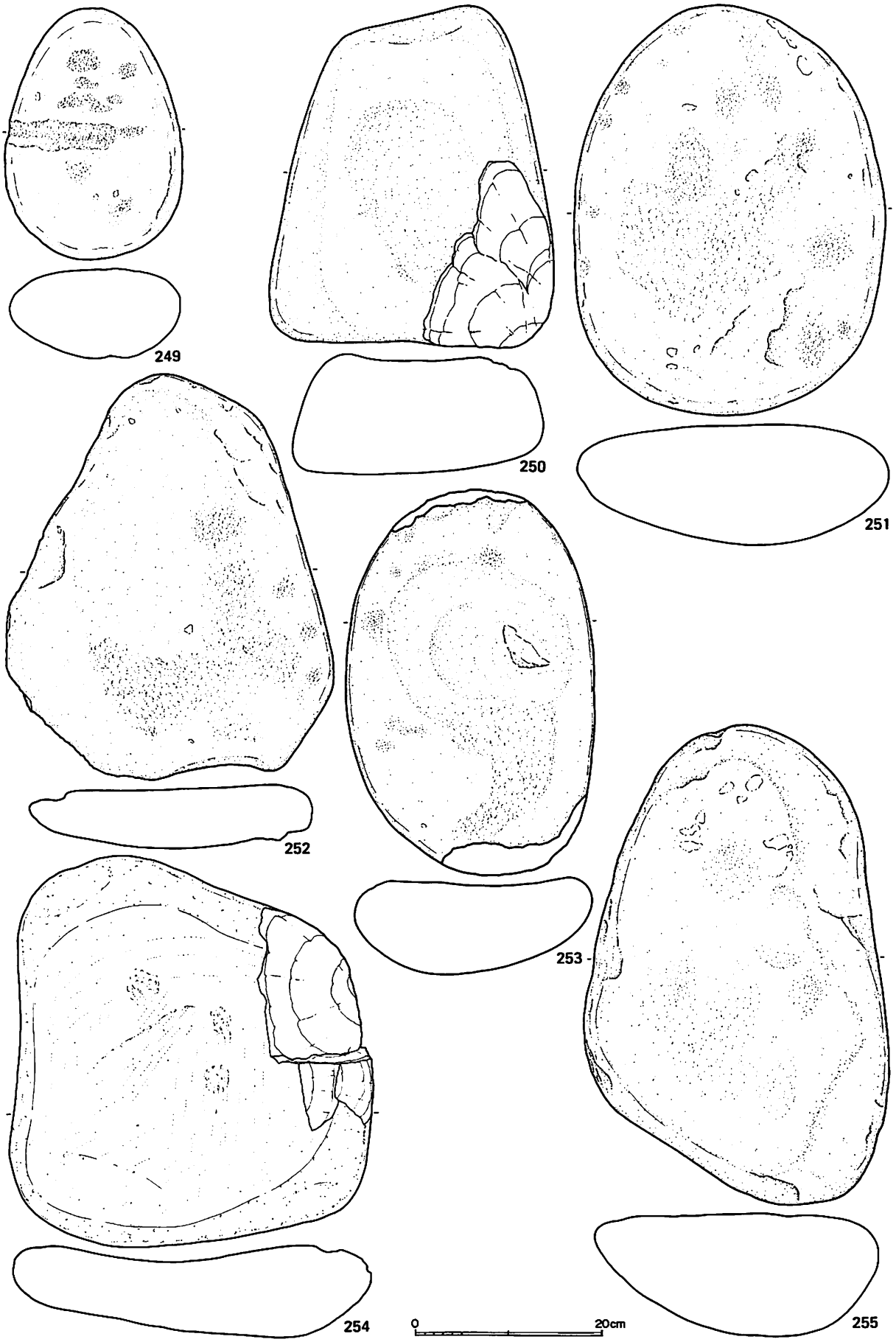
図Ⅲ—120　FH—16 遺物(10)



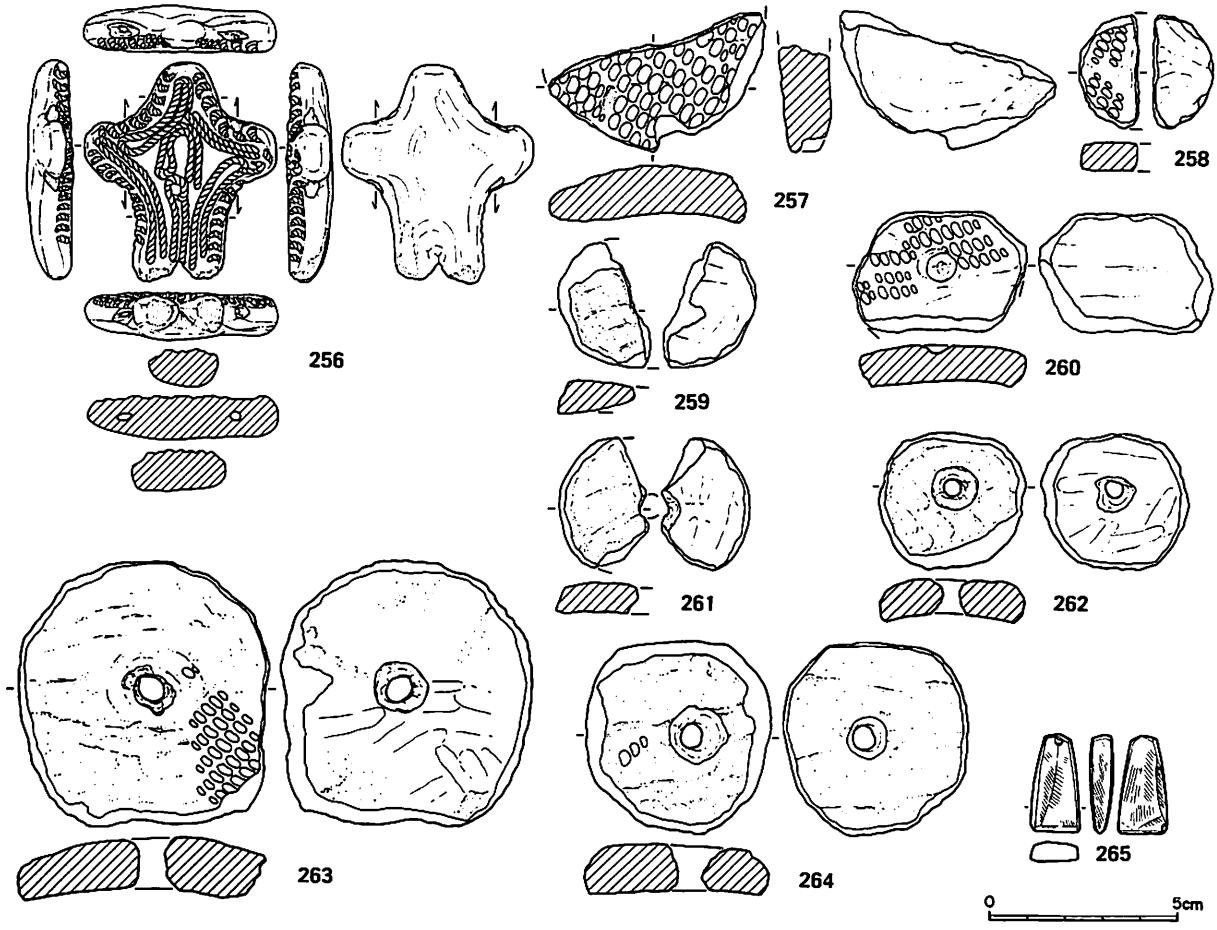
図III－121　FH－16 遺物(11)



図Ⅲ—122　FH—16 遺物(12)



図Ⅲ—123　FH—16 遺物(13)



図Ⅲ－124　FH－16 遺物(14)

II類が 7 点，III類が89点，IV類が 9 点，VI類が10点である。159～169はEII 類，170はEI 類，171・172はI 類，173はIIa 類，174～179はIIIa 類，180・181はIIIb 類，182～187はIV類。これらのうち179・180は両面加工石器の調整剝片（ポイントフレイク）を素材としている。

楔形石器(188・189)　3 点出土しており，石材はいずれも黒曜石である。

石核(190・191)　107点出土。191から生産された剝片が石錐（135）の素材となっている。図示した 2 点の石材はいずれも頁岩である。

石斧(192～197)　14点出土。I 類が 5 点，II類が 8 点，III類が 1 点である。192はIIb_2，193～195はIIa_2，196はI－，197はIII－。

すり石(198～206)　64点出土。198は一側のほかに破損面にも使用痕が認められる。206の一側に潰打痕があるが，形状からすり石の前段階と考えられる。

北海道式石冠(207～218)　26点出土。208・212は未使用。211・215・217は脂肪酸分析の試料である（第IV章 3 (3)参照)。

球石(219～221)　6 点出土。すり石もしくはたたき石としての機能が考えられる。

たたき石　(222～235)　132点出土。226・227・230・231には赤色顔料の付着が認められる。235はリタッチャーか。石材は緑色泥岩である。

くぼみ石(236～238)　20点出土。図示したものはいずれも浅いくぼみがある。

石錐(239～244)　12点出土。239～242は断面V字形，243・244はU字形を呈する。242は有孔のもので，二カ所の穿孔部から破損している。

二次加工ある礫(245・246)　8点出土。245は石核かたたき石もしくはすり石の前段階のものと考えられる。石材鑑定試料で，斜長石斑岩である。246は礫の周縁に敲打痕が認められる。

石錘(247・248)　図示した2点出土。2点とも長軸の両端に打欠きと敲打痕が施されているが，未使用のすり石の可能性もある。

石皿・台石(249～255)　69点出土。249の中央には溝があり，北海道式石冠製作途中のものか。

土・石製品　256は完形の土偶，257～259は無孔，260は穿孔途中，261～264は有孔の再生土製円盤，265は砂岩製の小型石斧である。

時期　縄文時代前期末～中期初頭，II群B2類土器の時期と考えられる。HP—3から採取した炭化物で^{14}C測定法による年代測定を行ったところ4,070±30 y. B. P.（KSU—2080）という年代が得られた。

FH—17（図III—125・127，図版39）

平面形　—　　**規模**　(3.46)×(1.48)／(3.40)×(1.40)／0.08m

面積　(2.25)m²　　**重複**　FH—19，FP—117より古い

特徴　北側の大部分がFH—19で壊されているので全体の状況は不明である。残存している南側の床面は平坦で，壁面はわずかしか確認できなかった。小ピットは3カ所（HP—1～3），いずれも10cm以下のものである。焼土はなく，覆土は暗褐色土の1層のみである。

遺物　出土遺物総数は291点，その内訳は土器53点，石器類4点，コア・フレイク107点，礫類127点，土器はII群B類が主体，石器は石鏃，たたき石，石皿・台石の3種類のみである。遺物は床面から散発的に出土している。

土器　II群B類土器（1・2）

1・2は体部破片で，1は結束斜行縄文，2は斜行縄文である。いずれも胎土は繊維が少なく，砂粒が多い。

石器　3は唯一の剝片石器で，有茎凸基の石鏃。4・5はたたき石。6は石皿・台石。

時期　縄文時代前期末～中期初頭，II群B類土器の時期である。

FH—18（図III—126・127，図版39）

平面形　不整形　　**規模**　2.90×2.67／2.70×2.53／0.20m　　**面積**　5.79m²

重複　FH—21・FP—116・120・121より新しい。

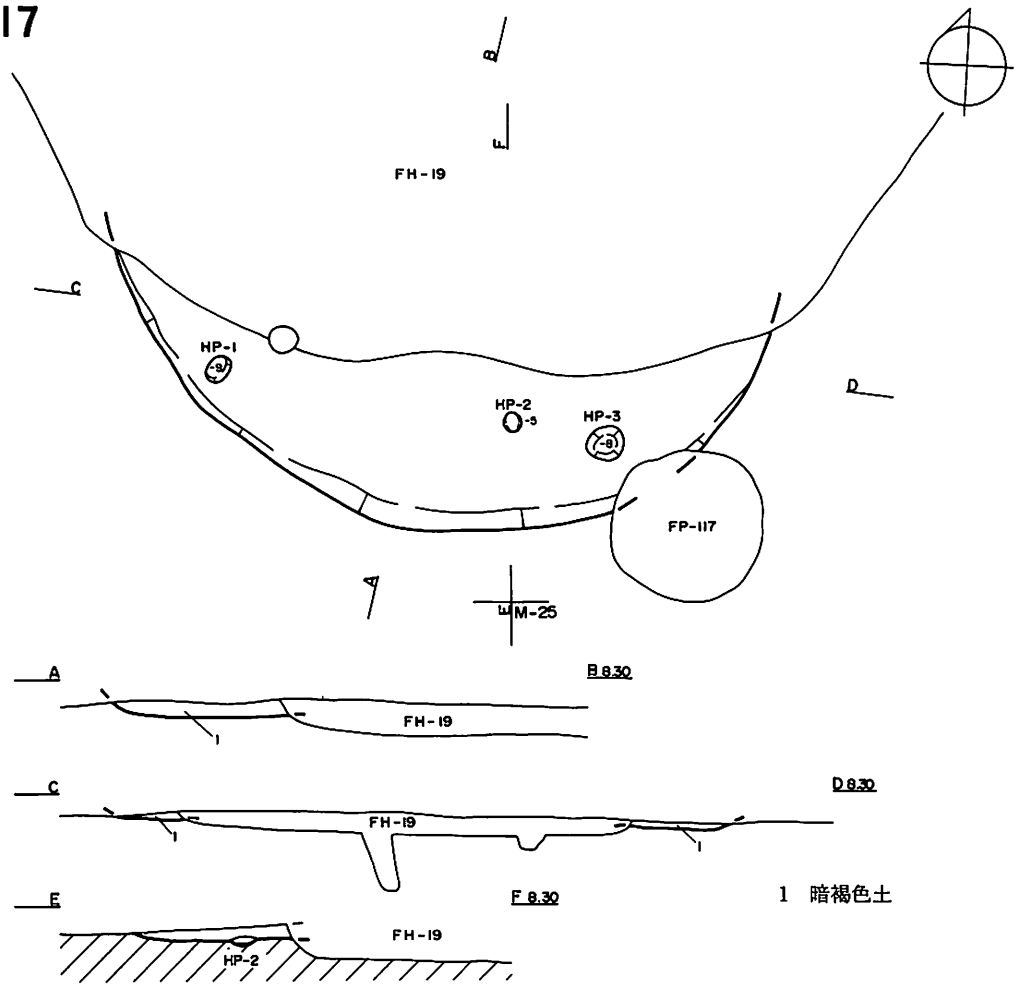
特徴　床面は平坦で，壁面は急角度で立ち上がる。小ピットは13カ所(HP—1～13)，すべて小型で断面は楔形，深さは15～29cmと比較的そろっている。すべて柱穴と考えられる。焼土は1カ所(HF—1)，床面中央北側に寄っている。覆土は七層，褐色粘質土の4層が大半を占める。

遺物　出土遺物総数は992点，その内訳は土器157点，石器類18点，コア・フレイク類378点，礫類439点，土器はII群B類が主体，石器はたたき石（6点），砥石（4点）が多い。遺物は覆土全域で確認されているが，5～6カ所のまとまりがみられる。

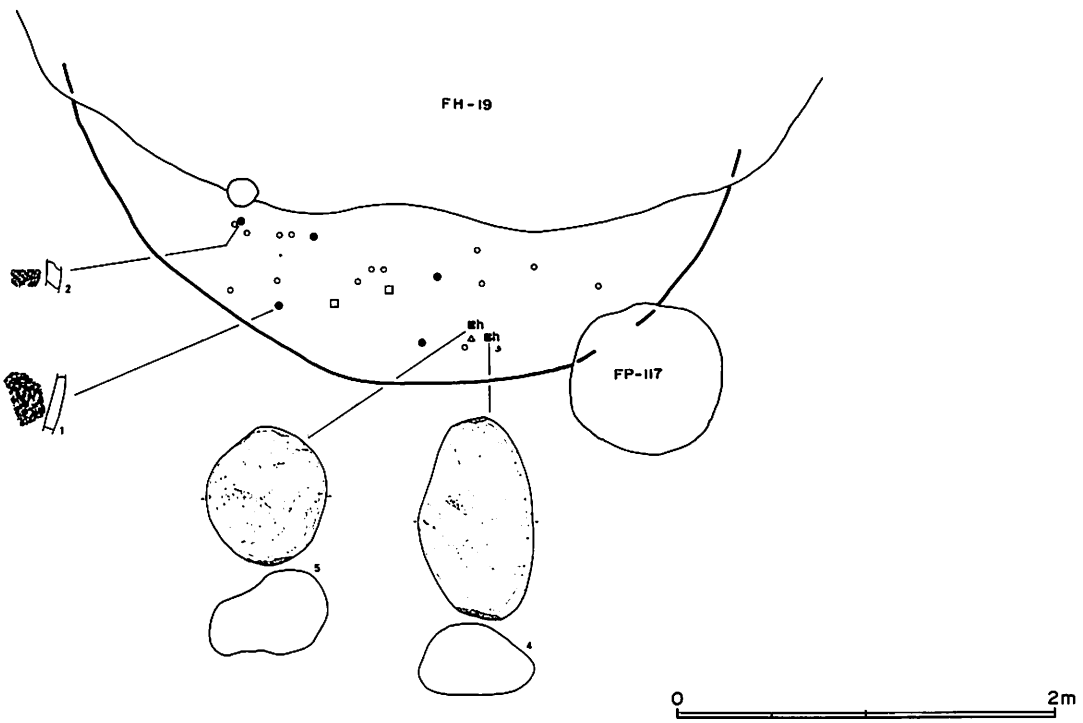
土器　II群B2a類（7），II群B類（8・9），III群B3類（10）

7は底部破片で，体部に多軸絡条体回転文が施されている。8・9は切り出し状の口唇断

FH-17

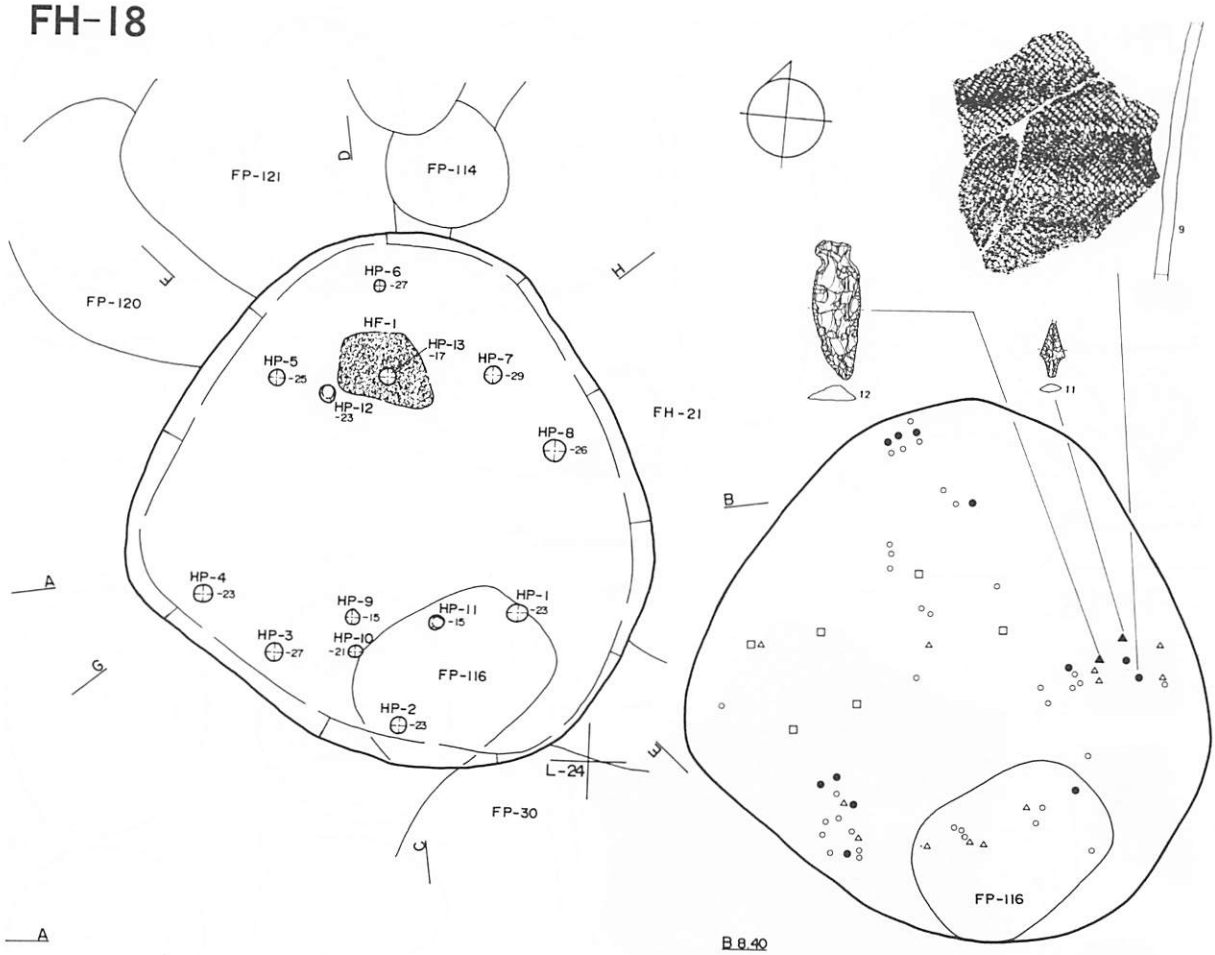


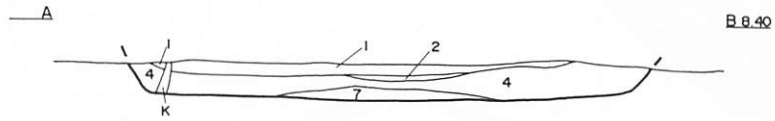
床面

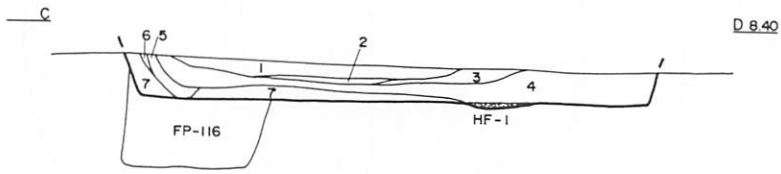


図Ⅲ—125 FH—17

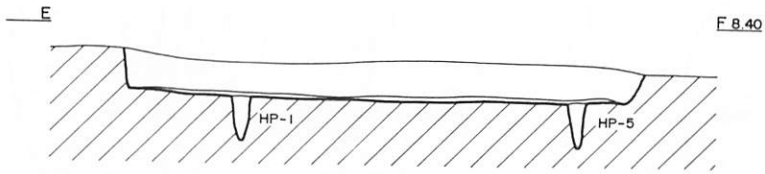
FH-18

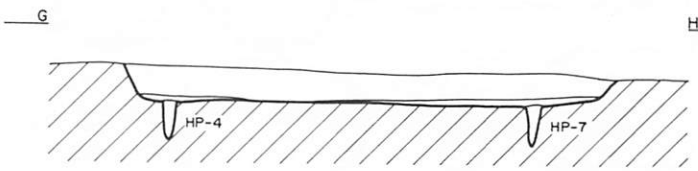






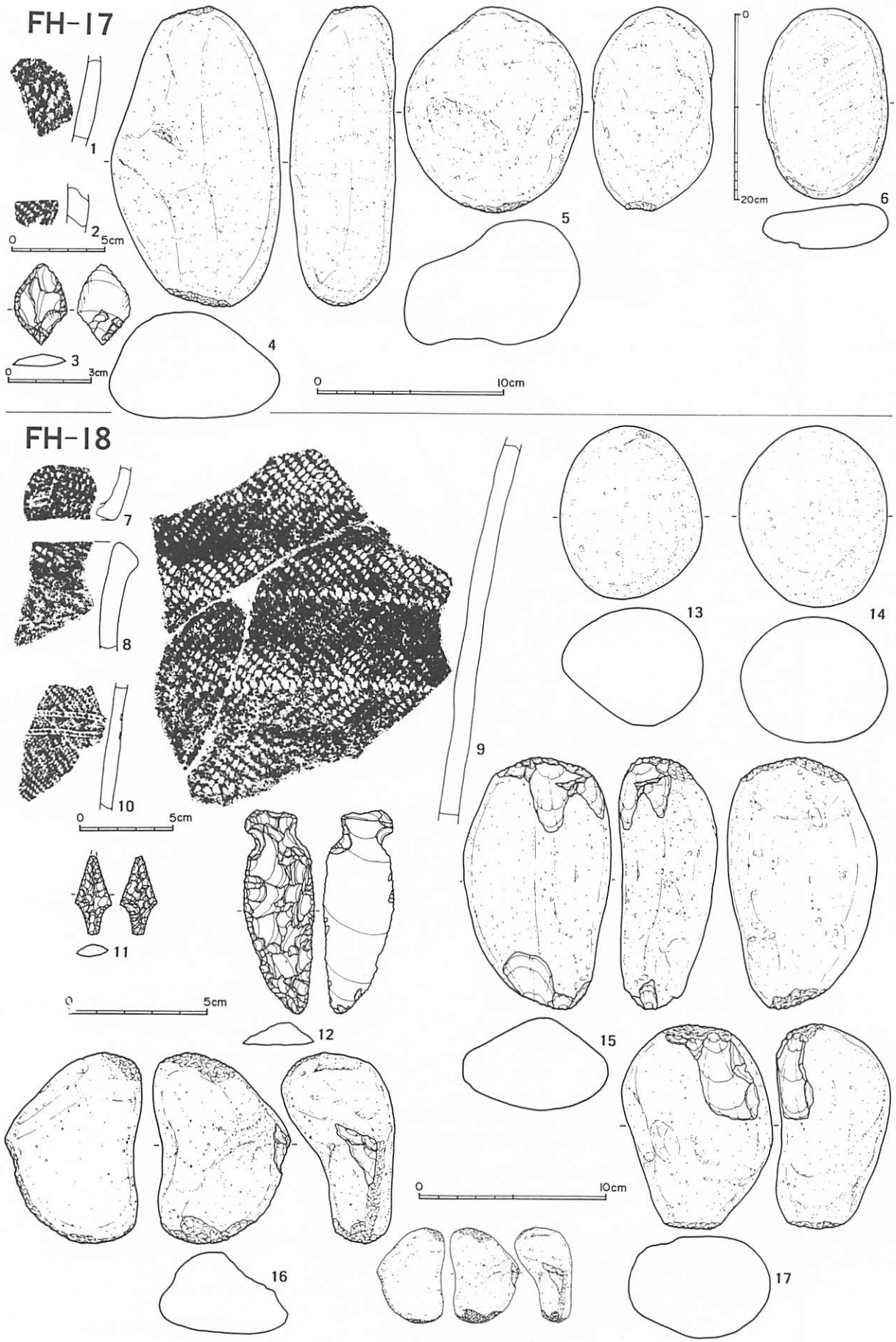
1　暗褐色土
2　暗黄褐色土（黄褐色土粒を含む）
3　暗褐色土
4　褐色土（粘質）
5　黒褐色土（粘質）
6　暗褐色土
7　黄褐色土





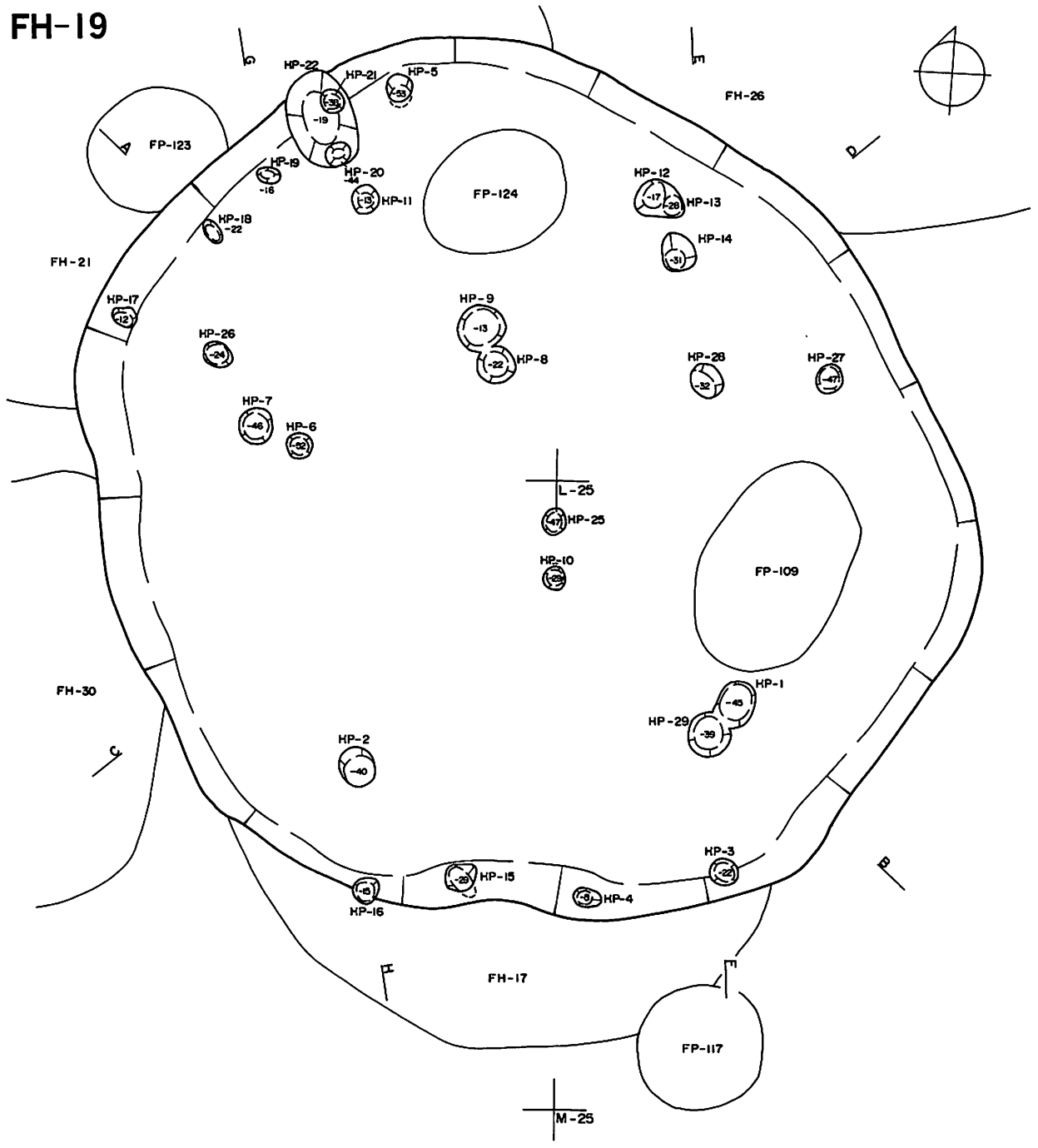


図Ⅲ—126　FH—18

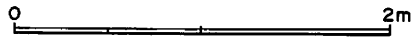


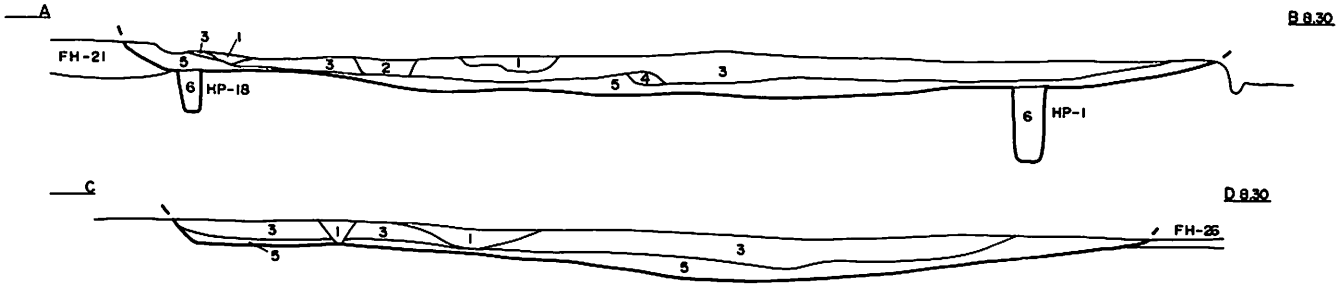
図Ⅲ—127　FH—17・18 遺物

FH-19



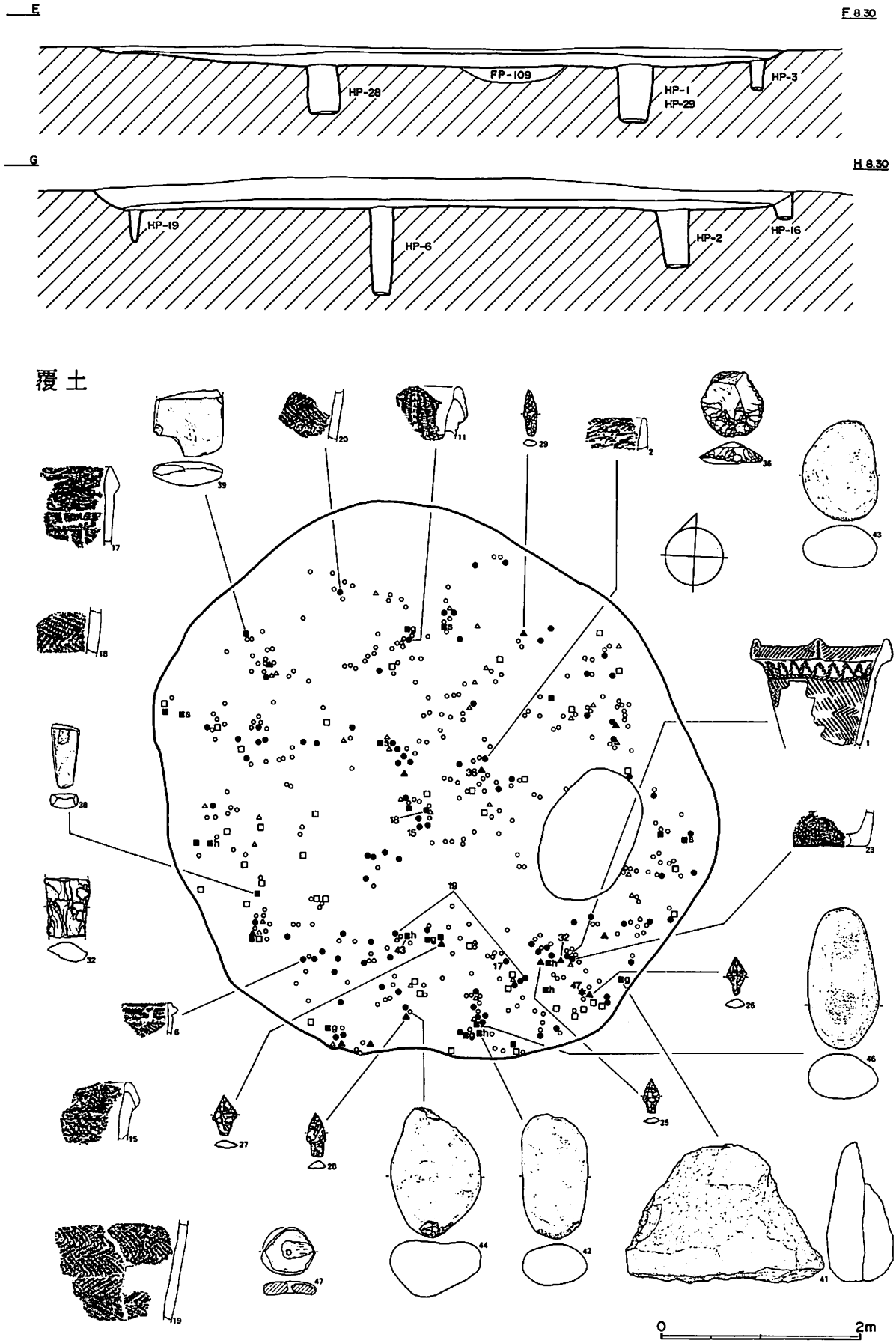
1　黒色土（粒子細かい）
2　暗褐色土
3　暗褐色土（粒子細かい）
4　黒色土（木根？）
5　暗黄褐色土
6　暗褐色土



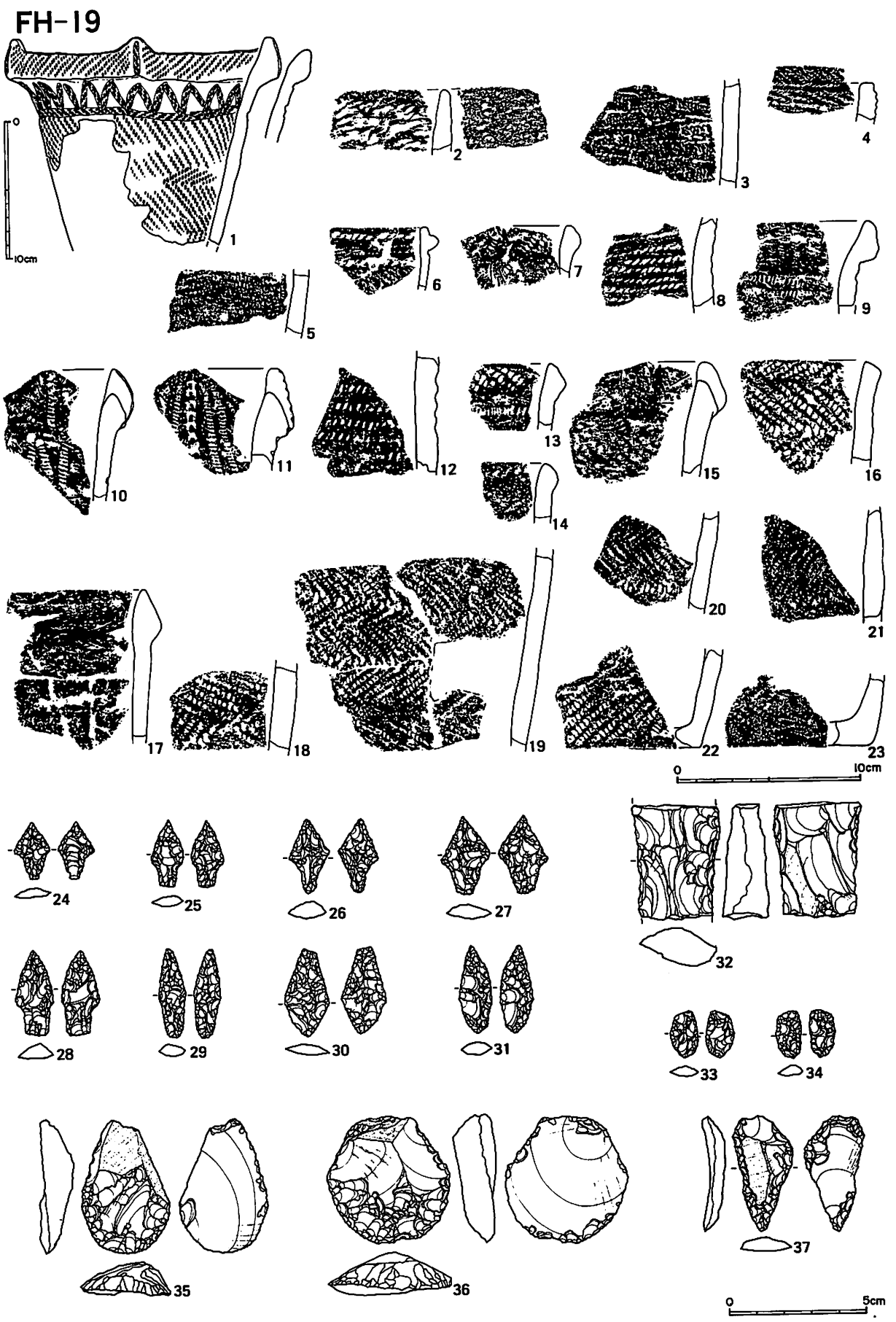


図Ⅲ—128　FH—19(1)

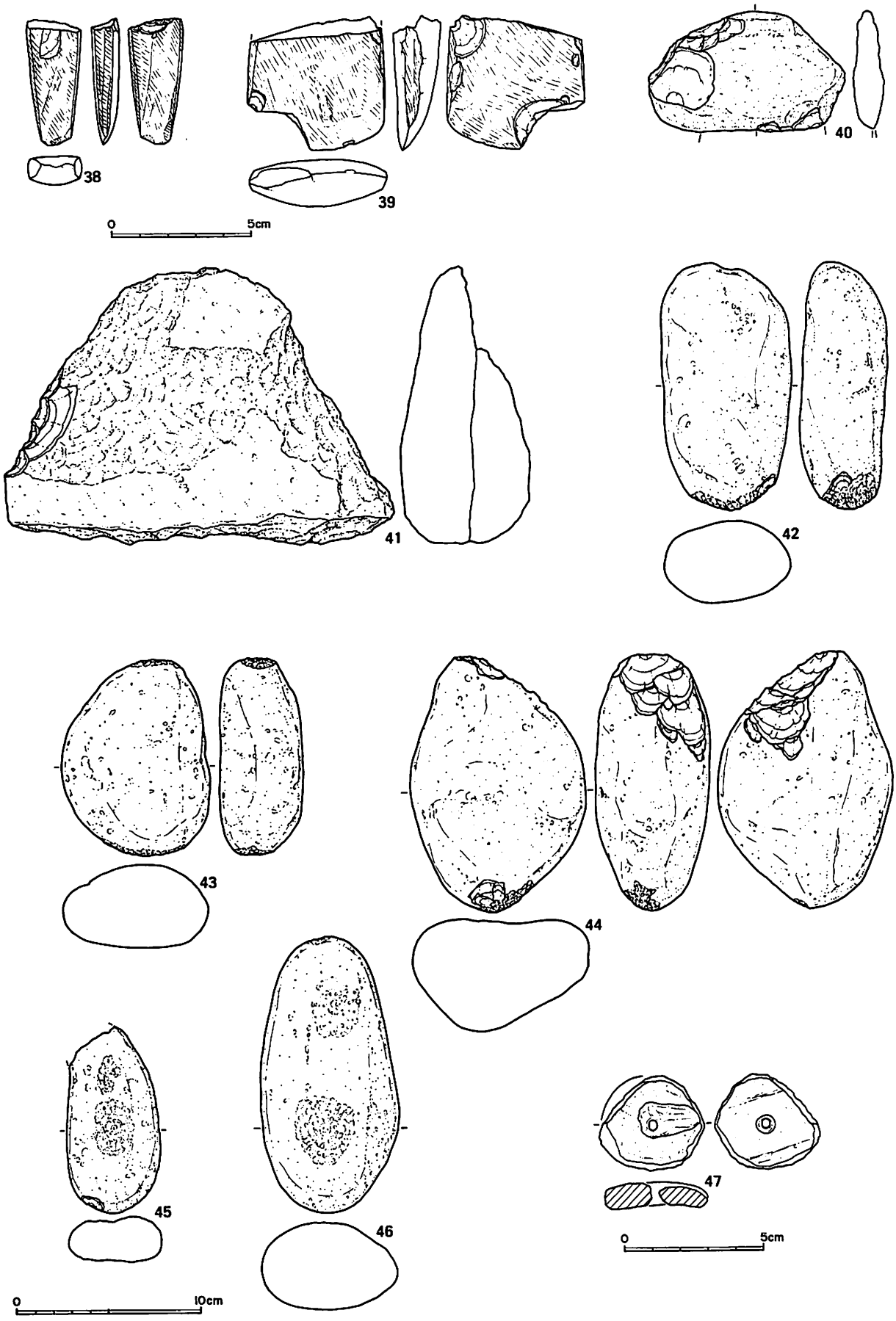
FH-19



図Ⅲ—129　FH—19(2)



図Ⅲ—130　FH—19 遺物（1）



図Ⅲ—131　FH—19 遺物(2)

面で，体部には結束羽状縄文が施されている。10は斜行縄文上に半截竹管状工具で押引文が加えられている。

石器　11は有茎凸基の石鏃。12は縦形片面加工のつまみ付きナイフ。13・14は球石。15～17はたたき石で，16には赤色顔料の付着が認められる。

時期　縄文時代前期末～中期初頭，II群B類土器の時期と考えられる。

FH—19（図III—128～131，図版40）

平面形　不整形　　**規模**　5.84×5.26／5.36×4.92／0.25m　　**面積**　24.21m²

重複　FP—109より古く，FH—17・21・30，FP—124より新しい。

特徴　床面は凹凸があり，全体に皿状に凹んでいる。壁面の傾斜は比較的緩やかで，東側は床面との境が明瞭でない。小ピットは27カ所（HP—1～22・25～29），位置や深さなどから主柱は4ないし5本（HP—1・2・5・7・27または28）と考えられる。焼土は確認されず，覆土は六層に分けたが，暗褐色土（3層）と暗黄褐色土（5層）が主体である。

遺物　出土遺物総数は2,367点，その内訳は土器522点，石器類75点，コア・フレイク類758点，礫類1,011点，土器はII群B2類が主体，石器は石鏃（19点），スクレイパー（14点），砥石（14点）が多い。遺物は覆土全域から出土しているが，北側より南側の方が濃密に分布している。

土器　II群B1類（2），II群B2a類（1・3～5），II群B2b類（6～8），II群B2c類（9～13），II群B類（14～23）

2は尖った口唇断面で，表裏に不規則な綾絡文状の縄文が施されている。3は粗雑な単軸絡条体回転文である。II群B1類に含まれるものかも知れない。4は単軸絡条体回転文，5は多軸絡条体回転文である。1は切り出し状の口唇断面で，突起部に垂下する縄線文が，無文地の口頸部には鋸歯状の縄線文が施されている。体部は不規則な結束羽状である。6の口唇部には貼付けによる肥厚帯をもつ。口唇部・口唇部直下に縄線文が施されている。体部は斜行縄文である。7は口頸部に無文地に鋸歯状の縄線文が施されている。11は口縁部突起で，垂下する絡条体圧痕文と半截竹管状工具で押引文が加えられている。

石器　24～31は石鏃で，24～29は有茎凸基，30は菱形，31は木葉形尖基。32はポイントの身部。33・34は小型の両面加工のスクレイパー。35・36はエンドスクレイパー。37は尖頭部を有するスクレイパー。38・39は石斧で，前者はのみ形のもの。40・41はすり石で，後者は石皿・台石を利用した北海道式石冠の未成品である。42～44はたたき石。45・46はくぼみ石。

土製品　47は再製土製円盤，一部欠損し，表面も摩耗している。

時期　縄文時代前期末～中期初頭，II群B2類土器の時期である。

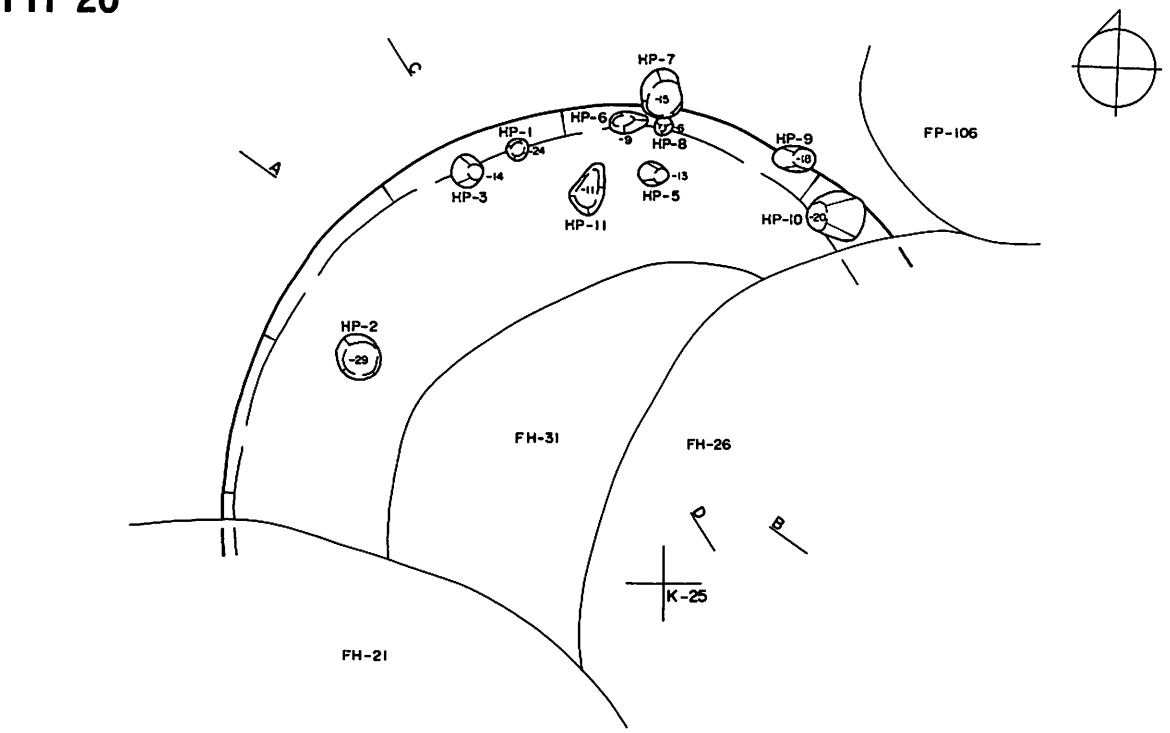
FH—20（図III—132・133，図版41）

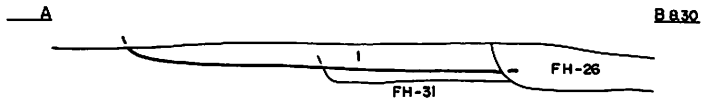
平面形　—　　**規模**　(3.85)×(2.74)／(3.50)×(2.63)／0.14m

面積　(5.37)m²　　**重複**　FH—21・26・31より古い。

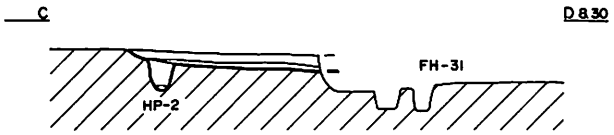
特徴　南東側の大部分がFH—21・26・31に壊されている。残存している北西側の床面は平坦，壁面の傾斜も緩やかで，床面で壁面の境は不明瞭である。小ピットは10カ所（HP—1～3，5～11），すべて柱穴とみられ，深さ29cmのHP—2は主柱の一部の可能性が強い。

FH-20

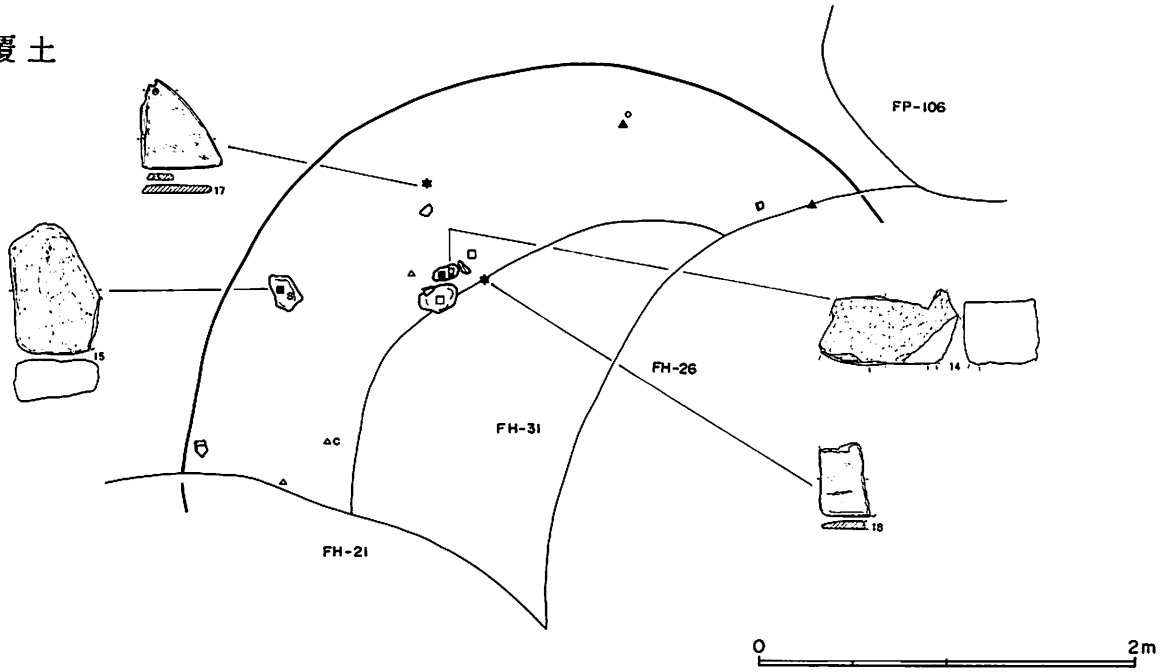




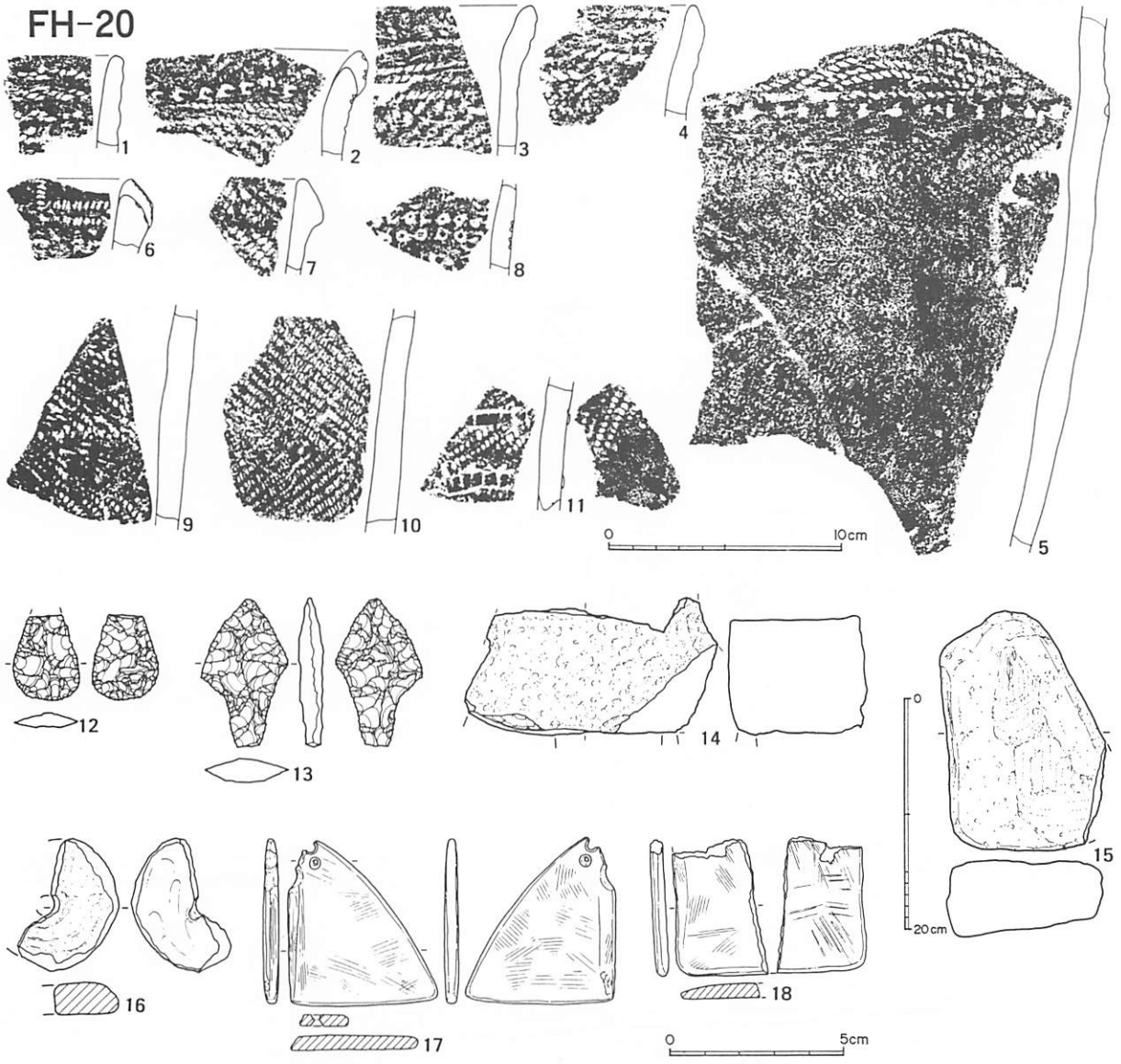
1　暗黄褐色土

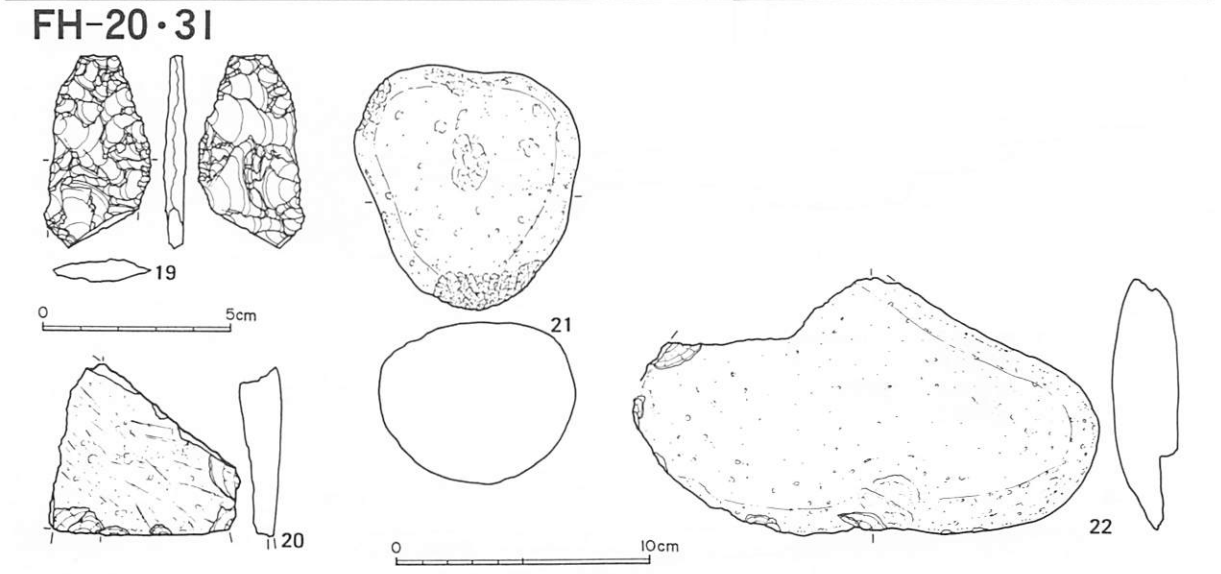


覆土



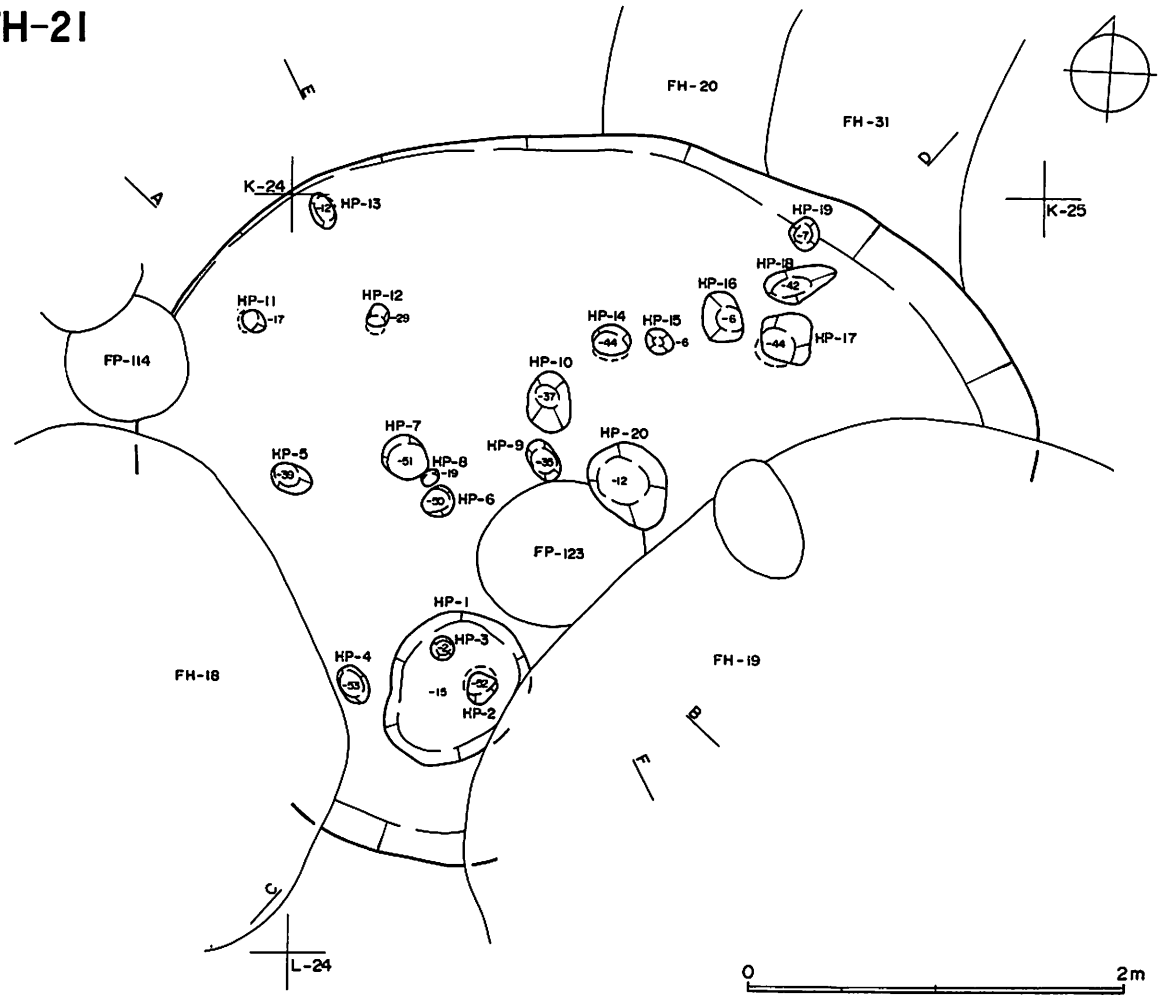
図Ⅲ—132　FH—20

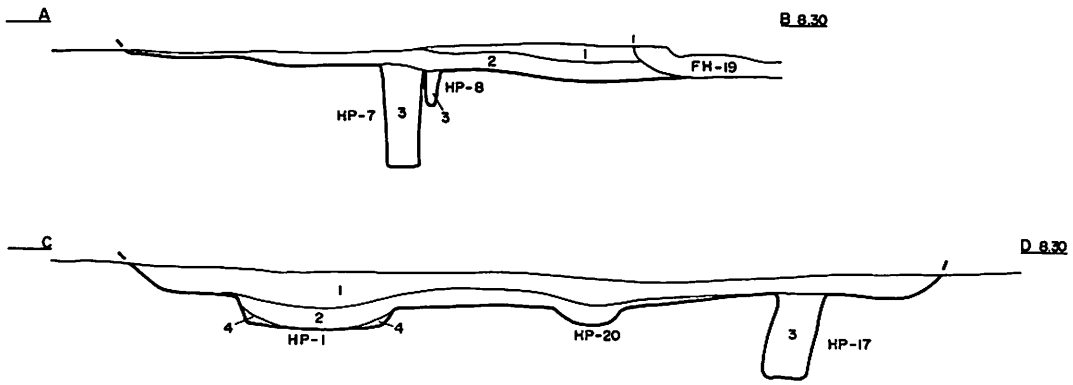




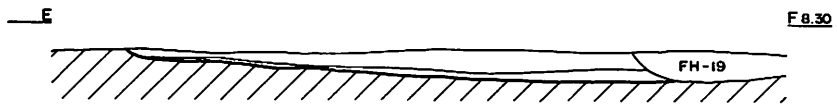
図III—133　FH—20・31 遺物

FH-21



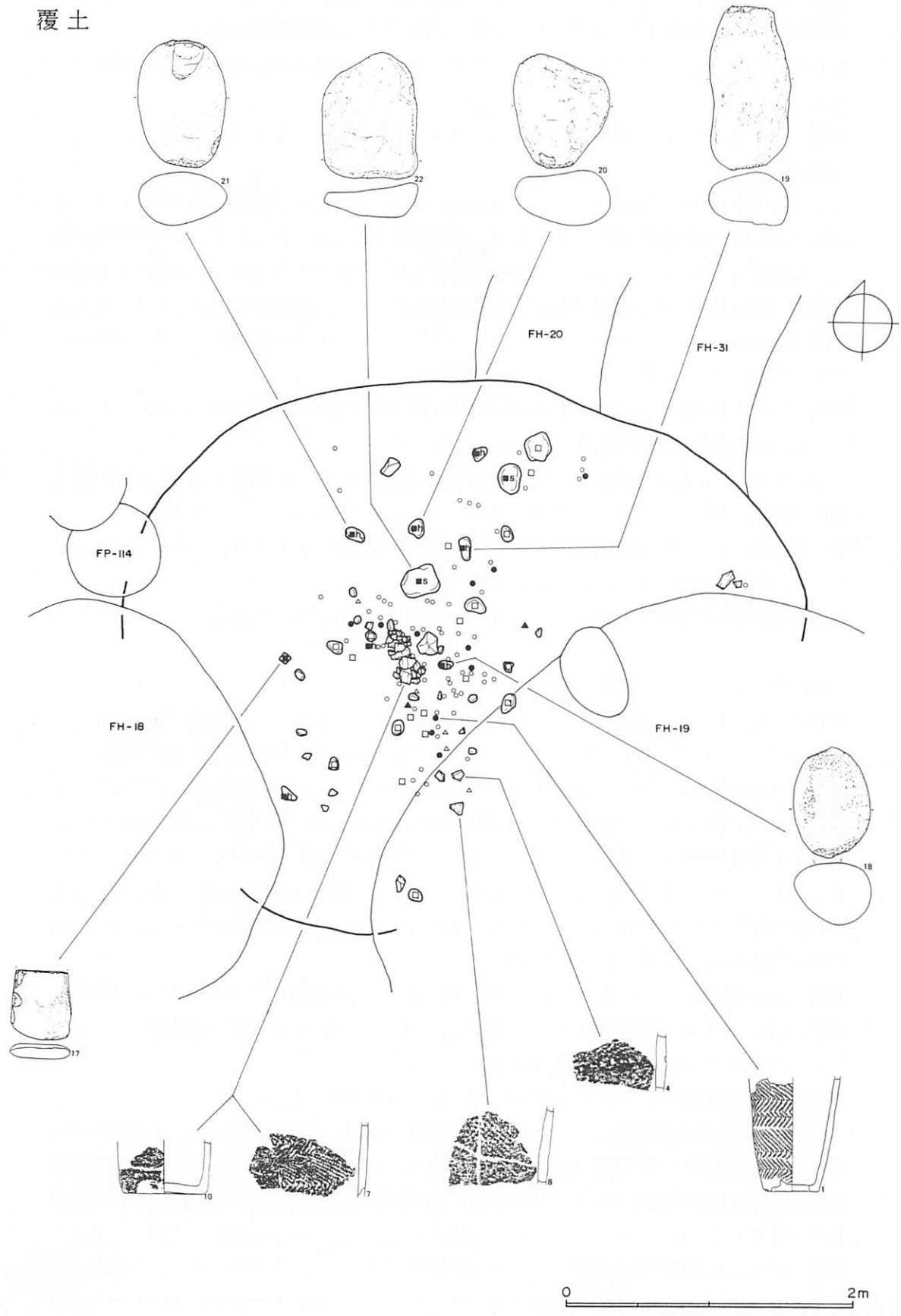


1 暗黄褐色土（炭化物少量）
2 暗黄褐色土（黄色味が強い）
3 暗黄褐色土（黒味が強い）
4 黄褐色土



図Ⅲ—134 FH—21(1)

FH-21



図Ⅲ－135　FH－21(２)

他の柱穴は北側に集中している。残存している床面に焼土はみられない。

遺物　出土遺物総数は259点，その内訳は土器48点，石器類７点，コア・フレイク類104点，礫類97点，土・石製品３点，土器はII群Ｂ類が主体，石器は石鏃３点のほか，スクレイパー，北海道式石冠，砥石，石皿・台石が各１点ずつである。遺物は覆土中に散発的に確認されただけである。

土器　II群 B1類（１），II群 B2b 類（２～５），II群 B2c 類（６），II群Ｂ類（７～10），III群 B3 類（11）

１は丸味をもつ口唇断面である。口頸部に不規則な綾絡文状の縄文が施されている。２は切り出し状の口唇部下端に半截竹管状工具で刺突文が加えられている。口頸部に斜行縄文上に縄線文が施されている。５は半截竹管状工具の刺突文で区画された口頸部に弧状の縄線文が施されている。体部は結束羽状縄文である。６は口唇部は切り出し状で，絡条体圧痕文が施されている。８は円形刺突文が施されている。11は表裏縄文で，押引が施された貼付帯がある。

石器　12は木葉形円基の，13は有茎凸基の石鏃。14は北海道式石冠。15は石皿である。19～22はFH—31の遺物と分離が困難だったものである。

19はポイント。20は半円状のすり石。21は石材鑑定試料のたたき石で，石材は石英岩(珪岩）である。22は二次加工のある礫（Ｒ礫）で，その形状からすり石の未成品か。

土・石製品　16は再生土製円盤，17・18は玦状耳飾である。18は石質がやや軟質で，17と異っているが，FH—24出土の破片と近似している。

時期　縄文時代前期末～中期初頭，II群 B2 類土器の時期と考えられる。

FH—21（図III—134～136，図版42）

平面形　楕円形　　**規模**　4.70×3.75／4.20×3.50／0.18m　　**面積**　(13.54)m²

重複　FH—18・19，FP—114よりも古く，FH—20・26・31，FP—123より新しい。

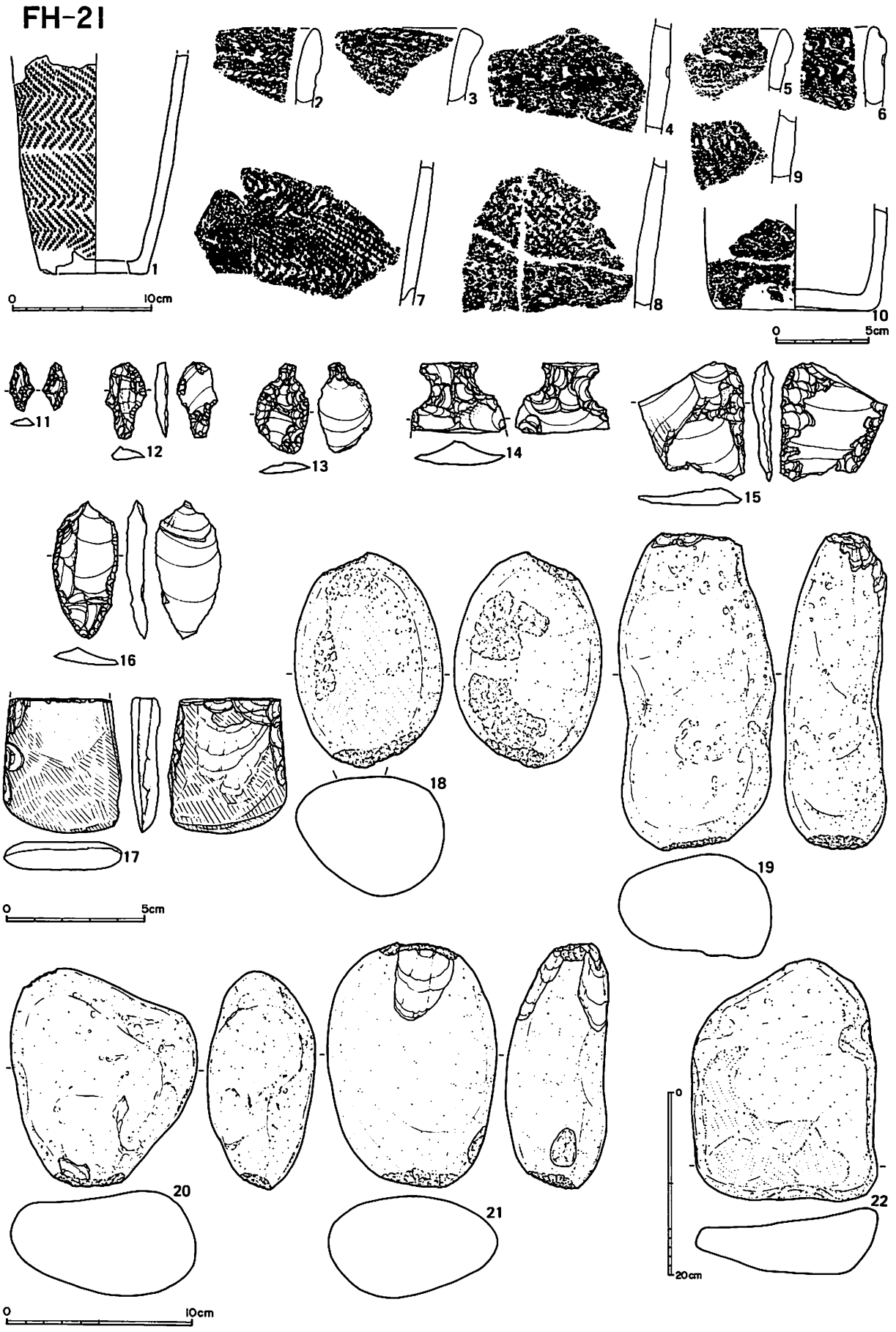
特徴　南東と南西の一部がFH—18・19によって壊されているが，ほぼ全体の状況を知ることができる。床面は凹凸があり，全体に北から南に傾斜している。壁面の傾斜は緩やかで，床面との境は明瞭でない部分もある。小ピットは20カ所（HP—1～20），大小さまざまで，浅いHP—1・20は付属施設，他は柱穴と考えられる。主柱は４本とみられ，そのうち３本は位置・深さなどからHP—4・12・17または18などが考えられる。焼土はみられず，覆土は暗黄褐色土（１・２層）が主体である。

遺物　出土遺物総数は910点，その内訳は土器191点，石器数29点，コア・フレイク377点，礫数318点，土器はII群Ｂ類が主体，石器はたたき石（８点）が目立つ。遺物はすべて覆土中からの出土で，中央部に集中して確認されている。

土器　II群 B2b 類（２～４），II群 B2c 類（5），II群Ｂ類（１・６～10）

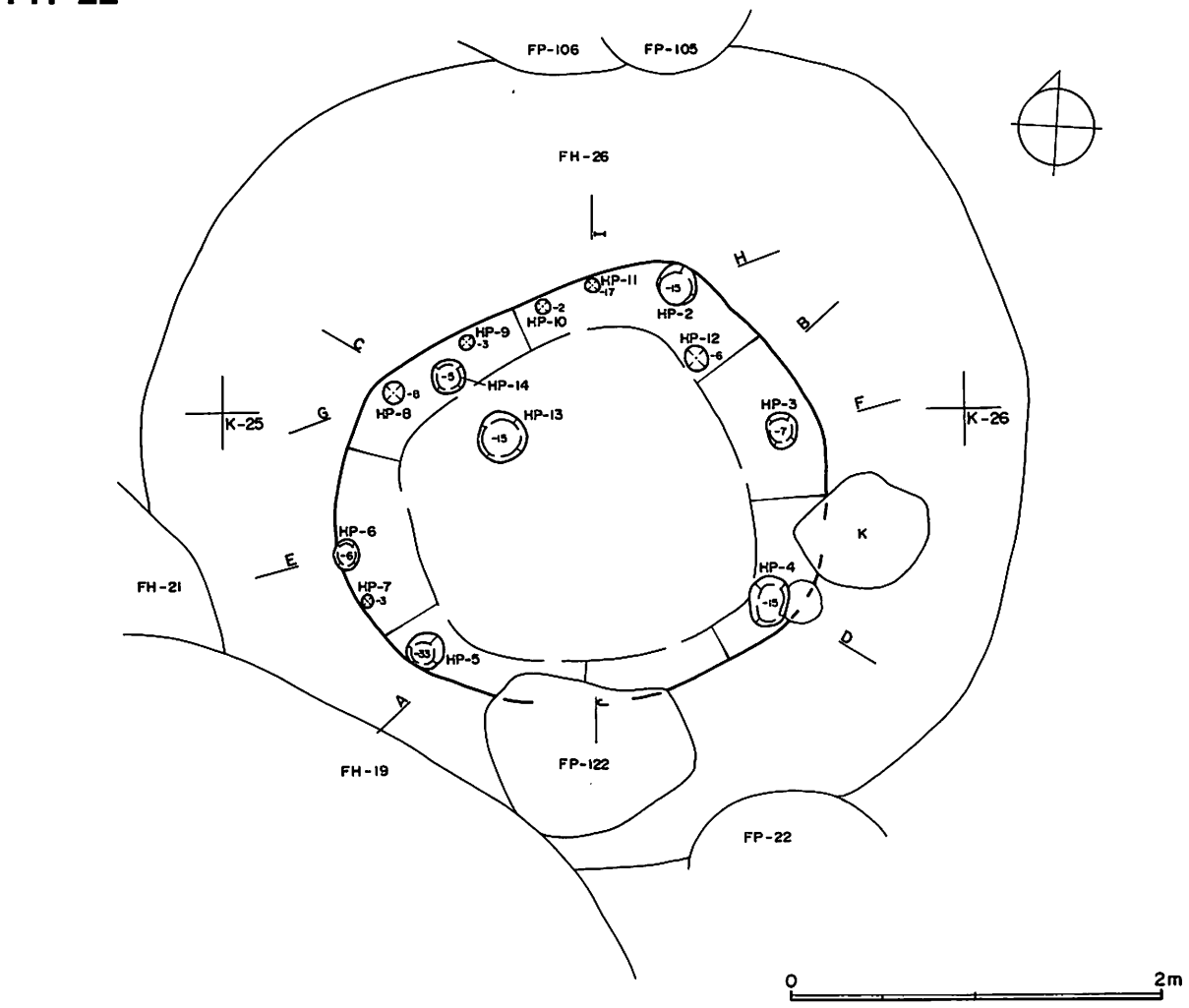
２は切り出し状の口唇断面で，口唇部・口頸部に縄線文が施されている。３は角形の口唇断面で，口唇部下端に刺突文が加えられている。４は半截竹管状工具の刺突文に区画された口頸部に弧状の縄線文が施されている。６は口唇部・口唇部直下に半截竹管状工具の刺突が施されている。体部は組紐回転文が施されている。７～９は結束羽状縄文である。

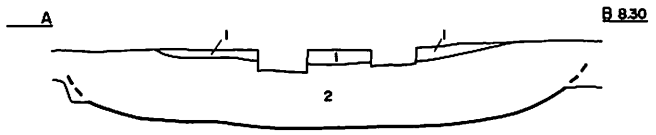
石器　11・12は有茎凸基の石鏃。13・14は縦形片面加工のつまみ付きナイフ。15は直線状の刃部を、16は尖頭部をもつ周辺加工のスクレイパー。17は斜刃の石斧。18～21はたたき



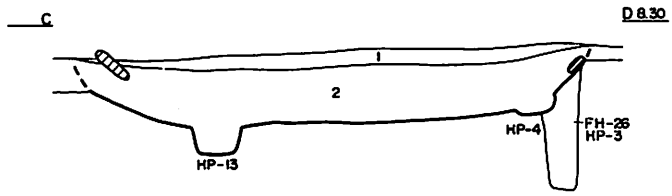
図Ⅲ－136　FH－21 遺物

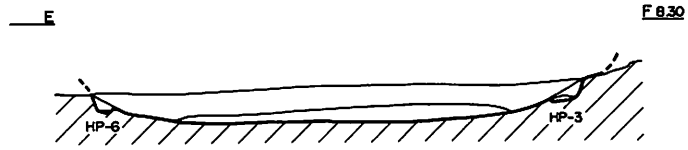
FH-22

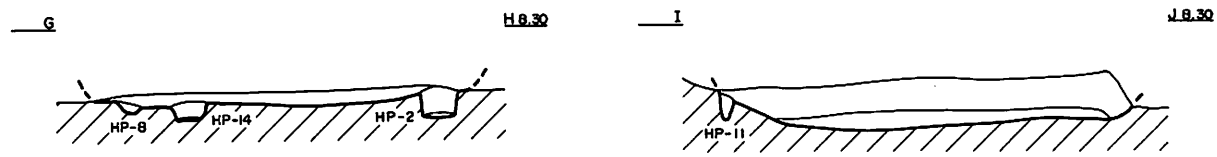




1 黒色土
2 暗褐色土（黄褐色土ブロックを含む）

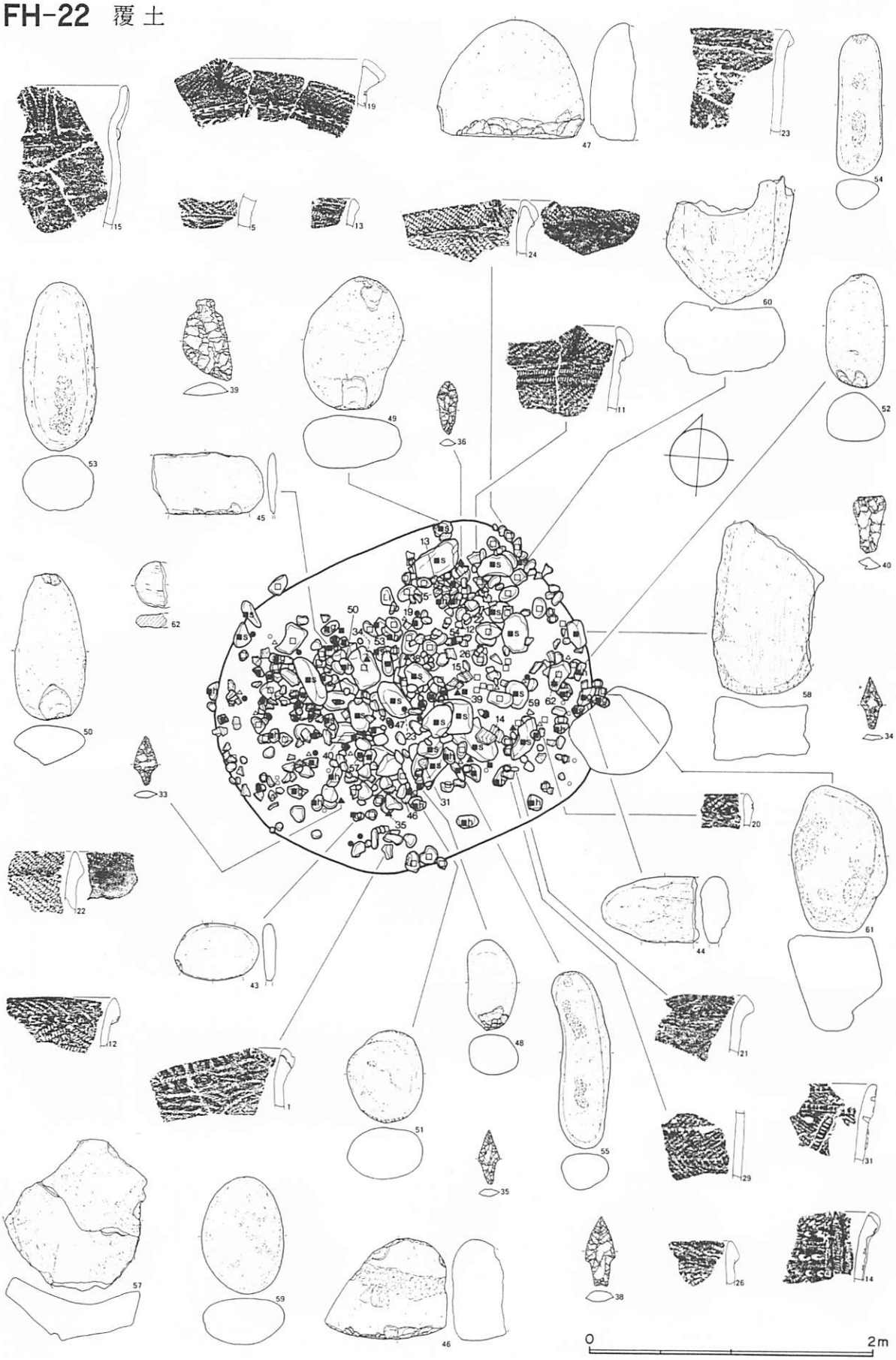




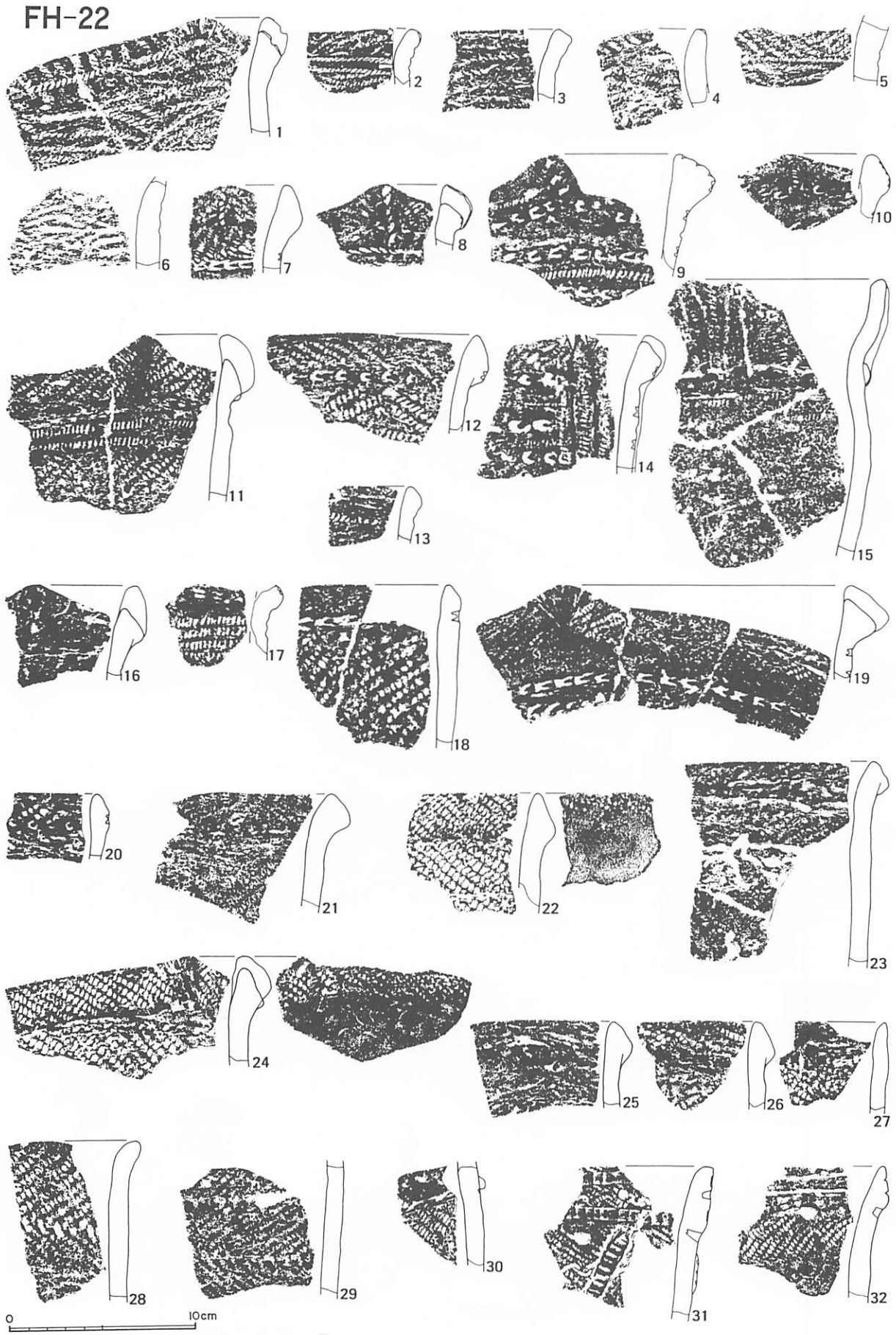


図Ⅲ—137　FH—22(1)

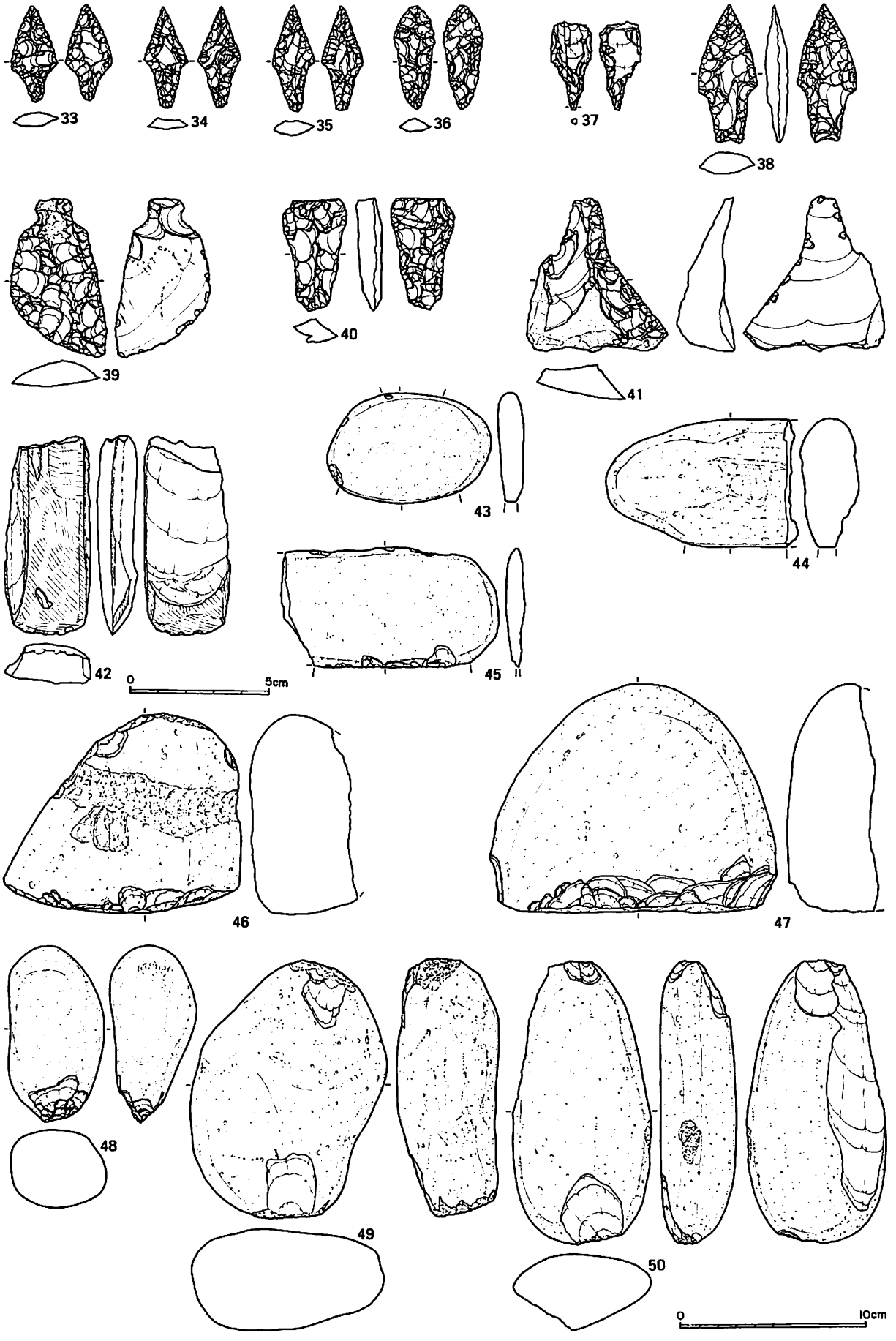
FH-22　覆土



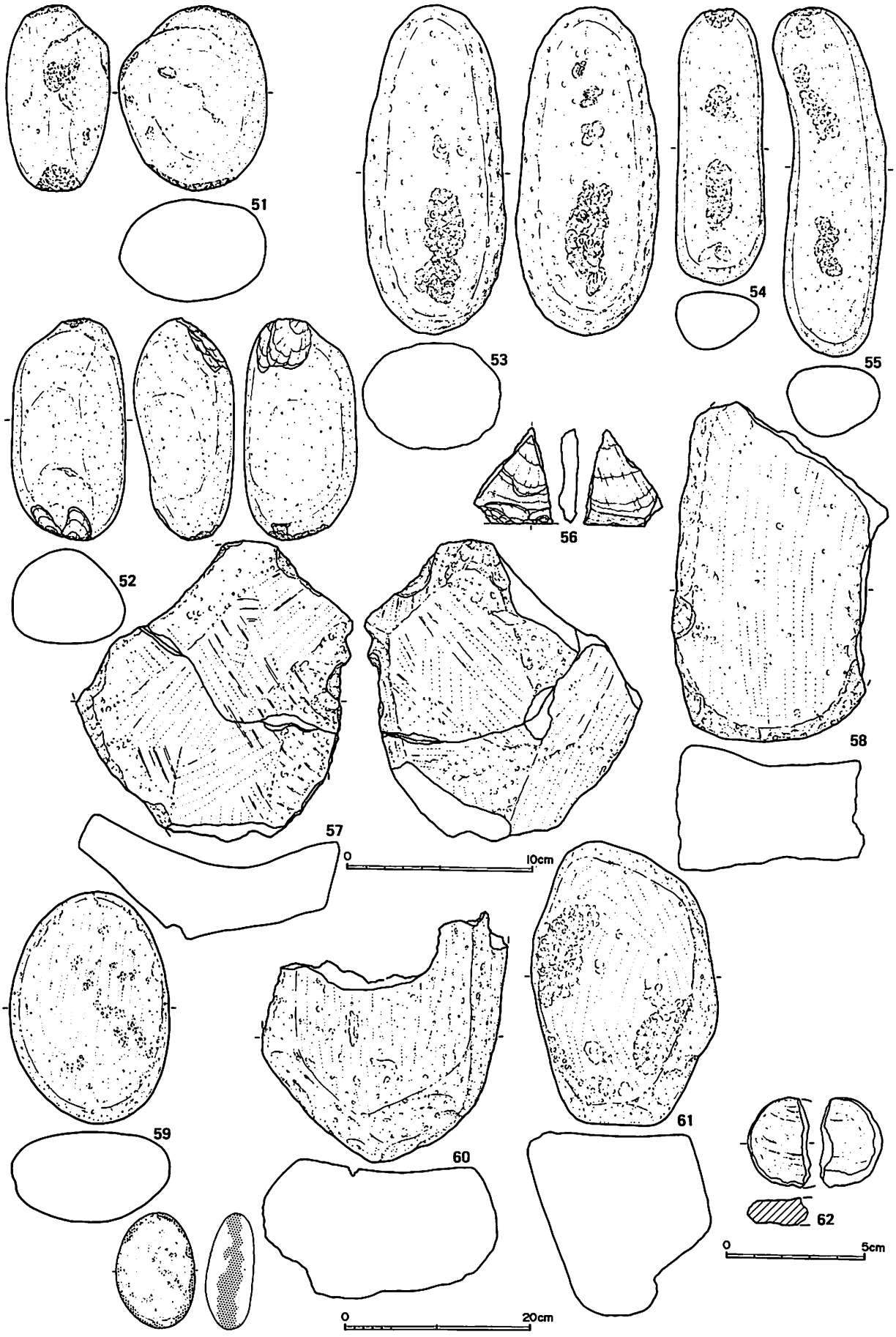
図III—138　FH—22(2)



図Ⅲ—139　FH—22 遺物（1）



図Ⅲ—140　FH—22 遺物(2)



図Ⅲ—141　FH—22 遺物(3)

石。このうち18は石材鑑定試料で、珪質細粒砂岩である。22は石皿・台石。
時期　縄文時代前期末～中期初頭、II群 B2 類土器の時期である。

FH—22（図Ⅲ—137～141，図版43）
平面形　隅丸長方形　　**規模**　2.62×2.22／1.78×1.75／0.26m　　**面積**　4.82m²
重複　FH—26より新しく，FP—122より古い。
特徴　FH—26のほぼ中央部に重さなっている。断面は皿状で，床面と壁面の境は明瞭でない。小ピットは13カ所（HP—2～14），すべて柱穴で，HP—13を除き壁面で確認されている。13本のうち6本は断面が楔形の打ち込みの柱跡とみられ，位置や大きさなどから，HP—2～6・14が主柱とみられる。焼土はみられず，覆土は黄褐色土のブロックを含んだ暗褐色土（2層）が大半である。
遺物　出土遺物総数は3,621点，その内訳は土器864点，石器類142点，コア・フレイク類918点，礫類1,696点，土製品1点，土器はII群B類が主体，石器は石鏃(10点)，スクレイパー（10点），すり石（9点），球石（10点），砥石（11点），石皿・台石（27点）が多いが，たたき石（42点）が群を抜いて多い。遺物は覆土中から足の踏み場のないような状況で密集して確認された。
土器　II群 B2a 類（5），II群 B2b 類（1～4・6～8），II群 B2c 類（9～17），II群B類（18～29），III群 A2 類（30），III群 B3 類（31・32）
5は口頸部に多段の弧状の縄線文が施されている。1は口唇部に縄圧痕文，口頸部に弧状の縄線文が施されている。7は突起部に縄線文が，口唇部直下に半截竹管状工具の押引が加えられている。9は口唇突起部・口頸部に縄線文が施されたものである。10は切り出し状の口唇断面で，口唇部・口頸部に絡条体圧痕文・刺突文が施されている。12は斜行縄文と刺突文が施された断面が切り出し状の口唇部で，無文地の口頸部に絡条体圧痕文が施されている。体部は斜行縄文である。14は斜行縄文が施された口唇部の下端に刺突文が加えられ，口頸部には突起部から垂下する2本一組の細い貼付帯・絡条体圧痕文・刺突文が施されている。15は波状の口縁で，口唇部断面は丸味をもつ。太い貼付帯によって区画された口頸部には突起部から垂下する2本一組の太い貼付帯・鋸歯状の絡条体圧痕文が施されている。口縁部が大きく波状であること，口唇断面が丸味を持つことから円筒土器上層a式に相当するものかも知れない。18～20は半截竹管状工具による刺突・押引が施されている。21～28は縄文のみのものである。30は細い貼付帯と羽状縄文が施されている。31・32は口唇部に押引文が加えられているもので，31の体部には押引文が加えられた太い貼付帯がある。
石器　33～36は有茎凸基の石鏃。37はチャート製の石錐。38は有茎のポイントで，基部が内湾している。39は縦形片面加工のつまみ付きナイフ。40は両面加工のスクレイパーで，折損したポイントの再利用か。41は内湾した刃部をもつスクレイパー。42は片刃の石斧。43～45はすり石。46・47は北海道式石冠で，後者は未成品。48～52はたたき石。53～55はくぼみ石。56は断面V字形を呈する石鋸。57・58は両面を使用した砥石。59～61は石皿・台石で，59の周縁には赤色顔料の付着が認められる。
土製品　62は表面が摩耗している無孔の再生土製円盤である。
時期　縄文時代前期末～中期初頭，II群 B2 類土器の時期と考えられる。

FH—23（図III—142・143，図版44）

平面形　楕円形　　**規模**　2.80×2.08／2.43×2.30／0.14m　　**面積**　5.50m²

重複　FH—24・34より新しく，FP—110より古い。

特徴　床面は比較的平坦で，壁面の角度は急である。南側の床面はFH—24の覆土上部に作られている。小ピットは18カ所（HP—1～18），すべて柱穴とみられる。小型なので，主柱はいろいろな状況が考えられるが，2本ならHP—2・12，4本ならHP—3・10・15・18など，6本ならHP—1・3・5・10・15・18などである。焼土はみられず，覆土は暗褐色土（1層）のみである。

遺物　出土遺物総数は78点，その内訳は土器22点，石器類12点，フレイク類8点，礫数35点，土製品1点，土器はII群B類が主体，石器は石皿・台石（5点）が多い。遺物は覆土の中央東寄りで礫石器，礫類が確認された。

石器　剝片石器は図示していないが，スクレイパー1点が出土している。1は平頂の北海道式石冠。2・3はたたき石。前者は石材鑑定試料で，輝石安山岩である。4はくぼみ石。5は角柱状の細長い石皿・台石である。

土製品　6は表面が摩耗した再生製円盤である。

時期　縄文時代前期末～中期初頭，II群B類土器の時期である。

FH—24（図III—144～147，図版45）

平面形　楕円形　　**規模**　3.58×3.05／2.90×2.40／0.38m　　**面積**　8.69m²

重複　FH—34より新しく，FH—23，FP—110より古い。

特徴　北側の上部がFH—23によって壊されているが，床面および壁面は残存している。床面は比較的平坦で，壁面は45°程度の角度で立ち上がる。小ピットは54カ所（HP—1～54），床面に21カ所，壁面に33カ所確認された。大部分のピットは断面が楔形で，壁面上部のものは斜めに傾いているものもある。壁面で確認されたものは壁柱痕とみられ，打ち込み式である。焼土はみられず，覆土は六層に分けたが，暗褐色土（1層）が主体で，以下黄褐色土ブロックを含んだ暗黄褐色土（3層），黒色土（4層），褐色土（5層），暗黄褐色土（6層）がある。

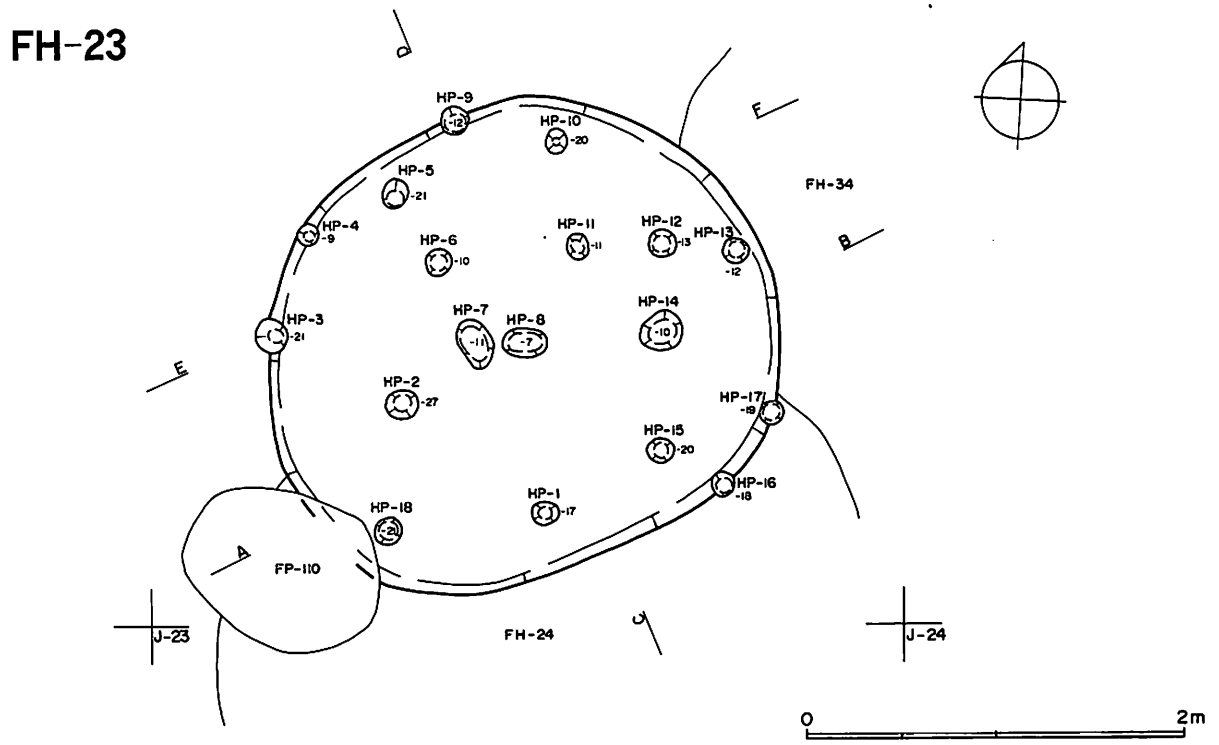
遺物　出土遺物総数は1,147点，その内訳は土器583点，石器類47点，コア・フレイク類134点，礫類381点，土・石製品2点，土器はII群B類が主体，石器は北海道式石冠（6点），たたき石（19点）砥石（11点）などが多い。床面では北側にたたき石と礫がみられたが，覆土中では中央部に礫石器，礫類が集中して確認された。

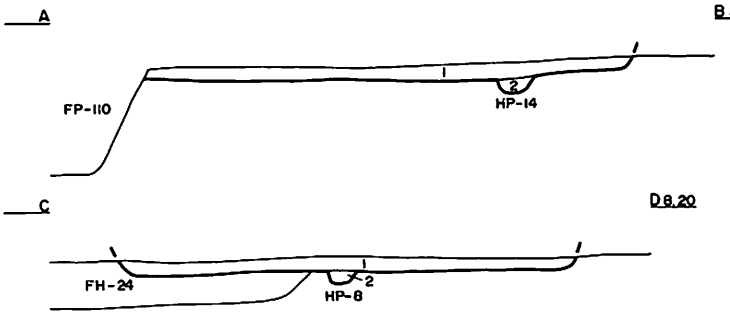
土器　II群B1類（2・3），II群B2a類（4），II群B2b類（1・5），II群B類（6・7）

2は円形刺突文が施された貼付帯をもち，体部は撚り戻しの粗い斜行縄文が施されている。3は体部に網目状撚糸文が施されている。4は撚糸文が施されている。1は底部を欠失する。口唇部に縄圧痕文が施されている。体部下半部は摩滅が著しく不明であるが，上半部に結束斜行縄文は施されている。胎土は砂粒が多く，繊維は少ない。内面調整は比較的丁寧である。5は切り出し状の口唇部断面で，半截竹管状工具の押引で区画された幅広の頸部に多段の弧状の縄線文が施されている。体部は斜行縄文である。

石器　8は有茎凸基の石鏃。9はエンドスクレイパー。10は楔形石器。11・12は北海道式石冠で，前者は平頂，後者は円頂である。13～18はたたき石。19～20はくぼみ石。21は砥

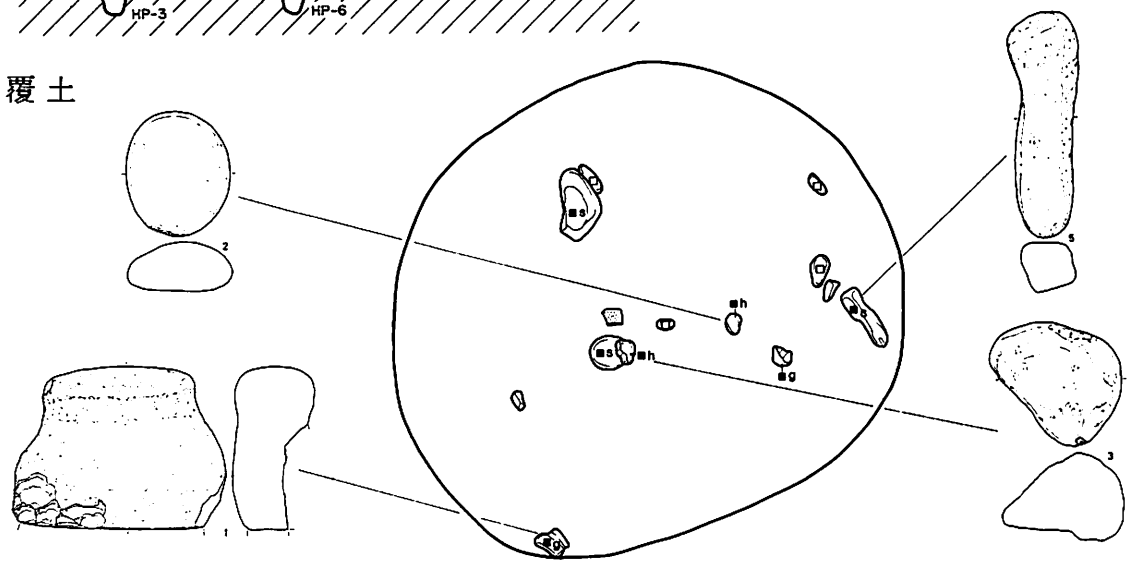
FH-23



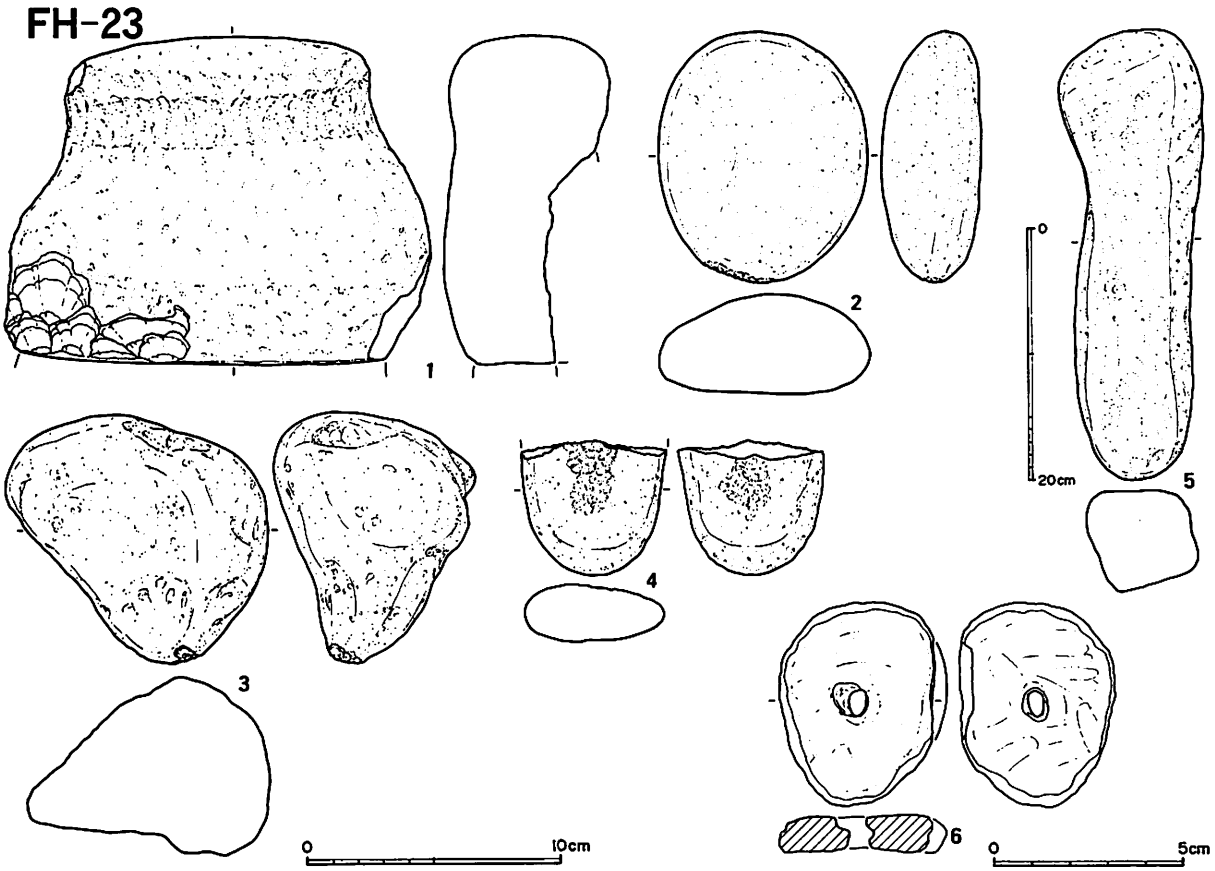


1 暗褐色土
2 褐色土

覆土



図III—142 FH—23



図Ⅲ—143　FH—23 遺物

石である。

土・石製品　22は表面が摩滅した再生土製円盤片，23は滑石製の玦状耳飾片である。

時期　縄文時代前期末～中期初頭，II群 B2 類土器の時期と考えられる。

FH—25（図Ⅲ—148～150，図版46）

平面形　円形　　**規模**　3.70×3.60／3.30×3.26／0.31m　　**面積**　10.17m²

重複　FH—16，FP—112・119より古い。

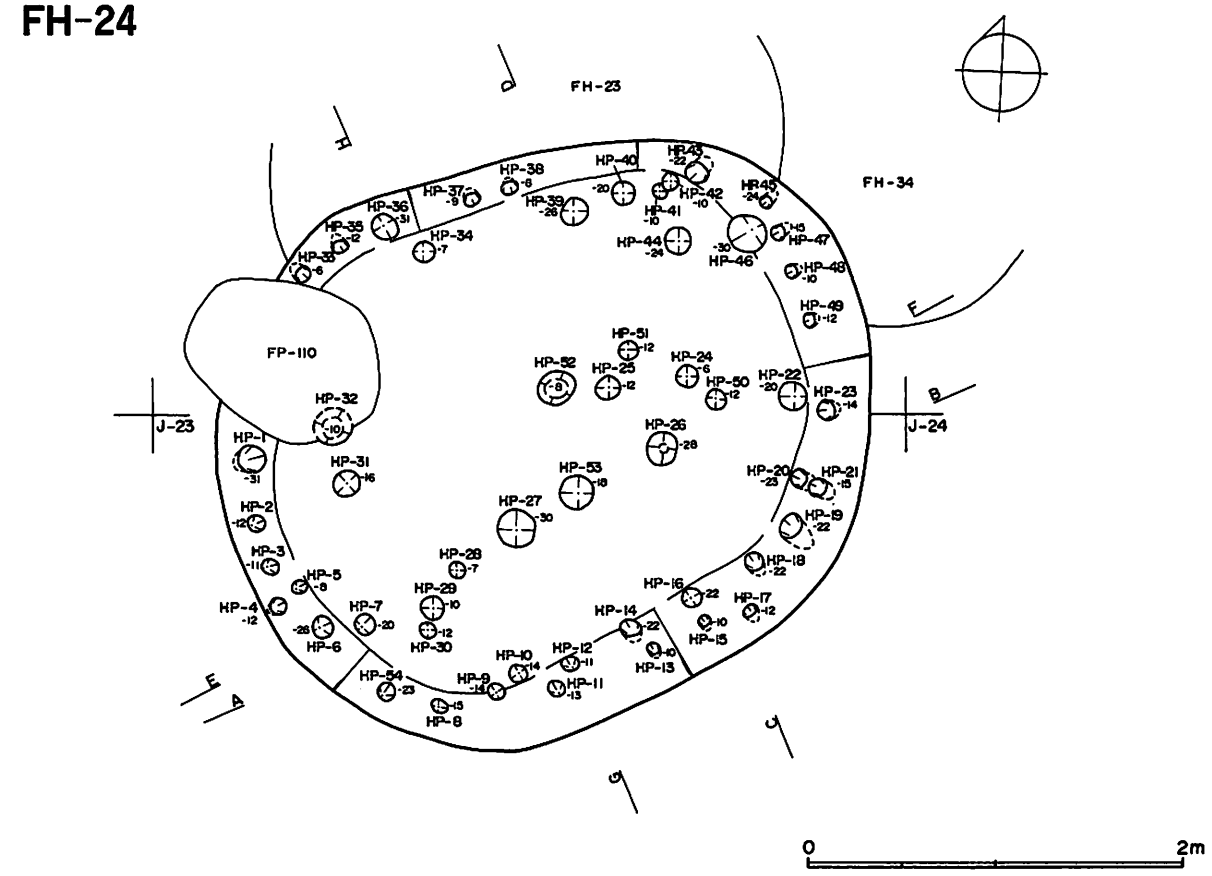
特徴　北東部がFH—16によって壊されているが，全体の状況は知ることができる。床面は北東部がわずかに壊されているが，比較的平坦で，壁面の角度は45°に近い。小ピットは15ヵ所（HP—1～15），壁面に2ヵ所，他は床面にある。浅いHP—1は付属施設とみられるが，他は柱穴である。位置や深さなどから主柱は4本（HP—2・4・5・12または13）とみられる。焼土はみられず，覆土は黄褐色土ブロックを含んだ暗褐色土（1・2層）が主体である。

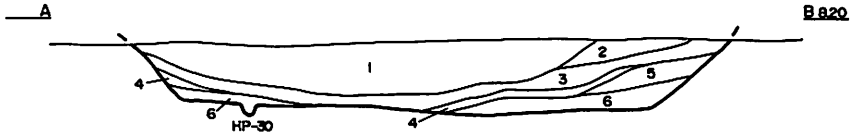
遺物　出土遺物総数は1,674点，その内訳は土器301点，石器類33点，コア・フレイク類875点，礫類464点，土製品1点，土器はII群B類が主体，石器はポイントまたはナイフ，スクレイパー，たたき石，石皿・台石（いずれも5点）などが多い。遺物は覆土全体から出土しているが，中央やや南寄りで2個体分の土器片と礫石器・礫類がまとまって確認された。

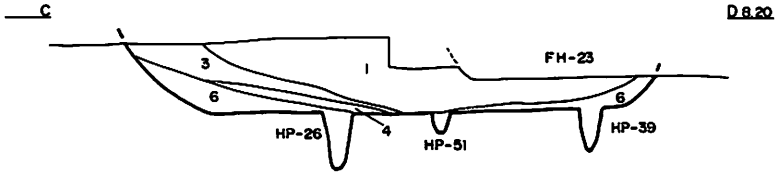
土器　II群 B2a 類（3・4），II群 B2b 類（5），II群 B2c 類（1・2）

3・4は多軸絡条体回転文である。5は切り出し状の口唇部に縄線文・貼付帯・半截竹管

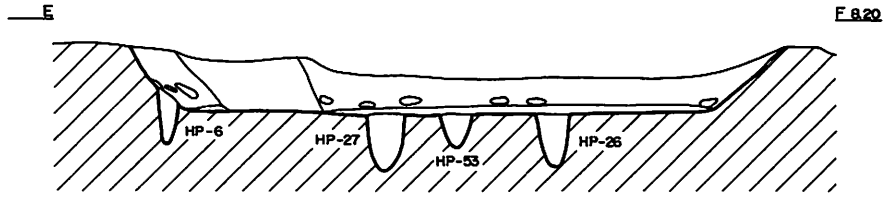
FH-24

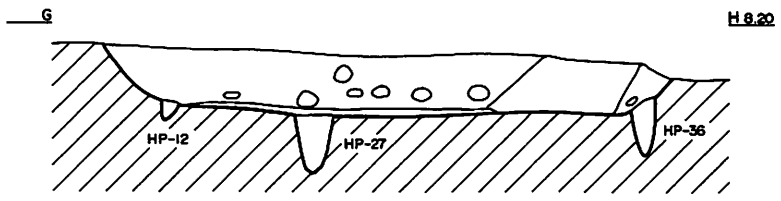






1　暗褐色土
2　暗褐色土（1層よりやや明るい）
3　暗黄褐色土（黄褐色土ブロック多量）
4　黒色土（黄褐色土ブロック多量）
5　褐色土
6　暗黄褐色土（暗褐色土ブロックを含む）

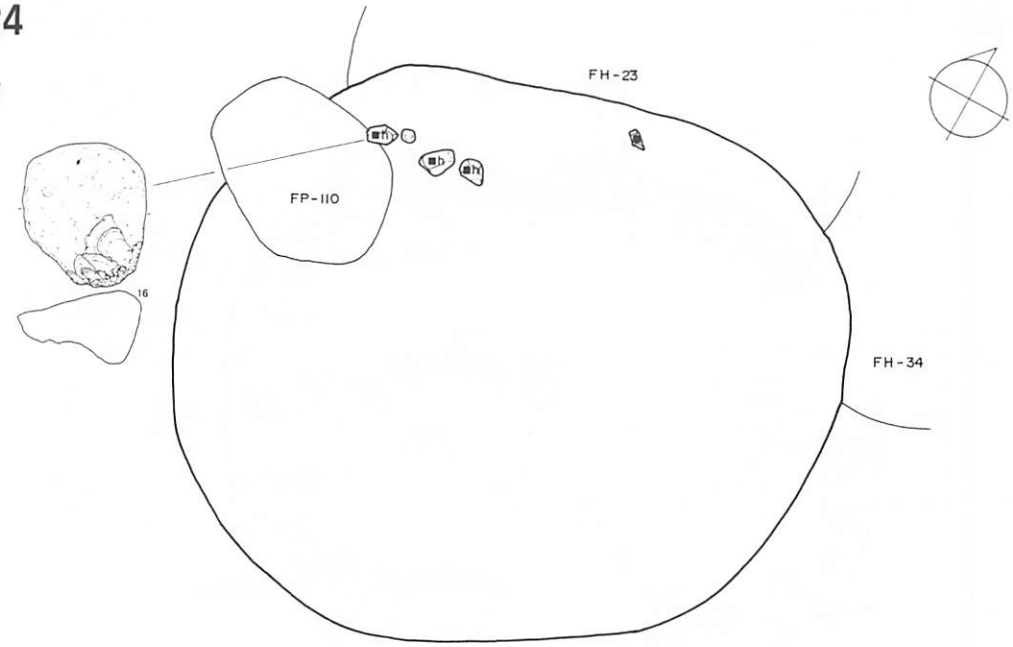




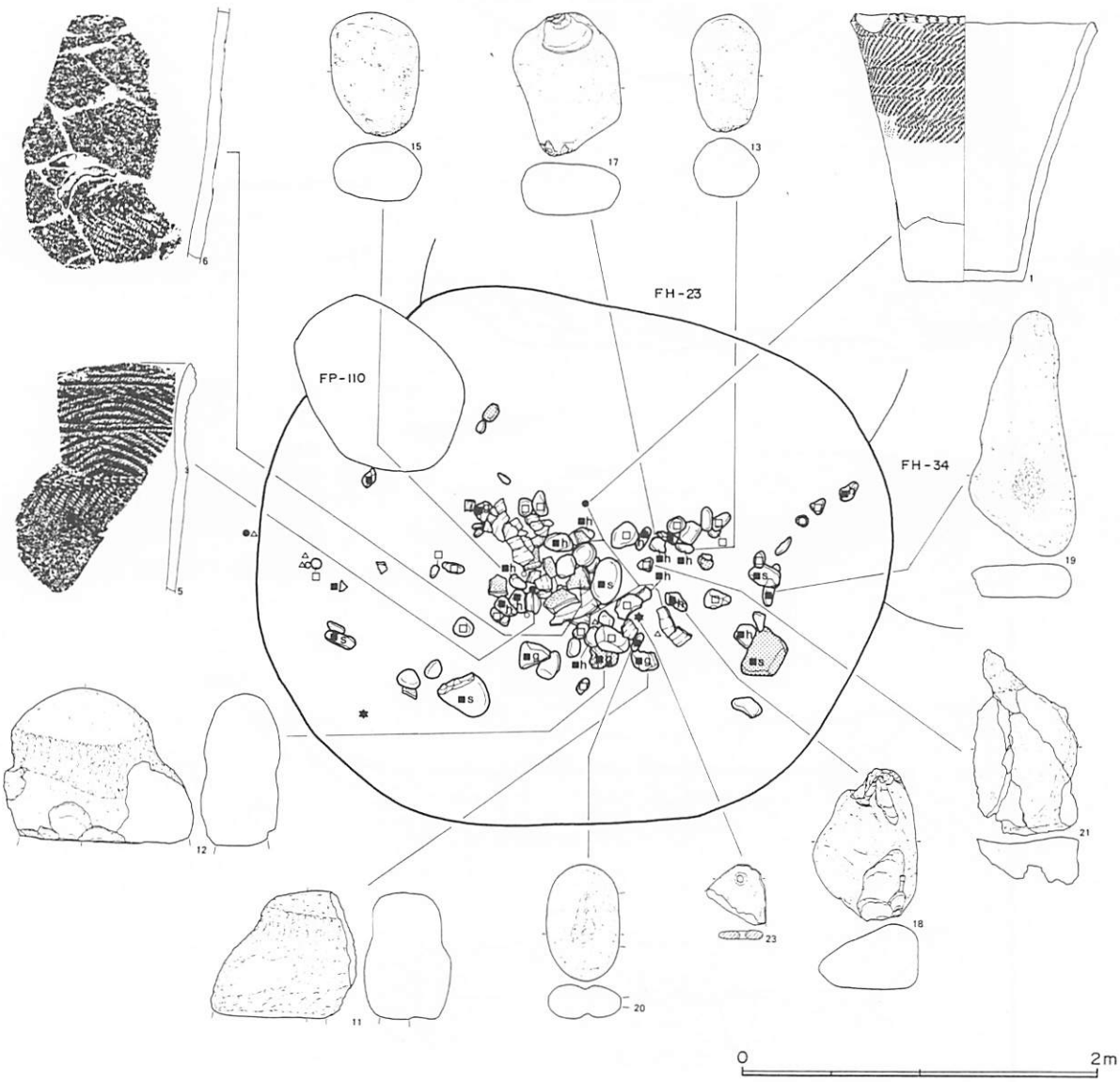
図Ⅲ—144　FH—24(1)

FH-24

床面

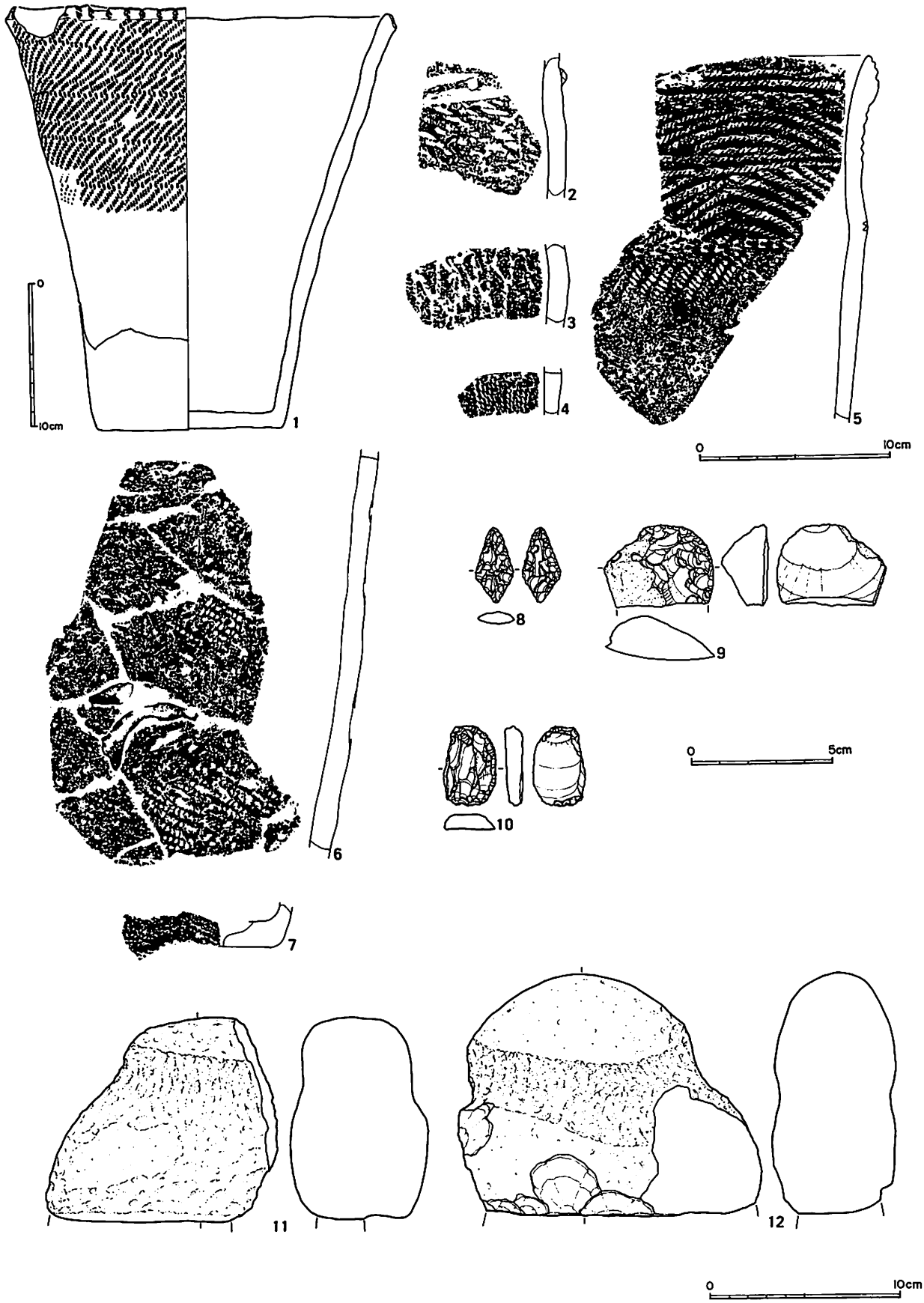


覆土

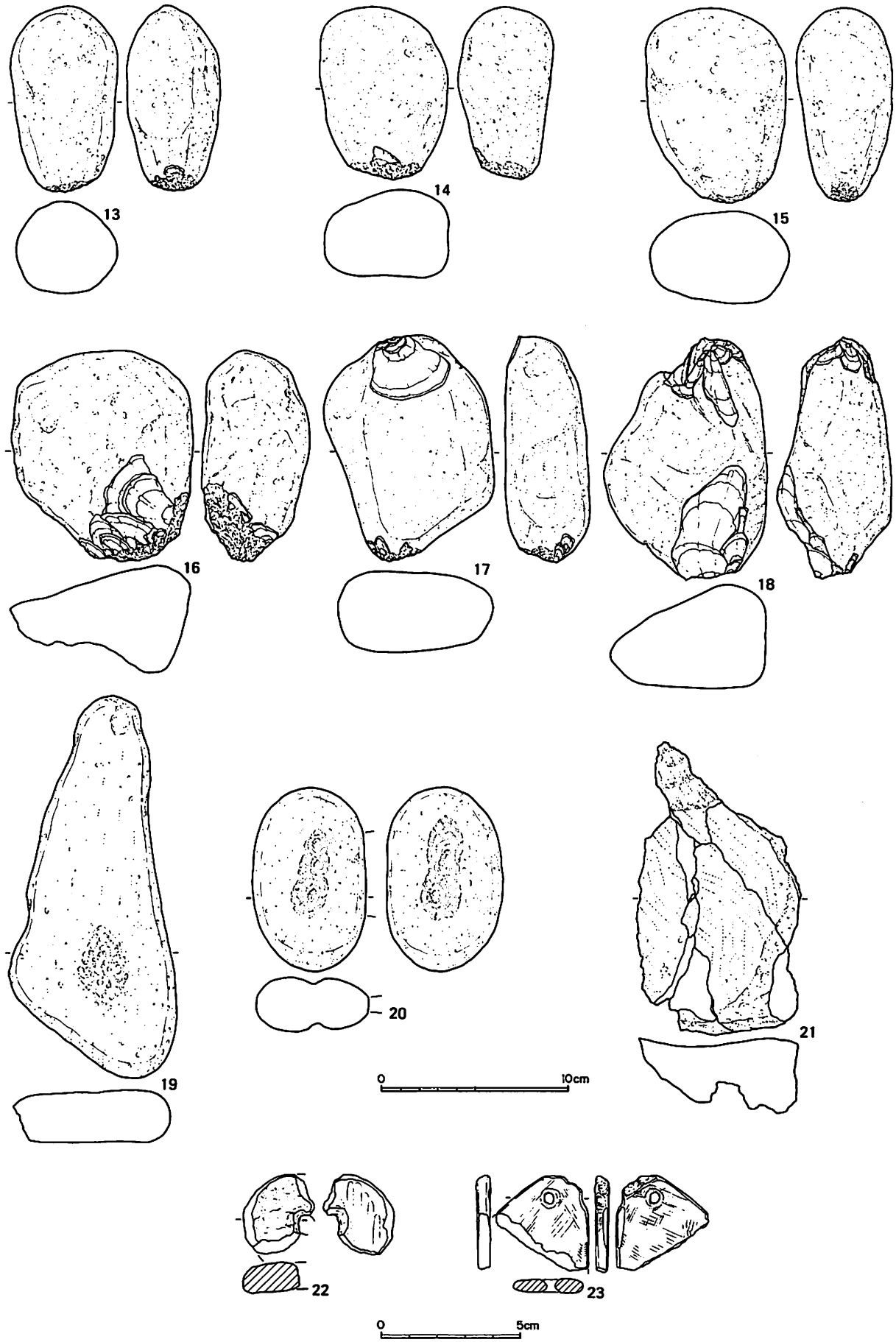


図Ⅲ—145　FH—24(2)

FH-24

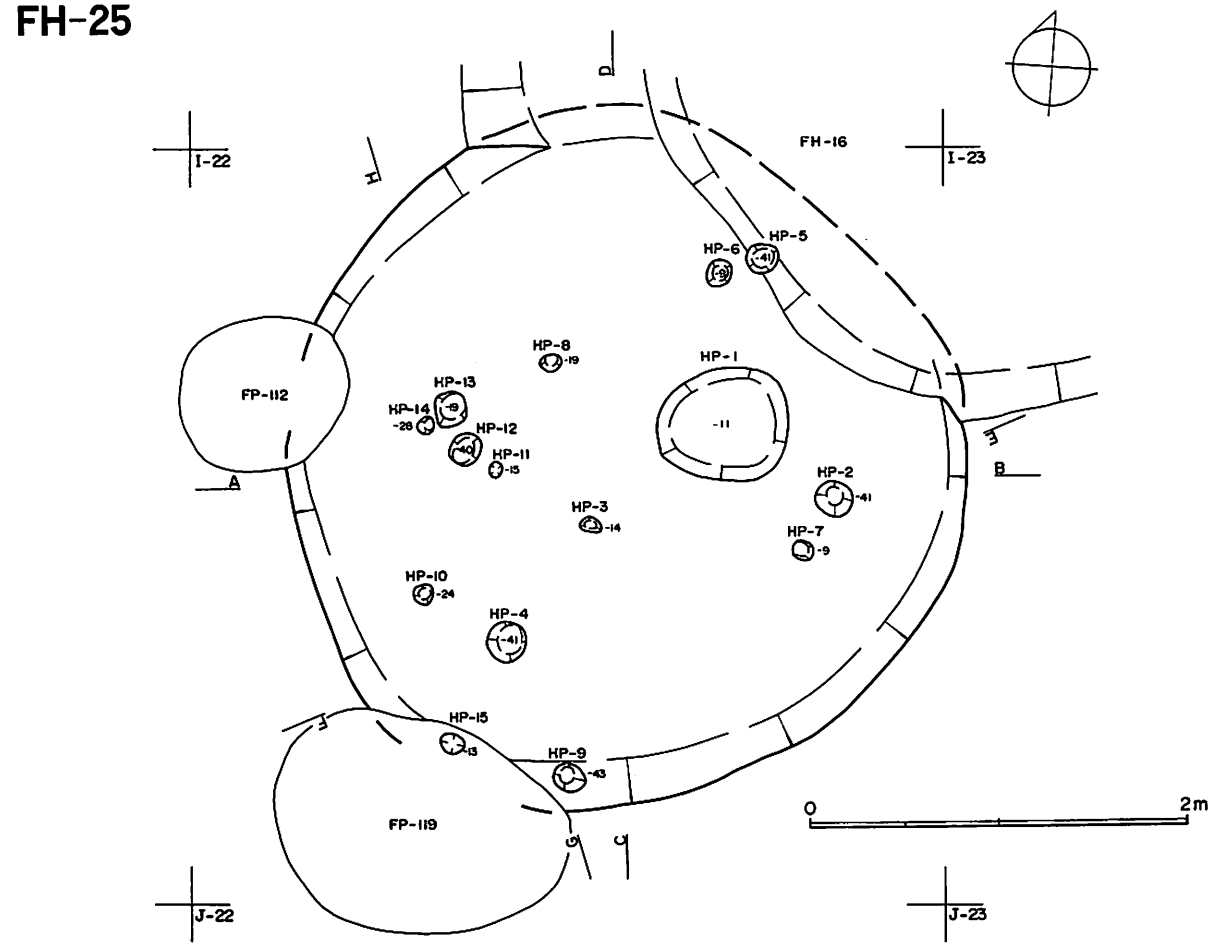


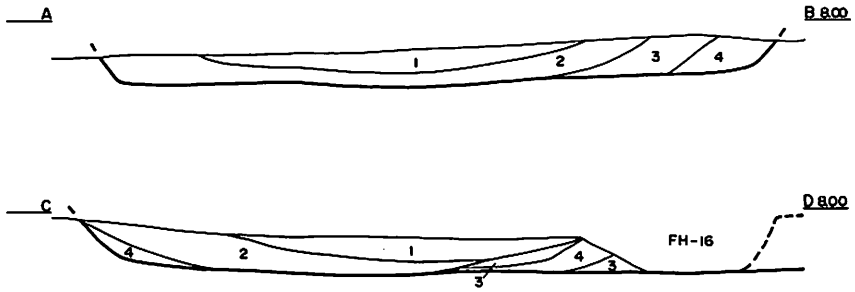
図Ⅲ—146　FH—24 遺物（1）



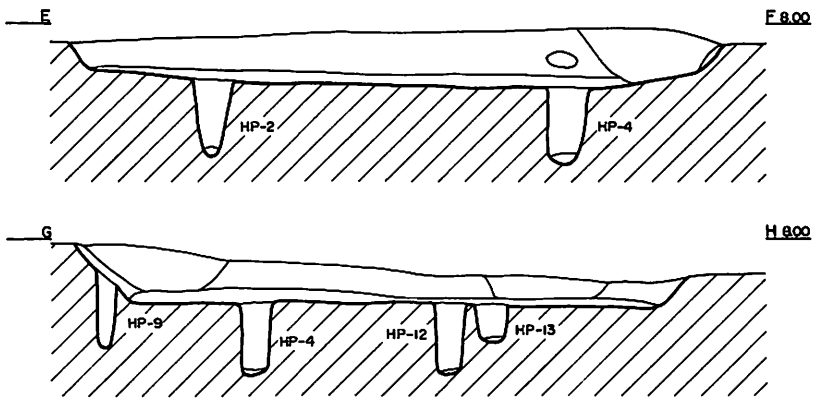
図Ⅲ－147　FH－24 遺物（2）

FH-25



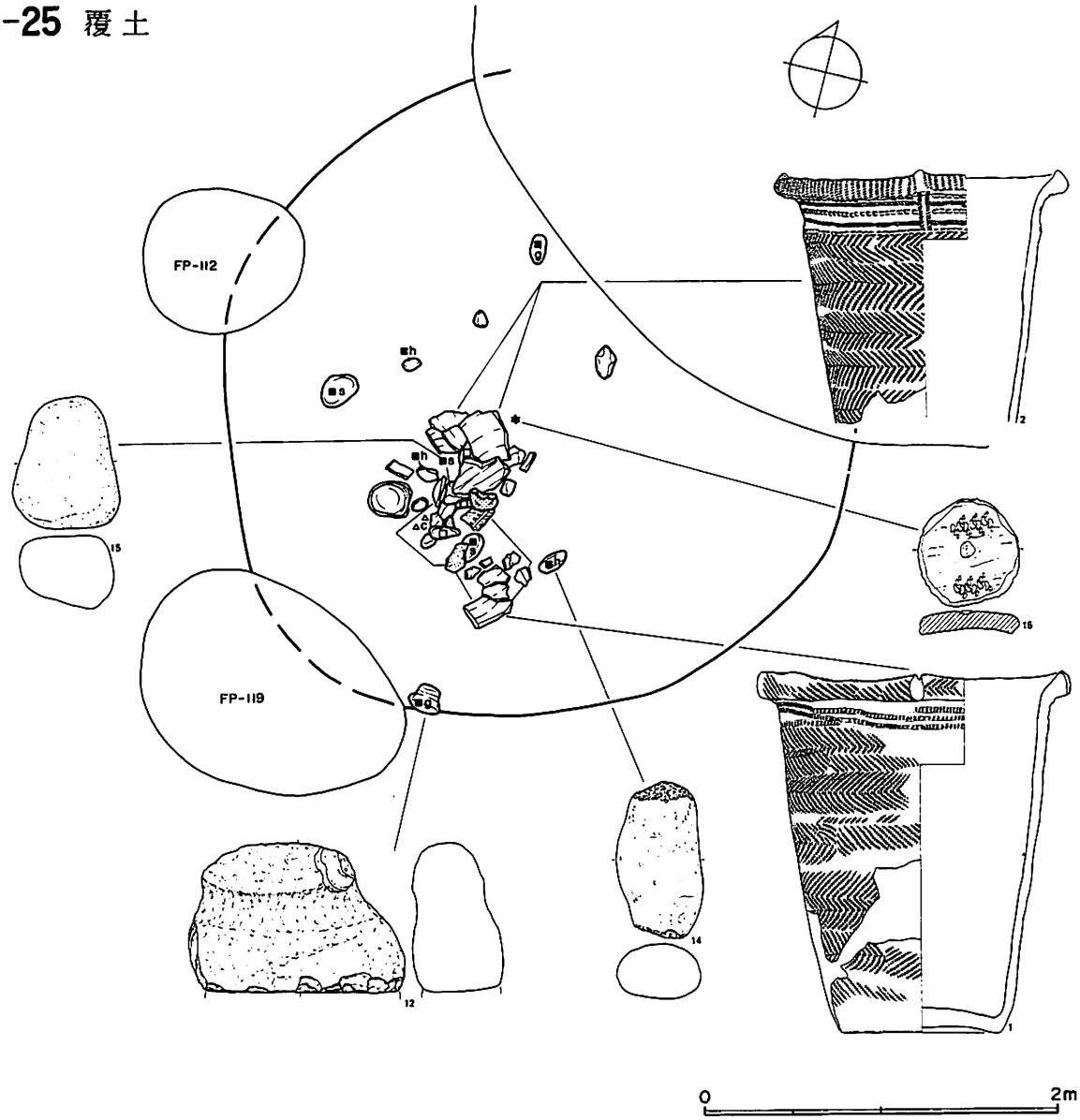


1 暗褐色土
（黄褐色土ブロック若干）
2 暗褐色土
（黄褐色土ブロックを含む）
3 褐色土
（黄褐色土ブロック多量）
4 暗褐色土（粘質）



図III—148 FH—25(1)

FH-25 覆土



図Ⅲ—149　FH—25(2)

状工具の押引文，頸部に縄線文が施されている。1の口唇部は結束羽状縄文が施され，無文地の頸部に絡条体圧痕文が施されている。体部は結束羽状縄文である。胎土は砂粒が多く，繊維が少ない。2は口唇部に絡条体圧痕文が施され，半截竹管状工具の刺突文で区画された無文地の頸部に絡条体圧痕文・押引文が加えられている。

石器　6は木葉形円基の石鏃。7は有茎のポイント。8は縦形片面加工のつまみ付きナイフ。9・10はスクレイパーで，前者は周辺加工の，後者は尖頭部を有するものである。11はすり石。12はやや平頂の北海道式石冠。13・14はたたき石。15は石皿である。

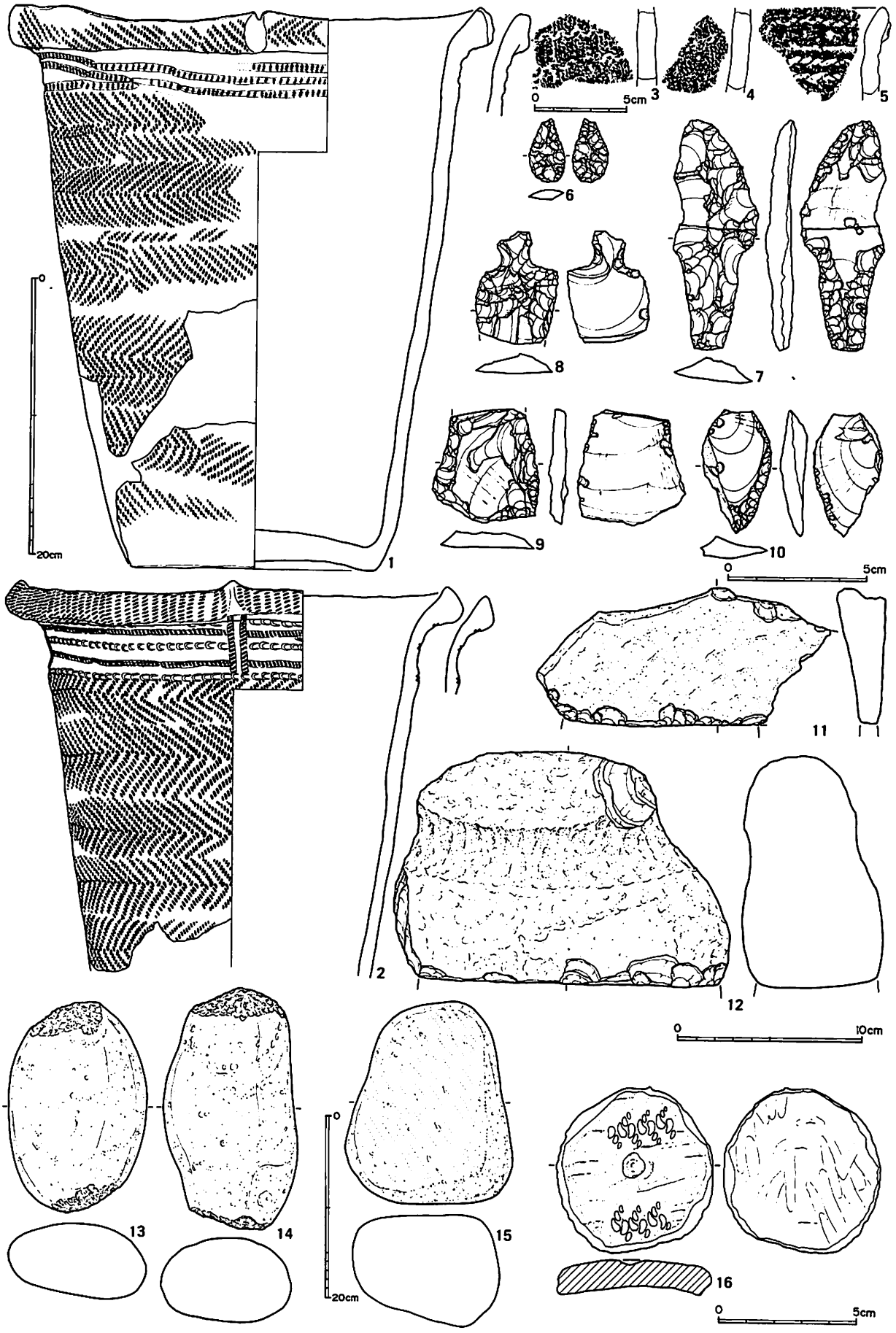
土製品　16は穿孔途中の再生土製円盤である。

時期　縄文時代前期末～中期初頭，II群B2類土器の時期と考えられる。

FH—26（図Ⅲ—151～153，図版43）

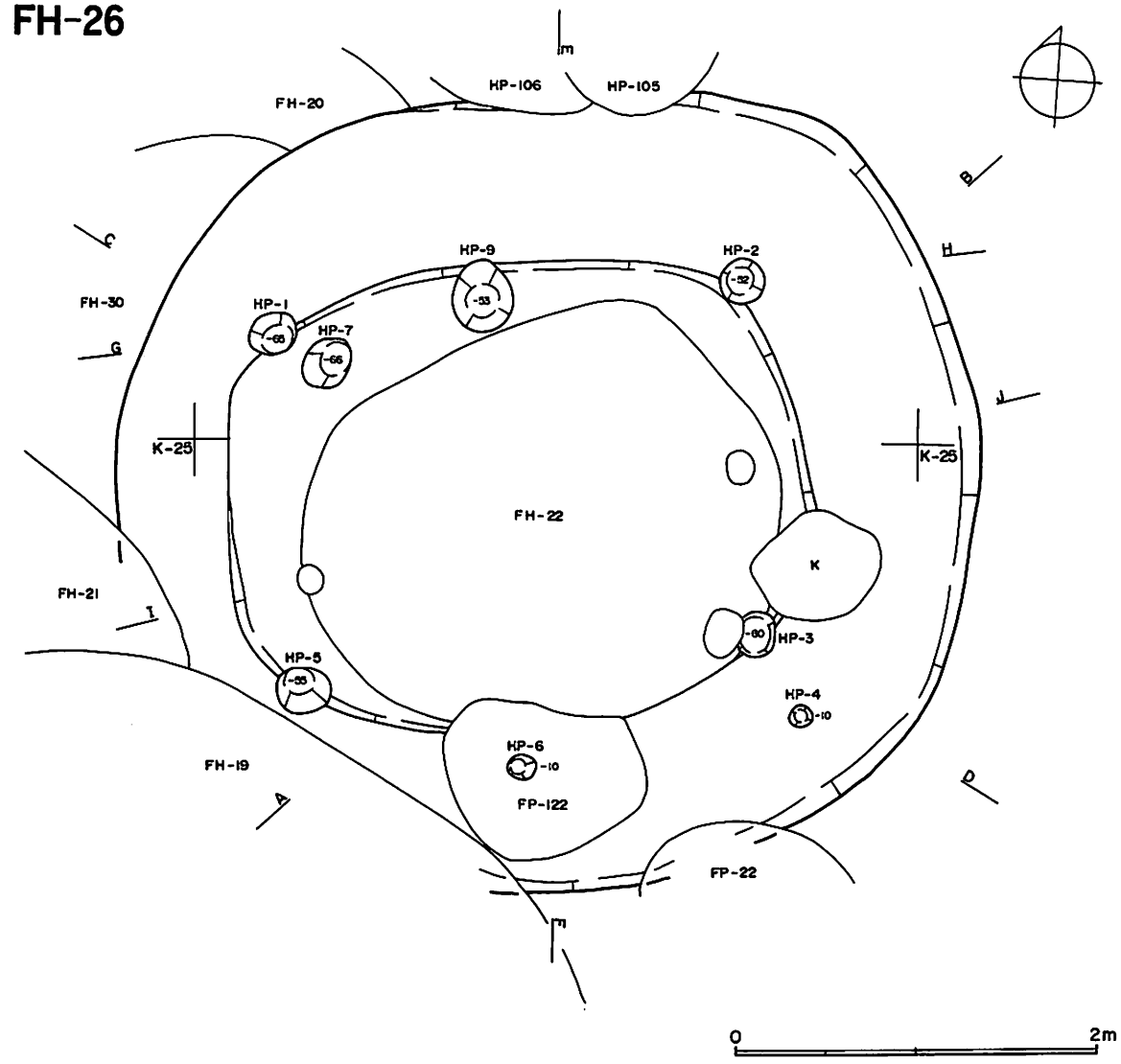
平面形　楕円形　　**規模**　4.80×4.38／4.68×4.28／0.24m　　**面積**　(17.35)m²

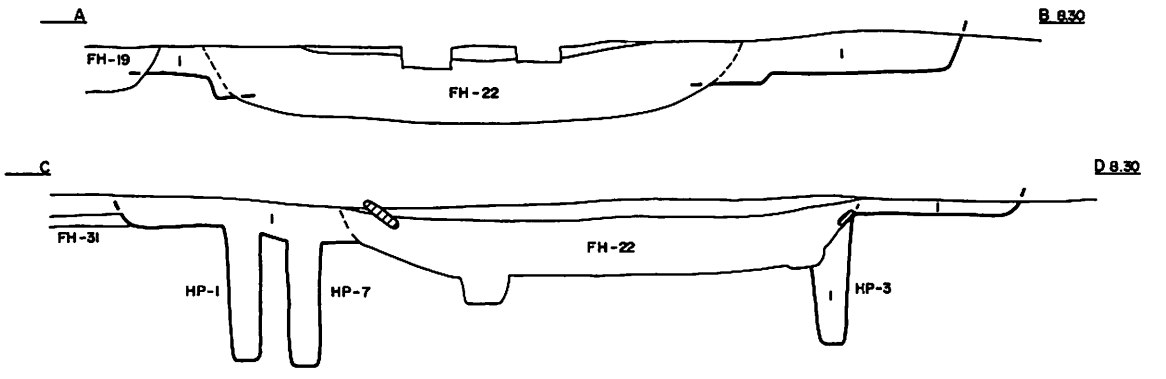
FH-25



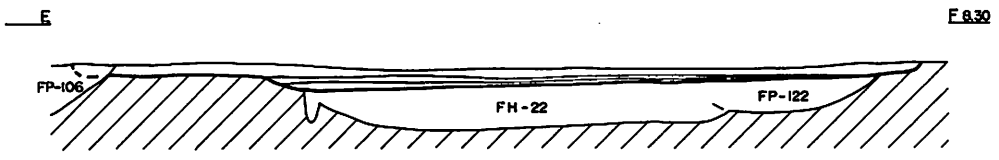
図III—150 FH—25遺物

FH-26

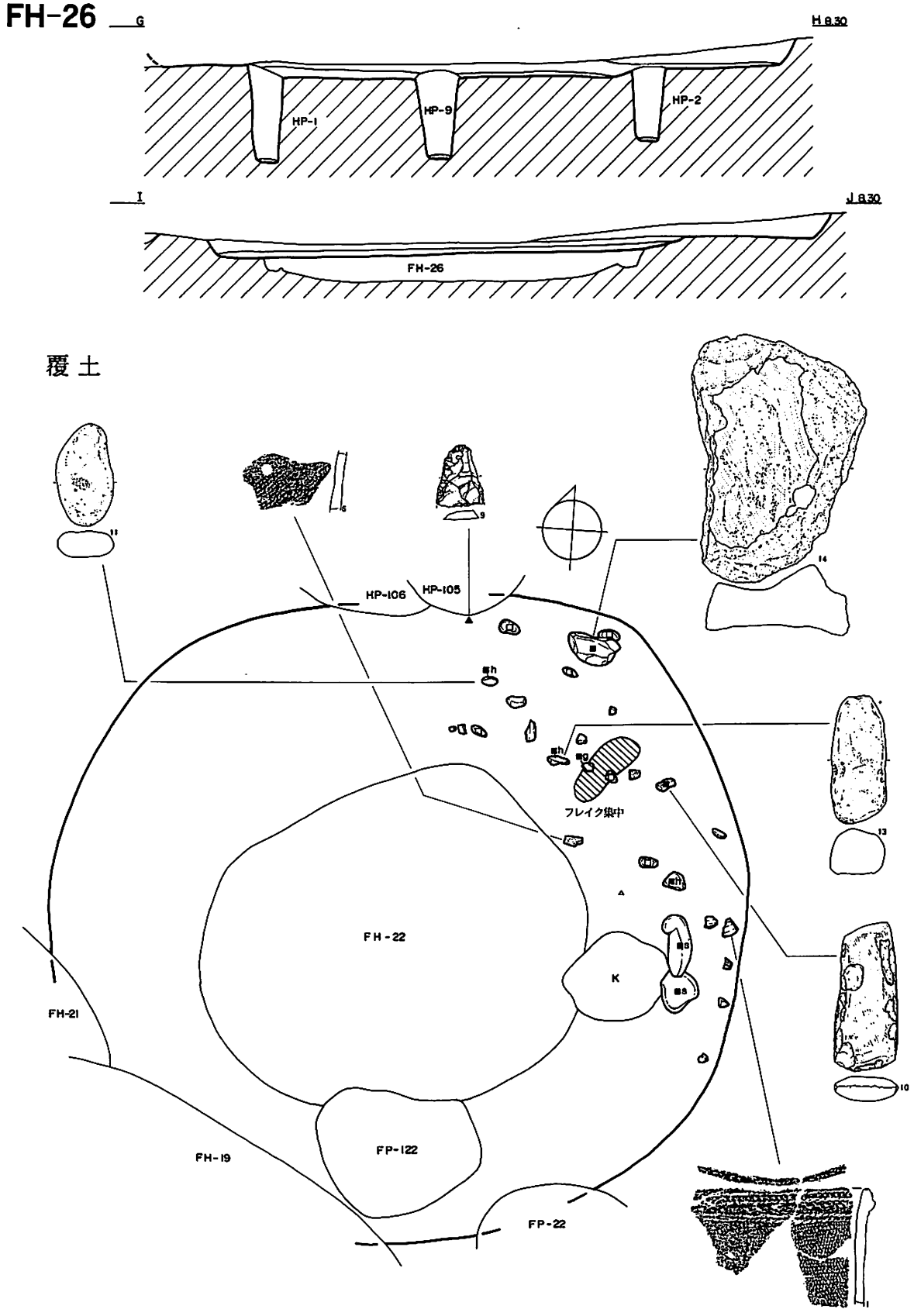




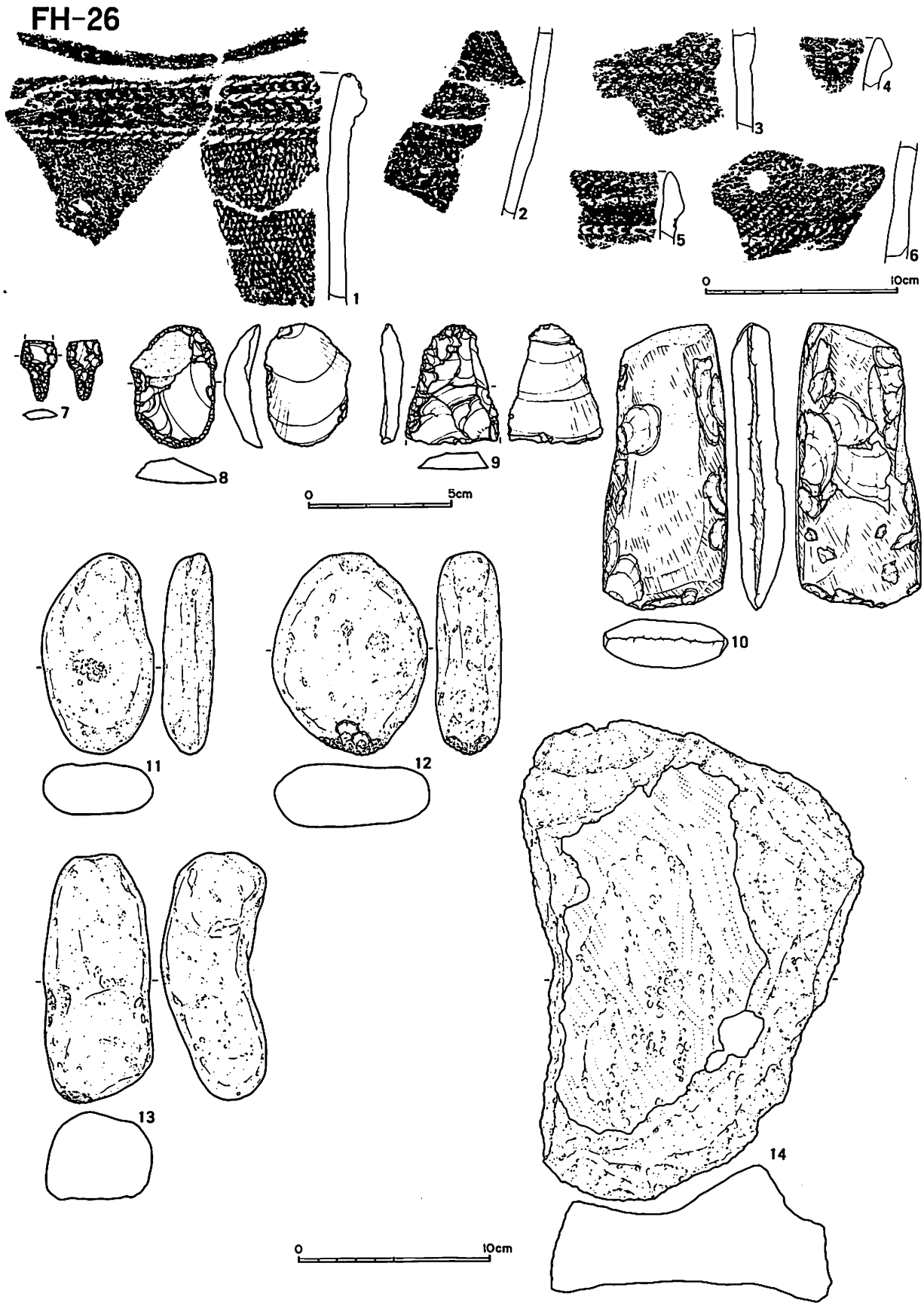
1 暗褐色土



図Ⅲ—151 FH—26(1)


FH-26
G
H 8.30
HP-1
HP-9
HP-2
I
J 8.30
FH-26
覆土
HP-106
HP-105
フレイク集中
FH-22
FH-21
FH-19
FP-122
FP-22
K
0
2m

図Ⅲ—152 FH—26(2)



図Ⅲ－153　FH－26 遺物

重複　FH—19・20・21・22・30，FP—22・105・106・122より古い。

特徴　東側以外の壁面は他の住居跡や土壙に壊され，中央部はFH—22，FP—122で壊されているが，なんとか全体の状況を知ることができる。床面は2段構造で，10cm程の段差がある。小ピットは8カ所（HP—1～7・9），位置からみてHP—1・2・3・5の4本が主柱とみられるが，6本だとHP—9が加わり，もう1本はHP—3と5の間にある可能性がある。中央部がFH—22で壊されているので，焼土は確認されなかった。

遺物　出土遺物総数は3,108点，その内訳は土器85点，石器類22点，コア・フレイク類2,882点，礫類119点，土器はII群B類が主体，石器はスクレイパー（7点）とたたき石（5点）が多い。遺物は北東部の覆土中で確認され，フレイクの集中域が一カ所みられた。

土器　II群B2a類（1・2），II群B2b類（3），II群B2c類（4），II群B類（5・6）

1は縄線文・半截竹管状工具の刺突が加えられた口唇部で，口唇部直下に2条の縄線文が施されている。体部は多軸絡条体回転文である。2は多軸絡条体回転文である。3は口唇部直下に1条の縄線文が施されている。4は口唇部直下に1条の縄線文が施されているものである。5は口唇部・頸部に半截竹管状工具の刺突が施されたものである。6は結束斜行縄文である。

石器　7は有茎凸基の石鏃。8はエンドスクレイパー。9は直線状の刃部をもつスクレイパー。10は石斧。11～13はたたき石。14は両面使用の砥石。

時期　縄文時代前期末～中期初頭，II群B2類土器の時期である。

FH—27（図III—154・155，図版47）

平面形　隅丸長方形　　**規模**　3.56×(2.12)／3.26×(2.00)／0.17m

面積　(7.94)m²　　**重複**　なし

特徴　北西側は旧河道の影響で不明瞭である。床面は凹凸がみられ，南東から北西にむかって傾斜している。壁面の傾斜は45°に近いが床面との境が不明瞭な部分もある。小ピットは15カ所(HP—1～15)，床面全域にみられるが，主柱の判断は困難である。焼土はみられず，覆土は黒褐色土（1層）のみである。

遺物　出土遺物総数は653点，その内訳は土器243点，石器類26点，コア・フレイク類85点，礫類293点，土製品1点，土器はII群B2類が主体，石器はたたき石（10点）が多い。遺物は覆土中のほぼ全域から確認された。

土器　II群B1類（2），II群B2a類（3）II群B2b類（1・4・5），II群B2c類（6），II群B類（7・8）

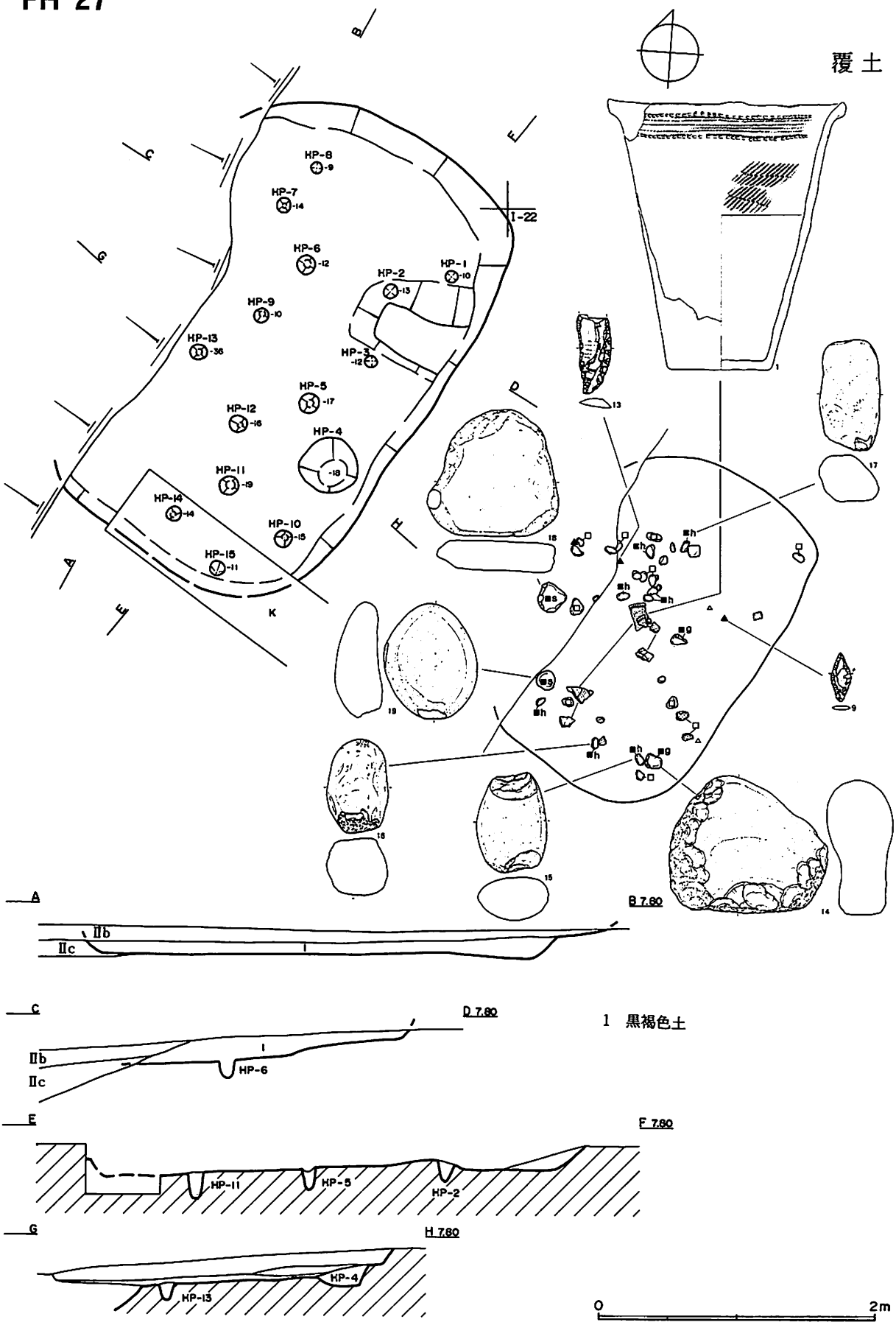
2は撚糸文の原体を単軸に巻いたものである。3は多軸絡条体回転文である。1と5は口唇部に縄線文が施されているものである。6は頸部に絡条体圧痕文が施されている。7は結束羽状縄文，8は斜行縄文が体部に施されている。

石器　9は菱形を呈する石鏃。10は有茎のポイント。11は縦形周辺加工のつまみ付きナイフ。12はエンドスクレイパー。13は内・外湾する刃部をもつスクレイパーであるが，上部を欠損したつまみ付きナイフの可能性がある。14は北海道式石冠の未成品。15～17はたたき石。18・19は石皿である。

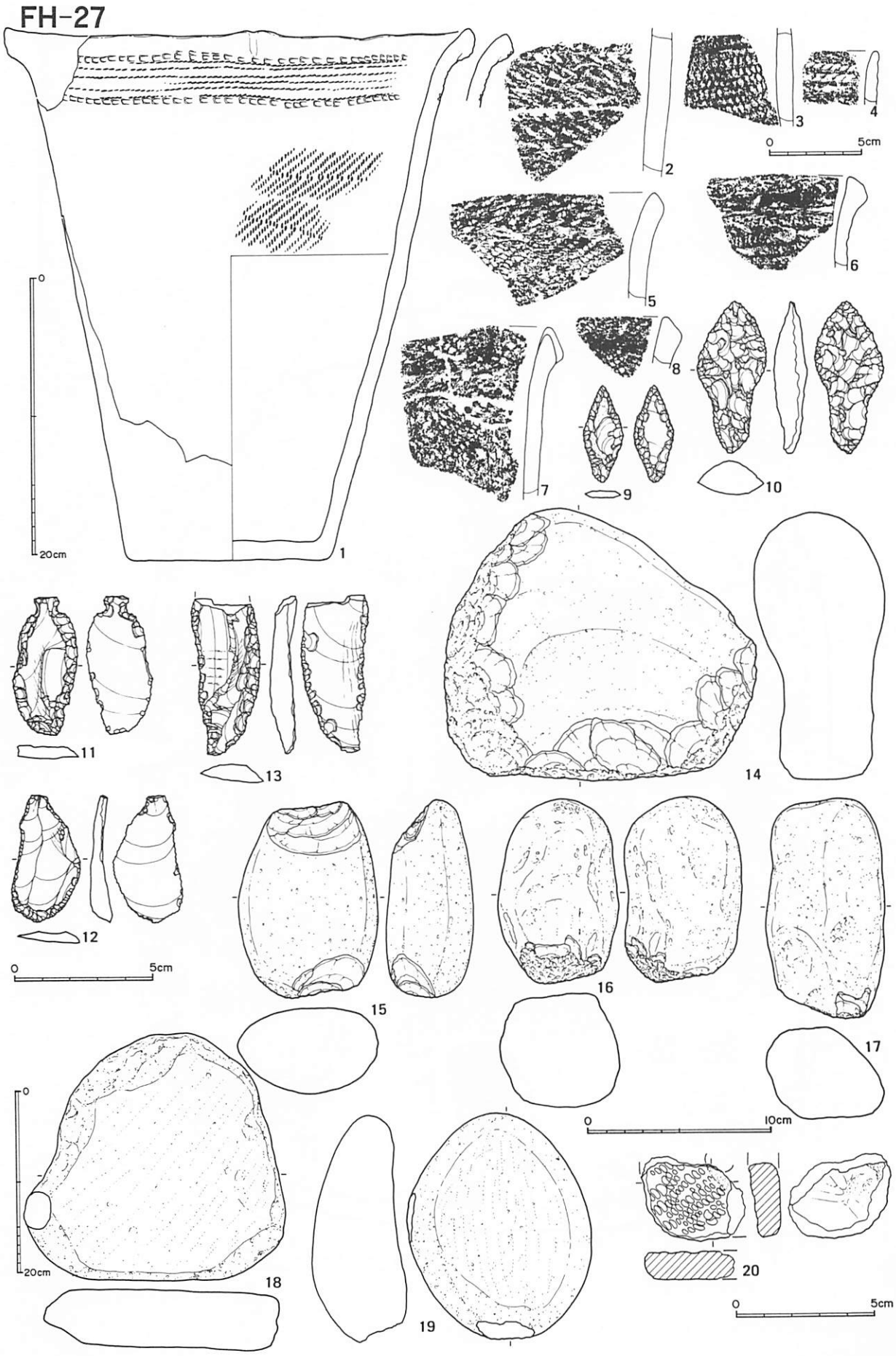
土製品　20は再生土製円盤片である。

時期　縄文時代前期末～中期初頭，II群B2類土器の時期と考えられる。

FH-27

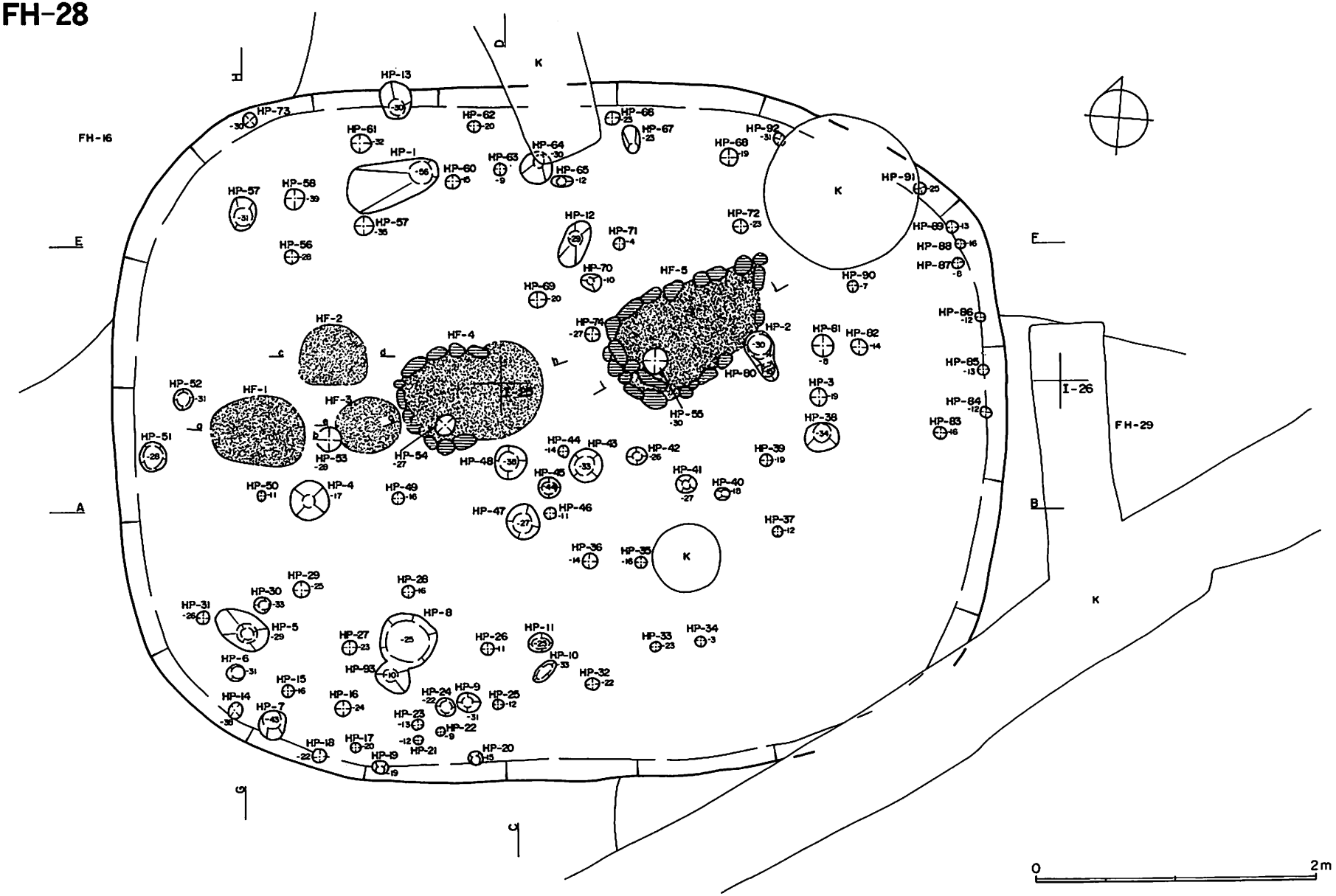


図Ⅲ—154 FH—27



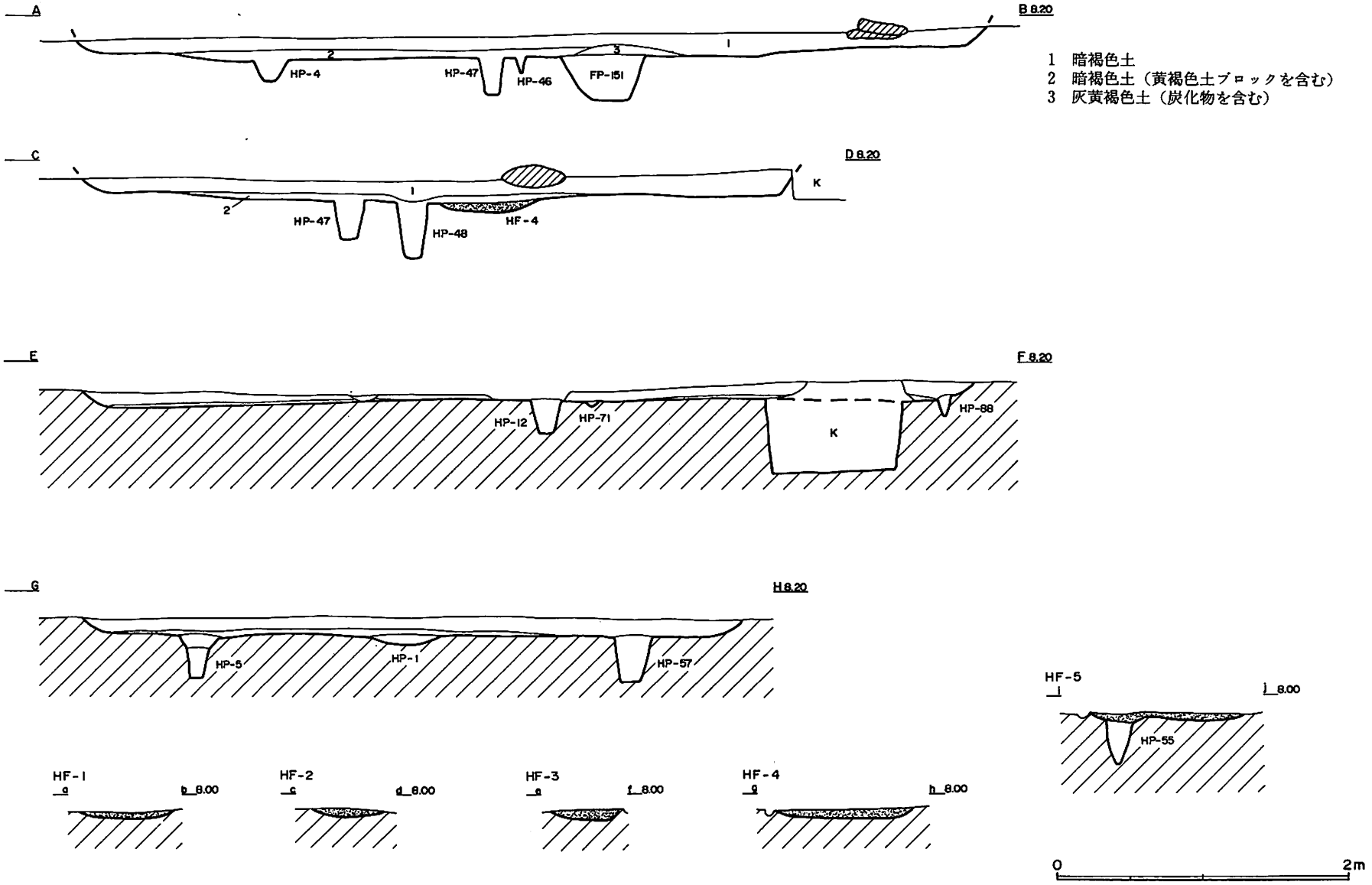
図III—155　FH—27 遺物

FH-28



図Ⅲ—156　FH—28(1)

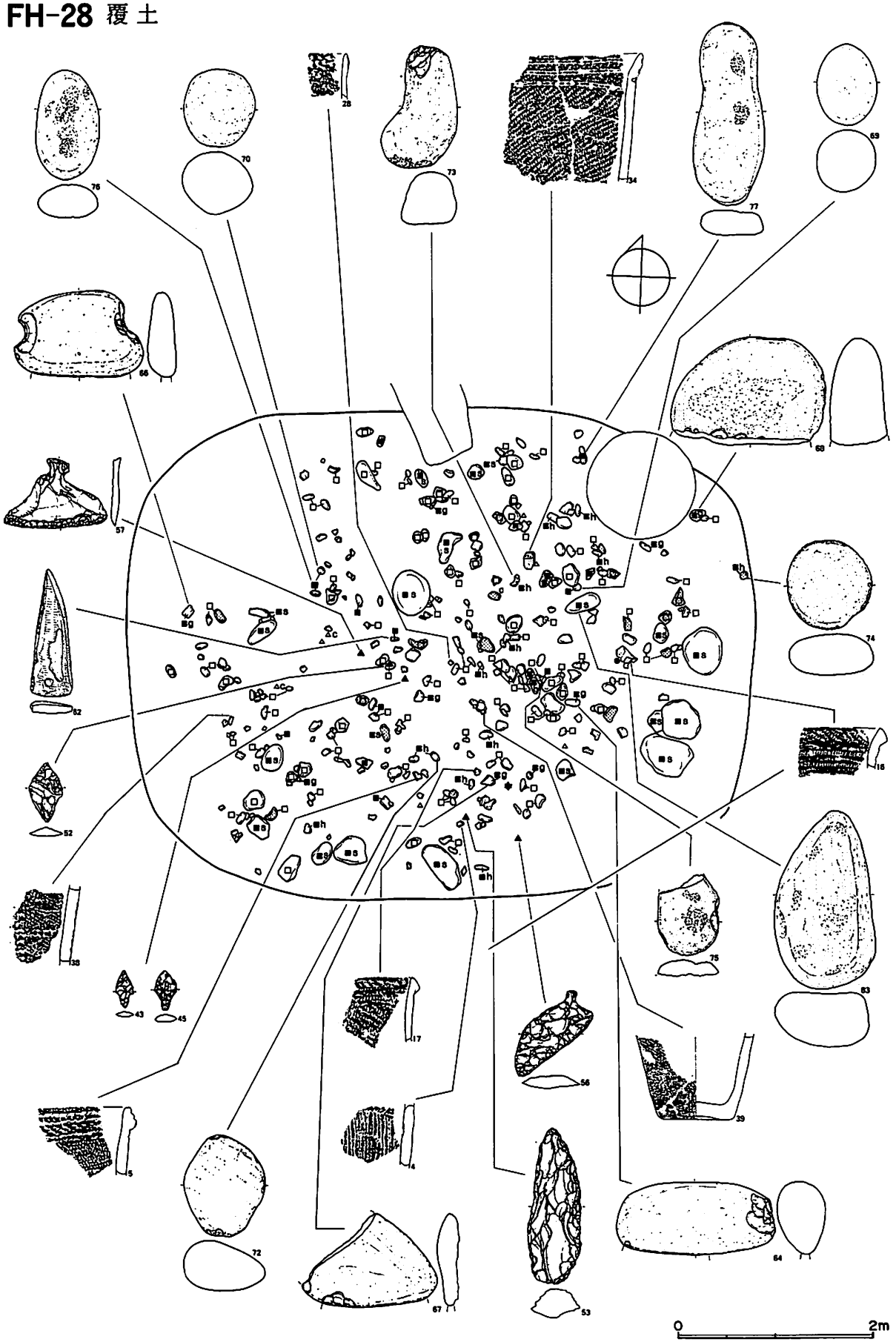
FH-28



1 暗褐色土
2 暗褐色土（黄褐色土ブロックを含む）
3 灰黄褐色土（炭化物を含む）

図Ⅲ—157 FH—28(2)

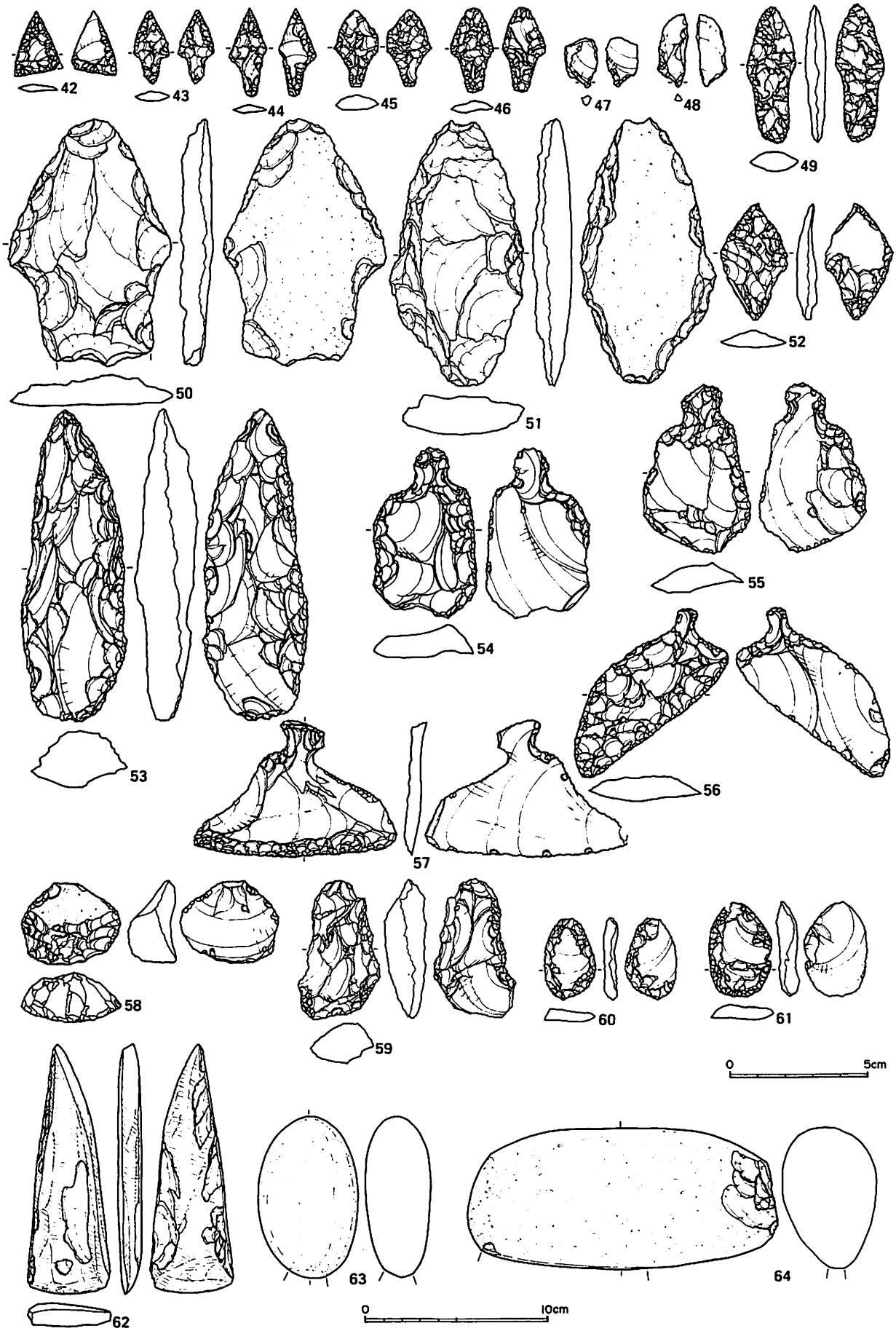
FH-28 覆土



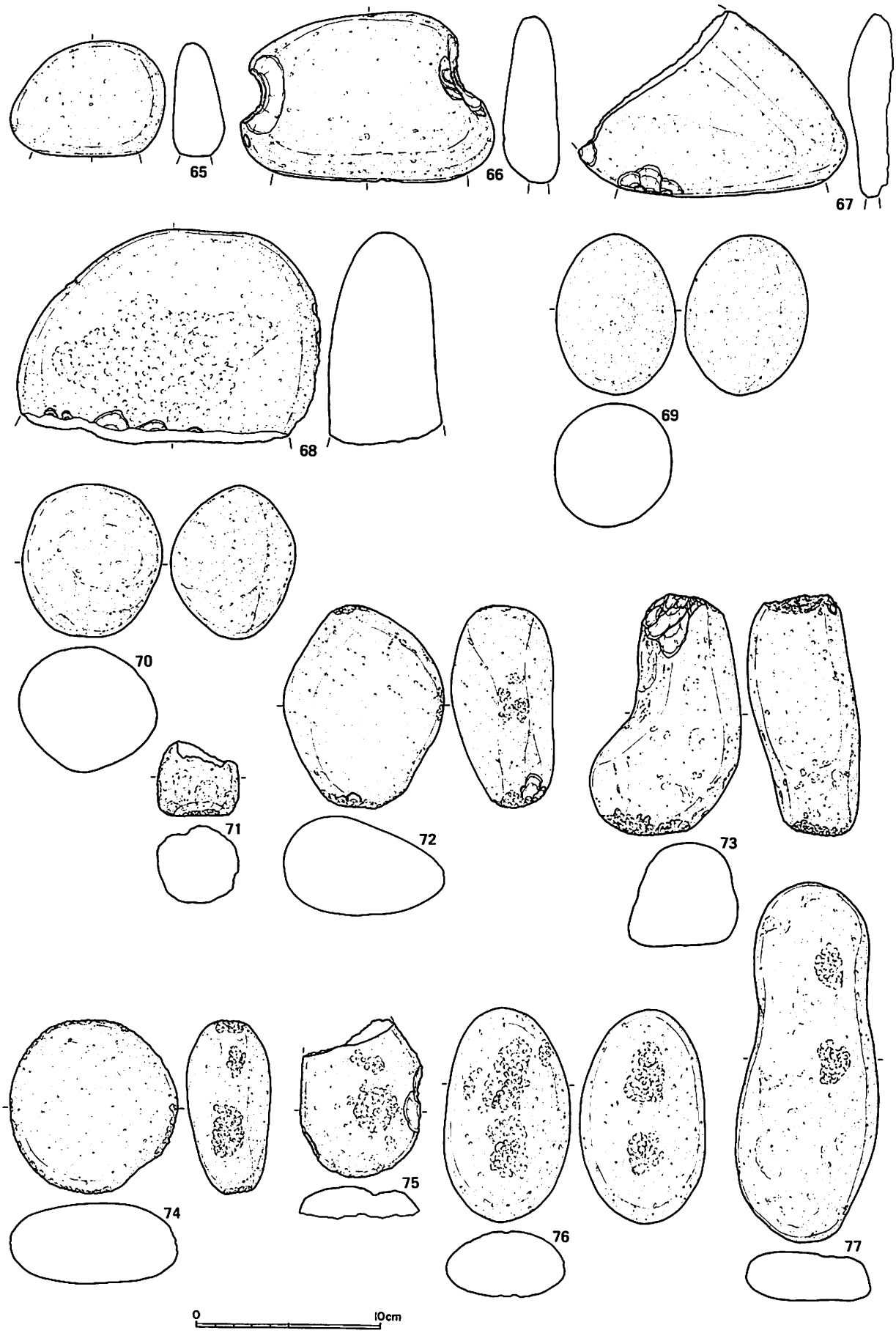
図Ⅲ—158　FH—28(3)



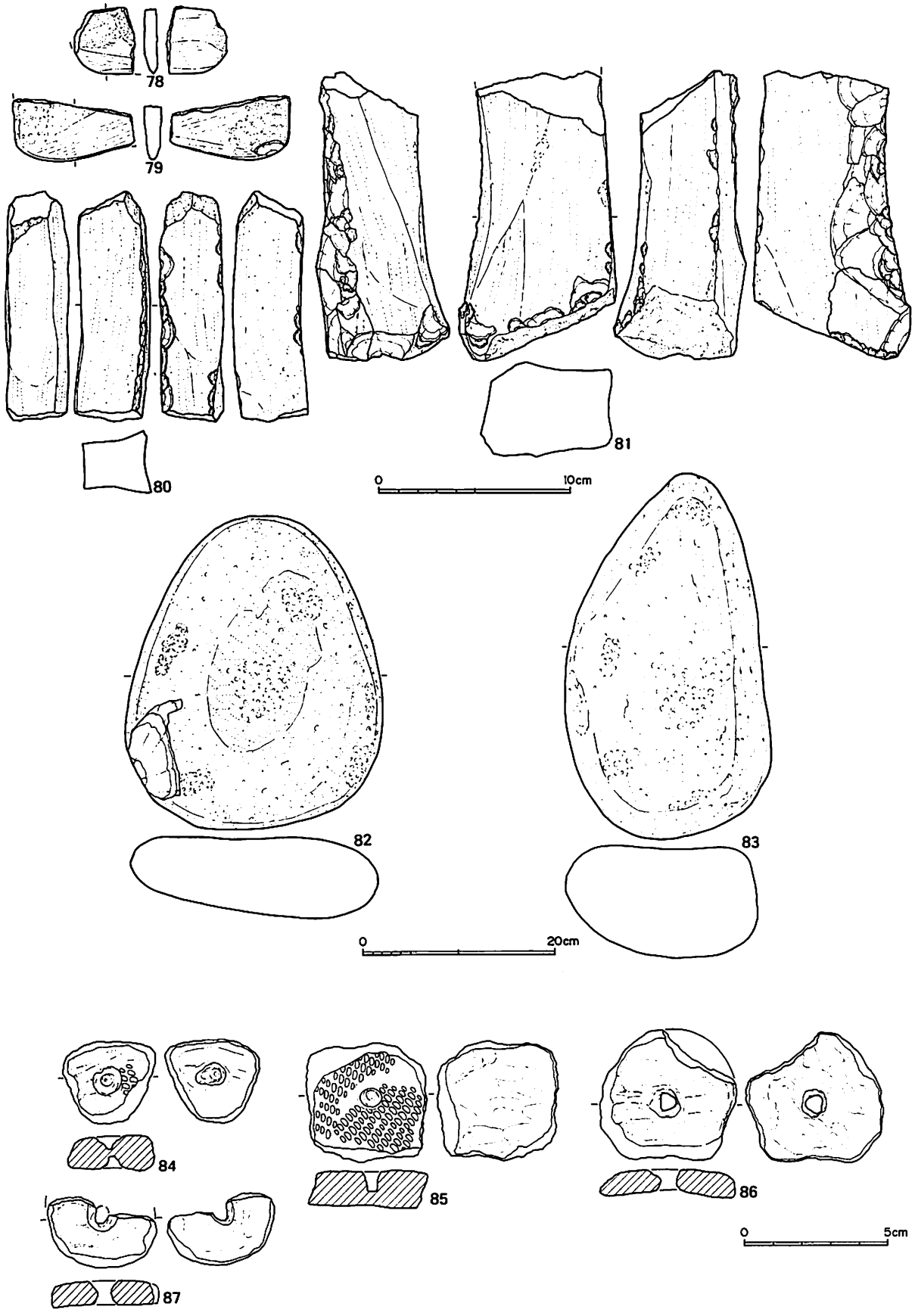
図Ⅲ－159　FH－28 遺物（1）



図Ⅲ—160　FH—28 遺物(2)



図III—161　FH—28 遺物(3)



図Ⅲ—162　FH—28 遺物(4)

FH—28（図III—156～162，図版48）

平面形　隅丸長方形　　**規模**　6.38×5.02／6.10×4.68／0.16m　　**面積**　28.53m²

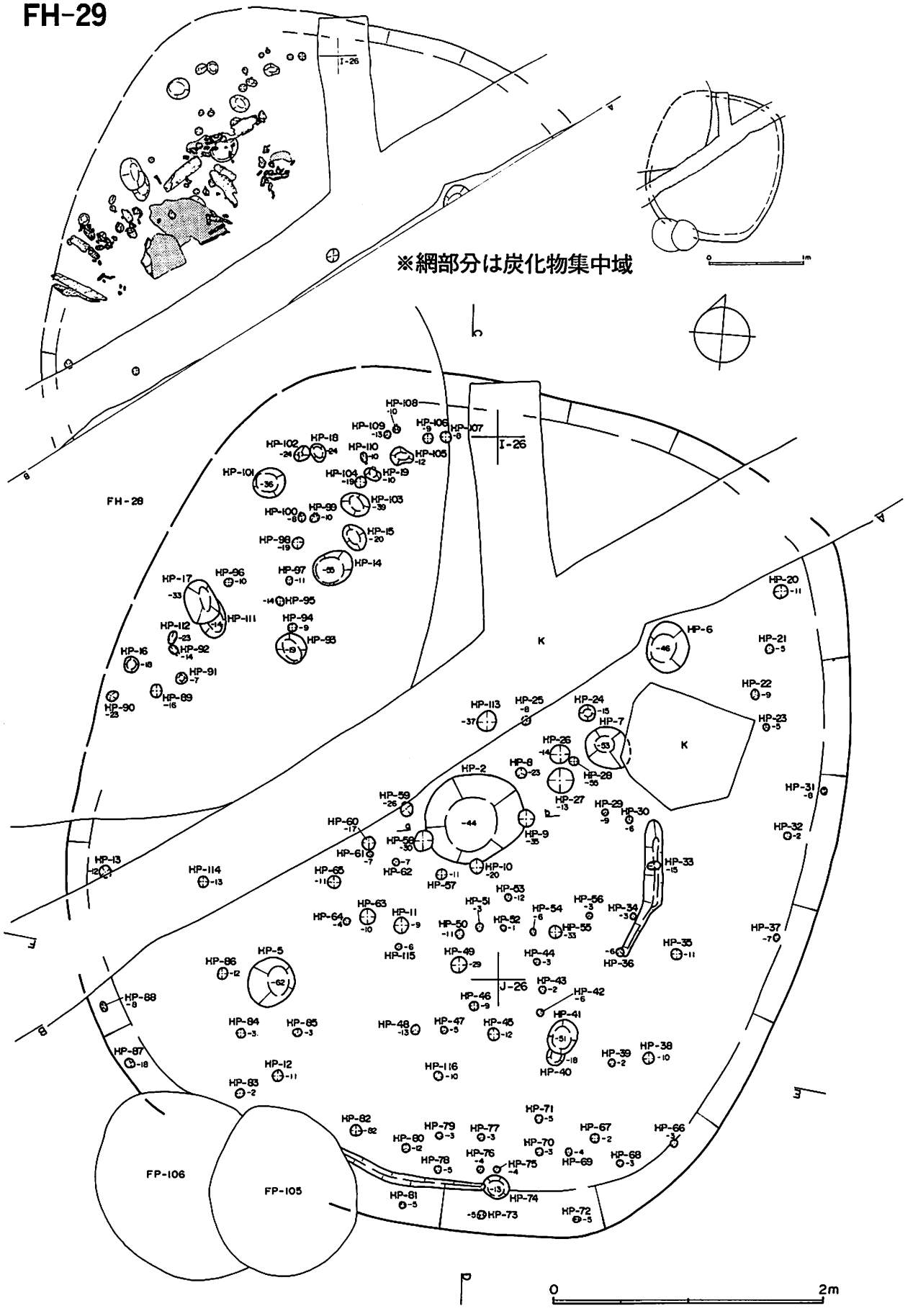
重複　FH—16・29・39より新しい。

特徴　水道管，電柱，浸透桝などによって部分的に壊されているが，主体部の遺存状況は良好である。床面は若干の凹凸がみられるが，比較的平坦で，壁面の傾斜は緩やかである。また，南東隅はFH—29の覆土中作られているため，不明瞭な部分もあり，小ピットの確認も十分にできなかった。小ピットは88ヵ所（HP—1～74•80～93），大きさ，深さなどからみてすべて柱穴とみられる。柱穴はFH—29と重複している南東隅以外はほぼ全域でみられ，大きさ，形態も様々である。複数の炉跡の状況からみて，何回かの建替え，拡張が考えられ，主柱の変遷を明確に捉えることはできないが，一例をあげれば，HP—5•11•12•38•57の5本が考えられる。また，南西および北東の壁面で確認された小型で断面が楔形のものは壁柱穴とみられる。炉跡は中央部やや北寄りで5ヵ所(HF—1～5)が確認できた。西側の3ヵ所（HF—1～3）は地床炉，東側の2ヵ所（HF—4•5）は石組炉である。ただし，2ヵ所の石組炉の石はすべて抜かれ，その痕跡だけが残っている。また，HF—5の一部は抜き跡が二重になっている部分もあるので，さらに数が増える可能性もある。柱穴の状況と同様，5ヵ所の炉跡は同時期のものではなく，時間差があるとみられるが，変遷の状況を明確にすることはできない。また，HF—1～5の焼土についてフローテーションを行ったところ，HF—1で不明種子，HF—4でオニグルミの内果皮，HF—5でマタタビ属の種子とオニグルミの内果皮が確認されている。

遺物　出土遺物総数は18,268点，その内訳は土器1,723点，石器類167点，コア・フレイク類13,386点，礫類2,979点，土製品13点，土器はIII群B3類が主体，石器は石鏃(16点)，スクレイパー(18点)，たたき石（20点），砥石（22点），石皿・台石（26点）が多い。遺物は覆土のほぼ全域で確認されている。

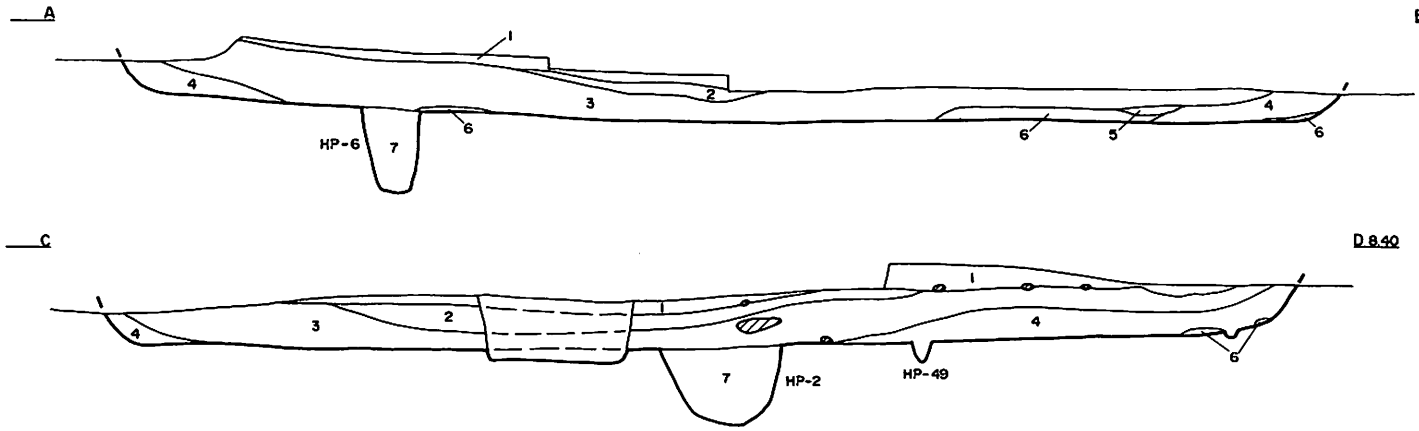
土器　II群B1類（1～4），II群B2a類（5•6），II群B2b類（7～10），II群B2c類（11～24），II群B類（25•26•39～41），III群B3類（27～38）

1～4はいずれも器面調整は粗雑である。1は口唇部が尖る。口縁部に太い縄線文が施されている。胎土に砂粒が多い。2は粗い撚糸文である。3はくびれの強い頸部になると思われる。頸部に不規則な綾絡状の縄文が，体部には粗い撚り戻しの斜行縄文が施されている。4は頸部に細い縄線文が加えられ，体部は不規則な撚糸文である。5は縄線文・縄圧痕文が施された口唇部で，口唇部直下に2条の縄線文が加えられている。体部は多軸絡条体回転文である。7は頸部に細い縄線文が施されているものである。8は半截竹管状工具による刺突に区画された幅広の頸部に弧状の縄線文が施されている。11～15は口唇部・頸部に絡条体圧痕文が施されたもので，11は口唇部下端に半截竹管状工具による刺突文が加えられている。16•17•20•21は口唇部に斜行縄文が，頸部に絡条体圧痕文が施されたもので，20は鋸歯状の絡条体圧痕文である。18は斜行縄文・半截竹管状工具による刺突文が施された口唇部で，頸部は刺突文で区画され絡条体圧痕文が施されている。体部は斜行縄文である。25～28は口唇部ないし頸部に刺突文・押引文が施されたものである。体部の縄文には結束羽状縄文と斜行縄文とがある。29～34は押引文と肥厚帯直下の円形刺突文を主要文様要素とするものである。31～34は肥厚帯直下に押引施文後に刺突を加えている。33•38は体部にも押引文が加えられている。36•37は円形刺突のみのものである。

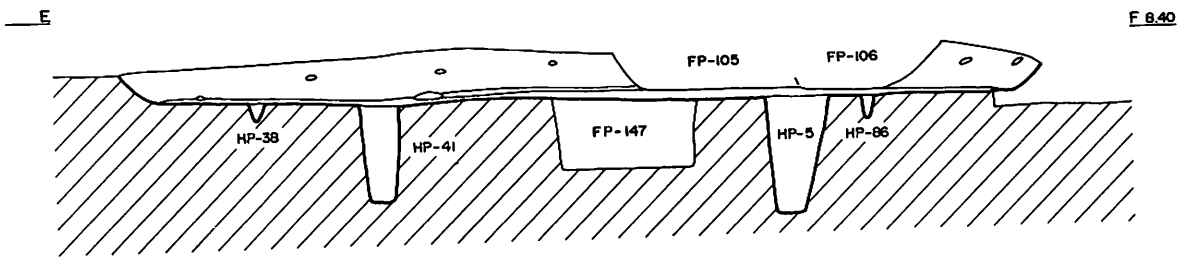


図Ⅲ—163　FH—29(1)

FH-29



1 黒色土
2 暗赤褐色土（焼土ブロックを含む）
3 暗褐色土（炭化物多量）
4 暗褐色土（黄褐色土ブロックを含む）
5 黄褐色土ブロック
6 炭化物ブロック
7 暗褐色土



0 2m

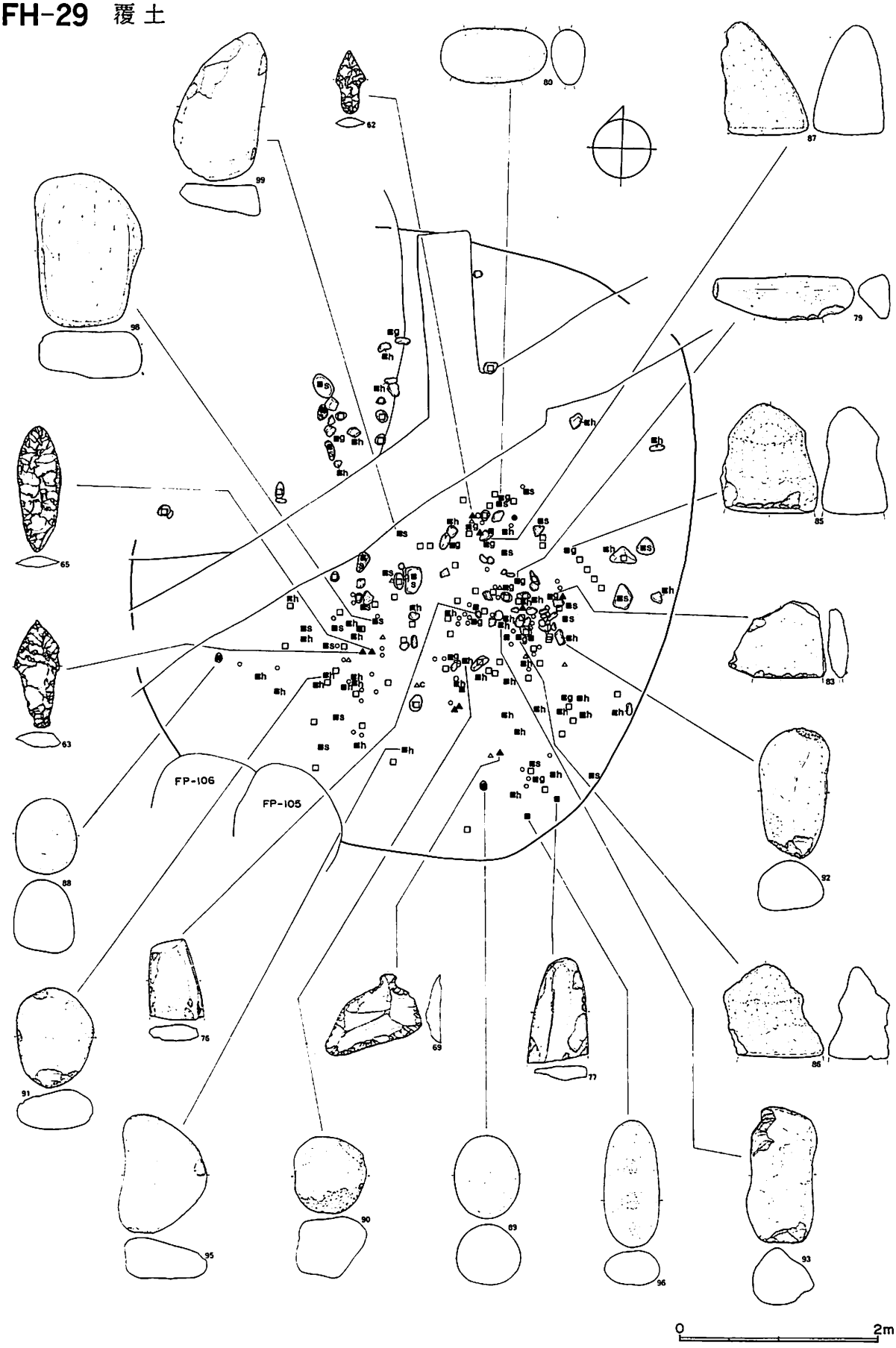
図Ⅲ－164　FH－29(２)

FH-29 覆土



図Ⅲ－165　FH－29(３)

FH-29 覆土



図III－166 FH－29(4)

石器　42は無茎平基，43～46は有茎凸基の石鏃。47・48は石錐。49～53はポイントで，50・51は安山岩製である。54～57はつまみ付きナイフで，54・55は縦形周辺加工，56は斜形片面加工，57は横形周辺加工のものである。58はエンドスクレイパー。59は両面加工の，60・61は楕円形を呈する周辺加工のスクレイパー。62は石斧。63～67はすり石。68は北海道式石冠の未成品。69・70は球石。71～74はたたき石。このうち71は石材鑑定試料で，強変質火成岩である。75～77はくぼみ石。78・79は断面ややU字形を呈する石鋸。80・81は四面使用の砥石。82・83は石皿である。

土製品　84～87は再生土製円盤，84・85は穿孔途中，86・87は有孔である。

時期　縄文時代中期末，III群 B3 類土器の時期である。

FH—29（図III—163～171，図版49・50）

平面形　隅丸長方形　　**規模**6.18×5.72／5.54×5.10／0.30m　　**面積**　29.53m²

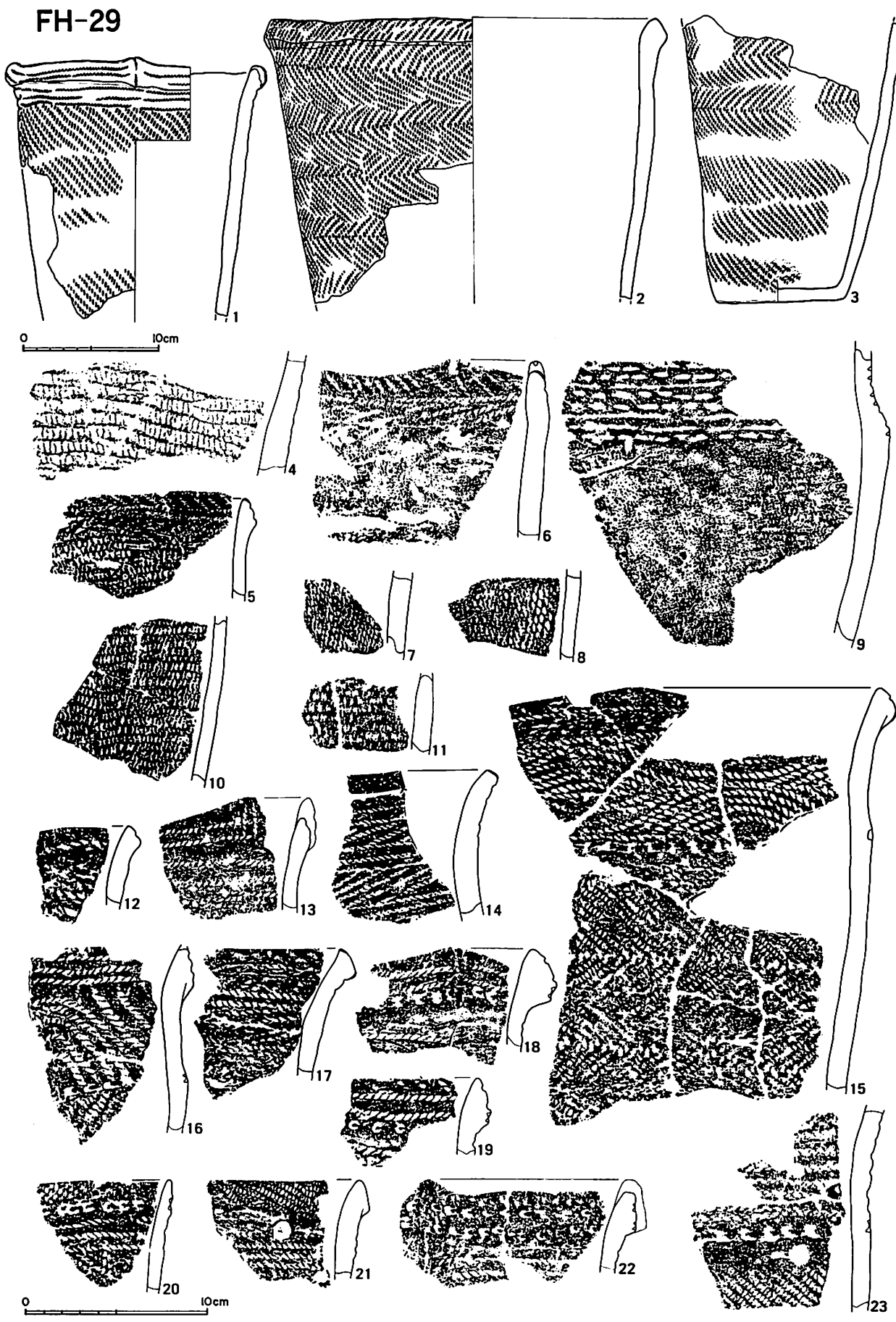
重複　FP—145・146・147より新しく，FH—28，FP—100・101・102・105・106・126・150より古い。

特徴　掘り方がしっかりしていて，壁面も30cmの高さで残存していたが，北西側は水道管による撹乱とFH—28による上部の破壊で，遺存状況は不良であった。床面は平坦で，壁面の角度は45°に近い傾斜である。また，南側の一部では長さ1mの周溝，中央やや東寄りにも長さ1m程の溝がみられる。小ピットは113カ所（HP—2・5～116），大きさ，深さなど様々で，ほぼ中央にある大型のHP—2は付属施設，他は柱穴とみられる。主柱はHP—5・6・14・41の4本と考えられ，北西部のFH—28と重複した部分の柱穴の中にはFH—28のものも含まれている。大部分の柱穴は断面が楔形の打ち込み式で，当住居跡に伴うもののほか，住居廃絶後に打ち込まれたものがあるのかも知れない。炉跡は確認されなかった。当住居跡は火災住居とみられ，覆土2層では焼土ブロック，3層では多量の炭化物が確認されている。2層の焼土ブロックは住居の被覆土が焼けたもの，3層の炭化物は構造材が炭化したものとみられる。炭化材は細片化していたが，FH—28と重複していた北西部の床面で良好な状況で確認できたので，図化し，サンプリングを行い，樹種の同定を行った。確認された樹種ではクワ属が多く，次いでシナノキ属，さらにわずかにニレ属，カエデ属，クルミ属がみられた。

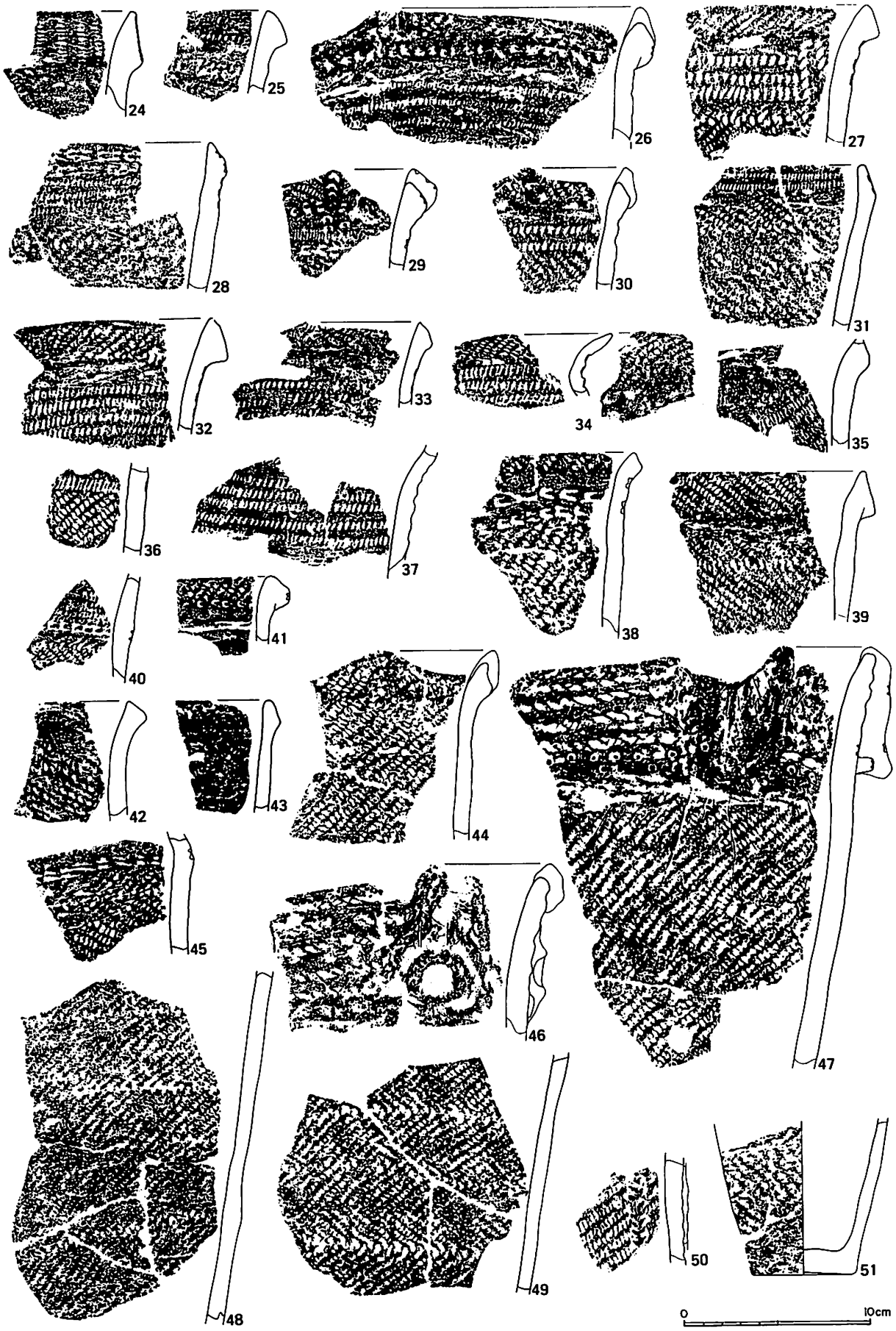
遺物　出土遺物総数は8,500点，その内訳は2,165点，石器類242点，コア・フレイク類2,410点，礫類3,674点，土製品9点，土器はII群 B2 類が主体，石器は石鏃(26点)，スクレイパー（30点），石皿・台石（29点）が多いが，たたき石（67点）が際立って多い。遺物は覆土のほぼ全域で確認されているが，中央部に集中しているようである。

土器　II群 A1 類（4），II群 B2a 類（5～11），II群 B2b 類（1・12～23），II群 B2c 類（24～37・40），II群B類（3・38・39・41～45・48・49・51），III群 A1 類（46・47），III群 B1 類（51）

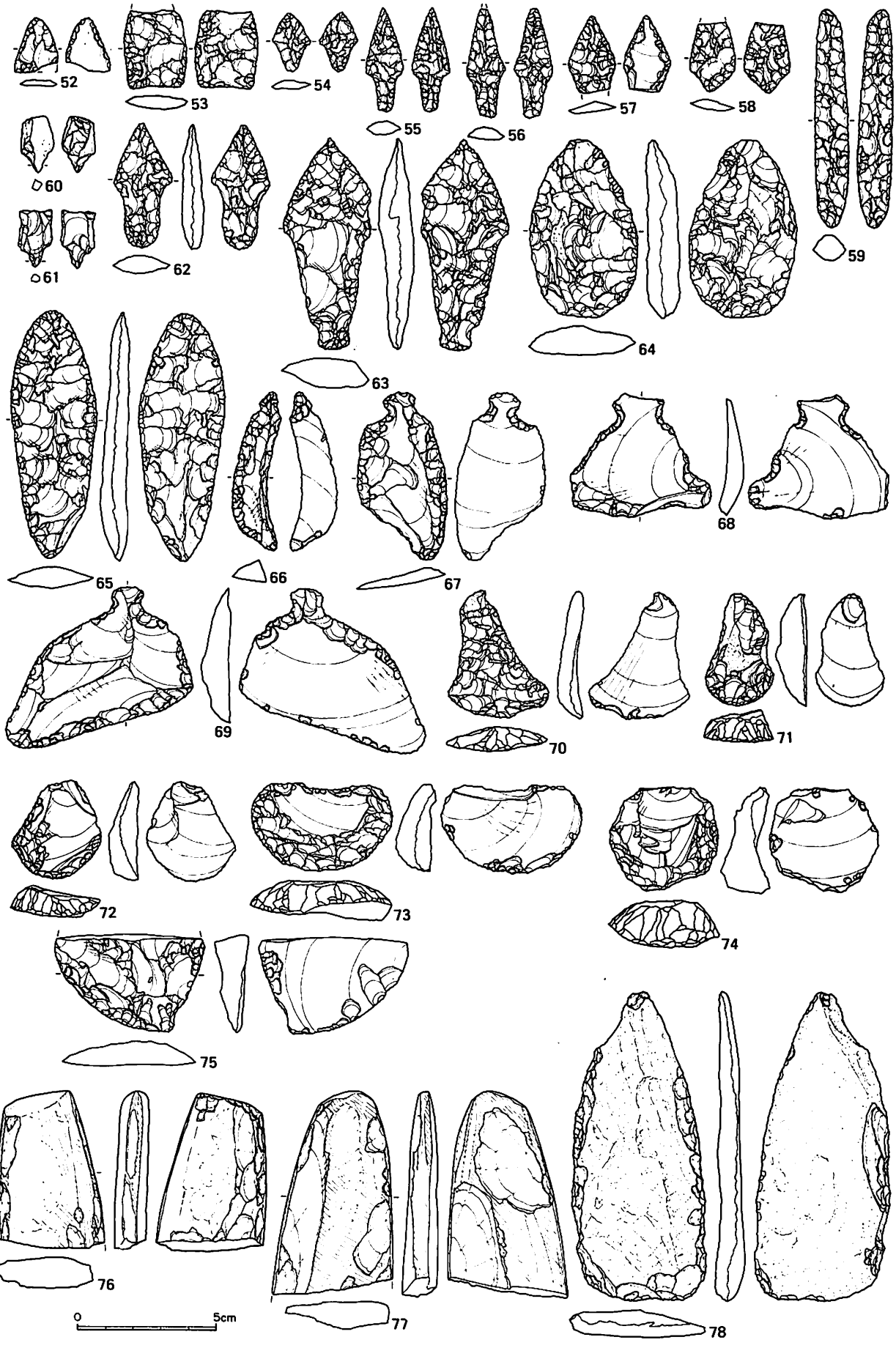
1は横走縄文で，胎土に繊維・砂粒が少なく，小礫が多い。5・6は縄線文・縄圧痕文が施された口唇部で，体部は多軸絡条体回転文である。7・8は撚糸文である。9はくびれが強い頸部で，無文地に縄線文・棒状工具による刺突文が施されている。体部は多軸絡条体回転文である。1・12～19は口唇部・頸部に縄線文・縄圧痕文が施されたものである。1は切り出し状の口唇断面で，無文地の口唇部・頸部に縄線文が施されている。体部は斜行



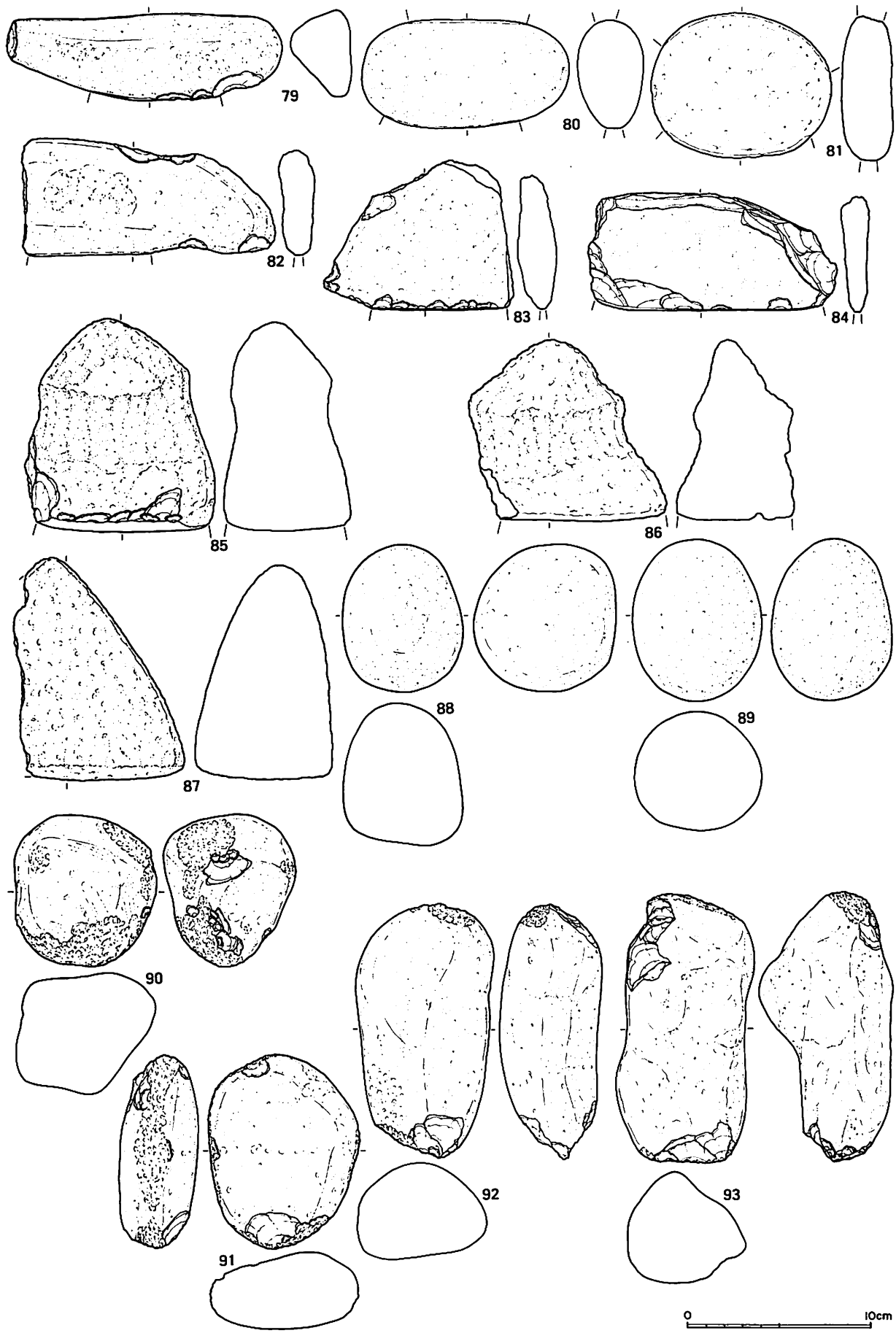
図Ⅲ－167　FH－29 遺物（1）



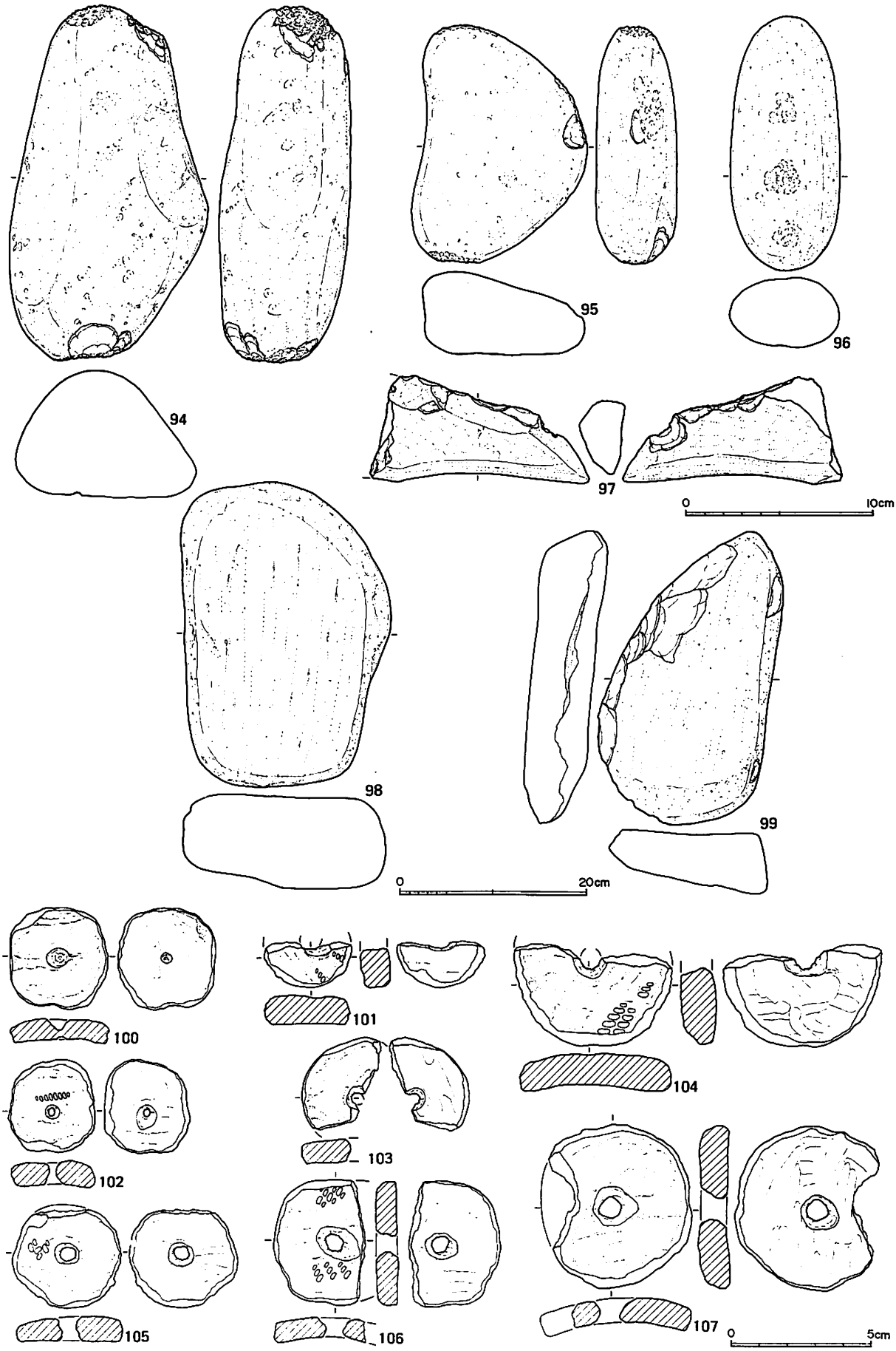
図Ⅲ－168　FH－29 遺物（2）



図III－169　FH－29 遺物（3）



図Ⅲ—170　FH—29 遺物(4)



図III—171 FH—29 遺物(5)

縄文である。胎土に砂粒が多く，繊維が少ない。14は角形の口唇断面で，頸部に多段の縄線文が施されている。15・16は半截竹管状工具に区画された幅広の頸部に弧状の縄線文が施されている。20は口唇部に斜行縄文・半截竹管状工具による刺突文や押引文が施され，頸部に縄線文が加えられたものである。24・25・31は口唇部に絡条体圧痕文が施文されたものである。24は鋸歯状の絡条体圧痕文が施されている。26～30・32～35は口唇部に縄文・半截竹管状工具による刺突文・押引文が施され，頸部に絡条体圧痕文が施されたものである。40の頸部は押引が加えられた薄い貼付帯で区画されている。27は切り出し状の口唇部断面で，頸部は絡条体圧痕文と縄線文が施文されている。体部は結束羽状縄文である。34は頸部の外反が強く，器形は壺形になるものと思われる。35は頸部に鋸歯状の絡条体圧痕文が施されている。2は口唇部に斜行縄文が，体部は結束羽状縄文が施されている。38は口唇部直下に半截竹管状工具による押引文が施されている。46・47は口縁はやや波状気味で，2本一対の口縁から垂下する貼付紐による突起をもつ。口頸部を太い貼付帯で区画し，縄線文が施されている。そして，46の突起直下にはドーナツ状の貼付が，47の貼付帯には円形刺突文が加えられている。体部は斜行縄文である。50は半截竹管状工具による刺突文が加えられた貼付帯がある。

石器　52・53は無茎平基の，54～56は有茎凸基の，57・58は菱形を呈する石鏃である。59～61は石錐で，59は棒状のもの。62・63は有茎の，64・65は木葉形のポイント。66～69はつまみ付きナイフで，66・67は縦形周辺加工，68は横形周辺加工，69は斜形周辺加工のもの。70～74はエンドスクレイパー。75は片面加工のスクレイパー。76・77は石斧で，78はその未成品である。79～84はすり石。このうち83は石材鑑定試料で，輝石安山岩である。85～87はいずれも尖頂の北海道式石冠であるが，87には「鉢巻」が施されていない。88・89は球石。90～95はたたき石。96はくぼみ石。97は断面がやや広がったV字形を呈する石鋸。98・99は石皿である。

土製品　100～107は再生土製円盤，100は穿孔途中，101～107は有孔である。

時期　縄文時代前期末～中期初頭，II群B2類土器の時期と考えられる。出土した炭化材で^{14}C年代を測定したところ，4,300±40 y. B. P.（KSU—2051）という年代が得られた。

FH—30（図III—172・174，図版51）

平面形　楕円形　　**規模**　2.85×2.60／2.65×2.39／0.18m　　**面積**　6.13m²

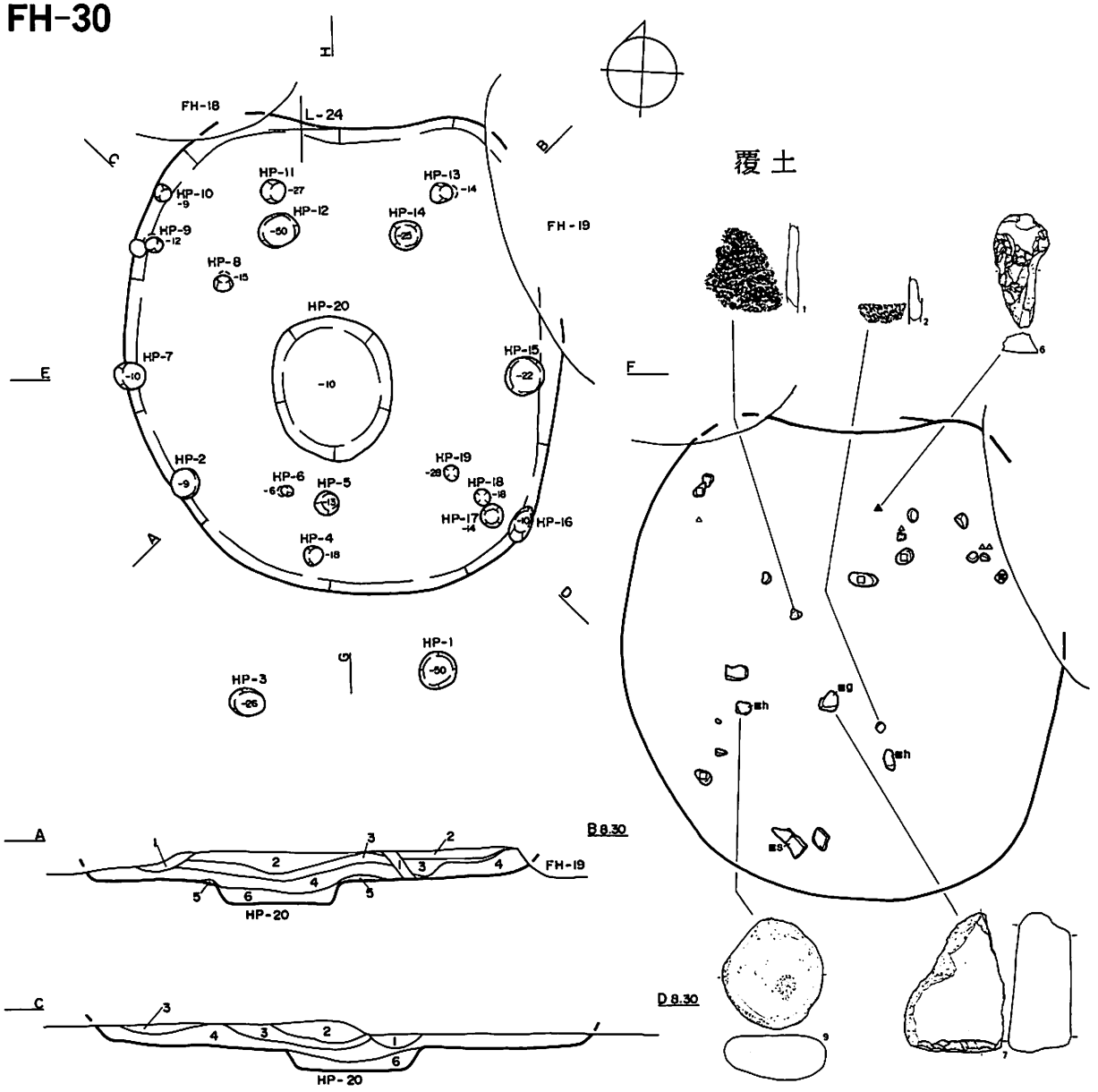
重複　FH—18・19より古い。

特徴　床面は平坦で，壁面の傾斜は比較的急角度である。小ピットは住居跡内外で20カ所（HP—1～20）確認された，大型で，中央やや南寄にあるHP—20は付属施設とみられ，覆土からは炭化物が多量に出土している。他は柱穴とみられるが，主柱は明瞭でない。炉跡は確認されていない。覆土は暗黄褐色土（2～4層）が主体で，炭化物や黄褐色土ブロックが含まれている。

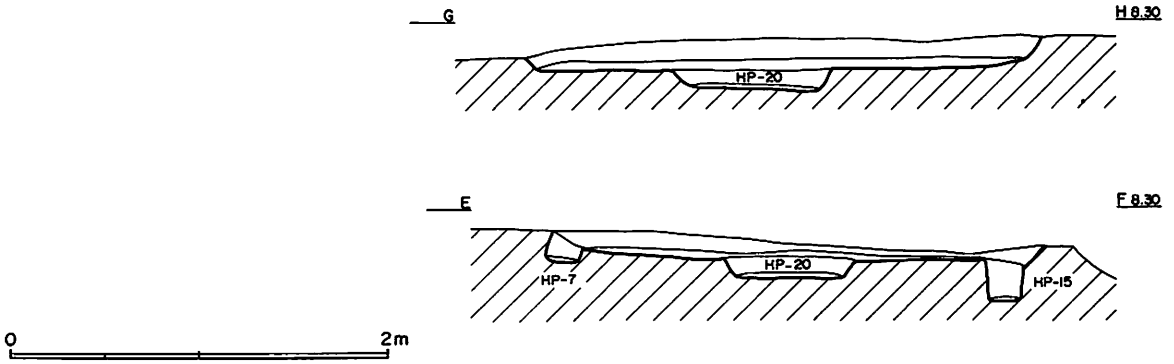
遺物　出土遺物総数は221点，その内訳は土器28点，石器類8点，コア・フレイク類91点，礫類94点，土器はII群B類のみ，石器はたたき石3点以外はスクレイパー，北海道式石冠，球石，砥石，石皿・台石が各1点出土しているだけである。遺物は覆土のほぼ全域から散発的にみられただけである。

土器　II群B類（1～5）

FH-30

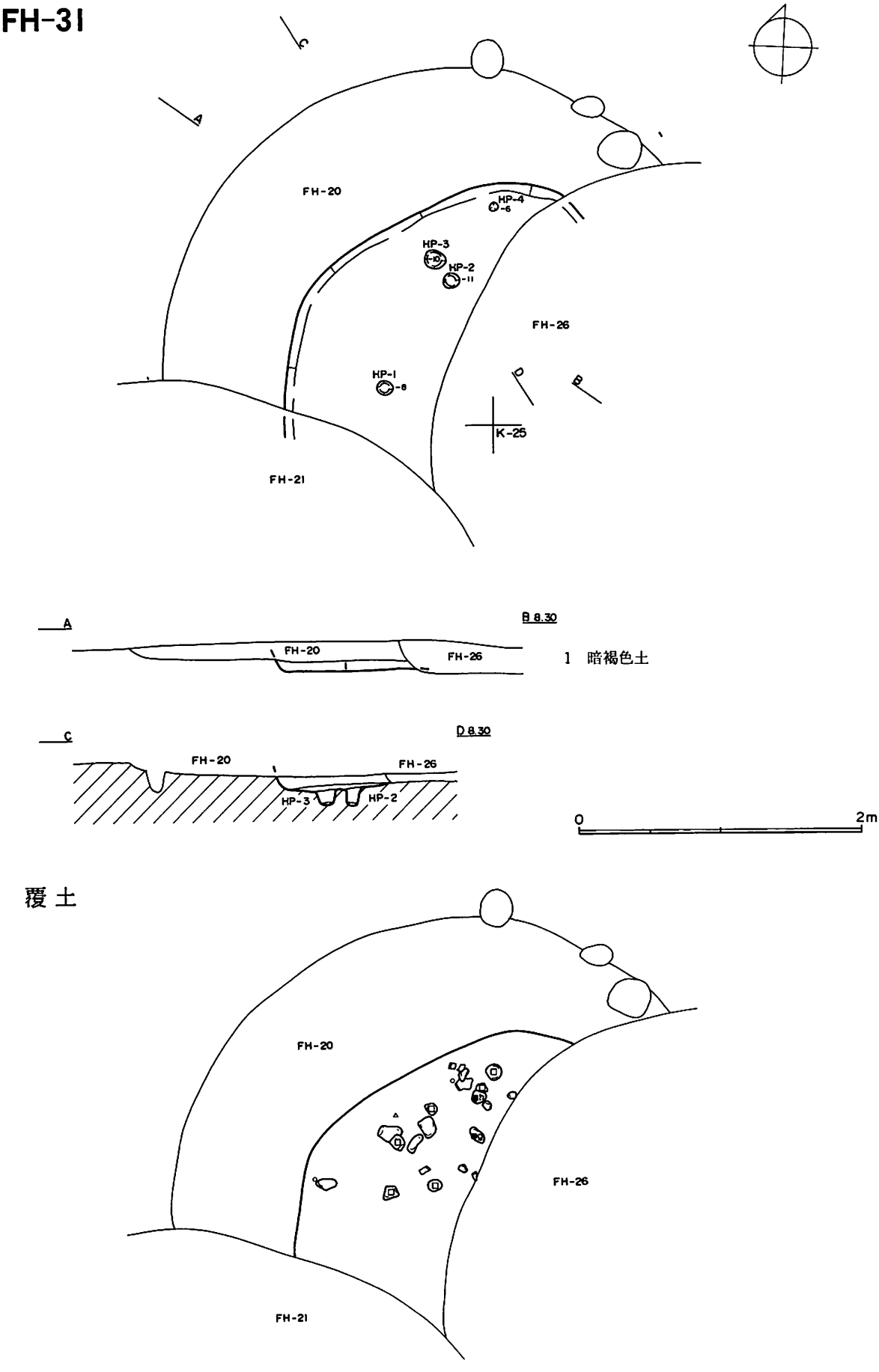


1　黒色土（攪乱）
2　暗黄褐色土
3　暗黄褐色土（炭化物・黄褐色土ブロックを含む）
4　暗黄褐色土（炭化物を含む）
5　黄褐色土ブロック
6　暗黄褐色土（炭化物・黄褐色土粒多量）

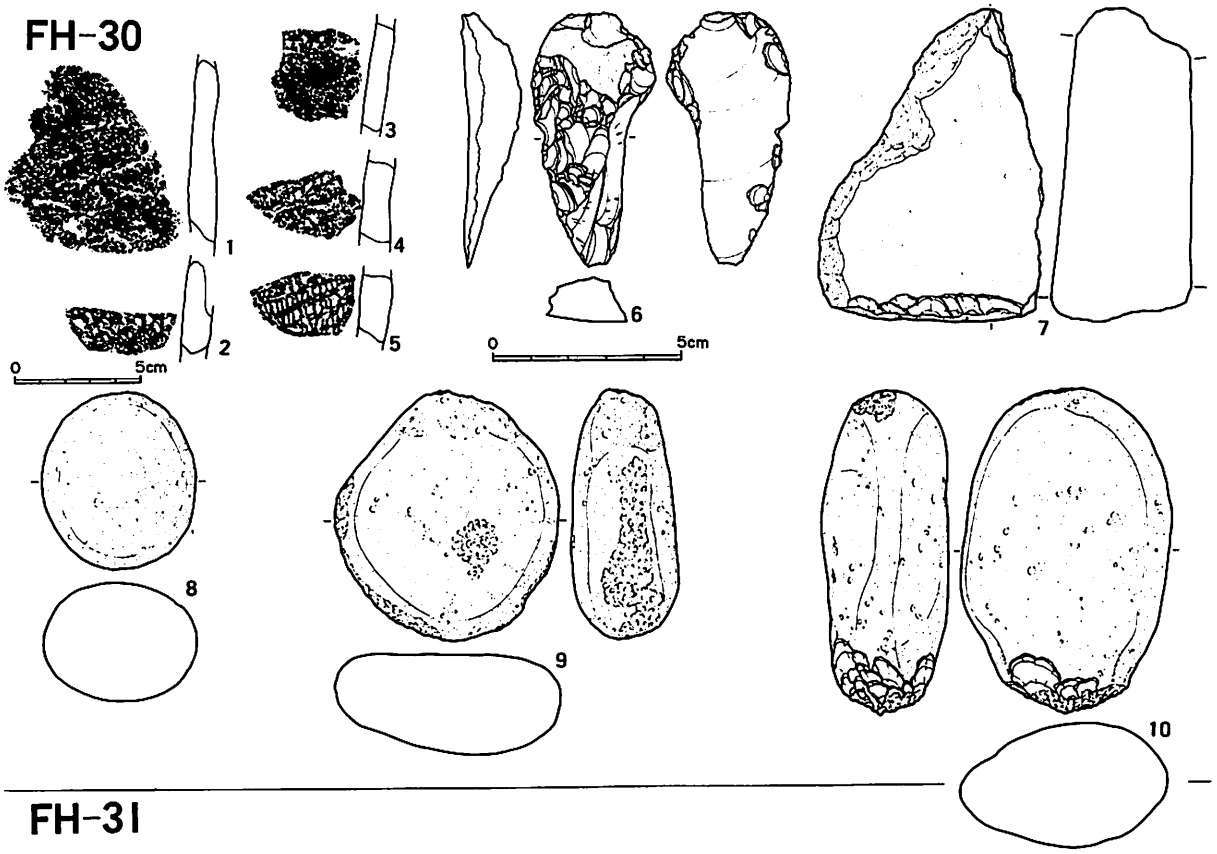


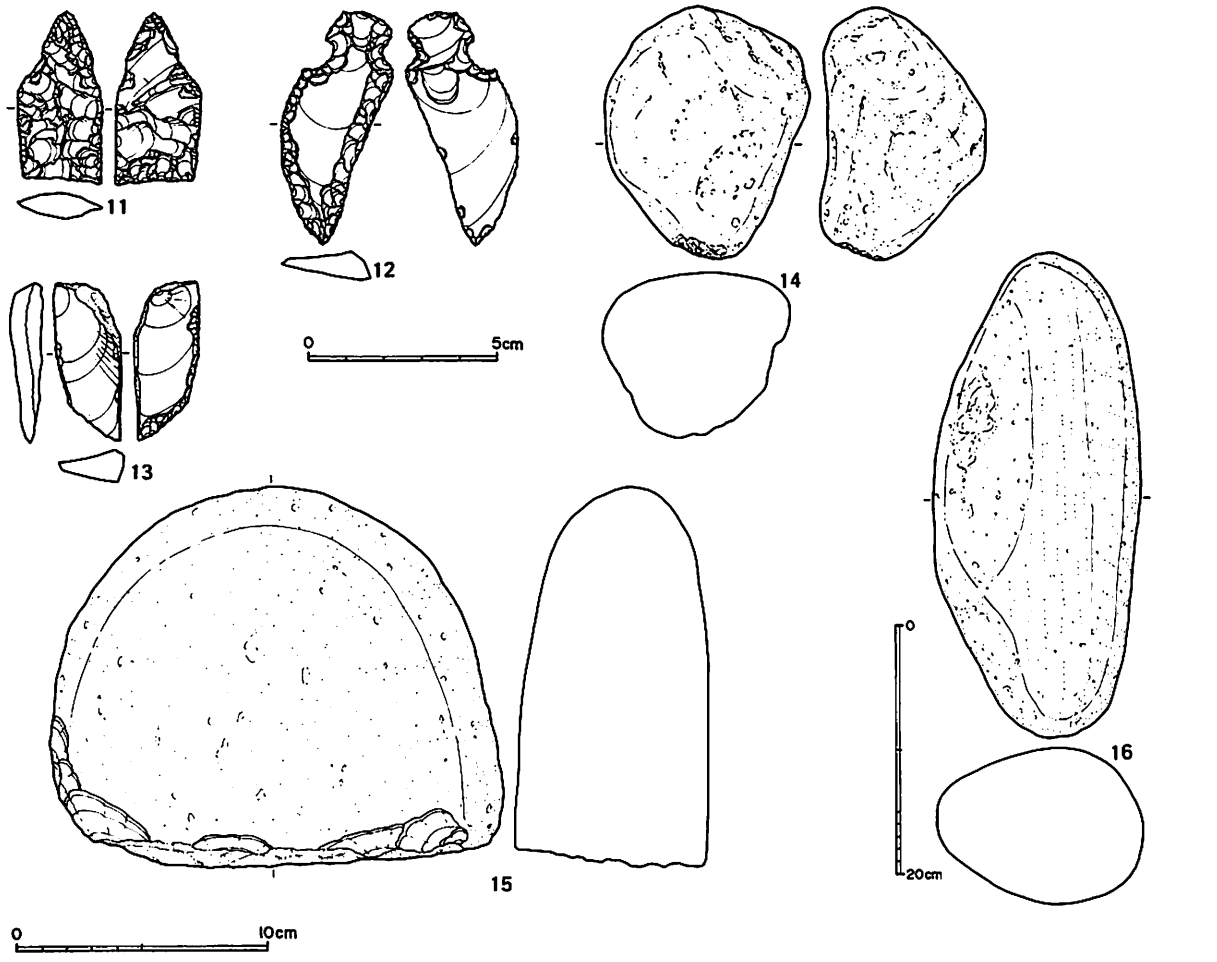
図Ⅲ—172　FH—30

FH-31



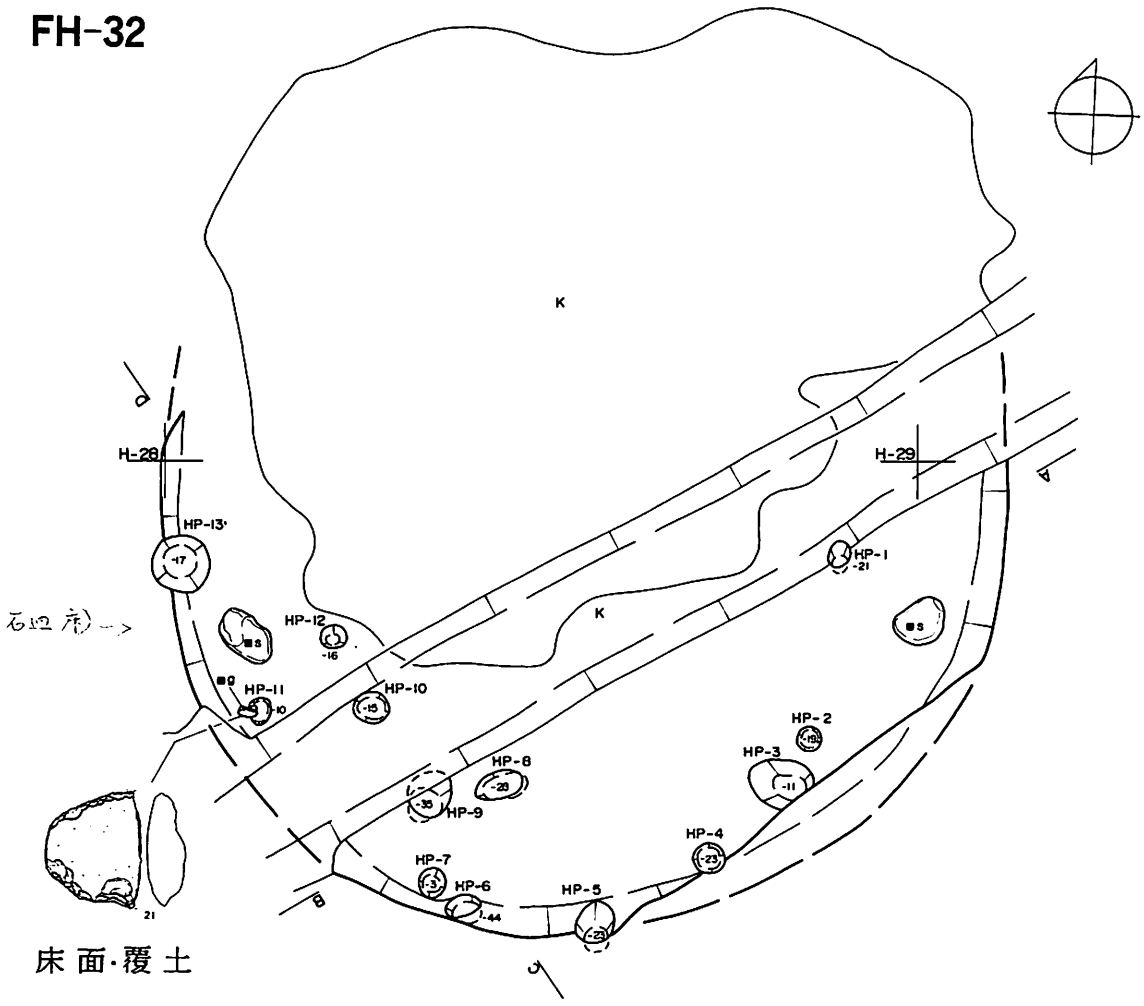
図Ⅲ—173 FH—31

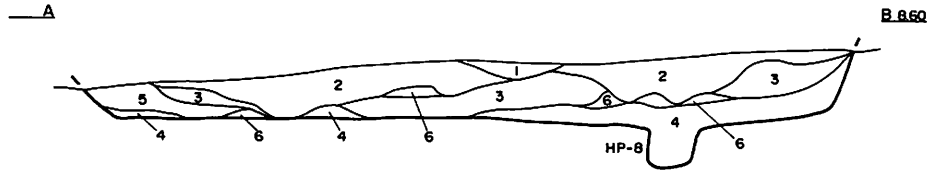




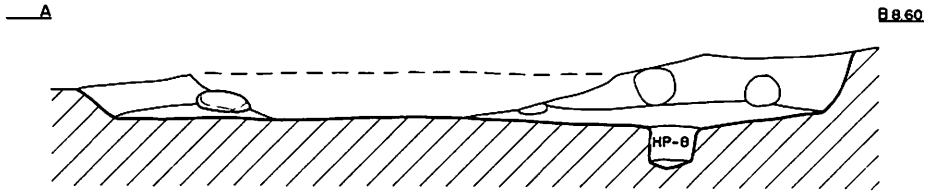
図III—174 FH—30・31 遺物

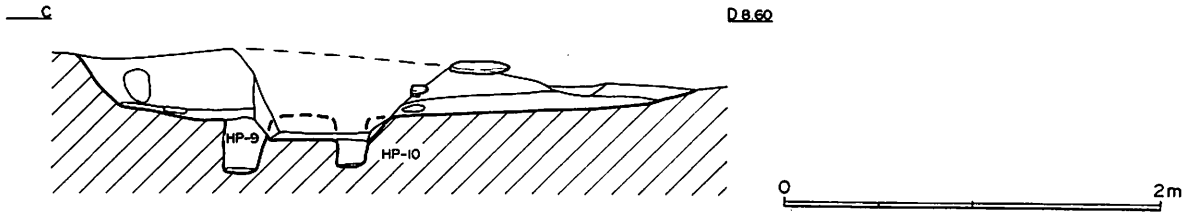
FH-32



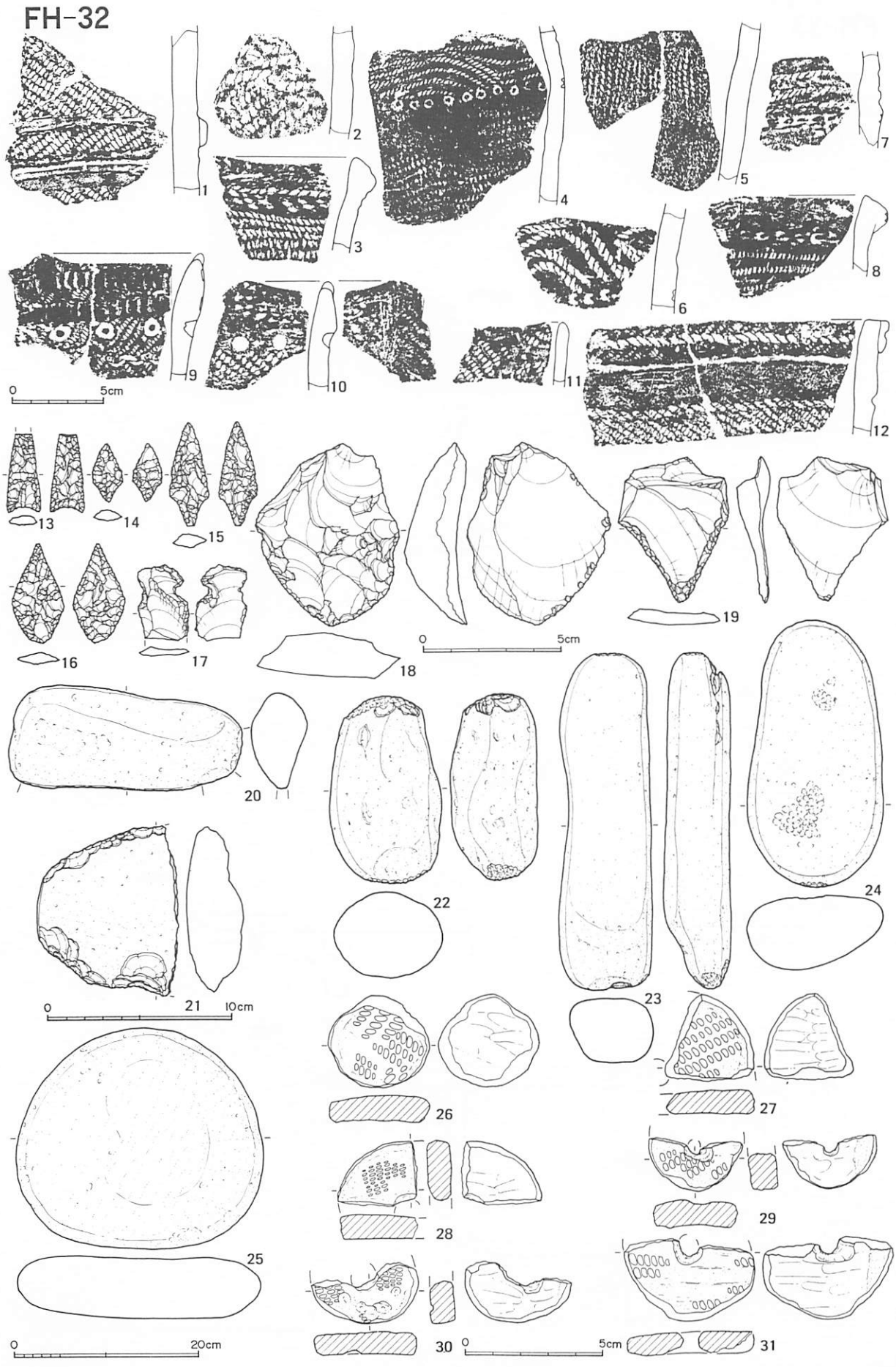


1 黒色土（第II層）
2 暗褐色土（第IIb層に近い）
3 褐色土（黄褐色土ブロック若干）
4 暗褐色土（黄褐色土ブロック多量）
5 暗褐色土（炭化物若干）
6 黄褐色土ブロック



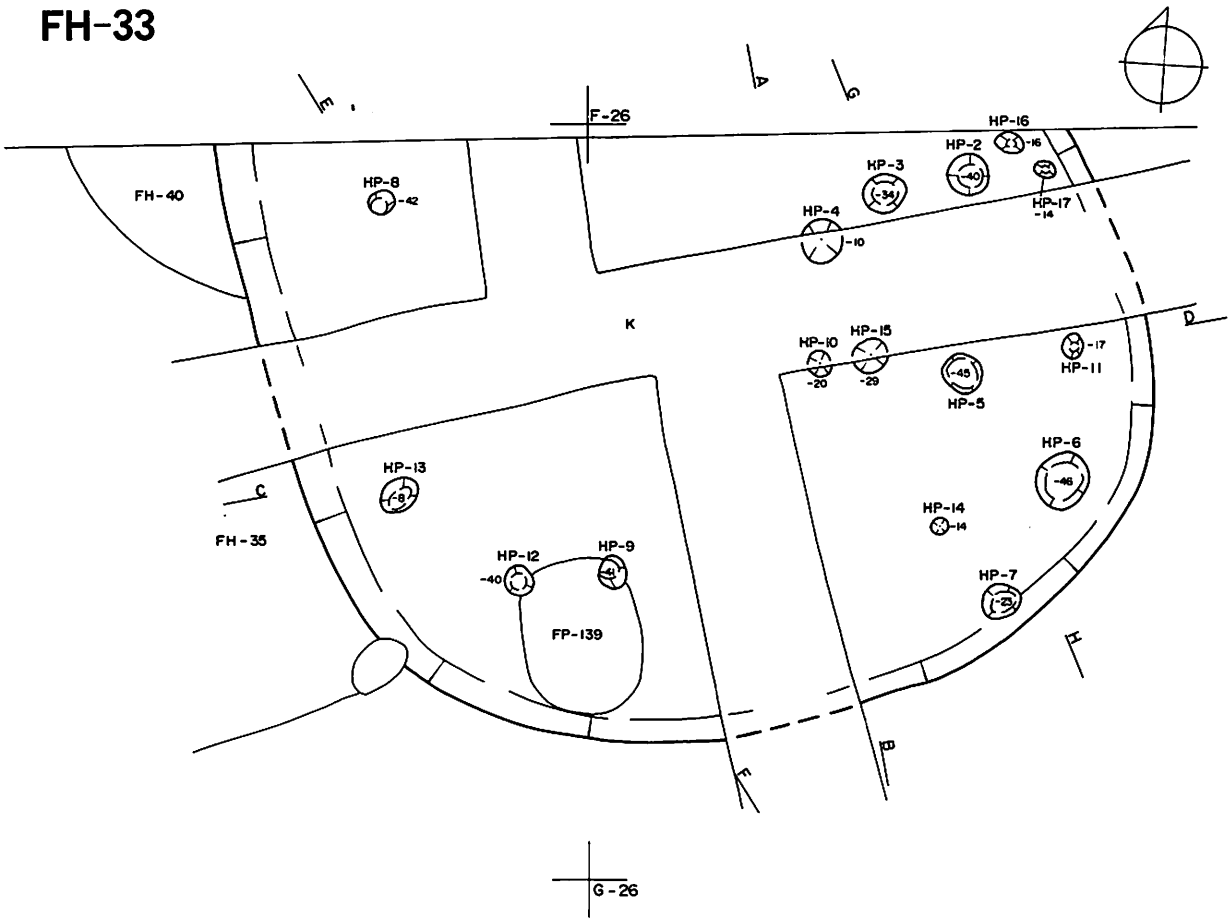


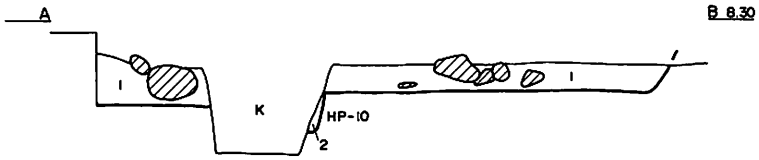
図III—175 FH—32

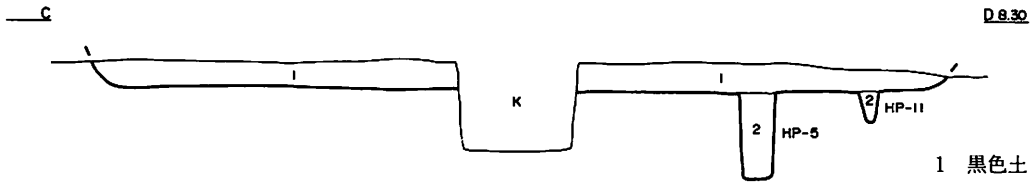


図III—176　FH—32 遺物

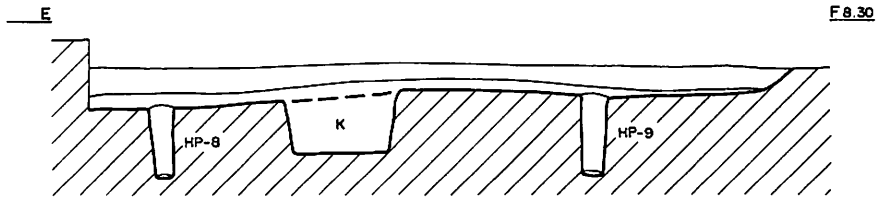
FH-33

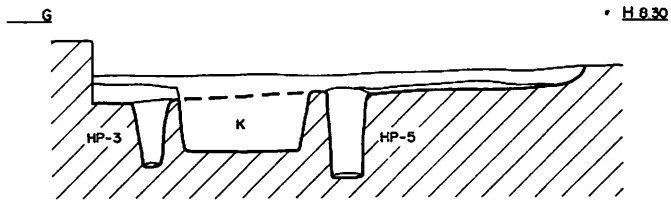


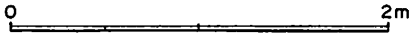




1 黒色土



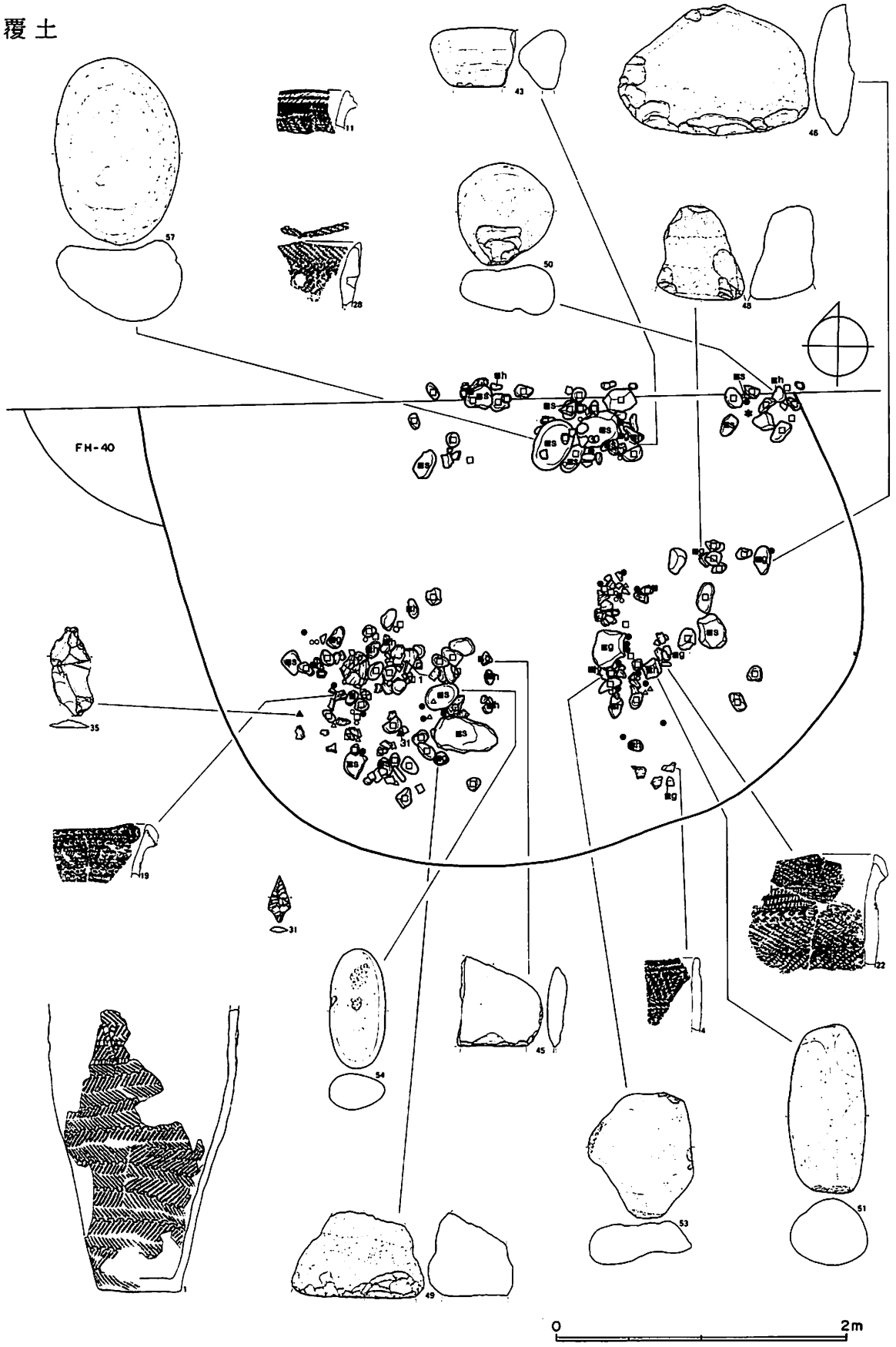




図Ⅲ—177 FH—33(1)

FH-33

覆土



図Ⅲ－178　FH－33(２)

いずれも小破片である。1は摩滅が著しく，胎土は繊維・砂粒が多い。2・4は斜行縄文である。2は胎土に繊維・砂粒を多く含む。3は結束羽状縄文と思われる。胎土に小礫を多く含み，繊維・砂粒が少ない。

石器　6は外湾する刃部をもつ周辺加工のスクレイパー。7は北海道式石冠の未成品。8は球石。9・10はたたき石。

時期　縄文時代前期末～中期初頭，II群B類土器の時期と考えられる。

FH—31（図III—133・173・174，図版52）

平面形　—　　**規模**　(2.50)×(1.78)／(2.37)×(1.72)／0.09m

面積　1.92m²　　**重複**　FH—20より新しく，FH—21・26より古い。

特徴　FH—21・26によって南東側の大部分が壊されているので，全体の状況はわからない。残存している床面は比較的平坦で，壁面は9cmの高さしか残っていない。小ピットは4カ所（HP—1～4），いずれも柱穴とみられる。覆土は暗褐色土層のみである。

遺物　出土遺物総数は398点，その内訳は土器49点，石器類12点，コア・フレイク類191点，礫類146点，土器はII群B類が主体，石器では砥石（4点）が多い。遺物は残存している部分の北側に主に分布している。

石器　11は無茎平基の石鏃。12は斜形周辺加工のつまみ付きナイフ。13は外湾する刃部をもつ周辺加工のスクレイパー。14はたたき石。15は北海道式石冠の未成品。16は台石である。

時期　縄文時代前期末～中期初頭，II群B類土器の時期と考えられる。

FH—32（図III—175・176，図版52）

平面形　円形？　　**規模**　4.50×(2.70)／4.24×(2.50)／0.38m

面積　(18.28)m²　　**重複**　なし

特徴　北側の大部分が風倒木によって，また中央部が排水路によって壊されていて，残存しているのは南東および西側の一部分のみである。残存している床面は凹凸がみられ，壁面も比較的急角度で立ち上がる。小ピットは13カ所(HP—1～13)，いずれも柱穴とみられるが，主柱は明瞭でない。残存している床面には炉跡はなく，覆土は六層に分けたが，全体に黄褐色土ブロックがみられた。

遺物　出土遺物総数は627点，その内訳は土器295点，石器類22点，コア・フレイク類184点，礫類120点，土製品6点，土器はII群B2類が主体，石器では石鏃（7点）が多い。遺物は覆土中から散発的に確認されたものが多いが，西側の床面では石皿・台石が1点みられた。

土器　II群B1類(1・2)，II群B2a類(3～5)，II群B2b類(6・7)，II群B2c類(8)，III群B3類（9～11），IV群A類（12）

1は上下に沈線が加えられたタガ状の貼付帯がある。2は綾絡文状の縄文と斜行縄文が施されている。3は縄線文・縄圧痕文が施された口唇部で，体部は多軸絡条体回転文である。4・6は幅広の口頸部に弧状の縄線文が施されている。4は円形刺突文，6は半截竹管状工具の刺突文で口頸部が区画されている。8は斜行縄文・半截竹管状工具の刺突文が施された口唇部で，無文地の口頸部の絡条体圧痕文が施されている。9は箆状工具で，10は半截竹管状工具の押引文が施されている。11は丸味をもつ口唇部である。器面調整は粗雑である。胎土には小礫が多い。12は角型の口唇部に縄線文が加えられたタガ状の貼付帯を

もつ。貼付帯直下に縄線によって区画された無文帯がある。

石器　13は無茎凸基の，14・15は有茎凸基の，16は木葉形円基の石鏃である。17は縦形周辺加工のつまみ付きナイフ。18は片面加工の，19は尖頭部を有するスクレイパーである。20・21はすり石。22～24はたたき石。25は石皿である。

土製品　26～31は再生土製円盤，26は無孔，27～31は有孔で，27・28は周縁が丁寧に擦られている。

時期　縄文時代前期末～中期初頭，II群 B2 類土器の時期と考えられる。

FH—33（図III—177・178・180～182，図版53）

平面形　卵形？　　**規模**　(3.65)×4.50／(3.55)×4.20／0.20m

面積　(13.20)m²　　**重複**　FH—35・40，FP—139より新しい。

特徴　家の基礎工事によって中央部が十字形にトレンチを入れたように壊されている。北側の未調査区域にのびており，全体の状況は明らかでない。床面は北側に向ってわずかに傾斜し，壁面の傾斜は比較的緩やかである。小ピットは16カ所(HP—2～17)，すべて柱穴とみられる。主柱の確定は難しいが，4ないし5本と思われ，HP—5または6・8・12がその一部となる可能性が考えられる。残存している床面に炉跡はみられず，覆土は黒色土層のみである。

遺物　出土遺物総数は24,254点，その内訳は土器1,313点，石器類114点，コア・フレイク類21,304点，礫類1,499点，土製品1点，土器はII群B類とIII群 B3 類が多く，石器ではすり石（13点），たたき石（25点），石皿・台石（20点）が多い，遺物は礫石器，礫類が4カ所に集中して確認されたが，本来は全面にあったものが，基礎工事で撹乱されて分かれたものと思われる。

土器　II群 B1 類（4・5），II群 B2a 類（3・6～10），II群 B2b 類(11～17)，II群 B2c 類（18～22），III群 B3 類（1・2・23～27）

3は無文地に棒状工具による刺突が下方から加えられたものである。胎土は砂粒が多く，無繊維である。4の口縁部は縄線文によって区画され，体部に菱目状の縄線文が施されている。5は口縁部の表裏に不規則な斜行縄文が施されている。6の口縁は波状で，突起先端部に縄圧痕文がある。幅広の口頸部には多段の縄線文が施されている。11は口頸部に鋸歯状の縄線文が施されている。18・19・22は口唇部に絡条体圧痕文が施されたものである。19は口頸部には鋸歯状の絡条体圧痕文が施されている。20・21は口唇部に斜行縄文が施され，口頸部には絡条体圧痕文が施されている。1は口縁部を欠損する。結節羽状縄文が施された体部上半には，押引文が加えられた貼付帯がある。2は揚げ底で，体部には結束羽状縄文が施されている。23は口唇部に篦状工具で押引文が施されたもので，体部には斜行縄文上に押引文が加えられた細い貼付帯が施されている。26・27は体部に押引文が加えられたものである。27の押引文の交点に円形刺突文が加えられている。28～30は刺突文のみのものである。29・30は口唇部が丸味をもつものである。

石器　31・32は有茎凸基の石鏃。33は石錐。34は縦形両面加工の，35は縦形周辺加工のつまみ付きナイフ。36はエンドスクレイパー。37～40はスクレイパーで，37・40は尖頭部を有するもの。38は両面加工のもの。39は直線状の刃部をもつ周辺加工のものである。41・42は石斧。43～49はすり石で，45・46は半円状扁平打製石器と称されているもの。48・49

は北海道式石冠である。50～53はたたき石。このうち51は石材鑑定試料で，強変質酸性火山岩である。54はくぼみ石。55は断面V字形の石鋸。56は砥石。57は石皿である。

土製品・骨角器　58は有孔の再生土製円盤片，59は銛頭の破片である。59は焼けて白色化し，若干変形していると思われるが，開窩式の銛頭である。

時期　縄文時代中期末，III群 B3 類土器の時期と考えられる。

FH—34（図III—179・182，図版54）

平面形　隅丸長方形　　**規模**　2.66×2.05／2.38×1.78／0.14m　　**面積**　(4.78)m²

重複　FH—23・24より古い。

特徴　南西部がFH—23・24に壊されているが，全体の状況は知ることができる。床面は東から西に向かってわずかに傾斜し，残存している壁面の傾斜も比較的緩やかである。小ピットは6ヵ所（HP—1～6），すべて柱穴で，4本主柱だとするとHP—2～4が該当するかもしれない。炉跡はみられず，覆土は暗褐色土層のみである。

遺物　出土遺物総数は7点，石器類2点，礫類5点のみで，ほぼ中央部に分布していた。

石器　剝片石器は出土していない。59は長軸の両端を使用したたたき石。60は円形の小台石である。

時期　縄文時代前期末～中期初頭の時期と考えられる。

FH—35（図III—183～187，図版55）

平面形　隅丸五角形　　**規模**　8.45×(3.36)／8.30×(3.20)／0.20m

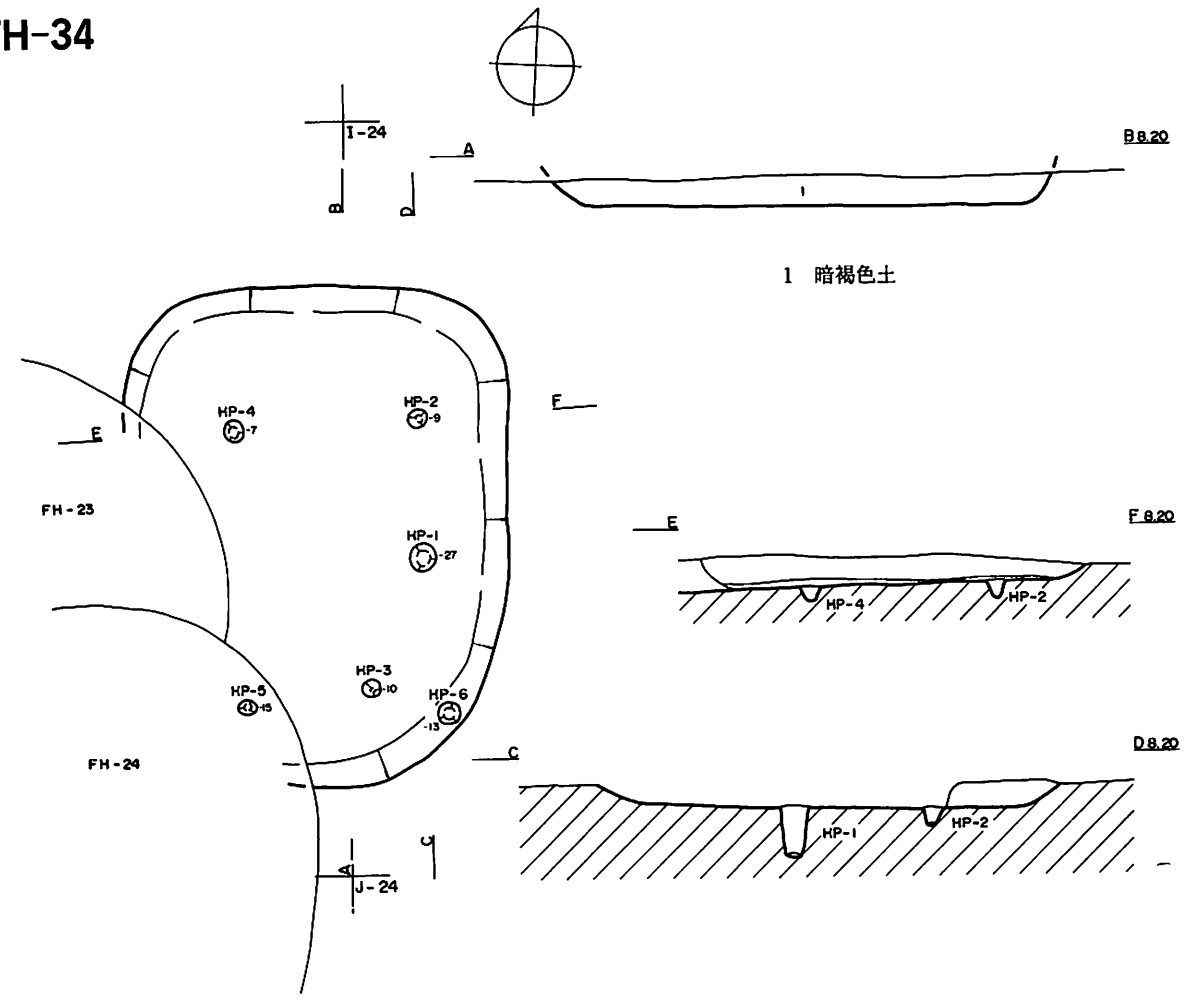
面積　(23.32)m²　　**重複**　FH—33・40，FP—137より古く，FH—38より新しい。

特徴　北側の未調査区域にのびている。東側は住宅の基礎およびFH—33・40によって壊されており，不明瞭な部分が多い。また，西側の覆土中には貝塚が形成されている。床面は二段構造で，上段は中央に向かってわずかに傾斜しているが，下段は比較的平坦である。小ピットは42ヵ所（HP—1～42），中央部やや西寄りのHP—1を除いた他は柱穴とみられる。炭化物層（11層）のみられるHP—1はいわゆる中央ピットと思われる。柱穴は床面のほぼ全域でみられ，重複しているものもあり，建替，拡張等が考えられるが，最終的には段の境目に主柱が6本（3本はHP—2・20・37）あるタイプと思われる。覆土の6ないし6′層以上は包含層および貝塚，FH—33の覆土で，本住居跡に伴うのは7層以下である。また，8層中のFH—40との境は不明瞭である。

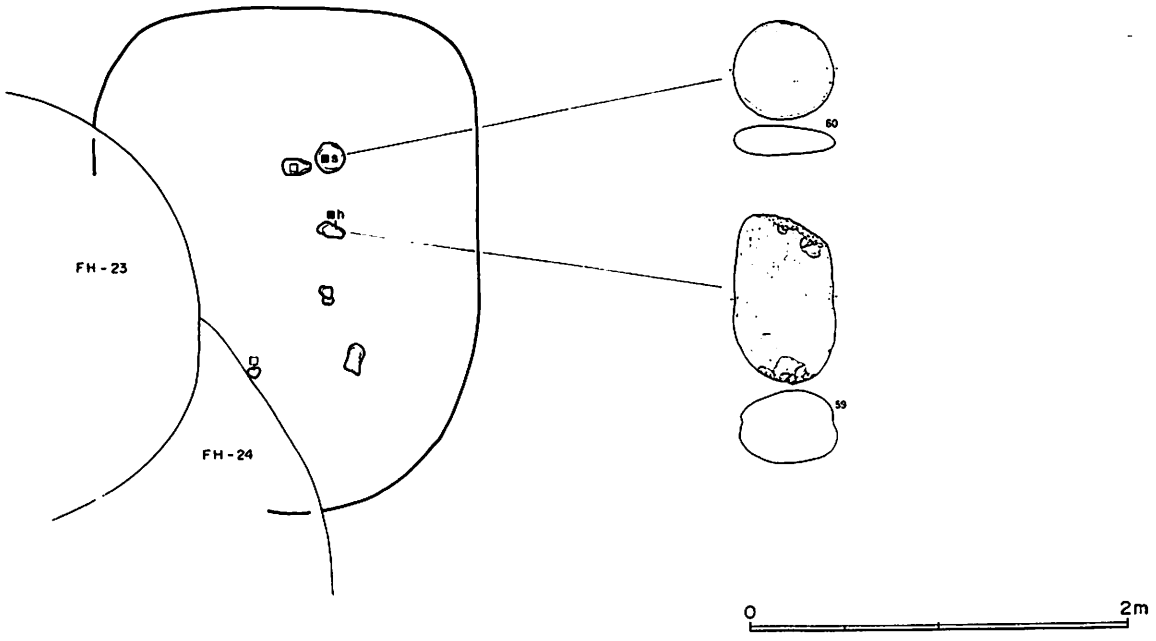
遺物　出土遺物総数は22,230点，土器1,109点，石器類143点，コア・フレイク類19,822点。礫類1,153点，土製品3点，土器はII群B類，III群B3類が多く，石器ではポイントまたはナイフ（13点），スクレイパー（13点），石斧薄片（14点），すり石（11点），砥石（10点）などが多いが，たたき石（24点），石皿・台石（33点）が群を抜いている。遺物は西側は散発的に分布するが，東側は2ヵ所の集中域がみられる。東側の遺物は本住居跡のものとして扱ったが，FH—33との床面に近い部分で確認できるものが多く，FH—33のものがかなりあるとみられる。また，基本的な土器の出土層位は，II群B2類およびB類土器は7層以下，III群B3類土器は6ないし6′層以上である。

土器　II群B2a類（1～9），II群B2b類（10～16），II群B2c類（17～20），II群B類（21～26），III群B3類（27～38）

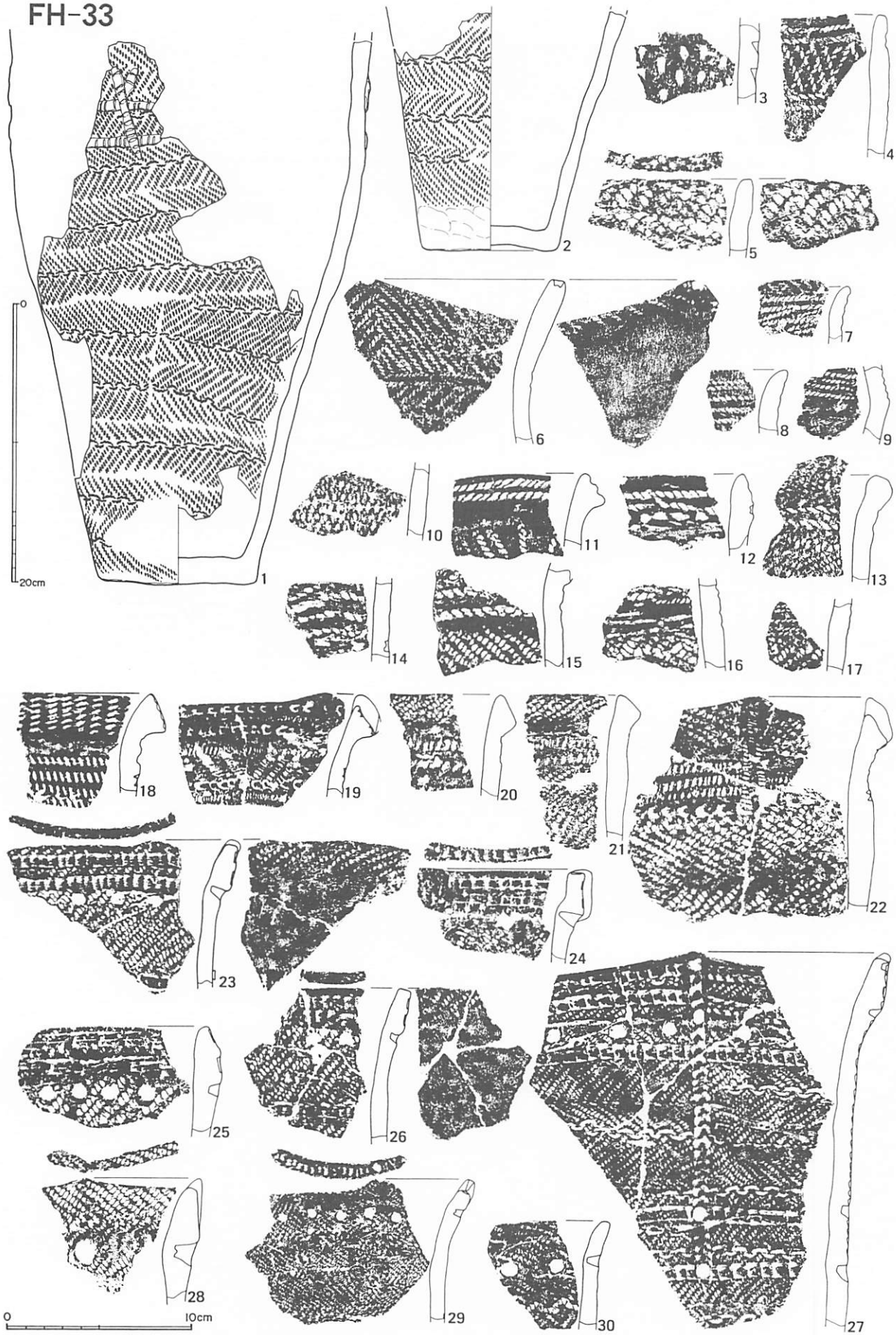
FH-34



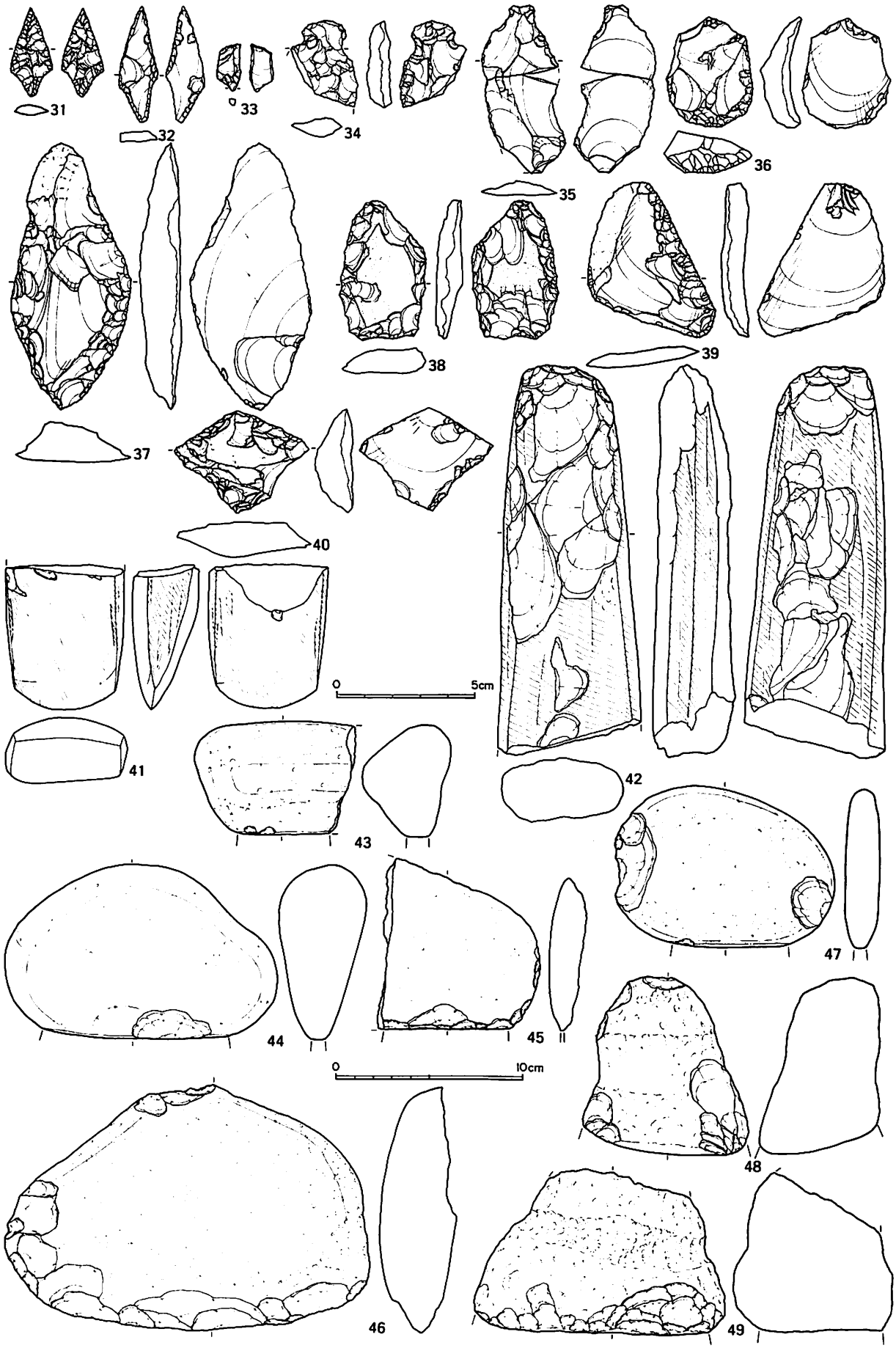
覆土



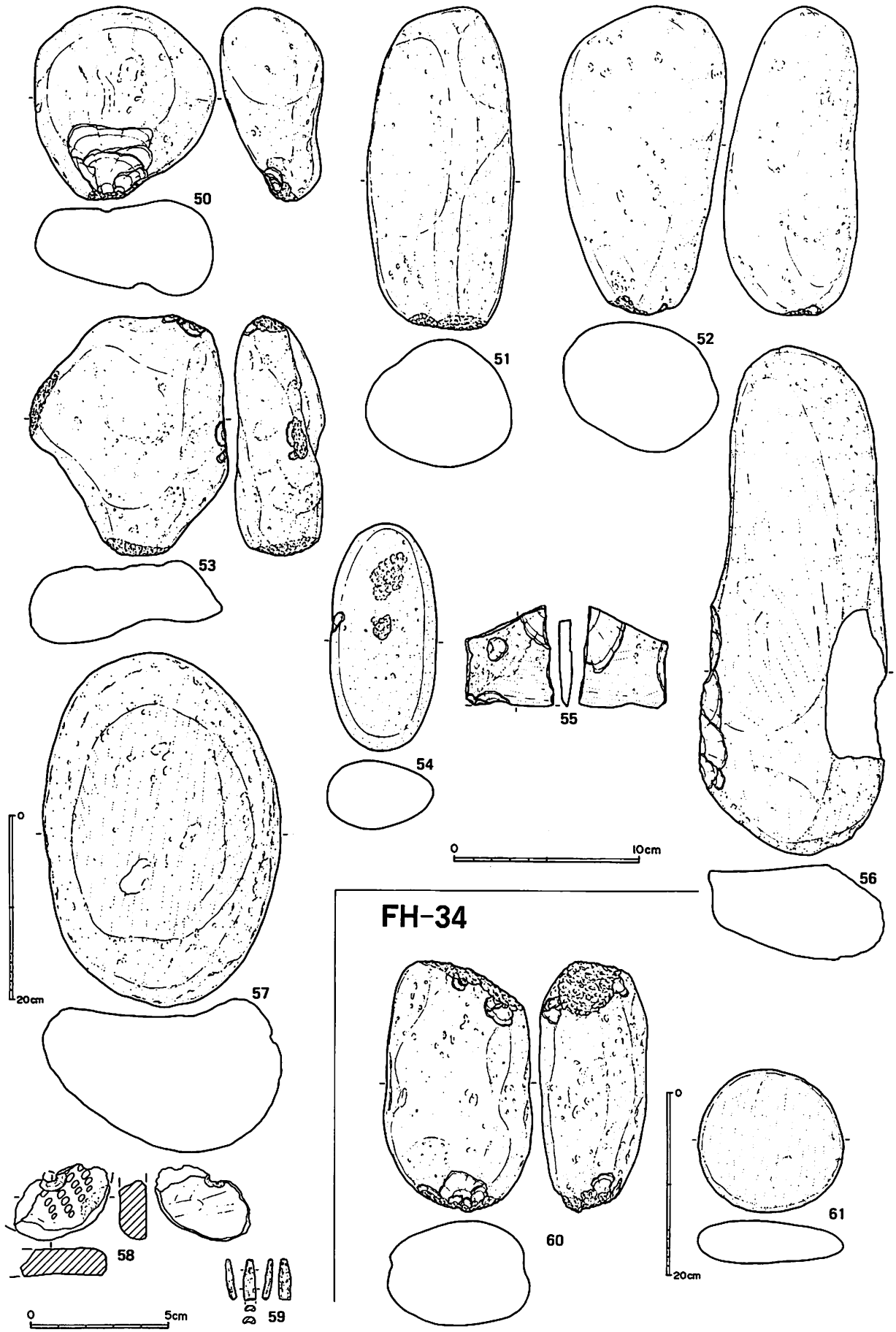
図III—179 FH—34



図Ⅲ－180　FH－33 遺物（1）



図Ⅲ－181　FH－33遺物(2)



図Ⅲ－182　FH－33 遺物（3）・34 遺物

1は口唇部が尖り，口唇に縄圧痕文が加えられている。頸部には縄線文が施されている。2・3は縄線文・縄圧痕文が加えられた口唇部で，頸部に曲線状の縄線文が施されている。4は撚糸文と結束羽状縄文が組み合わされ施文されている。6～9は多軸絡条体回転文である。10はくびれの強い頸部に曲線状に縄線文が施されている。11は口唇部直下に縄線文が施されたものである。12～15は口唇部に縄線文が施されたものである。17は半截竹管状工具の押引文によって区画された頸部に絡条体圧痕文と押引文が施されている。18は撚糸文が施された口唇部で，鋸歯状の絡条体圧痕文が施されている。20は体部破片で，絡条体圧痕文が体部縄文の境目に横位に施文されている。21は結束羽状縄文が施された口唇部で，無文地の頸部に円形刺突文が加えられている。27～30は口唇部に押引文が施されたもので，体部に27は押引の加えられた貼付帯が，30には押引文が認められる。31～35は押引文が施されないもので，32の表裏には付加条の縄文が施されている。36～38は体部破片で，36は押引のある貼付帯が，37は半截竹管状工具の押引文がある。

石器　39～42は有茎凸基の，43は菱形を呈する石鏃である。44～47は石錐。48・49は有茎の，50は木葉形のポイントである。51は縦形周辺加工のつまみ付きナイフ。52はエンドスクレイパー。53は尖頭部を有するスクレイパー。54～57はすり石で，57には握り部が作り出されている。58～61はたたき石。62・63はくぼみ石。64・65は砥石で，前者は四面使用のものである。

土製品　66・67は有孔の再生土製円盤片である。67は全体の4分の1程の破片であるが，周縁は丁寧に擦られている。

時期　縄文時代前期末～中期初頭，II群B2類土器の時期と考えられる。

FH—36（図III—188～192，図版56）

平面形　卵形　　**規模**　5.34×4.20／5.19×4.05／0.16m　　**面積**　15.47m²

重複　FP—140より古く，FH—38・39より新しい。

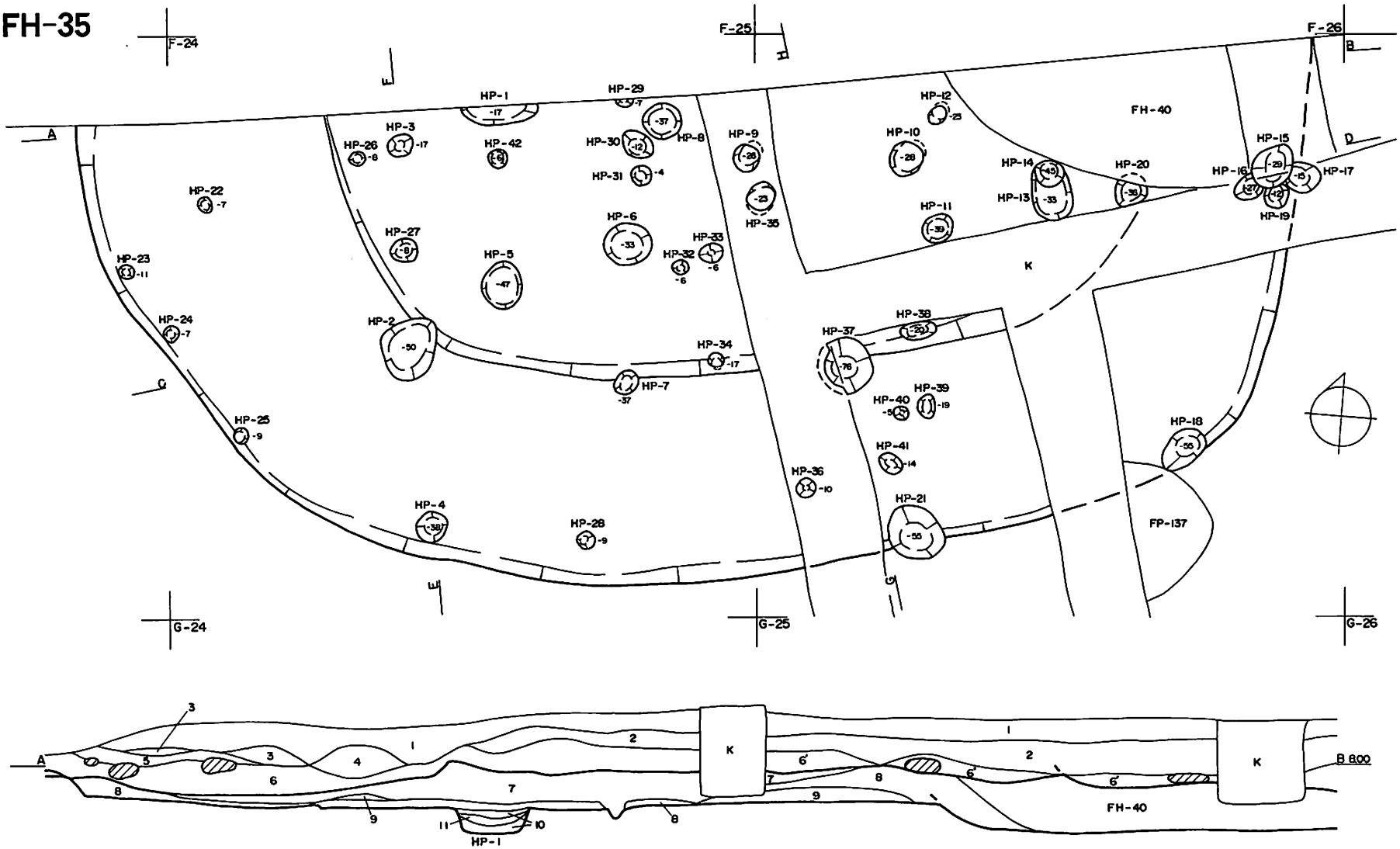
特徴　住宅の基礎でトレンチ状に撹乱されているが，全体の状況は把握できる。床面は凹凸があり，壁面が確認できたのは東側だけで，西側は不明瞭である。小ピットは54カ所（HP—1～54），大型のHP—6以外は柱穴と思われるが，主柱の状況は明らかでない。炉跡は7カ所（HF—1～7），中央部のHF—1・2は石組炉で，HF—2は石が抜かれている。南西際のHF—3・5・6は本住居跡の床面で確認されているが，位置的にみてFH—39のものである可能性が強い。また，HF—1～7の焼土についてフローテーションを行ったところ，HF—1・2からオニグルミの内果皮片，HF—3から不明種子確認されている。

遺物　出土遺物総数は5,550点，その内訳は土器1,902点，石器類123点，コア・フレイク数1,645点，礫類1,876点，土製品4点，土器はII群B類，III群B3類が主体，石器では石鏃（16点），スクレイパー（21点），たたき石（13点），石皿・台石（13点）が多い。遺物は主に南側に分布している。

土器　II群B1類（1），II群B2a類（2・3），II群B2b類（4～13），II群B2c類（14～19），II群B類（20～23），III群B3類（24～34）

1は丸味をもつ口唇部で，口縁部に縄線文が加えられている。体部は斜行縄文で，裏面には条痕文がある。2・3は体部に多軸絡条体回転文が施されたもので，2の頸部には縄線文が施されている。5は口唇部・肥厚帯直下に縄線文が施されたものである。6は無文地

FH-35

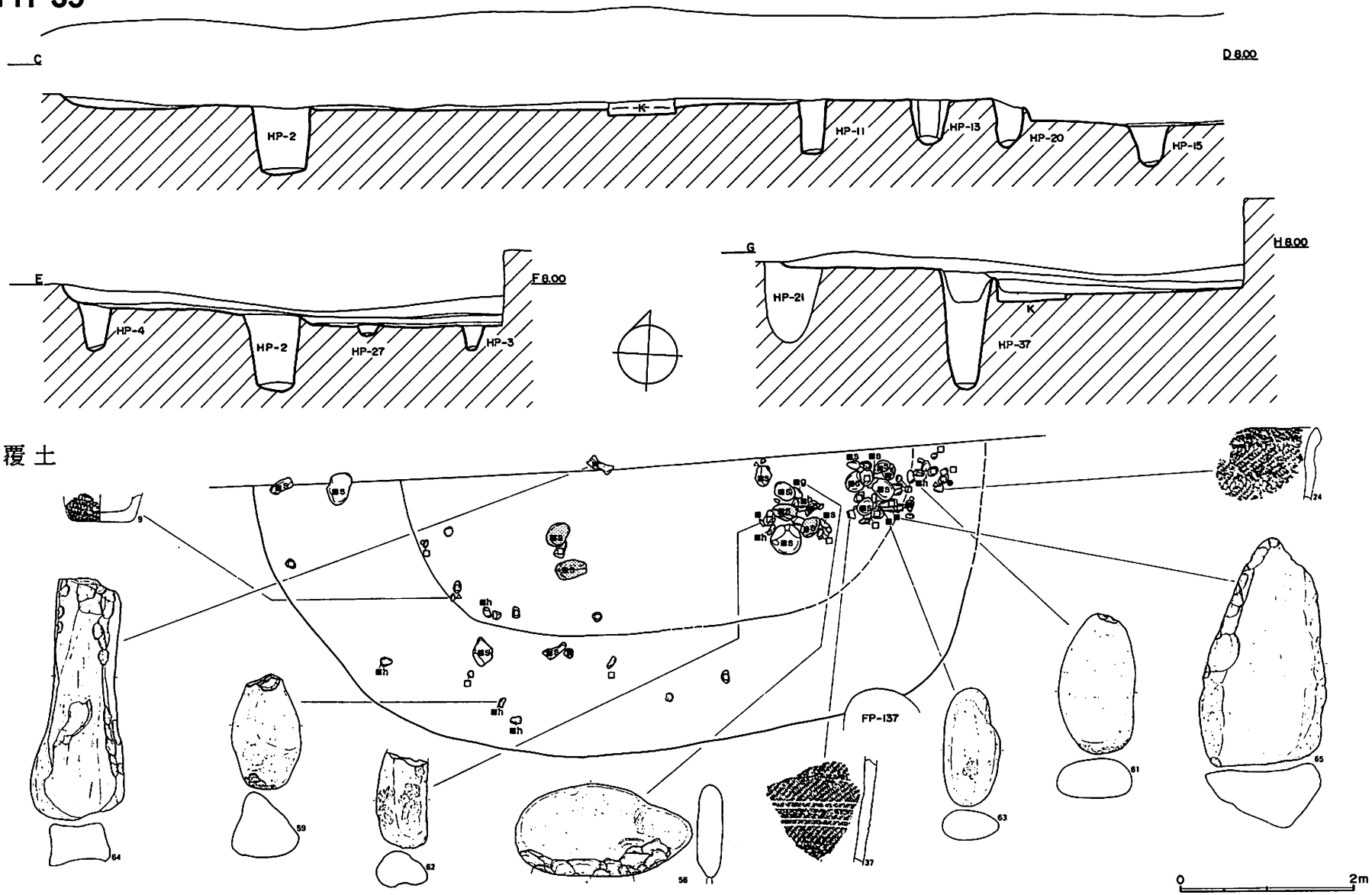


1 耕作土（第Ⅰ層）
2 黒色土（第Ⅱ層）
3 黒褐色土（焼土を含む）
4 黒褐色土
5 暗赤褐色混貝土層（焼土を含む）
6 暗黒褐色混貝土層
6′ 暗黒褐色土（貝を含まず）
7 暗褐色土（第Ⅱb層に近い）
8 黄褐色土（暗褐色土ブロックを含む）
9 暗褐色土（黄褐色土ブロックを含む）
10 暗褐色土（黄褐色土ブロック多量）
11 炭化物ブロック

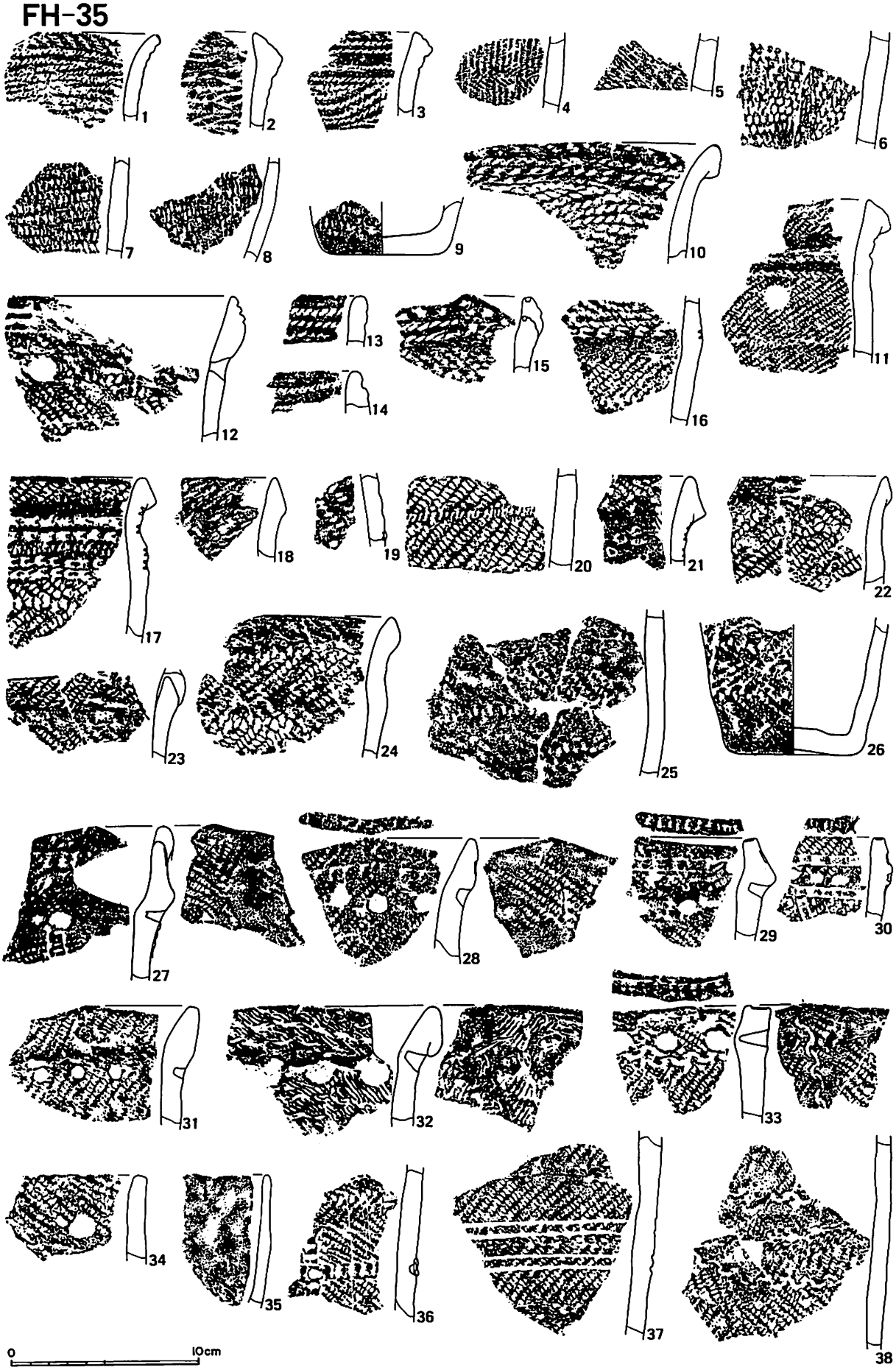
0 2m

図Ⅲ—183 FH—35(1)

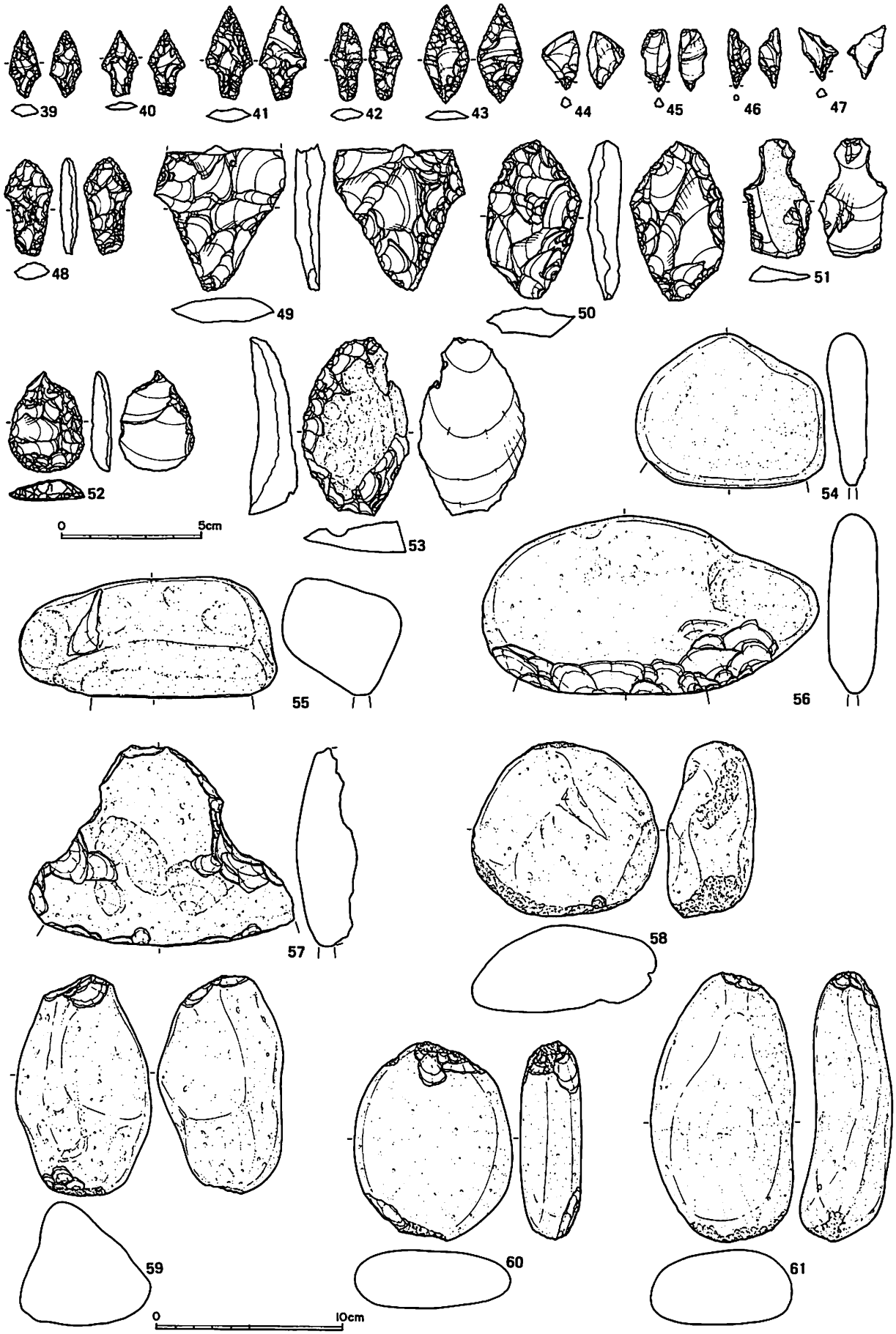
FH-35



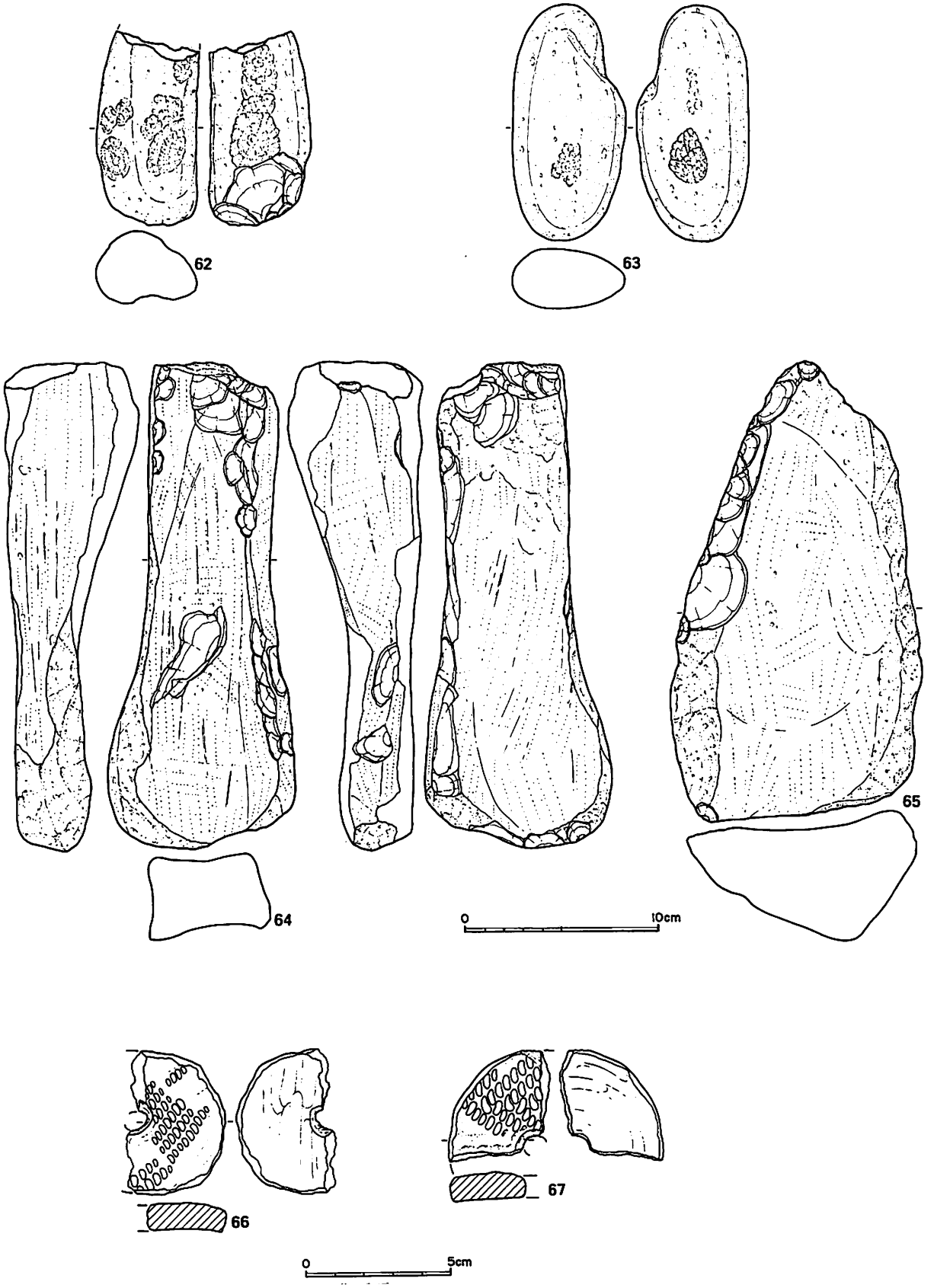
図Ⅲ—184　FH—35(2)



図Ⅲ—185　FH—35 遺物(1)



図Ⅲ－186　FH－35 遺物（2）



図Ⅲ－187　FH－35 遺物（3）

の頸部に曲線状の縄線文が加えられている。14は斜行縄文が施された口唇部直下に2条の絡条体圧痕文が施されている。16は縄線文によって区画された頸部に絡条体圧痕文が施されている。19は円形刺突文に区画された頸部には鋸歯状の絡条体圧痕文帯が施されている。20は口唇部肥厚帯直下に半截竹管状工具の刺突文が施されている。21～23は縄文のみのものである。24・26・30は押引文と円形刺突文が施されているもので，30は縄端部の押引のようである。27は円形刺突文のみのもの，25・28・29は口縁部に押引のみが施文されたものである。31・32は押引文が加えられた貼付帯をもつもの，33は押引文が加えられたものである。34は体部に斜行縄文が施されたもので，胎土は小礫・砂粒が多い。

石器　35～41は石鏃で，35は有茎平基，36～40は有茎凸基，41は五角形を呈するもの。42～49は石錐。50・51は有茎の，52は木葉形のポイントである。53～57はいずれも縦形のつまみ付きナイフで，53は早期のものである。58・59はエンドスクレイパー。60は内湾した刃部を，61は内・外湾する刃部を，62は両面加工，63は鋸歯状の刃部をもつスクレイパーである。64は楔形石器。65は石斧。66はすり石。67はたたき石。68・69は石皿・台石である。

土製品　70・71は穿孔途中の再生土製円盤，70は裏側，71は両側に穿孔の痕跡がある。72・73はいずれも破片であるが，有孔の再生土製円盤である。

時期　縄文時代中期末，III群B3類土器の時期と考えられる。

FH—37（図III—193・194，図版57）

平面形　—　　**規模**　3.80×(2.53)／3.74×(2.33)／0.17m

面積　(10.91)m²　　**重複**　FH—16より古く，FH—38より新しい。

特徴　西側がFH—16によって壊されているので全体の状況は明らかでない。床面は凹凸があり，壁面の立ち上がりも不明瞭である。小ピットは27カ所(HP—1～27)，すべて柱穴とみられるが，主柱の状況は明らかでない。炉跡はなく，覆土は明褐色土（1層）と黄褐色土（2層）の二層である。

遺物　出土遺物総数は226点，その内訳は土器63点，石器類14点，コア・フレイク類72点，礫類76点，土製品1点，土器はII群B類のみ，石器は石鏃（2点），つまみ付きナイフ（2点），たたき石（2点），石皿・台石（3点）のほかポイントまたはナイフ，スクレイパー，すり石，北海道式石冠，砥石が各1点ずつある。遺物は床面・覆土で散発的にみられたが，床面の東側では礫石器，礫類がまとまって確認された部分がある。

土器　II群B2c類（1），II群B類（2～5）

1は斜行縄文が施された口唇部で，頸部に絡条体圧痕文が施されている。2は上部に棒状工具による横位の刺突が加えられている。体部は結束羽状縄文である。3・4は斜行縄文，5は結束羽縄文である。

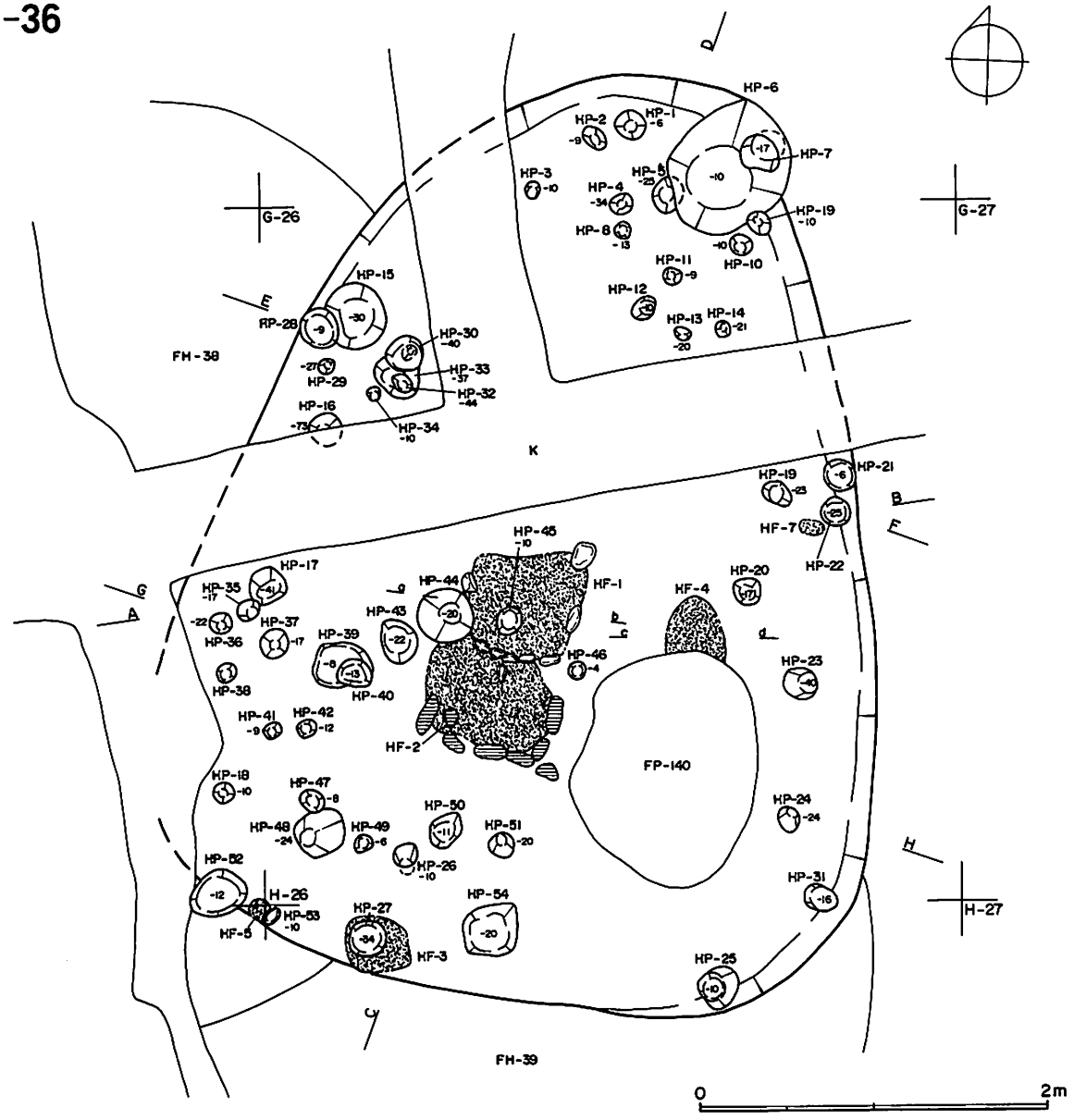
石器　6は菱形を呈する石鏃。7は有茎のポイント。8は縦形片面加工のつまみ付きナイフであるが，両端につまみ部が作出されている。9は一側を使用したすり石。10は平頂の北海道式石冠。11・12はたたき石である。

時期　縄文時代前期末～中期初頭，II群B類土器の時期と考えられる。

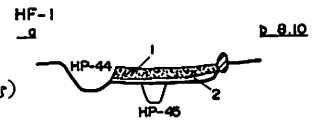
FH—38（図III—195～200，図版58）

平面形　隅丸長方形　　**規模**　(8.06)×(6.00)／(8.06)×(5.90)／0.22m

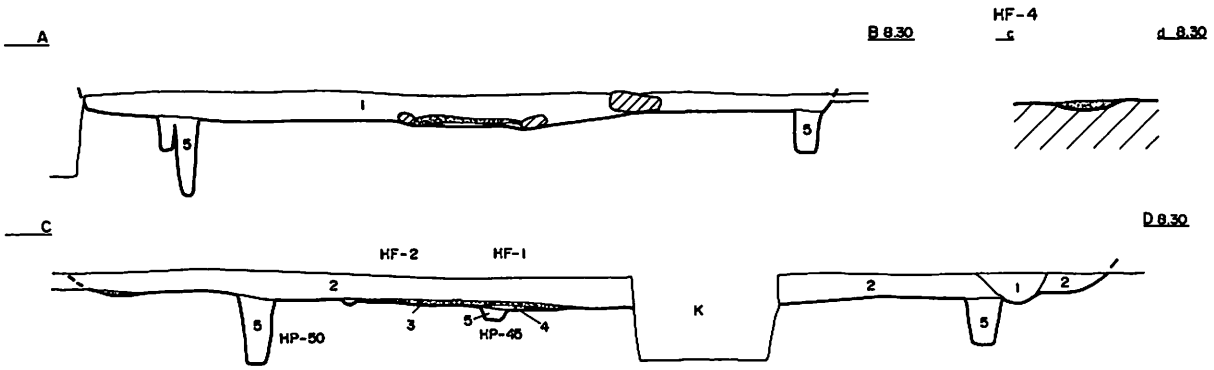
FH-36



1 暗褐色土
2 暗褐色土（黄褐色土ブロックを含む）
3 赤褐色土（焼土）
4 暗褐色土
5 褐色土

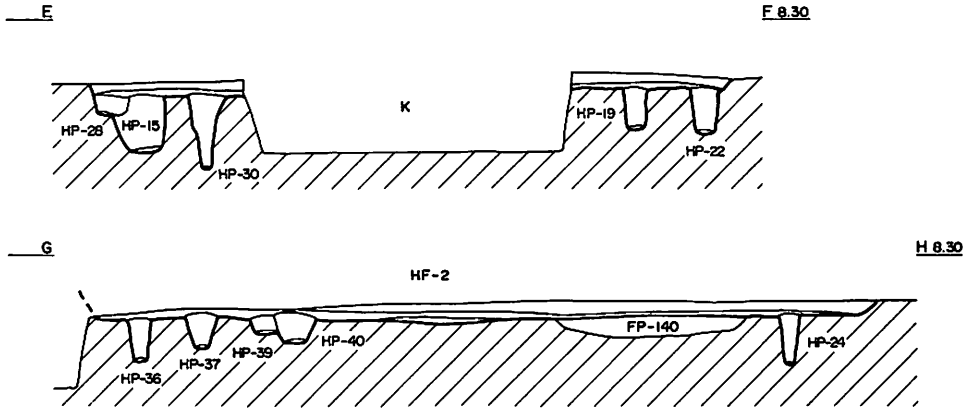


1 赤褐色土（焼土）
2 暗赤褐色土（炭化物を含む）

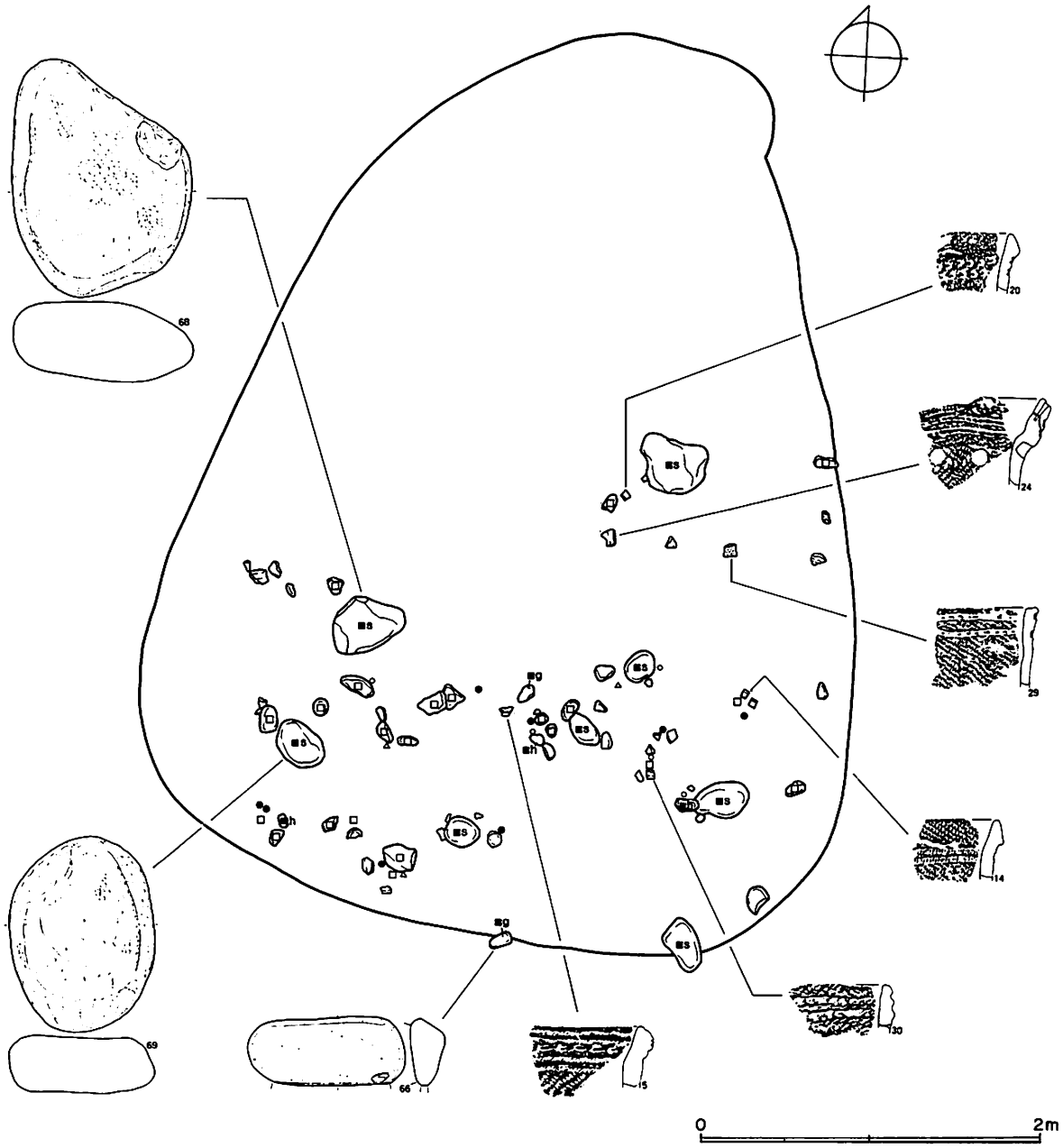


図Ⅲ—188　FH—36(1)

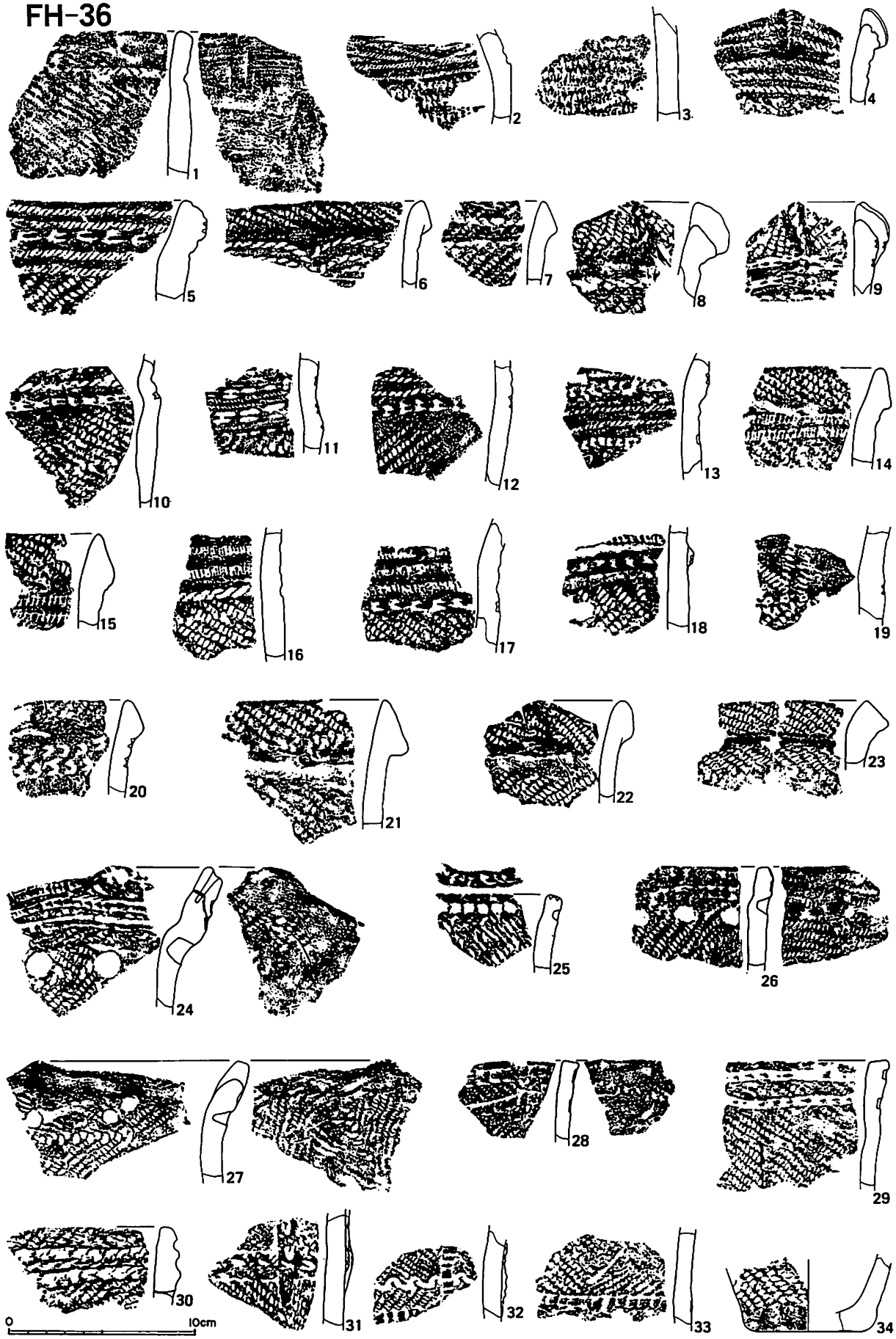
FH-36



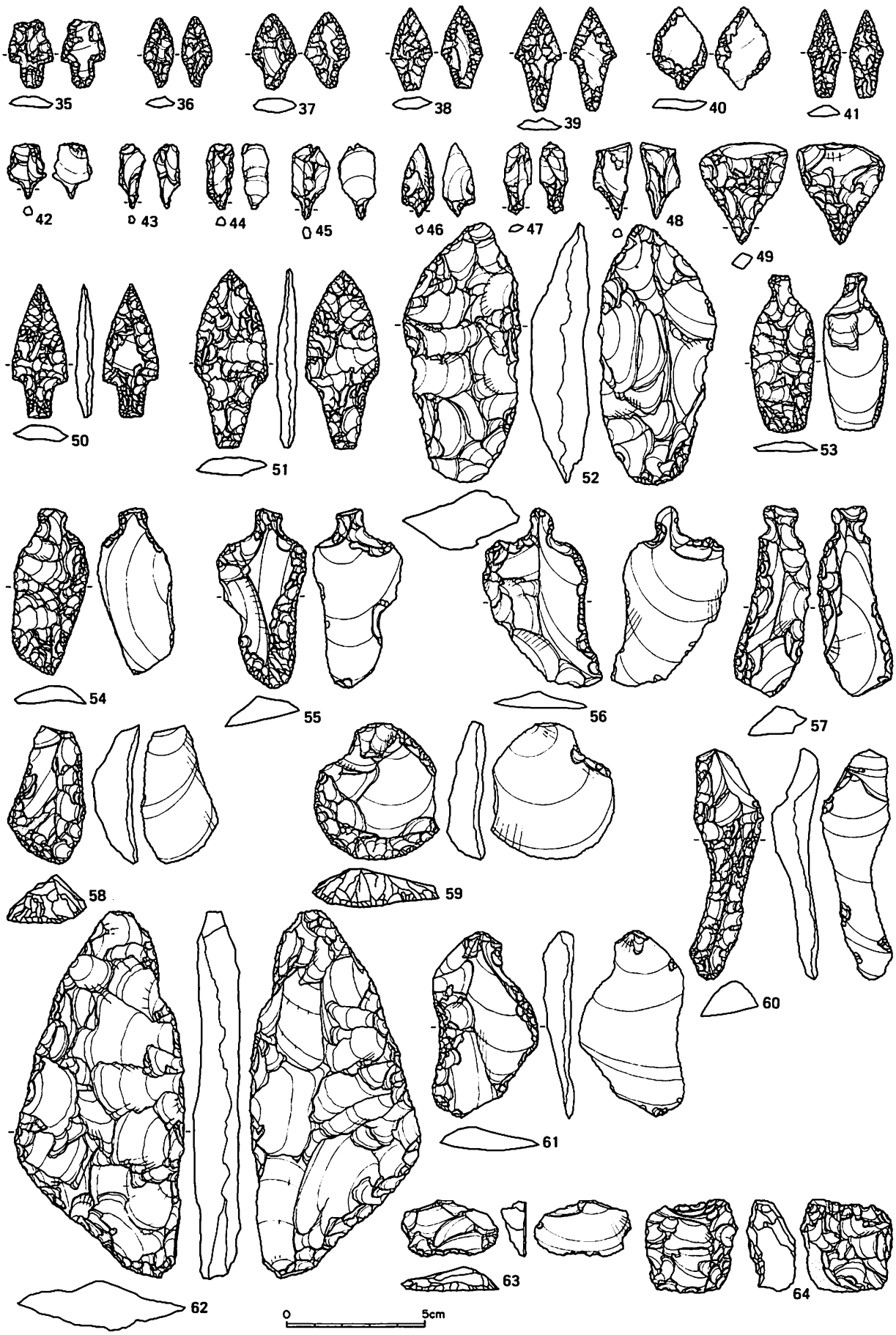
覆土



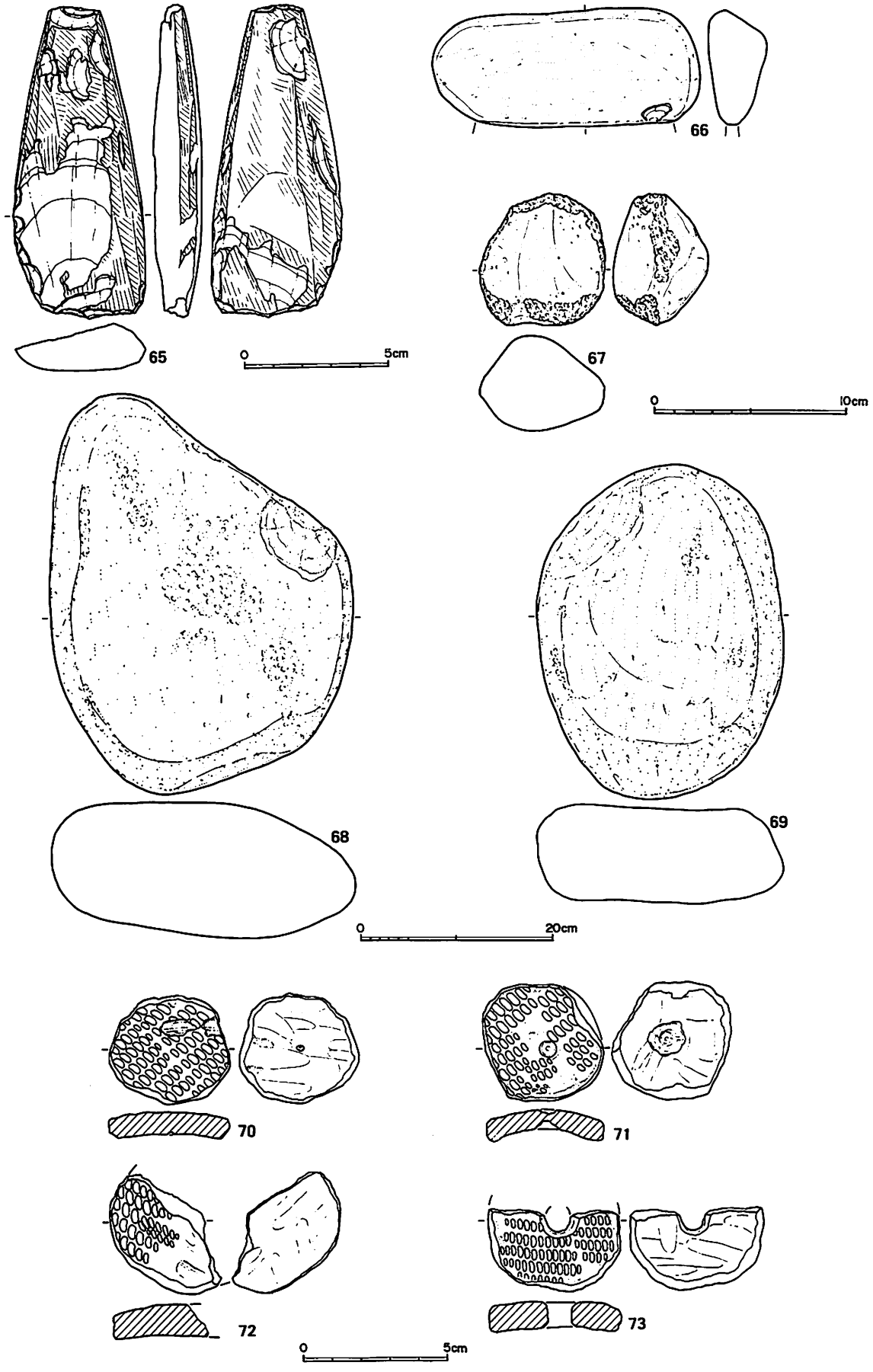
図Ⅲ—189　FH—36(2)



図Ⅲ—190　FH—36 遺物(1)

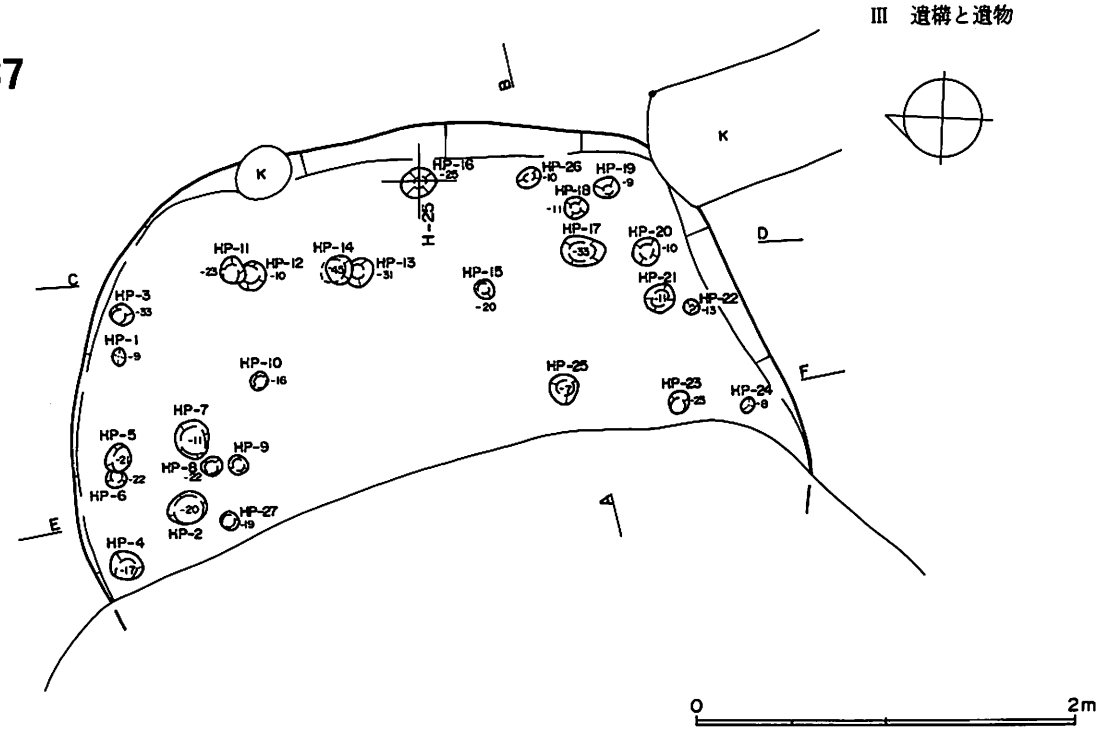


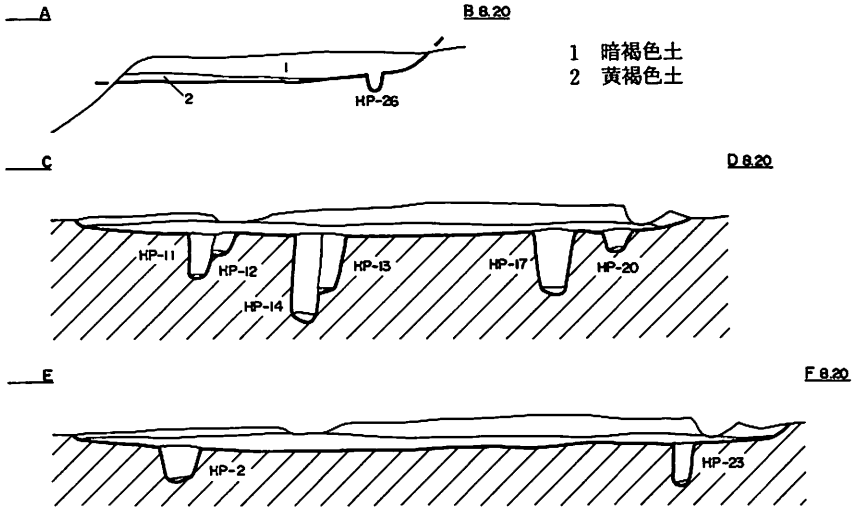
図Ⅲ－191　FH－36遺物（2）



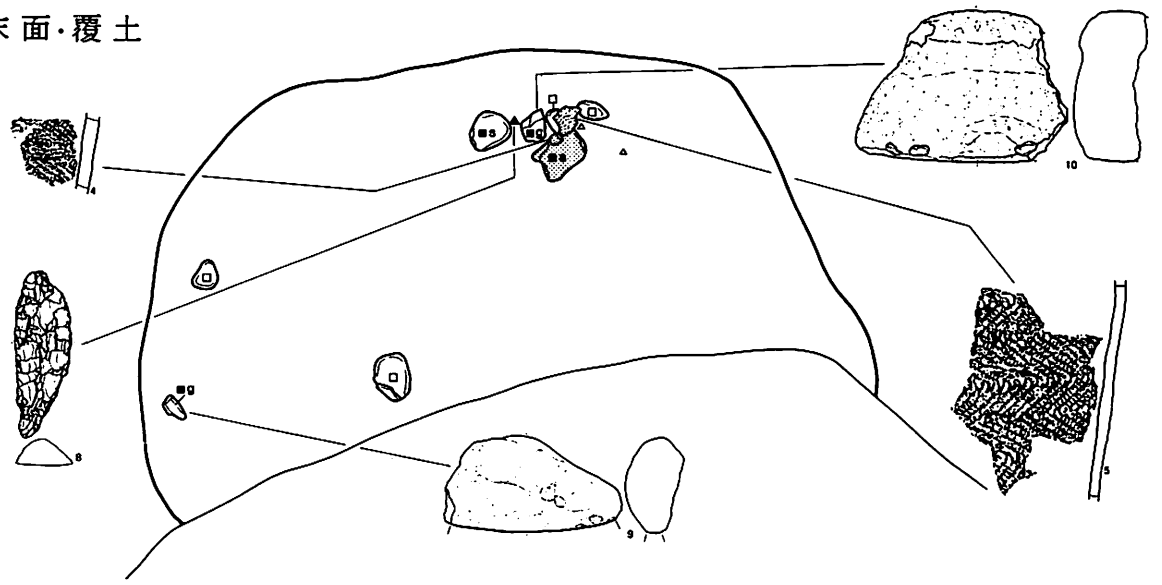
図Ⅲ－192　FH－36 遺物（3）

FH-37

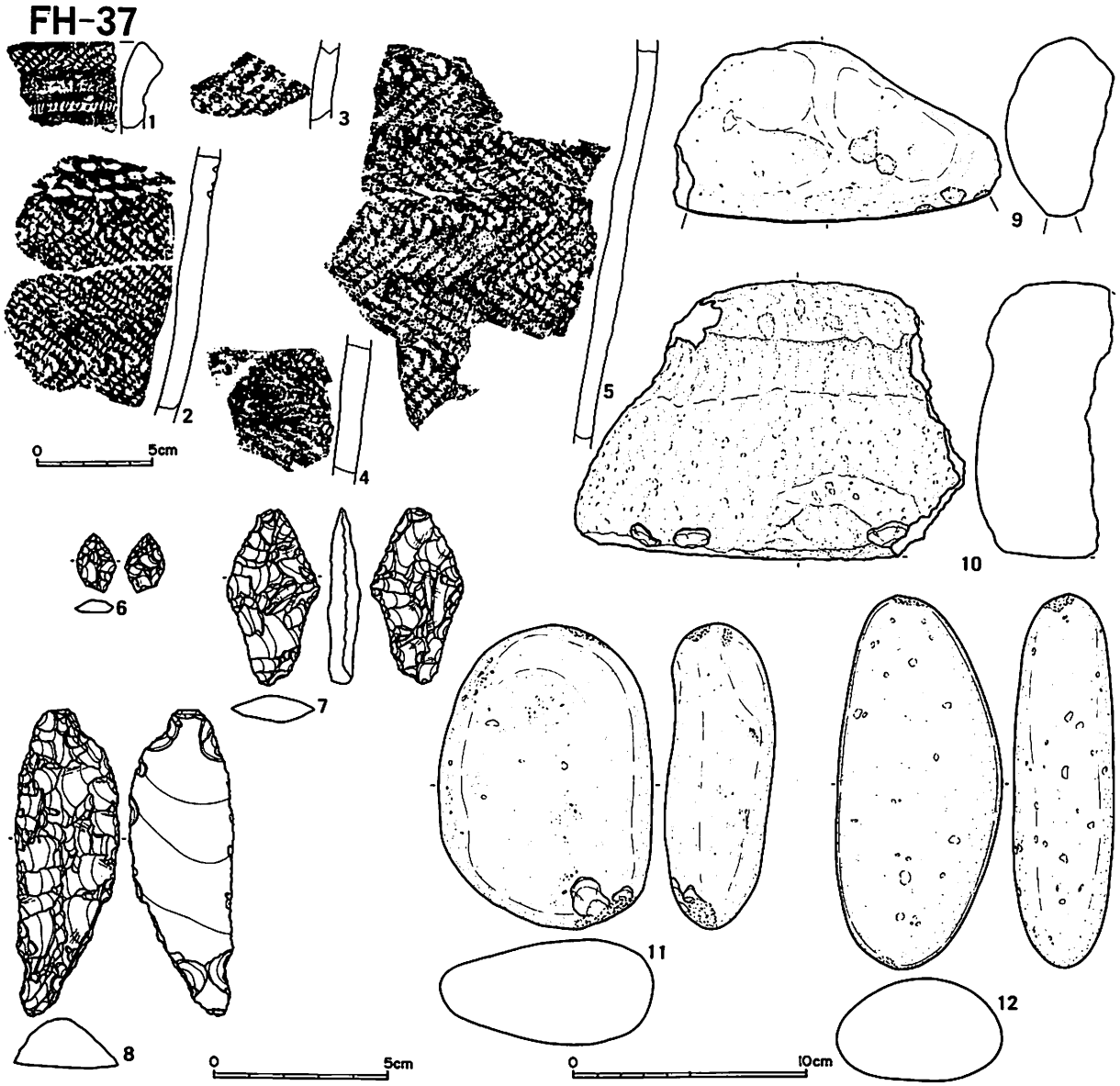




床面・覆土



図Ⅲ—193 FH—37



図Ⅲ—194　FH—37遺物

面積　16.67m²

重複　FH—16・35・36・37・39，FP—139・143より古く，FP—141より新しい。

特徴　FH—16・35・36・37・39および住宅の基礎によって大部分が壊されており，北側の一部の壁面が確認できたにすぎない。床面は凹凸があり，全域で柱穴とみられる小ピットが確認されている。小ピットは108カ所(HP—1～108)，大半は柱穴とみられる。柱穴は大きさ，深さなどバラエティーがあり，重複しているものや近接しているものが多いので，建替，拡張などが考えられるが，整理は困難である。炉跡はなく，覆土の暗褐色土(1層)，暗黄褐色土（2層）は焼土や炭化物を多量に含んでいた。

遺物　出土遺物総数は12,238点，その内訳は土器2,464点，石器類236点，コア・フレイク類4,116点，土製品1点，土器はII群B類が主体，石器では石鏃(25点)，スクレイパー(41点)，たたき石（48点)，砥石（15点）が多い。遺物は床面の残存している部分でブロック状に確認されたが，本来は全域に分布していたものと考えられる。

土器　II群B1類（3～6），II群B2a類（7），II群B2b類（1・8～15），II群B2c類（2・16～21），II群B類（22～26），III群A1類（27），III群B1類（28），III群B3類（29）

3は口唇に撚糸圧痕文が加えられている。口頸部は横位，体部は縦位の撚糸文である。4は丸味をもつ口唇部で，無文地の口縁部に縄線文が施されている。胎土には砂粒が多い。器面調整は粗雑である。5は指頭圧痕文が加えられた貼付帯に区画された頸部に綾絡状の縄文が施されている。6は撚り戻しの斜行縄文が施されている。7は縄線文が施された口唇部で，幅広の頸部には多段の縄線文が施されている。体部は多軸絡条体回転文である。8は口唇部に縄線文・縄圧痕文が，体部は結束羽状縄文が施されている。12は縄線文と縄圧痕文が施された口唇部で，その直下に縄圧痕文の施されたタガ状の貼付帯がある。14は口唇部突起から垂下する縄線文があり，頸部には無文地に半截竹管状工具の刺突文が施されている。15は縄線文が施された口唇部で，半截竹管状工具による刺突文で区画された幅広の頸部に縄線文が施されている。胎土は繊維・砂粒・小礫を含む。器面調整は丁寧である。16～18は口唇部・頸部に絡条体圧痕文が施されたもので，17の口唇部下端に半截竹管状工具による刺突文が加えられている。19は鋸歯状の絡条体圧痕文，21は円形刺突文と組み合わされている。20は底部破片で，体部に絡条体圧痕文が施されている。22・23は口唇部・頸部に半截竹管状工具の刺突文が施されたもので，23は無文地上に施されている。24～26は縄文のみのもので，口唇部直下にナデ調整が加えられているものもある。27は頸部に2本一組の撚糸圧痕文が施されている。体部は結束羽状縄文である。28は刻目文が加えられた口唇部で，体部に斜行縄文を施文後に，3本一組の沈線文が施され，その交点に指頭押圧が加えられている。

石器　30～41は石鏃で，30～38は有茎凸基，39～41は菱形，40は木葉形尖基である。42～45は石錐であるが，45は石鏃の再利用か。46は有茎の，47は木葉形のポイント。48～51はつまみ付きナイフで，48・49は縦形片面加工，50は縦形周辺加工，51は横形周辺加工のものである。このうち48はつまみ部を欠損しているが，早期のものである。52～55はエンドスクレイパー。56～58は周辺加工のスクレイパー。59～62は尖頭部を有するスクレイパーであるが，61は意図的に突出部を作出しており，また62は多頭錐の可能性がある。65～68は石斧で，66は石斧の薄片を再利用したもの，67には擦切り痕が認められる。69～74はすり石。75～78は北海道式石冠で，75・76には「鉢巻」が施されていない。79は球石。80～88はたたき石で，88は砥石としても使用されている。89は石皿である。

時期　縄文時代前期半～中期初頭，II群B2類土器の時期と考えられる。

FH—39（図III—201～204，図版58）

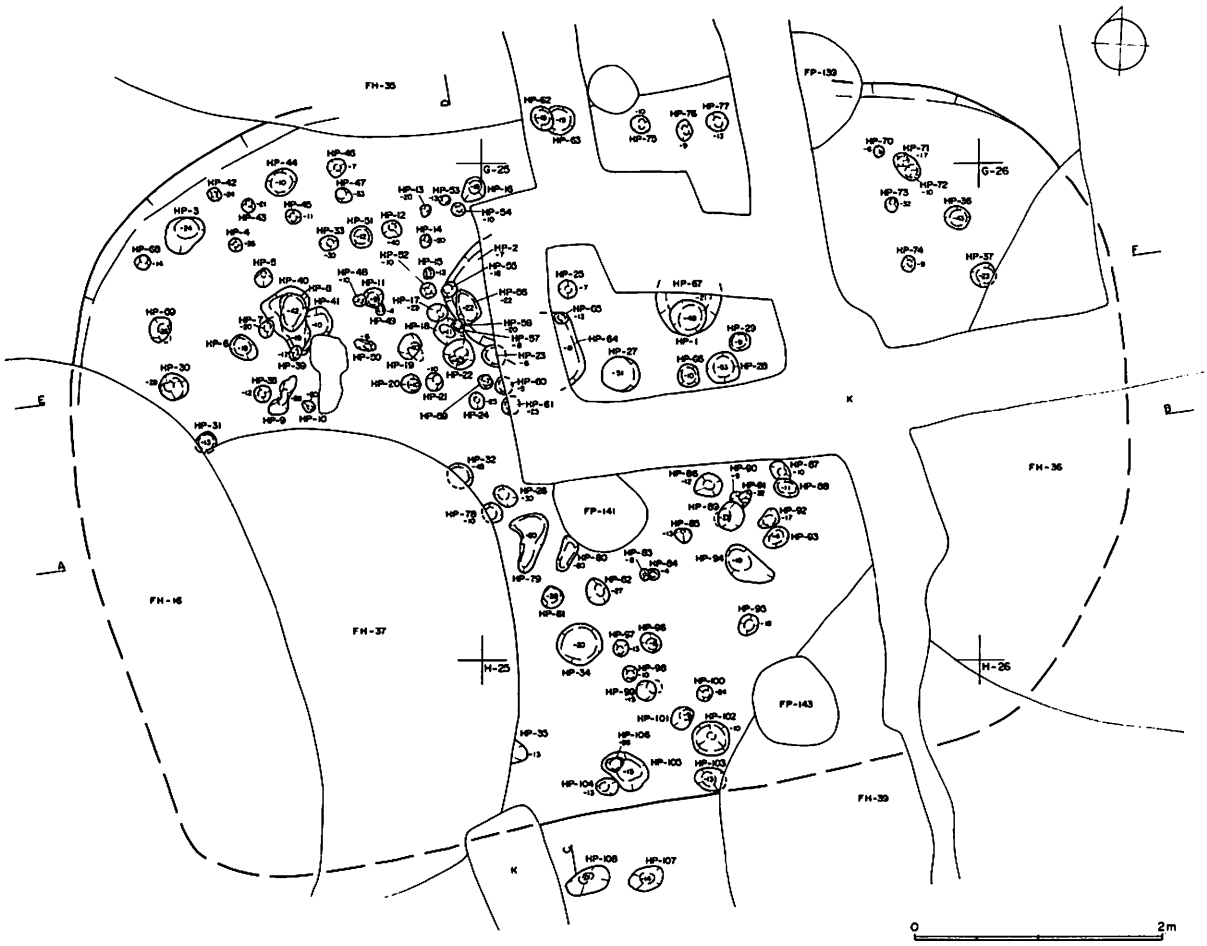
平面形　楕円形　　**規模**　(5.20)×4.73／(5.00)×4.62／0.20m

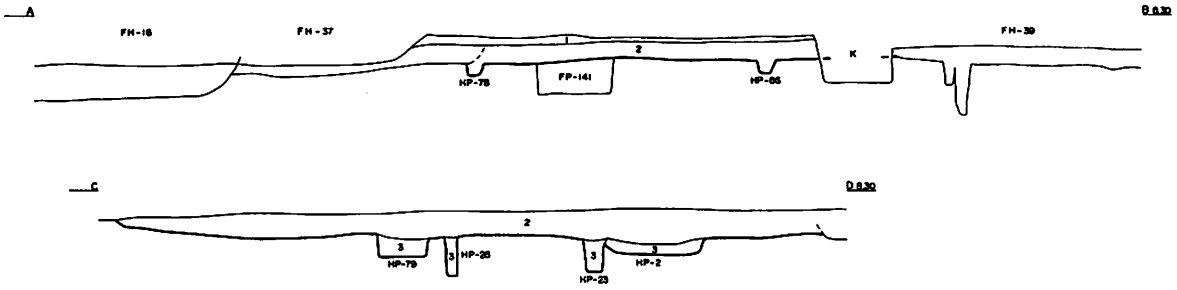
面積　(22.65)m²

重複　FH—38より新しく，FH—28・36，FP—132・135・136・144より古い。

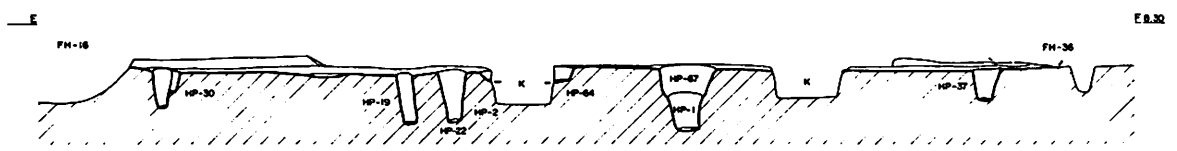
特徴　FH—28・36と4基の土壙，その他の撹乱で壊され，東側の壁面がわずかに残存していたにすぎない。したがって，範囲の確定はFH—36・38などとの関係で検討した。床面は比較的平坦で，残存している東側の壁面は急角度で立ち上がる。小ピットは32カ所（HP—1～13・19～37），住居跡内外にみられ，大部分は柱穴と考えられるが，主柱は不明である。炉跡は3カ所（HF—1～3）であるが，FH—36の3カ所（FH—3・5・6）も本住居跡

FH-38





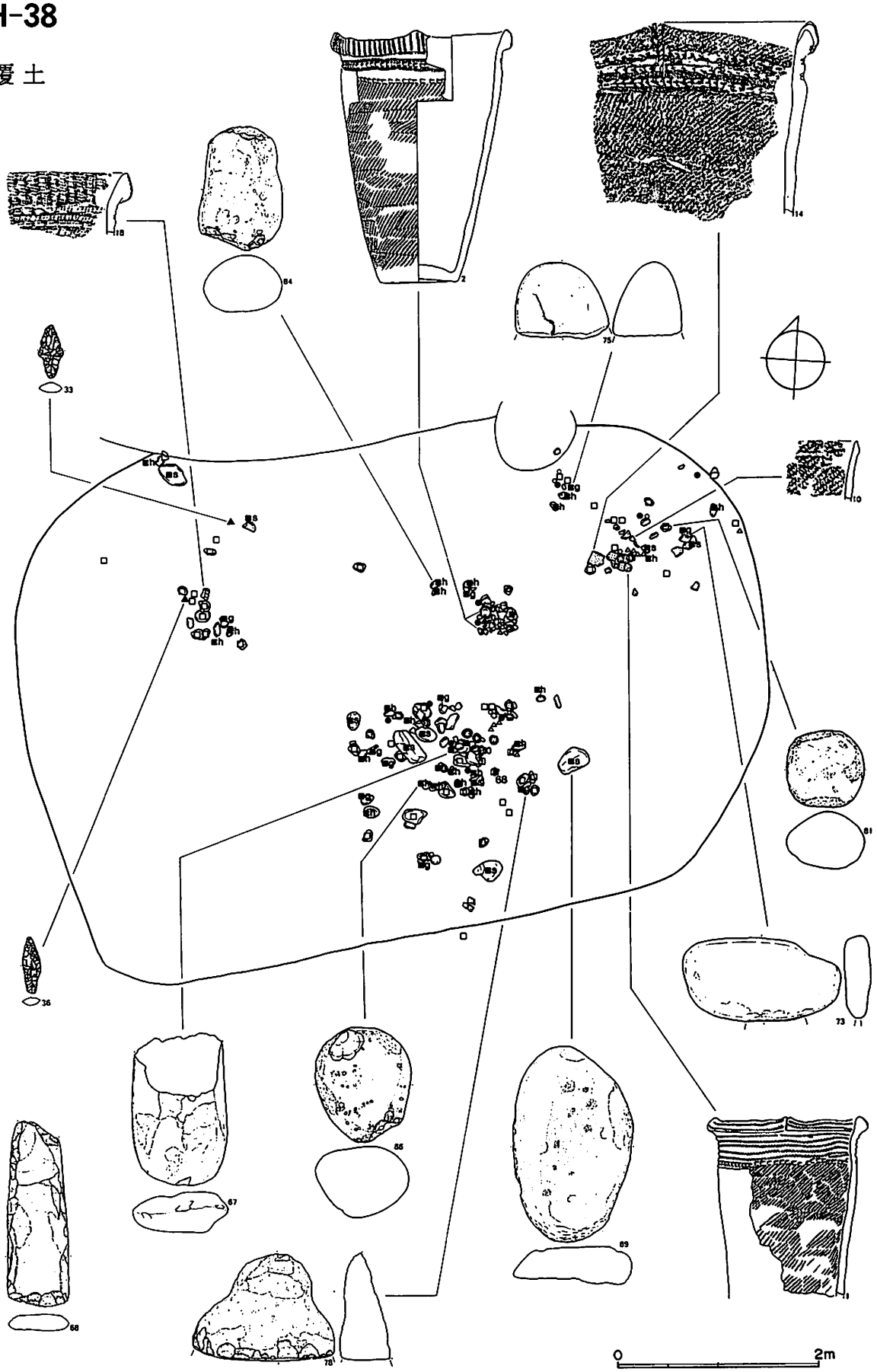
1 暗褐色土（焼土・炭化物多量）
2 暗黄褐色土（焼土・炭化物を含む）
3 暗褐色土



図Ⅲ—195　FH—38(1)

FH-38

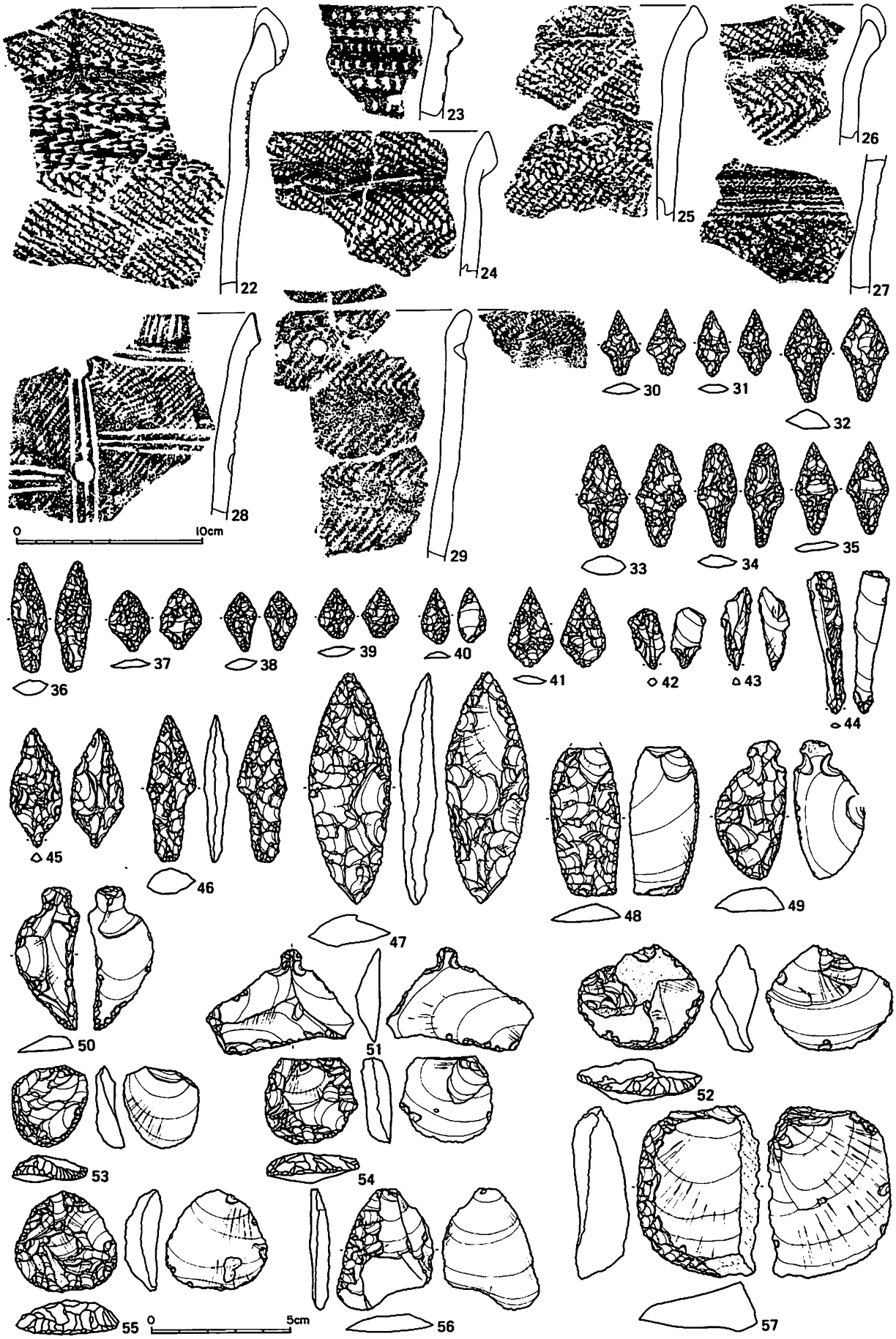
覆土



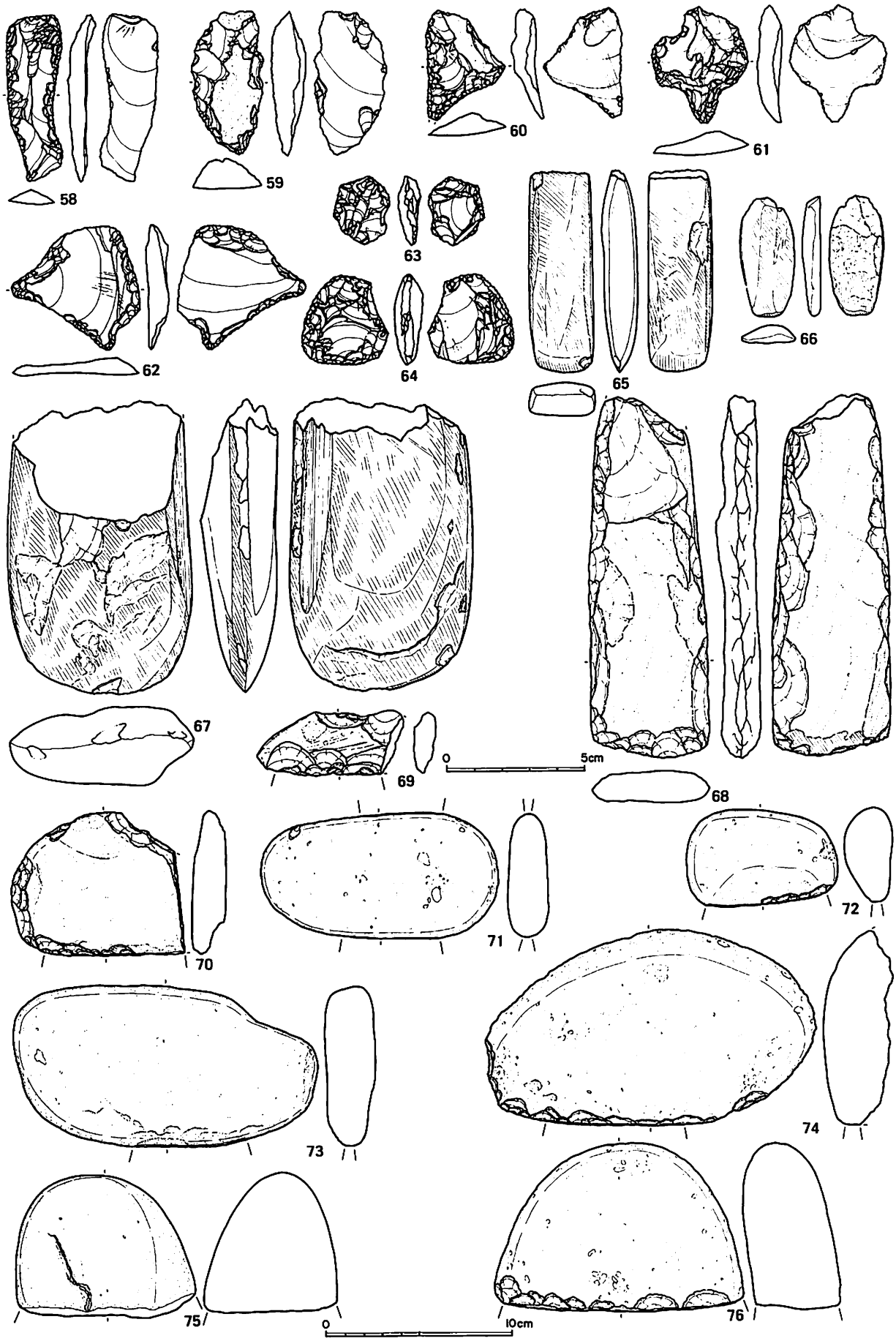
図Ⅲ－196　FH－38(2)



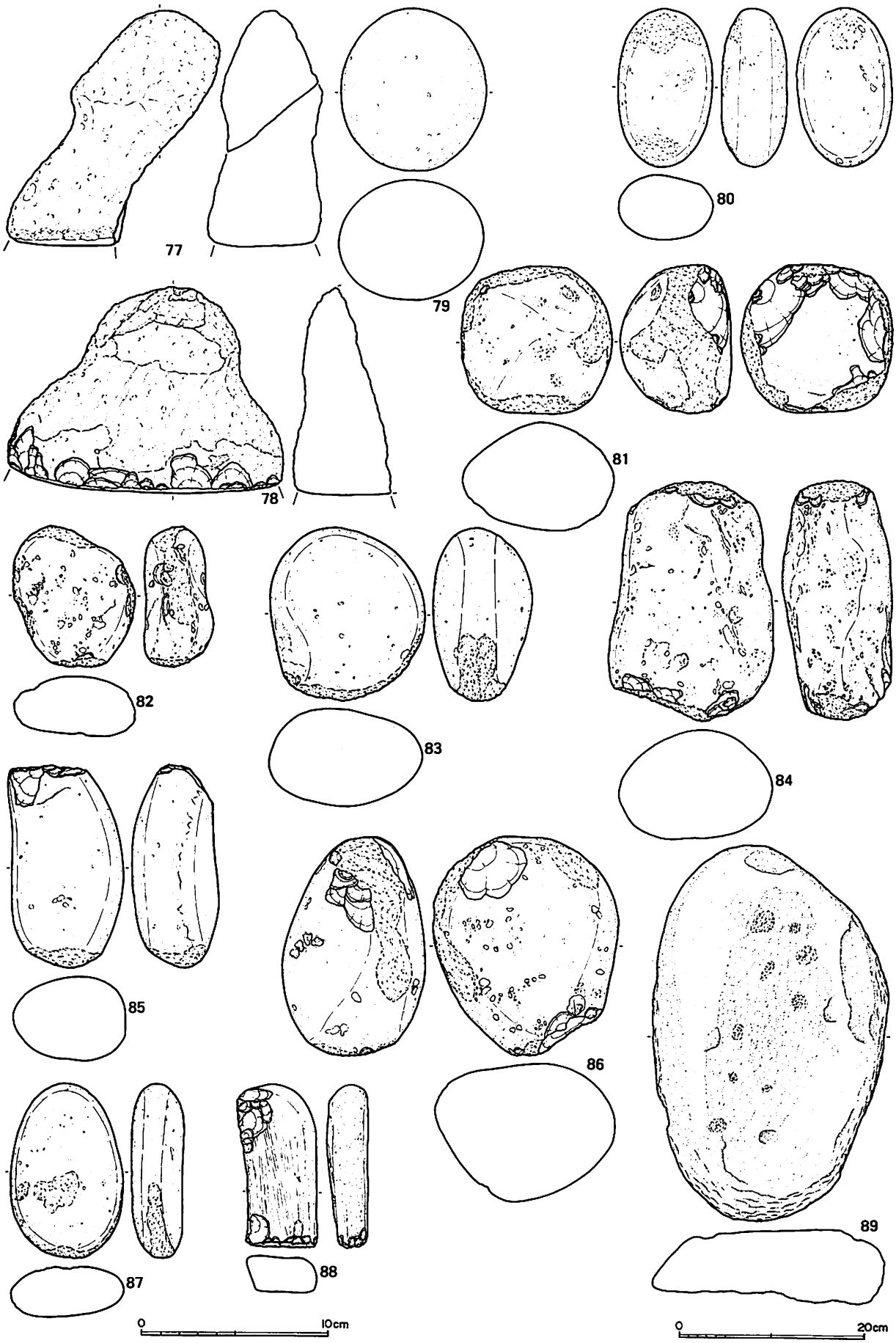
図Ⅲ－197　FH－38 遺物（1）



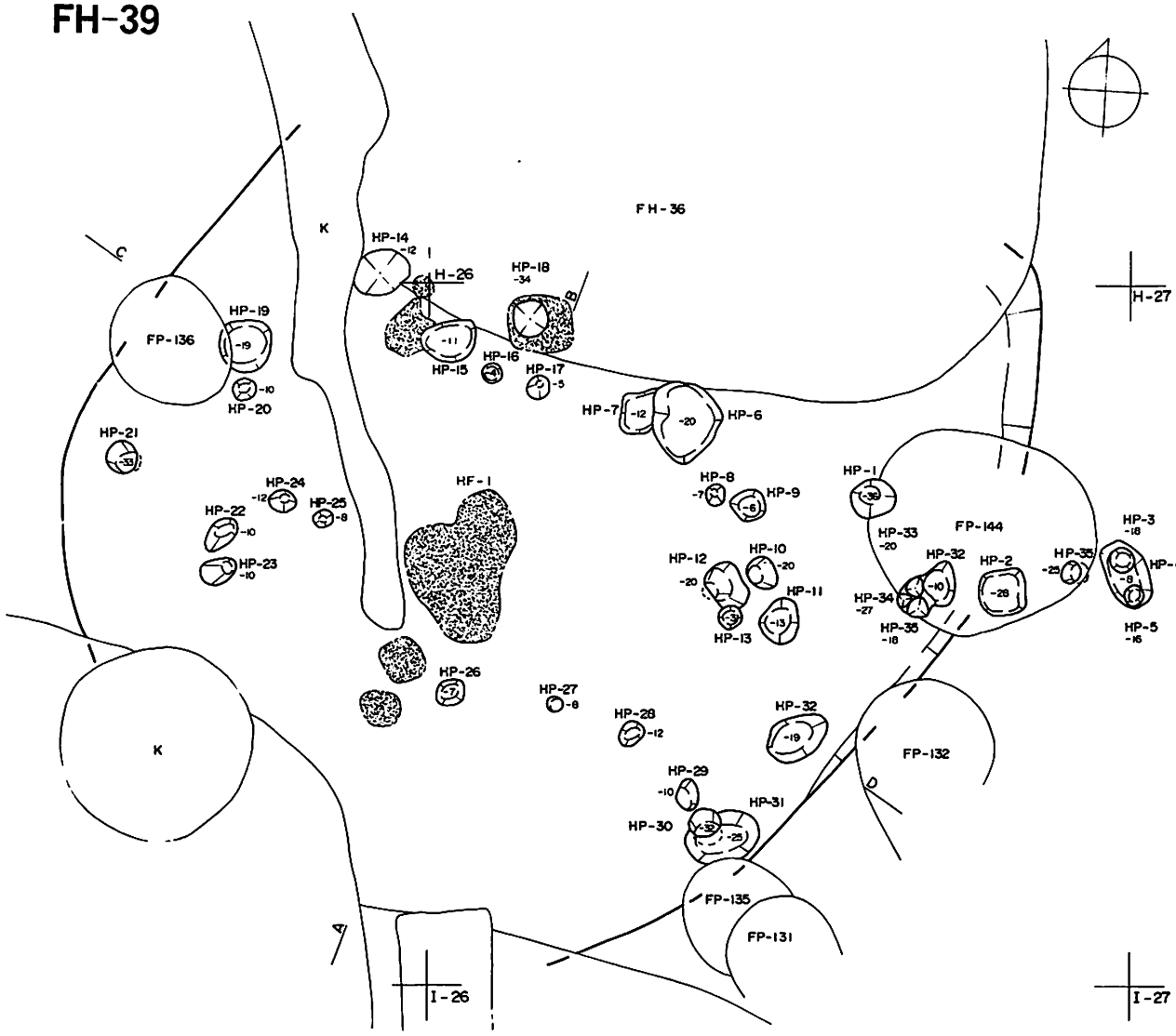
図III—198 FH—38 遺物(2)



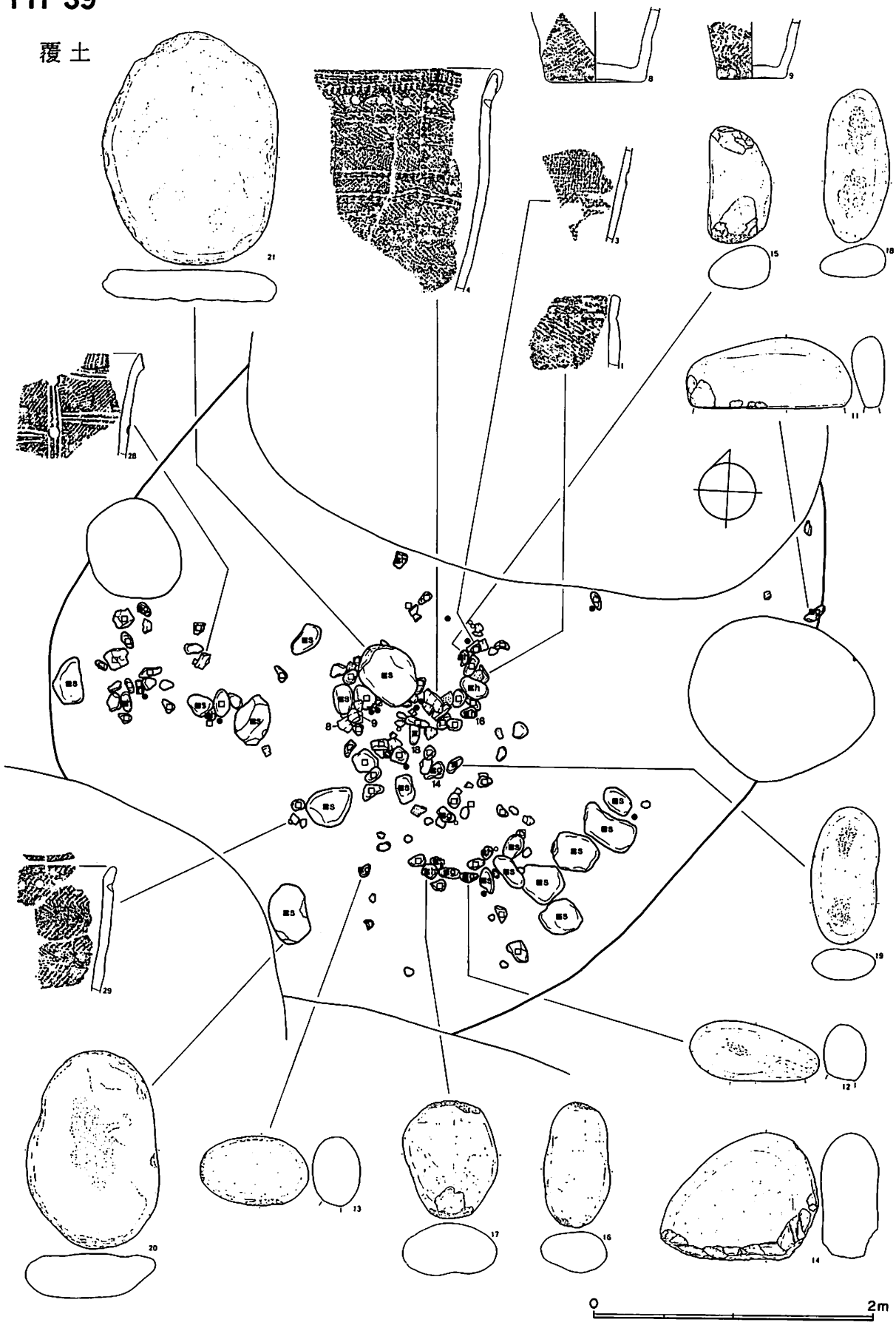
図Ⅲ－199　FH－38 遺物（3）



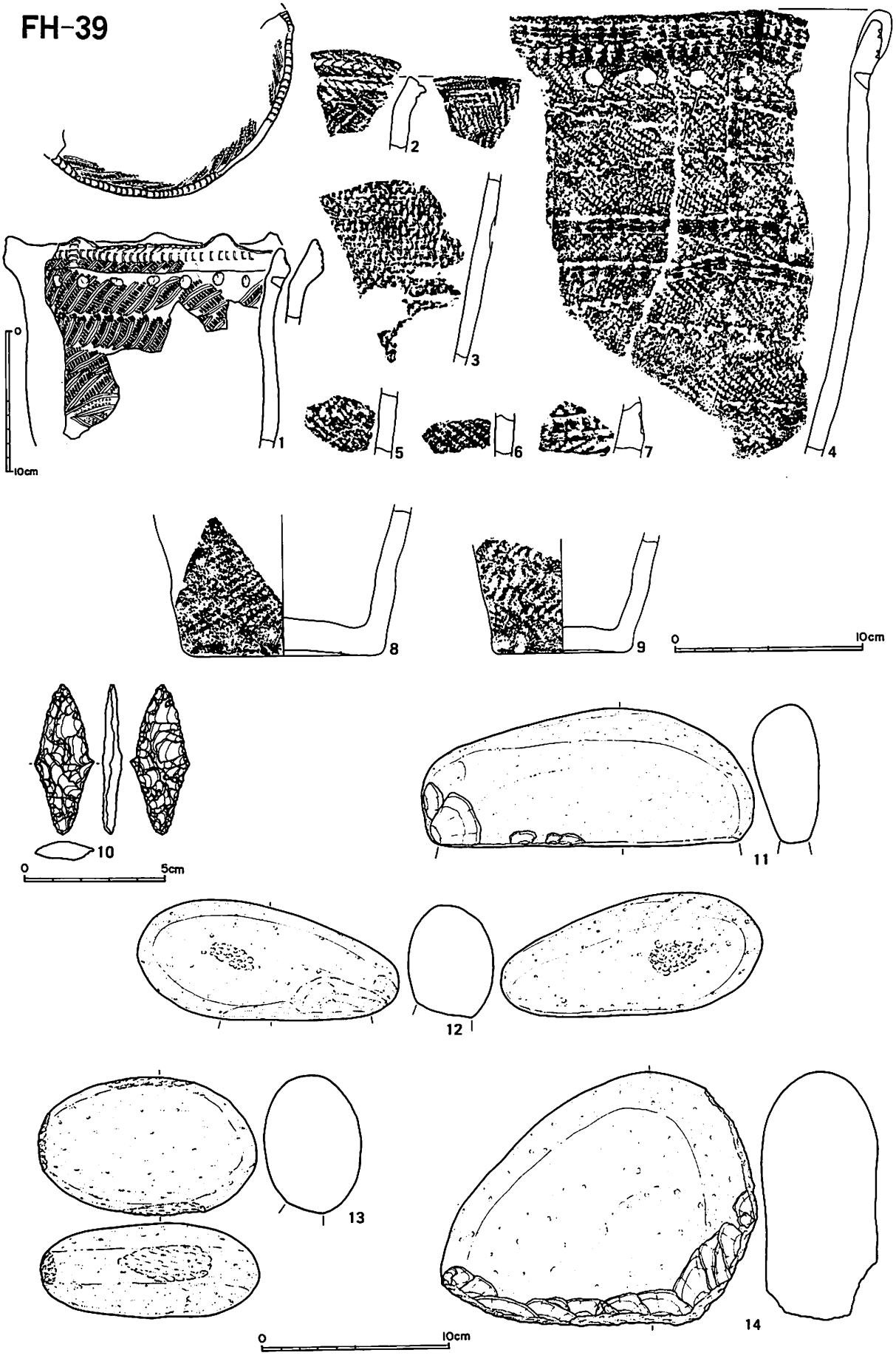
図III－200　FH－38遺物（4）


FH-39
FH-36
K
C
HP-14
-12
I
H-26
HP-18
-34
HP-19
-19
FP-136
HP-15
-11
HP-16
HP-17
-5
HP-20
-10
HP-7
-12
-20
HP-6
HP-21
-33
HP-24
-12
HP-25
-8
HP-22
-10
HP-23
-10
HF-1
HP-8
-7
HP-9
-6
HP-1
-39
FP-144
HP-33
-20
HP-32
-10
HP-2
-28
HP-3
-18
HP-4
HP-35
-25
-8
HP-34
-27
HP-35
-18
HP-5
-16
HP-12
-20
HP-10
-20
HP-11
-13
HP-13
-32
HP-26
HP-27
-8
HP-28
-12
HP-32
-19
FP-132
HP-29
-10
HP-31
HP-30
-35
-25
FP-135
FP-131
H-27
I-26
I-27
A
B 8.30
FH-36
HF-1
1 暗褐色土（焼土・炭化物多量）
C
D 8.30
K
FP-136
HP-19
HF-1
HP-32
0
2m

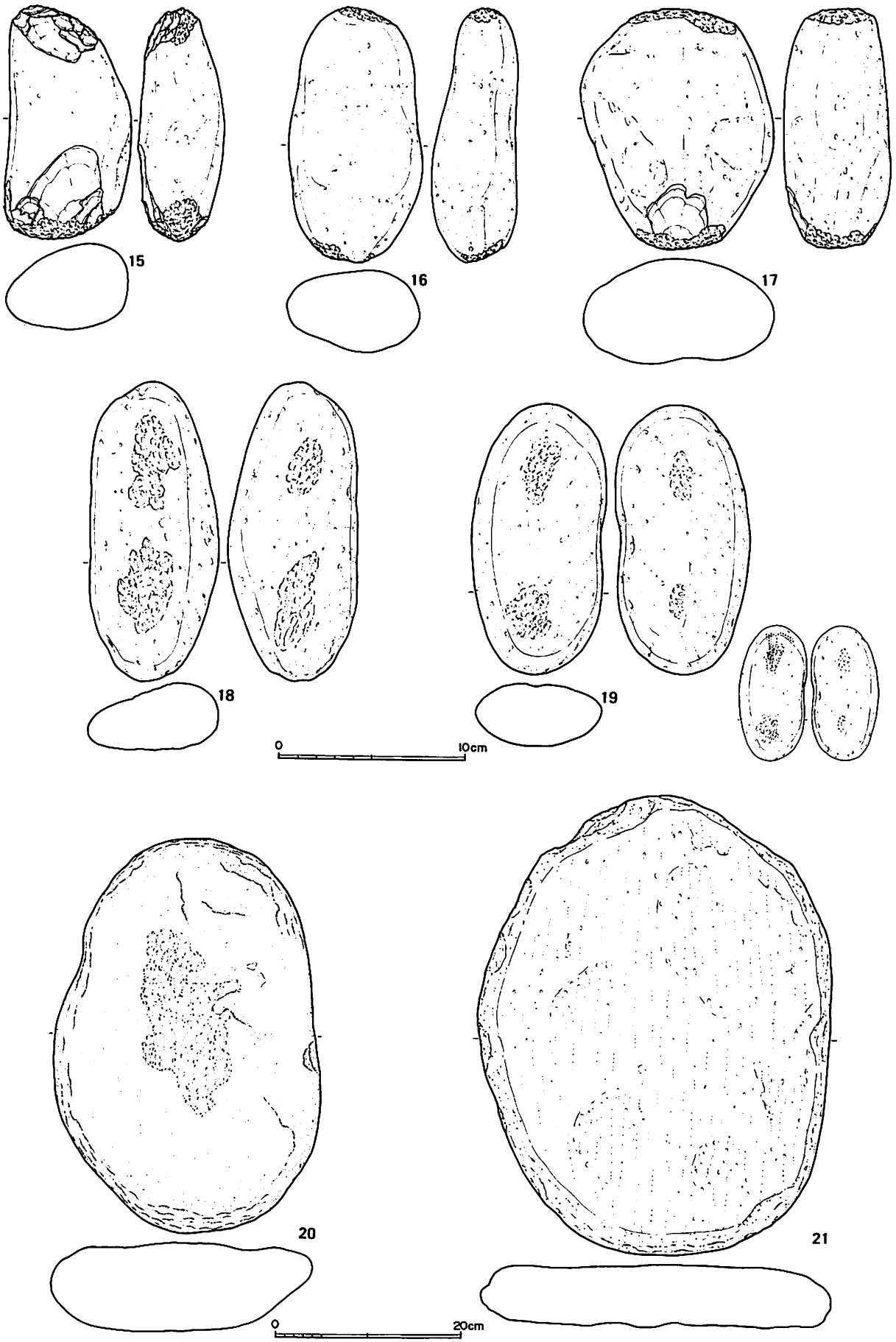
図Ⅲ—201　FH—39(1)



図Ⅲ—202　FH—39(2)



図Ⅲ—203　FH—39 遺物(1)



図Ⅲ－204　FH－39 遺物（2）

に伴う可能性がある。すべて地床炉である。覆土は焼土や炭化物を多量に含んだ暗褐色土層のみである。

遺物　出土遺物総数は263点，その内訳は土器91点，石器類39点，フレイク類９点，礫類124点，土器はII群Ｂ類，III群 B3 類が多く，石器ではたたき石（９点），石皿・台石（18点）が多い。遺物は中央部に集中している部分があるが，東側では石皿・台石がかたまって確認された。

土器　II群 B1 類（２），II群 B2a 類（３），II群Ｂ類（５・６），III群 B3 類（1・4・7～9）

２は不規則な羽状縄文が表裏に施文され，口唇・口唇直下に縄線文が施されている。３は多軸絡条体回転文である。５は結束羽状縄文，６は斜行縄文である。１は半截竹管状工具による押引文が施文された口唇部で，口唇部・体部には付加縄文が施されている。４は押引文が施された口唇部で，体部に斜行縄文と綾絡文が施され，押引文が加えられている。８・９は揚げ底で，８は斜行縄文，９は結束羽状縄文である。

石器　10は有茎のポイント。11～13はすり石であるが，12はくぼみ石もしくはたたき石，13もたたき石として使用されている。14は石皿を転用した北海道式石冠の未成品。15～17はたたき石で，いずれも長軸の両端に使用痕がある。18・19はくぼみ石で，19には赤色顔料の付着が認められる。20・21は石皿・台石である。

時期　縄文時代中期末，III群 B3 類土器の時期と考えられる。

FH—40（図III—205・206，図版58）

平面形　—　　**規模**　(3.83)×(1.00)／(3.62)×(0.90)／0.25m

面積　(3.03)m²　　**重複**　FH—35より新しく，FH—33より古い。

特徴　FH—35の東側，FH—33の下で確認され，北側の未調査区域にのびている。掘り方はしっかりしていて，床面は比較的平坦で，東側壁面の傾斜は急角度である。小ピットは４ヵ所(HP—1～4)，いずれも柱穴と思われる。炉跡はみられない。覆土の３層はFH—33の覆土で，４層以下が本住居跡の構築された時期に近いものであり，黄褐色土ブロックが比較的多くみられる。

遺物　出土遺物総数は36点，その内訳は土器13点，石器類7点，フレイク３点，礫類13点，土器はII群 B2c・Ｂ類とIII群 B3 類，石器はつまみ付きナイフ（１点），北海道式石冠（１点），たたき石（２点），砥石（１点），石皿・台石（２点）である。覆土西側で確認されている。

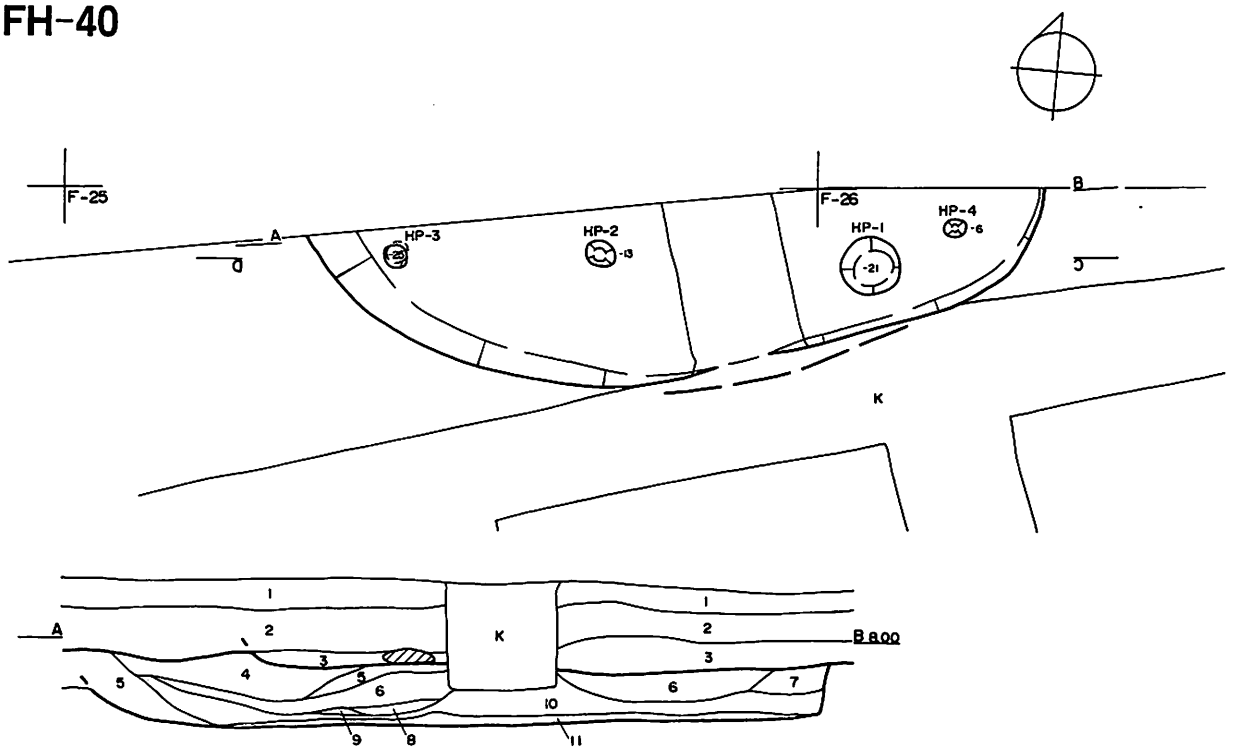
土器　II群 B2c 類（１），II群Ｂ類（２～４），III群 B3 類（５～７）

１は頸部に絡条体圧痕文と半截竹管状工具による刺突文が施されている。２は口唇部に棒状工具の刺突文が加えられている。体部は結束羽状縄文である。３・４は斜行縄文である。５は半截竹管状工具による押引文が施された口唇部で，口唇部直下に円形刺突文があり，体部には斜行縄文が施され，押引文が加えられている。

石器　８はつまみ部は不明瞭であるが，横形両面加工のつまみ付きナイフで，剝片石器はこの１点だけである。９は北海道式石冠。10・11はたたき石。12は砥石。13は石皿である。

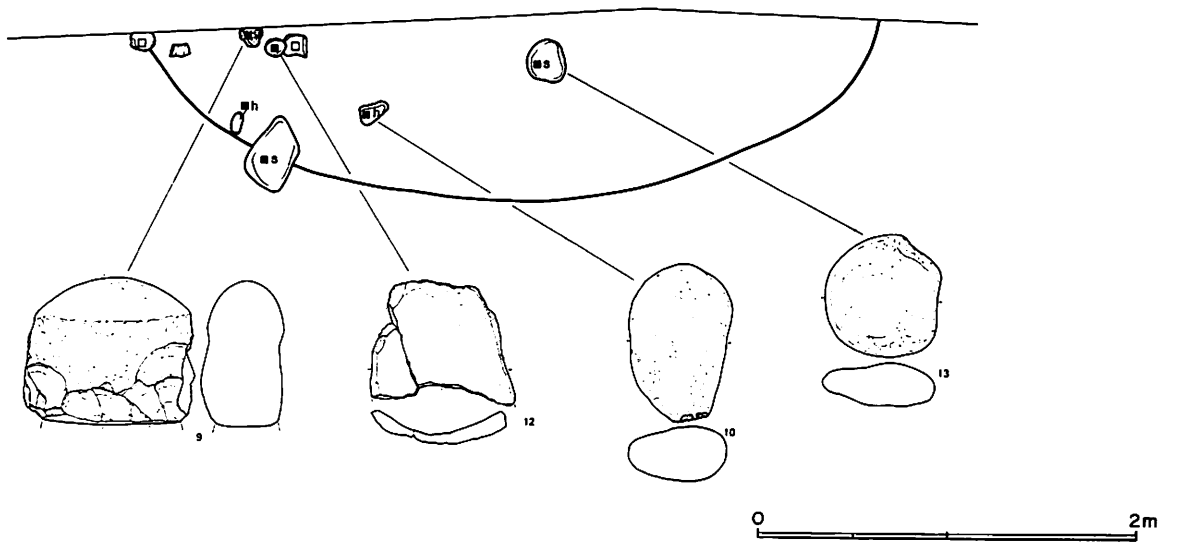
時期　縄文時代前期末～中期初頭，II群Ｂ類土器の時期と考えられる。

FH-40

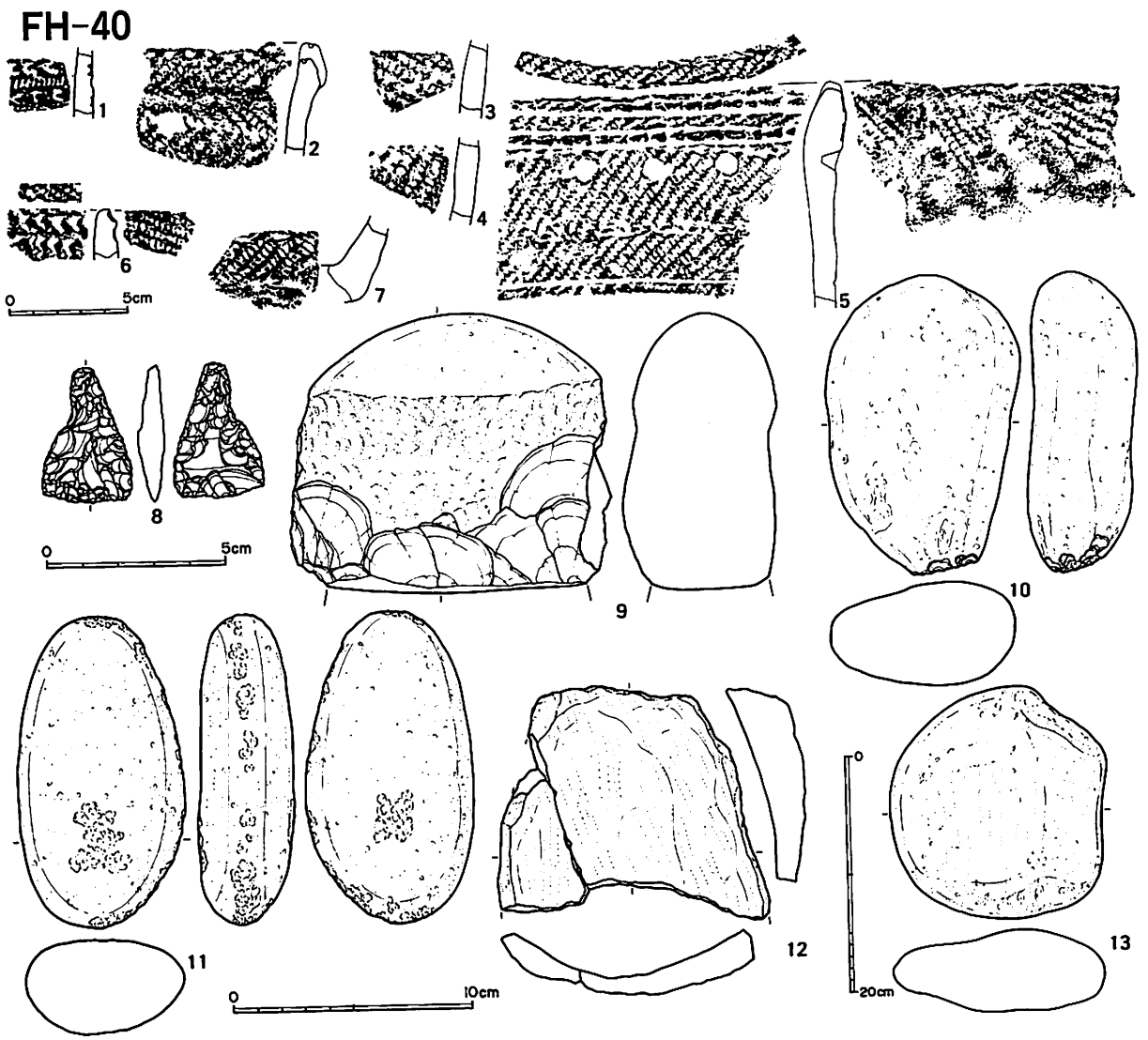


1　耕作土（第Ⅰ層）
2　黒色土（第Ⅱ層）
3　暗黒褐色土（FH—35 の 6 層）
4　暗褐色土
5　黄褐色土ブロック（FH—35 の 8 層）
6　暗褐色土（黄褐色土ブロックを含む）
7　褐色土（黄褐色土ブロック多量）
8　明黄褐色土
9　褐色土（黄褐色土粒多量）
10　暗褐色土（黄褐色土ブロックを含む）
11　暗灰褐色土

覆土



図Ⅲ—205　FH—40



図Ⅲ—206　FH—40 遺物

(2) 土　　壙

104基の土壙（FP—14～16・20～50・70～80・93～151）は縄文時代前・中期のⅠ群92基（FP—14・20～26・31・32・36・37・40～50・70～74・76～80・93～151）と晩期のⅡ群12基（FP—15・16・27～30・33～35・38・39・75）に分けられる。さらに，Ⅰ群土壙は土壙墓と考えられる1類14基（FP—104・110・114・116・123・124・128・130・139・141・145～147・149）と性格不明の2類78基（FP—14・20～26・31・32・36・37・40～50・70～74・76～80・93～103・105～109・111～113・115・117～122・125～127・129・131～140・142～144・148・150・151）に分けられる。Ⅰ群1類，Ⅰ群2類，Ⅱ類の順で説明する。

Ⅰ群1類土壙

14基の土壙は沖積低地の中央やや北側に分布している。2基（FP—104・130）以外の12基はすべて住居跡と重複している。南北はF～Mライン，東西は23～28ラインの範囲（24～18m程度）に分布し，K—24付近に5基（FP—114・116・123・124・128），J—26北

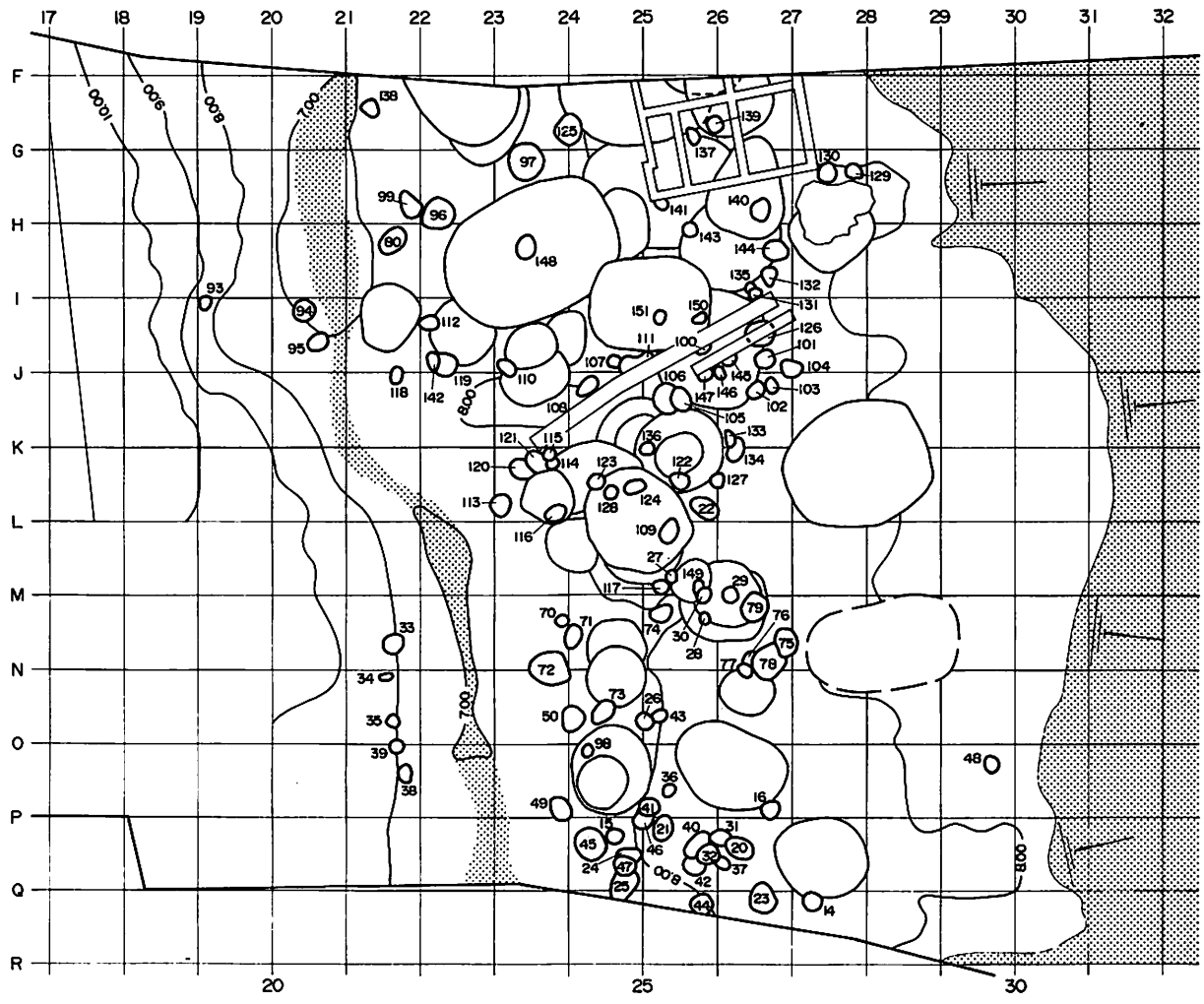
側に4基（FP—104，145～147）の集中域がみられるが，他の5基は離れて分布している。時期はすべて縄文時代前期末～中期初頭，II群B2類土器の時期である。

FP—104（図III—208・215，図版59—1）

平面形　楕円形　　**規模**　0.98×1.00／0.83×0.50／0.55m　　**重複**　なし。

特徴　上部はやや不整形に広がり，壁面は2段になっている。二つの土壙が重複している可能性もあるが，確認できなかった。壙底は凹凸があり，壁面はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は三層に分けたが，1・2層は黄褐色土ブロックを含み，壙底に近い3層はベンガラをわずかに含んでいると思われ，暗赤褐色を呈していた。人骨は確認できなかったが，壙底北側でベンガラが12×14cmの範囲で確認できた。

遺物　土器52点（IIB2a・5，IIB2C・2，IIB・45），スクレイパー1点，すり石1点，コア2点，フレイク2,110点，Uフレイク2点，礫△1点，礫18点が出土。遺物は覆土の上部から出土しているものが多く，副葬品とみられるものはない。1～4はII群B2a類土器，いずれも体部に多軸絡条体回転文がみられ，1は口頸部に縄線文，2は刺突文で区画された口頸部に縄線文が施されている。5は直線状の刃部をもつスクレイパー，6は欠損しているが両端を打ち欠いたすり石である。



図III—207　C地区土壙分布図

FP—110（図III—208・215，図版59—2）

平面形 楕円形　　**規模** 1.07×0.83／0.52×0.32／0.60m　　**重複** FH—23・24より新しい。

特徴 壙底は壙口に比べ小さく，凹凸がある。壁面は傾斜があり，断面は摺鉢状になっている。覆土上部はIIb層に近い暗褐色土（1層），下部は黄褐色土ブロックを含む暗灰褐色土（2層）である。人骨，ベンガラは確認できなかった。

遺物 土器35点（IIB2b・1，IIB・34），たたき石4点，フレイク3点，礫△4点，礫20点が出土。遺物の大部分は覆土上部の1層から出土。副葬品の可能性は薄い。7はII群B類の小型土器，口唇部・体部に半截竹管状工具による押引文が施されている。胎土は砂粒が多く，繊維は少ない。8はII群B2b類土器，切り出し状の口唇部と口頸部に縄線文が施されている。9〜11はたたき石，9は球状礫のほぼ全面に，10・11は長軸の両端に使用痕がみられる。

FP—114（図III—209・215，図版59—3・4）

平面形 円形　　**規模** 0.68×0.67／0.62×0.61／0.66m　　**重複** FH—21，FP—121より新しく，FP—115より古い。

特徴 壙底は皿状に凹み，壁面はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は四層に分けたが，4層の褐色土には黄褐色土ブロックが多量に含まれている。

遺物 土器3点（IB2・1，IIB・2），コア2点，フレイク12点，Uフレイク1点，礫11点が出土。遺物は覆土中から散発的にみられた。12はII群B類土器の体部破片である。結束羽状縄文が施され，補修孔がみられる。

FP—116（図III—209・215，図版59—5・6）

平面形 楕円形　　**規模** 1.05×0.77／0.98×0.67／0.44m　　**重複** FH—18より古い。

特徴 壙底はわずかに凹凸があるが，比較的平坦である。壁面は垂直に近い角度で立ち上がるが，南側はオーバーハングしている。覆土は三層に分かれ，2層の暗褐色土は黄褐色土ブロックを多量に含み，3層の黄褐色土は粘質である。

遺物 土器4点（IB2・3，IIB・1），フレイク1点が覆土中より出土。13はII群B類の体部破片である。結束羽状縄文が施されている。

FP—123（図III—210・216，図版60—1）

平面形 楕円形　　**規模** 0.89×0.75／0.76×0.62／0.64m　　**重複** FH—19・21より古い。

特徴 壙底は比較的平坦で，壁面は急角度で立ちあがるが，東壁面は凹凸がみられる。覆土は三層に分かれ，2層の褐色土は黄褐色土ブロックを多量に含み，3層の暗赤褐色土にはベンガラが少量みられる。また，東側壙底ではベンガラがブロック状に確認されたが，人骨は残存していなかった。

遺物 土器47点（IB2・1，IIB2a・1，IIB2c・13，IIB・32），たたき石1点，コア6点，フレイク50点，Uフレイク1点，礫△1点，焼礫3点，礫48点が出土。遺物の大半は1層か

ら出土している。14はII群B2a類土器で，単軸絡条体文が施されている。15•16はII群B2c類土器，15は斜行縄文•刺突文が加えられた口唇部で，半截竹管状工具の刺突文によって区画された無文地の口頸部に絡条体圧痕文が施されている。16の無文地の口頸部は，鋸歯状の絡条体圧痕文が施されている。体部は結束羽状縄文である。17は長軸両端と腹面・側面中央に使用痕のみられるたたき石である。

FP—124（図III—210・216，図版60—2・3）

平面形　楕円形　　**規模**　0.95×0.60／0.80×0.50／0.64m　　**重複**　FH—19より古い。

特徴　壙底は皿状に凹み，長軸方向の壁面は丸味がある。覆土は五層に分かれ，2・4・5層は黄褐色土ブロックや炭化物・黒色土を含んでいる。人骨，ベンガラなどは残存していなかった。

遺物　土器8点（IIB2b•1，IIB•7），砥石2点，フレイク25点，礫△3点，焼礫1点，礫48点が出土。遺物は覆土中に散発的にみられ，壙底近くでは東側で大型の土器片と礫が確認されたが，副葬品と思われるものはない。18はII群B2b類土器，19•20はII群B類土器である。18は縄線文・半截竹管状工具による刺突文の施された口唇部で，口頸部はくびれが強い。半截竹管状工具による刺突文で区画された口頸部には，鋸歯状の縄線文が施されている。19は無文，20は結束斜行縄文である。

FP—128（図III—211，図版60—4・5）

平面形　楕円形　　**規模**　0.76×0.67／0.73×0.63／0.38m　　**重複**　FH—19より古い。

特徴　壙底は凹凸がみられ，壁面は垂直に立ち上がる。覆土は二層に分かれ，大半を占める2層は黄褐色土ブロックを多量に含んでいる。人骨，ベンガラともに残存していない。

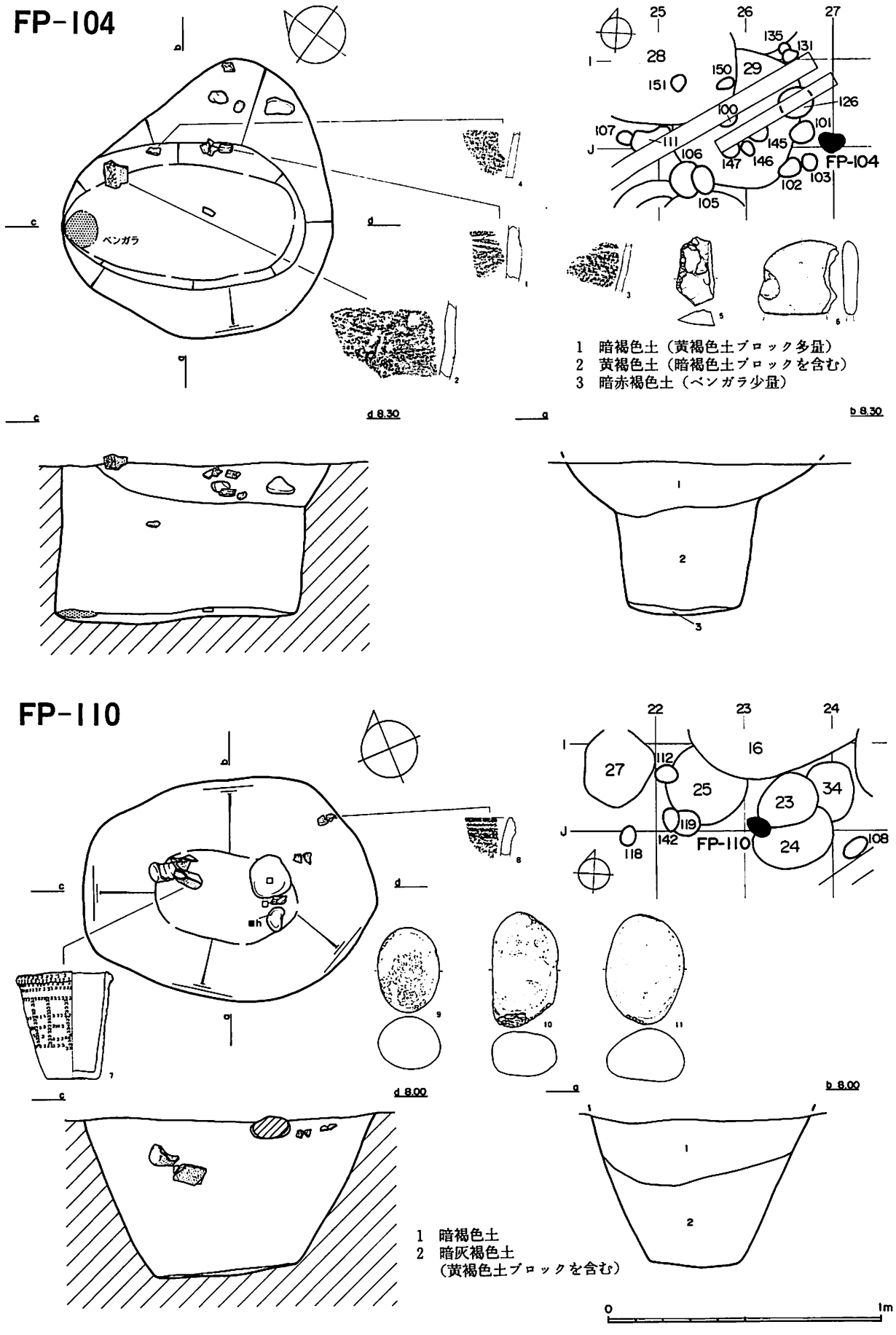
遺物　北海道式石冠1点，礫1点，が覆土上部で確認されたのみである。

FP—130（図III—211・216，図版61—1〜3）

平面形　楕円形　　**規模**　1.03×0.88／0.95×0.83／0.57m　　**重複**　なし

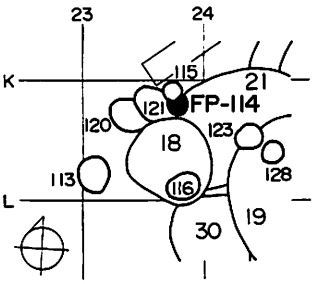
特徴　壙底は凹凸があり，壁面は垂直に近い角度で立ち上がる。覆土は六層に分かれ，暗赤褐色土（1・5層）と黄褐色土（3・4・6層）が主体である。人骨，ベンガラともに残存していない。

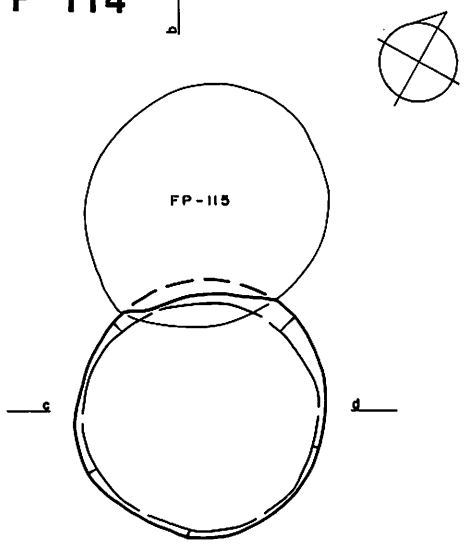
遺物　土器76点（IIB2a•5，IIB2b•2，IIB2c•2，IIB•51，IIIBI•1，IIIB•3，IVA•2），石鏃2点，ポイント1点，スクレイパー1点，コア2点，フレイク125点，Uフレイク2点，礫△14点，焼礫1点，礫121点，石製品1点が出土。III・IV群土器は1・2層上部に黒色土の落ち込みから出土している。他は覆土中から散発的にみられた。石製品はヒスイ製の垂飾で東側の壙底で確認され，副葬品と考えられる。21•22はII群B2a類，23•24はII群B2c類，25〜28はII群B類土器である。21は単軸絡条体回転文，22は多軸絡条体回転文である。23は口唇部・口頸部に絡条体圧痕文が施されている。25は斜行縄文が施された口唇部である。27は羽状縄文である。18は体部に斜行縄文が施され，底部は張り出している。29・30はいずれも黒曜石製の石鏃，29は有茎凸基，30は茎が太く，かえしが不明瞭である。31は

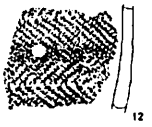


図Ⅲ—208　FP—104・110

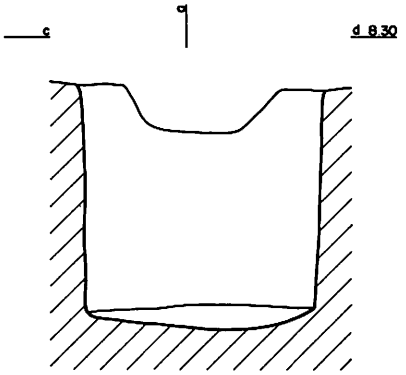
FP-114

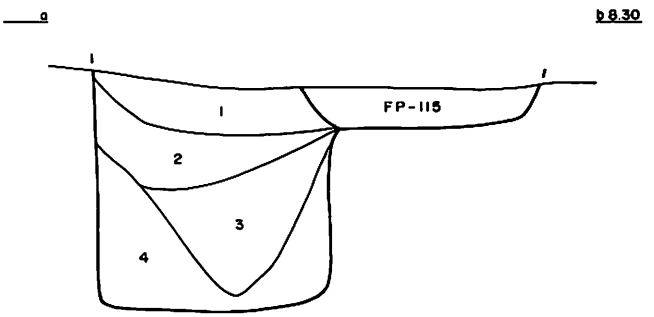




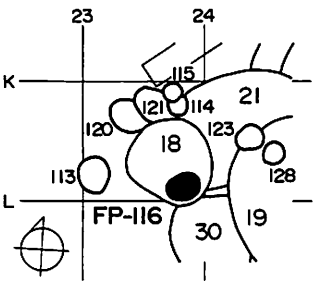


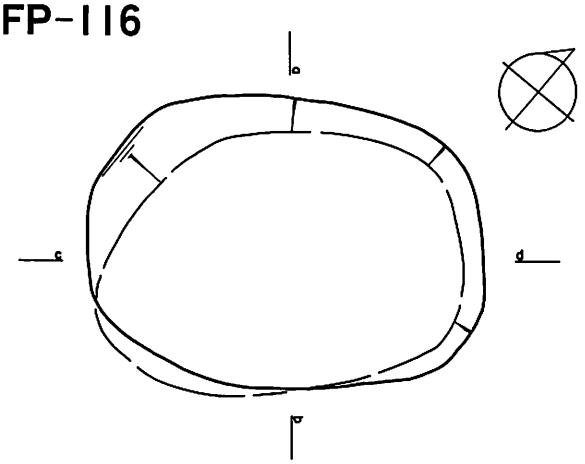
1 褐色土
2 黒色土（黄褐色土粒少量）
3 暗褐色土
4 褐色土（黄褐色土ブロック多量）





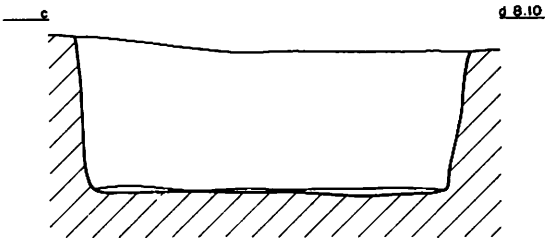
FP-116

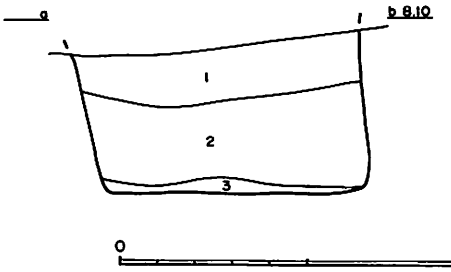






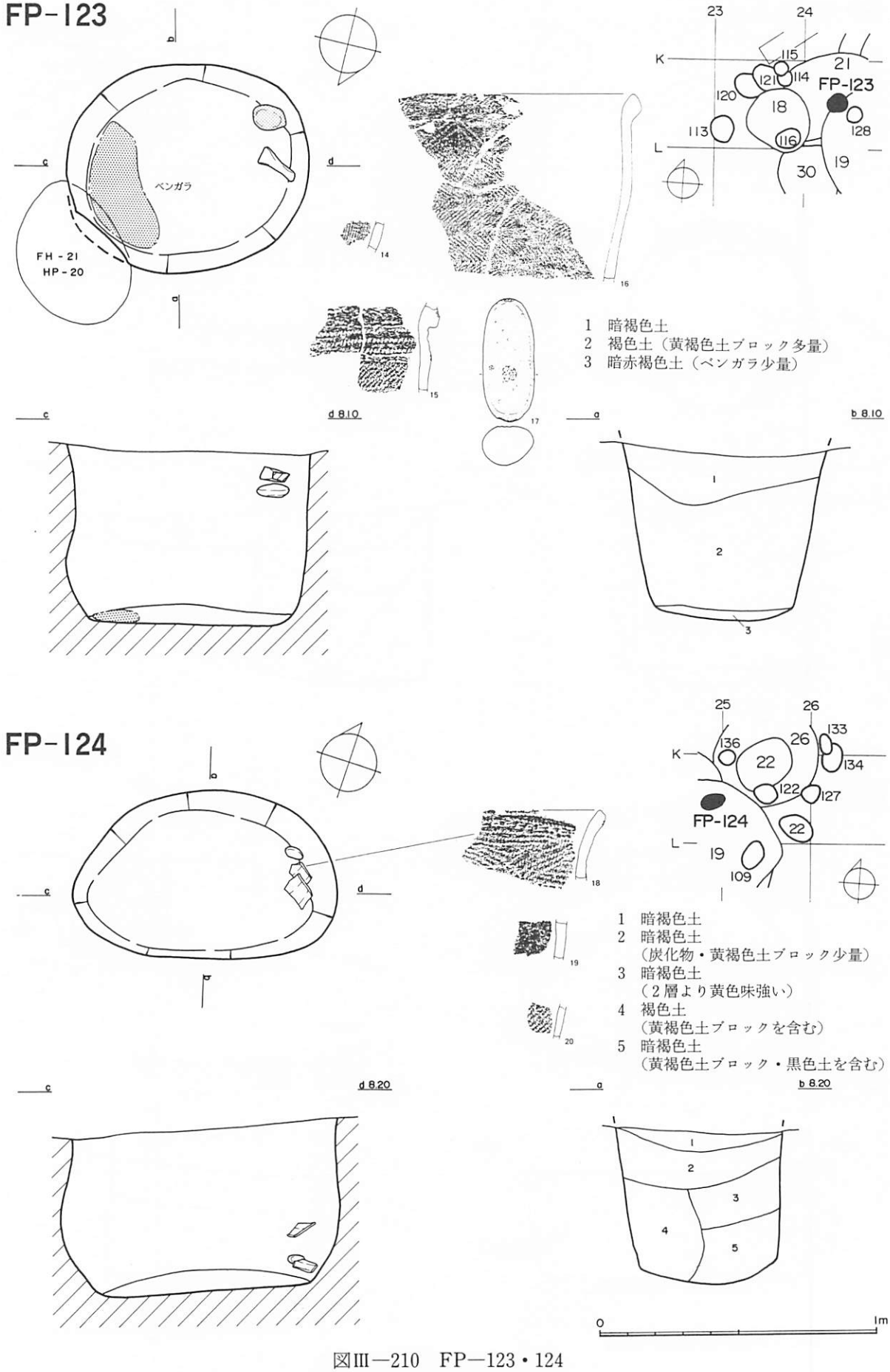
1 褐色土
2 暗褐色土（黄褐色土ブロック多量）
3 黄褐色土（粘質）





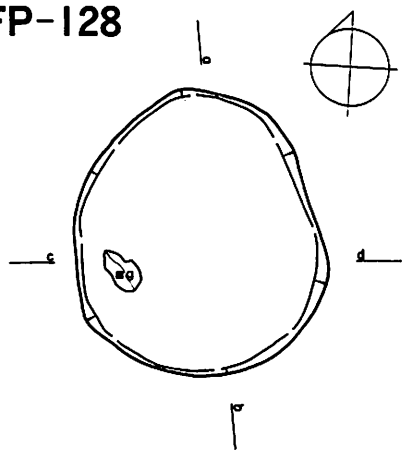


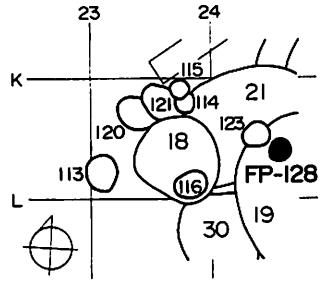
図III—209 FP—114・116



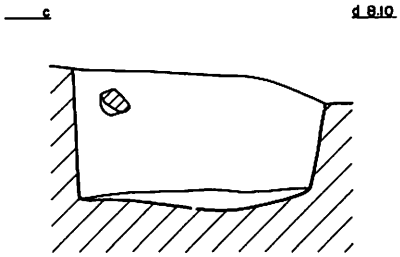
図Ⅲ—210　FP—123・124

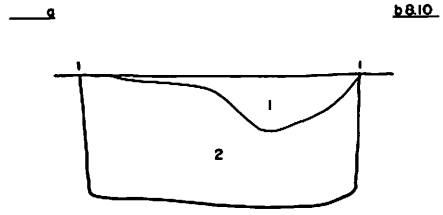
FP-128



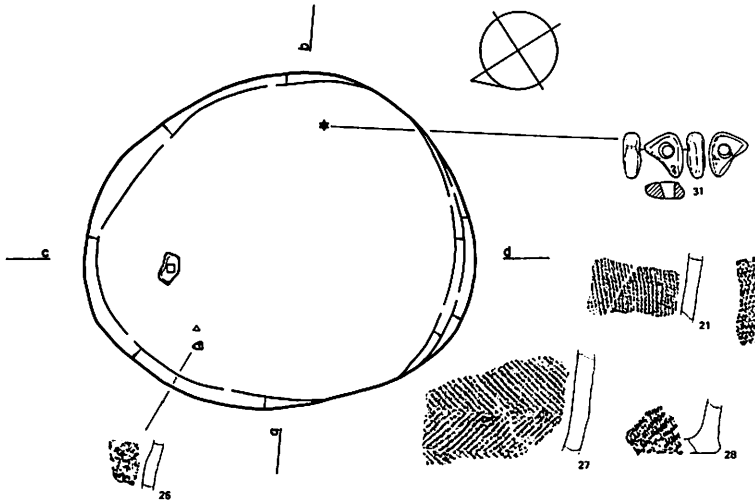


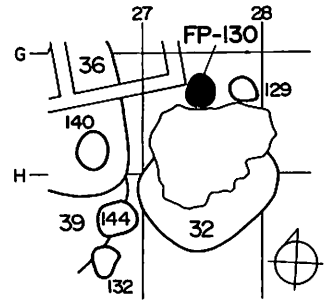
1　暗褐色土
（粘質，黄褐色土粒・黒色土ブロック少量）
2　褐色土
（黄褐色土ブロック多量）



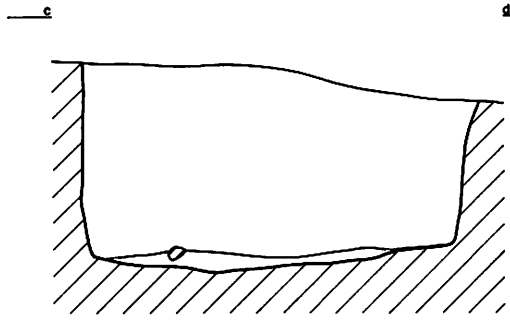


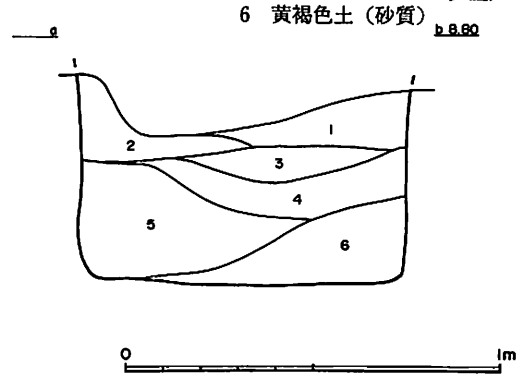
FP-130





1　暗赤褐色土
2　暗褐色土
（黒色土粒を含む）
3　黄褐色土ブロック
4　黄褐色土
5　暗赤褐色土
（黄褐色土ブロック少量）
6　黄褐色土（砂質）





図III—211　FP—128・130

ヒスイ製の垂飾である。

FP—139（図Ⅲ—212・216，図版61—4）

平面形 楕円形　　**規模** 0.83×0.64／0.94×0.53／0.35m　　**重複** FH—33より古い。

特徴 FH—33の床面で確認され，北側がHP—9•12でわずかに壊されている。壙底は比較的平坦で，壁面は垂直に近い角度で立ち上がる。覆土は六層に分かれ，2～4層は黄褐色土ブロックを含み，5層は黄褐色土ブロック，6層は粘質の黄褐色土である。人骨，ベンガラは残存していなかった。

遺物 土器24点（IIB2a•17，IIB•7）フレイク6点，Uフレイク1点，焼礫1点，礫47点が覆土中から散発的に出土した。32～36はII群B2a類土器である。32は口唇に半截竹管状工具の刺突文が施された角形で，口頸部には縄線文が施されている。33は撚糸圧痕文が施された口唇部で，口頸部には多段の縄線文が施されている。34は尖る口唇部で，体部は無文である。35は2本一組の単軸絡条体回転文と結束羽状縄文が施されている。36・37は多軸絡条体回転文である。

FP—141（図Ⅲ—212，図版61—5・6）

平面形 楕円形　　**規模** 0.76×0.63／0.70×0.58／0.33m　　**重複** FH—38より古い。

特徴 FH—38の床面で確認され，北側の壁面は住宅の基礎で壊されていた。壙底は比較的平坦で，残存している壁面は垂直に近い角度で立ち上がる。覆土は五層に分かれ，1・3・4層は黄褐色土ブロック，2・5層はベンガラを含んでいる。人骨は残存していなかったが，北側の壙底で直径25cm程の円形の範囲にベンガラが残存していた。

遺物 土器1点（V•1），砥石1点，礫△2点，礫2点が覆土中から出土。土器は住宅基礎の撹乱による混入と思われる。覆土上部，中央やや南寄りで確認された大型の扁平礫は意識的に入れられたものと考えられる。

FP—145（図Ⅲ—213・216，図版62—1・2）

平面形 円形　　**規模** 0.74×0.71／0.66×0.64／0.30m　　**重複** FH—29より古い。

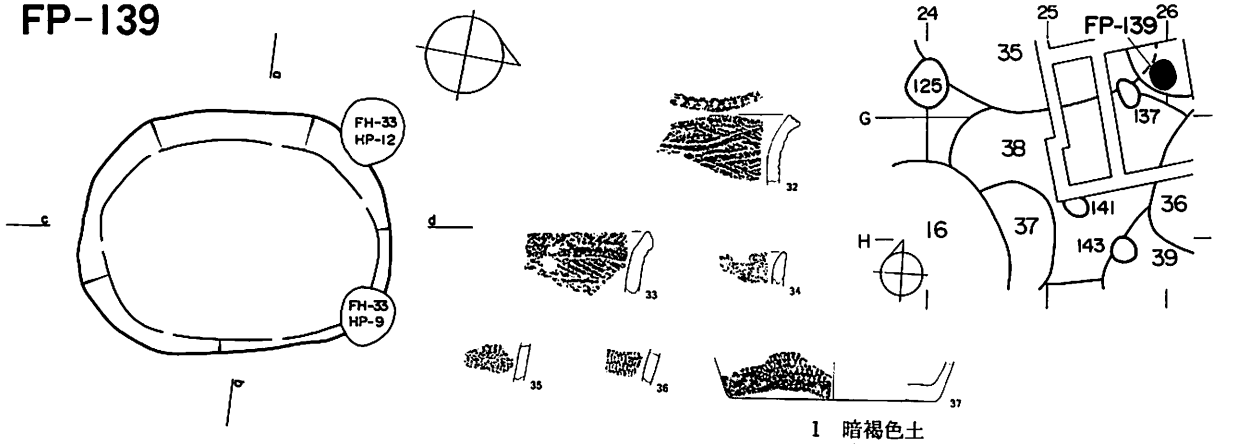
特徴 FH—29の壙底で確認された。壙底は比較的平坦で，壁面は急角度で立ち上がる。覆土は六層に分かれ，主体を占める3・5層の褐色土は黄褐色土ブロックを含んでいる。人骨，ベンガラは残存していない。

遺物 土器4点（IIB），つまみ付きナイフ1点，スクレイパー1点，たたき石1点，コア1点，フレイク4点，礫△4点，礫22点が出土。たたき石，礫類は覆土中位で確認されている。38は斜形で周辺加工の黒曜石製のつまみ付きナイフである。

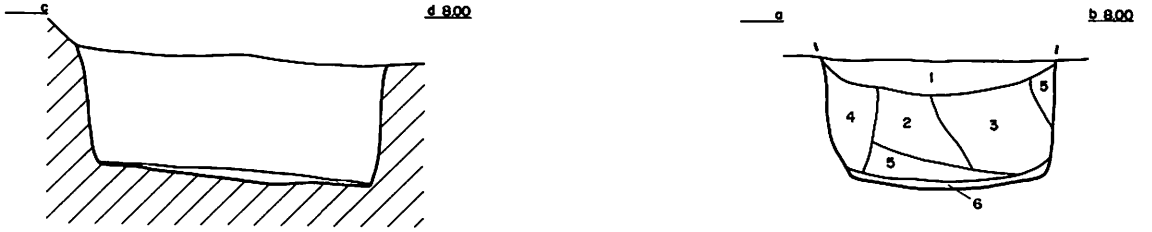
FP—146（図Ⅳ—213・217，図版62—3）

平面形 楕円形　　**規模** 0.75×0.52／0.63×0.39／0.48m　　**重複** FH—29より古い。

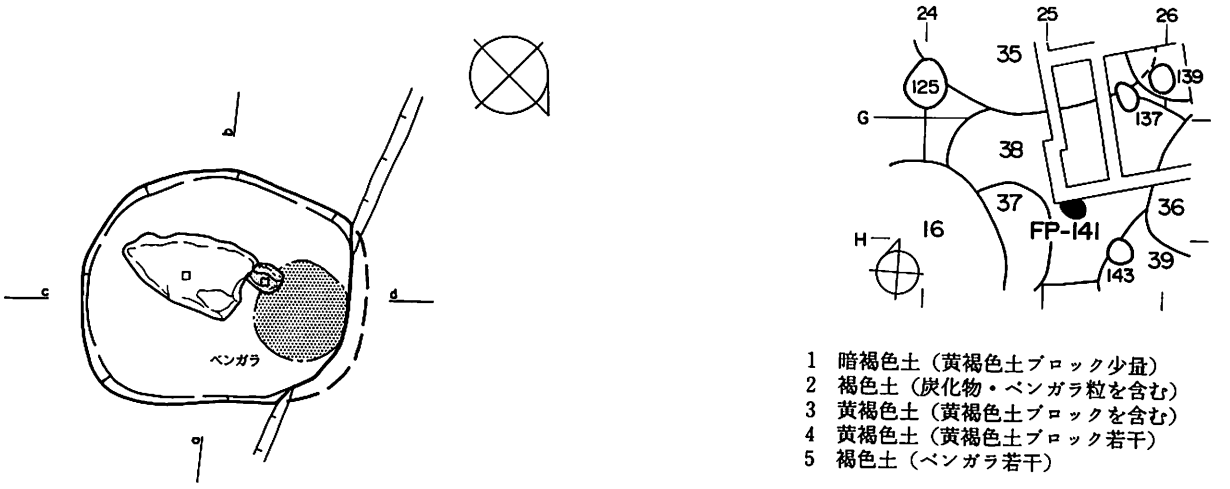
FP-139



1 暗褐色土
2 暗褐色土（黄褐色土ブロック少量）
3 赤褐色土（黄褐色土ブロックを含む）
4 褐色土（黄褐色土ブロック多量）
5 黄褐色土ブロック
6 黄褐色土（粘質）



FP-141

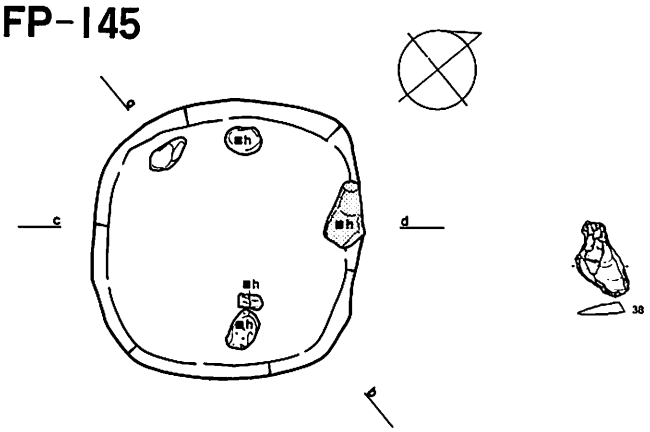


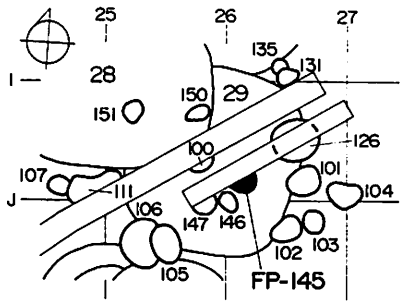
1 暗褐色土（黄褐色土ブロック少量）
2 褐色土（炭化物・ベンガラ粒を含む）
3 黄褐色土（黄褐色土ブロックを含む）
4 黄褐色土（黄褐色土ブロック若干）
5 褐色土（ベンガラ若干）



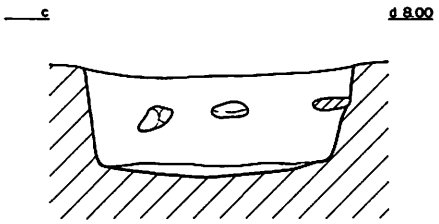
図III—212 FP—139・141

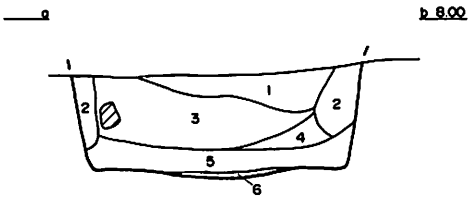
FP-145



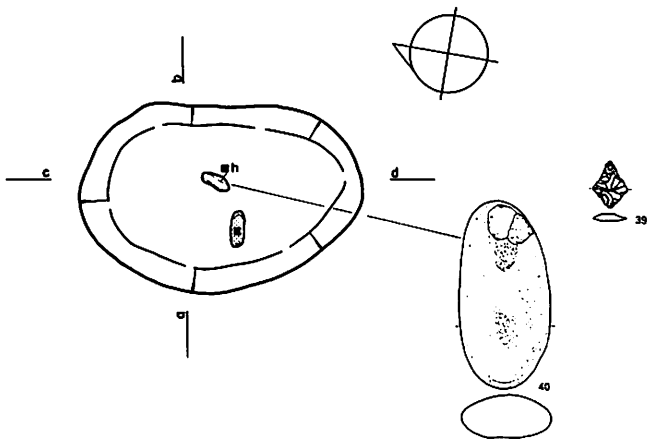


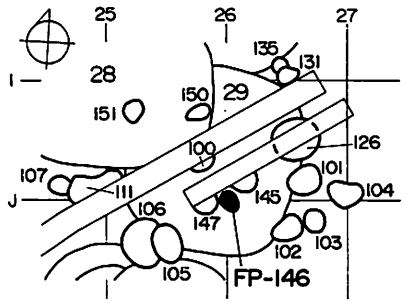
1 暗褐色土
2 黄褐色土ブロック
3 褐色土（黄褐色土ブロックを含む）
4 黒色土（炭化物を含む）
5 褐色土（黄褐色土ブロック多量）
6 黒褐色土



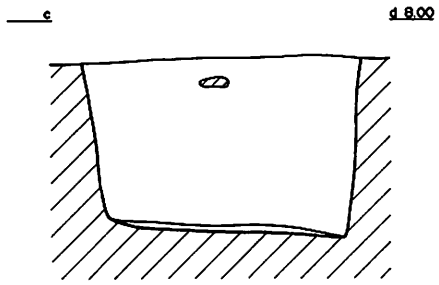


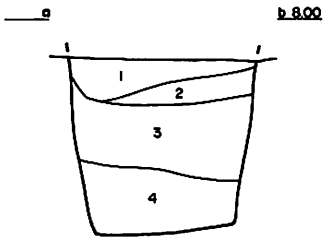
FP-146

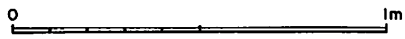




1 暗褐色土
2 褐色土（炭化物を含む）
3 褐色土（黄褐色土ブロックを含む）
4 赤褐色土

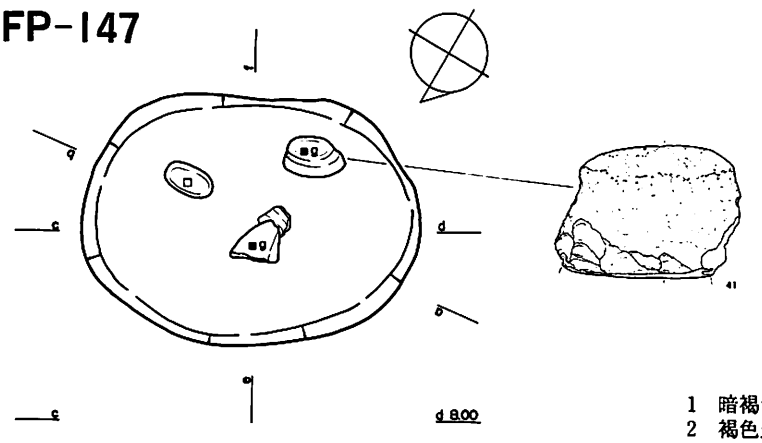


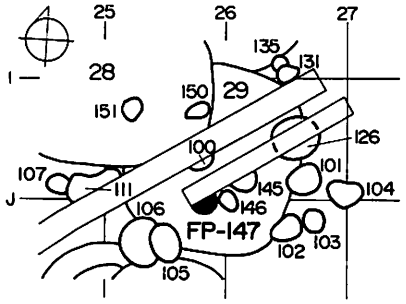




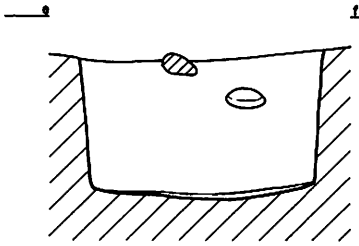
図Ⅲ—213　FP—145・146

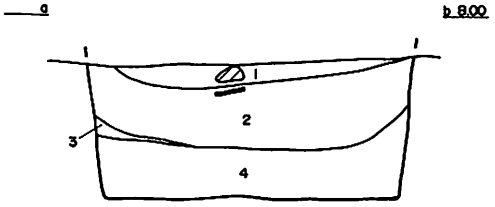
FP-147



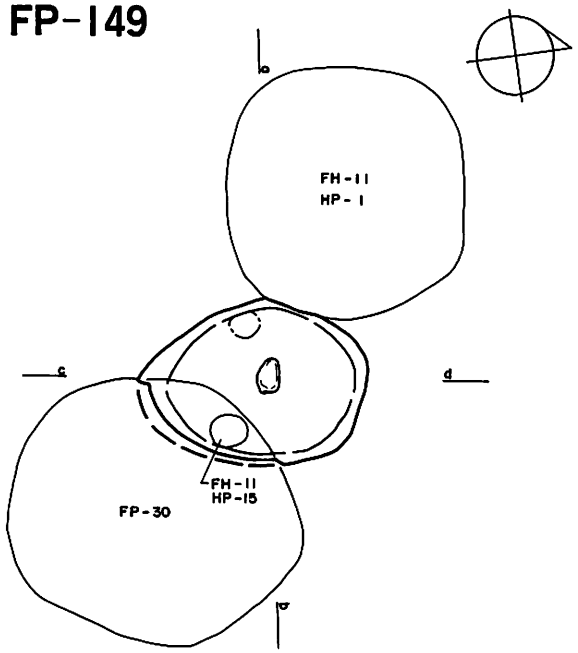


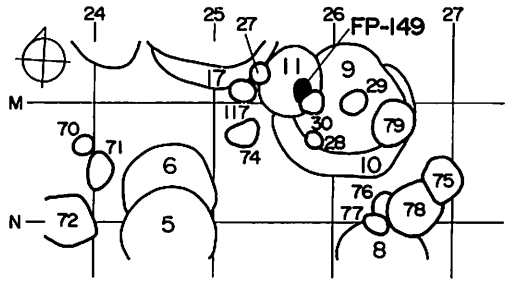
1　暗褐色土
2　褐色土（黄褐色土ブロックを含む）
3　灰褐色土
4　赤褐色土（黄褐色土ブロックを含む）



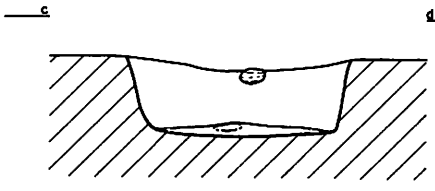


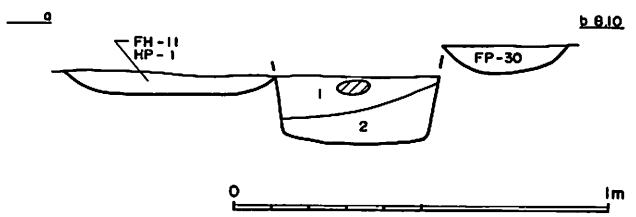
FP-149





1　褐色土（黄褐色土ブロックを含む）
2　褐色土（黄褐色土ブロック多量）





図Ⅲ—214　FP—147・149

特徴　FH—29の床面で確認された。壙底は南側にわずかに傾斜し，壁面の角度は垂直に近い。覆土は四層に分かれ，2・3層の褐色土には炭化物•黄褐色土ブロックが含まれている。人骨，ベンガラは確認されなかった。

遺物　土器6点（IIB），石鏃1点，たたき石1点，くぼみ石1点，フレイク5点，礫△1点，礫4点が覆土中から出土。39は偏菱形の黒曜石製の石鏃，40は両面に2ヵ所ずつ浅いくぼみのあるくぼみ石である。

FP—147（図III—214・217，図版62—5・6）

平面形　楕円形　　**規模**　0.90×0.66／0.84×0.61／0.40m　　**重複**　FH—29より古い。

特徴　FH—29の床面で確認された。壙底は比較的平坦で，壁面の角度は垂直に近い。覆土は四層に分かれ，2・4層には黄褐色土ブロックが含まれている。人骨，ベンガラは残存していなかった。

遺物　土器5点（IIB2c•1，IIB•4），北海道式石冠2点，フレイク1点，礫△1点，礫2点が出土。北海道式石冠と礫類は覆土上部で確認されているが，副葬品と考えられるものはない。41は頭頂部がやや平らな斑岩製の北海道式石冠である。

FP—149（図III—214，図版61—4）

平面形　楕円形　　**規模**　0.61×0.43／0.50×0.39／0.22m　　**重複**　FH—11，FP—30より古い。

特徴　FH—11の床面で確認され，上部はFP—30，FH—11で壊されている。覆土は二層に分かれるが，いずれも褐色土で黄褐色土ブロックの含む割合で分層した。壙底西側でノリ状の人骨と思われるものが確認できたが，ベンガラはみられなかった。

遺物　土器3点（IIB），フレイク27点，Uフレイク11点，礫△6点，焼礫1点，礫10点が覆土中から散発的に確認されているが，副葬品とみられるものはない。

I群2類土壙

78基のうち75基は沖積低地のほぼ全域に分布し，残りの3基は丘麓緩斜面と旧河道部にみられる。平面形は楕円形が多いが，大きさ，深さなどは様々で，横断面は皿状を呈しているものが大半である。覆土は1類と異なり流れ込みと思われる堆積状況で，遺物の出土も多い。時期は2時期あり，縄文時代前期末～中期初頭，II群B類土器の時期と思われるもの71基，中期末，III群B3類土器の時期とみられるもの7基である。縄文時代中期末，III群B3類土器の時期のものだけ時期の項を設けて説明する。

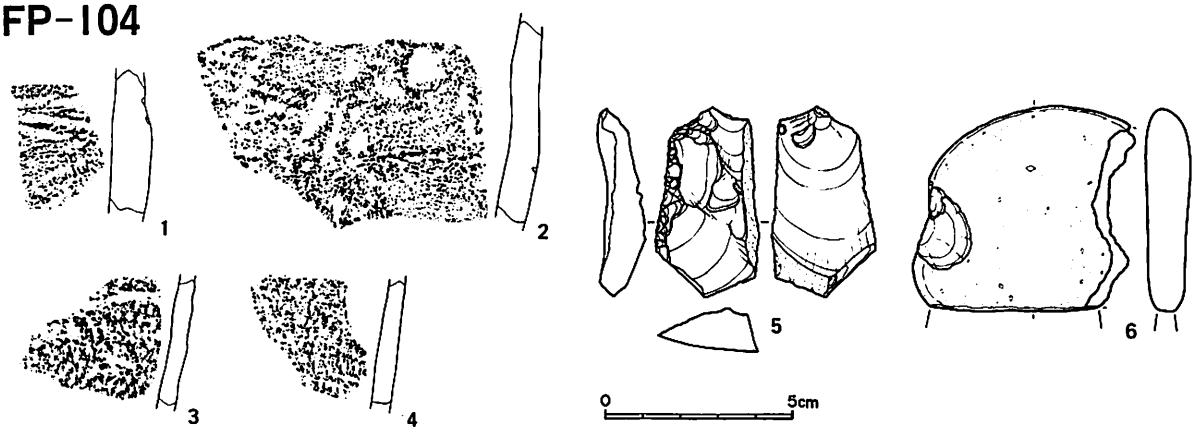
FP—14（図III—218・259，図版63—1・2）

平面形　楕円形　　**規模**　0.84×0.75／0.75×0.56／0.17m　　**重複**　FP—2より新しい。

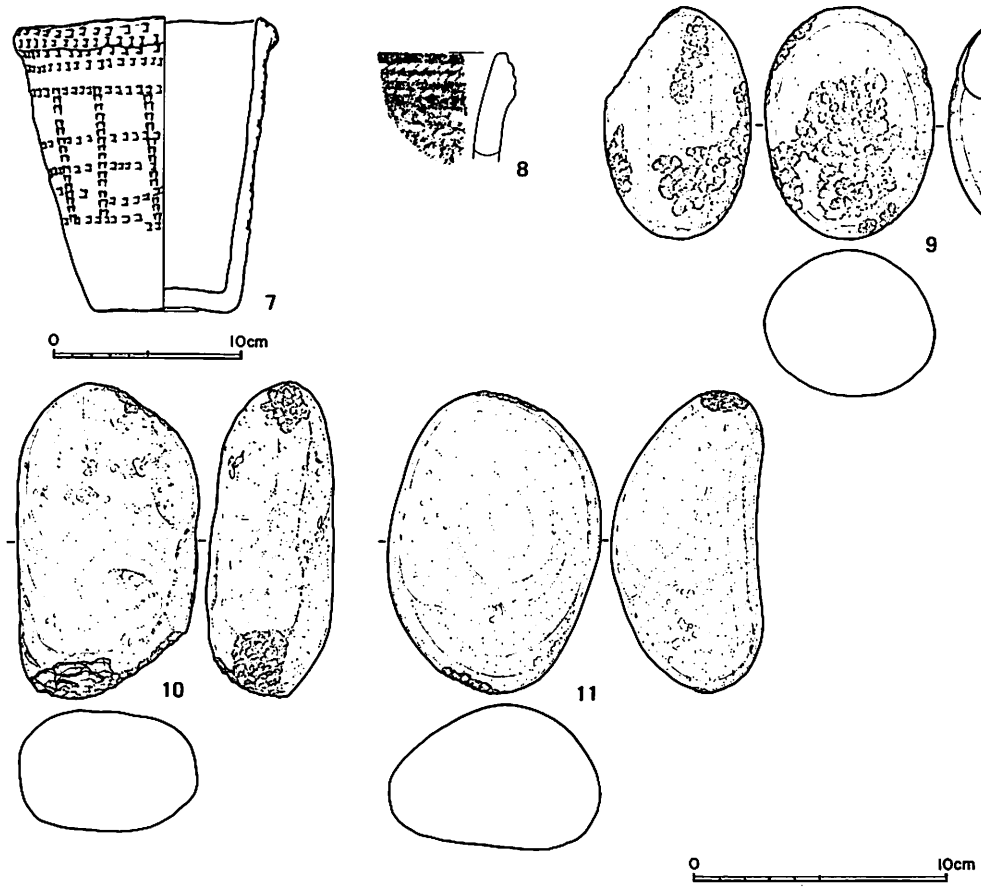
特徴　壙底は凹凸があり，断面は皿状である。

遺物　土器18点（IIB），石皿・台石1点，フレイク24点，Uフレイク2点，礫△10点，礫14点が出土。遺物は覆土が大半で，大型の石皿・台石が中央やや東寄りにみられる。1は

FP-104



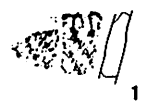
FP-110



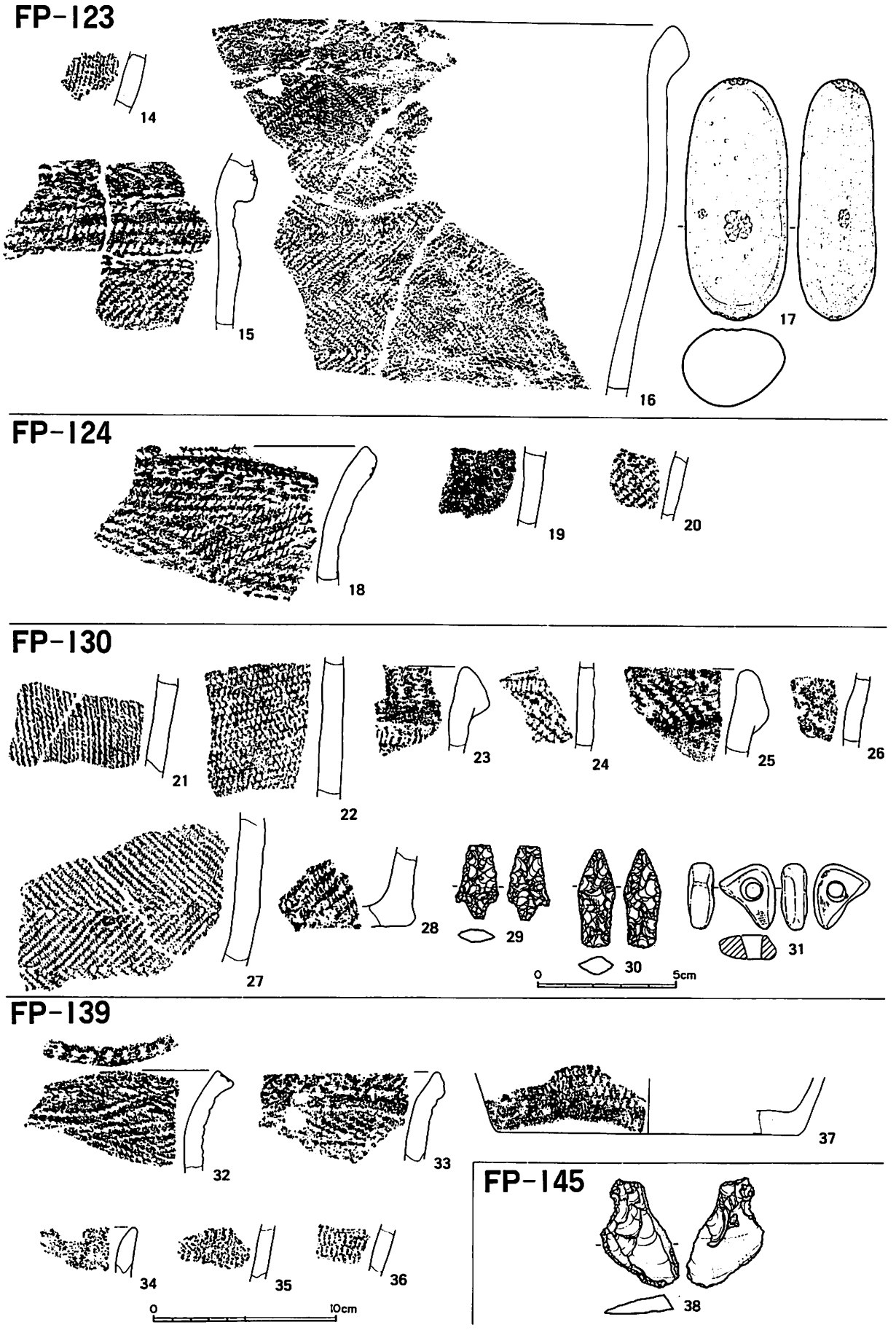
FP-114



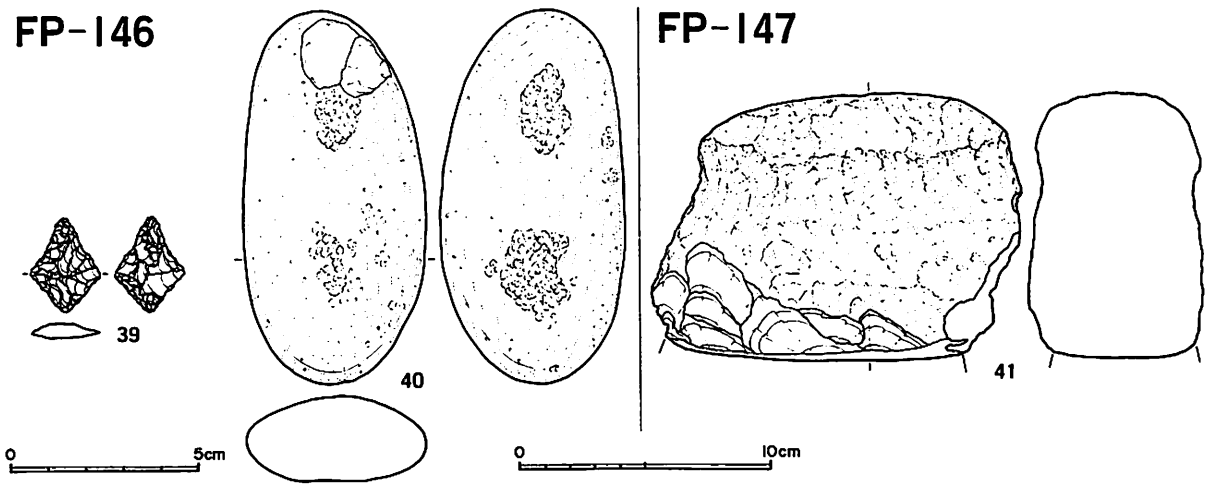
FP-116



図Ⅲ—215　FP—104・110・114・116遺物



図Ⅲ—216　FP—123・124・130・139・145 遺物



図III—217　FP—146・147遺物

II群B類土器，縄線文と半截竹管状工具による刺突文が施されている。

FP—20（図III—218・259，図版63—3）

平面形　楕円形　　**規模**　1.60×1.05／1.26×0.43／0.27m　　**重複**　FP—31より新しい。

特徴　壙底はわずかに凹凸があり，断面は皿状である。

遺物　土器69点（IIB2b・20，IIB2c・1，IIB・48），ポイント1点，スクレイパー1点，石斧1点，たたき石5点，石鋸1点，砥石5点，石皿・台石3点，コア3点，フレイク179点，Uフレイク2点，礫△15点，礫105点，軽石1点が出土。遺物は全域でみられるが，東側に石皿・台石と礫類が集中している部分がある。2・3はII群B2b類土器である。2は縄線文・縄圧痕文・半截竹管状工具による刺突文が施された口唇部で，肥厚体直下に複節の縄線文が施されている。体部は斜行縄文である。3は半截竹管状工具による刺突文によって区画された口頸部に縄線文が施されている。体部は結束羽状縄文である。4～6は珪岩製のたたき石，4・5は長軸の両端に，6は三角形礫の三隅に使用痕がみられる。7は断面がU字状の石鋸，8は使用痕が明瞭でない石皿・台石である。

FP—21（図III—219・259，図版62—4）

平面形　楕円形　　**規模**　1.32×1.11／0.82×0.69／0.27m　　**重複**　なし

特徴　壙底は南から北に向かってわずかに傾斜し，壁面の角度は45°に近い。

遺物　土器24点(IIB)，すり石1点，たたき石1点，砥石1点，フレイク35点，礫△1点，礫55点，土製品1点が出土。遺物の大半は土壙中央の覆土中で確認されている。9・10はII群B類土器，いずれも体部破片で，4は結束羽状縄文，5は斜行縄文が施されている。11は一側縁を使用した幅広のすり石，12は三隅に使用痕のみられるたたき石である。13は有孔の再生土製円盤片である。

FP—22（図Ⅲ—220・260，図版63—5）

平面形　楕円形　　**規模**　1.63×1.13／1.23×0.73／0.20m　　**重複**　なし

特徴　壙底は北西から北東に向かって緩やかに傾斜し，断面は皿状である。

遺物　土器160点（IB2・7，IIB2a・4，IIB2b・4点，IIB2c・5，IIB・136，IIIA2・1，IIB3・3），石鏃2点，スクレイパー1点，すり石1点，北海道式石冠2点，たたき石2点，コア2点，フレイク287点，Uフレイク2点，Rフレイク1点，礫△14点，礫176点が出土。遺物は土壙全域の覆土中でみられたが，東側がやや多い傾向がある。14はII群B2a類，15はII群B2b類，16・17はII群B2c類，18・19はII群B類，20はIII群A2類土器である。14は口頸部に多段の縄線文が施され，体部は多軸絡条体回転文である。15は切り出し状の口唇部で，口頸部に縄線文が施されている。16は口唇部に羽状縄文・絡条体圧痕文が施され，無文地の口頸部に曲線的な絡条体圧痕文が施されている。17は半截竹管状工具による刺突文で区画された口頸部に絡条体圧痕文が施されている。18の口頸部は半截竹管状工具による刺突文で区画されている。斜行縄文が表裏に施文されている。19の体部は結束羽状縄文である。20は口縁部に撚糸圧痕文が加えられた細い貼付紐が施されている。21は有茎凸基の石鏃，22は直線状と内湾状の刃部のみえられスクレイパーである。23は一側縁を使用した幅広のすり石，24は握り部が丸く，底面に敲打痕がみられる北海道式石冠の未成品（？），25は鉢巻状の溝が敲打によって作られた北海道式石冠の未成品，26は長軸の両端と一方の腹面に使用痕のみられるたたき石である。

FP—23（図Ⅲ—219・261，図版61—1・2）

平面形　楕円形　　**規模**　1.61×1.37／0.80×0.47／0.24m　　**重複**　なし

特徴　壙底は壙口に比べ小さく，断面は皿状で，2段になっている部分もある。

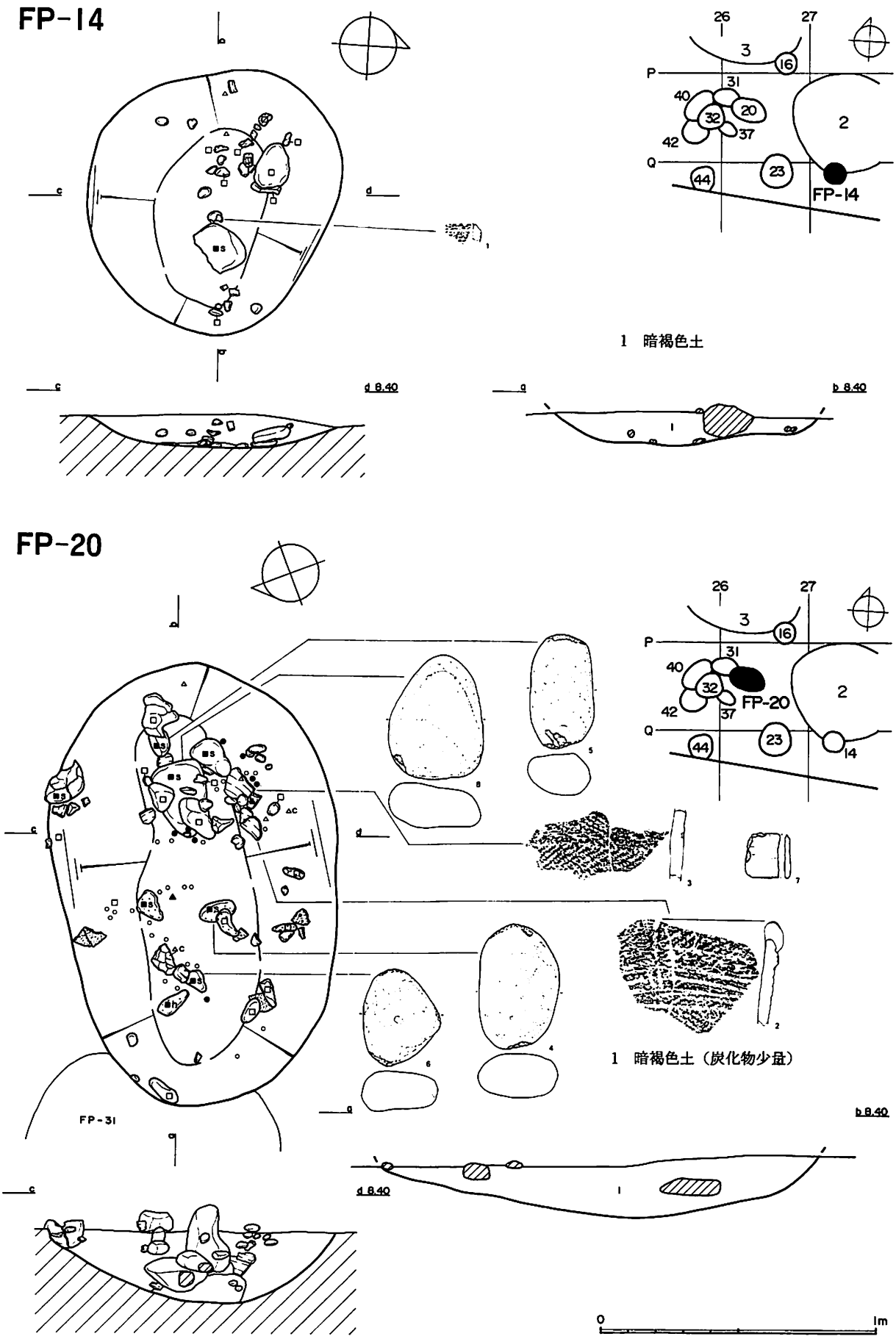
遺物　土器79点（IIB1・5，IIB2a・2，IIB2b・6，IIB2c・2，IIB・62，IIIA1・2），つまみ付きナイフ1点，北海道式石冠1点，たたき石4点，砥石4点，石皿・台石4点，コア4点，フレイク144点，礫△15点，焼礫1点，礫178点が出土。遺物は覆土全域でみられたが，中央部に集中している。大型の石皿・台石が北東部でならんで確認されている。27はII群B1類，28はII群B2a類，29・30はII群B2c類，31・32はII群13類，33はIII群A1類土器である。27は表裏に縄文が施され，頸部は指頭圧痕が施された貼付帯によって区画され，綾絡文状の縄文が施されている。28は多軸絡条体回転文である。29は円形刺突文が施された薄い貼付帯で口頸部を区画し，口頸部には縄線文が施されている。30は口唇部・口頸部に2本一組の撚糸圧痕文が施されている。33は周辺加工のみられる縦形のつまみ付ナイフである。34は握り部がやや丸い北海道式石冠，35・36は長軸の両端に使用痕のみられるたたき石，37は中央がやや凹んだ石皿・台石である。

FP—24（図Ⅲ—220・261，図版64—3）

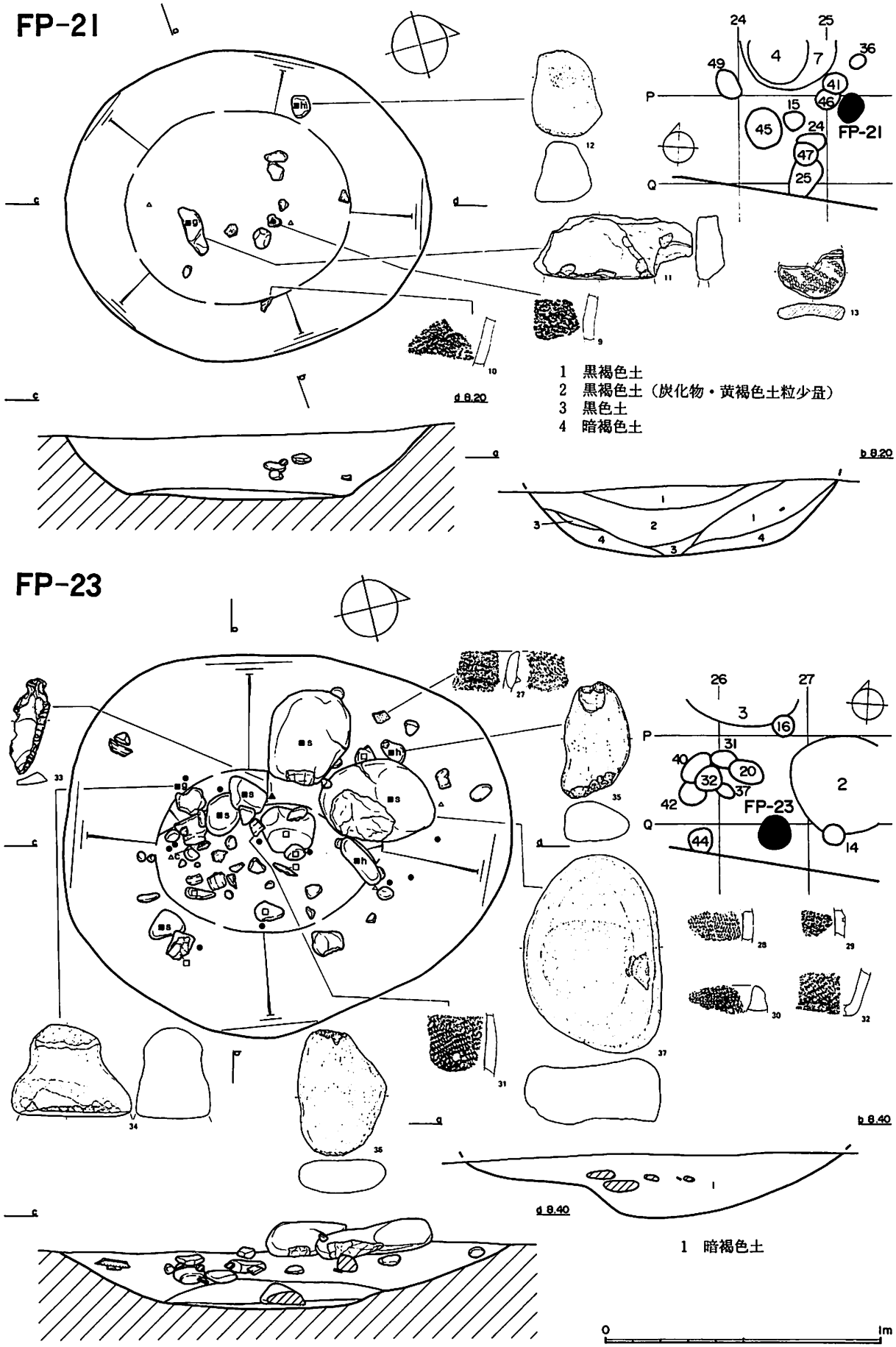
平面形　楕円形　　**規模**　1.27×0.81／0.76×0.50／0.19m　　**重複**　FP—47より古い。

特徴　南側がFP—47に壊されている。壙底は東から西に向かって傾斜し，断面は皿状である。

遺物　土器59点（IIB2c・4，IIB・55），石鏃1点，すり石1点，砥石1点，石皿・台石1



図Ⅲ—218　FP—14・20



図Ⅲ—219 FP—21・23

点，フレイク51点，礫△5点，礫65点が出土，遺物は残存している土壙の中央部から比較的まとまって確認されている。土壙東側で確認された石皿・台石は立ったような状況であった。38はII群B類土器の体部破片で，結束羽状縄文が施されている。39は有茎凸基の石鏃，40は扁平な円礫の長軸の両端を使用したすり石である。

FP—25（図III—221・262・263，図版64—4）

平面形　楕円形　　**規模**　(1.66)×1.32／1.45×0.85／0.33m　　**重複**　FP—47より古い。

特徴　北側上部はFP—47に壊され，南側は未調査区域にのびている。壙底は比較的平坦で，東側壁面は急角度で立ち上がる。

遺物　土器207点（IIB2b・13，IIB2c・75，IIB・119），石鏃3点，つまみ付きナイフ1点，すり石1点，たたき石2点，砥石3点，フレイク48点，Uフレイク3点，礫△6点，礫105点が出土。遺物は土壙の中央部，覆土上部からまとまって確認されている。44はII群B2b類，41・42・45はII群B2c類，43・46・47はII群B類土器である。44は口唇部・頸部に縄線文が施されている。41は斜行縄文・半截竹管状工具による押引文が加えられた口唇部である。2条の押引文が加えられた薄い貼付帯で区画された頸部には長さ約5cmの原体で絡条体圧痕文が施されている。体部は結束羽状縄文である。42は無文地の口唇部・口頸部に絡条体圧痕文が施されたもので，体部は結束羽状縄文である。45は斜行縄文が施された切り出し状の口唇部である。無文地の口頸部に絡条体圧痕文が施され，体部は結束羽縄文である。47は平底で，体部に結束羽状縄文が施されている。48・49は黒曜石製の石鏃，48は菱形，49は有茎凸基で茎が太いものである。50は下部が欠損しているが，縦形両面加工のつまみ付きナイフである。51は長軸の両端を，52は長軸の一端を使用したたたき石である。53・54は砂岩製の砥石である。

FP—26（図III—222・263，図版64—5）

平面形　楕円形　　**規模**　0.82×0.76／0.60×0.58／0.23m　　**重複**　FP—43より新しい。

特徴　壙底は皿状に凹み，東から西に向かってわずかに傾斜している。

遺物　土器49点（IIB2c・1，IIB・48），砥石1点，フレイク39点，Uフレイク2点，礫△3点，礫42点が出土。遺物は土壙全域からみられたが，中央南側，覆土上部から比較的大型の土器片が確認できた。55・56はII群B2c類，57・58はII群B類土器である。55は無文地に縦位の絡条体圧痕文が加えられた口唇部で，半截竹管状工具による刺突文に区画された口頸部は，刺突文と絡条体圧痕文が施されている。体部は結束羽状縄文である。56は口唇部に斜行縄文・半截竹管状工具の刺突文が，口唇部直下に絡条体圧痕文が施されている。57は斜行縄文が施された口唇部である。58は不規則な縄文が施された体部破片である。

FP—31（図III—222・264，図版64—6）

平面形　楕円形　　**規模**　1.06×0.93／0.83×0.71／0.14m　　**重複**　FP—20より古く，FP—32・40より新しい。

特徴　壙底は西から東に向かって傾斜し，断面は皿状である。

遺物　土器20点（IIB2b・2，IIB・18），すり石１点，北海道式石冠１点，たたき石１点，石皿・台石１点，フレイク20点，礫△４点，礫24点が出土。遺物は土壙全域でみられたが北東側がやや多く，ほぼ中央で大型の石皿・台石がみられた。すべて覆土中に浮いた状況である。59はII群B2b類，60はII群B類土器である。59は口唇部・口唇部直下に縄線文が施されている。体部は結束羽状縄文である。60は底部破片で，体部には結束羽状縄文が施されている。61は一側縁を使用したすり石で，一側縁に浅いくぼみが２カ所みられる。62は長軸の両端を使用したたたき石，63は石皿・台石である。

FP—32（図III—223・264，図版65—1）

平面形　楕円形　　**規模**　(1.10)×(1.20)／(0.70)×(0.80)／0.29m　　**重複**　FP—31・40・42より古く，FP—37より新しい。

特徴　残存している壙底は比較的平坦で，壁面の傾斜は緩やかである。

遺物　土器22点（IIB2b・2，IIB2c・2，IIB・18），ポイント１点，北海道式石冠４点，石皿・台石１点，すり石１点，フレイク10点，礫△４点，礫11点が出土。遺物は土壙全域でみられたが，南西側が比較的多い。64はII群B2b類，67はII群B2c類，65・66はII群B類土器である。64は口頸部に縄線文が施されたものである。67は斜行縄文が施された口唇部で，半截竹管状工具による刺突文で区画された口頸部には絡条体圧痕文が施されていた。体部は結束羽状縄文である。65は２条の半截竹管状工具による刺突文が施された口唇部で，体部に結束羽状縄文が施されている。68は握り部が丸い北海道式石冠で，未使用とみられる。69は北海道式石冠の未製品で，整形中に片面が欠損したものとみられる。70は石錘の可能性もあるが，両端を打ち欠いたすり石と考えておく。未使用である。

FP—36（図III—223・264，図版65—2）

平面形　円形　　**規模**　0.59×0.58／0.20×0.15／0.10m　　**重複**　なし

特徴　断面が皿状の小型土壙である。

遺物　土器14点（IIB2b・1，IIB・13），ポイント１点，コア１点，フレイク49点，礫７点が覆土中から散発的に出土。71はII群B2b類，72はII群B類土器である。71は斜行縄文・縄圧痕文が施された口唇部で，無文地の頸部には鋸歯状の縄線文が施されている。72は口唇部断面は角形で，口唇部にナデ調整が加えられている。体部は薄く，斜行縄文が施されている。73は黒曜石製のポイントまたはナイフの尖端部である。

FP—37（図III—224，図版65—3）

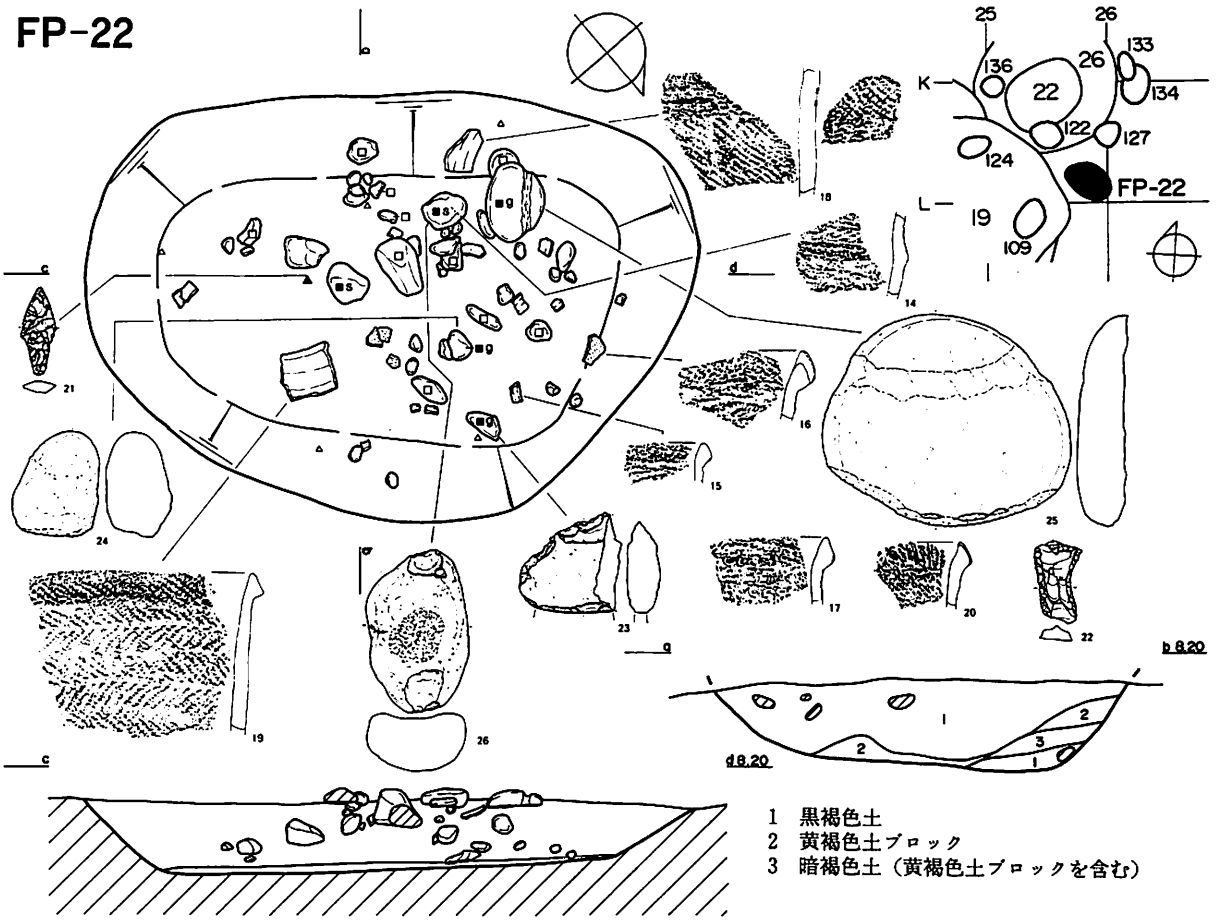
平面形　楕円形　　**規模**　(0.58)×0.38／0.46×0.26／0.12m　　**重複**　FP—32より古い。

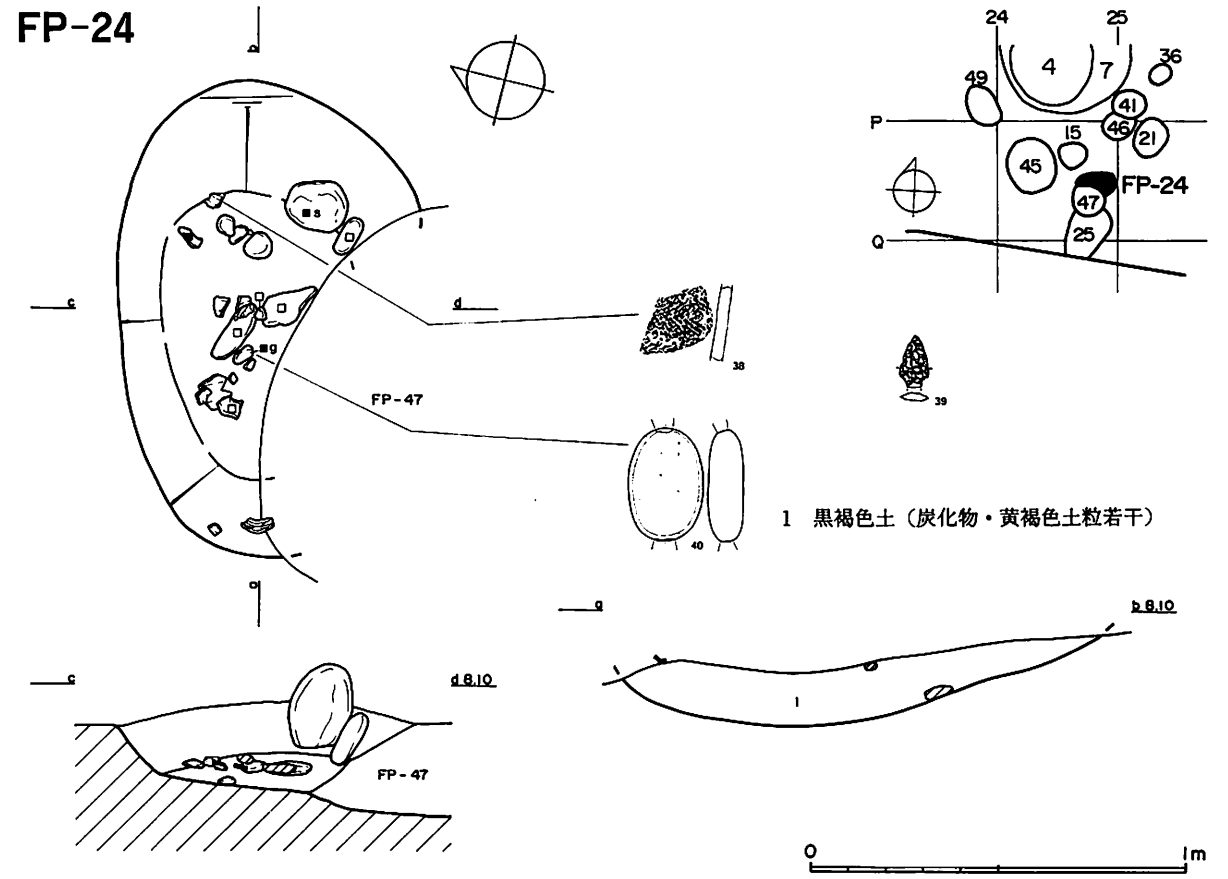
特徴　壙底はわずかに凹凸があり，断面は皿状である。

遺物　土器８点（IIB），コア１点，フレイク23点，礫△１点，礫７点が覆土中より散発的に出土。

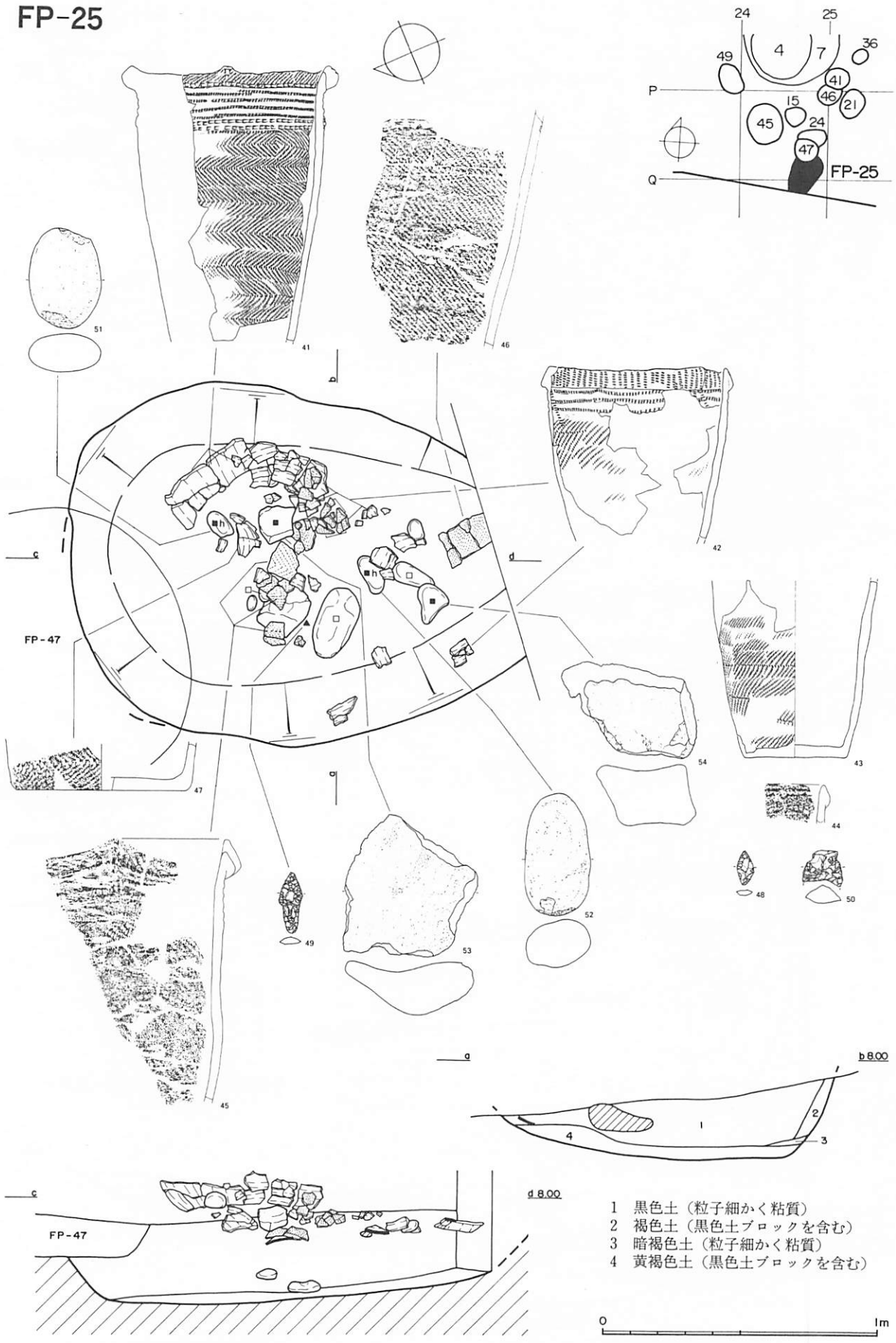
FP—40（図III—224・265，図版65—4）

平面形　楕円形　　**規模**　1.58×1.04／1.20×0.64／0.32m　　**重複**　FP—32・42よ



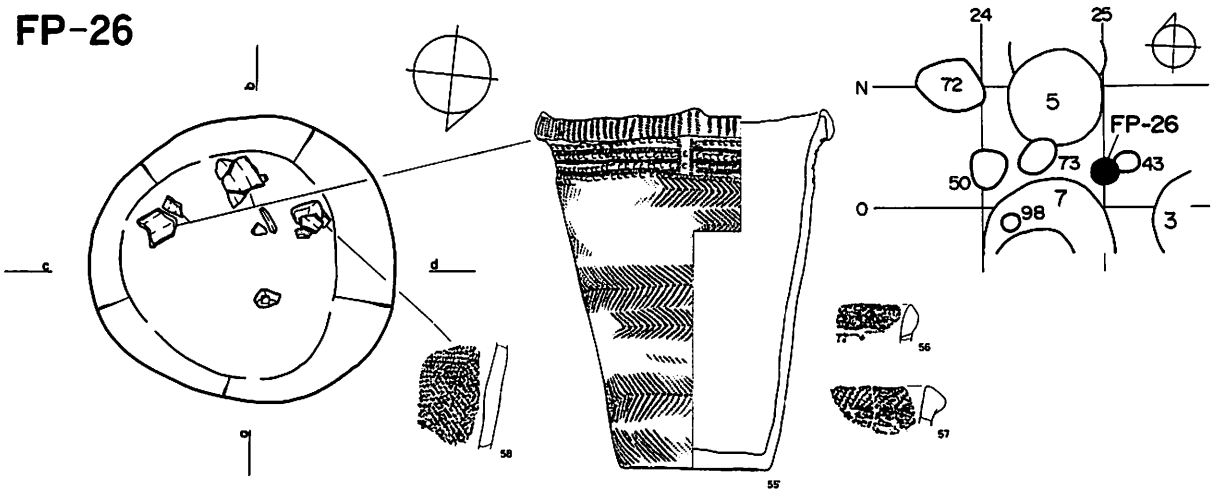


図III—220 FP—22・24


FP-25
24
25
4
7
36
49
41
46
21
P
15
45
24
47
FP-25
Q
51
41
46
FP-47
42
54
43
44
47
48
50
49
53
52
45
1 黒色土（粒子細かく粘質）
2 褐色土（黒色土ブロックを含む）
3 暗褐色土（粒子細かく粘質）
4 黄褐色土（黒色土ブロックを含む）
0
1m

図Ⅲ—221　FP—25

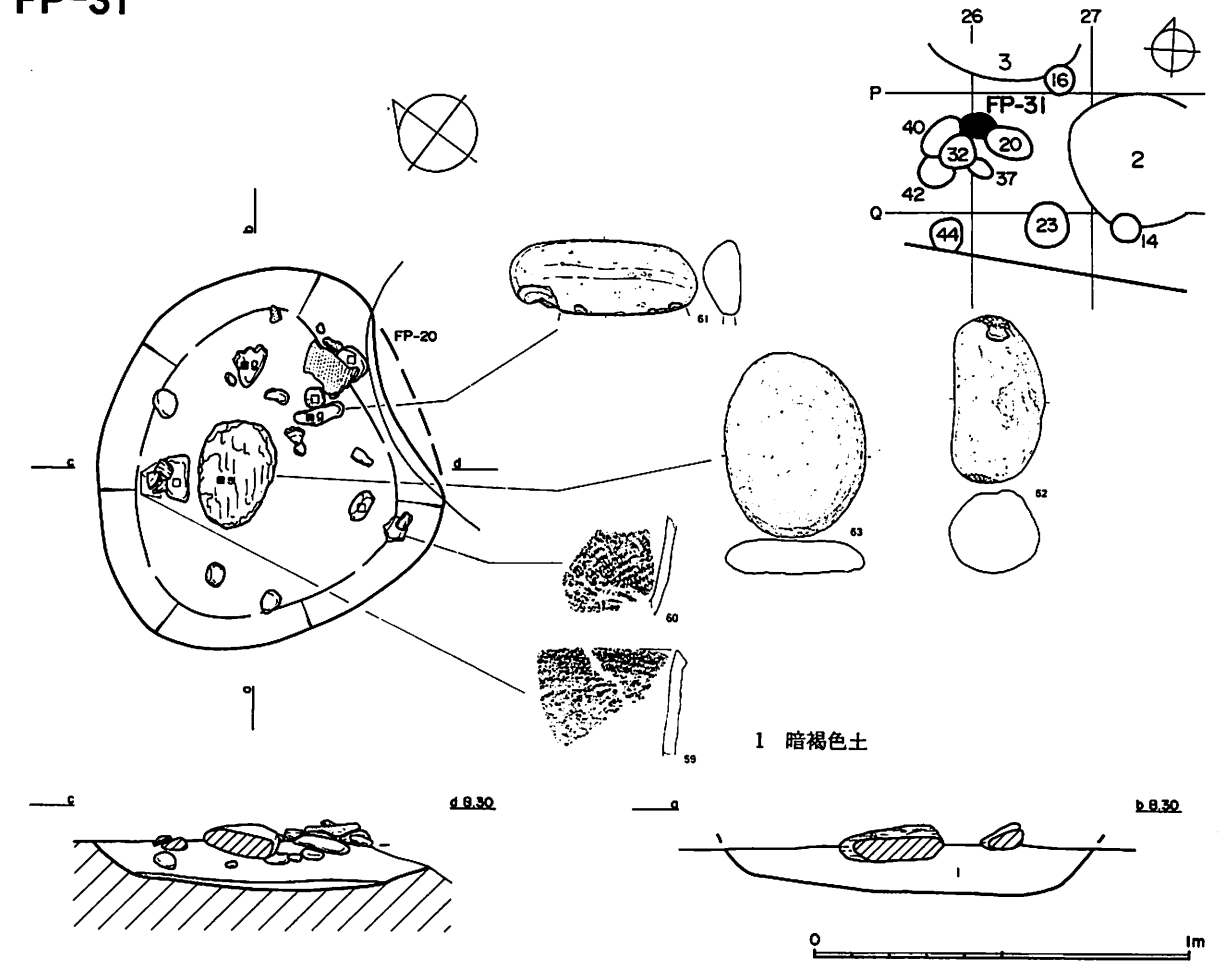
FP-26





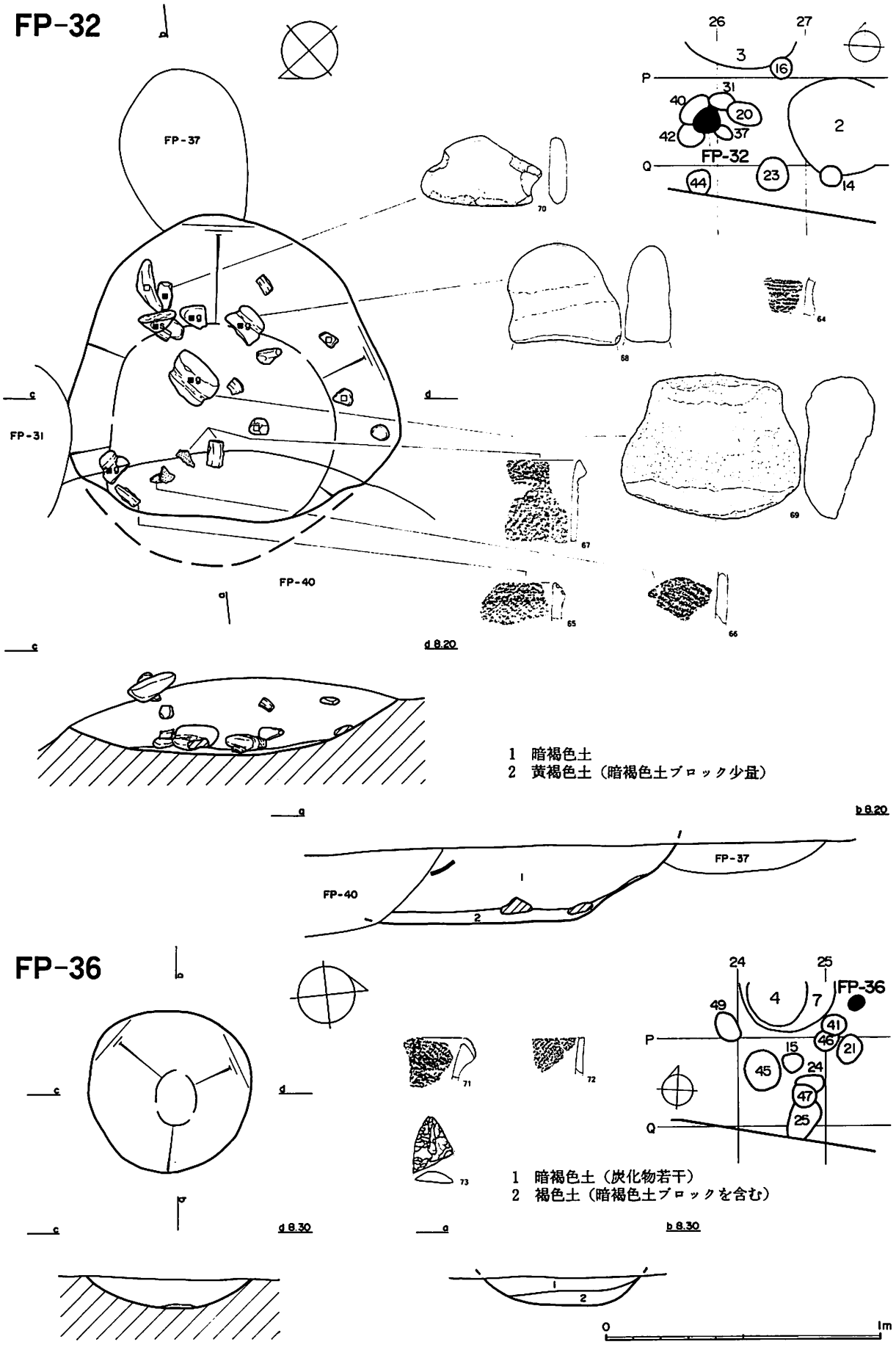
1　黒色土
2　黒褐色土（炭化物若干）
3　黒褐色土（黒色土・黄褐色土粒少量）
4　褐色土（黒褐色土若干）

FP-31



1　暗褐色土

図Ⅲ—222　FP—26・31



図III—223　FP—32・36

り新しく，FP—31より古い。

特徴　壙底は南西から北東に向かって傾斜し，壁面の傾斜は急なところと緩やかなところがみられる。

遺物　土器78点（IIA2・1，IIB2a・2，IIB2b・1，IIB・74），ポイントまたはナイフ1点，つまみ付きナイフ1点，スクレイパー1点，すり石2点，たたき石8点，石鋸1点，砥石1点，石皿・台石5点，フレイク139点，礫△20点，焼礫1点，礫137点が出土。遺物は土壙全域でみられたが，中央部に礫石器，礫類がかたまる傾向があり，それらは中央へ向って落ち込むような状況が確認された。75はII群B2b類，74・76～78はII群B類土器である。75は口唇部・無文地の口頸部に縄線文が施されたものである。76は体部破片で結束羽状縄文が施されている。74・77・78は底部破片で，74は揚げ底である。74・78は結束羽状縄文，77は結束斜行縄文が体部に施されている。79は木葉形のポイントまたはナイフ，80は周辺加工のみられる斜形のつまみ付きナイフ，81は両面加工で，尖頭部を有するスクレイパーである。82・83はすり石，82はいわゆる半円状扁平打製石器と言われているもの，83は球状のものである。84～87はたたき石，84～86は長軸の両端に，87は長軸の一端に使用痕がみられる。88は断面がV字形の石鋸，89は表面がわずかに凹む石皿・台石である。

FP—41（図III—225・266，図版65—5）

平面形　楕円形　　**規模**　1.07×0.98／0.64×0.52／0.26m　　**重複**　FP—46より新しい。

特徴　壙底は南から北に向って傾斜し，東西の壁面の傾斜は緩やかである。

遺物　土器123点（IIB2c・2，IIB・121）石鏃1点，石斧1点，たたき石1点，石皿・台石1点，コア2点，フレイク157点，礫△13点，焼礫1点，礫131点が出土。遺物は土壙中央やや南寄りに比較的まとまってみられたが，すべて覆土中に浮いた状態である。90はII群B2b類，91はII群B2c類，92～94はII群B類土器である。90は口唇部に縄圧痕文が，口頸部に縄線文が施されたものである。91は斜行縄文が施された口唇部で，口頸部に絡条体圧痕文が施されている。92は体部に結束羽状縄文が施されている。93は尖る口唇部で，体部に斜行縄文が施されている。94は斜行縄文である。95は茎が太い有茎凸基の石鏃，96は長軸の両端を使用したたたき石である。

FP—42（図III—225・266，図版65—6）

平面形　楕円形　　**規模**　1.15×(1.03)／0.65×0.37／0.34m　　**重複**　FP—32・40より古い。

特徴　北側上部がFP—32・40に壊され，壙口の大きさに比べ壙底が小さい。壙底，壁面ともに凹凸があり，ややいびつな土壙である。

遺物　土器62点（IIB2b・2，IIB・60），石鏃1点，たたき石1点，フレイク45点，Uフレイク4点，礫△1点，礫45点が出土。遺物は土壙東側の覆土上部で比較的多くみられた。97はII群B2b類土器，口唇部に縄線文と半截竹管状工具による刺突文が加えられ，無文地の頸部には複節の縄線文が施されている。98は長軸の両端が使用されたたたき石である。

FP—43（図III—226・266，図版66—1）

平面形 楕円形　　**規模** 0.85×0.65／0.52×0.31／0.18m　　**重複** FP—26より古い。

特徴 断面が皿状で，壁面と壙底の境目が不明瞭な土壙である。

遺物 土器3点（IIB），たたき石2点，石皿・台石1点，フレイク6点，Uフレイク4点，礫16点が出土。たたき石と石皿・台石は土壙中央西寄りで隣接して確認された。99・100は珪岩製のたたき石，99は長軸の一端を使用，100は三角状礫の二隅を使用している。

FP—44（図III—226・266，図版66—2）

平面形 楕円形　　**規模** 1.10×0.95／0.87×0.80／0.17m　　**重複** なし

特徴 南側は未調査区域にのびている。壙底は東から西に向かって傾斜し，壁面は45°に近い角度で立ち上がる。

遺物 土器8点（IIB），ポイントまたはナイフ1点，フレイク5点，Uフレイク2点，礫△2点，焼礫1点，礫22点が出土。遺物は土壙全域から散発的にみられた。101・102はII群B類土器，いずれも体部破片で結束羽状縄文が施されている。103は茎部の底辺が内湾しているポイントまたはナイフである。

FP—45（図III—227・267，図版66—3）

平面形 楕円形　　**規模** 1.77×1.63／1.43×1.42／0.32m　　**重複** なし

特徴 斜面で確認されたため，西側の壁面は10cm程しか残存していない。壙底は凹凸がみられるが，比較的平坦である。

遺物 土器42点（IIB1・1，IIB2a・2，IIB・39），石鏃1点，スクレイパー3点，たたき石4点，くぼみ石1点，石皿・台石1点，コア1点，フレイク276点，Uフレイク2点，礫△13点，焼礫2点，礫122点が出土。遺物は土壙全域の覆土中でみられたが，礫石器，礫類は中央に比較的かたまって確認された。105・106はII群B類土器，105は小型土器である。底部は揚げ底気味である。体部には斜行縄文が施されている。106は結束羽状縄文が施された体部破片である。

FP—46（図III—228・266，図版66—4）

平面形 楕円形　　**規模** 1.04×0.83／0.90×0.80／0.17m　　**重複** FP—41より古い。

特徴 壙底は北から南に向かってわずかに傾斜している。

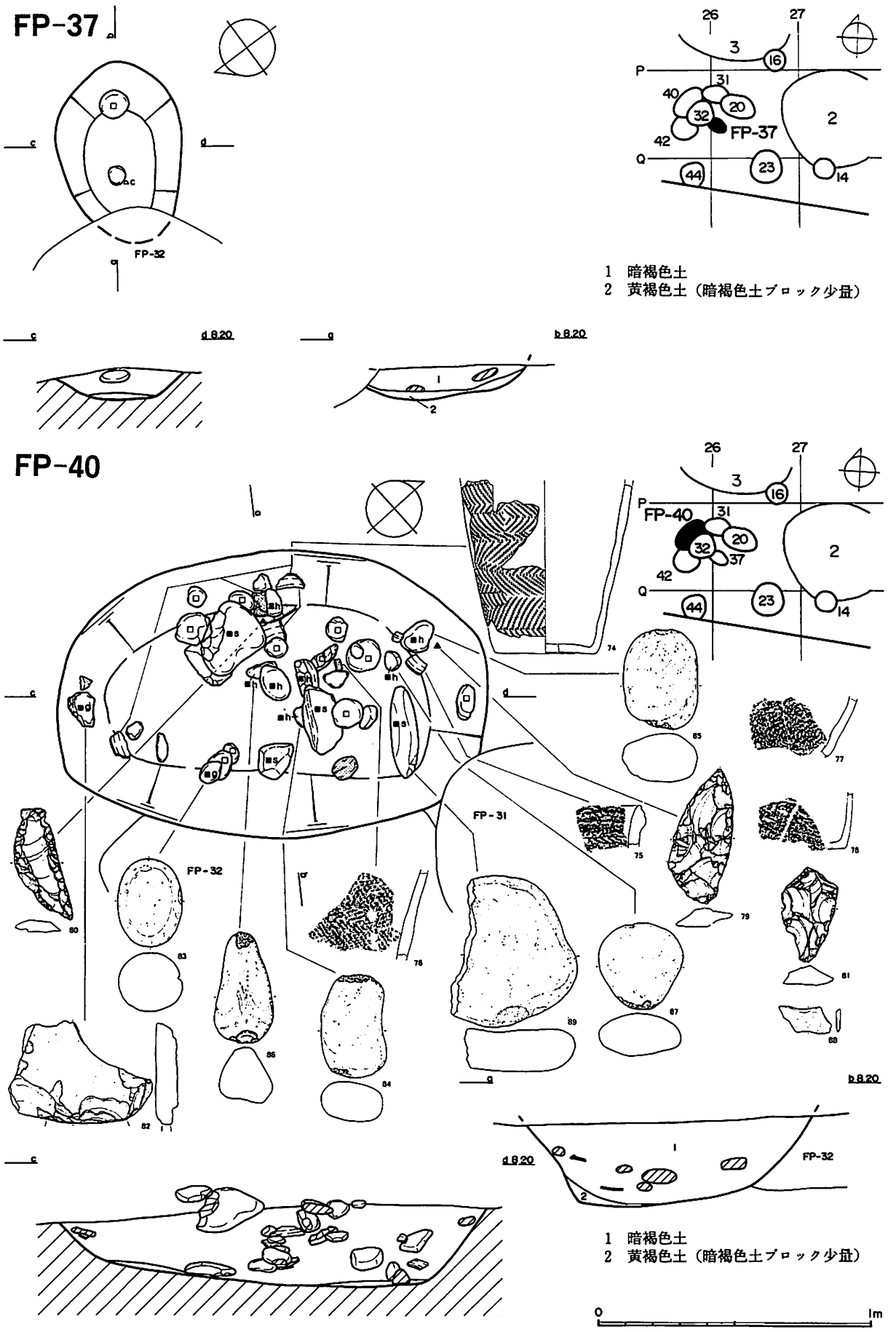
遺物 土器1点（IIB），くぼみ石1点，フレイク6点，原石1点，礫11点が土壙全域から散発的に出土。104は珪化岩（石材鑑定試料 No. 27）製の両面に凹みのあるくぼみ石である。

FP—47（図III—228・267，図版66—5）

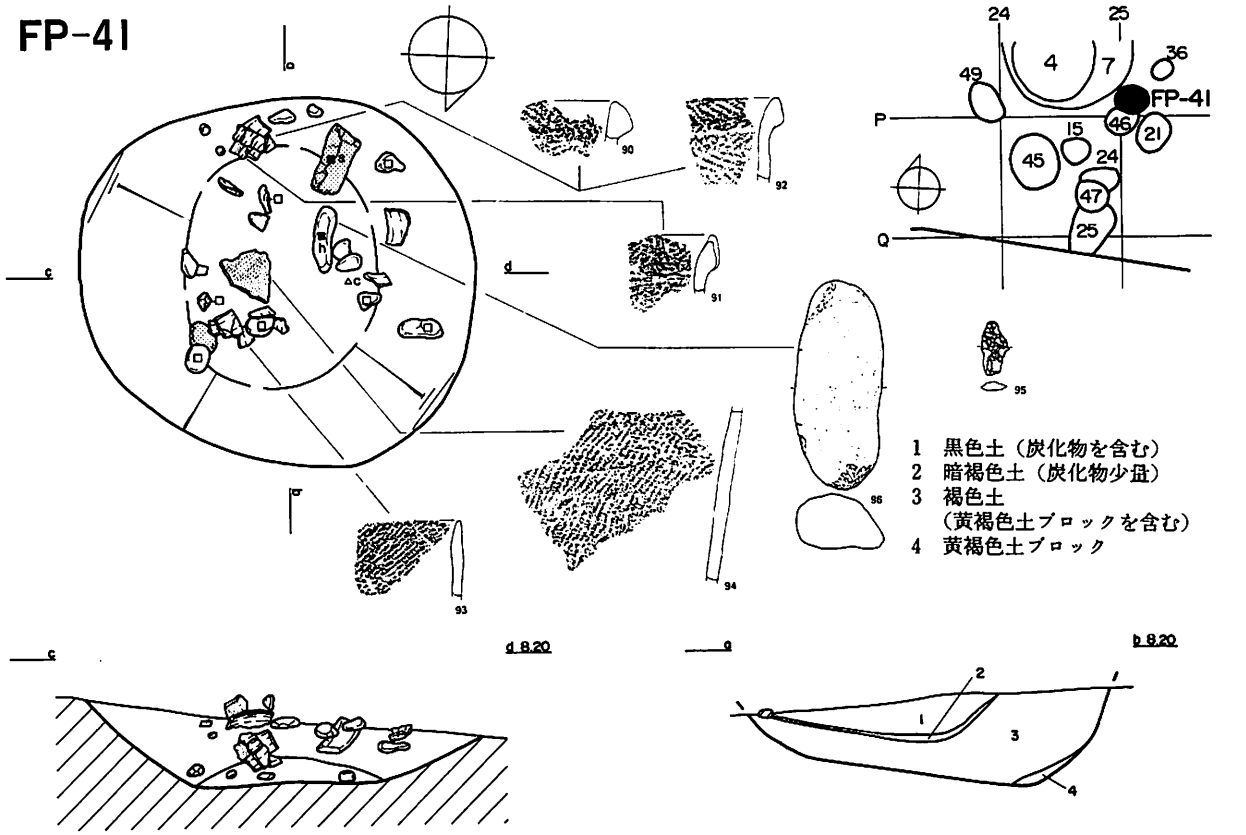
平面形 円形　　**規模** 1.09×1.08／0.98×0.94／0.22m　　**重複** FP—24・25より新しい。

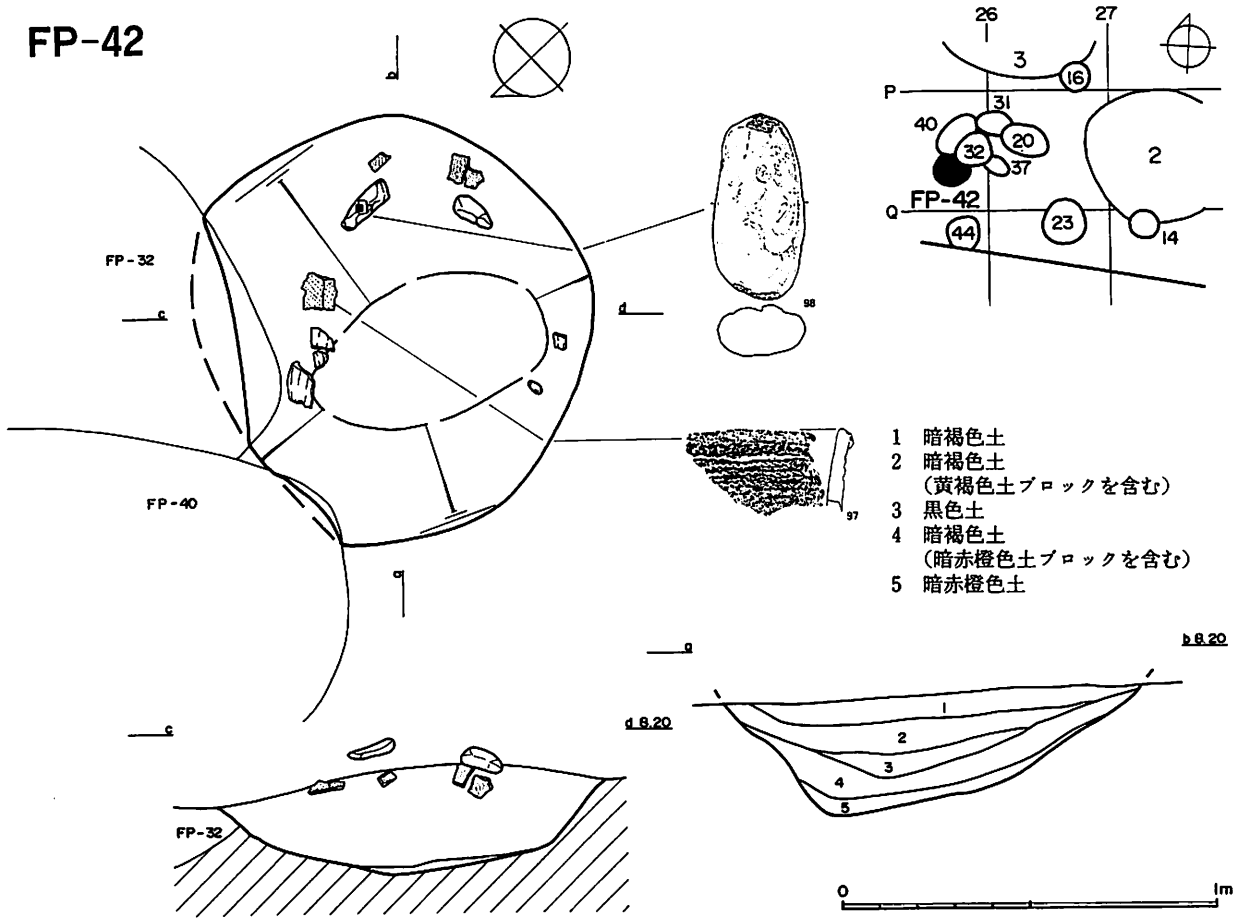
特徴 壙底は凹凸があるが，比較的平坦で，壁面の角度は急である。

遺物 土器105点（IIB2a・1，IIB2b・2，IIB2c・8，IIB・94），たたき石1点，砥石1点，



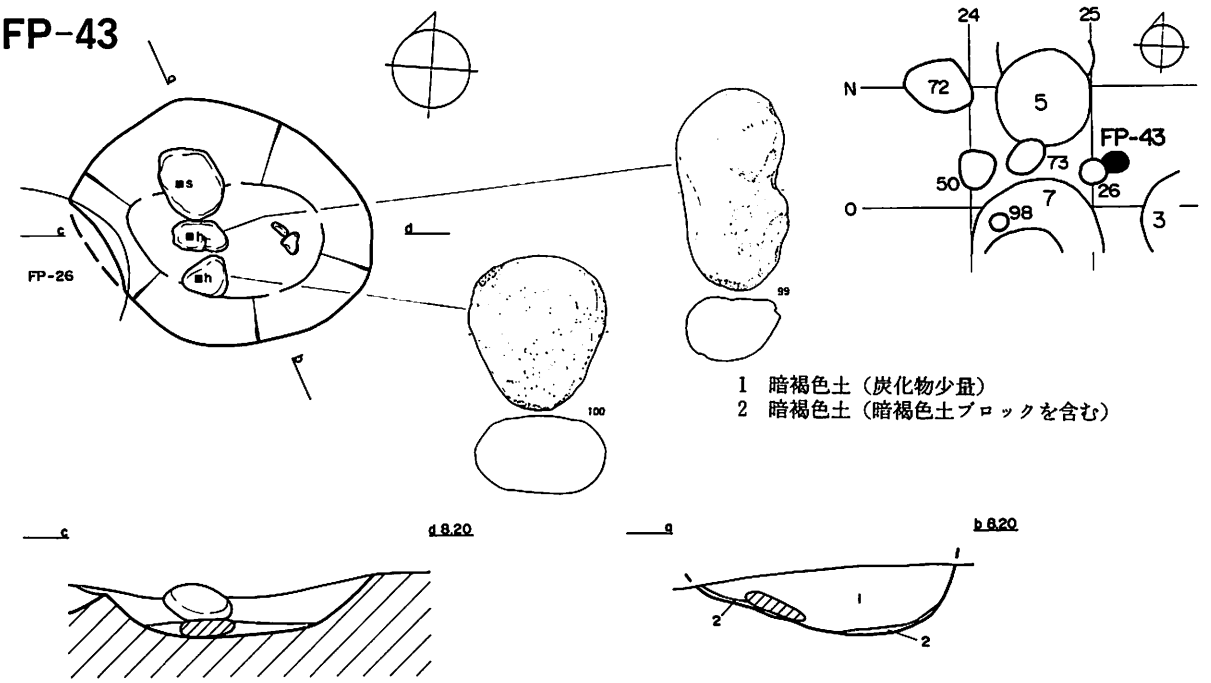
図III—224 FP—37・40



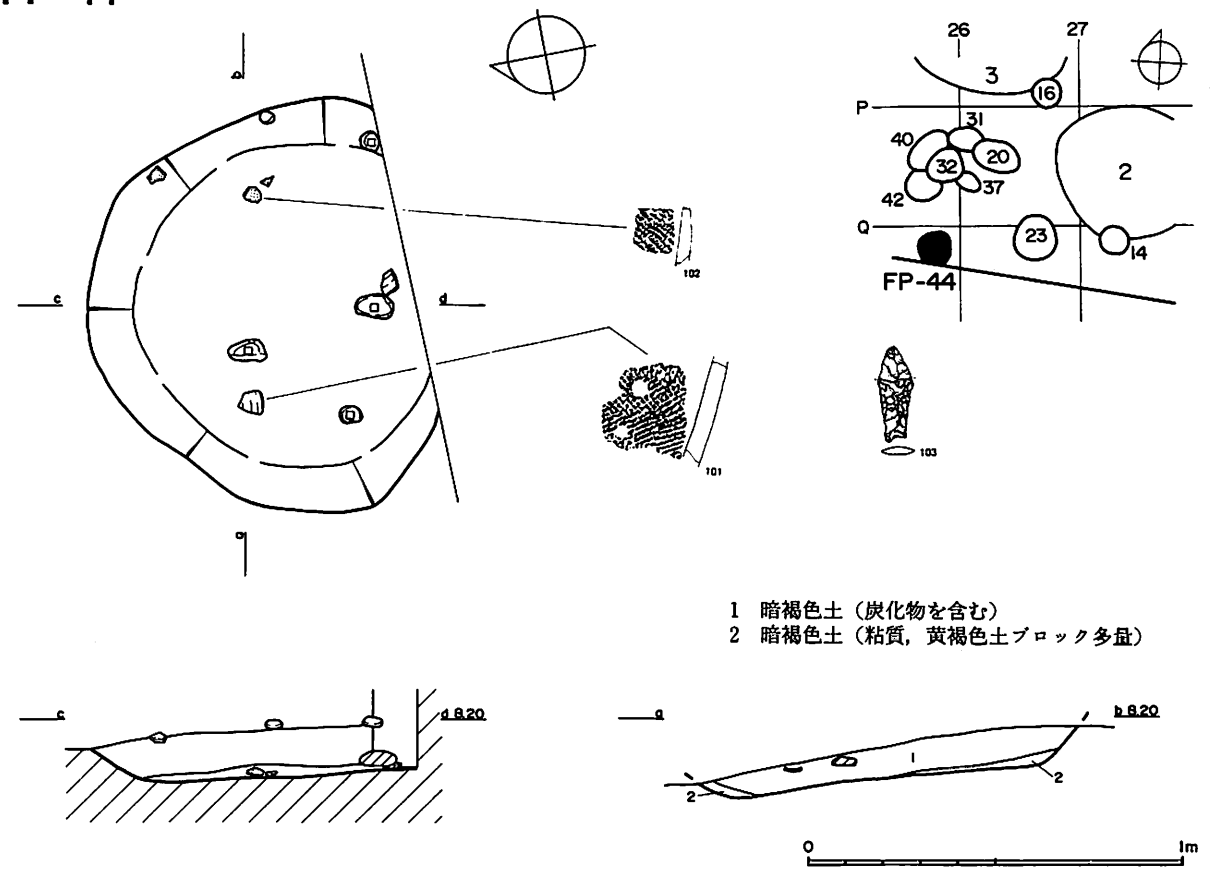


図Ⅲ—225　FP—41・42

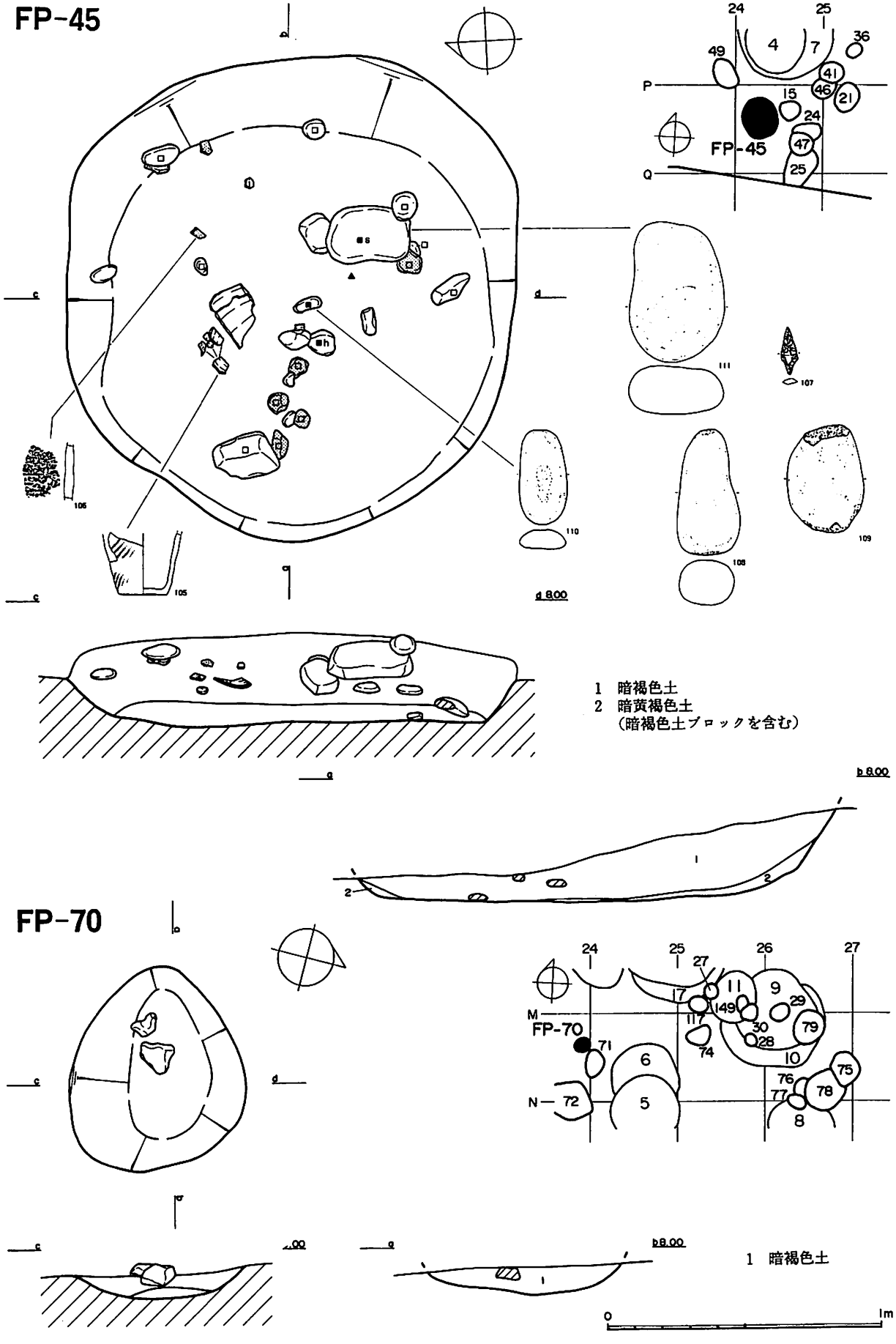
FP-43



FP-44



図III—226 FP—43・44



図Ⅲ—227 FP—45・70

フレイク10点，Uフレイク１点，礫△12点，礫34点が出土。遺物の大半は土壙西側，覆土上部で確認された。113はII群 B2a 類，114はII群 B2b 類，115はII群 B2c 類，112・116～119はII群B類土器である。113は単軸絡条体回転文である。114は斜行縄文が施された切り出し状の口唇部で，口頸部に複節の縄線文が施されている。115は口頸部に絡条体圧痕文が施されている。116・117は縄文のみのもので，口唇部断面は切り出し状である。118は結束羽状縄文である。119は平底と思われ，体部に斜行縄文が施されている。120は長軸の両端を使用したたたき石である。

FP—48（図III—229・267，図版67—1）

平面形　楕円形　　**規模**　0.94×0.77／0.44×0.43／0.43m　　**重複**　なし

特徴　他の土壙から離れ，フゴッペ川氾濫原近くで確認された。壙底はわずかに凹み，壁面は45°に近い角度で立ち上がる。また，礫層に掘り込まれているので，全体に凹凸がある。

遺物　土器17点（IIB2a・1，IIB・16），石鏃１点，石錐１点，スクレイパー３点，石斧１点，石斧薄片１点，砥石３点，コア１点，フレイク50点，Uフレイク２点，礫△１点，礫20点が覆土中から散発的に出土。121はII群 B2a 類，122・123はII群B類土器である。121・122は丸味をもつ口唇断面で，121の口頸部は強く外反し，多段の縄文が施されている。122は表裏に斜行縄文が施されている。123は粗い斜行縄文が施されている。124は両面加工の石錐で，尖端部が磨耗している。125は片面加工のエンドスクレイパーである。

FP—49（図III—229・268，図版67—2）

平面形　楕円形　　**規模**　1.39×1.07／1.01×0.77／0.35m　　**重複**　なし

特徴　壙底は南東から北西に向って傾斜し，皿状に凹んでいる。

遺物　土器17点（IIB），石皿・台石１点，フレイク３点，礫△３点，礫32点が土壙全域の覆土上部から出土。126・127はII群B類土器，126は切り出し状口唇断面，127は斜行縄文が施された体部破片である。128は安山岩製の石皿・台石である。

FP—50（図III—230・268，図版67—3・4）

平面形　楕円形　　**規模**　1.32×1.16／0.97×0.68／0.36m　　**重複**　なし

特徴　壙底は凹凸があるが比較的平坦で，壁面は45°に近い角度で立ち上がる。覆土の２層はフレイクを多量に含んだ暗褐色土である。

遺物　土器110点（IB2・1，IIB1・1，IIB2a・2，IIB2b・5，IIB2c・5，IIB・95，IIIB3・1），石鏃４点，ポイントまたはナイフ１点，つまみ付きナイフ１点，スクレイパー１点，たたき石５点，石皿・台石５点，コア38点，フレイク10,945点，Uフレイク６点，Rフレイク６点，礫△12点，礫249点が出土。礫石器，礫類の大半は覆土上部から出土しているが，フレイク類は覆土中位の２層で層をなして確認された。土壙がある程度埋まった段階（３層が堆積した段階）で一括廃棄されたものと考えられる。129～131はII群 B2a 類，132～134はII群 B2b 類，135・137はII群 B2c 類，136はII群B類土器である。129は半截竹管状工具による刺突文が施された口唇部で，体部には多軸絡条体回転文が施されている。130は頸れが強い無文地の頸部に多段の縄線文が施されている。131は半截竹管状工具による刺突文に区画された頸部に鋸歯状の縄線文が施されている。体部は多軸絡条体回転文である。132は

斜行縄文が加えられた切り出し状の口唇部で，頸部に太い複節の縄線文が施されている。133は無文字の頸部に複節の縄線文が施されている。137は半截竹管状工具による押引文で区画された頸部に鋸歯状の縄線文が施されている。138は有茎凸基の石鏃，139は有茎のポイントまたはナイフ，140は周辺に加工のみられる縦形のつまみ付きナイフ，141は幅広の剝片を素材にしたエンドスクレイパーである。142•143はたたき石，142は長軸の一端が使用され，赤色顔料が付着している。143は長軸の両端に使用痕がみられる。144は使用痕が明瞭でない石皿・台石である。

FP—70（図III—227，図版67—5）

平面形 楕円形　　**規模** 0.74×0.65／0.55×0.30／0.11m　　**重複** なし

特徴 断面皿状の浅い土壙で，壙底と壁面の境は明瞭でない。

遺物 礫2点のみが土壙西側，覆土上部から出土している。

FP—71（図III—231・269，図版67—6）

平面形 楕円形　　**規模** 1.17×0.91／0.76×0.60／0.23m　　**重複** なし

特徴 壙底は北から南に向かってわずかに傾斜し，壁面は45°に近い角度で立ち上がる。

遺物 土器94点（IB2•1，IIB2b•1，IIB2c•12，IIB•80），石鏃2点，スクレイパー1点，すり石1点，球石1点，コア2点，フレイク77点，礫△4点，焼礫1点，礫81点が出土。遺物は土壙中央やや東側に礫石器，礫類が，北西側に大型土器片が集中していた。いずれも覆土中で，中央に向かって傾いていた。145はII群B2c類，146はII群B類土器である。

145は切り出し状の口唇部断面で，突起部に縦位の絡条体圧痕文，口唇部下端に半截竹管状工具による押引文が施されている。絡条体圧痕文で区画され無文地の頸部に1条の絡条体圧痕文が加えられている。体部は結束斜行縄文である。146は切り出し状ないし角形の口唇部断面で，体部に結束斜行縄文が施されている。147は扁平な円礫の一側縁を使用しているすり石である。

FP—72（図III—231・269，図版68—1）

平面形 楕円形　　**規模** 2.21×1.74／2.10×1.67／0.20m　　**重複** なし

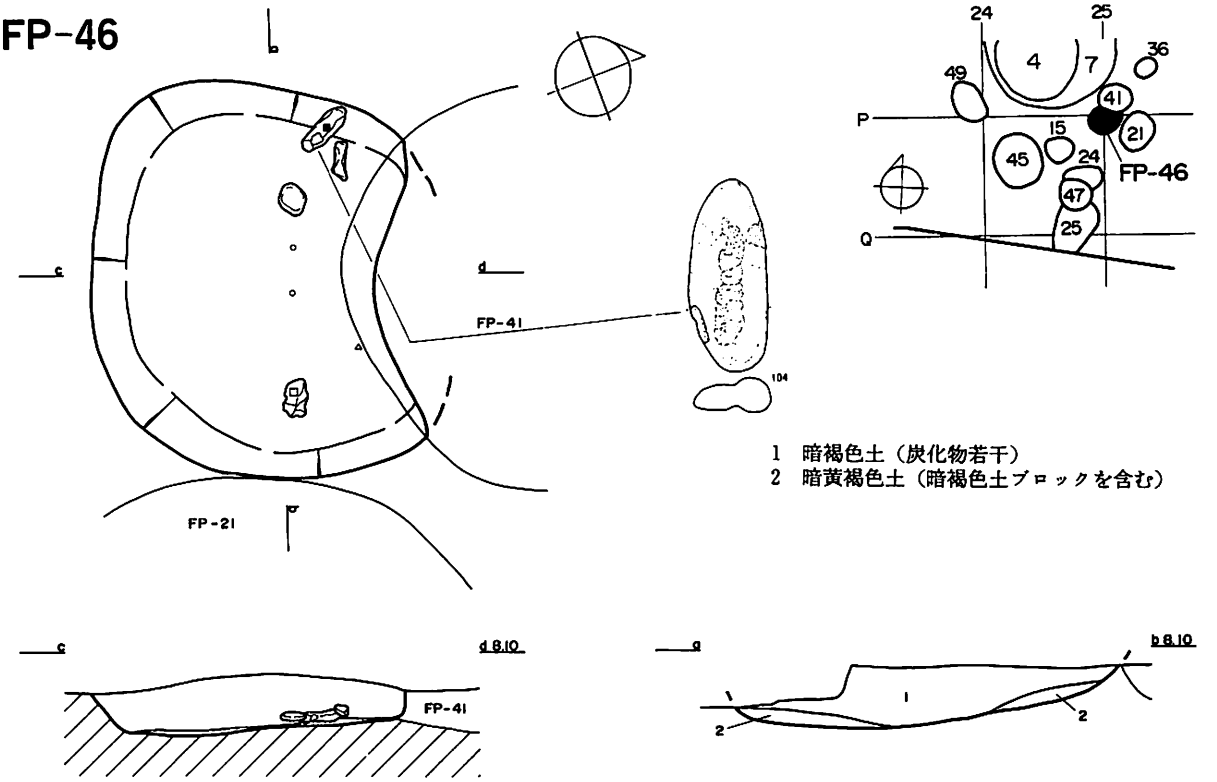
特徴 東側が攪乱によって壊されている。壙底は凹凸があるが，比較的平坦で，北側壁面は急角度で立ち上がる。

遺物 土器55点（IB2•16，IIA2•8，IIB1•1，IIB•30），石鏃2点，つまみ付きナイフ1点，たたき石2点，石皿・台石1点，コア1点，フレイク91点，Rフレイク1点，礫△10点，焼礫2点，礫120点が出土。遺物は土壙全域で散発的にみられた。148はII群A2類，149はII群B類土器である。148は表裏に縄文が施された厚手の体部破片で胎土に繊維を多量に含む。149は結束羽状縄文が施された体部破片である。150は無茎凹基，151は無茎平基の石鏃，154はつまみ部が小さい両面加工縦形のつまみ付きナイフである。153•152は珪岩製のたたき石，153は長軸の一端，154は長軸の両端が使用されている。

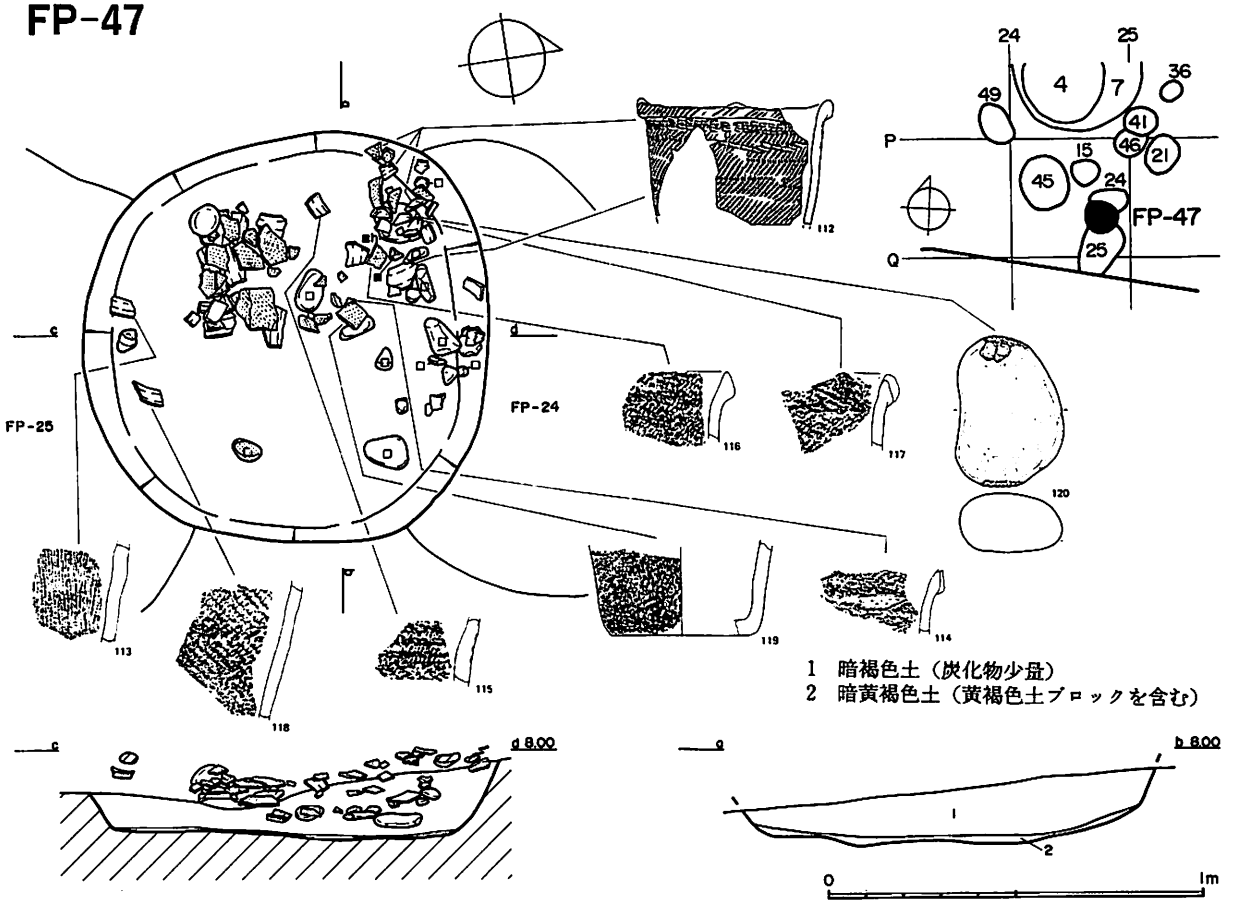
FP—73（図III—232・269，図版68—2）

平面形 楕円形　　**規模** 1.45×0.98／1.19×0.64／0.17m　　**重複** FH—5より新

FP-46

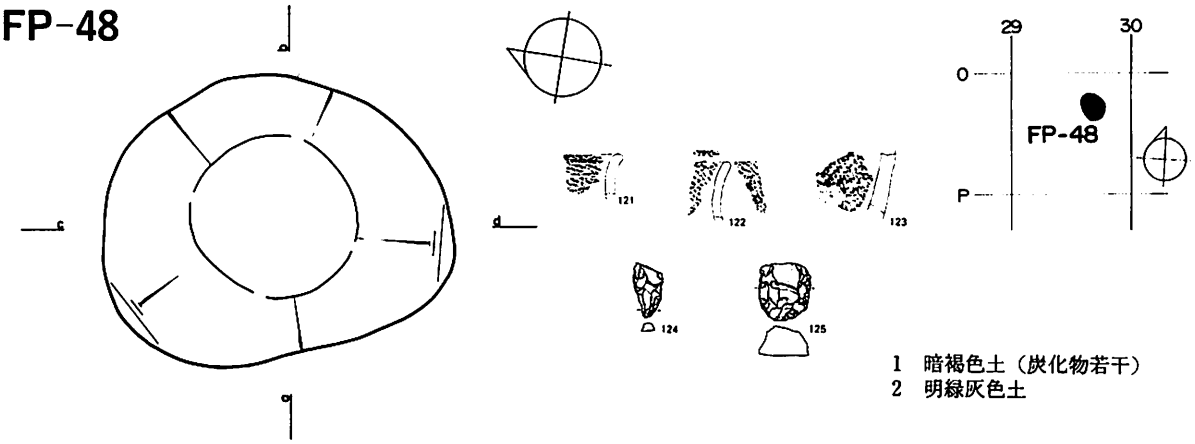


FP-47

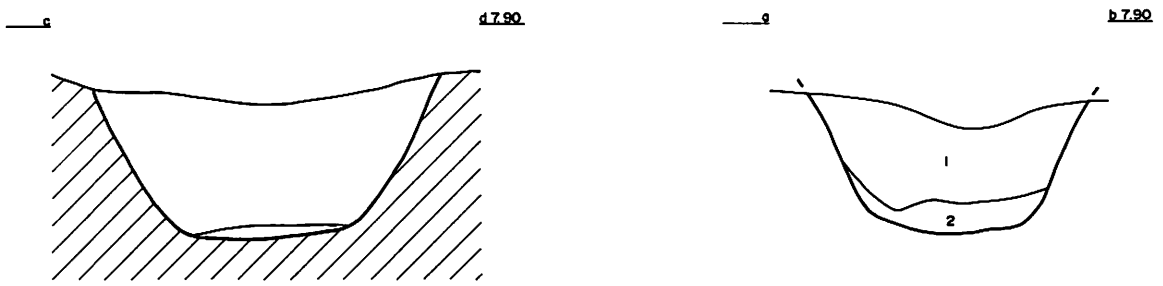


図Ⅲ—228　FP—46・47

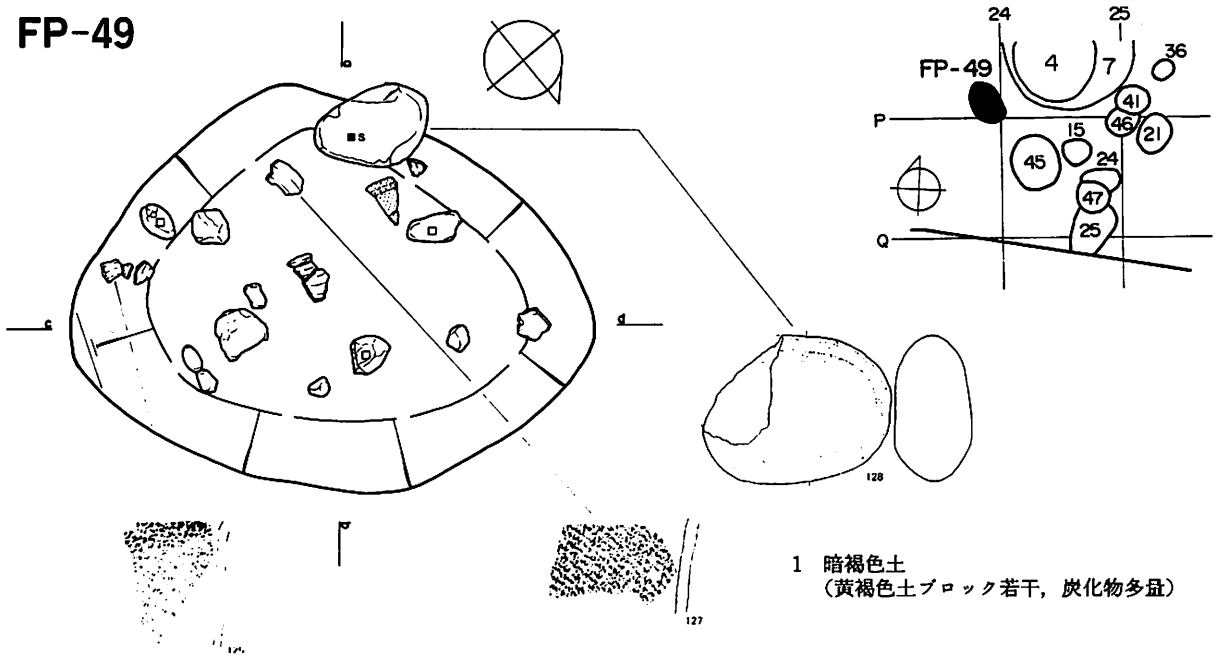
FP-48



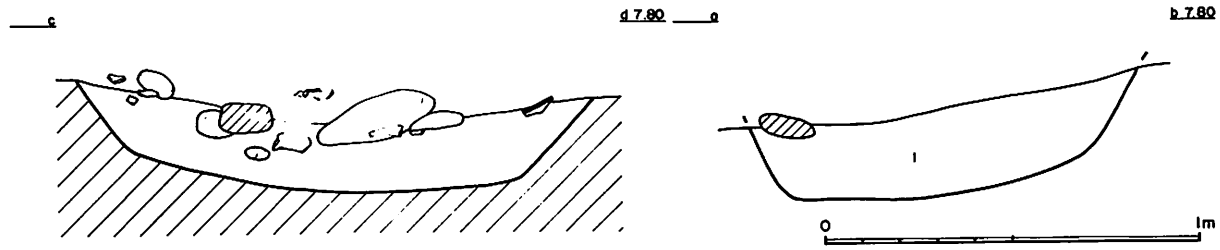
1 暗褐色土（炭化物若干）
2 明緑灰色土



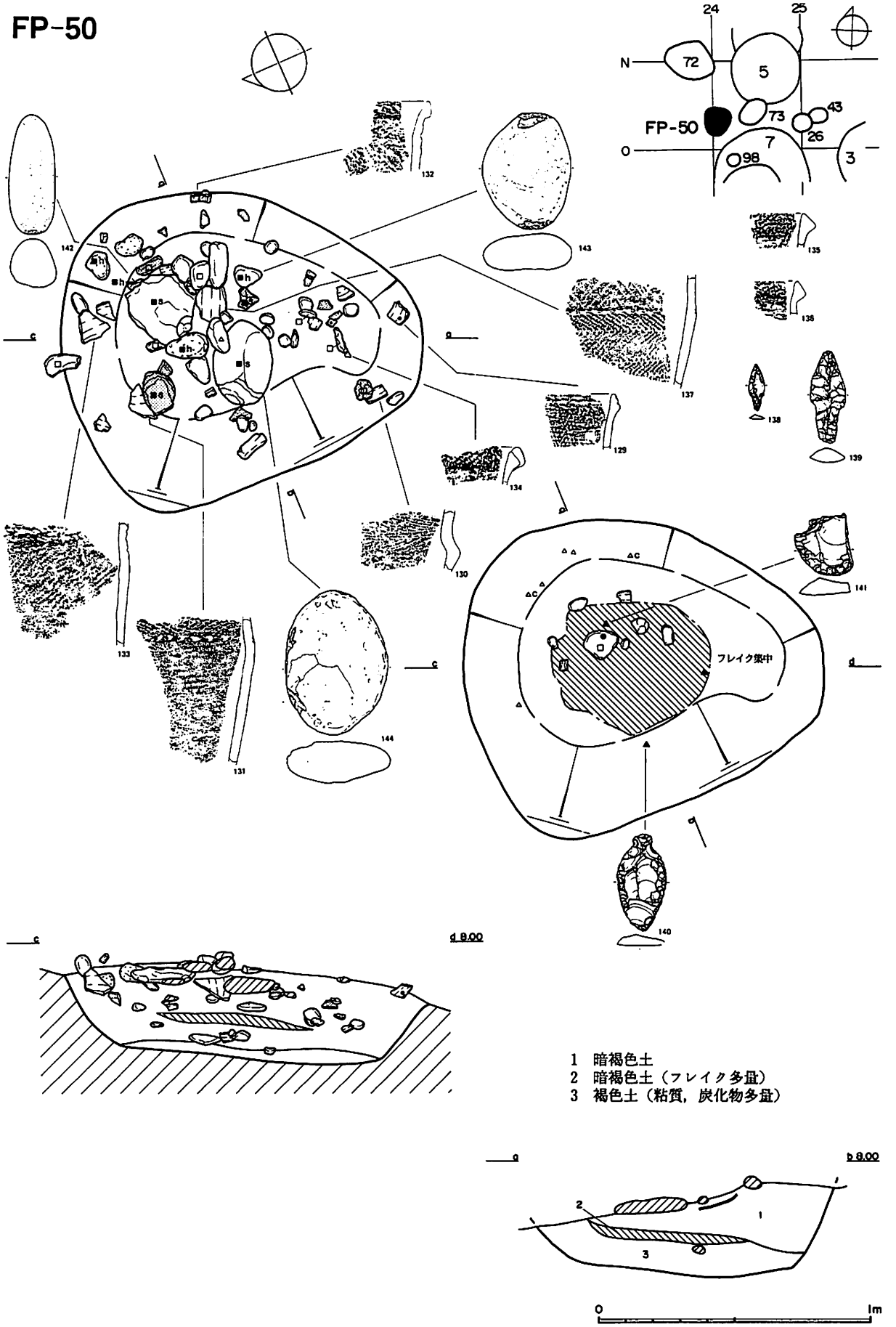
FP-49



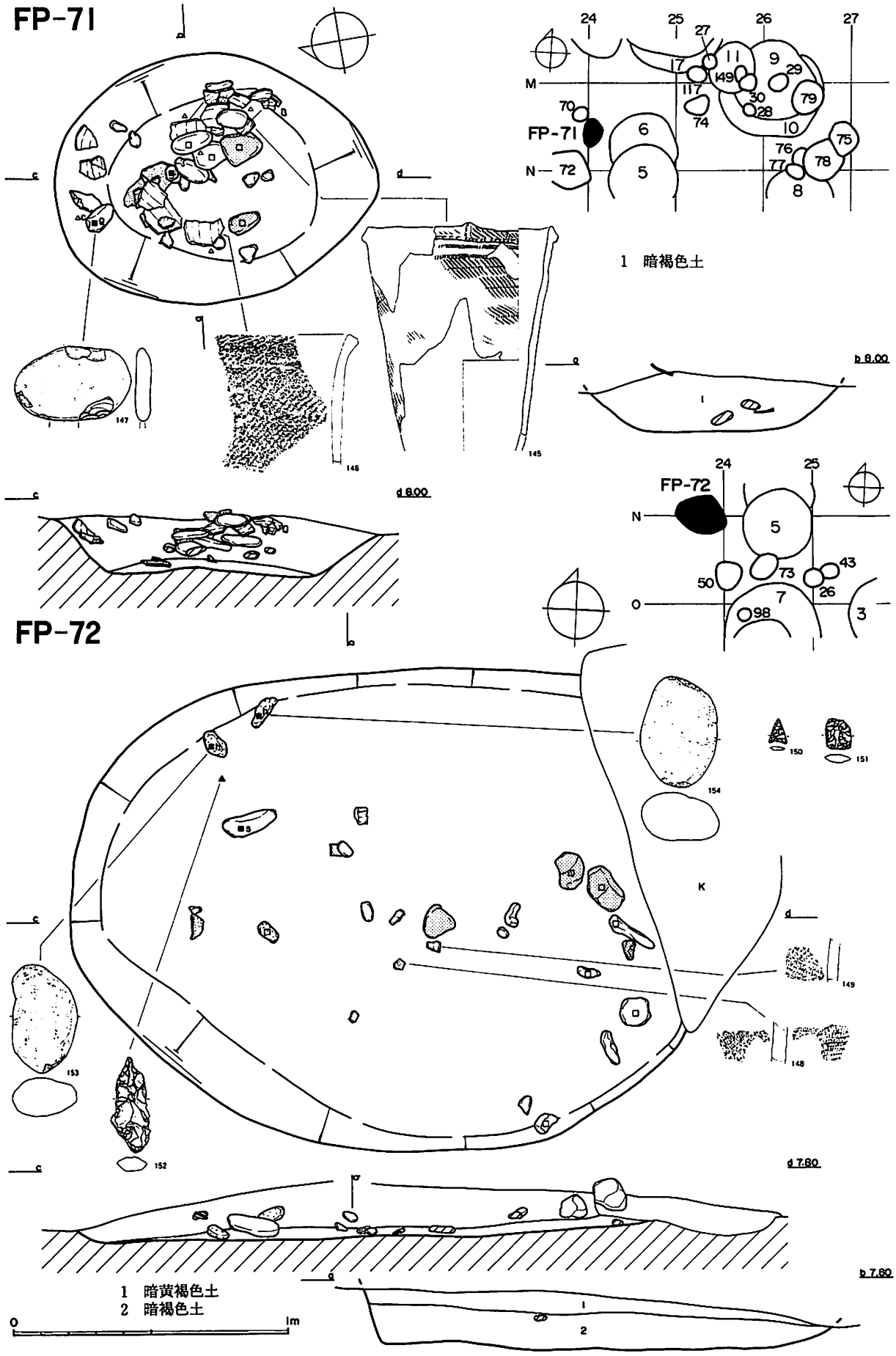
1 暗褐色土
（黄褐色土ブロック若干，炭化物多量）



図Ⅲ—229 FP—48・49



図III—230 FP—50



図Ⅲ—231 FP—71・72

しい。

特徴　断面が皿状で壙底と壁面の境が不明瞭な浅い土壙である。

遺物　土器10点（IIB），つまみ付きナイフ１点，たたき石１点，フレイク12点，Uフレイク１点，礫△７点，礫36点が土壙全域の覆土中から散発的に出土。155はII群B2b類，156はII群B類土器である。155は半截竹管状工具による刺突文が加えられた貼付帯に区画された口頸部に縄線文が施されている。156は平底の底部破片である。157は両面加工縦形のつまみ付きナイフ，158は長軸の一端を使用したたたき石である。

FP—74（図III—232・269，図版68—3）

平面形　楕円形　　**規模**　1.17×0.85／0.86×0.51／0.18m　　**重複**　なし

特徴　壙底東側が凹んだ浅い皿状の土壙で，壙底と壁面の境は不明瞭である。

遺物　土器４点（IIB），たたき石２点，フレイク24点，礫△５点，焼礫１点，礫８点が覆土上部から散発的に出土。159・160はたたき石，159は長軸の一端を使用，160は円礫長軸の両端がわずかに使用されている。

FP—76（図III—233・269，図版68—4）

平面形　楕円形　　**規模**　1.02×0.66／0.70×0.51／0.14m　　**重複**　FP—77・78より古い。

特徴　FP—77・78に南側と東側が壊されている。断面皿状で，壙底と壁面の境が不明瞭な浅い土壙である。

遺物　土器28点（IIB），石鏃１点，フレイク33点，Uフレイク２点，Rフレイク１点，礫△１点，焼礫３点，礫43点が覆土上部から散発的に出土。161は茎が太い有茎凸基の黒曜石製の石鏃である。

FP—77（図III—233・269，図版68—5）

平面形　楕円形　　**規模**　0.85×0.57／0.76×0.43／0.23m　　**重複**　FH—8，FP—76より新しい。

特徴　壙底は平坦で，壁面は急角度で立ち上がる。

遺物　土器10点(IIB)，フレイク19点，礫７点が覆土中から散発的に出土。162はII群B類土器，口唇断面は切り出し状で，結束羽状縄文が施されている。

FP—78（図III—234・270，図版68—6）

平面形　楕円形　　**規模**　1.95×1.62／1.53×1.08／0.30m　　**重複**　FP—75より古く，FH—8，FP—76より新しい。

特徴　壙底は北から南へ向かって傾斜し，壁面の傾斜は緩やかである。

遺物　土器244点（IIB2b・4，IIB2c・3，IIB・142，IIIA2・4，IIIA・29，IIIB1・7，IIIB2・3，IIIB3・28，IIIB・18，IVA・6），石錐１点，つまみ付きナイフ１点，石斧１点，すり石１点，たたき石10点，石皿・台石６点，コア３点，フレイク1,298点，Uフレイク５点，礫△47点，焼礫５点，礫390点，有孔石１点が出土。遺物は土壙全域でみられたが，中央部では礫石器，礫類が重なるようにして確認された。その大部分は覆土上部の１層中からの出

土である。163・164はII群 B2b 類，165はII群 B2c 類，166はIII群 A2 類，167はIII群 B1 類，168～172はIII群 B3 類土器である。163は口唇部・口頸部に縄線文が施されている。突起頂端に円形刺突文が加えられている。口頸部には曲線状（メガネ状）の縄線文が施されている。164は口唇部下端に縄圧痕文が加えられている。165は絡条体圧痕文が施された口唇部である。166は口唇部に鋸歯状の細い貼付けがある。167は縄文が施された角形の口唇部で，体部に斜行縄文を施文後に，縄線文が加えられている。168は押引文が施された口唇部で，肥厚帯直下に押引文施文後に円形刺突文が施されている。169は薄い押引文が施された口唇部で，口唇部から垂下する円形刺突文が施された貼付帯がある。体部は無節の斜行縄文である。170は切り出し状の口唇部で，肥厚帯直下に円形刺突文が施されている。体部は結束羽状縄文である。171は口唇断面は角形で，口縁部に3段の押引文が加えられている。172は丸味のある口唇断面で，体部は無節の斜行縄文と思われる。173は棒状で両面加工の石錐で，尖端部が磨耗している。174は周辺に加工のみられる斜形のつまみ付ナイフである。175～179は珪岩製のたたき石，175・177は長軸の一端，176・178・179は長軸の両端に使用痕がみられる。180・181は安山岩製の石皿・台石である。

時期　縄文時代中期末，III群 B3 類土器の時期と考えられる。

FP—79（図III—235・271，図版69—1）

平面形　楕円形　　**規模**　1.55×1.34／1.10×0.88／0.30m　　**重複**　FH—9・10より新しい。

特徴　壙底は北から南に向かってわずかに傾斜し，西側壁面の傾斜は緩やかで，東側壁面の傾斜は急角度である。

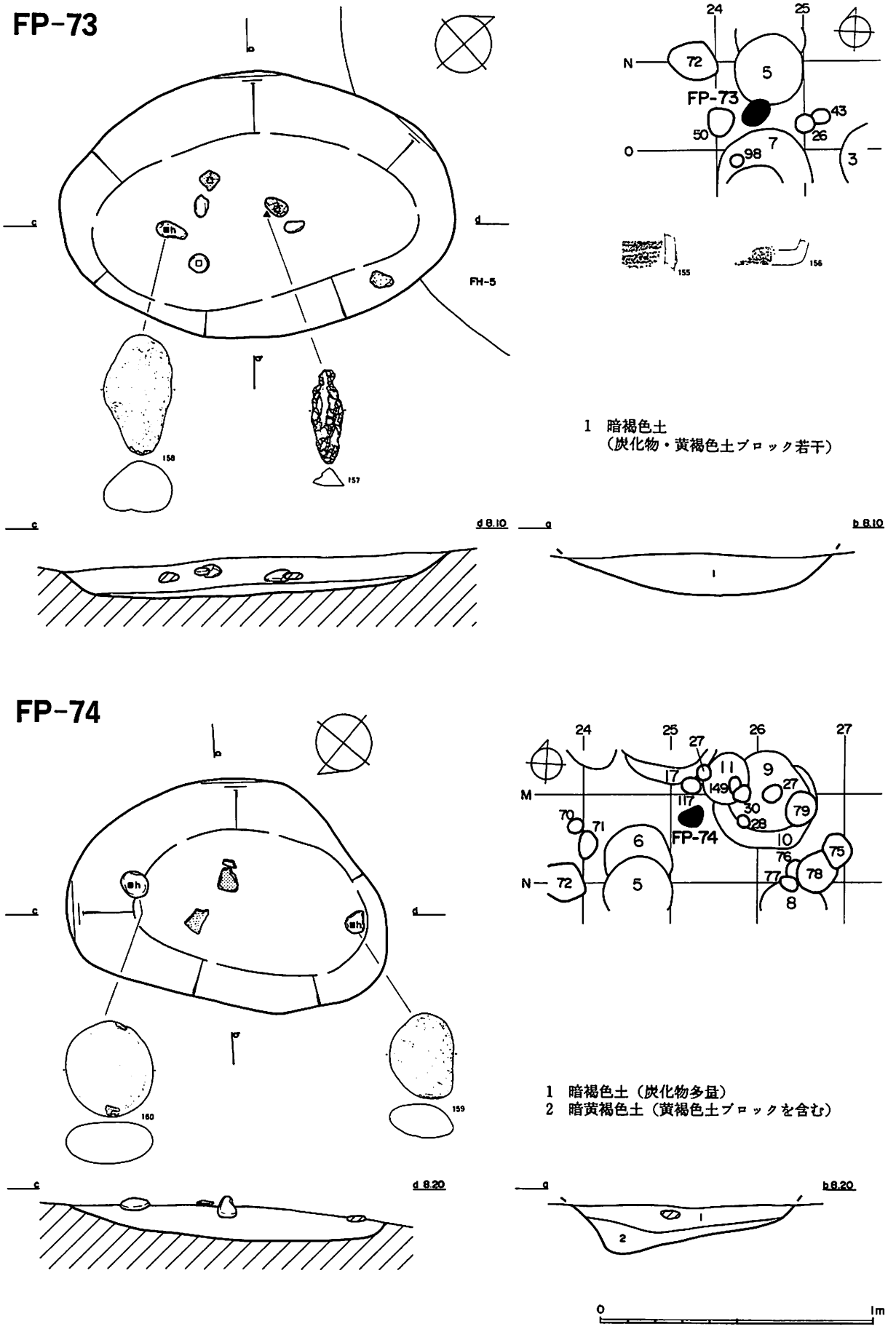
遺物　土器100点（IIB2b・6，IIB・94），石鏃3点，ポイントまたはナイフ2点，スクレイパー1点，北海道式石冠1点，たたき石4点，球石1点，コア2点，フレイク127点，Uフレイク1点，Rフレイク1点，礫△26点，焼礫7点，原石1点，礫145点が出土。遺物は土壙全域の覆土中でみられたが，北側がやや多い。182・183はII群 B2 類，184～186はII群 B2b 類，187・188はII群B類土器である。182は尖る口唇部で，くびれの強い頸部に縄線文が施されている。183は多軸絡条体回転文である。184～186は口唇部・口頸部に縄線文が施されたもので，184は結束羽状縄文，185は斜行縄文が施されている。187は口唇部・口頸部に半截竹管状工具による刺突文が施されたものである。188は縄文のみのもので，体部は結束羽状縄文である。189～191は有茎凸基の石鏃，190は茎が太く，191は茎が太くて茎底辺が内湾している。192・193はポイントまたはナイフ，192はかえしが不明瞭，193は木葉形である。194はやや内湾気味の刃部をもつスクレイパーである。195は小型の北海道式石冠で，ミニュアチュアの可能性がある。196・197はたたき石，196は長軸の両端，197は長軸の両端および側縁が使用されている。

FP—80（図III—235・271，図版69—2）

平面形　楕円形　　**規模**　1.58×1.10／1.25×0.74／0.23m　　**重複**　なし

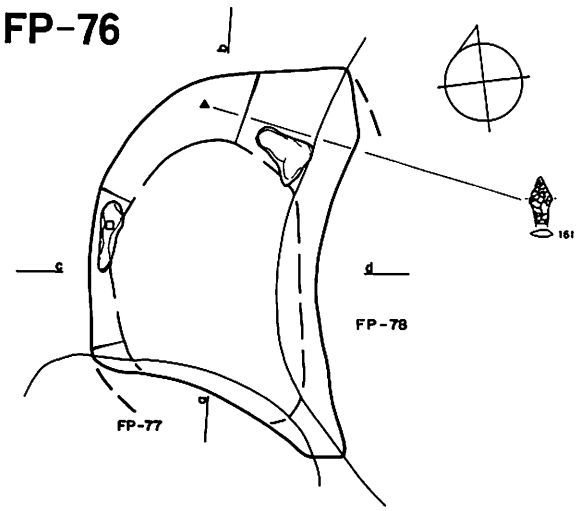
特徴　壙底は平坦で，壁面の傾斜も緩やかである。

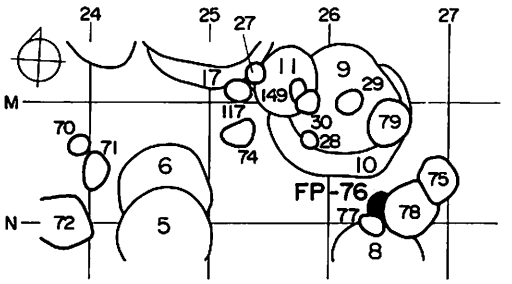
遺物　土器18点（IB2・1，IIB2b・1，IIB・16），北海道式石冠1点，コア1点，フレイク55点，Uフレイク2点，礫△6点，礫97点，有孔石1点が覆土の上部から散発的に出土。



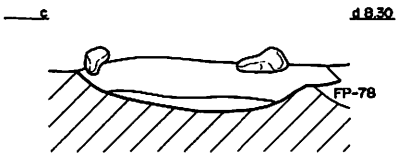
図III—232 FP—73・74

FP-76



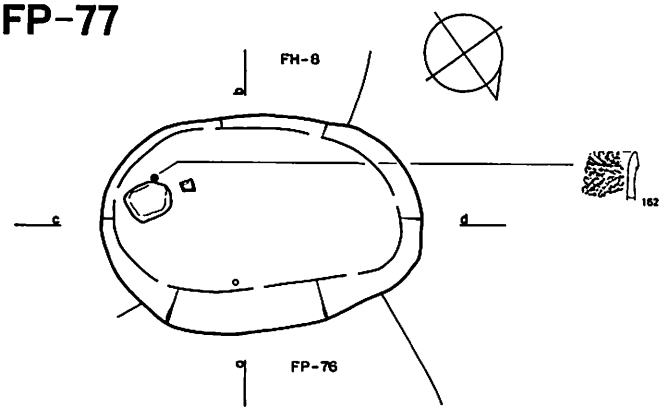


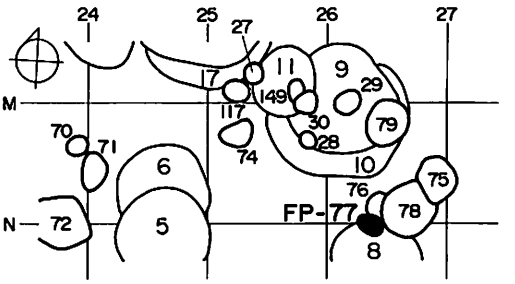
1 黒色土



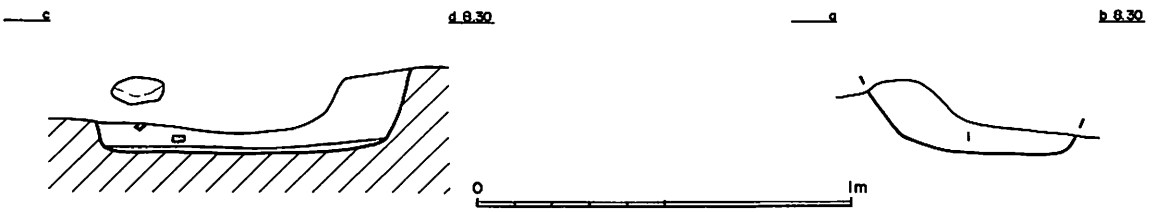


FP-77

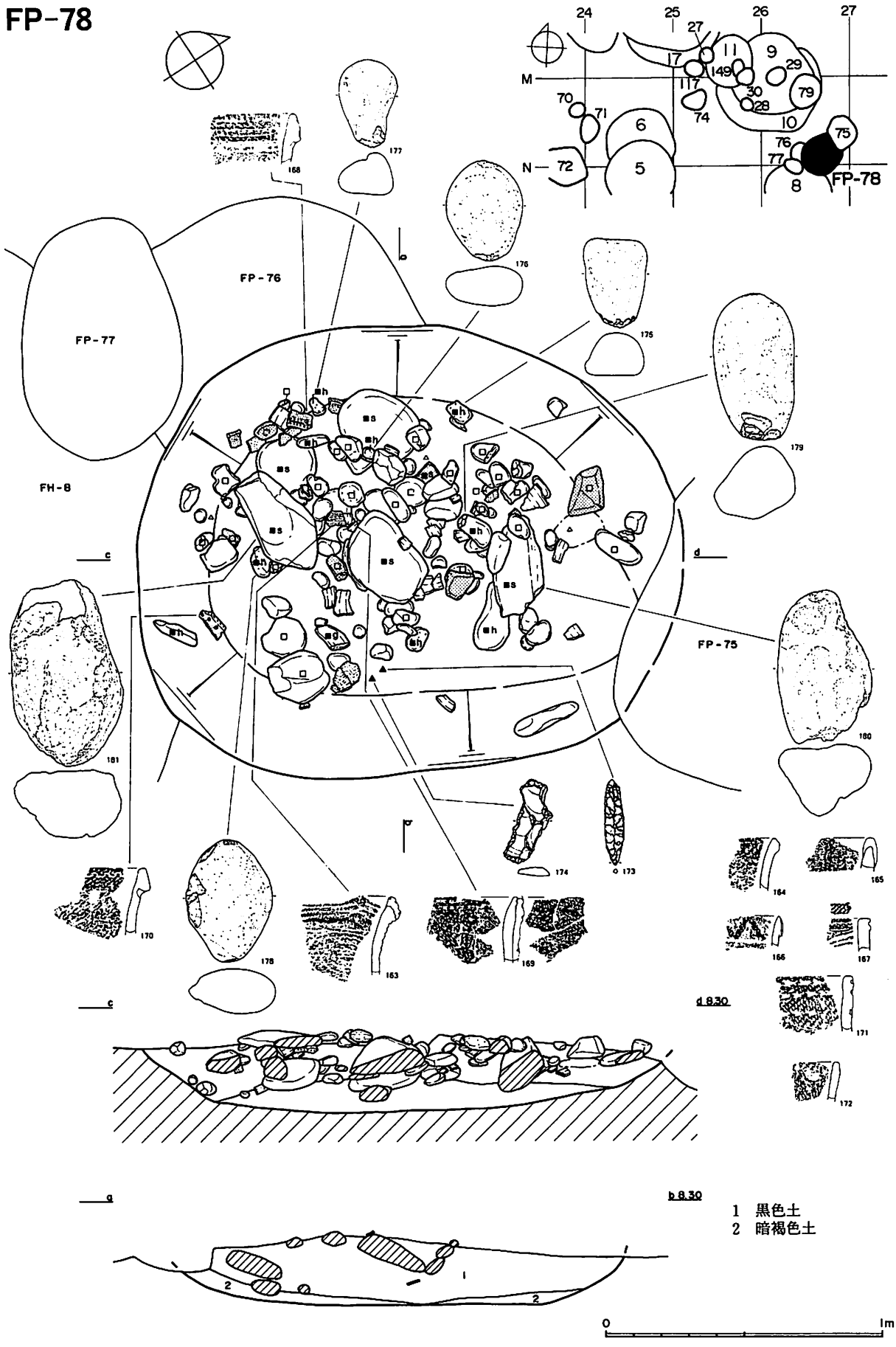




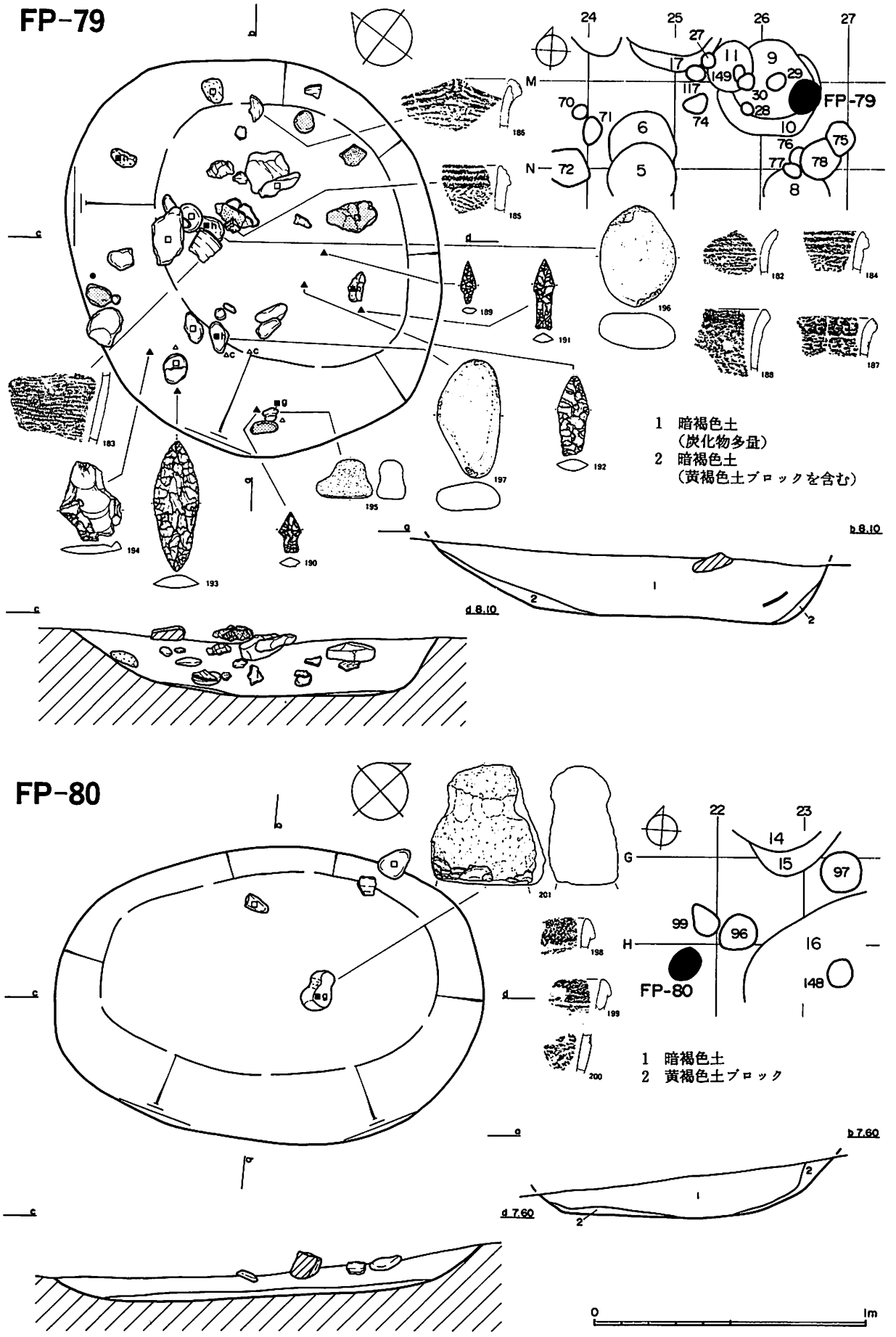
1 暗褐色土
(炭化物・黄褐色土ブロックを含む)



図Ⅲ—233 FP—76・77



図Ⅲ—234　FP—78



図Ⅲ—235 FP—79・80

198～200はII群B類土器，198～199は口縁部破片で，198は斜行縄文が施されている。200は半截竹管状工具による刺突文が施されている。体部は斜行縄文である。201は握り部がやや丸味をもつ北海道式石冠である。

FP—93（図III—236・272，図版69—3・4）

平面形　楕円形　　**規模**　0.73×0.30／0.65×0.28／0.44m　　**重複**　なし

特徴　丘麓緩斜面のII層中で，大型礫の集中で確認できた。壙底は西から東に向かって傾斜し，壁面の角度は45°に近い。

遺物　土器4点（IIIB1），石皿・台石4点，フレイク9点，Rフレイク1点，礫△2点，礫11点が出土。石皿・台石4点と礫△1点は重なるような状態で，覆土上部から確認された。202・203はIII群B1類土器，斜行縄文が施された体部破片で，202には3本一組の沈線文が施されている。204・205は安山岩製の大型の石皿・台石である。

時期　縄文時代中期後半，III群B1類土器の時期と考えられる。

FP—94（図III—236・272，図版69—5）

平面形　円形　　**規模**　1.23×1.21／0.87×0.78／0.18m　　**重複**　なし

特徴　旧河道部に位置しているが，IIb層上面で確認されているので，旧河道部がある程度埋積した段階で構築されたものと考えられる。壙底は平坦で，壁面の傾斜は緩やかである。

遺物　土器7点（IIB2c・1，IIB・5，Va・1），たたき石1点，コア2点，フレイク11点，Uフレイク2点，礫△5点，焼礫1点，礫90点が出土。礫類が壙底でまとまって確認されている。Vaの土器はII層の遺物の流れ込みと思われる。206はII群B2c類土器，無文の口唇部で，口頸部に絡条体圧痕文が施されている。207は両端から側縁にかけて使用痕のみられるたたき石である。

FP—95（図III—237・272，図版69—6）

平面形　楕円形　　**規模**　1.16×0.93／0.67×0.50／0.21m　　**重複**　なし

特徴　FP—94同様，旧河道が埋積した段階で構築されたものと考えられる。断面皿状で，壙底と壁面の境は明瞭でない土壙である。

遺物　土器30点（IIB・1，IIIA・4，IIIB・25），コア1点，フレイク7点，礫△1点，礫25点が覆土中から出土。北東壁面に張り着いたような状態で土器が確認されている。208はIII群B類土器，斜行縄文が施された体部破片で，胎土に繊維を含まず砂粒が多い。

時期　縄文時代中期後葉，III群B類土器の時期と考えられる。

FP—96（図III—237・272，図版70—1）

平面形　楕円形　　**規模**　1.84×1.60／0.85×0.61／0.24m　　**重複**　なし

特徴　断面皿状で，壙底と壁面の境が不明瞭な土壙である。

遺物　土器55点（IB2・24，IIB2b・3，IIB2c・1，IIB・27），つまみ付きナイフ1点，石斧1点，たたき石5点，砥石1点，コア2点，フレイク604点，Uフレイク3点，礫△10点，焼礫1点，礫109点が土壙覆土中から出土。遺物は土壙全域でみられたが，中央部が比較的多い。209・210はII群B2b類，211・212はII群B類土器である。209は丸味をもつ切り出し

状の口唇部断面で，口唇部直下に2条の縄線文が施されている。体部は斜行縄文と思われる。210は無文地の頸部に縄線文が施されている。体部は斜行縄文である。211•212はいずれも体部破片で，211は付加条縄文である。212は結束斜行縄文である。213は周辺に加工のみられる縦形のつまみ付きナイフ，214は打ち欠きによる整形後研磨されている石斧である。215～217は長軸の両端が使用されているたたき石である。

FP—97（図III—238・273，図版70—2）

平面形　楕円形　　**規模**　2.22×2.00／1.89×1.81／0.26m　　**重複**　なし

特徴　壙底は凹凸がみられるが，比較的平坦である。北東部の壁面は25cm程度残存していたが，他の部分は5cm程度しか残存していない。したがって本来はもう一まわり大きくなると思われる。残存している壁面は丸味があり，立ち上がりの角度は45°に近い。

遺物　土器16点（IIB1・2，IIB2a・2，IIB・12），石皿・台石2点，フレイク11点，礫△5点，焼礫2点，礫19点が覆土中から散発的に出土。石皿・台石2点はいくつかの土器，礫類とともに北東部で確認された。218•219はII群B2a類，220～222はII群B類土器である。218•219は多軸絡条体文が施されている。220は棒状工具による刺突文が施された口唇部である。221は斜行縄文が施された口唇部で，体部は斜行縄文である。222は結束羽状縄文である。

FP—98（図III—238・273，図版70—3）

平面形　楕円形　　**規模**　1.00×0.72／0.44×0.31／0.29m　　**重複**　FH—7より新しい。

特徴　FH—7の床面を掘り込んで構築されている。断面皿状で，壙底で壁面の境は不明瞭である。

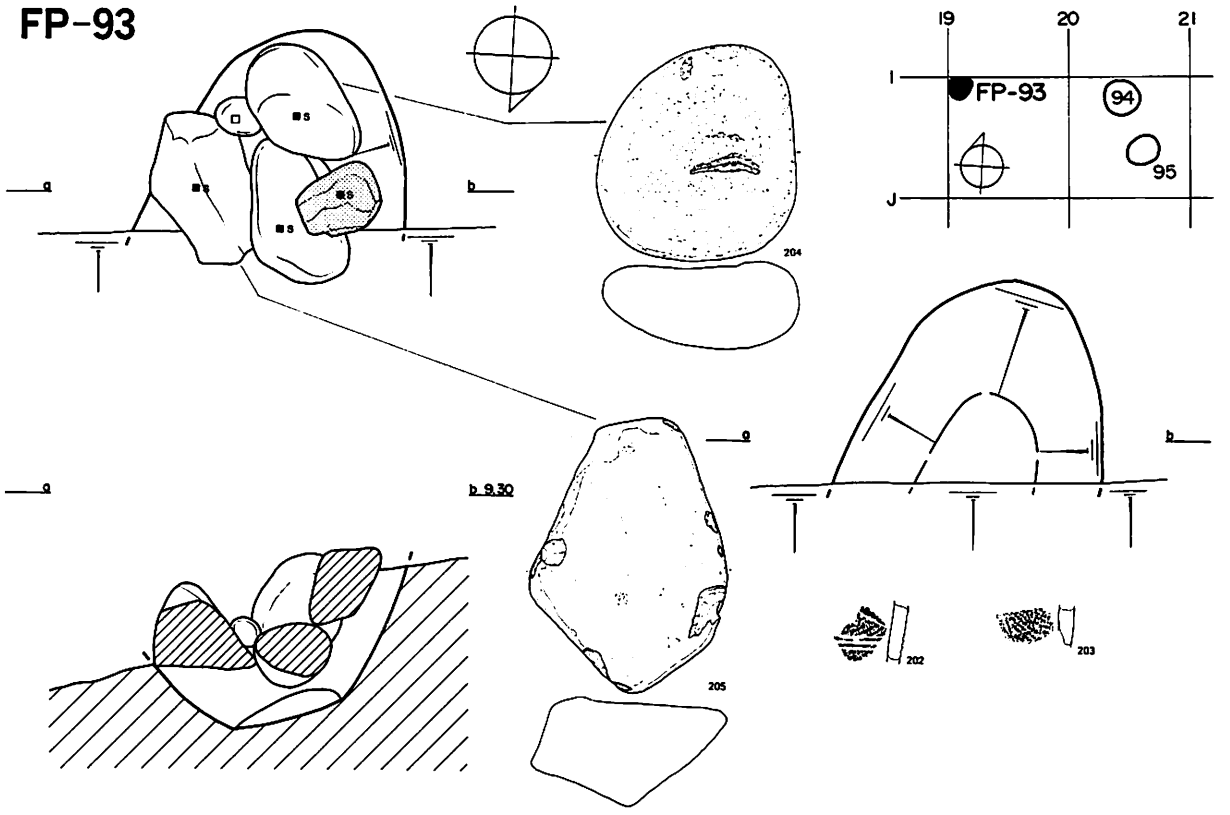
遺物　土器6点（IIB2b・1，IIB・5），たたき石1点，石皿・台石1点，フレイク1点，礫△3点，焼礫1点，礫4点が出土。礫石器，礫類が土壙中央よりやや西寄りでまとまって確認された。223はII群B2b類，224•225はII群B類土器である。223は半截竹管状工具による刺突文が加えられた貼付帯によって区画された頸部に縄線文が施されている。224は結束羽状縄文である。225は斜行縄文である。226は長軸の両端を使用しているたたき石である。

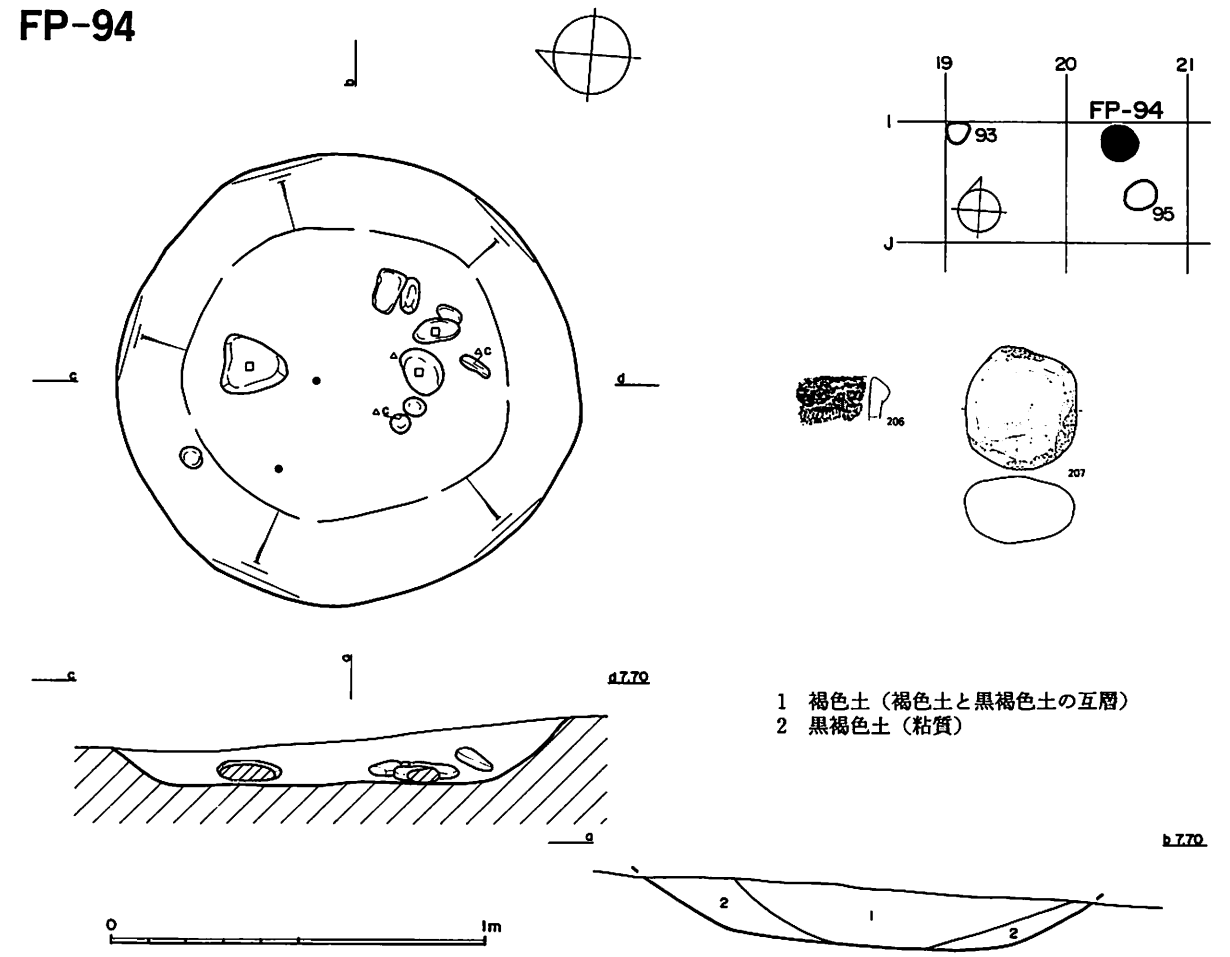
FP—99（図III—239・273，図版70—4）

平面形　楕円形　　**規模**　1.48×1.07／0.66×0.45／0.33m　　**重複**　なし

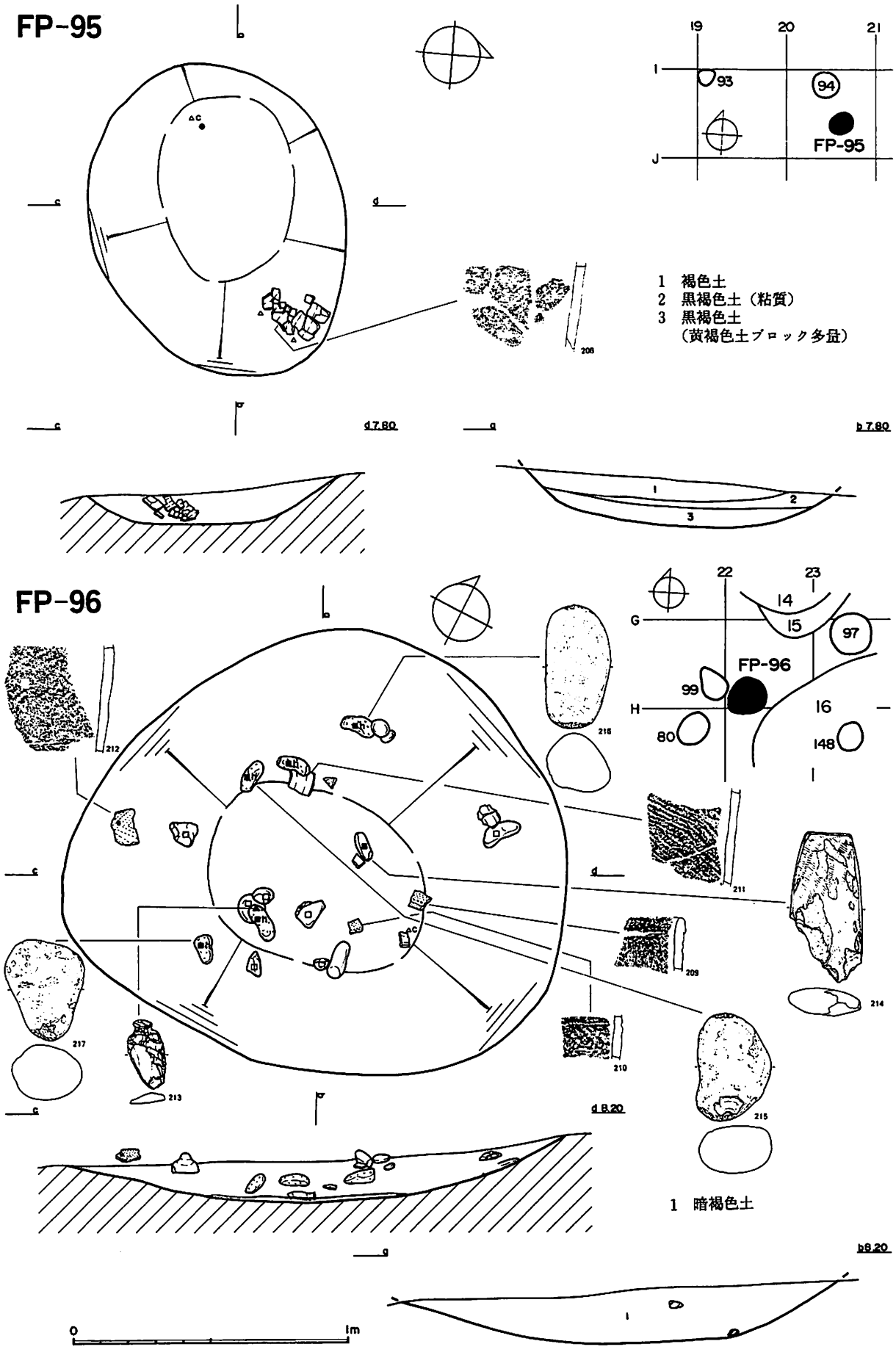
特徴　断面皿状で，壙底と壁面の境が不明瞭な土壙である。覆土1層の暗褐色土は炭化物を多量に含んでいた。

遺物　土器49点（IIB2b・2，IIB2c・2，IIB・45），石鏃2点，たたき石1点，コア2点，フレイク299点，Uフレイク1点，礫△4点，焼礫6点，礫140点が出土。遺物は土壙全域の覆土中から出土しているが，礫石器，礫類はかたまる傾向がある。227はII群B2b類，228•229はII群B2c類，230はII群B類土器である。227は上端に半截竹管状工具による刺突文が施された丸味を持つ口唇部で，口唇部直下に縄線文が施されている。228は口唇部下端に半截竹管状工具による押引文があり，口頸部には絡条体圧痕文が施されている。229は

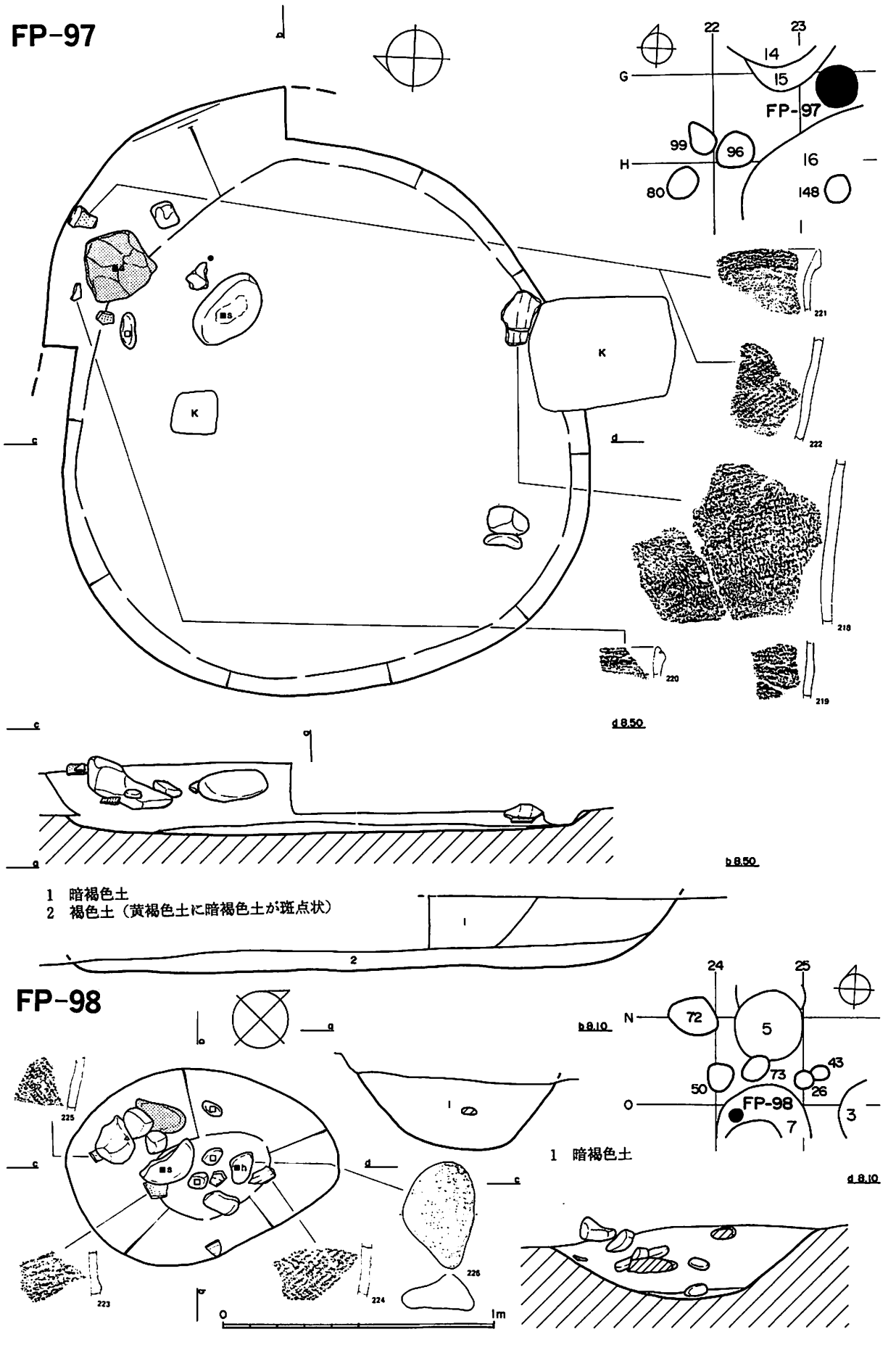




図III—236 FP—93・94

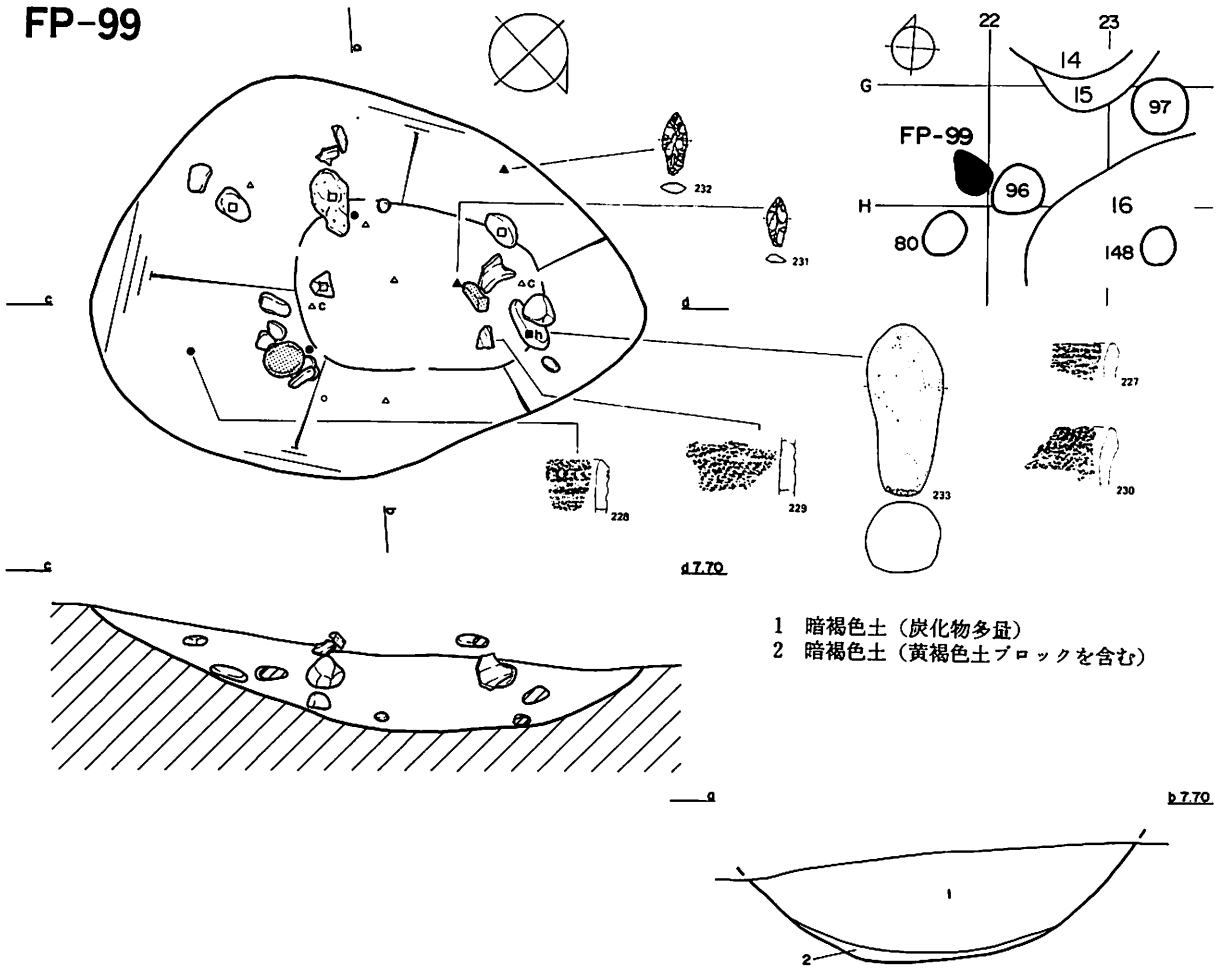


図Ⅲ—237　FP—95・96

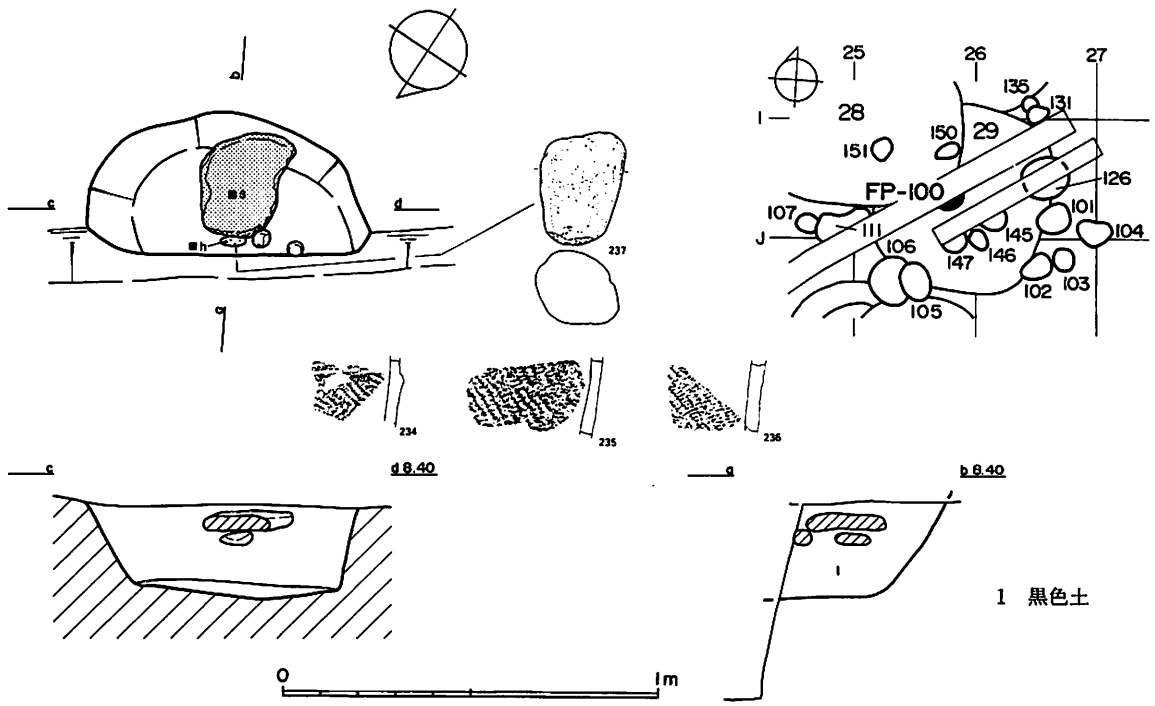


図III—238 FP—97・98

FP-99



FP-100



図Ⅲ—239　FP—99・100

無文地の頸部に絡条体圧痕文が施されている。230は斜行縄文が施された口唇部で，体部は斜行状縄文である。231は不整な五角形を呈した，232は茎が太い有茎凸基の石鏃である。233は長軸の一端を使用しているたたき石である。

FP—100（図III—239・273，図版70—5）

平面形　—　　**規模**　0.75×0.38／0.59×0.29／0.25m　　**重複**　FH—29より新しい。

特徴　FH—29の覆土上部に掘り込まれている。北側が水道管で壊され，全体の2分1程しか残存していないので平面形は不明である。残存している壙底はわずかに凹み，東側壁面の角度は45°に近い。

遺物　土器5点（IIB2c・1，IIB・4），石鏃1点，ポイントまたはナイフ1点，たたき石1点，砥石1点，石皿・台石1点，フレイク4点，礫△1点，礫26点が出土。石皿は中央覆土上部から水平になった状態で確認された。234はII群B2c類，235・236はII群B類土器である。234は口頸部に絡条体圧痕文が施され，体部は結束羽状縄文である。235は結束斜行縄文である。236は斜行縄文である。237は長軸の一端を使用しているたたき石である。

FP—101（図III—240・274，図版70—6）

平面形　楕円形　　**規模**　1.00×0.90／0.72×0.55／0.13m　　**重複**　FH—29より新しい。

特徴　壙底はわずかに凹凸がみられるが，比較的平らで，壁面は緩やかに立ち上がる。

FH—29の覆土上部に構築されている。

遺物　土器78点（IB2・3，IIB2b・1，IIB2c・1，IIB・44，IIIA2・1，IIIA・3，IIIB3・25），スクレイパー1点，すり石1点，たたき石1点，石皿・台石2点，コア1点，フレイク80点，Rフレイク1点，礫△6点，焼礫1点，礫63点が出土。遺物は覆土全域でみられたが，礫石器，礫類は土壙東側でまとまって確認された。238はII群B2b類，239・243はII群B類，240はIII群A1類，241・242はIII群B3類土器である。238は口頸部に縄線文が施されている。239は斜行縄文が施された口唇部で，体部に結束羽状縄文が施されている。240は波状の口縁部で，口唇部は丸味をもつ。波状部上端から垂下する2条の貼付帯がある。241は半截竹管状工具による押引文が施された口唇部で，口唇部直下に円形刺突文が加えられている。体部は斜行縄文で，押引文が加えられた貼付帯が施されている。242は胎土に砂粒を含む。器面調整は粗雑である。243は結束羽状縄文である。胎土は繊維を含む。器面調整は丁寧である。244は黒曜石製のエンドスクレイパー，245は両端を打ち欠いたすり石である。

時期　縄文時代中期末，III群B3類土器の時期と考えられる。

FP—102（図III—240・274，図版71—1）

平面形　楕円形　　**規模**　0.94×0.82／0.83×0.70／0.10m　　**重複**　FH—29より新しい。

特徴　壙底は皿状に凹み，壁面との境は不明瞭である。

遺物　土器24点（IB2・1，IIB2a・1，IIB・22），すり石1点，石皿・台石2点，フレイク4点，礫△3点，焼礫1点，礫19点が出土。礫石器，礫類は土壙中央部より比較的まとまっ

て確認された。246はII群 B2a 類土器，丸味のある口唇部で，細い縄線文が施されている。胎土は繊維を含み，器面調整は丁寧である。

FP—103（図III—240・274，図版71—2）

平面形 楕円形　　**規模** 0.74×0.58／0.08×0.50／0.17m　　**重複** なし

特徴 壙底と壁面の境は不明瞭で，断面はV字形に近い。

遺物 土器22点（IB2・6，IIB2c・2，IIB・14），すり石1点，フレイク3点，礫△4点，礫25点が出土。礫石器，礫類は土壙中央北寄りでまとまって確認された。247・248はII群 B2c 類，249・250はII群B類土器である。247は斜行縄文が施された口唇部で，突起部に縦位に絡条体圧痕文が施されている。248は絡条体圧痕文が施された口頸部破片である。249は結束斜行縄文，250は結束羽状縄文である。251は両端を打ち欠いたすり石で，未使用である。石錘とも考えられるが，すり石としておく。

FP—105（図III—241・275，図版71—4）

平面形 楕円形　　**規模** 1.30×1.13／0.67×0.62／0.37m　　**重複** FH—29，FP—106より新しい。

特徴 壙底は凹み，壁面との境は不明瞭である。

遺物 土器121点（IIB2c・4，IIB・98，IIIB1・1，IIIB2・1，IIIB3・17），スクレイパー1点，すり石1点，北海道式石冠2点，たたき石4点，くぼみ石4点，石皿・台石2点，球石1点，コア1点，フレイク240点，Uフレイク5点，Rフレイク1点，礫△25点，焼礫6点，礫128点，有孔石2点が出土。礫石器，礫類は土壙中央西寄り，覆土中位でまとまってみられた。253はII群 B2b 類，254～256はII群 B2c 類，252・257・258はII群B類，259～263はIII群 B3 類土器である。253は半截竹管状工具による押引文が加えられた口唇部で，口唇部直下に縄線文が施されている。254の口唇部には押引文が加えられた貼付帯・斜行縄文があり，無文地の口頸部に絡条体圧痕文が施されている。255は斜行縄文が施された口唇部で，無文地の口頸部に絡条体圧痕文が施されている。256は絡条体圧痕文が施された口唇部で，口頸部に半截竹管状工具による刺突文が施されている。252・257・258は縄文のみであるが内面調整が丁寧に施され，257の体部は結束羽状縄文，252・258は斜行縄文である。259は押引文が加えられた口唇部で，口唇部直下に押引施文後に円形刺突文が加えられている。260は縄文が施された口唇部直下に円形刺突文が施されている。261は口縁部に円形刺突文が施されたものである。262は押引文が加えられた貼付帯のある体部破片で，地文は斜行縄文である。263は揚げ底気味の底部破片である。

264は有茎凸基，265は柳葉形の石鏃である。266は扁平礫の一側縁を，267は円礫の長軸両端を使用したすり石である。268は三隅と一側縁，269は長軸の一端を使用したたたき石，268はすり石の調整段階の可能性もある。

時期 縄文時代中期末，III群 B3 類土器の時期と考えられる。

FP—106（図III—242・276，図版71—4）

平面形 楕円形　　**規模** 1.55×1.34／0.80×0.61／0.36m　　**重複** FH—26・29より新しく，FP—105より古い。

特徴　壙底はわずかに凹み，壁面は45°に近い角度で立ち上がる。

遺物　土器138点（IIB2b・2，IIB2c・11，IIB・85，IIIB3・39，IIIB・1），スクレイパー1点，すり石1点，北海道式石冠2点，たたき石4点，くぼみ石4点，石皿・台石1点，フレイク100点，礫△27点，焼礫3点，礫84点が出土。遺物は全域でみられるが，南側がやや濃密である。270～274はII群B2c類，275はII群B類，276～278はIII群B3類土器である。270は斜行縄文・半截竹管状工具による押引文が施された口唇部で，半截竹管状工具による刺突文で区画された無文地の頸部には絡条体圧痕文が施されている。271・273は絡条体圧痕文・半截竹管状工具による刺突文が加えられた口唇部で，頸部には絡条体圧痕文が施されている。272は斜行縄文が施された口唇部で，無文地の頸部には絡条体圧痕文が施されている。274は円形刺突文で頸部を区画しているものである。275は縄文のみのもので，体部には結束斜行縄文である。276・278は篦状工具による押引文が加えられた口唇部で，276の口唇部直下に円形刺突文・押引文，体部に「Y」字状の押引が加えられた貼付帯がある。278は口唇部直下にナデ調整を加えた後に円形刺突文が施されている。体部は斜行縄文である。277は斜行縄文を施文後に押引文が加えられた口唇部で，口唇直下には押引を施文後に円形刺突文を加えている。体部は結束羽状縄文である。279はエンドスクレイパー，280は半欠であるが，端部に近い側縁を使用したすり石である。281は握り部の平坦な北海道式石冠，282は長軸の一端，283・284は長軸の両端を使用しているたたき石である。285は片面に浅い凹みが，286は両面に2ヵ所ずつ凹みがあるくぼみ石で，286は両端と一側縁がたたき石としても利用されている。

時期　縄文時代中期末，III群B3類土器の時期と考えられる。

FP—107（図III—243・277，図版71—3）

平面形　楕円形　　**規模**　0.78×0.65／0.39×0.36／0.39m　　**重複**　FP—111より古い。

特徴　壙底は北から南に向って傾斜し，東側の壁面は二段になっている。

遺物　土器19点（IB4・1，IIB2c・1，IIB・17），ポイントまたはナイフ1点，フレイク15点，礫△4点，焼礫2点，礫39点が覆土中から散発的に出土。287はII群B2c類，288はII群B類土器である。287は絡条体圧痕文が施された頸部破片で，体部は結束羽状縄文である。288は斜行縄文が施された体部破片である。289は菱形のポイントまたはナイフである。

FP—108（図III—243・277，図版72—1）

平面形　楕円形　　**規模**　0.78×0.06／0.39×0.36／0.39m　　**重複**　なし

特徴　壙底は二段で，壁面の境が不明瞭な土壙である。

遺物　土器1点（IIB），フレイク2点，礫△1点，焼礫1点，礫9点が覆土中から出土。大型の礫△1点は土壙中央やや南東寄りで確認された。29はII群B類土器，結束斜行縄文が施された体部破片である。

FP—109（図III—243・277，図版72—2・3）

平面形　楕円形　　**規模**　1.39×0.90／1.21×0.76／0.20m　　**重複**　FH—19より新しい。

特徴　壙底はわずかに凹凸がみられるが，比較的平坦である。

遺物　土器26点（IIB2b・1，IIB2c・1，IIB・24），たたき石1点，フレイク9点，礫△2点，礫56点が覆土全域から散発的に出土。291はII群B2b類，292はII群B2c類，293はII群B類土器である。

291は口唇部や口唇部直下に縄線文が施されている。292は半截竹管工具によって区画された頸部に絡条体圧痕文が施されている。293は斜行縄文が施された口縁部破片である。294は一端と一側縁を使用しているたたき石である。

FP—111（図III—244・277，図版72—4）

平面形　不整形　　**規模**　2.03×1.15／1.66×0.85／0.17m　　**重複**　FP—107より新しい。

特徴　南東側が水道管で壊されている。壙底は北東から南西に向って傾斜し，壁面との境は不明瞭である。

遺物　土器103点（IB4・1，IIB2c・1，IIB・56，III4・1，IIIB3・44），ポイントまたはスクレイパー2点，石斧薄片2点，たたき石4点，砥石1点，石皿・台石3点，フレイク60点，礫△30点，焼礫1点，礫152点，有孔石2点が出土。礫石器，礫類は土壙全域でみられたが，中央やや北東寄りでまとまって確認された。296はII群B2c類，297・298はII群B類，295・299はIII群B3類土器である。296は斜行縄文が施された口唇部で，無文地の頸部に鋸歯状の絡条体圧痕文が施されている。297の無文地の頸部には円形刺突文と半截竹管状工具による刺突文が施されている。298は斜行縄文・半截竹管状工具による刺突文が施された口唇部で，口唇部直下に縄線文が施されている。299は無文で，揚げ底である。

300は直線状とやや内湾する刃部をもつスクレイパー，301は両端と一側縁を，302は棒状礫の両端を使用したたたき石，301はすり石の前段階の可能性もある。303は安山岩製の石皿・台石である。

時期　縄文時代中期末，III群B3類土器の時期と考えられる。

FP—112（図III—244・278，図版73—1）

平面形　楕円形　　**規模**　0.89×0.70／0.46×0.23／0.32m　　**重複**　FH—25より新しい。

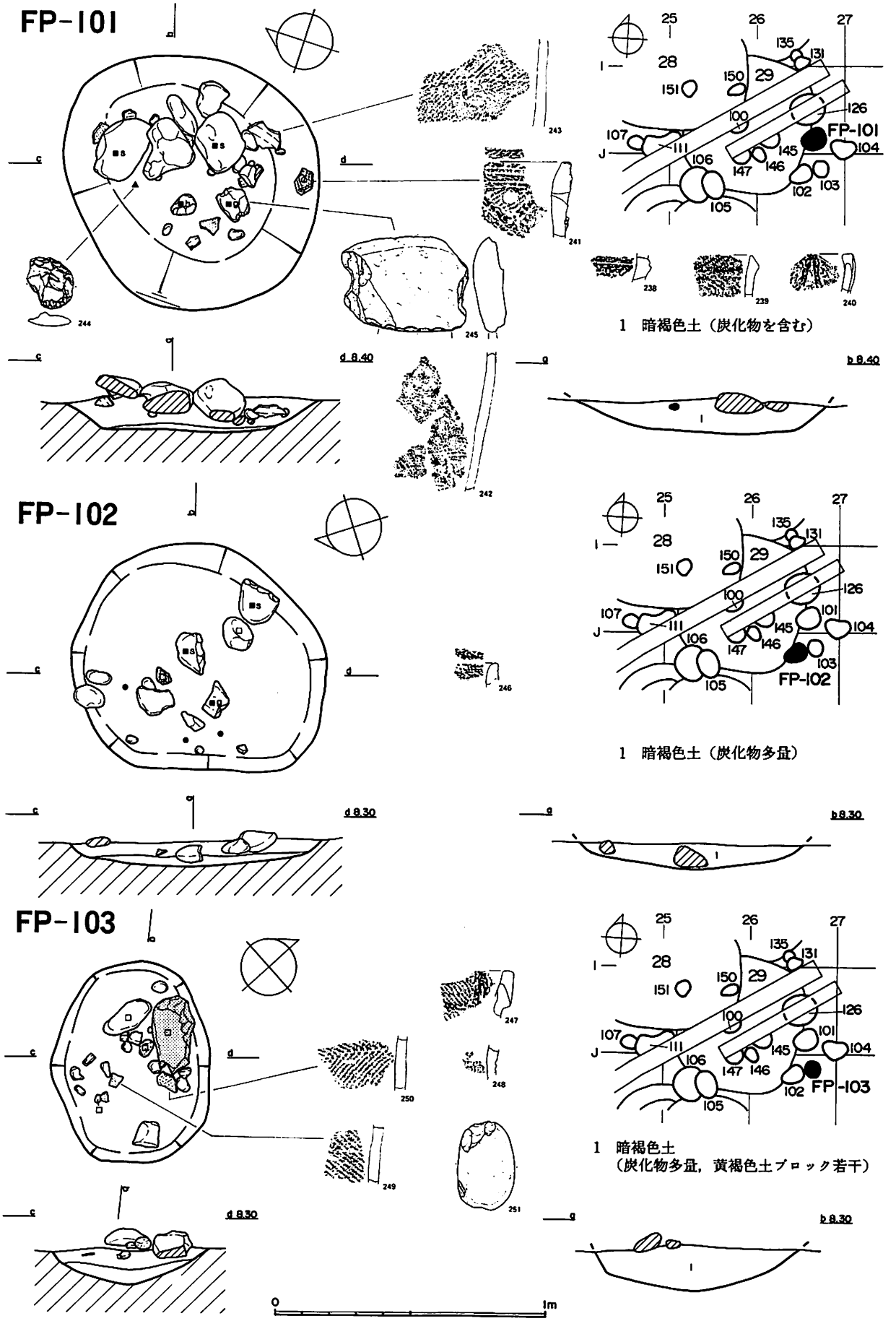
特徴　壙口に比べ壙底が小さい土壙で，壙底と壁面の境は不明瞭，断面は半円状に近い。

遺物　土器54点（IIB2c・24，IIB・30），フレイク5点，焼礫1点，礫31点が出土。土壙中央南寄り，覆土上部で土器が倒立した状態で確認された。304は倒立していたII群B2c類土器で，底部は欠損している。口唇部に斜行縄文が施され，4つの突起には絡条体圧痕文が縦位に加えられている。口唇断面は切り出し状である。無文地の頸部には絡条体圧痕文が施され，体部には結束羽状縄文が施されている。

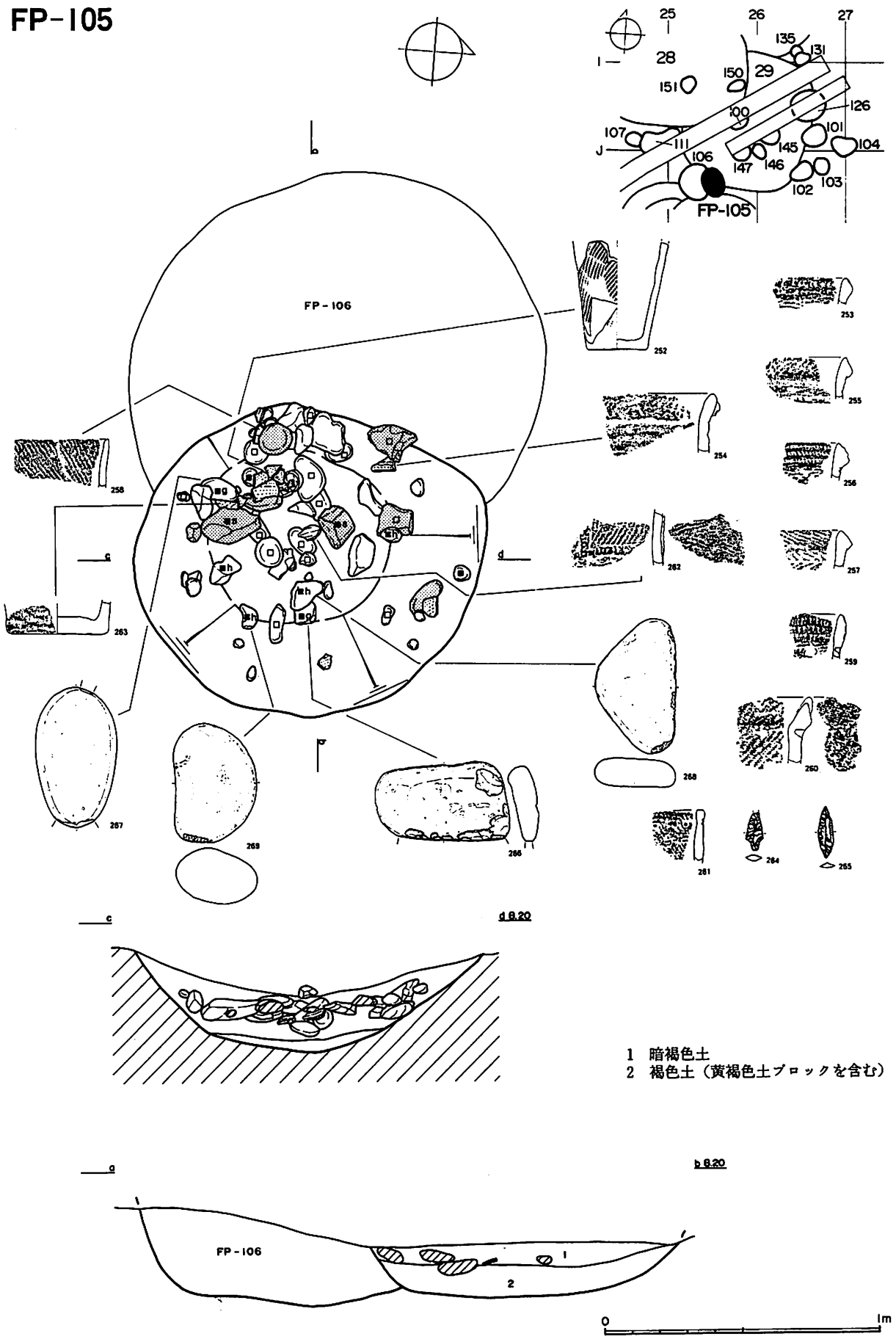
FP—113（図III—245・278，図版73—2）

平面形　楕円形　　**規模**　2.40×2.05／1.98×1.78／0.26m　　**重複**　なし

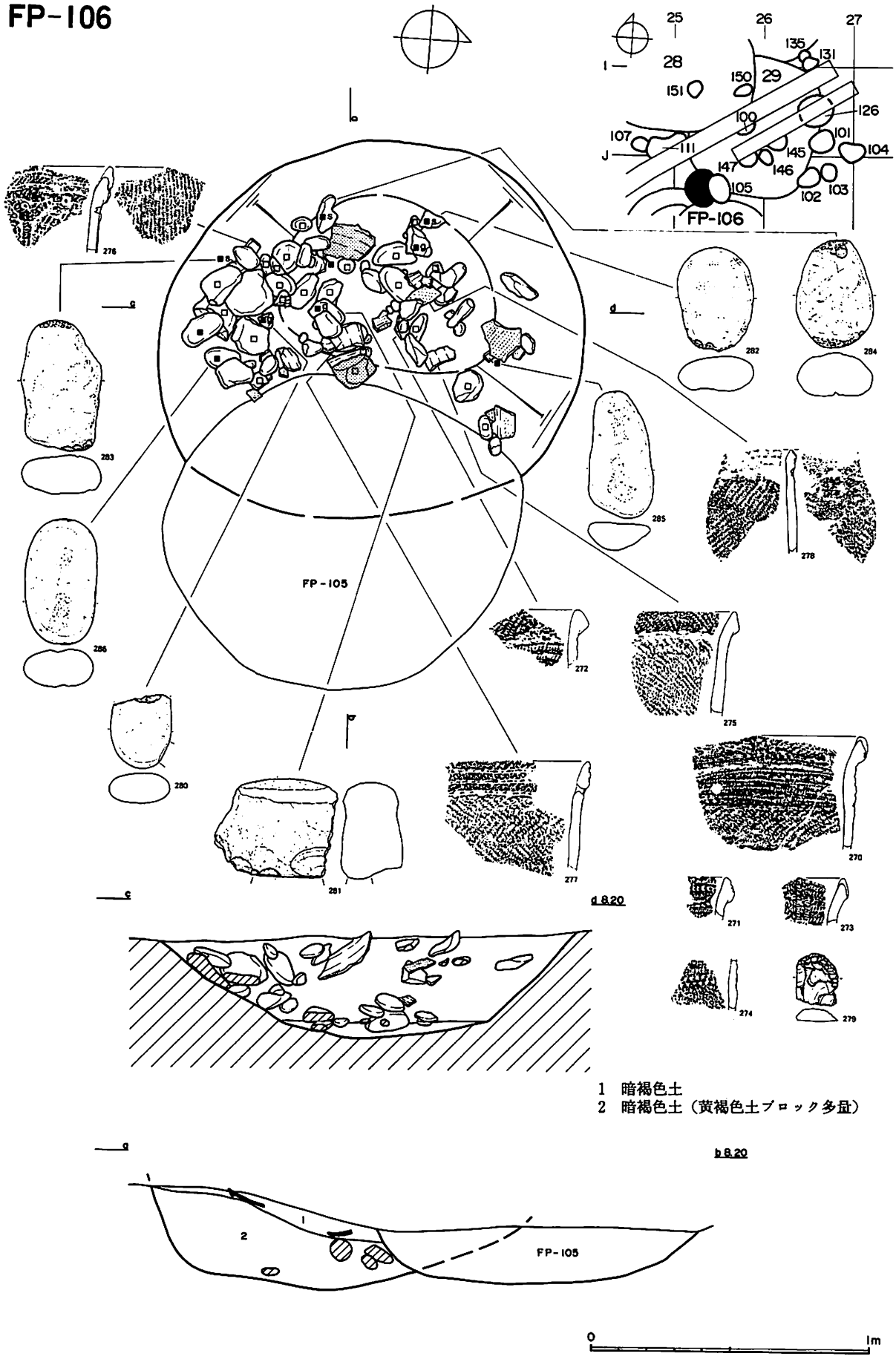
特徴　壙底は北西から南東に向って傾斜し，壁面は丸味があり，45°に近い角度で立ち上がる。



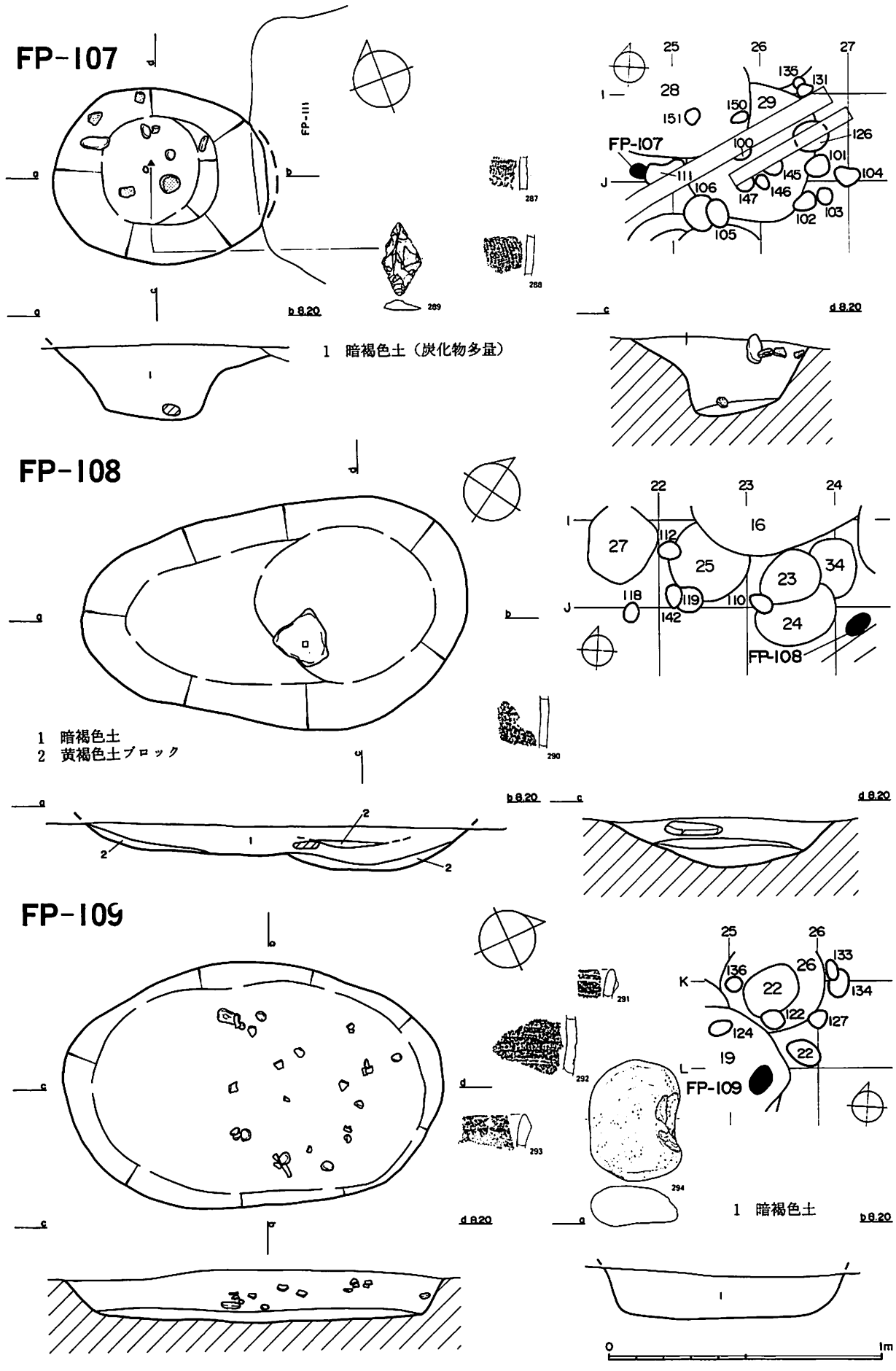
図III—240 FP—101～103



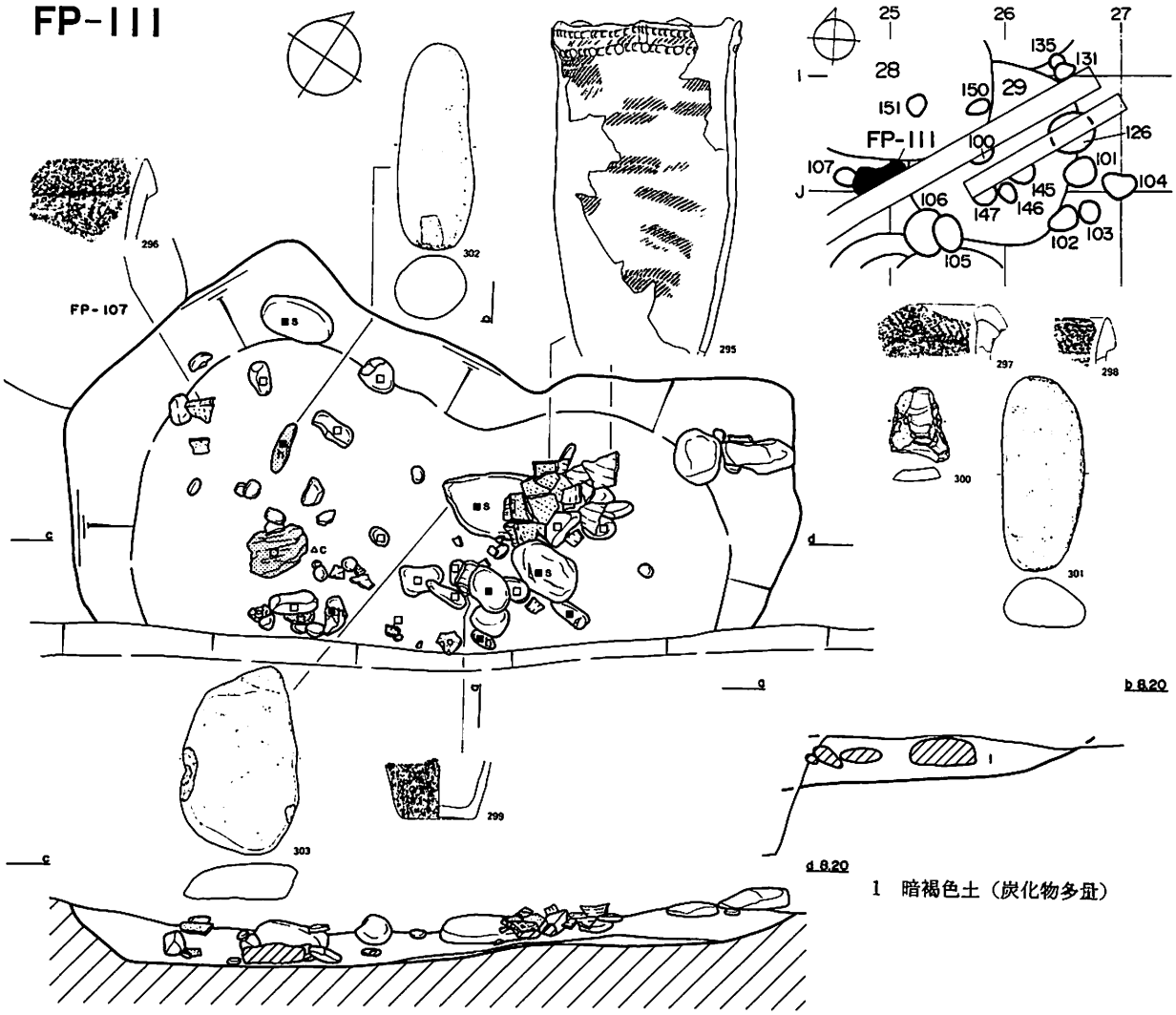
図Ⅲ—241　FP—105

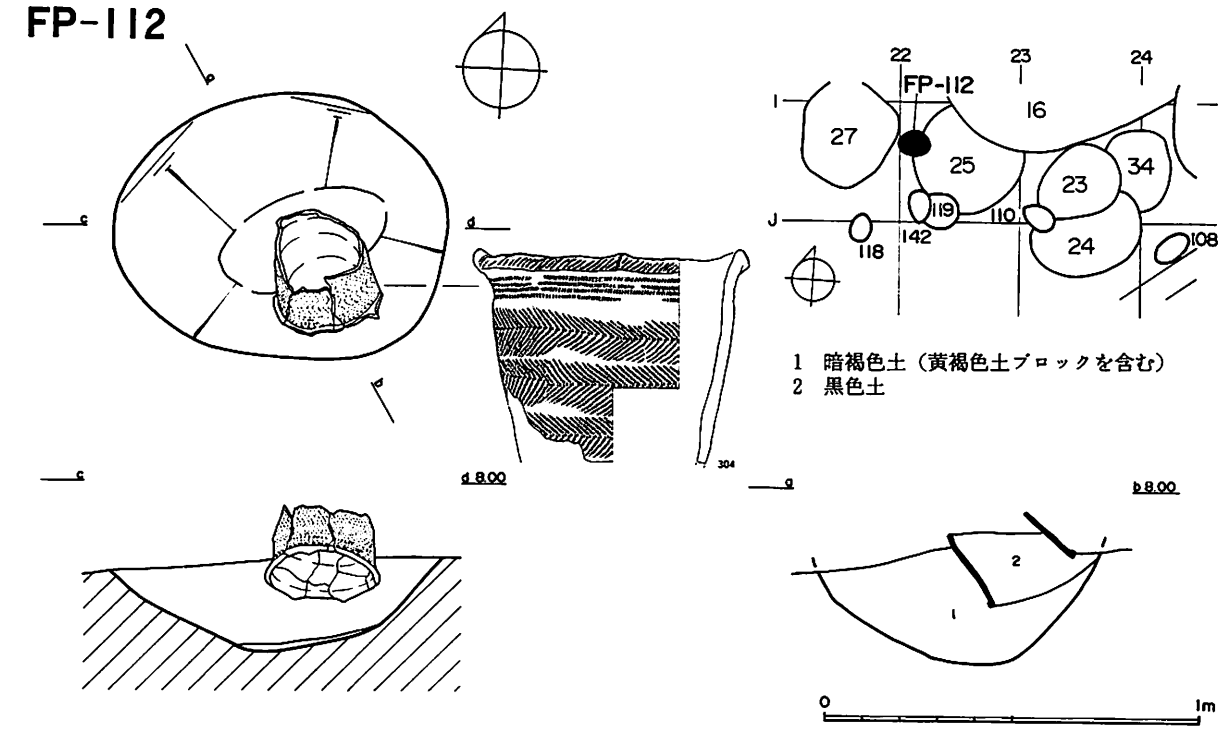

FP-106
25
26
27
28
29
135
131
150
151
126
109
107
111
101
104
145
147
146
105
102
103
FP-106
FP-105
276
282
284
283
285
286
278
272
275
280
281
277
270
271
273
274
279
1　暗褐色土
2　暗褐色土（黄褐色土ブロック多量）
FP-105
0
1m

図Ⅲ—242　FP—106

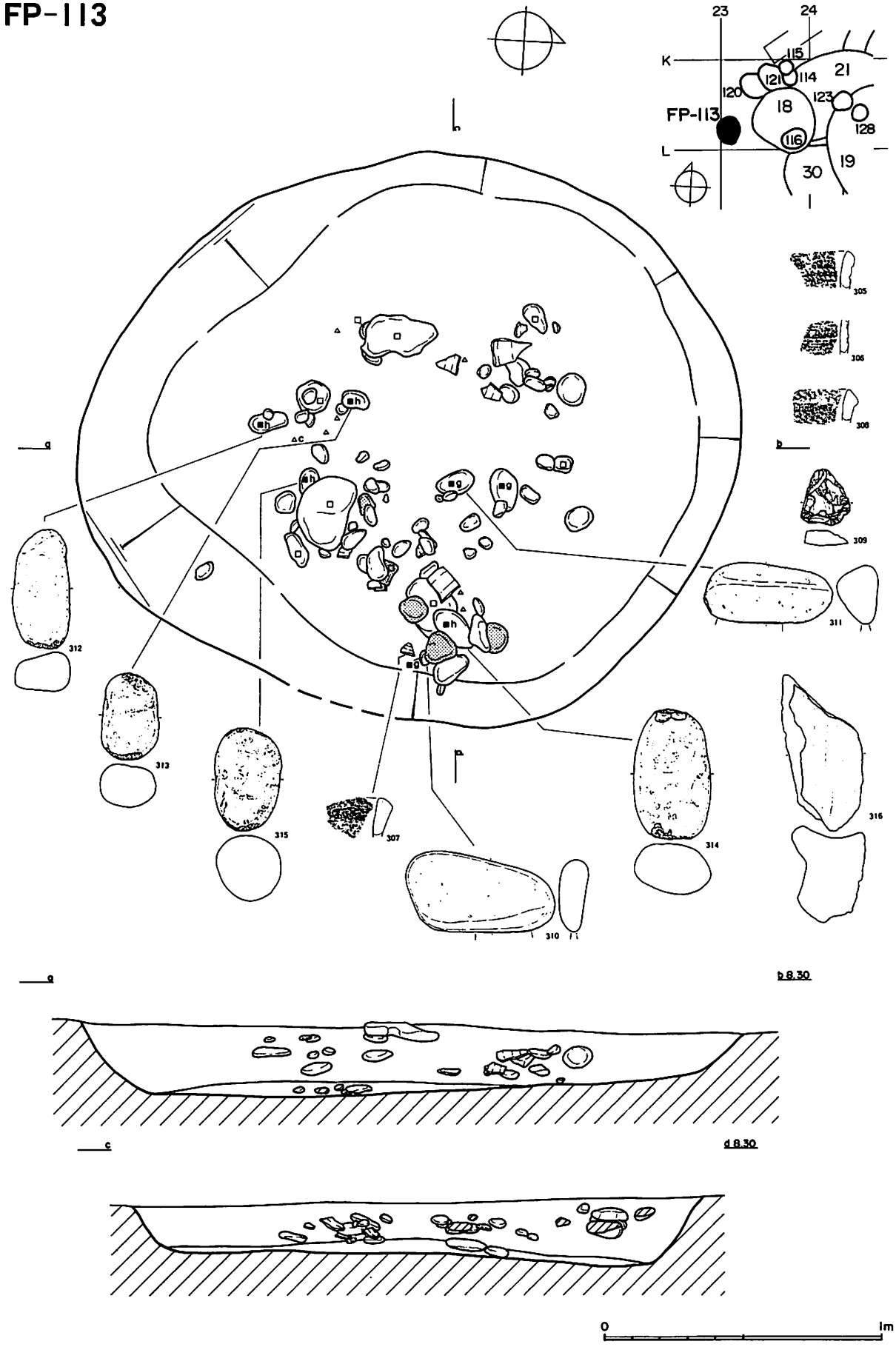


図Ⅲ—243　FP—107～109





図III—244 FP—111・112


FP-113
23
24
K
L
115
114
121
120
21
18
123
128
116
19
30
FP-113
305
306
308
309
311
312
313
315
307
314
316
310
a
b
c
d
b 8.30
d 8.30
0
1m

図Ⅲ—245　FP—113

遺物　土器115点（IB2・3，IIB2b・4，IIB2c・1，IIB・107），石鏃1点，ポイントまたはナイフ1点，スクレイパー1点，すり石2点，北海道式石冠1点，たたき石6点，砥石1点，球石3点，コア11点，フレイク136点，Uフレイク2点，礫△22点，焼礫7点，礫174点が出土。礫石器，礫類は土壙中央やや東寄りでまとまってみられた。305はII群B2b類，306はII群B2c類，307・308はII群B類土器である。305は半截竹管状工具による刺突文が加えられた口唇部で，無文地の口頸部には縄線文が施されている。306は口頸部に絡条体圧痕・半截竹管状工具による押引文とが施されている。307は半截竹管工具の押引文が加えられた口唇部で，体部に斜行縄文が施されている。308は口唇部・体部に斜行縄文が施されている。309は周辺加工のエンドスクレイパー，310は扁平円礫の一側縁を，311は三角柱状礫の一稜を使用したすり石である。312～315はたたき石，312は長軸の一端，313～315は長軸の両端を使用している。また，312・315は一端に赤色顔料が付着している。316は砂岩製の砥石である。

FP—115（図III—246・278）

平面形　楕円形　　**規模**　0.67×0.62／0.57×0.46／0.12m　　**重複**　FP—114より新しい。

特徴　壙底は凹み，壁面は45°に近い角度で立ち上がる。

遺物　土器5点（IB2・1，IIB・4），コア1点，フレイク5点，礫4点が覆土中から散発的に出土。317はII群B類土器，斜行縄文が施され，口唇の断面は切り出し状である。

FP—117（図III—246・279，図版73—3）

平面形　円形　　**規模**　0.84×0.82／0.72×0.65／0.44m　　**重複**　FH—17より新しい。

特徴　壙底は皿状に凹み，壁面は急角度で立ち上がる。

遺物　土器7点（IIB），たたき石2点，砥石1点，石皿・台石1点，コア2点，フレイク1点，礫△2点，焼礫1点，礫8点が出土。礫石器，礫類は土壙南側の覆土中で確認された。318・319は長軸の両端を使用したたたき石，320は石皿・台石である。

FP—118（図III—247・279，図版73—4）

平面形　楕円形　　**規模**　0.78×0.55／0.48×0.32／0.25m　　**重複**　なし

特徴　壙底は平坦で，壁面は45°に近い角度で立ち上がる。

遺物　土器15点（IIB），北海道式石冠1点，たたき石1点，コア2点，フレイク25点，礫△6点，焼礫3点，礫116点が出土。遺物は土壙全域でみられたが，中央北寄りで，礫石器，礫類がかたまって確認された。321・322はII群B類土器，いずれも結束斜行縄文が施された体部破片である。323は前面にのみ鉢巻状の敲打痕がみられる北海道式石冠の未成品，324は三角形状の礫の二隅を使用しているたたき石である。

FP—119（図III—247・280，図版73—5）

平面形　楕円形　　**規模**　1.70×1.15／1.10×0.75／0.26m　　**重複**　FP—142より新しい。

特徴　壙底は西から東に向かって傾斜し，壁面は45°に近い角度で立ち上がる。

遺物　土器93点（IIB2b・2，IIB2c・2，IIB・89），石斧1点，北海道式石冠1点，たたき石3点，砥石1点，石皿・台石1点，コア3点，フレイク70点，Uフレイク2点，礫△12点，焼礫4点，礫204点，土製品1点が出土。遺物は土壙全域でみられたが，中央覆土上部で，礫石器，礫類と大型の土器片がかたまって確認された。326はII群B2b類，327・328はII群B2c類，325はII群B類土器である。326は縄線文・半截竹管状工具による刺突文が加えられた口唇部で，口唇部直下に縄線文が施されている。327は半截竹管状工具による刺突文によって区画された無文地の口頸部に絡条体圧痕文が施されている。328は無文地の口頸部に長さ約3cmの原体で絡条体圧痕文が施されている。325は口唇部に5つの突起をもつ。無文地の口頸部には突起部から垂下する貼付帯と口頸部下端を区画する太い貼付帯がある。貼付帯上や口頸部には円形刺突文が加えられている。体部は結束羽状縄文である。底部は揚げ底である。329は握り部の平坦な北海道式石冠，330は長軸の両端を使用しているたたき石，331は砥石，332は石皿・台石，333は有孔の再生土製円盤である。

FP—120（図III—248・280，図版74—1）

平面形　楕円形　　**規模**　(1.50)×(1.07)／(1.20)×(0.85)／0.18m　　**重複**　FH—18，FP—121より古い。

特徴　東側がFH—18，FP—121で壊されている。壙底は平坦で，残存している北西の壁面の角度は緩やかである。

遺物　土器88点，(IIB2b・2，IIB・86)，ポイントまたはナイフ1点，すり石1点，たたき石3点，石鋸1点，砥石1点，石皿・台石4点，コア2点，フレイク148点，礫△6点，焼礫3点，礫152点が出土。遺物は土壙全域でみられたが，礫石器，礫類は中央部で比較的まとまって確認された。334はII群B2b類，335～337はII群B類土器である。334は斜行縄文が施された口唇部で，口唇部直下に縄線文が施されている。体部は斜行縄文である。335は結束羽状縄文，336・337は斜行縄文が施された体部破片である。

338はポイントまたはナイフの尖端部，339は一側縁を使用したすり石，340・341は長軸の両端を使用したたたき石，342は断面U字形の石鋸，343は石皿・台石である。

FP—121（図III—248・281，図版74—1）

平面形　楕円形　　**規模**　(1.53)×1.35／1.23×0.78／0.25m　　**重複**　FH—18，FP—114・115より古く，FP—120より新しい。

特徴　壙底は凹凸があるが，比較的平坦で，壁面は丸味があり，緩やかである。

遺物　土器63点（IB2・1，IIB2b・1，IIB2c・6，IIB・55），ポイントまたはナイフ1点，たたき石3点，砥石1点，コア4点，フレイク46点，Uフレイク3点，Rフレイク1点，礫△10点，焼礫3点，礫106点が出土。遺物は土壙全域でみられたが，礫石器，礫類は西側で多く確認されている。344はII群B2b類，345・346はII群B類土器である。345・346は壙底出土である。344は口唇部断面は角形で，頸部に縄線文が施されている。345は結束羽状縄文，346は無文が施された体部破片である。

347は木葉形のポイントまたはナイフ，348・349は長軸の一端を使用しているたたき石である。

FP—122（図III—249・281，図版74—2）

平面形　—　**規模**　(1.14)×(0.87)／(0.93)×(0.92)／0.26m

重複　FH—26より新しく，FH—22より古い。

特徴　FH—22に北側が壊されていて，全体の状況が不明である。壙底は2段で，壁面との境は不明瞭である。

遺物　土器15点（IB2・2，IIB2c・1，IIB・12），石鏃1点，スクレイパー1点，石斧薄片1点，たたき石2点，フレイク11点，礫△12点，礫48点が出土。礫石器，礫類は土壙中央西寄りでまとまって確認された。350は有茎凸基の石鏃，351はやや内湾する刃部をもつスクレイパー，352は長軸の両端，353は長軸の一端を使用しているたたき石である。

FP—125（図III—249・281・282，図版74—3）

平面形　楕円形　**規模**　1.61×1.36／1.40×1.16／0.15m　**重複**　FH—35より新しい。

特徴　撹乱を受けている部分もあるが，全体の状況は把握できる。壙底は皿状に凹み，全体に南から北に向かってわずかに傾斜している。壙底と壁面の境は不明瞭で，壁面の傾斜は緩やかである。

遺物　土器167点（IIB2a・1，IIB2b・84，IIB・82），つまみ付きナイフ1点，すり石1点，たたき石3点，砥石1点，石皿・台石1点，フレイク9点，Uフレイク1点，礫△4点，礫38点が出土。土壙中央覆土中から2個体分の土器片が押しつぶされたような状況で確認され，さらにその周りに礫石器類がみられた。354はII群B2b類，355・356はII群B類土器である。354は斜行縄文が施された口唇部で，半截竹管状工具による刺突文で区画された無文地の頸部は縄線文が施されている。体部は結束斜行縄文である。底部は揚げ底である。355は平底で，体部に結束羽状縄文が施されている。356はやや揚げ底気味で，体部に不規則な縄文が施されている。胎土は砂粒を多く含み，器面調整は粗雑である。体部縄文・器面調整等からII群B1類の可能性もある。357は周辺加工の斜形のつまみ付きナイフ，358は長軸の両端を使用したすり石で，一端は尖頂を呈している。359・360は長軸の両端を使用しているたたき石，361は石皿・台石である。

FP—126（図III—250・282・283，図版74—4）

平面形　不整形　**規模**　(1.52)×1.40／1.41×(1.12)／0.18m　**重複**　なし

特徴　中央部が水道管で壊されている。壙底は比較的平坦で，壁面は45°に近い角度で立ち上がる。

遺物　土器128点（IIB2a・1，IIB2b・4，IIB2c・14，IIB10・7，IIIA2・1，IIIB3・1），石鏃2点，つまみ付きナイフ1点，スクレイパー2点，北海道式石冠2点，たたき石3点，くぼみ石1点，石皿・台石1点，球石1点，フレイク48点，Uフレイク1点，礫△20点，焼礫8点，礫135点，土製品1点が出土。遺物は土壙全域でみられたが，北西側が多いようである。363はII群B2a類，364・365はII群B2b類，362・366～368はII群B2c類，369～372はII群B類土器である。363は尖る口唇部である。頸部は外反し，多段の縄線文が施されている。口唇部には縄線文による縄圧痕文が施されている。364は口唇部に縄線文・半截竹管状工具による刺突文が，頸部には縄線文が施されている。365は口唇部に縄線文が，体部に

結束羽状縄文が施されている。362は斜行縄文が施された口唇部である。頸部は半截竹管状工具による刺突文が施された貼付帯によって区画され，絡条体圧痕文が施されている。貼付帯直下に絡条体圧痕文・半截竹管状工具による刺突文が加えられている。体部は斜行縄文である。366•367は頸部に鋸歯状の絡条体圧痕文が施されているもので，366は絡条体圧痕文によって頸部が区画され，体部に斜行縄文が施されている。368は頸部に絡条体圧痕文，体部に結束羽状縄文が施されている。370は無文である。371•372は底部破片で，体部に斜行縄羽文が施されている。373•374は茎の太い有茎凸基の石鏃，375は周辺加工の縦形のつまみ付きナイフ，376は直線状の刃部，377はやや外湾する刃部をもつスクレイパーである。378・379は北海道式石冠，378は握り部が尖頂，379は握り部が丸いものである。380～382はたたき石，380は長軸の両端，381・382は長軸の一端を使用している。また，381は一側縁に打ち欠きがみられる。383は2面に凹みがみられるくぼみ石，384は有孔の再生土製円盤片である。

FP—127（図III—251・283，図版74—5）

平面形　楕円形　　**規模**　0.74×0.72／0.53×0.53／0.30m　　**重複**　なし

特徴　壙底は南から北へ傾斜し，壁面は急角度で立ち上がる。

遺物　北海道式石冠1点のみが，土壙内北側の覆土上部で確認されている。385は敲打による鉢巻がみられない北海道式石冠である。

FP—129（図III—251・283，図版75—1・2）

平面形　楕円形　　**規模**　1.01×0.80／0.83×0.62／0.12m　　**重複**　なし

特徴　断面皿状で，壙底と壁面の境は明瞭でない。

遺物　土器3点（IIB・2，IIIB3・1），石皿・台石4点，フレイク15点，礫△13点，焼礫2点，礫10点が出土。礫石器，礫類は土壙中央東寄りでかたまってみられた。387はII群B類，386はIII群B3類である。387は底部破片，結束斜行縄文が施されている。386は斜行縄文上に篦状工具による押引文が施されている。

時期　縄文時代中期末，III群B3類土器の時期と考えられる。

FP—131（図III—251・283，図版75—3）

平面形　楕円形　　**規模**　0.50×0.63／0.50×0.57／0.16m　　**重複**　FP—135より新しい。

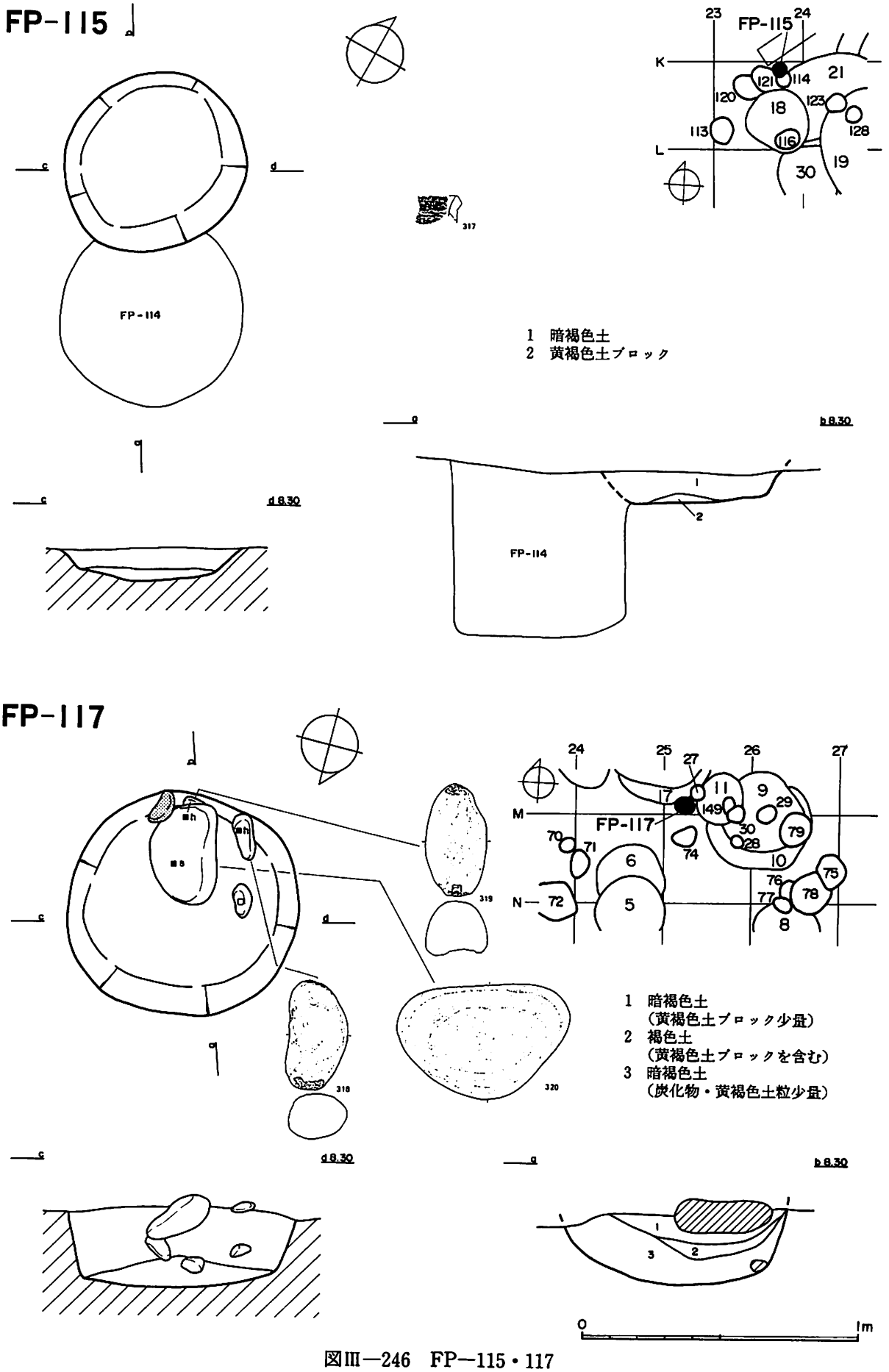
特徴　南側が水道管で壊されている。壙底は比較的平坦で，壁面は垂直に近い角度で立ち上がる。

遺物　土器4点（IB2・1，IIB・3），フレイク14点，礫△2点，礫4点が覆土中から散発的に出土。388はII群B類土器，結束羽状縄文が施された体部破片である。

FP—132（図III—252・283，図版75—4）

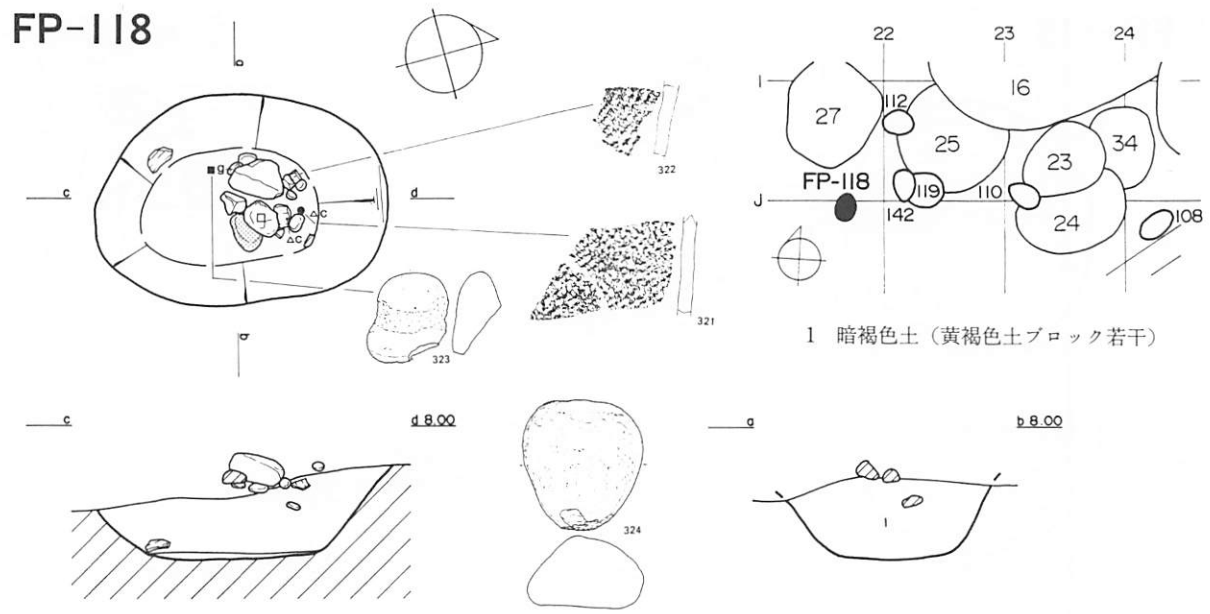
平面形　楕円形　　**規模**　1.13×0.79／1.01×0.55／0.08m　　**重複**　FH—39より新しい。

特徴　南側の一部が撹乱で壊されている。壙底は平坦で，壁面は45°に近い角度で立ち上が

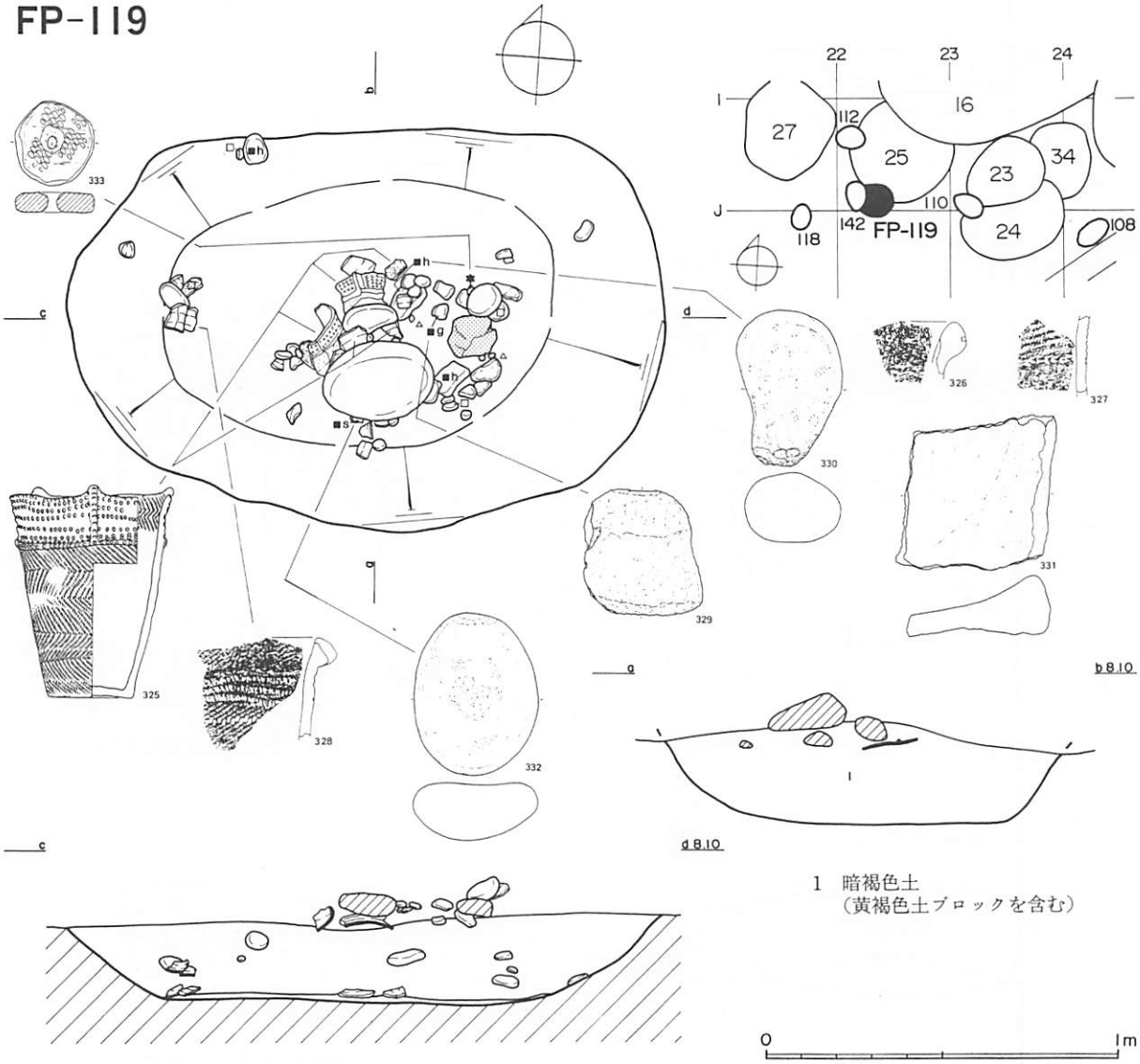


図Ⅲ—246 FP—115・117

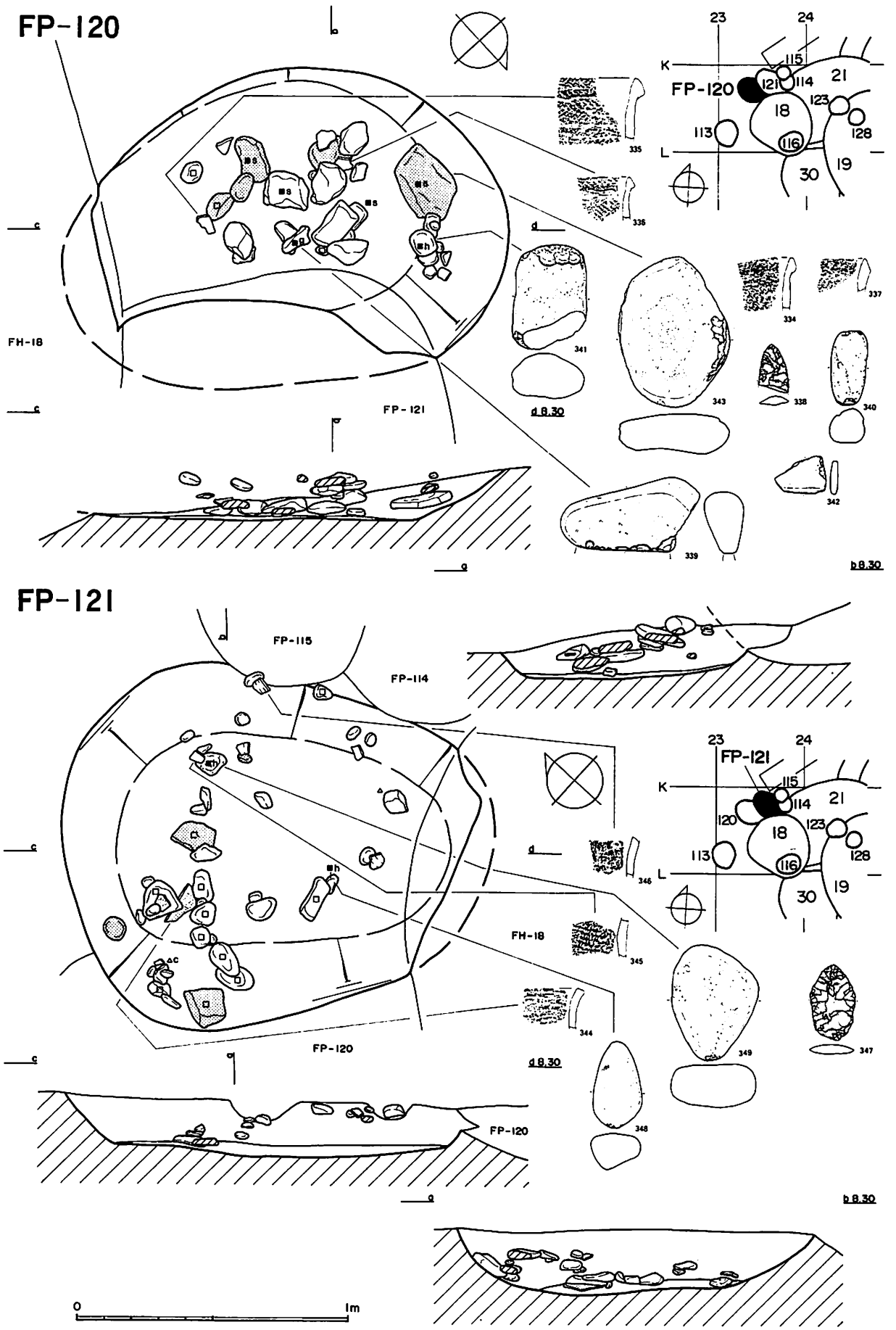
FP-118



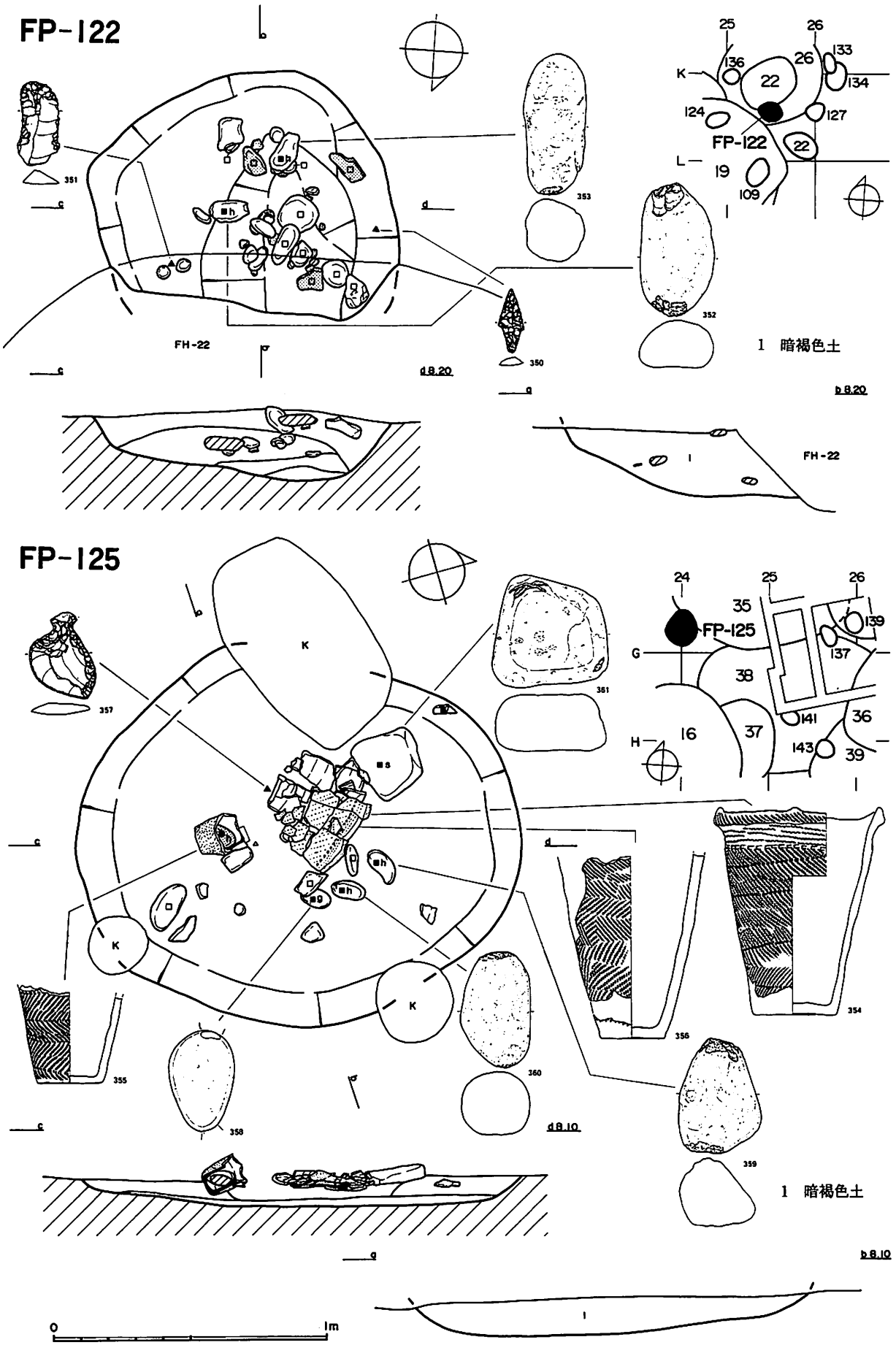
FP-119



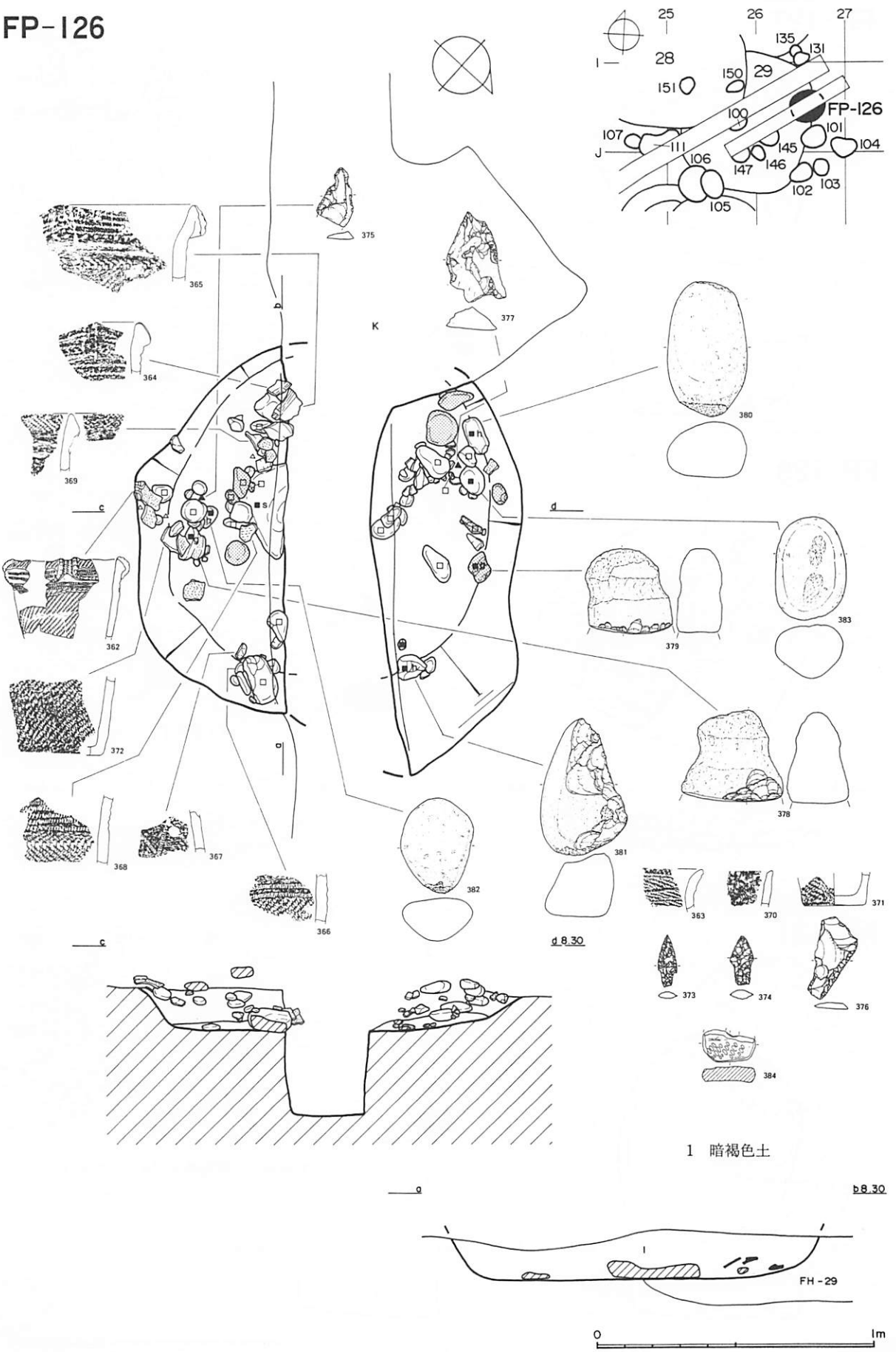
図Ⅲ—247　FP—118・119



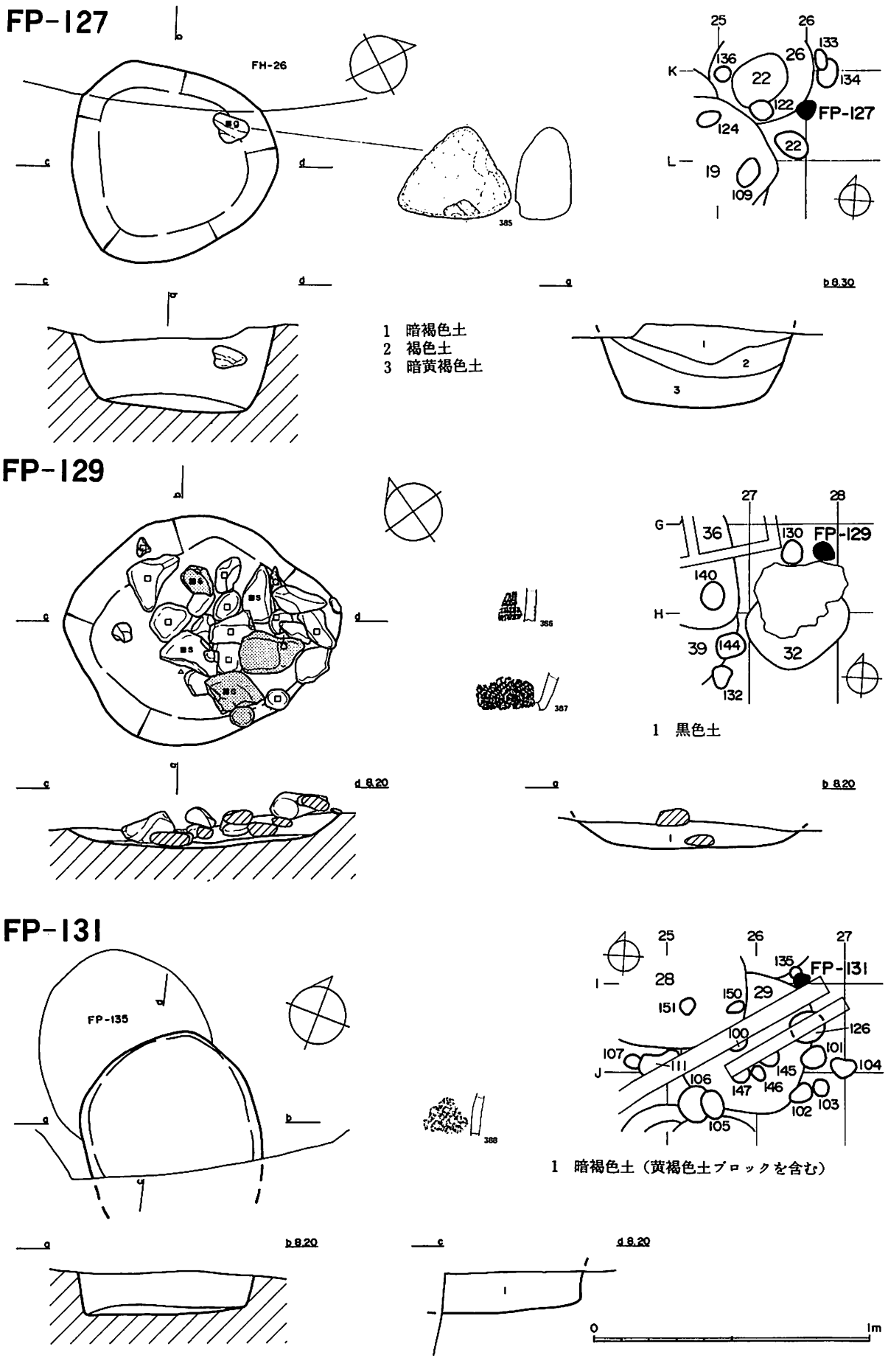
図III—248 FP—120・121



図Ⅲ—249 FP—122・125



図III—250　FP—126



図Ⅲ—251　FP—127・129・131

る。

遺物　土器7点（IIB2b・1，IIB・6），石鏃1点，フレイク4点，礫△2点，焼礫1点，礫9点が土壙全域から出土。389はII群B2b類土器，縄線文・縄圧痕文が加えられている。390は有茎凸基の石鏃である。

FP—133（図III—252，図版75—5）

平面形　楕円形　　**規模**　0.96×0.60／0.82×0.51／0.08m　　**重複**　FP—134より新しい。

特徴　壙底は凹凸がみられるが比較的平坦で，壁面の傾斜は緩やかである。

遺物　土器1点（IIB），石皿・台石1点，コア1点，フレイク22点，礫△1点，礫10点が覆土中から散発的に出土した。

FP—134（図III—253・283，図版75—5）

平面形　楕円形　　**規模**　1.37×0.97／1.15×0.95／0.15m　　**重複**　FP—133より古い。

特徴　北西側の一部はFP—133に，南東側は撹乱によって壊されている。断面は皿状で，北側の壁面の傾斜は緩やかであるが，他の残存している壁面の角度は急である。

遺物　土器21点（IB2・3，IIB2b・11，IIB・7），たたき石1点，フレイク28点，Uフレイク1点，礫△4点，礫17点が出土。391はII群B類土器，斜行縄文が施された体部破片である。392は長軸の両端が使用されているたたき石である。

FP—135（図III—253・284，図版76—1）

平面形　楕円形　　**規模**　0.64×0.63／0.51×0.40／0.15m　　**重複**　FP—131より古い。

特徴　FP—131に南東側が壊されている。壙底は凹凸があるが比較的平坦で，壁面の傾斜は北西側は緩やか，他は急傾斜である。

遺物　土器4点(IIB)，コア1点，フレイク5点，礫9点が全域から散発的に出土。393はII群B類土器，丸味をもつ口唇部で，無節の斜行縄文が施されている。

FP—136（図III—254・284，図版76—2）

平面形　楕円形　　**規模**　0.72×0.68／0.63×0.50／0.32m　　**重複**　なし

特徴　壙底は平坦で，壁面は急角度で立ち上がる。

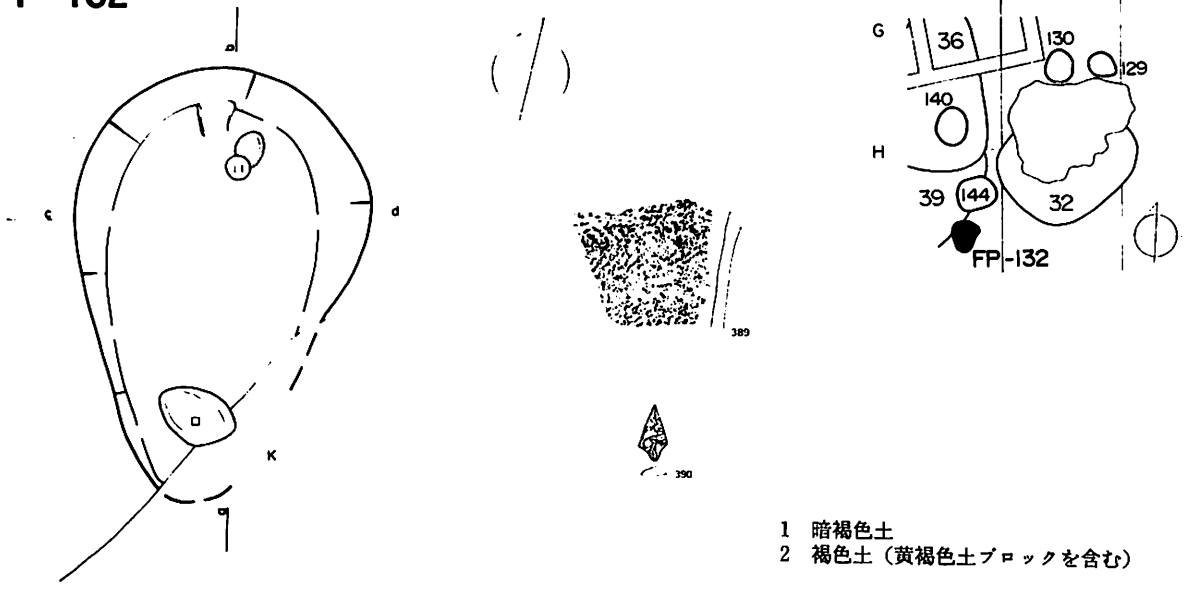
遺物　土器4点（IB2・3，IIB・1），フレイク27点，礫△1点，焼礫1点，礫17点が覆土中から出土。394はII群B類の体部破片で，斜行縄文が施されている。

FP—137（図III－254，図版76—3）

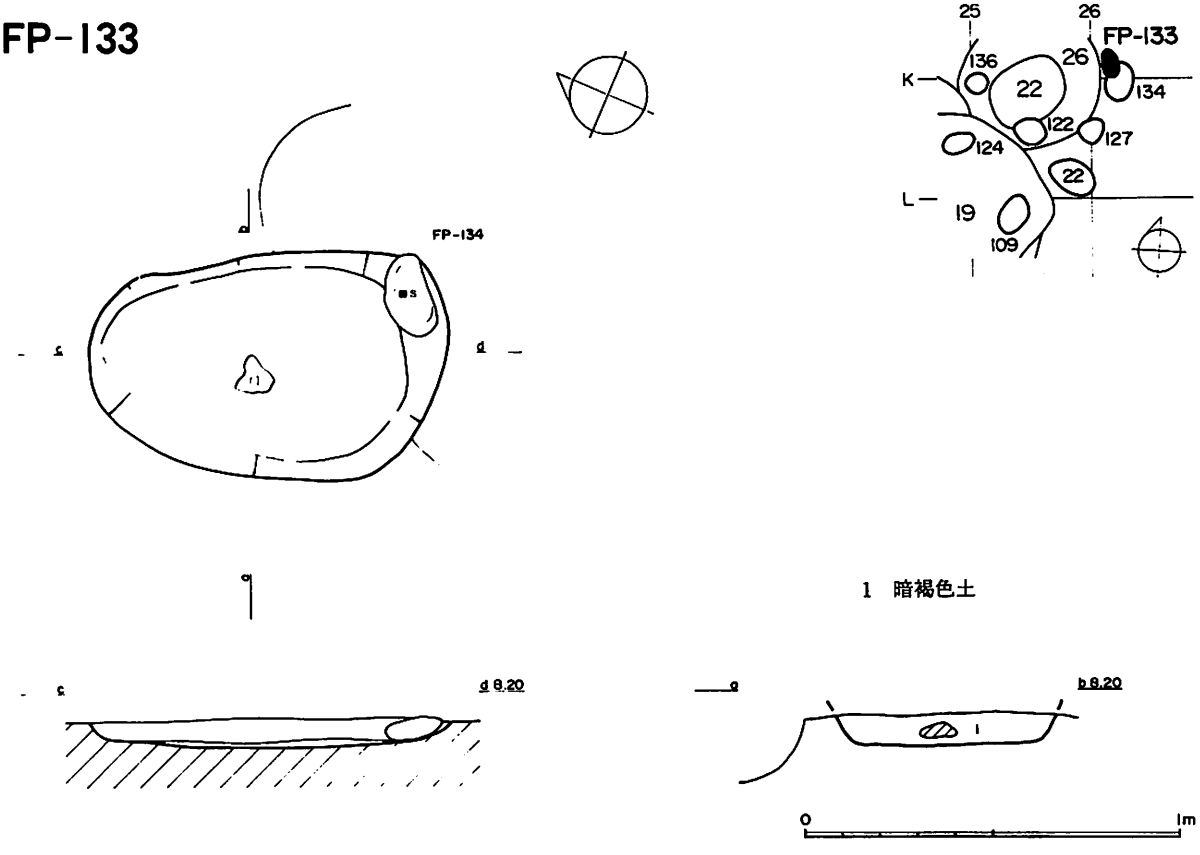
平面形　—　　**規模**　1.07×0.59／0.70×0.40／0.15m　　**重複**　FH—35より新しい。

特徴　住宅の基礎で大部分が壊され，全体の状況が明らかでない。残存している部分の断面は皿状で，壁面との境は明瞭でない。

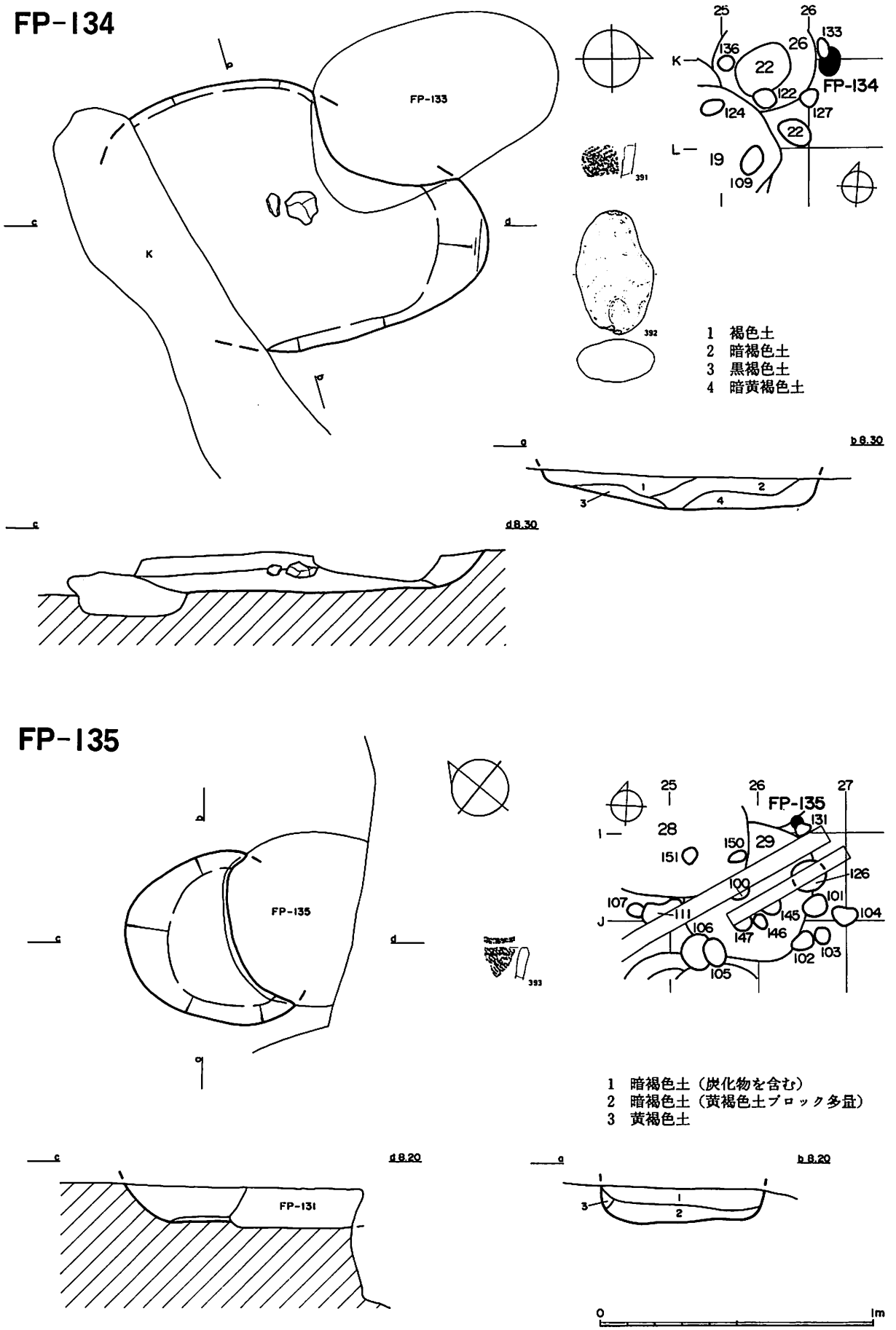
FP-132



FP-133

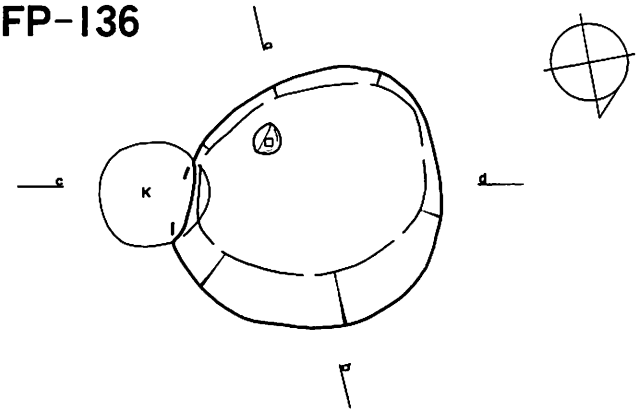


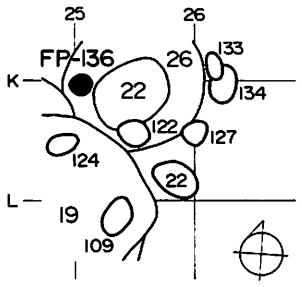
図Ⅲ—252　FP—132・133



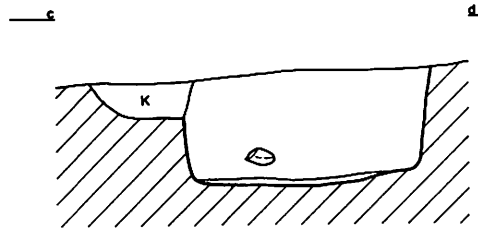
図Ⅲ—253　FP—134・135

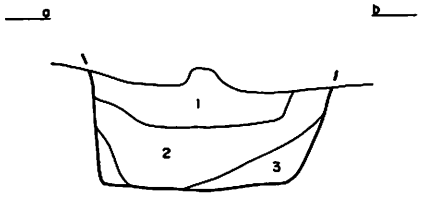
FP-136



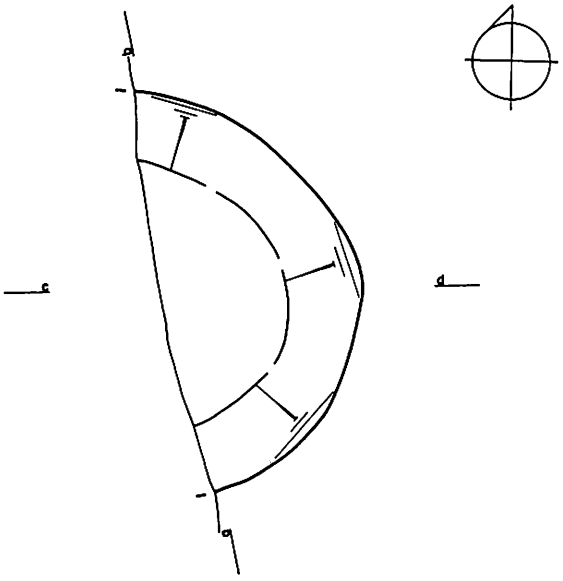


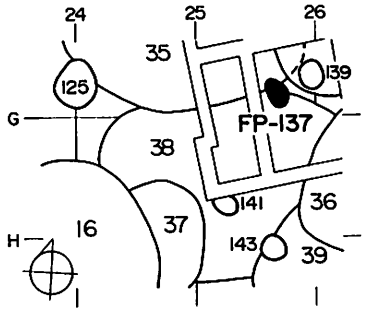
1 灰褐色土（炭化物を含む）
2 暗黄褐色土（炭化物若干）
3 暗黄褐色土（粘質）



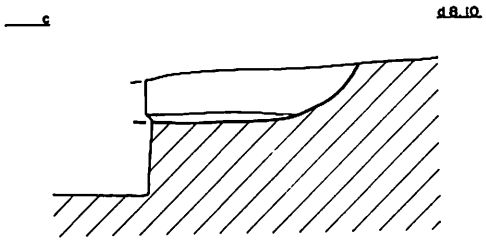


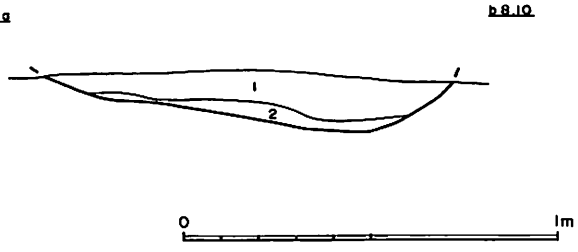
FP-137



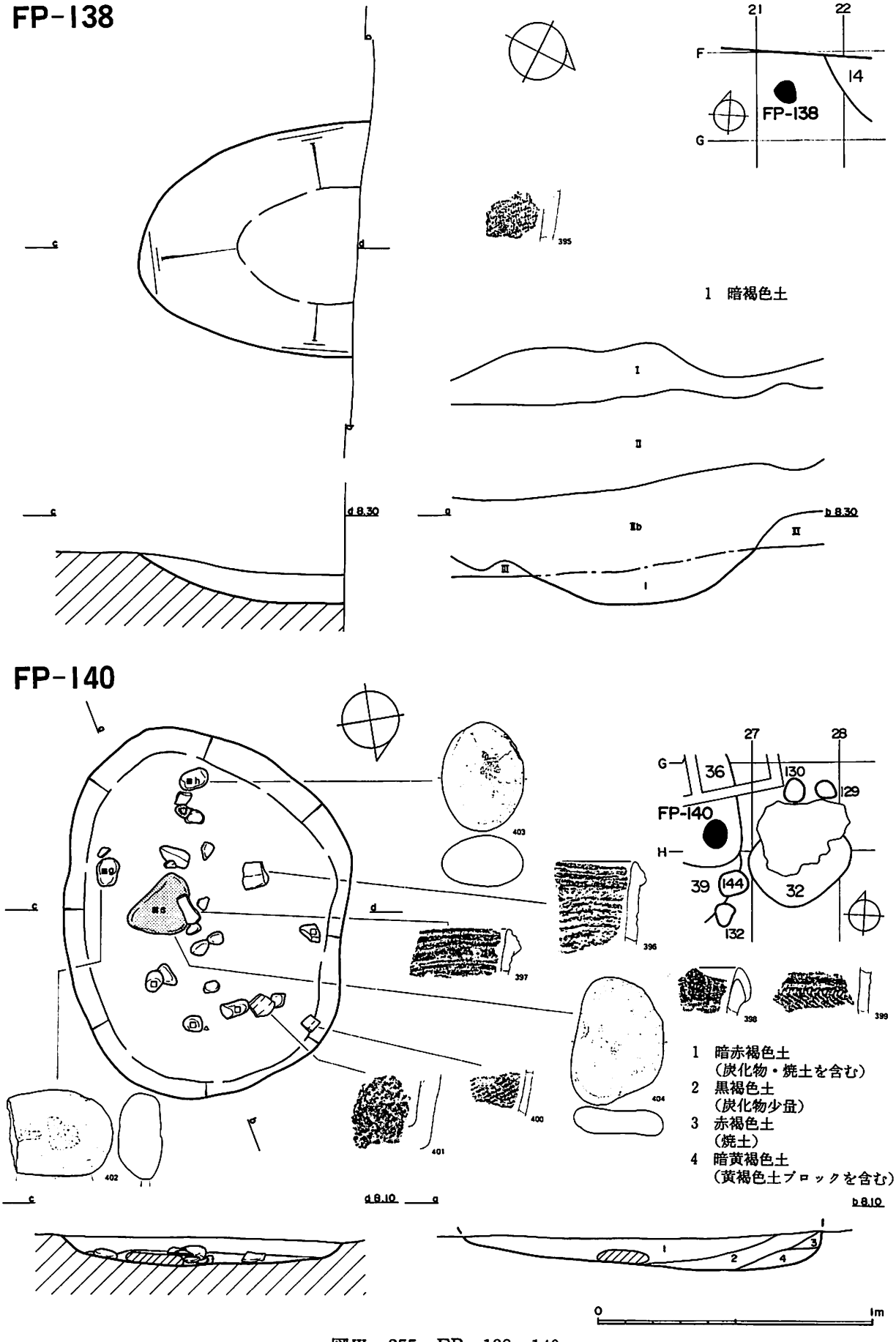


1 暗褐色土
2 褐色土



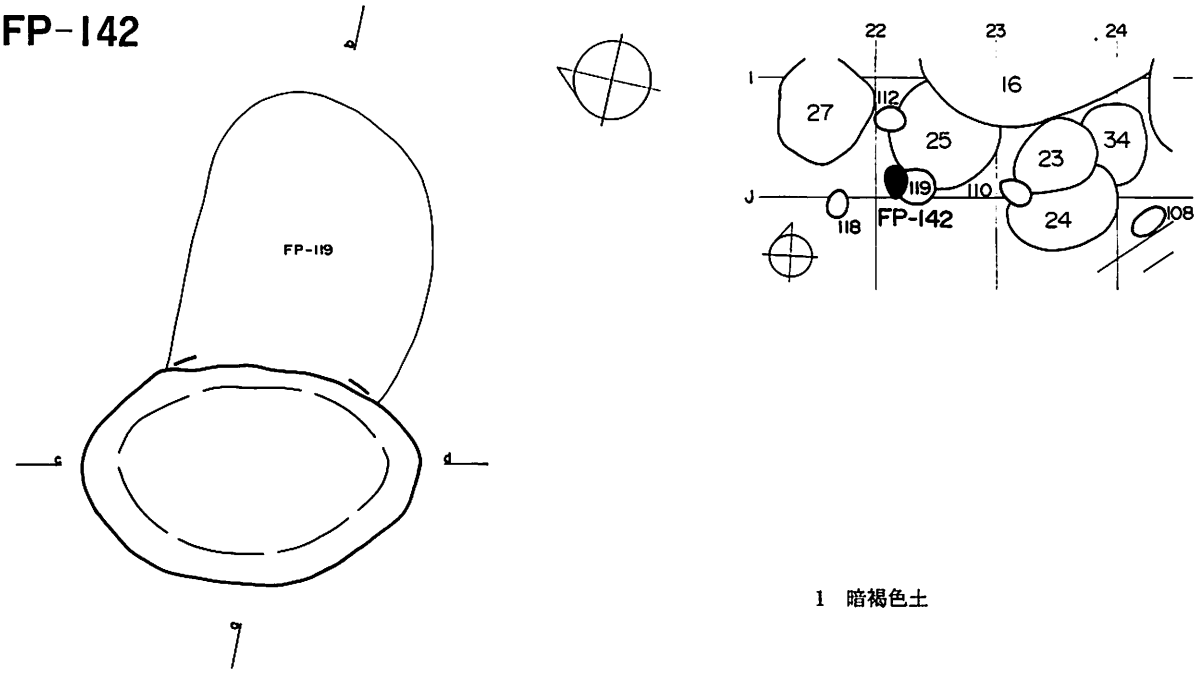


図III—254 FP—136・137

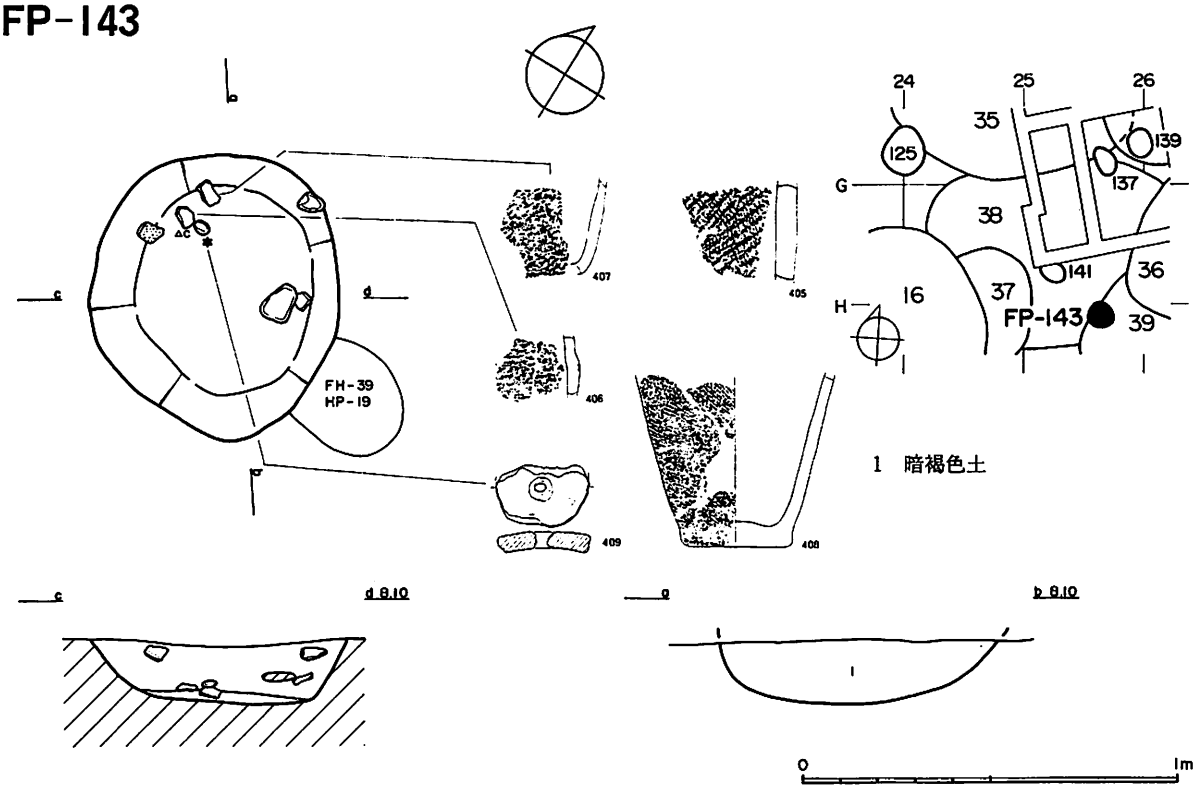


図Ⅲ—255　FP—138・140

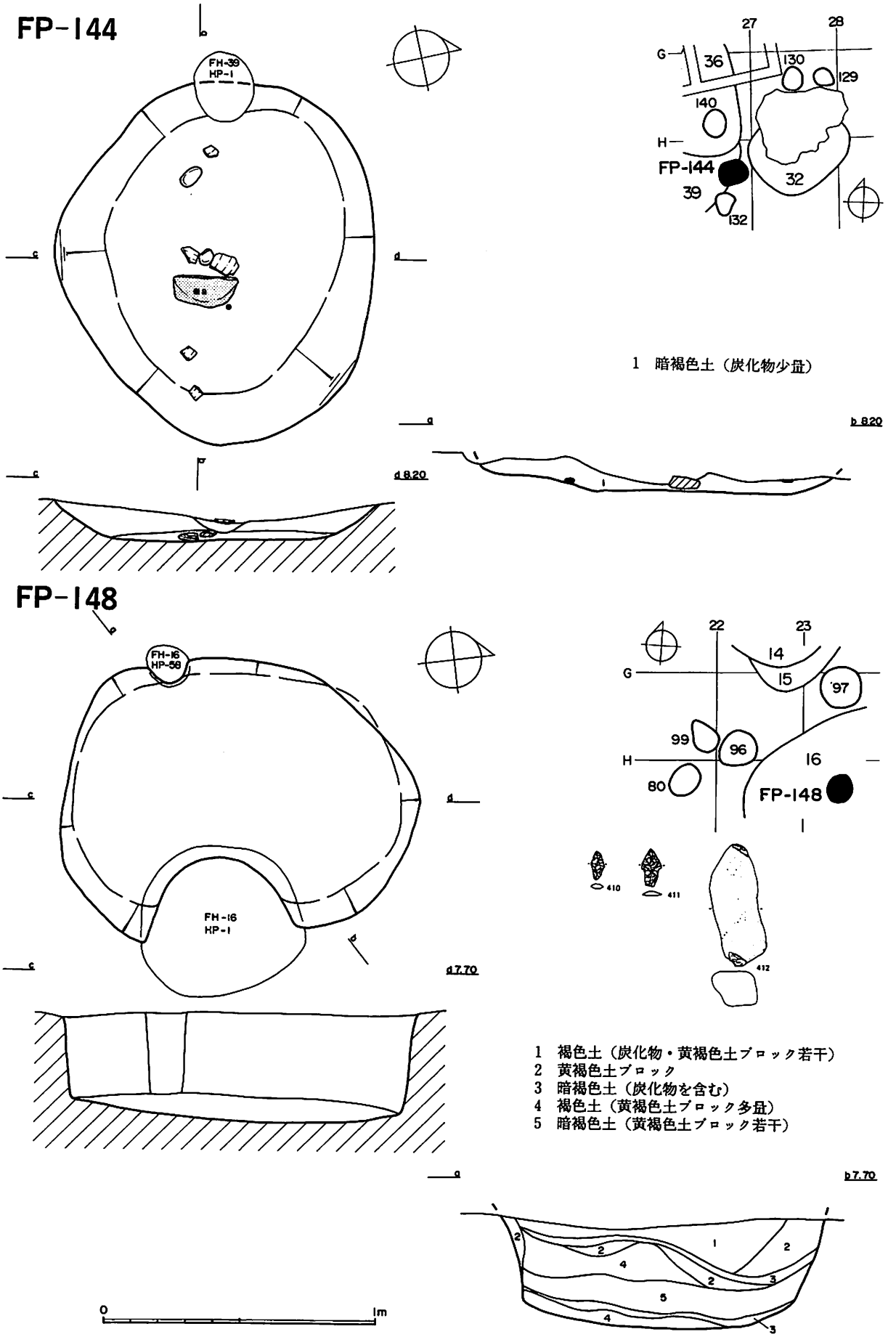
FP-142



FP-143

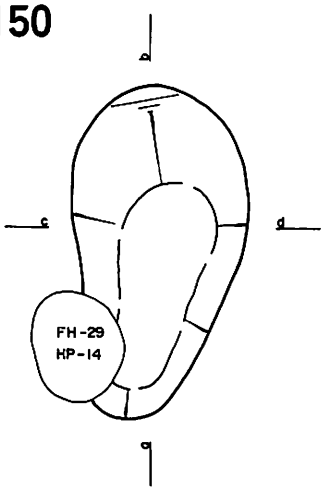


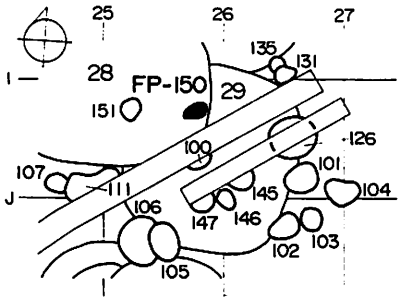
図Ⅲ—256 FP—142・143



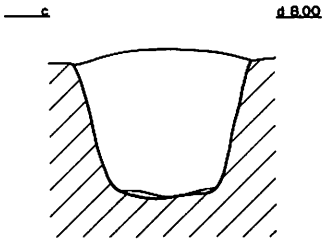
図Ⅲ—257　FP—144・148

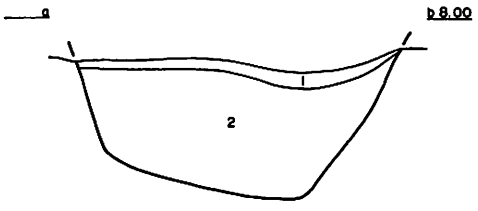
FP-150



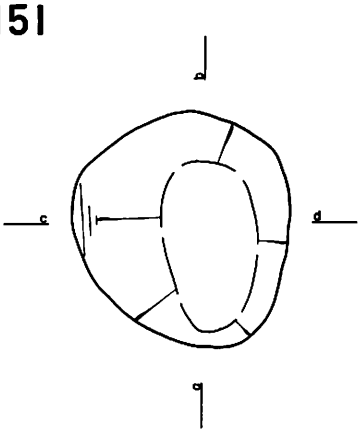


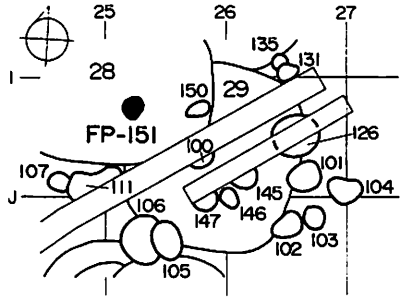
1 黒褐色土
2 暗褐色土



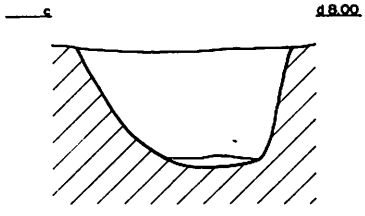


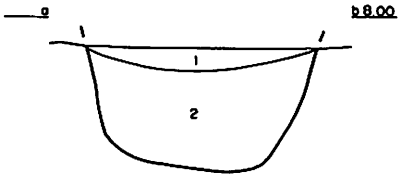
FP-151





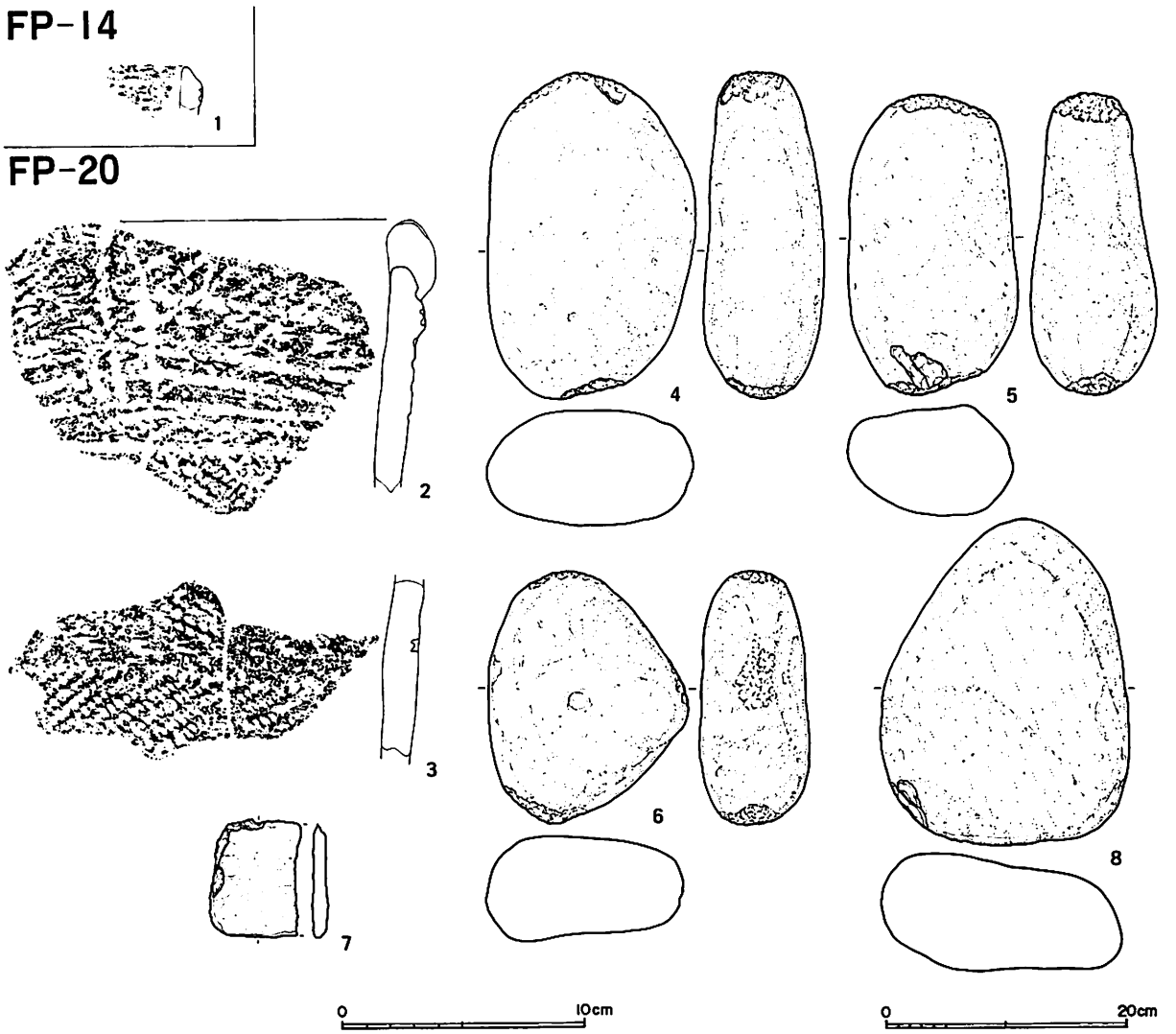
1 黒褐色土
2 暗褐色土

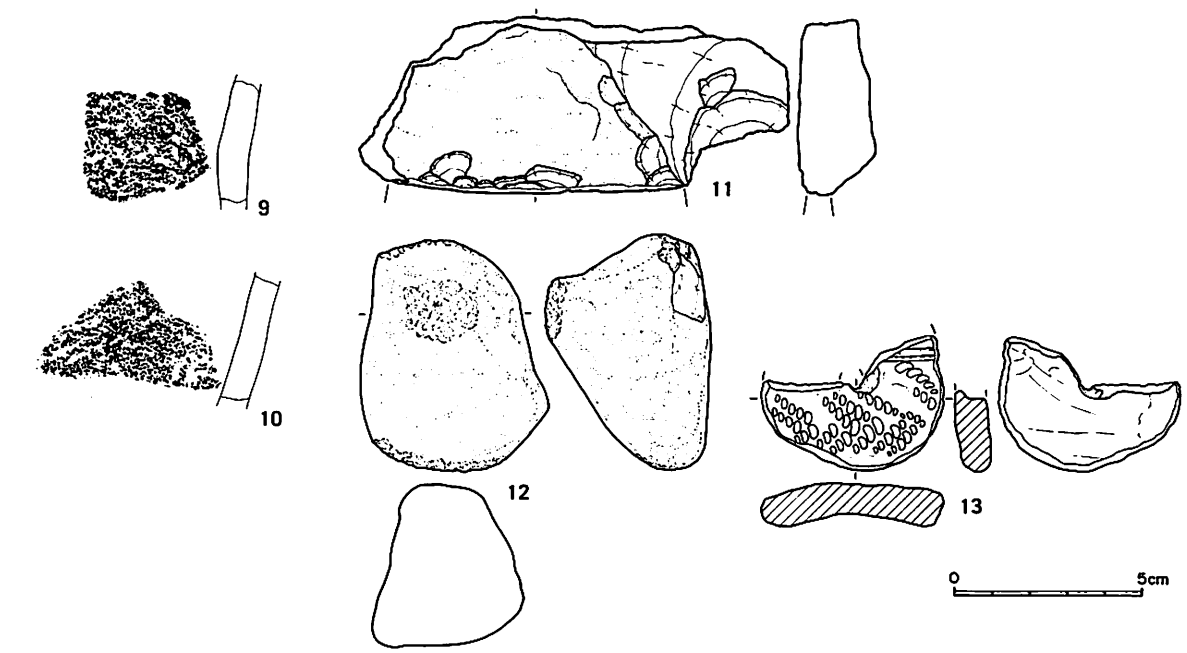




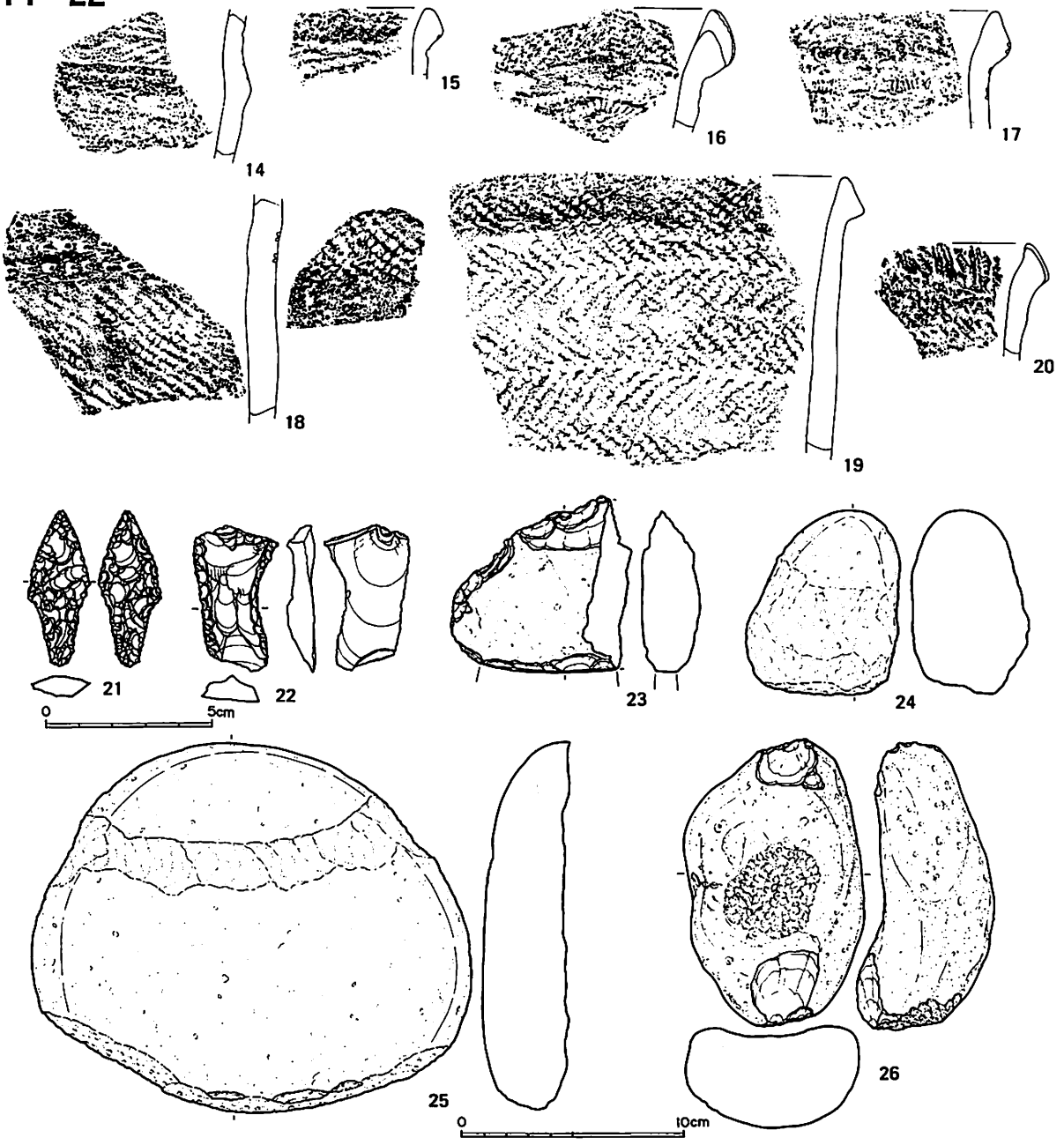


図Ⅲ—258 FP—150・151





図Ⅲ—259　FP—14・20・21 遺物



図Ⅲ—260　FP—22 遺物

遺物　土器11点（IB2・1，IIB2・10），フレイク29点，Rフレイク２点，礫14点が覆土中から出土。

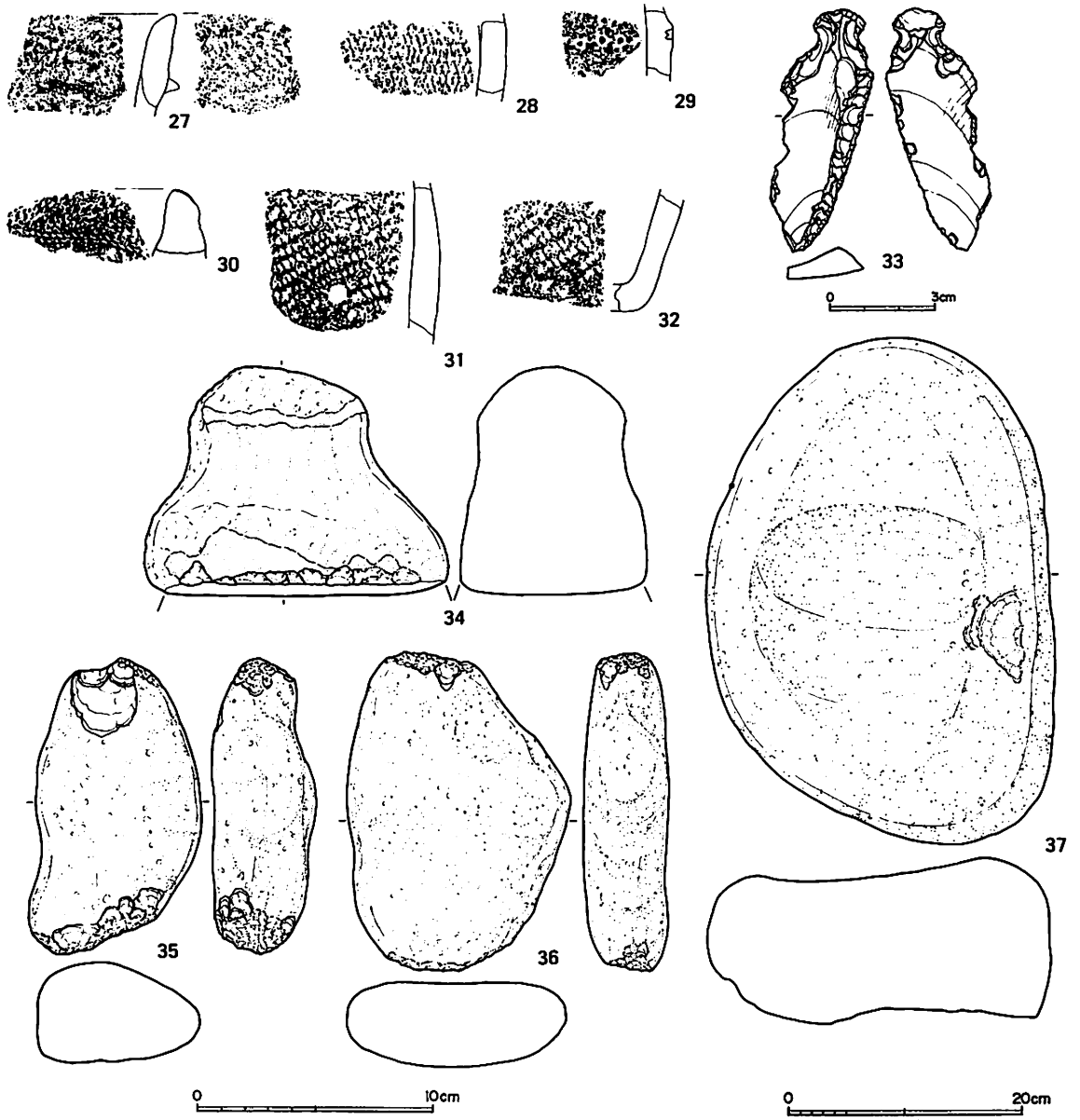
FP—138（図Ⅲ—255・284，図版76—4）

平面形　楕円形　　**規模**　0.85×0.84／0.46×0.42／0.20m　　**重複**　なし

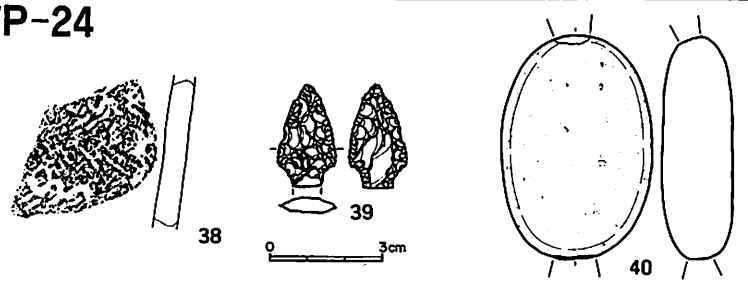
特徴　図面上は調査区域内であるが，盛土の法面の関係で南側しか調査できなかった。断面皿状で，壙底と壁面の境は不明瞭である。

遺物　土器３点(IIB)，フレイク２点，礫２点が覆土中から散発的に出土。395はII群B類土器の体部破片，厚手で斜行縄文が施され，胎土には繊維が含まれている。

FP-23



FP-24



図Ⅲ—261　FP—23・24 遺物

FP—140（図Ⅲ—255・284，図版76—5）

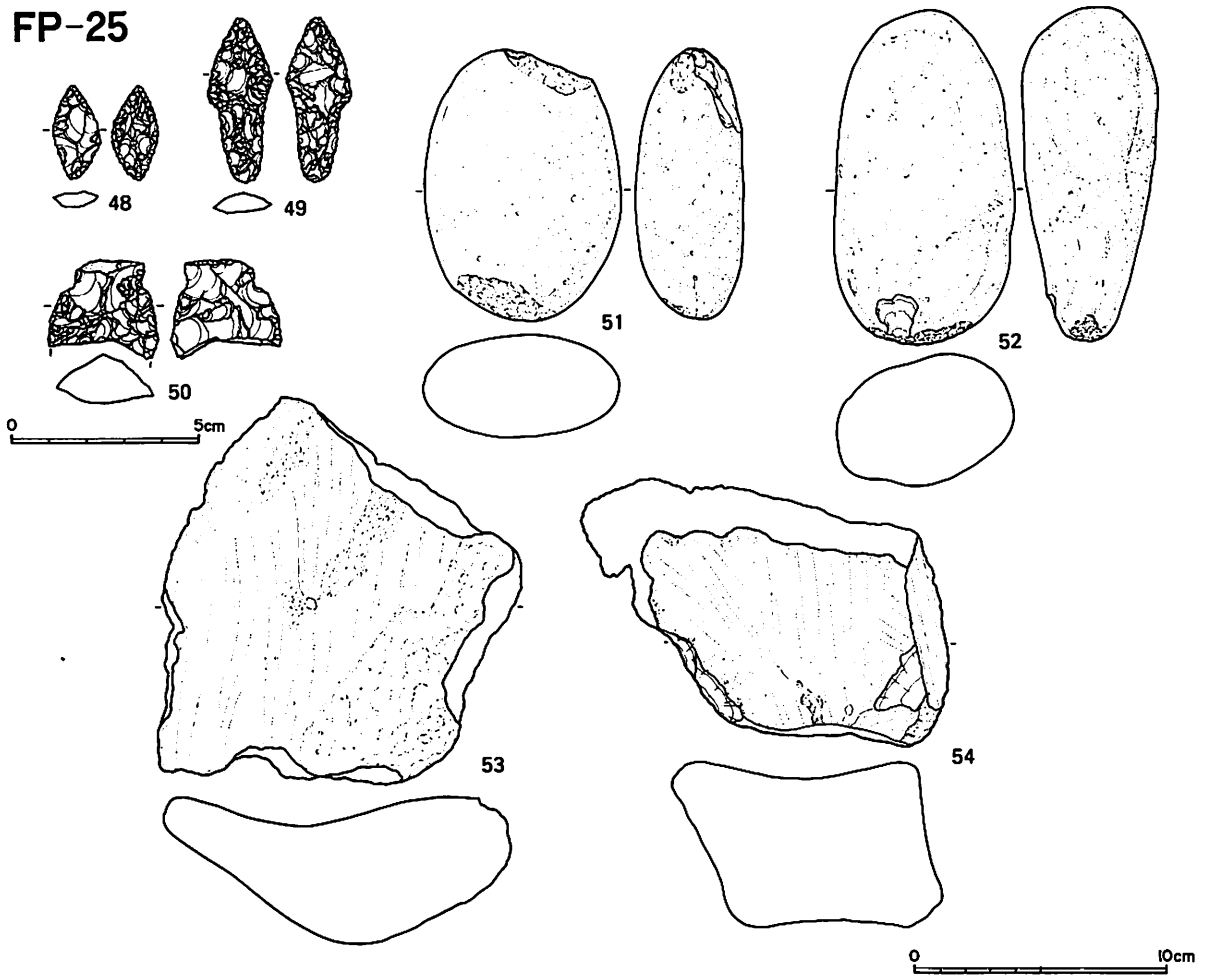
平面形　楕円形　　**規模**　1.34×1.05／1.20×0.91／0.15m　　**重複**　FH—36より新しい。

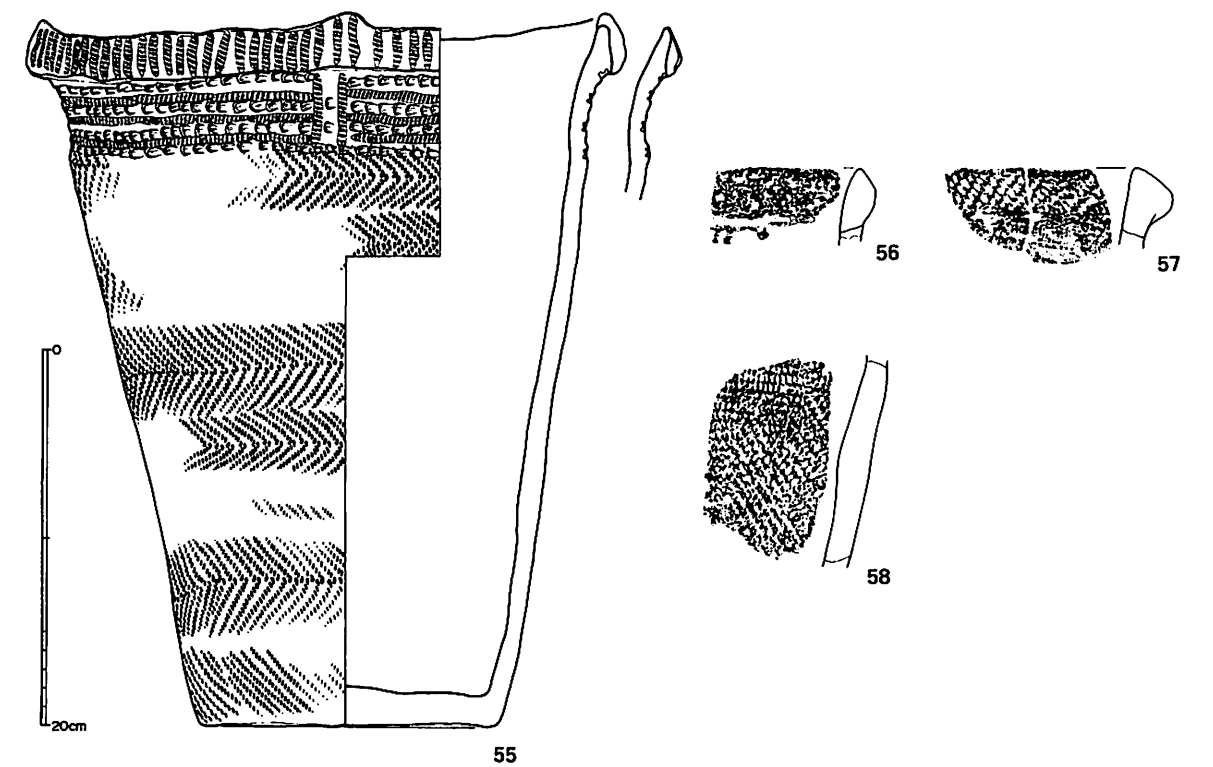
特徴　壙底は比較的平坦で，壁面はわずかしか残存していないが，傾斜は急角度である。

FP-25

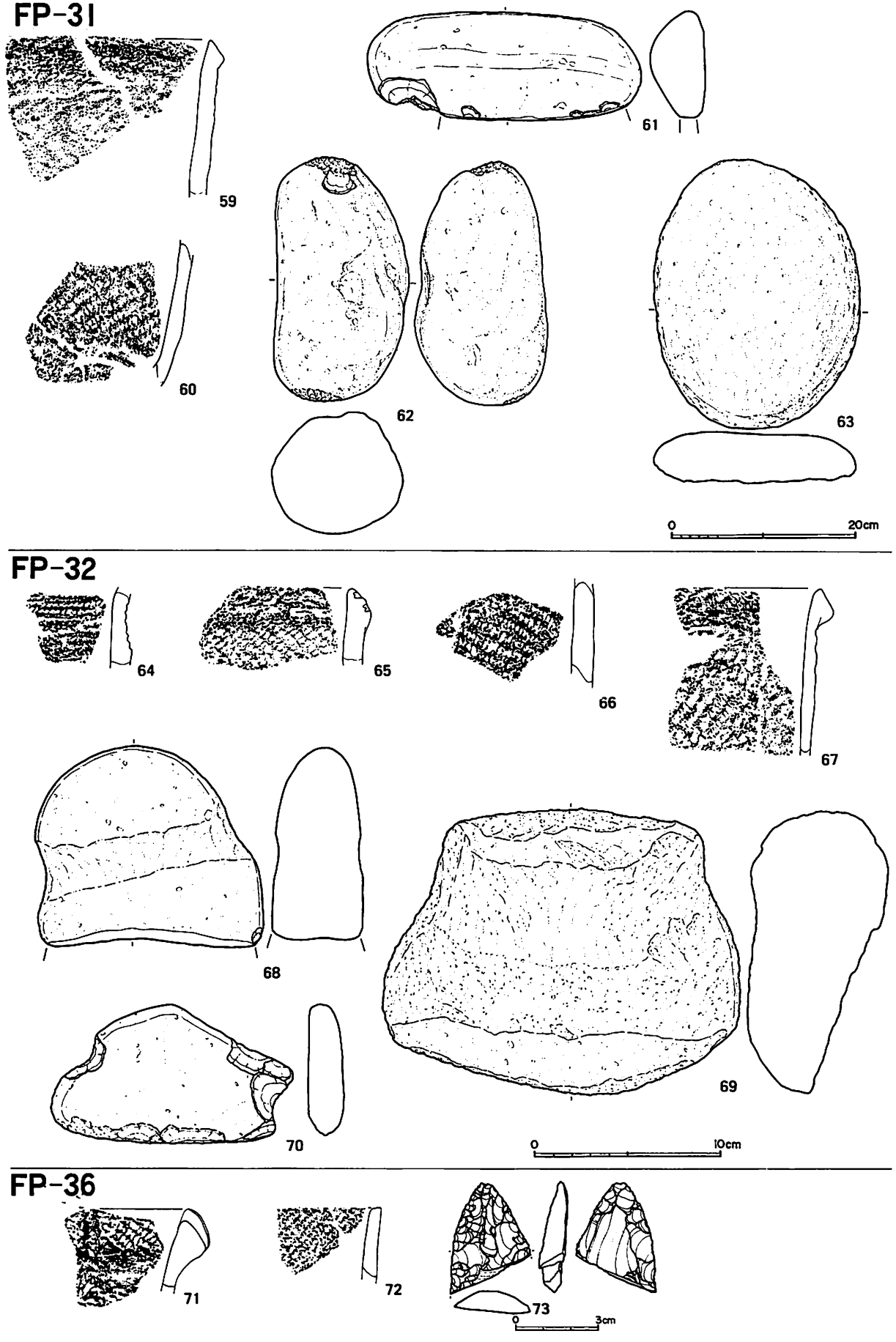


図Ⅲ—262　FP—25遺物(1)

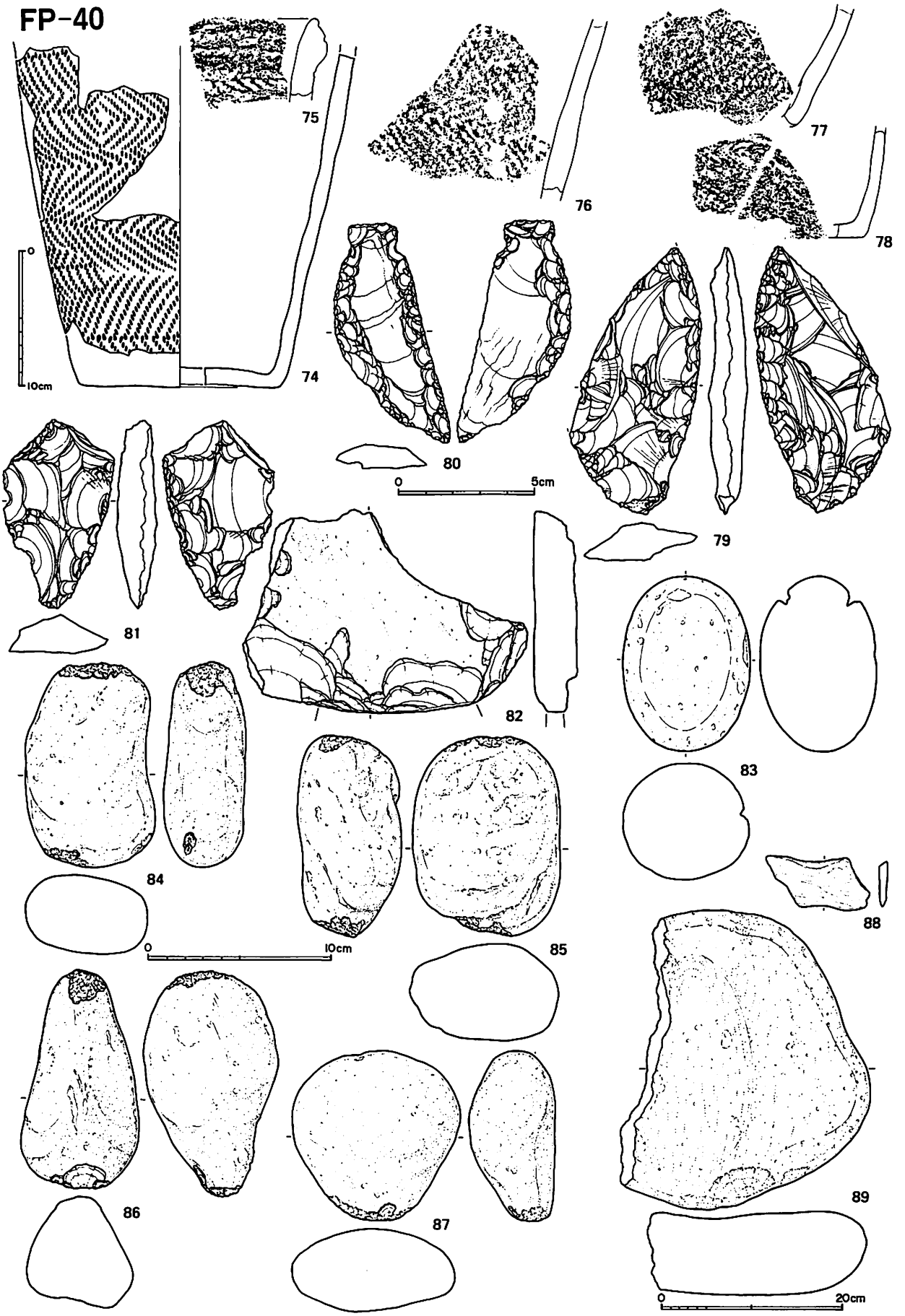




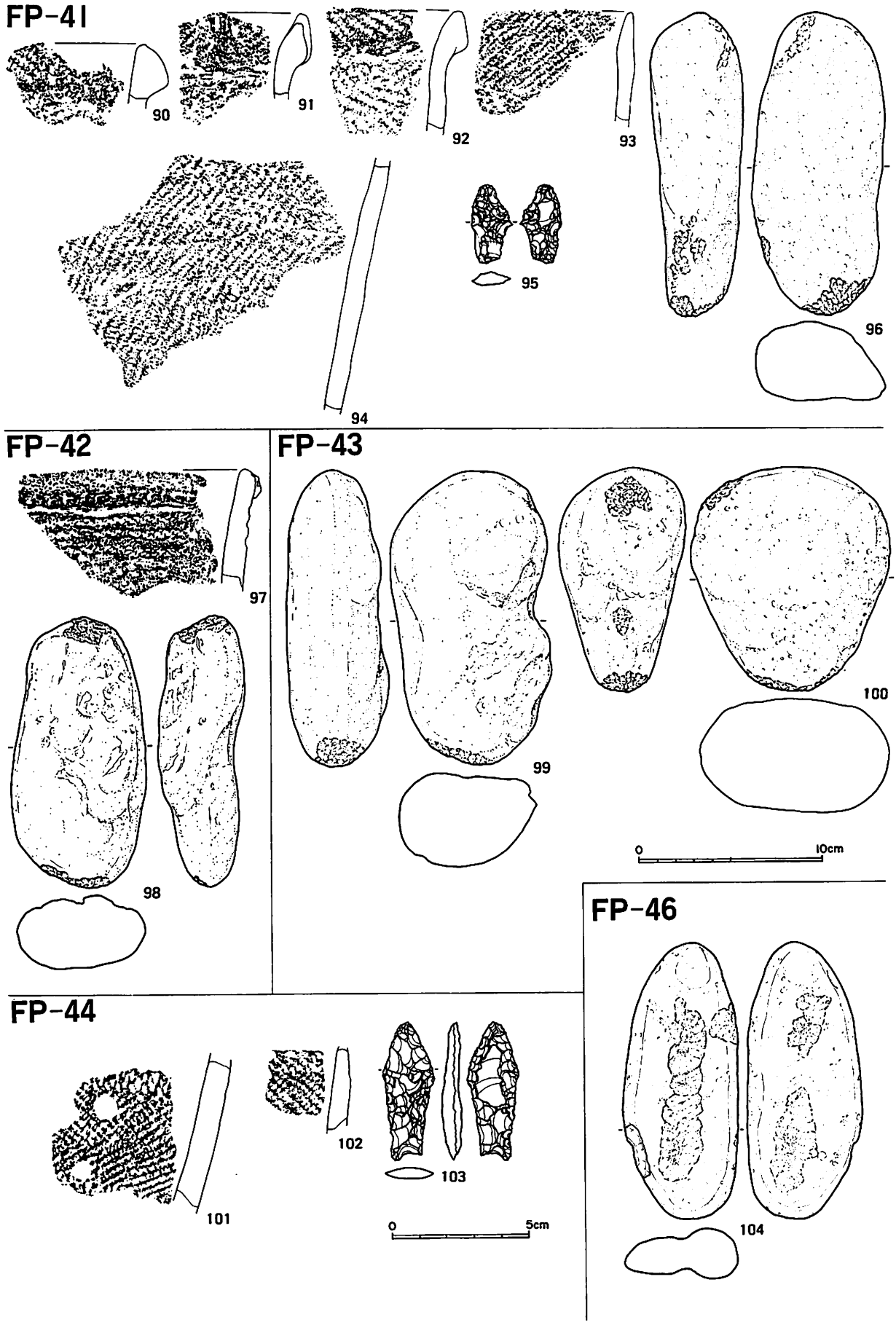
図Ⅲ－263　FP－25遺物(２)・26遺物



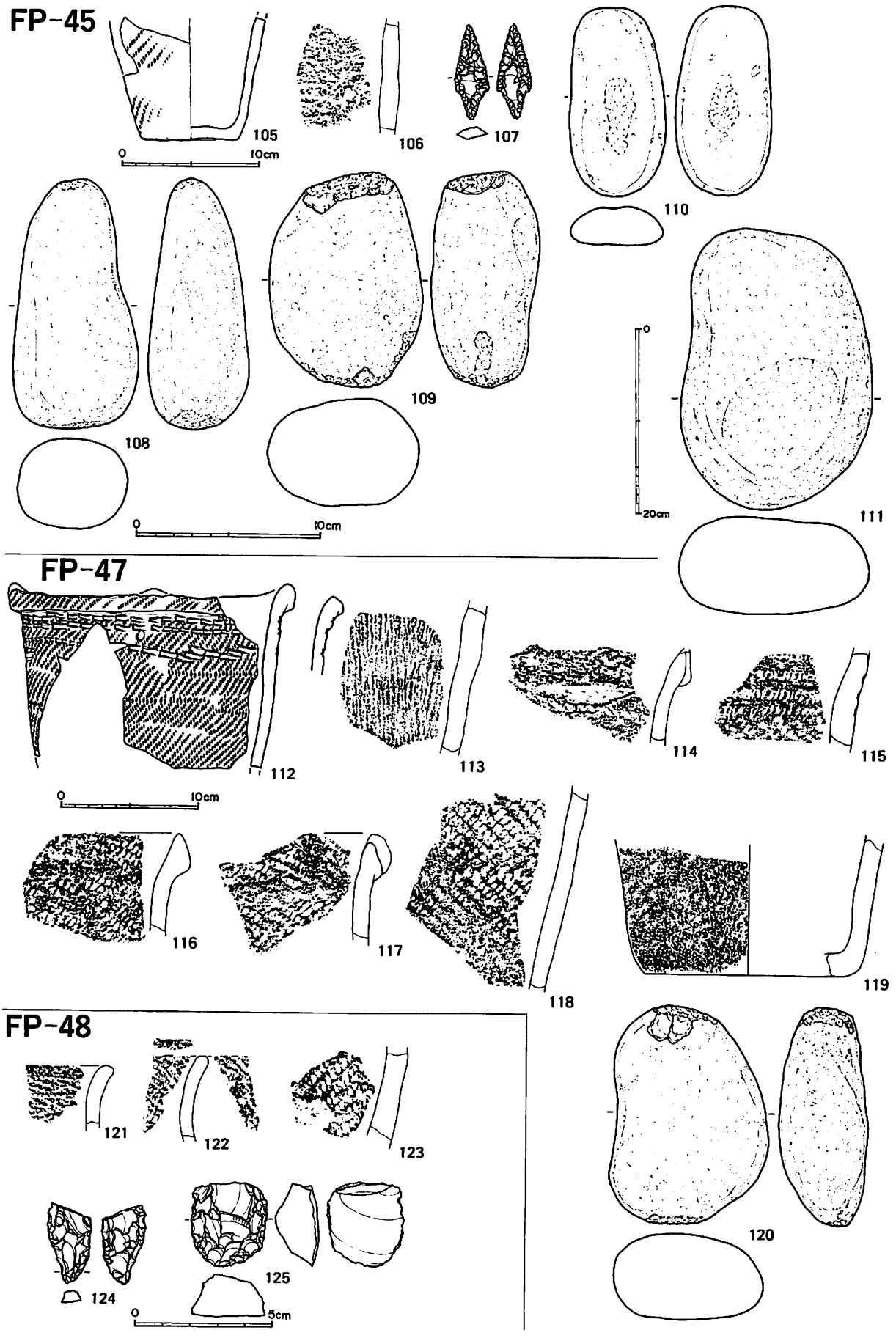
図Ⅲ—264　FP—31・32・36遺物



図III—265 FP—40 遺物

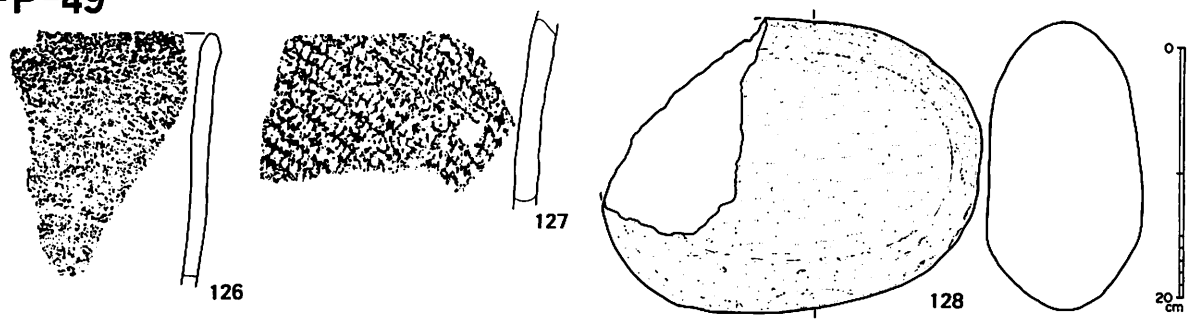


図Ⅲ—266　FP—41～44・46遺物

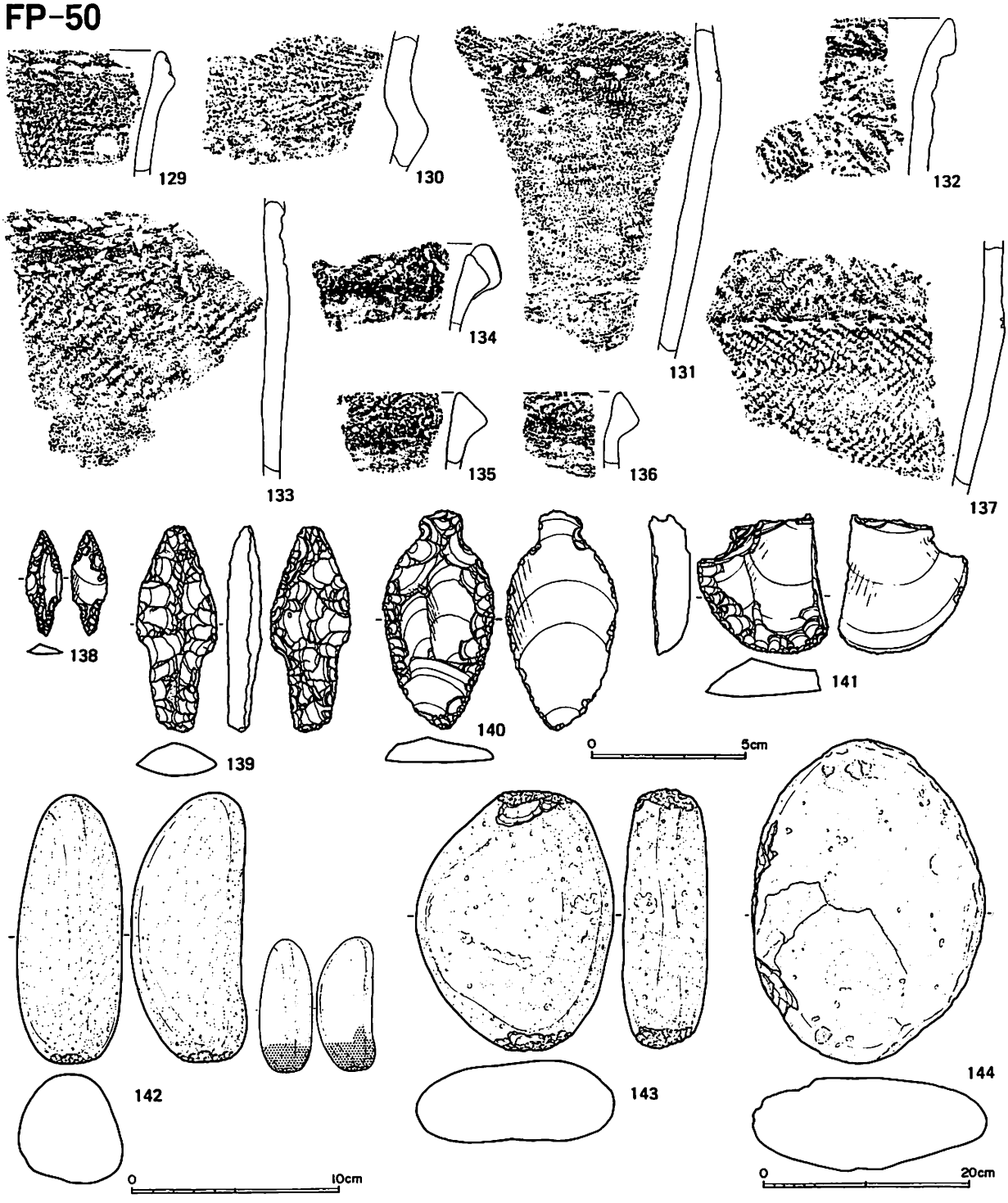


図Ⅲ—267　FP—45・47・48遺物

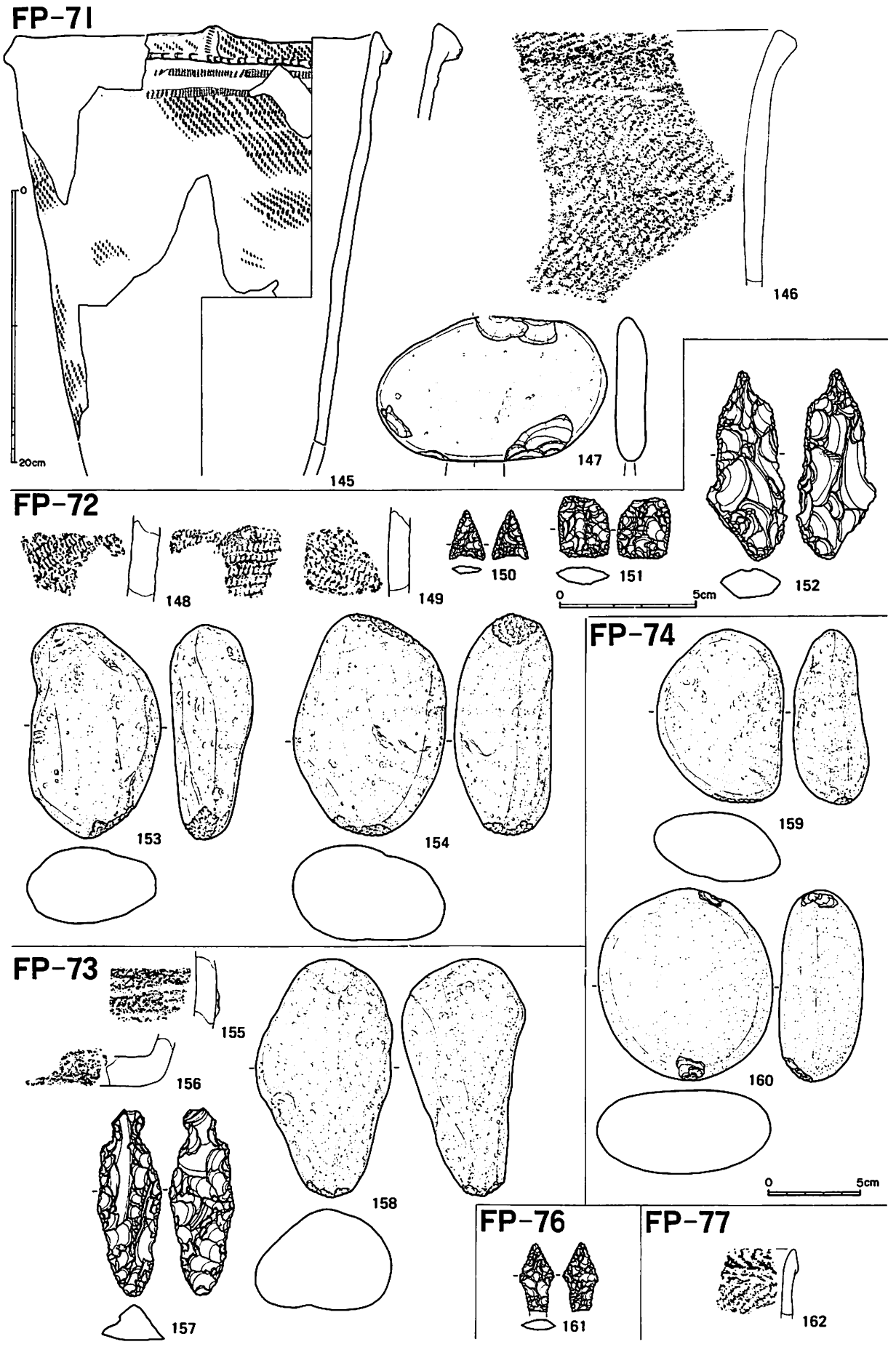
FP-49



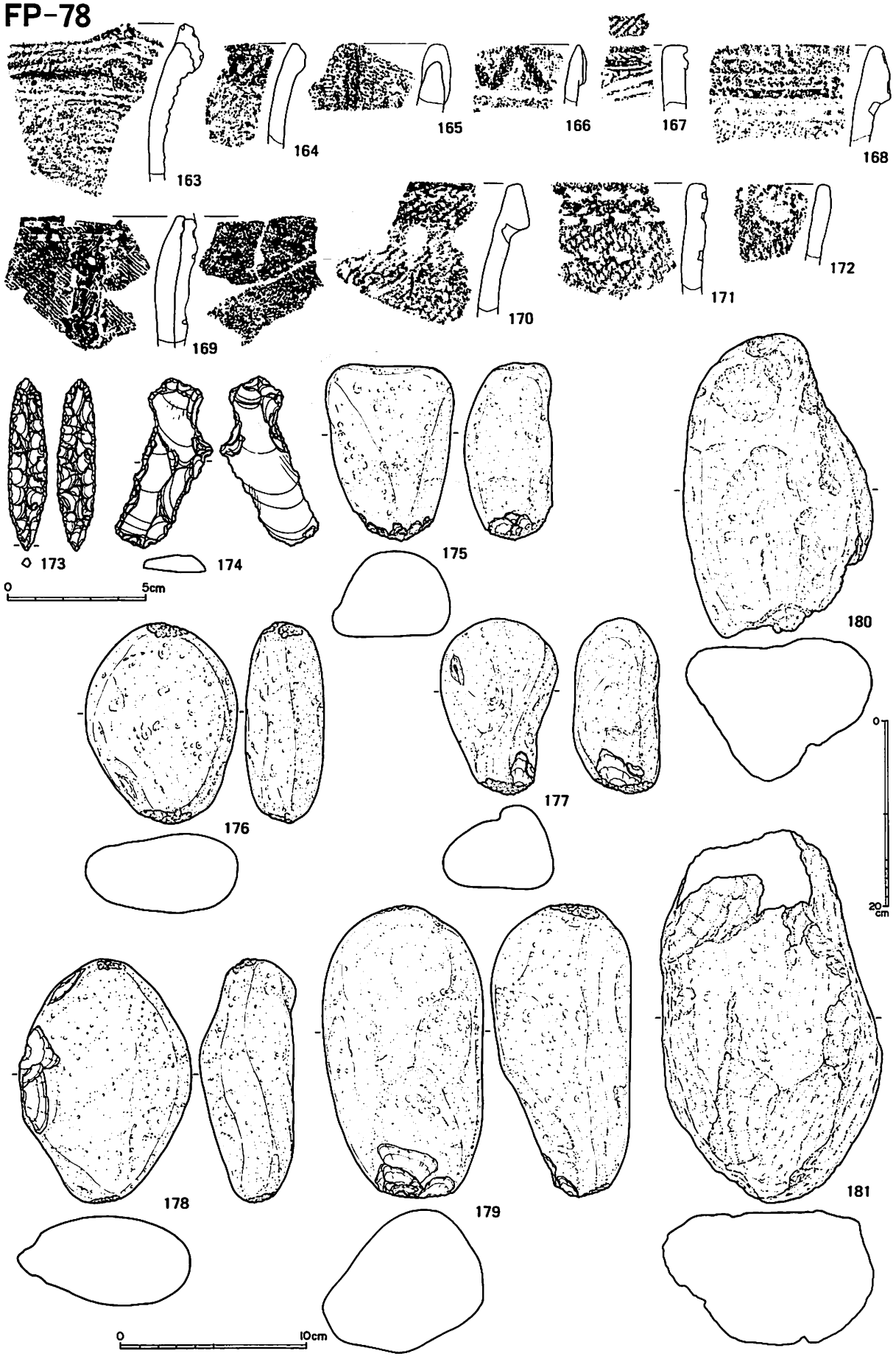
FP-50



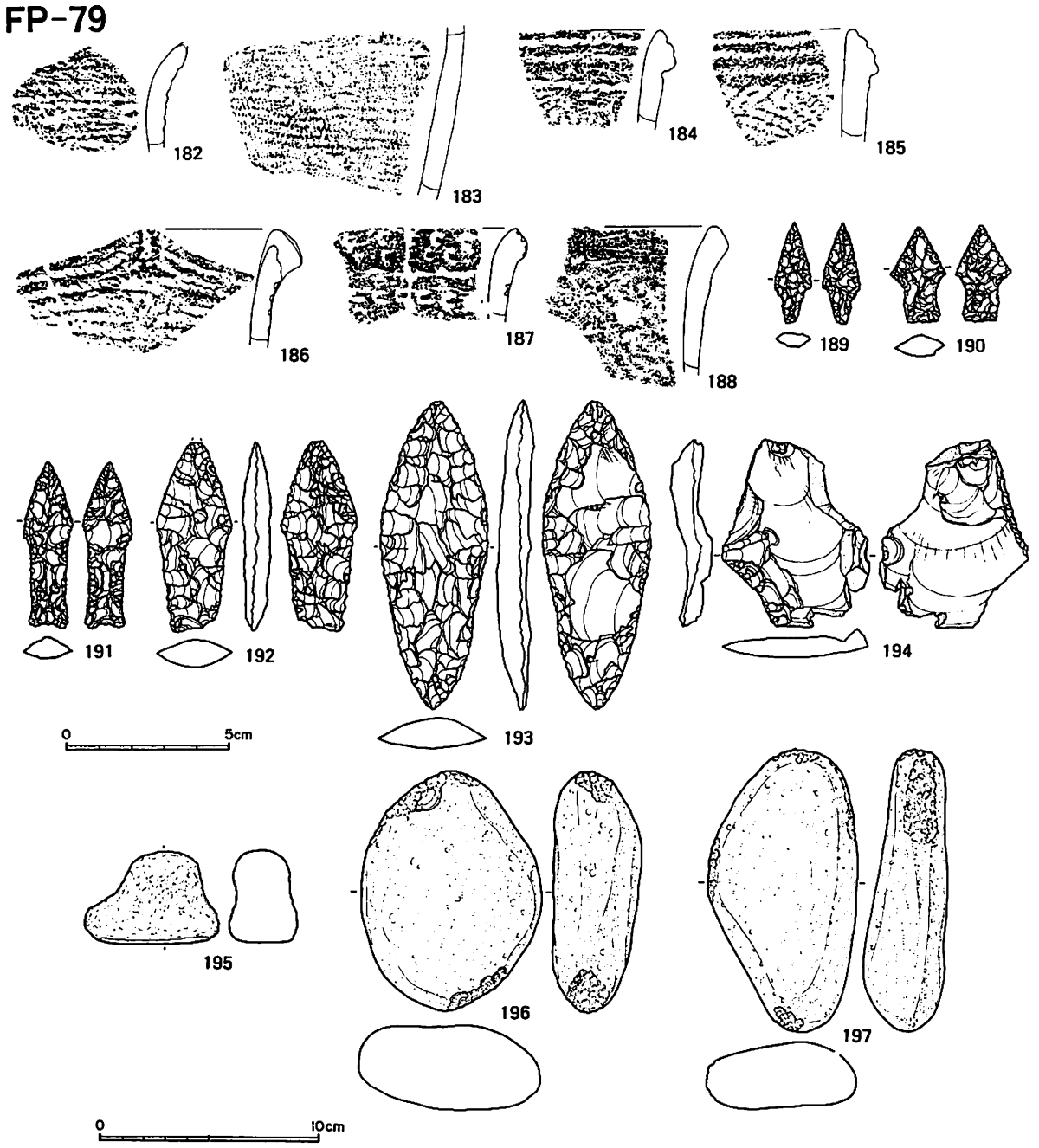
図Ⅲ—268　FP—49・50 遺物



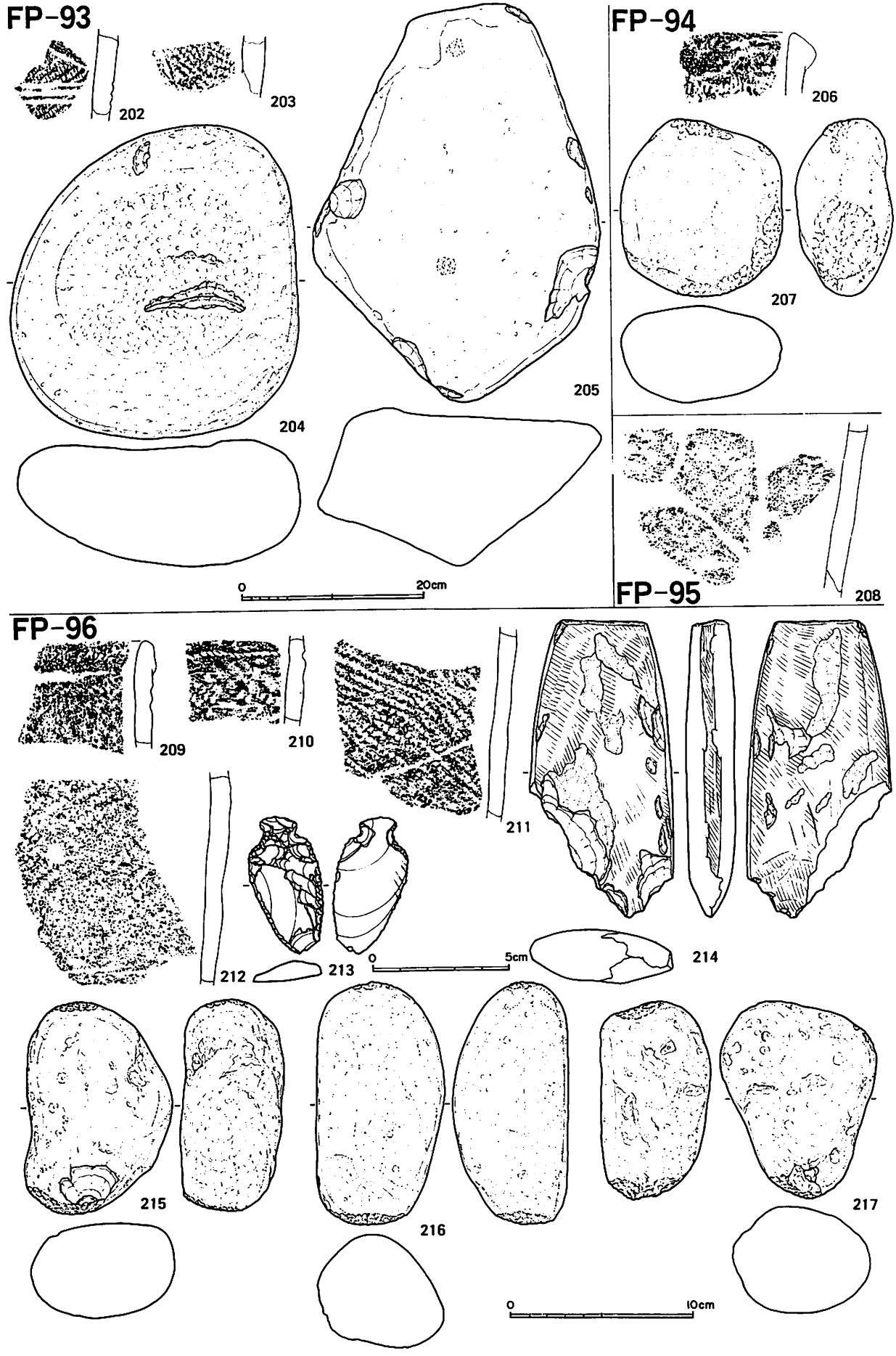
図III—269　FP—71～74・76・77遺物



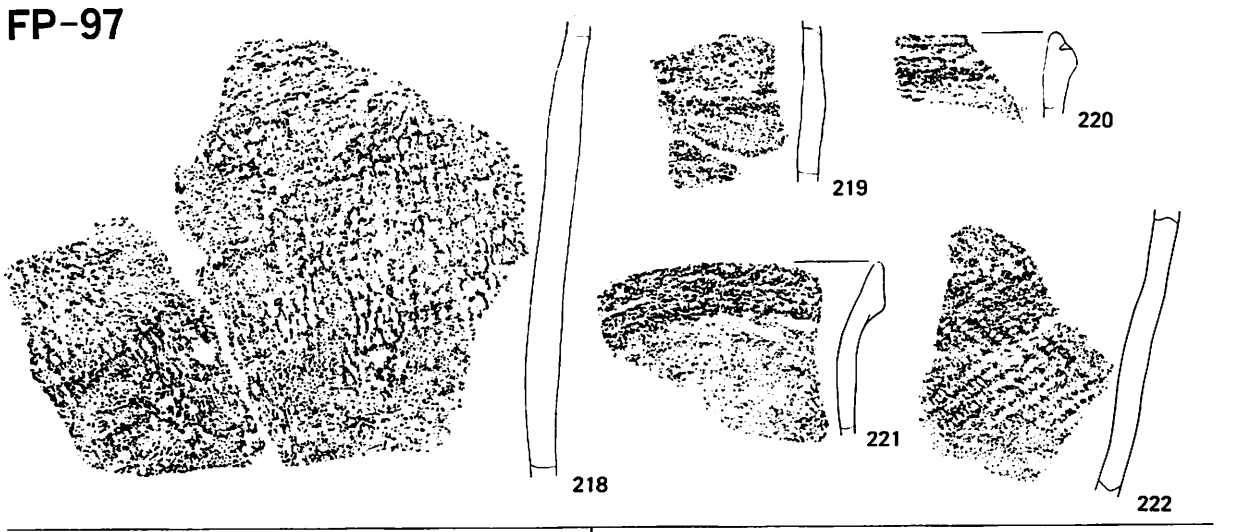
図Ⅲ—270　FP—78 遺物

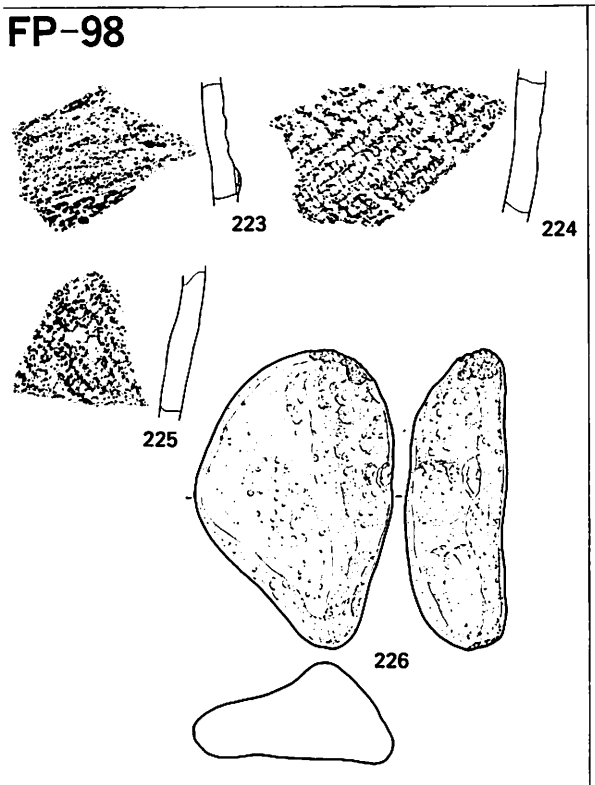


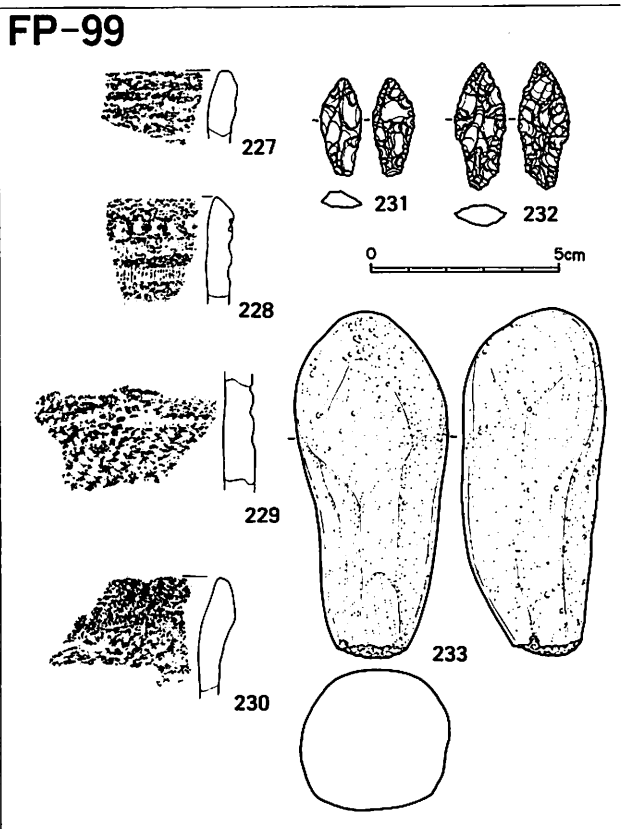
図Ⅲ—271　FP—79・80 遺物

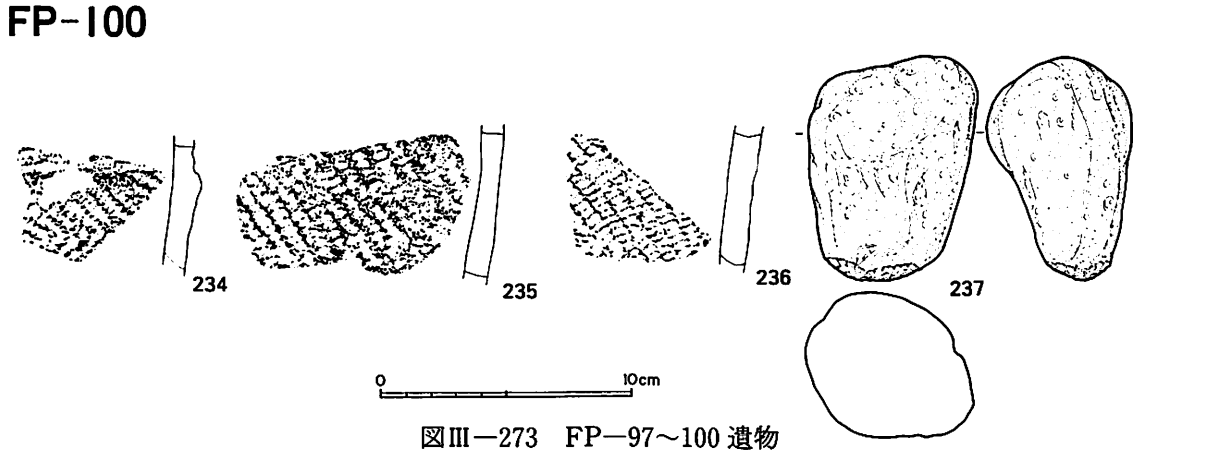


図Ⅲ—272　FP—93～96 遺物

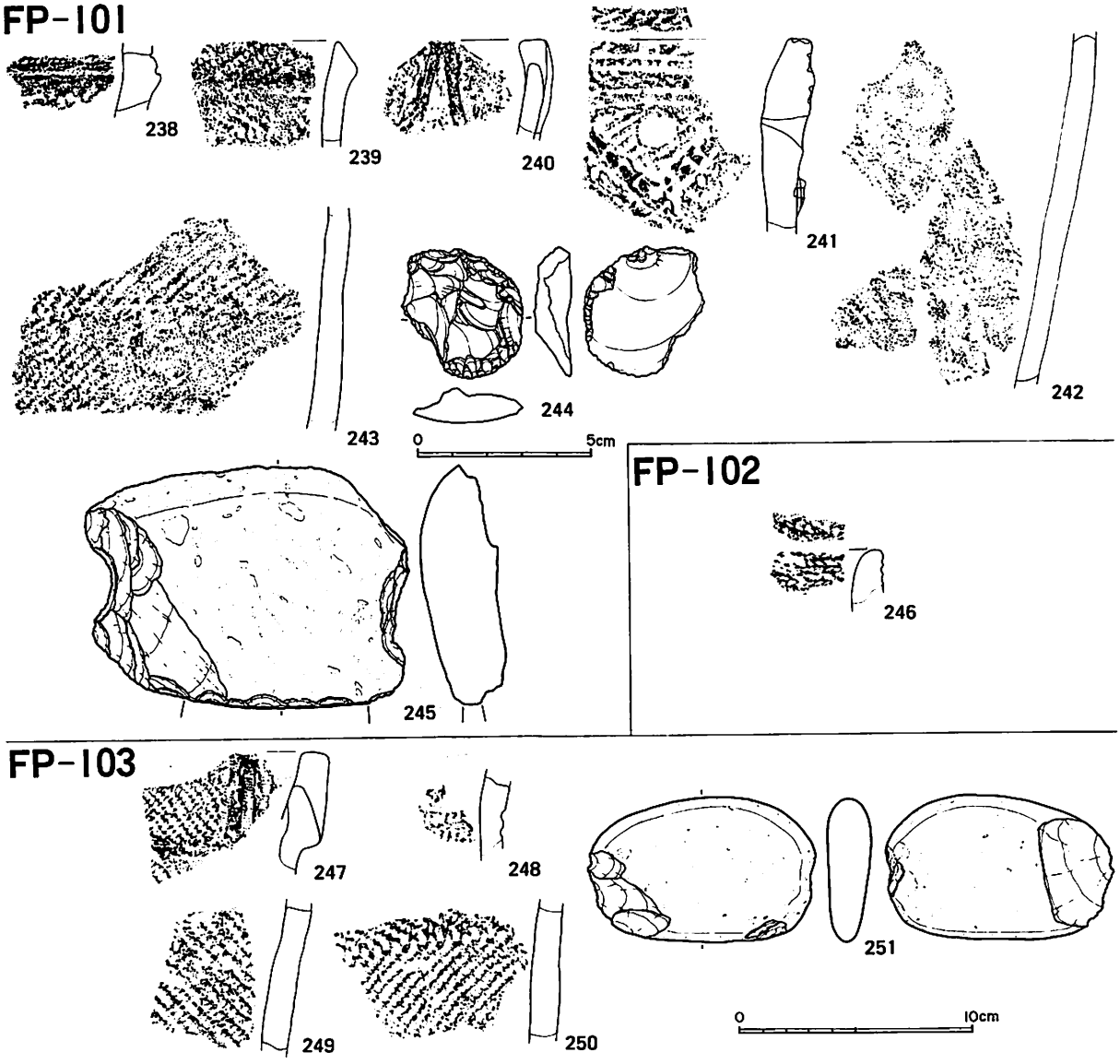






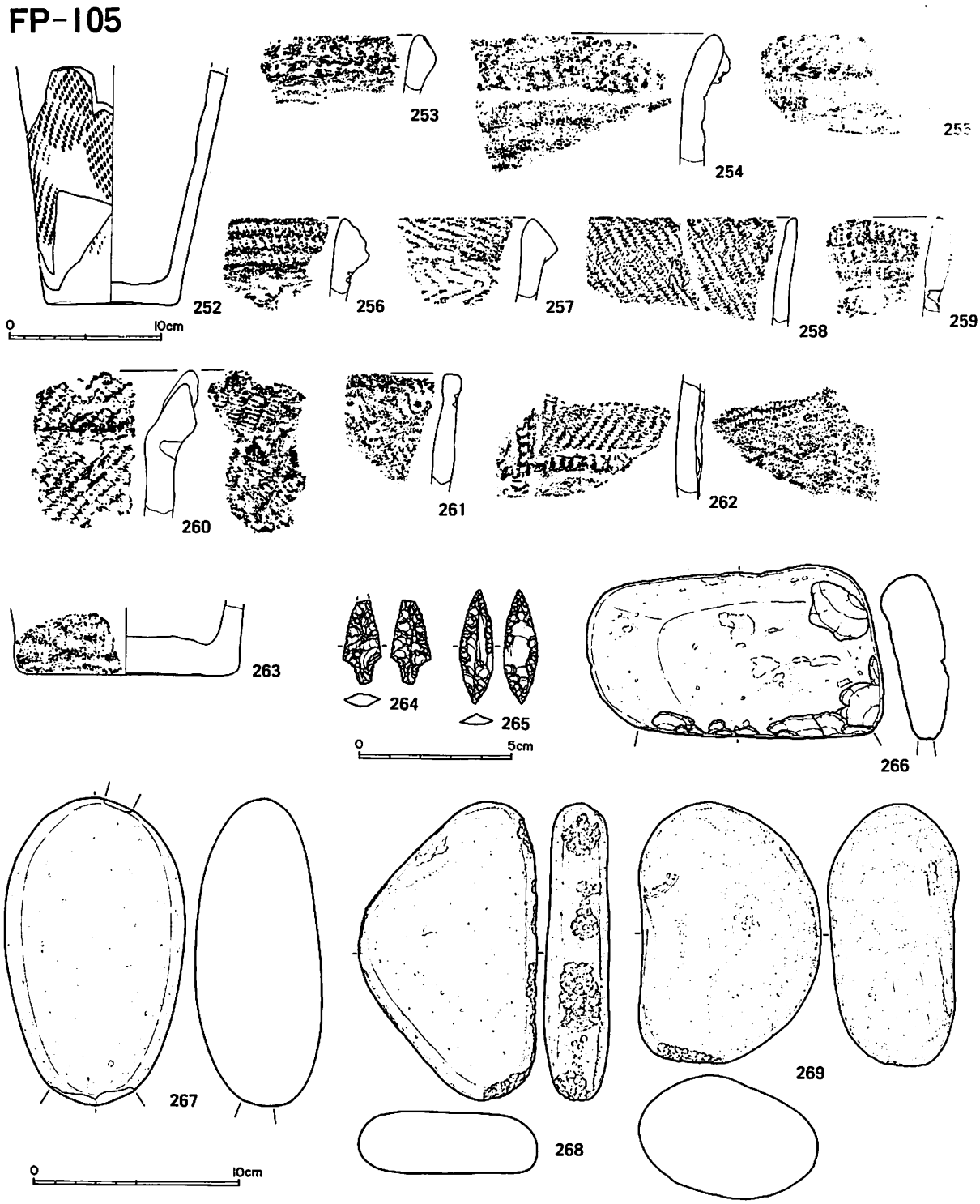


図III—273　FP—97～100 遺物



図Ⅲ—274　FP—101～103 遺物

遺物　土器50点（IIB2b・2，IIB2c・4，IIB・42，IIIB2・2）すり石１点，たたき石１点，砥石１点，石皿・台石１点，コア４点，フレイク71点，Uフレイク１点，礫△10点，焼礫３点，礫72点が出土。遺物は土壙全域から確認されているが，礫石器，礫類は土壙中央の東側の壙底で比較的多くみられた。396はII群 B2b 類，397～399II群 B2c 類，400・401はII群B類土器である。396は無文地の口唇部・頸部に縄線文が施されている。397・398は無文地の口唇部・頸部に絡条体圧痕文が施されているもので，397は横位に，398の口唇部は縦位に，頸部は鋸歯状に施文されている。399は頸部に絡条体圧痕文が施されたもので，体部は結束羽状縄文である。400は斜行縄文が施された体部破片である。401底部破片で，斜行縄文が施されている。402は一側縁を使用したすり石，両面に凹みがありくぼみ石としても使用されている。403は腹面が使用されているたたき石，404は石皿・台石である。



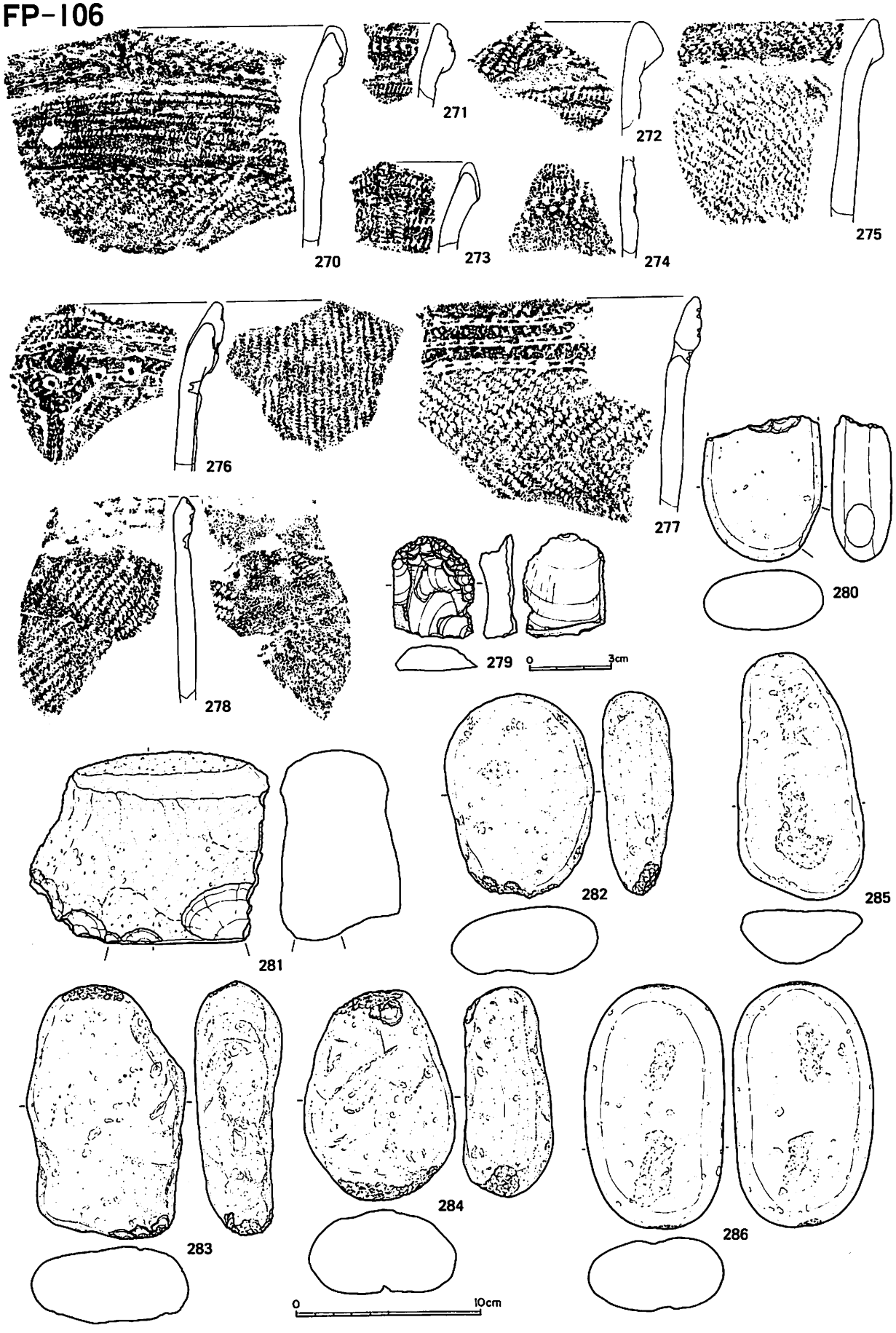
図III—275　FP—105 遺物

FP—142（図III—256，図版77—1）

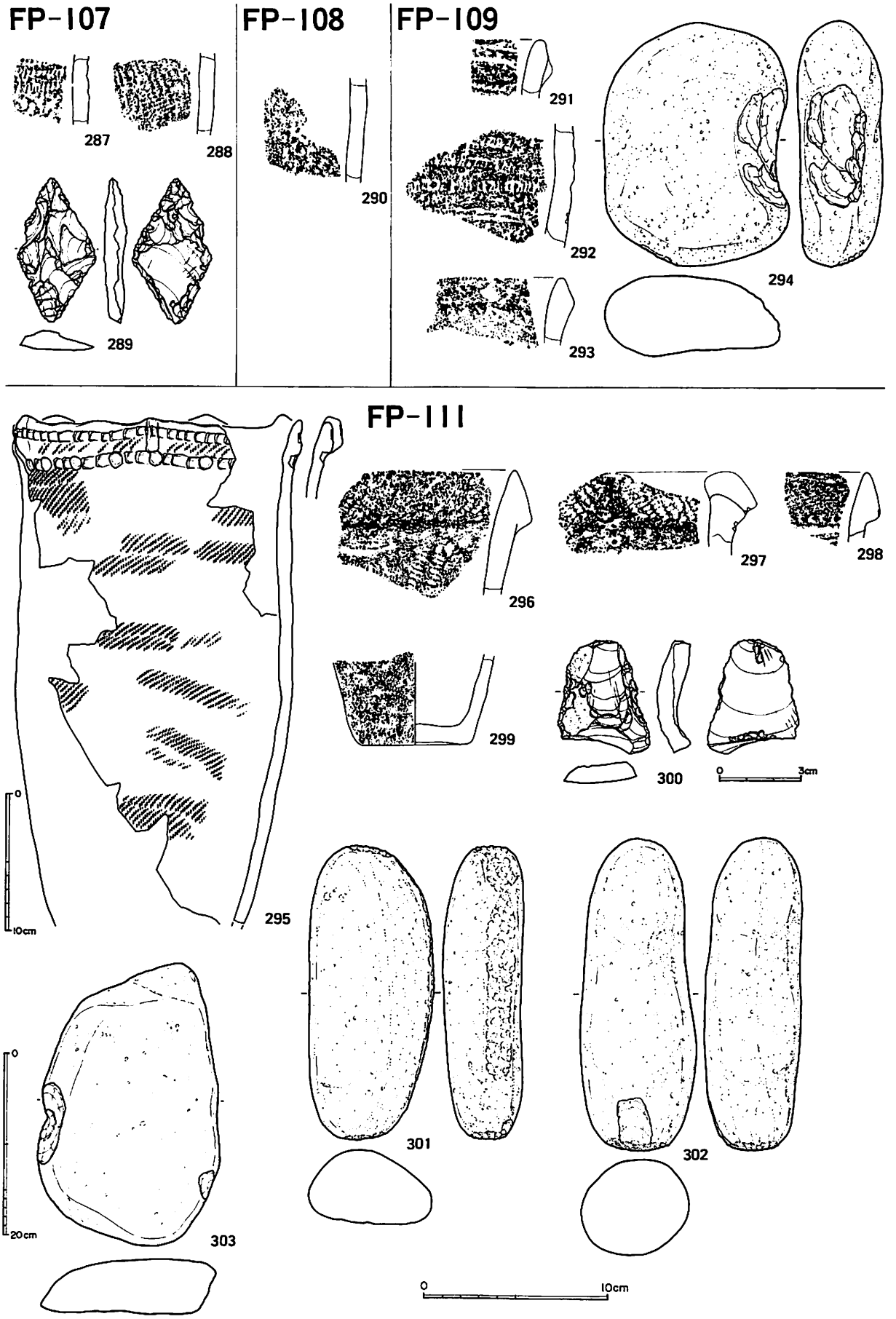
平面形　楕円形　　**規模**　0.90×0.58／0.71×0.45／0.32m　　**重複**　FP—119より古い。

特徴　FP—119に東側の上部が壊されている。壙底は凹凸がみられるが比較的平坦で，壁面は急角度で立ち上がる。

遺物　土器1点（IIB2b），焼礫1点，礫2点のみが覆土中から出土。

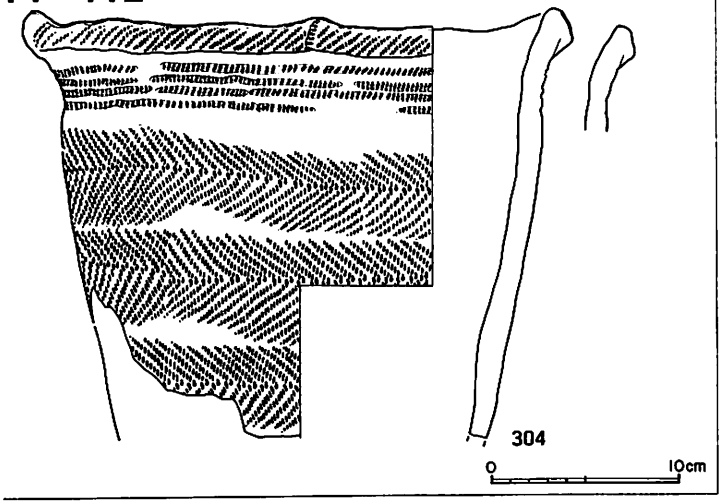


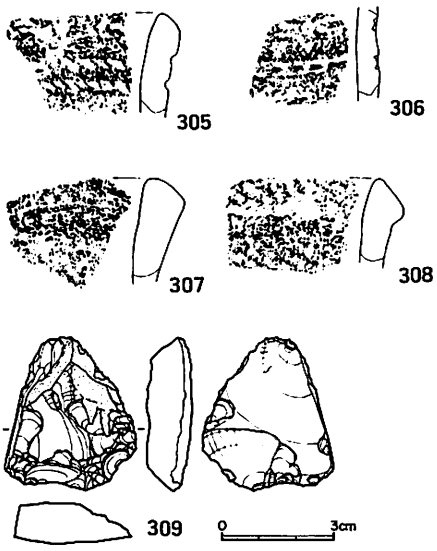
図Ⅲ—276　FP—106 遺物



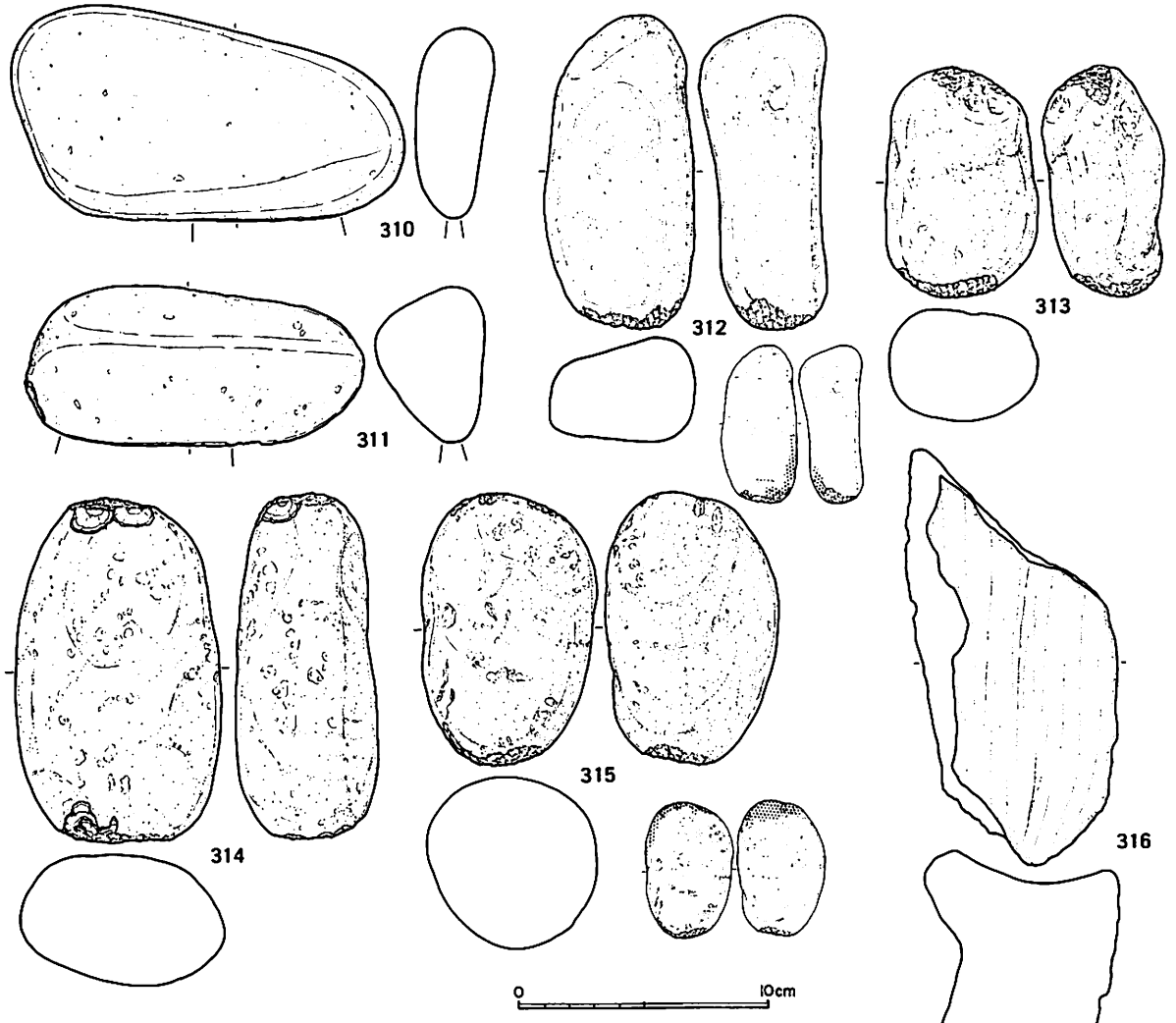
図III—277　FP—107～109・111 遺物

FP-112

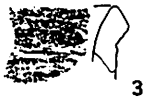




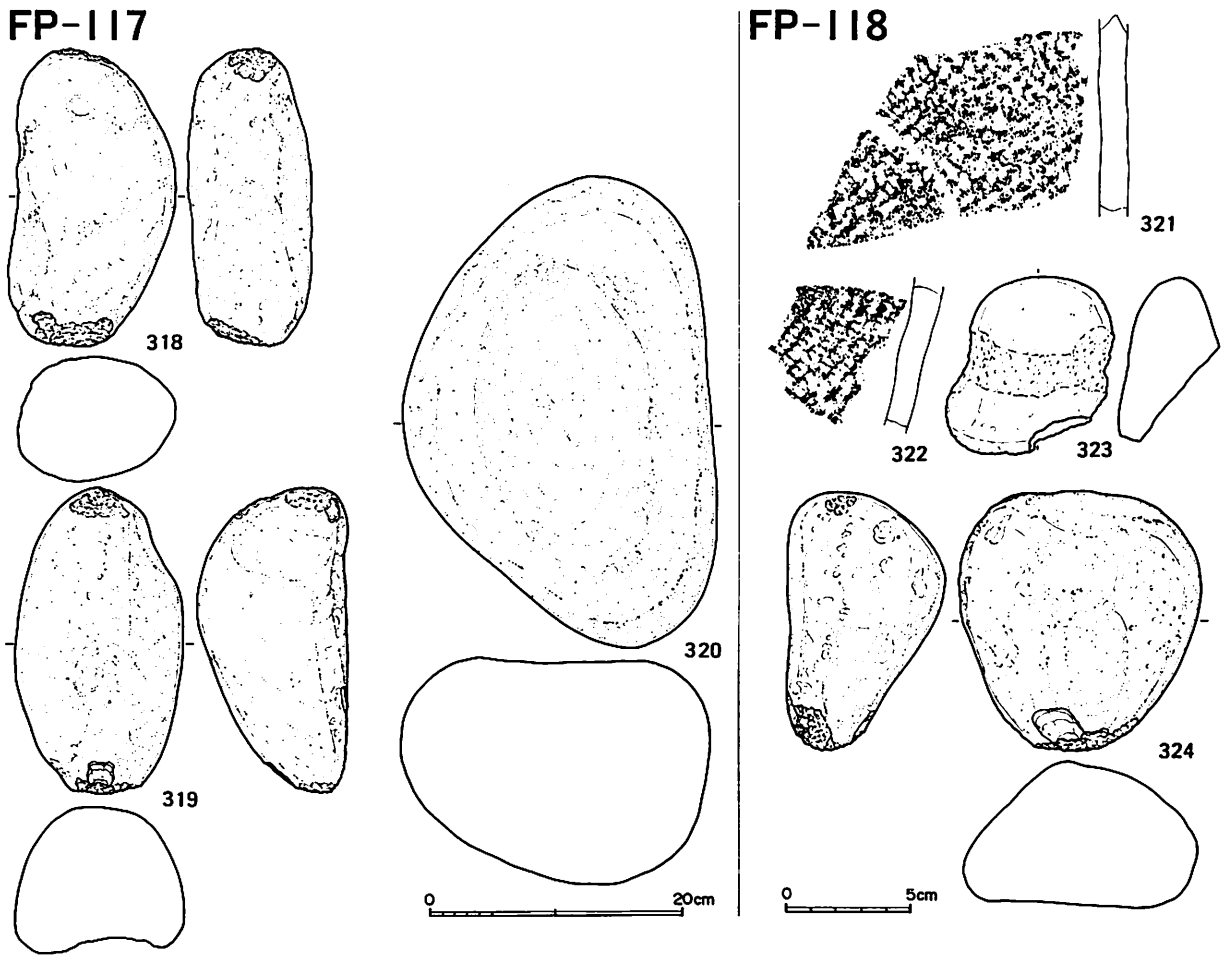
FP-113



FP-115



図Ⅲ—278　FP—112・113・115 遺物



図III—279　FP—117・118遺物

FP—143（図III—256，284，図版77—2）

平面形　楕円形　　**規模**　0.76×0.66／0.55×0.47／0.18m　　**重複**　FH—38•39より新しい。

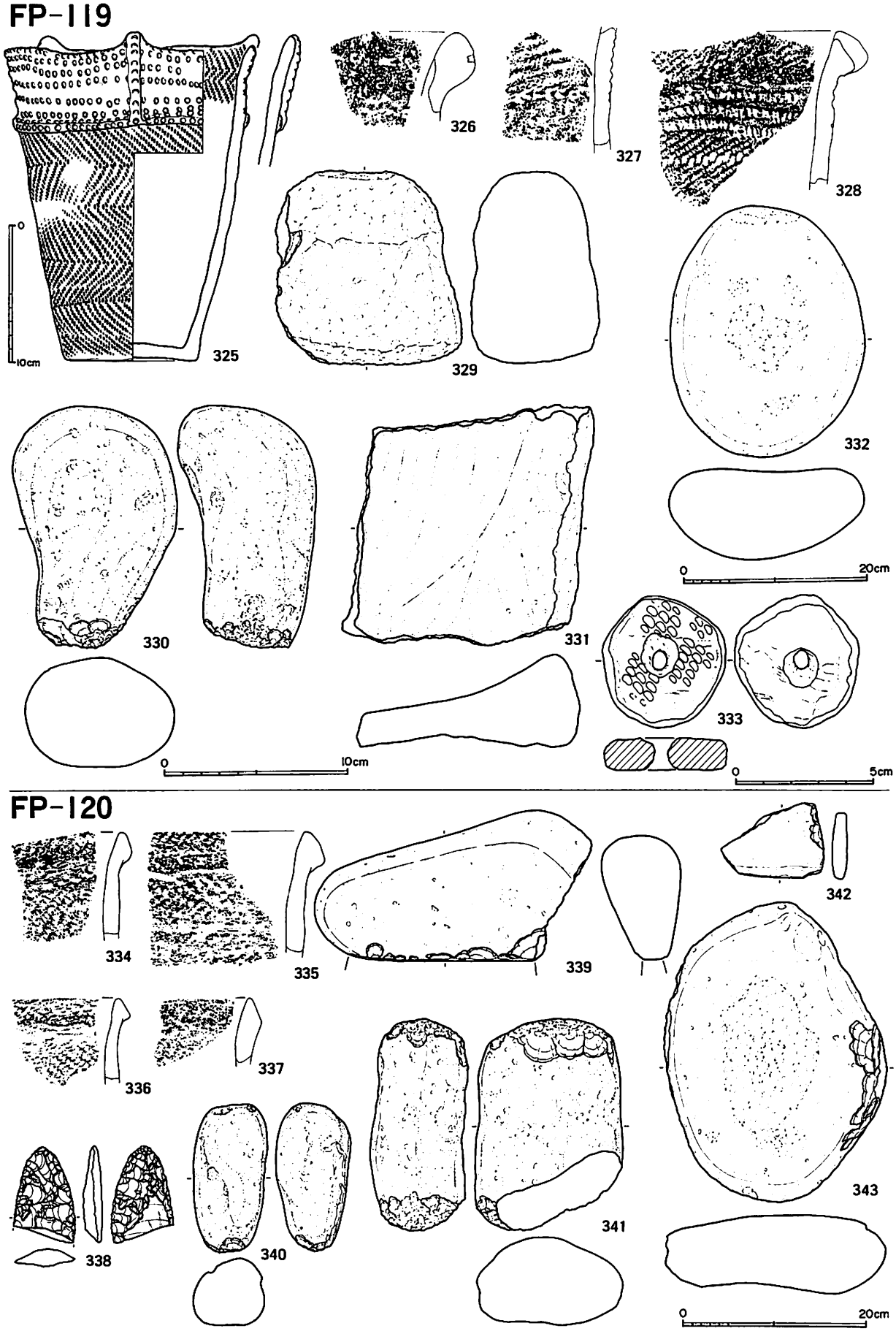
特徴　壙底，壁面は丸味があり，境は不明瞭である。

遺物　土器24点（IB2・4，IIA2・1，IIB2b・1，IIB・6，IIIB3・12）フレイク8点，Uフレイク2点，礫△1点，礫36点，土製品1点が出土。土壙内部の北西部で，土器片と土製品がかたまってみられた。405はII群A2類，406はII群B2b類，407・408はII群B類土器である。405は厚手の斜行縄文が施された体部破片である。胎土に多量の繊維を含む。内面調整は比較的丁寧である。406は半截竹管状工具による刺突文が加えられた薄い貼付帯によって区画された口頸部に縄線文が施されている。407は結束斜行縄文が施された底部破片である。408は細かな斜行縄文が施された底部破片である。胎土は砂粒を多く含み，繊維の混入は認められない。器面調整は粗雑である。

409は有孔の再生土製円盤片，表面は磨耗している。

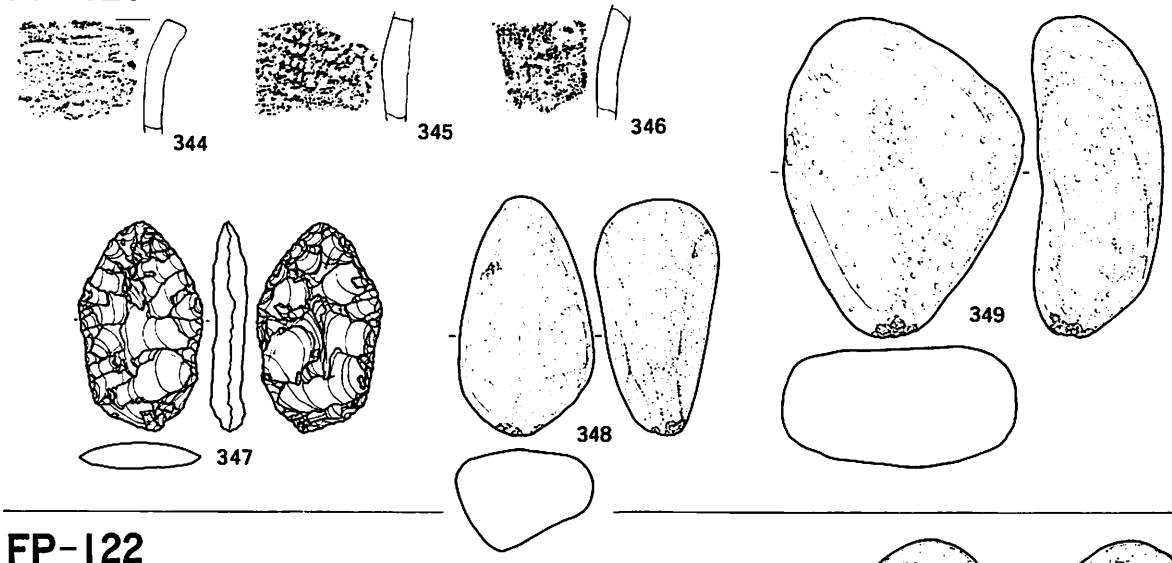
FP—144（図III—257，図版77—33）

平面形　楕円形　　**規模**　1.33×1.17／1.04×0.98／0.15m　　**重複**　FH—39より新しい。

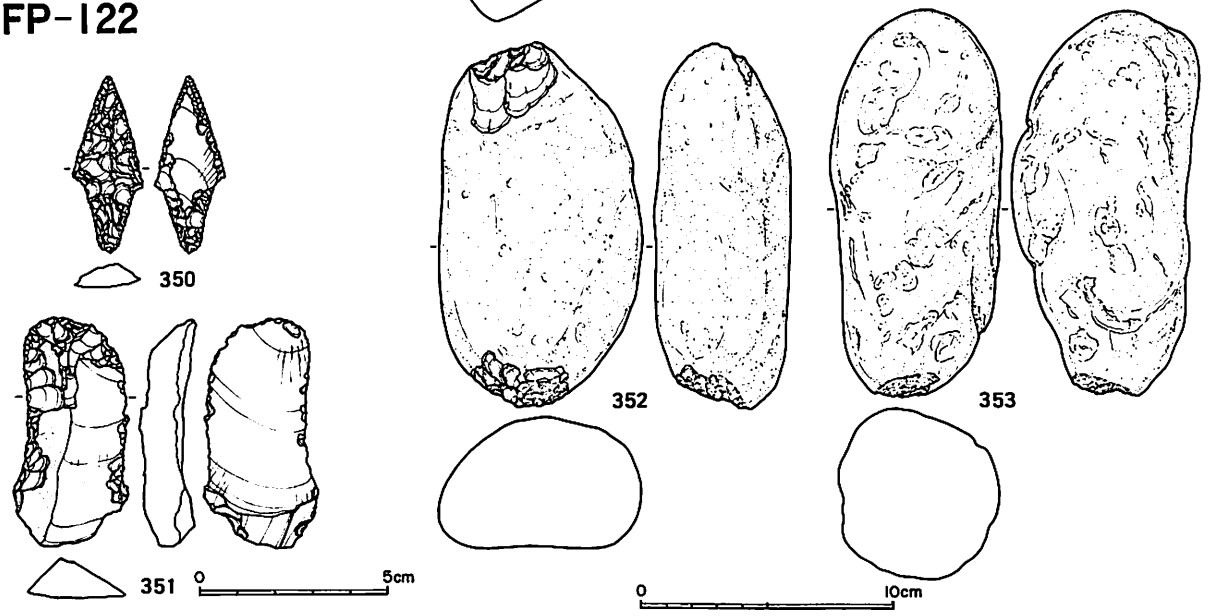


図Ⅲ—280　FP—119・120 遺物

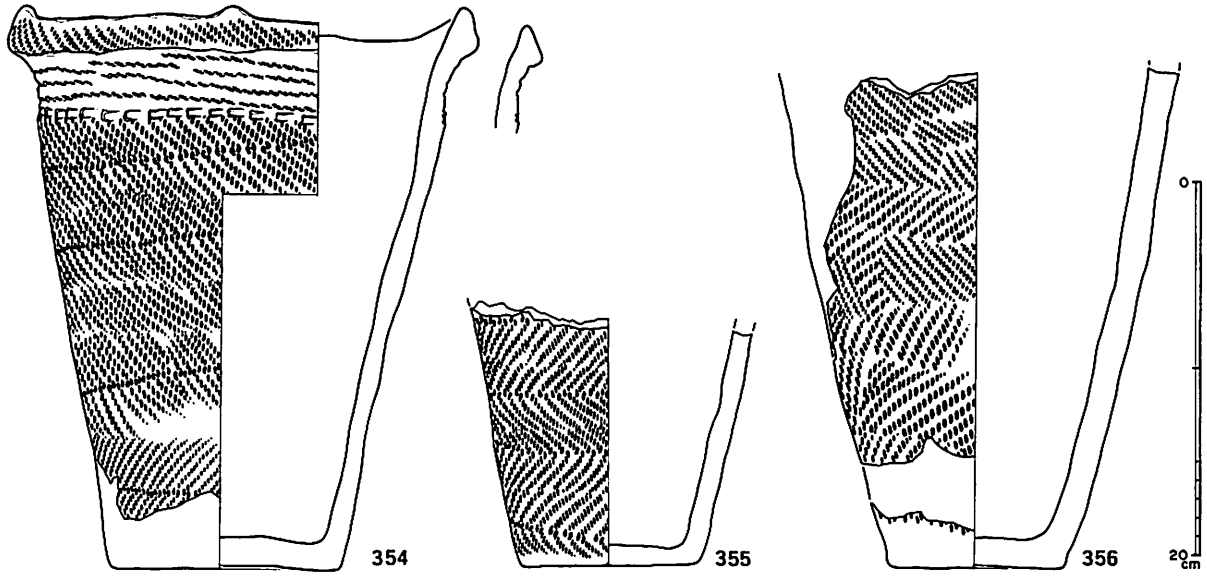
FP-121



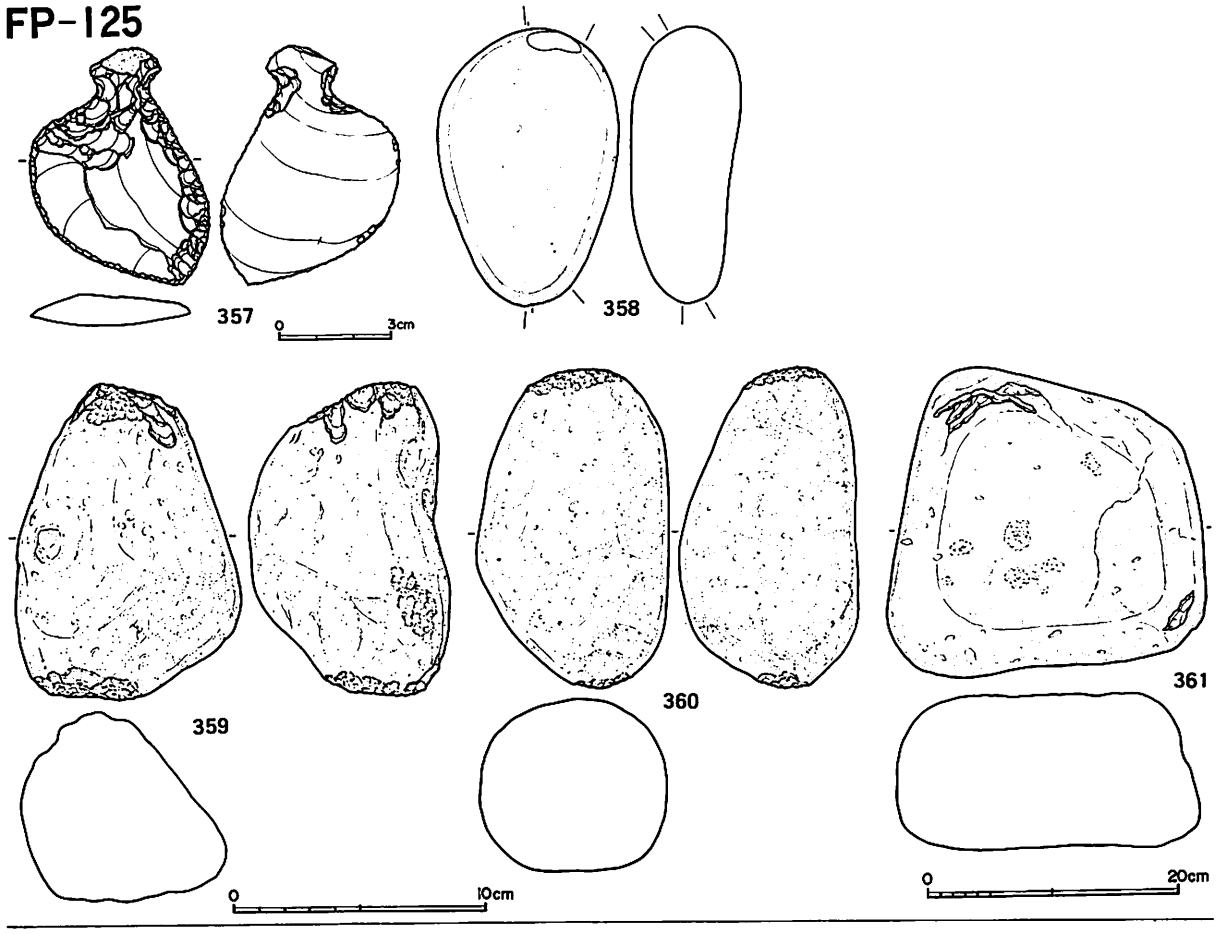
FP-122

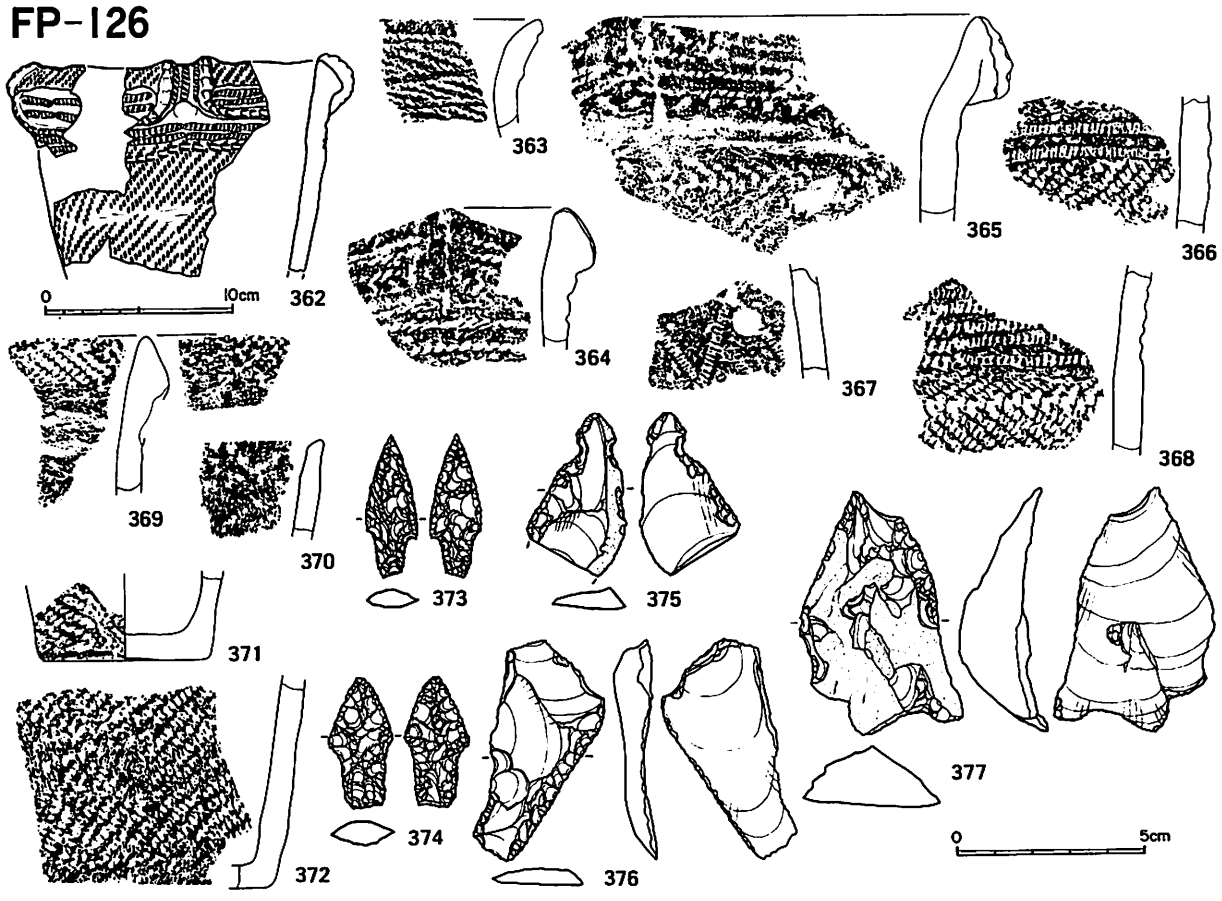


FP-125

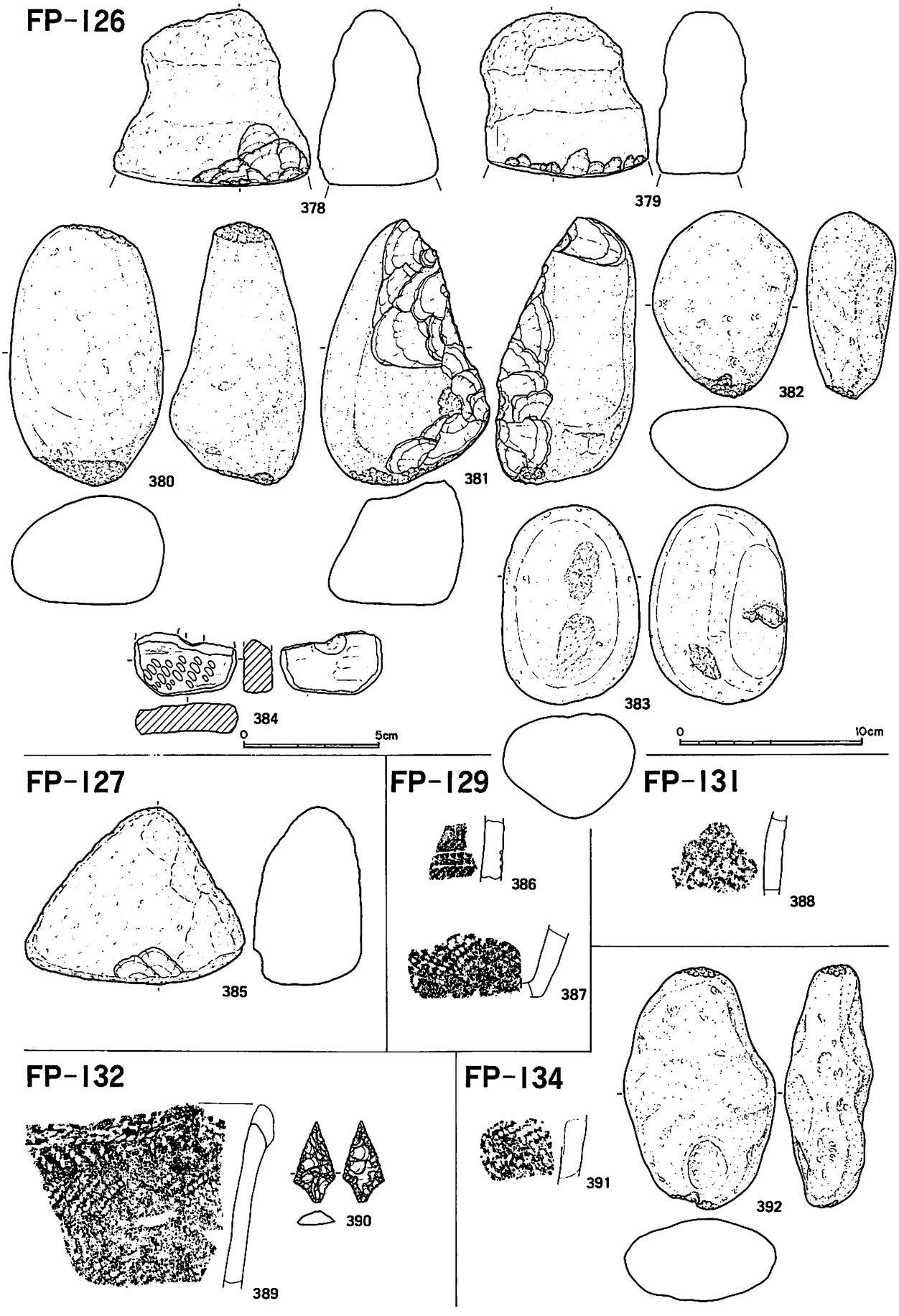


図III—281　FP—121・122・125 遺物(1)

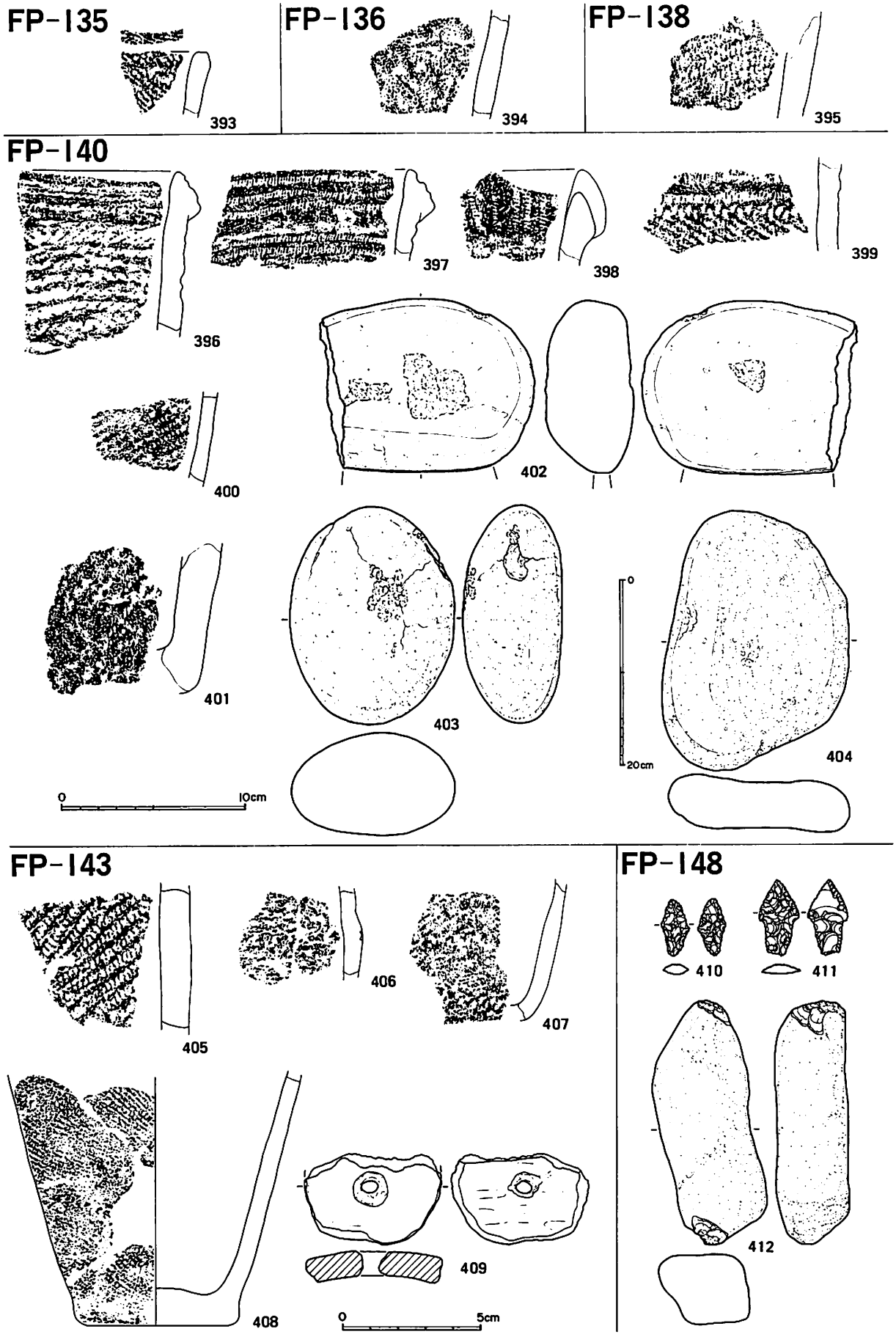




図Ⅲ—282　FP—125 遺物(2)・126 遺物(1)



図Ⅲ—283　FP—126 遺物(2)
127・129・131・132・134 遺物



図Ⅲ—284　FP—135・136・138・140・143・148 遺物

特徴　壙底は凹凸があるが比較的平坦で，壁面の傾斜は緩やかである。
遺物　土器７点（IIB2a・1，IIB・4，IIIB3・2），たたき石１点，石皿・台石３点，礫△６点，礫９点が出土。
時期　縄文時代中期末，III群 B3 類土器の時期と考えられる。

FP—148（図III—257・284，図版77—4）
平面形　楕円形　　**規模**　1.31×1.03／1.20×0.85／0.41m　　**重複**　FH—16より古い。
特徴　FH—16の床面で確認され，HP—1•58によって部分的に壊されている。壙底は皿状に凹み，壁面は垂直に近い角度で立ち上がる。
遺物　土器81点(IIB)，石鏃３点，石斧薄片２点，たたき石１点，コア１点，フレイク361点，Uフレイク４点，礫△12点，焼礫10点，礫154点が出土。410・411は有茎凸基の石鏃，412は棒状礫の両端を使用しているたたき石である。

FP—150（図III—258，図版77—5）
平面形　楕円形　　**規模**　0.88×0.48／0.57×0.25／0.40m　　**重複**　FH—29より古い。
特徴　FH—29の床面で確認された。壙底は西から東に向かって傾斜し，東側以外は壁面の比較的急角度で立ち上がる。
遺物　礫２点のみが覆土中から出土。

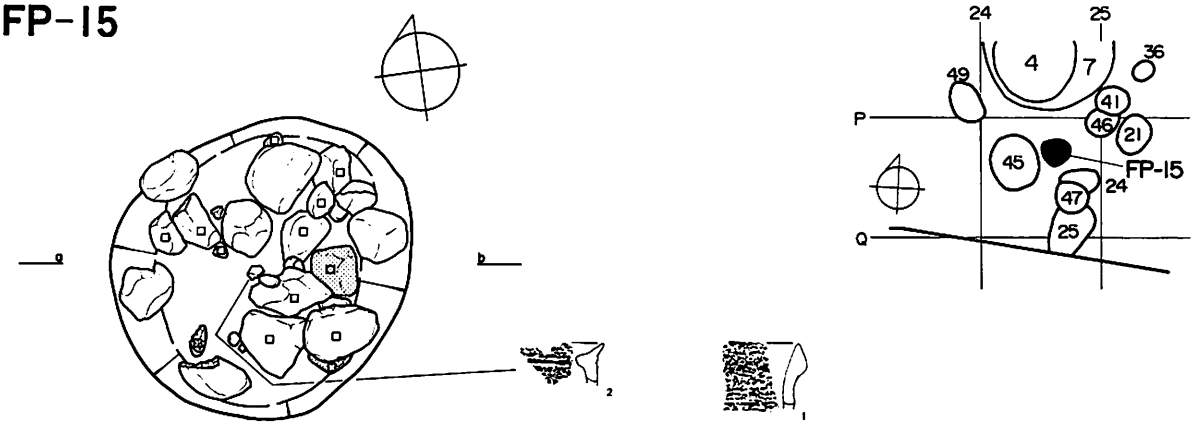
FP—151（図III—258，図版77—6）
平面形　楕円形　　**規模**　0.63×0.57／0.45×0.26／0.34m　　**重複**　FH—29より古い。
特徴　FH—29の床面で確認された。壙底は皿状に凹み，壁面は比較的急角度に立ち上がる。
遺物　フレイク１点，Uフレイク１点のみが出土。

II群土壙

II群土壙は12基（FP—15・16・27～30・33～35・38・39・75），Lラインより南側に分布し，M・N・O—21付近に５基（FP—33～35・38・39），L—25，M—25・26付近に５基（FP—27～30・75）がかたまり，他の２基（FP—15・16）は少し離れて分布している。M・N・O—21に分布する５基は，旧河道が埋積した後に堆積した第II層中に構築されたものである。II群土壙の覆土は黒色土が主体で，第II層が流れ込んだものと思われる。

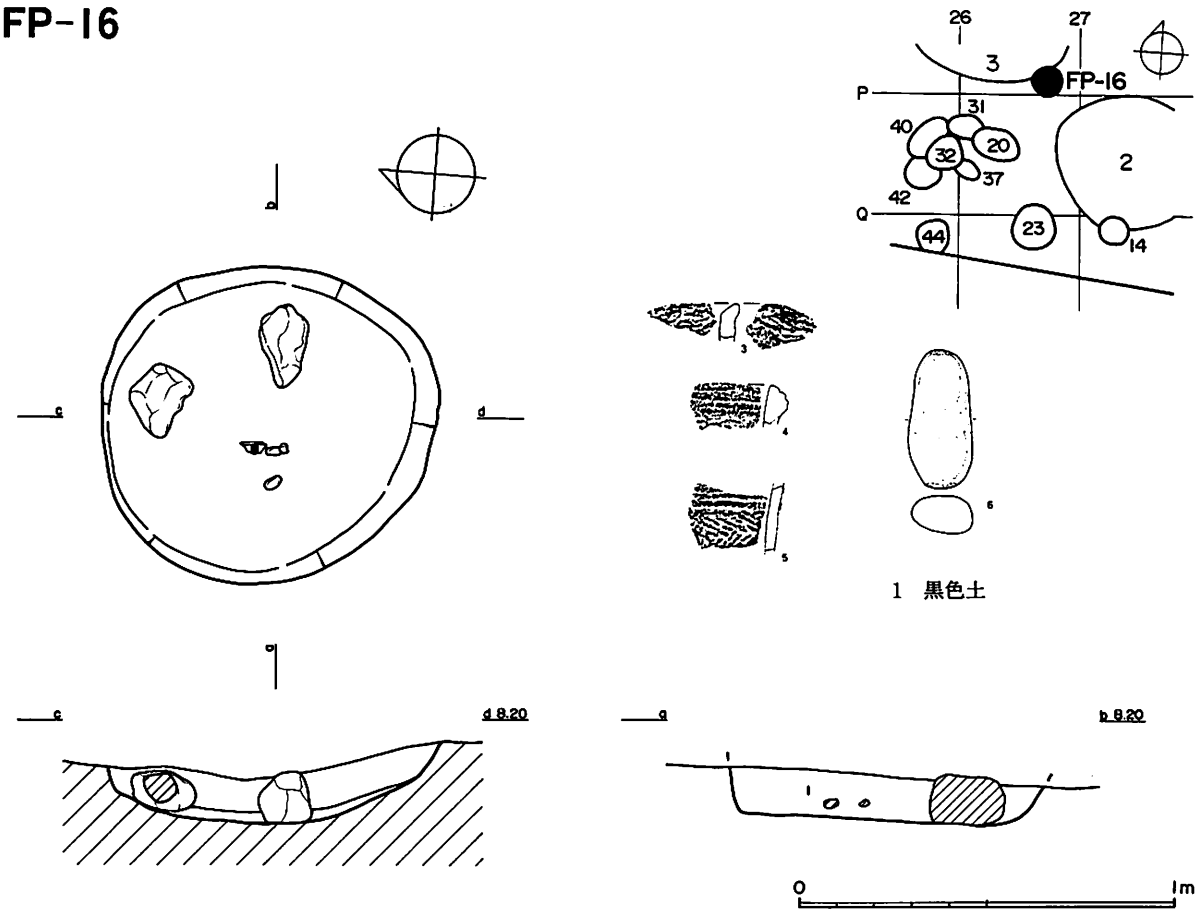
FP—15（図III—285・290，図版78—1）
平面形　楕円形　　**規模**　0.84×0.75／0.75×0.56／0.17m　　**重複**　なし
特徴　壙底，壁面は丸味があり，壁面の傾斜は比較的緩やかである。
遺物　土器19点（IIB2c•1，IIB•17，Vb•1），ポイントまたはナイフ１点，フレイク35点，Uフレイク１点，礫△20点，礫51点が出土。礫類が壙底より少し浮いた状態で重なるよう

FP-15



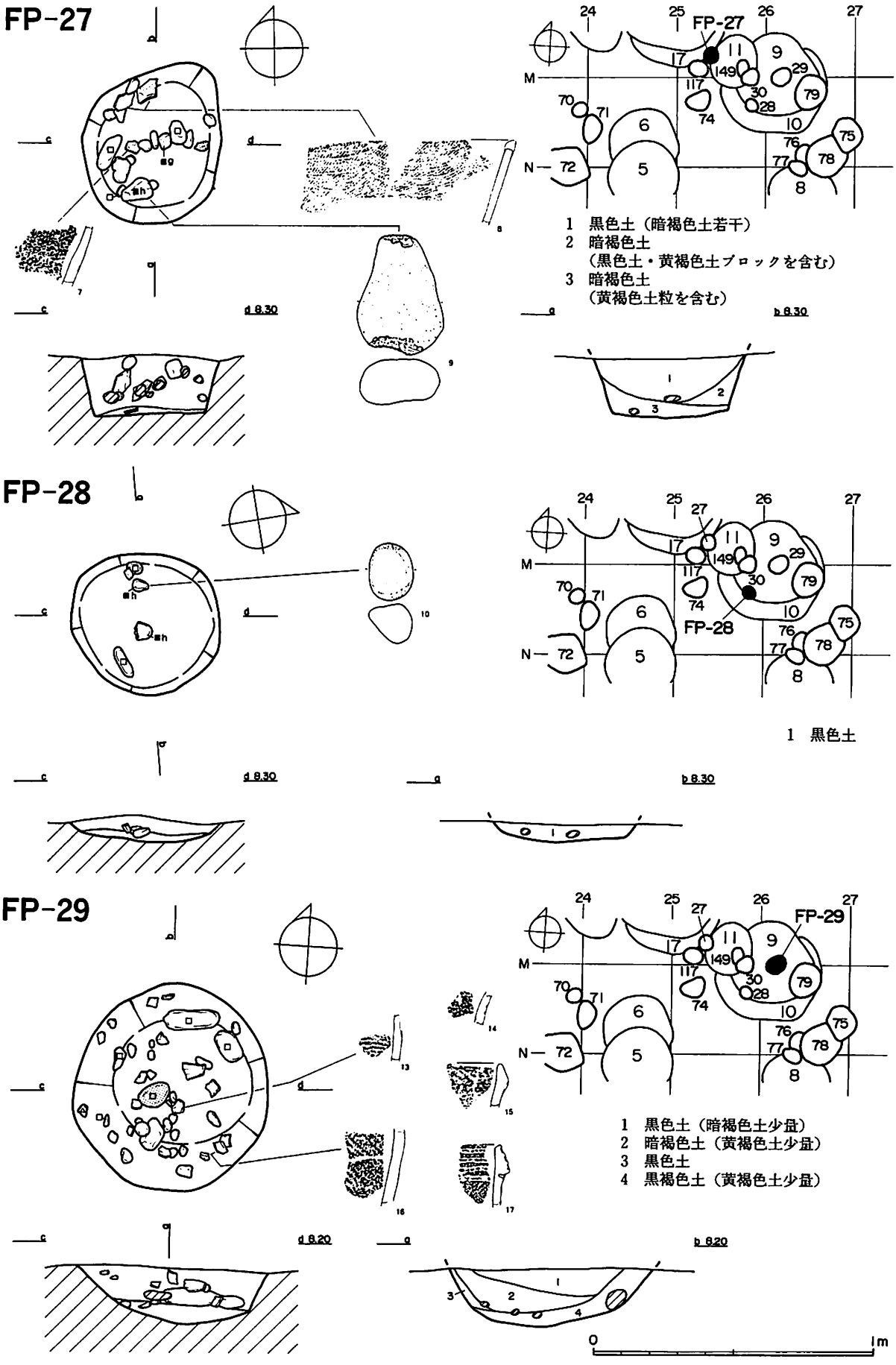
1 黒色土
2 暗褐色土（炭化物を含む）

FP-16

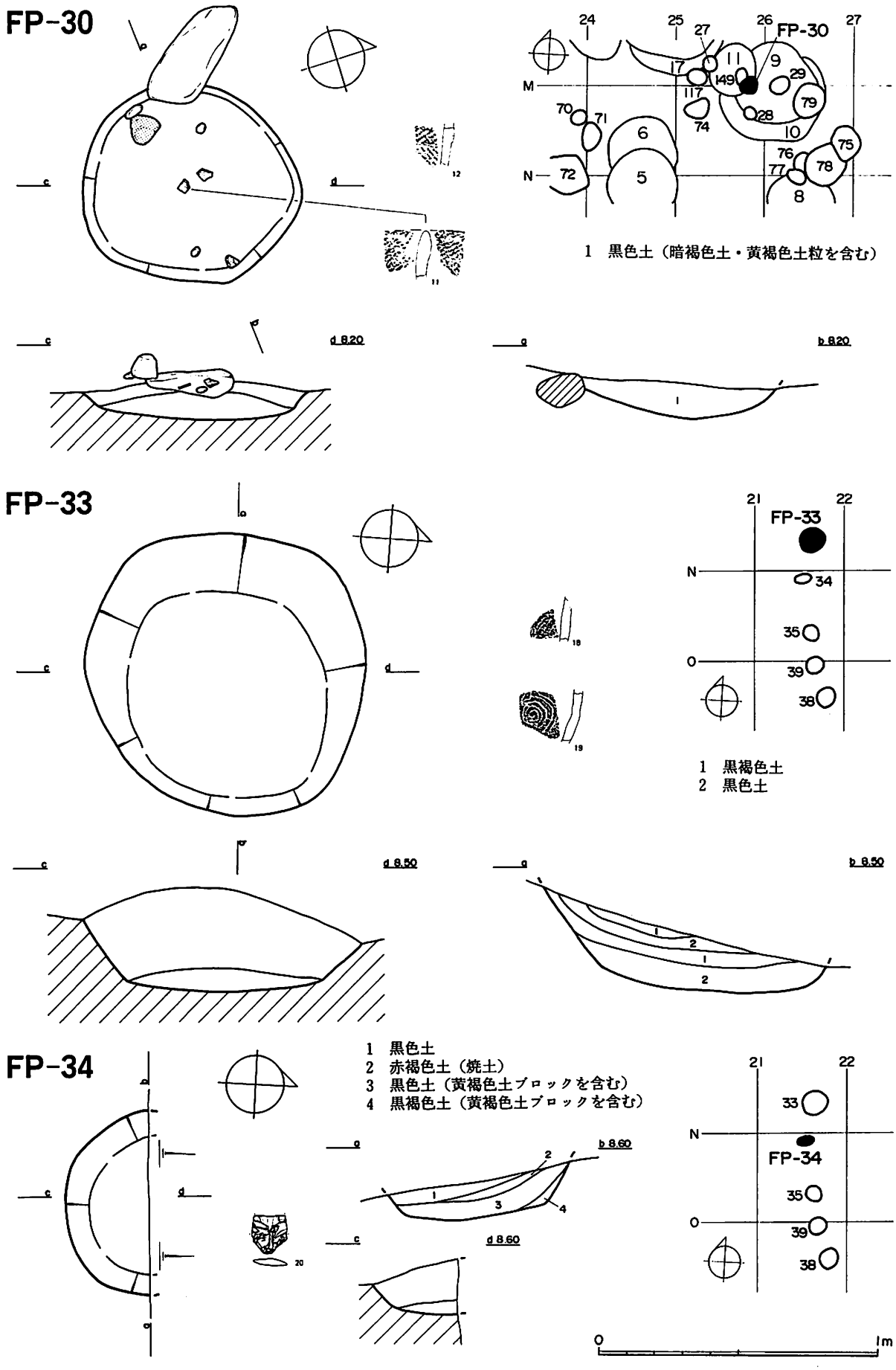


1 黒色土

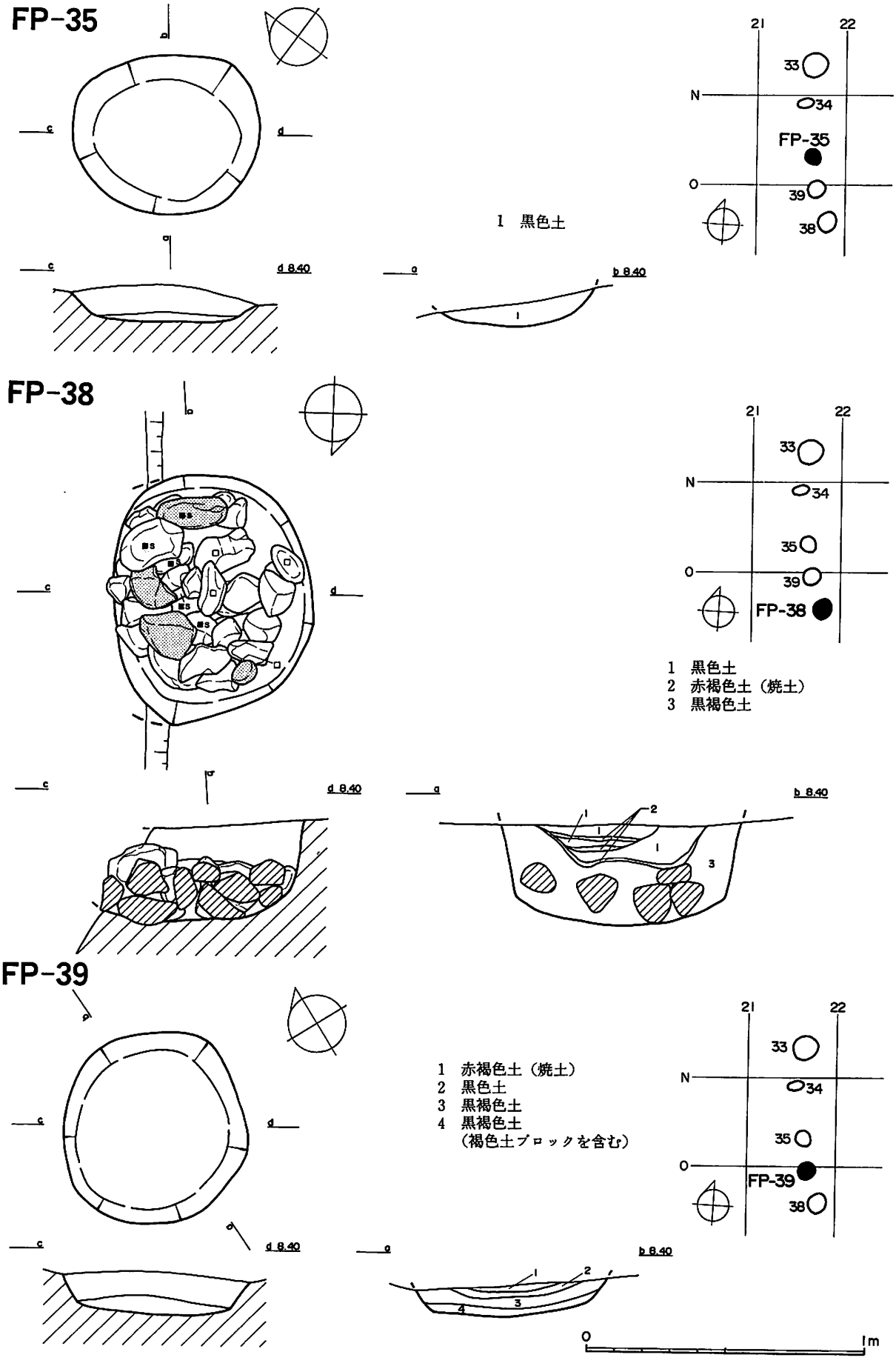
図Ⅲ—285 FP—15・16



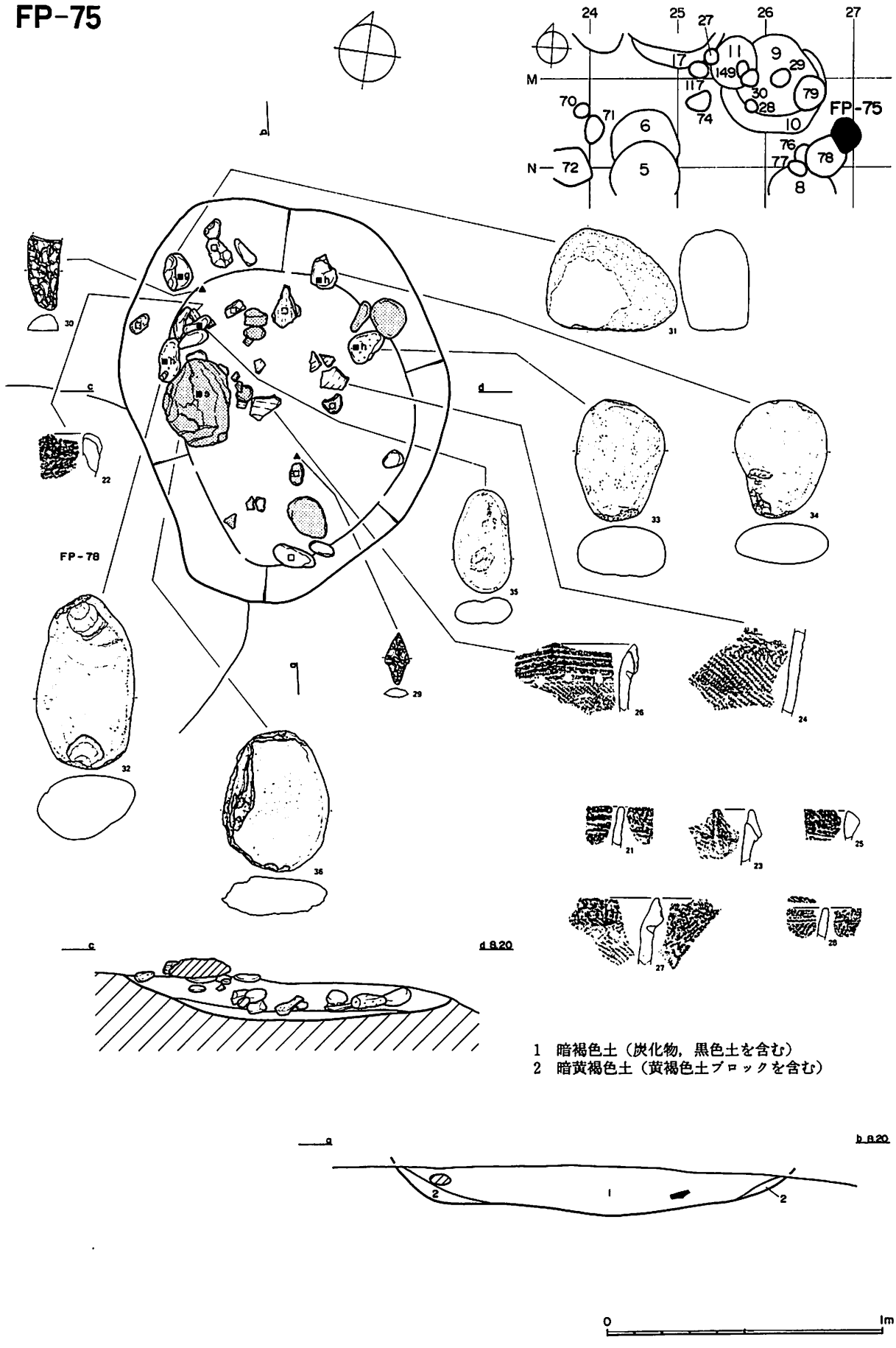
図III—286 FP—27～29



図Ⅲ—287　FP—30・33・34



図III—288 FP—35・38・39


FP-75
24
25
27
26
27
M
N— 72
FP-75
FP-78
1 暗褐色土（炭化物，黒色土を含む）
2 暗黄褐色土（黄褐色土ブロックを含む）
0
1m

図Ⅲ—289　FP—75

に確認された。1はII群B2c類，2はV群b類土器である。1は斜行縄文が施された口唇部で，頸部には絡条体圧痕文が施されている。2は壺形の口縁部破片である。口唇部は内側に張り出し，口唇部外面直下に3条の沈線が加えられている。頸部は無文である。

FP—16（図III—285・290，図版78—2）

平面形　楕円形　　**規模**　1.91×0.84／0.84×0.95／0.22m　　**重複**　FH—3より新しい。

特徴　壙底は皿状に凹み，壁面は急角度に立ち上がる。

遺物　土器28点（IIB1・1，IIB2b・2，IIB2c・1，IIB・23，IIIA2・1），石斧1点，たたき石1点，砥石2点，石皿・台石1点，フレイク30点，焼礫2点，礫28点が出土。大型の礫の2点が東側の壙底でみられた。3はII群B1類，4はII群B2c類，5はIV群A2類土器である。3は口唇部端部が張り出し，表裏に綾絡状の縄文が施されている。4は3条の絡条体圧痕文が施された口唇部である。5は2本1組の細い貼付帯が施された体部破片である。体部の地文は結束羽状縄文である。6は長軸の両端を使用しているたたき石である。

FP—27（図III—286・290，図版78—3）

平面形　楕円形　　**規模**　0.62×0.52／0.47×0.41／0.23m　　**重複**　FH—11より新しい。

特徴　壙底は平坦で，壁面は急角度で立ち上がる。

遺物　土器20点（IIB・15，IIIA・2，IIIB3・1，IVA・2），北海道式石冠1点，たたき石1点，フレイク28点，Uフレイク3点，礫△6点，焼礫1点，礫45点が出土。礫石器，礫類が土壙中央の覆土中から比較的まとまって確認されている。7はIII群B3類土器，8はIV群A類土器である。7は結束羽状縄文である。胎土は砂粒が多い。器面調整は粗雑である。8は口唇部断面は角型で，口縁部は波状で，連弧状の沈線文が施されている。9は長軸の両端を使用しているたたき石である。

FP—28（図III—286・290，図版78—4）

平面形　円形　　**規模**　0.53×0.51／0.48×0.44／0.01m　　**重複**　FH—9・10より新しい。

特徴　断面皿状で，壙底と壁面の境は不明瞭である。

遺物　土器2点(IIIA)，たたき石2点，フレイク32点，礫△3点が散発的に出土。10は長軸の両端を使用しているたたき石である。

FP—29（図III—286・290，図版78—5）

平面形　楕円形　　**規模**　0.75×0.69／0.50×0.45／0.22m　　**重複**　FH—9より新しい。

特徴　壙底は皿状に凹み，壁面との境は不明瞭である。

遺物　土器54点（IIB2b・4，IIB2c・1，IIB・9，IIIA2・1，IIIA・21，IIIB3・1，Va・1，V・16），スクレイパー1点，たたき石1点，コア1点，フレイク131点，Rフレイク1点，礫△9点，礫68点が出土。遺物は土壙全域の覆土中から確認されている。13はII群B2a類，

14はII群B2b類，15・16はII群B類，17はIII群B3類土器である。13は多軸絡条体回転文が施された体部破片である。14は口頸部に縄線文が施されている。15は斜行縄文・半截竹管工具による刺突文が施されている。体部は結束羽状縄文である。16は斜行縄文が施された体部破片である。17は半截竹管工具による押引文が施された口唇部で，口唇部直下に押引施文後，円形刺突文が加えられている。

FP—30（図IV—287・290，図版78—6）

平面形 楕円形　　**規模** 0.78×0.70／0.70×0.68／0.20m　　**重複** FH—9・11，FP—149より新しい。

特徴 断面皿状で，壙底と壁面の境は不明瞭である。

遺物 土器10点（IIB・3，IIIA・1，IIIB・4，IIIB3・1，IV4・1），フレイク60点，焼礫2点，礫20点が覆土中から散発的に出土。11はIII群B3類，12はIV群A類土器である。11は表裏に縄文が施された口唇部である。胎土は砂粒が多い。12は斜行縄文が施されたタガ状の太い貼付帯がある体部破片である。

FP—33（図III—287・290，図版79—1）

平面形 楕円形　　**規模** 1.08×1.00／0.83×0.72／0.39m　　**重複** なし

特徴 壙底は皿状に凹み，壁面は45°に近い角度で立ち上がる。

遺物 土器19点（IIB2a・1，IIB・7，IVA・9，V・2），コア1点，フレイク38点，Uフレイク3点，礫△1点，礫23点が覆土中から散発的に出土。18はII群B類，19はIV群B類土器である。18は斜行縄文が施された体部破片である。19は無文地に曲線状（渦巻状）の沈線文が施されている体部破片である。

FP—34（図III—287・290，図版79—2）

平面形 楕円形？　　**規模** 0.06×0.50／0.30×0.21／0.20m　　**重複** なし

特徴 北側は攪乱で壊されていたので，南側の約半分しか残存していない。壙底は皿状に凹み，壁面は45°に近い角度で立ち上がる。

遺物 土器1点（IIB），ポイントまたはナイフ1点，スクレイパー1点，フレイク2点，礫4点が覆土中から散発的に出土。20は菱形を呈すると思われるポイントまたはナイフの基部である。

FP—35（図III—288，図版79—3）

平面形 楕円形　　**規模** 0.68×0.53／0.57×0.43／0.13m　　**重複** なし

特徴 断面皿状で，壙底と壁面の境は不明瞭である。

遺物 フレイク3点，礫2点のみが覆土中から出土。

FP—38（図III—288，図版79—4）

平面形 円形　　**規模** 0.84×(0.76)／0.72×(0.65)／0.37m　　**重複** なし

特徴 東側の上部は確認が遅れたため壊してしまった。壙底は皿状に凹み，壁面は急角度に立ち上がる。覆土中には焼土の流れ込みがみられた。

遺物　土器2点（IIB），石皿・台石5点，フレイク29点，礫△6点，焼礫3点，礫25点が出土。礫石器，礫類は覆土下部で重さなるような状況でみられた。

FP—39（図III—288，図版79—5）

平面形　円形　　**規模**　0.68×0.66／0.58×0.55／0.15m　　**重複**　なし

特徴　壙底は皿状に凹み，壁面は45°に近い角度で立ち上がる。

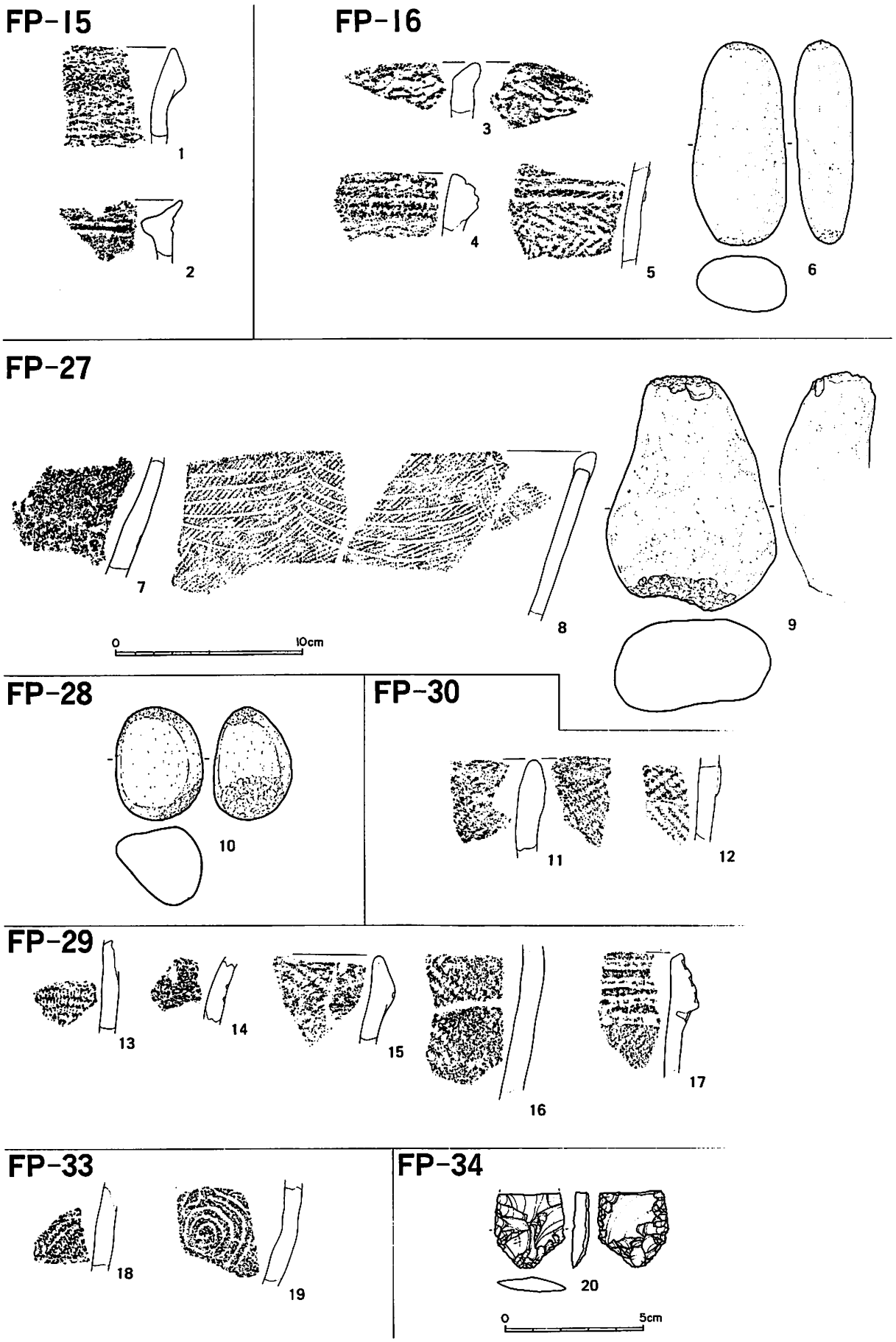
遺物　土器1点（IIB），フレイク14点，礫2点が覆土中から散発的にみられた。

FP—75（図III—289・291，図版79—6）

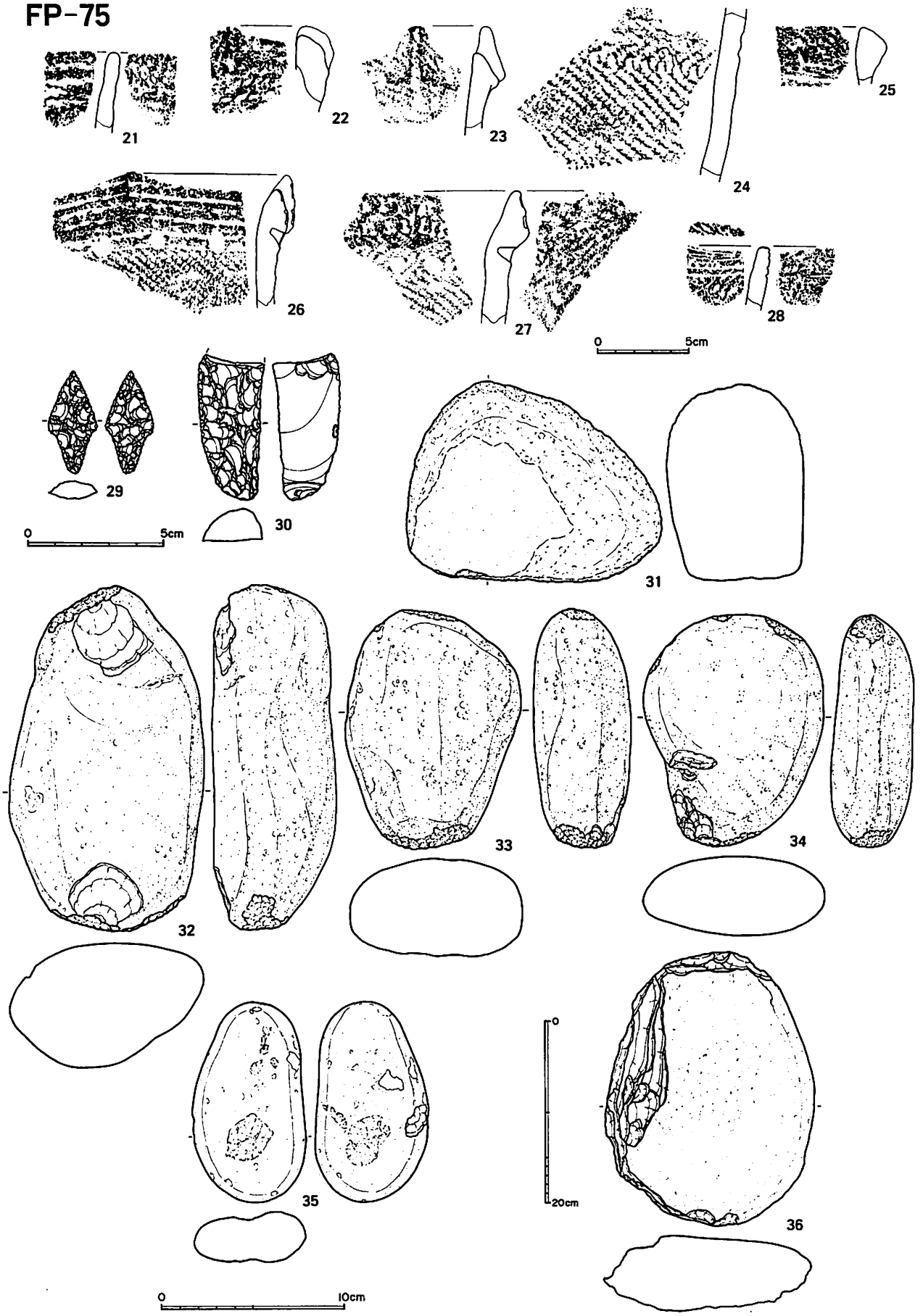
平面形　楕円形　　**規模**　1.46×1.06／1.21×0.88／0.19m　　**重複**　FP—78より新しい。

特徴　壙底，壁面ともに丸味があり，壁面の角度は緩やかである。

遺物　土器89点（IIB2a・1，IIB2b・4，IIB2c・1，IIB・73，IIIA2・1，IIIB2・1，IIIB3・3，IVA・1，Vb・4），石鏃1点，つまみ付きナイフ1点，北海道式石冠1点，たたき石3点，くぼみ石1点，石皿・台石1点，フレイク107点，Uフレイク3点，礫△19点，焼礫9点，礫132点が出土。遺物は土壙全域でみられたが，礫石器，礫類は北側で比較的多く確認された。21はII群B1類，22～24はII群B2b類，25はII群B類，27はIII群B1類，26はIII群B3類土器である。21の口唇部は丸味をもち，口縁部に縄線文が施されている。裏面に斜行縄文が施されている。22は口唇部に縄線文が施された口唇部破片である。23は斜行縄文・突起部から垂下する縄圧痕文が施された口唇部破片である。24は口頸部に複節の縄線文が施された口頸部破片で，体部には結節羽状縄文が施されている。15は斜行縄文が施された口唇部破片である。26・27は半截竹管状工具による押引文が加えられた口唇部で，口唇部直下に円形刺突文が施されているものである。26は押引施文後，円形刺突文が加えられている。28は刻目文が加えられた角形の口唇断面で，体部に斜行縄文施文後，半截竹管状工具内面による沈線文が施されている。29は有茎凸基の石鏃，30は上部を欠損しているが，恐らく片面加工の縦形のつまみ付きナイフである。31は鉢巻のみられない北海道式石冠，32～34は長軸の両端に使用痕のみられるたたき石，35は両面に凹みのみられるくぼみ石，36は周縁に打ち欠きがみられる石皿・台石である。



図Ⅲ—290　FP—15・16・27～30・33・34 遺物



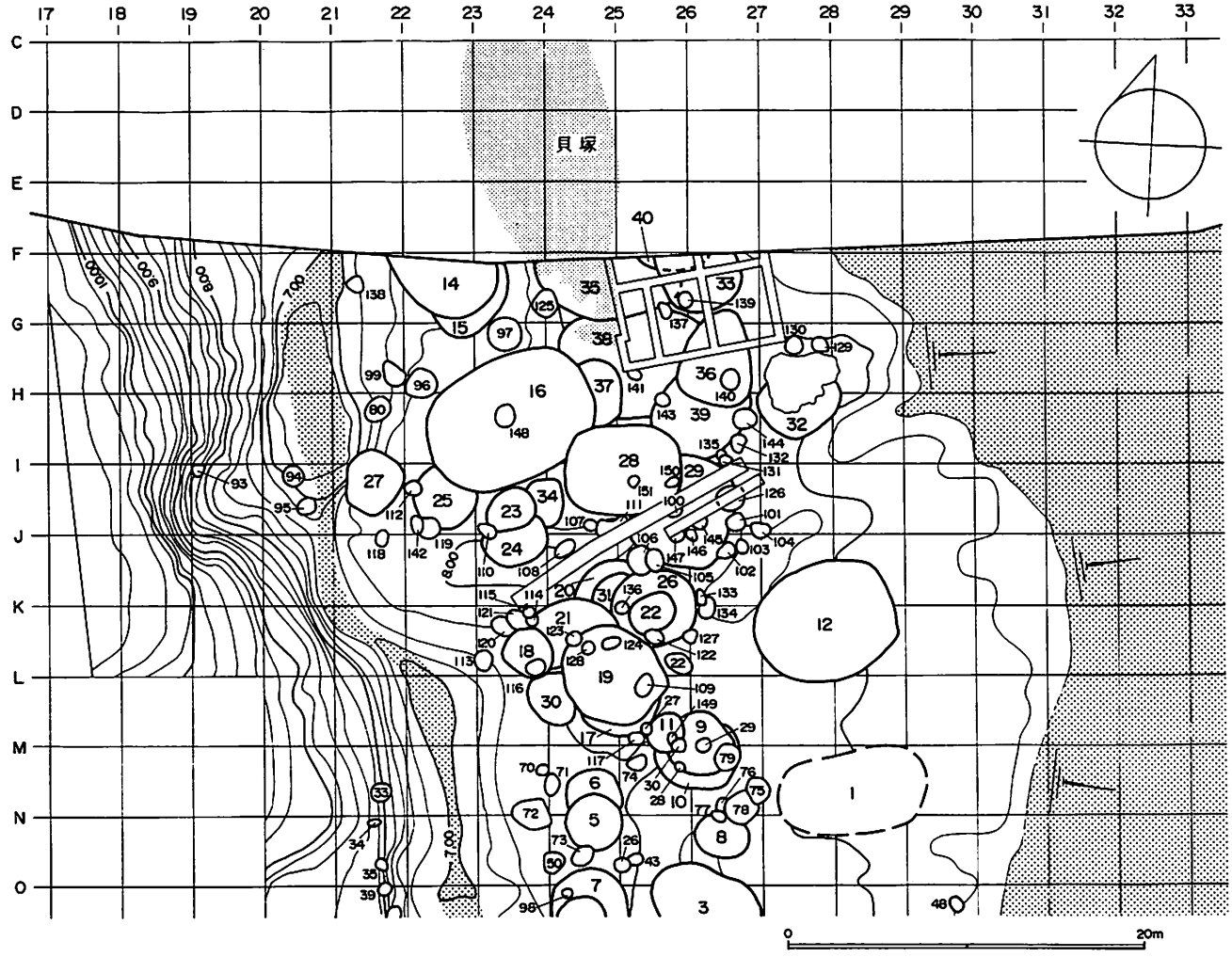
図III—291　FP—75 遺物

(3) 貝　　塚

貝塚が確認されたのは田中邸の西側，庭部分で，地表面からの観察では北側の未調査部分に延びていると思われる。貝塚の下層からはFH—35•38の2軒の住居跡が確認され，本貝塚は廃絶された住居跡の凹みを利用したものであることが判った。貝塚は混土貝層ブロック2カ所（FSb—2•3），混土貝層＋混貝土層ブロック1カ所（FSb—1），混貝土層ブロック2カ所（FSb—4•5）の5カ所が確認され，さらに重複して，またはその周辺から4カ所の焼土（FF—20•22～24）がみられた。焼土も貝塚ブロック同様，廃棄されたものと考えられる。時期は貝塚ブロック，焼土ともに縄文時代中期末，III群B3類土器の時期である。以下に調査方法，整理方法，遺物概要，貝塚ブロック・焼土，骨角器，土器，石器・石製品の順で説明する。

調査方法

調査はまず表土及び撹乱部分を除去し，貝塚の上面を出すことから始めた。表土及び撹乱部分についても貝殻，獣，魚骨が含まれている部分は発掘区単位（4×4m）で土壌を採取した。貝塚•焼土の撹乱されていない上面が確認できた段階で，50×50cmの小発掘区がわかるように水糸を張り，小発掘区・ブロック別に調査を進めた。また，土器・石器類及



図III—292　貝塚位置図

び大型の魚骨類は小発掘区・ブロック単位で取り上げ，さらにすべての土壌も同様に採取した。獣骨・骨角器類は非常に少なかったので，出土位置を記録して取り上げた。

整理方法

土器・石器類については，他の遺構出土のものと同様な流れで整理したので，ここでは主に自然遺物の整理について説明する。

自然遺物類の整理は大きく二つの流れで処理した。一つは現場で出土位置を記録したり，ブロック・小発掘区別に取り上げ獣骨・大型の魚骨類で，水洗後，種類別に収納，同定作業を進めた。また，大部分のものはアルコールによる脱水作業後，アセトンに置換し，最終的にはパラロイドB72（10～20%溶液）による強化を行った。

もう一つは貝塚土壌の処理で，以下のような流れで進めた。

乾　燥
↓
重量・容積計測（5 kg 計・10kg 単位，10l バケツ・0.5l 単位）
↓
ウォーターセパレーション（5・2.5・1 m/m メッシュ）
↓
乾　燥（5・2.5・1 m/m メッシュ別）
↓
重量・容積計測（デジタル600g 計・0.1～0.2g 単位，2l カップ・20cc 単位）
↓
選別・収納

土器・石器・フレイク・礫→重量・数量計測→収納
貝類→重量計測→種類分類・同定→収納
→殻頂部と破片の分類→収納
魚骨→重量計測→部位・種類分類→同定→収納
獣骨→重量計測→部位・種類分類→同定→収納

貝類のうち主体を占めるイガイとヤマトシジミについては，殻頂部の残存しているものを選別して，右，左，不明の三つに分けてカウントした。

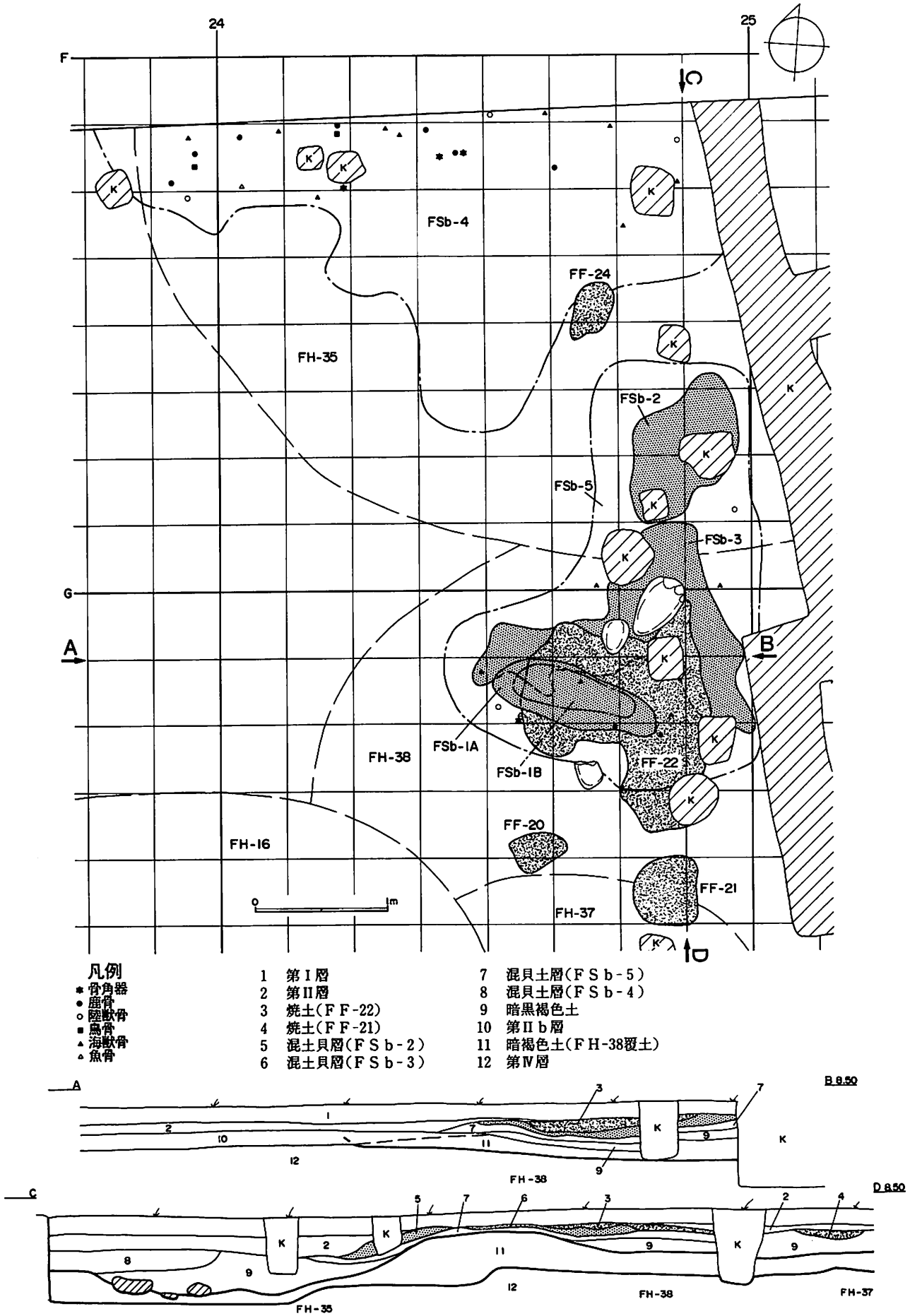
魚骨の分類は椎骨の抽出・同定をまず行い，次にその他の部位のうち特徴的，種類の同定が可能なものを抽出した。椎骨は破片のものも抽出に努めたので，種類の同定が困難なものも多く，「不明」で一括した。また，部位についても同様で，単に「その他」で一括した。

獣骨は破片のものが大半で，ネズミ類，鳥類，エゾシカなどの他は小・中型陸獣類と海獣類に大別した。

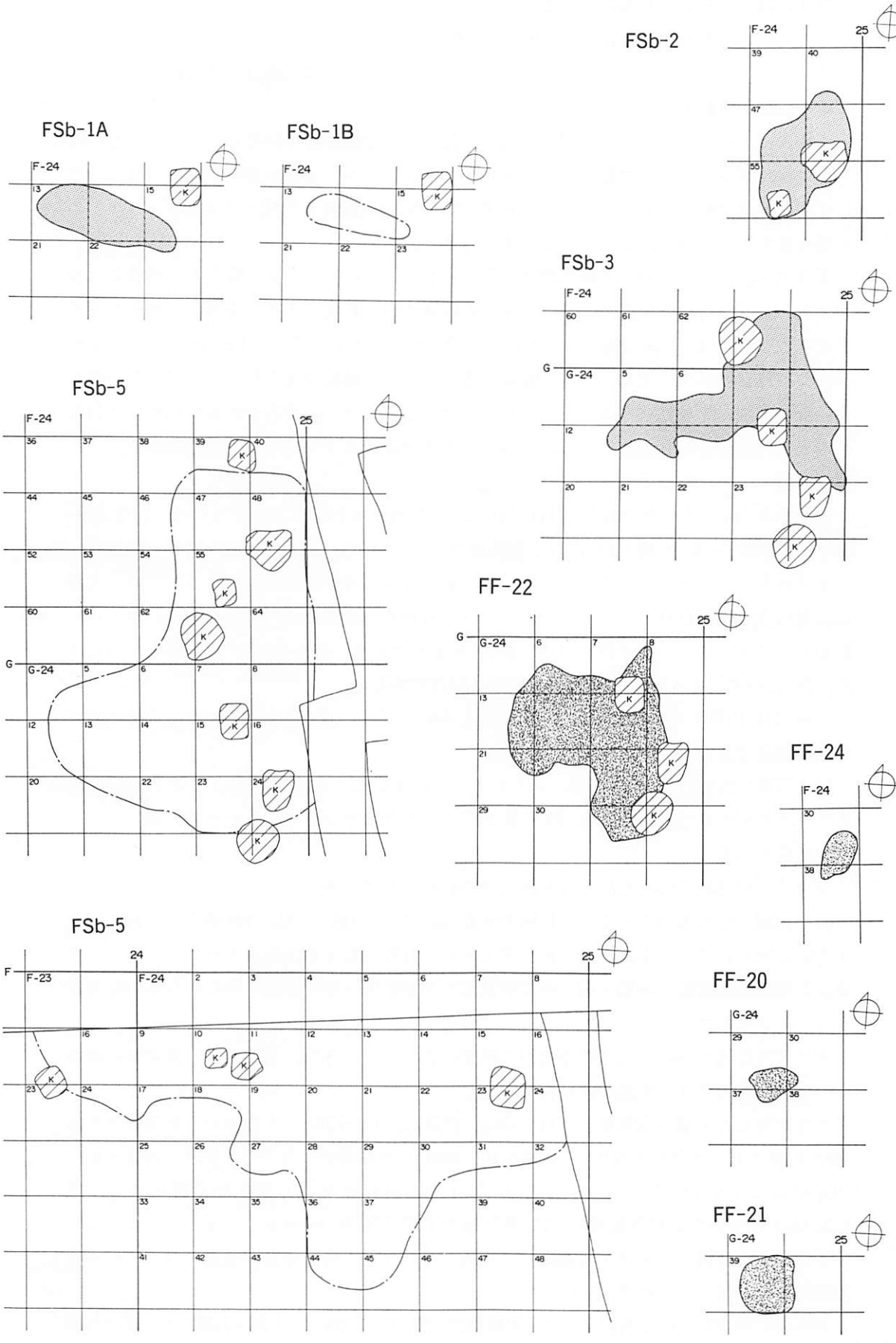
水洗して得られた獣骨や大型の魚骨については，現場で採取した獣・魚骨同様，アルコールで脱水後，パラロイドB72で強化した。脱水，強化の手順は以下のとおりである。

第1段階　水からアルコールへの置換
アルコール60%（対水）→80%→90%→100%→100%

第2段階　アルコールからアセトンへの置換
アセトン60%（対アルコール）→80%→90%→100%→100%



図Ⅲ—293　貝塚ブロック・断面図



図III—294　貝塚ブロック・焼土平面図

第3段階　パラロイドB72による強化

パラロイドB72 10～20%（対アセトン）

※以上　1工程いずれも2～3日程度

第4段階　自然乾燥

骨角器についても基本的には同様の処理を施した。また，ある程度しっかりしたものについては，アルコールへの置換前に水洗し土を落としたが，遺存状態の悪いものについては水洗をせず，または土と一緒に取り上げ，アルコール100%の段階で土を落とし，土との分離作業を行い，強化，乾燥後に接合等を行った。

集計は小発掘区・ブロック単位別に内容がわかるようにした。貝・骨などの総量には現場で取り上げたものと水洗で得られたものの両者が含まれているが，土器・石器・フレイクなどについては，水洗で得られたものしか含まれていない。また，1m/mメッシュに残存していたものについては，魚骨の椎骨，微小貝などの抽出を優先し，貝，魚骨の小破片や砂礫の選別は十分に行うことができなかった。したがって，それらのものについては未選別として重量を示した。しかし，それらの大部分はイガイの小破片と砂礫である。

遺物概要

貝塚から出土した遺物の総数は111,448点，その内訳は土器25,130点（I・2，II・2,759，III・2,636，IV・3，不明・19,727），石鏃36点，石錐114点，ポイントまたはナイフ21点，つまみ付きナイフ5点，スクレイパー43点，石斧4点，石斧薄片78点，すり石24点，北海道石冠11点，球石11点，たたき石44点，くぼみ石10点，石鋸3点，砥石49点，石皿・石台23点，コア36点，フレイク82,541点，U・Rフレイク91点，礫△790点，焼礫89点，原石3点，礫5,274点，土・石製品6点，骨角製品12点である。

土器はII・III群が主体で，III群B3類が最も多い。不明19,727点の大部分は，水洗で得られた小破片である。

剝片石器は219点，石鏃，石錐，スクレイパーが多いが，石錐（114点）が半数以上を占めているのが大きな特徴である。礫石器は257点，石斧薄片以外ではたたき石と砥石が多いのが特徴である。

フレイク82,541点のうち65%は水洗で得られたものである。

以上説明した石器類の大部分は貝塚の時期・縄文時代中期末，III群B3類土器に伴うものが多いと思われるが，土器の内訳が示すとおり，II群土器も相当量含まれているので，下層及び周辺の住居跡の時期・縄文時代前期末～中期初頭，II群B類土器に伴うものも含まれているようである。

次に水洗処理で得られた自然遺物類の概要を説明する。なお，貝類，獣・魚骨類の詳細については第IV章3(6)を参照願いたい。

水洗処理した土壌の総重量は1,115,780g，容量は1,351,730cc，水洗後の自然遺物等の重量は96,679.1g（水洗前の9%），容量は100,984cc（水洗前の7%）で，重量，容量ともに10分の1になっている。これらのほか，第I層の耕作土ないし撹乱層で得られた土壌419,380gについても水洗処理し，44,397.3gの自然遺物等が得られているが，これらについては土器・石器・フレイクは選別し，集計しているが，残りの自然遺物については，特徴的なものを抽出したにすぎない。

水洗後の96,679.1gの内訳は，貝・骨類は28,828.4g（30%），土器・石器・フレイク・礫

等44,460.1g（46%），未選別23,390.6g（24%）であるが，未選別の重量の大半は礫であるので，貝・骨類は全体の約30%と考えてよいことになる。この割合は混土貝層と混貝土層及び焼土を平均したもので，貝塚土壌中の混貝・骨の割合は，混土貝層（FSb—1A・2・3）で68～82%，混貝土層（FSb—1B・4・5）で5～48%，焼土（FF—20・21・22・24）で0～38%となる。

貝類等は26,854.6g，イガイ類が98%(26,330.1g)を占め，次にフジツボ類(0.8%・207.6g)，ヤマトシジミ（0.4%・119.6g）が多く，マガキ（43.3g），オオウヨウラクガイ（6.4g），コベルトフネガイ(22.3g)，コタマガイ(44.9g)，ウチムラサキガイ(2.7g)，ヒザラガイ類（1.2g），その他の微小貝類（17.3g）などがわずかにみられた。

獣骨は500.5g，海獣骨が77%（383.3g）を占め，次に小・中型の陸獣骨（13%・64.0g），他にエゾシカ（5%・24.3g），鳥類（3%・14.6g），ネズミ類（2%・13.1g）とわずかのカエル（0.1g），ヘビ類（0.2g）がみられる。

魚骨は1,473.3g，そのうち68%（1,012.5g）は棘などの細片で，残り473gが，椎骨及び部位が確認できたものである。また，473gのうち種類が確認できたのは90%で，ヒラメ（169.7g），ニシン(92.0g)が多く，次にサケ科(54.0g)，カレイ類(49.1g)，ホッケ(26.9g）があり，わずかにサメ・エイ類（4.7g），コイ科・マルタ（3.7g），カサゴ類（10.9g），アイナメ（7.3g）などがみられた。また，1点または数点確認されたものでは，フグ，カナガシラ，カジカ，スズキ，マダイ，ボラ，タラなどがある。

貝塚ブロック・焼土

ここではブロック・焼土の大きさと水洗処理データを説明する。

FSb—1A(混土貝層） 大きさは1.30×0.44m，厚さは最大12cm。採取土壌重量は33,060g，容量は35,400cc，水洗後の重量は5,862.4g（水洗前の18%），容量6,702cc。貝・骨類の割合は82%，その内訳は貝類81%，獣骨1%。

貝類等では若干のフジツボ類(37.2g)，ウニ類(0.4g)があるが，イガイ類が98%(4,696.3g)を占め，他にヤマトシジミ(5.9g)，オオウヨウラクガイ(0.1g)，コベルトフネガイ(10.0g)，コタマガイ（4.0g），ウチムラサキガイ（0.3g），その他の微小貝（2.4g）などがある。

獣骨は10.2g，ネズミ類(0.3g)，エゾシカ骨片(2.6g)，小・中型獣(0.5g)，海獣類(6.8g）で，アシカの手根骨の一部が確認されている。

魚骨は59.6g，ニシン科(3.6g)，サケ科(2.8g)の椎骨が多く，他にコイ科・マルタ(0.2g)，カサゴ類（0.3g），ホッケ（1.0g），アイナメ（0.2g），ヒラメ（0.6g），カレイ類(1.1g)，フグ（0.1g）などが確認されている。

骨角器は1点，海獣骨を素材としたもので，先端と基部を欠損した中間部の破片であるが，開窩式の銛頭の可能性が強い（図III—295—8)。

FSb—1B(混貝土層） 大きさは0.94×0.30m，厚さは最大5cm。採取土壌重量は10,230g，容量は12,600cc，水洗後の重量は937.2g（水洗前の9%），容量1,940cc。貝・骨類の割合は48%，その内訳は貝類44%，獣骨1%以下，魚骨4%と，魚骨が比較的多い。

貝類等は410.8g，わずかのフジツボ類（0.8g）と微小貝（0.1g以下）以外はすべてイガイ類（410.0g）である。

獣骨は1.5g，ネズミ類（0.3g），鳥骨（0.3g），小・中型陸獣（0.4g），海獣類（0.5g）が少量ずつみられるのみである。

魚骨は40.8g，ヒラメ（4.3g）が多く，サメ・エイ類（0.2g），ニシン科（0.7g），サケ科（0.2g），カサゴ類（0.5g），ホッケ（0.4g），アイナメ（0.2g），カレイ類（0.7g）などがわずかにみられる。ヒラメは大型の椎骨が25個みられ，それらのうちいくつかはまとまって出土している。

FSb—2(混土貝層)　大きさは1.25×0.75m，厚さは最大12cm，2カ所の撹乱がみられる。FSb—5より上位に位置するが，FSb—3との新旧関係はわからない。採取土壌重量は61,960g，容量は72,100cc，水洗後の重量は9,432.5g(水洗前の15%)，容量11,020cc。貝・骨類の割合は80%，その内訳は貝類78%，獣骨1%以下，魚骨2%である。

貝類等は7,376.6g，若干のフジツボ類（29.0g），ウニ類（0.4g）があるが，イガイ類が98.5%を占め，他にヤマトシジミ（42.1g），マガキ（5.4g），オオウヨウラクガイ（1.1g），コベルトフネガイ（3.5g），ヒザラガイ類（0.3g），その他の微小貝（7.5g）などもわずかにみられる。

獣骨は5.7g，ヘビ類（0.1g），ネズミ類（0.3g），鳥類（0.1g），小・中型陸獣類（0.7g），海獣類（4.5g）などがあり，アシカの肩甲骨が確認されている。

魚骨は182.5g，ヒラメ（25.3g），ニシン科（8.7g），カレイ類（6.9g），サケ科（6.4g）が多く，サメ・エイ類（0.2g），コイ科・マルタ（0.2g），ホッケ（2.2g），アイナメ（0.7g），カナガシラ（0.2g），カジカ（0.1g）などがわずかにみられる。最も多いヒラメは椎骨が5点のみであるのに対し，歯骨・舌顎骨・主上顎骨など主要部位が複数出土しているのが特徴である。

FSb—3(混土貝層)　大きさ2.08×1.58m。厚さは最大9cm，くの字状の平面形で，3カ所の撹乱がみられる。FSb—1A・B，FF—22より下位，FSb—5より上位に位置している。採取土壌重量は66,790g，容量は73,650cc，水洗後の重量は14,382.4g(水洗前の22%)，容量14,531cc。貝・骨類の割合は68%，その内訳は貝類66%，獣骨1%以下，魚骨2%である。

貝類等は9,548.0g，若干のフジツボ類（114.5g），ウニ類（1.0g）の他はイガイ類が98%（9,371.3g）を占め，ヤマトシジミ（27.3g），マガキ（5.5g），オオウヨウラクガイ（2.5g），コベルトフネガイ（4.8g），コタマガイ（9.9g），ヒザラガイ類（0.6g），その他の微小貝類（2.0g）などがわずかにみられる。他のブロックに比べフジツボ類が全体の1%を占めているのが特徴的である。

獣骨は8.7g，ネズミ類（0.5g），鳥類（0.1g），小・中型陸獣類（1.5g），海獣類（6.6g）はいずれも骨片である。

魚骨は225.1g，ヒラメ（16.1g），ニシン科（11.9g）が多く，他はサメ・エイ類（0.4g），サケ科（5.6g），コイ科・マルタ（0.1g），カサゴ類（1.8g），ホッケ（3.0g），アイナメ（0.5g），カレイ類（2.4g）などがわずかにみられる。

FSb—4(混貝土層)　大きさは4.50×2.50m，厚さは最大20cm，北側の未調査区域に延びており，4カ所の撹乱がみられる。FF—24より下位に位置する。採取土壌重量は552,250g，容量677,370cc，水洗後の重量は41,452.4g（水洗前の8%），容量42,000cc。貝・骨類の割合は7%，その内訳は貝類5%，獣骨1%，魚骨1%である。

貝類等は1,930.7g，若干のフジツボ類(6.3g)，ウニ類(0.3g)があるが，イガイ類が97%を占め，他にヤマトシジミ（23.2g），マガキ（7.8g），コベルトフネガイ（0.1g），コタマ

ガイ（14.7g），その他の微小貝類（3.6g）などがわずかにみられるだけである。

獣骨は321.7g，海獣類が72％（231.6g）を占め，次に小・中型陸獣類（46.2g）があり，他はエゾシカ（19.9g），鳥類（13.5g），ネズミ類（10.4g），カエル（0.1g）がみられる。海獣類ではアシカ，イルカ類がみられ，小・中型陸獣類ではキツネ，カワウソ，イヌ，鳥類ではワシ・タカ類などが確認されている。

魚骨は529.2g，ヒラメ（76.4g），ニシン科（50.0g）が多く，次にサケ科（25.8g），カレイ類（28.1g），ホッケ（14.29g），他はサメ・エイ類（2.4g），コイ科・マルタ（2.5g），カサゴ類（6.8g），アイナメ（4.3g），マダイ（1.4g），スズキ（3.5g），カナガシラ（0.1g），カジカ（0.1g）などがみられる。最も多いヒラメは主要な部位もかなり出土しているが，椎骨が62個みられる。

骨角器は，海獣骨を素材にした銛頭（図III—295—1），鹿角素材の釣針未成品（図III—295—2），鹿の四肢骨片素材のヘラ状骨製品（図III—295—3），海獣骨素材の不明骨製品4点（図III—295—5～7，11）などのほか，奇形の鹿角に折断痕がみられるもの（図III—296—1）などがある。

FSb—5（混貝土層）　大きさ3.20×2.36m，厚さは最大8cm，FSb-1A・1B・2・3，FF—22の下位にあり，6カ所の撹乱がみられる。採取土壌重量は305,020g，容量は377,980cc，水洗後は17,337.9g（水洗前の6％），容量16,591cc。貝・骨類の割合は5％，その内訳は貝類3％，獣骨1％，魚骨1％である。

貝類等は528.3g，わずかのフジツボ類（4.3g）があり，他はイガイ類が86％（452.4g）が占め，ヤマトシジミ（21.1g），マガキ（24.6g），オオウヨウラクガイ（2.9g），コベルトフネガイ（3.7g），コタマガイ（9.0g），その他の微小貝（1.3g）などがみられる。

獣骨は135.9g，海獣類が88％（119.1g），小・中型陸獣類が10％（13.3g），他はヘビ類（0.1g），ネズミ類（1.1g），鳥類（0.5g），エゾシカ（1.8g）などがわずかにみられるだけである。海獣類では，アシカ，イルカ類，小・中型陸獣類ではキツネ・イヌが確認されている。

魚骨は168.3g，ヒラメ（29.9g），ニシン科（10.7g）が多く，他はサメ・エイ類（0.5g）サケ科（6.9g），コイ科・マルタ（0.6g），カサゴ類（1.1g），ホッケ（3.6g），アイナメ（0.7g），カレイ類（6.7g）などがわずかにみられた。

骨角器は鳥骨を素材にした針状骨製品（図III—295—4）とその未成品と思われるもの（図III—295—9），同じく鳥骨を素材にした管状骨製品（図III—295—10）の3点が出土している。

FF—20（焼土）　大きさ0.40×0.29m，厚さは最大4cm。採取土壌重量は1,730g，容量は1,850cc，水洗後の重量は1,250g（水洗前の7％），容量153cc。貝・骨類の割合は1％，その内訳は貝類なし，獣骨1％以下，魚骨1％である。

獣骨は0.2g，海獣類の骨片のみがみられた。

魚骨は1.2g，ニシン科（0.1g），サケ科（0.1g）のみが確認できた。

FF—21（焼土）　大きさ0.52×0.48m，厚さは最大7cm。採取土壌重量は6,480g，容量は7,800cc，水洗後の重量は194.2g（水洗前の3％），容量は296cc。貝・骨類の割合は1％以下，貝類，獣骨はなく魚骨のみが1％以下である。

魚骨は0.8g，サケ科（0.2g）のみが確認できた。

FF—22（焼土）　大きさは1.72×1.41m，厚さは最大10cm，3カ所の撹乱がみられ，FSb—1

A・1Bより下位で，FSb—3より上位に位置している。採取土壌重量は74,320g，容量は87,680cc，水洗後の重量は6,692.8g（水洗前の9％），容量は7,351cc。貝・骨類の割合は38％，その内訳は貝類34％，獣骨1％以下，魚骨4％である。

貝類等は2,290.6g，若干のフジツボ類（15.5g）の他はイガイ類が99％（2,266.9g）を占め，コベルトフネガイ（0.2g），コタマガイ（7.3g），その他の微小貝類（0.5g）がわずかにみられる。

獣骨は15.9g，海獣類が85％（13.5g），他はネズミ類（0.2g），鳥類（0.1g），小・中型陸獣類（2.1g）がみられるが，いずれも骨片である。

魚骨は261.8g，ヒラメ（6.4g），ニシン科（6.3g），サケ科（5.8g）が多く，他はサメ・エイ類（0.6g），コイ科・マルタ（0.1g），カサゴ類（0.2g），ホッケ（2.5g），アイナメ（0.4g），カレイ類（2.8g），ボラ（0.5g）などがみられる。

FF—24(焼土)　大きさ0.48×0.28m，厚さは最大4cm。採取土壌重量は3,940g，容量は5,300cc，水洗後の重量は262.3g（水洗前の7％），容量は330cc。貝・骨類の割合は2％，その内訳は貝類，獣骨とも1％以下，魚骨2％である。

貝類等は0.1g，イガイ類の破片のみである。

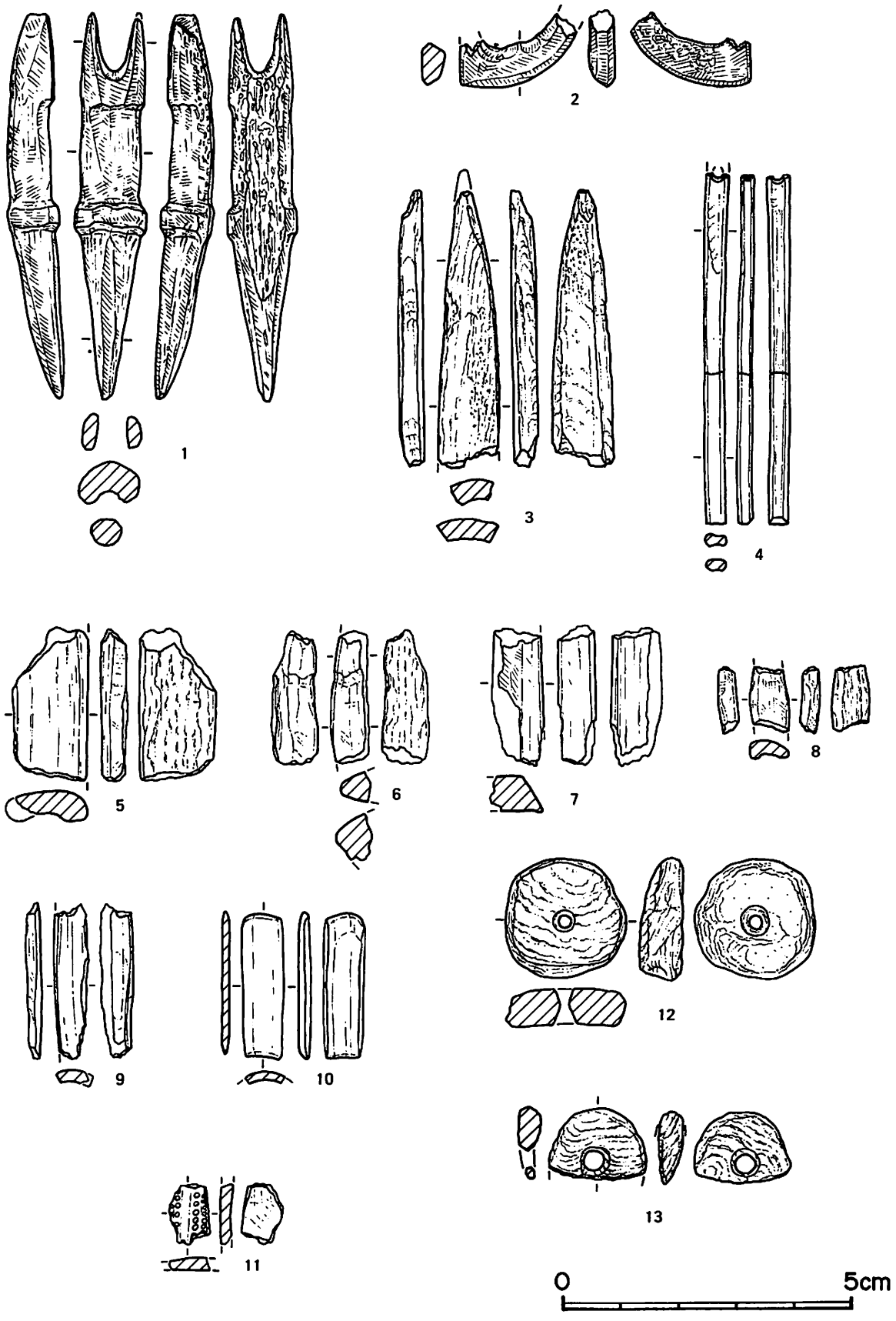
獣骨は0.7g，小・中型陸獣類（0.2g）と海獣類（0.5g）の骨片のみがみられる。

魚骨は4.0g，ニシン科（0.1g），サケ科（0.2g），ヒラメ（0.1g）のみが確認されたのみである。

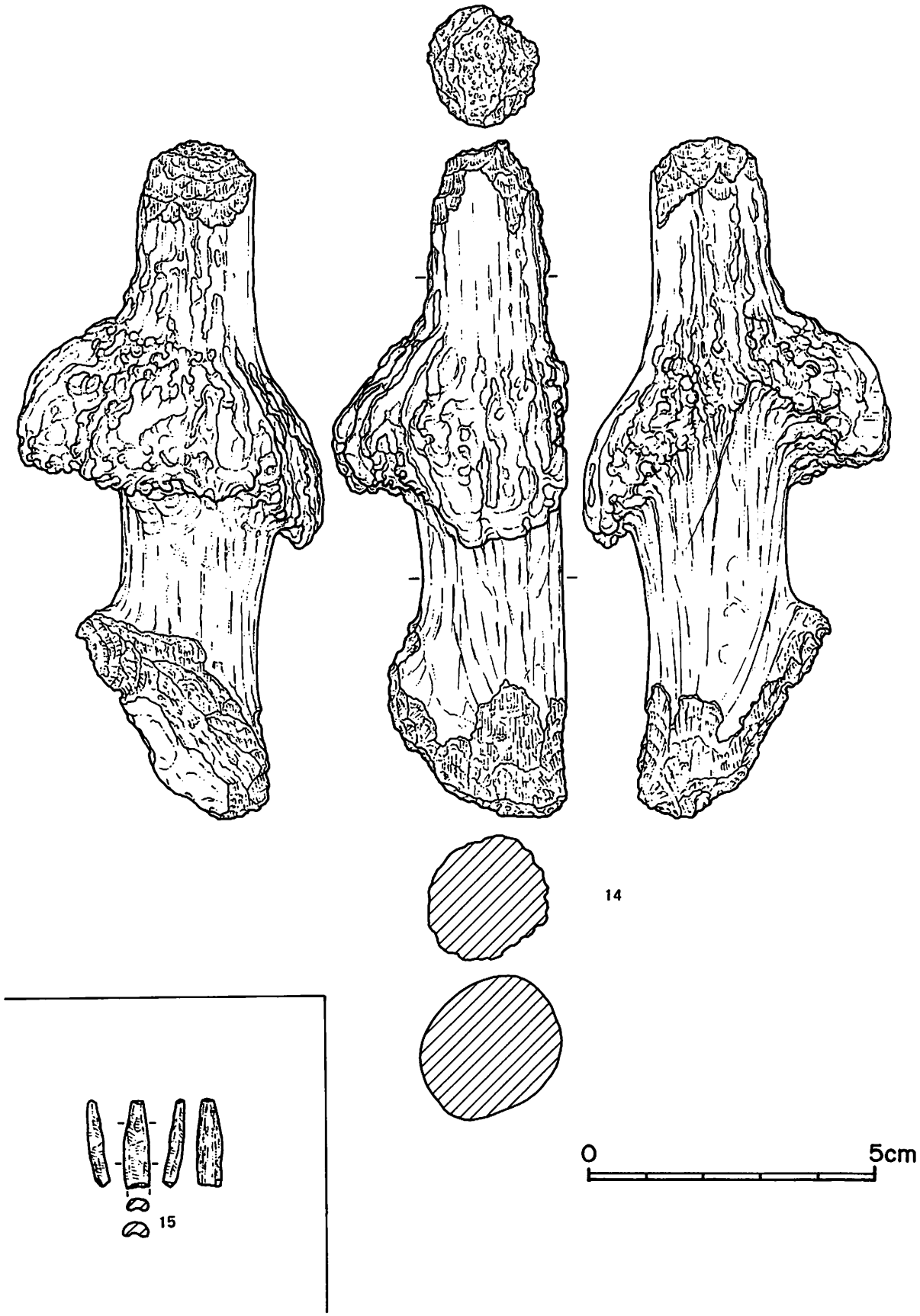
骨角器（図III—295・296）

1は開窩式，根ばさみタイプの銛頭である。海獣類の肋骨を素材とし，内側の海綿質部分を凹面に整形している。根ばさみ部の先端がわずかに欠損しているが，ほぼ完形である。整形は丁寧で，表面には横方向の細かな擦痕がみられ，面取りをしながら全体の形を調整している。2は鹿角を素材とした釣針の未成品と思われ，軸とさきが欠損している。断面はD字形，表面には細かな擦痕がみられ，整形途中で欠損したものとみられる。3はエゾシカの四肢骨を縦割りにしたものを素材としてヘラ状骨製品で，先端部が整形されているのみである。4は鳥類の尺骨を素材にした針状骨製品で，孔部分と先端が欠損している。調整は丁寧で，断面はダルマ状になっている部分もある。5～7は海獣骨を素材としているものであるが，破片なので全体の形状，用途は不明である。8も海獣骨を素材とした骨製品の小破片であるが，開窩式の銛頭の先端部に近い部分と思われる。9・10は鳥管骨を素材としたもので，9は針状骨製品の未成品，10は管状骨製品の破片とみられる。11は海獣骨を板状に整形したものの片面に小さな円形の刺突文を施しているものであるが，全体の形状，用途は不明である。12・13はビノスガイを素材とした貝製平玉である。12は表採資料で，表面は風化しているがほぼ完形である。周縁は打ち欠きによって，整形された痕跡がみられ，わずかに凹凸を呈している。貝の表面側はわずかに輪脈が残り，整形されていないことがわかる。孔はほぼ中央にあり，両側から穿孔されている。13は12と同様の作りと思われるが，全体に風化が著しいので詳しいことは不明である。12よりひと回り小さいものかもしれない。14は奇形の鹿角の右角座部分で，頭骨部分及び先端側に折断痕がみられる。折断痕は階断状になっている。

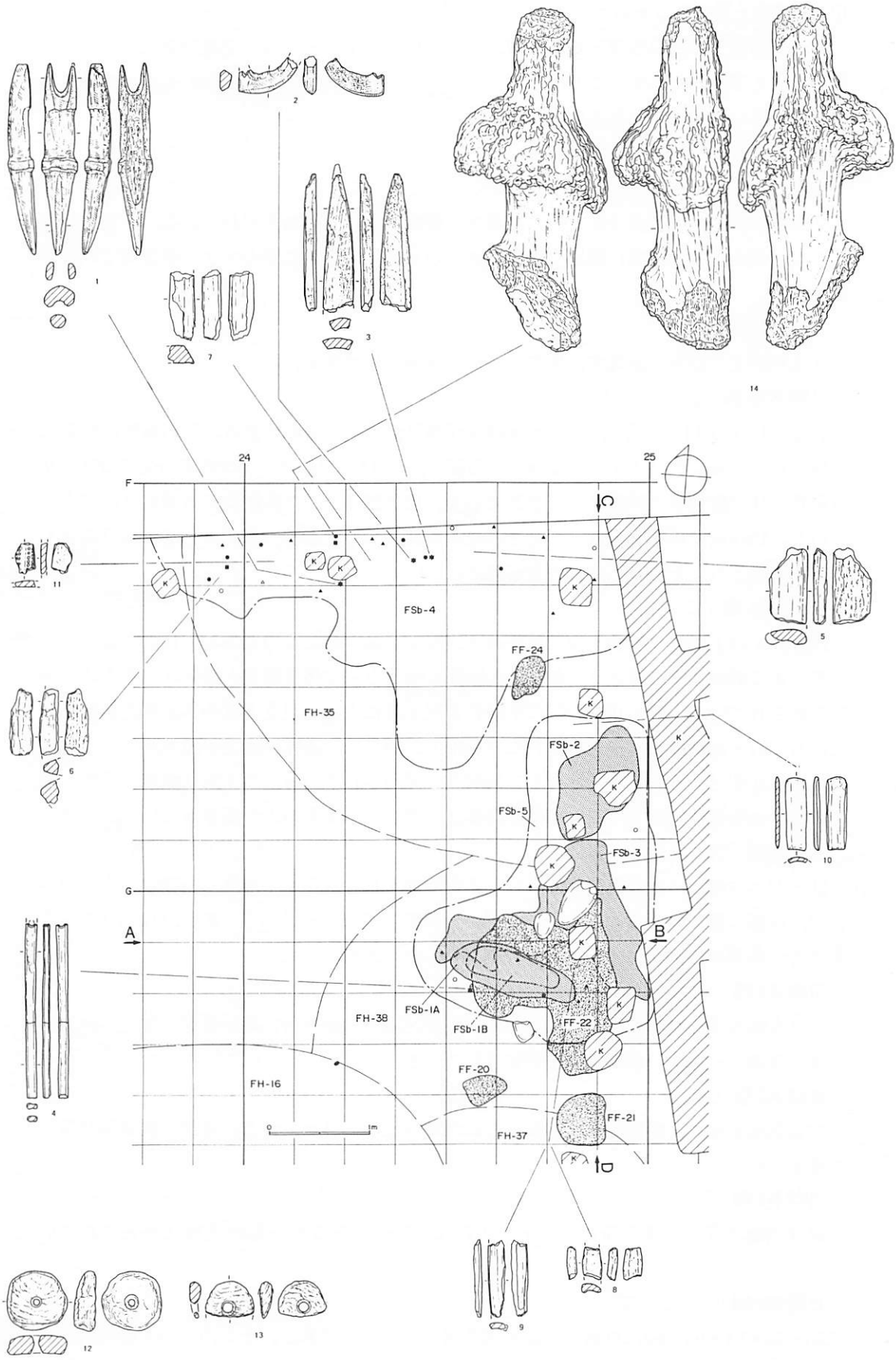
15はFH—33から出土した小型の開窩式の銛頭とみられるものである。焼けて白色化し，少し変形していると思われるが先端部分と思われる。時期は貝塚同様，縄文時代中期末・



図III—295　骨角器(1)



図Ⅲ—296　骨角器(2)



図III—297　骨角器分布図

III群 B3 類土器に伴うものである。

骨角器の出土位置は図III—297に示したとおりで，主にFSb—4で発見されている。獣骨類の出土もFSb—4が多いことなどからみて，貝の廃棄と骨角器•獣骨類の廃棄は異った意識が働いているのかもしれない。

貝塚出土の土器（図III—298・299）

II群 B1 類（2～4）

2は角形の口唇部断面である。口唇端部・頸部に縄線文が加えられている。3は丸味をもつ口唇部断面で，頸部に縄線文が施されている。4は体部に節の大きい斜行縄文が施されている。

II群 B2a 類（8）

8は撚糸文と結束羽状縄文が施されている体部破片である。

II群 B2b 類（5～7・9～14）

5～7・9～11・14は口唇部・頸部に縄線文が施されているものである。5の体部に撚糸文が施されている。6・7・9～11は幅広の頸部で，6・11は曲線状，7は多段の矢羽根状，9は斜状，10は鋸歯状の縄線文が施されている。12は頸部に4本組紐による縄線文が施されている。13は斜行縄文・縄線文が施された口唇部のものである。14は口唇部に斜行縄文・縄線文が施され，その直下に縄線文が施されている。

II群 B2c 類（15～25）

15～19・22・25は口唇部・頸部に絡条体圧痕文が施されたものである。16は半截竹管状工具による刺突文で区画された無文地の頸部に平行な絡条体圧痕文と鋸歯状の絡条体圧痕文が施されている。17～19は頸部に半截竹管状工具による刺突文と絡条体圧痕文が施されている。21・23は斜行縄文が施された口唇部で，頸部に絡条体圧痕文が施されているもので，21の頸部は半截竹管状工具による刺突文で区画されている。20・24は頸部破片で，20は鋸歯状の絡条体圧痕文，24は絡条体圧痕文と撚糸文的なものとが施されている。

II群 B 類（26～31）

26・27は口唇部に半截竹管状工具による刺突文が施されたものである。28は無文の口唇部で，体部に櫛歯状工具による縦位の細かな刺突文が施されている。29～31は縄文のみのもので，体部に結束羽縄文と結束斜行縄文のものがある。

III群 A1 類（32）

32は丸味をもつ口唇断面で，口唇部・頸部を区画する貼付帯に縄圧痕文が加えられ，無文地の頸部には2本一組の縄線文が施されている。

III群 A2 類（33）

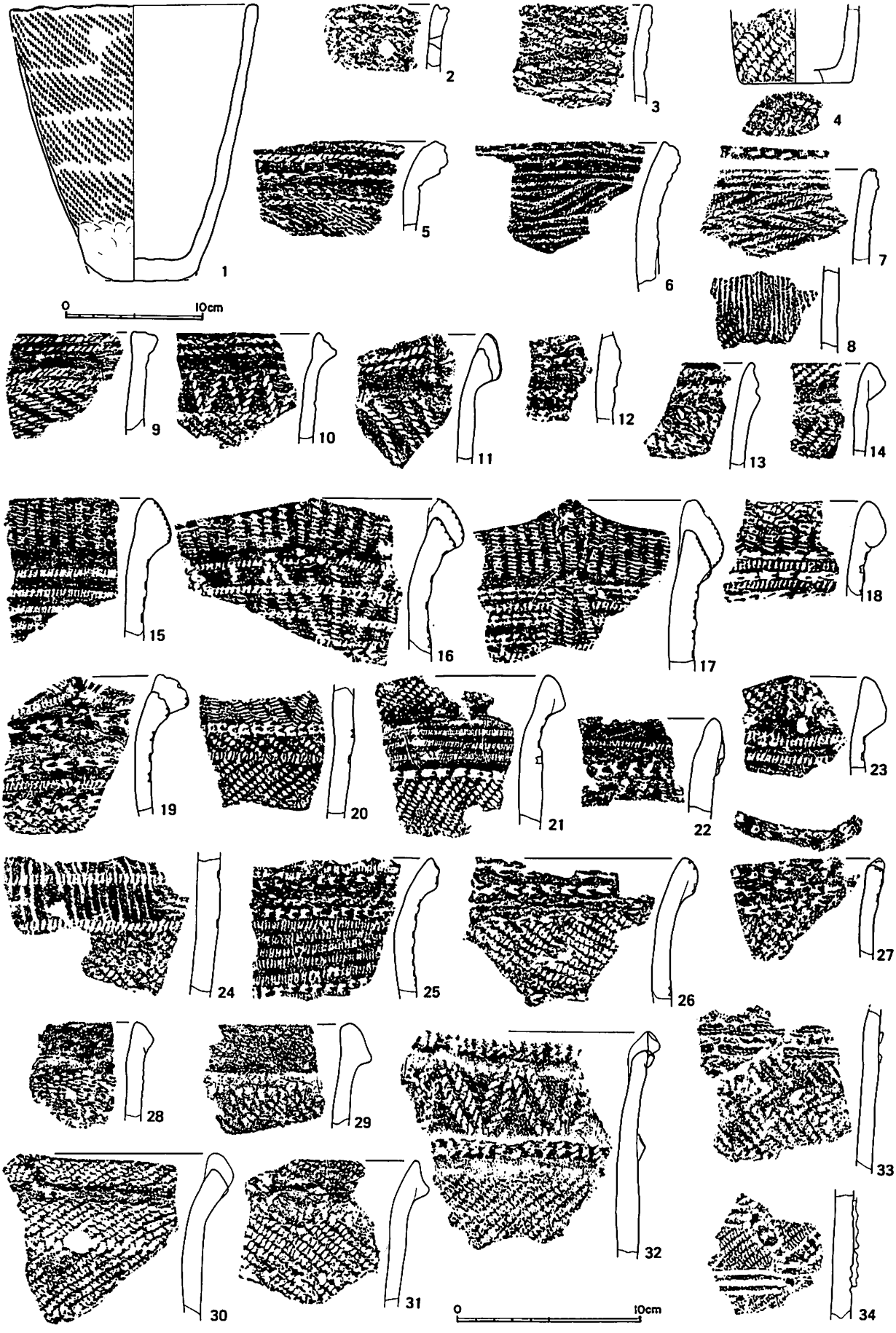
33は頸部破片で，撚糸圧痕文が加えられた貼付紐が施されている。体部は結束羽状縄文である。

III群 B1 類（34）

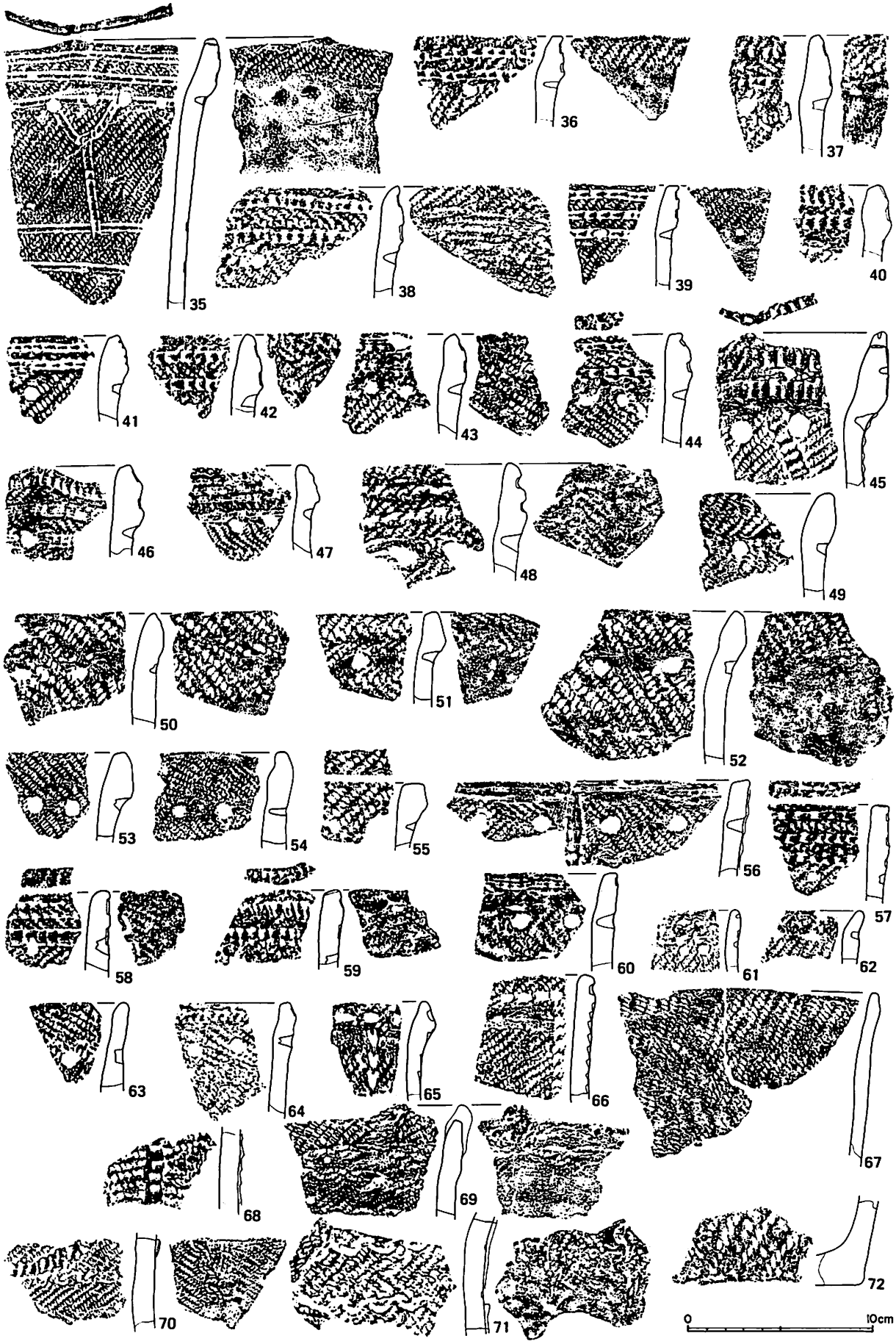
34は半截竹管状工具内面の押引が加えられた貼付帯と3本一組の沈線文が施されている。

III群 B3 類（1・35～72）

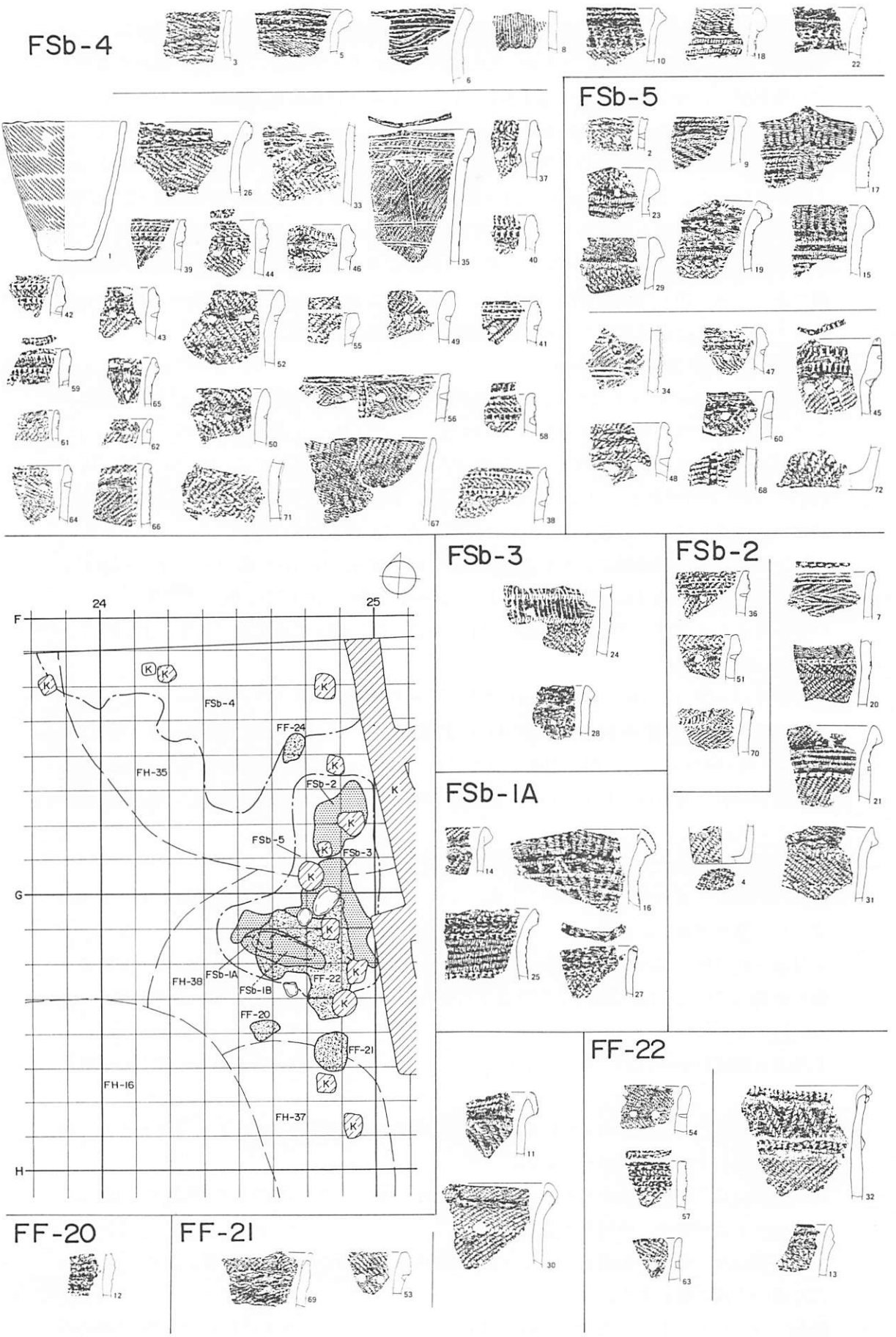
35～55・64・65・69は口唇部断面が切り出し状のものである。その内，35～48・64は口唇部に押引文が加えられ，口唇部直下に円形刺突文が施されているもの，49～55は口唇部



図III—298　貝塚の土器（1）



図Ⅲ－299　貝塚の土器（2）



図III－300　土器分布図

に押引文が加えられず肥厚帯直下に円形刺突文だけが施されているもの，65は口唇部・体部に押引文のみが施されているもの，69は縄文のみのものである。35・39・46の口唇直下の円形刺突文は押引文施文後に施文されている。37の体部は結束羽状縄文である。45は体部に押引文が加えられた貼付帯をもつ。48の口唇部の押引は縄端によるものと思われる。56～63・66・67は口唇部断面が角形ないし丸味をもつものである。56は押引文が加えられた薄い貼付けがある。57～61は押引文と円形刺突文が施されたものである。62・63は円形刺突文のみ施されたものである。1・67は縄文のみのものである。1の底部は剝離している。体部に斜行縄文が施されている。胎土は砂粒を多く，繊維を含まない。器面調整は粗雑である。68・70・71は貼付帯が施された体部破片である。68は体部に横走する地文が施されている。72は底部破片である。体部に粗い斜行縄文が施されている。

貝塚出土の石器（図III—301～306）

石鏃(1～13)　36点出土しており，その内訳はIaが2点，IIcが17点，IId_1が1点，IId_2が1点，II—が4点，IVが11点である。1はIa。2～12はIIc。13はIId_2。

石錐(14～64)　114点出土している。その内訳はIが1点，IIbが2点，IIcが2点，IIIaが105点，IVが4点である。14はIIb，15・17はIIc，16はI，18～64はIIIaで，このうち16・17には両端に機能部がある。IIIa類には珪質頁岩が多用されている。

ポイントもしくは両面加工のナイフ(65～72)　21点出土。Ia_1が5点，Ia_2が1点，Ibが2点，IIが2点，IVが11点である。65はIa_2，66～69はIa_1，70・71はIb，72はII。

つまみ付きナイフ(73～76)　5点出土。Iaが3点，IbとIIIaが各1点である。73はIb。74・75はIa。76はIIIa。

スクレイパー類(77～86)　43点出土しており，その内訳はエンドスクレイパー（E）が6点，I類が1点，II類が6点，III類が15点，IV類が2点，VI類が13点である。77～82はEII類。83・84・86はIIIaで，83は内湾する刃部を，84・86は外湾する刃部をもつ。85はIV類。

石核(87～92)　36点出土しているが，図示したものはいずれも小亜角礫状の黒曜石を素材としている。

原石(93)　3点出土。93は黒曜石の棒状の原石である。

石斧(94～97)　4点出土しており，I類が3点，II類が1点である。94はIIa_2，95～97はいずれも刃部を欠損したI類。

すり石(98～105)　24点出土している。図示したうち99は礫の両側を，他はいずれも礫の一側を使用している。104・105は半円状扁平打製石器と称されているもので，使用部位がzig-zag状になっている。

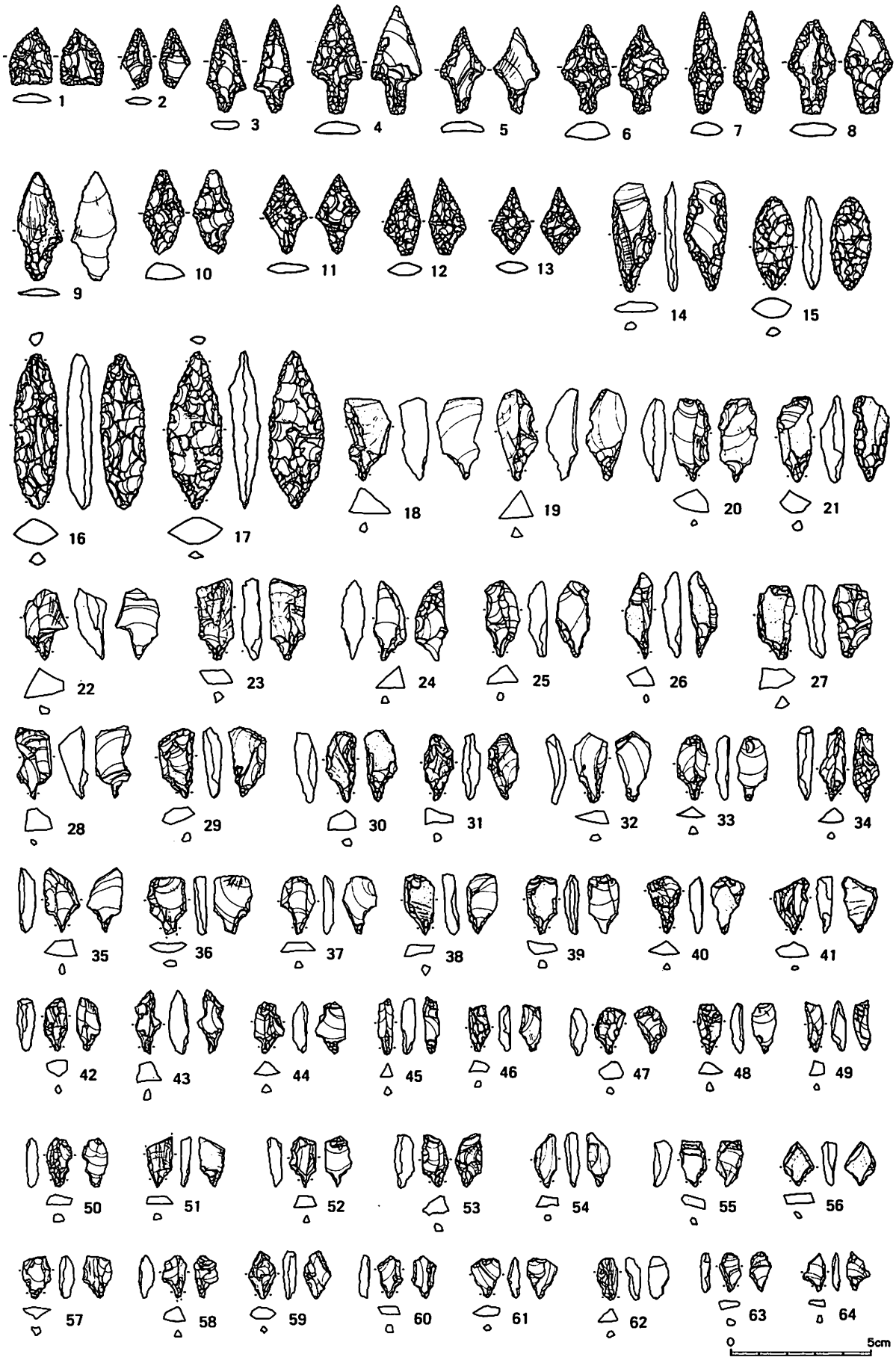
北海道式石冠(106～111)　11点出土している。110・111は石皿・台石等を半割した未成品である。

球石(112～114)　11点出土している。肉眼では使用痕が判然としないが，すり石もしくはたたき石としての機能が考えられる。

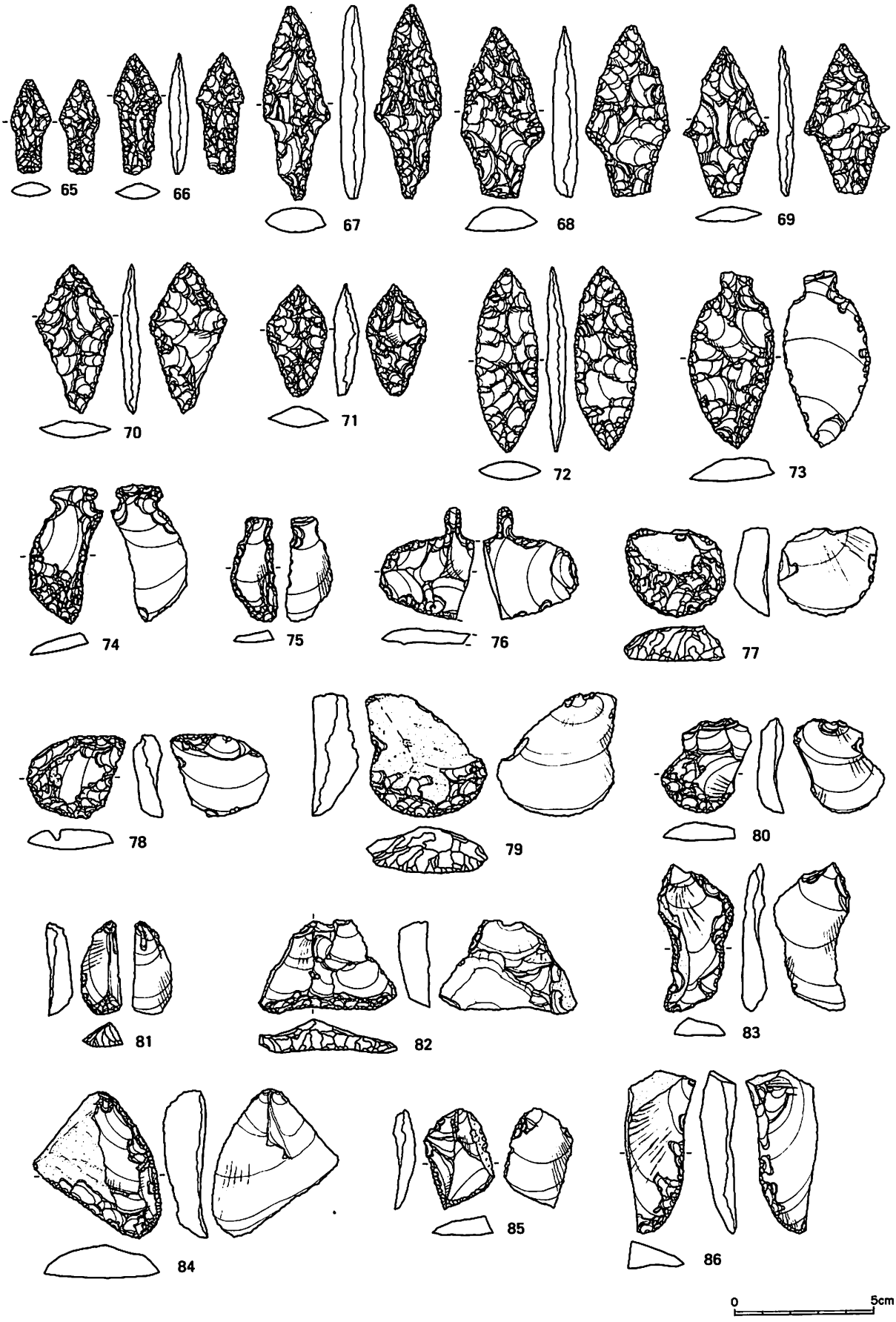
たたき石(115～123)　44点出土している。121は一端に，115～120・122は両端に，123は両端と側縁および腹面に使用痕が認められる。

くぼみ石(124～126)　10点出土している。124・125は両面に深いくぼみ痕があり，126は一面に浅いくぼみ痕がある。

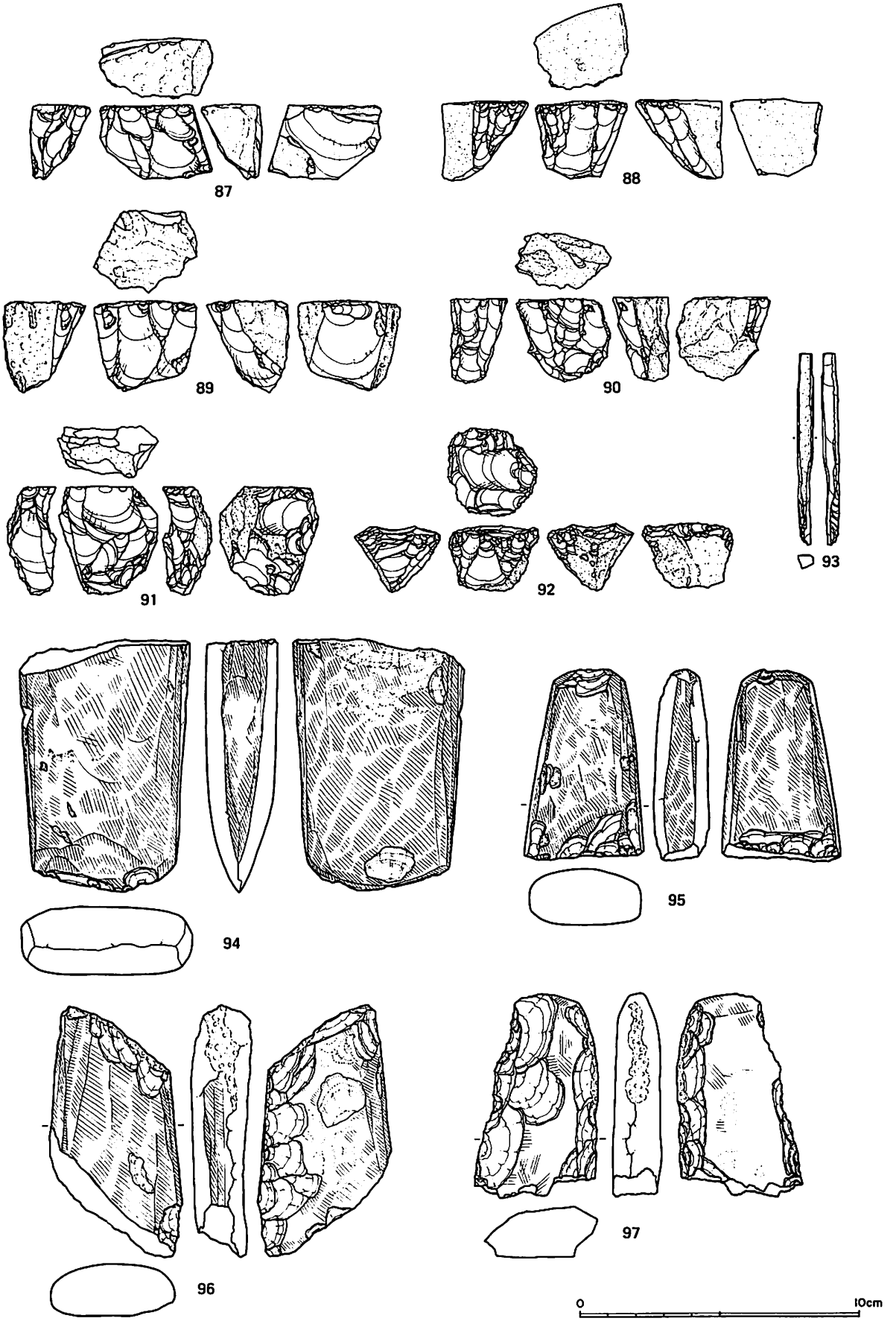
砥石(127～130)　小破片を含めて49点出土している。127は六面を使用したもの。128・129



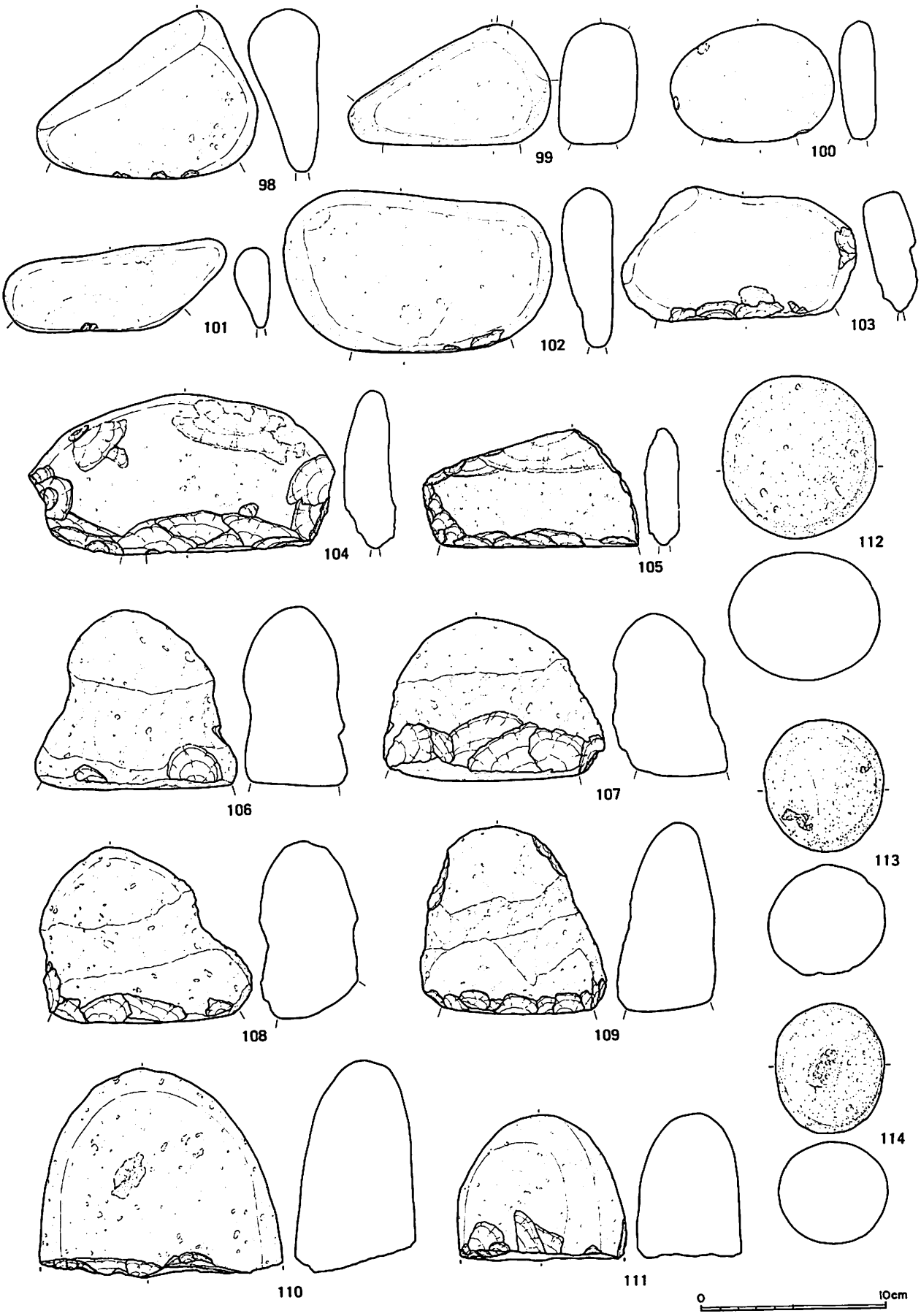
図III—301　貝塚の石器（1）



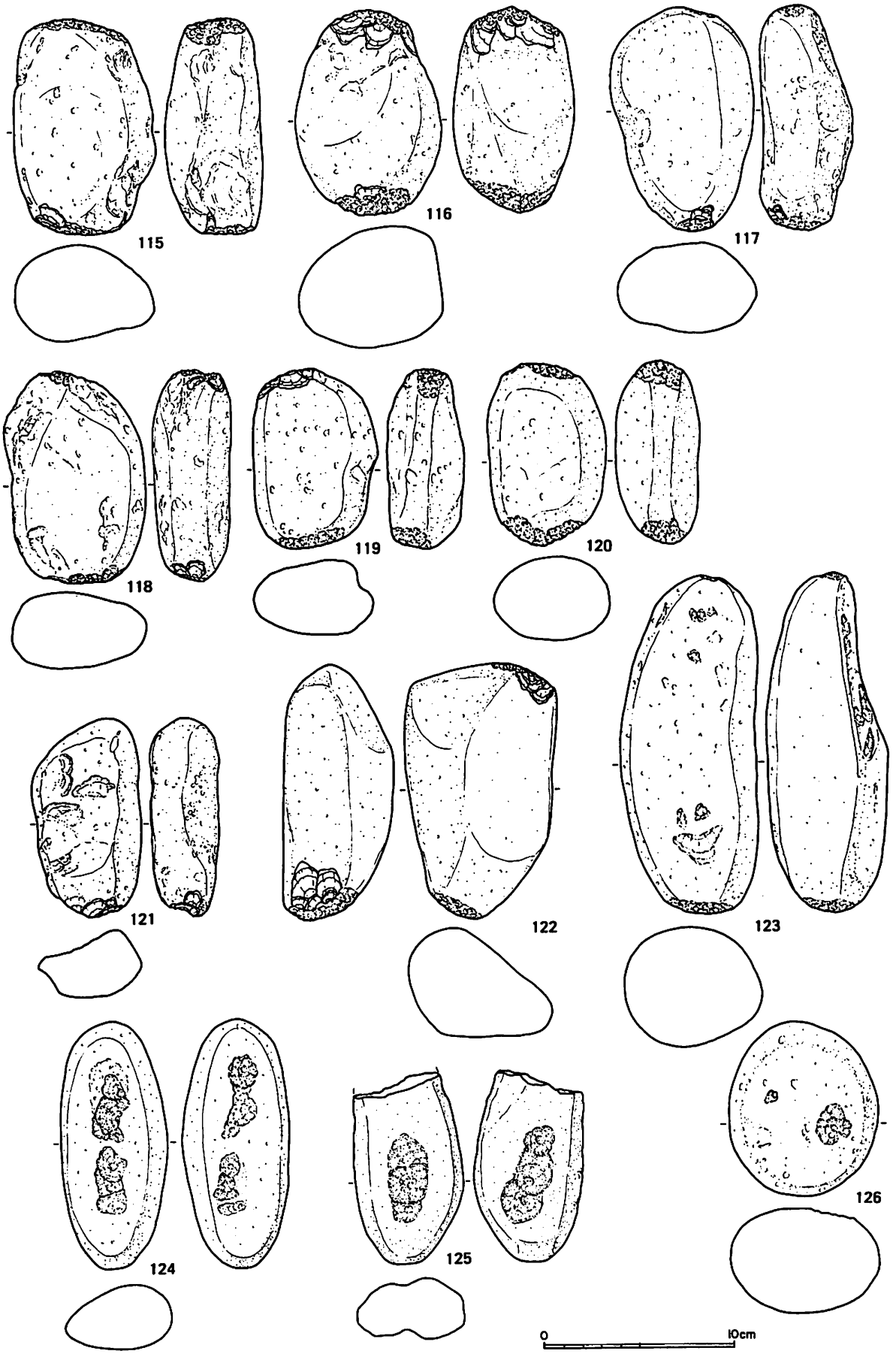
図Ⅲ—302　貝塚の石器(2)



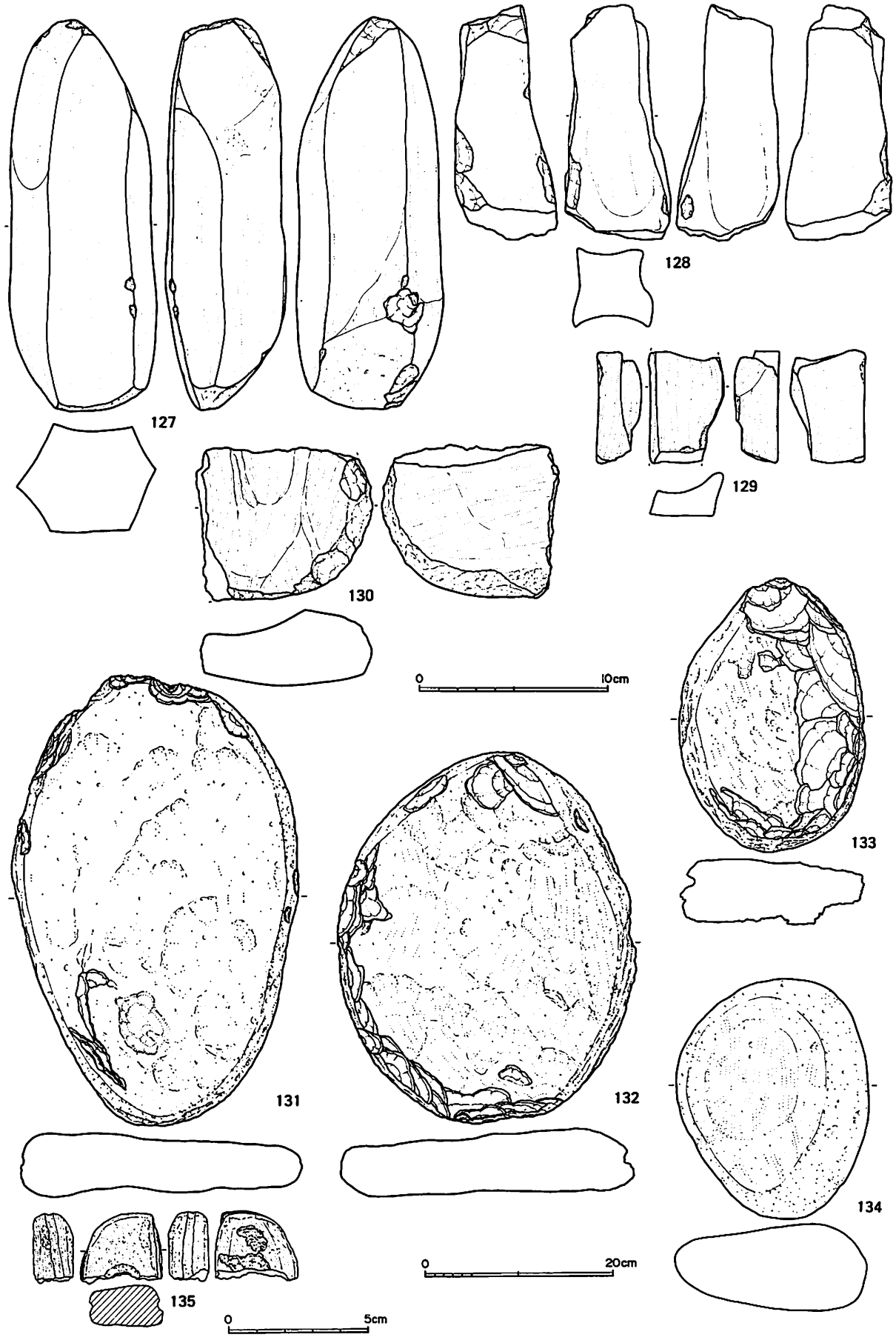
図III—303　貝塚の石器(3)



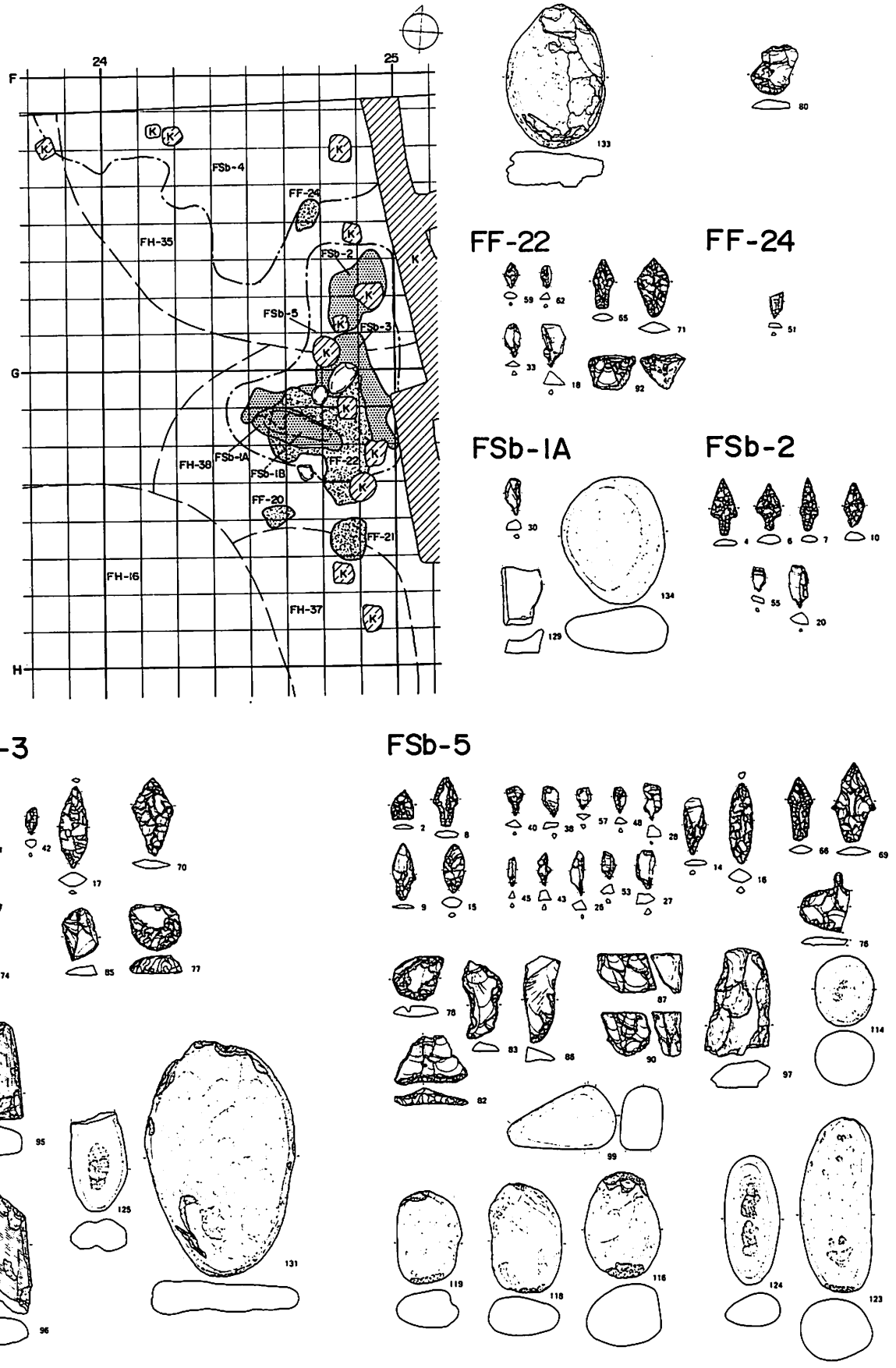
図Ⅲ—304　貝塚の石器（4）



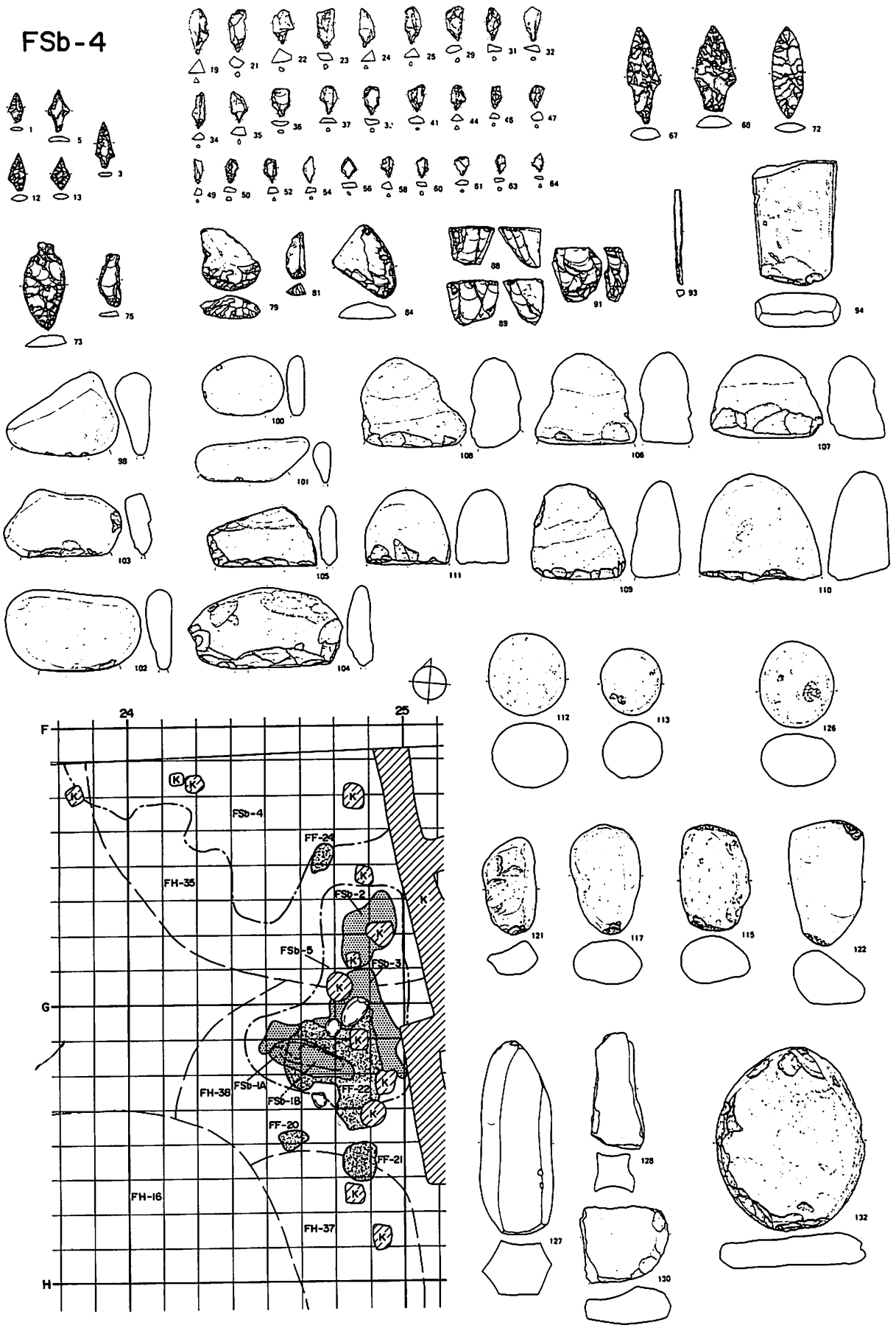
図III—305　貝塚の石器(5)



図Ⅲ－306　貝塚の石器（6）

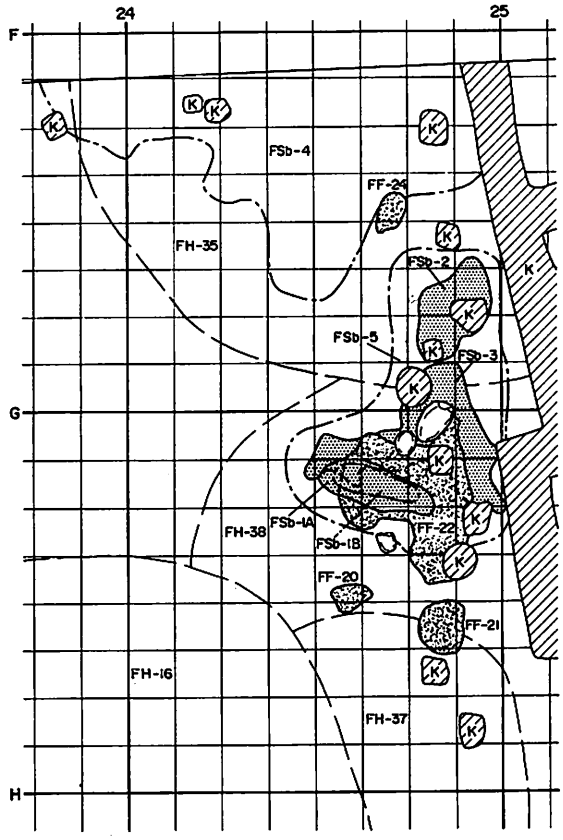


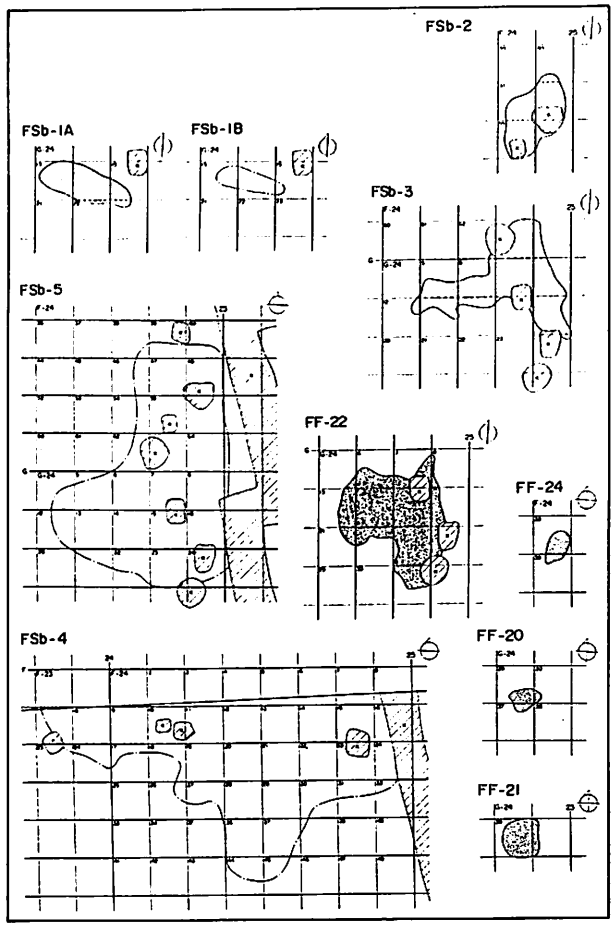
図III—307 石器分布図(1)



図Ⅲ—308　石器分布図(2)

貝塚ブロック・焼土平面図





※単位100ｇ、以下四捨五入

FSb-2 61,960ｇ

FSb-1A 33,060ｇ

FSb-1B 10,230ｇ

FSb-3 66,790ｇ

FSb-5 305,020ｇ

FF-22 74,320ｇ

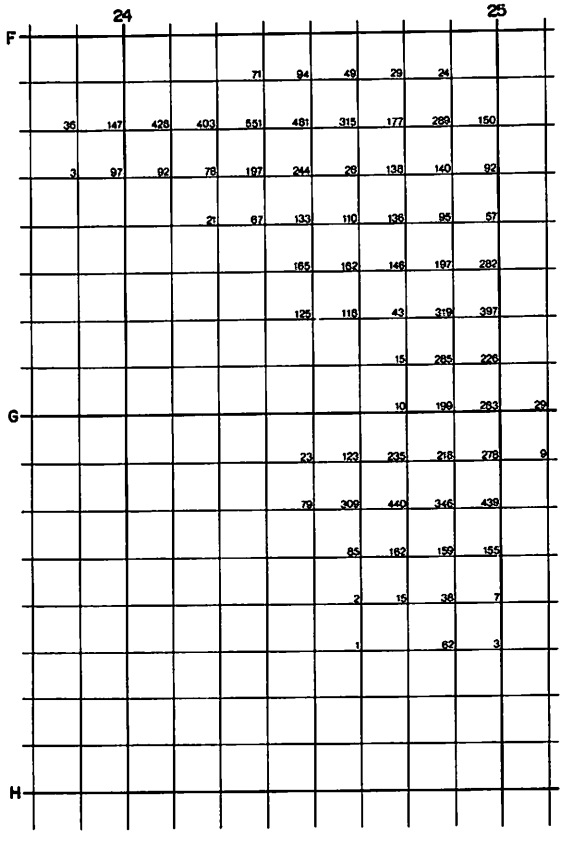
FF-24 3,940ｇ

FSb-4 552,250ｇ

FF-20 1,730ｇ

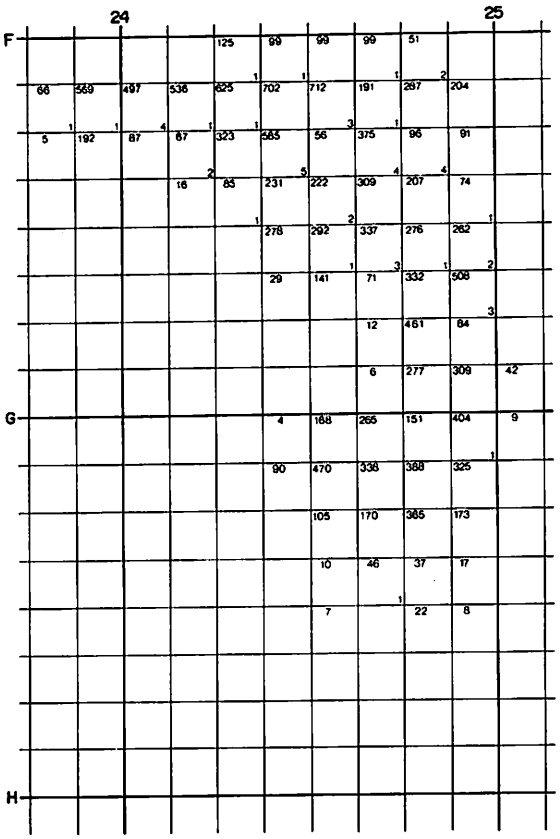
FF-21 6,480ｇ

貝塚土壌　総重量 1,115,780ｇ（単位100ｇ）



図III—309　水洗データ図（1）

土器　15,172点、石器　48点



※左上が土器、右下が石器

FSb-2　628.2点

FSb-1A 350.0点

FSb-1B　117.0点

FSb-3 605.1点

FSb-5 3,691.7点

FF-22 1,049.0点

FF-24 63.0点

FSb-4 8,576.37点

FF-20 60.1点

FF-21 30.0点

※左上が点数、右下が重量（単位１ｇ
以下は四捨五入）

FSb-2 1,013点 92.1ｇ

FSb-1A 743点 70.6ｇ FSb-1B 454点 31.4ｇ

FSb-3 3,861点 263.5ｇ

FSb-5 19,968点 1,073.1ｇ

FF-22 3,075点 172.0ｇ

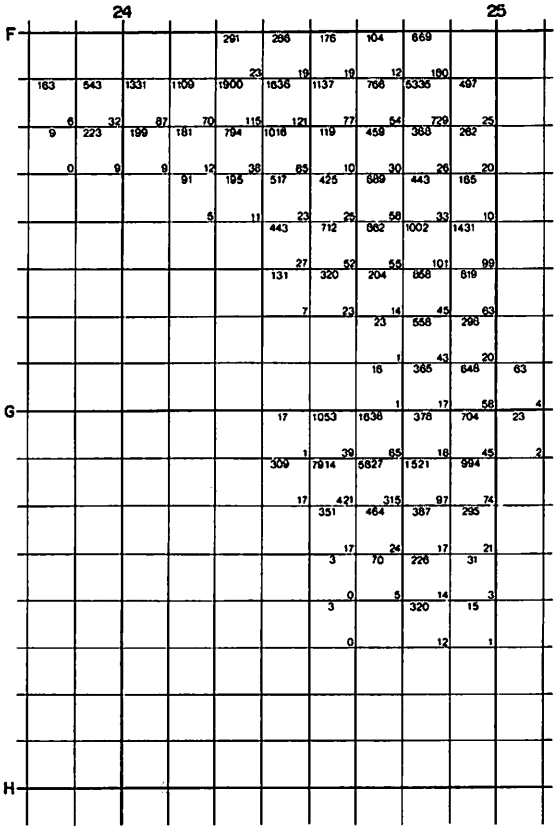
FF-24 269点
16.3ｇ

FSb-4 23,598点　2,073.0ｇ

FF-20 76点 5.6ｇ

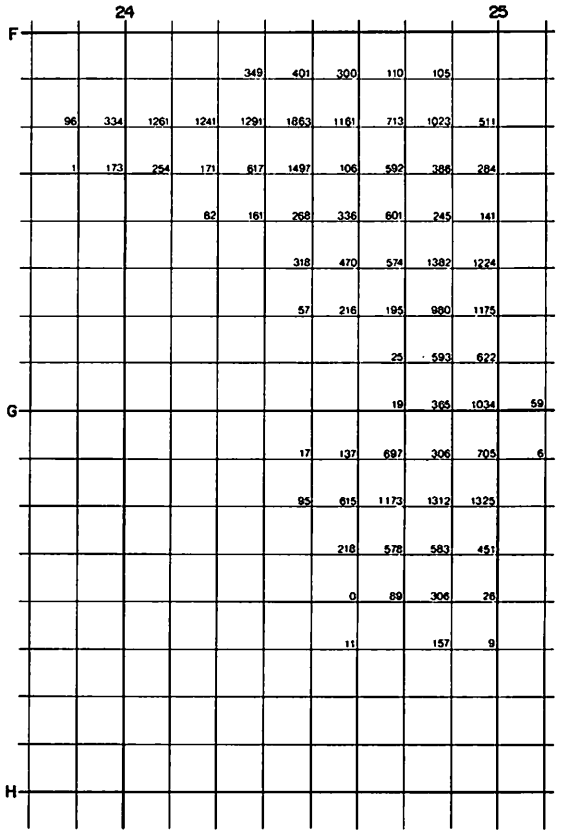
FF-21 335点 12.8ｇ

フレイク　53,392点・3,810.4ｇ



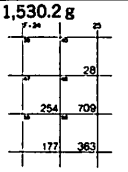
図Ⅲ—310　水洗データ図（２）

礫　34,793.0ｇ（単位１ｇ）

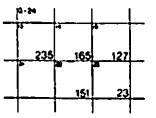


※単位１ｇ、以下は四捨五入

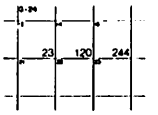
FSb-2 1,530.2ｇ



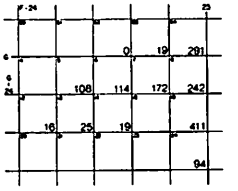
FSb-1A 700.1ｇ



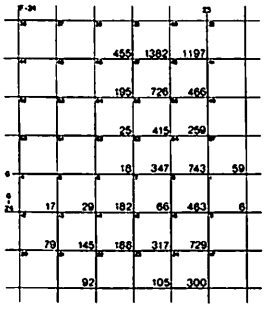
FSb-1B 387.8ｇ



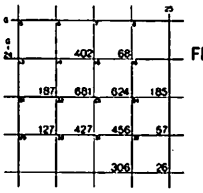
FSb-3 1,510.4ｇ



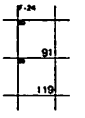
FSb-5 9,002.2ｇ



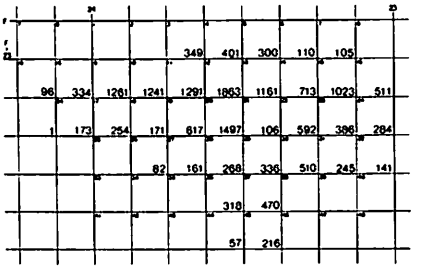
FF-22 3,544.9ｇ



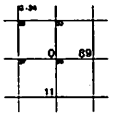
FF-24 209.3ｇ



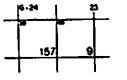
FSb-4 17,641.8ｇ



FF-20 100.3ｇ

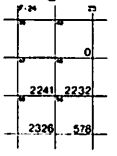


FF-21 166.0ｇ

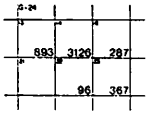


※単位１ｇ、以下は四捨五入

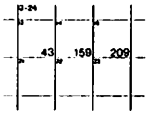
FSb-2 7,376.6ｇ



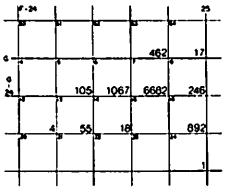
FSb-1A 4,769.5ｇ



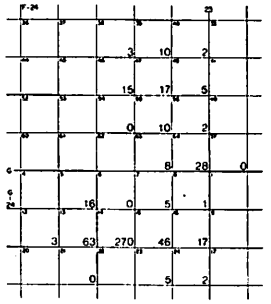
FSb-1B 410.8ｇ



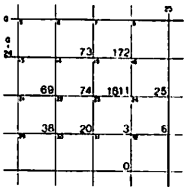
FSb-3 9,548.0ｇ



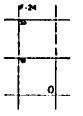
FSb-5 528.3ｇ



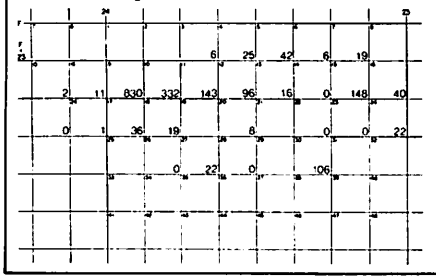
FF-22 2,290.6ｇ



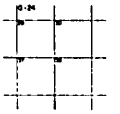
FF-24 0.1ｇ



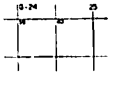
FSb-4 1,930.7ｇ



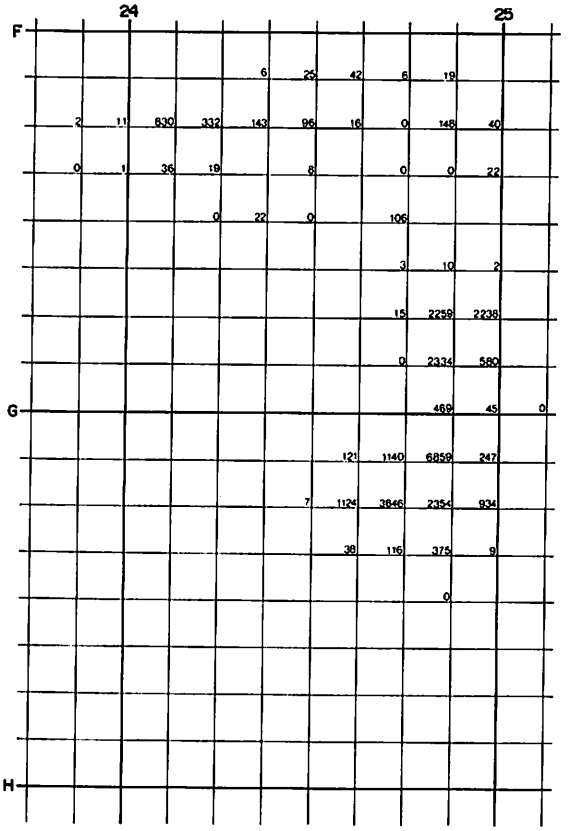
FF-20 0ｇ



FF-21 0ｇ

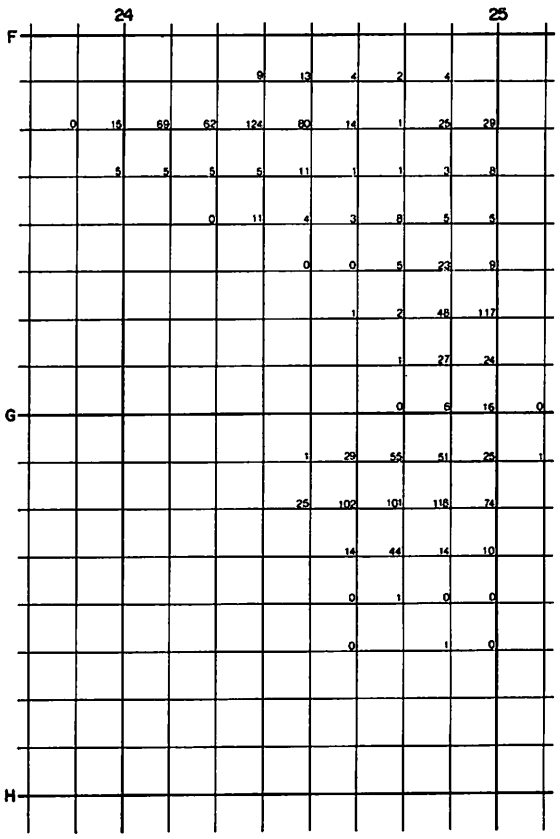


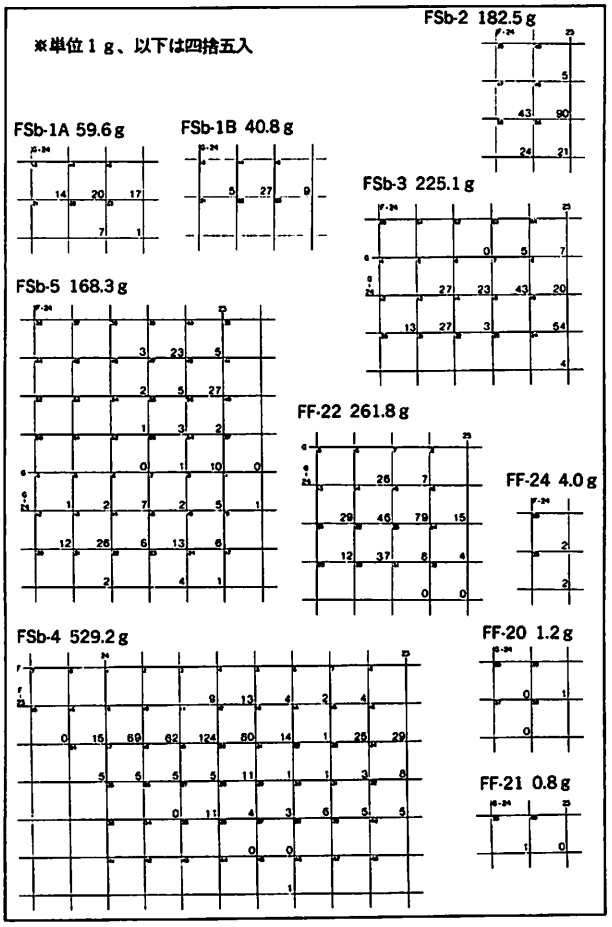
貝類　26,854.6ｇ（単位kg）

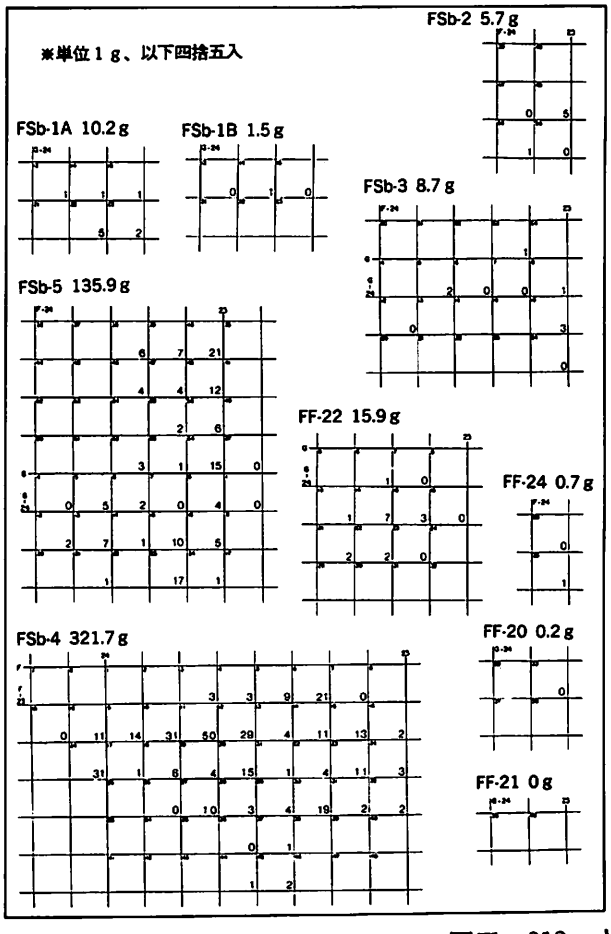


図Ⅲ—311　水洗データ図（３）

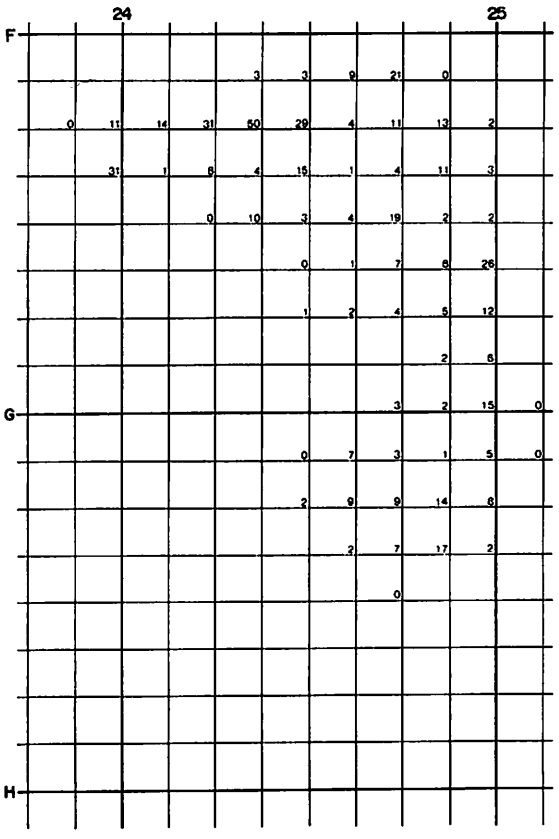
魚骨　1,473.3ｇ（単位１ｇ）







鳥獣骨　500.5ｇ（単位１ｇ）



図Ⅲ—312　水洗データ図（４）

表III—1　FSb—1A 水洗データ

ブロック	発掘区	小	層位	重量(g)	容量(cc)	水洗後 重量(g)	%	水洗後 容量(cc)	貝・骨など(g) 貝	%	獣骨	%	魚骨	%	計	%	土器・石器・フレイクなど(点)(g) 土器		石器		フレイク		礫(g)	炭化物(g)	他(g)	計(g)	%	1m/m未選別 重量	%
FSb-1A	G-24	13	混土貝層	11,160	12,000	1,264.3	11	1,890	893.3	71	1.3	0	14.3	1	908.9	72	191	78.7			332	37.4	234.9	3.3	1.1	355.4	28		
	〃	14	〃	13,440	14,000	3,338.8	25	3,290	3,125.9	93	1.2	0	19.9	1	3,147.0	94	77	18.2			95	4.0	164.5	5.1		191.8	6		
	〃	15	〃	1,760	1,700	558.1	32	760	287.2	52	1.1	0	17.4	3	305.7	55	33	14.2			130	16.5	127.3	0.2		158.2	28	94.2	17
	〃	22	〃	5,440	6,400	298.2	5	515	96.2	32	5.0	2	6.7	2	107.9	36	28	27.4			154	10.1	150.8	2.0		190.3	64		
	〃	23	〃	1,260	1,300	403.0	32	157	366.9	92	1.6	0	1.3	0	369.8	92	21	7.7			32	2.6	22.6	0.3		33.2	8		
	計			33,060	35,400	5,862.4	18	6,702	4,769.5	81	10.2	0	59.6	1	4,839.3	82	350	146.2			743	70.6	700.1	10.9	1.1	928.9	16	94.2	2

表III—2　FSb—1B 水洗データ

ブロック	発掘区	小	層位	重量(g)	容量(cc)	水洗後 重量(g)	%	水洗後 容量(cc)	貝・骨など(g) 貝	%	獣骨	%	魚骨	%	計	%	土器・石器・フレイクなど(点)(g) 土器		石器		フレイク		礫(g)	炭化物(g)	他(g)	計(g)	%
FSb-1B	G-24	13	混貝土層	1,290	1,500	83.4	6	170	42.8	52	0.4	0	5.1	6	48.3	58	20	5.3			115	6.3	23.4	0.1		35.1	42
	〃	14	〃	6,500	8,300	343.5	5	835	158.8	46	0.8	0	26.6	8	186.2	54	43	24.7			124	11.9	120.1	0.6		157.3	46
	〃	15	〃	2,440	2,800	510.3	21	935	209.2	41	0.3	0	9.1	2	218.6	43	54	33.8			215	13.2	244.3	0.4		291.7	57
	計			10,230	12,600	937.2	9	1,940	410.8	44	1.5	0	40.8	4	453.1	48	117	63.8			454	31.4	387.8	1.1		484.1	52

表III—3　FSb—2 水洗データ

ブロック	発掘区	小	層位	重量(g)	容量(cc)	水洗後 重量(g)	%	水洗後 容量(cc)	貝・骨など(g) 貝	%	獣骨	%	魚骨	%	計	%	土器・石器・フレイクなど(点)(g) 土器		石器		フレイク		礫(g)	炭化物(g)	他(g)	計(g)	%
FSb-2	F-24	40	混土貝層	530	700	38.5	7	80	0.3	1			4.6	12	4.9	13	25	0.5			21	4.9	27.6	0.6		33.6	87
	〃	47	〃	9,240	9,600	2,578.9	28	2,710	2,241.3	87	0.2	0	42.9	2	2,284.4	89	158	19.8			105	9.0	253.6	12.1		294.5	11
	〃	48	〃	30,610	36,300	3,210.8	10	4,190	2,232.4	70	4.5	0	89.5	2	2,326.4	72	328	105.8	2	2.0	561	49.8	709.1	17.7		884.4	28
	〃	55	〃	11,100	12,000	2,578.6	23	2,935	2,324.5	90	0.8	0	24.1	1	2,349.4	91	61	21.1			196	22.4	177.3	8.4		229.2	9
	〃	56	〃	10,480	13,500	1,025.7	10	1,105	578.1	56	0.2	0	21.4	2	599.7	58	56	53.6			130	6.0	3632.6	3.8		426.0	42
	計			61,960	72,100	9,432.5	15	11,020	7,376.6	78	5.7	0	182.5	2	7,564.8	80	628	200.8	2	2.0	1,013	92.1	1,530.2	42.6		1,867.7	20

表III—4　FSb—3 水洗データ

ブロック	発掘区	小	層位	重量(g)	容量(cc)	水洗後 重量(g)	%	水洗後 容量(cc)	貝・骨など(g) 貝	%	獣骨	%	魚骨	%	計	%	土器・石器・フレイクなど(点)(g) 土器		石器		フレイク		礫(g)	炭化物(g)	他(g)	計(g)	%	1m/m未選別 重量	%
FSb-3	F-24	62	混土貝層	100	50	4.8	5	3					0.1	2	0.1	2	2	0.1			1	0.1	0.3			0.5	10	4.2	88
	〃	63	〃	3,530	4,000	495.4	14	495	461.5	93	0.8	0	5.2	1	467.5	94	76	6.7			40	2.3	18.8	0.1		27.9	6		
	〃	64	〃	6,670	8,300	537.2	8	490	17.2	3			6.5	1	23.7	4	52	38.2			168	14.6	291.0	1.2		345.0	64	168.5	32
	G-24	5	〃	5,720	6,800	619.5	11	660	105.2	17	2.2	0	27.0	5	134.4	22	139	33.1			936	36.3	107.9	1.1		178.4	29	306.7	49
	〃	6	〃	7,640	8,000	1,911.0	25	1,870	1,066.6	56	0.4	0	22.7	1	1,089.7	57	62	2.8			335	26.4	113.5	0.5		143.2	7	678.1	36
	〃	7	〃	15,210	15,000	6,912.7	45	6,775	6,682.3	96	0.3	0	42.8	1	6,725.4	97	34	7.0			165	8.2	171.5	0.6		187.3	3		
	〃	8	〃	9,450	11,100	903.2	10	970	245.6	27	1.3	0	20.0	2	266.9	29	99	40.5	1	1.0	268	20.3	242.0	1.6		305.4	34	330.9	37
	〃	12	〃	810	900	61.3	8	100	4.1	7	0.2	0	12.7	21	17.0	28	10	3.1			41	1.6	16.0	0.2		20.9	34	23.4	38
	〃	13	〃	1,650	1,600	305.3	19	300	55.2	18			27.2	9	82.4	27	11	0.6			1,064	89.7	24.8	0.2		115.3	38	107.6	35
	〃	14	〃	1,050	1,300	73.2	7	150	17.6	24			2.6	4	20.2	28	16	0.9			369	33.1	18.9	0.1		53.0	72		
	〃	16	〃	14,020	15,500	2,356.7	14	2,535	891.6	38	3.2	0	54.0	2	948.8	40	39	48.2			341	19.9	411.4	7.3		486.8	21	921.1	39
	〃	24	〃	940	1,100	202.1	21	183	1.1	1	0.3	0	4.3	2	5.7	3	65	19.7			133	11.0	94.3	1.0		126.0	62	70.4	35
	計			66,790	73,650	14,382.4	22	14,531	9,548.0	66	8.7	0	225.1	2	9,781.8	68	605	200.9	1	1.0	3,861	263.5	1,510.4	13.9		1,989.7	14	2,610.9	18

表III—5　FSb—4 水洗データ

ブロック	発掘区	小	層位	重量(g)	容量(cc)	水洗後 重量(g)	%	水洗後 容量(cc)	貝・骨など(g) 貝	%	獣骨	%	魚骨	%	計	%	土器・石器・フレイクなど(点)(g) 土器		石器		フレイク		礫(g)	炭化物(g)	他(g)	計(g)	%	1m/m未選別 重量	%
FSb-4	F-23	15	混貝土層	3,550	4,500	209.0	6	215	2.3	1	0.1	0	0.4	0	2.8	1	66	17.6	1	4.7	163	6.2	95.9	0.9		125.3	60	80.9	39
	〃	16	〃	14,710	17,700	937.8	6	955	10.7	1	10.7	1	15.1	2	36.5	4	569	97.6	1	1.1	543	31.7	333.9	2.2		466.5	50	434.8	46
	〃	23	〃	300	500	5.8	2	6	0.3	5					0.3	5	5	1.2			9	0.4	0.9			2.5	43	3.0	52
	〃	24	〃	9.750	11.500	425.1	4	442	1.2	0	30.5	7	5.1	1	36.8	9	192	39.6			223	9.3	172.6	1.1		222.6	52	165.7	39
	F-24	3	〃	7,140	9,000	642.2	9	700	6.1	1	2.7	0	9.3	2	18.1	3	125	25.1	1	0.6	291	23.2	349.4	2.1		400.4	62	223.7	35
	〃	4	〃	9,360	11,600	773.2	8	810	25.1	3	2.5	0	12.8	2	40.4	5	99	73.8	1	0.6	286	19.0	400.7	1.3		495.4	64	237.4	31

ブロック	発掘区	小	層位	重量(g)	容量(cc)	水洗後			貝・骨など(g)								土器・石器・フレイクなど(点)(g)										1m/m未選別	
						重量(g)	%	容量(cc)	貝	%	獣骨	%	魚骨	%	計	%	土器		石器		フレイク		礫(g)	炭化物(g)	他(g)	計(g)	%	重量	%
FSb-4	F-24	5	混貝土層	4,940	6,300	577.2	12	580	41.6	7	9.1	2	3.9	1	54.6	10	99	73.9			176	18.5	299.5	0.5		392.4	68	130.2	22
	〃	6	〃	2,850	2,500	236.6	8	215	6.1	2	20.9	9	2.2	1	29.2	12	99	44.7	1	2.5	104	12.4	109.6	0.3		169.5	72	37.9	16
	〃	7	〃	2,410	3,000	458.3	2	500	19.3	4	0.1	0	3.6	1	23.0	5	51	66.8	2	8.3	669	179.5	105.4	0.6		360.6	79	74.7	16
	〃	9	〃	42,750	52,500	4,175.9	10	4,490	830.3	20	14.0	0	69.1	2	913.4	22	497	230.4	4	1.5	1,331	87.4	1,261.0	6.1		1,586.4	38	1,676.1	40
	〃	10	〃	40,280	51,500	3,147.0	8	3,755	332.4	11	31.4	1	62.1	2	425.9	14	536	205.8	1	3.2	1,109	70.3	1,240.5	6.0		1,525.8	48	1,195.3	38
	〃	11	〃	55,110	66,400	3,872.3	7	4,040	142.8	4	50.4	1	124.3	3	317.5	8	625	257.7	1	0.1	1,900	114.5	1,291.4	12.1		1,675.8	43	1,879.0	49
	〃	12	〃	48,050	59,550	3,885.7	8	3,891	95.6	3	29.4	0	79.9	2	204.9	5	702	320.2			1,636	121.2	1,863.1	12.2		2,316.7	60	1,364.1	35
	〃	13	〃	31,510	39,600	2,474.1	8	2,300	16.4	1	4.3	0	14.0	0	34.7	1	712	284.9	3	3.7	1,137	76.7	1,160.5	5.6		1,531.4	62	908.0	37
	〃	14	〃	17,700	19,820	1,287.8	7	1,182	0.3	0	11.1	1	0.9	0	12.3	1	191	74.2	1	0.8	766	54.3	712.9	3.0		845.2	66	430.3	33
	〃	15	〃	28,910	35,600	2,935.0	10	2,975	147.9	5	13.1	0	24.9	1	185.9	6	287	89.8			5,335	729.2	1,023.2	9.1		1,851.3	63	897.8	31
	〃	16	〃	14,950	19,300	1,187.4	8	1,270	39.7	3	2.4	0	28.8	3	70.9	6	204	79.3			497	24.9	511.3	4.0		619.5	52	497.0	42
	〃	17	〃	9,240	11,800	616.0	7	626	36.2	6	1.3	0	5.3	1	42.8	7	87	16.2			199	9.2	253.5	1.1		280.0	45	293.2	48
	〃	18	〃	7,815	11,050	490.1	6	488	18.5	4	8.0	2	5.3	1	31.8	7	67	36.2	2	1.2	181	11.9	170.9	1.5		221.7	45	236.6	48
	〃	19	〃	19,725	26,500	1,372.7	7	1,345			3.6	0	4.7	1	8.3	1	323	76.2			794	38.0	616.8	4.2		735.2	53	629.2	46
	〃	20	〃	24,360	32,250	2,652.3	11	2,595	7.7	0	14.5	1	11.4	0	33.6	1	585	340.6	5	3.3	1,016	85.4	1,497.3	6.5		6,933.1	73	685.6	26
	〃	21	〃	2,750	3,200	194.7	7	205			1.2	1	0.5	0	1.7	1	56	25.8			119	9.6	105.6	0.5		141.5	73	51.5	26
	〃	22	〃	13,830	17,000	1,101.8	8	1,100	0.1	0	3.6	0	0.5	0	4.2	0	375	110.2	4	1.9	459	29.6	591.7	1.4		734.8	67	362.8	33
	〃	23	〃	14,025	16,500	855.4	6	870	0.1	0	10.8	1	2.9	0	13.8	1	96	50.6	4	1.8	368	25.7	385.8	3.2		467.1	55	374.5	44
	〃	24	〃	9,160	11,850	682.9	7	734	21.6	3	3.0	0	7.5	1	32.1	4	91	65.8			262	19.9	284.3	3.0		373.0	55	277.8	41
	〃	26	〃	2,100	3,000	154.0	7	170	0.1	0	0.4	1	0.3	1	0.8	1	16	9.6			91	5.3	82.3	0.3		97.5	63	55.7	36
	〃	27	〃	6,660	8,700	438.7	7	388	22.4	5	9.5	2	10.6	3	42.5	10	85	22.7	1	0.2	195	10.5	160.5	0.4		194.3	44	201.9	46
	〃	28	〃	13,250	17,500	638.4	5	610	0.2	0	2.5	0	3.5	1	6.2	1	231	60.4			517	23.2	268.1	0.4		352.1	55	280.1	44
	〃	29	〃	10,950	13,000	742.1	7	720			3.6	1	3.1	0	6.7	1	222	69.1	2	1.4	425	24.8	336.2	2.3		433.8	58	301.6	41

ブロック	発掘区	小	層位	重量(g)	容量(cc)	水洗後 重量(g)	%	水洗後 容量(cc)	貝・骨など(g) 貝	%	獣骨	%	魚骨	%	計	%	土器・石器・フレイクなど(点)(g) 土器		石器		フレイク		礫(g)	炭化物(g)	他(g)	計(g)	%	1m/m未選別 重量	%
FSb-4	F-24	30	混貝土層	11,930	14,150	1,211.7	10	1,078	105.7	9	19.1	2	6.0	0	130.8	11	262	99.9			583	50.4	510.4	2.6		663.3	55	417.6	34
	〃	31	〃	9,500	11,500	552.7	6	470			2.3	0	5.1	1	7.4	1	207	58.0			443	33.3	244.9	1.0		337.2	61	208.1	38
	〃	32	〃	5,700	7,000	300.9	5	250			1.5	0	5.2	2	6.7	2	74	22.3	1	0.6	165	10.4	140.8	0.4		174.5	58	119.7	40
	〃	36	〃	16,500	15,500	646.0	4	57.5			0.2	0	0.2	0	0.4	0	278	70.0			443	26.6	318.0	1.4		416.0	64	229.6	36
	〃	37	〃	16,200	18,950	1,002.3	6	975			0.7	0	0.2	0	0.9	0	292	116.9	1	0.5	712	51.5	469.7	1.6		640.2	64	361.2	36
	〃	44	〃	12,545	13,000	132.6	1	140			0.9	1			0.9	1	29	3.6			131	6.5	56.9	0.7		67.7	51	640	48
	〃	45	〃	11,840	14,000	436.7	4	405			2.3	1	0.5	0	2.8	1	141	19.8			320	22.5	216.3	2.0		260.6	60	173.3	40
	計			552,250	677,370	41,452.4	8	42,070	1,930.7	5	321.7	1	529.2	1	2,781.6	7	8,576	3,256.5	37	38.0	23,598	2,073.0	17,641.8	101.6		23,110.9	56	15,559.9	37

III—6　FSb—5 水洗データ

ブロック	発掘区	小	層位	重量(g)	容量(cc)	水洗後 重量(g)	%	水洗後 容量(cc)	貝・骨など(g) 貝	%	獣骨	%	魚骨	%	計	%	土器・石器・フレイクなど(点)(g) 土器		石器		フレイク		礫(g)	炭化物(g)	他(g)	計(g)	%	1m/m未選別 重量	%
FSb-5	F-24	38	混貝土層	12,280	17,000	963.1	8	880	2.6	0	6.0	1	3.0	0	11.6	1	321	93.9	3	3.0	699	46.4	454.8	1.2		599.3	62	352.2	37
	〃	39	〃	19,660	25,000	2,183.8	11	1,880	10.2	1	7.3	0	23.0	1	40.5	2	276	148.6	1	0.5	1,002	101.4	1,382.2	11.8		1,644.5	75	498.8	23
	〃	40	〃	27,670	35,700	1,888.9	7	1,751	1.8	0	21.0	1	4.6	0	27.4	1	237	102.5	2	0.8	1,410	94.2	1,196.6	12.2		1,406.3	75	455.2	24
	〃	46	〃	4,300	5,300	384.0	9	380	14.6	4	4.0	1	1.8	0	20.4	5	71	40.7			204	14.3	195.3	0.9		251.2	66	112.4	29
	〃	47	〃	22,680	29,100	1,341.5	6	1,300	17.3	1	3.7	0	5.1	1	26.1	2	174	79.8			753	36.3	726.4	7.6		850.1	63	465.3	35
	〃	48	〃	9,080	13,000	753.5	8	645	5.4	1	11.9	1	27.3	4	44.6	6	180	23.5	1	0.6	258	13.2	465.7	2.6		505.6	67	203.3	27
	〃	54	〃	1,480	1,600	46.8	3	30	0.1	0			0.6	1	0.7	1	12	2.5			23	1.2	24.6	0.1		28.4	61	17.7	38
	〃	55	〃	17,430	20,250	773.8	4	752	9.7	2	2.3	0	2.5	0	14.5	2	400	64.7			362	20.5	415.2	3.9		504.3	65	255.0	33
	〃	56	〃	12,140	15,050	526.1	4	540	2.1	0	5.8	2	2.1	0	10.0	2	28	34.6			168	14.0	258.9	1.6		309.1	59	207.0	39
	〃	62	〃	890	960	36.2	4	16			2.7	8	0.2	0	2.9	8	4	0.3			15	0.6	18.4	0.1		19.4	54	13.9	38
	〃	63	〃	16,390	21,400	609.3	4	533	7.5	2	1.1	0	1.0	0	9.6	2	201	40.1			325	15.0	346.5	1.7		403.3	66	196.4	32
	〃	64	〃	21,600	25,070	1,247.0	6	1,255	27.5	2	15.4	1	9.5	1	52.4	4	257	112.8			480	43.4	742.7	1.9		900.8	72	293.8	24

ブロック	発掘区	小	層位	重量(g)	容量(cc)	水洗後			貝・骨など(g)								土器・石器・フレイクなど(点)(g)										1m/m未選別	
						重量(g)	%	容量(cc)	貝	%	獣骨	%	魚骨	%	計	%	土器		石器		フレイク		礫(g)	炭化物(g)	他(g)	計(g)	%	重量	%
FSb-5	F-25	57	混貝土層	2,940	3,500	126.4	4	95	0.1	0	0.1	0	0.4	0	0.6	0	42	235			63	3.9	59.3	0.2		86.9	69	38.9	31
	G-24	4	〃	2,250	1,800	65.9	3	117			0.3	0	1.0	2	1.3	2	4	3.7			17	0.6	17.0	0.1	0.2	21.6	33	43.0	65
	〃	5	〃	6,600	8,750	108.5	2	124	15.7	14	4.9	5	1.6	1	22.2	20	29	5.2			117	3.0	28.8	0.3	0.2	37.5	35	48.8	45
	〃	6	〃	8,640	10,000	376.3	4	390	0.2	0	1.7	0	6.8	2	8.7	2	101	31.9			896	24.3	181.8	0.5		238.5	64	129.1	34
	〃	7	〃	4,760	5,450	146.5	3	195	5.3	4	0.3	0	1.7	1	7.3	5	78	15.9			151	6.0	66.1	0.8	0.3	89.1	61	50.1	34
	〃	8	〃	18,390	23,100	808.2	4	849	0.9	0	4.0	0	4.8	1	9.7	1	305	104.5			436	24.8	462.7	2.4		594.4	74	204.1	25
	〃	12	〃	7,100	7,400	312.7	4	360	3.3	1	2.1	0	12.1	4	17.5	5	80	13.6			268	15.2	78.7	0.8		108.3	35	186.9	60
	〃	13	〃	12,520	15,500	848.2	7	922	63.1	7	6.8	1	26.1	3	96.0	11	169	34.7			5,933	258.1	145.4	1.3		439.5	52	312.7	37
	〃	14	〃	8,310	9,900	927.5	11	745	270.1	29	0.7	0	5.8	1	276.6	30	37	13.7			4,683	234.5	187.7	1.8		437.7	47	213.2	23
	〃	15	〃	16,930	19,100	641.9	4	672	46.2	7	10.0	2	13.3	2	69.5	11	199	69.4			711	31.7	317.0	4.6	1.9	424.6	66	147.8	23
	〃	16	〃	26,250	32,500	1,268.2	5	1,275	17.3	2	4.8	0	5.9	0	28.0	2	257	97.2			535	46.8	728.6	4.4	0.8	877.8	69	362.4	29
	〃	21	〃	4,990	5,400	214.9	4	214	0.2	0	0.8	0	2.1	1	3.1	1	30	15.4			184	9.4	91.1	0.5		116.4	54	95.4	45
	〃	23	〃	5,680	7,000	278.0	5	270	5.2	2	16.5	6	4.0	1	25.7	9	101	21.7			127	4.1	104.6	0.8		131.2	47	121.1	44
	〃	24	〃	13,210	18,000	435.0	3	387	1.9	1	1.3	0	1.4	0	4.6	1	89	28.2			125	8.0	299.8	6.1		342.1	79	88.3	20
	G-25	1	〃	850	1,150	25.7	3	14			0.4	2	0.6	2	1.0	4	9	3.4			23	2.2	6.3			11.9	46	12.8	50
	計			305,020	377,980	17,337.9	6	16.591	528.3	3	135.9	1	168.3	1	832.5	5	3,691	1,226.0	7	4.9	19,968	1,073.1	9,002.2	70.2	3.4	11,379.8	66	5,125.6	29

表III—7　FF—20 水洗データ

ブロック	発掘区	小	層位	重量(g)	容量(cc)	水洗後			貝・骨など(g)								土器・石器・フレイクなど(点)(g)										
						重量(g)	%	容量(cc)	貝	%	獣骨	%	魚骨	%	計	%	土器		石器		フレイク		礫(g)	炭化物(g)	他(g)	計(g)	%
FF-20	G-24	29	焼土	150	200	2.8	2	3					0.1	4	0.1	4	10	2.1			3	0.3	0.2	0.1		2.7	96
	〃	30	〃	1,450	1,500	110.0	8	140			0.2	0	1.0	1	1,2	1	46	12.8	1	1.1	70	5.2	88.9	0.8		108.8	99
	〃	37	〃	130	150	12.2	9	10					0.1	1	0.1	1	7	0.6			3	0.1	11.2	0.2		12.1	99
	計			1,730	1,850	125.0	7	153			0.2	0	1.2	1	1.4	1	63	15.5	1	1.1	76	5.6	100.3	1.1		123.6	99

表III—8　FF—21 水洗データ

ブロック	発掘区	小	層位	重量(g)	容量(cc)	水洗後 重量(g)	%	水洗後 容量(cc)	貝・骨など(g) 貝	%	獣骨	%	魚骨	%	計	%	土器・石器・フレイクなど(点)(g) 土器		石器		フレイク		礫(g)	炭化物(g)	他(g)	計(g)	%
FF-21	G-24	39	焼土	6,200	7,500	183.4	3	280					0.6	0	0.6	0	22	11.4			320	12.1	156.8	2.5		182.8	100
	〃	40	〃	280	300	10.8	4	16					0.2	2	0.2	2	8	0.3			15	0.7	9.2	0.4		10.6	98
	計			6,480	7,800	194.2	3	296					0.8	0	0.8	0	30	11.7			335	12.8	166.0	2.9		193.4	100

表III—9　FF—22 水洗データ

ブロック	発掘区	小	層位	重量(g)	容量(cc)	水洗後 重量(g)	%	水洗後 容量(cc)	貝・骨など(g) 貝	%	獣骨	%	魚骨	%	計	%	土器・石器・フレイクなど(点)(g) 土器		石器		フレイク		礫(g)	炭化物(g)	他(g)	計(g)	%
FF-22	G-24	6	焼土	7,250	9,400	549.6	4	568	73.4	13	1.0	0	25.5	5	99.9	18	102	33.0			405	14.4	401.6	0.6	0.1	449.7	82
	〃	7	〃	1,850	1,600	259.7	10	330	171.6	66	0.2	0	6.7	3	178.5	69	39	8.9			62	3.8	68.4	0.1		81.2	31
	〃	13	〃	4,260	5,000	340.0	6	390	69.4	20	0.9	1	28.8	8	99.1	29	79	24.3			470	29.5	186.8	0.3		240.9	71
	〃	14	〃	14,710	1,820	919.0	4	1,044	73.7	8	6.6	1	46.3	5	126.6	14	165	70.4			556	31.3	681.3	1.6	7.8	792.4	86
	〃	15	〃	13,480	14,780	2,639.1	13	2,884	1,811.2	69	2.8	1	78.5	3	1,892.5	72	102	76.3			465	35.4	623.8	2.9	8.2	746.6	28
	〃	16	〃	3,610	4,000	252.5	4	255	24.6	10	0.4	0	14.1	6	39.1	16	29	19.9			118	7.7	184.9	0.9		213.4	84
	〃	21	〃	3,550	4,200	195.5	3	190	37.8	19	1.5	1	12.2	6	51.5	26	75	9.4			167	7.5	126.6	0.5		144.0	74
	〃	22	〃	10,780	13,700	557.1	3	627	19.7	4	2.3	0	36.8	7	58.8	11	142	54.8			310	13.8	427.0	1.0	1.7	498.3	89
	〃	23	〃	8,950	10,000	529.1	4	580	3.2	0	0.2	0	8.2	2	11.6	2	243	47.3			228	10.6	455.6	1.6	2.4	517.5	98
	〃	24	〃	1,390	1,500	76.0	4	80	5.9	8			4.2	6	10.1	14	19	6.9			37	2.0	56.8	0.2		65.9	86
	〃	31	〃	3,840	4,500	337.8	7	355	0.1	0			0.4	0	0.5	0	37	17.0			226	135	306.3	0.5		337.3	100
	〃	32	〃	650	800	37.4	4	48					0.1	0	0.1	0	17	8.9			31	2.5	25.8	0.1		37.3	100
	計			74,320	87,680	6,692.8	9	7,351	2,290.6	34	15.9	0	261.8	4	2,568.3	38	1,049	377.1			3,075	172.0	3,544.9	10.3	20.2	4,124.5	62

表III—10　FF—24 水洗データ

ブロック	発掘区	小	層位	重量(g)	容量(cc)	水洗後			貝・骨など(g)								土器・石器・フレイクなど(点)(g)										
						重量(g)	%	容量(cc)	貝	%	獣骨	%	魚骨	%	計	%	土器		石器		フレイク		礫(g)	炭化物(g)	他(g)	計(g)	%
FF-24	F-24	30		1,640	2,300	124.0	8	140			0.2	0	1.7	1	1.9	1	47	23.9			106	7.5	90.5	0.2		122.1	99
	〃	38		2,300	3,000	138.3	6	190	0.1	0	0.5	0	2.3	2	2.9	2	16	7.7			163	8.8	118.8	0.1		135.4	98
	計			3,940	5,300	262.3	7	330	0.1	0	0.7	0	4.0	2	4.8	2	63	31.6			269	16.3	209.3	0.3		257.5	98

表III—11　貝塚水洗データ

ブロック	発掘区	小	層位	重量(g)	容量(cc)	水洗後			貝・骨など(g)								土器・石器・フレイクなど(点)(g)											1m/m未選別	
						重量(g)	%	容量(cc)	貝	%	獣骨	%	魚骨	%	計	%	土器		石器		フレイク		礫(g)	炭化物(g)	他(g)	計(g)	%	重量	%
FSb-1A			混土貝層	33,060	35,400	5,862.4	18	6,702	4,769.5	81	10.2	0	59.6	1	4,839.3	82	350	146.2			743	70.6	700.1	10.9	1.1	928.9	16	94.2	2
FSb-1B			混貝土層	10,230	12,600	937.2	9	1,940	410.8	44	1.5	0	40.8	4	453.1	48	117	63.8			454	31.4	387.8	1.1		484.1	52		
FSb-2			混土貝層	61,960	72,100	9,432.5	15	11,020	7,376.6	78	5.7	0	182.5	2	7,564.8	80	628	200.8	2	2.0	1,013	92.1	1,530.2	42.6		1,867.7	20		
FSb-3			〃	66,790	73,650	14,382.4	22	14,531	9,548.0	66	8.7	0	225.1	2	9,781.8	68	605	200.9	1	1.0	3,861	263.5	1,510.4	13.9		1,989.7	14	2,610.9	18
FSb-4			混貝土層	552,250	677,370	41,452.4	8	42,070	1,930.7	5	321.7	1	529.2	1	2,781.6	7	8,576	3,256.5	37	38.0	23,598	2,073.0	17,641.8	101.6		23,110.9	56	15,559.9	37
FSb-5			〃	305,020	377,980	17,337.9	6	16.591	528.3	3	135.9	1	168.3	1	832.5	5	3,691	1,226.0	7	49	19,968	1,073.1	9,002.2	70.2	3.4	11,379.8	66	5,125.6	29
FF-20			焼土	1,730	1,850	1,250	7	153			0.2	0	1.2	1	1.4	1	63	15.5	1	1.1	76	5.6	100.3	1.1		123.6	99		
FF-21			〃	6,480	7,800	194.2	3	296					0.8	0	0.8	0	30	11.7			335	12.8	166.0	2.9		193.4	100		
FF-22			〃	74,320	87,680	6,692.8	9	7,351	2,290.6	34	15.9	0	261.8	4	2,568.3	38	1,049	377.1			3,075	172.0	3,544.9	10.3	20.2	4,124.5	62		
FF-24			〃	3,940	5,300	262.3	7	330	0.1	0	0.7	0	4.0	2	4.8	2	63	31.6			269	16.3	209.3	0.3		257.5	98		
	総計			1,115,780	1,351,730	96,679.1	9	100,984	26,854.6	28	500.5	1	1,473.3	2	28,828.4	30	15,172	5,530.1	48	47.0	5,339.2	3,810.4	34,793.0	254.9	24.7	44,460.1	46	23,390.6	24

は四面使用。130は両面使用。

石皿・台石(131～134)　23点出土しており，図示したものはすべて安山岩である。

この他に石斧薄片78点，石鋸3点，Uフレイク78点，Rフレイク13点，フレイク・チップ82,541点，有意の礫790点，焼礫89点，自然礫5,274点，石製品1点が出土しており，貝塚からは計89,301点の石器・石製品が出土した。

(4) 焼　　土

焼土は22ヵ所（FF—1・4～24）確認されているが，4ヵ所（FF—20・21・22・24）は貝塚とともに確認されているので，すでに貝塚のところで説明した。したがって，ここでは18ヵ所（FF—1・4～19・23）について説明する。18ヵ所の焼土はFF—1のみがやや離れているが，他の17ヵ所はH・I—19・20付近とH・I—24・25付近の2ヵ所に分かれて分布している。H・I—19・20付近は丘麓緩斜面中腹部で，14ヵ所（FF—4～17）が集中している。いずれも二次堆積とみられる。H・I—19・20付近の3ヵ所（FF—18・19・23）はいずれも第II層中で確認され，FF—23は石組みが伴う。

FF—1(図III—313)　大きさは0.48×0.34m，最大厚5cm，遺物はフレイクが5点のみ出土しているが，確認面が第II層最上部というところからみて，縄文時代晩期と考えられる。

FF—4～17(図III—314)　14ヵ所がH・I・J—18～20の9×9mの範囲に集中している。この場所は丘麓緩斜面中腹の凹地状の部分で，いずれも二次的に堆積したものとみられる。FF—16・17についてはフローテーション処理を行ったが，炭化木片はみられたものの，炭化種子などはみられなかった。炭化種子や骨片などがみられない点や，二次堆積の状況からみて，炉跡の焼土の可能性は薄いと思われる。以下に大きさを示す。また，遺物は全くみられなかった。

FF—4　大きさ1.22×0.64，最大厚3cm，FF—12より上位に位置。
FF—5　大きさ0.34×0.25，最大厚12cm。
FF—6　大きさ1.60×0.47，最大厚2cm。
FF—7　大きさ0.98×0.50，最大厚1cm。
FF—8　大きさ0.31×0.19，最大厚2cm。
FF—9　大きさ0.45×0.17，最大厚1cm。
FF—10　大きさ0.56×0.37，最大厚5cm。
FF—11　大きさ1.12×0.52，最大厚4cm。
FF—12　大きさ0.30×0.22，最大厚1cm，FF—4より下位に位置。
FF—13　大きさ0.44×0.36，最大厚1cm。
FF—14　大きさ0.28×0.18，最大厚1cm。
FF—15　大きさ2.48×1.76，最大厚4cm。
FF—16　大きさ2.10×1.63，最大厚8cm，FF—17より上位に位置。
FF—17　大きさ2.70×2.55，最大厚13cm，FF—16より下位に位置。

FF—18(図III—313・315)　大きさは1.31×0.90m，厚土は最大6cm，南東の一部が，電柱で壊されていた。出土遺物総数は374点，その内訳は土器145点，石錐1点，スクレイパー1点，U・Rフレイク2点，フレイク109点，コア5点，砥石1点，石皿・台石1点，礫△

21点，焼礫1点，礫86点である。また，土壌をフローテーションしたところ，ヨモギ属，マメ科の種子各1とオニグルミの内果皮片が確認されている。

土器　II群B2c類(1)，II群B類（3・8），III群A1類(2)，III群B3類（4～7・9）

1は口唇部断面は角形。口唇部上端に縄文が施されている。頸部には絡条体圧痕文が施されている。2は太い縄圧痕文が加えられた貼付帯によって区画された頸部に鋸歯状の縄線文が施されている。体部は撚糸文である。8は口唇部断面は切り出し状である。口唇部・体部に斜行状羽文が施されている。4は押引文が施された断面が切り出し状の口唇部で，肥厚帯直下には押引後に円形刺突文が加えられている。帯部は斜行縄文である。5は押引文・綾絡文が施された断面が切り出し状の口唇部である。肥厚帯直下に円形刺突文・貼付帯が加えられ，体部は結束羽状縄文である。6は斜行縄文が施された断面が切り出し状の口唇部で，肥厚帯直下に円形刺突文が施されている。7は角形の口唇部断面で，口縁部に円形刺突文が施されている。体部は羽状縄文である。

石器　10は茎の太い有茎凸基の石鏃，11は片面加工のスクレイパー，12は断面三角形に近い黒曜石原石を利用したコアである。

時期　縄文時代中期末・III群B3類土器の時期と考えられる。

FF—19(図III—313・315)　大きさは0.32×0.20m，厚さは最大4cm，FF—18の1m南側に位置している。出土遺物総数は53点，その内訳は土器25点，スクレイパー1点，フレイク6点，石斧片一点，礫△2点，礫18点である。

土器　13～15はいずれもIII群B3類土器の体部破片である。13は押引文が加えられた貼付帯があり，体部は結束羽状縄文がみられる。14は結束羽状，15は斜行の縄文が施されている。

石器　16は尖頭状に周辺加工された頁岩製のスクレイパーである。

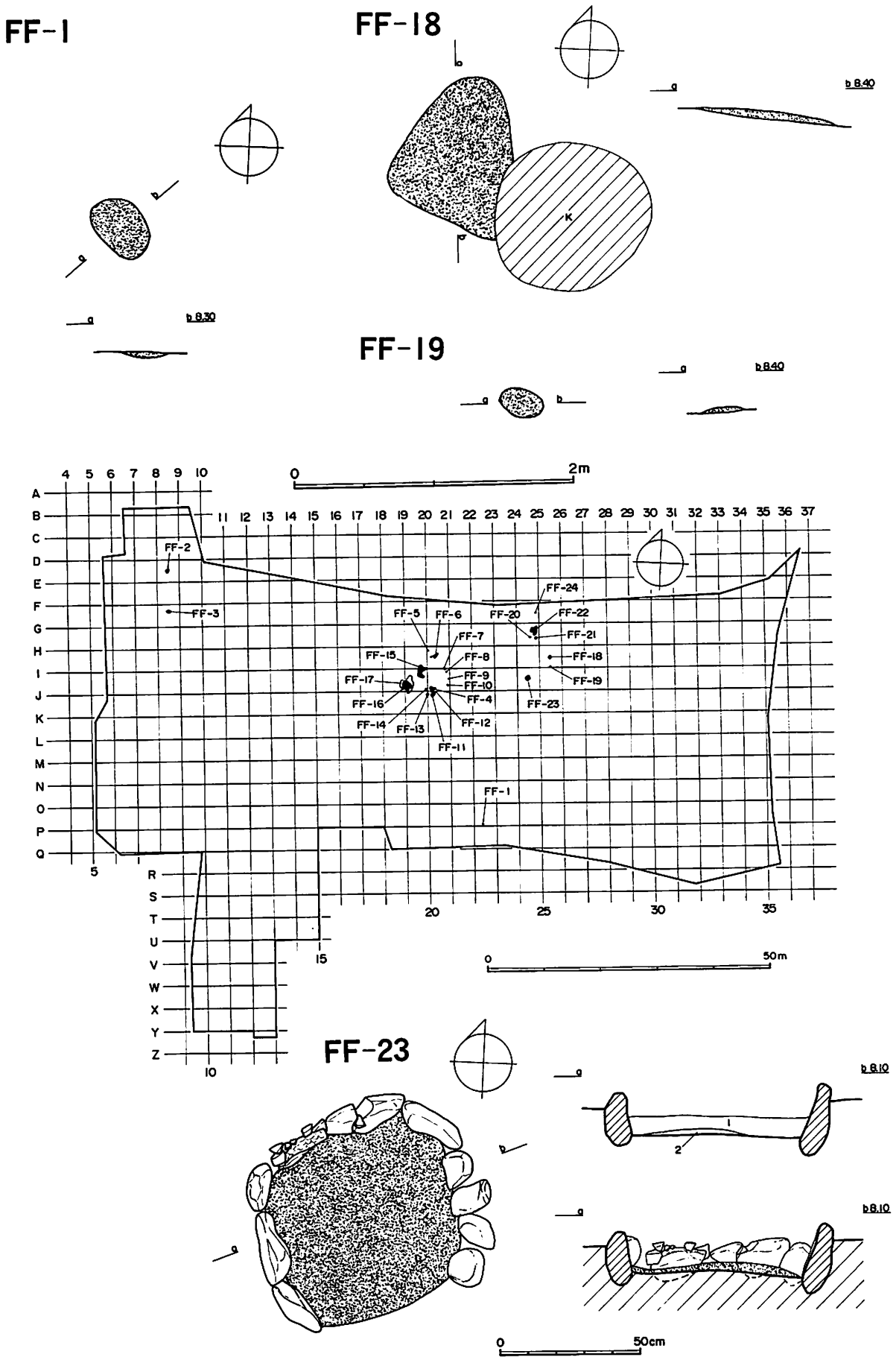
時期　FF—18同様，縄文時代中期末，III群B3類土器の時期と考えられる。

FF—23(図III—313)　大きさは0.82×0.75m，厚さは最大4cm，平面形は方形に近く，南側を除いた三方に石組みがみられる。石組みの石は10個，石皿・台石を転用したものもみられる。比較的肩平なものを横または縦に互いに接するように置かれている。出土遺物総数は58点，その内訳は土器15点，フレイク28点，石斧片1点，石皿・台石10点，礫△3点，礫1点である。また，土壌をフローテーションしたところ，タデ科の植物の種子3粒が確認されている。

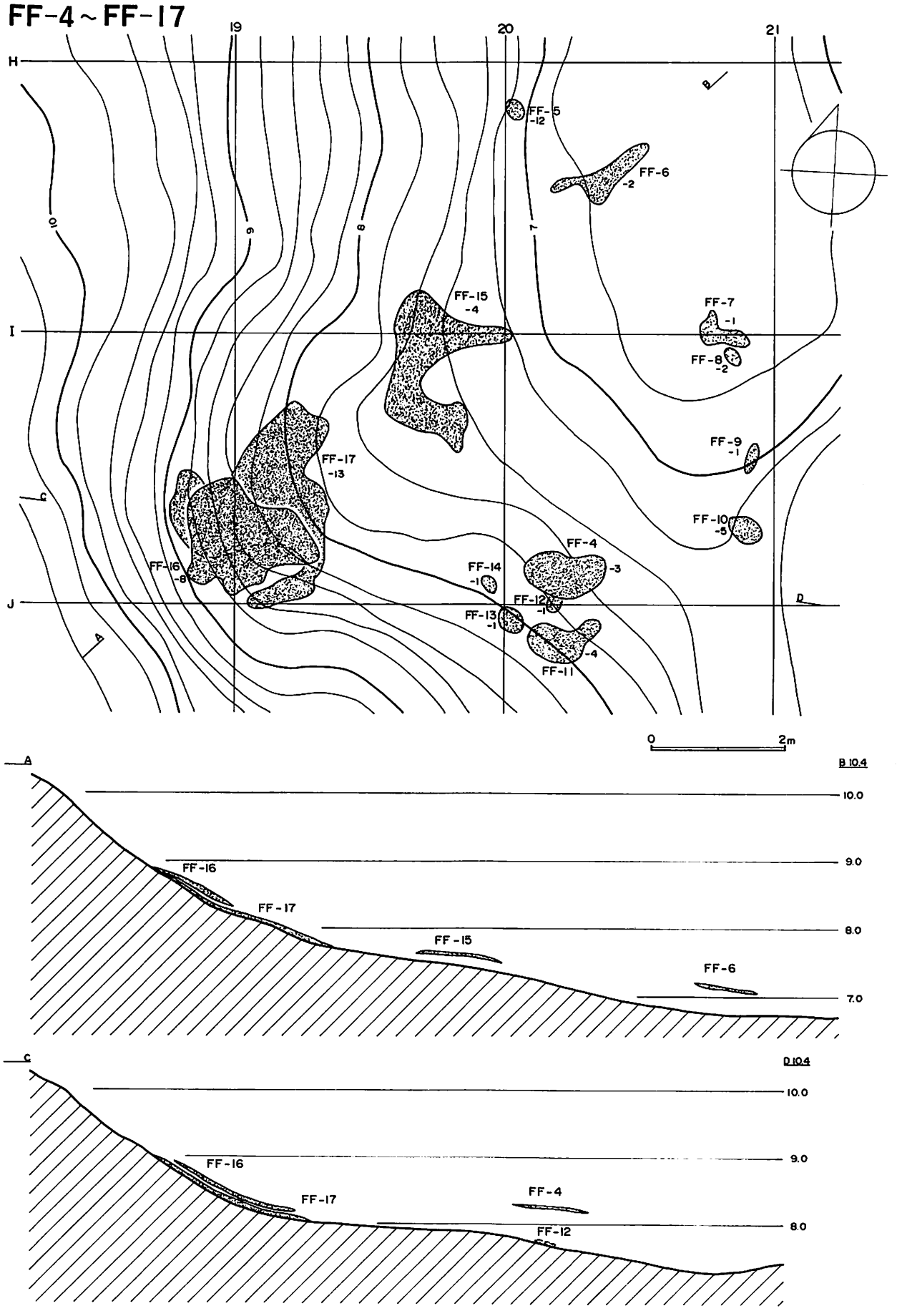
時期　FF—18，19同様，縄文時代中期末，III群B3類土器の時期と考えられる。

(5)　包含層出土の土器

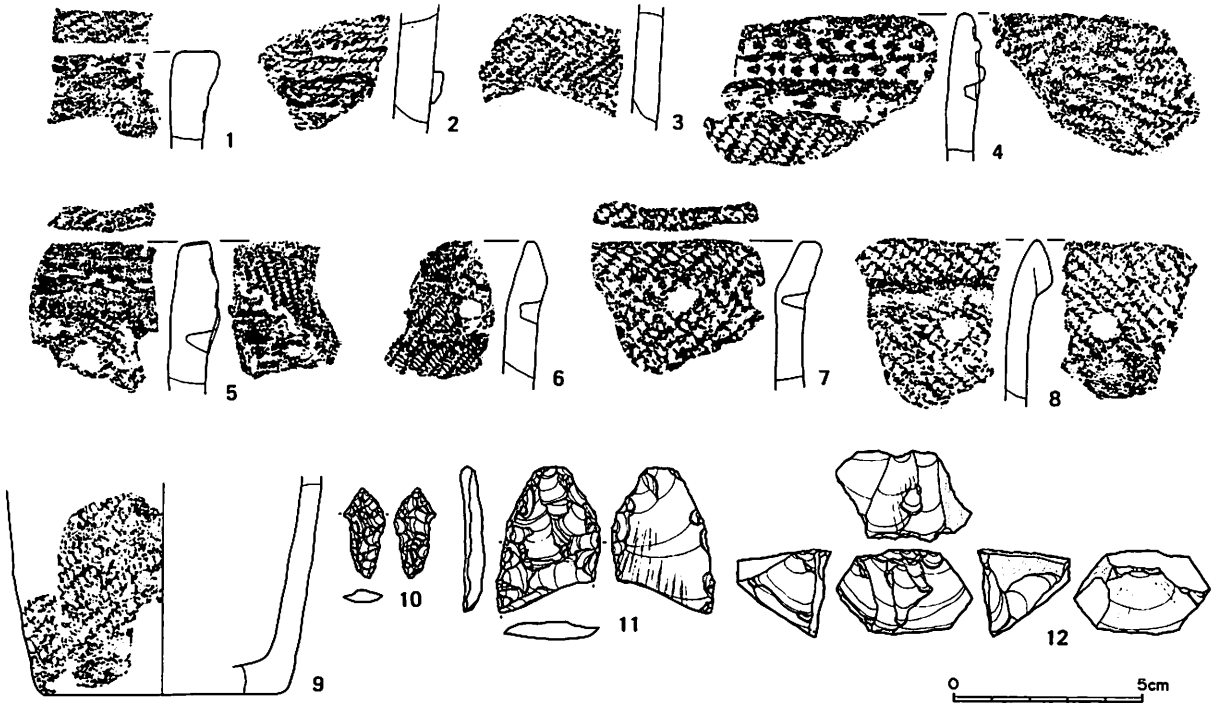
C地区の包含層から203,281点（貝塚部分25,127点を含む）の土器片等が出土している。時代は縄文時代早期～晩期，続縄文時代，擦文時代，近・現代がある。そのうち，その主体は縄文時代前期末葉から中期初頭のII群B2b類・II群B2c類・II群B類，中期末葉のIII群B3類である。出土層位は，I群B2類はIII層から，貝塚部分ではII群B2b類・II群B2c類は貝層下から，III群B3類は貝層中・貝層上部から多く出土する傾向が窺えた。出土分布については，土器群ごとの違いが認められたが，II群B2b類・II群B2c類・II群B類はほぼ全域から，III群B3類は，同時期の住居跡・貝塚が検出された調査区北側に多く，分布密度は北へさらに高くなる傾向を示している（図III—351～355)。

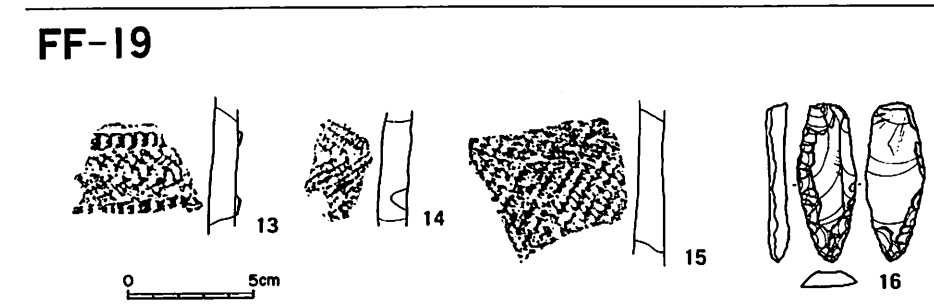


図Ⅲ—313　FF— 1・18・19・23



図III—314 FF— 4～17





図Ⅲ—315　焼土の土器・石器

土器群については，分類ごとにいくつかの細分を加え記載する。なお，II群B2a類・II群B2b類・II群B2c類については本章においては大まかな特徴の記載にとどめ，詳細については第Ⅴ章において述べる。また，近・現代の陶磁器については，別項をもうけ記載した。

I群土器

I群A類（67）

67は貝殻腹縁による押引文が施されている。

I群B1類（68～73）

68～70は口縁部破片で，口唇部直下に短縄文，体部に斜行縄文が施されている。71・72は同一個体で，体部には短縄文・組紐圧痕文・羽状縄文が施されている。73の底部は短縄文が施され，張り出す。体部には短縄文・斜行縄文が施されている。

I群B2類（1・74～86）

1・74・75・79・81～86は自縄自巻的な原体による羽状縄文が施されている。1はやや開き気味の器形で，口縁部は波状を呈し，6条の縄線文が施されている。75は撚りの弱い原

体を用いている。77は口縁部に縄線文が，81は縄端圧痕文，82は多軸絡条体圧痕文が加えられている。78は2本一組の原体を用いている。80・86は平底に近い丸底である。76は結束羽状縄文が菱目状に施されたものである。

II群土器

II群A1類（87）

87は横走する縄文が施されている体部破片で，条部分にナデ調整が加えられている。

II群A2類（2～7・88～102）

2は尖る口唇部である。体部には斜行縄文が施されている。胎土は多量の繊維を含む。3は口唇部端部にナデ調整が加えられ，口唇部断面は角形である。体部は斜行縄文，内面に不規則な羽状縄文が施されている。7は丸味をもつ口唇部で，体部は斜行縄文，内面は羽状縄文が施されている。口縁部外面の縄文上に化粧土の痕跡が認められる。96・98の内面に条痕文が，97の内面に菱目状の縄文が施されている。102は底部付近の破片である。全面に横走する縄線文が施されている。丸底と思われ春日町式に相当する可能性がある。

II群B1類（103～158・160～173）

口縁部・体部等の文様構成から7つに分けられる。

a類(103～114・157・172・173)　口縁部地文上に縄線文・沈線文が施されているものである。114は口縁部に2条の沈線文が施されているものである。157は体部に単軸撚糸回転文が施されている。172・173は角形の口唇部端部に1条の縄線文が加えられている。大麻V式に類似するものと思われる。

b類(115～136)　口縁部に綾絡状の縄文が施されたものである。口縁部内面にも縄文が施されたものが多い。体部は斜行縄文が施されたもの（115～127・130・131）が多く，単軸撚糸回転文のもの（132～136）もある。131は撚り戻し，134は網目状撚糸文が施されている。

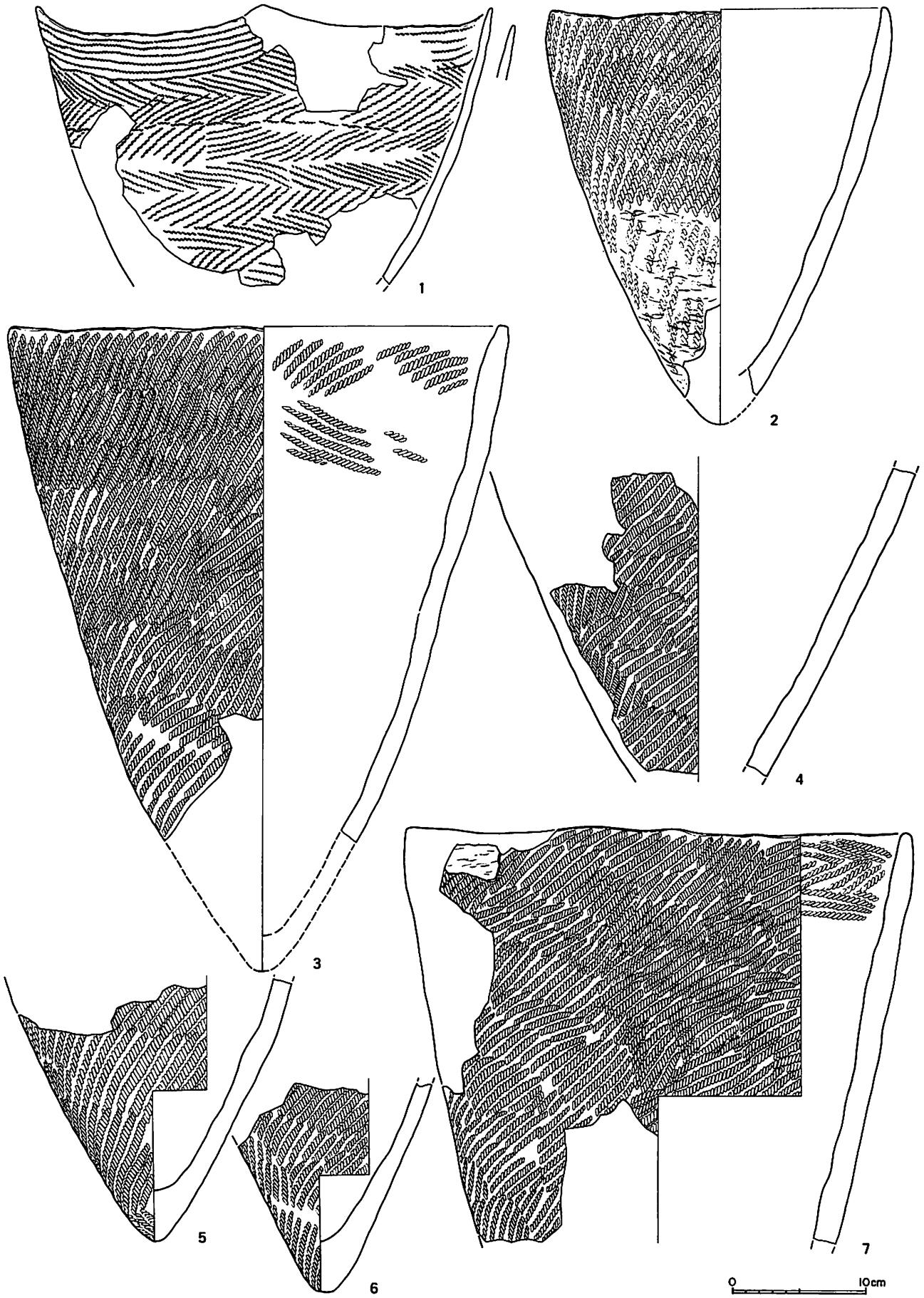
c類(137～142)　口縁部に頸部を区画する貼付帯が施され，綾絡文状の縄文が施されているものである。137～139は貼付帯上に指頭による圧痕が加えられているものである。137は口唇部直下に細い縄線文が施されていることからII群B2a類に含まれるものかも知れない。139は薄い貼付帯上に指頭圧痕が加えられ，口縁部には綾絡文状の縄文が施されている。141は円形刺突文が加えられた貼付帯で区画された口縁部に綾絡文状の縄文が施されている。体部は斜行縄文である。140・141は無文の貼付帯で，142は貼付帯の上下に円形刺突文が加えられている。

d類(143～146)　縄線文で口縁部が区画され，地文上に縄線文が加えられているものである。143は2本一組の連弧状の縄線文が，144は口縁部に縦位の貼付けと波状の縄線文が施されている。145・146は口唇直下と口縁部下端に2本一組の縄線文が施されている。

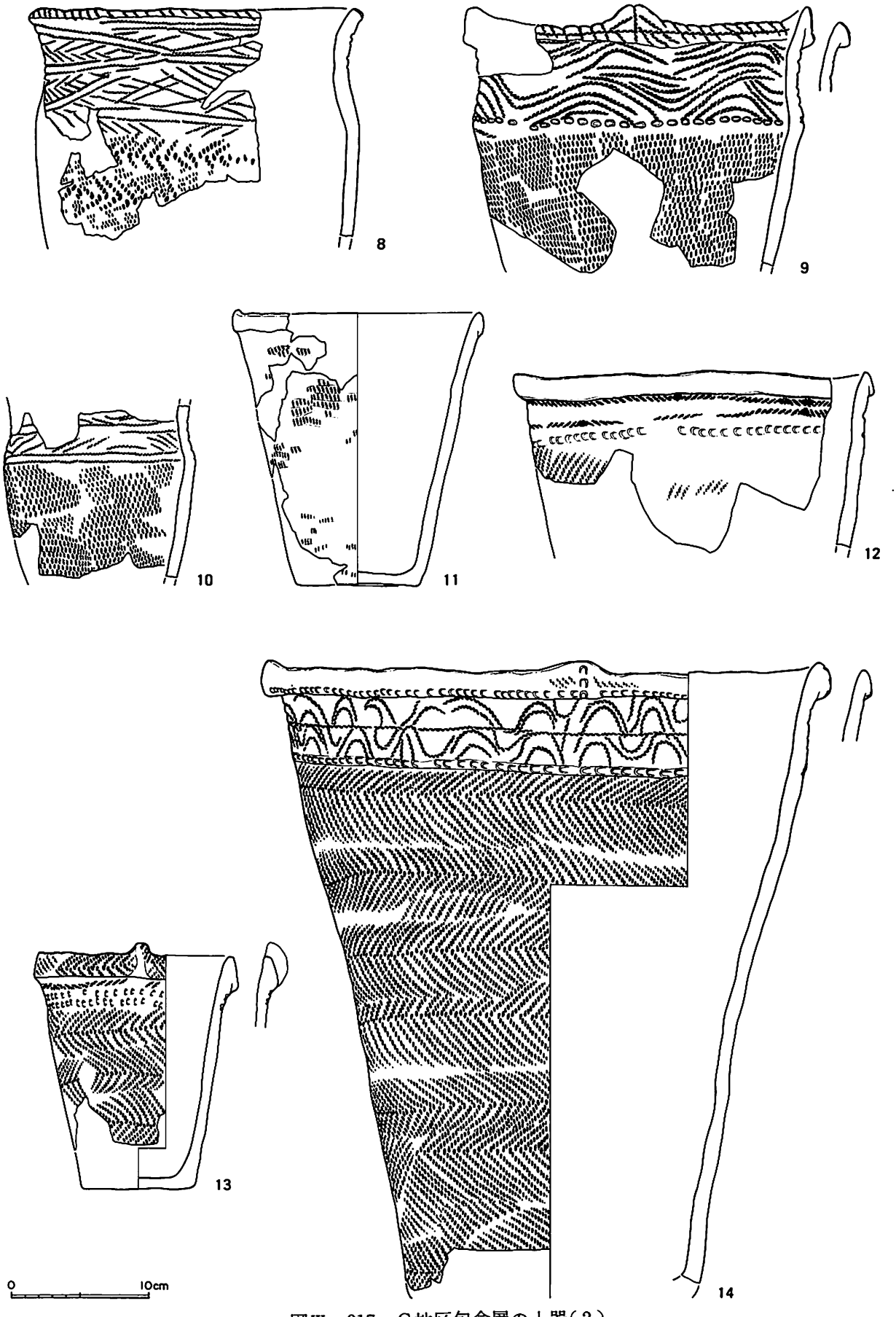
e類(147)　沈線で口縁部が区画され，沈線文が加えられているもの。147は口縁部の上下を沈線文で区画し，綾絡文状の縄文と斜位の沈線文が加えられている。

f類(148・149・158)　撚糸文が施されているもの。148は縦位，149は横位の単軸絡条体回転文が施されている。158は口唇部に縄圧痕文・縄線文が，口縁部下端に円形刺突文が施されており，II群B2a類に類似する。しかし，撚糸文が太い原体を用いていることや器面調整が粗雑であることから本類に含めた。

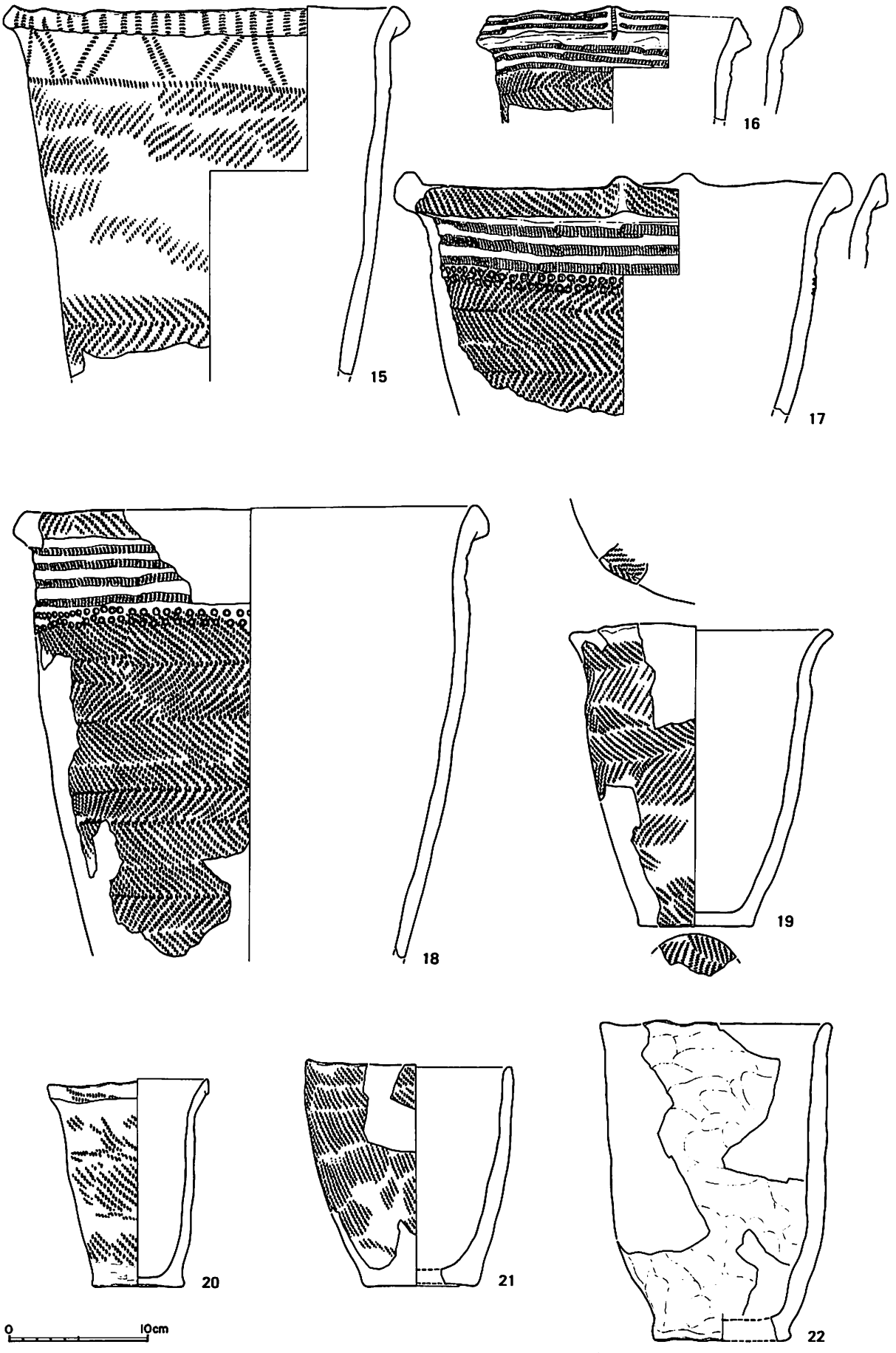
g類(150・151)　縄文が施されているもの。150は結束羽状縄文で，一方が撚り戻しとなっ



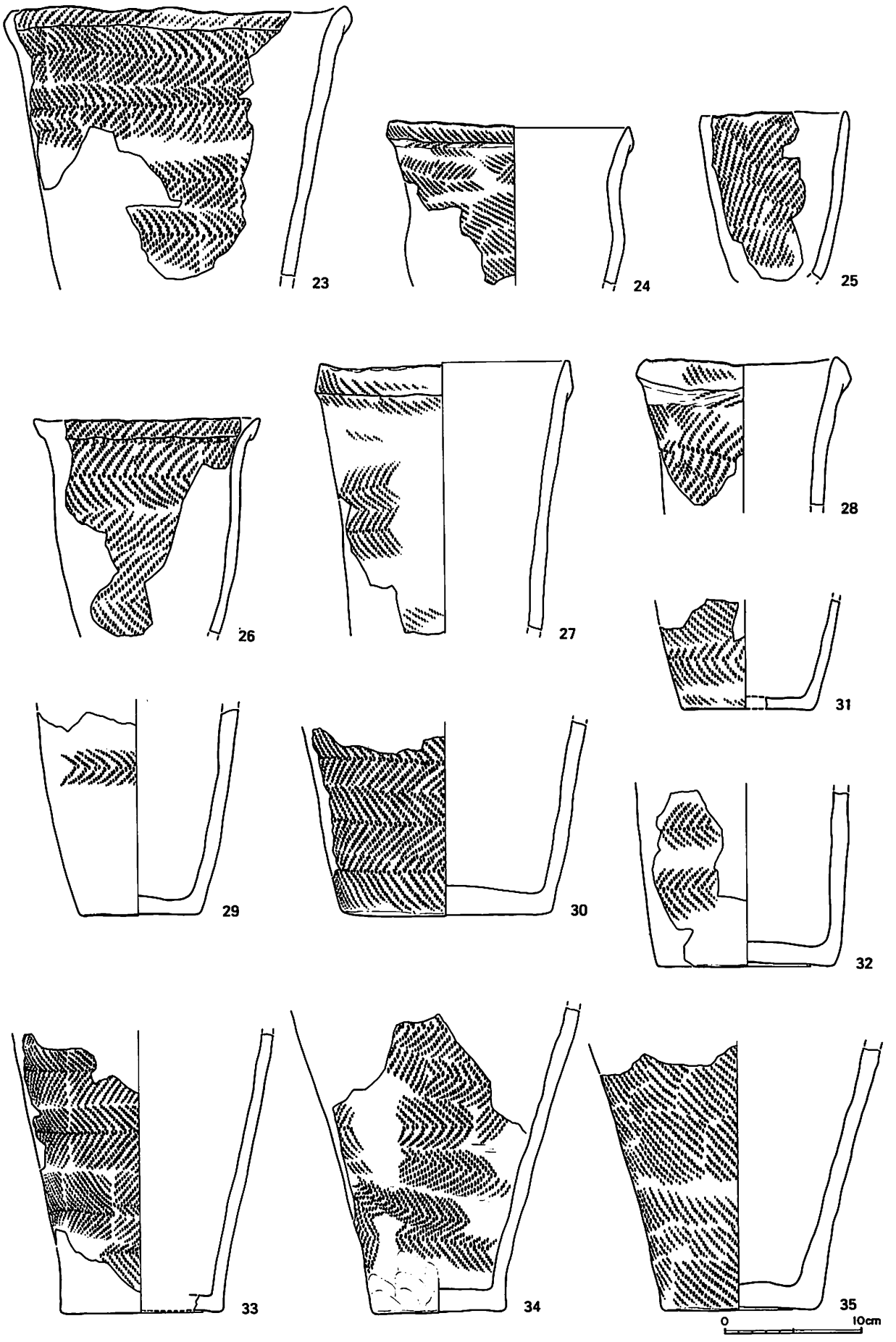
図Ⅲ—316　C地区包含層の土器(1)



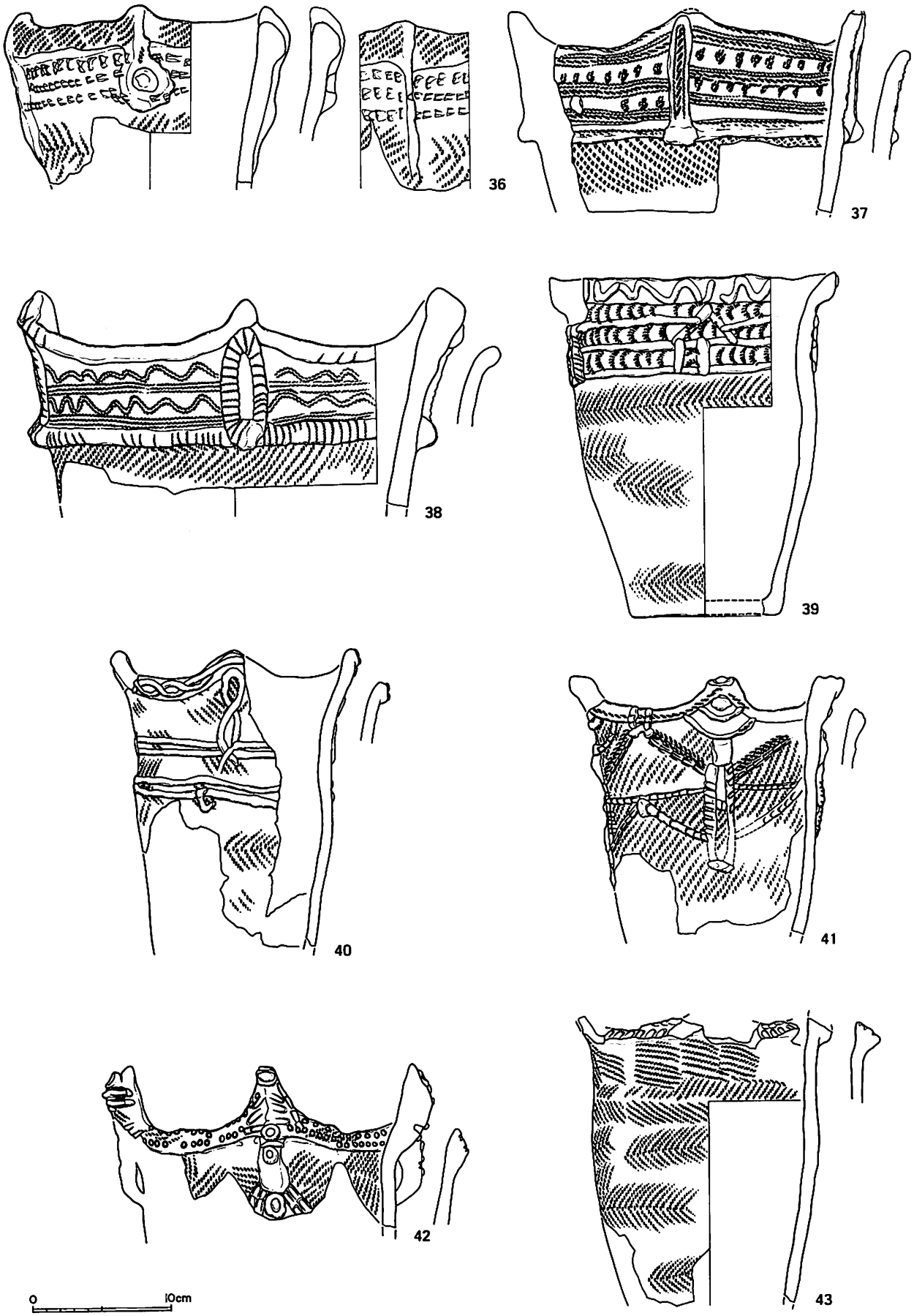
図Ⅲ－317　C地区包含層の土器（2）



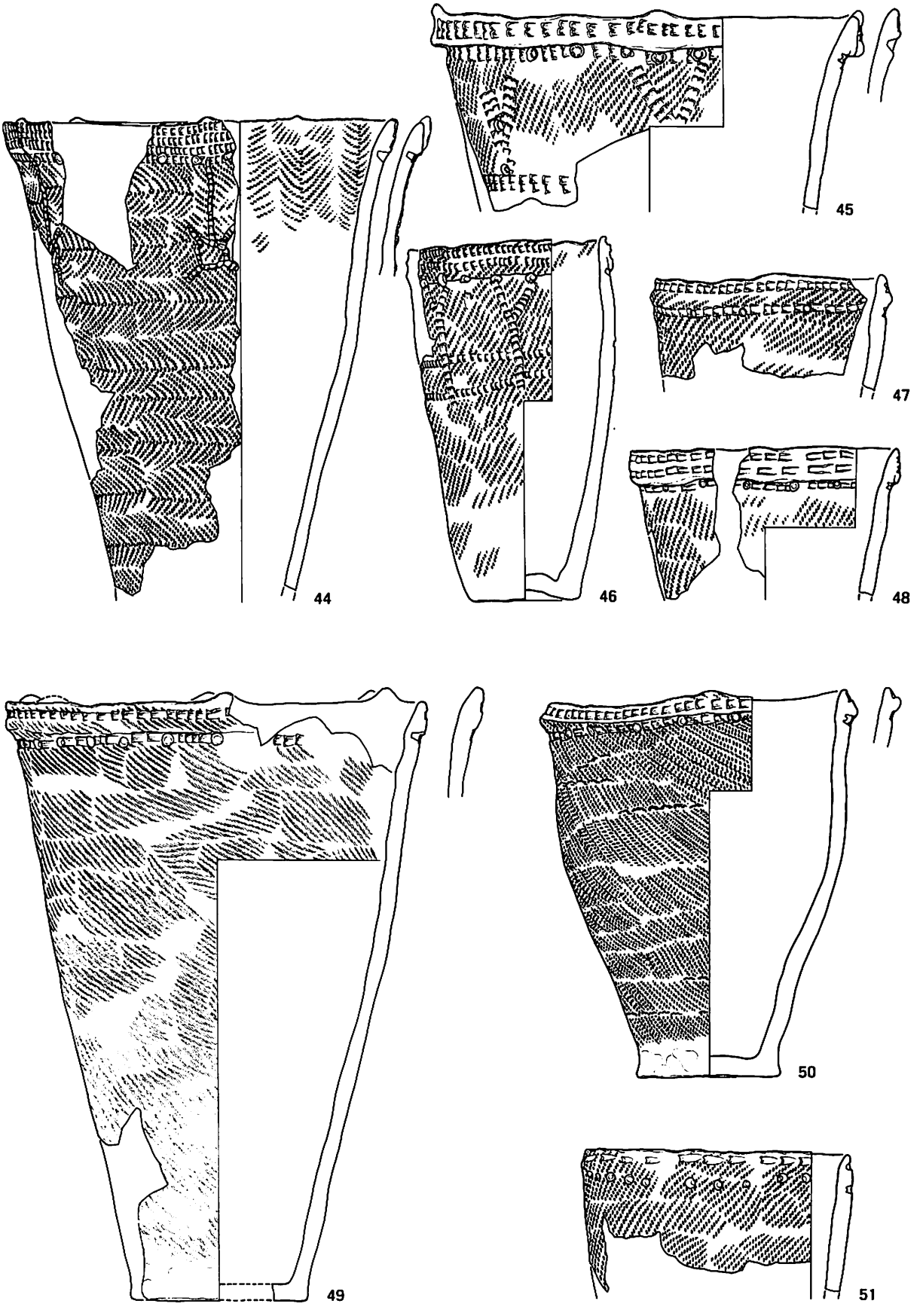
図Ⅲ—318　C地区包含層の土器(3)



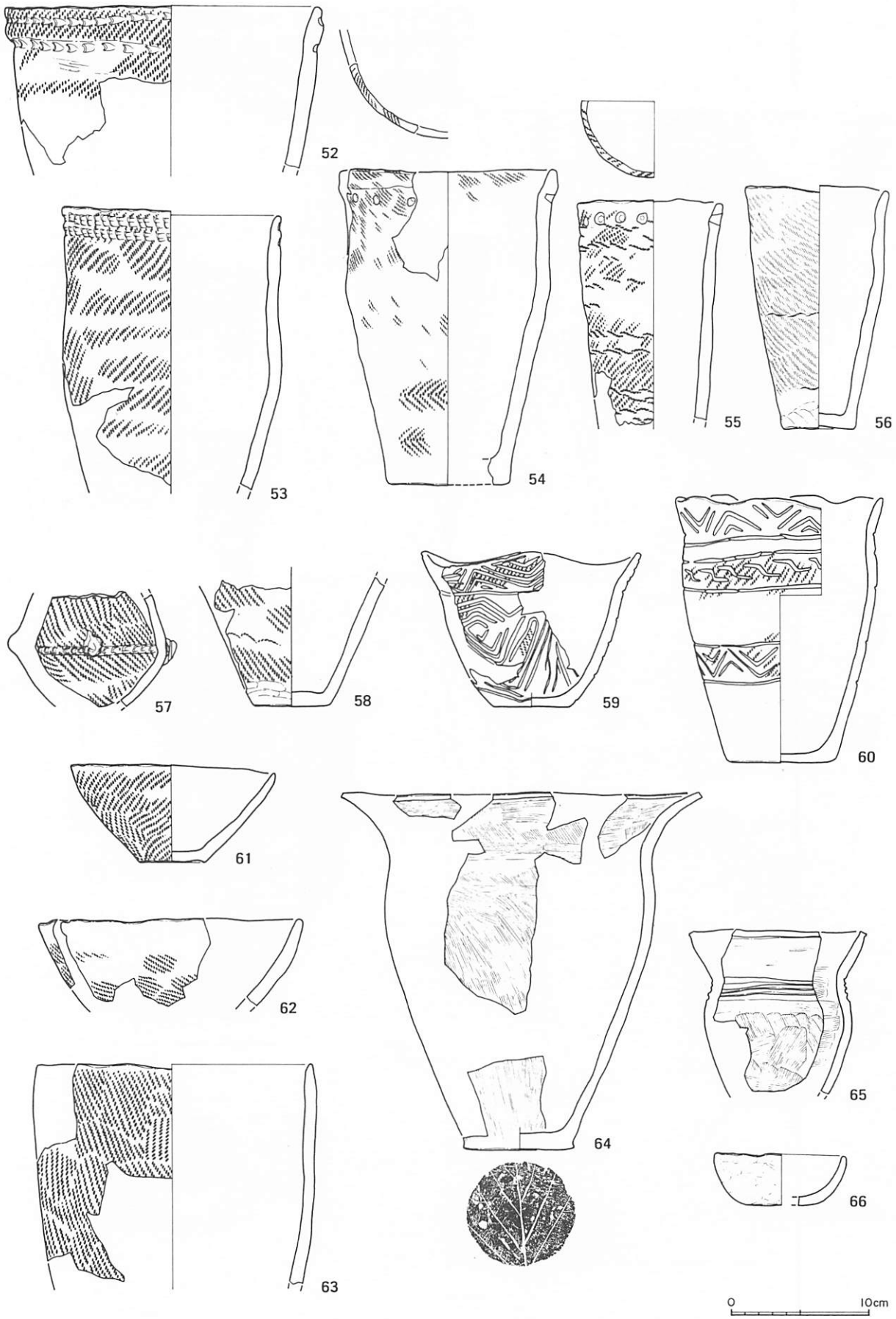
図Ⅲ—319　C地区包含層の土器(4)



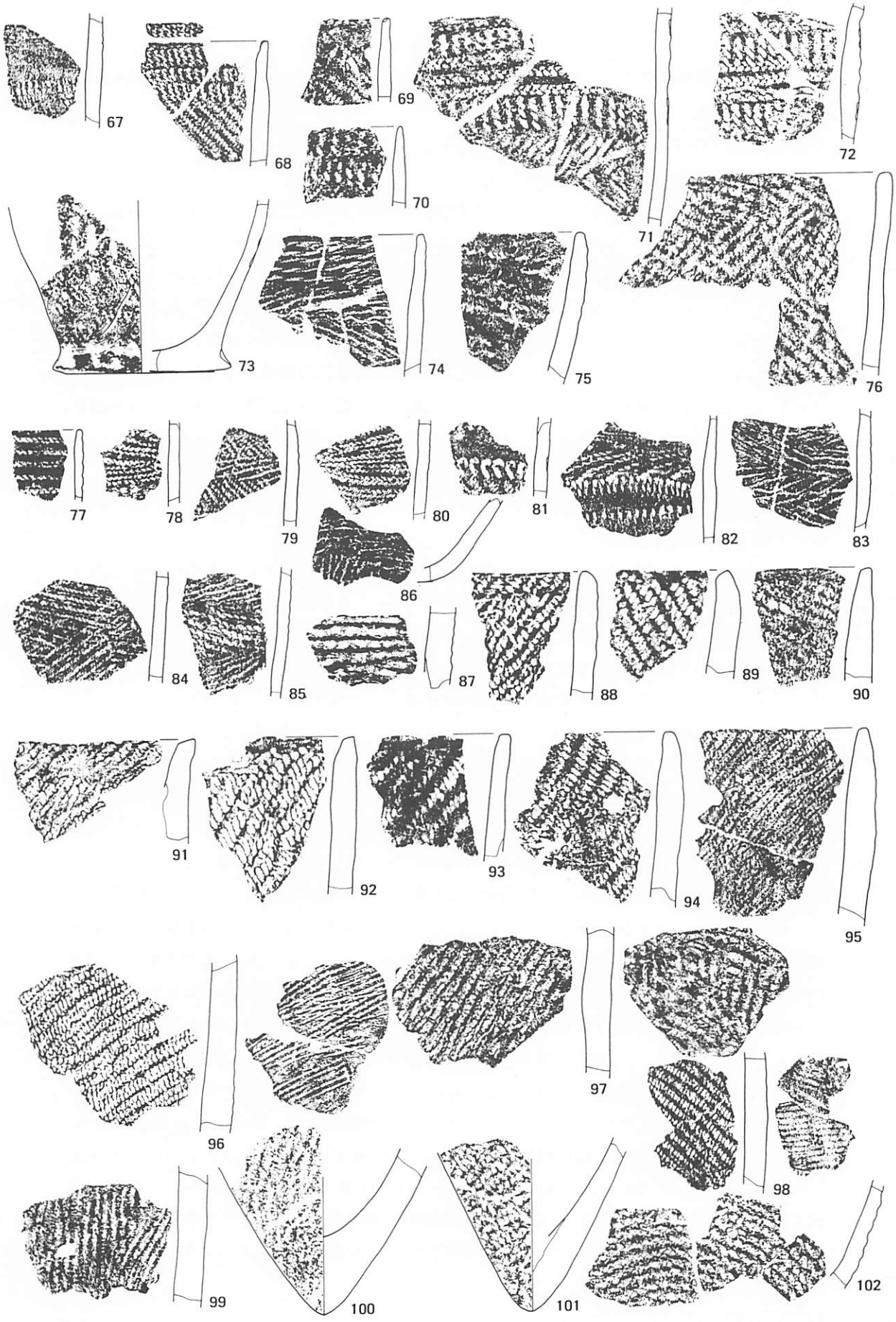
図Ⅲ－320　C地区包含層の土器（5）



図III－321　C地区包含層の土器（6）



図Ⅲ－322　C地区包含層の土器（7）



図III—323　C地区包含層の土器（8）

ている。

152～156は体部破片で，154•155は裏面に条痕文が施されている。156は付加条の原体で施文されている。170・171は底部破片である。

II群 B2a 類（8～11・174～233）

器形・体部文様から7つに分けられる。

a1類(8～11・174～195・212)　体部に多軸絡条体回転文が施されているものである。さらに，口唇部は角形ないし尖り，幅広のくびれの強い口頸部をもつもの(8～10•174～186•195•212)，口唇部が切り出し状ないし尖り，器形が底部から口縁部にかけてほぼストレートに立ち上がるもの（11・187～194）とに分けられる。前者は半截竹管状工具による刺突文や縄圧痕文で区画された口頸部に多段の縄線文が施されているものが多い。8は縄圧痕文が加えられた丸味をもつ口唇部で，幅広の口頸部には多段の縄線文が体部には多軸絡条体回転文・結束羽状縄文が施されている。9は縄線文・縄圧痕文が加えられた断面が切り出し状の口唇部である。円形刺突文で区画された口頸部には弧状の縄線文が施されている。10は口頸部に多段の縄線文が施されている。179は頸部に条痕文，183は多軸絡条体回転文，186は刺突文と縄線文・195は刺突文が施されている。11は切り出し状の口唇部断面で，口唇部は無文である。

a2類(196～207・209・210)　体部に単軸絡条体回転文が施されているもの。196～198は尖った口唇部で，口縁部に196は2本一組，197•198は1本の縄線文が施されている。体部には196・197・203～207・209は1本，198～201は2本一組，202は3本一組の原体が用いられ，197～199・205は結束羽状縄文と組み合わされている。201は口頸部区画帯として縄圧文が用いられている。206は縦横の両方向から施文されている。

a3類(208)　体部に条痕文が施されているもの。208は体部破片である。

a4類(211•213•214)　体部に結束羽状縄文が施されているもの。いずれも幅広でくびれが強い口頸部である。口頸部には多段の縄線文が施されている。211は縄圧痕文が加えられた角形の口唇部である。頸部区画帯として縄端による馬蹄形圧痕文が施されている。

a5類(215•216•230～233)　無文のもの。215•216は同一個体と思われ，口唇部は尖る。幅広でくびれの強い頸部である。器面内外は丁寧にナデ調整が施されている。230・231は同一個体である。口縁部上端の一部を突起状に残し，口縁部に浅い凹帯が横環する。胎土は繊維を含む。器面内外は丁寧なナデ調整が施されている。232・233は丸底気味で，底径は小さい。胎土は繊維・小量の砂粒を含む。器面内外は丁寧なナデ調整が施されている。

a6類(217～224)　体部に回転押型文土器が施されているもの。217は口縁部に楕円形の押型文が施されている。II群 B1 類の口縁部破片の可能性もある。218～224は同一個体と思われ，体部には縦方向施文の連続山形文が施されている。胎土は繊維を含む。器面内外は丁寧なナデ調整が施されている。218はくびれの強い頸部破片で，縄線文が施されている。

a7類(225～229)　体部文様に刺突文が施されているもの。225～227は無文地にほぼ器面に対し垂直ないし下方から刺突文が施されているものである。225は円形刺突文•半截竹管状工具による刺突文が施されている。胎土は繊維•小礫を含む。226は下方から棒状工具による刺突文が，227は縄文上に3本一組の櫛状工具による刺突文が加えられている。胎土は砂粒が多く，繊維を含まない。

II群 B2b 類（12～14・234～326）

口唇部・頸部に縄線文・縄圧痕文が施されたもので，器形・文様構成から3つに分けられる。

b1類(234～248)　口唇部断面は切り出し状で，幅広の頸部に鋸歯状・連弧状・斜状・羽状に縄線文とが施されているもの。頸部は幅広でくびれの強いものが多い。口唇部には縄線文・縄圧痕文・円形刺突文・半截竹管状工具による刺突文や押引文・縄文が施文されている。234～238・241・244は頸部に鋸歯状・曲線状・連弧状の縄線文が施されている。239は斜位に，242は菱目状に，243・246～248は多段の縄線文が頸部に施されている。

b2類(14・249～281・322)　口唇断面は切り出し状で，頸部はやや幅が狭く，くびれが弱い。頸部には，連弧状・メガネ状・平行状の縄線文が施されるとともに，半截竹管状工具による刺突文・押引文と頸部を分割する「逆U」字状や2本一組等の貼付帯が加えられているものもある。口唇部には縄線文・縄圧痕文・円形刺突文・半截竹管状工具による刺突文や押引文・縄文・斜行縄文・結束羽状縄文が施文されている。14の口唇断面は切り出し状で，口唇部下端に半截竹管状工具による刺突文があり，刺突文で区画された頸部には多段の2本一組の連弧状の縄線文が施されている。体部は結束羽状縄文である。249～255・257・258・262はメガネ状の縄線文が施され，250・254は区画文として縄線文が，257は刺突文が加えられた貼付帯が用いられている。256は頸部に下向きの連弧状の縄線文が施されている。260・261は頸部下端に上向きの，連弧状の縄線文が施されている。263～378は頸部に平行状の縄線文が施され，265・267～272は口縁部突起部から垂下する「逆U」字状・2本一組の貼付帯が加えられている。280・281は突起部に縦位の貼り付けがある。322は頸部に縄線文と半截竹管状工具による刺突文が組み合わされているものである。

b3類(12・13・282～321・323～326)　b1類，b2類の粗製土器と思われる。器形は底部から口縁部にかけて外反気味にほぼストレートに立ち上り，口唇断面は切り出し状で，口唇部・口唇部直下に縄線文・縄圧痕文が施されたものである。体部文様は結束羽状縄文・結束斜行縄文が多い。口唇部・口唇直下の縄線文・縄圧痕文は円形刺突文・半截竹管状工具による刺突文や押引文・縄文と組み合わされているものがある。282～292は口唇部・口唇部直下に縄線文が施されているもの，12・13・293～307・326は縄文が施された口唇部直下に縄線文が施されているもの，308～321・323～325は口唇部のみに縄線文・縄圧痕文が施されているものである。12は無文地の口唇部で，刺突文で区画された幅の狭い頸部に長さ6cmの結束のある原体で縄線文が施されている。13は口縁部に結束羽状縄文が施され，2段の刺突文で区画された口唇部直下に長さ約5cmの結束のある原体で縄線文が施されている。体部は結束羽状縄文で，縄線文と同じ原体を用い施文したものと思われる。325は口縁部が切り出し状で，口唇端部・口唇部に半截竹管状工具による刺突文が加えられIII群B3類に類似するが，縄線文が加えられていること，内面調整が丁寧であることから本類に含めた。

II群B2c類(15～18・327～401)

口唇部・口唇直下・頸部に絡条体圧痕文が施されたもので，器形・文様構成から2つに分けられる。

c1類(15・17・18・327～375・396・397・339～401)　頸部は幅広でくびれの強いものとやや弱いものとがある。口唇部・頸部には絡条体圧痕文・円形刺突文・半截竹管状工具による刺突文や押引文・縄文が施文されている。頸部は半截竹管状工具による刺突文や押引

文・絡条体圧痕文・縄線文によって区画され，頸部文様には鋸歯状・連弧状・横位の絡条体圧痕文があり，円形刺突文・半截竹管状工具による刺突文や押引文と組み合わされ施文されているものもある。突起部下位には頸部を区画する貼付帯・山形や2本一組の絡条体圧痕文が加えられている。15の口唇部・頸部・頸部区画帯に絡条体圧痕文が施され，頸部には2本一組の鋸歯状の絡条体圧痕文が施されている。17・18は口唇に縄文が施され，2段の円形刺突文で区画された頸部には横位の絡条体圧痕文が施されている。体部は結束羽状縄文である。327～336・338～341は鋸歯状の絡条体圧痕文が頸部に施されているもので，327～329は口唇部に絡条体圧痕文が施されたもの，330～336は口唇部に縄文が施されたものである。337・338は口唇部に鋸歯状の絡条体圧痕文が施されたものである。342～346は頸部に2本一組の連弧状の絡条体圧痕文が施されたもので，347～375は横位の絡条体圧痕文が施されたものである。347～365は口唇部・頸部に絡条体圧痕文が施されたものである。367～369・371～375は口唇部に縄文が施されたものである。366は頸部に斜位に絡条体圧痕文が施されている。370は突起部のみに縦位に施されたものである。396～401は貼付帯をもつもので，396は突起部から垂下する2本一組の貼付帯，397・400・401は「人」字状の貼付帯，398は突起部から絡条体圧痕文が加えられた貼付帯が垂下する。

c2類(16・376～395)　c1類の粗製土器と思われる。器形は底部から口縁部にかけてほぼストレートに立ち上がる。口唇部には絡条体圧痕文・半截竹管状工具による刺突文や押引文・縄文が施文され，円形刺突文・半截竹管状工具による刺突文や押引文と組み合わされているものもある。口唇部直下の文様帯は区画されたものが少ない。16は無文地の口唇部・口唇直下に長さ5cmの原体を用い絡条体圧痕文が施されている。376～378・393は口唇部・口唇部直下に絡条体圧痕文が施されているものである。379～392は口唇部が縄文で口唇部直下に絡条体圧痕文が施されているものである。394は口唇部のみに絡条体圧痕文が施されているものである。389・390は口唇部に縄文・縄圧痕文が施されている。

II群B類（19～36・402～468）

本類は，II群B2a類・II群B2b類・II群B2c類の粗製土器と思われる。器形は体部上半部でくびれをもつものと外反気味にストレートに立ち上がるものとがある。口唇断面は切り出し状のものがほとんどである。器形・文様構成から大きく3つに分けられる。

a類(36・402～434)　半截竹管状工具による刺突文・押引文が施されたものである。口唇部直下にナデ調整が加えられ無文地ないし地文上に半截竹管状工具による刺突文や押引文・円形刺突文が施されているものが多い。36は口縁部に4つの突起をもち，突起部から垂下する貼付帯がある。貼付帯にはドーナツ状を呈するものと棒状のものとがある。ナデ調整が加えられた無文地の頸部には3段の押引文が施されている。体部は結束羽状縄文である。402～404・408～411は口唇部・口唇部直下に半截竹管状工具による刺突文や押引文・円形刺突文が施されたものである。405～407・412～421は口唇部に半截竹管状工具による刺突文・押引文が施されたもの。422～434は口唇部に縄文が施され口唇部直下に半截竹管状工具による刺突文・押引文が施されたものである。体部文様には結束羽状縄文・結束斜行縄文・斜行縄文が施されている。

b類(19～21・23～28・435～468)　縄文のみのものである。口唇断面は切り出し状のものと丸味をもつものとがある。口唇部・体部には結束羽状縄文・結束斜行縄文・斜行縄文が施されている。28・435・437～457は切り出し状の口唇部に斜行縄文，体部に結束羽状縄

文が施されたものである。23・26・27・436・458・463・464・466は切り出し状の口唇部に斜行縄文，体部に結束斜行縄文が施されたものである。20・24・459～462・465・467は切り出し状の口唇部に斜行縄文，体部に斜行縄文が施されたものである。19・21・25・468は丸味をもつ口唇部で，体部に斜行縄文が施されたものである。19は頸部に僅かに肩をもち，口唇端部・口縁部内面・底面に斜行縄文が施されている。胎土は砂粒が多い。器面調整はやや粗雑である。II群 B1 類の可能性もある。22は粗雑な器面調整で，器面内外に指頭痕が残る。胎土は砂粒・小礫が多い。24は体部上半部に幅広のくびれをもち，II群 B2a 類に類似した器形である。452は撚り戻し結束羽状縄文である。465は自縄自巻的な原体で斜行縄文が施されている。468は無節の斜行縄文である。

c 類(22)　無文のものである。口唇部は丸味をもつ。22は器面調整が粗雑で，外面に指頭痕が残る。胎土には砂粒・小礫が多い。

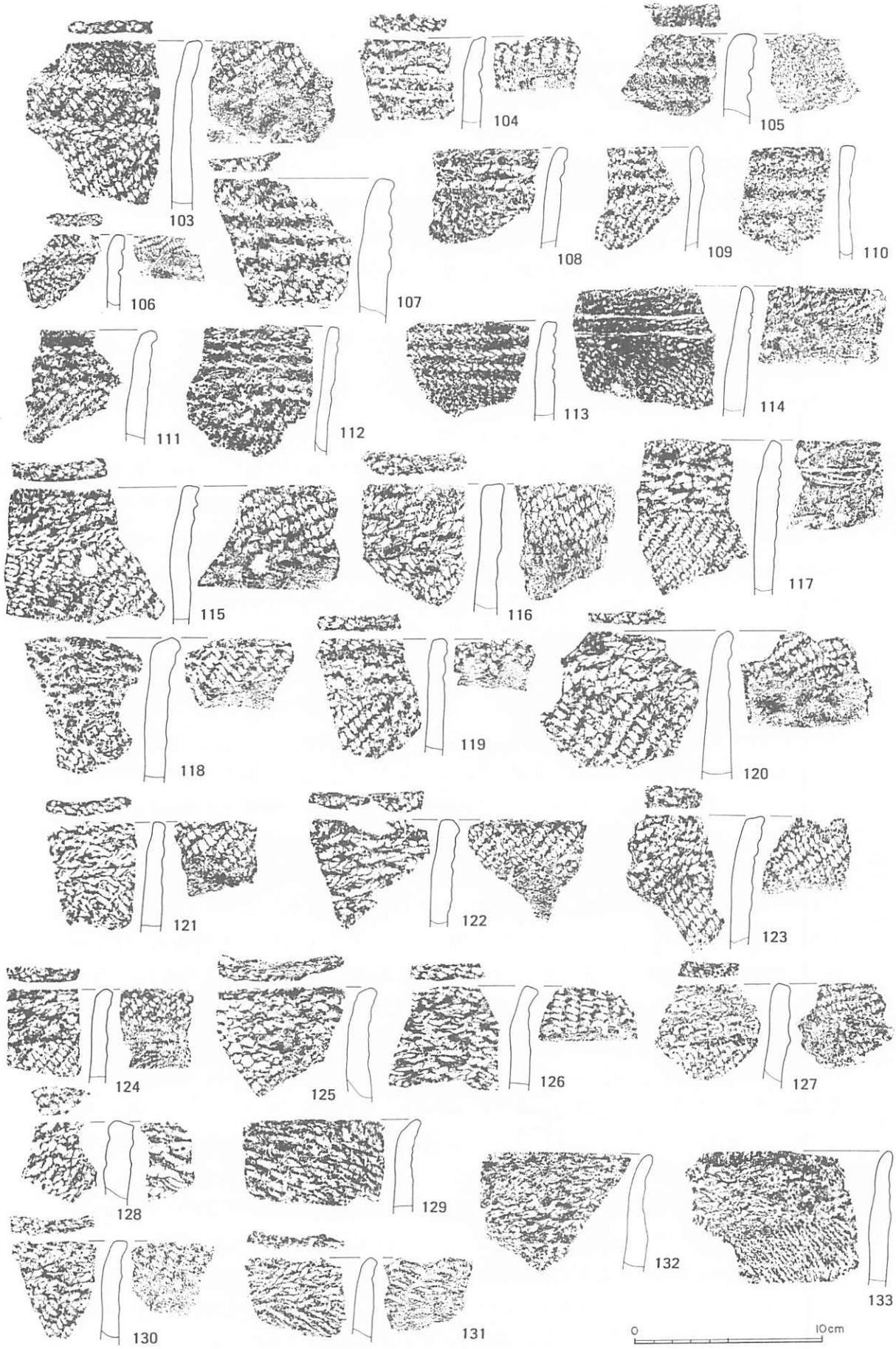
III群 A1 類（37～39・469～488）

本類は器形・文様構成から 4 つに分けられる。

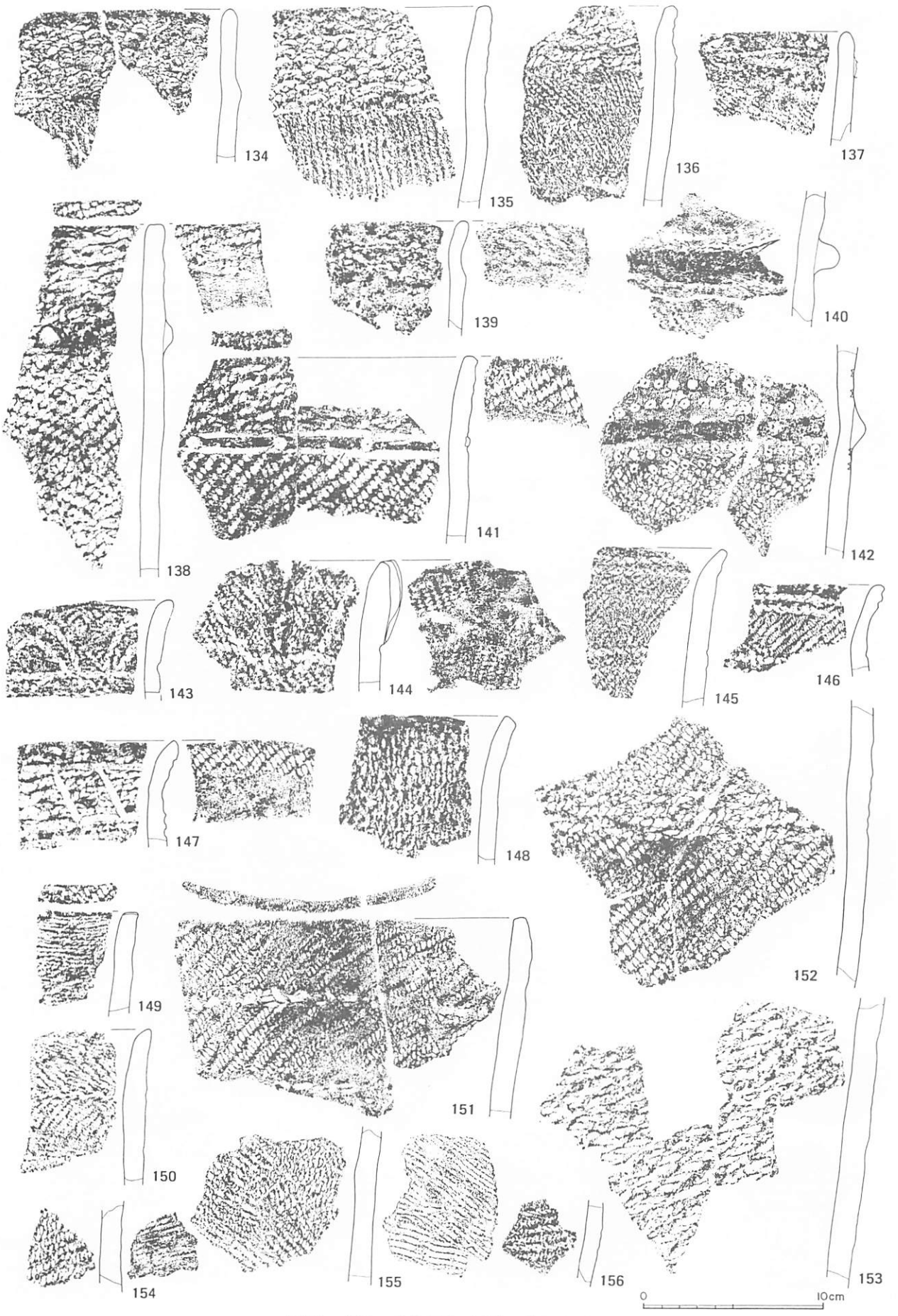
a 類(469・471・472)　文様構成・器形はII群 B2b 類の b2 類・b3 類の一部やII群 B2c 類の c2 類に類似する。口縁部は突起は未発達で小さいものが多い。口唇断面はやや丸味をもつ。貼付帯が口頸部や頸部文様区画帯として多用され，頸部には絡条体圧痕文・縄線文や半截竹管状工具による押引文ないし刺突文が施されている。469は縄圧痕文が加えられた丸味をもつ口唇部で，貼付帯には半截竹管状工具による刺突文・円形刺突文・縄線文が加えられている。471は貼付帯に絡条体圧痕文が施されている。472は頸部に半截竹管状工具による刺突文と絡条体圧痕文が施されている。

b 類(37・38・470・473～482・485～487)　口縁部は大きな波状を呈するものが多い。口唇部は縄圧痕文が施され，丸味をもつ。縄線文・縄圧痕文が加えられた太い貼付帯が多用され，貼付帯で区画された頸部には縄線文が施されている。37の口縁部は大きな波状を呈す。口頸部は縄線文が加えられた貼付帯で区画され，4 本一組の縄線文と縄端圧痕文が施されている。体部は斜行縄文である。38は口頸部に楕円形の貼付帯があり，多段の 2 本一組の波状の縄線文が施されている。470は 3 本一組の縄線文，473は縄線文が加えられた丸味をもつ口唇部である。口頸部には口唇部から垂下する太い貼付帯とボタン状の貼付けがあり，多段の縄線文が施されている。474は無文地に 2 本一組の鋸歯状の縄線文，475は縄線文，476は縄線文が頸部に施文されている。477は絡条体圧痕文・縄線文が施されたものである。478は口唇部に 2 本一組の縄圧痕文が加えられ，絡条体圧痕文が加えられた貼付帯で区画された口頸部には 4 本一組の縄線文が施されている。479は口縁部に縄線文が加えられた貼付けが施され，口頸部には多段の「∩」状の縄線文が施されている。480は口縁部が波状を呈し，突起部下位の頸部には渦巻状の縄線文と橋状把手が施されている。481・482は口唇部に縄文が加えられた鋸歯状の貼付けがある。485は体部破片で縄線文が加えられた鋸歯状や横環する貼付帯が施されている。

c 類(39・488)　頸部は縄線文が加えられた貼付帯で区画され，馬蹄形圧痕文や半截竹管状工具による「C」字状の刺突文が施されたもの。39は切り出し状の口唇部断面で，口唇部に鋸歯状の細い貼付けが加えられ，頸部には貼付けと縄端による馬蹄形圧痕文が施されている。体部は結束羽状縄文である。488は縄線文が加えられた貼付帯で区画された口頸部に半截竹管状工具による「C」字状の刺突文が施されたもので，体部は結束羽状縄文であ



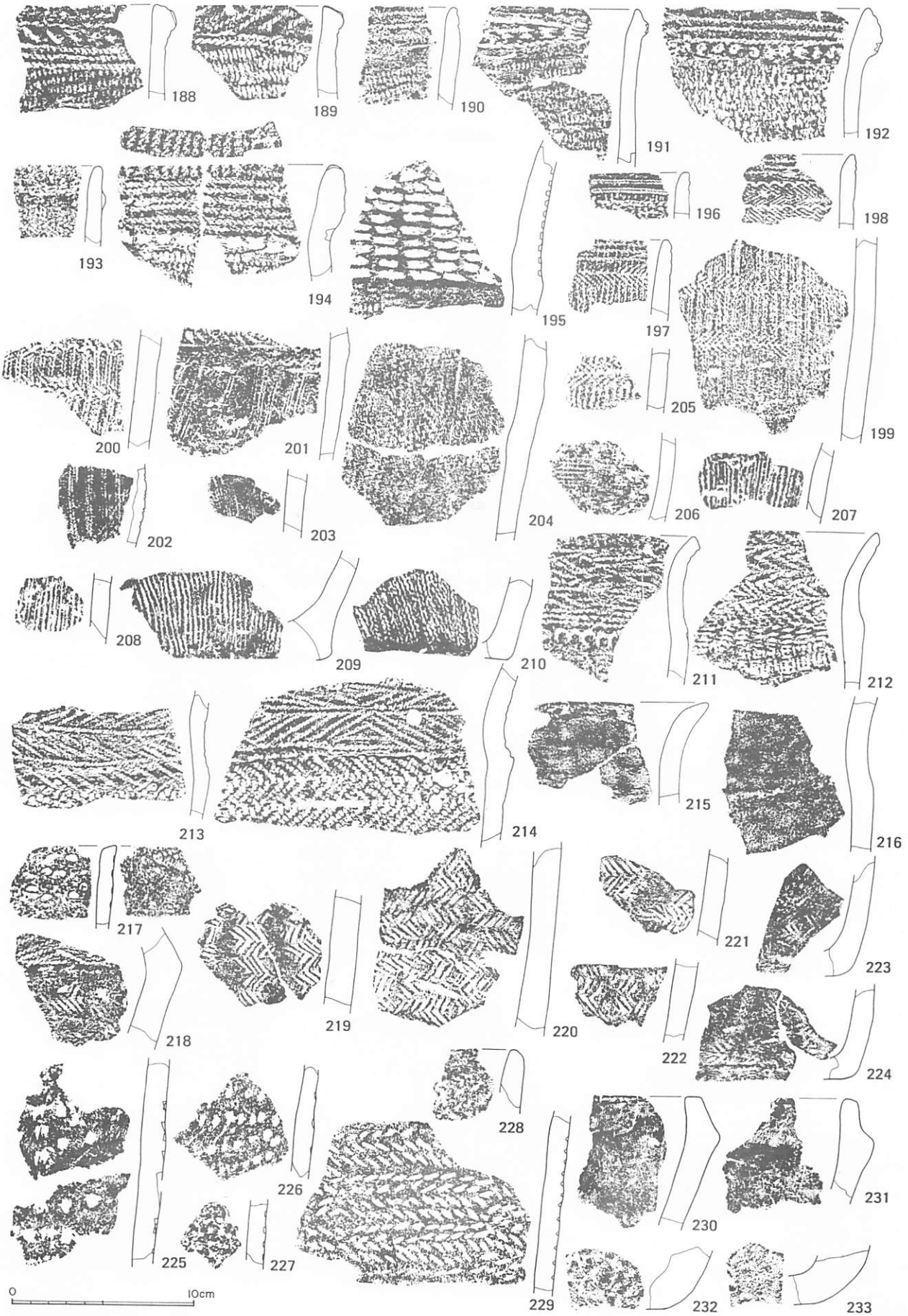
図Ⅲ－324　C地区包含層の土器（9）



図Ⅲ－325　C地区包含層の土器(10)



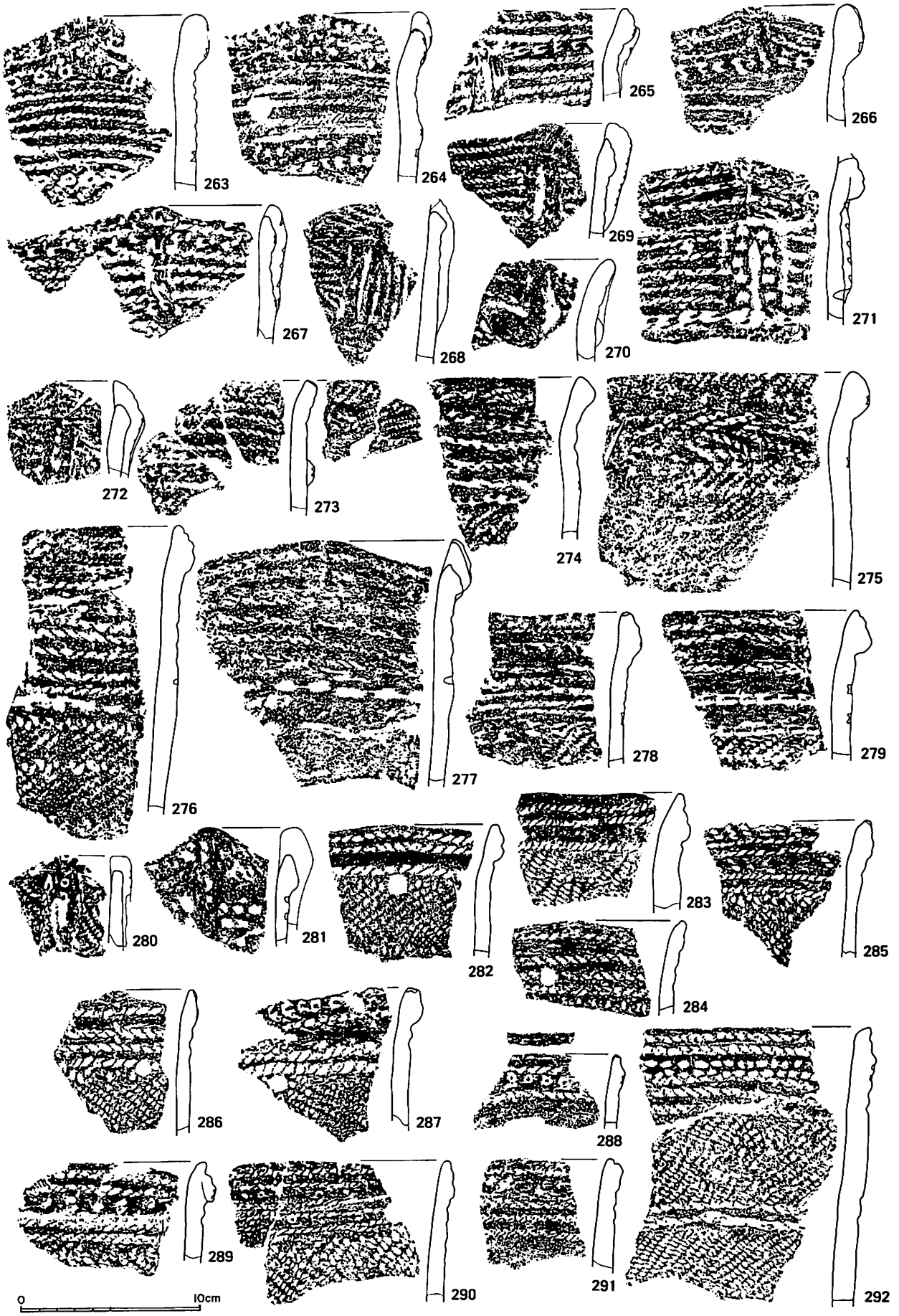
図Ⅲ—326　C地区包含層の土器(11)



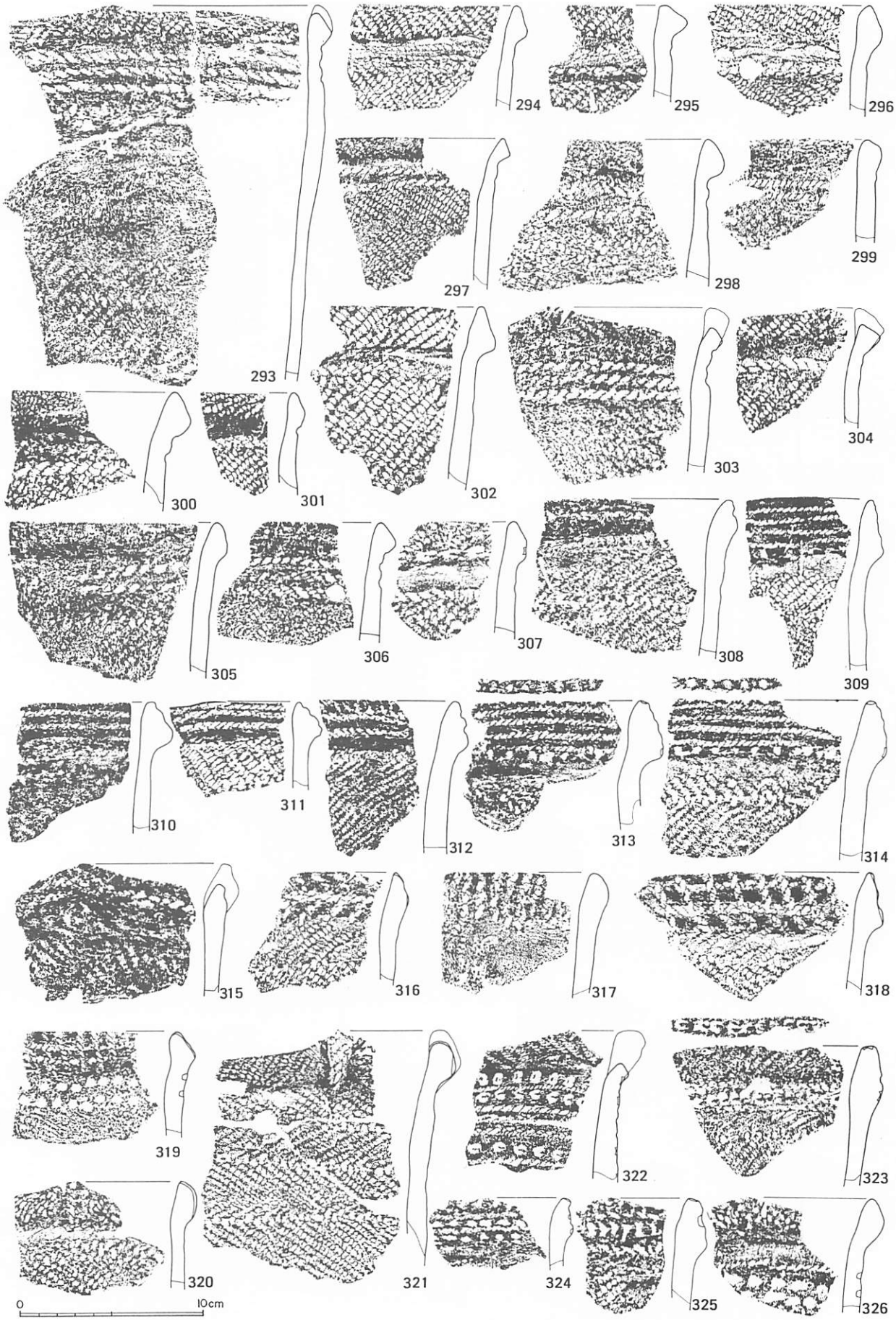
図III－327　C地区包含層の土器(12)



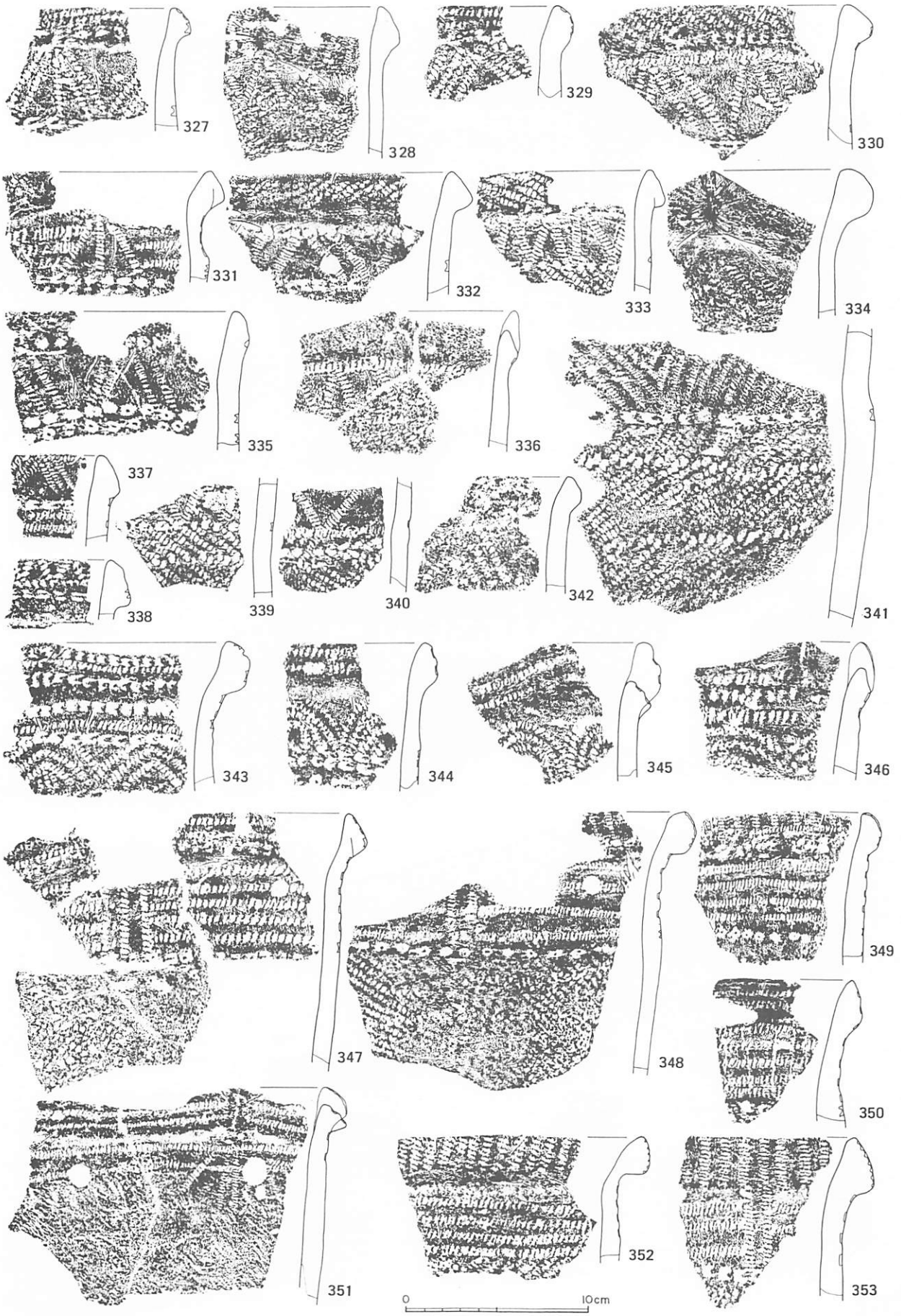
図Ⅲ－328　C地区包含層の土器(13)



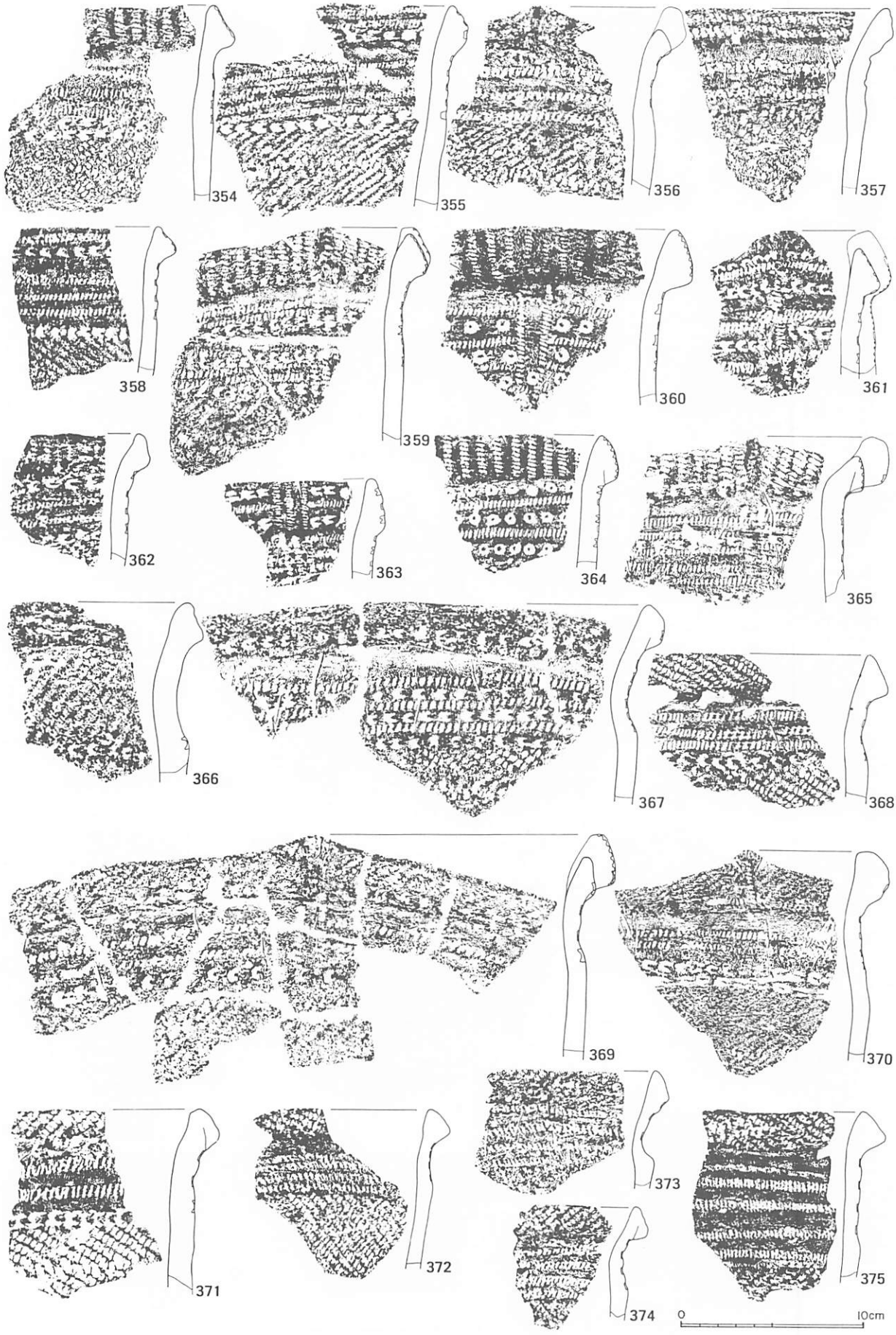
図III－329　C地区包含層の土器(14)



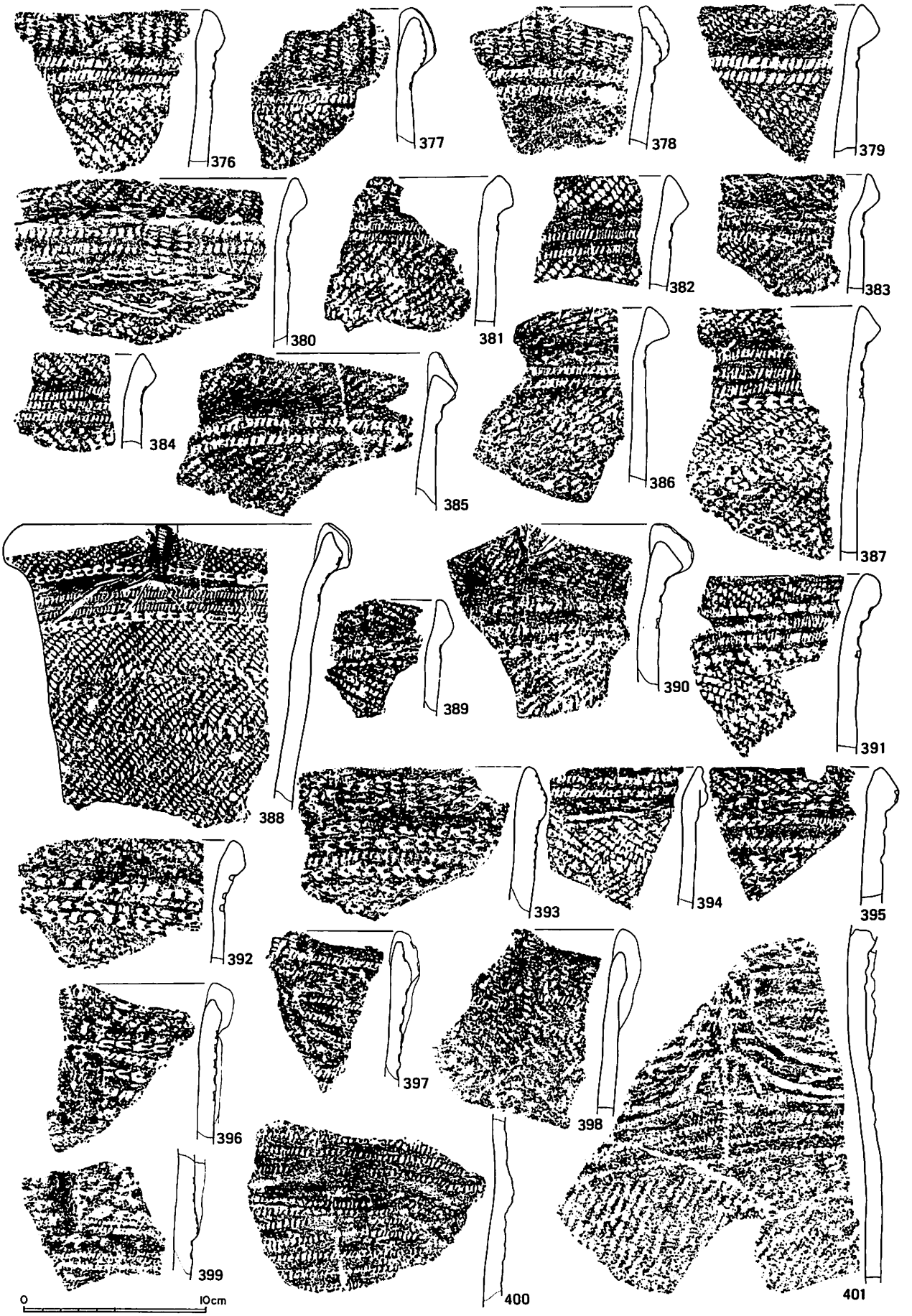
図Ⅲ－330　C地区包含層の土器(15)



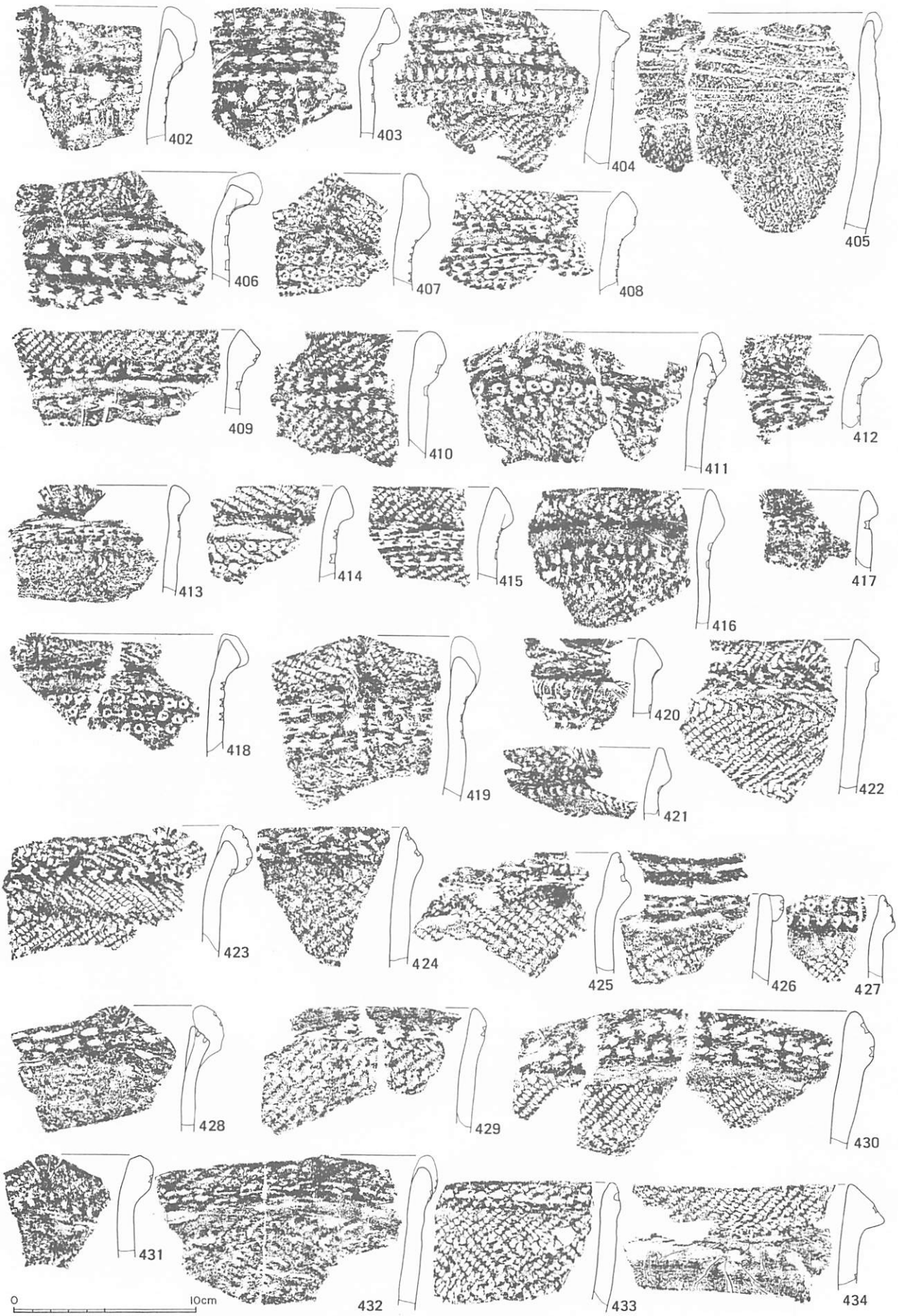
図III—331　C地区包含層の土器(16)



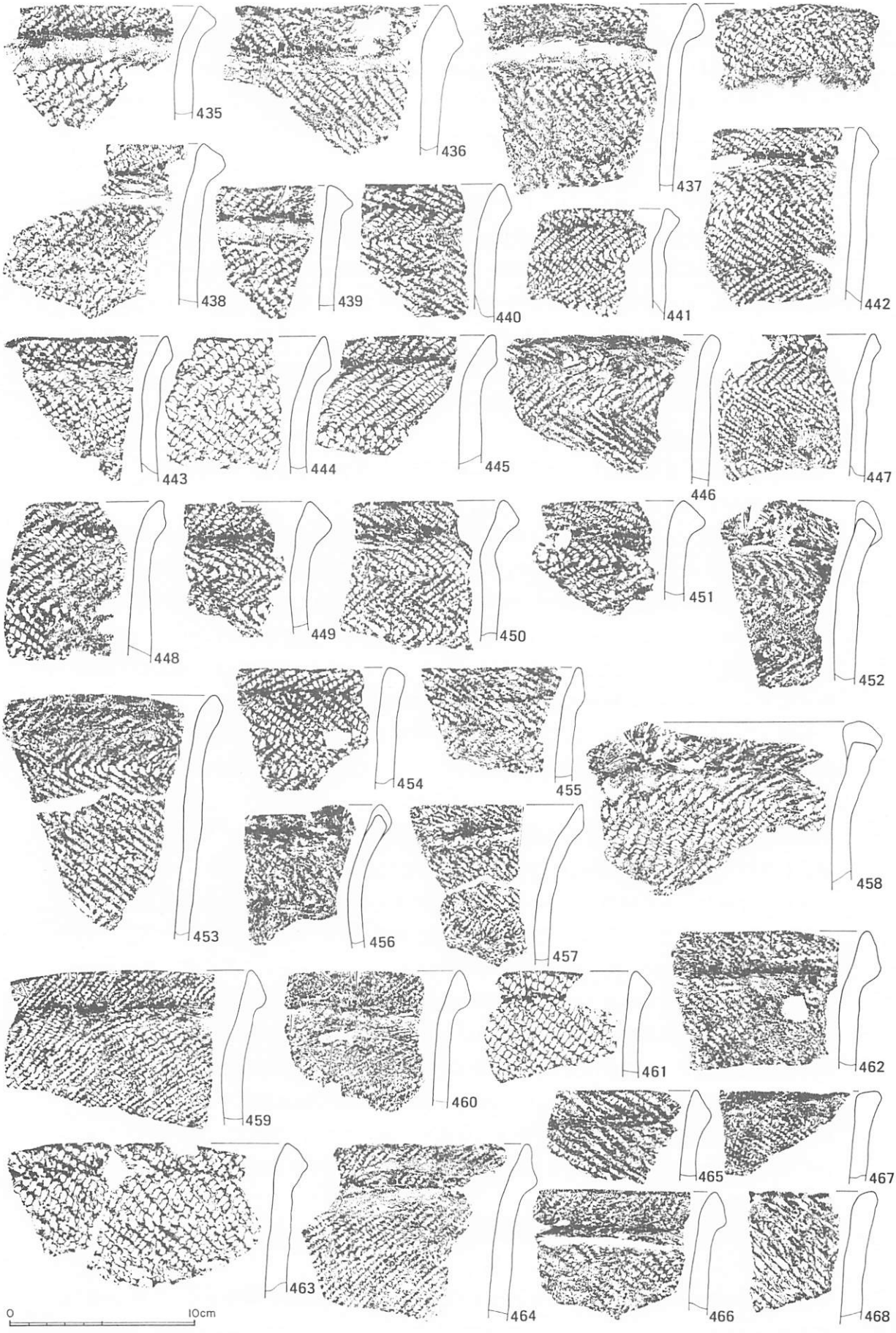
図Ⅲ－332　C地区包含層の土器(17)



図III－333　C地区包含層の土器(18)



図Ⅲ－334　C地区包含層の土器(19)



図III－335　C地区包含層の土器(20)

る。

d類(483・484)　口唇部は角形で，体部が縄文のみのものである。483は口唇部に貼付けによる小突起がある。口唇端部にも縄文が施され，体部は羽状縄文である。484は斜行縄文である。

III群A2類（40・489～508）

体部上半部に撚糸・縄文が加えられた細い貼付帯や無文の貼付帯が多用されたもの（40・489・491～497・505・506・507），口唇部に細い貼付帯が多用されるもの（490・498～504），口唇部に刻目文が多用されたもの（506）とに分けられる。体部は結束羽状縄文・斜行縄文のものがある。40は波状の口縁部を呈す。口唇部・体部上半の結束羽状縄文上に細い貼付帯が施されている。482は尖る口唇部断面で，口唇部に長円形の貼付け，無文地の体部上半部に貼付帯と半截竹管状工具による刺突文が施されている。508は口唇部に刻目文が加えられ，突起部から垂下する「S」字状の細い貼付けがある。

III群B1類（41～43・509～534）

本類は口縁部が波状を呈し，体部上半に貼付帯・刺突文・沈線文が多用されているものである。器形・文様構成から4つに分けられる。

a類(41・506～510・512～516)　体部上半に貼付帯・刺突文・沈線文とともに縄線文も施されているものである。41は切り出し状の口唇部に縄圧痕文が加えられ，体部には半截竹管状工具による押引が加えられた貼付帯が施され，部分的に貼付帯に沿って縄線文が加えられている。地文は斜行縄文である。胎土は砂粒が多く，脆弱である。509は口唇部と突起下位に縄線文が加えられた貼付帯，510は縄線文が加えられた貼付帯が，512は口唇部に縄圧痕文，511～516は口唇部に縄線文，515は擬似組紐的な縄線文である。

b類(42・43・518～535)　貼付帯・刺突文・沈線文が多用されたものである。42は口唇部に斜行縄文が施され，円形刺突文と半截竹管状工具による刺突文が加えられている。突起部直下には細い粘土紐でドーナツ状の貼付けが加えられた橋状の把手がある。体部に押引文が加えられている。43は波状の口縁部で，口唇部には半截竹管状工具による刺突文が施されている。体部は上半部に斜行縄文，下半部には結束羽状縄文が施されている。518は大きな貼付瘤をもつ突起部で，細い貼付帯と刺突文が施されている。体部は複節斜行縄文である。519は口唇部に3段の刺突文が加えられ，体部は斜行縄文上に貼付帯が施されている。520～523・525は口唇部に刻目文が，体部には刺突文が加えられた貼付帯と半截竹管状工具内面による沈線文が施されている。524は口唇部に半截竹管状工具による押引文が加えられ，橋状の貼付けが施されている。526は口唇部に沈線文が施されている。527は口唇部に2段の刺突文が，体部には刺突文が加えられた貼付帯と半截竹管状工具内面による沈線文が施されている。地文は斜行羽状文である。529・530は体部に押引文のみ加えられたものである。533～535は同一個体で，地文は複節斜行縄文である。533は刺突文が加えられた貼付帯と半截竹管状工具内面による沈線文が施されている。535は揚げ底で，底面にも縄文が施されている。

c類(517)　517は丸味をもつ口唇断面で，口唇部・体部には複節斜行縄文が施されている。

d類(536～541)　沈線文が多用されたもの。536は丸味をもつ口唇断面で，口縁部・体部に3本一組の沈線文が加えられている。537は貼付瘤をもつ突起部である。口唇部は角形で，

口唇端部には羽状に刻目文が加えられている。539には突起頂端部に渦巻状の沈線文，540には口唇端部に沈線文，541には突起頂端部に刺突文が加えられている。

III群 B2 類(542・543)

542・543は同一個体である。口唇部直下・口縁部に円形刺突文が加えられた貼付帯がある。口唇部断面は角形である。口縁部内面に横走する縄文が，体部には結束羽状縄文が施されている。胎土は砂粒が多く，脆弱である。器面調整は粗雑である。IV群A類の可能性がある。

III群 B3 類（44～56・544～653）

本類は器形・文様構成から大きく2つに分けられる。

a 類(44～56・544～641)　口唇部・体部に貼付帯・押引文・円形刺突文等が多用されたものである。器形は口縁部にくびれをもち，体部がやや張り出すものとくびれをもたず筒形ないし上半部が開き気味のものがある。体部の文様には，貼付帯が施されたもの，押引文が施されたもの，縄文のみのものとがある。胎土は砂粒を多く含む。器面調整は粗雑である。さらに器形・文様構成から10に分けられる。

a1 類(544～551)　体部に押引文や縄文が加えられた幅広の貼付帯をもつものである。体部上半部にくびれをもち，体部がやや張り出す器形で，口唇部に押引文が施され，断面は切り出し状である。口唇部直下に円形刺突が加えられ，体部文様は上半部のくびれ部から張出し部分に押引文・縄文が加えられた太い貼付帯が施される傾向が窺え，あたかも頸部文様帯のような観を呈している。口唇部直下の押引文は認められない。体部・口縁部内面には結節羽状・斜行縄文や綾絡文が施されているものが多い。544～548は貼付帯に押引文が，549・550は縄文が加えられているものである。

a2 類(44・552～561・639・641)　体部に押引文が加えられた細い貼付帯をもつものである。体部上半のくびれが弱く，筒形ないし体部上半が開き気味である。口唇部は押引文が施され，断面は切り出し状である。口唇部直下に円形刺突が加えられる。また，口唇部直下に押引文を施文後，円形刺突が加えられているものもある。体部文様は上半部のくびれ部から体部の最大張出し部分の下位までおよび，a1 類に比べ幅広の文様帯が認められ，押引が加えられた細い貼付帯が施されている。44はほとんどくびれをもたない器形で，口唇部肥厚帯直下に押引文を施文後，円形刺突が加えられている。体部には突起部から垂下する細い貼付帯があり，その下端に円形の貼付けと，これから放射状にのびる貼付けがある。体部・口縁部内面には結束羽状縄文が施されている。552～557は口唇部肥厚帯直下に円形刺突文が施されているもの，559～561は押引文を施文後，円形刺突が加えられているものである。

a3 類(45・46・562～574・640)　体部に押引文をもつものである。器形・文様施文位置等においてa2 類に類似する。体部上半のくびれが弱く，筒形ないし上半部が開き気味のものである。口唇部は押引文が施され，断面は切り出し状である。口唇部直下に円形刺突が加えられているものと，口唇部直下に押引文を施文後，円形刺突が加えられているものとがある。体部文様は上半部のくびれ部から最大張り出し部分の下位までおよび，幅広の文様帯が認められる。45は体部上半が開き気味の器形である。口唇部直下に押引文を施文後，円形刺突が加えられている。体部は斜行縄文で，押引文で区画された体部上半の突起部下位には「V」字状の押引文が加えられている。46は体部上半でやや内湾気味の筒形である。

口唇部直下に円形刺突文が加えられている。体部上半は2段の押引文で区画され，「Y」字状の押引文が加えられている。562～567は口唇部直下に押引文を施文後，円形刺突が加えられているもので，563は体部の押引文の交点に円形刺突文が加えられている。568～574は口唇部直下に円形刺突が加えられているものである。

a4類(47～50・590～599)　口唇部に押引文が施され，口唇部直下に押引文を施文した後，円形刺突文が加えられているものである。器形はa1類に類似した体部上半部でくびれをもつものと，a2類に類似したくびれが弱くやや外反気味にストレートに立ち上がるものとがある。縄文の内面施文は少ない傾向が窺える。47・48は口唇部に突起をもたないもので，体部は斜行縄文である。49は口唇部に突起をもち，体部は無節の斜行縄文である。50は緩やかな波状を呈する口縁部で，体部は付加条の縄文が施されている。

a5類(51・575～588)　口唇部に押引文が施され，口唇部直下に円形刺突文が加えられ，体部が縄文のみのものである。器形は体部上半にくびれをもつものとやや外反気味にストレートに立ち上がるものとがある。体部は羽状縄文・結束羽状縄文・斜行縄文があり，撚糸文や綾絡文的な文様が加えられているものもある。51は不明瞭な切り出し状の口唇断面で，口唇部には円形の刺突文が加えられている。口唇部・体部は斜行縄文である。581は体部上部に斜位に撚糸文，下位に斜行縄文が施されている。582・583は口縁部内面に押引文が加えられている。

a6類(52)　口唇部・口唇部直下に押引文が施されているものである。文様構成においてII群B類に類似するが胎土に繊維を含まないこと，器面調整が粗雑であることから本類に含めた。

a7類(53・620～626・628～632)　口唇部に押引文のみが施されているものである。器形は体部上半でわずかにくびれをもつものとやや外反気味にストレートに立ち上がるものとがある。口唇部は切り出し状のものとやや角型に近いのものがある。53は丸味をもつ口唇部で，体部上半でややくびれをもつ。体部は斜行縄文である。

a8類(527)　口唇部・体部に押引文が施されているものである。527は角形の口唇部で，体部は斜行縄文である。

a9類(54・55・600～619)　口唇部に縄文が，口唇部直下に円形刺突文が施されているものである。器形は体部上半でわずかにくびれをもつものとやや外反気味にストレートに立ち上がるものとがある。口唇部は切り出し状のものと先端部に丸味をもち尖るものとがある。54は体部上半でややくびれをもち，上半部は斜行縄文，下半部には結束羽状縄文が施されている。55は丸味をもつ口唇部で，結節斜行縄文施文後，口縁部に円形刺突文が加えられている。

a10類(56・633～638)　縄文のみのものである。器形はやや外反気味にストレートに立ち上がる。口唇部は切り出し状のもの，やや丸味をもつもの，角形のものがある。56は丸味をもつ口唇部で，体部上半でややくびれをもつ。体部は無節の斜行縄文である。

640・641は体部破片である。640は無文地に幅約3cmの爪形文が加えられている。641は押引文が加えられた貼付帯が施され，貼付帯交点に円形刺突文が加えられている。

b類(642～653)　タガ状の貼付帯・短刻線文等が多用されたものである。器形は口縁部にくびれをもち，体部がやや張り出すものとくびれをもたず筒形ないし上半部が開き気味のものがある。胎土は砂粒を多く含む。器面調整は丁寧である。口唇端部は角形のものが

多い。体部の縄文はタガ状の貼付帯施文後に加えられている。

b1類(642～647・651・653)　刺突文が加えられた貼付帯ないし肥厚帯をもつものである。642～645は棒状工具による短刻文，646・647・653は半截竹管状工具による刺突文が施されている。

b2類(648～650・652)　短刻文をもたないものである。652は体部破片で，タガ状の貼付帯を貼り付け後に斜行縄文が施されている。

なお，57は小型の，ソロバン玉状の器形をもつものである。張り出し部に押引と穿孔が加えられた貼り瘤がある。胎土は砂粒が多いこと，内面調整は粗雑であることから本類に含める。

Ⅳ群A類(58～60・654～735)

器形・文様構成から3つに分けられる。

a類(58・654～679)

口唇断面は角形で，口縁部・体部にタガ状の貼付帯が多用されたものである。文様構成から4つに分けられる。

a1類(654～668)　貼付帯上や区画文として縄線文が多用されたものである，654～660は口縁部に縄線文で区画された無文帯であるものである。661～668は貼付帯に縄線文が加えられたものである。

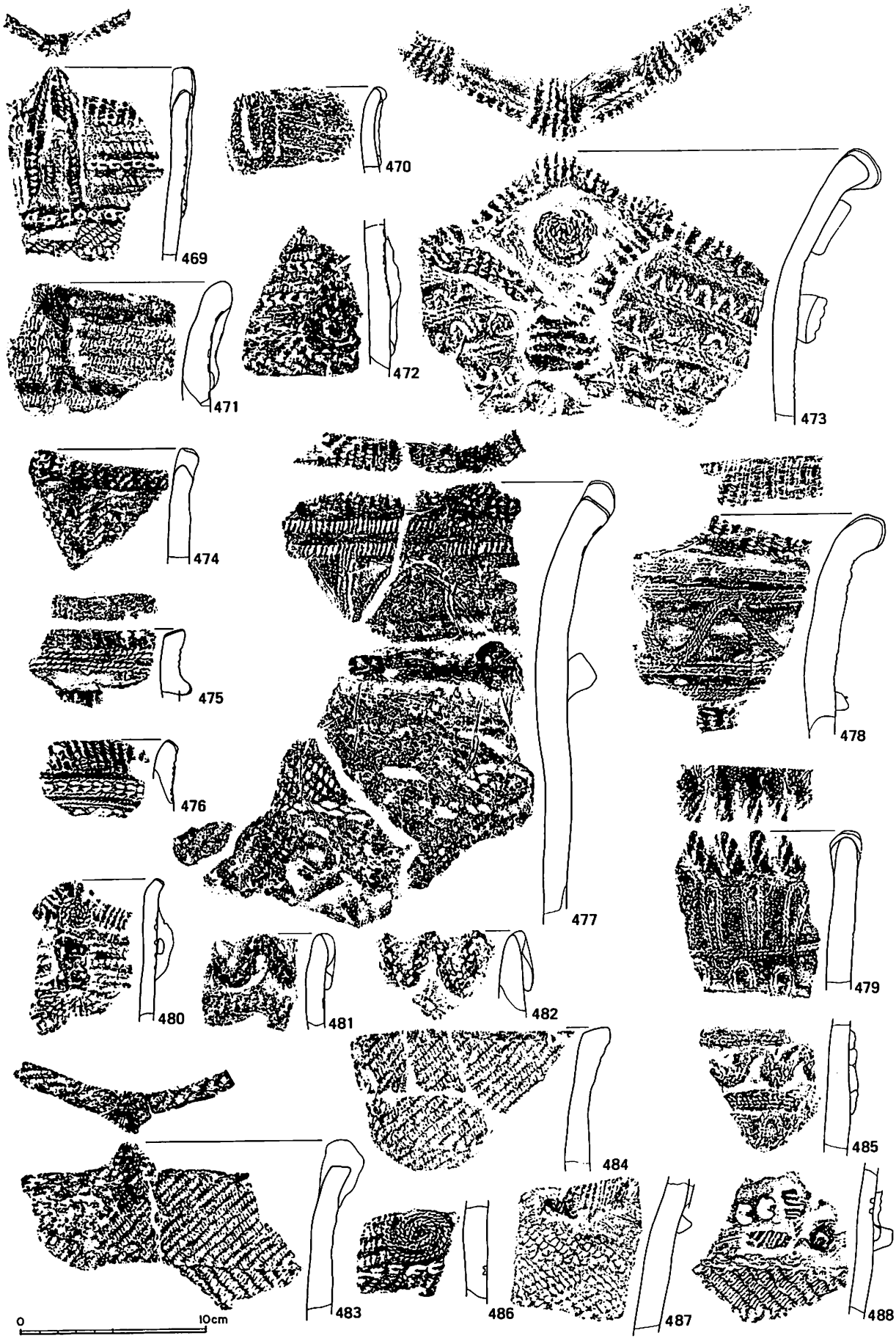
a2類(669～671)　口縁部に無文帯をもつものである，669・670は幅の狭い無文帯をもつもので，口縁部にナデ調整で無文帯を作出後，折返したものと思われ，体部は結束羽状縄文である。671はタガ状の貼付帯直下に無文帯をもつものである。

a3類(672～675)　口唇直下にタガ状の貼付帯をもつものである，674は羽状縄文である。

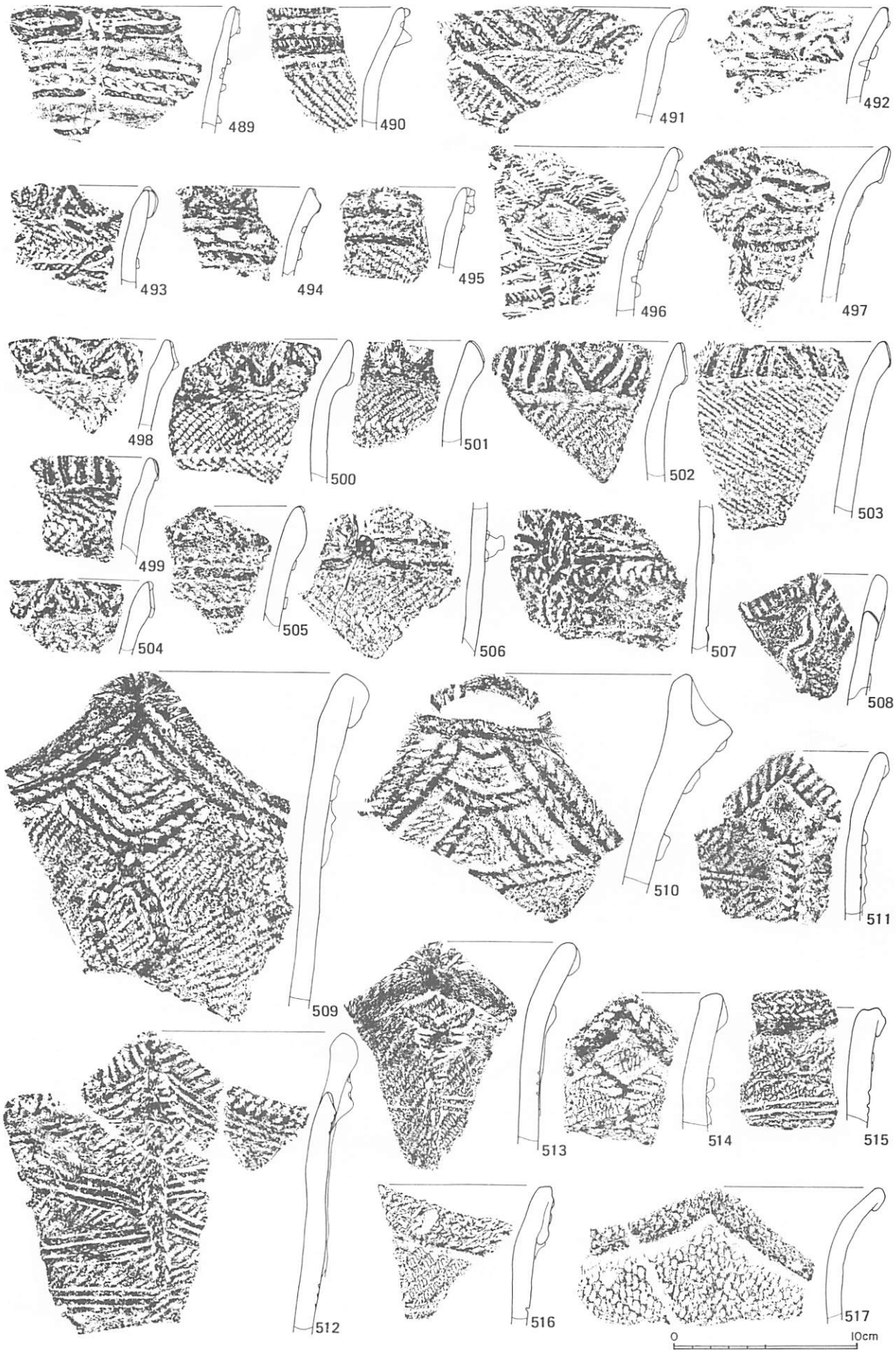
a4類(676)　676はナデ調整で口縁部に無文帯が作出されているものである。667～679は体部破片で，タガ状の貼付帯がある。58・680～682は底部破片である。

b類(683～707)　683～686・700・706・707は沈線文が多様されたもので，706は口唇端部・口唇直下に縄線文が，707は口唇端部に指頭圧痕文が施されている。687は波状の口縁部で，貼付帯・円形刺突文・縄線文が施されている。688・689は同一個体で，体部に指頭圧痕文が加えられた貼付帯・沈線文・半截竹管状工具による刺突文が施されている。690～692は同一個体で，波状の口唇部頂端部に指頭圧痕文が加えられ，体部には縄線文が加えられた貼付帯と木葉状の沈線文が施されている。693は半截竹管状工具による押引文が加えられた貼付帯・沈線文が施されている。694・695は同一個体で，口唇端部に指頭圧痕文が加えられ，体部・貼付帯にオオバコ回転文が施されている。696～698は同一個体で，波状の口縁部で，口唇端部や口縁部のボタン状貼付瘤に指頭圧痕文が加えられている。そして，頸部は2本一組の沈線によって区画され，突起部下位に向い合う弧状の沈線文が施されている。699は体部にボタン状の貼付瘤と沈線文が施されている。701・702は口縁部に「8」字状の貼付帯が加えられたものである。701は無文地に沈線文が，702は無節の縄文が施されている。703・704は角型の口唇部断面形で，体部に斜行縄文が施されている。704は体部に無節の斜行縄文が施されている。

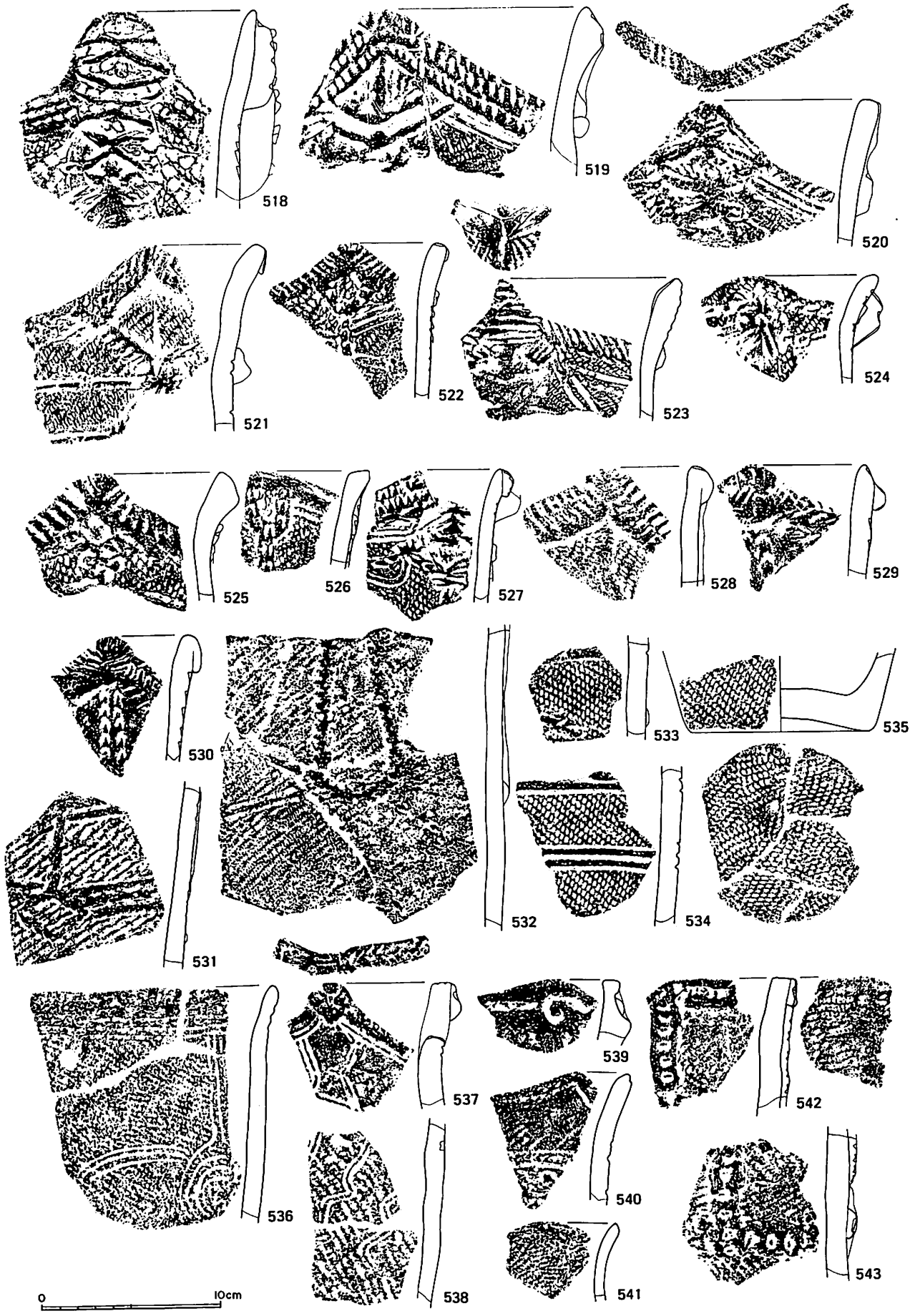
c類(59・60・708～730・732～753)　59は丸味をもつ口唇断面で，口縁部には鋸歯状の沈線文が，体部にはスパナー状の沈線文が施されている。60は頸部に無文帯があり，口縁部には鋸歯状の沈線文，体部には無文帯をはさみ2段の文様帯があり，上段にはクランク



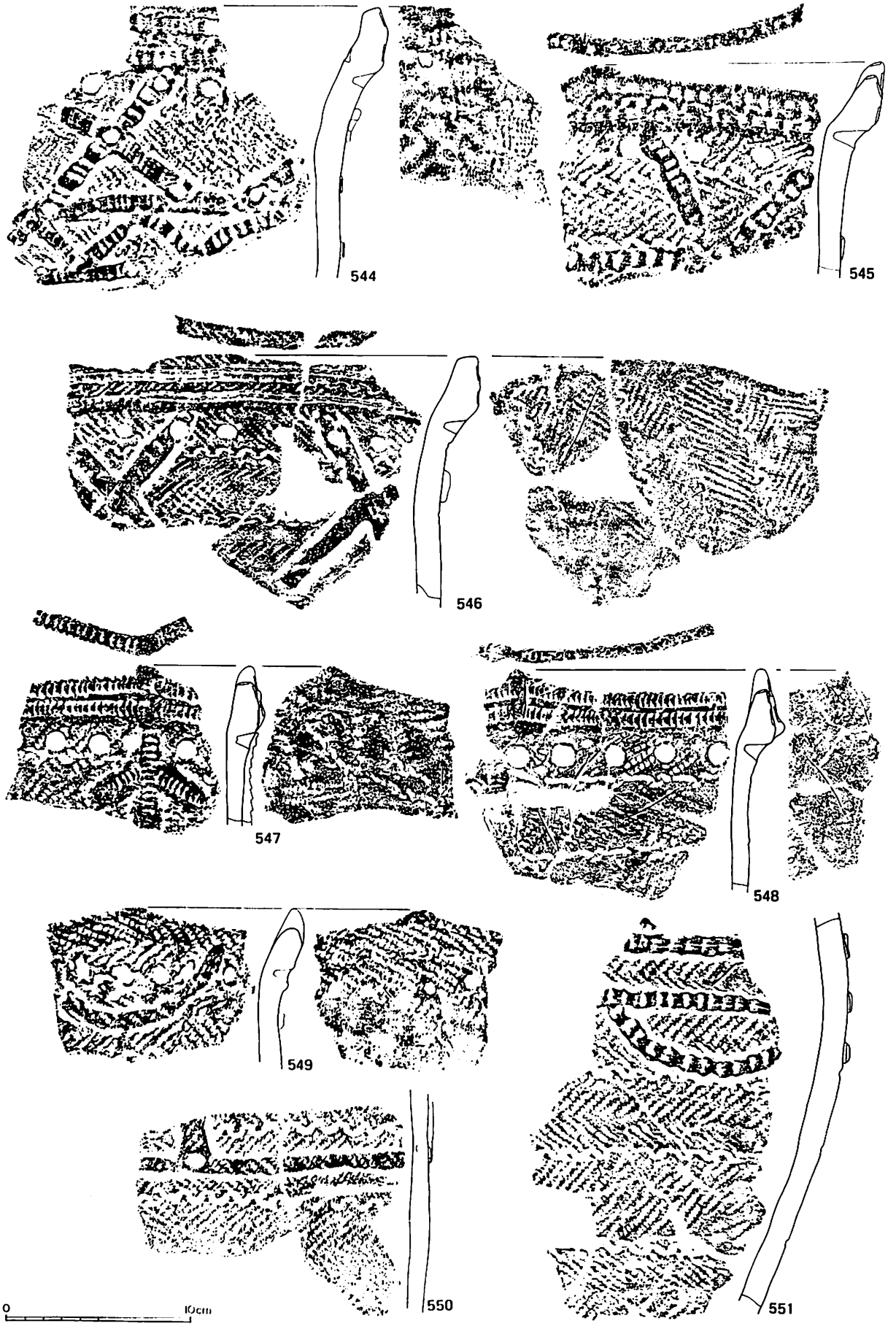
図Ⅲ—336　C地区包含層の土器(21)



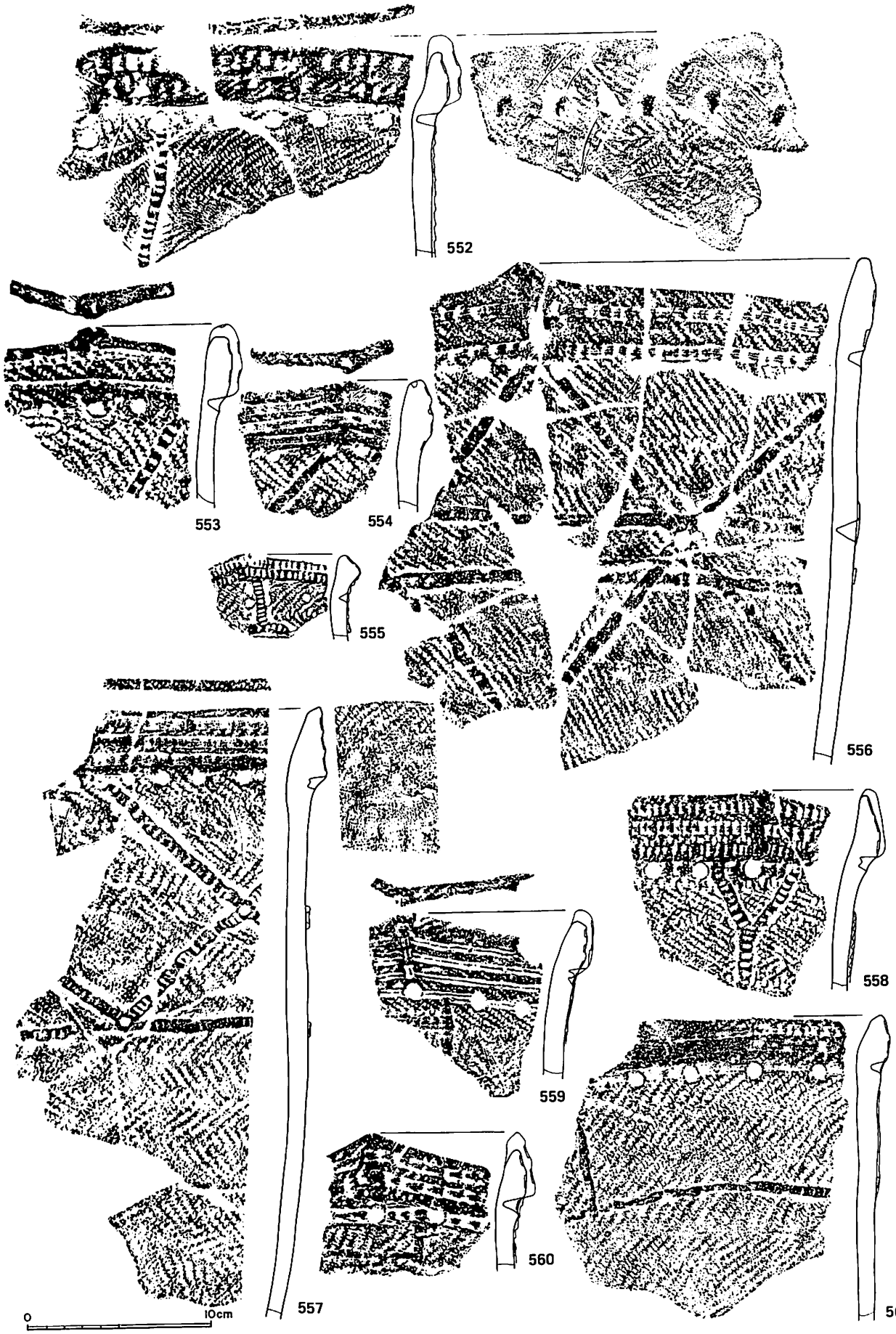
図III－337　C地区包含層の土器(22)



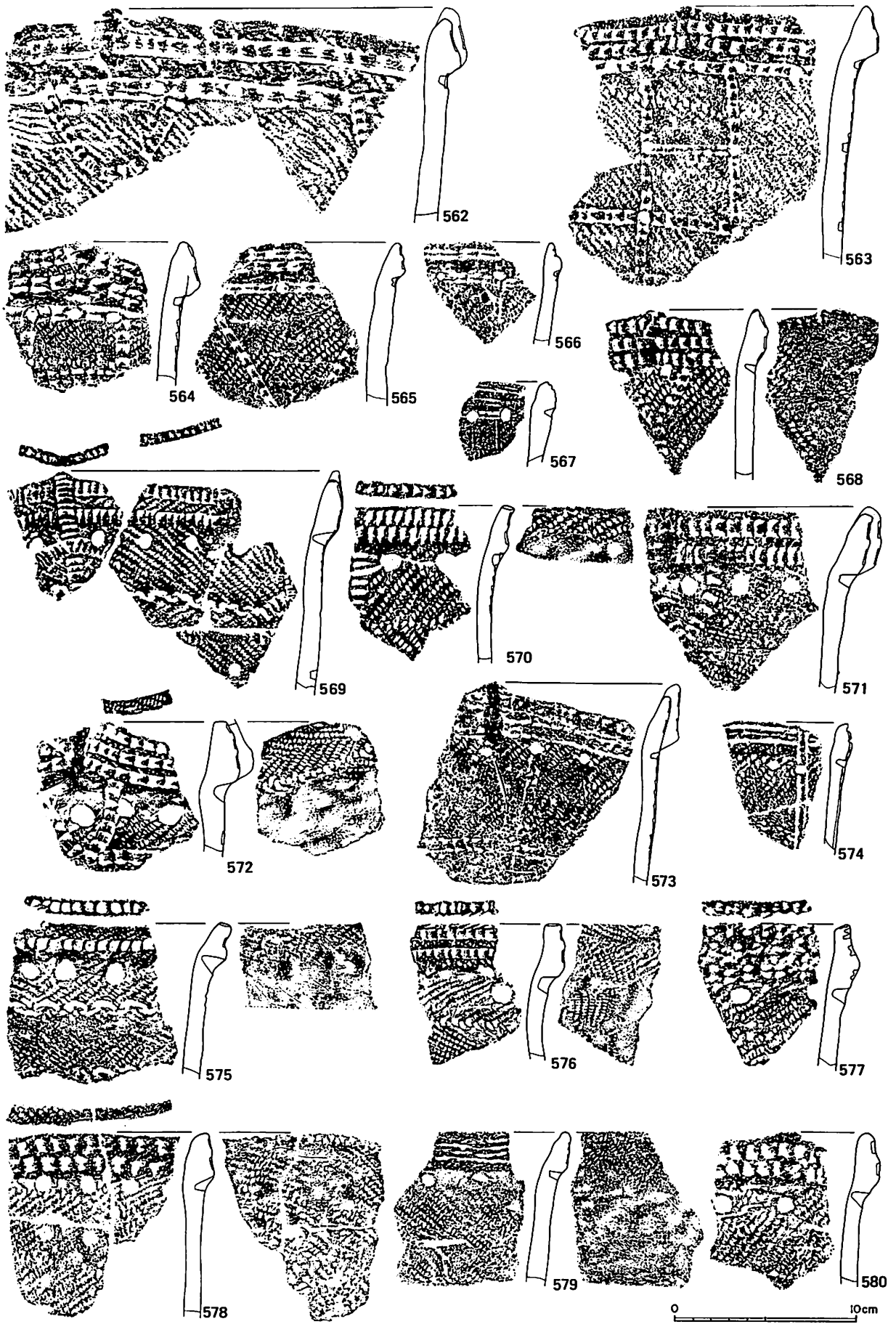
図Ⅲ—338　C地区包含層の土器(23)



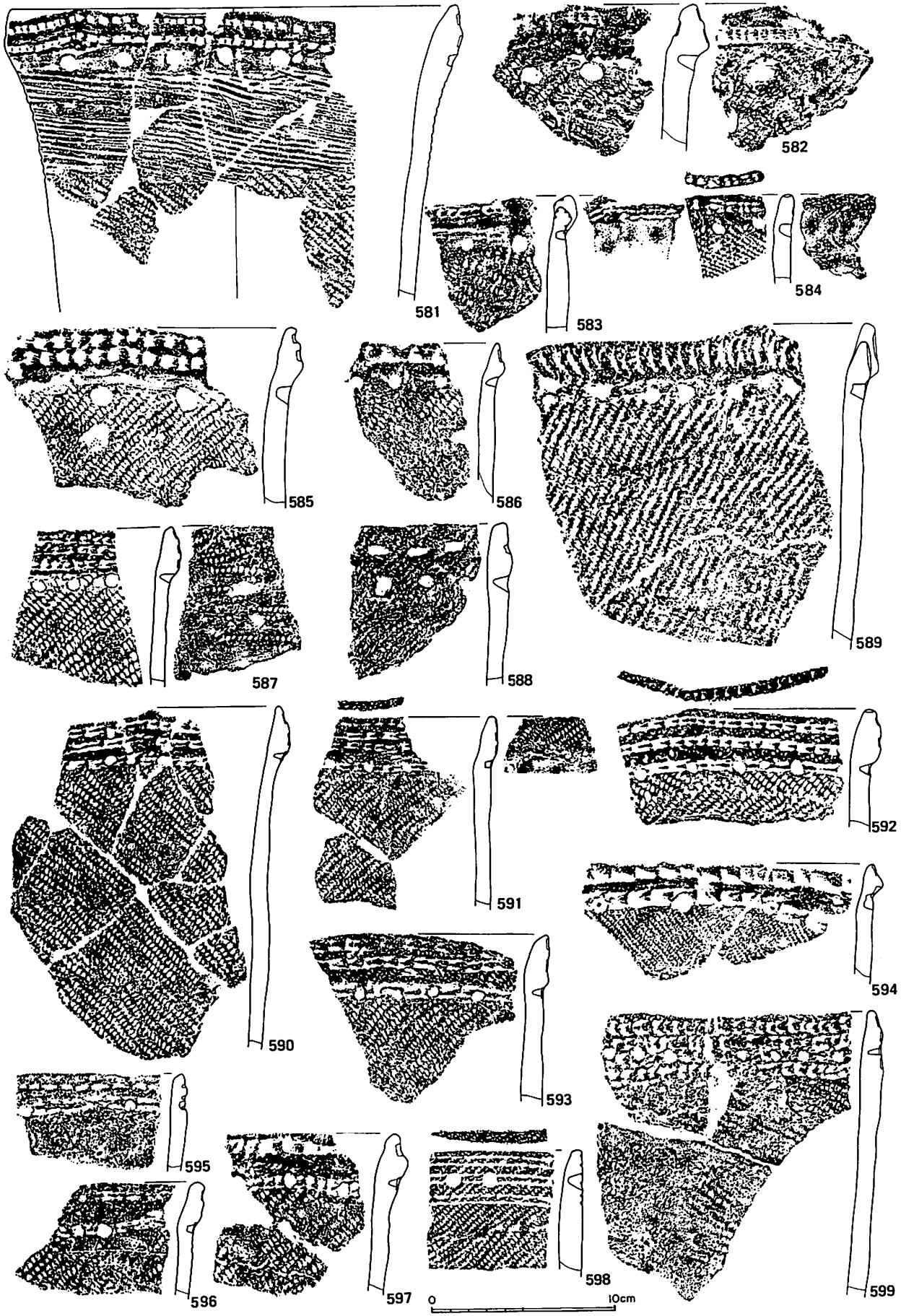
図III－339　C地区包含層の土器(24)



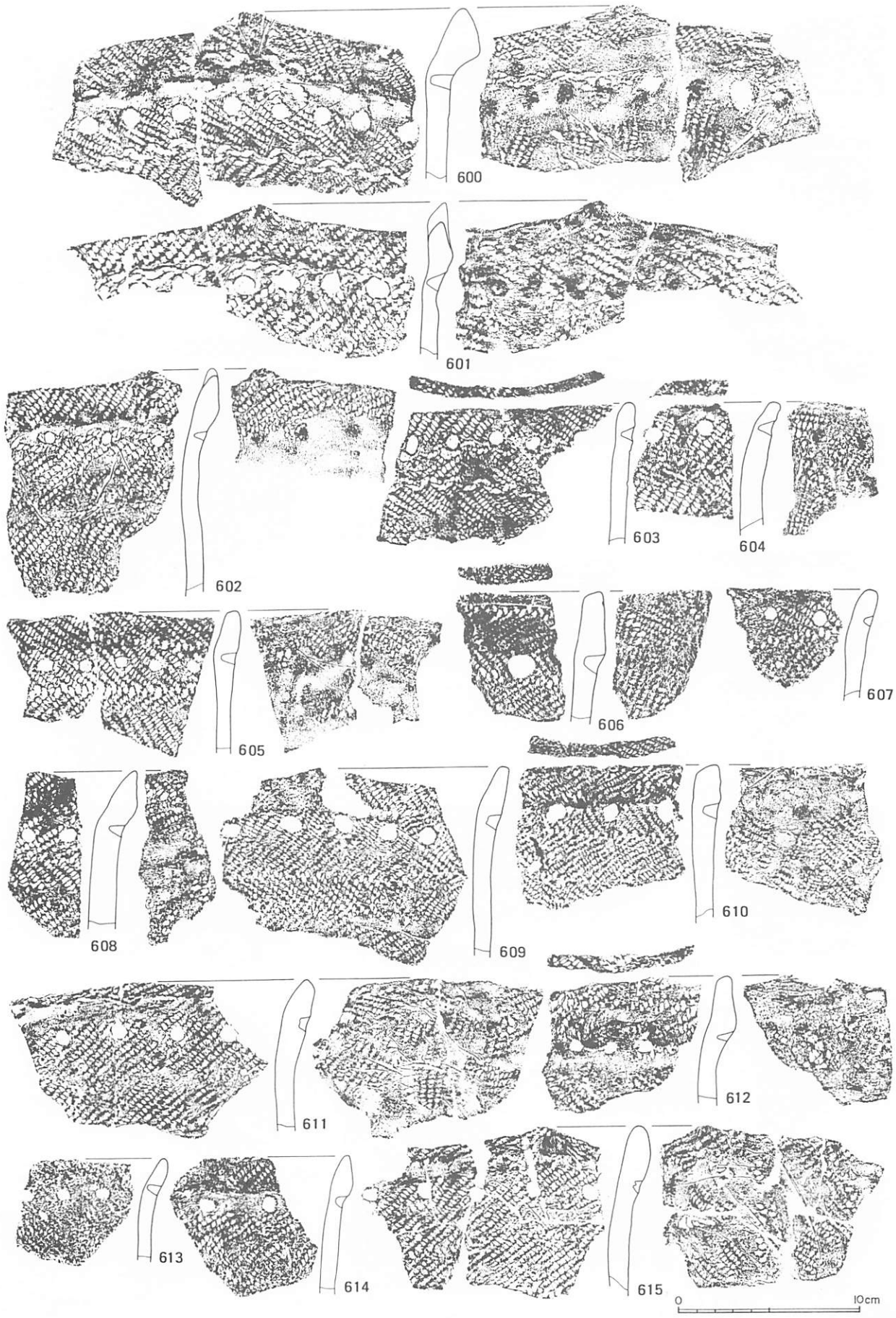
図Ⅲ－340　C地区包含層の土器(25)



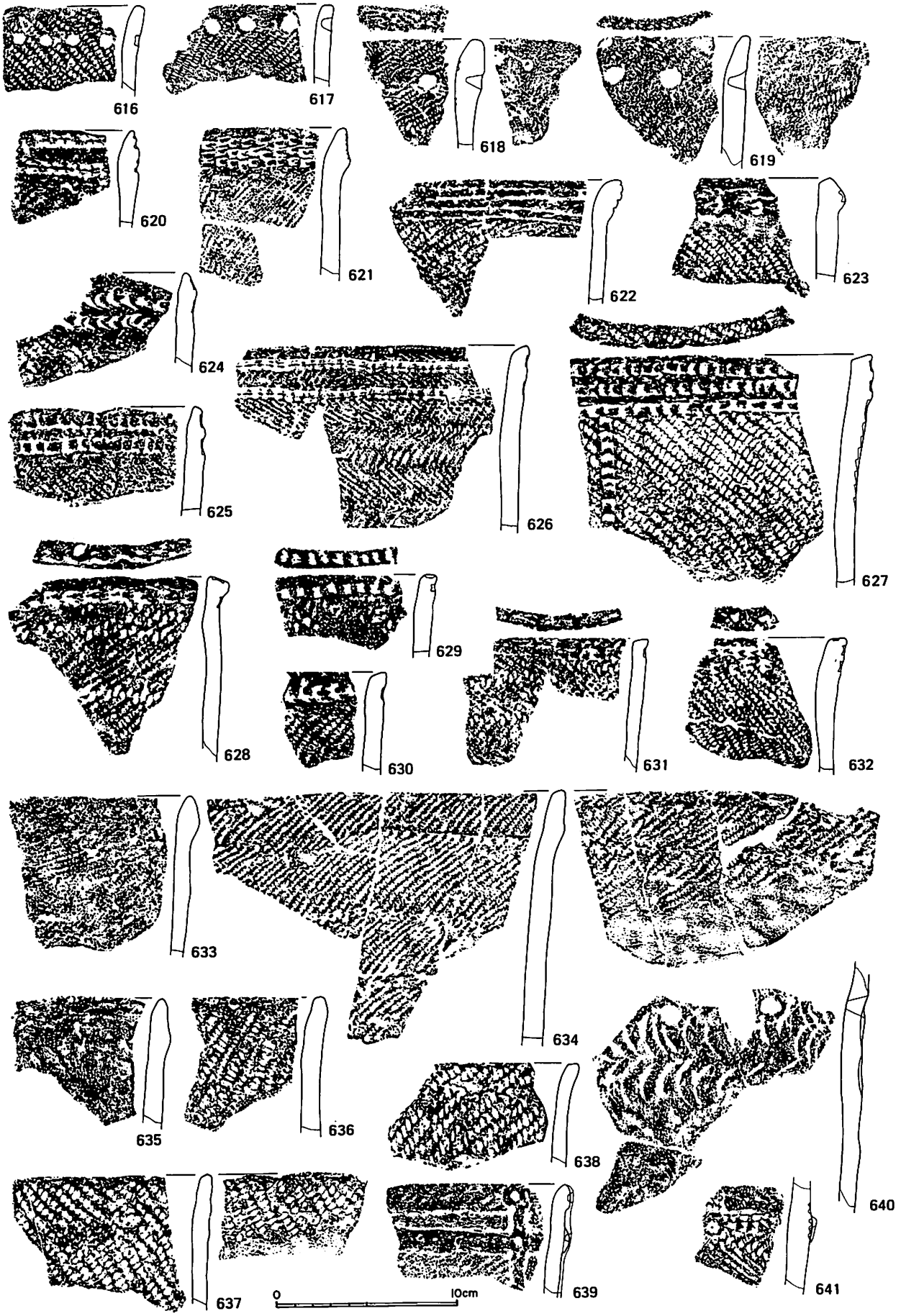
図Ⅲ－341　C地区包含層の土器(26)



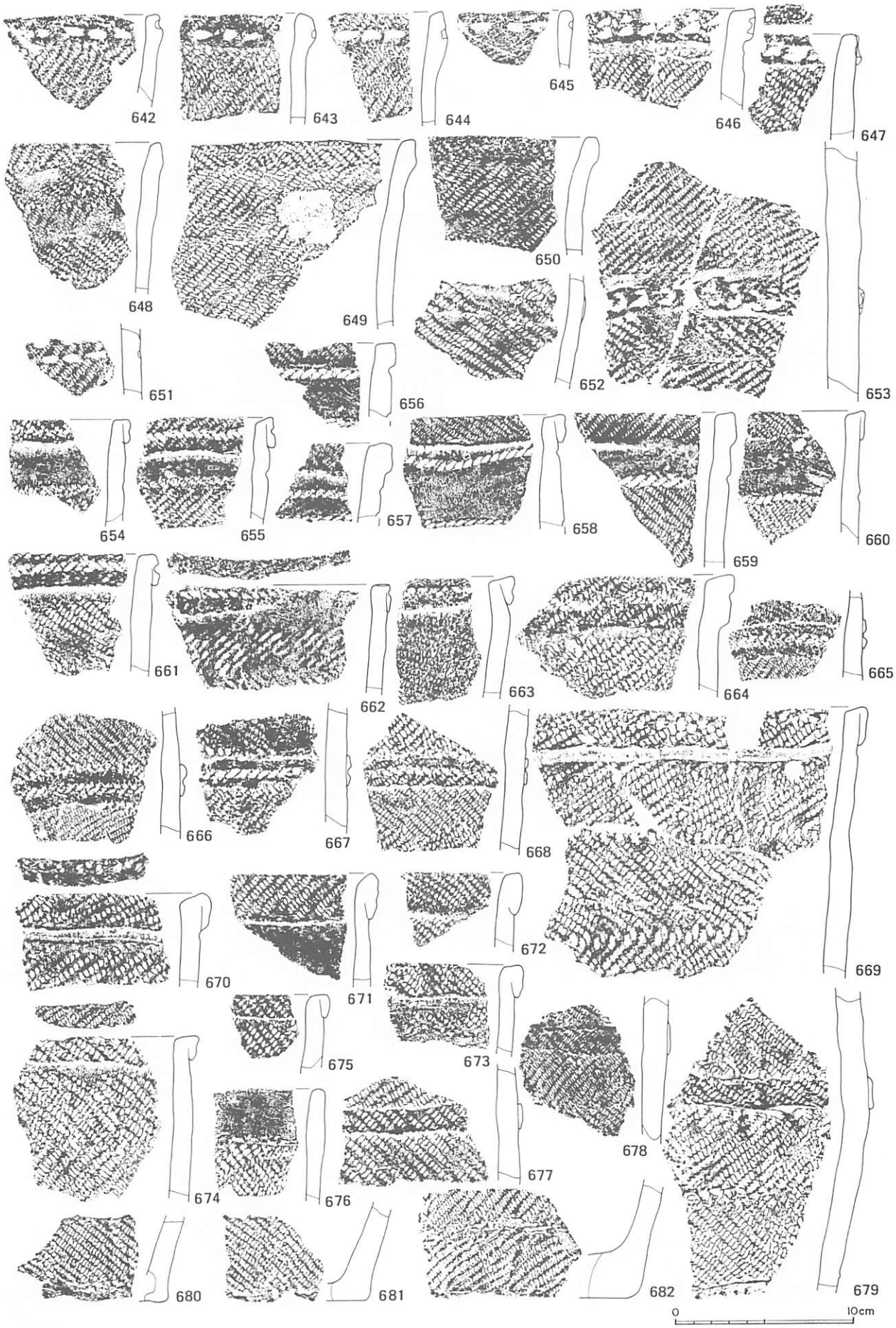
図Ⅲ—342　C地区包含層の土器(27)



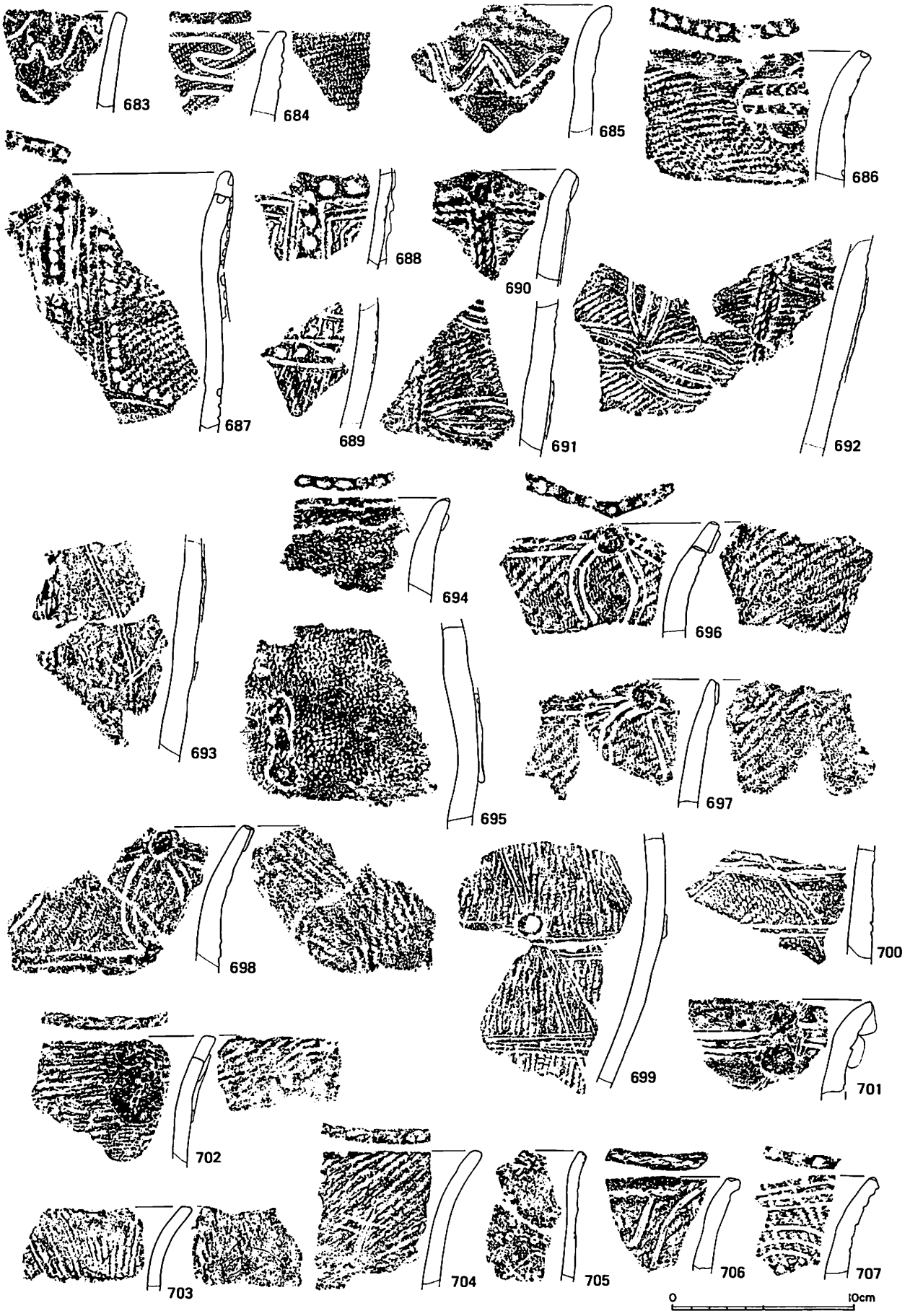
図III—343　C地区包含層の土器(28)



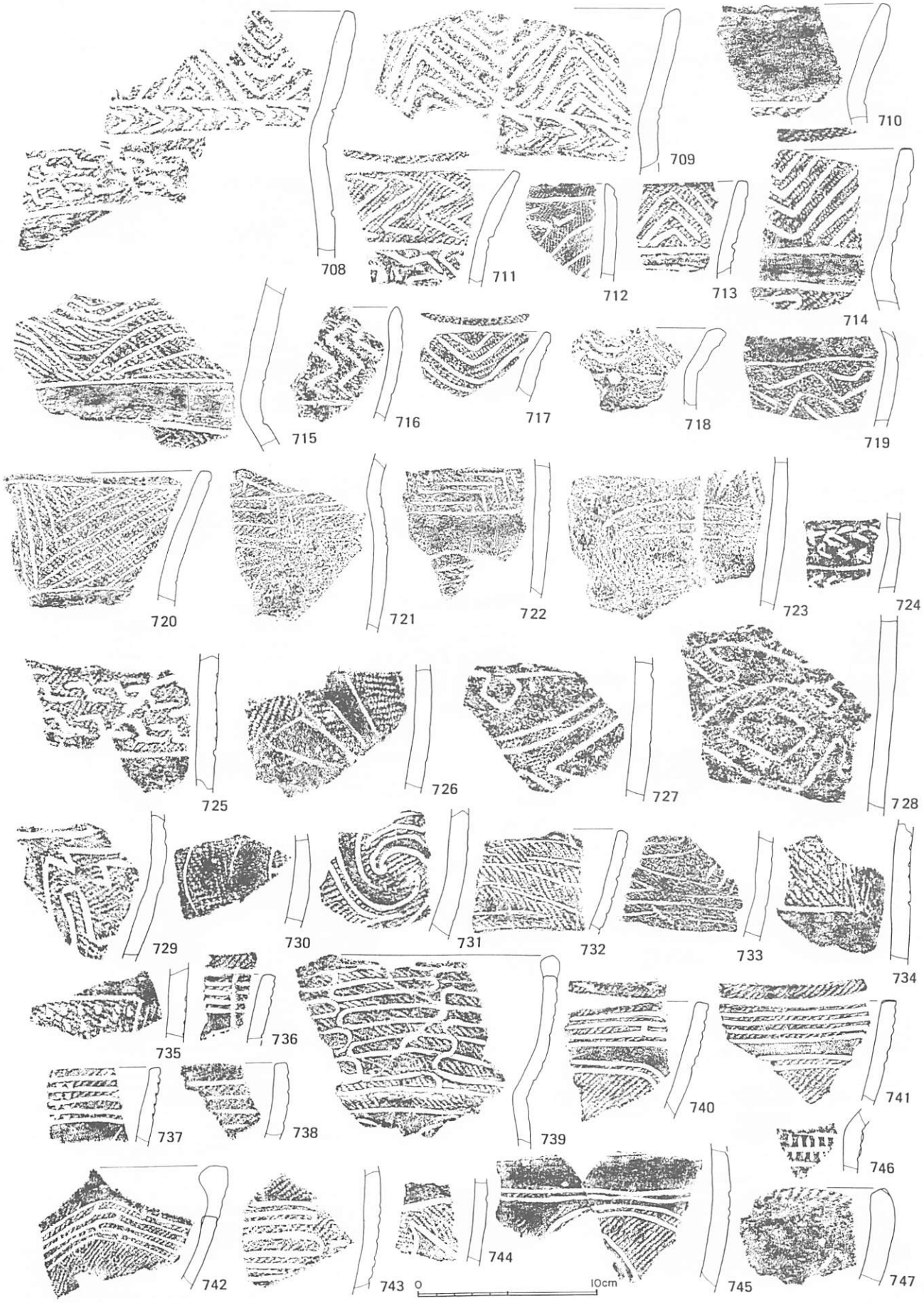
図Ⅲ—344　C地区包含層の土器(29)



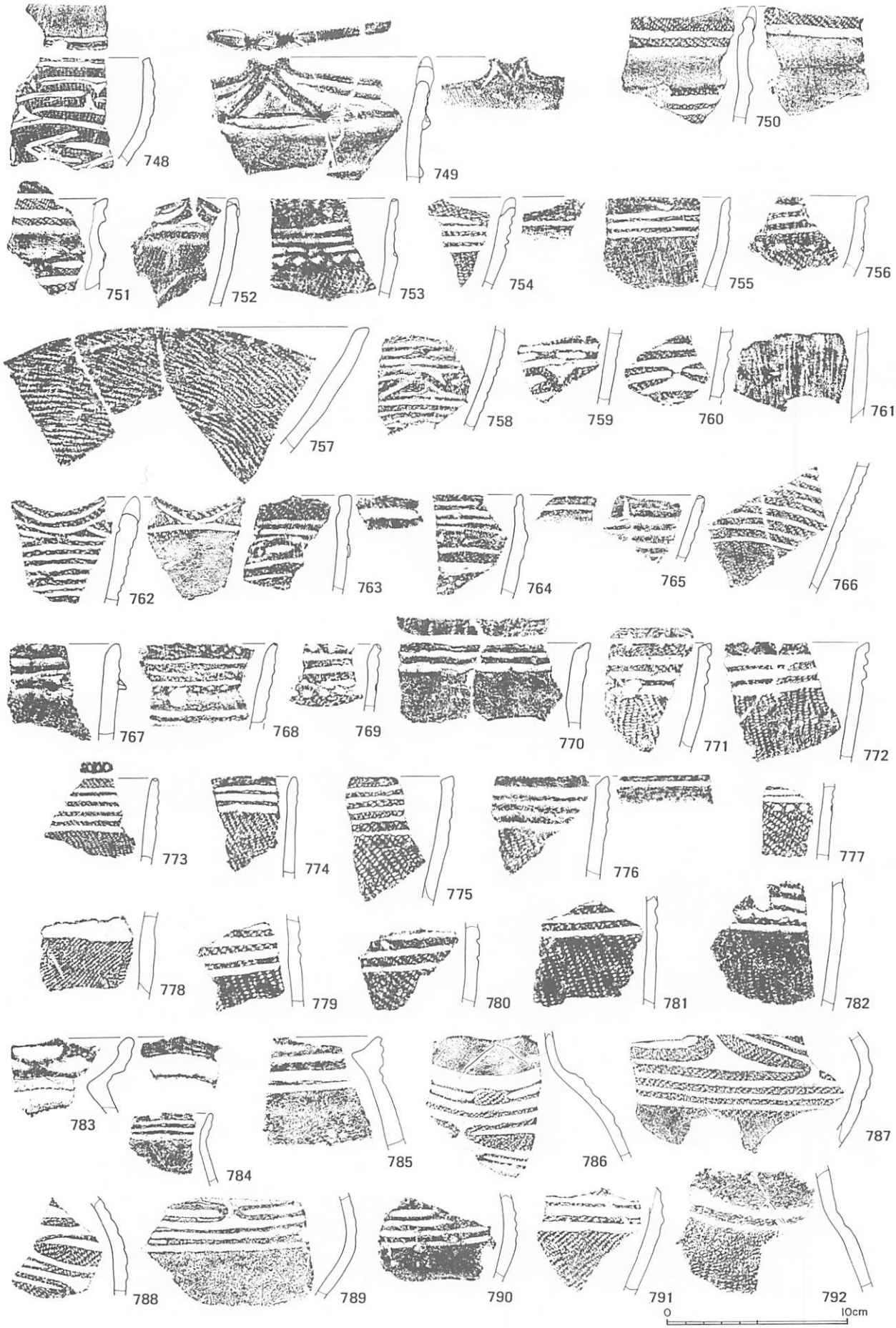
図Ⅲ－345　C地区包含層の土器(30)



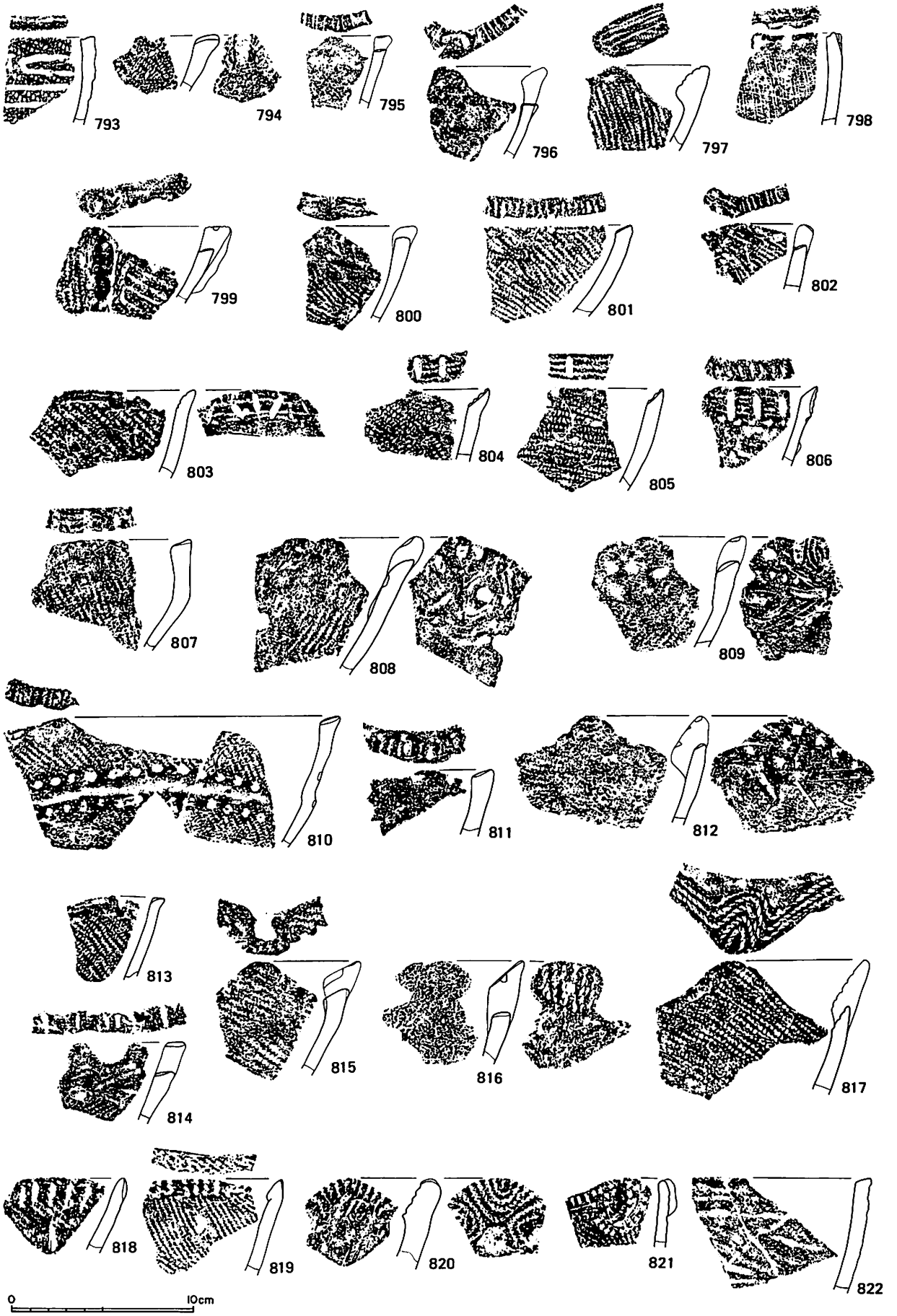
図Ⅲ－346　C地区包含層の土器(31)



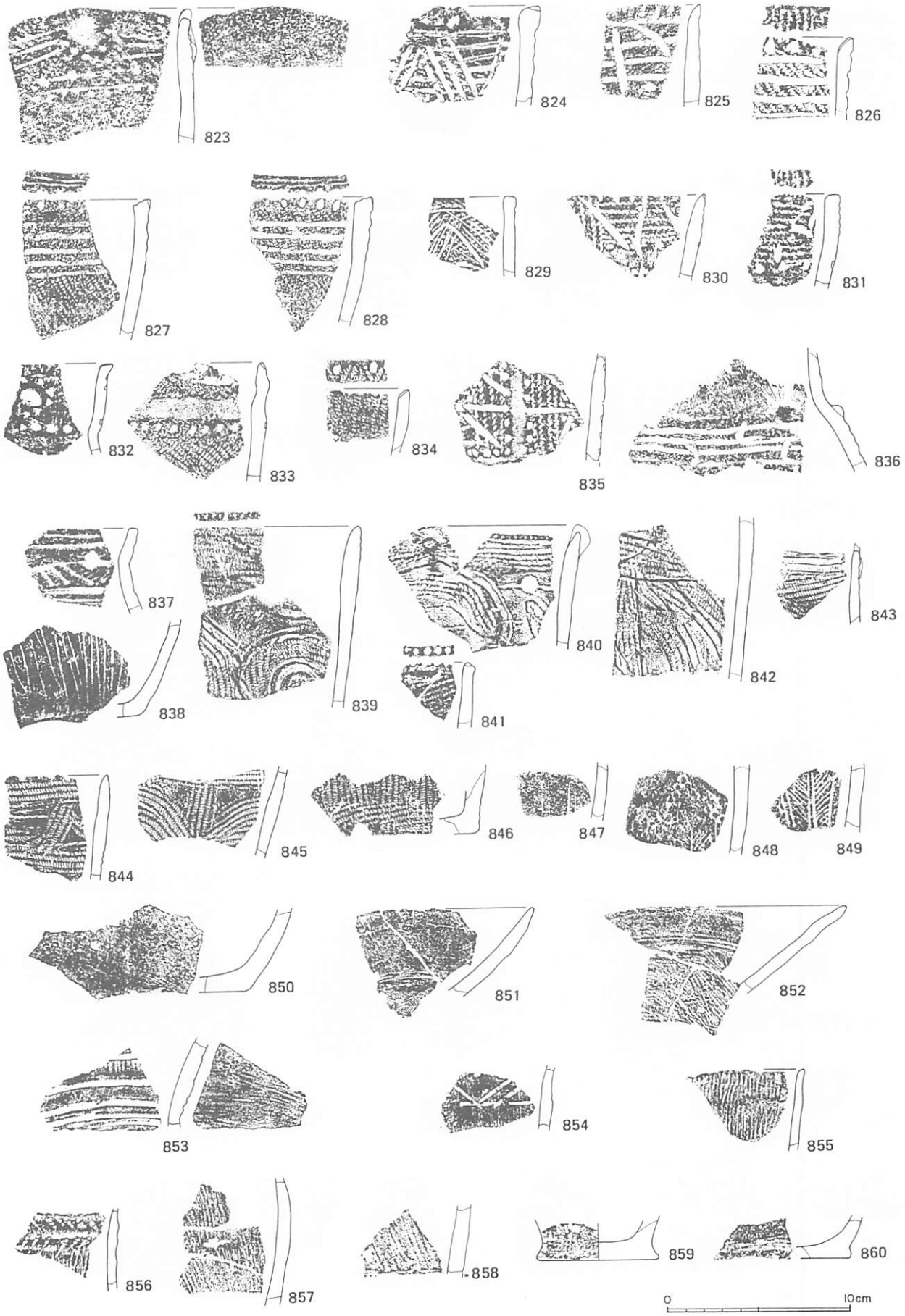
図III－347　C地区包含層の土器(32)



図Ⅲ－348　C地区包含層の土器(33)



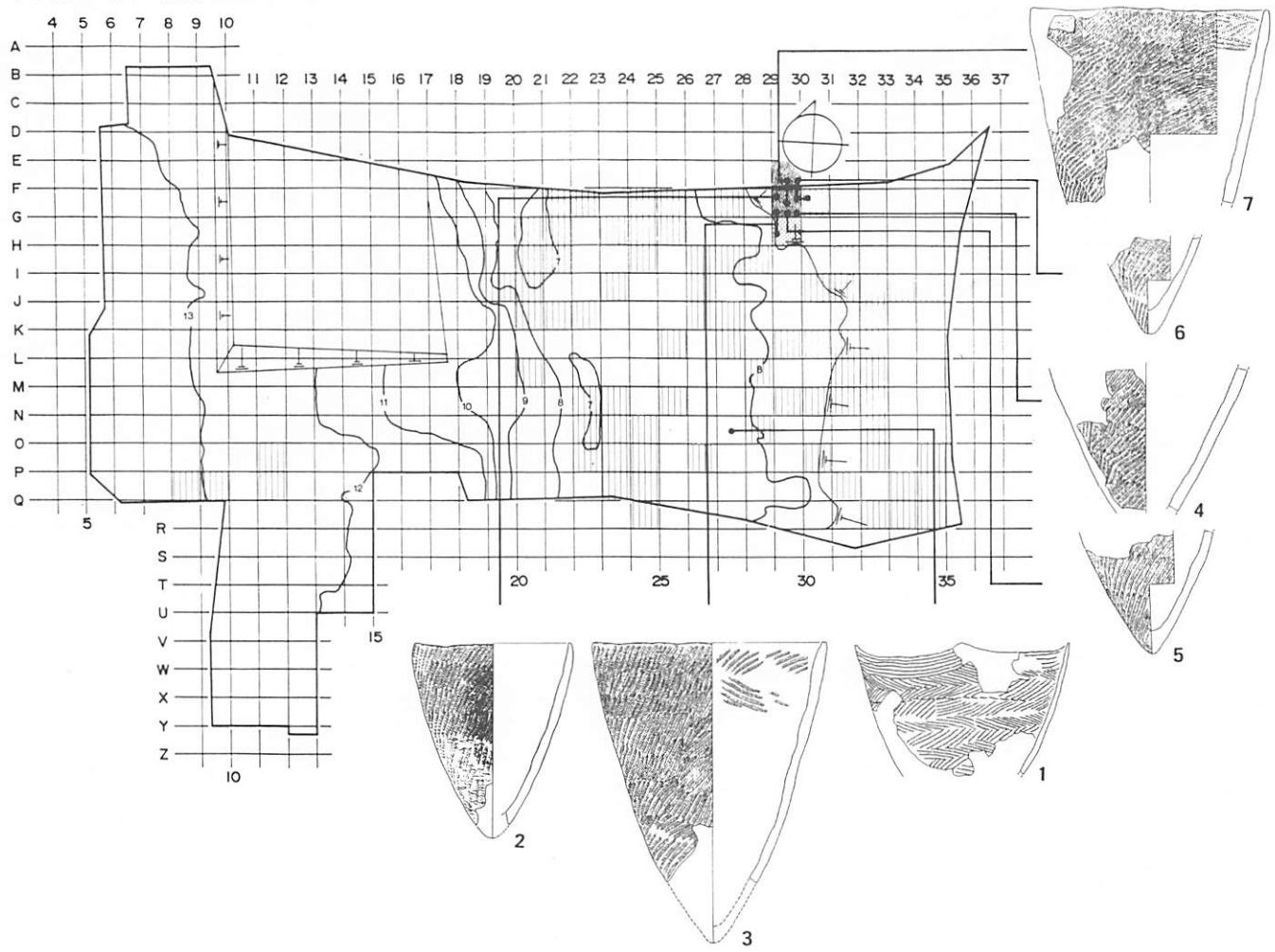
図III－349　C地区包含層の土器(34)



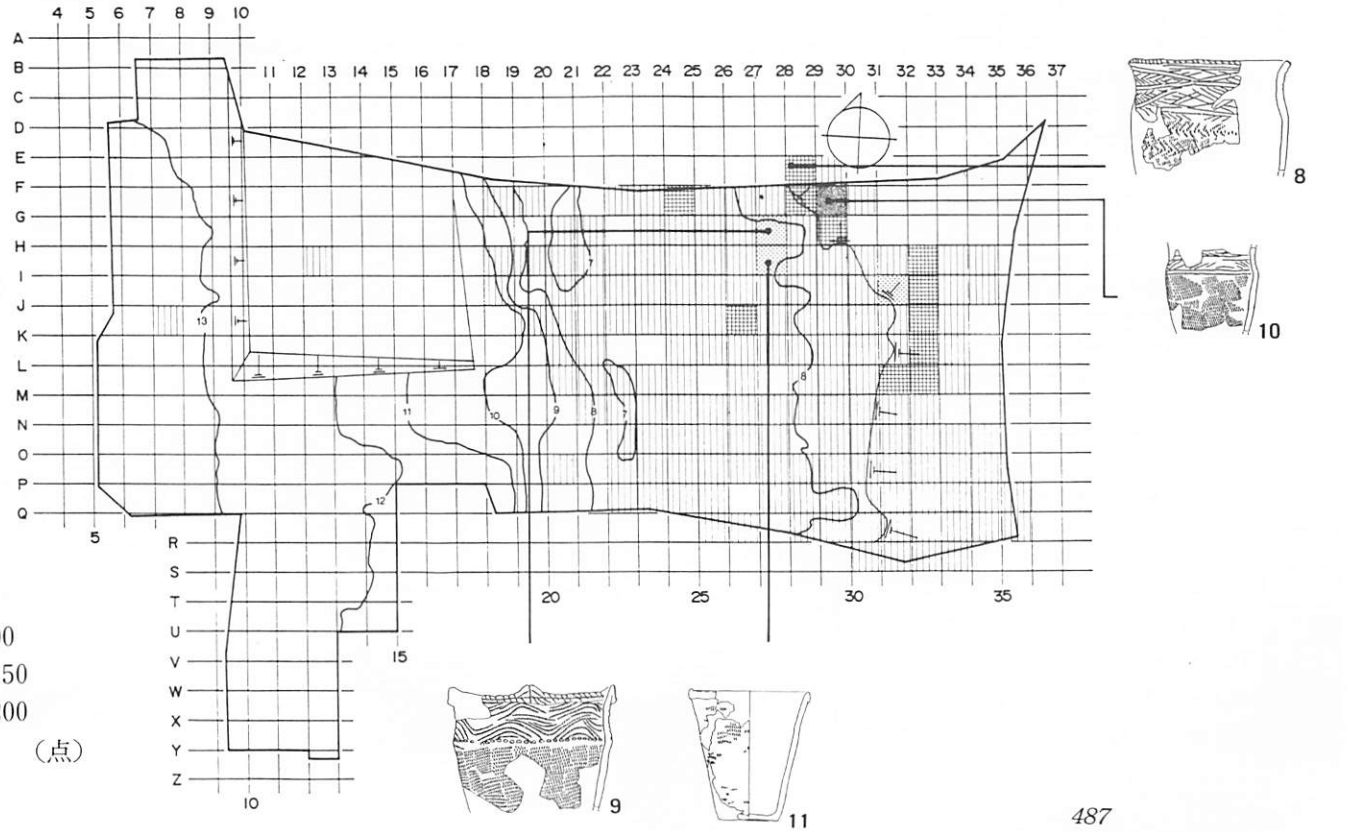
図Ⅲ－350　C地区包含層の土器(35)

II群A1類

（I群B2類は復原土器のみ）



II群B2a類



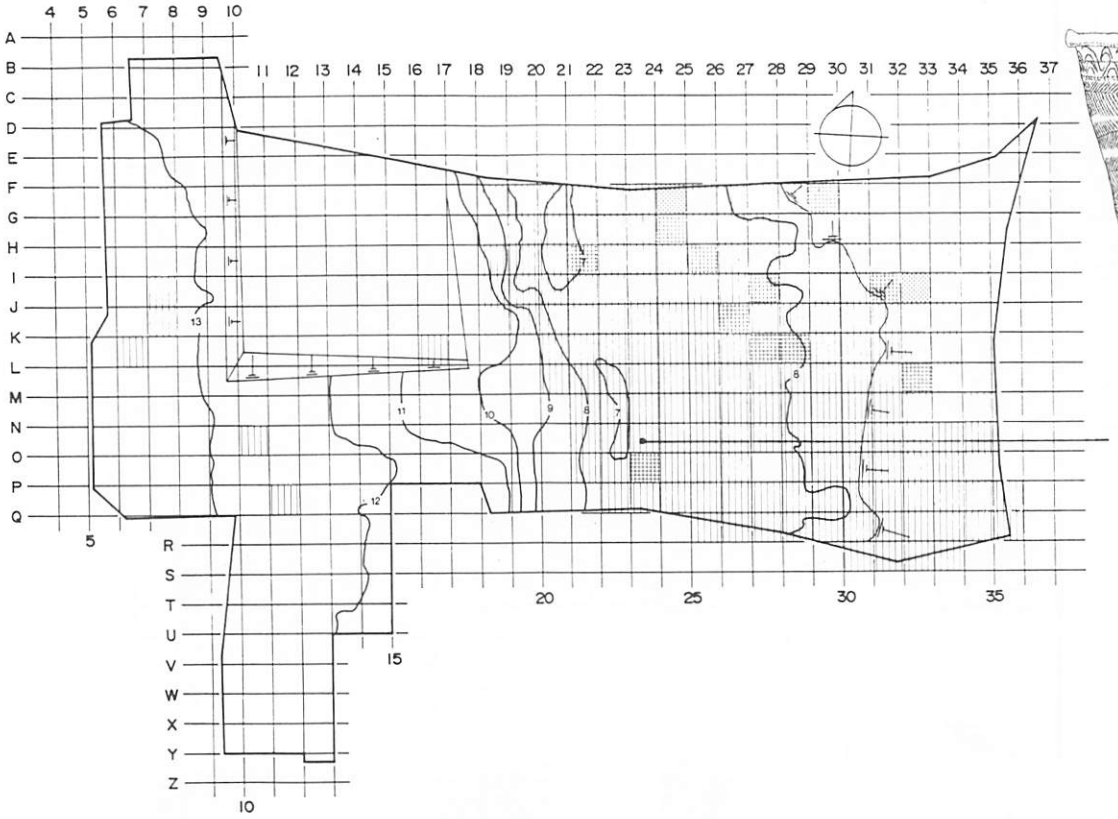
例

	0
	1～50
	51～100
	101～150
	151～200
	201～

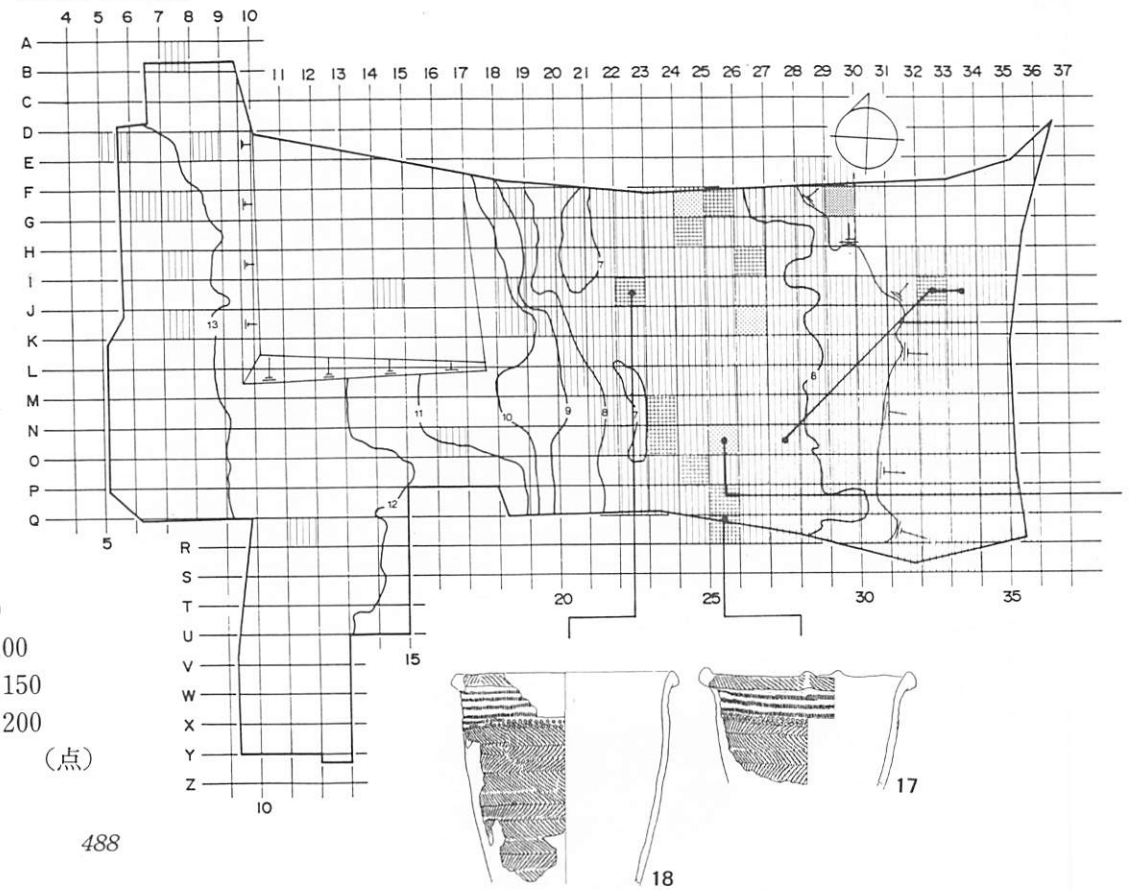
（点）

図III－351　分類別土器分布図（1）

II群B2b類



II群B2c類

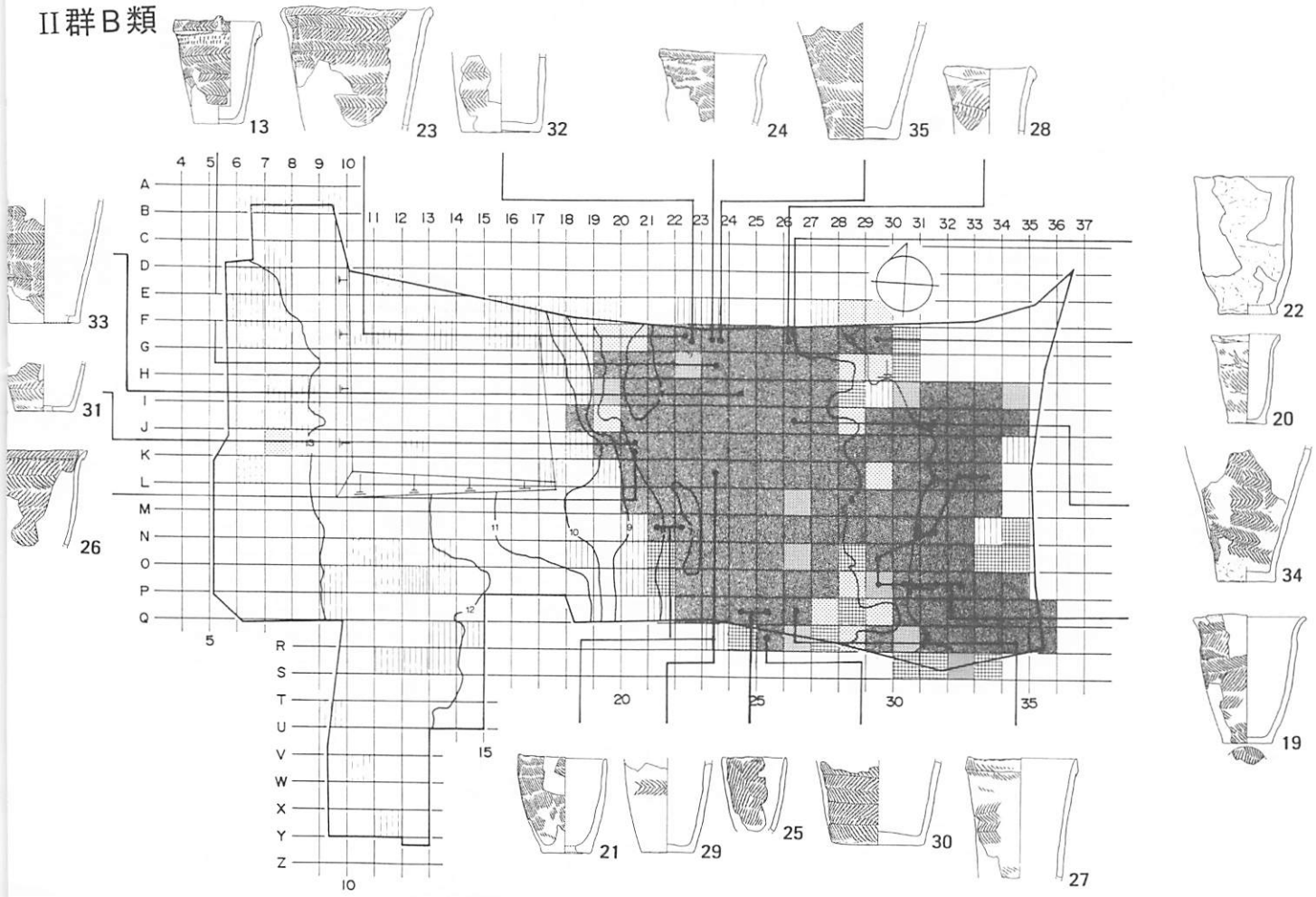


凡　例

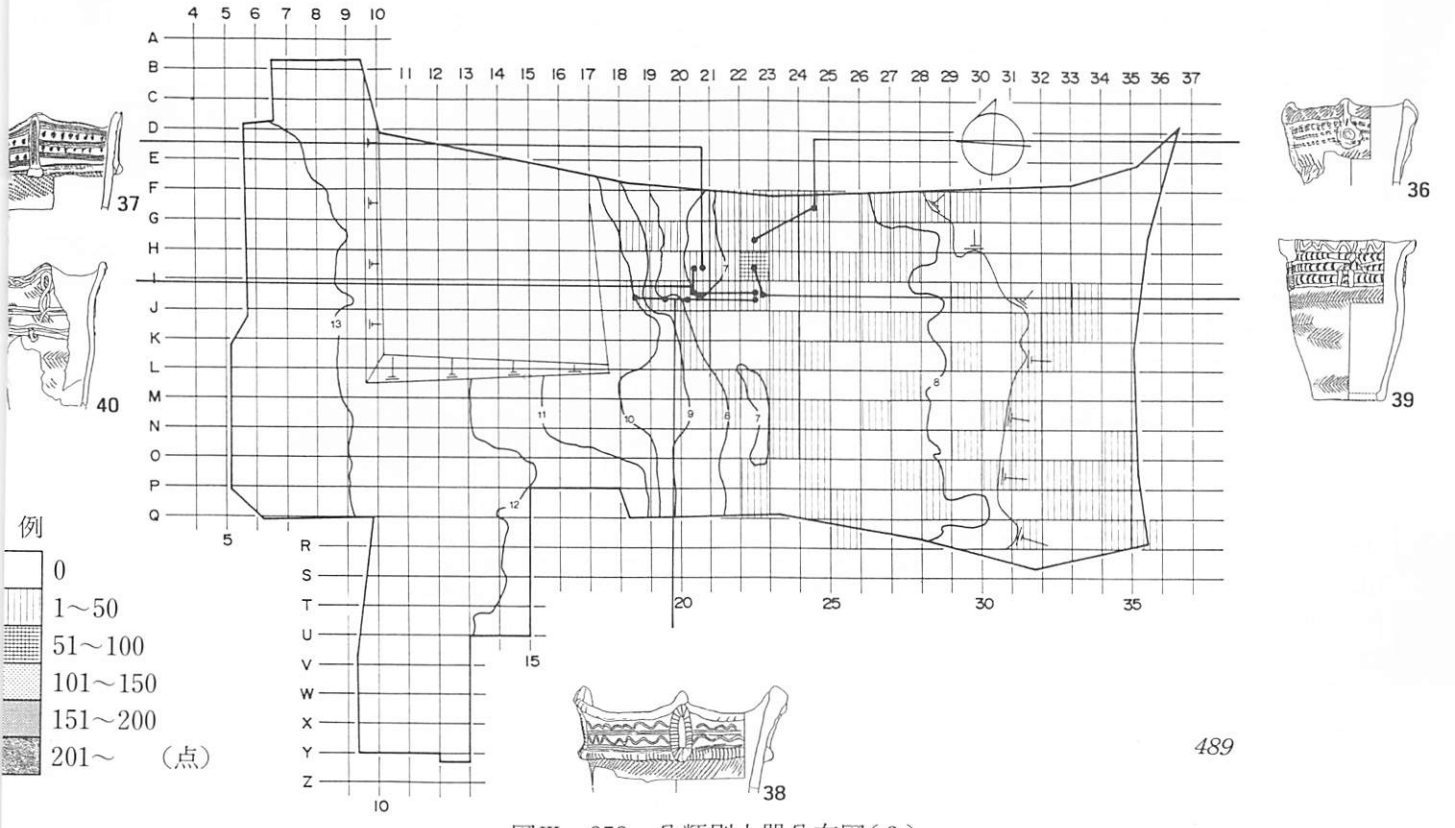
	0
	1～50
	51～100
	101～150
	151～200
	201～　（点）

図Ⅲ－352　分類別土器分布図（2）

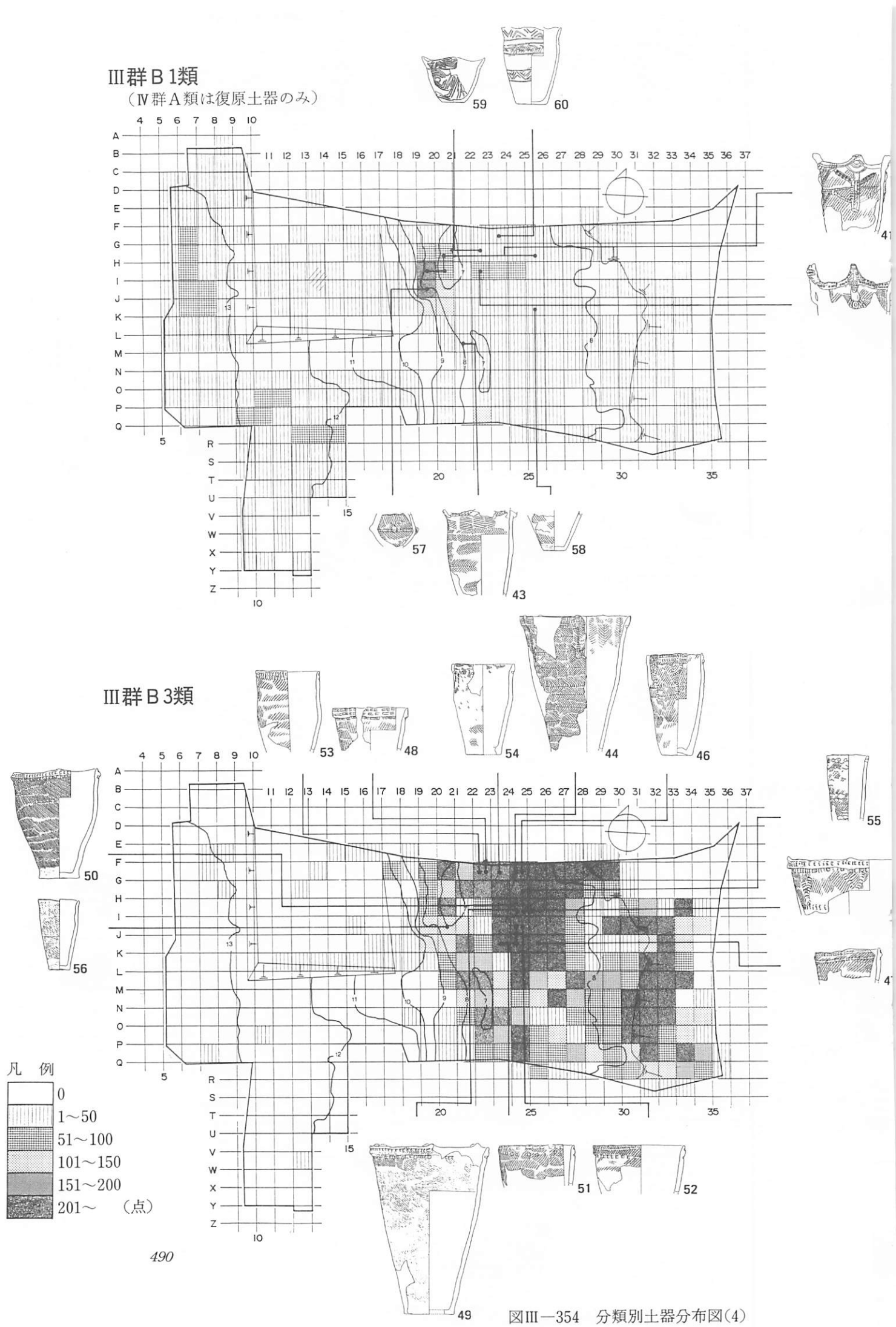
II群B類



III群A1・A2類

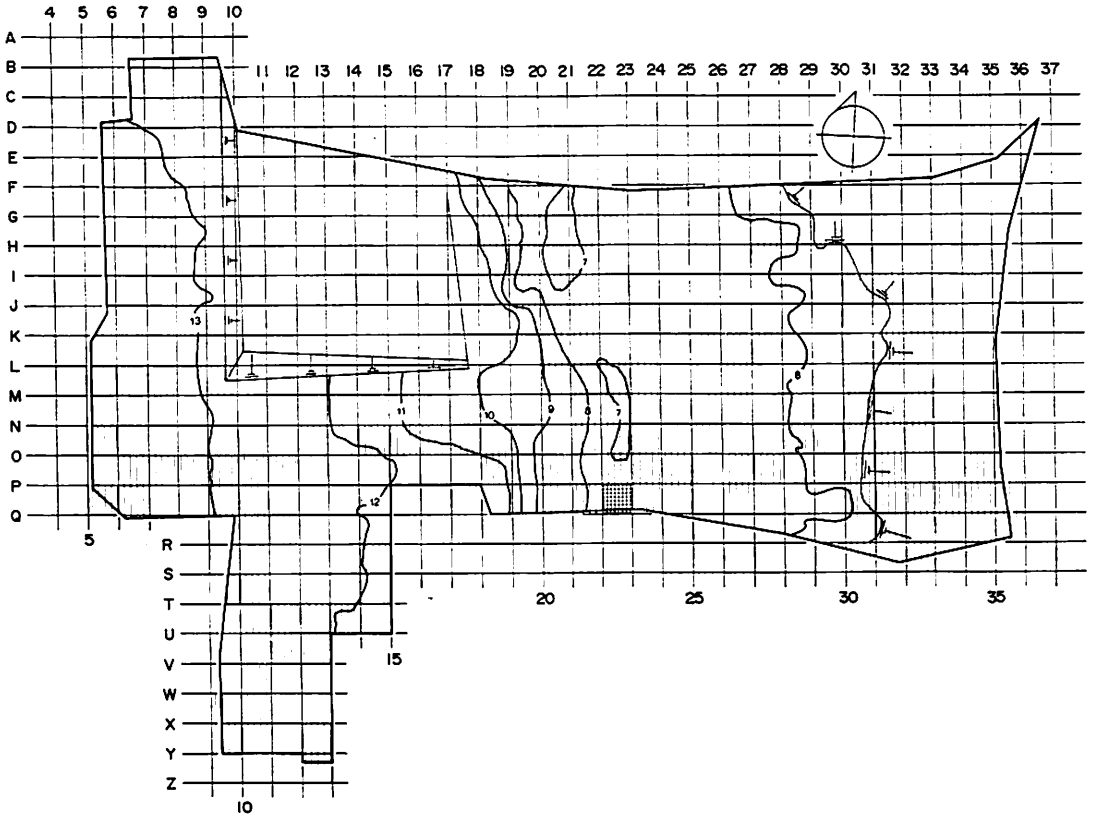


図III－353　分類別土器分布図（3）



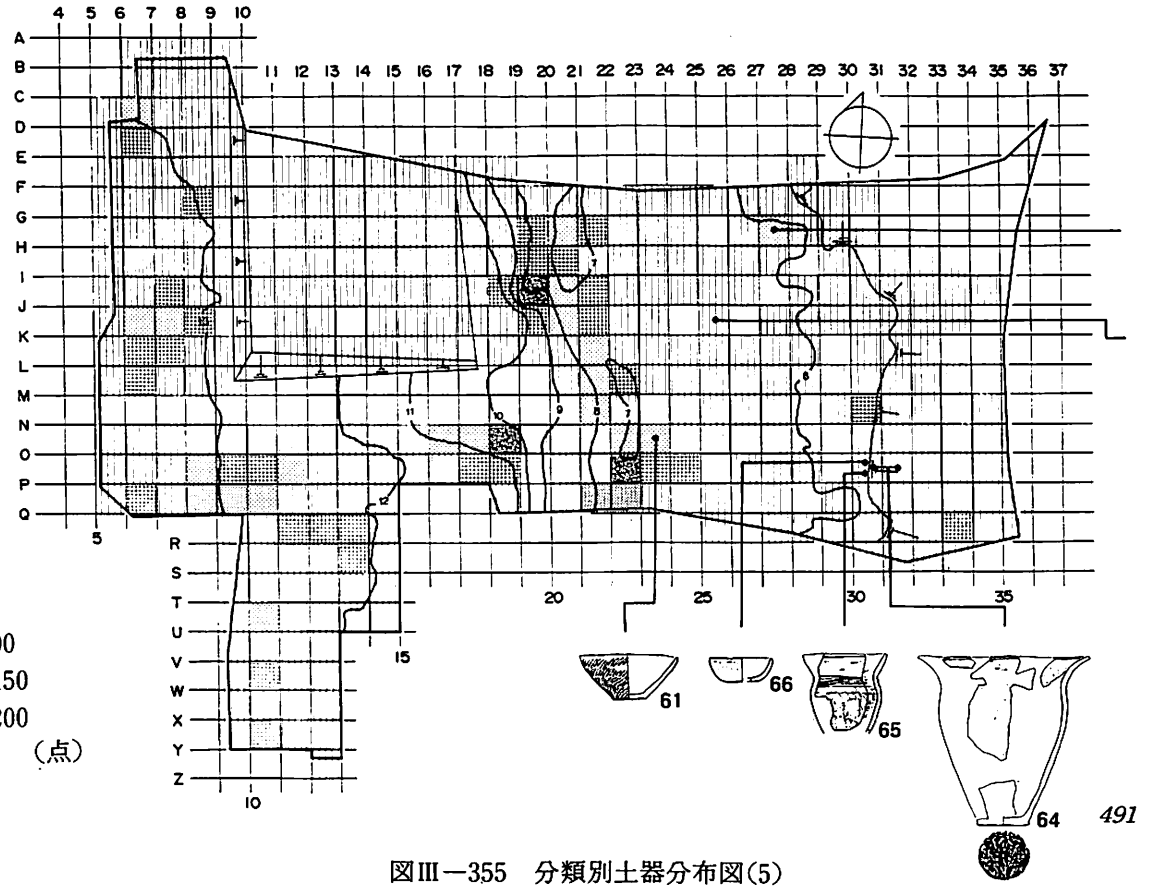
図III－354　分類別土器分布図(4)

Ⅴ群ａ類



Ⅴ群ｂ類

（Ⅶ類は復原土器のみ）



図Ⅲ－355　分類別土器分布図(5)

状，下段には鋸歯状の沈線文が描かれている。708～714・716～718・720・732は口縁部破片である。708は丸味をもつ口唇断面で，口縁部に鋸歯状，頸部に「く」字状，体部にクランク状の沈線文の文様帯が加えられている。710の口唇部は丁寧に磨かれている。711・713・714・717・720・732の口唇断面は角形で，711・714・717の口唇端部には縄文が，720は区画された鋸歯状の沈線文が施されている。712・716は口唇断面が尖る。718は壺形の口縁部と思われる。715・721～730・733～735は体部破片である。734・735は同一個体で，磨消縄文に棒状工具による縄線文が加えられている。

Ⅳ群B類（731・736～747）

736～742の口唇断面体は角形で，口縁部に数条の沈線文が施されたもので，737は沈線文間に刻目文が，739・740・742には「S」字状に垂下する沈線文が加えられている。731・743～745は体部破片で，731・745は同一個体である。746は頸部破片，747は口縁部破片で，刻目文が加えられている。

Ⅴ群a類（61～63・748～792）

鉢形（748～766）

a1類(61・62・748～761)　748の口唇断面は角形で，口唇内面に1条の沈線文が加えられ，体部に連繋入組文が施されている。749～751は頸部に広い無文帯をもつもので，479の口唇部に2個一対の突起があり，細い粘土紐が山形に貼付けられている。752は幅の狭い無文の頸部をもつものである。753は半截竹管状工具による刺突文で区画された頸部に3条の沈線文が施されている。754～756は，ほぼ垂直に立ち上がる口縁部に3～4条の沈線文が施されたものである。61・62・757は縄文だけが施されたもので，61は揚げ底気味である。758～761は体部破片で，758・759は連繋入組文，760は横位連続工字文，761は条痕文が施されている。

a2類(762～766)　762～765は間延びした口縁部をもつもので，762は2個一対の突起をもち，口縁部は沈線によって工字文が描かれている。763・764は肩部分に沈線文・貼付瘤をもつ。766は体部破片で，沈線によって工字文が描かれている。

深鉢形（767～782）

767は口縁部下位に貼付瘤をもつ。768・778は頸部が無文地のものである。769は刺突文で区画された幅の狭い頸部に沈線文が施されている。770～776は口縁部に沈線文が加えられたもので，770は無文地である。767～773は口唇端部・口唇端部外面に刺突文・押圧文が加えられたものである。777～782は体部破片で，777は沈線文下位に刺突文が加えられている。

壺形（63・783～792）

783～785は口縁部破片である。783は無文地で，口唇部は強く外反した，突起・細い貼付紐をもつ。頸部は丁寧なナデ調整が加えられている。784の口唇部には3条の沈線文が加えられ，強く外反した頸部には斜行縄文が施されている。785は無文地で，口唇部に沈線文が施されている。786～792は頸部・体部破片である。786～788は同一個体で，頸部・体部下半には丁寧なナデ調整が加えられ，体部上半は連繋入組文が施されている。789は無文地上の体部上半に横位連続工字文が施されている。790は沈線で工字文が描かれている。792は沈線で区画された無文地の頸部，体部は縦位縄文である。63は体部に不規則な斜行縄文が施されている。

V群b類（793～838）

鉢形（793～822）

本類は口唇端部に施された文様や施文具の違いが認められ，沈線文が施されたもの（793），刻目文のみのもの(795•796•812～814)，縄圧痕文だけのもの(794•797•800～802•816～820)，縄圧痕文と棒状工具による圧痕文や刺突文が施されたもの（798・799・803～811)，斜行縄文が施されているもの（815）とに分けられる。793は体部に沈線文が施されている。798は口唇端部外側に圧痕が加えられている。体部は条痕文である。799は突起頂端部に刺突文が加えられ，外面は突起部に縦位の貼付けがある。口縁部には縄線文が施されている。806は口縁部に縄圧痕文と棒状工具による圧痕文が施されている。808は内面に縄線文・円形刺突文・縄線文が施されている。810の口縁部下位には刺突文で上下が区画された無文帯がある。812は内面に貼付瘤・刺突文・刻目文が施されている。

821は小型鉢形で，口縁部に貼付瘤・沈線文・刻目文・刺突文が施されている。器面調整は丁寧である。822は沈線文で区画された口縁部に半浮き彫り的な文様が施されている。

深鉢形（823～835）

823～829は口縁部に沈線文が施されたもの，830•831は縄線文と沈線文が施されたもの，832・834は縄文が施され，無文帯をもつもの，834は縄文のみのものに分けられる。823は丸味をもつ口唇断面である。半截竹管状工具による刺突文で区画された口縁部には，指頭押捺が加えられたボタン状の貼付けと沈線文が施されている。825・826は口唇部外面に押圧（刻目文）が加えられ，口縁部に沈線文が施されている。826～828は口唇端部に細い縄線文，口唇部外面に押圧（刻目）が加えられ，口縁部に沈線文が施されている。829は口縁部に太い沈線文で区画され，ササラ状の施文具で擦痕が施されている。830～833•835は刺突文で区画された幅の狭い無文帯がある。834は口唇端部に鋸歯状の縄線文と刻目文が加えられている。

壺形（836・837）

836はナデ調整が加えられた無文の頸部破片である。体部上半に貼付瘤が加えられ，体部には沈線文が施されている。837は角形の口唇断面で，沈線文で区画された頸部には斜位に沈線文が施されている。

838は底部破片である。ナデ調整が加えられた無文地の体部に，ササラ状の施文具で不規則な縦位の擦痕が施されている。

VI群（839～846）

839～843は白色粘土の貼付けと思われる微隆起と縞縄文が施されたもので，839～841は刻目文が加えられた尖る口唇断面で，口縁部は波状である。844～846は縞縄文のみで体部文様が構成されているもので，846は平底である。

VII群（64～66・847～860）

847～849は同一個体の体部破片で，押引文が加えられた細い貼付帯と縦位の極めて細い矢羽根状の沈線文が施されている。850は須恵器の底部破片である。底径は推定約9.3cmである。胎土に小礫・砂粒を多く含み，調整は外面はヘラみがき，内面は横ナデ調整が加えられている。前田野目産と思われる。851•852は坏で，851は口径推定約15cm，口唇断面は尖り，口縁部下位に肩をもつ。器面は丁寧なヘラ調整が施されている。852は口径推定約20cm，口唇断面は尖り，口縁部にはややくびれる無文帯がある。体部には不規則な擦痕が施

されている。内面調整は丁寧である。853～859は鉢形で，853は頸部に段をもち，854は鋸歯状の沈線文が施されている。855～859は同一個体で，855は薄く尖る口唇部である。856は頸部に櫛目状工具による刺突文が羽状に施された貼付帯がある。859・860は底部破片である。

(6) 包含層出土の石器

石鏃(1～39) 1,952点出土しており，その内訳は無茎平基（Ia）が27点，無茎凹基（Ib）が55点，有茎平基（IIa）が2点，有茎凹基（IIb）が3点，有茎凸基（IIc）が1,139点，正菱形（IId_1）が45点，偏菱形（IId_2）が58点，五角形（IId_3）が51点，IId一が9点，茎部（II一）が35点，木葉形尖基（IIIa）が45点，木葉形円基（IIb）が148点，III一が64点，不明（IV）が271点である。1・3・4・8はIa。2・5～7・9～16はIb。17～21はIIc。22・34・35はIId_1。23～27・36はIId_2。28・29・37・38はIIIa。30～33はIIIb。39は両側縁に抉りが入っていることから，一応IIcとしておく。

石錐(40～47) 154点出土している。棒状のもの（I）が17点，柄と機能部の区分が明瞭なもの（IIa）が9点，不明瞭なもの（IIb）が33点，剝片の一端に機能部を作出した黒曜石以外のもの（IIa）が90点，同じく黒曜石のもの（IIb）が5点。40・41はI，42・43・47はIIb，44～46はIIIaである。

ポイントもしくは両面加工のナイフ(48～70) 969点出土しており，その内訳は有茎でかえしが明瞭なもの（Ia_1）が77点，不明瞭なもの（Ia_2）が93点，菱形もしくは五角形のもの（Ib）が46点，茎部（I一）が86点，木葉形（II）が207点，有柄（III）が3点，尖端部（IVa）が140点，身部（IVb）が100点，基部（IVc）が217点である。48・53・56・66はIa_2。49～52・54・55・67はIa_1。57はIb。58～64・68～70はII。65はIII。66～70の石材は安山岩である。

つまみ付きナイフ(71～84) 431点出土している。その内訳は縦形周辺加工（Ia）が139点，片面加工（Ib）が107点，早期のもの（Ib_1）が8点，両面加工（Ic）が37点，つまみの作出のみのもの（Id）が8点。斜形（IIa）が66点，IIbが28点，IIcが4点，IIdが2点。横形（IIIa）が12点，IIIbが4点。不明（IV）が16点である。71はIb_1。72～74はIb。75～77はIcであるが，75・76はむしろ有柄のナイフか。78はIa。79・82はIIa。80・81はIIb。83はIIIb。84はIIIa。

スクレイパー類(85～91) 2,085点出土している。その内訳はエンドスクレイパー（E）が372点，両面加工（I類）が213点，片面加工（II類）が280点，周辺加工（III類）が1,078点，尖頭状（IV類）が96点，抉入りもしくは鋸歯状（V類）が42点，不明（VI類）が4点である。85・88はI類。86はEI類，87はEII類で2点とも篦状石器（石篦）である。89はV類で，ポイントフレイクを素材としている。90はIIIa類で，内・外湾する刃部をもつ。91はIV類で，石材は泥岩。

異形石器(92～96) 7点出土している。92は全周に鋸歯状の二次加工が施された小型石器で，スクレイパーのV類か。93は石錐か。94は小型の横形つまみ付きナイフか。95は横形のつまみ付きナイフもしくは三日月形石器（未成品）か。96は有柄のエンドスクレイパー（篦状石器）とでも称せようか。

石斧(97～123) 421点出土している。内訳は撥形（I類）が181点，短冊形（II類）が160点，乳棒状（III類）が8点，不明（IV）類が72点である。刃部の形状では曲刃（a）が78

点，直刃（b）が92点，斜刃（c）が14点，不明（一）237点である。97～102はのみ形のもの。103・104はミニアチュア。109・110は素材の礫を単に磨いたもの。117の石材は変玄武岩で，成・整形は敲打によるもの。118～123は未成品である。99・102・123には擦切り痕が認められる。

たたき石(124～136)　3,618点出土している。124・125は全周縁を使用したもの。126～131は長軸の両端に，132は両端と側縁に，133は三頂にそれぞれ使用痕が認められる。134は石斧を転用したもの。135は欠損しているが，両側端部に使用痕がある。136も欠損しており，石斧製作途中のものか。石材としては珪岩，強変質酸性火山岩，安山岩が多用されている。

すり石(137～150)　1,030点出土している。137・139・141～144は一側縁を使用したもので，141・142には握り部が作出されている。138・140は両側縁を使用しており，前者の一側縁はzigzag状になっている。145は楕円球礫の一端を使用したもので，他端には潰打痕が認められる。146・147は両端部を使用。148は側端部四カ所を使用。149は折損した石斧を転用したもので，折損面を使用している。両側縁に石斧製作の際の擦切り痕がある。150はあたかも石斧の刃部を研ぎ出すかのように，三カ所に磨痕が認められる。

北海道式石冠(151～164)　413点出土している。151～153は極小のもので，151は未使用。154～157は握り部が円頂を呈するもので，154は未成品。158・159は尖頂を呈するもの。160・161は平頂を呈するもの。162～164は製作途中のものである。

くぼみ石(165～171)　323点出土している。165～170は両面にやや深いくぼみ痕がある。171は片面に浅いくぼみ痕があり，側縁の三カ所には潰打痕がある。

石鋸(172～174)　小破片ばかり24点出土している。図示した3点とも刃部の断面はU字形を呈する。

砥石(175～181)　小破片を含めて552点出土している。175・176は四面を使用したもの。177はおそらく自然の有孔石を利用したもので，石材は泥岩である。178・179は有溝のもので，前者は両面に二条の浅い溝がある。180は片面を，181は両面を使用したものである。

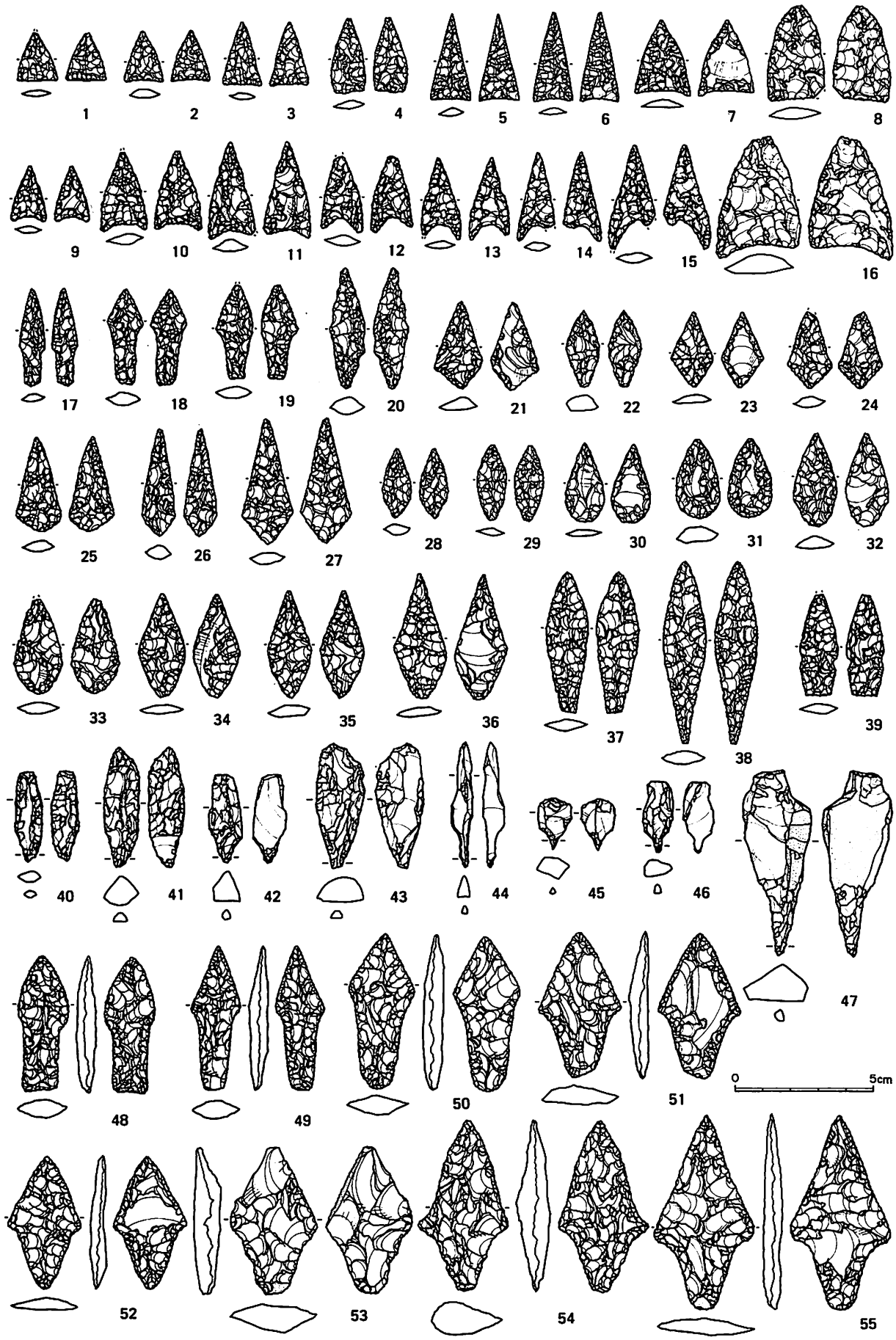
石錘(182～184)　4点出土している。図示していない1点を含めて，全例扁平礫の長軸の両端を打ち欠いたものであるが，182についてはすり石の未成品の可能性がある。

二次加工ある礫(185・186)　62点出土している。185は扁平な礫の一側縁に打ち欠きが施されており，両刃の礫器（チョピングトゥール）か。186は長円礫の両側縁に打ち欠きが施されており，石錘の一種か。

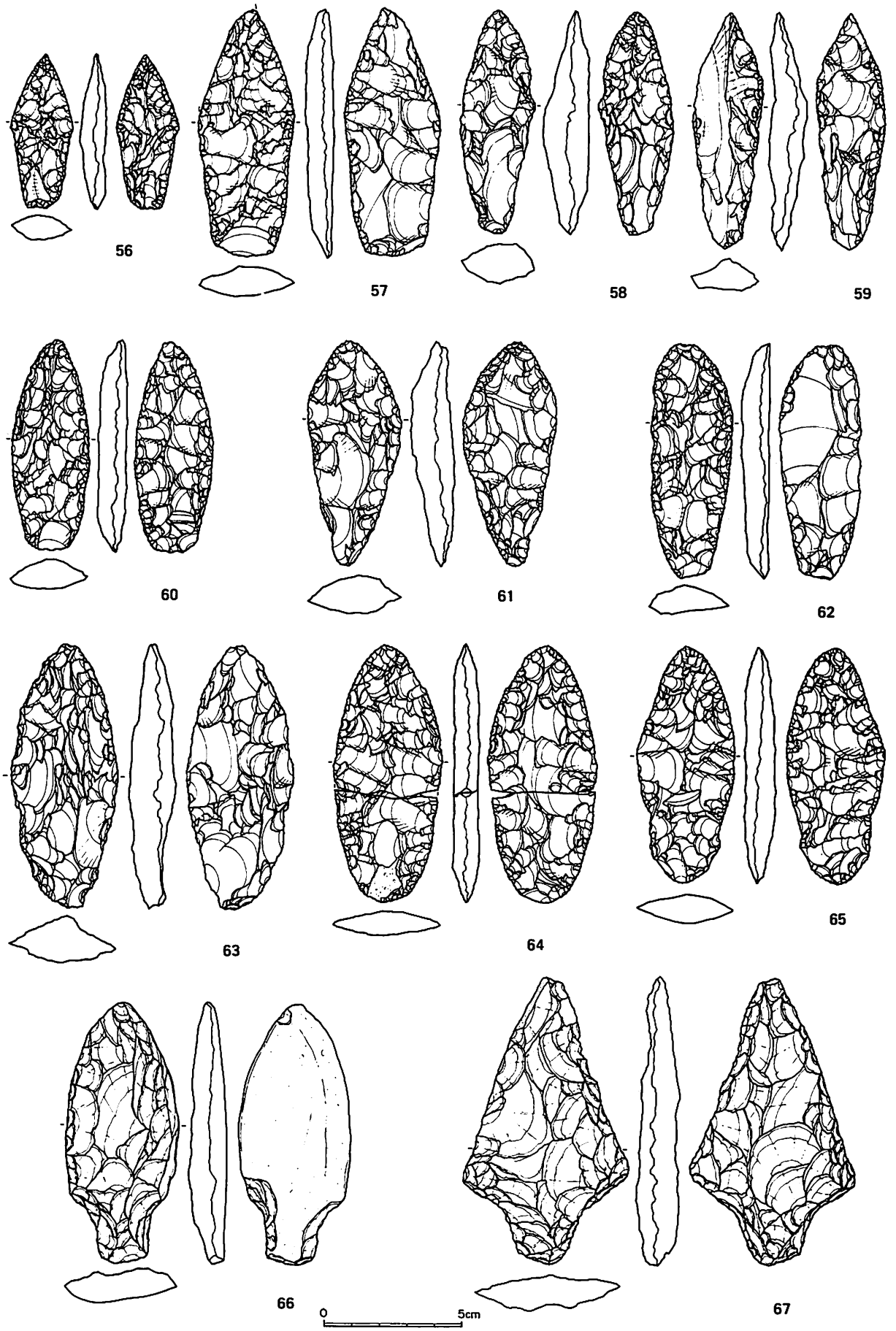
有意の礫(187)　13,248点出土している。187には肉眼では使用痕が認められないが，スクリーントーンで示した部分に赤色顔料が付着している。

石皿・台石(188～193)　2,275点出土している。図示したものはかなり使い込まれたもので，石材はすべて安山岩である。

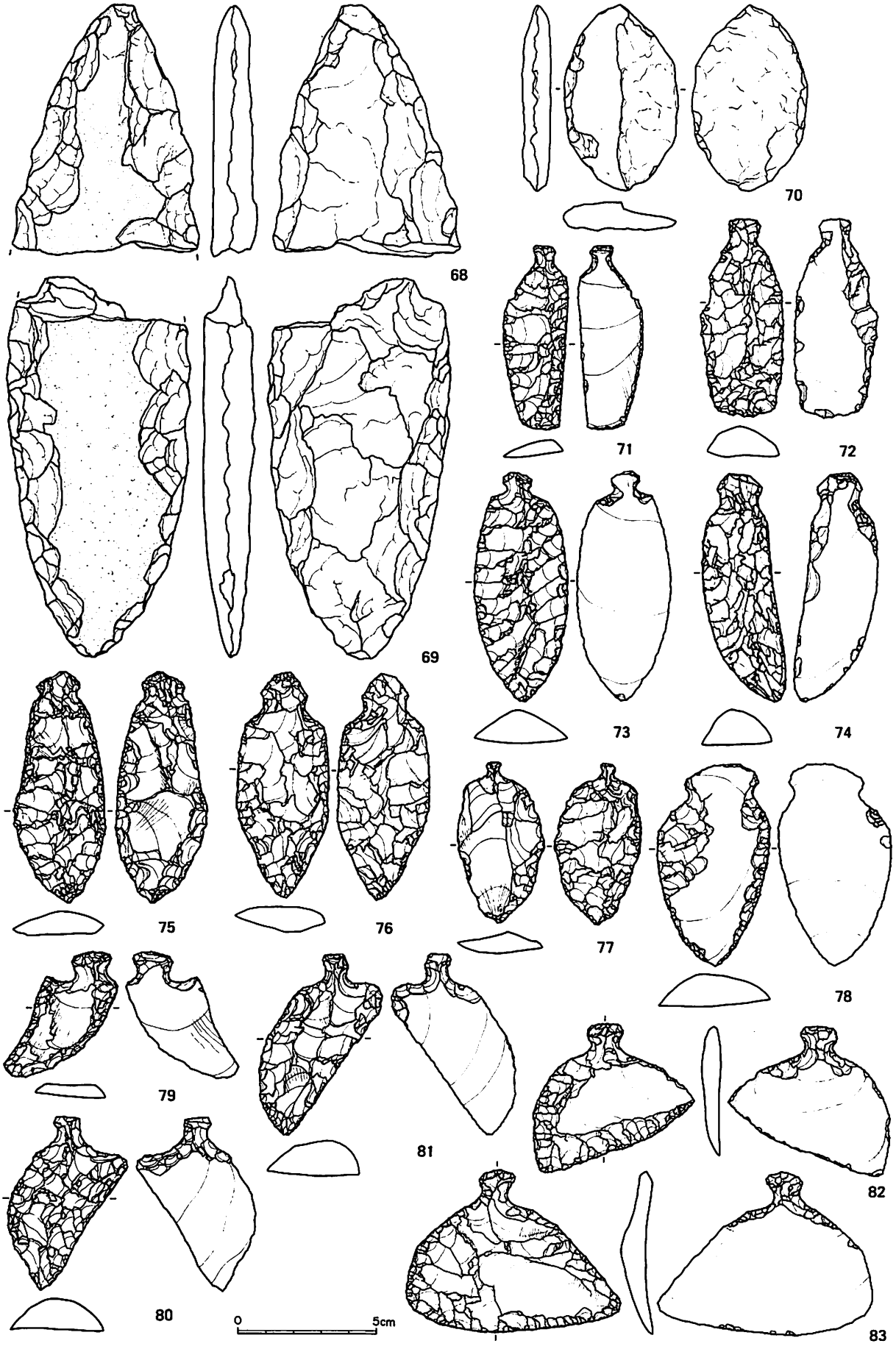
この他に楔形石器151点，石斧薄片663点，球石825点，石核5,981点，Uフレイク3,111点，Rフレイク1,294点，フレイク・チップ434,521点，原石67点，焼礫1,992点，自然礫128,955点，石製品5点が出土しており，C地区包含層からは計605,133点の石器・石製品が出土した。



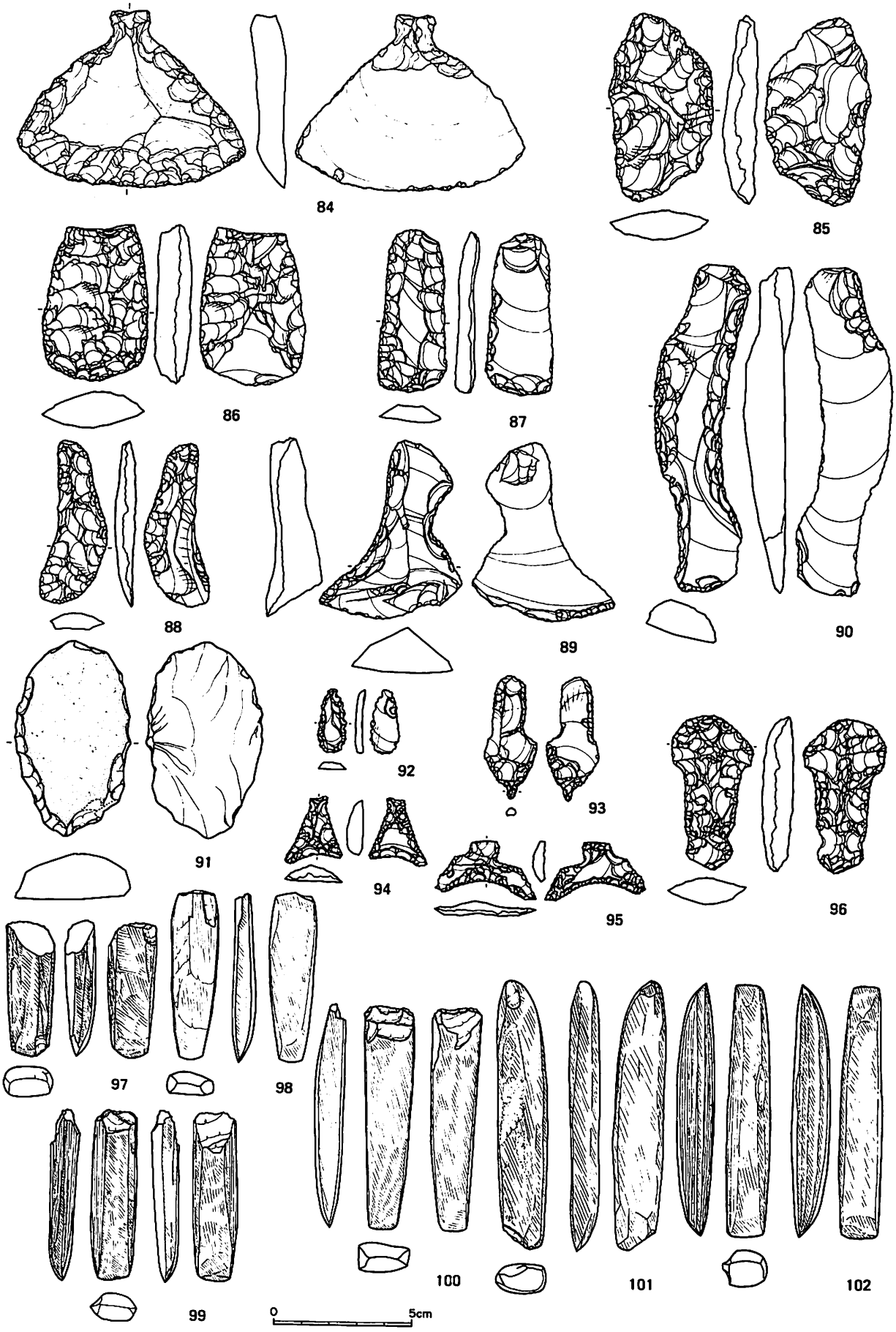
図Ⅲ—356　C地区包含層の石器（1）



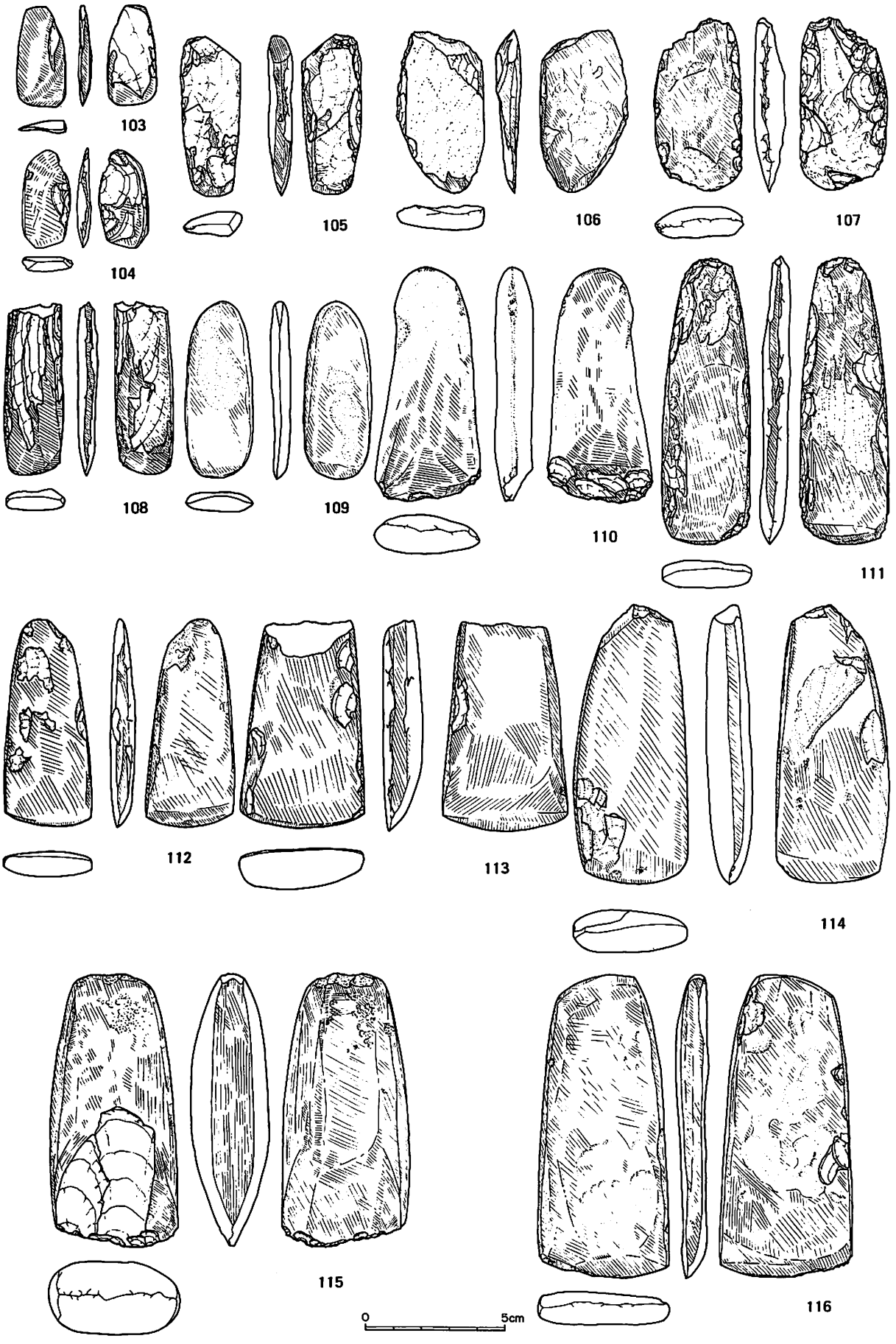
図III－357　C地区包含層の石器（2）



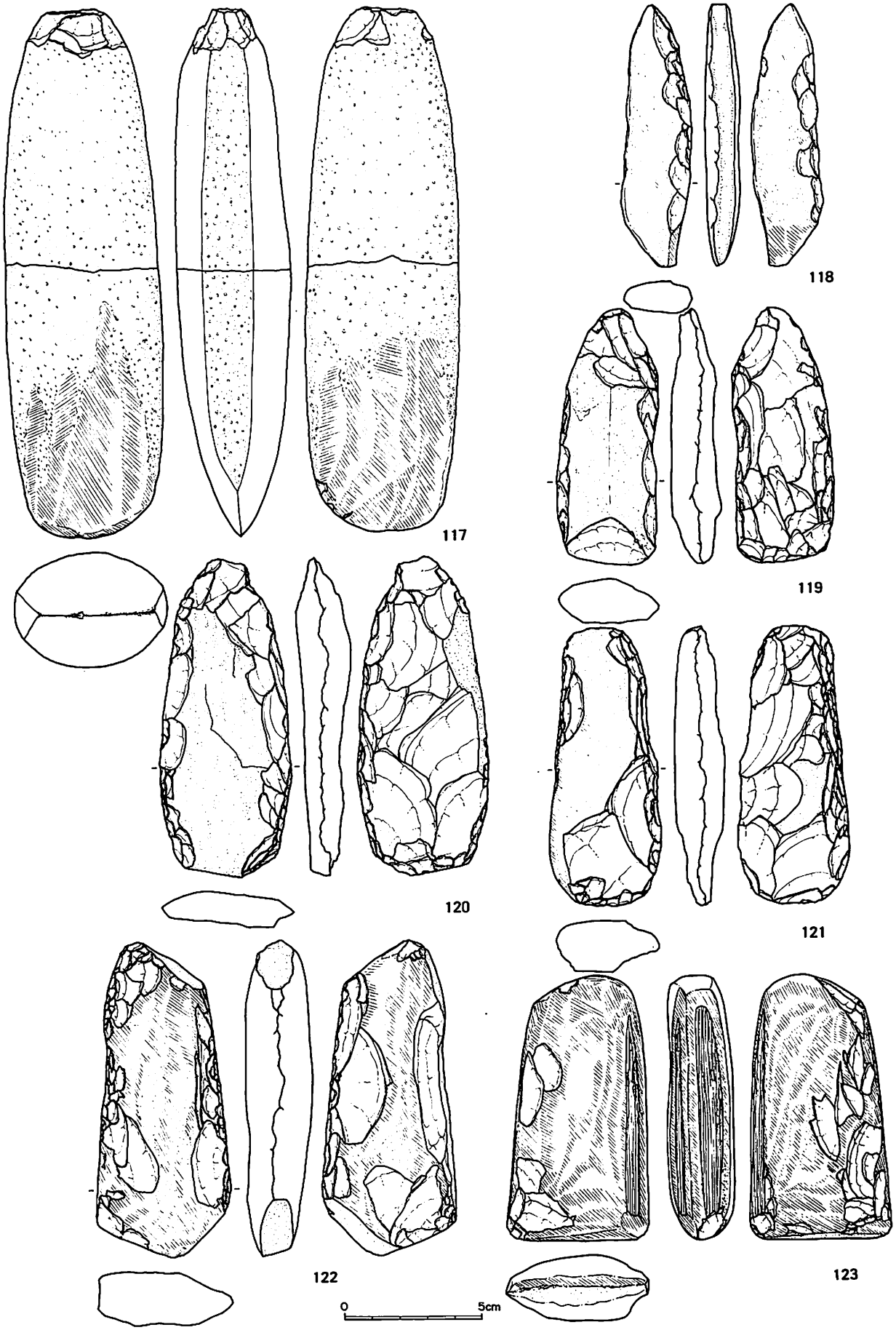
図Ⅲ—358　C地区包含層の石器(3)



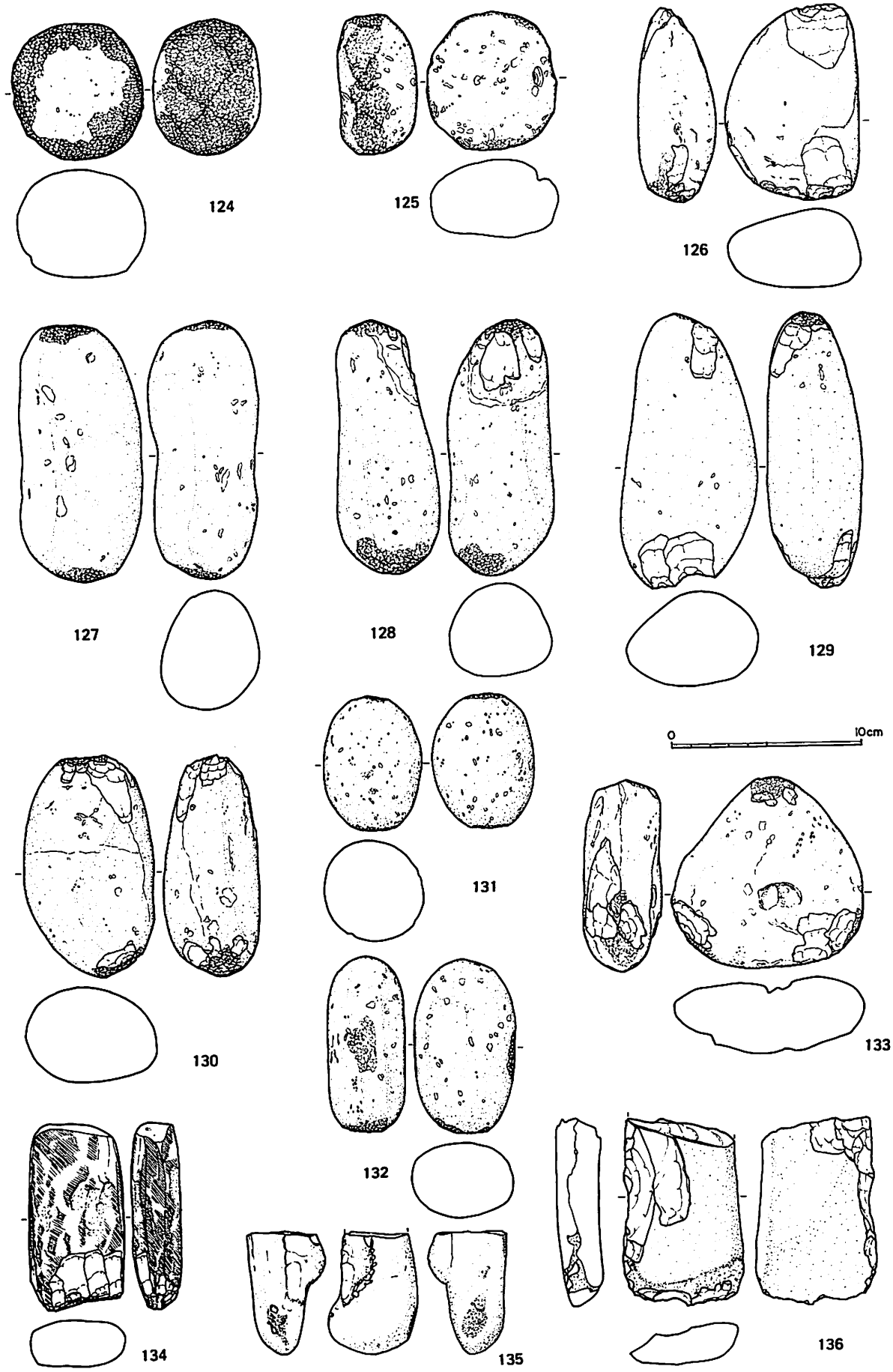
図III－359　C地区包含層の石器（4）



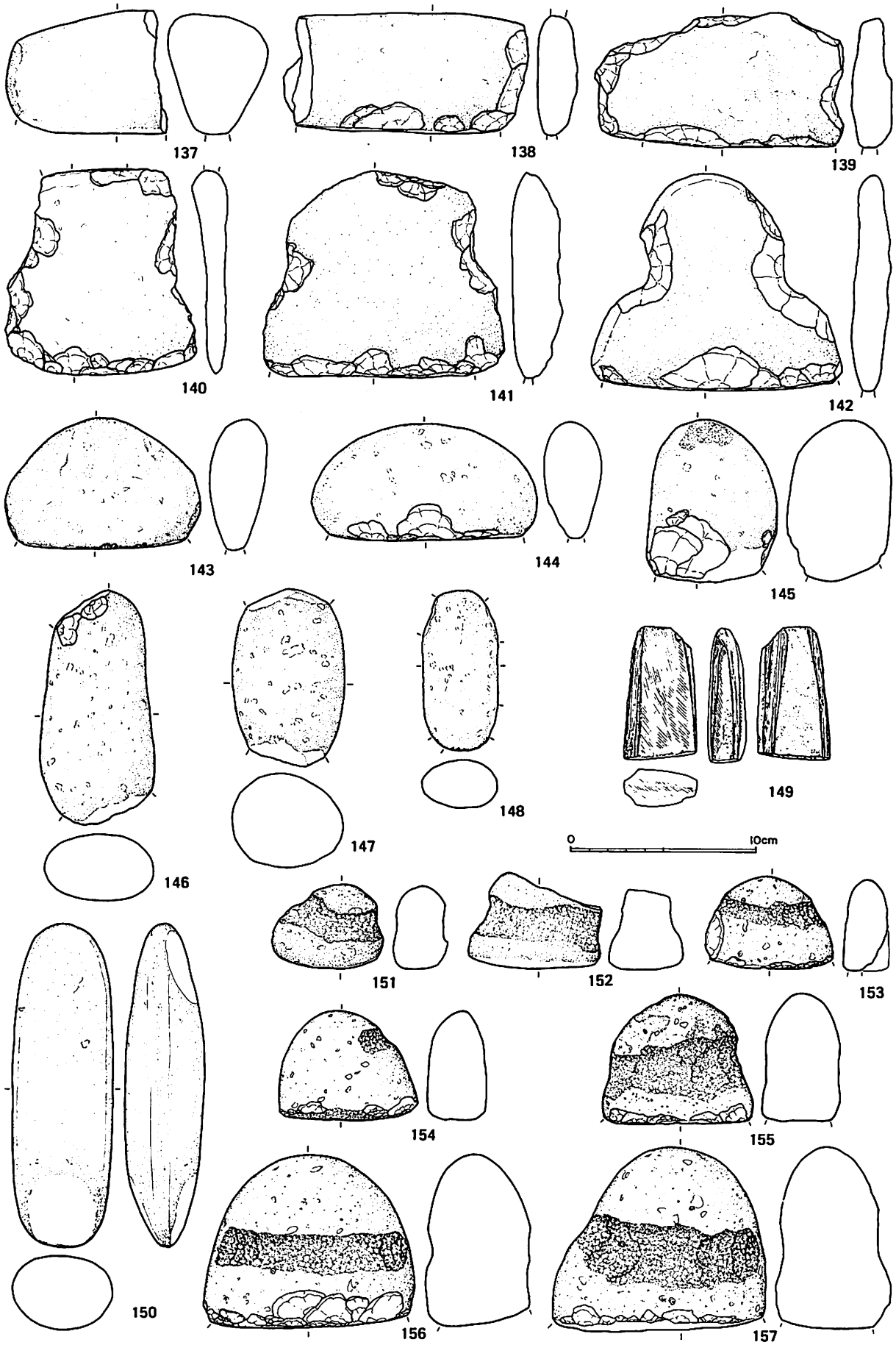
図Ⅲ—360　C地区包含層の石器(5)



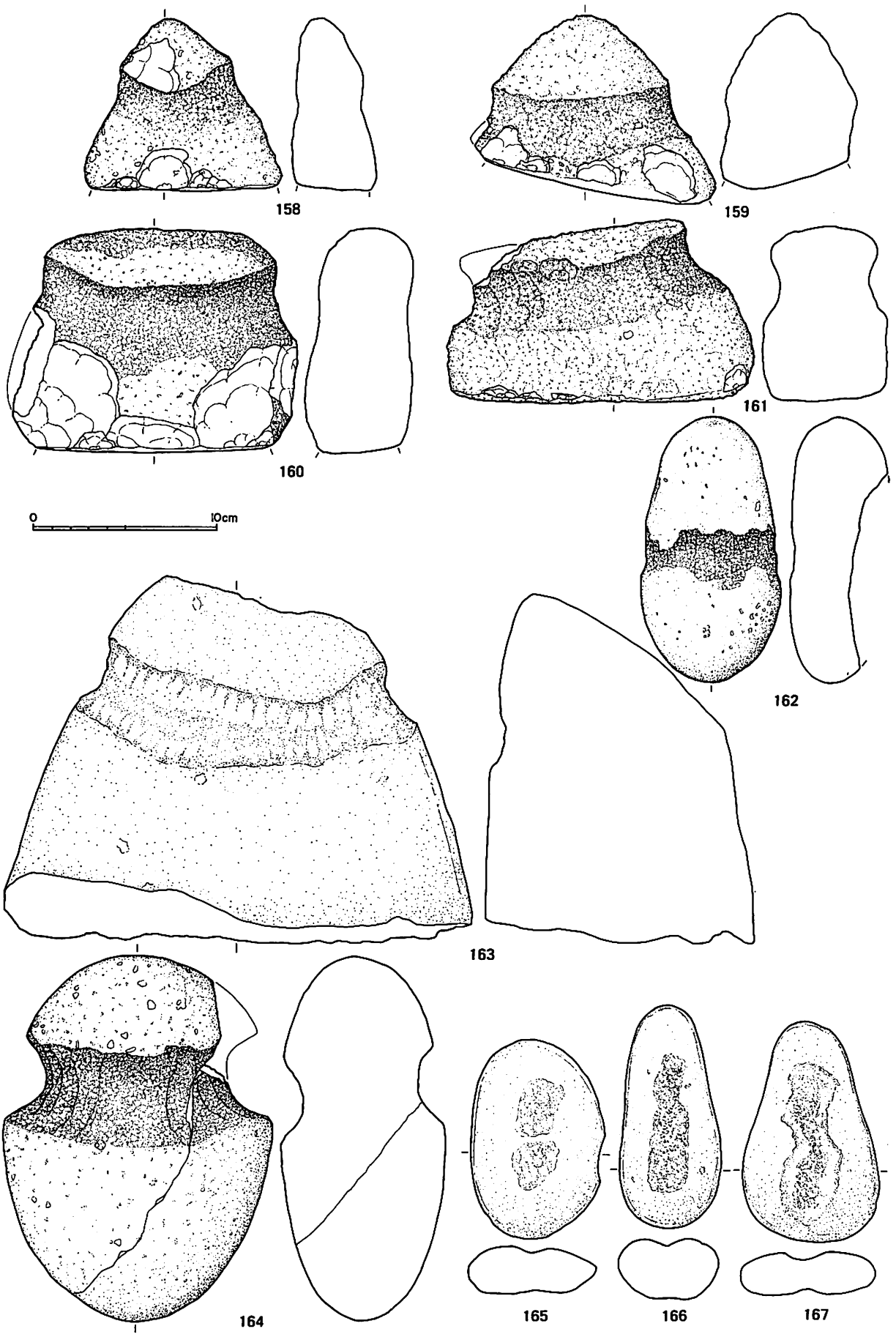
図Ⅲ－361　C地区包含層の石器（6）



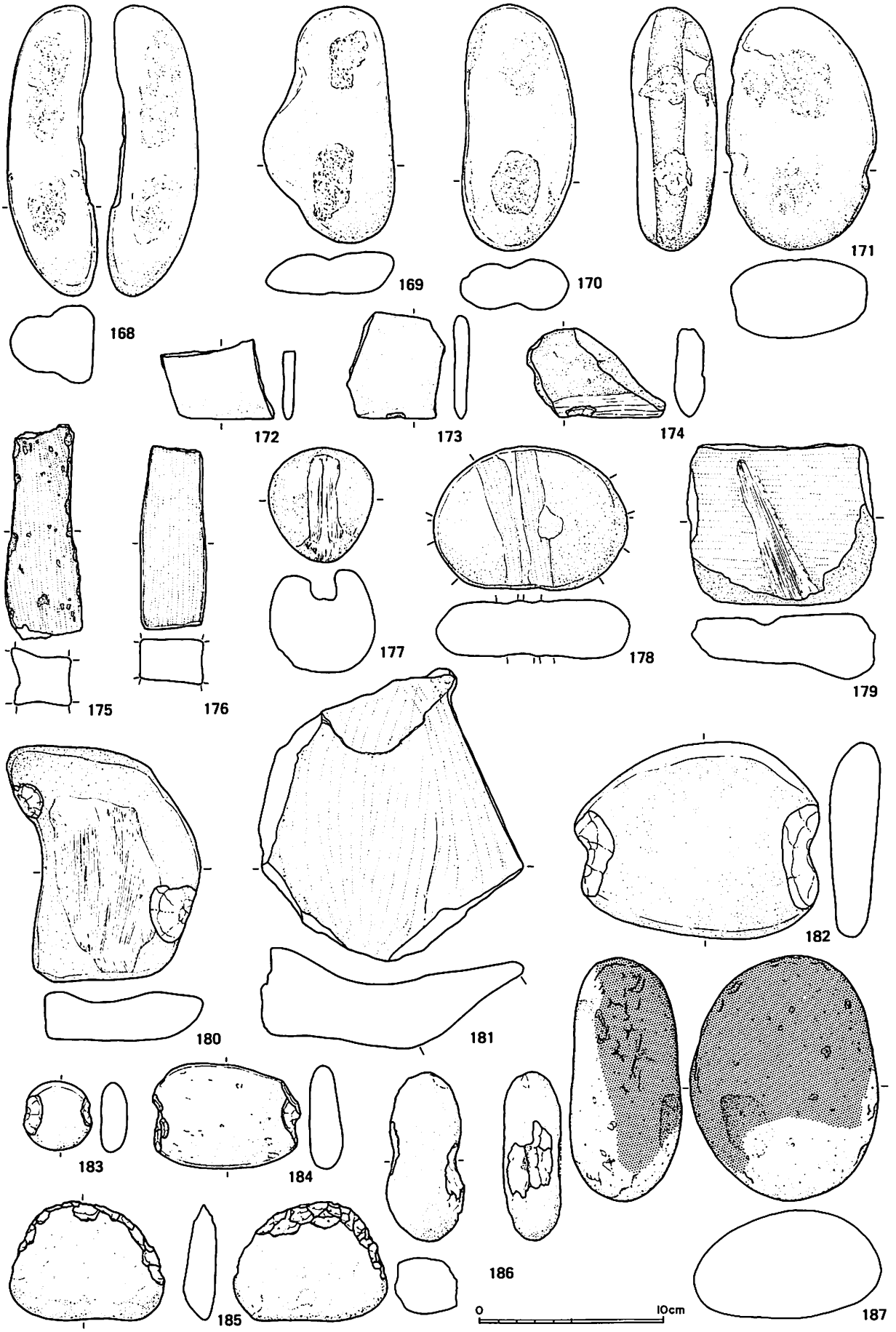
図Ⅲ－362　C地区包含層の石器（7）



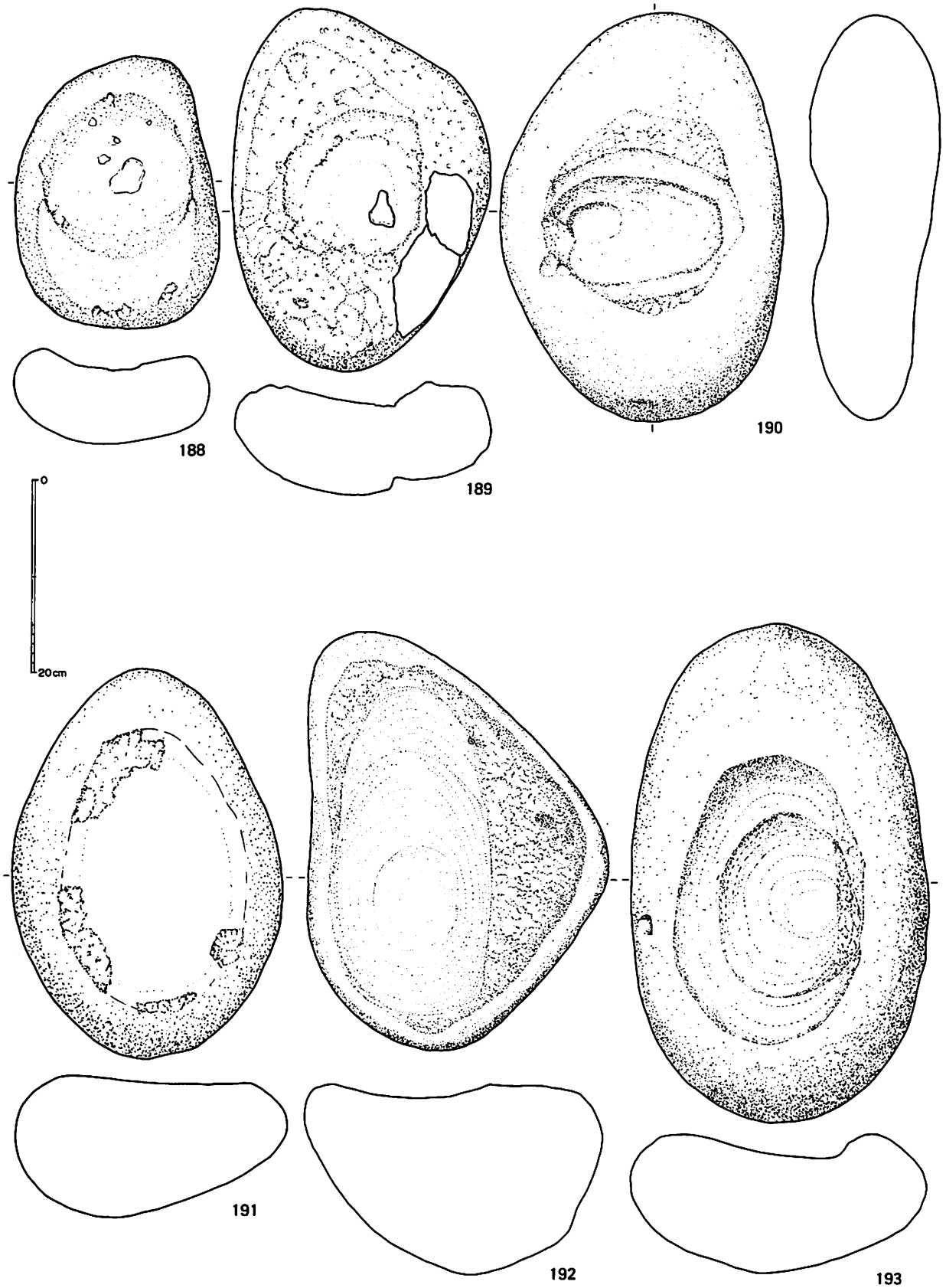
図Ⅲ－363　C地区包含層の石器（8）



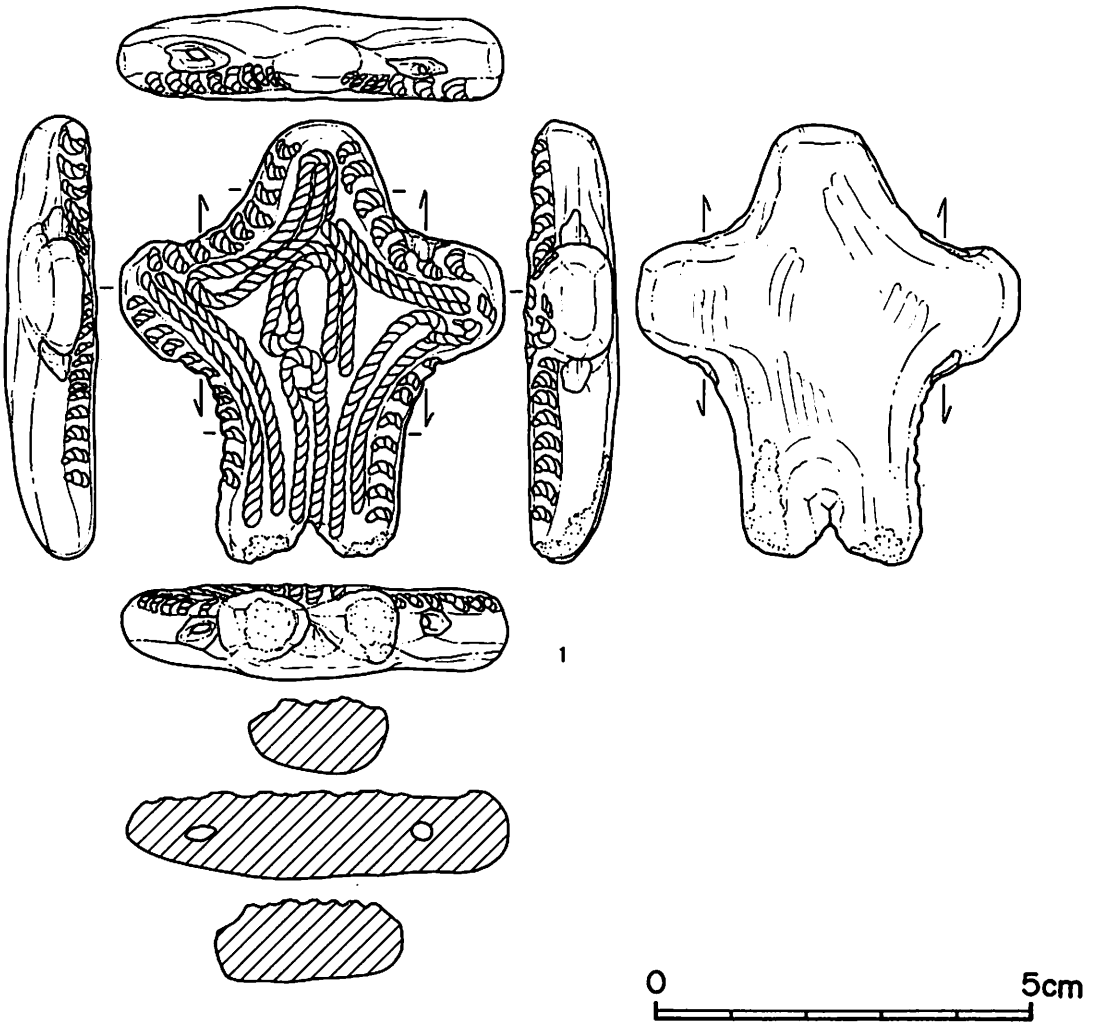
図Ⅲ—364　C地区包含層の石器(9)



図III－365　C地区包含層の石器(10)



図Ⅲ－366　C地区包含層の石器(11)



図III—367　土製品(1)・土偶

(7)　遺構・包含層出土の土・石製品

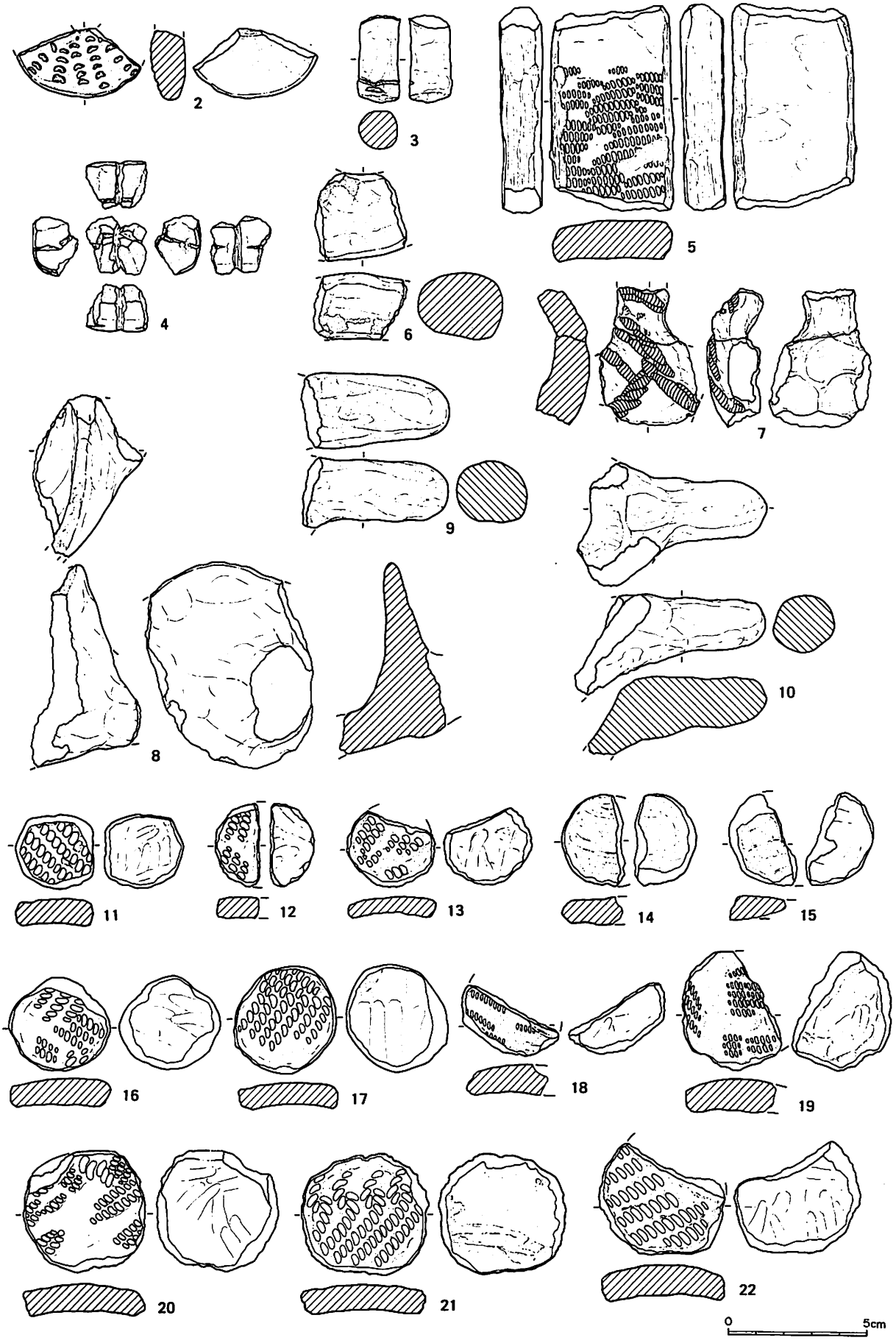
土・石製品の総数は263点，そのうち土製品は251点，石製品は12点である。

土製品251点の出土状況は，住居跡96点，土壙5点，貝塚5点，包含層145点，石製品12点の出土状況は，住居跡4点，土壙1点，貝塚1点，包含層6点である。

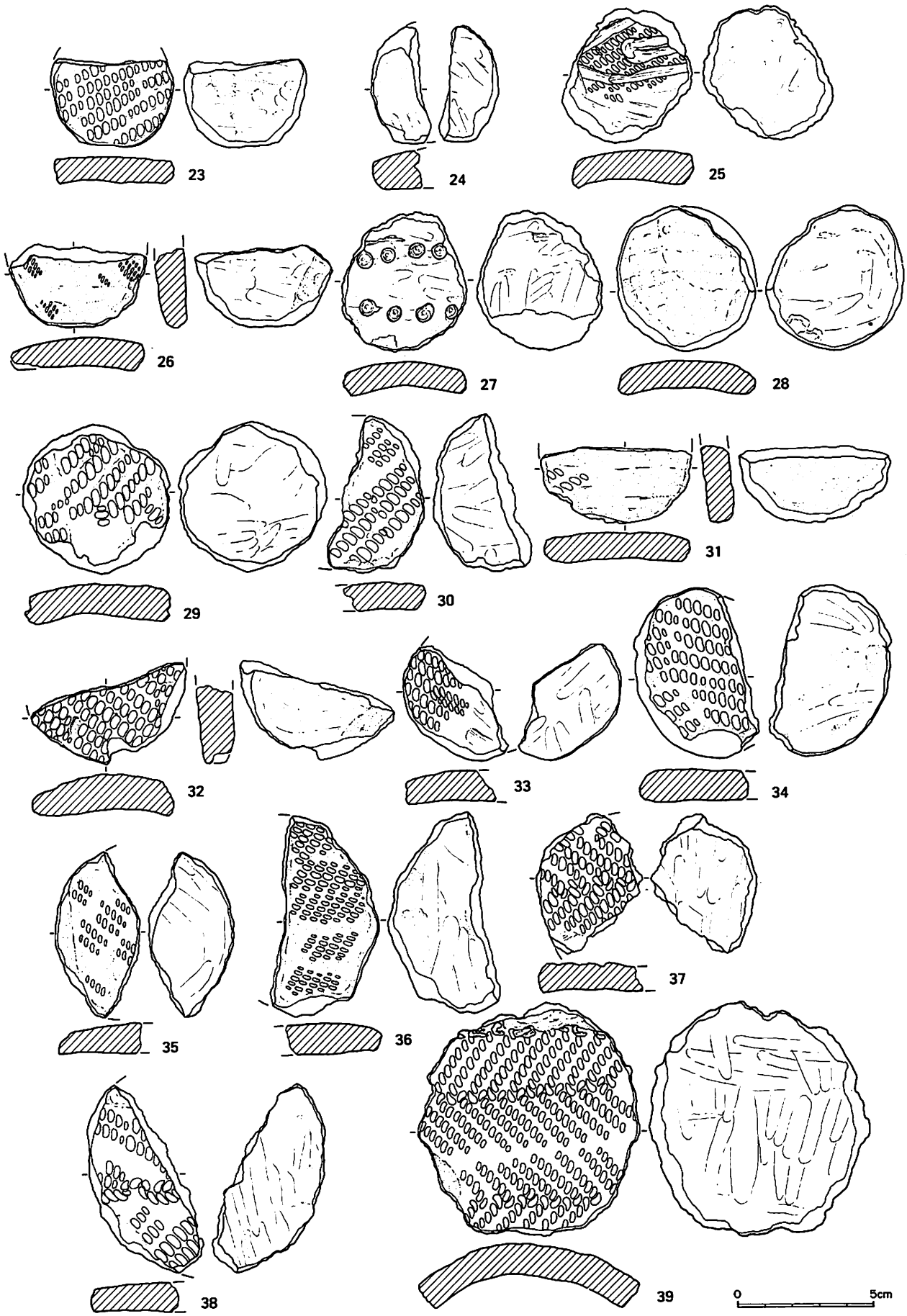
土製品251点の内訳は，土偶1点，有孔土製品1点，棒状土製品1点，有溝土製品1点，擦切板状土製品1点，台石1点，把手2点(1個体)，杓子形土製品の一部3点，再生土製円盤193点(187個体)，焼成粘土塊・粘土塊47点で，47点の粘土塊以外はすべて図示した(図III—367～377)。

石製品12点の内訳は，玦状耳飾3点，垂飾2点，玉1点，有孔石製品1点，三角形石製品1点，垂飾原石1点，小型北海道式石冠1点，小型石斧1点，石棒1点で，すべて図示した(図III—378～380)。また，石斧薄片を再加工した小型石斧も5点同時に示した(図III—279)。

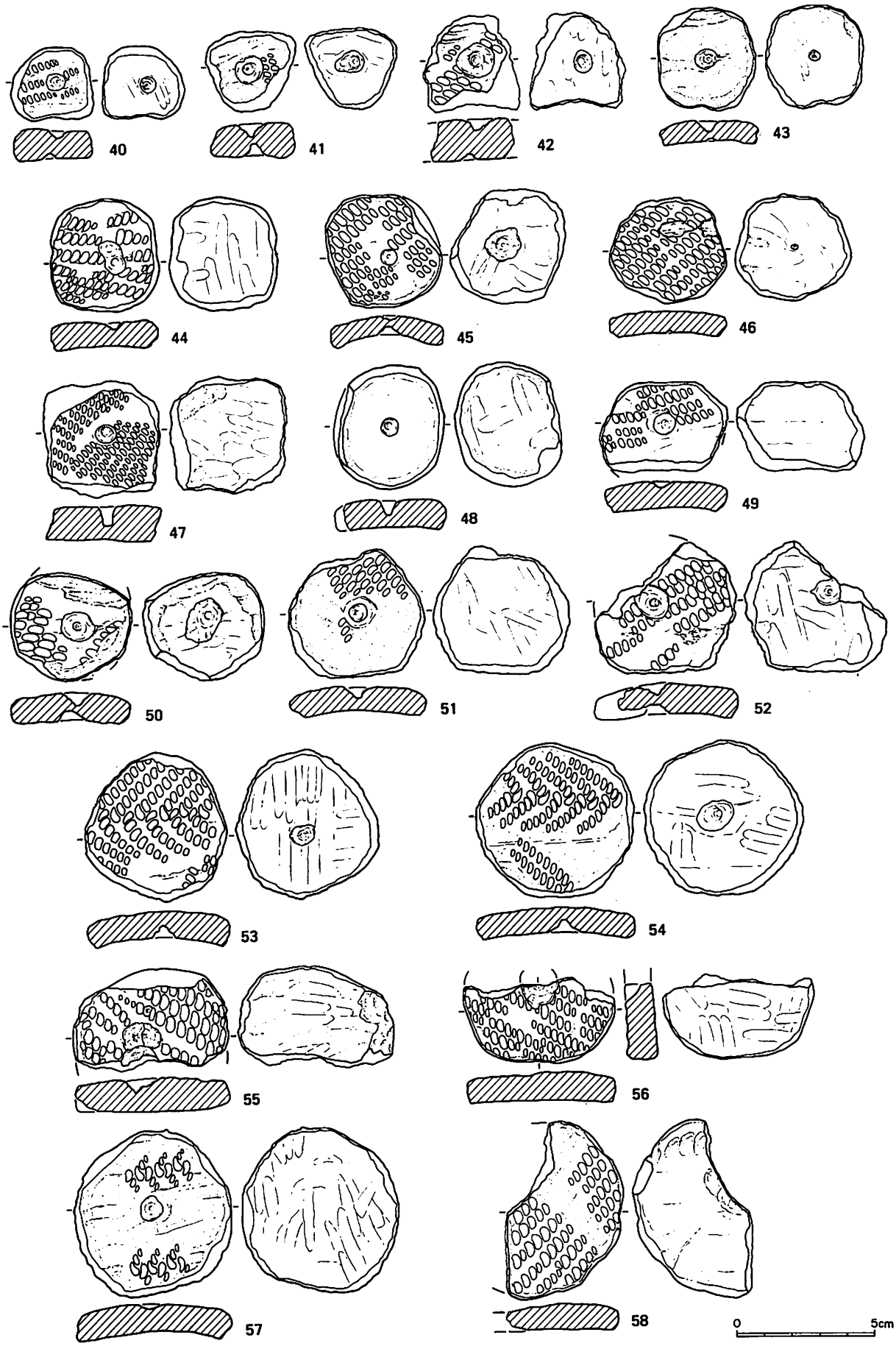
土製品(図III—367～377，図版177～180)　1はFH—16の床面から出土した完形の土偶である。頭部，両腕，両脚が作り出された形状である。両脚の先端及び裏面の一部は表面がわずかに剝離しているが，これは本来的なものでなく，二次的に剝離したものである。ま



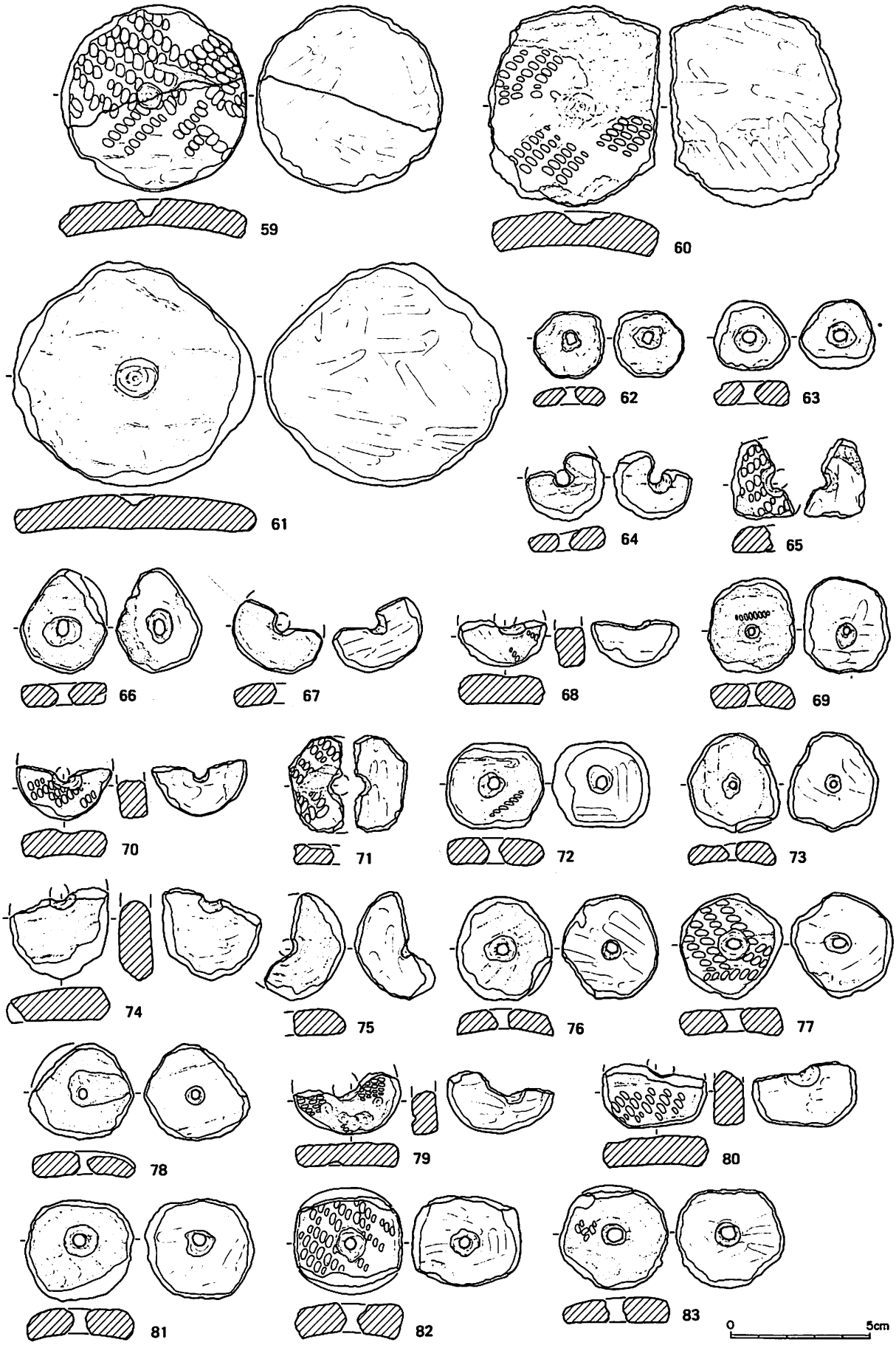
図Ⅲ－368　土製品（2）



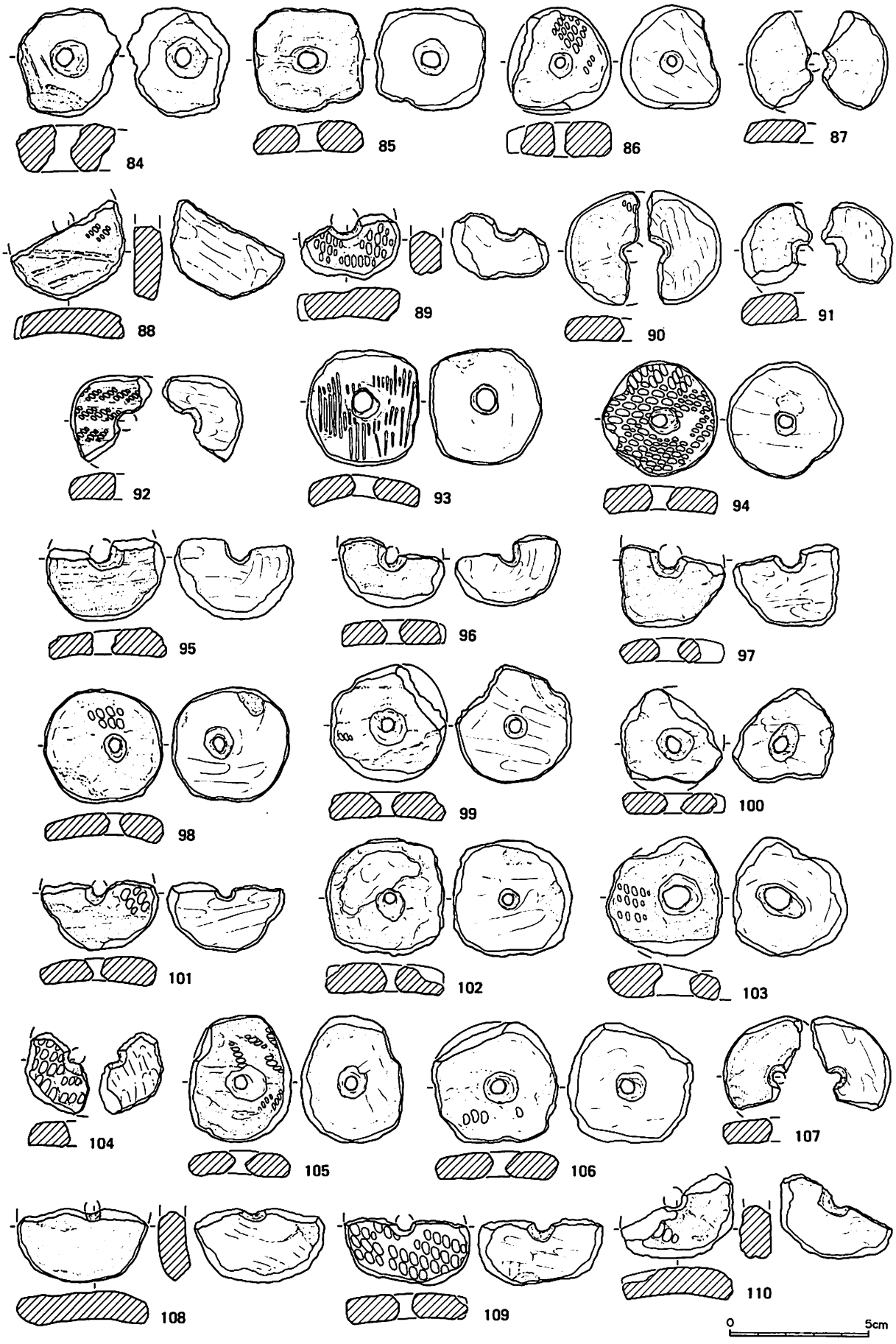
図III—369　土製品(3)



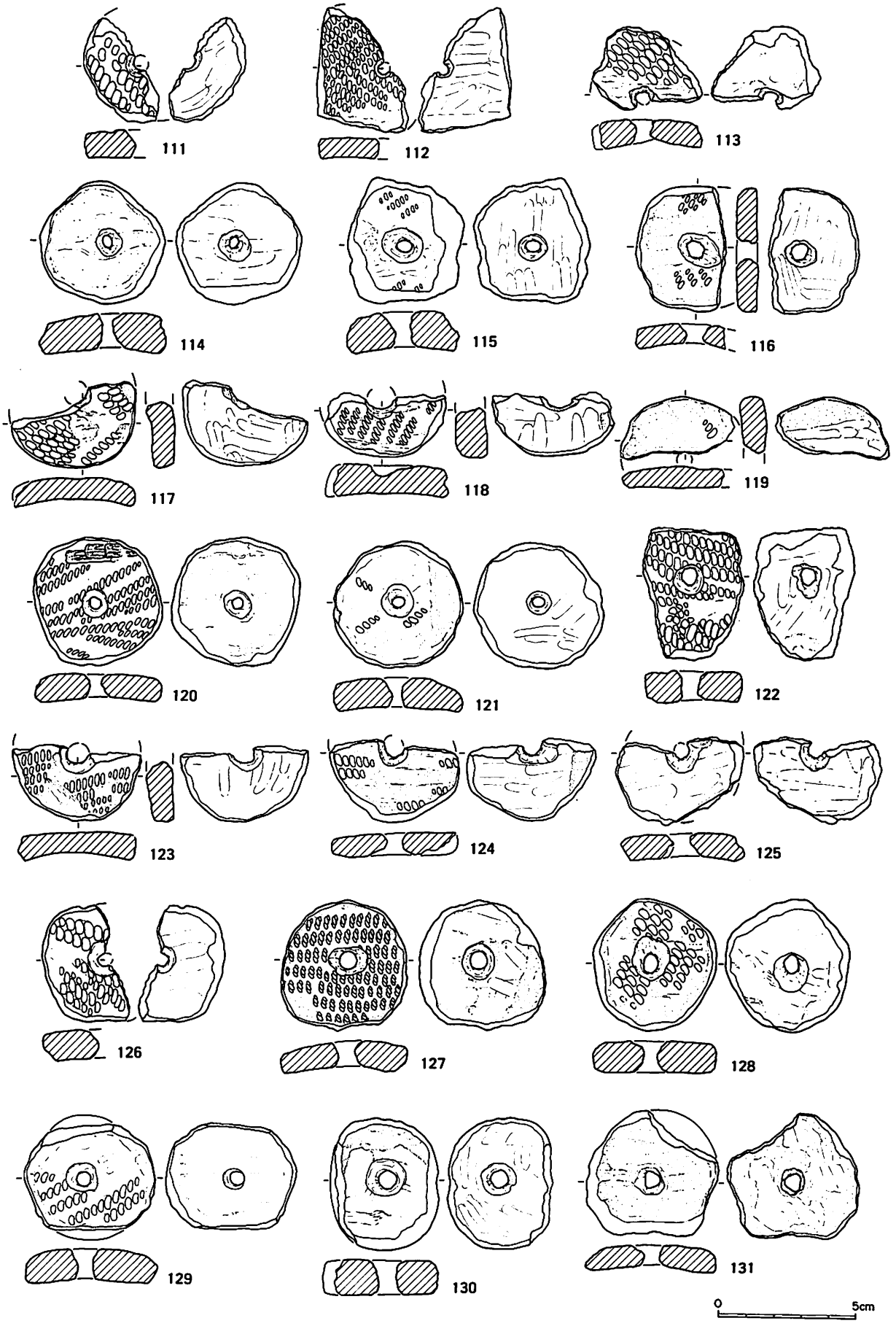
図Ⅲ—370　土製品(4)


59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
0
5cm

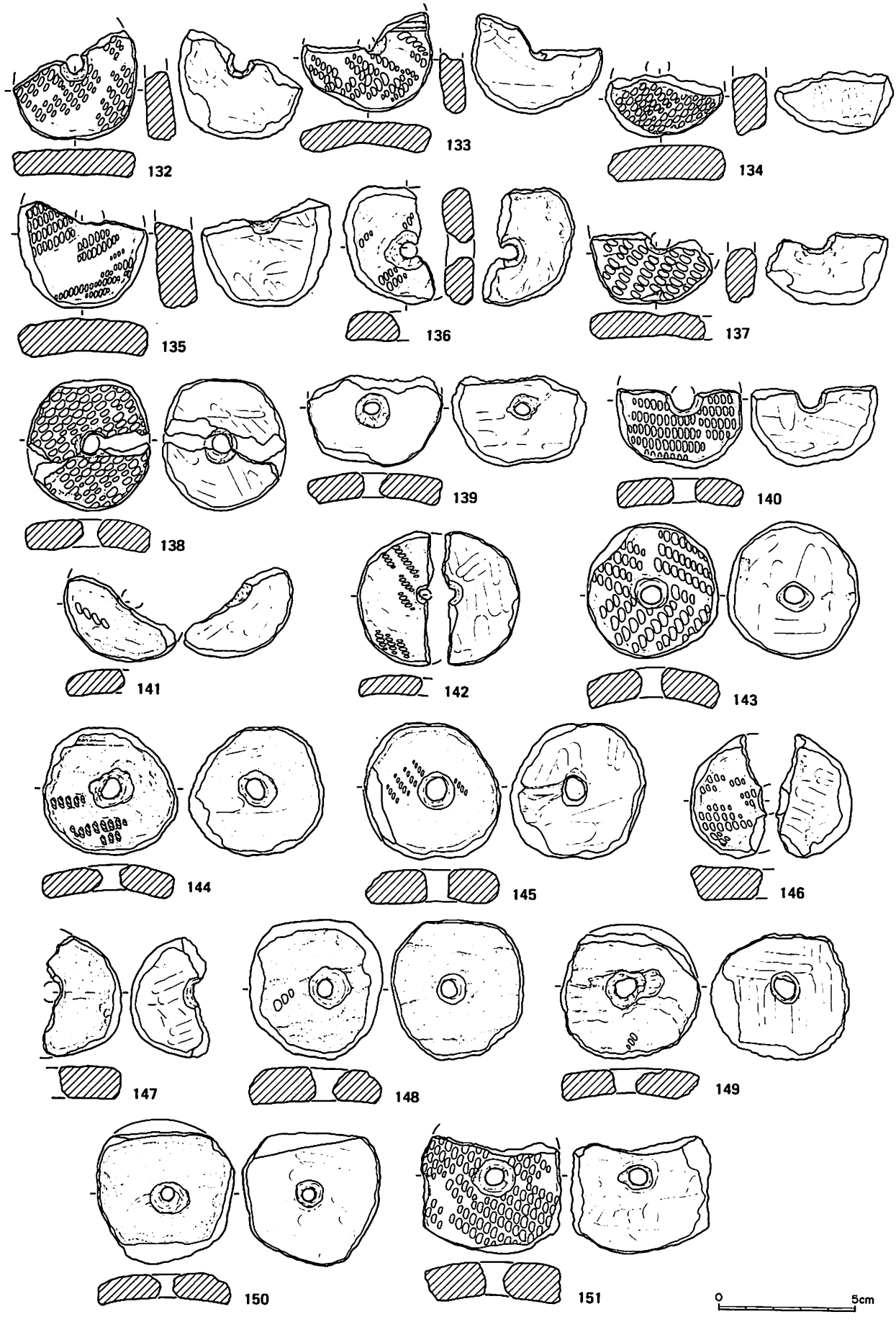
図Ⅲ—371　土製品(5)


84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
0
5cm

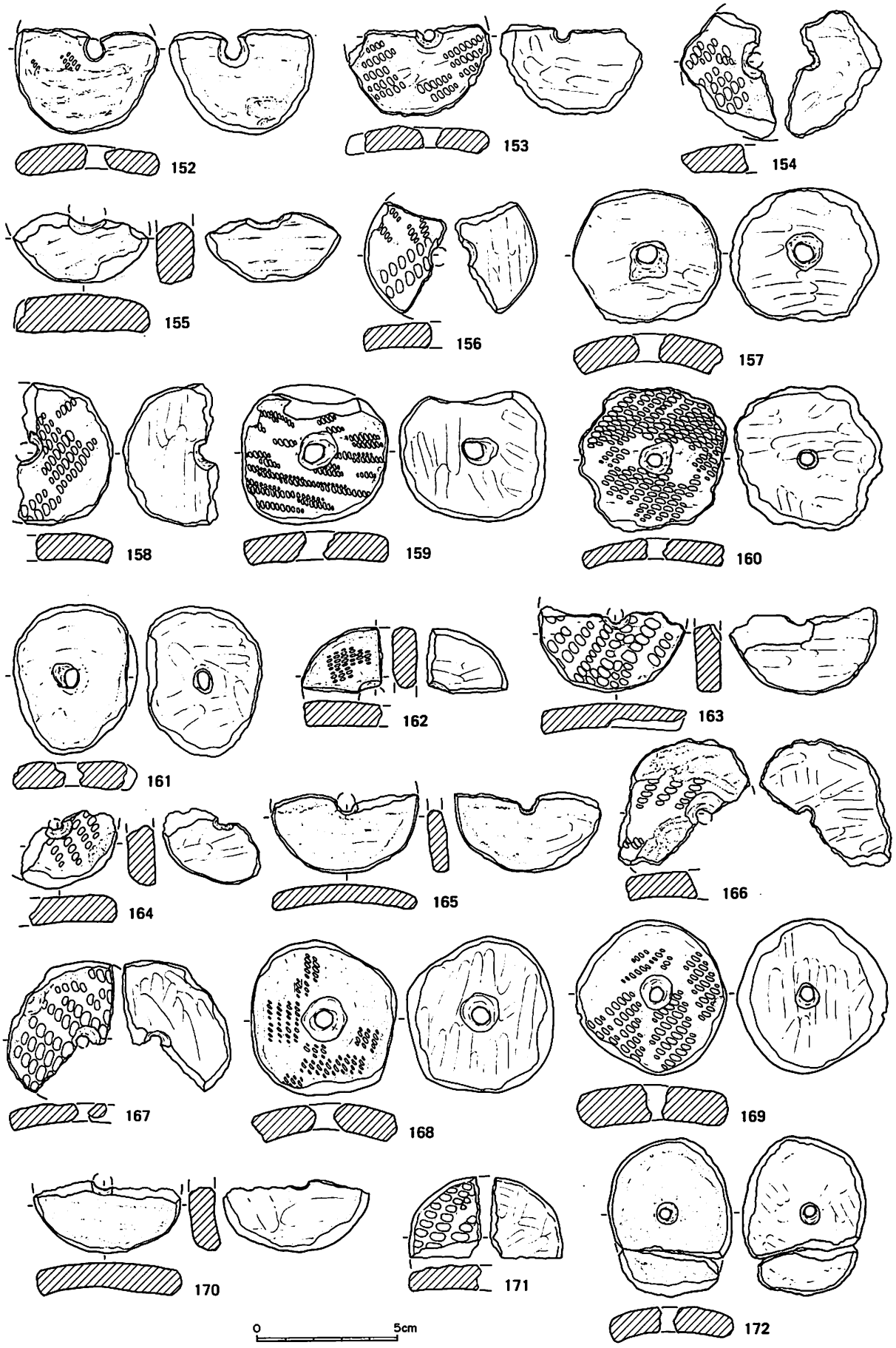
図Ⅲ－372　土製品（6）



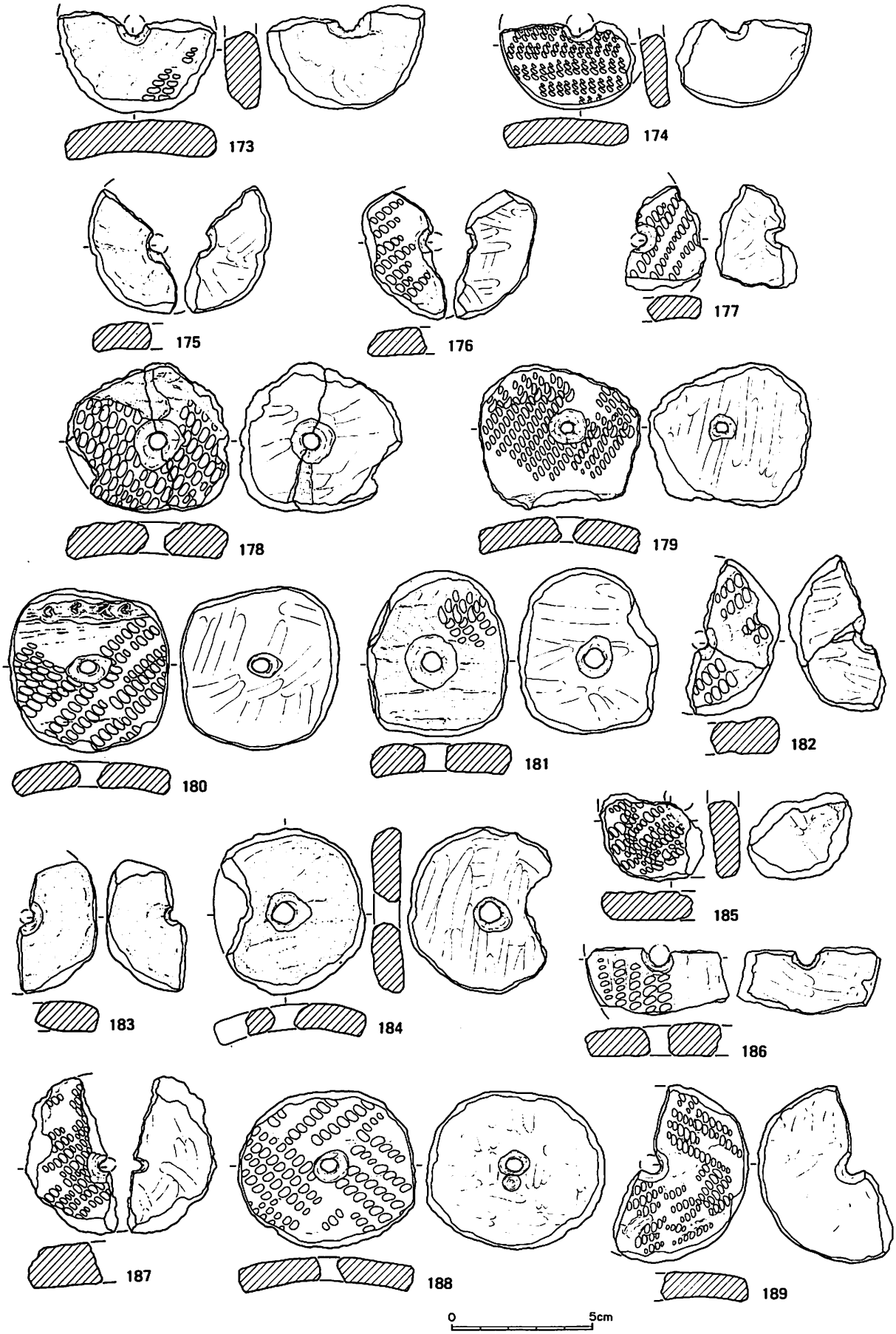
図III－373　土製品（7）


132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
0
5cm

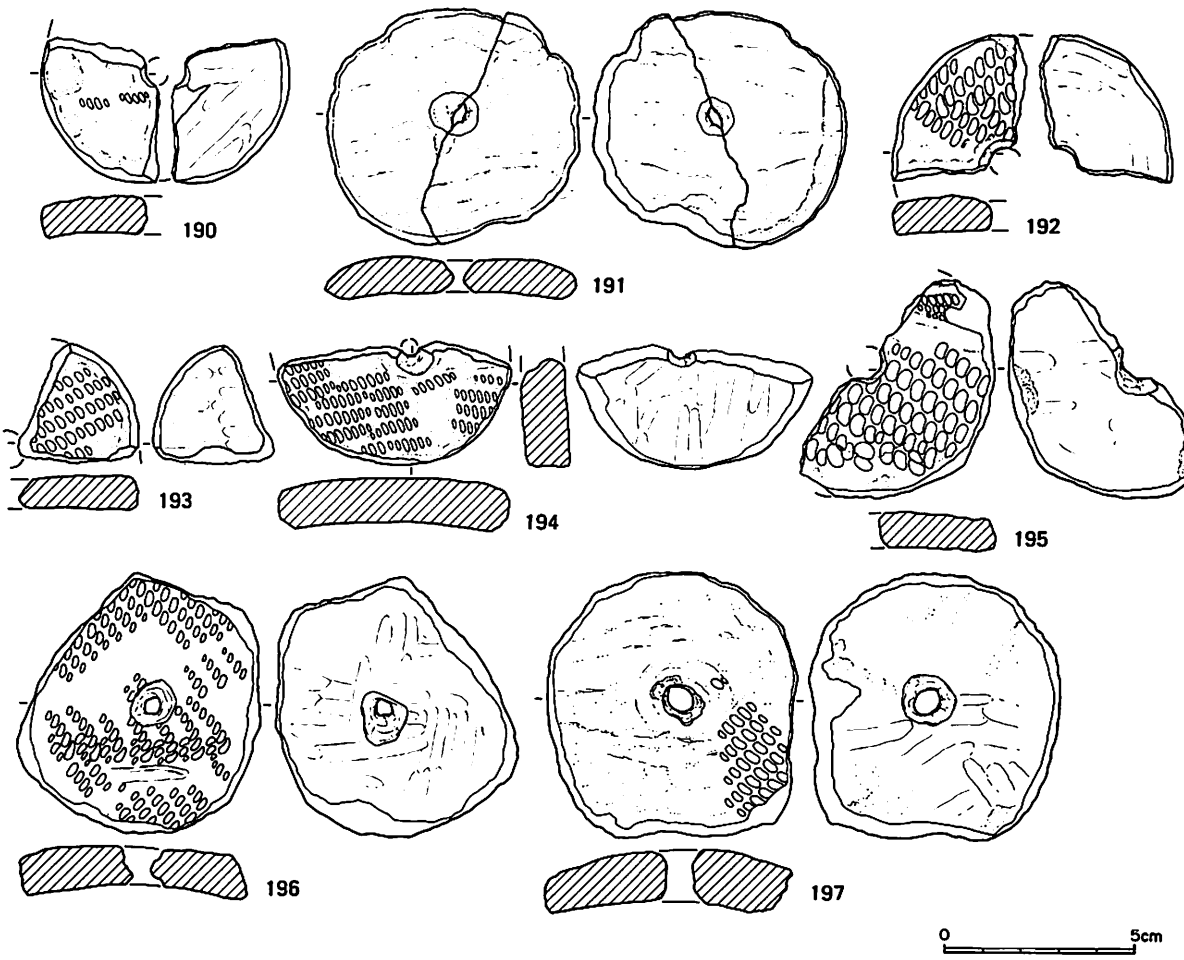
図Ⅲ—374　土製品(8)



図III－375　土製品（9）


173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
0
5cm

図Ⅲ－376　土製品(10)

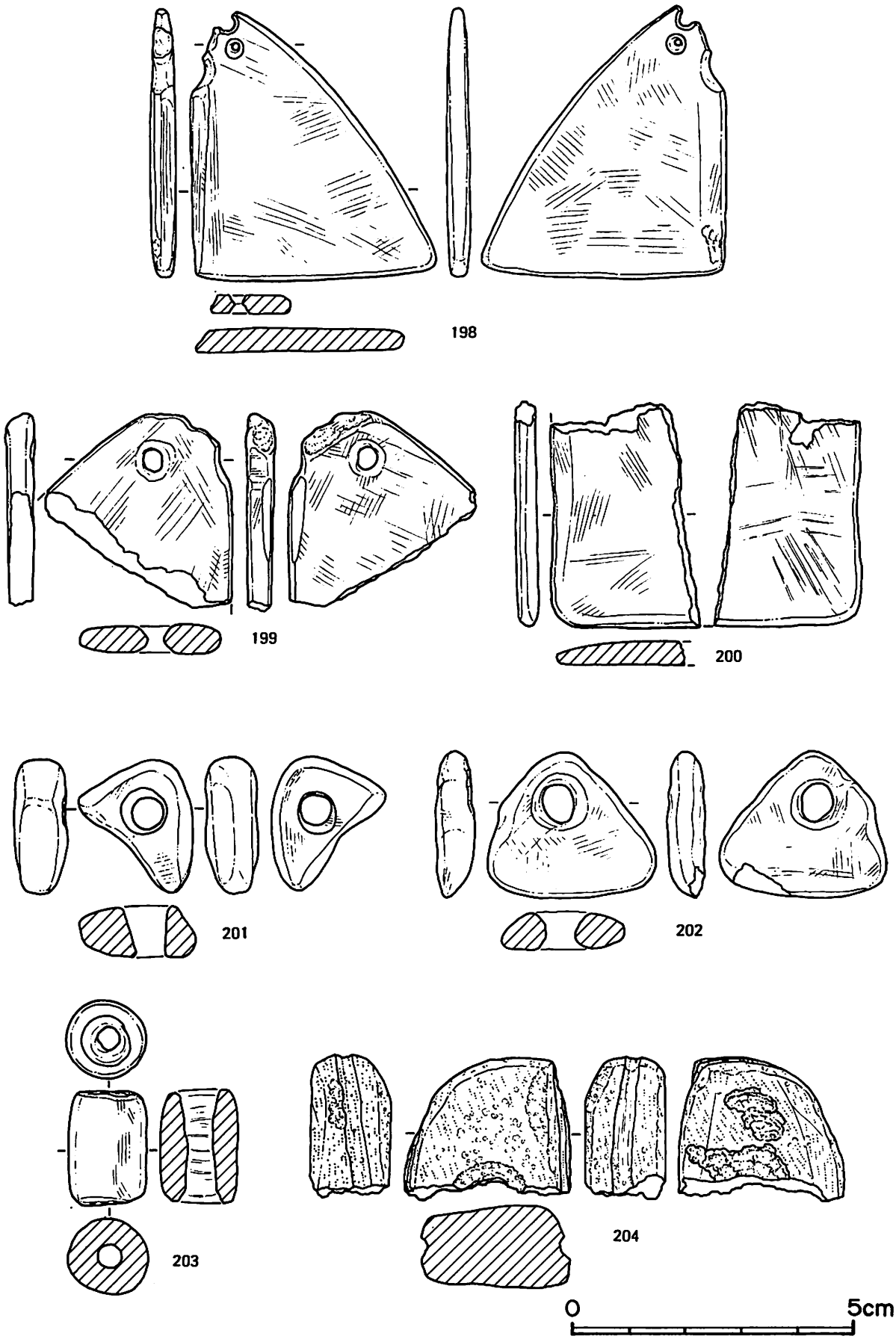


図III－377　土製品(11)

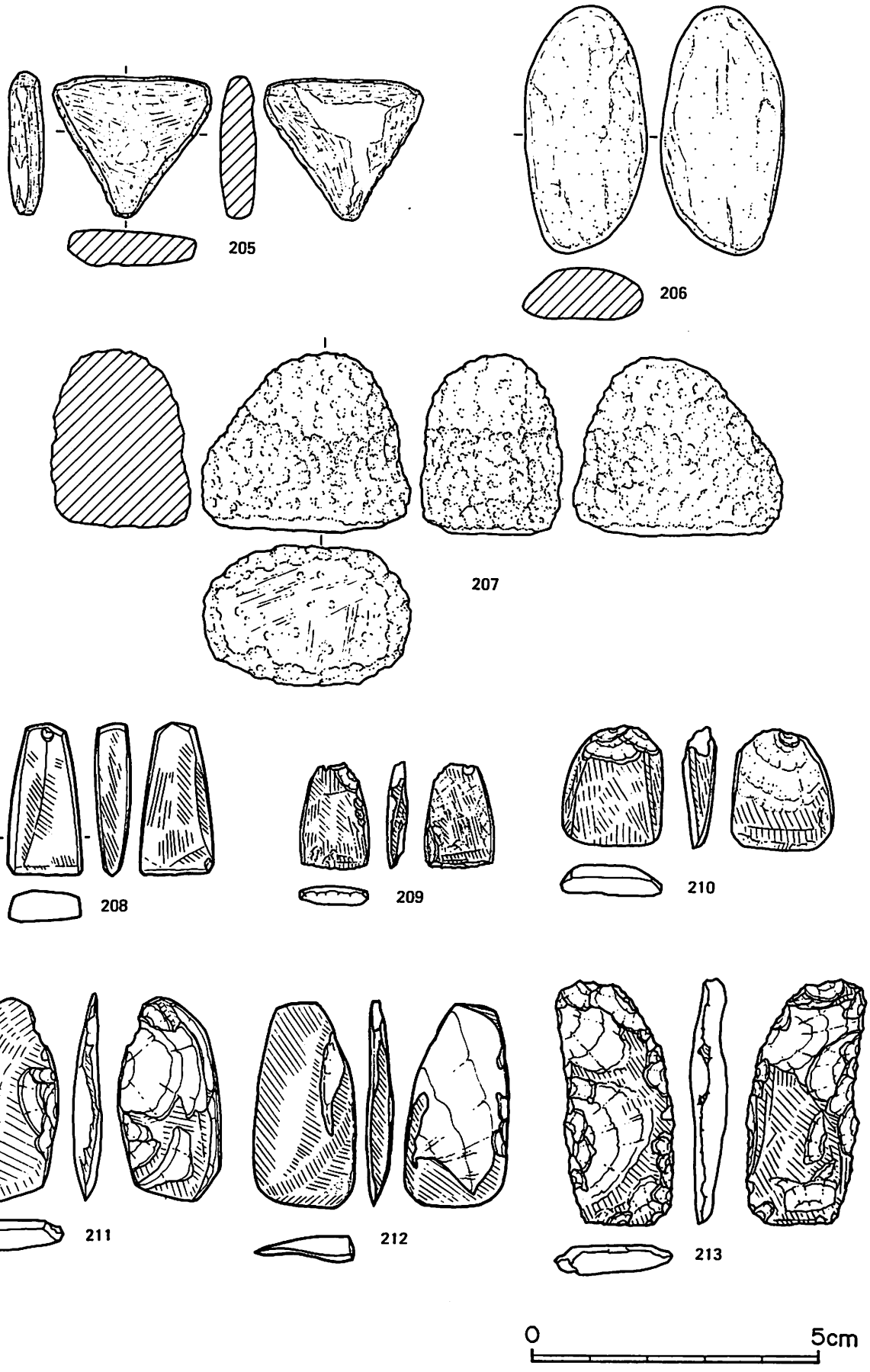
た,全体に表面が剝離する可能性があったので,パラロイドB72 10%溶液を表面に塗布し,表面の強化をした。両腕のつけ根部分には縦方向の貫通孔がみられ,何らかの形で垂下したものとみられる。写実的な形状に比べ顔,体の表現はほとんどみられず,表側には撚糸による圧痕文がほぼ全面に施されているのみである。裏面は無文で,丁寧に研磨整形されている。色調は暗褐色で,赤色顔料等は全くみられない。胎土や焼成はII群B類土器同様,砂礫を含み,良好とはいえない。

2は円形の有孔土製品の3分の1程の破片である。片面に放射状の刺突文が施されている。3は棒状の土製品で片面に細い2本の沈線がみられる。4は十文字に溝状の切り込みがみられるもの,切り込みは焼成後で土器片等の再利用とみられる。用途はわからない。5は土器の体部破片を板状に再加工したもので,両側縁が擦り切りによって直線状になっている。再生土製円盤の原材の可能性も考えられるが,大量に出土している再生土製円盤とは数量的に一致せず,直接の関係は見出せない。6は円形の台の一部とみられ,断面は楕円形に作られている。7は土器の口縁部に近い部分の把手と思われ,II群B2c類土器等に伴う可能性がある。8～10は部分的な破片で,全体の形状は不明であるが,いわゆる杓子形土製品の一部と思われる。8は柄のつけ根部分,9・10は柄の部分と思われ,いずれも胎土や調整などから,II群B類土器群に伴うものと考えられる。

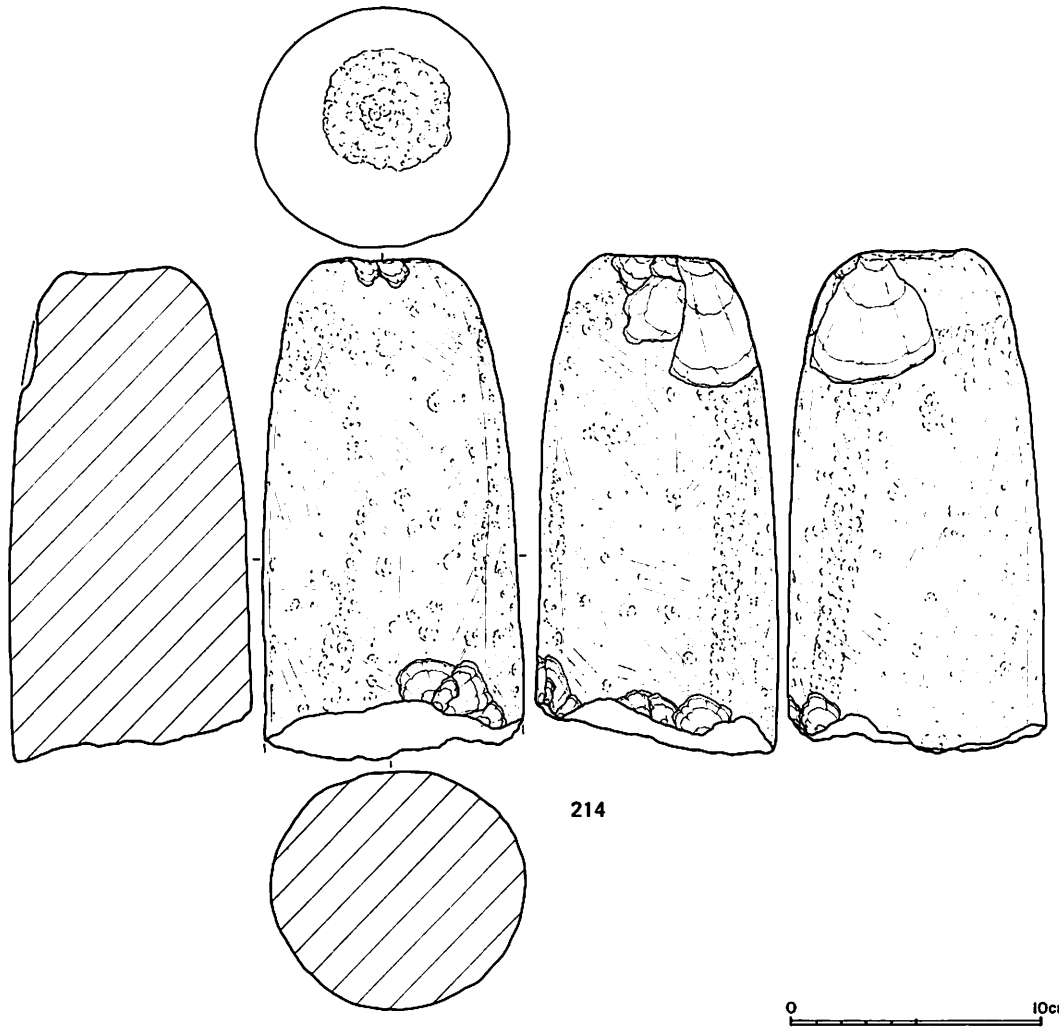
11～197は再生土製円盤で,11～39は無孔,40～61は穿孔途中,62～197は有孔である。最大径の大きさから便宜的に1～8類に分類した。1類は3.0cm以下,2類は3.1～3.7cm,



図Ⅲ—378　石製品(1)



図III－379　石製品（2）



図Ⅲ－380　石製品(3)

3類は3.8～4.4cm，4類は4.5～5.1cm，5類は5.2～5.8cm，6類は5.9～6.5cm，7類は6.6～7.2cm，8類は7.3cm以上で，破片については復元して分類した。

無孔の11～39については，11・12が1類，13～16が2類，17～20が3類，21～27が4類，28～31が5類，32～34が6類，35が7類，36～39が8類で完形品は9点ある。土器は表面が磨耗して分類が困難なものもあるが，II群B類が大半で，IV群A類が1点(25)，III群B3類が1点（38）みられる。また，周縁が擦って整形されているものが3点（11・17・33）ある。

40～61は穿孔途中の未貫通孔がみられるもので，40が1類，41～43が2類，44～48が3類，49～52が4類，53～55が5類，56～58が6類，59・60が7類，61が8類、完形品は15点である。土器はII群B類群の体部または底部（61）を使用しているものが大半であるが，III群B3類の体部を使用しているもの(47)も1点ある。また，周縁を擦って整形しているものは2点（54・56）みられる。

62～197は有孔のもので，62～65は1類，66～76は2類，77～104は3類，105～179は5類，180～189は6類，190～196は7類，197は8類，完形品は44点である。すべてII群B類土器群の体部破片で，周縁を擦って整形しているものは15点（79・88・93・94・98・117・

124・138・142・156・162・171・174・189・192）みられる。

石製品（図III—378～380，図版181）

198～200は玦状耳飾，198はほぼ2分の1が残存し，作りは丁寧で表面に細かな擦痕がみられる。199・200は198に比べ厚手で，作りもやや雑である。石質は198が蛇紋岩であるのに対し，199・200は軟質の滑石である。3点とも住居跡出土である。201は土壙墓と考えられるFP—130の壙底から出土したひすい製の垂飾である。ひすいは分析の結果，糸魚川産と推定されている（第IV章3(1)参照）。色調は淡緑色系で，透明感があり，良質の硬玉で比重は3.33である。全体に丁寧に整形され，穿孔は片側から行われている。202は三角形の滑石製の垂飾で，加工はやや粗く，上部に大きな孔が両側から穿たれている。203は管玉状の玉で，石質は橄欖岩，全体の加工はやや粗い，204は溶結凝灰岩製の石製品で，周縁に溝がみられ，穿孔の痕跡があり，その部分から欠損している。205は砂岩製の石製品で，三角形状に整形され，表面に細かな擦痕がみられるが，孔などはない。206は蛇紋岩の原石で加工は全くみられないが，この種の原石が他にみられないことなどから，垂飾品の素材と考えた。207は北海道式石冠のミニアチュアで，石質は砂岩，敲打で整形され，下面は滑沢である。208～213は小型の石斧，208は砂岩，209は緑色片岩，210～213は緑色泥岩製である。208以外は石斧の薄片を再加したもので，実用と思われるが，208は砂岩製で，いわゆる定角式の石斧のミニアチュアと思われる。214は安山岩製の大型の石棒，全体は敲打によって整形され，上端部は凹んでいる。また，部分的に剝離痕と研磨面がみられる。

(8)　包含層出土の陶磁器・金属製品

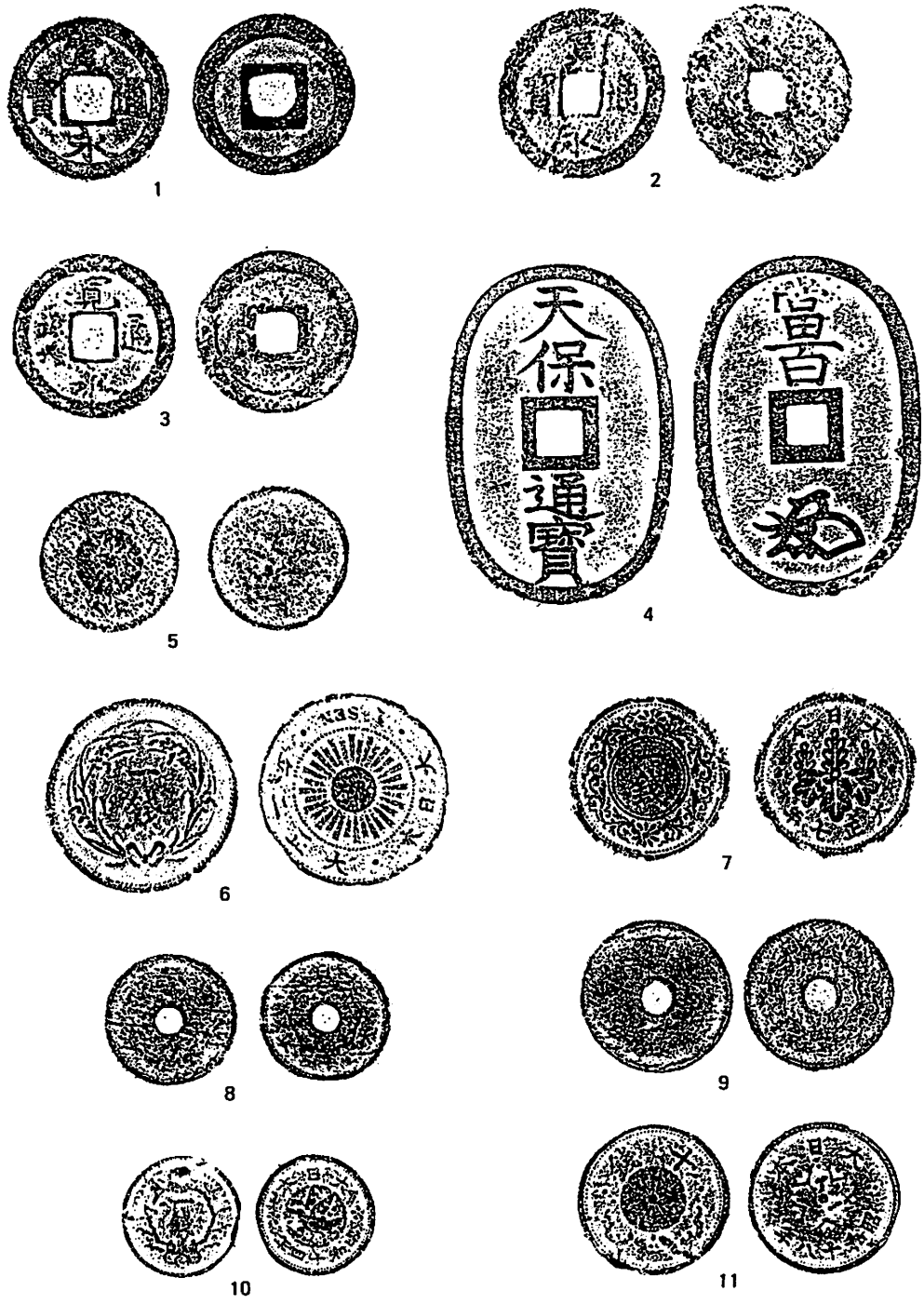
陶磁器は1,676点，基本的には第I層及び撹乱層からの出土である。住居跡及び土壙出土となっているものも撹乱層から出土している。多く出土しているのはA地区北側の溝状の撹乱とフゴッペ川氾濫部分である。金属製品は1,042点，これらも陶磁器同様，A地区北側の溝状の撹乱とフゴッペ川の氾濫原部分から出土している。若干の古銭，旧貨幣があるが，大部分は現代の鉄製品である。

陶磁器（図版189・190）　近世まで遡る可能性のものも若干みられるが，大部分は近・現代のものである。それらのうち近世まで朔る可能性のあるものと，いわゆる酢徳利，三平皿などをいくつか示した。

1は青磁の破片，胎土が灰色で，釉調などから中国製の可能性もあるが，小片なので断定できない。2～18は手書きの呉須による染付類で，幕末まで遡る可能性のあるものである。2～10は碗の破片，11～14は中皿，15は小皿，16～18はいわゆるコンプラ瓶である。図版189上段の2点は「ヲ」の文字の書かれた尾道産の酢徳利（松下・氏家　1977），図版190—19～24は摺絵の駄知産の三平皿（松下・氏家　1981）である。

金属製品（図版—381，図版190）　金属製品のうち古銭のすべてと旧貨幣の各種を図示した。1～3は新寛永，4は天保通宝である。5～11は旧貨幣，5は明治22～30年の菊5銭白銅貨，6は大正2年の稲1銭青銅貨，7は大正7年の桐1銭青銅貨，8は大正11年の小型5銭白銅貨，9は大正12年の10銭白銅貨，10は昭和14年のカラス1銭アルミ貨，11は昭和18年の菊10銭アルミ貨である。

陶磁器，金属製品ともに第I層及び撹乱層出土で，層位的な裏付けはないが，ともに近世末，近・現代で，概ね整合性がある。



図Ⅲ—381　金属製品

Ⅳ　各種分析，同定

1　環　　境

(1)　フゴッペ貝塚の古植生について

山　田　悟　郎
（北海道開拓記念館）

1　試料および処理方法について

1)　分析試料の採取個所と層序

土壌試料は1989年度に行なわれた縄文時代前期末から中期初頭のフゴッペ貝塚の発掘調査に際してP—24区南壁（YF—1地点），P—22区南壁（YF—2地点）およびJ—26区南壁（YF—3地点）のIV層から採取したものである。

P—24区南壁（YF—1地点）の層序は上位から，埋土（厚さ50cm），若干の砂礫を含んだ黒色腐植土（II層，厚さ24cm，試料No. 1～5），粘性が強い暗褐色腐植土（IIb層，厚さ33cm，縄文前期末～中期初頭の遺物包含層，試料No. 6～12），暗黄褐色粘土（III層厚さ10cm，試料No. 13）で，約5cm間隔で13点の試料を採取した。

P—22区南壁（YF—2地点）の層序は，上位より砂礫混じり暗褐色土（厚さ30cm），遺物包含層となっている暗褐色腐植土（IIb層，厚さ26cm），赤褐色砂ないしは小礫（厚さ5～10cm），部分的に砂礫または有機物を挟む青灰色細粒砂（厚さ26m，試料No. 1～5）。試料は青灰色細粒砂からのみ約5cm間隔で5点の試料を採取した。なお，赤褐色砂ないし小礫，青灰色細粒砂は遺跡の西方に流路をもって流れていた小河川を埋積した堆積物である。

J—26区南壁（YF—3地点）では縄文前期末～中期初頭の遺構発掘後に，遺構検出面より下位に堆積した地層から採取されたものである。層序は上位から，黄褐色砂質シルト（IV層，厚さ約25cm，試料No. 1～5），黄褐色砂（厚さ約10cm，試料No. 6～7），黄褐色砂質シルト（厚さ約5cm，試料No. 8），若干の腐植成分を含んだ暗灰褐色シルト（IVB層厚さ約5cm，縄文早期東釧路IV式土器の遺物包含層，試料No. 9），黄褐色シルト（試料No. 10）で，約5cm間隔で10点の試料を採取した。

2)　試料の処理方法

試料の処理にあたって，腐植土・青灰色砂については試料約500gを1,000cc用のビーカーにとり，YF—3地点から採取した砂礫等を含んだ砂質シルト・シルト等については1kgの試料を1,000cc用のビーカー2個に二分して入れて下記の順に化学・物理処理を行ないプレパラートの作用を行なった。

アルカリ処理（24時間）—水洗（14日間）—沈澱法による砂礫の除去（YF—3地点から採取した試料についてはこの処理をおえた後に一つのビーカーにまとめる）—比重分離—水洗—HF処理（24時間）—水洗—アセトリシス処理—水洗

2　検出された花粉・胞子

検鏡にあたっては通常10×40倍で行ない，微細構造の観察など必要に応じて10×100倍で行なった。同定・計数にあたっては樹木花粉を200個以上数えるまでにレンズ下に出現した花粉・胞子を無作為に同定して計数することに努めたが，樹木花粉を200個以上数えることができた試料はなかった。したがって，産出した花粉・胞子の種類とその出現数について一覧表にして示した（表IV—1・2)。

全般に花粉・胞子の出現数は少なかった。特にYF—3地点から採取した試料について

表IV—1　フゴッペ貝塚から産出した花粉・胞子（1）

地　　点	P—24区（YF—1地点）												
試　料　No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
Abies	7	8	7	4	4	2	2	2	2	1	1	—	1
Picea	1	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Pinus	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Salix-Populus	1	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—
Juglans	3	5	1	3	—	1	1	3	3	2	3	1	2
Alnus	4	7	2	9	8	4	5	5	3	5	5	3	3
Betula	1	1	—	—	1	—	—	—	—	1	1	—	—
Fagus	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—
Quercus	17	13	2	1	1	3	2	5	6	5	3	1	1
Ulmus	11	15	8	8	9	9	7	10	12	11	11	4	5
Magnolia	1	2	1	1	—	1	—	—	1	2	—	1	—
Sorbus-Prunus	1	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Phellodendron	1	3	1	1	1	—	—	—	1	2	—	—	—
Acer	2	3	1	2	2	1	1	2	1	2	1	1	1
Tilia	3	3	1	1	1	1	—	1	2	2	2	1	—
Araliaceae	1	2	1	1	1	2	—	2	—	2	1	2	1
Fagopyrum	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—
Polygonaceae	4	6	3	9	12	14	21	23	38	29	17	10	8
Chenopodiaceae	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Caryophyllaceae	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—
Ranunculaceae	26	20	5	15	22	19	16	17	31	25	5	2	3
Cruciferae	1	2	1	1	1	1	2	2	4	3	—	—	—
Rosaceae	1	2	1	1	—	1	1	—	1	2	2	1	1
Leguminosae	1	1	1	1	1	—	—	1	—	2	1	1	1
Umbelliferae	2	5	2	1	1	4	3	4	12	9	3	1	1
Convolvulaceae	—	—	—	—	1	1	2	2	1	3	2	1	—
Artemisia	14	9	5	19	33	48	51	68	102	61	44	31	11
Carduoideae	1	1	2	2	4	3	8	7	9	9	6	3	2
Cichorioideae	1	—	—	—	1	—	1	1	—	—	—	—	—
Gramineae	68	51	29	44	45	41	39	43	60	53	58	48	14
Cyperaceae	2	—	1	—	1	2	1	3	6	4	5	5	4
Equisetaceae	—	1	—	—	—	—	—	—	2	1	—	2	—
Osmundaceae	19	11	1	1	—	1	1	1	1	2	1	2	—
Lycopodiaceae	2	2	3	1	—	—	1	—	1	—	1	1	—
Monolate type spore	26	15	8	6	4	3	7	6	4	5	9	5	2
Trilite type spore	4	2	2	1	—	—	—	1	—	1	1	1	—
合　計　（個）	228	194	90	133	155	163	173	209	303	244	184	128	61

は花粉・胞子の種類・数ともに少ないものであった。YF—1～YF—3の3地点から採取した28点の試料から検出されたのは，樹木花粉16属1科，草本花粉2属13科，胞子3科，形態分類胞子2種類であった。その内訳および想定される主な母植物は下記のとおりである。

樹木：*Abies*（モミ属：トドマツ），*Picea*（トウヒ属：エゾマツ），*Pinus*（マツ属：ハイマツ），*Salix-Populus*（ヤナギ属—ハコヤナギ属：オノエヤナギ，エゾヤナギ，ドロノキ他），*Juglans*（クルミ属：オニグルミ），*Alnus*（ハンノキ属：ハンノキ他），*Betula*（カバノキ属：シラカンバ，ウダイカンバ），*Fagus*（ブナ属：ブナ），*Quercus*（コナラ亜属：ミズナラ，カシワ），*Ulmus*（ニレ属：ハルニレ，オヒョウニレ），*Magnolia*（モクレン属：ホウ

表Ⅳ—2　フゴッペ貝塚から産出した花粉・胞子（2）

地　点	P—22区（YF—2地点）					J—26区（YF—3地点Ⅳ層）									
試　料　No.	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Abies	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1	2
Picea	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Pinus	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Salix-Populus	4	5	4	5	2	—	—	—	—	—	—	—	—	2	1
Juglans	6	4	8	8	9	—	—	—	—	—	—	—	—	2	2
Alnus	16	17	21	33	39	2	3	3	2	2	1	3	2	5	7
Betula	8	11	11	13	12	—	—	1	—	—	1	1	1	3	6
Fagus	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Quercus	12	11	21	13	21	—	1	1	—	—	1	2	—	1	3
Ulmus	12	13	18	17	19	1	1	—	2	1	1	2	1	3	5
Magnolia	1	1	1	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1
Sorbus-Prunus	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Phellodendron	3	1	2	2	4	—	—	1	—	—	—	1	—	1	1
Acer	3	2	3	2	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Tilia	3	2	1	2	1	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1
Araliaceae	—	—	—	1	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Fraxinus	4	2	1	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Fagopyrum	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Polygonaceae	13	11	10	10	13	3	5	5	2	1	1	3	2	5	11
Chenopodiaceae	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Caryophyllaceae	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Ranunculaceae	3	5	8	10	12	1	2	1	1	1	2	2	1	2	5
Cruciferae	1	1	1	2	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Rosaceae	1	2	1	2	1	1	1	1	—	—	—	2	—	—	2
Leguminosae	1	2	2	1	1	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—
Umbelliferae	3	7	5	6	6	1	2	2	1	1	1	3	2	2	5
Convolvulaceae	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Artemisia	22	21	28	22	27	5	5	3	4	1	4	5	5	8	13
Carduoideae	8	11	5	11	13	1	2	1	1	—	1	—	—	—	—
Cichorioideae	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Gramineae	32	36	33	41	48	8	10	6	9	2	8	9	5	11	16
Cyperaceae	8	5	7	4	8	1	2	—	2	—	—	—	—	—	1
Equisetaceae	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Nsmundaceae	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1
Lycopodiaceae	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Monolate type spore	3	1	5	5	3	1	1	—	—	—	2	1	1	2	2
Trilite type spore	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
合　計　（個）	168	172	197	225	252	25	35	25	24	9	23	38	20	47	87

ノキ，コブシ)，*Sorbus-Prunus*(ナナカマド属—サクラ属：アズキナシ，ナナカマド，エゾヤマザクラ他)，*Phellodendron*（キハダ属：キハダ)，*Acer*（カエデ属：ハウチワカエデ，イタヤカエデ他)，*Tilia*(シナノキ属：シナノキ，オオバボダイジュ)，Araliaceae(ウコギ科：ハリギリ，コシアブラ，タラノキ他)，*Fraxinus*（トネリコ属：ヤチダモ他)

草本：*Fagopyrum*（ソバ属：ソバ)，Polygonaceae（タデ科：オオイタドリ，ミゾソバ他)，Chenopodiaceae(アカザ科：アカザ)，Caryophyllaceae(ナデシコ科：ミミナグサ，ウシハコベ他)，Ranunculaceae（キンポウゲ科：アキカラマツ，カラマツソウ他)，Cruciferae(アブラナ科：ヤマタネツケバナ，スカシタゴボウ他)，Rosaceae(バラ科：オニシモツケ，キンミズヒキ他)，Leguminosae（マメ科：クサフジ，ヌスビトハギ他)，Umbelliferae(セリ科：ヤブジラミ，オオカサモチ，エゾニュウ他)，Convolvulaceae(ヒルガオ科：ヒルガオ)，*Artemisia*（ヨモギ属：オオヨモギ他)，Carduoideae（キク亜科：アキタブキ，ヨブスマソウ，エゾノサワアザミ，ハンゴンソウ他)，Cichorioideae(タンポポ亜科：ヤマニガナ，ハチジョウナ他)，Gramineae(イネ科：ススキ，ヨシ，イワノガリヤス，エノコログサ他) Cyperaceae（カヤツリグサ科：エゾアブラガヤ，スゲ各種)

胞子：Equisetaceae（トクサ科：スギナ，トクサ)，Osmundaceae（ゼンマイ科：ゼンマイ，ヤマドリゼンマイ他)，Lycopodiaceae（ヒカゲノカズラ科：ヒカゲノカズラ他)

形態分類胞子：Monolate type spore（単溝型胞子：シダ類)，Trilite type spore（三溝型胞子：ワラビ他)

各層での花粉組成は下記のとおりである。

黒色腐植土(II層，YF—1-No. 5～1)：縄文時代晩期以降の遺物包含層であるII層の花粉組成は針葉樹の *Abies*，落葉広葉樹の *Juglans, Alnus, Betula, Quercus, Ulmus, Phellodendron, Acer, Tilia,* 草本・胞子の Polygonaceae, Ranunculaceae, Umbelliferae, *Artemisia,* Gramineae, Osmundaceae, Monolate type spore が主となった花粉化石群集からなるものである。樹木では *Abies, Alnus, Quercus, Ulmus* が優勢種で，草本・胞子では Ranunculaceae, *Artemisia,* Gramineae, Osmundaceae, Monolate type spore が優勢種である。なお，本層の最下部（試料 No. 5）から栽培種の *Fagopyrum* 花粉が1個のみであるが検出された。

暗褐色腐植土(IIb 層，YF—1—No. 12～6)：縄文時代前期末から中期初頭の遺物包含層であるIIb層の花粉組成は針葉樹の *Abies*，落葉広葉樹の *Juglans, Alnus, Quercus, Ulmus, Acer* と草本・胞子の Polygonaceae, Ranunculaceae, Cruciferae, Umbelliferae, Convolvulaceae, *Artemisia,* Carduoideae, Gramineae, Cyperaceae, Monolate type spore が主となった花粉化石群集である。樹木では *Juglans, Alnus, Quercus, Ulmus* が優勢種で，草本・胞子では Polygonaceae, Ranunculaceae, *Artemisia,* Gramineae が優勢種である。針葉樹の *Abies* は出現数が減少し，他の針葉樹の *Picea, Pinus* は全く出現しない。樹木花粉の出現状況はII層とほぼ同様な構成で大きく異なったものではないが，草本の *Artemisia,* Polygonaceae, Umbelliferae, Carduoideae, Cyperaceae が多く出現することからII層とは幾分異なった草本植生下にあったと推定される。また，Convolvulaceae が僅かではあるが連続して出現している。

暗黄褐色粘土・青灰色細粒砂（YF—1—No. 13, YF—2—No. 1～5)：花粉組成は，樹木の *Salix—Populus, Juglans, Alnus, Betula, Quercus, Ulmus, Phellodendron, Acer,*

Tilia, Fraxinus, 草本・胞子の Polygonaceae, Ranunculaceae, Umbelliferae, *Artemisia,* Carduoideae, Gramineae, Cyperaceae, Monolate type spore が主となった花粉化石群集である。樹木では *Alnus, Betula, Quercus, Ulmus, Juglans* が優勢種で，草本・胞子では，*Artemisia,* Gramineae が優勢種である。針葉樹花粉は試料 No. 5 から *Abies* が1個出現するだけである。河川を埋積した堆積物であることから，湿地に多い *Alnus* が多く出現するとともに，他に *Salix-Populus, Fraxinus* も検出された。草本でもやはり湿原等に多く見られる Cyperaceae が検出されている。

暗灰褐色シルト・黄褐色シルト（YF—3No. 10～9）：縄文時代早期東釧路Ⅳ式土器の包含層である試料 No. 9 および直下の No. 10の試料から検出された花粉・胞子の数は少ないが，針葉樹の *Abies,* 落葉広葉樹の *Salix-Populus, Juglans, Alnus, Betula, Quercus, Ulmus, Magnolia, Phellodendron, Tilia,* 草本・胞子の Polygonaceae, Ranunculaceae, Rosaceae, Umbelliferae, *Artemisia,* Gramineae, Monolate type spore が主となった花粉化石群集であったと推定される。

3　遺跡周辺の古植生について

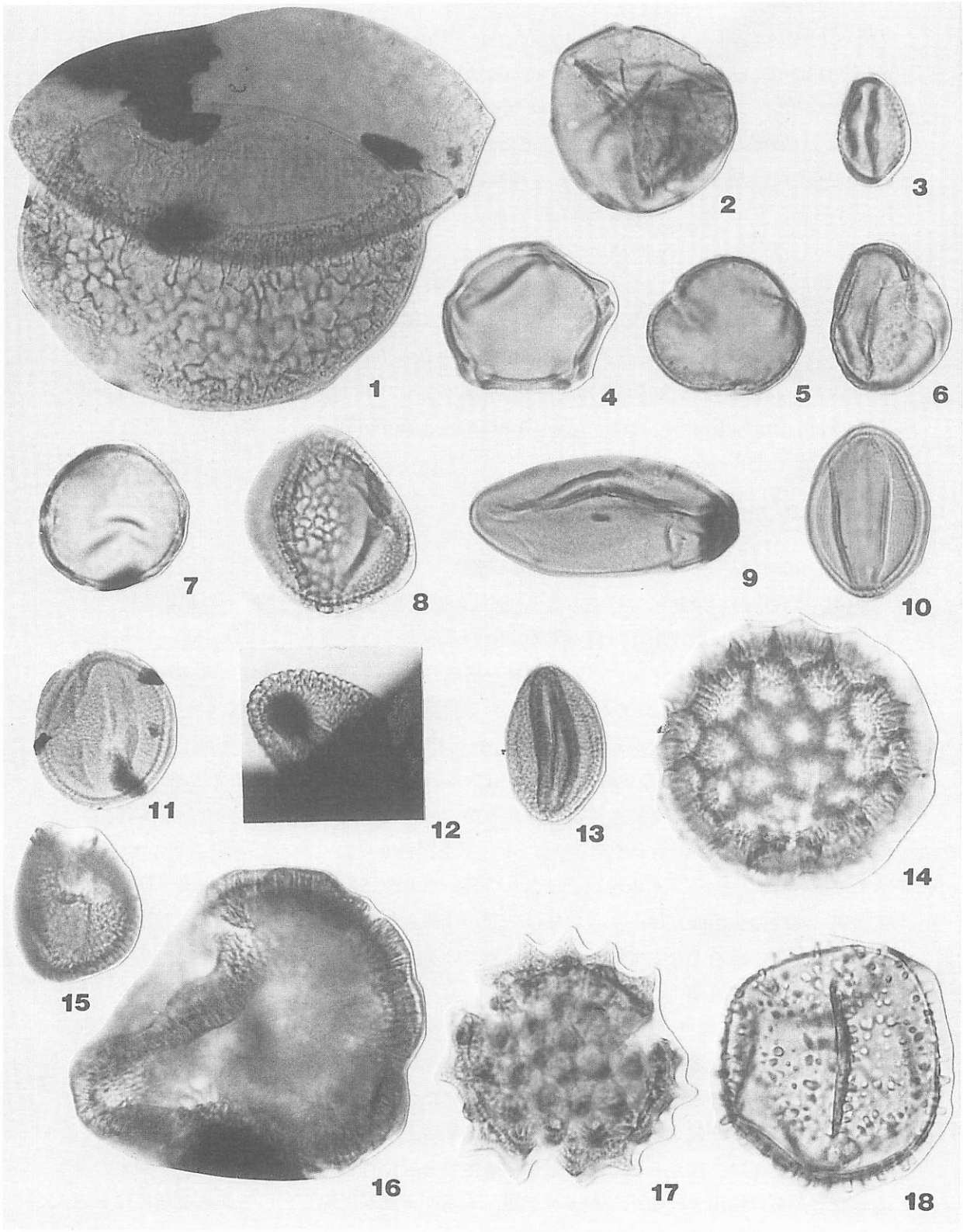
1)　縄文時代早期末（東釧路Ⅳ式土器の時期）

東釧路Ⅳ式土器の遺物包含層である J—26区の暗灰褐色シルト及び直下の黄褐色シルトから検出された花粉組成から，縄文早期末頃の遺跡周辺の低湿地ではヤナギ属—ハコヤナギ属，ハンノキ属（ハンノキ）が低湿地林を構成し，沖積低地の適潤地にはクルミ属（オニグルミ），カバノキ属（シラカンバ），コナラ亜属（ミズナラ），ニレ属（ハルニレ），モクレン属（ホウノキ・コブシ），キハダ属（キハダ），シナノキ属（シナノキ）などからなるハルニレ林が分布し，幾分乾燥した台地上にはミズナラ林が分布していたと推定される。針葉樹のモミ属（トドマツ）も僅かではあるがミズナラ林内に分布していた。草本花粉・胞子の組成は，タデ科（オオイタドリ），キンポウゲ科（カラマツソウ），バラ科，セリ科，ヨモギ属(オオヨモギ)，イネ科など日当りの良い草地を好む種類が多く，縄文早期の遺物包含層（当時の生活面）はハルニレ林の一部が伐採された空間になっていて，これらの陽地性草木が茂る草地となっていたことを示している。

2)　小河川埋積時期

P—22区(YF—2 地点)の砂礫の薄層や有機物を挟む青灰色細粒砂は，上位に縄文時代前期末から中期初頭の遺物包含層である IIb 層がのることから，縄文前期末以前までに遺跡が立地した微高地の西側に流路をもって流れていた小河川を埋積した堆積物である。埋積時期ついては，遺物包含層との関係から前期末前後と推定される。

花粉組成からは早期末とほぼ同様な森林植生であったことが推定できるが，早期末の遺物包含層からは検出されなかったカエデ属，トネリコ属が出現している。低湿地にはハンノキ—ヤナギ林が分布し，沖積低地の適潤地にはハルニレ—オニグルミ—ヤチダモ林が，台地上にはミズナラ林が分布していたものと推定される。この頃には気候が温暖化し，遺跡周辺の台地上に分布していた森林内から，針葉樹のトドマツは姿を消していたと考えられる。草本花粉・胞子の組成から，小河川の周辺にはヨシやエゾアブラガヤなどのカヤツリグサ科植物が茂る低湿地となり，日当りの良い草地や林縁にはオオイタドリ，カラマツソウ・アキカラマツ，アブラナ科，マメ科，バラ科，セリ科，オオヨモギ，キク亜科，ス



1. *Abies*, YF-1 No. 5, 2. *Juglans*, YF-2 No. 5, 3. *Salix-Populus*, YF-2 No. 4, 4. *Alnus*, YF-1 No. 11, 5. *Quercus*, YF-1 No. 9, 6. *Quercus*, YF-2 No. 5, 7. *Ulmus*, YF-3 No. 10, 8. *Phellodendron*, YF-2 No. 5, 9. *Magnolia*, YF-3 No. 10, 10. *Acer*, YF-2 No. 1, 11. *Fraxinus*, YF-2 No. 1, 12. *Fagopyrum*, YF-2 No. 5, 13. Polygonaceae, YF-1 No. 9, 14. Polygonaceae, YF-2 No. 5, 15. Cruciferae, YF-1 No. 9, 16. Convoluvulaceae, YF-1 No. 8, 17. Carduoideae, YF-1 No. 9, 18 Osmundaceae, YF-2 No. 1（大きさは×約1,200）

図IV—1　フゴッペ貝塚から産出した主な花粉・胞子

スキなどのイネ科，シダ類植物が群生していたと推定される。

3)　縄文時代前期末～中期初頭

縄文前期末から中期初頭の生活が営まれていた，P—24区のIIb層（試料No. 12～6）の腐植土が堆積した時期には，沖積低地の微高地ではハンノキ属，ヤナギ属—ハコヤナギ属からなる低湿地林の勢力が衰え，遺跡周辺はハルニレ林に覆われた状況であったと推定される。台地上のミズナラ林の構成種にはほとんど変化はみられない。渡島半島の黒松内低地帯を自生分布の北限とするブナ属の花粉が検出されたが，遺跡周辺にブナが分布していたことを示すのではなく，渡島半島から南西の風で運ばれてきたものと推定される。

草地に分布していた草本・胞子は基本的には早期末や前期末以前とほぼ同様な組成を示すものの，タデ科，キンポウゲ科，ヨモギ属の出現数が増加するなど，若干の違いが見られる。中でもヨモギ属の出現数が圧倒的に増加し，ヨモギ属などの生育に適した草地（荒れ地）が拡大したことを示している。その要因としては，数多くの住居址が発掘されたことが示すように，生活空間確保のためや構造材確保のためなどによる樹木の伐採により，森林内に草地（荒れ地）が拡大したことがあげられる。ヒルガオ科の花粉も僅かではあるがほぼ連続して出現しており，日当りのよい草地が存在していたことを裏付けている。

4)　縄文時代晩期

P—24区II層（縄文晩期の遺物包含層：試料No. 5～1）の腐植土では，低湿地林を構成していたヤナギ属—ハコヤナギ属が姿を消し，台地上のミズナラ林ではトドマツが再び混交し始めていた。その他の樹木の出現状況にはあまり大きな変化はみられない。したがって，IIb層とほぼ同様な森林植生の若干に針葉樹（トドマツ）が混交した状況であったと推定される。草木花粉・胞子の構成もIIb層とほぼ同様であるが，タデ科，ヨモギ属が減少し，代わってキンポウゲ科，イネ科，ゼンマイ科，シダ類が増加しており，優勢種の交代があったと推定される。

ここで注目されるのがII層最下部の試料No. 5から検出された1粒の*Fagopyrum*（ソバ属）花粉である。検出されたのはたった1粒であるが，縄文晩期にフゴッペ貝塚遺跡周辺でソバが栽培されていたことを示すものである。当初は明治期以降の畑で栽培されたソバからの混入を考えたが，発掘担当者によると上部から土壌の攪乱は考えられないとのことであった。となると，やはり縄文晩期に栽培されていたソバから供給された花粉と考えざるを得ない。

北海道ではこれまでに縄文晩期の奥尻町東風泊遺跡，千歳市ママチ遺跡からソバ属の花粉が検出され，縄文時代末頃にソバが栽培されていたことが明らかになっている。（山田，1980・1983）。また，フゴッペ貝塚遺跡の近くにある，縄文後期の小樽市忍路土場遺跡の遺物包含層からもソバ属の花粉が検出されているとともに（山田，1989），シソ，ホオズキ，ゴボウ等の栽培植物の種子が検出されている（矢野，1989）。したがって，フゴッペ貝塚遺跡から栽培植物のソバの花粉が検出されたとしても何等不思議はないのである。

おそらくは，遺跡の背後に広がる台地もしくは肥沃な沖積低地に，ソバを栽培した畑があったのであろう。

4　おわりに

フゴッペ貝塚遺跡の縄文早期末，前期末から中期初頭，晩期の各遺物包含層から採取し

た土壌試料の花粉分析を行ない，樹木花粉16属１科，草本花粉２属13科，胞子３科，形態分類胞子２種類を検出した。各時期の遺物包含層の花粉組成から推定できるそれぞれの時期の植生は次のようなものであった。

縄文早期末頃，低湿地にはハンノキ―ヤナギ林が，遺跡が立地した微高地にはハルニレ林が，背後の台地上にはミズナラ林が分布していた。当時の生活面（遺物包含層）周辺にはタデ科，キンポウゲ科，バラ科，セリ科，ヨモギ属，イネ科など陽地性の草本群落が茂る草地となっていた。

前期末から中期初頭には，ハンノキ―ヤナギ林は減少しハルニレ林が遺跡周辺の微高地を覆っていた。この頃には台地上のミズナラ林中に混交していたトドマツは姿を消していた。住居址が造られ生活の舞台となっていた微高地の生活空間は前の時代よりも拡大しタデ科，キンポウゲ科，オオヨモギ属が主となった陽地性の草本群落によって覆われていた。なかでも，ヨモギ属が目立った状況であった。

縄文晩期頃になると低湿地林からヤナギ属―ハコヤナギ属は姿を消し，台地上のミズナラ林に再びトドマツが混交し始めるが，他の構成要素には大きな変化は見られない。沖積低地の微高地には，以前と同様にハルニレ林が分布し，台地上にはトドマツが僅かに混交したミズナラ林が分布していた。以前と異なる点は，この時期には遺跡周辺でソバが栽培されていたことである。当時の栽培規模・技術等についてはほとんど不明と言ってよい状況で，栽培によって得られた産物が生業形態の中に占めるウエイトをどう評価するかについては諸論があろう。しかし，ここでは縄文時代の末頃にはすでに，人々が植物を栽培する技術を獲得していたことを強調しておきたい。

引用・参考文献

山田悟郎(1980)「縄文時代晩期層のソバ属花粉」『どるめん』27号

山田悟郎(1983)「ママチ遺跡出土の花粉化石」『ママチ遺跡』北海道埋蔵文化財センター調査報告第９集

山田悟郎(1989)「忍路土場遺跡の古植生について」『小樽市忍路土場遺跡・忍路５遺跡』北海道埋蔵文化財センター調査報告第53集

矢野牧夫(1989)「忍路土場遺跡から出土した植物遺体」『小樽市忍路土場遺跡・忍路５遺跡』北海道埋蔵文化財センター調査報告第53集

(2)　フゴッペ貝塚住居跡（FH—16）出土の炭化植物種子

株式会社ウイングス

1　試料の性格

委託された試料は，余市町フゴッペ遺跡の竪穴住居から採取されたものである。この遺跡においては，縄文時代前期末中期初頭と考えられる土器を出土する竪穴住居が多数発掘されたが，その中でも後世の攪乱がほとんど見られず，かつ肉眼で見て明らかに炭化物質を多量に含むFH—16が分析対象として取り上げられている。

分析用の土壌はFH—16住居の床面上5cm～床面直上のものが3層，その上部の炭化物を多量に含んだ層を2～3層として採取されている。竪穴住居はA～Hの8区画に分けて発掘されたが，A区画のみは後世の流れ込みの黒色土壌が見られたので，サンプリングが行なわれていない。表Ⅳ—3に各区画から採取された土壌量，層位とそこから検出された浮遊物重量と残渣の重量をあげた。

2　検出された植物遺体

各区，各層準から得られた植物遺体を表Ⅳ—3にまとめた。これを見てもわかるように，検出された炭化植物遺体は圧倒的に炭化材が多く183gあった。量的には余り多くはなかったが，クルミ属 *Juglans* L. の内果皮細片が全区画から検出されている。おそらくオニグルミと考えて間違いあるまい。炭化の状態から見て，これらのクルミは加熱され亀裂が生じた状態で破砕され，利用されたものと判断される。

これ以外の明らかな植物種子は，10例発見されている。そのうち7例は分類が明確でない。同定が可能であったのは3例のみであった。C区画3層よりキハダ属 *Phellodendron* Rupr. の種子，D区画の3層とH区画の3層よりそれぞれタデ科 Polygonacea の総計3粒である。

3　種子の撮影と微細構造

同定が可能であった3粒の種子および不明の種子について，その微細構造を知るために走査電顕（SEM）を用いて観察と撮影を実施した。図Ⅳ—2に示した写真がその結果である。

図Ⅳ—2：1a•1bはタデ科 Polygonacea 種子である。1aは果皮が欠落した紡錘形の種子の全形で，その種子表面を拡大すると1bのシワ状模様の表皮細胞構造が観察される。

図Ⅳ—2：2a・2bキハダ属 *Phellodendron* Rupr. の種子である。半月形に近い形態を示し，表面には独特の凹凸が観察される。

図Ⅳ—2：3a•3bは不明種子としてまとめたものの中，保存の良い例である。紡錘形あるいは倒卵形の種子で，表面には平皿状のくぼみが観察される。その微細構造を3bに示しておく。例が増加すれば，同定が可能な試料であろう。

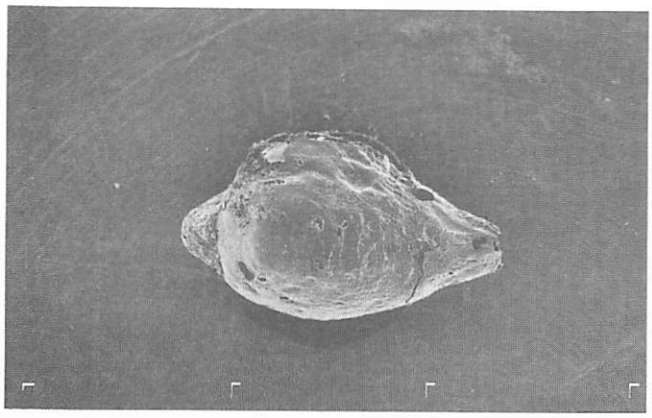
4 問 題 点

この遺跡から得られた試料の数は，処理された土壌の量からみてきわめて少ない。発掘担当者によると，発掘進行中においては肉眼で見ても炭化物量が多く，種子検出には有望であると期待出来たという。しかし，量的にはその期待とは別の結果になった。最近我々の扱った縄文時代遺跡の例でも，こうした状況がしばしば知られる。こうした状況が，炭化種子の埋没経過時間の長短に起因するのか，あるいは遺跡そのものの立地条件からする保存状態に起因するのか，まだはっきりしていない。もう一つ考えられる事は，種子試料の多く発見される擦文時代人の生活パターンと縄文時代のそれが大幅に異なる可能性があげられる。つまり，植物性食料の摂取の多寡，あるいは廃棄システムの相違などである。今後縄文時代遺跡の発掘には，それらの点に留意して調査する必要があるのかもしれない。

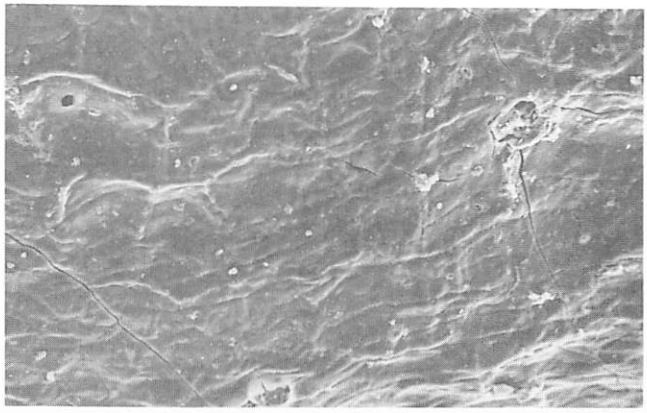
以上の作業を行なった後に同遺跡 FH—12以降の試料を実見する機会があった。この場合には住居覆土中に含まれる焼土層中から，明らかなヒエ属種子，それも縄文ヒエと仮称されている種子の検出された事を付け加えておきたい。

表Ⅳ—3　住居跡（FH—16）採取土壌のフローテーションデータと出土炭化植物遺体

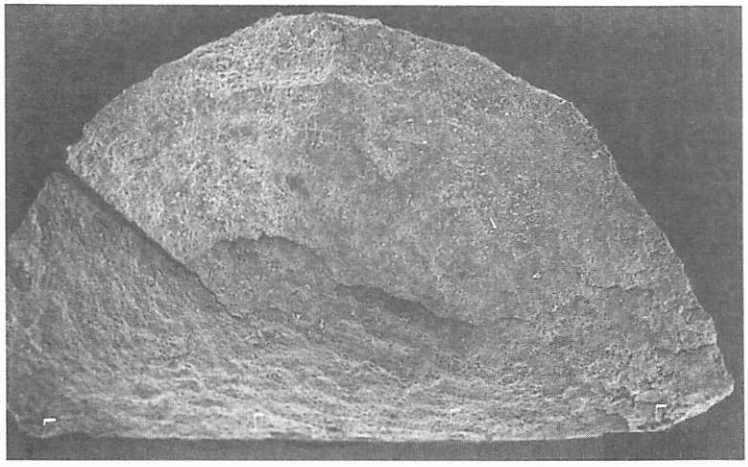
サンプル採取区画	層　位	土壌体積（ℓ）	浮遊物重量(g)	残　渣重量(g)	炭化植物遺体				
					タデ科（粒）	キハダ属（粒）	クルミ属（g）	不明種子（粒）	炭化材（g）
B	3	108.0	68.0	260			>0.01		20
C	3	73.5	32.0	650		1	>0.01	1	16
C	3	72.0	89.0	1,200			0.02	1	37
D	3	115.5	51.0	760	1		>0.01	1	15
D	2～3	25.0	41.0	900			>0.01		16
E	3	81.3	13.0	440			0.08		10
F	3	51.5	25.0	200			0.01		8
F	2～3	37.0	36.0	920			>0.01	1	13
G	3	115.0	108.0	480			>0.01	1	39
H	3	94.0	27.0	100	1			2	9
合　計		772.8	490.0	5,910	2	1	0.11	7	183



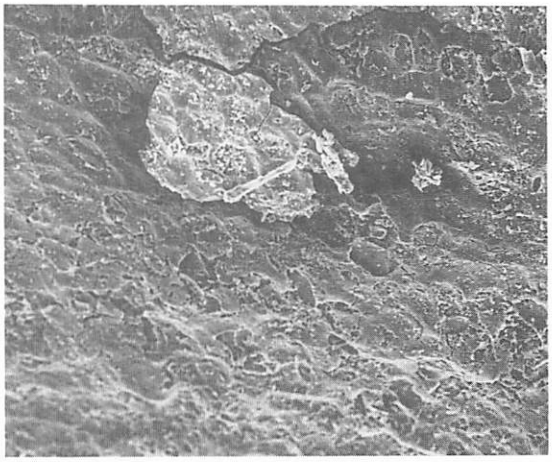
1a　タデ科　×35



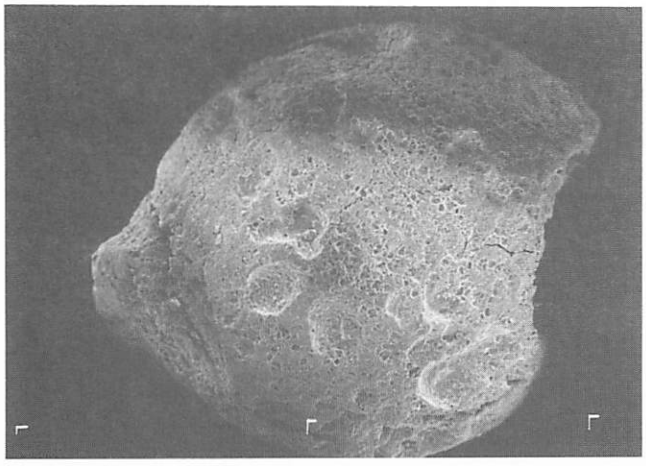
1b　1aの拡大　×500



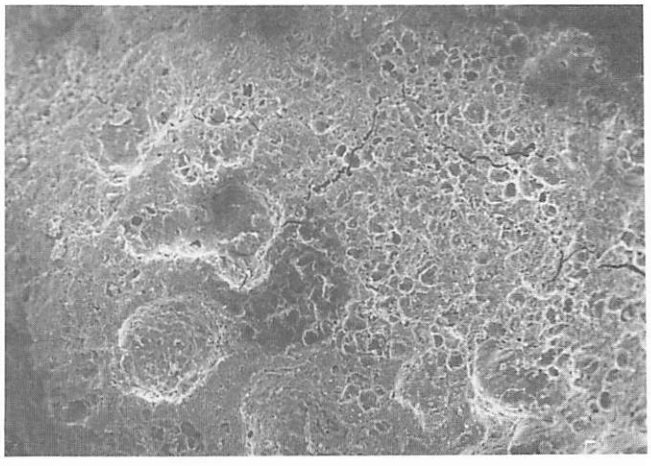
2a　キハダ属　×35



2b　2aの拡大　×200



3a　不明種子　×35



3b　3aの拡大　×150

※スケール「～」の間隔1.0mm

図Ⅳ—2　住居跡（FH—16）出土炭化植物種子

(3)　フゴッペ貝塚から出土した植物遺体とヒエ属種子についての諸問題

吉　崎　昌　一
（北海道大学文学部）

1　遺跡の名称・調査者等

遺跡の呼称：フゴッペ貝塚
遺跡の所在：北海道　後志管内　余市郡　余市町　栄町
調査の主体：財団法人　北海道埋蔵文化財センター
調査委託者：北海道　後志支庁
調査日時：1989年5月10日～同年11月11日
扱った資料の時代：縄文時代中期初頭（前期末）および中期末

2　資料の性格

この報告で扱った植物遺体は，財団法人北海道埋蔵文化財センターが発掘調査したフゴッペ貝塚から検出された資料である。遺跡は，現在の海岸線から約600mほど内陸に入った地点にあり，余市湾に注ぐ奄部(ふごっぺ)川左岸の丘麓緩斜面・沖積低地上に広がっている。

フローテーション処理のための土壌は，この遺跡の標高8mラインに沿って検出された竪穴住居址のなかの保存状況の良い焼土と住居外の生活面で見出された焼土ブロックの両方から採取された。両焼土とも炭化物を多く含むものである。表IV—4には採取したサンプルの遺構名，層準，土壌採取量およびフローテーションによって得られた浮遊物重量を示しておく。また，サンプル遺構名は，最初の2文字がFHと記されているものが住居を，FFと記されているものは遺構外の焼土を示している。

資料の時期は，FH—12とFH—16の両住居から採取されたサンプルが縄文時代前期末あるいは中期初頭に，FH—28とFH—36の両住居から採取されたサンプルは縄文時代中期末の年代に属すると考えられている。また，遺構外の焼土ブロックでFF—16—B・FF—17—B・FF—17—Cは縄文時代前期末中期

表IV—4　フゴッペ貝塚フローテション台帳

No.	サンプル採取遺構名	層位	土壌体積(ℓ)	浮遊物重量(g)
1	FH—12 HF—1	上	2.00	3.40
2	FH—12 HF—1	下	3.00	1.30
3	FH—12 HF—2		0.10	0.10
4—1	FH—16 HF—1		16.50	4.80
4—2	FH—16 HF—1		12.30	2.40
4—3	FH—16 HF—1		14.50	5.60
5	FH—16 HF—2		2.20	2.40
6	FH—16 HF—3		0.80	0.20
7	FH—16 HF—4		0.80	0.20
8	FH—28 HF—1	1　層	7.30	2.10
9	FH—28 HF—2	1　層	9.30	1.50
10	FH—28 HF—3	1　層	20.50	3.10
11	FH—28 HF—4	1　層	9.80	1.40
12	FH—28 HF—5	1　層	19.00	3.90
13	FH—36 HF—1		20.50	20.20
14	FH—36 HF—2		4.00	0.40
15	FH—36 HF—3		18.00	2.00
16	FH—36 HF—4		5.90	0.50
17	FH—36 HF—5		3.00	0.10
18	FH—36 HF—6		0.50	0.20
19	FH—36 HF—7		4.40	0.50
20	FF—1		2.00	2.00
21	FF—16—B		0.50	1.90
22	FF—17—B		10.00	2.00
23	FF—17—C		0.70	0.70
24—1	FF—18		15.90	23.50
24—2	FF—18		1.50	4.90
24—3	FF—18		10.80	5.50
24—4	FF—18		14.50	8.40
24—5	FF—18		20.60	12.20
25—1	FF—23	1　層	6.00	1.80
25—2	FF—23	1　層	12.10	3.70
25—3	FF—23		9.00	2.70
26	FH—2 HP—22	1　層	2.80	1.70
27	FH—12	6　層	6.90	4.70
28	FH—12	床　面	13.00	4.40
29	FH—12	5～6層		
			300.70	136.40

初頭，FF—18・FF—23は縄文時代中期末葉のものである。

3　資料の処理

竪穴住居および焼土ブロックから採取された土壌サンプルは，調査担当者の指示のもとにフローテーション処理がなされ，残渣と共に送付されてきた。本稿では，これらの植物遺体のうち種子に関するもののみを取り扱い，それ以外の資料については後日に検討を加えたいと考える。

まず，送付されてきた炭化植物遺体を最初に実体顕微鏡で観察し，種子の抽出と選別を行なった。さらに，重要と思われる資料については，その微細構造を検討するために走査電子顕微鏡で観察した。したがって，種子の同定には，レベルの異なるいくつかの観察データを総合して決める手順をとった事になる。

走査電子顕微鏡の観察にあたっては，資料を導伝性接着剤を用いて試料台に固定し，金イオンスパッタリング法（5 mA. 1 KV. DC.）で炭化種子の状況に応じて2分間あるいは3分間コーテングし，JSM—T20を用いて加速電圧12.5KV で観察した。写真撮影には，ネオパンSS120ロールフィルムを使用している。

4　検出された種子類（図IV—3～5，表IV—5）

検出された炭化種子は，科レベルのものが2グループ，属レベルまで分類が可能であったものが8グループ見出されている。すなわち，タデ科 POLYGONACEA，マメ科 LEGUMINOSEA？，それにアカザ属 *Chenopodium*，ヨモギ属 *Artemisia*，マタタビ属 *Actinidea*，ニワトコ属 *Sambucus*，タラノキ属 *Aralia*，クルミ属 *Juglans*，キハダ属 *Phellodendron*，ヒエ属 *Echinochloa* が分類された。資料不足で分類の出来なかったものや保存状態から同定の困難だったものは，一応，不明種子として扱っておいた。

5　同定結果

ヒエ属　*Echinochloa* Beauv.（図IV—3：1a～2b）

FH—12の住居址内焼土から2粒のヒエ属種子が出土している。いずれも内外穎がとれた穎果の状態で検出されているため，ヒエの特徴である「長細胞」の組織を観察することができなかった。しかし，穎果，胚の形態，臍の位置からヒエ属と同定しておきたい。しかし，ヒエ属のどれに分類所属されるかについては，若干の問題が残っている。現生の栽培型ヒエの形態とは長径比の点でわずかに異なり，イヌビエの穎果の形態に近いようにも見える。粒径は現生のイヌビエと比較すると小さい。これらの問題については，章を改めて触れよう。長さ1.25mm，幅1.1mm，厚さ0.5mm。

アカザ属　*Chenopodium* Linn.（図IV—4：6a・6b）

ヒエが検出されたのと同遺構から1粒出土している。革質で厚い種皮の部分は剝離欠落しているが，扁平球形の形態でやや中央にくぼんだヘソと周辺に伸びるヘソ条部分が裂けて残っている。アカザ属の種子とよく似た形態と細胞構造を持つものにはイヌビエの種子がある。しかし，こうしたヘソの形態の違いから，この種子はアカザ属と見て良いであろう。長さ0.8mm，幅0.8mm，厚さ0.4mm。

表IV—5　フゴッペ貝塚出土炭化植物遺体表

No.	サンプル採取遺構名	層位	ヒエ属(粒)	タデ科(粒)	アカザ属(粒)	ヨモギ属(粒)	マメ科(粒)	マタタビ属(粒)	ニワトコ属(粒)	タラノキ属粒	キハダ属(粒)	クルミ属(g)	不明種子(粒)
1	FH—12 HF—1	上	2		1								1
2	FH—12 HF—1	下											1
3	FH—12 HF—2												
4—1	FH—16 HF—1												1
4—2	FH—16 HF—1											••	
4—3	FH—16 HF—1								1			••	
5	FH—16 HF—2												
6	FH—16 HF—3												
7	FH—16 HF—4												
8	FH—28 HF—1	1層											1
9	FH—28 HF—2	1層											
10	FH—28 HF—3	1層											
11	FH—28 HF—4	1層										••	
12	FH—28 HF—5	1層						1				••	
13	FH—36 HF—1											••	
14	FH—36 HF—2											••	
15	FH—36 HF—3												2
16	FH—36 HF—4												
17	FH—36 HF—5												
18	FH—36 HF—6												
19	FH—36 HF—7												
20	FF—1			1									
21	FF—16—B												
22	FF—17—B												
23	FF—17—C												
24—1	FF—18												
24—2	FF—18											••	
24—3	FF—18						1						
24—4	FF—18					1						••	1
24—5	FF—18											••	
25—1	FF—23	1層		1									
25—2	FF—23	1層		2									
25—3	FF—23												
26	FH—2 HP—22	1層											2
27	FH—12	6層		1									1
28	FH—12	床面								1			
29	FH—12	5～6層									2	••	
			2	5	1	1	1	1	1	1	0		10

•• 痕跡あり、0.01g以下を示す。

タデ科　POLYGONACEAE（図IV—4：7a・7b）

いずれも焼土から5粒出土している。種子は断面がほぼ三角形を呈し，図示したものの右端が先端部で尖っている。左端はヘソ部分で突出しているが，その上に花被の残存部分がわずかに残っている。長さ2.2mm，幅1.6mm。

マメ科　LEGUMINOSAE？（図IV—4：8a・8b）

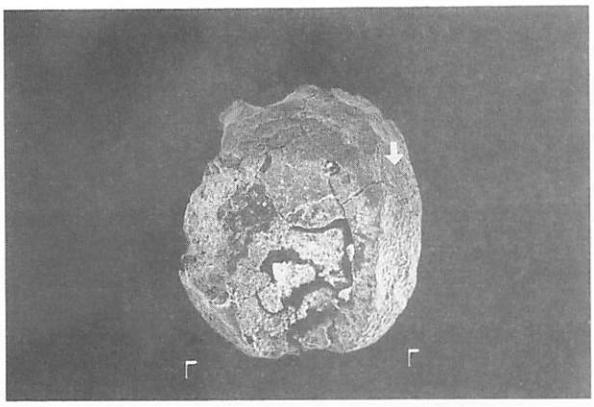
図示したように，中央部に狭長なヘソと思われる部位が観察されるので，マメ科種子と同定した。加熱時に受けた変形がいちじるしく，現生資料との比較観察は困難である。同図8bはヘソ部位の拡大である。変形が激しいので計測はおこなわなかった。

ヨモギ属　*Artemisia* Linn.（図IV—4：9a・9b）

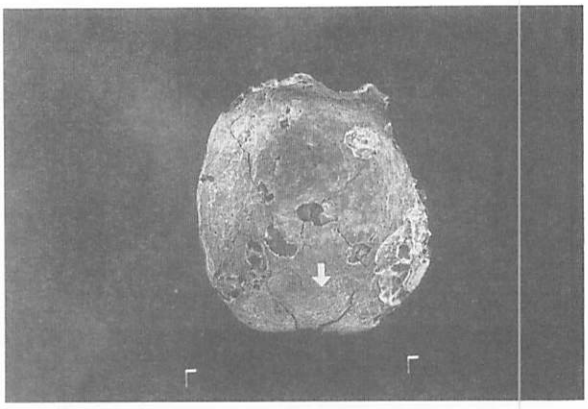
FF—18の焼土から1粒出土している。種子は扁平長卵形，紡錘形である。若干湾曲し，鈍頭であることからヨモギ属ではないかと考える。ただし，資料の風化が著しく縦軸に沿って走る細い波状の組織を観察することができなかった。長さ1.15mm，幅0.4mm。

マタタビ属　*Actinidia* Lindl.（図IV—5：10a・10b）

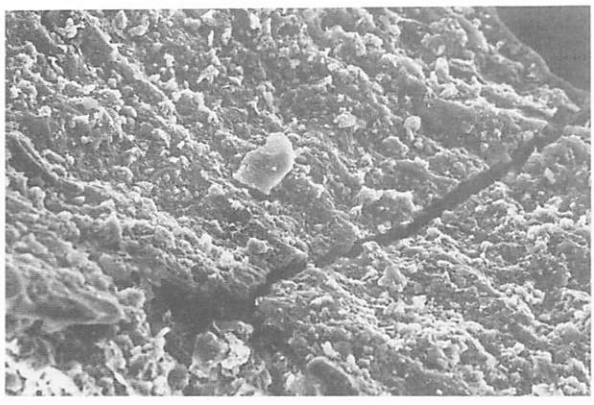
FH—28の住居址から1粒出土している。種子は長楕円形，先端は細くなる。表面に亀甲．突起型の細胞構造が観察される。遺跡周辺に見られるこの種の特徴を持つものとしては，



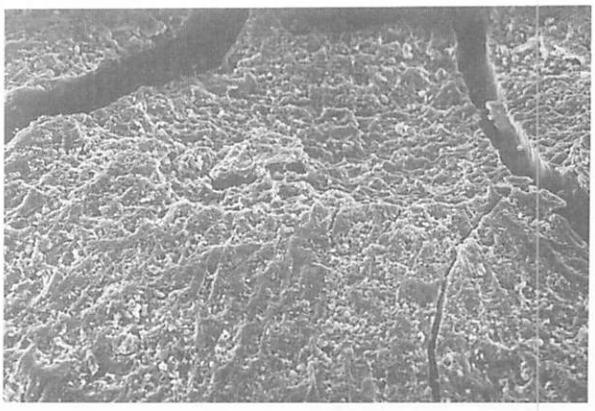
1a　ヒエ属（背面）　×35



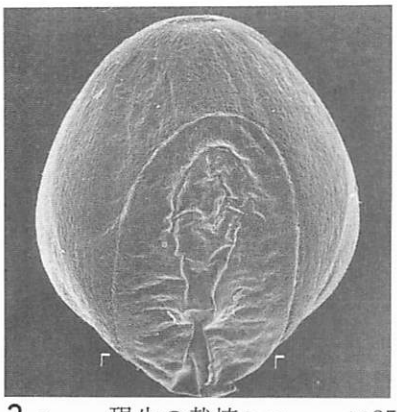
2a　ヒエ属（腹面）　×35



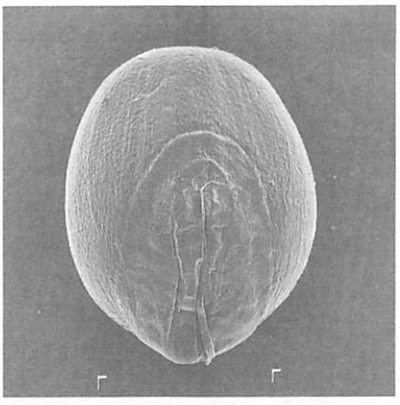
1b　1a矢印部分の拡大　×1000



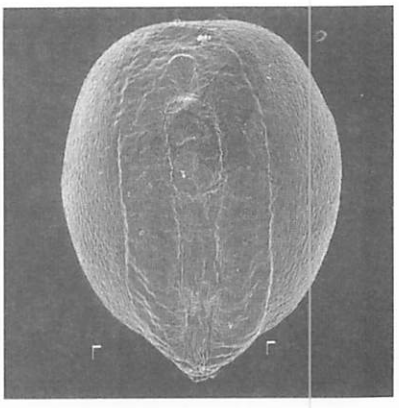
2b　2a矢印部分の拡大　×500



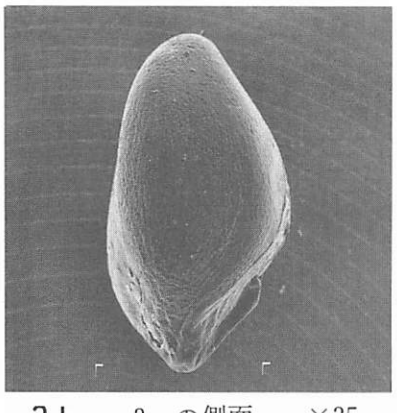
3a　現生の栽培ヒエ　×35



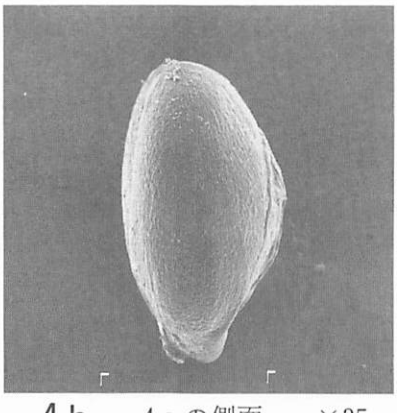
4a　現生のイヌビエ　×35



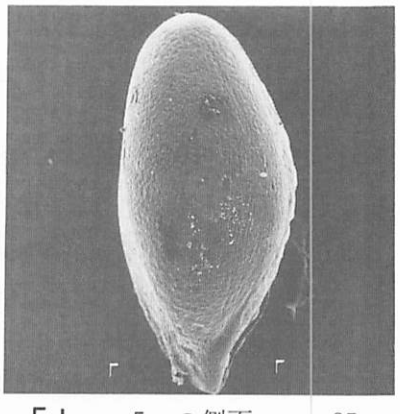
5a　現生のタイヌビエ　×35



3b　3aの側面　×35



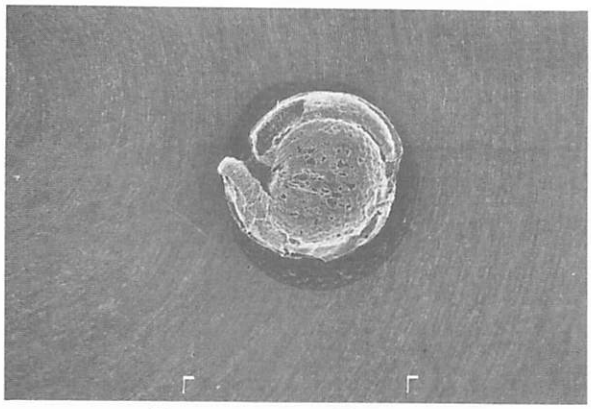
4b　4aの側面　×35



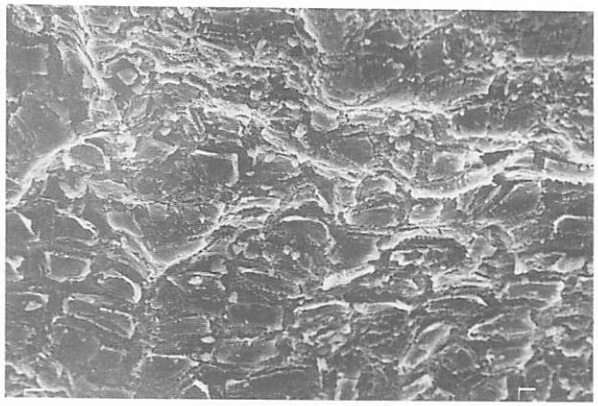
5b　5aの側面　×35

※スケール「～」の間隔1.0mm

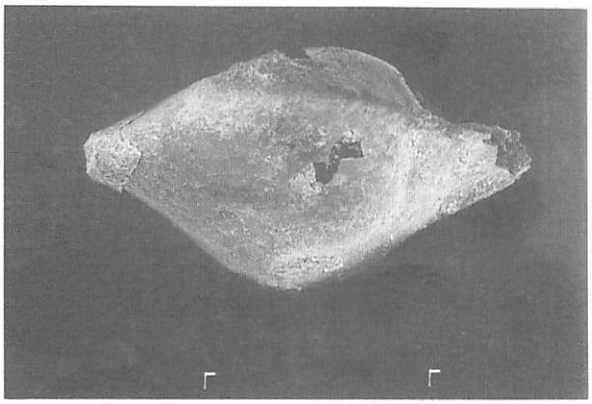
図Ⅳ—3　出土炭化植物種子（1a～2b）とヒエの現生標本（3a～5b）



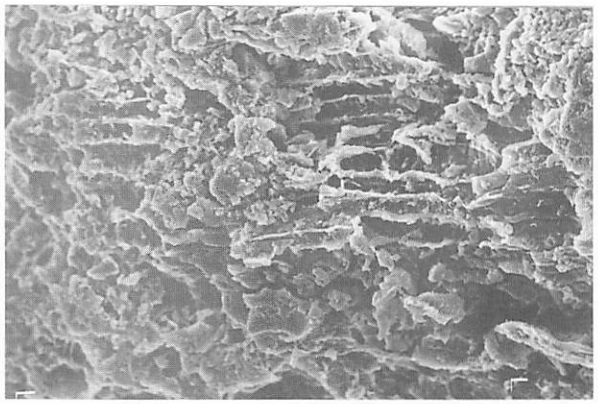
6a　アカザ属　×35



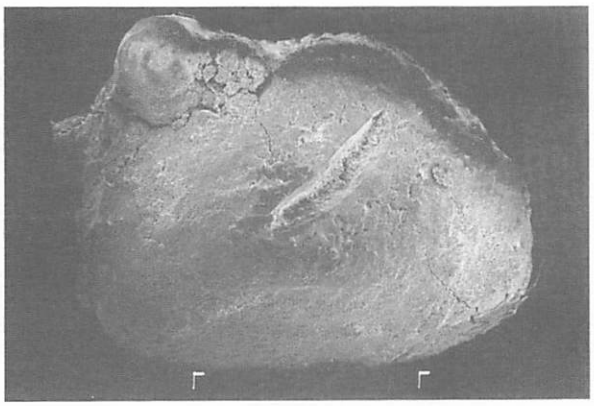
6b　6aの拡大　×500



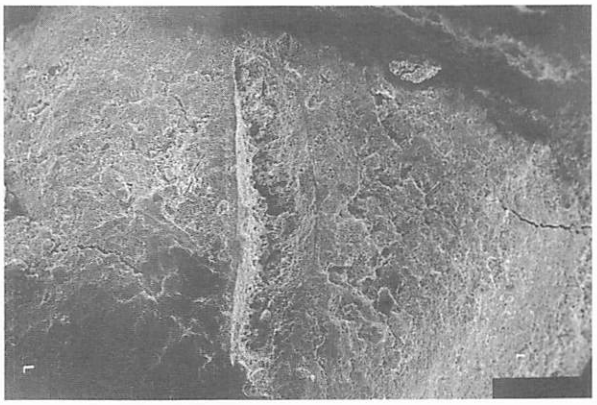
7a　タデ科　×35



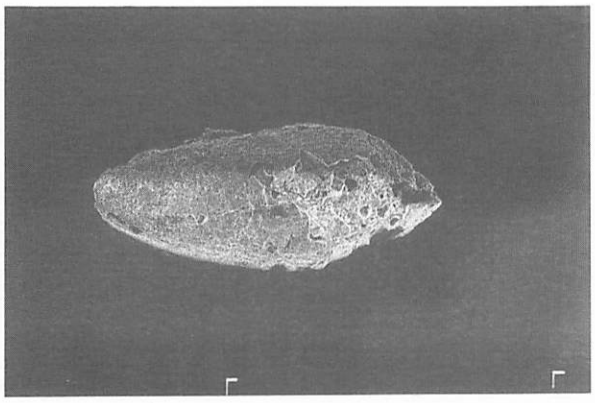
7b　7aの拡大　×1000



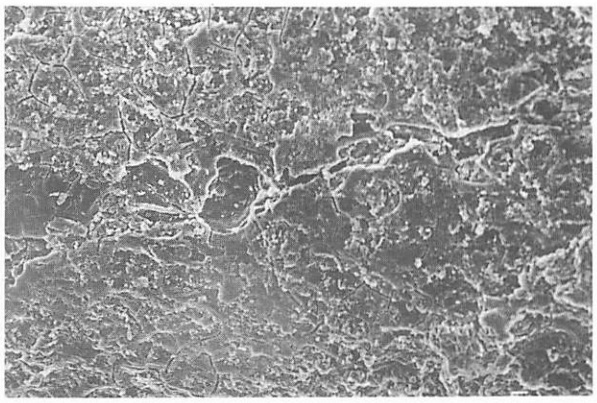
8a　マメ科　×35



8b　8aの拡大　×100



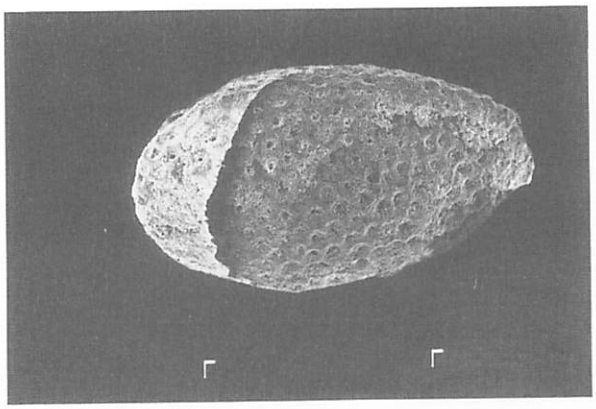
9a　ヨモギ属　×35



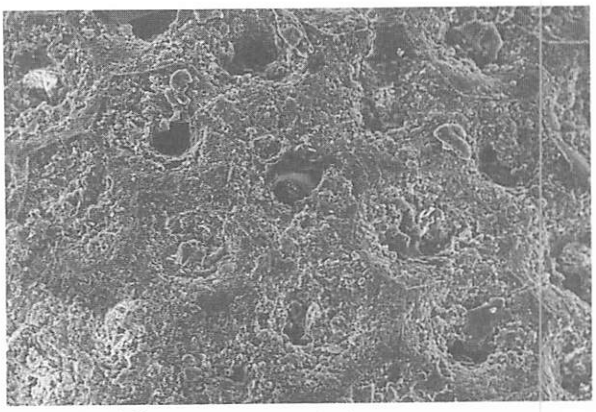
9b　9aの拡大　×500

※スケール「～」の間隔1.0mm

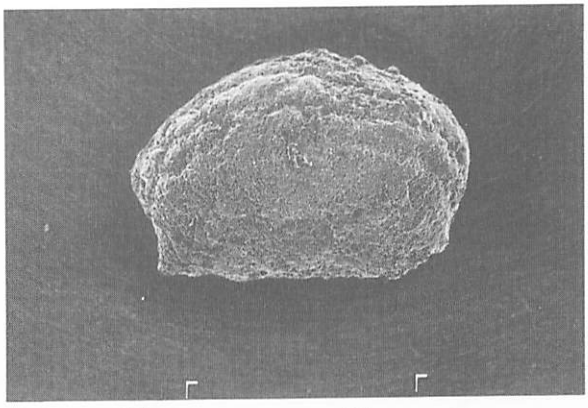
図Ⅳ—4　出土炭化植物種子



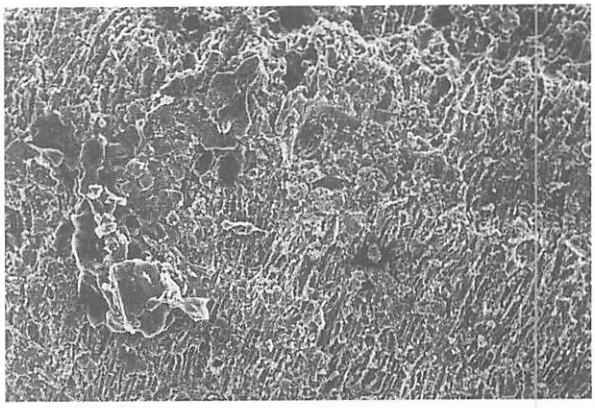
10 a　マタタビ属　×35



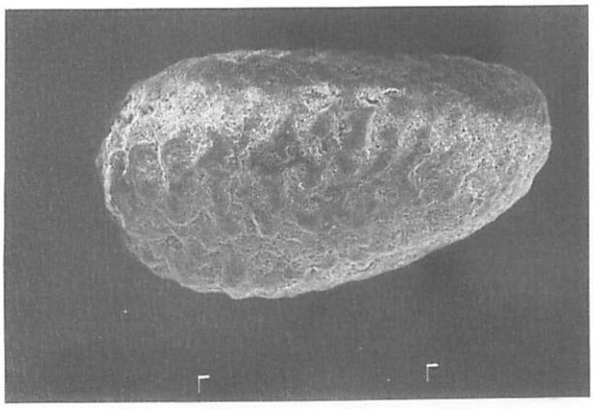
10 b　10 a の拡大　×200



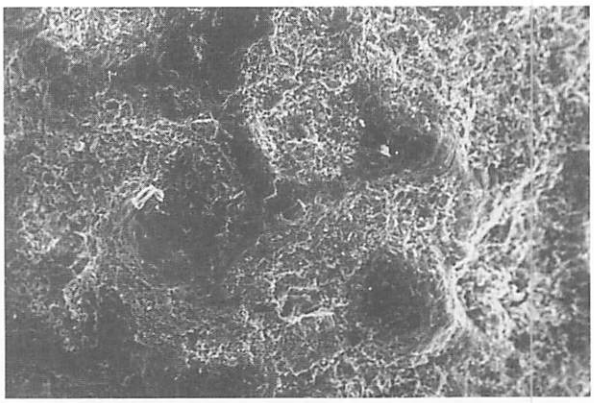
11 a　タラノキ属　×35



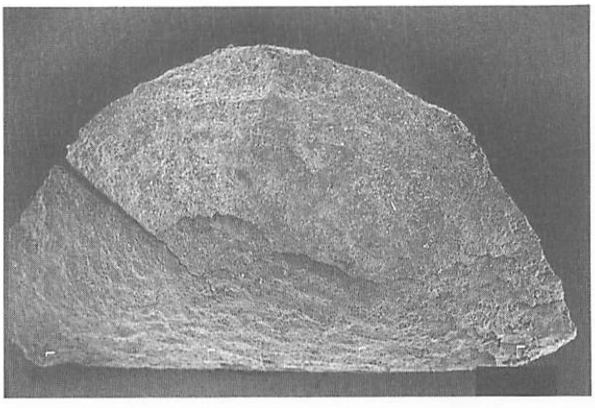
11 b　11 a の拡大　×100



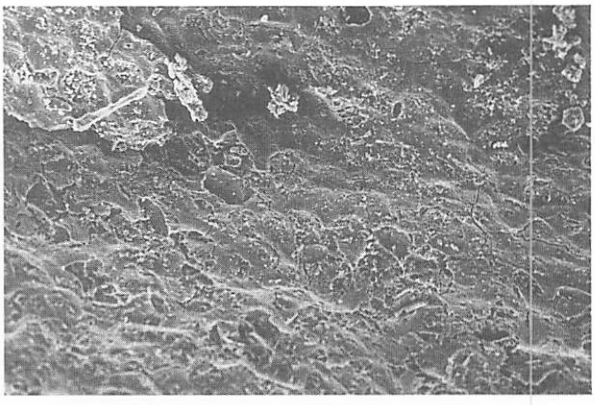
12 a　ニワトコ属　×35



12 b　12 a の拡大　×150



13 a　キハダ属　×35



13 b　13 a の拡大　×200

※スケール「〜「の間隔1.0mm

図Ⅳ—5　出土炭化植物種子

サルナシとマタタビとがある。両者の種子の間には若干の形態差があるが，種子の熟度や成育条件による変異幅も大きく，まだ決め手とするには不十分である。細胞組織の形態についても同様で，現生未炭化の種子においては分類が可能な場合もあるが、炭化してしまうと加熱変形の幅の中にその差がはいってしまい，区分が不明瞭になる。長さ1.8mm，幅1.0mm，厚さ0.85mm。

タラノキ属　*Aralia* Linn.（図IV—5：11a・11b）

FH—28住居址床面から1粒出土している。楕形の形態を持ち，背面には粒状の隆起条が見られる。長さ1.6mm，0.95mm，0.7mm。

ニワトコ属　*Sambucus* Linn.（図IV—5：12a・12b）

FH—12住居から1粒出土。種子はやや平たい長卵形をしており，表面には特有のあばた状構造が観察できるのでニワトコ属と考える。長さ2.1mm，幅1.15mm，厚さ0.7mm。

キハダ属　*Phellodendron* Rupr.（図IV—5：13a・13b）

FH—12住居址の5～6層から2粒検出された。半月形の種子で，細かな編目状の表皮組織が観察された。長さ4.2mm，幅2.9mm，厚さ1.5mm。

クルミ属　*Juglans* Linn.

各住居址，焼土から少量の内果皮片が検出されている。形態と大きさから判断してオニグルミであろう。

以上記載した出土植物種子は，すべて食用または薬用に供せられるものばかりである。草本類は問題を残すヒエ属種子を除き雑草の仲間で，人間活動の活発に見られる集落周辺で現在でも容易に採取され食用に供されるものである。木本類も明らかに人間の利用可能樹種である。ここで注意しておきたいのは，検出されている種子は，すべて人間生活にとって何らかの形で有益なものばかりであったことである。遺跡の立地条件からすれば，もっと他の雑草類—人間生活に余り意味のないものも検出されそうなものであるが，それが認められない。こうした現象は，我々が調査に関与した他の縄文時代あるいは擦文時代遺跡においても同様に認められる。また，前述したように雑草類には，毒のある有害なものがほとんどない。さらに，どの遺跡においても検出される種子の種類が，ある限られた範囲の種類に集中することは，その存在そのものに人間の関与の度合いが強いと判断される根拠となるであろう。

6　ヒエ属種子に関する諸問題

アワ・ヒエ・キビの類は粒のサイズが小さく，発掘の過程では検出が難しい。また，例え検出できたとしても，肉眼だけでは種の決定には無理がある。そのうえ炭化した脱穀済の種子ともなれば，同定上にも様々な困難が伴う。こうした厳しい制約がありながら考古学研究者がこれらの雑穀類に関心を抱くのは，稲作地帯以外の地域においてもそれが栽培可能であったからである。なかでも栽培種のヒエは，水田造成の不可能な山間僻地や気候

環境の劣悪な地域において，ごく最近まで粗放な農業に適応していた重要な畑作物の一つであった。ヒエの持つこうした性質は，栽培種としての導入の時期が，かなり古くまでさかのぼるのではないかと推定する根拠の一つとされていた。いわゆる縄文農耕の対象作物として，イモ類と共にあげられていた有力候補の仲間であったのである。そして，各地の遺跡からは何回も大きな期待とともにヒエの発見が報ぜられ，詳細な検討の結果，その存在が否認されるという経過をたどるのが常であった。出土したイネ科を含む植物種子に関して，先駆的な研究を行なっていた松谷が何回も指摘しているように，遺跡から検出された炭化した「小型の種子」を，かなりイージーにアワ・ヒエ・キビの類と見なしてしまう傾向が強かったのも事実であろう(松谷：1988)。いいかえれば，考古学研究者側のあまりの期待の大きさが，しばしば問題を複雑化してしまったケースが多いのである。

松谷は，当初，こうした出土イネ科の種子の灰像による分析に着目し，後には走査電子顕微鏡を用いての作業を進めた(松谷：1988)。だが，こうした努力にもかかわらず，確実な栽培種のヒエは，古くても平安時代までしか追跡できないのが現状だという（松谷：1987)。一方，我々の研究組織[1]でも，1974年以来遺跡出土の炭化種子問題に関心を持ち，同様の調査を進めてきた。こうした観点から今回発見されたヒエ属種子に関連する諸問題に簡単に触れておきたい。

ヒエ属はその形質変異が複雑で，分類の困難な植物群の一つである。また，この中には栽培種（*Echinochloa utilis* Ohwi et Yabuno）も含まれており，これが雑草としての野生ヒエとどのような関係にあるのかが問題となっていた。これらの重要な課題を解決したのが藪野友三郎博士である。博士によると日本に見られるヒエ属植物は，野生ヒエ4種と栽培ヒエ1種を含む以下の5種類に分類される。

タイヌビエ	*Echinochloa oryzicola*（VASING.）VASING.
ヒメタイヌビエ	*Echinochloa crus-galli*（LINN.）Beauv. var.*formosensis* OHWI
イヌビエ	*Echinochloa crus-galli*（LINN.）Beauv. var.*crus-galli*
ヒメイヌビエ	*Echinochloa crus-galli*（LINN.）Beauv. var.*praticola* OHWI
ヒエ（栽培種）	*Echinochloa utilis* Ohwi et Yabuno

これらの中で水田中にのみ自生するものとして，ヒメタイヌビエとタイヌビエがあげられる。また，ヒメイヌビエは比較的乾燥した場所に，イヌビエは水田を含む低湿な地域に自生し，かつ豊富な変異性を示すという(藪野：1981)。したがって，今回検出された炭化ヒエ属種子が，これらのうちのいずれに分類可能であるかが，まず問題となろう。図IV—3に現生の代表的なヒエ属種子を掲げておいたが(3a～5b)，これらに比べて出土した標本はそのいずれよりもサイズの点で小さい。だが，我々の実施している栽培実験では，種子の大きさは，成育地の土壌状況や登熟のレベル，あるいは穂のどの部分についていたかによっても変異幅が広く，標本数が多くないと検討が難しい。

胚の形態を比較してみると，出土標本よりもタイヌビエの方が狭長で，穎果の長さのほとんど90%を占め，その相違が明らかである（図IV—3：5a)。こうした特徴は，この出土標本が胚の形態差に関するかぎりイヌビエの変異中に含まれる可能性が大であることを物

語っていよう。また，これがヒメイヌビエである可能性は，このバリエーションが北海道には分布していない，ということで除外されるだろう。

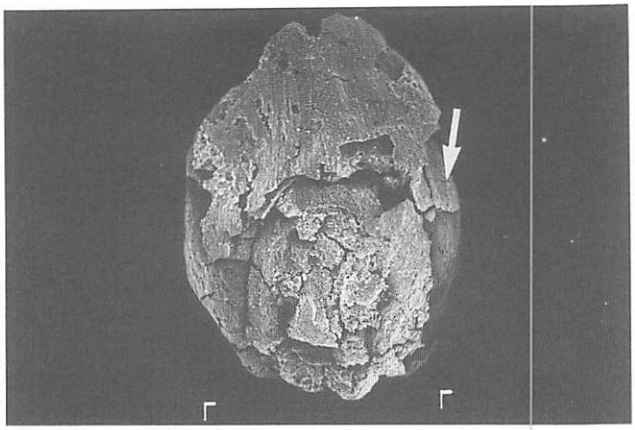
これまでの我々の観察例によると[2]，現在の栽培種のヒエとイヌビエの相違は，頴果の形態でかなり容易に判別し得るように思われる。出土炭化種子の場合には，資料としての限界からほかの同定手段を採用できる可能性が少なく，頴果の形態の差を比較することがほとんど唯一分類の目安である。炭化した標本の細胞レベルの比較観察については，走査電子顕微鏡を用いておこなってみた。この方法は，今のところ属の決定には有力手段であるものの，種間の相違については，どうも明確な差がみつからない。

それで，ここでは頴果の形態差に注目してみよう。栽培ヒエの頴果は，背面[3]から観察した場合には，他の野生種に比べて最大幅の部位が粒長の中央より若干下位に重心が移動し，かなり幅広で先端の丸い卵円形にちかい紡錘形となる。胚の形態も，種形の変化に対応して幅が増加する。また，その側面からみると，頴果中央部分の膨らみが野生種に比べて著しいという特徴を示す（図IV—3：3a，3d)。こうした形態が，栽培ヒエに特有のものである。

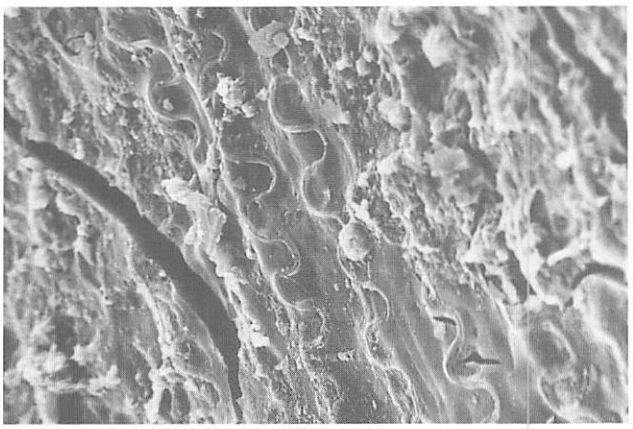
ところで，今回の出土した2粒のヒエ属種子は，大雑把ないい方をすれば円形にちかい背面観をもち，側面から見た腹部の膨らみもわずかではあるが現生イヌビエよりも多いように観察される。こうした変化が，加熱やその他の自然的要因によって2次的に現われたのであれば問題は別になる。しかし，実験的には，加熱によって引き起こされる種子の変形はリニアな変化であらわれるのではなく，一定限界を超すと加速的に表面化する性質を持つ[4]。したがって，今回出土したヒエ属種子は，形態から見てイヌビエの範疇に帰属せしめ得る可能性も高いといえるが，形態の微妙な変化や出土のあり方をどう評価するかによっては若干の問題が残るのである。

普通であればイヌビエの変異の中にとらえられ，さしたる問題にもならないであろう今回の出土ヒエ属種子が，特別にとり上げられた理由はほかにもある。第1には，本年度，渡島管内南茅部町ハマナス野遺跡において，同町教育委員会調査団の実施したフローテーション資料の中から，全く同様なヒエ属種子の検出されていることがあげられる。伴出した土器は，縄文時代前期末～中期初頭のもので，ここに報告している時期と同一と見てよい[5]。第2には，南茅部町において縄文時代前期末のハマナス野遺跡と縄文時代中期後半で東北地方の大木8b式土器を伴出する臼尻B遺跡から検出されたヒエ属種子資料があげられる(CRAWFORD：1983)。この資料を調べたCRAWFORDは，臼尻B遺跡の竪穴住居から発見されたヒエ属種子のサイズが，縄文時代前期末のものに比べて約20%ほど増大していることを報告した（図IV—6)。栽培植物の中に入り込んだ雑草種子は，その形態変化が種子サイズの増大となってあらわれるケースがあり，ヒエ属では，水田雑草のタイヌビエなどがその好例である。だが，縄文時代前期末から中期末にかけての北海道には，もちろん水稲耕作は存在しない。北海道において水田に入り込むヒエ属が出現するのは，はるか後の西暦11～12世紀時代である。だから臼尻遺跡については，こうした懸念を考慮する必要がない。残る問題は，当時見られた全世界的な気候の暖化現象Climatic optimumの影響評価であろう。しかし，明らかに種子のサイズ増大が確認される縄文時代中期後半の

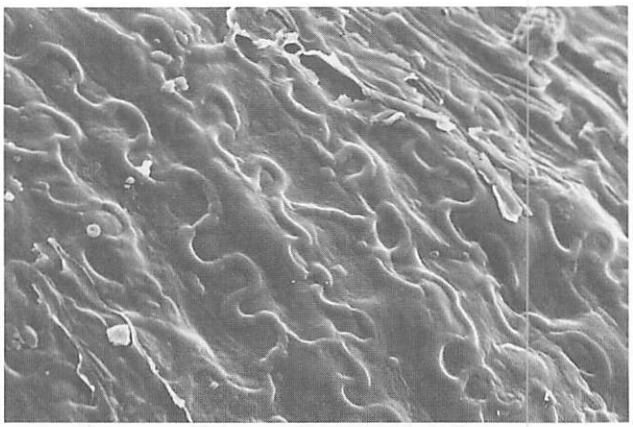
時期は，すでにClimatic optimumが過ぎ去っているので，その影響は無視出来るのではなかろうか。したがって，CRAWFORDもいうように縄文時代前期末から中期後半にかけて見られたヒエ属種子のサイズ増大は，地域的な現象かもしれないが，意図的な栽培化の過程で起きたものとして説明できる可能性がある（CRAWFORD：1983，吉崎：1986）。第3には，ヒエ属種子の出土状況の特異性がある。前節でも若干述べたが，われわれが分析に関与した縄文時代遺跡のうち雑草種子が検出されたケースでは，イネ科の種子は，ほとんど決まってヒエ属のものであった。集落の周囲にはイネ科雑草が繁茂していたにもかかわらず，他の種がほとんど見つからない。こうした種子の出土の偏りは，当時の人間の意思の反映であった可能性がある。第4には，ゲノム分析によって，現生の栽培ヒエがインド系統をひくものではなく，東アジアのイヌビエに由来すると確認されていることである（薮野：1981，1983）。こうした成果をふまえて，阪本は日本および日本周辺において栽培されているヒエが，日本列島に起源を持つのではないかという仮説を提示している（阪本：1988）。



1a　臼尻B遺跡出土　ヒエ属　×35



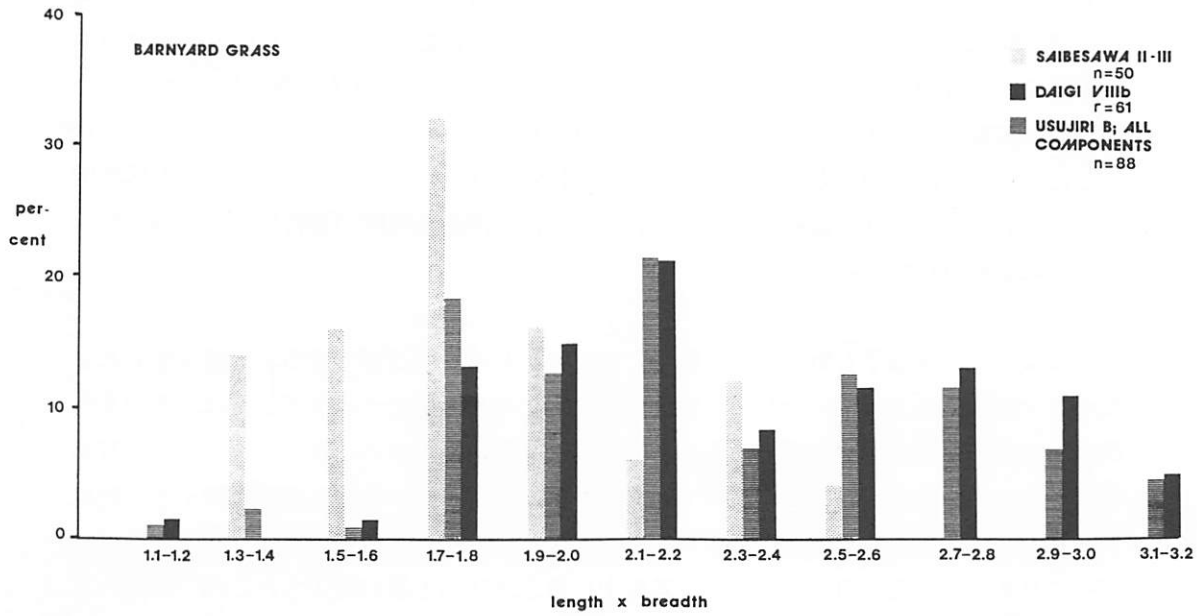
1b　1a矢印部分の拡大穎果の表皮組織「長細胞」×500



2　現生のヒエ（栽培型）穎果の表皮組織「長細胞」×1000

図Ⅳ—6　出土炭化植物種子・現生標本

つまり，栽培植物学の研究成果からいって，日本における栽培ヒエは必ずしも稲作とともに導入されたと見る必要がないわけだ。また，中国の黄河流域以北の新石器時代においては，アワ・キビ・オオムギなどが多く報告されているにもかかわらず，確実なヒエに関してはふれたものがない(6)。沿海州も同様な状況であるらしい。もし，この状況が今後とも不動であるならば，阪本の言うようにヒエは日本原産かもしれず，その点から見ても前述のヒエ属種子のサイズ増大現象や出土状況には，注意しておく必要がある。同様に，ヒエ属種子の出土が，縄文時代前期末からよく見られるようになる事も，他の文化現象と合わせて考えておく必要がありはしないだろうか。炭化した栽培ソバ種子も（CRAWFORD：1983），ソバの花粉が出現するのもこの時期からであるらしいのである（TUKADA et al.：1986，安田：1985）。



Frequency distribution of barnyard grass (*Echinochloa crussgalli* Beauv.). Caryopses size = length × breadth.

図IV—7　ハマナス野・臼尻B遺跡出土ヒエ属種子の長幅比（CRAWFORD：1983による）

現在までにわれわれが入手している出土ヒエ属種子資料のうち，現在の栽培型にちかいものが主体をなして大量に検出されたのは，北海道においては，擦文時代後期西暦11～12世紀のものと見られる余市郡余市町大川遺跡からの一括資料である（余市町教育委員会資料，吉崎：1989，1990）。この資料を分析した椿坂によれば，この遺跡では確実な栽培ヒエ以外に大量のコメと少数のタイヌビエが存在しているので，これら雑穀類は一緒に持ち込まれたものである可能性が強いと言う。それ以前の擦文時代前期あるいは中期の段階においては，はっきりした現在の栽培型のヒエがまとまって出土することはまだ知られない。山田らによれば，文献記録に見られるようなヒエ栽培についての考古学的な資料は，西暦17世紀頃からであると言う（山田・椿坂：1991）。したがって現生タイプの栽培ヒエが北海道に恒常的にあらわれるのは，そんなに古いことではなさそうである。だとすれば，北海道南西部の遺跡から検出され始めている〝縄文ヒエ〟は，どのような意味を持っていたのか興味深いものがある。我々の抱いている仮説のように，もし，縄文時代にすでにヒエ属に対する意図的な関与の伝統が成立しているとすれば，ヒエの栽培化の開始期やその系譜を暗示しているのかもしれない。

一方，問題の本州ではどうなっているのであろうか。残念ながら本州では平安時代のものを除き，古い時代の栽培ヒエについての確実な資料がほとんど報告されていないようにみえる。筆者の不勉強の故もあろうが，低湿地遺跡のケースを除き，炭化した種子の検出が積極的に実施されていないのが原因であるかもしれない。

我々が東北各県の教育委員会の応援を得てこの分野の調査に手を染めたのも，1989年からである。まだ，ごく一部の資料についての分析作業しか進行していないし，縄文時代前期～中期の調査例がほとんどない。今の所扱った確実な資料の中では，このうちで八戸市

教育委員会の協力で分析した八幡遺跡のものがもっとも古い(7)。調査者によれば，この資料は縄文時代晩期直後で，砂沢式土器の仲間が伴出しているという。年代的に見れば西暦紀元前2～3世紀のものであろうか。ただし，この遺跡からはコメも少量検出されており，明らかに初期の弥生文化とも関連していると見られる。

ただ，この遺跡を初めとして，青森県下では1990年度からフローテーション法が積極的に採用され始めており，資料が急増している。今後画期的な展開が期待でき，問題の検証が急速に進む事は間違いない。

北海道でヒエ属種子を出土した遺跡は，すべていわゆる南西部である。土器を中心にした考古学的所見によれば，それらの遺跡の縄文時代のヒエ属出土ホライゾンは，本州東北部のいわゆる円筒土器文化圏や大木文化圏に関連するものである。言いかえれば，東日本縄文文化の中心的な伝統につながっている。もし，こうした中心的な地域に古くから既にヒエ属の栽培化や粗放な農耕が存在していたとすれば，その伝統の飛沫が，縄文時代前期末頃よりあたかも北海道の在地系の土器の中に東北北部の土器が輸入される如くに現れる時期が何回かあったのではないだろうか。物質文化の流れを巨視的に観察すると，他の栽培植物や農耕技術と共にそれがこの地に定着したのは，古くても縄文時代後期中葉以降でなかったかと考えられるふしがある。しかし，北海道南西部におけるその時期が，縄文時代後期後半からなのか，いわゆる続縄文文化あるいはもっと新しい擦文文化からなのかについては，未だ言及するだけの確実な資料がない。

謝　辞

困難な作業を遂行し，かつこの興味深い資料を検出，その検討を許された北海道埋蔵文化財センターの担当者に深く感謝したい。また，いつもながら資料の検討と議論，撮影などに携わって助けてくれた北海道開拓記念館の山田悟郎氏，北海道大学埋蔵文化財調査室の椿坂恭代氏ほかPROJECT SEEDSに集う仲間達にお礼を申し上げたいと思う。

注

(1) 初期にはトロント大学人類学部のメンバーと南茅部町の埋蔵文化財担当者などで組織していた研究サークル。1989年からは同じ問題意識を持つメンバーが集まってPROJECT SEEDSが組織された。

(2) 各地で採取したり実験的に移植したイヌビエをヒエと比較した。

(3) 背面と腹面という用語の使用法は人によって異なるらしい。ここでは胚の見える側。

(4) コンピュータ制御の電気炉を利用して実験したデータ。未報告。吉崎研究室のプロジェクトで実施。

(5) 同調査団の提供により実見。年代については発掘担当の阿部千春氏による。報告書は印刷中である。

(6) 文献の記載だけでは不明な事がある。実際にヒエと記載されているケースはほとんどない。今後もうすこし現物に当たりながら調査する必要があろう。

(7) 八戸市教育委員会提供資料で目下筆者の手元で報告書作成中である。

引　用　文　献

安田喜憲

1982：「花粉分析から見た富山湾沿岸の縄文前期の遺跡」『小泉遺跡』大門町埋蔵文化財報告第5集　大門町教育委員会

阪本寧男

1988：『雑穀のきた道』　NHK ブックス546　日本放送出版協会

松谷暁子

1987：「走査型電子顕微鏡によるがんげつ遺跡出土の炭化ヒエの識別」(英文)『人類学雑誌』Vol. 95, No. 2

1988：「電子顕微鏡で見る縄文時代の栽培植物」佐々木高明・松山利夫編　『畑作文化の識生』　日本放送出版協会

藪野友三郎

1981：「ヒエ属植物の分類と地理的分布」種生物学研究　V

1983：「BIOLOGY OF ECHINOCHLOA SPECIES」Proceedings of Conference on Weed Control in Rice (1983). IRRI.

山田悟郎・椿坂恭代

1991：「ピパウシ遺跡出土の植物遺体」(印刷中)　　平取町教育委員会

吉崎昌一

1984：「北海道における地域性」『岩波講座　日本考古学』　第5巻　岩波書店

1988：「縄文農耕から擦文農耕へ」『鎌木義昌先生古稀記念論文集　考古学と関連科学』

1990：「大川遺跡出土の炭化種子予備分析結果」1989年度大川遺跡発掘調査概報　余市町教育委員会

CRAWFORD, GARY W.

1983：『PAREOETHNOBOTANY OF THE KAMEDA PENINSULA JOMON』ANTHROPOLOGICAL PAPERS. MUSEUM OF ANTHROPOLOGY, UNIV. OF MICHIGAN, U. S. A.

TUKADA et al.

1986：Oldest primitive agriculture and vegetational environments in Japan. *Nature* Vol. 322

(4)　フゴッペ貝塚出土の炭化木片について

三　野　紀　雄
（北海道開拓記念館）

余市町フゴッペ貝塚の縄文時代前期末～中期初頭の竪穴住居址から得た炭化木片について樹種の同定をおこなった。

試料と方法：試料は，余市町フゴッペ貝塚の縄文時代前期末～中期初頭の竪穴住居址から出土した住居の構造材と思われる炭化木片である。検出された39棟の住居址のうち1棟（FH—29）のみから炭化した木片が発見された。

採取した試料は，風乾の後，それぞれ3個の小片に分割し，それらの小片を木材組織の木口面，柾目面，板目面を観察できるように安全剃刀でカッテングし，試料台に伝導性接着剤ドウタイトD—550で接着，さらに金蒸着の後に走査電子顕微鏡（JEOL—JSM—S1型）で木材組織を観察し樹種を同定した。その際，現生樹木の組織標本および記載文献を参照した[1]。

結果および若干の考察：検討した全試料の樹種同定結果を表Ⅳ—6に示した。住居の構造材にはクワ属(Morus sp.)と思われる材が多く使用され，次いでシナノキ属(Tilia sp.)の使用が多く，さらにわずかにニレ属（Ulmus sp.），カエデ属（Acer sp.），クルミ属（Juglans sp.）？が見られた。

樹種の同定は次の木材組織の特徴によった：クワ属(Morus sp.)—広葉樹環孔材，孔圏内の導管の配列は1ないし多列，孔圏外では導管は接線方向に数個複合し散在する，小導管には螺旋肥厚がつねに見られる，導管は単穿孔，射出線の細胞配列は1ないし多列。シナノキ属（Tilia sp.）—広葉樹散孔材，導管は小形で散在し単穿孔，螺旋肥厚がある，射出線の細胞列は1—2—3列。ニレ属(Ulmus sp.)—広葉樹環孔材，孔圏内の導管の配列は1ないし多列，孔圏外では小導管の多数が融合し接線状に配列する，導管は単穿孔，射出線の細胞列は1ないし多列。カエデ属(Acer sp.)：広葉樹散孔材，導管はやや大型で放射方向に疎らに散在する，単穿孔，螺旋肥厚がある，射出線の細胞列は1あるいは多列。クルミ属(Juglans sp.)—広葉樹環孔材，導管はやや大形で放射方向に配列し2—3個集合する，導管は単穿孔，射出線の細胞列は1—2—3列。

上記のようにクワ属(Morus sp.)？と思われる樹木の使用が顕著であったが，これまでの道内の遺跡での調査例では，このようにクワ属(Morus sp.)が多用された例は知られていない。クワ属(Morus sp.)の木材はやや堅く靱性に富み建築材として有用であるが，何故この樹木を選択的に使用したのかは不明である。

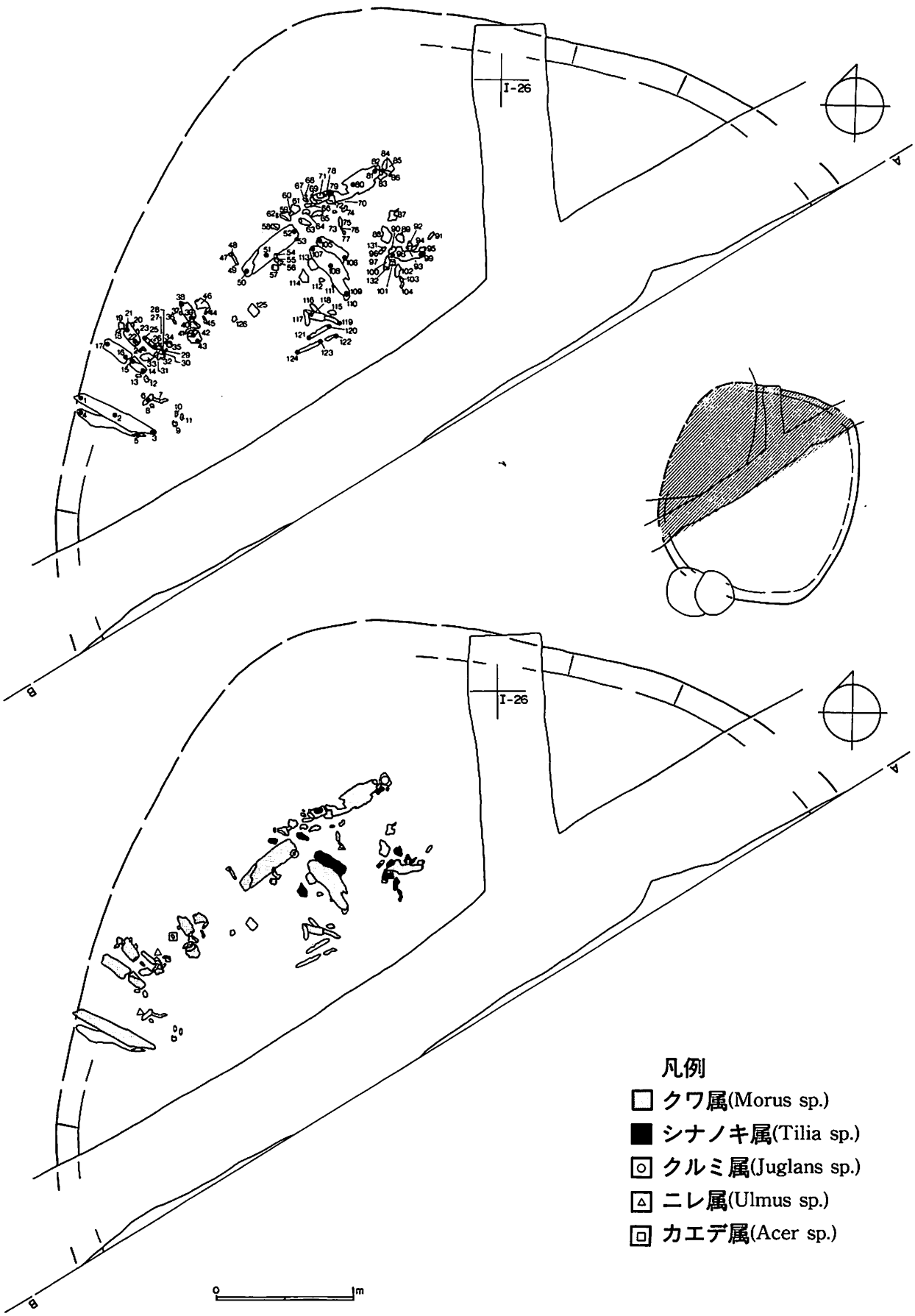
道内に生育するクワ属にはヤマグワとハマグワとがあり，ヤマグワの生育環境は適潤またはやや湿気のある谷間またはこれに接する斜面などの肥沃な深層土を好む。ハマグワは沿海地に分布する。ニレ属（Ulmus sp.）やクルミ属（Juglans sp.）の樹木はヤマグワと同様な環境を好む。シナノキ属（Tilia sp.）及びカエデ属（Acer sp.）の樹木は沖積面から河岸段丘面，さらに山地まで広く分布する。したがって，この遺跡では，河岸の沖積面より段丘斜面そして段丘上に生育していた樹木を使用していたことになる。

文　　献

1)　須藤彰司　(1959)　本邦広葉樹材の識別　林業試験場報告　第118号

表Ⅳ—6　フゴッペ貝塚FH—29出土炭化木片の樹種同定結果

試料番号	樹種	備考	試料番号	樹種	備考
* 1, 2, 3	クワ属 (Morus sp.) ?	割材	66	欠番	丸太状
* 4, 5	不明	割材	67	欠番	丸太, φ5 cm
6	ニレ属 (Ulmus sp.)	小径丸太, φ4-5 cm	68	クワ属 (Morus sp.) ?	
7	クワ属 (Morus sp.) ?	小径丸太, φ4-5 cm	69	欠番	
8	欠番		70	クワ属 (Morus sp.) ?	小径丸太, φ4 cm
9	不明		71	シナノキ属 (Tilia sp.)	丸太, φ5 cm
10	クワ属 (Morus sp.) ?		72	クワ属 (Morus sp.) ?	半割材
11	欠番		73	シナノキ属 (Tilia sp.)	小径丸太, φ2 cm
* 12, 14, 15, 16, 17	クワ属 (Morus sp.) ?	割材	74	クワ属 (Morus sp.) ?	小径丸太, φ2 cm
13	クワ属 (Morus sp.) ?	割材	75	クワ属 (Morus sp.) ?	割材
18	クワ属 (Morus sp.) ?		76	欠番	
19	クワ属 (Morus sp.) ?	割材	77	ニレ属 (Ulmus sp.)	小径丸太, φ2 cm
20	クワ属 (Morus sp.) ?	丸太, φ5 cm	* 78, 79, 80, 81	クワ属 (Morus sp.) ?	丸太, φ8 cm
* 21, 22, 24	クワ属 (Morus sp.) ?	丸太, φ10 cm	82	欠番	
23	クワ属 (Morus sp.) ?	小径丸太, φ3 cm	83	シナノキ属 (Tilia sp.)	半割材
* 25, 26	クワ属 (Morus sp.) ?	小径丸太, φ4 cm	84	クワ属 (Morus sp.) ?	半割材
27	ニレ属 (Ulmus sp.)		85	クワ属 (Morus sp.) ?	半割材
28	クワ属 (Morus sp.) ?		86	クワ属 (Morus sp.) ?	
29	クワ属 (Morus sp.) ?	小径丸太, φ1-2 cm	87	欠番	
30	クワ属 (Morus sp.) ?		88	クワ属 (Morus sp.) ?	
31	クワ属 (Morus sp.) ?	小径丸太, φ2 cm	89	シナノキ属 (Tilia sp.)	小径丸太, φ2 cm
* 32, 33	クワ属 (Morus sp.) ?	割材, 板状	90	シナノキ属 (Tilia sp.)	割材
34	クワ属 (Morus sp.) ?		91	欠番	小径丸太, φ3 cm
35	クワ属 (Morus sp.) ?	割材 (1/3—1/4)	92	シナノキ属 (Tilia sp.)	半割材
36	カエデ属 (Acer sp.)	小径丸太, φ2 cm	93	シナノキ属 (Tilia sp.)	半割材
37	クワ属 (Morus sp.) ?	小径丸太, φ2 cm	94	シナノキ属 (Tilia sp.)	割材
* 38, 39	クワ属 (Morus sp.) ?	丸太, φ7 cm	95	クワ属 (Morus sp.) ?	半割材
40	クワ属 (Morus sp.) ?	小径丸太, φ4 cm	96	シナノキ属 (Tilia sp.)	
41	クワ属 (Morus sp.) ?	小径丸太, φ2 cm	97	シナノキ属 (Tilia sp.)	割材
* 42, 43	クワ属 (Morus sp.) ?	割材	* 98, 99	クワ属 (Morus sp.) ?	割材
* 44, 45, 46	クワ属 (Morus sp.) ?	小径丸太, φ3 cm	100	シナノキ属 (Tilia sp.)	割材 (1/3—1/4)
47	欠番		101	シナノキ属 (Tilia sp.)	小径丸太, φ4 cm
* 48, 49, 50	クワ属 (Morus sp.) ?	小径丸太, φ2 cm	102	シナノキ属 (Tilia sp.)	小径丸太, φ4 cm
* 51, 52	クワ属 (Morus sp.) ?	丸太, φ10 cm	103	シナノキ属 (Tilia sp.)	小径丸太, φ2 cm
53	クルミ属 (Juglans sp.) ?	小径丸太, φ2 cm	104	シナノキ属 (Tilia sp.)	
54	シナノキ属 (Tilia sp.)	小径丸太, φ4 cm	* 105, 106	シナノキ属 (Tilia sp.)	半割材
55	クワ属 (Morus sp.) ?	小径丸太, φ2 cm	* 107, 108, 109	クワ属 (Morus sp.) ?	半割材
56	クワ属 (Morus sp.) ?	小径丸太, φ4 cm	110	不明, 環孔材	
57	クワ属 (Morus sp.) ?	小径丸太, φ4 cm	111	クワ属 (Morus sp.) ?	割材
58	シナノキ属 (Tilia sp.)	小径丸太, φ4 cm	112	クワ属 (Morus sp.) ?	割材
59	クワ属 (Morus sp.) ?	割材	113	クワ属 (Morus sp.) ?	割材
60	欠番	割材	114	シナノキ属 (Tilia sp.)	割材, 板状
61	クワ属 (Morus sp.) ?	割材	115	クワ属 (Morus sp.) ?	
62	クワ属 (Morus sp.) ?	割材	116	クワ属 (Morus sp.) ?	
63	シナノキ属 (Tilia sp.)	小径丸太, φ3 cm	117	不明, 散孔材	割材
64	クワ属 (Morus sp.) ?	割材	* 118, 119	クワ属 (Morus sp.) ?	割材
65	クワ属 (Morus sp.) ?	割材			* 同一炭化木材よりの採取試料



図Ⅳ－8　FH－29出土炭化材の試料番号と樹種

2 年代測定

(1) ^{14}C 年代測定結果

山 田 治
（京都産業大学理学部）

液体シンチレーション炭素年代測定報告

測定番号	試料名・採取地	測定結果
KSU—2074	フゴッペ貝塚① マガキ 松下地点表採	3,420± 20 y. B. P.
KSU—2075	〃 ② イガイ センター地点 F—24—55 第2ブロック 混土貝層	3,740± 30 y. B. P.
KSU—2076	〃 ③ 木炭 I—21 南西隅II C最下層	3,940± 80 y. B. P.
KSU—2077	〃 ④ 〃 FH—3 HP—1	3,400±110 y. B. P.
KSU—2078	〃 ⑤ 〃 FH—12 ベルト7覆土4層	3,340± 80 y. B. P.
KSU—2079	〃 ⑥ 〃 〃 〃 床面	4,130± 60 y. B. P.
KSU—2080	〃 ⑦ 〃 FH—16 HP—3 3層	4,070± 30 y. B. P.
KSU—2081	〃 ⑧ 〃 （炭化材） FH—29 床面	4,300± 40 y. B. P.

※ ^{14}C の半減期は5568年，y. B. P. は西歴1950年よりさかのぼる年数

3 遺　　物

(1) フゴッペ貝塚出土のヒスイ製垂飾玉の産地分析

藁科哲男・東村武信
（京都大学原子炉実験所）

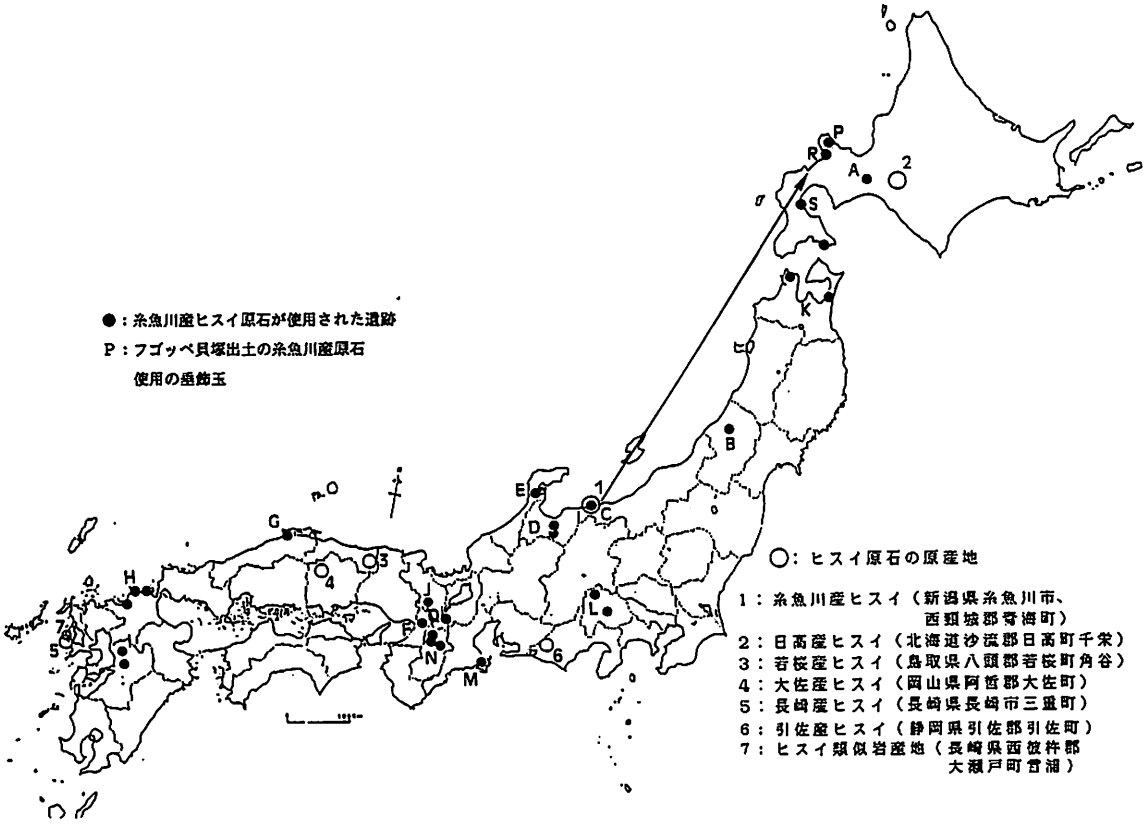
1 はじめに

遺跡から出土するヒスイ製遺物の産地分析というのは，ヒスイの製品が何処の玉造遺跡で“加工された”ということを調査するのではなくて，何ヶ所かあるヒスイ原産地のうち，“どこの原産地のヒスイ原石”を使用しているかを明らかにするのが，その目的である。ヒスイ製遺物の原石の産地を明らかにすることは考古学上重要な意味をもっている。糸魚川市でヒスイが発見されるまでは，中国雲南ミャンマー原産のヒスイであると説く人もあり，発見後は，専ら国内説が有力になって，岩石学的方法により長者ヶ原遺跡出土のヒスイと姫川産の原石との関係を調べた仕事が有名であった[1]。貴重な考古遺物を非破壊でその原材の産地分析を行った例は，蛍光X線分析で行った黒曜石石器の産地分析であり，その石器原材の黒曜石の原産地をほとんど完全に推定することに成功している[2]。これと全く同じ方法をヒスイに適用して今回ヒスイの産地分析を試みた。石器とヒスイ製品とは使用目的が異なるため，それぞれの産地分析で得られた結果の意味も異なる。(1)石器は生活必需品である。したがって石器の原材産地推定で明らかになる石材原産地から遺跡までの移動，活動範囲は，生活上に必要な生活圏と考えられる。(2)ヒスイは古代人が生きるために必ずしも要るものではない。ヒスイ製品は権威の象徴，お祭り，お守り，占いの道具，アクセサリーとして，精神的な面に重要な作用を与えたものと考えられる。従って，ヒスイ製遺物の産地分析で明らかになるヒスイ原石の分布範囲は，権威の象徴としてのヒスイであれば権力圏，またお祭り，お守り，占いの道具であれば，同じような習慣を持つ文化圏が考えられ，権力圏とは別の意味での貴重な資料を考古学の分野に提供することができる。

今回分析を行ったヒスイ製の玉は，北海道余市郡余市町に位置するフゴッペ貝塚出土の良質の垂飾玉の１個である。この遺物の分析結果が得られたので報告する。

2 非破壊での産地分析の方法と手段

原産地推定の第一歩は，人間で言えば指紋のような，その原産地だけにしかないというヒスイ原産地間を区別する指標を見つけることである。その区別するための指紋は，鉱物組成の組合わせ，比重，ヒスイに含有されている元素組成などであるが，これらによって原産地同士を区別することができなければ産地分析はできない。言い換えれば，これらの量によって作られる“指紋”が，それぞれの原産地に特有であることが産地分析のための必要条件である。この条件が満たされているか，各原産地からの原石を分析してみなければわからない。成功するかどうかは，行ってみなければわからない。原産地同士が指紋でもって区別できたならば，次に遺跡から出土するヒスイ製遺物の指紋と原産地の指紋を比較して，一致しない原産地を削去して，一致する原産地の原石が使用されていると判定す



図IV—9　ヒスイ原産地およびヒスイ製遺物の分析遺跡

る。

ヒスイ製勾玉，大珠，玉などは，国宝，重要文化財級のものが多くて，非破壊で産地分析が行なえる方法でなければ実行できない。石器の原材産地分析で成功しているのは元素比を利用する蛍光X線法であるが，この方法は遺物を全く破壊することなく分析できるのでヒスイの分析にも適切である。そのため，この方法によりヒスイに含有されている元素を分析する。分析試料は，遺跡から出土したヒスイ製玉などを水洗いして，試料ホルダーに置くだけの，完全な非破壊分析である。含有元素の励起は放射性同位元素から放射するX線を利用して試料中の元素の種類と含有量を求める。試料の形や大きさの違いの影響を打ち消すために分析された元素同士で含有量の比をとり，この元素比の値を原産地を区別する指紋とした。

3　ヒスイの原産地

分析したヒスイ原石は，日本国内産では(1)新潟県糸魚川市と，それに隣接する同県西頸城郡青海町から産出する糸魚川産，(2)軟玉ヒスイと言われる北海道沙流郡日高町千栄の日高産[3]，(3)鳥取県八頭郡若桜町角谷の若桜産，(4)岡山県阿哲郡大佐町の大佐産，(5)長崎県長崎市三重町の長崎産であり，さらに(6)西黒田ヒスイと呼ばれている静岡県引佐郡引佐町の引佐産の原石，また，肉眼的にヒスイに類似した原石で玉類等の原材になったのではないかと考えられる(7)長崎県西彼杵郡大瀬町雪浦からの原石である。国内産のヒスイ原産地は，これでほぼつくされていると思われる。これら原石の原産地を図IV—9に示す。これ

に加えて外国産として，ミャンマー産の硬玉と台湾産軟玉および韓国春川産軟玉などのヒスイの分析も行った。

4　ヒスイ試料の蛍光X線分析

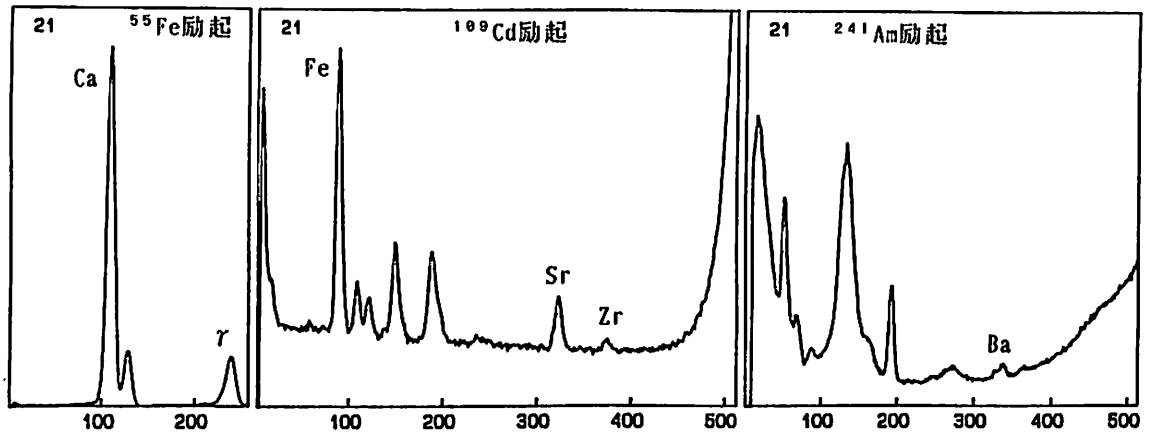
ヒスイの主成分元素は軽元素[4]で，これらの蛍光X線は空気層で弱められるため本報の蛍光X線分析装置では，分析できず，ヒスイに少量含有されている，カリウム(K)より重い元素が分析できた。すなわち，ヒスイに含有されている元素のうちK，カルシウム(Ca)，チタニウム(Ti)，クロム(Cr)の各元素は^{55}FeのX線で，マンガン(Mn)，鉄(Fe)，ルビジウム(Rb)，ストロンチウム(Sr)，イットリウム(Y)，ジルコニウム(Zr)，ニオビウム(Nb)の各元素は^{109}Cd X線で，バリウム(Ba)，ランタニウム(La)，セリウム(Ce)の各元素は^{241}Amの放射性同位元素励起線源を使用して元素を分析する。日高，糸魚川原産地の原石および玉類遺物について蛍光X線スペクトルを図Ⅳ—10・11および図Ⅳ—12に示す。これら蛍光X線スペクトルは，^{55}Fe励起の部分では，K，Tiのピークは小さく，Caはピークが大きく観測される。すなわち，KとTiとの含有量は小さく，Caの含有量は大きいことが判る。γと表示されたピークは励起線源のX線の試料によって散乱されたものが観測されたもので，そのピークの大きさは，主に試料の分析面積に比例する。^{109}Cd励起のスペクトルでは，大きなピークとしては，Fe，Sr，Zrが見られる。ZrのピークにはSrのKβ線のピークが同じ位置に重なっているため，本当のZrのピークより大きくなっている。FeとSrの間の110～250チャンネル間で見られるピークは分析装置からのもので試料からのピークではない。^{241}Am励起のスペクトルでは1～300チャンネル間のピークは装置からのピークで，Ba，La，Ceなどの元素ピークが見られる範囲は300～410チャンネルの間である。

各原産地の原石の特徴を以下に記述する[6]。若桜産のヒスイ原石はSrのピークがFeのピークに比べて相当大きく，またZrの隣に非常に小さなNbのピークが見られ，Baのピークも大きく，糸魚川産では見られないLa，Ceのピークが観測されている。このCeのピークは大佐産と長崎産ヒスイ原石のスペクトルにも見られ，これらのCeを含有する原石の産地は，糸魚川の産地と区別するときに有効な判定基準になる。長崎産ヒスイは，Tiの含有量が多く，Yのピークが見られるのが特徴的である。日高産および引佐産ヒスイ原石は，Caピークに比べてTiとか，Feピークに比べてSrなどのピークが小さいのが特徴で糸魚川産のものと区別するときの判断基準になる。

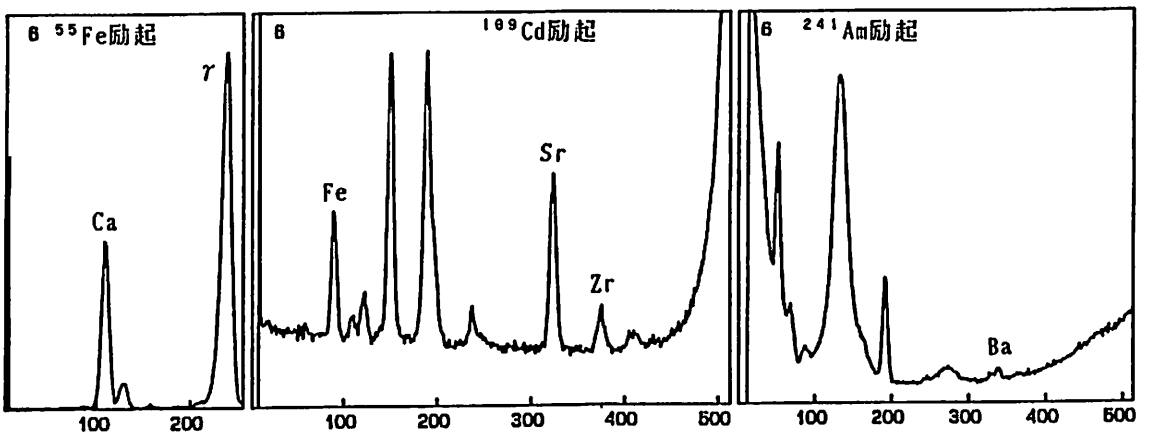
春川軟玉原石は，優白色の工芸加工性に優れた原石で，軟玉であるが，古代では勾玉などの原材料となった可能性も考えられることから分析を行った。この原石には，Sr，Zrのピークが全く見られないため，糸魚川産などのSr，Zrを含有する原石と容易に区別できる。また，長崎県雪浦のヒスイ類似岩をヒスイの代替品として勾玉，大珠などの原材料に使用している可能性が考えられ，分析を行った。この岩石は比重が2.91と小さく，比重でもって他の産地のものと区別できる。また250～300チャンネルの間に砒素(As)のピークが見られる個体が多いのも特徴である。

これら各原産地の原石は同じ産地の原石であっても，原石ごとに元素の含有量には異同がある。したがって，一つの原産地について多数の原石を分析し，各元素の含有量の変動の範囲を求めて，その産地の原石の特徴としなければならない。

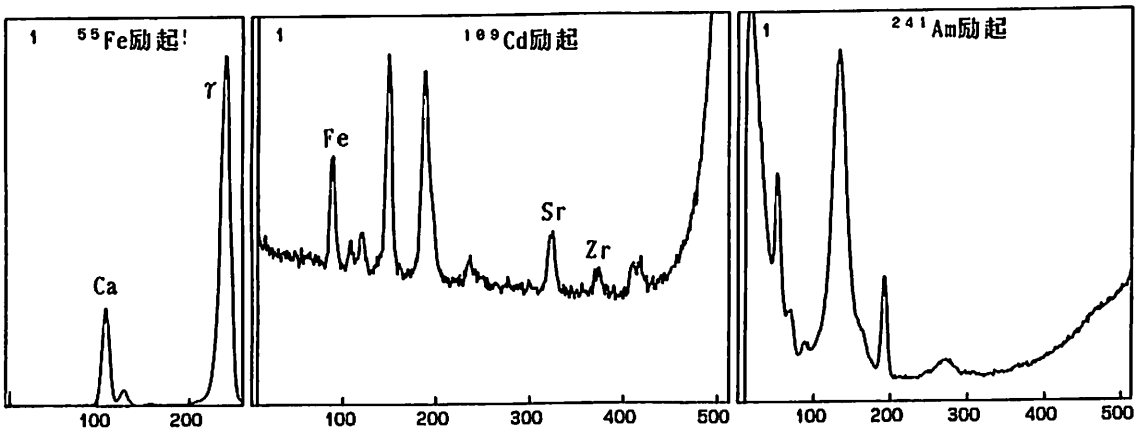
糸魚川産のヒスイは，白色系が多いが，緑色系の半透明の良質のもの，青色系，コバル



図IV—10　日高産ヒスイ原石の蛍光X線スペクトル



図IV—11　糸魚川産ヒスイ原石の蛍光X線スペクトル



図IV—12　フゴッペ貝塚出土の垂飾玉（21836）の蛍光X線スペクトル

ト系，およびこれらの色が白地に縞となって入っているものなど様々である。分析した糸魚川産原石の比重を調べると，硬玉の3.2～3.4の範囲のものと，3.2に達しない軟玉に分類される原石もある。若桜産，大佐産の分析した原石には，半透明の緑色のものはないが，全体が淡青緑かかった乳白色のような原石が多い。このうち大佐産の原石では比重が3.20に達したものはなく，これらの原石は軟玉に属すると思われる。長崎産のヒスイ原石は3点しか分析できなかったが良質である。このうち1点は濃い緑色で，他の2点は淡い緑色で，少しガラス質である。日高産ヒスイの原石は肉眼観察では比較的糸魚川産のヒスイに似ている。ミャンマー産のヒスイ原石は，質，種類とも糸魚川産のヒスイ原石と同じものが見られ肉眼で両産地の原石を区別することは不可能と考えられる。分析した台湾産のヒスイは軟玉に属するもので，暗緑色のガラス質な原石である。これら各原産地の原石の分析結果から各産地を区別する判断基準を引き出し産地分析の指標とする。

5　ヒスイ原産地の判別基準

原石産地の判定を行うときの判断基準を原石の分析データーから引き出すが，分析個数が少ないため，必ずしもその原産地の特徴を十分に反映したと言えない産地もある。表Ⅳ—7・8に各原産地ごとの原石の比重と元素比量をまとめた。元素比量の数値は，その原産地の分析した原石の中での最小値と最大値の範囲を示し，判定基準(1)とした。糸魚川産のヒスイで比重が3.19未満の軽い原石は，硬玉ヒスイではない可能性があるが，分析した遺物のなかに3.19未満の比重のものも見られることから，糸魚川産の原石で比重が3.19未満

表Ⅳ—7　ヒスイ製遺物の原石産地の判定基準（1）

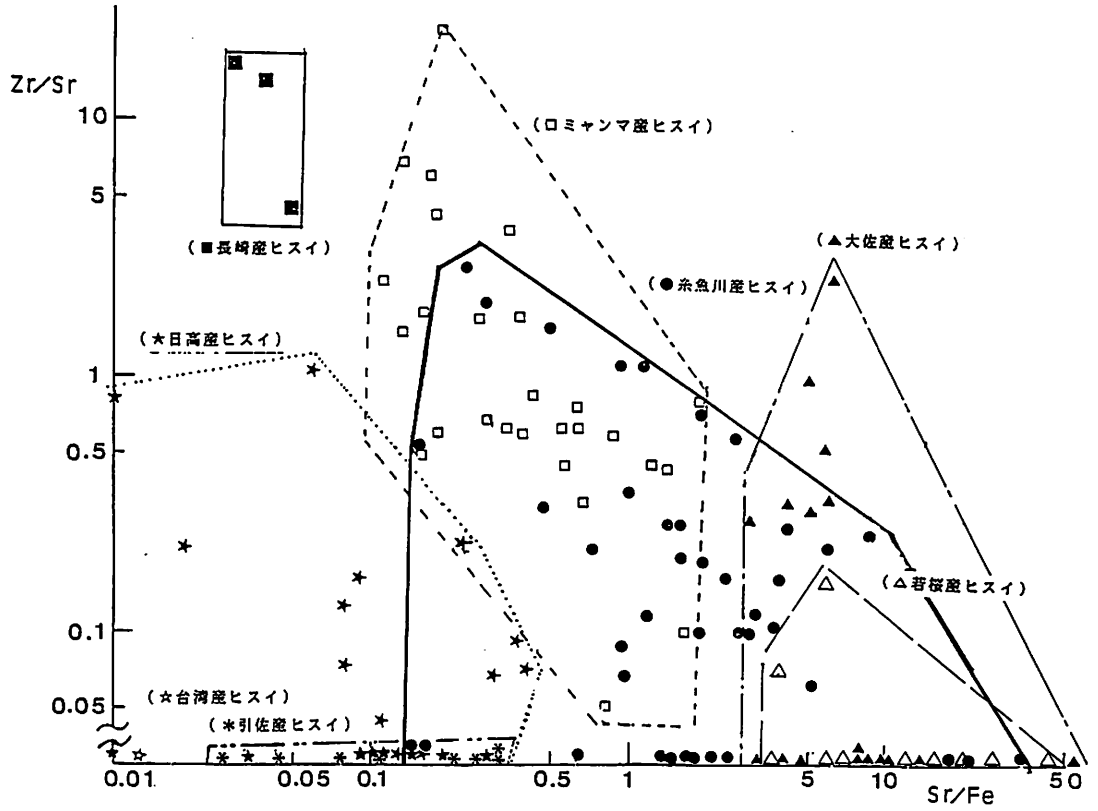
原産地名	分析個数	蛍光X線法による元素比の範囲 比重	K/Ca	Ti/Ca	Sr/Fe	Zr/Sr	Ca/γ
糸魚川産	41	3.00～3.35	0.01～0.17	0.01～0.56	0.15～30	0.00～2.94	0.33～12
若桜産	12	3.12～3.29	0.01～0.91	0.03～0.59	3.45～47	0.00～0.25	1.4～9.4
大佐産	20	2.85～3.17	0.01～0.07	0.00～1.01	3.18～61	0.00～12.4	0.79～3.52
長崎産	3	3.16～3.23	0.01～0.14	0.17～0.33	0.02～0.06	4.30～16.0	
日高産	22	2.98～3.29	0.00～0.01	0.00～0.02	0.00～0.37	0.00～0.063	3～58
引佐産	8	3.15～3.36	0.04～0.04	0.00～0.03	0.03～0.33	0.00～0.018	16.2～31.2
ミャンマ産	26	3.15～3.36	0.02～0.14	0.01～0.26	0.09～2.5	0.01～23	
台湾産	1	3.00	0.003	ND	ND	ND	

ND：検出限界以下の濃度

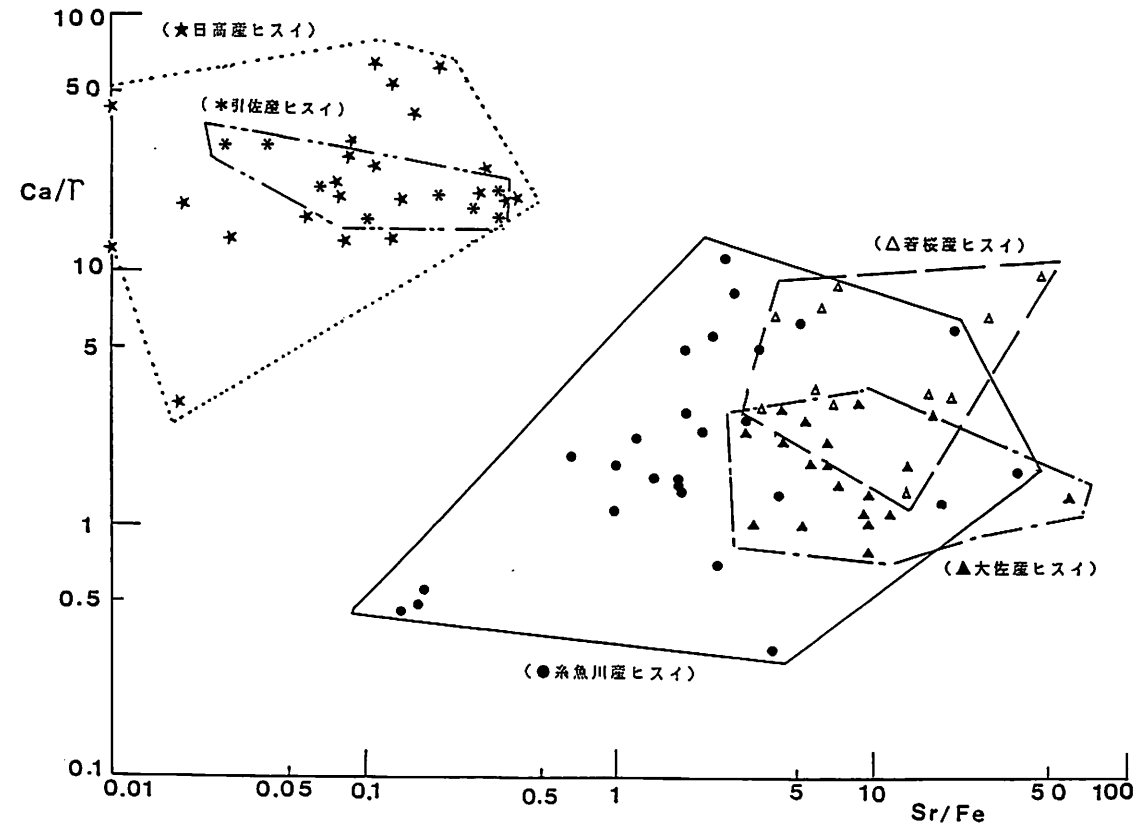
表Ⅳ—8　ヒスイ製遺物の原石産地の判定基準（2）

原産地名	蛍光X線法による分析元素（各元素が確認できた個体数の百分率） Cr	Mn	Rb	Y	Nb	Ba	La	Ce
糸魚川産	26%	6%	20%	ND	13%	33%	ND	ND
若桜産	ND	ND	16%	ND	100%	100%	67%	67%
大佐産	ND	ND	44%	ND	33%	100%	67%	67%
長崎産	ND	ND	ND	100%	100%	100%	100%	100%
日高産	tr	tr	ND	ND	ND	tr	ND	ND
引佐産	88%	75%	ND	ND	ND	ND	ND	ND
ミャンマ産	13%	4%	ND	ND	ND	35%	ND	ND
台湾産	tr	tr	ND	ND	ND	ND	ND	ND

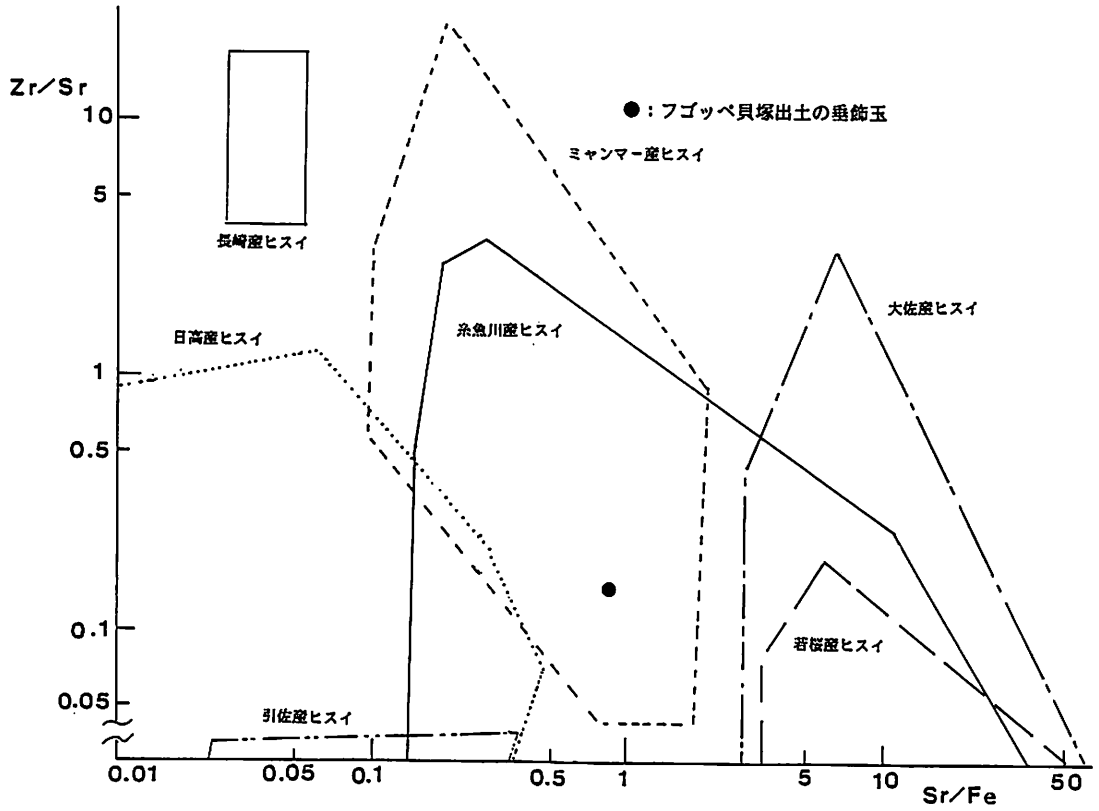
ND：検出限界以下　　tr：検出確認



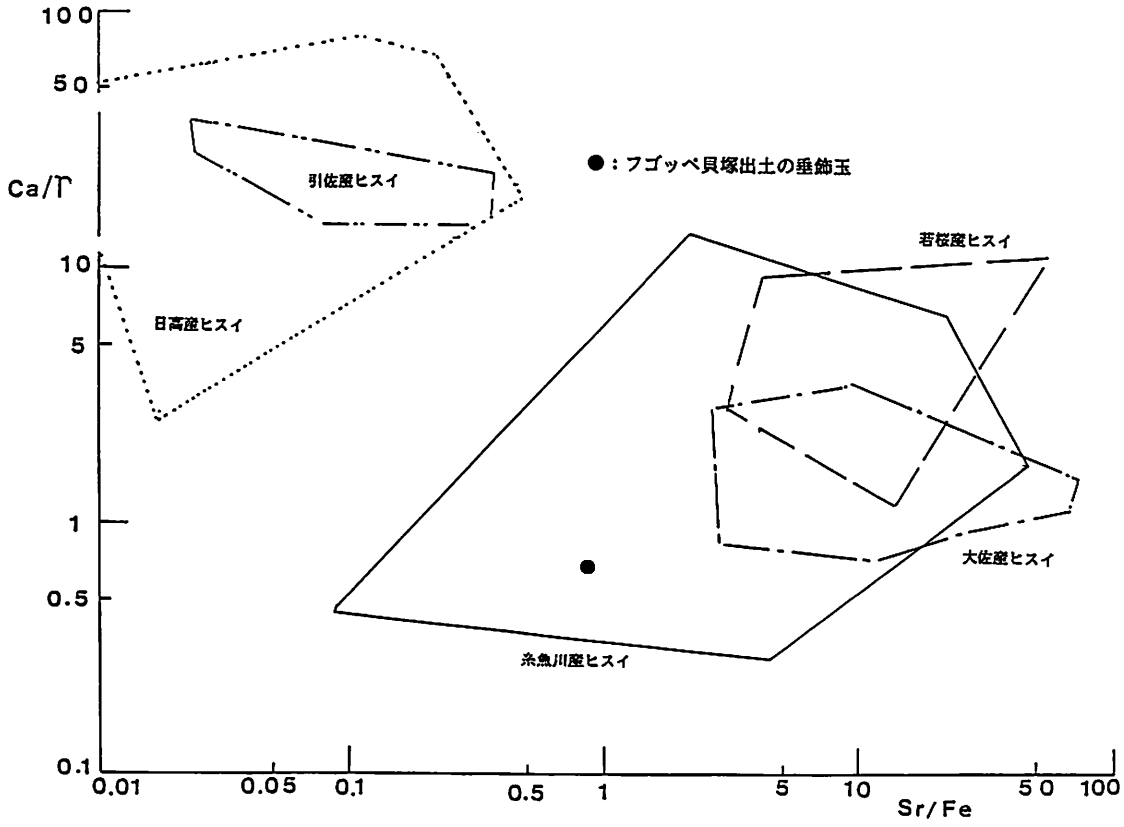
図IV—13　ヒスイ原石の元素比値 Zr/Sr 対 Sr/Fe の分布および分布範囲



図IV—14　ヒスイ原石の元素比値 Ca/γ 対 Sr/Fe 分布および分布範囲



図IV—15　フゴッペ貝塚出土のヒスイ製垂飾玉の Zr/Sr 対 Sr/Fe の分布



図IV—16　フゴッペ貝塚出土のヒスイ製垂飾玉の Ca/γ 対 Sr/Fe の分布

表Ⅳ—9　フゴッペ貝塚出土のヒスイ製垂飾玉の元素分析値の比量と原材産地の推定

試料番号	元素分析値の比量 K/Ca	Ti/Ca	Sr/Fe	Zr/Sr	Ca/γ	分析元素の有無 ○有、△微量、×無 Nb	Ba	La	Ce	ヒスイ製遺物の原材産地推定
21836	0.002	0.019	0.844	0.144	0.637	×	×	×	×	糸魚川産

表Ⅳ—10　フゴッペ貝塚出土のヒスイ製垂飾玉の重量と比重

試料番号	遺物品名	地区、遺溝、層位等	時代	試料比重	試料重量(g)	備考
21836	垂飾玉	FP—180、土壙	縄文時代前期末～中期初頭	3.33	5.725	良質硬玉

フゴッペ貝塚：北海道余市郡余市町

のものも分析を行った。大佐産のヒスイは比重が3.17未満であった。したがって，遺物の比重が3.3以上を示す場合は判定基準(1)により大佐産のヒスイでないと言える。日高産，引佐産の両ヒスイではSr/Feの比の値が小さくて，糸魚川産と区別する判定基準(1)になる。判定基準(2)にはCr，Mn，Rb，Y，Nb，Ba，La，Ceの各元素の蛍光X線ピークが観測できた個体数を%で示した表である。例えば遺物を分析してBaのピークが観測されなかったとき，その遺物は，若桜，大佐，長崎産のヒスイでないといえる。

図Ⅳ—13はヒスイ原石のSr/Feの比の値とSr/Zrの比の値の分布を各原産地ごとにまとめて分布範囲を示したものである。●は糸魚川産のヒスイで，分布の範囲を実線で囲み，この枠内に遺物の測定点が入れば糸魚川産の原石である可能性が高いと判断する。□はミャンマー産のヒスイの分布で，その範囲を短い破線で囲む。糸魚川の実線の範囲とミャンマーの破線の範囲の大部分は重なり両者は区別できないが，ミャンマーと糸魚川が区別される部分がSr/Feの値(横軸)2.5以上の範囲で見られる。この範囲の中に，遺物の測定点が入ればミャンマー産と考えるより，糸魚川産である可能性の方が高いと考えられる。▲は大佐産のヒスイの分布で，△は若桜産のヒスイの分布を示している。

糸魚川と大佐，若桜のヒスイが重なる部分に遺物の測定点が入った場合，これら複数の原産地を考えなければならない。しかし，この遺物にBaの蛍光X線スペクトルのピークが見られなかった場合，表Ⅳ—8の判定基準(2)に従えば糸魚川産のヒスイであると判定できる。■は長崎産ヒスイの分布で，独立した分布の範囲を持っていて他の産地のヒスイと容易に区別できる。台湾産の軟玉はグラフの左下に外れる。★印の日高産および＊印の引佐産ヒスイの分布の一部分が，糸魚川産と重なり区別されない範囲がみられる。しかし，Ca/γ比とSr/Fe比を指標とすることにより(図Ⅳ—14)，糸魚川産ヒスイは日高産および引佐産の両ヒスイと区別することができる。

6　フゴッペ貝塚出土のヒスイ製垂飾玉の産地分析

分析したヒスイ製の玉類の比重および分析結果をまとめて表Ⅳ—9•10に示した。フゴッペ貝塚出土の垂飾玉の比重は3.33で，硬玉の比重に一致する。これら遺物の，Sr/Fe，Zr/Srの比の値およびCa/γ，Sr/Feの比を各原産地の原石の分布範囲と比較し，図Ⅳ—15•

16に示した。遺物の分析値は，図Ⅳ－15で各原産地のSr/Fe，Zr/Srの比の分布の中の糸魚川産原石の分布範囲とミャンマー産の分布範囲の重なった中に入っている。また，図Ⅳ－16の各原産地のCa/γ，Sr/Feの比の分布範囲と比較すると，糸魚川産の分布に入り日高産の可能性が否定された。分析結果では，垂飾玉の分析値は糸魚川産とミャンマー産の分布に入るため，遺物の原材産地として糸魚川，ミャンマーの両原産地を考えなければならない。しかし，現在までに，日本国内の遺跡から出土した多数の遺物を分析して分布を調べると，糸魚川産の分布に一致し，ミャンマーの分布に一致しないような結果が得られているので，今回のこの糸魚川，ミャンマーの両産地の一つに特定できなかったフゴッペ貝塚の垂飾玉の原材産地も糸魚川産と推定した（表Ⅳ－9，図Ⅳ－15・16）。

参考文献

1) 茅原一也(1964)，長者が原遺跡産のヒスイ（翡翠）について（概報）。長者が原，新潟県糸魚川市教育委員会：63-73
2) 藁科哲男・東村武信(1983)，石器原材の産地分析。考古学と自然科学，16：59-89
3) 番場猛夫(1967)，北海道日高産軟玉ヒスイ。調査研究報告会講演要旨録No.18：11-15
4) 河野義礼(1939)，本邦における翡翠の新産出及び其化学的性質。岩石礦物鉱床学雑誌　22：195-201
5) 藁科哲男・東村武信(1986)，石器・石材の蛍光X線分析。日本古文化財科学会大会研究発表要旨：28-29
6) 藁科哲男・東村武信(1987)，ヒスイの産地分析。富山市考古資料館紀要　6：1-18

(2)　フゴッペ貝塚出土石器石材の岩石鑑定

渡　辺　暉　夫
（北海道大学理学部）

1　鑑定方法と基礎的用語

対象となる30ケのサンプル（表Ⅳ－11，図Ⅳ－17）を切断し，約0.03mmの厚さの岩石薄片を作成し，偏光顕微鏡によって，構成鉱物と岩石の組織を観察した。また4ケのサンプルを選び出し蛍光X線分析法により全岩主成分化学組成を求めた(表Ⅳ－12)。以下にその結果を報告するが，火山岩が多く，岩石の記載にあたり，若干の基礎的用語を解説しておく必要があると思われる。

斑　晶　火山岩中に斑状に分布する結晶であって肉眼で観察できる。鏡下では鉱物独自の形（自形）をとって斑状にちらばって分布する。

石　基　火山岩中の斑晶を除く部分，ただし斑晶のよりやや少ないもの（細粒）は石基の中に入れず，微斑晶とすることもある。

完晶質　ガラス質部分を含まず全て結晶から成り立っているもの。

自形・半自形・他形　結晶が液中より結晶化するにあたり，結晶本来の形をとるのが自形，他の結晶によって自由な成長を阻害されたりして結晶面がほとんど発達していないものを他形，中間を半自形という。

双　晶　同じ結晶（鉱物）でありながら，結晶方位が違っているもの同志が隣接して成長し，1つの結晶集合体を作っている場合にみられる構造

累帯構造　一般に同じ結晶系に属する鉱物でありながら，その成長過程で組成がわずかに異なることによって作られる組成縞模様

干渉色　光の振動方位の直交する2枚の偏光板をサンプルの上下に入れた時に生ずる鉱物の色。360°回転するうちに必ず4回暗黒になり，これを消光とよび，結晶の伸長方位と消光位置の間の角度を消光角とよぶ。この消光角は鉱物に固有な角度をもつ。

多色性　直交偏光にしないでサンプルを鏡下で回転した時に鉱物に認められる色の変化

※　図版で同一番号暗くうつっているものは，直交偏光下（クロスニコル）で撮影したもの(1b，14bなど)，aはオープンニコル。写真の全体の色調によってオープンとクロスを区別できる。クロスニコル（b）では干渉色が観察できる。

図版略号一覧

al：変質鉱物（altered minerals）　Bi：黒雲母（biotite）　C：セラドナイト（celadonite）　Ho：角閃石（hornblende）　Ho(ps)：角閃石仮像（hornblende pseudomorph）　Gl：藍閃石（glaucophane）　Gr：石基（groundmass）　Mu：白雲母（muscovite）　Ol：カンラン石（olivine）　Pl：斜長石（plagioclase）　Px：輝石（pyroxene）　Qz：石英（quartz）

2 鑑定結果

No. 1 輝石安山岩

長柱状輝石の斑晶と斜長石の斑晶および石基よりなる。輝石は弱い多色性（無色～淡褐色）があり，サイズは数ミリから5ミリメートルに達する。斜長石は周辺部で累帯構造が目立つ。鉄鉱あり。

No. 2 珪質堆積岩（珪質頁岩 or 珪質岩）

0.1mm 以下の石英粒を主とし，生物片や酸化物他不透明物質が散点する。

No. 3 同上

部分的に空孔をうめて石英粒の生成が認められ，No. 2 の物よりやや珪化変質の影響が認められる。層状構造顕著（写真縦に平行な縞）

No. 4 単斜輝石含有無斑晶～微斑晶質安山岩

斜長石の微斑晶と輝石よりなる。斜長石斑晶は最大 1 mm の長さ，アルバイト双

表IV—11 岩石鑑定石器一覧

整理番号	出土遺構・遺物番号	器種	鑑定結果	実測	備考
1	FH—1, HP—7—20	たたき石	輝石安山岩	○	
2	FH—2, HP—105	たたき石	珪質堆積岩	○	
3	FH—3, HP—320	たたき石	〃	—	
4	FH—6, HP—2—1	たたき石	単斜輝石含有無斑晶～微斑晶質安山岩	○	
5	FH—12—223	小石皿	単斜輝石含有安山岩	—	
6	FH—12—698	北海道式石冠	斜長石ヒン岩	—	
7	FH—12—720	北海道式石冠	黒雲母一角閃石一石英斑岩	—	
8	FH—12—1009	たたき石	斜長石安山岩	○	
9	FH—12—1077	北海道式石冠	斜長石斑岩	○	
10	FH—12—1553	北海道式石冠	斑晶質輝石安山岩	—	組成分析
11	FH—12—1672	北海道式石冠	斜長石斑岩	—	
12	FH—12—2384	砥石	白雲母(?)一石英岩	—	
13	FH—12—2418	石皿片	変質石英閃緑岩	—	
14	FH—12—3057—①	北海道式石冠	輝石一斜長石玄武岩質安山岩	—	
15	FH—12, HP—38—11	砥石	石英質砂岩(?)岩	—	
16	FH—16—92	礫	輝石安山岩	—	
17	FH—16—254	くぼみ石	珪質堆積岩	—	
18	FH—6—1109	礫	輝石玄武岩一玄武岩質安山岩	—	
19	FH—16—2093	R礫	斜長石斑岩	○	
20	FH—16—3004	台石	輝石玄武岩質安山岩	—	
21	FH—21—180	たたき石	石英岩	○	組成分析
22	FH—21—33	たたき石	珪質細粒砂岩	○	
23	FH—23—6	たたき石	輝石安山岩	○	
24	FH—28—524	たたき石	強変質火成岩	○	組成分析
25	FH—29—203	すり石	輝石安山岩	○	
26	FH—33—107	たたき石	強変酸性火出岩	○	
27	FP—46—1	くぼみ石	珪化岩	○	
28	Q—11—27	スクレイパー	無斑晶質玄武岩	—	組成分析
29	サ5・F—21（P—1）	石斧	変輝緑岩	○	栄町5遺跡
30	サ5・J—17—221	石斧	ローソン石一藍閃石含有変玄武岩	○	栄町5遺跡

晶発達。弱い変質を受けており，有色鉱物（斜方輝石？）を置換した青緑色粘土鉱物（セラドナイト？）が見られる。鉄鉱あり。

No. 5　単斜輝石含有安山岩

空孔がやや目立つが，単斜輝石を含み，斜長石の斑晶と石基よりなる。鉄鉱あり。斜長石の集斑晶（径2－3mm）が見られる。

No. 6　斜長石ヒン岩

斜長石（最大径3～4mm）と少量の輝石斑晶状結晶および微斑晶の細粒部よりなり完晶質。鉄鉱も散点あるいは濃集。濃集部は角閃石などの分解かも知れない。輝石，斜長石の集斑晶状結晶あり。

No. 7　黒雲母一角閃石一石英斑岩

黒雲母，角閃石，石英，斜長石の粗粒結晶（0.5mm～5mm）および細粒基質よりなり，完晶質。

黒雲母，斜長石は自形～半自形。角閃石は自形。角閃石は変質を受け緑泥石と方解石の集合に変わっている部分あり。変質鉱物として緑レン石も見られる。石英は多形，黒雲母は多色性顕著だが赤味はあまり帯びていない。

No. 8　斜長石安山岩

ガラス基流晶質石基と斜長石斑晶，鉄鉱を主とする。

空孔をうめてカルセドニーが生成されている。緑泥石・方解石などの変質鉱物も見られる。沸石やモンモリロナイトが存在するかも知れない。くさび石が変質によって一部に生成されている。

No. 9　斜長石斑岩

斜長石の自形結晶の間を石英がうめている。斑状の斜長石には累帯構造が顕著，二次的に変質。自形輝石も二次的鉱物が生成され仮象となっている。

No. 10　斑晶質輝石安山岩

最大1cmに達する輝石や斜長石の斑晶とガラス質石基，鉄鉱よりなる。斜長石は多量の輝石，鉄鉱，ガラスの包有物を含む。化学組成は表に示す。

No. 11　斜長石斑岩

斜長石の粗粒自形結晶と石英を主とする基質部よりなる。完晶質岩。有色鉱物は一部に輝石が残っているものの，ほとんどは緑泥石，方解石の集合部に変わってしまっている。No. 9の変質の強い部分の可能性もある。

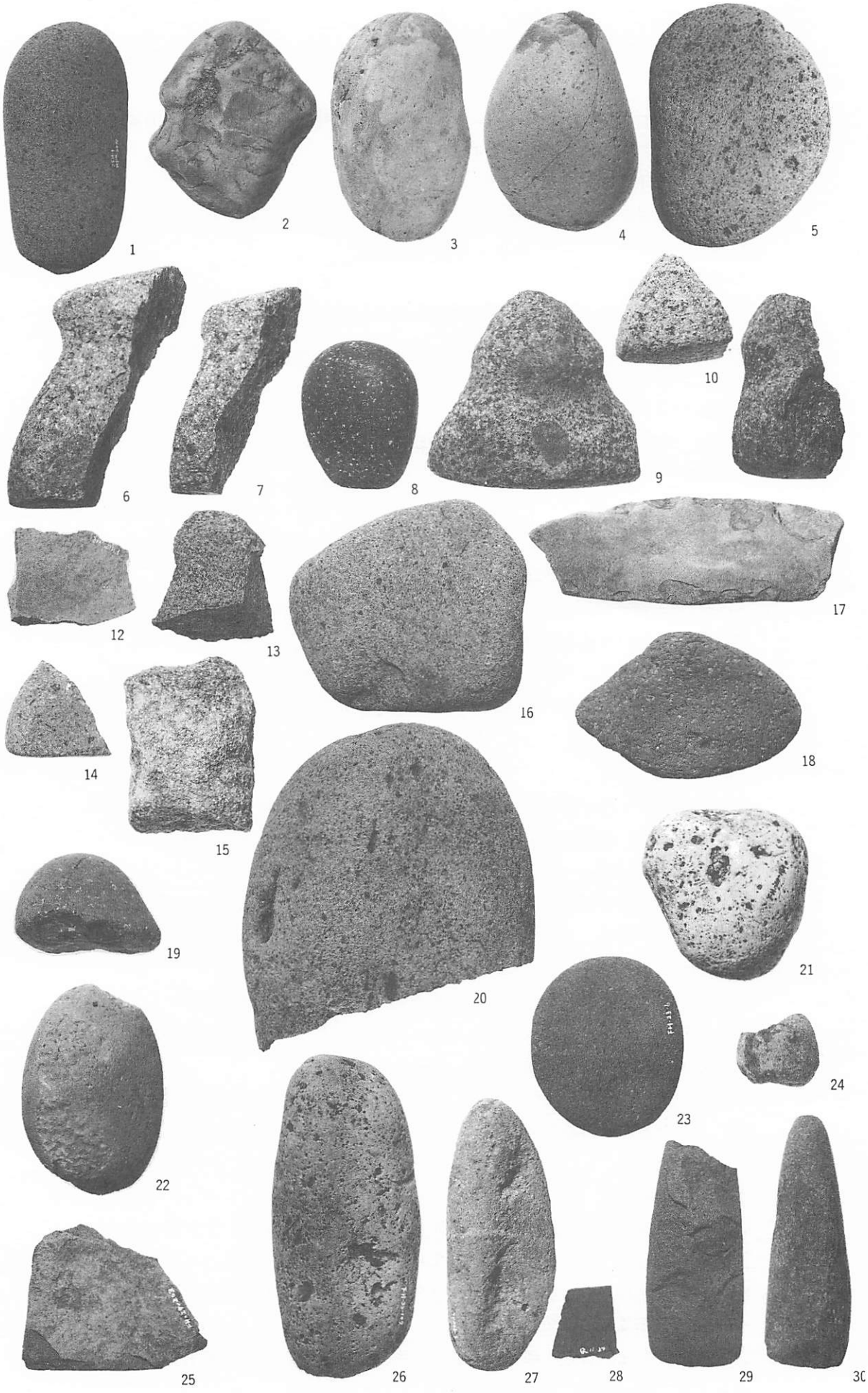
No. 12　白雲母（？）一石英岩（変質珪質変質岩）雲母様鉱物と石英，褐色不透明鉱物（少量）よりなる。珪質堆積岩がホルンフェルス化したか，泥質岩が珪化変質を受けた可能性がある。

No. 13　変質石英閃緑岩

主に半自形斜長石，石英と長石のミルメカイト（虫喰状連晶）と変質有色鉱物よりなる完晶質岩。初生有色鉱物として角閃石が一部に認められるがほとんどの有色鉱物は緑泥石，方解石などに変わっている。緑レン石も多い。

No. 14　輝石一斜長石玄武岩質安山岩

ガラス質の少ない石基，輝石，斜長石の密な斑晶よりなる。鉄鉱も見られる。集斑晶も目立つ。斑晶は1～2mm大。



図IV—17　岩石鑑定した石器類（1/3）

No. 15　石英質砂岩（？）

石英の1mm前後の他形結晶が散点し，この間を放射状のカルセドニー様鉱物や微結晶石英がうめている。

No. 16　輝石安山岩

石基はガラス基流晶質。石英および斜長石，輝石，鉄鉱の斑晶よりなる斜長石，輝石の集斑晶が目立ち，かつ斜長石，輝石の単純な双晶が目立つ。斑晶の径は1～2mm。

No. 17　珪質堆積岩（珪質頁岩）

石英の0.1mm径の砕屑粒を最大結晶とし，鉄鉱の微粒汚染をともなう頁岩。

No. 18　輝石玄武岩～玄武岩変質安山岩

輝石と多量の斜長石斑晶（最大径5mm）よりなる。

石基にはガラスは乏しい，鉄鉱が散点する。

基石は一部変質して緑泥石様鉱物になっている。

No. 19　斜長石斑岩

斜長石の斑状結晶（長径7～8mmに達する）と石英，カルセドニーなどの細粒基質部よりなる完晶質岩。基質部は緑色の変質鉱物が見られる。

No. 20　輝石玄武岩質安山岩

Ca輝石と斜長石(いずれも最大で1～2mm径)の斑晶鉄鉱，およびインターサータル類似の石基よりなる。各種変質粘土鉱物が少量生じている。かんらん石仮象と見られる緑泥石質の部分が散点する。

No. 21　石英岩（珪岩）

主に石英の集合よりなる。珪岩の再結晶したものか？

珪質堆積起源岩石ではないかと推定されるが特殊な珪質変質岩かも知れない。包有物のリングが石英中に見られ，再結晶によって生じたと思われる。分析値は表に示す。

No. 22　珪質細粒砂岩

砂岩砕屑粒を主とし針状～長柱状有色の鉱物（伸長方向負）をふくむ。

No. 23　輝石安山岩

褐色に汚濁したガラス質石基と斜長石，輝石の斑晶よりなる。輝石の周囲は単斜輝石でとりまかれる"反応縁"が見られる。

No. 24　強変質火成岩

火成岩起源を示す組織が部分的に残っているが，かなりの部分は少量の白雲母を含む二次的変質鉱物（粗粒角閃石など）が生成されている。角閃石は粗粒輝石をとり囲む。スピネルもあり超苦鉄質岩である。熱の強い影響を受けた変質岩でもあろうが詳細不明。組成は表に示すようにMgOにとむ。

No. 25　輝石安山岩

斜長石と輝石の斑晶（最大1～2mm径）とガラス基流晶質の石基よりなり，モンロリナイト様変質鉱物が一部に見られる。

No. 26　強変質酸性火山岩

火山岩の斑晶様の組織がわずかに認められるが大部分は後の珪化により，石英と

表IV—12　蛍光X線分析法による全岩主成分化学組成値

Sample No.	10	21	24	28
SiO_2	59.57%	99.25	46.84	46.31
TiO_2	0.75	0.01	0.17	2.00
Al_2O_3	15.84	0.59	13.58	16.32
ΣFe_2O_3	8.71	0.07	6.51	16.72
MnO	0.16	0.0	0.12	0.17
MgO	3.62	0.04	22.53	5.78
CaO	7.26	0.07	8.76	7.63
Na_2O	2.60	0.06	1.17	3.73
K_2O	0.91	0.07	0.04	1.46
P_2O_5	0.36	0.0	0.01	0.19
Total	99.78	100.16	99.73	100.31
Cr	19 ppm		299	39
Ni	5 ppm		651	31

※通常1～2%程度の H_2O を含むが，灼熱により H_2O をのぞいて分析したもの

柱状鉱物（斜消光伸長方向負）の集合に変わっている。詳細不明。

No. 27　珪化岩

全体を二次的に再結晶したと思われる石英が充てんしている。

No. 28　無斑晶質玄武岩

輝石，斜長石の微斑晶と斜長石を主とする石基よりなる。

かんらん石斑晶が散点している。

組成は表に示すがアルカリにとむ玄武岩でこの種の岩石の産出は道内ではかなり限られると思われる。

No. 29　変輝緑岩

径0.1～0.5mm大の輝石がオフィティック組織を作り残存しており，周辺は褐色変質鉱物に変わっている。斜長石はソーシュライト化していると思われる。変質鉱物として多色性の強いパンペリー石が認められる。

No. 30　ローソン石一藍閃石含有変玄武岩

単斜石の粒状結晶を多数残す（径0.1～0.5mm大）。

この間を長柱状自形のローソン石，青色を呈する藍閃石，不定形集合のパンペリー石，石英，曹長石がうめている。藍閃石は輝石の周辺に特徴的に産する。神居古潭帯産。

(3)　フゴッペ貝塚から出土した石冠に残存する脂肪の分析

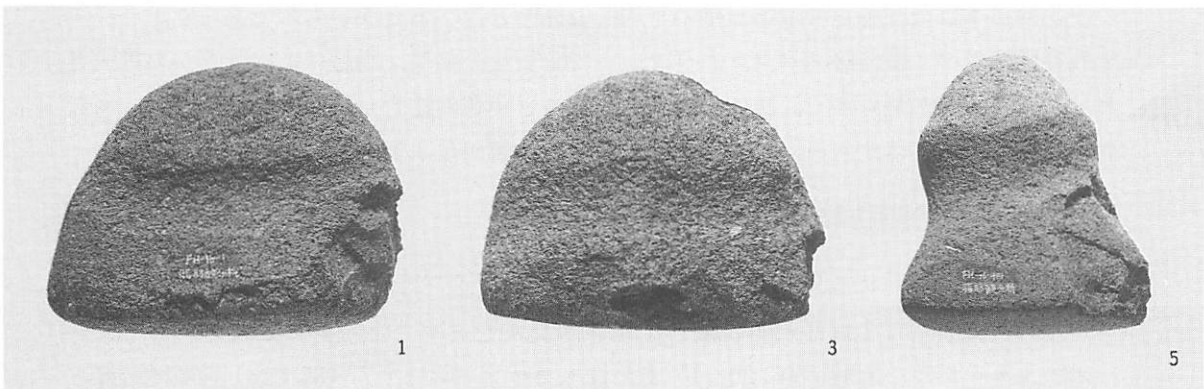
中野寛子，明瀬雅子，長田正宏
（㈱ズコーシャ総合科学研究所）
中野益男，福島道広
（帯広畜産大学畜産環境学科）

動植物を構成している主要な生体成分にタンパク質，糖質（炭水化物）および脂質（脂肪・油脂）がある。これらの生体成分は環境の変化に対して不安定で，圧力，水分などの物理的作用を受けて崩壊してゆくだけでなく，土の中に住んでいる微生物による生物的作用によっても分解してゆく。これまで生体成分を構成している有機質が完全な状態で遺存するのは，地下水位の高い低地遺跡，泥炭遺跡，貝塚などごく限られた場所にすぎないと考えられてきた。

最近，ドイツ新石器時代後期にバター脂肪が存在していたこと(1)，古代遺跡から出土した約2千年前のトウモロコシ種子(2)，約5千年前のハーゼルナッツ種子(3)に残存する脂肪の脂肪酸は安定した状態に保持されていることがわかった。このように脂肪は微量ながら比較的安定した状態で千年・万年という長い年月を経過しても変化しないで遺存することが判明した(4)。

脂質は有機溶媒に溶けて，水に溶けない成分を指している。脂質はさらに構造的な違いによって誘導脂質，単純脂質および複合脂質に大別される。これらの脂質を構成している主要なクラス（種）が脂肪酸であり，その種類，含量ともに脂質中では量も多い。脂肪酸には炭素の鎖がまっすぐに延びた飽和型と鎖の途中に二重結合をもつ不飽和型がある。動物は炭素数の多い飽和型の脂肪酸，植物は不飽和型の脂肪酸を多く持つというように，動植物の種ごとに固有の脂肪酸を持っている。ステロールについても，動物性のものはコレステロール，植物性のものはシトステロール，微生物はエルゴステロールというように動植物に固有の特徴がある。従って出土遺物の脂質の種類およびそれらを構成している脂肪酸組成と現生動植物のそれとを比較することによって，目に見える形では遺存しない原始古代の動植物を判定することが可能である。

この「残存脂肪分析法」を腐朽分解が進んだ，考古学的実証の困難な遺跡の解明に適用し，フゴッペ貝塚から出土した遺物に残存する脂肪を分析することによって，石冠の性格



図IV—18　残存脂肪の分析をした北海道式石冠

表IV—13　試料の残存脂肪抽出量

試料No.	採　取　地　点	湿重量(g)	全脂質(mg)	抽出率(%)
1	FH—16 No. 1 北海道式石冠	1640.0	34.9	0.0021
2	同上石冠の周辺土壌	869.2	9.1	0.0010
3	FH—16 No. 895 北海道研冠	1459.5	3.4	0.0002
4	同上石冠の周辺土壌	635.7	6.0	0.0009
5	FH—16 No. 981 北海道式石冠	899.6	4.7	0.0005
6	同上石冠の周辺土壌	602.2	8.2	0.0014

を解明しようとした。

1　石冠および土壌試料

フゴッペ貝塚は縄文時代のものと推定されている。この貝塚から北海道式石冠が出土した。分析試料は石冠そのものと，石冠の周辺土壌を用いた。石冠 FH—16 No. 1 を資料 No. 1，その周辺土壌を試料 No. 2，石冠 FH—16 No. 895 を試料 No. 3，その周辺土壌を試料 No. 4，石冠 FH—16 No. 981 を試料 No. 5，その周辺土壌を試料 No. 6 とした。

2　残存脂肪の抽出

石冠および土壌試料602～1640g に3倍のクロロホルム—メタノール(2：1)混液を加え，超音波浴槽中で30分間処理し残存脂肪を抽出した。処理液を濾過後，残渣に再度クロロホルム—メタノール混液を加え，再び30分間超音波処理をする。この操作をさらに2回繰り返して残存脂胞を抽出した。得られた全抽出溶媒に1％塩化バリウムを全抽出溶媒の4分の1容量加え，クロロホルム層と水層に分配し，下層のクロロホルム層を濃縮して残存脂肪を分離した。

残存脂肪の抽出量を表Ⅳ—13に示す。抽出率は石冠試料で0.0002～0.0021％，平均0.0009％，土壌試料で0.0009～0.0014％，平均0.0011％であった。この値は出土石器に主としてエゾシカの油が付着していたと判定した北海道日進33遺跡からの出土石器の平均抽出率0.0056％[5]，出土石器にシカ，イノシシや野鳥およびカタクチイワシやクジラなどの海産動物が付着していたと判定した静岡県清水柳北遺跡からの出土土器の0.0029％[6] に比べると低いが，出土石器にイノシシやニホンジカの油が付着していたと判定した福島県仙台内前遺跡からの出土石器の0.0014％[7] とはほぼ同程度の抽出率であった。また土壌試料の平均抽出率は全国各地の遺跡土壌の平均0.02％[8] と比べると低いものであった。

残存脂肪をケイ酸薄層クロマトグラフィーで分析した結果，脂肪は単純脂質から構成され，遊離脂肪酸が最も多く，次いでグリセロールと脂肪の結合したトリグリセリド，ステロールエステル，ステロールの順に多く，微量の長鎖炭化水素も存在していた。

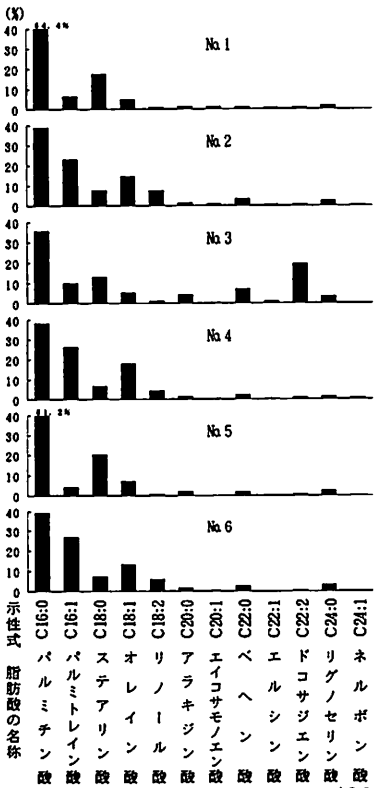
3　残存脂肪の脂肪酸組成

分離した残存脂肪に5％メタノール性塩酸を加え，125℃封管中で2時間分解し，メタノール分解によって生成した脂肪酸メチルエステルをクロロホルムで分離し，ヘキサン—エチルエーテル—酢酸（80：30：1）またはヘキサン—エーテル（85：15）を展開溶媒とするケイ酸薄層クロマトグラフィーで精製後，ガスクロマトグラフィーで分析した[9]。

残存脂肪の脂肪酸組成を図Ⅳ—19に示す。残存脂肪から12種類の脂肪酸を検出した。このうちパルミチン酸（C16：0），パルミトレイン酸（C16：1），ステアリン酸（C18：0），オレイン酸（C18：1），リノール酸（C18：2），アラキジン酸（C20：0），エイコサモノエン酸（C20：1），ベヘン酸（C22：0），エルシン酸（C22：1），リグノセリン酸（C24：0），ネルボン酸（C24：0）の11種類の脂肪酸をガスクロマトグラフィー—質量分析により同定した。

石冠試料のうちNo. 1とNo. 5は非常によく似た脂肪酸組成パターンを示した。主要な脂肪酸はパルミチン酸で約61～64%分布していた。次いで多いのがステアリン酸で約17～20%分布し，オレイン酸，パルミトレイン酸が10%以下の分布量であった。一般に考古遺物はパルミチン酸の分布割合が高い。これは長い年月の間にオレイン酸，リノール酸といった不飽和脂肪酸の一部が分解してパルミチン酸が生成するためで，主として植物遺体の土壌化に伴う腐植物から来ていると推定される。また高等動物，特に臓器，脳，神経組織，血液，胎盤に特徴的にみられるベヘン酸，リグノセリン酸などの高級脂肪酸は両者の合計で3～4%と低い分布割合であった。石冠試料の試料No. 3では主要な脂肪酸はパルミチン酸であるが，分布量は約36%で他の2つの石冠試料よりはかなり低い値であった。次いでステアリン酸，パルミトレイン酸，オレイン酸の順に分布していた。一方高級脂肪酸はベヘン酸，リグノセリン酸の合計で約10%と，試料No. 1およびNo. 5よりも高い分布割合であった。またこの試料には特にドコサジエン酸が19%も分布していた。ドコサジエン酸を多く含むものとしては魚油などがあげられる。

石冠の周辺土壌である試料No. 2, No. 4, およびNo. 6も互いに非常によく似た脂肪酸組成パターンを示した。すなわち主要な脂肪酸はパルミチン酸で約38～39%分布していた。次いで多いのがパルミトレイン酸で約23～27%，オレイン酸が約13～18%，ステアリン酸が約6－8%分布していた。パルミトレイン酸を多く含む動植物は限られているので，植物由来のリノール酸，リノレン酸の分解物から生じたものと推測される。動物脂肪に多く分布するオレイン酸は，石冠試料よりも土壌試料の方に多かった。高級脂肪酸はベヘン酸，リグノセリン酸の合計で約4～6%分布していた。



図Ⅳ—19　試料に残存する脂肪の脂肪酸組成

以上のことから石冠試料，石冠周辺土壌ともに植物性脂肪，動物性脂肪の両方が残存していた可能性がある。しかし，脂肪酸のうち動物脂肪に多いオレイン酸が石冠よりも土壌に多いことから石冠の方に植物性遺存体が多く付着していると推測される。また石冠試料No. 3には他の試料よりも多く魚油と推定される動物性脂肪が付着していた可能性がある。

4　残存脂肪のステロール組成

残存脂肪ステロールをヘキサン—エチルエーテル—酢酸（80：30：1）を展開溶媒とするケイ酸薄層クロマトグラフィーで分離・精製後，ピリジン—無水酢酸（1：1）を窒素気流下で反応させてアセテート誘導体にしてからガスクロマトグラ

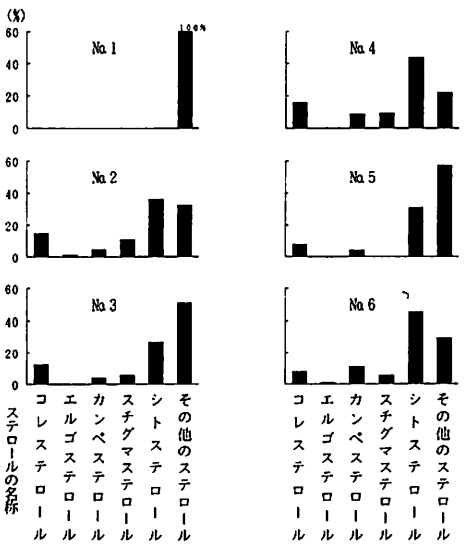
表IV—14　試料に分布するコレステロールとシトステロールの割合

試料No.	コレステロール(%)	シトステロール(%)	コレステロール／シトステロール
1	—	—	—
2	14.76	36.27	0.41
3	12.32	26.79	0.46
4	15.93	44.09	0.36
5	7.77	30.81	0.25
6	7.81	45.32	0.17

フィーにより分析した。残存脂肪の主なステロール組成を図Ⅳ—20に示す。残存脂肪から3～13種類のステロールを検出した。このうちコレステロール，エルゴステロール，カンペステロール，スチグマステロール，シトステロールなど7種類のステロールをガスクロマトグラフィー—質量分析により同定した。

各試料中のステロール組成をみると，動物由来のコレストロールは石冠試料 No. 1 では検出されず，石冠試料 No. 5 とその周辺土壌では約8％の含有量であった。石冠周辺土壌 No. 2 と石冠試料 No. 3，その周辺土壌試料 No. 4 は約12～16％のコレステロール含量であった。通常一般的な植物腐植土中にはコレステロールは4～8％含まれていることから，試料 No. 2，No. 3 および No. 4 は比較的動物性脂肪が多いことを示唆している。植物由来のシトステロールは試料 No. 1 では検出されなかったが，その他の試料には約27～45％分布していた。トチ，クルミ，ドングリなどのような堅果類に多く含まれているカンペステロール，スチグマステロールのうち，カンペステロールは試料 No. 1 を除きいずれの試料にも約4～11％分布し，スチグマステロールは試料 No. 1 と No. 5 を除き他の4試料中に約6～11％分布していた。これらカンペステロール，スチグマステロールの分布割合は通常の植物腐植土や動物遺体が残存していた土壌中のそれらに比べるとかなり高いものである。従って，石冠および石冠周辺土壌試料には植物性脂肪，動物性脂肪の両方が含まれているが，特に堅果類の脂肪がかなり多く残存していた可能性がある。石冠試料 No. 1 ではコレステロール，シトステロールなどの主要なステロールが検出されなかったのは，多分脂質含量が少なくて分析できなかったものと考えられる。

一般に動物遺体の存在を示唆するコレステロールとシトステロールの分布比の指標値は土壌で0.6以上[8]，土器・石器・石製品で0.8～23.5をとる[10,11]。石冠および土壌試料のコレステロールとシトステロールの分布比を表Ⅳ—14に示す。表からわかるように，試料 No. 1 を除きいずれの試料もその分布比が0.6以下であった。この値から判定すると，試料中には動物性脂肪より植物性脂肪の方が多いことになる。しかし試料 No. 2，No. 3，No. 4 のコレステロール含量は12％以上あるので，植物遺体の多い試料の中では，動物性遺体が比較的多いと推定される。



図IV—20　試料に残存する脂肪のステロール組成

表IV—15　試料に残存する脂肪の脂肪酸組成から算出した動物脂肪の分布割合

脂肪酸	No.1	*1	2	3	4	5	6	7	8	9	計算値
C24：0	64.4	23.8	30.8	28.5	38.2	34.6	10.5	6.7	18.2	45.9	63.093
C16：1	6.2	—	6.0	3.6	12.7	8.5	0.2	1.0	—	22.8	8.391
C16：2	—	—	—	—	—	—	—	—	0.1	—	0.227
C18：0	17.4	8.0	11.2	10.6	9.4	14.4	2.8	0.9	31.5	6.4	15.502
C18：1	4.7	5.4	38.1	47.3	25.2	25.4	34.0	9.4	25.8	14.0	5.542
C18：2	0.8	—	10.3	2.1	3.0	8.1	52.0	72.3	42.8	4.3	0.211
C18：3	—	—	—	—	—	—	0.6	9.8	—	—	2.609
C20：0	1.3	1.0	1.4	1.8	2.6	6.9	—	—	7.4	1.1	3.724
C20：1	1.2	1.0	0.1	1.2	0.7	—	—	—	2.3	2.0	1.362
C20：2	—	—	0.1	0.6	—	—	—	—	0.2	—	2.067
C20：4	—	—	—	0.1	—	—	—	—	—	—	0.596
C22：0	1.0	5.4	0.3	0.5	—	—	—	—	0.6	0.4	2.740
C22：1	0.6	—	0.1	0.3	2.4	—	—	—	0.2	1.3	1.337
C22：2	0.7	6.9	0.3	0.3	—	—	—	—	0.1	0.4	2.432
C24：0	1.8	—	0.3	0.7	—	—	—	—	0.3	1.0	0.345
C24：1	—	—	0.3	1.7	—	—	—	—	—	0.3	5.703
分布割合(%)		0.7	40.8	20.5	0.8	9.1	15.5	2.0	8.5	2.1	

脂肪酸	No.2	*1	2	3	4	5	6	7	8	9	計算値
C16：0	38.9	23.8	30.8	28.5	38.2	34.6	10.5	6.7	18.2	45.9	39.130
C16：1	23.0	—	6.0	3.6	12.7	8.5	0.2	1.0	—	22.8	22.452
C16：2	—	—	—	—	—	—	—	—	0.1	—	0.0627
C18：0	7.5	8.0	11.2	10.6	9.4	14.4	2.8	0.9	31.5	6.4	7.691
C18：1	14.4	5.4	38.1	47.3	25.2	25.4	34.0	9.4	25.8	14.0	14.207
C18：2	7.4	—	10.3	2.1	3.0	8.1	52.0	72.3	42.8	4.3	7.473
C18：3	—	—	—	—	—	—	0.6	9.8	—	—	0.472
C20：0	1.3	1.0	1.4	1.8	2.6	6.9	—	—	7.4	1.1	0.655
C20：1	0.7	1.0	0.1	1.2	0.7	—	—	—	2.3	2.0	1.730
C20：2	—	—	0.1	0.6	—	—	—	—	0.2	—	0.265
C20：4	—	—	—	0.1	—	—	—	—	—	—	0.089
C22：0	3.4	5.4	0.3	0.5	—	—	—	—	0.6	0.4	0.764
C22：1	0.5	—	0.1	0.3	2.4	—	—	—	0.2	1.3	0.007
C22：2	0.4	6.9	0.3	0.3	—	—	—	—	0.1	0.4	1.143
C24：0	2.4	—	0.3	0.7	—	—	—	—	0.3	1.0	1.240
C24：1	0.2	—	0.3	1.7	—	—	—	—	—	0.3	1.292
分布割合(%)		1.7	21.4	11.1	11.1	12.5	12.0	1.5	8.4	20.2	

脂肪酸	No.3	*1	2	3	4	5	6	7	8	9	計算値
C16：0	35.5	23.8	30.8	28.5	38.2	34.6	10.5	6.7	18.2	45.9	34.896
C16：1	10.0	—	6.0	3.6	12.7	8.5	0.2	1.0	—	22.8	8.132
C16：2	—	—	—	—	—	—	—	—	0.1	—	0.017
C18：0	13.0	8.0	11.2	10.6	9.4	14.4	2.8	0.9	31.5	6.4	11.718
C18：1	5.1	5.4	38.1	47.3	25.2	25.4	34.0	9.4	25.8	14.0	3.645
C18：2	1.1	—	10.3	2.1	3.0	8.1	52.0	72.3	42.8	4.3	0.009
C18：3	—	—	—	—	—	—	0.6	9.8	—	—	1.794
C20：0	4.2	1.0	1.4	1.8	2.6	6.9	—	—	7.4	1.1	1.514
C20：1	0.3	1.0	0.1	1.2	0.7	—	—	—	2.3	2.0	1.381
C20：2	—	—	0.1	0.6	—	—	—	—	0.2	—	0.215
C20：4	—	—	—	0.1	—	—	—	—	—	—	0.073
C22：0	6.9	5.4	0.3	0.5	—	—	—	—	0.6	0.4	6.113
C22：1	1.0	—	0.1	0.3	2.4	—	—	—	0.2	1.3	5.202
C22：2	19.4	6.9	0.3	0.3	—	—	—	—	0.1	0.4	7.461
C24：0	3.4	—	0.3	0.7	—	—	—	—	0.3	1.0	1.557
C24：1	—	—	0.3	1.7	—	—	—	—	—	0.3	0.012
分布割合(%)		10.4	21.8	6.7	32.6	6.4	3.3	1.8	1.7	15.2	

* 対象名：1　イノシシ
2　キジ
3　マガモ
4　オットセイ
5　イルカ
6　ハイイヌガヤ
7　オニグルミ
8　ミズナラ
9　ヒトの体脂肪

脂肪酸	No.4	*1	2	3	4	5	6	7	8	9	計算値
C16：0	38.2	23.8	30.8	28.5	38.2	34.6	10.5	6.7	18.2	45.9	38.614
C16：1	26.1	—	6.0	3.6	12.7	8.5	0.2	1.0	—	22.8	25.257
C16：2	—	—	—	—	—	—	—	—	0.1	—	0.095
C18：0	6.5	8.0	11.2	10.6	9.4	14.4	2.8	0.9	31.5	6.4	7.151
C18：1	17.6	5.4	38.1	47.3	25.2	25.4	34.0	9.4	25.8	14.0	17.258
C18：2	4.2	—	10.3	2.1	3.0	8.1	52.0	72.3	42.8	4.3	4.325
C18：3	—	—	—	—	—	—	0.6	9.8	—	—	0.938
C20：0	1.4	1.0	1.4	1.8	2.6	6.9	—	—	7.4	1.1	0.361
C20：1	0.4	1.0	0.1	1.2	0.7	—	—	—	2.3	2.0	2.225
C20：2	—	—	0.1	0.6	—	—	—	—	0.2	—	0.592
C20：4	—	—	—	0.1	—	—	—	—	—	—	0.180
C22：0	2.2	5.4	0.3	0.5	—	—	—	—	0.6	0.4	0.283
C22：1	0.3	—	0.1	0.3	2.4	—	—	—	0.2	1.3	0.451
C22：2	1.0	6.9	0.3	0.3	—	—	—	—	0.1	0.4	0.648
C24：0	1.5	—	0.3	0.7	—	—	—	—	0.3	1.0	1.473
C24：1	0.7	—	0.3	1.7	—	—	—	—	—	0.3	2.252
分布割合(%)		0.6	27.8	14.9	6.9	11.4	12.6	1.7	8.7	15.5	

脂肪酸	No.5	*1	2	3	4	5	6	7	8	9	計算値
C16：0	61.2	23.8	30.8	28.5	38.2	34.6	10.5	6.7	18.2	45.9	59.910
C16：1	3.9	—	6.0	3.6	12.7	8.5	0.2	1.0	—	22.8	6.029
C16：2	—	—	—	—	—	—	—	—	0.1	—	0.202
C18：0	20.2	8.0	11.2	10.6	9.4	14.4	2.8	0.9	31.5	6.4	18.307
C18：1	7.0	5.4	38.1	47.3	25.2	25.4	34.0	9.4	25.8	14.0	7.821
C18：2	0.7	—	10.3	2.1	3.0	8.1	52.0	72.3	42.8	4.3	0.099
C18：3	—	—	—	—	—	—	0.6	9.8	—	—	2.536
C20：0	2.1	1.0	1.4	1.8	2.6	6.9	—	—	7.4	1.1	4.331
C20：1	—	1.0	0.1	1.2	0.7	—	—	—	2.3	2.0	2.000
C20：2	—	—	0.1	0.6	—	—	—	—	0.2	—	2.022
C20：4	—	—	—	0.1	—	—	—	—	—	—	0.576
C22：0	1.8	5.4	0.3	0.5	—	—	—	—	0.6	0.4	2.828
C22：1	—	—	0.1	0.3	2.4	—	—	—	0.2	1.3	2.232
C22：2	0.7	6.9	0.3	0.3	—	—	—	—	0.1	0.4	2.679
C24：0	2.4	—	0.3	0.7	—	—	—	—	0.3	1.0	0.426
C24：1	0.1	—	0.3	1.7	—	—	—	—	—	0.3	5.515
分布割合(%)		0.9	41.3	20.6	2.3	7.4	15.2	2.0	7.9	2.4	

脂肪酸	No.6	*1	2	3	4	5	6	7	8	9	計算値
C16：0	39.2	23.8	30.8	28.5	38.2	34.6	10.5	6.7	18.2	45.9	39.623
C16：1	26.5	—	6.0	3.6	12.7	8.5	0.2	1.0	—	22.8	25.819
C16：2	—	—	—	—	—	—	—	—	0.1	—	0.091
C18：0	7.1	8.0	11.2	10.6	9.4	14.4	2.8	0.9	31.5	6.4	7.629
C18：1	13.0	5.4	38.1	47.3	25.2	25.4	34.0	9.4	25.8	14.0	12.773
C18：2	5.9	—	10.3	2.1	3.0	8.1	52.0	72.3	42.8	4.3	6.066
C18：3	—	—	—	—	—	—	0.6	9.8	—	—	0.751
C20：0	1.6	1.0	1.4	1.8	2.6	6.9	—	—	7.4	1.1	0.659
C20：1	0.4	1.0	0.1	1.2	0.7	—	—	—	2.3	2.0	2.061
C20：2	—	—	0.1	0.6	—	—	—	—	0.2	—	0.451
C20：4	—	—	—	0.1	—	—	—	—	—	—	0.146
C22：0	2.6	5.4	0.3	0.5	—	—	—	—	0.6	0.4	0.562
C22：1	—	—	0.1	0.3	2.4	—	—	—	0.2	1.3	0.108
C22：2	0.6	6.9	0.3	0.3	—	—	—	—	0.1	0.4	1.003
C24：0	3.1	—	0.3	0.7	—	—	—	—	0.3	1.0	1.499
C24：1	—	—	0.3	1.7	—	—	—	—	—	0.3	1.920
分布割合(%)		1.0	25.0	12.6	9.8	12.6	12.0	1.5	8.5	17.0	

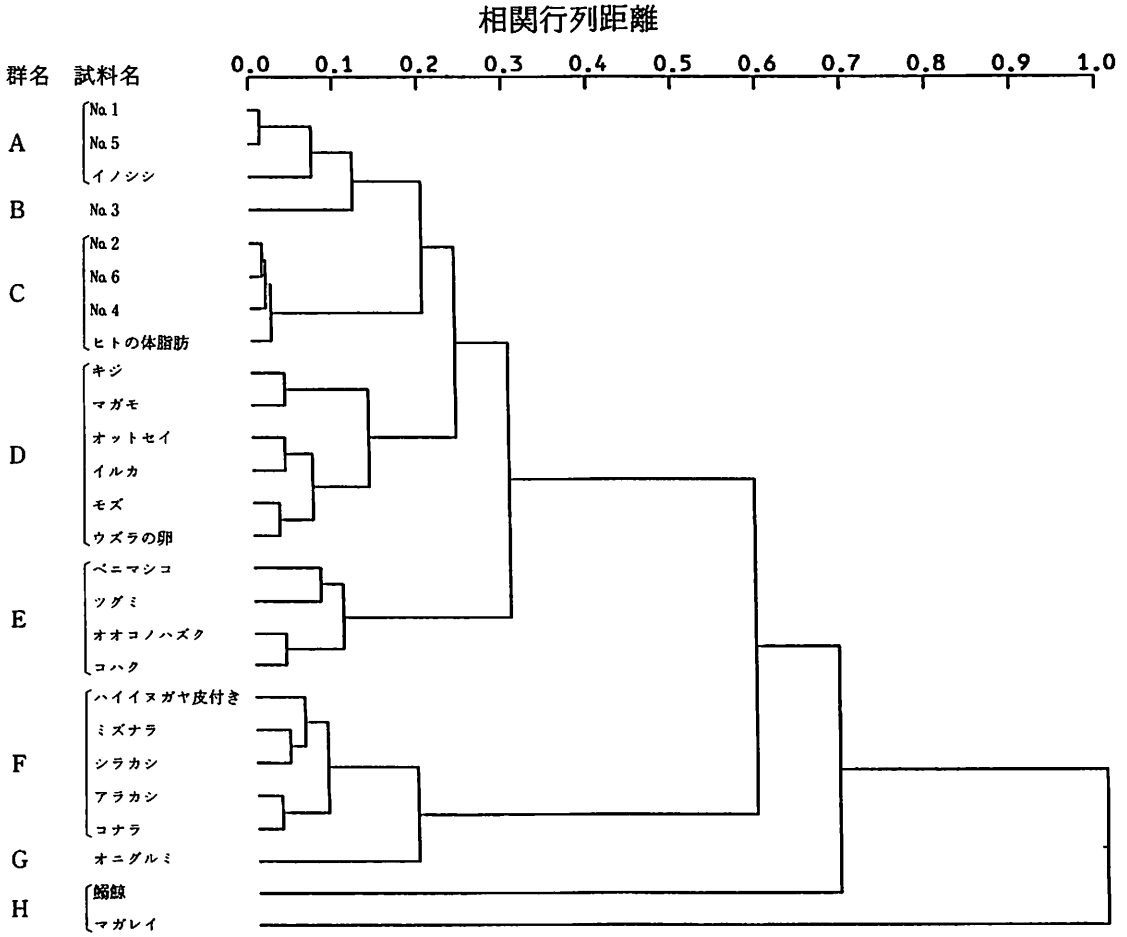
* 対象名：1 イノシシ
2 キジ
3 マガモ
4 オットセイ
5 イルカ
6 ハイイヌガヤ
7 オニグルミ
8 ミズナラ
9 ヒトの体脂肪

分布比が0.6以下を示したのは，各々の試料中でのシトステロール含量が一般的な土壌中よりも多いためと考えられる。

5　脂肪酸組成の数理解析

残存脂肪の脂肪酸組成をパターン化し，重回帰分析により各試料間の相関係数を求め，この相関係数を基礎にしてクラスター分析を行って各試料間の類似度を調べた。同時にそれら試料と現生各種動植物との類似度も比較して，石冠試料に付着している動植物種の特定を試みた。遺跡遺物および現生の対照試料のデータベースに基づいてクラスター分析を行い，その中から類似度の比較的近い対照試料を50検体以内にし，各試料間の脂肪酸組成の類似度をパターン間距離にして表した樹状構造図が図Ⅳ—21である。図からわかるように試料 No. 1 と No. 5 はイノシンと共に相関行列距離0.1以内でA群を形成した。試料 No. 3 は単独でB群を形成し，試料 No. 2, No. 4, No. 6 はヒトの体脂肪と共にC群を形成した。試料すべてがヒトの体脂肪と相関行列距離が近いのは，これらの石冠試料が人の手に触れていたことを示唆している。類似度を調べた他の試料は相関行列距離の近い順にD～H群に分かれた。

クラスター分析の成績からフゴッペ貝塚の試料すべてには動物の脂肪の混在が推測された。そこでクラスター分析から導き出された動物種のうち相関行列距離の近い動物種の脂肪酸組成に基づいて，誤差の二乗和で最も小さくなるような動物種の組み合わせをラグラ



図Ⅳ—21　試料に残存する脂肪の脂肪酸組成樹状構造図

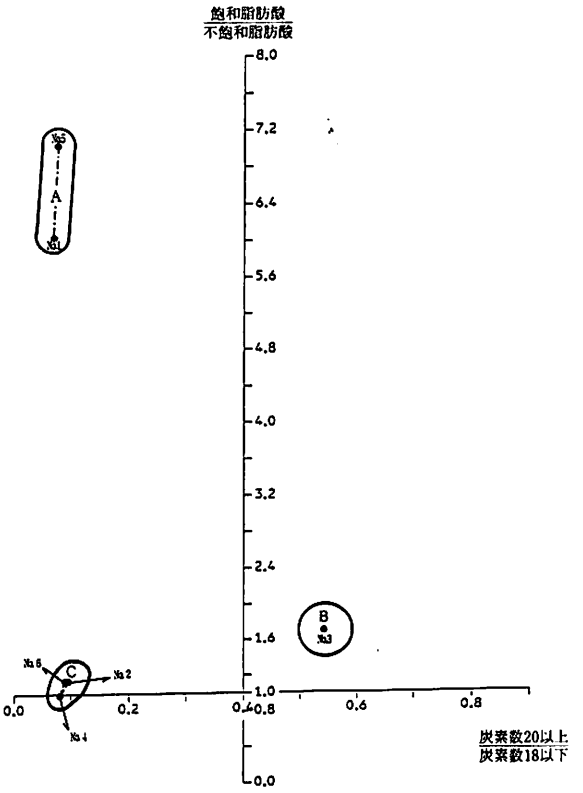
表IV—16　試料に残存する脂肪の分布割合(%)

試料No.	イノシシ	キ　ジ	マガモ	オットセイ	イルカ	ハイイヌガヤ	オニグルミ	ミズナラ	ヒト体脂肪
1	0.7	40.8	20.5	0.9	9.1	15.5	2.0	8.5	2.1
2	1.7	21.4	11.1	11.1	12.5	12.0	1.5	8.4	20.2
3	10.4	21.8	6.7	32.6	6.4	3.3	1.8	1.7	15.2
4	0.6	27.8	14.9	6.9	11.4	12.6	1.7	8.7	15.5
5	0.9	41.3	20.6	2.3	7.4	15.2	2.0	7.9	2.4
6	1.0	25.0	12.6	9.8	12.6	12.0	1.5	8.5	17.0

ンジェの未定係数法を用いて算出し，その分布割合を求めた[12]。算出の際には，相関行列距離からすると少し離れているが，ステロール組成の中にカンペステロールが含まれていたことから堅果植物もその組み合わせに加えた。その結果を表Ⅳ—15①～⑥に示す。またこれらの分布割合をまとめたのが表Ⅳ—16である。表3—1の試料No. 1を例にとると，石器試料に付着する脂肪がイノシシ0.7%，キジ40.8%，マガモ20.5%，オットセイ0.8%，イルカ9.1%，ハイイヌガヤ皮付き15.5%，オニグルミ2.0%，ミズナラ8.5%の割合で混合している時，試料の脂肪酸組成の実際の分析値と計算上の分析値が最も誤差なく近似することを示している。以上の結果から各試料中での分布割合の高いものを挙げてみると，石冠試料No. 1とNo. 5ではキジ，マガモ等の野鳥や，ハイイヌガヤ等の堅果植物が，試料N. 3ではオットセイ等の海産動物やイノシシ等の動物，キジ等の野鳥が，石冠周辺土壌試料No. 2, No. 4, No. 6ではキジ，マガモ等の野鳥やイルカ等の海産動物，ハイイヌガヤ等の堅果植物が多かった。従ってこれら3つの石冠試料は野鳥，海産動物，動物，木の実等のすりつぶしに用いられた可能性がある。

6　脂肪酸組成による種特異性相関

残存脂肪の脂肪酸組成から種を特定するために，中級脂肪酸（炭素数16のパルミチン酸から炭素数18のステアリン酸，オレイン酸，リノール酸まで）と高級脂肪酸（炭素数20のアラキジン酸以上）との比をX軸に，飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸との比をY軸にとり種特異性相関を求めた。この比例配分により第1象限の原点から離れた位置に高等動物の血液，脳，神経組織，臓器等に由来する脂肪，第1象現から第2象限の原点から離れた位置にヒト胎盤，第2象限の原点から離れた位置に高等動物の体脂肪，骨油に由来する脂肪がそれぞれ分布する。第2象限から第3象限にかけての原点付近に植物と微生物，原点から離れた位置に植物腐植，第3象限から第4象限に移る原点から離れた位置に海産動物が分布する。



図IV—22　試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成による種特異性相関

石冠および土壌試料の残存脂肪から求めた相関図を図Ⅳ—22に示す。石冠試料 No. 3 を除くいずれの試料も第2象限内に分布し，石冠試料 No. 1 と No. 5 でA群を形成し，第2象限内の原点から離れた位置にあった。石冠試料 No. 3 は第1象限の原点からあまり遠くない位置に分布し，単独でB群を形成した。石冠試料 No. 2，No. 4，No. 6 は第2象限のX軸に近い位置でC群を形成した。これらすべての試料の分布位置は高等動物の遺存体を示唆する所である。従って3つの石冠はいずれも高等動物もすりつぶしていた可能性がある。

7　総　　括

フゴッペ貝塚から出土した石器とその周辺土壌に残存する脂肪の分析を行った。残存する脂肪酸分析と数理解析の結果，これらの石器試料は野鳥，海産動物，動物等のすりつぶしに用いた可能性があることがわかった。特に FH—16 No. 895 の石冠はそれが著しい。またステロール分析の結果からはこれらの石器試料は植物，特に堅果類のすりつぶしに用いられた可能性があることもわかった。従って，3つの石冠試料は動植物のすりつぶしに用いられたものであろうと推測された。

参　考　文　献

（1） R. C. A. Rottländer and H. Schlichtherle：「Food identification of samples from archaeological sites」『Archaeo. Physika.』，10巻，1979，pp 260.

（2） D. A. Priestley, W. C. Galinat and A. C. Leopold：「Preservation of polyunsaturated fatty acid in ancient Anasazi maize seed」，『Nature』，292巻，1981，pp 146.

（3） R. C. A. Rottländer and H. Schlichtherle：「Analyse frühgeschichtlicher Gefässinhalte」，『Naturwissenschaften』，70巻，pp 33.

（4） 中野益男：「残存脂肪分析の現状」，『歴史公論』，第10巻（6），1984，pp 124.

（5） 中野益男，福島道広，中野寛子：「日進33遺跡遺物に残存する脂肪の分析」，『日進33遺跡—名寄市文化財調査報告書Ⅴ』，北海道名寄市教育委員会，1988，pp 87.

（6） 中野益男，福島道広，中野寛子，長田正宏：「清水柳北遺跡遺物に残存する脂肪の分析」，『未発表』，静岡県沼津市文化財センター.

（7） 中野益男，福島道広，中野寛子，長田正宏：「仙台内前遺跡の石器に残存する脂肪の分析」，『仙台内前遺跡—縄文時代草創期，中・近世墓抗の調査』，福島市教育委員会・㈶福島市振興公社，1988，pp 156.

（8） 中野益男，伊賀　啓，根岸　孝，安本教傳，畑　宏明，矢吹俊男，佐原　真，田中　琢：「古代遺跡に残存する脂肪の分析」，『脂質生化学研究』，第26巻，1984，pp 40.

（9） M. Nakano and W. Fischer：「The Glycolipids of *Lactobacillus casei* DSM 20021」，『Hoppe-Seyler's Z. Physiol. Chem.』，358巻，1977，pp 1439.

（10） 中野益男，：「真脇遺跡出土土器に残存する動物油脂」，『真脇遺跡—農村基盤総合設備事業能都東地区真脇工区に係わる発掘調査報告書』，能都町教育委員会・真脇遺跡発掘調査団，1986，p 401.

（11） 中野益男，根岸　孝，長田正宏，福島道広，中野寛子：「ヘロカルウス遺跡の石器製品に残存する脂肪の分析」，『ヘロカルウス遺跡』，北海道文化財研究所調査報告書，第3集，1987，p 191.

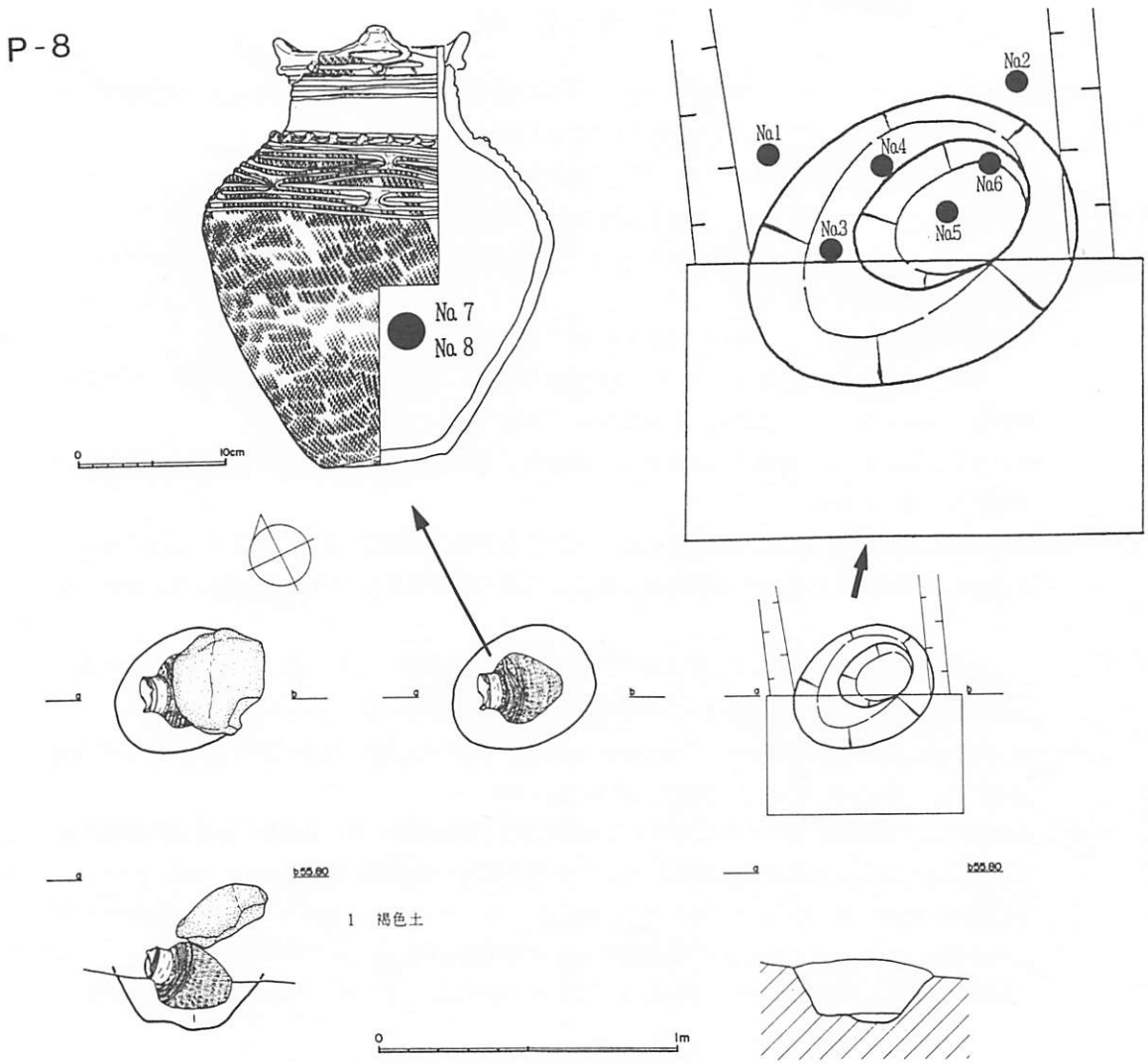
（12） 大地羊三：「電子計算機の手法とその応用」，『土木工学大成』，第4巻，東京，森北出版，1970.

(4)　栄町５遺跡の土壙に残存する脂肪の分析

中野寛子，明瀬雅子，長田正宏
（㈱ズコーシャ総合科学研究所）
中野益男，福島道広
（帯広畜産大学環境学科）

動植物を構成している主要な生体成分にタンパク質，糖質（炭水化物）および脂質（脂肪・油脂）がある。これらの生体成分は環境の変化に対して不安定で，圧力，水分などの物理的作用を受けて崩壊してゆくだけでなく，土の中に住んでいる微生物による生物的作用によっても分解してゆく。これまで生体成分を構成している有機質が完全な状態で遺存するのは，地下水位の高い低地遺跡，泥炭遺跡，貝塚などごく限られた場所にすぎないと考えられてきた。

最近，ドイツ新石器時代後期にバター脂肪が存在していたこと(1)，古代遺跡から出土した約２千年前のトウモロコシ種子(2)，約５千年前のハーゼルナッツ種子(3) に残存する脂肪の



図Ⅳ—23　土壙内外の土壌試料採取地点

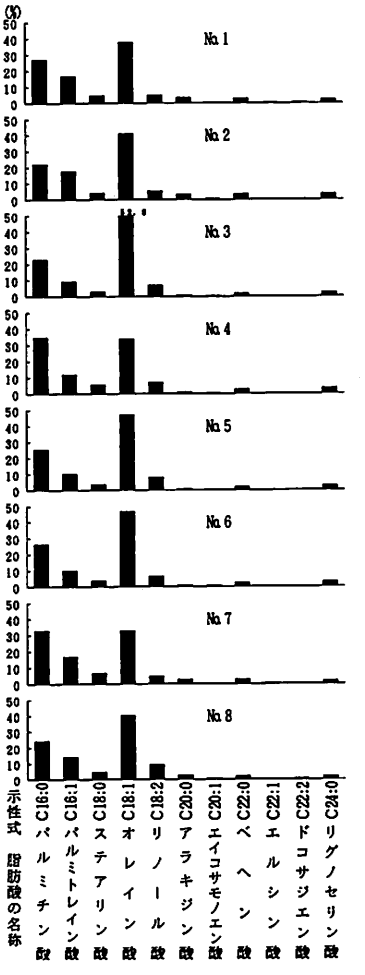
表Ⅳ－17　土壌試料の残存脂肪抽出量

試料 No.	採　取　地　点	湿重量(g)	全脂質(mg)	抽出率(%)
1	P－8 土壙外土壌	439.6	18.5	0.0042
2	〃	463.7	20.6	0.0044
3	P－8 土壙内土壌	214.5	15.4	0.0072
4	〃	191.0	22.8	0.0119
5	〃	236.5	12.7	0.0054
6	〃	208.6	14.2	0.0068
7	P－8 土壙壺内土壌	543.7	5.1	0.0009
8	〃	481.0	5.7	0.0012

脂肪酸は安定した状態に保持されていることがわかった。このように脂肪は微量ながら比較的安定した状態で千年・万年という長い年月を経過しても変化しないで遺存することが判明した[4]。

脂質は有機溶媒に溶けて，水に溶けない成分を指している。脂質はさらに構造的な違いによって誘導脂質，単純脂質および複合脂質に大別される。これらの脂質を構成している主要なクラス（種）が脂肪酸であり，その種類，含量ともに脂質中では最も多い。脂肪酸には炭素の鎖がまっすぐに延びた飽和型と鎖の途中に二重結合をもつ不飽和型がある。動物は炭素数の多い飽和型の脂肪酸，植物は不飽和型の脂肪酸を多く持つというように，動植物の種ごとに固有の脂肪酸を持っている。ステロールについても，動物性のものはコレステロール，植物性のものはシトステロール，微生物はエルゴステロールというように動植物に固有の特徴がある。従って出土遺物の脂質の種類およびそれらを構成している脂肪酸組成と現生動植物のそれとを比較することによって，目に見える形では遺存しない原始古代の動植物を判定することが可能である。

このような出土遺物に残存する脂肪を分析する方法を「残存脂肪分析法」という。この「残存脂肪分析法」を用いて，栄町５遺跡から出土した土壙および土器の性格を解明しようとした。



図Ⅳ－24　土壌試料に残存する脂肪の脂肪酸組成

1　土壌試料

栄町５遺跡は縄文時代中・後期および晩期のものと推定されている。この遺跡遺構から出土した縄文時代晩期後葉のものと考えられる土壙Ｐ－８内外の土壌試料とこの土壙内からほぼ完形で出土した壺形土器内の土壌を試料として採取した。この壺形土器内には大型の黒曜石製フレイク５点が入っていた。土壙内外の土壌試料採取地点を図１に示す。試料 No. 1 と No. 2 は土壙外から対照試料として採取し，試料 No. 3～No. 6

表IV—18　土壌試料に分布するコレステロールとシトステロールの割合

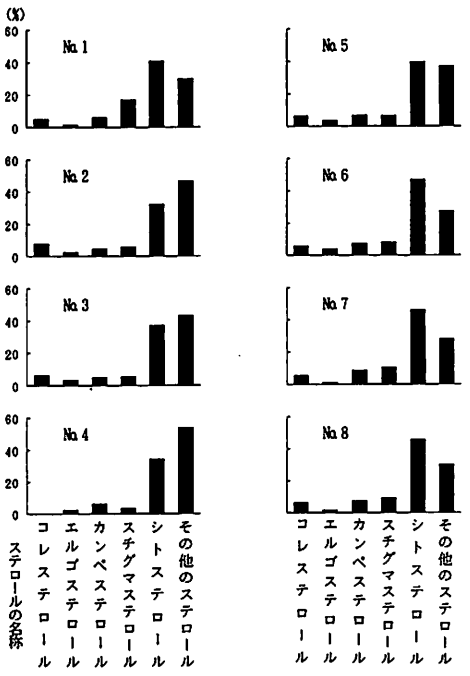
試料 No.	コレステロール(%)	シトステロール(%)	コレステロール/シトステロール
1	4.90	40.83	0.12
2	8.05	32.24	0.25
3	6.17	37.20	0.17
4	—	34.54	0
5	6.31	39.72	0.16
6	5.83	46.96	0.12
7	5.51	45.96	0.12
8	6.32	45.74	0.14

は土壙内底部からそれぞれ採取した。試料 No. 7 と No. 8 は壺形土器内から 2 か所採取した。

2　残存脂肪の抽出

土壌試料191～544g に 3 倍量のクロロホルム—メタノール(2：1)混液を加え，超音波浴槽中で30分間処理し残存脂肪を抽出した。処理液を濾過後，残渣に再度クロロホルム—メタノール混液を加え，再び30分間超音波処理をする。この操作をさらに 2 回繰り返して残存脂肪を抽出した。得られた全抽出溶媒に 1 %塩化バリウムを全抽出溶媒の 4 分の 1 の容量加え，クロロホルム層と水層に分配し，下層のクロロホルム層を濃縮して残存脂肪を分離した。

残存脂肪の抽出量を表IV—17に示す。抽出率は0.0009～0.0119%，平均0.0053%であった。この値は出土土壙を土壙墓かどうか判定した北海道納内 3 遺跡の土壌試料の平均抽出率0.0032%[5]，宮城県摺萩遺跡の土壌試料の0.0030%[6]，福島県堂後遺跡の土壌試料の0.0025%[7]，北海道美沢 3 遺跡の土壌試料の0.0016%[8]，兵庫県寺田遺跡の土壌試料の0.0016%[9]，出土遺物を甕棺と判定した静岡県原川遺跡の土壌試料の0.0041%[10] などとほぼ同率であった。



図IV—25　土壌試料に残存する脂肪のステロール組成

残存脂肪をケイ酸薄層クロマトグラフィーで分析した結果，脂肪は単純脂質から構成され，遊離脂肪酸が最も多く，次いでグリセロールと脂肪酸の結合したトリアシルグリセロール（トリグリセリド），ステロールエステル，ステロールの順に多く，微量の長鎖炭化水素も存在していた。

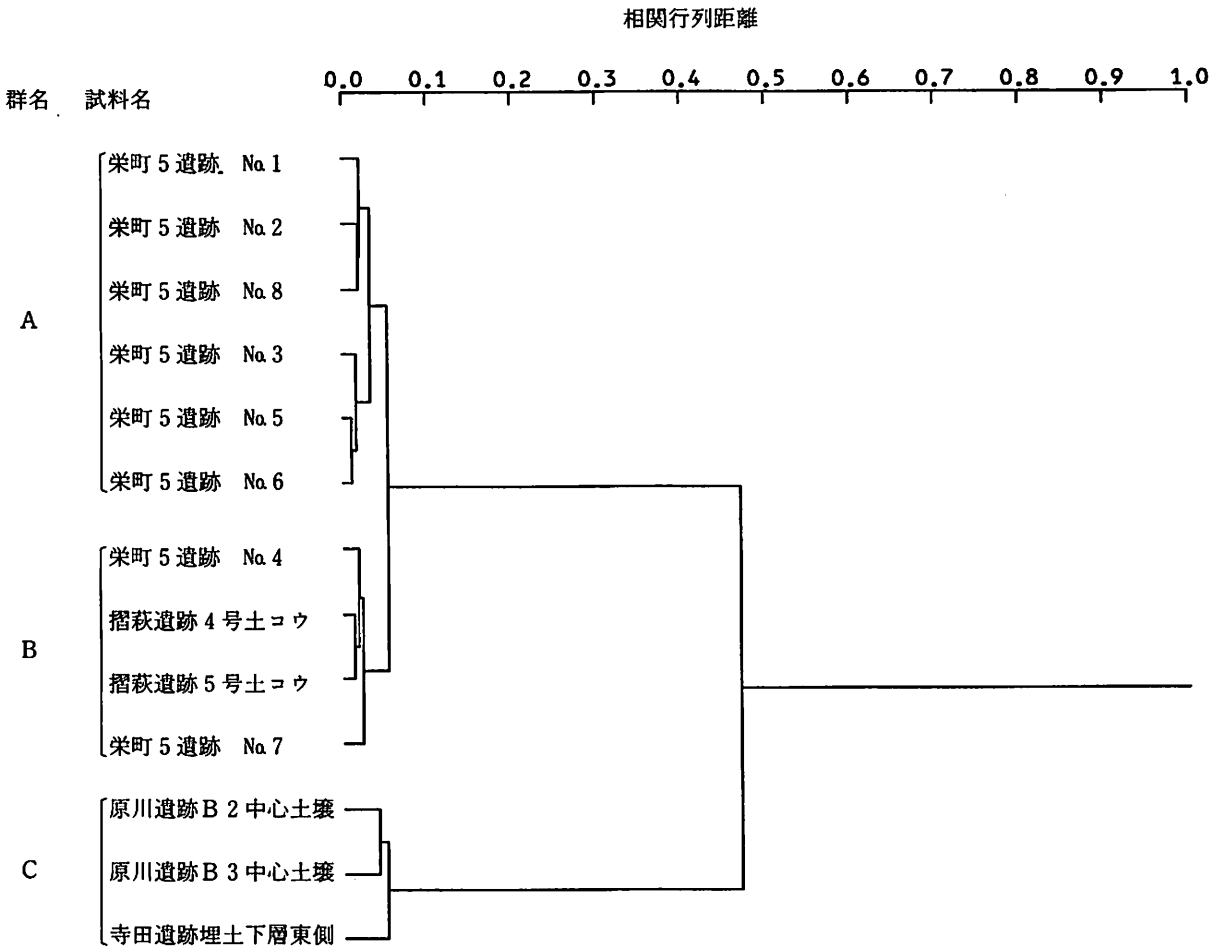
3　残存脂肪の脂肪酸組成

分離した残存脂肪に 5 %メタノール性塩酸を加え，125℃封管中で 2 時間分解し，メタノール分解によって生成した脂肪酸メチルエステルをクロロホルムで分

離し，ヘキサン—エチルエーテル—酢酸（80：30：1）またはヘキサン—エーテル（85：15）を展開溶媒とするケイ酸薄層クロマトグラフィーで精製後，ガスクロマトグラフィーで分析した[11]。

残存脂肪の脂肪酸組成を図Ⅳ—24に示す。残存脂肪から11種類の脂肪酸を検出した。このうちパルミチン酸（C16：0），パルミトレイン酸（C16：1），ステアリン酸（C18：0），オレイン酸（C18：1），リノール酸（C18：2），アラキジン酸（C20：0），エイコサモノエン酸（C20：1），ベヘン酸（C22：0），エルシン酸（C22：1），リグノセリン酸（C24：0）の10種類の脂肪酸をガスクロマトグラフィー—質量分析により同定した。

8試料ともほぼ似かよった脂肪酸組成のパターンを示し，これは摺萩遺跡の土壙内土壌試料の脂肪酸組成パターンとも非常によく似ていた。即ちいずれも試料も主要な脂肪酸はオレイン酸で約33～53%分布していた。次いで中級脂肪酸ではパルミチン酸，パルミトレイン酸，ステアリン酸がこの順に多く分布していた。オレイン酸，パルミチン酸の占める割合が高い脂肪酸組成パターンを持つ試料は高等動物の体脂肪，骨油が存在した可能性がある。一般に考古遺物はパルミチン酸の分布割合が高い。これは長い年月の間にオレイン酸，リノール酸といった不飽和脂肪酸の一部が分解されてパルミチン酸が生成するため，主として植物遺体の土壌化に伴う腐植物から来ていると推定される。また高等動物，特に臓器，脳，神経組織，血液，胎盤に特徴的にみられるベヘン酸，リグノセリン酸などの高



図Ⅳ—26　試料に残存する脂肪の脂肪酸組成樹状構造図

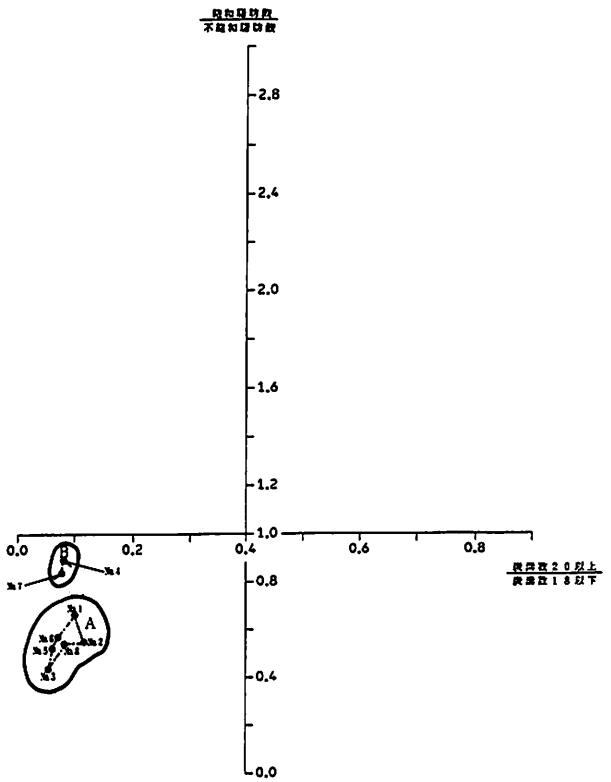
級脂肪酸は両者の合計で4～7％と比較的低い割合で分布していた。この低い分布割合は動物遺体全身を埋納した可能性が少ないことを示唆している。

4　残存脂肪のステロール組成

残存脂肪のステロールをヘキサン—エチルエーテル—酢酸（80：30：1）を展開溶媒とするケイ酸薄層クロマトグラフィーで分離・精製後，ピリジン—無水酢酸（1：1）を窒素気流下で反応させてアセテート誘導体にしてからガスクロマトグラフィーにより分析した。残存脂肪の主なステロール組成を図Ⅳ—25に示す。残存脂肪から10～18種類のステロールを検出した。このうちコレステロール，エルゴステロール，カンペステロール，スチグマステロール，シトステロールなど7種類のステロールをガスクロマトグラフィー—質量分析により同定した。

各試料中のステロール組成をみると，動物由来のコレステロールは試料No.4で検出されず，他の7試料では約5～8％分布していた。通常一般的な植物腐植土中にはコレステロールは4～8％含まれている。植物由来のシトステロールはすべての試料で約32～47％分布していた。同様に植物，特に堅果類由来のカンペステロールが約5～9％，スチグマステロールが約3～17％と，一般的な土壌試料に比べると多く分布していた。

一般に動物遺体の存在を示唆するコレステロールとシトステロールの分布比の指標値は土壙で0.6以上[12]，土器・石器・石製品で0.8～23.5をとる[13,14]。土壌試料のコレステロールとシトステロールの分布比を表Ⅳ—18に示す。表からわかるようにいずれも試料もその値が0.6以下であった。従って試料は植物腐植土である可能性が高い。



図Ⅳ—27　試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成による種特異性相関

5　脂肪酸組成の数理解析

残存脂肪の脂肪酸組成をパターン化し，重回帰分析により各試料間の相関係数を求め，この相関係数を基礎としてクラスター分析を行って各試料間の類似度を調べた。同時に洗骨を埋納していたことから再葬墓土壙と判定した摺萩遺跡の土壌試料，土壙墓と判定した寺田遺跡の土壌試料，幼児埋葬用甕棺と判定した原川遺跡の土壌試料に残存する脂肪酸の類似度とも比較した。

各試料間の脂肪酸組成の類似度をパターン間距離にして表した樹状構造図を図Ⅳ—26に示す。図からわかるように，試料No.4とNo.7を除くすべての

試料はA群を形成し，試料 No. 4 と No. 7 は摺萩遺跡の試料と共にB群を形成した。このA群とB群は相関行列距離が0.05以内という近い距離にあり，ほぼ同一群とみなされる。原川遺跡と寺田遺跡の試料は別のC群を形成した。従って栄町5遺跡のP—8土壙は再葬墓土壙であり，壺形土器は再葬骨埋葬用の骨壺である可能性を示唆している。

6　脂肪酸組成による種特異性相関

残存脂肪の脂肪酸組成から種を特定するために，中級脂肪酸（炭素数16のパルミチン酸から炭素数18のステアリン酸，オレイン酸，リノール酸まで）と高級脂肪酸（炭素数20のアラキジン酸以上）との比をX軸に，飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸との比をY軸にとり種特異性相関を求めた。この比例配分により第1象限の原点から離れた位置に高等動物の血液，脳，神経組織，臓器等に由来する脂肪，第1象限から第2象限の原点から離れた位置にヒト胎盤，第2象限の原点から離れた位置に高等動物の体脂肪，骨油に由来する脂肪がそれぞれ分布する。第2象限から第3象限にかけての原点付近に植物と微生物，原点から離れた位置に植物腐植，第3象限から第四象限に移る原点から離れた位置に海産動物が分布する。

土壌試料の残存脂肪から求めた相関を図Ⅳ—27に示す。試料 No. 4 と No. 7 を除くすべての試料がA群を，試料 No. 4 と No. 7 は骨油の分布域に近いB群を形成した。これらの群は第3象限内に分布した。この分布位置は植物腐植土を示唆する所である。

このことから土壙および土器内には動物遺体そのものを埋納した可能性が少ないことを示唆している。

7　総　　括

栄町5遺跡から出土した土壙および土壙内の壺形土器中の土壌試料を採取し，それらの試料に残存する脂肪の分析を行った。残存する脂肪酸およびステロールの分析，数理解析の結果から土壙および土器は動物遺体そのものを埋葬したものではなく，再葬墓用土壙と再葬骨埋納用土器である可能性が示唆された。植物腐植土を示唆する脂肪が多く残存していたのは，再葬骨を埋納した後に土壙周辺の植物腐植土が混入したためと思われる。

参考文献

（1）R. C. A. Rottländer and H. Schlichtherle:「Food identification of samples from archaeological sites」『Archaeo. Physika.』, 10巻, 1979, pp 260.

（2）D. A. Priestley, W. C. Galinat and A. C. Leopold:「Preservation of polyunsaturated fatty acid in ancient Anasazi maize seed」,『Nature』, 292巻, 1981, pp 146.

（3）R. C. A. Rottländer and H. Schlichtherle:「Analyse frühgeschichtlicher Gefässinhalte」,『Naturwissenschaften』, 70巻, pp 33.

（4）中野益男：「残存脂肪分析の現状」,『歴史公論』, 第10巻(6), 1984, pp 124.

（5）中野益男，福島道広，中野寛子，長田正宏：「納内3遺跡の遺構群に残存する脂肪の分析」,『納内3遺跡』, 北海道埋蔵文化財センター調査報告書, 第60集, 1988, pp 141.

（6）中野益男，福島道広，中野寛子，長田正宏：「摺萩遺跡の遺構に残存する脂肪の分析」,『未発表』, 宮城県教育委員会.

(7) 中野益男，福島道広，中野寛子，長田正宏：「堂後遺跡の土壙に残存する脂肪の分析」，『未発表』，福島県郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団.

(8) 中野益男，福島道広，中野寛子，長田正宏：「美沢3遺跡の土壙に残存する脂肪の分析」，『美沢川流域の遺跡群XII—新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書』，北海道埋蔵文化財センター調査報告第58集，1988，pp 237.

(9) 中野益男，中野寛子，福島道広，長田正宏：「寺田遺跡土壙墓状遺構に残存する脂肪の分析」，『未発表』，兵庫県芦屋市教育委員会.

(10) 中野益男，幅田　剛，福島道広，中野寛子，長田正宏：「原川遺跡の土器棺に残存する脂肪の分析」，『原川遺跡I—昭和62年度袋井バイパス(掛川地区)埋蔵文化財発掘調査報告書』，第17集，㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所，1988，pp 79.

(11) M. Nakano and W. Fischer：「The Glycolipids of *Lactobacillus casei* DSM 20021」，『Hoppe-Seyler's Z. Physiol. Chem.』，358巻，1977，pp 1439.

(12) 中野益男，伊賀　啓，根岸　孝，安本教傳，畑　宏明，矢吹俊男，佐原　真，田中　琢：「古代に残存する脂質の分析」，『脂質生化学研究』，第26巻，1984，pp 40.

(13) 中野益男：「真脇遺跡出土土器に残存する動物油脂」，『真脇遺跡—農村基盤総合設備事業能都東地区真脇工区に係わる発掘調査報告書』，能都町教育委員会・真脇遺跡発掘調査団，1986，pp 401.

(14) 中野益男，根岸　孝，長田正宏，福島道広，中野寛子：「ヘロカルウス遺跡の石器製品に残存する脂肪の分析」，『ヘロカルウス遺跡』，北海道文化財研究所調査報告書，第3集，1987. p 191.

(5)　フゴッペ貝塚出土土器の胎土分析

花岡正光，熊谷仁志

1．はじめに

胎土の特徴を明らかにするために，土器の表面観察とともに胎土に含まれる極細粒砂分の一次鉱物組成について調べた。

今回の胎土分析は次のような目的で行った。

1)　II群 B1 類は，器形・文様構成については道南部の円筒土器下層ａ～ｃ式の段階のものに類似した特徴をもつものである。II群 B1 類の胎土の一次鉱物組成の特徴を把握するとともに，道南部の円筒土器下層ａ～ｃ式の段階に対比するためのデータの蓄積。

2)　II群 B2a 類は文様構成において円筒土器下層ｄ式に類似するものであるが，器形・口唇部断面形・器面調整等においてやや異なり，「似て非なるもの」のような外観を呈す。したがって，II群 B2a 類の一次鉱物組成の特徴を把握するとともに，これまで分析が行われた道南部の円筒土器下層ｄ式の一次鉱物組成とを比較し相違を明らかにする。

3)　II群 B2b 類，II群 B2c 類，II群Ｂ類はこれまであまり知られていない土器群で，これらの胎土の一次鉱物組成の特徴を把握する。また，今回の調査結果から円筒土器下層ｄ式や円筒土器上層ａ・ｂ式との関連が想定され，これらの土器群との一次鉱物組成の相違を明らかにする。

4)　道北・道東の縄文時代前期後半～中期前半に分布すると考えられている回転押型文や刺突文が施された土器が出土している。押型文は円筒土器下層ｄ式の体部に加えられたものである。刺突文が施された土器は，現在のところ本遺跡出土の資料が南限と思われる。これらの土器の一次鉱物組成の特徴を把握するとともに，深川市納内３遺跡出土の刺突文が施された土器の分析結果とを比較し相違を明らかにする。

5)　III群 A1 類は道南部の円筒土器上層ａ・ｂ式である。一次鉱物組成上の特徴を明らかにする。

6)　道央部の晩期中葉～末葉の大洞系土器群（Ｖ群ａ類）と在地系土器群（Ｖ群ｂ類）毎の胎土の一次鉱物組成の特徴を把握し相違を明らかにする。

供試土器はフゴッペ貝塚出土の土器のうち縄文時代前期後半から中期初頭に位置付けられるII群 B1 類（８点），II群 B2a 類（14点うち押型文２点・刺突文２点），II群 B2b 類（11点），II群 B2c 類（11点），II群Ｂ類（８点），III群 A1 類（４点）と，晩期のＶ群ａ類（６点），Ｖ群ｂ類（７点）で，試料数は69点である。

2．試料と試料の処理

供試土器の写真を図IV—28に，表面観察を表IV—19に示す。試料の処理は上條（1983）の方法に準じ，次の手順で行った。試料の乾燥→約10g を鉄製乳鉢にて粉砕→1N の HCl 中で超音波洗浄→クエン酸ナトリウム・ハイドロサルファイトナトリウム・炭酸水素ナトリウムによる脱鉄処理→水洗→乾燥→篩分け→極細粒砂分（粒径 1/8－1/16mm）について

プレパラート作製（封入剤カナダバルサム）→偏光顕微鏡下で黒雲母を除き約200粒を検鏡→鉱物・生物起源粒の粒数％を求める。黒雲母の量比については，黒雲母粒数とこれを除いた検鏡粒数との比を求めた。

また，土器の物性の一つとして，みかけ比重を測定した。

3．結果と若干の考察

表面観察では，試料5・9・10・34・57・61・68を除いて白色のangularな岩片（流紋岩？）が含まれている。また，試料7・17・18・40・48・59・60・66・68を除いて植物繊維痕が認められる。

土器胎土の一次鉱物組成を図IV—29に示す。各試料とも鉱物組成は単純である。重鉱物が少なく，主に斜長石と火山ガラスから成る。火山ガラスの形態は，泡壁がridgeをなして曲線状に走る型（いわゆる「バブルウォール型」）が大部分を占め，極く少量の繊維状発泡型や網目模様型を伴う。主な火山ガラスの形態を図IV—30に示す。これらの形態には属さず，泡壁がつくる模様が不明瞭な火山ガラスも認められる。黒雲母は大部分の試料に1％±含まれるが，試料50・68は50％以上で著しく多い。生物起源粒（珪藻・プラントオパール・海綿骨針・炭化植物片）を含むものが認められる。みかけ比重は2.30—2.80の間にあり，2.60—2.70のものが多い。

これらの試料を，一次鉱物組成上主要構成鉱物である斜長石と火山ガラスの量比，及び生物起源粒（特に珪藻・海綿骨針）の有無によって以下の胎土型に分類した。

I型：生物起源粒を含まないもの。鉱物量比と火山ガラスの形態から次の亜型を設定。

Ia型：斜長石量＞火山ガラス量（斜長石量比1.5≦）。

Ia_1型：火山ガラスが網目模様型から成るもの。

Ia_2型：石英と不透明（鉄）鉱物が多いもの。

Ia_3型：角閃石が多いもの。

Ia_4型：輝石類が多いもの。

Ib型：斜長石量≒火山ガラス量（各量比1.5＞）。

Ib_1型：火山ガラスがバブルウォール型から成るもの。

Ib_2型：火山ガラスが網目模様型から成るもの。

Ic型：斜長石量＜火山ガラス量（火山ガラス量比1.5≦）。

Ic_1型：黒雲母を含まないか少ないもの。

Ic_2型：黒雲母が非常に多いもの。

II型：生物起源粒を含むもの。鉱物量比から次の亜型を設定。

IIa型：斜長石量＞火山ガラス量（斜長石量比1.5≦）。

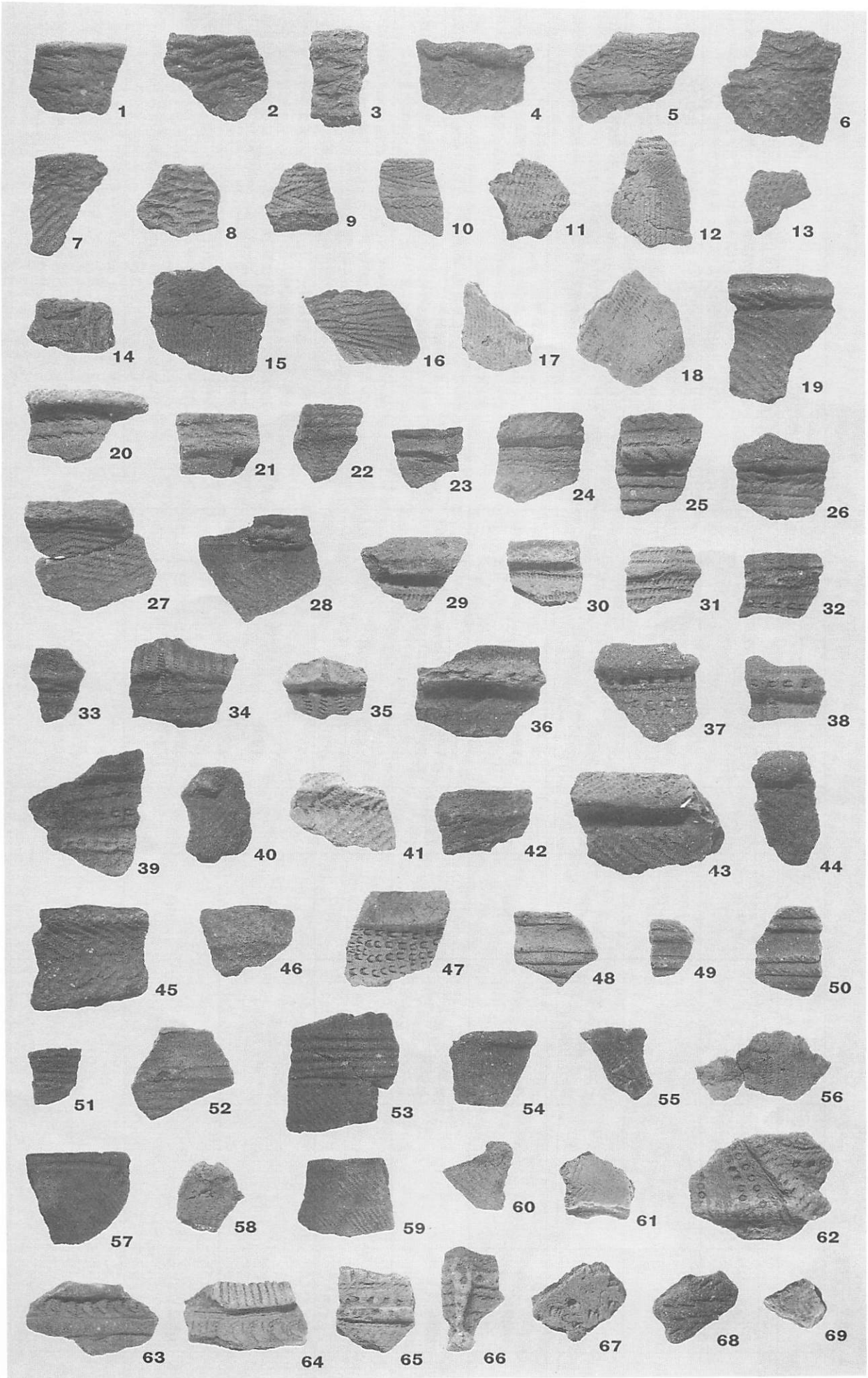
IIb型：斜長石量≒火山ガラス量（各量比1.5＞）。

IIc型：斜長石量＜火山ガラス量（火山ガラス量比1.5≦）。

IIc_1型：黒雲母が少ないもの。

IIc_2型：黒雲母が非常に多いもの。

上記の胎土型における試料の分布を図IV—31に示す。胎土型はIb_1とIc_1が多い。晩期末の土器には珪藻や海綿骨針を含むものが多い。珪藻はほとんどが*Coscinodiscus*属である。胎土型とみかけ比重との間には明瞭な相関がないと思われる（表IV—20）。試料50・68は黒



図IV—28　胎土分析供試土器　※番号は試料番号

表Ⅳ－19　供試土器観察表

試料番号	出土層準	時期（縄文時代）	型式	文様	部位	厚さ（cm）	色調 外面	色調 内面	色調 断面	焼成程度	みかけ比重	胎土表面観察
1	I	前期後半	円筒土器下層ｂ～ｃ式（II群 B1 類）	縄線文 斜行縄文	口縁	0.9	2.5YR5/3（にぶい赤褐）	5YR7/6（橙）	10YR1.7/1（黒）	良	2.65	細粒砂質泥，angular な長石多い。angular な火山ガラス・重鉱物・白色岩片を含む。黒雲母を微量含む。内・外・断面に植物繊維痕あり。 口縁部に多段の縄線文，口唇・裏面に縄文あり。内面調整粗雑。口唇は角型。胎土に繊維混入多い。少量の炭化物付着。
2	IIb	前期後半	〃 （〃）	〃 〃	口縁	0.8—1.1	5YR4/2（灰褐）	5YR5/3（にぶい赤褐）	7.5YR1.7/1（黒）	良	2.50	泥質砂。angular な石英・長石・白色岩片を多く含む。内・外・断面に植物繊維痕が多い。 表は３段の縄線文，下位・斜行縄文，裏は斜行縄文，口唇・内外とも粗雑な調整。口唇は丸味もつ。
3	I	前期後半	〃 （〃）	表—綾絡文 斜行縄文 裏—斜行縄文	口縁	1.3—1.4	5YR5/3（にぶい赤褐）	5YR6/4（にぶい橙）	5YR4/1（褐灰）	良	2.38	中粒砂～極細粒砂質，angular な石英・長石・重鉱物・白色岩片を含む，海綿骨針を含む。内面に植物繊維痕あり。 表裏縄文，表は綾絡文・裏は斜行縄文。内外調整は粗雑。口唇は切り出し状。
4	I	前期後半	〃 （〃）	綾絡文 斜行縄文	口縁	0.7—1.0	5YR6/3（にぶい橙）	7.5YR4/1（褐灰）	7.5YR4/1（褐灰）	良	2.72	中粒砂～細粒砂質泥，angular な繊維状発泡の火山ガラスが多い。angular な長石・白色岩片を含む。内・外・断面に植物繊維痕あり。 表面は２段の綾絡文・斜行縄文。口縁部は強く外反する。内外・口唇部とも整形が粗雑である。
5	I	前期後半	〃 （〃）	綾絡文 斜行縄文	頸	0.9—1.2	5YR5/3（にぶい赤褐）	5YR6/3（にぶい橙）	7.5YR1.7/1（黒）	良	2.58	中粒砂～極細粒砂質泥。angular な石英・長石を多く含む。内・外・断面に植物繊維痕多い。 頸部はナデによる整形後に浅い綾絡文が不規則に施文。体部斜行縄文。全面ナデ調整粗雑。裏面上部にわずかに縄文が観察できる。
6	I	前期後半	〃 （〃）	綾絡文 斜行縄文		1.1—1.5	5YR5/3（にぶい赤褐）	5YR4/2（灰褐）	7.5YR1.7/1（黒）	良	2.68	細粒砂質泥。angular な長石・重鉱物を多く含む。angular な火山ガラス・白色岩片・石英を含む。内・外・断面に植物繊維痕あり。 頸部に粗雑で不規則な綾絡文。体部に斜行縄文。内面調整は比較的丁寧に施されている。大粒な縄文の節が認められる。
7	IIb	前期後半	〃 （〃）	表—綾絡文 斜行縄文	口縁	0.7—0.8	5YR5/6（明赤褐）	5YR4/2（灰褐）	5YR3/1（黒褐）	良	2.68	中粒砂～極細粒砂質泥。angular な長石・火山ガラス・石英・白色岩片を多く含む。大鋸屑様胎土。 表は綾絡文，その下位は斜行縄文。裏面・口唇にも縄文が施されている。内外・口唇調整は比較的丁寧。口唇部表面に少量の炭化物の付着あり。
8	IIb	前期後半	〃 （〃）	表—綾絡文 裏—斜行縄文	口縁	1.0—1.1	2.5YR5/6（明赤褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	5YR1.7/1（黒）	良	2.55	中粒砂～細粒砂質泥。angular な長石を多く含む。angular な石英・白色岩片を含む。酸化マンガン結核を多く含む。内・外面に植物繊維痕あり。 表は綾絡文，裏面・口縁部に斜行縄文が施文されている。調整は内外とも比較的丁寧に施されている。
9	I	前期後半	円筒土器下層ｄ式（II群 B2a 類）	撚糸文（縄線文）	頸	0.6—0.9	2.5YR5/6（明赤褐）	7.5YR2/1（黒）	7.5YR1.7/1（黒）	良	2.69	細粒砂質泥。angular な石英・長石・火山ガラスを含む。石英は他の鉱物粒より粗粒（中粒砂大）で，量多い。内・外・断面に植物繊維痕あり（特に内・外面に著しい）。 頸部はくびれをもち区画された。撚糸文「＜」状。区画帯はわずかに肥厚している。炭化物の付着が少量認められる。内外調整は丁寧である。

試料番号	出土層準	時期（縄文時代）	型式	文様	部位	厚さ（cm）	色調 外面	色調 内面	色調 断面	焼成程度	みかけ比重	胎土表面観察
10	IIb	前期末	円筒土器下層ｄ式（II群 B2a 類）	撚糸文（縄線文） 結節羽状縄文 単軸撚糸回転文	口縁	0.6—0.8	5YR6/3（にぶい橙）	7.5YR6/3（にぶい褐）	7.5YR4/2（灰褐）	良	2.74	細粒砂～極細粒砂質泥。angular な石英を多く含む。angular な長石を含む。海綿骨針１個あり。内・外・断面に植物繊維痕あり（特に内・外面に著しい）。 厚手である。円筒土器下層ｄ式そのものである。幅の狭い頸部文様帯に撚糸文が施され頸部区画帯をもたない。その替り結節羽状が施されている。内外とも調整は丁寧である。
11	I	〃	〃（〃）	多軸絡条体回転文	体	1.0—1.3	5YR6/4（にぶい橙）	5YR5/4（にぶい赤褐）	10YR1.7/1（黒）	良	2.59	細粒砂～極細粒砂質泥。angular な長石を多く含む。angular な重鉱物・白色岩片を含む。まれに石英あり。酸化マンガン結核を多く含む。内・外面の一部と断面に植物繊維痕著しい。 表は比較的長目の絡条体である。内面は調整が丁寧に施され滑沢である。炭化物の付着が認められないが，赤色顔料の付着が認められる。（裏面）
12	IIb	〃	〃（〃）	縄線文 単軸撚糸回転文 斜行縄文	体	0.8—1.0	7.5YR7/4（にぶい橙）	5YR6/4（にぶい橙）	10YR1.7/1（黒）	良	2.63	粗粒砂～極細粒砂質泥。angular な長石を多く含む。angular な石英・重鉱物・白色岩片を含む。酸化マンガン結核を多く含む。外面に植物繊維痕あり。断面に φ0.5mm＞の孔多い。 表は撚糸文が上部は横位に下部は縦位に施され，これを区画する様に斜行縄文が加えられている。繊維痕が認められる。裏面は調整が丁寧で洗滑がある。
13	IIb	〃	〃（〃）	多軸絡条体回転文	体	0.7—0.8	5YR5/6（明赤褐）	2.5YR3/1（暗赤灰）	7.5YR5/4（にぶい褐）	良	2.68	中粒砂～極細粒砂質泥。angular な長石・白色岩片を多く含む。angular な石英・重鉱物を含む。断面に植物繊維痕あり。 表は多軸絡条体回転文で丸味もつ節である。磨滅が著しい。裏は調整が丁寧で滑沢な面を作り出している。少量の炭化物付着が認められる。
14	IIb	〃	〃（〃）	単軸撚糸回転文（？）	体	0.8—1.1	7.5YR6/4（にぶい橙）	7.5YR4/2（灰褐）	5YR4/2（灰褐）	良	2.71	粗粒砂～極細粒砂質泥。angular な長石・白色岩片を多く含む。angular な火山ガラスを含む。断面に植物繊維痕あり。 表は縦方向に不規則な単軸撚糸回転文（？）が施され，その後ナデが軽く加えられている様である。裏は４方向に丁寧な内面調整が加えられている。光沢がある。
15	I	前期後半	円筒土器下層ｂ～ｃ式（II群 B1 類）	単軸撚糸回転文	体	0.9—1.2	7.5YR4/2（灰褐）	7.5YR6/4（にぶい橙）	10YR1.7/1（黒）	良	2.49	極粗粒砂～極細粒砂質泥。angular な白色岩片を多く含む。angular な長石・石英・重鉱物・珪岩を含む。内・外・断面に植物繊維痕著しい。内外面とも調整が粗雑ででこぼこ。表は縄線文に区画された単軸撚糸回転文が施されている。撚糸文は密に加えられている。多量の炭化物が付着。裏面は繊維痕が認められる。炭化物の付着なし。
16	IIb	前期末	円筒土器下層ｄ式（II群 B2a 類）	撚糸文（縄線文）	頸部	0.8—1.0	5YR5/4（にぶい赤褐）	5YR4/1（褐灰）	7.5YR4/2（灰褐）	良	2.61	中粒砂～極細粒砂質泥。angular な火山ガラス・白色岩片を多く含む。angular な石英を含む。外・断面に植物繊維痕多い。 幅広の頸部文様帯をもち，頸部は強くくびれをもつ。表は太い「く」字状の撚糸文（？）が施され，区画体に縄文に圧痕がある。少量の炭化物の付着。裏はヘラによる丁寧なナデが施されている。炭化物付着がある。
17	IIb	〃	〃（〃）	単軸撚糸回転文	体	1.0—1.3	7.5YR7/6（橙）	7.5YR7/4（にぶい橙）	5YR6/4（にぶい橙）	良	2.60	中粒砂～細粒砂質泥。海綿骨針を多く含む。angular な石英・白色岩片を含む。断面に φ0.5mm＞の孔あり。 表は縦位の撚糸文。磨滅が著しい。裏は調整が粗雑。凸凹である。いずれも炭化物付着なし。

試料番号	出土層準	時期（縄文時代）	型式	文様	部位	厚さ(cm)	色調 外面	色調 内面	色調 断面	焼成程度	みかけ比重	胎土表面観察
18	IIb	前期末	円筒土器下層d式（II群 B2a 類）	多軸撚糸回転文 ナデ調整(?)	体（底部に近い部分と思われる）	0.7—1.1	5YR6/6（橙）〜7.5YR7/4（にぶい橙）	2.5YR5/6（明赤褐）・7.5YR4/2（灰褐）	7.5YR4/2（灰褐）	良	2.68	中粒砂〜細粒砂質泥。angular な長石・白色岩片を多く含む。angular な石英・火山ガラス・重鉱物を含む。 表は全面多軸撚糸文を施した後，縦位にナデが部分的に加えられている。部分的に磨滅や炭化物付着が認められる。
19	I	前期末葉〜中期初頭	フゴッペ式（II群 B2b 類）	縄線文 斜行縄文	口縁	0.9—1.5	5YR5/4（にぶい赤褐）	2.5YR5/6（明赤褐）	7.5YR1.7/1（黒）	良	2.49	中粒砂〜極細粒砂質泥。angular な石英・火山ガラス・白色岩片を多く含む。angular な重鉱物を含む。外面口縁部と断面に植物繊維痕多い。 内面は丁寧な調整が加えられている。口唇部にもナデが認められ，円筒系土器群特有の整形法と思われる。赤色顔料的な付着物。
20	I	〃	〃（〃）	縄線文 斜行縄文	口縁	0.7—1.4	5YR6/6（橙）	5YR6/6（橙）	7.5YR7/6（橙）	良	2.72	粗粒砂〜極細粒砂質泥。angular な長石・石英・火山ガラス・白色岩片を多く含む。angular な重鉱物を含む。内・外面の口縁部と断面に植物繊維痕多い。 内外とも調整が粗雑。外面にわずかに炭化物が付着。体部縄文は観察できず。
21	I	〃	〃（〃）	縄線文	口縁	0.9—1.5	2.5YR6/8（橙）	2.5YR6/6（橙）	7.5YR4/1（褐灰）	良	2.63	極粗粒砂〜極細粒砂質泥。angular な長石・火山ガラス・白色岩片を多く含む。内・外・断面に植物繊維痕多い。 内面は調整粗雑，少量の炭化物付着，繊維痕認められる。外面は調整粗雑，焼成による繊維がぬけた痕跡がある。磨消が認められる。
22	I	〃	〃（〃）	縄線文 縄圧痕文	口縁	0.7—1.1	2.5YR5/6（明赤褐）	5YR4/3（にぶい赤褐）	7.5YR3/1（黒褐）	良	2.57	粗粒砂〜極細粒砂質泥。angular な長石・火山ガラス・白色岩片を多く含む。angular な石英を含む。内・外面に植物繊維痕あり。 内面は比較的丁寧に調整。頸部に間隔あく縄線文が斜位に施文される。内外とも少量の炭化物付着。
23	IIb	〃	〃（〃）	〃	口縁	0.7—1.2	2.5YR5/4（にぶい赤褐）	2.5YR3/1（暗赤灰）	10YR1.7/1（黒）	良	2.51	粗粒砂〜極細粒砂質泥。angular な長石・白色岩片を多く含む。angular な石英・火山ガラスを含む。内・外・断面に植物繊維痕あり（特に外・断面に多い）。 内面は丁寧な調整・光沢がある。外面は粗雑で焼成時の繊維の為の剝離。
24	覆土	〃	〃（〃）	2本組縄線文	口縁	0.6—1.0	2.5YR6/6（橙）	2.5YR3/1（暗赤灰）	5YR3/1（黒褐）	良	2.62	粗粒砂〜細粒砂質泥。angular な長石・火山ガラス・白色岩片を多く含む。angular な石英・重鉱物を含む。内・外・断面に植物繊維痕多い。 内面は調整粗雑。外面は2本組の原体を押捺，斜行縄文調整は粗雑・少量の炭化物付着。
25	IIb	〃	〃（〃）	縄線文 縄圧痕文	口縁	1.0—1.9	5YR6/4（にぶい橙）	7.5YR6/4（にぶい橙）	10YR1.7/1（黒）	良	2.40	中粒砂〜細粒砂質泥。angular 長石・石英・重鉱物・白色岩片を含む。肥厚体から上部の外・断面には植物繊維痕多い。 内面は調整が丁寧であるが，器面は凸凹。赤色顔料が付着。外面は無文地に縄線文と縄圧痕による刻目が施される。炭化物付着（少量）。
26	覆土	〃	〃（〃）	縄線文 斜行縄文 「逆U」字状縄圧痕文	口縁	0.7—1.4	2.5YR6/6（橙）	5YR2/1（黒褐）	5YR1.7/1（黒）	良	2.62	極粗粒砂〜粗粒砂質泥。angular な長石・火山ガラス・白色岩片を多く含む。内・外・断面に植物繊維痕あり（特に断面に多い）。 内面は比較的丁寧な調整。繊維痕が認められ炭化物の付着。外面は頸部地文上（＼）に縄線文。突起部に「∩」状の圧痕文。
27	II	〃	〃（〃）	縄線文	口縁	0.8—1.4	5YR4/2（灰褐）	5YR5/3（にぶい赤褐）	5YR1.7/1（黒）	良	2.70	粗粒砂〜細粒砂質泥。angular な長石・火山ガラス・白色岩片を多く含む。断面に植物繊維痕多い。 内面は丁寧な調整。少量の炭化物付着。外面は外反する幅広の頸部。炭化物の付着。

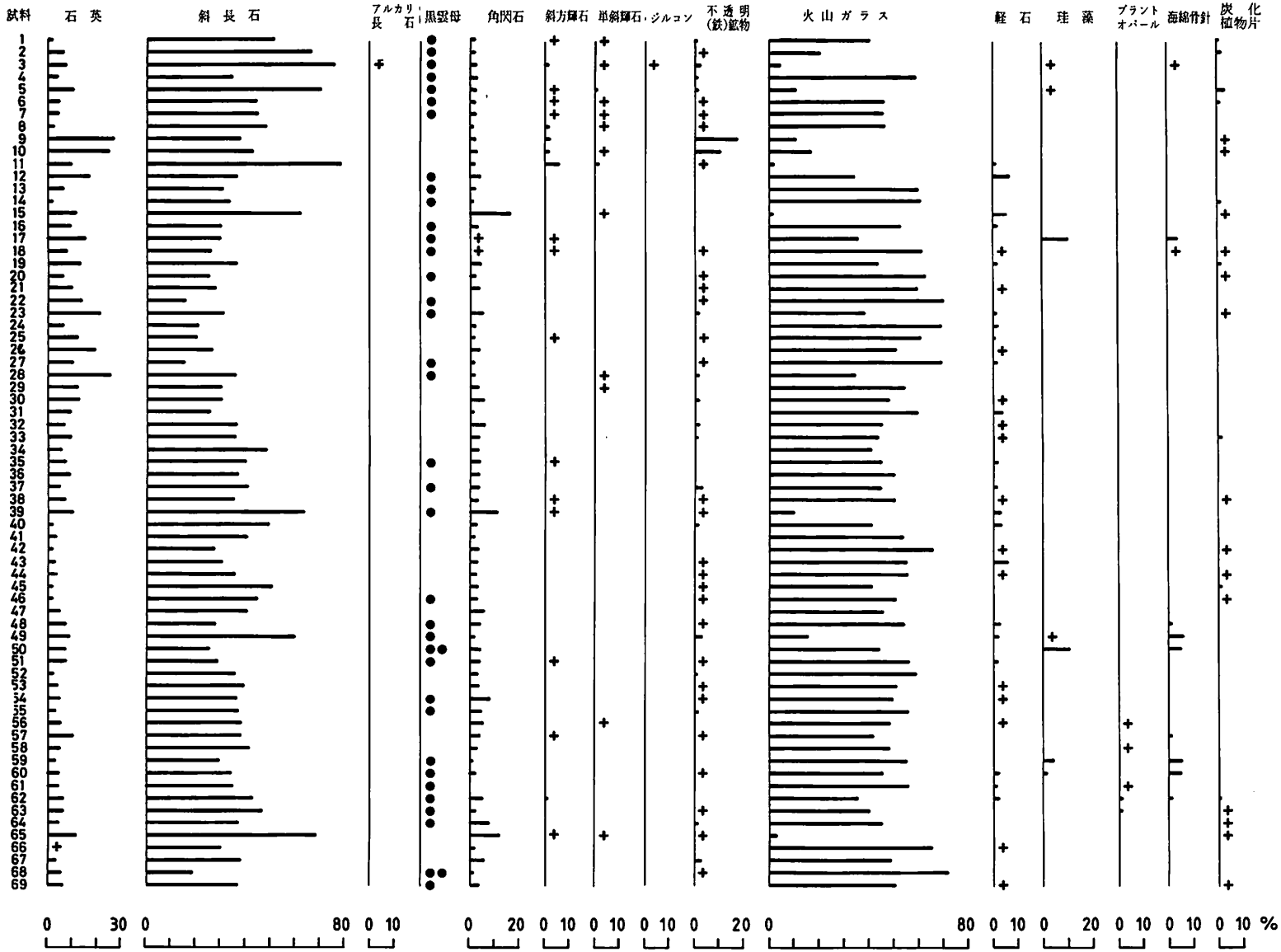
試料番号	出土層準	時期（縄文時代）	型式	文様	部位	厚さ（cm）	色調 外面	色調 内面	色調 断面	焼成程度	みかけ比重	胎土表面観察
28	I	前期末葉～中期初頭	フゴッペ式（II群 B2b 類）	縄線文 半竹刺突文	口縁	0.6—1.1	5YR5/3（にぶい赤褐）	5YR5/3（にぶい赤褐）	7.5YR1.7/1（黒）	良	2.48	粗粒砂～極細粒砂質泥。angular な石英・長石・白色岩片を多く含む。内・外・断面に植物繊維痕あり（特に断面に著しい）。 内面は丁寧な調整。炭化物付着。外面は不規則な複節の斜行縄文。肥厚帯直下はナデ調整が加えられている。
29	I	〃	〃（II群 B2c 類）	絡条体圧痕文	口縁	1.1—1.9	5YR5/4（にぶい赤褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	5YR4/1（褐灰）	良	2.69	粗粒砂～極細粒砂質泥。angular な長石・白色岩片を多く含む。内・外・断面・肥厚体に植物繊維痕あり（特に断面に著しい）。 内面は比較的丁寧な調整。繊維痕が認められる。外面は口唇部下端に炭火物付着。粗雑な調整。
30	I	〃	〃（〃）	絡条体圧痕文 斜行縄文	口縁	0.9—1.5	5YR6/6（橙）	5YR6/6（橙）	5YR4/1（褐灰）	良	2.63	中粒砂～細粒砂質泥。angular な長石を多く含む。angular な重鉱物・白色岩片を含む。肥厚体外面に植物繊維痕多い。 内面は丁寧な調整。炭化物付着。外面は比較的丁寧な調整。口唇部上部に炭化物付着。
31	IIb	〃	〃（〃）	絡条体圧痕文	口縁	0.8—1.4	2.5YR6/6（橙）	5YR4/2（灰褐）	N1.5/0（黒）	良	2.69	粗粒砂～極細粒砂質泥。angular な長石・火山ガラス・白色岩片を多く含む。angular な石英を含む。断面と外面肥厚体下半部に植物繊維痕多い。 内面は丁寧な調整。少量炭化物付着。外面は粗雑な調整。原体が太く疎のものと，細く密なものとの２つが組合され施文。
32	I	〃	〃（〃）	絡条体圧痕文 半竹刺突文	口縁	0.8—1.3	5YR4/2（灰褐）	2.5YR4/2（灰赤）	5YR1.7/1（黒）	良	2.39	粗粒砂～細粒砂質泥。angular な長石・白色岩片を多く含む。angular な石英・火山ガラスを含む。外・断面に植物繊維痕多い。 内面は丁寧な調整・少量の炭化物。外面は粗雑な調整。口唇部下端剝離。多量の炭化物付着。
33	IIb	〃	〃（〃）	絡条体圧痕文	口縁	0.7—1.2	5YR5/4（にぶい赤褐）	2.5YR6/6（橙）	7.5YR1.7/1（黒）	良	2.65	中粒砂～細粒砂質泥。angular な長石を多く含む。angular な石英・火山ガラス・重鉱物・白色岩片を含む。内・外・断面に植物繊維痕あり。 内面は丁寧な調整。炭化物付着なし。外面は粗雑な調整。多量の炭化物付着。
34	I	〃	〃（〃）	〃	口縁	0.8—1.6	5YR6/6（橙）	5YR6/6（橙）	7.5YR1.7/1（黒）	良	2.54	中粒砂～細粒砂質泥。angular な長石を多く含む。angular な石英・火山ガラスを含む。内・断面に植物繊維痕あり（特に断面に著しい）。 突起部が欠失。調整は比較的丁寧。炭化物が付着。外面は粗雑な調整。多量の炭化物。体部不明。
35	IIb	〃	〃（〃）	絡条体圧痕文 斜行縄文	口縁	0.6—1.4	5YR7/4（にぶい橙）	5YR6/3（にぶい橙）	10YR1.7/1（黒）	良	2.65	中粒砂～極細粒砂質泥。angular な長石を多く含む。angular な石英・火山ガラス・重鉱物・白色岩片を含む。内・外・断面に植物繊維痕あり（特に断面に著しい）。 内面は調整丁寧。炭化物付着なし。外面は頸部調整粗雑。炭化物付着物なし。比較的薄手。鋸歯状の絡条体圧痕文
36	IIb	〃	〃（〃）	絡条体圧痕文 斜行縄文 半竹刺突文	口縁	0.7—1.6	5YR7/6（橙）	5YR5/3（にぶい赤褐）	N1.5/0（黒）	良	2.43	粗粒砂～極細粒砂質泥。angular な長石・白色岩片を多く含む。angular な石英・火山ガラスを含む。内・外・断面に植物繊維痕あり（特に断面に著しい）。 内面は調整丁寧。炭化物付着。外面は器面全体。頸部調整粗雑。体部文様不明。

試料番号	出土層準	時期（縄文時代）	型式	文様	部位	厚さ（cm）	色調 外面	色調 内面	色調 断面	焼成程度	みかけ比重	胎土表面観察
37	II	前期末葉～中期初頭	フゴッペ式（II群 B2c 類）	絡条体圧痕文 半竹刺突文 斜行縄文	口縁	0.7—1.4	2.5YR4/8（赤褐）	2.5YR6/6（橙）	外面側：2.5YR4/8（赤褐） 内面側：5YR4/1（褐灰）	良	2.71	細礫～細粒砂質泥。angular な長石・白色岩片を多く含む。angular な石英・火山ガラス・重鉱物を含む。内・外・断面に植物繊維痕あり（口縁部の上部に多い）。 細礫大の白色岩片多く。他試料とは岩相異なる。内外面とも粗雑な調整。口縁と体部の縄文方向が異なり，体部は羽状か？。
38	IIb	〃	〃（〃）	絡条体圧痕文 半竹刺突文 斜行縄文	口縁	0.6—1.6	2.5YR5/6（明赤褐）	5YR6/4（にぶい橙）	5YR1.7/1（黒）	良	2.69	粗粒砂～極細粒砂質泥。angular な長石・白色岩片を多く含む。angular な石英・重鉱物を含む。内・外・断面に植物繊維痕あり。 外面は丁寧に調整。炭化物付着なし。内面は丁寧な調整であるが，大きな凸凹が認められる。少量の炭化物の付着。
39	IIb	〃	〃（〃）	〃 〃 〃	口縁	0.9—1.3	10YR7/4（にぶい黄橙）	7.5YR6/3（にぶい褐）	N1.5/0（黒）	良	2.60	中粒砂～細粒砂質泥。angular な長石・白色岩片を多く含む。angular な石英・重鉱物を含む。まれに海綿骨針あり。内・外・断面に植物繊維痕あり。 内面は調整比較的丁寧。炭化物の付着なし。外面は磨滅が著しく，脆弱な感じである。胎土繊維混入。
40	II	〃	〃（II群B類）	貼付帯 斜行縄文	口縁	0.9—1.5	5YR4/2（灰褐）	2.5YR4/4（にぶい赤褐）	5YR2/1（黒褐）	やや良	2.48	中粒砂～細粒砂質。angular な白色岩片・長石を多く含む。angular な火山ガラス・重鉱物を含む。 内面は調整粗雑。外面は炭化物が付着。口縁部の貼付は粗雑で剝離が認められる。脆弱である。胎土は砂粒が多い。
41	覆土	〃	〃（〃）	結束斜行縄文	口縁	0.8—1.4	5YR6/6（橙）	7.5YR4/2（灰褐）	10YR4/1（褐灰）	良	2.73	中粒砂～細粒砂質泥。angular な長石・白色岩片を多く含む。angular な石英・火山ガラス・重鉱物を含む。内・外・断面に植物繊維痕あり（特に断面に著しい）。 内面は比較的丁寧な調整。繊維痕が認められる。外面は口唇部・体部とも縄文。
42	覆土	〃	〃（〃）	斜行縄文	口縁	0.8—1.3	5YR5/4（にぶい赤褐）	5YR5/3（にぶい赤褐）	7.5YR1.7/1（黒）	良	2.45	中粒砂～極細粒砂質泥。angular な長石・火山ガラス・白色岩片を多く含む。angular な石英・重鉱物を含む。内・外・断面に植物繊維痕多い。 内面は比較的丁寧な内面調整。器面全体には炭化物付着が認められる。 外面は縄文が施され，口唇部肥厚帯直下にかるいナデが加えられている。
43	I	〃	〃（〃）	斜行縄文 ナデ調整	口縁	1.0—1.9	5YR5/6（明赤褐）	5YR5/6（明赤褐）	7.5YR1.7/1（黒）	良	2.63	中粒砂～極細粒砂質泥。angular な長石・白色岩片を多く含む。angular な石英・火山ガラス・重鉱物を含む。内・外・断面に植物繊維痕あり（特に断面に著しい）。 内面は調整粗雑。下部に炭化物付着がみとめられる。外面は口唇部直下に縄文施文後，ナデ調整が加えられている。
44	IIb	〃	〃（II群 B2b 類）	縄線文 斜行縄文	口縁	0.8—1.3	5YR4/4（にぶい赤褐）	10YR1.7/1（黒）	5YR5/6（明赤褐）	良	2.59	中粒砂～極細粒砂質泥。angular な白色岩片・長石を多く含む。angular な石英・火山ガラス・重鉱物を含む。内・外・断面に植物繊維痕あり（特に断面に著しい）。 内面は粗雑な調整。炭化物付着少量。外面は肥厚帯直下に縄線文。全面に炭化物付着。胎土は脆弱である。
45	I	〃	〃（II群B類）	斜行縄文 （表裏縄文） 結束羽状縄文	口縁	0.8—1.0	2.5YR5/8（明赤褐）	5YR1.7/1（黒）	2.5YR4/4（にぶい赤褐）	良	2.51	粗粒砂～極細粒砂質泥。angular な白色岩片・長石を多く含む。angular な石英・重鉱物を含む。内・外・断面に植物繊維痕あり（特に外・断面に著しい）。 内面は口縁部内面に縄文，器面調整は丁寧である。外面は調整が粗雑である。全体は脆弱である。内外に多量の炭化物付着。

試料番号	出土層準	時期（縄文時代）	型式	文様	部位	厚さ（cm）	色調 外面	色調 内面	色調 断面	焼成程度	みかけ比重	胎土表面観察
46	覆土	前期末葉～中期初頭	フゴッペ式（II群B類）	斜行縄文	口縁	0.9—1.3	2.5YR5/6（明赤褐）	10R3/1（暗赤灰）	5YR1.7/1（黒）	良	2.65	粗粒砂～細粒砂質泥。angular な長石・白色岩片を多く含む。angular な石英・火山ガラス・重鉱物を含む。内・外・断面に植物繊維痕多い（特に断面に著しい）。内面は丁寧な器面調整。光沢がある。炭化物付着。外面は全面に斜行縄文。調整は粗雑である。
47	IIb	〃	〃（〃）	斜行縄文 半竹刺突文	口縁	1.0—1.3	5YR6/6（橙）	5YR6/6（橙）	2.5YR1.7/1（赤黒）	良	2.76	粗粒砂～細粒砂質泥。angular な長石・白色岩片を多く含む。angular な重鉱物を含む。内・外・断面に植物繊維痕あり（特に断面に著しい）。内面は器面調整が比較的丁寧であるが，大きく凸凹がある。外面頸部の無文地上に竹管文。器面調整は粗雑。
48	II	晩期中葉～末葉	大洞系土器群（V群a類）	沈縄文 無文帯	口縁	0.5—0.7	7.5YR6/3（にぶい褐）	5YR7/4（にぶい橙）	10YR1.7/1（黒）	良	2.62	粗粒砂～細粒砂質泥。海綿骨針を多く含む。angular な石英・長石・重鉱物を含む。チャート・灰白色岩片・白色岩片・酸化鉄結核を含む。内面は器面調整が粗雑。内面の沈線はなし。外面は磨滅あり。無文地の幅広の頸部は無文帯である。
49	I	〃	〃（〃）	斜行縄文 沈線文	口頸	0.5—0.7	5YR4/2（灰褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	10YR1.7/1（黒）	良	2.63	中粒砂～細粒砂質泥。angular な石英・長石・火山ガラス・重鉱物・白色岩片（細礫～極粗粒砂質のことがある）を含む。海綿骨針あり。内・外・断面に植物繊維痕あり。内面は口唇縄文（＼）と一条の縄線文。炭化物付着。外面は頸部（幅が比較的狭い）２条の縄線による区画。口唇部のみに縄文（＼）が認められる。
50	II	〃	〃（〃）	斜行縄文 沈線文 無文帯	口頸	0.7—0.9	5YR3/1（黒）	7.5YR5/4（にぶい褐）	7.5YR6/3（にぶい褐）	良	2.76	粗粒砂～細粒砂質泥。angular な長石・白色岩片（まれに rounded, 細礫～極粗粒砂質のことがある）を多く含む。angular な石英・火山ガラス・重鉱物を含む。海綿骨針・円心目珪藻を含む。内面に植物繊維痕あり。内面は剝離著しい。口唇部内面（＼）の縄文がある。外面は縄文施文後に沈線文を加える。
51	I	〃	〃（〃）	沈線文 「△」状刺突文	口縁	0.7	5YR3/1（黒褐）	5YR6/3（にぶい橙）	5YR3/1（黒褐）	良	2.43	中粒砂～細粒砂質。angular な長石・火山ガラス・白色岩片を多く含む。angular な重鉱物を含む。内・外・面に植物繊維痕が数個あり。内面は比較的丁寧な調整。外面は「△」状の刺突に区画された頸部文様帯。炭化物付着。調整は比較的丁寧。
52	II	〃	〃（〃）	沈線文 貼付帯 B状貼付瘤	体（口唇部を欠失）	0.6—1.0	7.5YR5/1（褐灰）	7.5YR6/3（にぶい褐）	5YR3/1（黒褐）	良	2.57	中粒砂～細粒砂質泥。angular な長石・火山ガラス・白色岩片を多く含む。angular な石英・重鉱物を含む。内・外面に植物繊維痕あり。内面は粗雑な調整。上半部に少量の炭化物(？)外面は縄文が認められない。最上部沈線間に「B」字状貼付瘤。丁寧な調整。
53	I	〃	〃（〃）	沈線文 「△」状刺突文 斜行縄文	体（頸）	0.6—0.7	7.5YR5/4（にぶい褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	2.5YR3/1（暗赤灰）	良	2.40	中粒砂～極細粒砂質泥。angular な長石・火山ガラス・白色岩片（rounded なことあり）を多く含む。angular な重鉱物を含む。内・外面に植物繊維痕あり。内面は丁寧な器面調整。炭化物付着。外面は比較的丁寧な器面調整。全面に炭化物付着。上下端を区画する「△」状刺突あり。
54	II	〃	〃（〃）	無文	口縁（頸）	0.4—0.6	5YR5/4（にぶい赤褐）	5YR6/8（橙）	5YR5/6（明赤褐）	良	2.48	中粒砂～極細粒砂質泥。angular な長石・火山ガラス・白色岩片を多く含む。angular な石英・重鉱物を含む。内・外面に植物繊維痕あり。内外とも粗雑な調整が加えられ，外面は篦状工具による調整が認められない。薄手である。

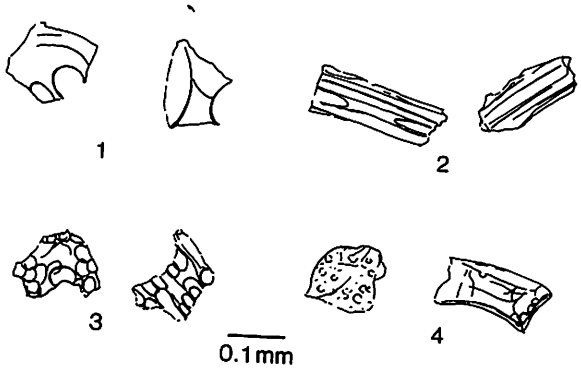
試料番号	出土層準	時期（縄文時代）	型式	文様	部位	厚さ（cm）	色調 外面	色調 内面	色調 断面	焼成程度	みかけ比重	胎土表面観察
55	IIb	晩期中葉～末葉	在地系土器群（V群b類）	斜行縄文	口縁	0.7	2.5YR3/1（暗赤灰）	5YR6/6（橙）	7.5YR3/1（黒褐）	良	2.53	中粒砂～極細粒砂質泥。angular な長石・白色岩片を多く含む。angular な石英・重鉱物を含む。内面に植物繊維痕あり。内外とも粗雑な調整。口唇部は切り出し状。外に大粒の(＼)。内面に少量の炭化物(？)
56	I	〃	〃（〃）	撚糸圧痕文 竹管状工具による押捺 縦位縄文	口縁（突起部を含む）	0.7—1.4	5YR5/4（にぶい赤褐）	5YR6/6（橙）	7.5YR4/1（褐灰）	良	2.52	中粒砂～極細粒砂質泥。angular な長石を多く含む。angular な石英・重鉱物・白色岩片を含む。内・外面に植物繊維痕あり。内外とも粗雑な調整。内面（口唇部）に撚糸文施文後，竹管状工具による押捺が加えられている。外面は口唇部外側から竹管状工具による斜めの押捺がある。体部は不規則な縄文がほぼ縦位施されている。
57	II	〃	〃（〃）	沈線文 斜行縄文	口縁	0.4—0.8	5YR6/4（にぶい橙）	5YR3/1（黒褐）	5YR2/1（黒褐）	良	2.42	中粒砂～極細粒砂質泥。海綿骨針・angular な長石を多く含む。angular な石英・火山ガラス・重鉱物を含む。外面に植物繊維痕あり。内面は切り出し状の口唇直下に不連続な沈線。調整は丁寧である。炭化物付着。外面は細かな縄文（＼）炭化物付着が認められる。他の資料と少々異なった外観を呈す。
58	I	〃	〃（〃）	貼付帯 撚糸文・刺突文 縦位縄文	口縁（突起部分）	0.7—1.8	5YR6/6（橙）	5YR6/4（にぶい橙）	7.5YR4/2（灰褐）	良	2.45	中粒砂～極細粒砂質泥。angular な石英・長石・火山ガラス・重鉱物・白色岩片を含む。酸化鉄結核を含む。内・外面に植物繊維痕あり。内外とも調整は粗雑。内面口唇に太い貼付瘤をつけ突起を作出。撚糸文と刺突（竹管）を施す。頸部内側には円形刺突がある。外は不規則な縦位の縄文。
59	II	〃	〃（〃）	撚糸文 竹管状工具による押捺 斜行縄文	口縁	0.7—0.9	7.5YR6/4（にぶい橙）	7.5YR5/3（にぶい褐）	5YR3/1（黒褐）	良	2.32	中粒砂～極細粒砂質泥。海綿骨針・angular な長石を多く含む。円心目珪藻を含む。angular な火山ガラス・重鉱物・白色岩片を含む。内外とも調整は丁寧。口唇部内面に2条の撚糸文。炭化物多量に付着。外面に細かな(＼)。口唇部端部に竹管による押捺を施こし，波状をつくり出している。
60	I	〃	〃（〃）	貼付瘤 撚糸文圧痕文 斜行縄文	口縁（突起部）	0.6—1.5	7.5YR6/4（にぶい橙）	7.5YR4/2（灰褐）	7.5YR3/1（黒褐）	良	2.46	中粒砂～極細粒砂質泥。海綿骨針・angular な長石・白色岩片を多く含む。angular な石英・火山ガラス・重鉱物を含む。内外とも丁寧な調整。口唇内面に貼付突を施こし，突起を作出。突起先端部を切り出し状の口唇部を撚糸圧痕がある。内面に少量の炭化物付着。外面は炭化物付着なし。
61	I	前期末葉	押型文土器（II群 B2a 類）	縦位連続山形文	体	1.0—1.1	2.5YR6/8（橙）	5YR6/4（にぶい橙）	7.5YR1.7/1（黒）	非常に良	2.69	極細粒砂質泥。angular な石英・長石を含む(比較的長石が多い)。内・外・断面に植物繊維痕あり（特に断面に著しい）。硬い土器片。内面は表面調整は丁寧，炭化物付着が認められる。外面は表面調整は丁寧，文様は薄く（かるく）施されている。
62	II	中期初頭	円筒土器上層a式（III群 A1 類）	貼付帯（太目） 撚糸文 円形刺突文	口頸	1.2—2.9	2.5YR6/8（橙）	7.5YR7/4（にぶい橙）	5YR3/1（黒褐）	良	2.54	中粒砂～細粒砂質泥。angular な長石・白色岩片を多く含む。angular な石英・重鉱物を含む。まれに海綿骨針あり。内・外・断面に植物繊維痕あり。内面は丁寧な調整が施され，滑らかである。部分的に擦痕が認められる。外面は，表面全体に撚糸圧痕文，円形刺突文が施されている。炭化物の付着が認められる。太い貼付帯。

試料番号	出土層準	時期（縄文時代）	型式	文様	部位	厚さ（cm）	色調 外面	色調 内面	色調 断面	焼成程度	みかけ比重	胎土表面観察
63	II	中期前頭	円筒土器上層b式（III群 A1 類）	貼付帯（細目） 撚糸圧痕文 馬蹄形圧痕文	口頸	0.5—1.4	5YR4/2（灰褐）	5YR5/3（にぶい赤褐）	10YR1.7/1（黒）	良	2.67	中粒砂～細粒砂質泥。angular な斜長石・白色岩片を多く含む。angular な石英・重鉱物を含む。内・外・断面に植物繊維痕あり。 内面は剝離していて，観察不能。 外面は，細味の貼付帯（撚糸圧痕）＋馬蹄形圧痕文（縄端）
64		〃	円筒土器上層a式（〃）	撚糸圧痕文		1.2—1.8	5YR7/6（橙）	5YR5/3（にぶい赤褐）	7.5YR1.7/1（黒）	良	2.34	中粒砂～細粒砂質泥。angular な長石・白色岩片（まれに細礫質）を多く含む。angular な石英・重鉱物を含む。 内・外・断面に植物繊維痕あり。 内面に炭化物付着が認められる，内面は調整丁寧である。外面は丁寧な調整，無文地に撚糸圧痕文，口唇部に撚糸圧痕文。
65	I	〃	円筒土器上層b式（〃）	撚糸圧痕文 刺突文 貼付帯 斜行縄文	頸	0.7—1.5	5YR6/6（橙）	5YR6/4（にぶい橙）	5YR1.7/1（黒）	良	2.63	中粒砂～細粒砂質泥。angular な白色岩片を多く含む。angular な石英・長石・重鉱物を含む。内・外・断面に植物繊維痕多い。海綿骨針1個認められる。 内面は丁寧な調整。外面は貼付帯による区画，頸部は無文地に撚糸圧痕，刺突体部，斜行縄文
66	II	前期末葉～中期初頭	フゴッペ式（II群 B2 類）	縄線文 円形刺突文	口頸	0.7—2.0	2.5YR6/6（橙）	5YR5/3（にぶい赤褐）	7.5YR3/1（黒褐）	良	2.52	細礫混じり中粒砂～細粒砂質。angular な長石・白色岩片を多く含む。angular な石英・火山ガラス・重鉱物を含む。 内面は丁寧な調整。剝離面に繊維痕がある。外面は磨消が認められる。突起部から縦位に貼付，口唇部に2条，下端部に円形刺突，頸部には4条の縄線文。
67	I	前期中葉	刺突文土器（シュブノツナイ式）	半竹刺突文 円形刺突文	体	1.1—1.3	2.5YR6/6（橙）	7.5YR5/3（にぶい褐）	7.5YR1.7/1（黒）	良	2.49	中粒砂～細粒砂質泥。angular な長石を多く含む。sub-rounded な重鉱物・白色岩片・angular な石英を含む。酸化マンガン結核を含む。内・外・断面に植物繊維痕多い。 内部は比較的丁寧な調整であるが，繊維痕が認められる。少量の炭化物の付着。外面は比較的丁寧な無文地。刺突文が加えられている。
68	II	〃	刺突文土器（シュブノツナイ式）	「ハ」字状の刻目 刺突文	体	1.0—1.2	5YR6/6（橙）	5YR4/1（褐灰）	5YR1.7/1（黒）	良～やや良	2.71	粗粒砂～細粒砂質。angular な長石を頗る多く含む。angular な石英・火山ガラスを多く含む。angular な重鉱物（角閃石・黒雲母）を含む。石英粒は比較的大きく，稜が丸味を帯びたものあり。 内面は比較的丁寧な調整。 外面は磨滅が著しい。横位「ハ」字状の刻目文，同一個体は無文字に刻目，口縁部切り出し状である。
69	I	前期末葉	押型文土器（II群 B2a 類）	縦位連続山形文	体	0.9—1.1	7.5YR7/3（にぶい橙）	5YR7/4（にぶい橙）	7.5YR3/1	良	2.62	中粒砂～極細粒砂質泥。angular な白色岩片を多く含む。angular な石英・長石・重鉱物を含む。酸化鉄結核を含む。外・断面に植物繊維痕あり。 内面は丁寧な内面調整 外面は磨滅が著しい。縦位の連続山形文　内外とも繊維痕が認められる。



図IV—29　土器胎土の一次鉱物組成　(粒径 1/8—1/16mm，粒数%)

+：1%>　●：10%>　●●：50%<



図IV—30　火山ガラスのスケッチ

1：バブルウォール型（試料50）
2：繊維型（試料22）
3：網目模様型（試料27）
4：その他の型（試料28・48）

胎土型 / みかけ比重	I								II			
	Ia				Ib		Ic		IIa	IIb	IIc	
	Ia_1	Ia_2	Ia_3	Ia_4	Ib_1	Ib_2	Ic_1	Ic_2			IIc_1	IIc_2
2.30—2.35					1						1	
2.35—2.40					1				1			
2.40—2.45					2		2			1		
2.45—2.50			1		5	1	1			1		
2.50—2.55	1				4		2			1		
2.55—2.60				1	1		3		1			
2.60—2.65			2		2		6		1	1	1	
2.65—2.70		1			8		4				1	
2.70—2.75		1			2		4	1				
2.75—2.80					1							1

表IV—20　胎土型とみかけ比重
（数字は個数）

雲母を非常に多く含む点で特異な土器である。

次に，今回の分析の目的別に胎土を検討する。

1)　II群B1類土器は，胎土型 Ia_1・Ib_1・Ic_1・IIa に分布する。Ib_1 型が比較的多い。

2)　II群 B2a 類土器は，胎土型 Ia_2・Ia_3・Ia_4・Ib_1・Ic_1・Ic_2・IIb・IIc_1 に分布する。道南地方の木古内町新道4遺跡出土の土器の胎土分析例では，円筒土器下層d式は珪藻と海綿骨針の両方あるいは一方が含まれ，火山ガラス量が少なく，植物繊維痕が認められている（北海道埋蔵文化財センター，1988a）。本遺跡でII群 B2a 類とした供試土器18点のうち，海綿骨針を含むものは試料17（胎土型IIb）・18（胎土型IIc_1）であった。この2点には火山ガラスが比較的多く含まれ，また植物繊維痕は未確認である。したがって，本遺跡出土のII群 B2a 類土器と新道4遺跡出土の円筒土器下層d式とでは，一次鉱物組式が似ないこと，植物繊維痕の有無や混和材と推定される細礫の岩種の違いが認められることから，異なる胎土といえる。

3)　II群 B2b 類土器は，胎土型 Ib_1・Ib_2・Ic_1 に分布し，特に Ic_1 型が多い。II群B2c類土器は，胎土型 Ia_3・Ib_1・Ic_1 に分布し，特に Ib_1 型が多い。II群B類土器は，胎土型 Ib_1 と Ic_1 に分布する。試料28と39を除けば，II群 B2b 類・II群 B2c 類・II群B類の土器は胎土型 Ib_1 と Ic_1 に集中する。これら3類の土器群は円筒土器下層d式や円筒土器上層a～b式との関連が想定されるものの，新道4遺跡出土の円筒土器下層d式や円筒土器上層b式と比較すると，新道4遺跡出土の土器には珪藻や海綿骨針が含まれ，火山ガラスが少ない（北海道埋蔵文化財センター，1988a）のに対し，本遺跡のこれら3類の土器には海綿骨針が認められず，試料39を除けば火山ガラスは比較的多い。

4)　本遺跡出土の押型文土器は試料61（胎土型 Ic_1）と69（胎土型 Ib_1）である。刺突文土器は試料67（胎土型 Ib_1）と68（胎土型 Ic_2）である。試料68は火山ガラスと黒雲母が非常に多い土器で，白色岩片を含まず植物繊維痕も認められない。今回分析に供した土器の中でも特異な土器である。この土器の一次鉱物組成と胎土表面は，道央の深川市納内3遺跡出土の土器によく類似したものがある。（北海道埋蔵文化センター，1989）。但し，納内3遺跡出土の胎土分析供試土器は，押型文と押引文土器である。

5)　III群 A1 類土器は，胎土型 Ia・Ib_1・IIb に分布する。

I
- Ia
  - Ia_1：2(IIB1)
  - Ia_2：9(IIB2a)，10(IIB2a)
  - Ia_3：15(IIB2a)，39(IIB2c)，65(IIIA1)
  - Ia_4：11(IIB2a)
- Ib
  - Ib_1：1(IIB1)，6(IIB1)，7(IIB1)，8(IIB1)，12(IIB2a)，19(IIB2b)，23(IIB2b)，32(IIB2c)，33(IIB2c)，34(IIB2c)，35(IIB2c)，36(IIB2c)，37(IIB2c)，38(IIB2c)，40(IIB)，41(IIB)，45(IIB)，46(IIB)，47(IIB)，53(Va)，54(Vb)，56(Vb)，58(Vb)，63(IIIA1)，64(IIIA1)，67(IIB2a)，69(IIB2a)
  - Ib_2：28(IIB2b)
- Ic
  - Ic_1：4(IIB1)，13(IIB2a)，14(IIB2a)，16(IIB2a)，20(IIB2b)，21(IIB2b)，22(II32b)，24(IIB2b)，25(IIB2b)，26(IIB2b)，27(IIB2b)，29(IIB2c)，30(IIB2c)，31(IIB2c)，42(IIB)，43(IIB)，44(IIB)，51(Va)，52(Va)，55(Vb)，61(IIB2a)，66(IIB2b)
  - Ic_2：68(IIB2a)

II
- IIa：3(IIB1)，5(IIB1)，49(Va)
- IIb：17(IIB2a)，57(Vb)，60(Vb)，62(IIIA1)
- IIc：
  - IIc_1：18(IIB2a)，48(Va)，59(Vb)
  - IIc_2：50(Va)

図IV—31　土器の胎土型における試料の分布

（アラビア数字は試料番号，（　）は土器の分類型式）

6)　V群a類土器は，胎土型 Ib_1・Ic_1・IIa・IIc_1・IIc_2 に分布する。V群b類土器は，胎土型 Ib_1・Ic_1・IIb・IIc_1 に分布する。各類は特定の胎土型に集中せず，一次鉱物組成からは大洞系土器群（V群a類）と在地系土器群（V群b類）とを区別し得ない。これまでに当センターで行った縄文時代晩期の土器の胎土分析の例は，新道4遺跡，江別市西野幌14遺跡，及び余市町栄町5遺跡のものがある（北海道埋蔵文化財センター，1988a・1988b・1990）。新道4遺跡の供試土器は全て大洞 c_2 式である。これらには，チャート砂や海綿骨針を含むことが多い。また，火山ガラスが少なく，重鉱物は10—20%含まれる。西野幌14遺跡と栄町5遺跡の土器は，6種前後の胎土型に分散し一次鉱物組成のみでは在地系土器群とその他の土器群とを区別し得ない。

今回の分析では，所期の目的を必ずしも十分に果たしたとはいえないが，円筒土器下層d式に類似とした本遺跡のII群B2a類土器は道南の円筒土器下層d式とは胎土が異なることが示された。また，「フゴッペ式土器」と提唱したII群B2b類，II群B2c類，及びII群B類の土器群は，胎土型における分散が小さく，よく似た鉱物組成を示す。これらの結果は，分析点数がまだ少ないので予察と考えたほうがよいかもしれない。

引用文献

北海道埋蔵文化財センター（1988a）：木古内町新道4遺跡．　667 pp.

北海道埋蔵文化財センター（1988b）：江別市西野幌11遺跡・西野幌13遺跡・西野幌14遺跡・下学田遺跡．186 pp.

北海道埋蔵文化財センター（1989）：深川市納内3遺跡．　270 pp.

北海道埋蔵文化財センター（1990）：余市町栄町5遺跡．　200 pp.

上条朝宏（1983）：胎土分析Ⅰ．加藤晋平・小林達雄・藤本　強編「縄文文化の研究　5」，270 pp.，雄山閣出版：pp. 47-67.

(6) フゴッペ貝塚出土の動物遺体と骨角貝製品の特徴

金 子 浩 昌
（早稲田大学考古学研究室）

フゴッペ貝塚は小樽湾に面して形成された数少ない貝塚のうちの一つである。本貝塚は規模も小さく，しかも家屋などによって破壊されていた部分もあったが，のこされた部分の綿密な発掘によって貝塚の構成，動物遺存体の内容の詳細を知ることが出来た。大規模貝塚の場合のような極小部分からの推定値をもって全体を推定するのと比べるとはるかに堆積の実体を知る調査であり，その結果であったと云えよう。

報告に当って，貝類について御教示いただいた千葉県立中央博物館の黒住耐二氏に厚く御礼申し上げたい。

フゴッペ貝塚動物遺体種名表

I 軟体動物門	Phylum MOLLUSCA
a 腹 足 綱	Class GASTROPODA
前鰓亜綱	Subclass PROSOBRANCIA
原始腹足目	Order ARCHAEOGASTROPODA
スカシガイ科	Family Fissurellidae
コウダカスカシガイ	*Puncturella noachina nobolis*
ミミガイ科	Family Haliotidae
クロアワビ？	*Nordotis discus*
ユキノカサガイ科	Family Acmaeidae
コガモガイ	*Collisella heroldi*
（ヒメコザラガイ）	*Polelloida pygmaea*
ニシキウズガイ科	Family Trochidae
アコヤシタダミ	*Margarites obliquus*
エゾシタダミ	*M. helicina pilsbryi*
エゾチグサガイ	*Cantharidus jessoensis*
コシダカガンガラ	*Omphalius rusticus*
クボガイ	*Chlorostoma argyrostoma lishkai*
キサゴ	*Umbonium costatum*
リュウテンサザエ科	Family Turbinidae
エゾサンショウガイ	*Homalopoma amussitatuns*
サンショウガイの一種	*Homalopoma sp.*
中腹足目	MESOGASTROPODA
コウダカチャイロタマキビ科	Family Lacunidae
チャイロタマキビ	*Temanella turrita*
ソリツボ科	Family Rissocidae
タマツボ類	*Alvania sp.*
チャツボ	*Barleeia angustata*

サドツボ　*A. concina*
スジウネリチョウジガイ　*Costalynia costulata*
アミメケシカニモリガイ科　Family Cerithiopsidae
クリイロケシカニモリガイ　*Cerithiopsis stejnegeri*
アクキガイ科　Family Muricidae.
レイシ類　*Thais sp.*
チヂミボラ　*Nucella heyseana*
オオウヨウラクガイ　*Ocenebra japonica*
タモトガイ科　Family Pyrenidae
ムギガイ　*Mitrella bicincta*
コウダカマツムシガイ　*Mitrella tenuis*
オリイレヨウバイ科　Family Nassariidae
ヒメムシロガイ　*Reticunassa beata*

後鰓亜綱　Subclass OPISTHOBRANCHIA
トウガタガイ科　Family Pyramidellidae
イトカケクチキレガイの一種　*Prgulina sp.*
ハオリクチキレガイ　*Iolaea amicalis*
クチキレガイモドキの一種　*Odostomia sp.*

有肺亜綱　Subclass PULMONATA
柄眼目　Order STYLOMMATOPHORA
パツラマイマイ科　Family Discus
パツラマイマイ　*Discus pauper*
コハクガイ科　Family Zonitidae
ヒメコハクガイ　*Hawaiia minuscla*
ベッコウマイマイ科　Family Helicarionidae
カサキビガイ属の一種　*Trochochlamys sp.*
ヒメベッコウマイマイ　*Dicoconulus sinapidium*

b 二枚貝綱　Class PELECYPODA
糸鰓亜綱　Subclass FILIBRANCHIA
真多歯目　Order Futaxodonta
フネガイ科　Family Arcidae
シコロエガイ　*Pseudogrammatodon dalli*
コベルトフネガイ　*Arca boucardi*
イガイ科　Family Mytillidae
ムラサキインコガイ　*Septifer vivgatus*
ツキガイ科　Family Lucinidae
ウメノハナガイ　*Pillucina pisidium*
キクザルガイ科　Family Chamidae
キクザルガイ　*Chama reflexa*
マルスダレガイ科　Family Veneridae
コタマガイ　*Gomphina melanaegis*
ヌノメアサリ　*Novathaca euglypta*

キヌマトイガイ科　Family Hiatellidae
キヌマトイガイ　*Hiatella blaccida*
クチベニガイ科　Family Corbulidae
クチベニデガイ　*Amisocorbula venusta*
イワホリガイ科　Family Petricolidae
チヂミイワホリガイ　*Petriola mirabilis*

c 多板綱　Class POLYPLACOPHODA

II 環形動物門　Phylum ANNELIDA
多毛綱　Class POLYCHAETA

III 脊椎動物門　Phylum VERTEBRATA
a 軟骨魚綱　Class CHONDRICHTHYES
サメ目　Order Lamniformes
メジロザメ科　Family Carcharhinidae
属・種不明　Gen. et sp. indet
エイ目　Order RAJIFORMES
科・属不明　Fam. et gen. indet.

b 硬骨魚綱　Class OSTEICHTHYES
ニシン目　Order Clupeiformes
ニシン科　Family clupeidae
ニシン　*Clupea pallasi*
サケ目　Order Salmoniformes
サケ科　Family Salmonidae
サケ類　*Oncorhynchus sp.*
コイ目　Order Cypriniformes
コイ科　Family Cyprinidae
ウグイ　*Tribolodon hakonensis*
ボラ目　Order Mugiliformes
ボラ科　Family Migilidae
ボラ　*Mugil cephalus*
スズキ目　Order Perciformes
スズキ科　Family Serranidae
スズキ　*Lateolabrax japonicus*
タイ科　Family Sparidae
マダイ　*Pagrus major*
フグ目　Order Tetraodontiformes
マフグ科　Family Tetraodontidae
マフグ属の一種　*Fugu sp.*
カサゴ目　Order Scorpaeniformes
カサゴ科　Family Scorpaenidae

	属・科不明	Gen. et sp. indet.
	アイナメ科	Family Hexagrammidae
	アイナメ	*Hexagrammos otakii*
	ホッケ	*Pleurogrammus azonus*
	カジカ科	Family Cottidae
	属・種不明	Ge. et. sp. indet.
カレイ目		Order Pleuronectiformes
	ヒラメ科	Family Bothidae
	ヒラメ	*Paralichthys olivaceus*
	カレイ科	Family Pleuronectidale
	属・種不明	Ge. et. sp. indet.

c 鳥	綱	Class AVES
ワシタカ目		Order Falconiformes
	ワシタカ科	Family Accibitridae
	オオワシ	*Haliaeetus pelagicus*
チドリ目		Order Charadriformes
	カモメ科	Family Laridae
	カモメ類	*Larus sp.*

d 哺乳	綱	Class MAMMALIA
クジラ目		Order Cetacea
	イルカ科	Family Cetacea
	属・種不明	Ge. et. sp. indet.
食肉目		Order Canivora
	イヌ科	Family Canidae
	イヌ	*Canis familiaris*
	キタキツネ	*Vulpes vulpes schrencki*
	アシカ科	Family Otariidae
	オットセイ	*Callorhinus ursinus*
	ニホンアシカ	*Zalophus californianus japonicus*
偶蹄目		Order Artiodactyla
	シカ科	Family Cervidae
	エゾジカ	*Grvus nippon yesoensis*

動物遺存体の概要

貝類

貝類は調査地区全域の貝を含む土壌が採集され，すべての貝殻が採取された。それらを調査ブロック毎に一覧表とし示した。貝類の一覧表は，貝塚の主体種で，かつ食料資源として重要視される種類を一つの表としてまとめ，別に検出されている微小貝についてはその個数と重量を示した。そしてこれらの微小貝（大型貝種の幼貝を含めて）についてはさらに一覧表を製作して貝類の埋存状況が判明するようにした（表IV—21）。

本貝塚で食料資源上からみて主体的な貝種とみられるのは全体の84%を占めたイガイであった。その他の貝，ヤマトシジミ，マガキ，オオウヨウラクガイ，コベルトフネガイ，コタマガイ，ウチムラサキガイはいずれも6%未満であった。

本貝塚がイガイを主体として形成されていることは，隣接した別の地点で知られるほぼ同時期の貝塚がマガキを主体（これについての精査はまだ行われていないのであるが）としている点と性格を異にするようであって，本貝塚での採貝活動が岩礁の海岸地域に主力が置かれていたことを示している。今日は砂浜海岸の発達しているこの地域であるが，貝塚形成当時は岩礁海岸がより発達していたと推測される。

この岩礁性貝種には，イガイの他にコウダカアオガイ，コガモガイ，エゾサンショウガイ，チヂミボラなど一般に小型もしくは微小貝とされる種類があった。これらの小型・微小の貝はイガイのような貝を岩礁からはぎとる際にいっしょに付着してきたものであり，イガイ採取の方法を推測する貝種にもなる。

岩礁棲貝種として肉量のあったアワビ類，それ程まで肉量は望めないにしても多少とも食料の資源になり得たコシダカガンガラ，クボガイ，レイシガイは調査地区内での状況でみる限り個体数はごく少量であった。従って，アワビを含めて岩礁性の巻貝類はあまり食料資源としての価値は高くなかったというのが実状である。

二枚貝類については，鹹水産種としてコタマガイ，ウチムラサキガイが食用資源として重要種であったが，それらの数もまた少なく，僅かに小型のコベルトフネガイ，シラトリガイなどが目立つ種類であった。このうちコベルトフネガイは岩礁棲種である。

一方，二枚貝には汽水系のヤマトシジミのあることが注目される。ヤマトシジミは二枚貝種中イガイを除いてもっとも多い。採貝活動の中心の一つが汽水域でのヤマトシジミの採取であったのである。遺跡の面した低地帯は外海と砂州を境にしてラグーンが形成され，その内側でヤマトシジミがとれたのであろう。

次に注意される貝種として，イガイ海藻上に付着する微小貝がある。サドツボ，チャツボ，チャイロタマキビなどの巻貝とキヌマトイガイのような二枚貝である。これらのうちサドツボの検出量は特に多く，上述した岩礁地域に棲息する小型の貝として採集されているコウダカアオガイ，コガモガイ，エゾサンショウガイと匹敵する。つまりイガイなどが採られるのと同じ位に海藻も集められ，貝塚の近くまではこばれて乾燥していたのであろう。そのときに付着していた貝が落ちて，貝塚の貝にまじることになったのである。

微小貝についてはさらに陸産種がある。北海道での陸産種は少なく，本遺跡でもパツラマイマイとヒメコハクを検出したにとどまった。しかし，その埋存量は非常に多く，特にパツラマイマイはすべての微小貝種の中でもっとも多かった。貝塚中にこの種の貝の多いことはここが生息に適した条件下にあったことが考えられ，パツラマイマイ，ヒメコハクガイのいずれもが灌木の根元，落葉下に生息するので，貝塚周辺の環境も推測し得よう。

魚　類

サメ・エイ類

メジロザメ科の歯と椎体が検出されている。エイ類の椎体はすべて椎体径が3～6 mm程度の大きさのものあった。

ニシン

表IV—21　微小貝一覧

| ブロック | 発掘区 | 小発掘区 | 層位 | クロピ？ | | コウダカスカシイガ | | コウダカアオガイ | | コガモガイ（ヒメコザラガイ） | | アコヤシタダミ | | エゾシタダミ | | エチゾックガイ | | コシダカガンガラ | | クボガイ | | コシダカガンガラ or クボガイ | | エゾサンショウガイ | | サンショウガイの一種 | | チャイロタマキビ | | チャツボ | | サドツボ | | スジウネリチョウジガイ | | クリイロケシカニモリガイ | | チヂミラボ | | ムキガイ | | コウダカマツムシガイ | | ヒメムシロガイ | | イトカケチキレの種ガイ一 | | ハオリチキレガイ | | クチキレガイモドキの一種 | | バフラマイマイ | | ヒメノコハクガイ | | カサキビガイ属の一種 | | ヒメベッコウマイマイ？ | | シロコエガイ | | ウメノハナガイ | | キクザルガイ | | ヌノメガイ | | チヂミイワホリガイ | | キヌマトイガイ | | クチベニデガイ | | シラトリガイ | | 二枚貝SP | | ニシキウスガイ科 | | ウズマキゴカイ類 | | アッキガイ科？レイシガイ科？ | | ユキノカサ | | Alvania？SP | | マルスレダダガイ科？ | | クロズケガイ | | オオムガイの仲間 | | エゾボラの仲間 | | | 不明・未分類 | | 合計 | |
|---|---|---

	コウダカアオガイ	コガモガイ	エゾサンショウガイ	チャツボ	サドツボ	チヂミボラ	ムギガイ	パツラマイマイ	ヒメコハク
1A	26	29	9	18	64	3	34	165	80
1B	0	0	0	0	0	0	2	0	0
2	32	7	9	5	26	15	15	143	36
3	21	0	3	0	0	2	6	33	1
4	1	0	5	0	0	0	2	2	0
5	0	1	11	0	0	0	5	19	0
FF·22	4	0	3	0	0	2	1	0	0
合計	84	37	40	23	90	22	65	362	117

図VI－32　主要微小貝の出土数

最も多くの骨を出土している。検出された骨格部位で最も多いのは椎体であるが，頭部の諸骨も多い。頭骨では前・後の両耳骨の検出が多いが，その他にも主上顎骨，前上顎骨，歯骨，角骨，舌顎骨などの内蔵骨を検出している。これらの骨は上述した耳骨に比べるとはるかに骨が脆弱であるので，その保存・総量は少ない。しかし，これらの諸骨の保存から，ニシン科の魚の頭部が貝層内に棄てられていたことがわかる。

胴部の脊柱をつくる椎体は貝層の全面にわたって分布していたが，特に第4ブロックに多かった。このブロックでは他の部位も多く，全体として魚骨の多い地点であった。椎体は椎体径4.5mm前後を大型，3.2mm前後を小型，それ以下を極小型とした。体長は大型のもので30cm前後のものになる。

サケ科の一種

椎体だけが採集されている。頭骨の諸骨と歯を含めて，それらは全くのこされていなかった。歯などはむしろ火を受けて石灰化した場合によくのこるようであり，そうした事例もあるので，本遺跡の場合も当初は他の部位も埋存していたのであろう。検出された椎体は完存する例は極めて稀で，多くが小片になっていた。保存された椎体は椎体径9.5mm，椎体長6.6mmのものがある。

ウグイ

椎体と咽頭骨が検出されているが，その出土量は少なかった。椎体は僅かで44個であったし，咽頭骨も完存する標本はなくすべてその一部であった。咽頭骨片は第4ブロックに

表IV—22　魚骨部位集計表

		頭骨		内臓骨										背骨		肩骨			
		歯骨	前頭骨 上後頭骨	前上顎骨	上顎骨	口蓋骨	歯骨	角骨	方骨	舌顎骨	前鰓蓋骨	主鰓蓋骨	下・間鰓蓋骨	腹椎体	尾椎体	後側頭骨	上擬鎖骨	擬鎖骨	肩甲骨
ニシン	R			1	6			2	3			2							
	L				5		1		2			1							
	不明他													6,294					
ホッケ	R			2			1												
	L				2														
												1		938					
アイナメ	R						1												
	L			1			1												
														147					
アサゴ類	R		2	2	1		1	1	3		1	1							
	L		1	2	1		2	1	4		1	5					1		
								1			1	1		18					
カレイ類	R				2			4	1	1									
	L			1	4				1								2		
		3	1		1		1	1	1			1		494			1	2	
ヒラメ	R			7	6	1	5	3	6	4	7	1						4	
	L			8	1	1	6	2	2	4	4						1	6	
		3	1	3		2		1	2		1			144				16	

集中していた。北海道の沿岸と河川では本州よりもウグイが多棲し，遺跡からの出土も目立つ，ただ，その場合は河口的な立地での場合が目立つようである。

ボ　ラ

椎体が一点のみ検出されている。

スズキ

検出された標本の総数は少なかったが，この魚の骨の骨質が丈夫なこともあって，比較的良好な標本を得ている。特に第4ブロック標本は数個ないしそれ以上の内蔵骨格が発掘小区より得られており，同一個体の可能性もある。漁獲されているスズキにはかなり大型のものがあり，図版185のスズキは，歯骨高11.0mm，全長41.7mm。

マダイ

角骨が一点のみ検出されている。標本は破損し大きさは，はっきりしないがかなり大形になるものである。

マフグ科の一種

前上顎骨一点のみの検出である。北海道のこの地で，フグ類の出土はあまり目立ぬようである。

カサゴ類

カサゴ類の種類は多くて，本標本にも数種類のものが含まれる可能性があるが，現存の標本のみからでは細分は難しいのでここでは一つに扱っておく。表示のように後側頭骨，副楔骨，前上顎骨，主上顎骨，歯骨，角骨及び椎体が検出されている。実存する標本はほとんどないが，一括してすてられている様子をみることができる。標本は一般に大きく，大型のものは体長30cm 前後になることが推定される。

アイナメ

北海道における代表的な魚であり，前上顎骨，歯骨などは比較的骨も丈夫であるにもかかわらず，そうした部位を一つも検出できずに終った。検出出来たのは椎体のみで，もう一つの代表的な魚ホッケと比べてやや少ないという数であった。椎体長4.0mm，推定体長35cm 前後。

ホッケ

近似種アイナメに比べるとホッケの方が椎体の出土が多い，一個体の椎体を比べるとホッケの方が数が多いが，個体数も多かったのではないかと考えている。椎体数以外の骨の残り方はアイナメとほぼ同じで，内蔵骨の保存は稀であった。

カジカ類

椎体など断片的な標本を採集したにとどまったが，これは標本の保存状態があまり良好でない本貝塚の性格によると思う。

カナガシラ

断片的な標本であるが，確認されている。この魚は北海道の南部以南に生息するが，現在北海道ではあまり一般的な魚ではなくなっているようである。

ヒラメ

本貝塚の魚類遺体の中で最も保存のよい標本を出土している。これは椎骨や内蔵諸骨が大型で比較的丈夫であったことによると考えられる。椎骨以外で骨の保存の良かったのは，鋤骨，前上顎骨，主上顎骨，歯骨，角骨，方骨であり，その大きさは比較に使った体長71cmの現生標本よりもはるかに大きいものであった。石器時代遺跡から出土するヒラメでなければ，ほとんどみることのない大きさのものといえよう。なお神経頭蓋で検出されているのは副楔骨の部分のみであった。上述した大型のヒラメであれば頭蓋部の保存も容易と思われたが，実際には検出されていない。これはヒラメに限らず，カレイ類その他の魚についても同様で，頭蓋部分の保存はほとんどない。おそらく頭蓋部に対する特別な扱い方があったのであろう。なお，ヒラメは椎骨の塊存が，内蔵諸骨の埋存数と比べていっそう少ない。

カレイ類

カレイ目の魚の中でヒラメを除いた他の骨はすべて小～中型のカレイ類である。骨の保存は椎体以外に内蔵骨の幾つかの部位とこの目特有の長大な第一血管間棘，間鎖骨を得て，個体数の推定に有効である。カレイ類の椎体数はおよそ40前後である。保存条件の良いグリッドで一個の間鎖骨もしくは第一血管間棘と40個前後の椎体が検出されているが，一個体分程度の埋存があったと推定される。

鳥　綱

オオワシ

左脛骨の近位部から骨端をほぼのこす標本である。非常に大型のもので，長く発達する腓骨稜，扁平な骨体はワシタカ目の特徴であり，オジロワシなどよりも大きいところからオオワシと考えている。他に検出されている鳥骨片の中にはこれと同一個体の骨片は現在のところ発見されていない。一個体の骨がおそらく広域に分散しているのであろう。大型の動物になる程そうした傾向は強かったようである。

腓骨稜の中央位置で脛骨幅×厚さ16.2×13.2mm

カモメ科の一種

この標本も左中足骨の断片で，近位端から骨体のほぼ中央までをのこす。やや大型の種類のものと思われる。

鳥骨として他に頸椎，大腿骨片，基節骨を得ているがいずれも種不明，中型の鳥のもの

である。

哺乳綱

イ　ヌ

イヌとして確認できたのは幼体の下顎骨と若干の肢骨断片である。幼体の左側の下顎骨は，それのみの単独の出土で，頭骨，肢骨の共存あるいはそれらしい標本を得ることはできなかった。下顎骨はかなり破損していて，取り上げ後も完全な形に修復することはできなかった。残植していた歯で萌出していたのは dm^4 までであって，M_1 萌出の直前(M_1 の中央にある原丘の尖端が僅かにみえる程度であった)であったと思われる。イヌの dm^4 の完出が生後3ヵ月と云われているので，この標本も同じ程度の生長であったと考えられる。この他にイヌの成獣骨としては若干の骨を得ているが完存するものはない。しかし，特別な人為な解体あるいは加工の痕をみつけることはできなくない。

キタキツネ

キタキツネの遺骸は，本貝塚で比較的良好な標本を得ることのできた数少ない陸棲獣である。特に第4ブロックの貝層中にあった頭蓋は，前頭部とこれに左右の下顎骨が共存したものであった。このことは，この頭骨が何らかの意図でここに置かれ，その後乱されることはなかったと考えられる。頭頂から後頭にかけては既になく，別の場所でこわされて，この場所に運ばれて来たものである。おそらく，これは脳頭蓋の破損と関連すると思われ，脳ずいが摘出され，その後に運ばれたものなのであろう。なお上顎の犬歯が左右とも失われているが，これも意図的に抜かれたものと思われる。キツネの遺骸で確認されたのは，他にはすべて四肢の断片のみであった。上述した頭骨との関係は不明であるが，おそらく幾つかの個体があったものと思う。

オットセイ

オットセイと確認された標本は雄の上腕骨一点のみである。出土地点はF—25遠位端に一部欠損があるが，全体には比較的保存が良い，全長19.5cm。

オットセイの上腕骨は，アシカのそれに比べると，ややスリムな感じで，遠位部分の外側上顆稜が角張って独特の突起をつくる。本標本は他の海棲獣骨が小骨片であるのに比べて，唯一目立った標本であり，狩猟の対象としての重要な位置付けしたものであることは間違いない。

ニホンアシカ類

軸椎片

かなり破損した小断片である。この標本は，軸椎の近位部の関節面で，歯突起は欠損している。その右側の外側関節面のみがのこり，現在する関節の幅は20mmで推定されている全体の関節面の幅（左右で）は60～65mmと考えられる。オットセイの雄のものにも匹敵するが，一応ここではアシカ類としておく。

尺骨遠位骨端

不完全な標本のために問題があるが，上記の部位に同立しておく。

エゾジカ

フゴッペ貝塚が今回の調査地点は，獣骨類が少なかったが，特に大型獣類である，シカの遺骸は全く少なかった。少ないだけでなく，検出されたものの大部分は小破片となって

散在するもののみであった。唯一の例外は，別に記した奇形の鹿角で，これも完存するものではなかったが，他の小片と比べると特別に目立つものであった。

収　束

貝類について

本貝塚を構成する貝類の主体はイガイであって，貝層のどのブロックにおいても98%という高率であった。ところで本貝塚のような岩礁貝塚の場合に多獲されているムラサキインコガイをほとんどみることがなかったのも特徴的ではないかと思われる。それはこの日本海側の貝塚で，しばしば報告されているからである。若し，このことがイガイ類の採貝活動とどのような関係にあるのか，興味ある問題の一つである。それはムラサキインコガイのような潮間帯の浅場に着生する種類を採る条件が少なかった，つまり手近かな岩礁の広まりが限られ，より深みのイガイを主体的に採るようになったことがあったのではなかろうか。

岩礁域の狭いことは小型の巻貝の少ないこととも関係があるのではないのかとも思われているが，北海道の場合，これらの巻貝の生息量が減少するので，直ちに本州の例と比較は出来ないようである。

アワビ類の少ないのは縄文貝塚の一般的な特徴であるが，これも例えば既述した島牧村の岩磯岩陰，茶津貝塚では本貝塚よりもはるかに多い。この点からみると本貝塚の貝類相はかなり貧弱なもののように思われる。

砂底棲種ではコタマガイ，ウチムラサキガイがあるが，その量は全く少なかったようである。これらの貝の生息に適し，また採集し，都合のよい浜がせまかったのであろう。

こうした外海の浜に対して，内湾的な地形と環境も無かったことはアサリのような貝種が全く検出されていないことからもわかる。日本海側の岩礁海岸ではほぼ同じ条件の地形がつづくようである。

汽水産種としてヤマトシジミが重要種であることは既にのべたが，茶津貝塚での出現率は本貝塚よりもはるかに少なく，栄磯洞では検出されていない。

今調査したフゴッペ貝塚と別にこれにごく近い位置で，より規模の大きな中期末葉期の貝塚がある。この貝塚の貝類相もイガイを主体とするもので，コタマガイの埋存率はより多いらしい。採貝活動の変化があったとみてよいであろう。このためには，こうした活動を可能にする自然的な条件，例えば砂底海岸のより広い形成といった地形変化も基本的にはあったのではないかと思われる。しかし，こうした問題については今後の課題としなければなるまい。

貝層のブロック土の採集とそこからの微小貝の定量的調査が果されたことは，北海道におけるまだ数少ない事例として注目されよう。日本海側の例としては，茶津貝塚に報告例があり，その重要さが指適された。本貝塚でもそれはいっそう具体的に示されたといって良いであろう。海藻類に付着する微小貝の検出は，本州の例では1981年に東京都港区伊皿子貝塚でコウダカチャイロタマキビ，モロハタマキビ，タマツボなどを報告している。その後貝塚の微小巻貝の調査で，どの貝塚の場合も同じ結果を得ているわけではなく，おそらくそれは海藻類の扱い方の違いによるのであろう。大量に直接海から持ち込まれる場所程，付着貝の落下が多いはずである。北方域では海藻の利用はコンブをはじめとしてより

高かったと思うが，これもまた遺跡による差違が当然あるはずである。これについての調査も今後の課題である。

陸産貝種についても多くの標本を得たが，種類はパツラマイマイ，ヒメコハクガイが主で他に2種あったものの極めて少なかった。これについてはなお比較資料が少ないが今後の重要な研究課題である。

魚類について

貝塚から検出された魚骨は多かったが，本貝塚に近い小樽市オショロ土場の遺跡で得たような保存の状態の良好なものは少なかった。オショロ土場では厚い灰まじりの土層があったからである。

漁獲個体のもっとも多かったのはニシンは，湾内に回遊してきたものであり，その漁獲のための網・運搬具に種々の工夫が果されていたに違いない。骨率は別項でものべられているような小ブロック貝層の精査によって埋存の状況が極めてよく把握されている。それらをニシンの耳骨についてみると4ブロックで408個，少ない場合でも5ブロックでの38個，1Aブロックの30個があった。耳骨は1個体で左右各2個ずつの組みになるので，標本からの最小個体数は各数字の¼になる。

これを積丹半島の西側つまり本貝塚とはちょうど反対側にあった泊村茶津貝塚（時期的にも近い）と比較すると全体的にフゴッペ貝塚の方が埋存率が濃密である。漁撈により好条件がこの小樽湾側にあったことを推測させる。

カレイ，ヒラメ類の骨はニシンに次いで多いものであった。特に大型のヒラメの骨が多く，また保存も良く，多くの標本を得た。ヒラメは大型個体のものであったために，内蔵骨の各骨を得た。ただし，カレイも含めて，頭骨を得ることは稀であった。カレイ，ヒラメの頭骨は他の魚，例えばカサゴ，ホッケなどと比べれば頑丈で，形態は特徴的でもあり，特に今回のヒラメのように大型であれば見のがすはずがない。しかし，その発見が稀であるとすると，特別に扱われていたことも考えられる。それは，この魚が重要視されていたからに他ならないからである。

カレイ，ヒラメは貝塚産魚類として普通にみられる種類であるが，本遺跡で特に多いのは砂底性の海が展開していたことによるのはもちろんである。これと対称的なのが茶津貝塚，栄磯洞穴例であって，そこではこれらの底棲魚の総数は極めて少ない。フゴッペ貝塚の立地した理由の一つに，こうした魚の漁獲条件があったと思う。

ホッケ，アイナメ

北海道の代表的な魚種であり，本遺跡でも骨の検出は目立ち，数の上ではホッケの方が六倍以上の出土量を示していた。同じような割合が茶津貝塚でも認められており，栄磯岩陰ではホッケのみが確認されている。ホッケはニシンの産卵場で，その卵をさかんに食べるという。この時期多数のホッケの棲息が予測され，魚獲も当然多くなったと思われる。

なお，ホッケ，アイナメの内蔵骨特に顎骨の検出がほとんどなかった。骨の性状が破損すると検出しにくいということもあり，また食べ易い，このようなところに頭部の骨の少ない理由もあると思う。

カサゴ類は骨の保存状態が良くなく，断片的な標本が多いが，おそらく本遺跡での主要な魚種ではなかったかと思われる。岩礁棲のカサゴ類の生息に適した岩礁底質のあったことは充分考えられる。栄磯岩陰ではフゴッペ貝塚よりはるかに多い骨を得ているし，茶津

貝塚でもそれに近い様相があっあのではないかと推測している。積丹半島周辺域の特徴的な地形によるとみてよいのであろう。

サケ類，ウグイは検出されている標本が少なく，漁獲の程度を推測することが困難であるが，この地域の重要魚であることは遺跡の出土例からも推測できる。ただ，本遺跡の場合これらの魚と関連のある河川や河口域の規模はあまり大きくはないので，漁獲にあまり期待はもてなかったかも知れない。

サメ類（メジロザメ科），エイ類も少ない。サメの歯は単なる食料の残りというよりも，元々垂飾品などとして集められたものの一部であった可能性もある。

スズキは大型の歯骨，角骨，主鰓蓋骨をのこし，マダイも僅かに一点であるが大型個体の角骨があった。数が少なく極て稀な入手であったらしい。カナガシラの骨も出土例の稀なものである。

鳥・獣骨について

フゴッペ貝塚における鳥，獣骨の出土は少なく，特に鳥骨は少なかった。しかし，オオワシの大型の脛骨が出土しているのは，やはり狩猟技術の低くないことを証明しよう。

獣骨ではイヌ，キツネそれにシカと思われる陸獣骨があったが数は少なかった。イルカ類，オットセイ，アシカ類などの海棲獣の骨があり，オットセイの大形の上腕骨は，本遺跡の狩猟主体が海棲獣にあることを示すもののようである。また一点であるが保存の良好な銛頭を検出しているのも，ここでの海獣猟が主要な生業の一つであったことを示していよう。（既述の茶津貝塚でも定形的な銛頭は一点が検出したのみであった）。

骨角貝製品

本貝塚からは別表のように15点になる骨角貝類の加工品を得た。

刺突具類

1銛　頭　(1)（図III—295—1）

開窩式銛頭である。完存し，海獣肋骨が素材とされている。先端に根挟み用の深く幅広い切り込み＝スリットがつく。このスリットの幅から考えて，厚身のある鏃が着装されたと考えられ，おそらく石製のものであったろう。

器体部は16～17mmの幅で僅かに凹み，索綱を結ぶ索溝をつくる。索溝と尾部との間にはやや高い隆帯がつくられる。尾部は細長い三角で先端は尖る。

中柄をはめ込む茎漕は浅い凹みでしかないが実用には充分であったろう。

上述した開窩式銛頭は，北海道の噴火湾沿岸域及び積丹半島から渡島半島沿岸域の縄文前期以降にさかんにつくられるものの系統を引くものである。この銛頭には本製品のような先端に根挟みをもち，そのために器体に厚みをもつタイプと，根挟みをもたぬ器体の比較的扁平なタイプとに分けられる。前者の方が手のこんだ加工であり，普通尾部などに鋸歯状の刻みをつけて装飾とする。本例はスリットをもつ一例であるが，尾部に装飾的な加工のない珍らしい例である。先端の根挟みの幅広いこと，全体が頑丈につくられていることなど，本製品は実用本意につくられたものといえよう。

銛　頭　(2)（図III—295—8，図III—296—15）

小断片が2点ある。全体をうかがえる程の大きさはのこされていない。しかし，全体の加工は開窩式銛頭の一つである根挟みをもたない扁平単純な形のものの一部である可能性

がある。

ヤス状の刺突具の断片（図III—295—3）

尖端部をのこす破片が一点，その他は小断片で器形をうかがうことはほとんど出来ないものである。尖端をのこすものは器表面はほとんど自然面がのこり，両側の研磨も弱い。器体部の小断片であるが，両側の研磨は顕著で，やや大型の刺突具になる可能性がある。

一般にこの時期の骨角器の中で，銛頭，釣針，骨針などは定形化して，その形態的特徴をよく示すが，その他の単純な刺突具類については数も少なく，まとまった形がないらしい。今回の発掘資料についても同じことが指摘できると思われる。

釣　針（図III—295—2）

釣針の分岐部分のみをのこす断片が一点あった。両面はよく研磨され，その周囲も研磨によって調整されている。細擦痕がついて，その加工の痕をよく示している。この加工はおそらく，この釣針型のものをつくるための第一次加工である長方形の板状がつくられる際の加工痕であったと思う。つまり，釣針の製作に当って，先ず鹿角が輪切りにされて円筒状のものがつくられ(第一段階)，さらにこれを縦に割られて長方形のカマボコ状のものがつくられ(第二段階)，この板が釣針の原型をつくる基本となるので，全面を研磨して扁平な板がつくられる(第三段階)。この段階のときに，外側の形もできるだけ整えられたはずである。この板の中央が貫かれて鉤型のものがつくられる(第四段階)。そして鉤のさらに内側が研磨され，外側も最終調整をされて完成ということになる。

この釣針は上述の第四段階にあったのである。

骨　針（図III—295—4）

鳥骨を素材としてつくられた針で，一方の端にメド孔があり，尖端部は失われている。大型の鳥例えばアホウドリなどの尺骨が使われていると思う。

装身，装飾具

a．管玉型骨製品（図III—295—10）

これも管状の骨＝鳥の尺骨などが輪切りにされたものであろう。

b．点列痕をつける骨片（図III—295—11）

装飾的な加工である点列文をつける骨片である。余りに小さい骨片であるために原形をうかがうことはほとんどできない。おそらく管状の骨表面に点列文が幾条かめぐらされた形のものなのであろう。

c．エゾジカの奇形角（図III—296—14）

本貝塚から得られたシカの歯，骨角は少なかった。そのうち唯一大型の標本として注目されたのはおそらく奇形角の一つと思われるものの一点である。(図版182—14，図III—296—14)全体に磨滅のあとがみられ—特に突出した角坐の部分—長いこと手にもち，あるいはふれていたことが推測される。

この鹿角片は角幹の基部と角坐及び角坐骨をもつもので角坐骨の末端は前頭骨につながり，そのごく一部がみられる。角幹は30㎜程で折れている。この鹿角はその基部つまり前頭骨の付け根の部分から切り取ったもので，角全体を切りとる意図があったものである。ただ，現存する部分は角幹の一部で，この先どのようになっていたか不明である。この鹿角の角坐部の形状は極めて特異で，その部分が角幹の太さに比べて異状に大きく，かさ状にはり出し通常みる円盤の形と異なる。これはおそらく奇形のもので，角幹はこのまま真

直ぐにのびて一尖であったと思う。この角は通常の形態と異なるところから特に切断されたものと思われる。

貝製品

穿孔貝製品

円形あるいは扁円形に加工した貝片の中央に穿孔したものである。この地域で最も多い貝加工品である。

フゴッペ貝塚の調査は小樽湾に面した数少ない貝塚の中でのはじめての学術調査になり，それにふさわしい成果を得た。この貝塚の近くにはさらに大規模の貝塚があり，そうした貝塚での様相はなお未知数であるが，今回の調査結果はこの地域での縄文中期末葉期の漁猟の在り方を知る重要な手がかりとなろう。筆者らは以前1972年8月栄磯洞窟の調査をして，縄文中期末葉期以後続縄文期に至る間の採貝，漁猟活動の変遷をたどることが出来た。そのときに指摘された状況は基本的には積丹半島の周縁で知られる貝塚にも当てはまるようである。例えば，その活動の主体が海に向けられ，大型陸棲獣の遺骸の出土は少なく，キツネ，タヌキなどの中型陸獣が目立った。これに対してアシカ類を主とする海棲獣の骨は比較的多かった。この海棲獣の骨が素材となって銛頭がつくられ，猟に使われている。その銛頭は開窩式の特徴的な形態をもち，それらは早・前期からの伝統の上につくられたものであった。釣針については，近年調査された泊村茶津貝塚からオットセイの犬歯からつくられた単式釣針が多数出土した。この釣針の出土は大変興味深いものであったが，この釣漁法がこの地域でのカサゴ類，ヒラメ，カレイ類に使われる有効な漁具の一つであったろう。ただ，釣針がこれらの魚の唯一の漁具であったのではなく，栄磯洞穴の報告の際のべたように，網の使用は広く行われ，底引きの方法，刺網の方法で獲ることは充分に可能であったはずである。こうした漁撈が主として春～夏への季節であったことは，これらの魚が浅海域への移動期にあったことからも推測できよう。

文　献

金子浩昌（1973.3）　（栄磯岩陰遺跡）動物遺存体の概要，栄磯岩陰遺跡発掘報告，北海道島牧村教育委員会

金子浩昌（1973.3）　北海道縄文時代の骨角製銛頭と栄磯岩陰出土の資料　同上

金子浩昌（1990.3）　忍路土場遺跡出土の動物遺存体，北海道埋蔵文化財センター「忍路土場」所収

西本豊弘（1990.3）　茶津貝塚の動物遺体，北海道埋蔵文化財研究所調査報告書No.5

川内　基（1990.3）　貝層分布域出土の骨角牙，貝製品（同上）

金子浩昌，高田純子，神恵内洞穴の動物遺存体（未刊）

表Ⅳ—23　FSb—1A 獣骨一覧

ブロック	発掘区	小	カエル(g)	ヘビ(g)	ネズミ類(g)		鳥類(g)		シカ(g)		小・中型陸獣類(g)		海獣類(g)		総重量(g)
FSb-1A	G-24	13			椎骨 1	0.1						0.1	骨片	1.1	1.3
	〃	14											〃	1.2	1.2
	〃	15			下顎骨(L) 1 脛骨(L) 1	0.1 0.1					小型指骨 1	0.1	〃	0.8	1.1
	〃	22							骨片	2.6	骨片 3	0.3	〃	2.1	5.0
	〃	23											アシカ手根骨の一部 1 骨片	1.3 0.3	1.6
	計					0.3				2.6		0.5	骨片	6.8	10.2

表Ⅳ—24　FSb—1B 獣骨一覧

ブロック	発掘区	小	カエル(g)	ヘビ(g)	ネズミ類(g)		鳥類(g)		シカ(g)		小・中型陸獣類(g)		海獣類(g)		総重量(g)
FSb-1B	G-24	13			歯 1	0.1							骨片	0.3	0.4
	〃	14			歯 1 大腿骨(L) 1	0.1 0.1					小型基節骨 1 骨片 1	0.1 0.3	〃	0.2	0.8
	〃	15					骨片	0.3							0.3
	計					0.3						0.4		0.5	1.5

表Ⅳ—25　FSb—2 獣骨一覧

ブロック	発掘区	小	カエル(g)	ヘビ(g)	ネズミ類(g)		鳥類(g)		シカ(g)		小・中型陸獣類(g)		海獣類(g)		総重量(g)
FSb-2	F-24	47			上腕骨(L) 1	0.1	中手骨 1	0.1					骨片		0.2
	〃	48			上顎切歯(R) 1 エゾヤチネズミ歯 1	0.1 0.1					中足骨 1 小型陸獣骨 1 骨片 1	0.1 0.2 0.1	アシカ肩甲骨 1 骨片	2.8 1.1	4.5
	〃	55		椎骨 1 0.1							中型肋骨 4	0.3	〃	0.4	0.8
	〃	56											〃	0.2	0.2
	計			0.1		0.3		0.1				0.7		4.5	5.7

表Ⅳ—26　FSb—3 獣骨一覧

ブロック	発掘区	小	カエル(g)	ヘビ(g)	ネズミ類(g)		鳥類(g)		シカ(g)		小・中型陸獣類(g)		海獣類(g)		総重量(g)
FSb-3	F-24	63									中型肋骨(R) 1	0.6	骨片	0.2	0.8
	G-24	5			椎骨 1 骨盤(L) 1 脛骨(L) 1	0.1 0.1 0.1					中型足根骨 1	0.4	〃	1.5	2.2
	〃	6											〃	0.4	0.4
	〃	7			エゾヤチネズミ臼歯 1	0.1							〃	0.2	0.3
	〃	8											〃	1.3	1.3
	〃	12									骨片	0.1	〃	0.1	0.2
	〃	16			椎骨 1	0.1	頸椎 1	0.1			中型椎骨 1	0.4	〃	2.6	3.2
	〃	24											〃	0.3	0.3
	計					0.5		0.1				1.5		6.6	8.7

表Ⅳ—27　FSb—4 獣骨一覧

ブロック	発掘区	小	カエル(g)	ヘビ(g)	ネズミ類(g)		鳥類(g)		シカ(g)		小・中型陸獣類(g)		海獣類(g)		総重量(g)
FSb-4	F-23	15												0.1	0.1
	〃	16			椎骨 1	0.1	骨片	1.0	中手・中足 1	2.3	中型切歯 1 大型骨片 1	0.1 0.4	肋骨片 1 骨片	2.1 4.7	10.7

ブロック	発掘区	小	カエル (g)	ヘビ (g)	ネズミ類 (g)		鳥類 (g)		シカ (g)		小・中型陸獣類 (g)		海獣類 (g)		総重量(g)
FSb-4	F-23	24									キツネ前頭・上顎骨 1 下顎骨(R) 1 (L) 1 キツネ P4 中型臼歯	28.2 0.3 0.4	骨片	1.6	30.5
	F-24	3					大型橈骨 1	0.3			骨片	0.8	〃	1.6	2.7
	〃	4									中型骨片 1	0.4	〃	2.1	2.5
	〃	5			肋骨 1 骨片 3	6.1 0.3	基節骨 1	0.1			中型末節骨 1 大型肋骨片 1	0.1 1.2	〃	1.3	9.1
	〃	6			椎骨 1	0.1							アシカ科胸椎 1 肋骨 2 骨片	19.4 0.1 1.3	20.9
	〃	7											骨片	0.1	0.1
	〃	9			椎骨 1 エゾヤチネズミ下顎(L) 1 上腕骨(L) 1	0.3			鹿角枝部片 1	1.5	中型椎骨 1 骨片 1	0.4 1.4	肋骨 1 骨片	2.0 7.4	14.0
	〃	10			椎骨 1 ドブネズミ 大腿骨(L) 1 (小) 〃 1	0.3	頸椎 2 ワシ・タカ目 脛骨(L) 1	0.1 6.9			中頸椎片 1 歯 小型(幼)大腿骨 1 骨片	0.5 0.1 0.1 1.0	アシカ科踵骨 肋骨片 4 骨片	7.3 2.4 12.7	31.4
	〃	11			仙骨 1 椎骨 1 角骨(R) 1 エゾヤチネズミ下顎骨(L) 1 下顎骨犬歯(R) 1 肩甲骨(R) 1 エゾヤチネズミ上腕骨(L) 1 上腕骨(R)(L) 1 大腿骨(R) 脛骨(R) 1 肋骨 1	1.3	頭蓋片 1 中足骨(L) 1 (ミズナキドリ・カモメ)	2.0			カワウソ上顎 M_2 1 中型中節骨 1 中型末節骨 1 骨片	0.6 0.2	椎体棘突起 1 アシカ(若) 上腕(中間L) 1 四肢骨 1 ひれ脚末節骨 1 骨片	3.4 13.5 1.2 1.6 26.6	50.4
	〃	12			椎骨 1	0.1	骨片	0.3	頚椎片 1 歯破片 1 大腿骨片 1	7.8	歯 3 中型頭蓋骨 1 小中型基節骨 1	0.1 0.3	鼓骨骨 1 骨片	1.6 19.2	29.4
	〃	13			踵骨・距骨 1	0.1	骨片	0.1			小型 骨片	0.1 0.1	中手・中足骨端	3.9	4.3
	〃	14							骨片	6.1			椎体 1 骨片	1.6 3.4	11.1
	〃	15			椎骨 2	0.2	大腿骨	0.3			キツネ大腿骨	1.1	頚椎 1 肋骨 7 骨片 9	3.7 4.3 0.1	13.1
	〃	16			上切歯(R) 1	0.1					椎体棘	1.0	骨片	1.3	2.4
	〃	17			椎骨 1 脛骨(L) 1	0.2							〃	1.1	1.3
	〃	18					基節骨	0.2	骨片	2.2	骨片	0.1	肋骨 1 骨片	4.0 1.5	8.0
	〃	19											骨片	3.6	3.6
	〃	20					カモ？	0.3			耳骨片 骨片	1.8 3.8	椎体関節板 1 骨片	0.1 8.5	14.5
	〃	21					上腕(L)破片	0.5			骨片	0.2	骨片	0.5	1.2
	〃	22												3.6	3.6
	〃	23											肋骨片 1 骨片	1.4 9.4	10.8
	〃	24											末節骨 骨片	1.4 1.6	3.0
	〃	26	椎骨 0.1											0.3	0.4
	〃	27			ヤチネズミ 上切歯(R. L) 上顎骨片 下顎骨(R. L) 上腕骨(R. L) ドブネズミ大腿骨(R)	1.2					小型獣	0.1	骨片	8.2	9.5

ブロック	発掘区	小	カエル(g)	ヘビ(g)	ネズミ類(g)		鳥類(g)		シカ(g)		小・中型陸獣類(g)		海獣類(g)		総重量(g)
	F-24	28											骨片	2.5	2.5
	〃	29									イヌ上顎犬歯(L)1	0.6	〃	3.0	3.6
	〃	30											アシカ科上腕骨頭 肋骨 イルカ岩骨 骨片	9.0 7.3 1.9 0.9	19.1
	〃	31					大型骨	1.4			骨片	0.7	骨片	0.2	2.3
	〃	32											骨片	1.5	1.5
	〃	36											骨片	0.2	0.2
	〃	37											骨片(焼)	0.7	0.7
	〃	44											骨片(焼)	0.9	0.9
	〃	45											骨片	2.3	2.3
	計		0.1			10.4		13.5		19.9		46.2		231.6	321.7

表Ⅳ—28　FSb—1A 獣骨一覧

ブロック	発掘区	小	カエル(g)	ヘビ(g)	ネズミ類(g)		鳥類(g)		シカ(g)		小・中型陸獣類(g)		海獣類(g)		総重量(g)
FSb-5	F-24	38											骨片	6.0	6.0
	〃	39									4	0.6	肋骨片 1 骨片	0.2 6.5	7.3
	〃	40											アシカ肋骨(R)2 骨片	8.0 13.0	21.0
	〃	46											骨片	4.0	4.0
	〃	47			中足骨	0.1							骨片	3.6	3.7
	〃	48					骨片	0.1			骨片	0.7	アシカ踵骨? 1 骨片	9.7 1.4	11.9
	〃	55							鹿角 (1)	1.1			骨片	1.2	2.3
	〃	56									キツネ上腕(L)1	5.3	〃	0.5	5.8
	〃	62			大腿骨	0.1							四肢骨片 11	2.6	2.7
	〃	63											骨片	1.1	1.1
	〃	64		椎体 0.1									中子・中骨端 1 肋骨 1 骨片	1.5 6.2 7.6	15.4
	F-25	57											骨片	0.1	0.1
	G-24	4											〃	0.3	0.3
	〃	5			寛骨(R)上半 1	0.1							イルカ腰椎体 1 骨片	4.0 0.8	4.9
	〃	6											骨片	1.7	1.7
	〃	7			上顎切歯(L) 1	0.1							〃	0.2	0.3
	〃	8			大腿骨(L) 1	0.1							骨片	3.9	4.0
	〃	12							鹿角片	0.3			肋骨 1	1.8	2.1
	〃	13			下顎骨(R) 1 (L) 1	0.1	骨片	0.3			イヌ(幼)下顎骨(L)1 M₁未出 骨片	3.7 1.3	骨片	1.4	6.8
	〃	14											骨片	0.7	0.7
	〃	15			椎骨 1 下顎骨 1 肩甲骨 1	0.1 0.1 0.1	骨片(焼)	0.1			臼歯 1	0.1	アシカ尺骨遠位端(R)	9.5	10.0
	〃	16			下顎(R) 犬歯	0.1 0.1			種子骨	0.4	中型肋骨 2	1.2	骨片	3.0	4.8
	〃	21											骨片	0.8	0.8
	〃	23											肋骨 1 骨片	16.0 0.5	16.5
	〃	24											骨片	1.3	1.3
	G-25	1									小型下顎骨(R)1	0.4	〃		0.4
	計			0.1		1.1		0.5		1.8		13.3		119.1	135.9

表Ⅳ－29　FF－20 獣骨一覧

ブロック	発掘区	小	カエル (g)	ヘビ (g)	ネズミ類 (g)		鳥類 (g)		シカ (g)		小・中型陸獣類 (g)		海獣類 (g)		総重量(g)
FF-20	G-24	30											骨片	0.2	0.2
	計													0.2	0.2

表Ⅳ－30　FF－22 獣骨一覧

ブロック	発掘区	小	カエル (g)	ヘビ (g)	ネズミ類 (g)		鳥類 (g)		シカ (g)		小・中型陸獣類 (g)		海獣類 (g)		総重量(g)
FF-22	G-24	6											骨片	1.0	1.0
	〃	7											〃	0.2	0.2
	〃	13			椎骨 1	0.1					骨片	0.8	〃		0.9
	〃	14									歯 1	0.1	〃	6.5	6.6
	〃	15			犬歯 歯	0.1					骨片	0.5	〃	2.2	2.8
	〃	16											〃	0.4	0.4
	〃	21					骨片	0.1			中型大腿骨(L) 遠位端 1 骨片	0.6 0.1	〃	0.7	1.5
	〃	22											〃	2.3	2.3
	〃	23											〃	0.2	0.2
	計					0.2		0.1				2.1		13.5	15.9

表Ⅳ－31　FF－24 獣骨一覧

ブロック	発掘区	小	カエル (g)	ヘビ (g)	ネズミ類 (g)		鳥類 (g)		シカ (g)		小・中型陸獣類 (g)		海獣類 (g)		総重量(g)
FF-24	G-24	30									骨片	0.2			0.2
	〃	38											骨片	0.5	0.5
	計											0.2		0.5	0.7

表Ⅳ－32　貝塚獣骨一覧

ブロック	発掘区	小	カエル (g)	ヘビ (g)	ネズミ類 (g)		鳥類 (g)		シカ (g)		小・中型陸獣類 (g)		海獣類 (g)		総重量(g)
FSb-1A						0.3				2.6		0.5		6.8	10.2
FSb-1B						0.3		0.3				0.4		0.5	1.5
FSb-2				0.1		0.3		0.1				0.7		4.5	5.7
FSb-3						0.5		0.1				1.5		6.6	8.7
FSb-4			0.1			10.4		13.5		19.9		46.2		231.6	321.7
FSb-5				0.1		1.1		0.5		1.8		13.3		119.1	135.9
FF-20														0.2	0.2
FF-22						0.2		0.1				2.1		13.5	15.9
FF-24												0.2		0.5	0.7
	総計		0.1	0.2		13.1		14.6		24.3		64.9		383.3	500.5

表Ⅳ—33　FSb—1A 魚類一覧

ブロック	発掘区	小	サメ・エイ類		ニシン科								サケ科		コイ科・マルタ		カサゴ類		ホッケ		アイナメ		ヒラメ				カレイ類				不明		その他・不明		魚骨	総重量
					大		小		極小		部位		総重量										椎骨		部位		椎骨		部位		椎骨					
			個	g	個	g	個	g	個	g		g		個	g	個	g	個	g	個	g	個	g		g	個	g		g	個	g		g		
FSb-1A	G-24	13	1	0.4	24	0.3	54	0.3	19 (55)	0.2	耳骨22 (10)	0.4	1.2	3 (222)	1.5			3	0.2	2 (11) 前上顎骨(L) 1	0.3 0.1	1 歯骨 (R) 1	0.1 0.1			擬鎖骨(L) 1	0.1	10	0.6			53	0.4			9.2	14.3
	〃	14			18	0.1	74	0.4	98	0.3	耳骨 6	0.2	1.0	(98)	0.6	1	0.1	主鰓蓋骨(L) 1	0.1	3	0.1					前上顎骨片 1	0.1	3	0.2			27	0.4	フグ前上顎骨 1	0.1	17.2	19.9
	〃	15			9	0.1	81 1破2	0.5	27	0.2			0.8	(72)	0.5	2	0.1			12	0.3	1	0.1			鰓骨 1	0.4	2	0.1			3	0.2	不明方骨 1	0.1	14.8	17.4
	〃	22			12	0.1	29 1破2	0.2	21	0.1	耳骨 2	0.1	0.5	(23)	0.1					2	0.1								0.1	1	0.2	不明上鎖骨 1	0.1	5.2	6.7
																													頬楔骨 1	0.1	6	0.2	メバル類方骨R 1	0.1		
	〃	23							8	0.1			0.1	(17)	0.1					1	0.1										3	0.1		0.9		1.3
	計		1	0.4	63	0.6	238	1.4	173	0.9	耳骨 30	0.7	3.6	3 (432)	2.8	3	0.2	3	0.3	20 (11)	1.0	2	0.3				0.6	15	0.9		0.2	93	1.5		1.3	46.4	59.6

表Ⅳ—34　FSb—1B 魚類一覧

ブロック	発掘区	小	サメ・エイ類		ニシン科								サケ科		コイ科・マルタ		カサゴ類		ホッケ		アイナメ		ヒラメ				カレイ類				不明		その他・不明		魚骨	総重量
					大		小		極小		部位		総重量										椎骨		部位		椎骨		部位		椎骨					
			個	g	個	g	個	g	個	g		g		個	g	個	g	個	g	個	g	個	g		g	個	g		g	個	g		g		
FSb-1B	G-24	13	3	0.2					16	0.1			0.1	(12)	0.1							1	0.1								3	0.1			4.5	5.1
	〃	14			8	0.2	29	0.1			耳骨 1 主上顎骨(R) 1 擬耳骨(R) 1	0.1 0.1 0.1	0.5	(19)	0.1			角骨(L) 1 主鰓蓋骨(L) 1	0.1 0.1	26	0.4	1 方骨 (R) 1	0.1 0.1	22	2.4	前上顎骨(L) 1	0.3	6	0.5	第一血管間鰭片 1	0.1			21.8	26.6
	〃	15																後側頭骨(R) 1	0.3					(1)	0.1	前上顎骨片(R) 1 舌顎骨片(R) 1	0.2 1.3			方骨(L) 1	0.1			7.1	9.1
	計		3	0.2	8	0.2	29	0.1	16	0.1	耳骨 1	0.3	0.7	(31)	0.2				0.5	26	0.4	2	0.3	22 (1)	2.5		1.8	6	0.5		0.2	3	0.1			33.4	40.8

表Ⅳ—35　FSb—2 魚類一覧

ブロック	発掘区	小	サメ・エイ類 個	サメ・エイ類 g	ニシン科 大 個	ニシン科 大 g	ニシン科 小 個	ニシン科 小 g	ニシン科 極小 個	ニシン科 極小 g	ニシン科 部位	ニシン科 g	ニシン科 総重量	サケ科 個	サケ科 g	コイ科・マルタ 個	コイ科・マルタ g	カサゴ類 個	カサゴ類 g	ホッケ 個	ホッケ g	アイナメ 個	アイナメ g	ヒラメ 椎骨 個	ヒラメ 椎骨 g	ヒラメ 部位	ヒラメ g	カレイ類 椎骨 個	カレイ類 椎骨 g	カレイ類 部位	カレイ類 g	不明 椎骨 個	不明 椎骨 g	その他・不明	その他・不明 g	魚骨	総重量
FSb-2	F-24	40					28	0.3					0.3	(6)	0.1													9	1.1							3.1	4.6
	〃	47			32 1版1	0.6	99 1版4	0.9	24	0.1	耳骨 5	0.1	1.7	(83)	0.5					7	0.2	3	0.2	2	0.7	歯骨(L) 4　口蓋骨(L) 1 翼状骨(L) 4　方骨(R) 1 角骨(L) 1 舌顎骨(R) 1　(L) 1 前鰓蓋骨(R) 1　(L) 1 上舌骨 1	9.6	3	0.2	翼状骨 1 主鰓骨 1 第一血管間棘片 2	1.1	4	0.2	カナガシラ主鰓蓋骨(L) 1	0.2	28.3	42.9
	〃	48	1 サメ歯	0.2	90	1.3	392	2.6	49	0.2	耳骨 3 主上顎骨(R) 1	0.1 0.1	4.3	5 (320)	3.1	1	0.1			36	1.3	7 尾骨 1	0.3 0.1	2 (1)	1.6	頭骨 1　歯骨 1　副鰓骨 1 前顎骨(L) 1　主上顎骨(R) 3 歯骨(R) 1,(L) 1　口蓋骨 1 翼状骨(R)1,(L)1 方骨(R) 1 角骨 1　舌顎骨(L) 1	11.2	15	1.8	前上顎骨(L) 1 第1血管間棘 2 角骨(R) 1	1.0	15	0.6	メバル類方骨(L) 1 不明主鰓蓋骨 1 不明上鎖骨 1	0.4	63.5	89.5
	〃	55			35	0.5	106	0.9	14	0.1	耳骨 9	0.1	1.6	1 (106)	1.2	1	0.1			11	0.4	3	0.1	1	0.4	前上顎骨(L) 1 棘突起片 1	0.4	3	0.3	鎖間骨 1	0.7	12	0.3	カジカ椎骨 1 不明鰓蓋骨 1 不明舌顎骨 1	0.1 1.7	16.8	24.1
	〃	56			16	0.2	52 1版1	0.3	72	0.2	耳骨 2	0.1	0.8	1 (196)	1.5					10	0.3					棘突起片 3	1.4	10	0.7			13	0.5			16.2	21.4
	計			0.2	173 1版1	2.6	677 1版5	5.0	159	0.6	耳骨 19	0.5	8.7	7 (711)	6.4	2	0.2			64	2.2	14	0.7	5 (1)	2.7		22.6	40	4.1		2.8	44	1.6		2.4	127.9	182.5

表Ⅳ—36　FSb—3 魚類一覧

ブロック	発掘区	小	サメ・エイ類 個	サメ・エイ類 g	ニシン科 大 個	ニシン科 大 g	ニシン科 小 個	ニシン科 小 g	ニシン科 極小 個	ニシン科 極小 g	ニシン科 部位	ニシン科 g	ニシン科 総重量	サケ科 個	サケ科 g	コイ科・マルタ 個	コイ科・マルタ g	カサゴ類 個	カサゴ類 g	ホッケ 個	ホッケ g	アイナメ 個	アイナメ g	ヒラメ 椎骨 個	ヒラメ 椎骨 g	ヒラメ 部位	ヒラメ g	カレイ類 椎骨 個	カレイ類 椎骨 g	カレイ類 部位	カレイ類 g	不明 椎骨 個	不明 椎骨 g	その他・不明	その他・不明 g	魚骨	総重量
FSb-3	F-24	62																																	0.1	0.1
	〃	63			23	0.2	30	0.3	26	0.1	耳骨 1	0.1	0.7	2 (37)	0.4					3	0.1	1	0.1	1	0.4								1	0.1			3.4	5.2
	〃	64			9	0.1	23	0.2	15	0.1			0.4	2 (9)	0.3					2	0.1	3	0.2									1	0.1			5.4	6.5
	G-24	5			23	0.1	39	0.1	35	0.2			0.4	(32)	0.3					7	0.1			1	0.7	主上顎骨(L) 1	0.6	2	0.1			2	1.5			23.3	27.0
	〃	6			50	0.4	33	0.4	29	0.1			0.9	(92)	0.9			1	0.2	前上顎骨(R) 1	0.1					前上顎骨 1　擬鎖骨(L) 1 翼状骨(L) 1 前鰓蓋骨(R) 1	3.5	1	0.1			6	0.1			16.9	22.7
	〃	7			58	0.9	75 1版3	0.5	21	0.1			1.5	2 (80)	0.8					4	0.2					方骨 1	0.8	14	0.8			6	0.2			38.5	42.8
	〃	8			43	0.6	139 1版6	1.2	147	0.3	耳骨 5	0.1	2.2	(115)	0.6					8	0.1			1	0.2			7	0.2	主上顎骨 1	0.1	22	0.6			16.0	20.0

ブロック	発掘区	小	サメ・エイ類		ニシン科								サケ科		コイ科・マルタ		カサゴ類		ホッケ		アイナメ		ヒラメ			カレイ類			不明		その他・不明		魚骨	総重量
					大		小		極小		部位		総重量												椎骨	部位		椎骨	部位		椎骨				
			個	g	個	g	個	g	個	g		g		個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g		個	g		個	g		個	g		
	G-24	12	1	0.1	3	0.1	10	0.1	38	0.1			0.3	2 (21)	0.2					2	0.1	1	0.1	6	5.2		1	0.1			3	0.1			6.5	12.7
	〃	13			3	0.1	14	0.1	24	0.1	耳骨 1	0.1	0.4	(34)	0.2			方骨(R) 1	0.4	2	0.1					角骨(L) 1	0.5				12	0.5			25.1	27.2
	〃	14																主鰓蓋骨(L) 1	0.1					4 (3)	1.7	舌顎骨(R) 1	0.3	3	0.4					0.1	2.6
	〃	16	1	0.3	116 1図7	2.0	140 1図3	2.2	23	0.1	耳骨 15 主上顎骨(L) 1 擬耳骨 2	0.5	4.8	5 (96)	1.8	1	0.1	4 前上顎骨(R) 1 歯骨(R) 1	0.3 0.3 0.5	79	2.1	3	0.1	1	2.2		7	0.6			52	1.5			39.4	54.0
	〃	24			1	0.1	8	0.1	18	0.1			0.3	(16)	0.1																			3.9	4.3
	計		2	0.4	329 1図7	4.6	511 1図12	5.2	376	1.3	耳骨 22	0.8	11.9	13 (532)	5.6	1	0.1	5	1.8	107	3.0	8	0.5	14 (3)	10.0		6.1	35	2.3		0.1	105	4.7			178.6	225.1

表Ⅳ—37　FSb—4 魚類一覧

ブロック	発掘区	小	サメ・エイ類		ニシン科								サケ科		コイ科・マルタ		カサゴ類		ホッケ		アイナメ		ヒラメ			カレイ類			不明		その他・不明		魚骨	総重量
					大		小		極小		部位		総重量												椎骨	部位		椎骨	部位		椎骨				
			個	g	個	g	個	g	個	g		g		個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g		個	g		個	g		個	g		
FSb-4	F-23	15																								1	0.2							0.2	0.4
	〃	16			23 1図3	0.4	30	0.3			耳骨 9 主上顎骨(R) 1 (L) 1	0.4 0.2	1.3	6 (26)	0.4					21	0.6	1	0.1	2	0.7	基底後頭骨 1 角骨(R) 1	0.6	8	0.7	頭骨破片 1 前上顎骨(R) 1 上鎖骨(L) 1 間鎖骨(R) 1	0.6	11	0.2	スズキ角骨(R) 1	0.4	9.5	15.1
	〃	24			9	0.1	12	0.1			耳骨 5	0.1	0.3	1 (8)	0.2							2	0.1			擬鎖骨(R) 1	2.0					2	0.1			2.4	5.1
	F-24	3			13	0.2	28	0.2			耳骨 21 方骨(R) 1 舌骨 1	0.6	1.0	1 (48)	1.6	1 咽頭歯 1	0.1 0.1	1 後側頭骨(R) 1	0.1 0.1	2.5	0.8	1	0.1					2	0.2	鰓骨 1	0.1	15	0.2			4.9	9.3
	〃	4			54	0.7	49	0.3			耳骨 11 方骨(R) 1 舌骨 1	0.5	1.5	3 (35)	0.6					8	0.2	4	0.1			前上顎骨(L) 1	1.4	23	1.1			2	0.2			7.7	12.8
	〃	5			3	0.1	24	0.2					0.3	5 (9)	0.8			主上顎骨(L) 1	0.3	1	0.1							3	0.2			1	0.1	カジカ椎骨 2	0.1	2.0	3.9
	〃	6			2	0.1	8	0.1			耳骨 1	0.1	0.3													副擬骨片 1 歯骨(R) 1	1.2					3	0.1			0.6	2.2
	〃	7			23 2図1	0.2	33	0.2					0.4	2 (14)	0.3					7	0.2			1	0.4	前上顎骨(L) 1	0.3	4	0.2			8	0.2			1.6	3.6

ブロック	発掘区	小	サメ・エイ類		ニシン科								サケ科		コイ科・マルタ		カサゴ類		ホッケ		アイナメ		ヒラメ			カレイ類			不明		その他・不明		魚骨	総重量
					大		小		極小		部位	g	総重量										椎骨		部位	g	椎骨		椎骨					
			個	g	個	g	個	g	個	g				個	g	個	g	個	g	個	g	個	g											
	F-24	9	1	0.1	107	1.3	195 1腹1 2腹1	1.1			耳骨 112 擬耳骨(L) 1 主鰓蓋骨(R) 1(L) 1 方骨(R) 1 (L) 1 角骨(R) 1	2.7	5.1	51 (120)	2.7	4	0.3	3 前上顎骨(R) 1	0.5	52	1.2	5	0.3	17	9.5	副擬骨 1 前上顎骨(R) 1 翼状骨(R) 1 方骨(R) 1 擬鎖骨(R) 1 (L) 1 擬鎖骨片 13 腹椎 5	6.2	26	2.3	主上顎骨(L) 1 (R) 1 問鎖骨 1	0.2	52	1.4	スズキ歯骨(R) 1	3.1	36.2	69.1
	〃	10	3	0.3	90	1.3	122 1腹2 2腹2	0.6			耳骨 48 擬耳骨(R) 3 (L) 1 主上顎骨(R) 1 (L) 1 方骨(L) 1 主鰓蓋骨(R) 1 舌骨 1	1.7	3.6	3 (214)	3.4	3 咽頭歯 1	0.2 0.1	主鰓蓋骨(L) 1 後側頭骨(L) 1 第2血管問線 1	0.9	52	1.4	17	0.7	4 (1)	1.8	前上顎骨片(R) 2 口蓋骨(R) 1 擬鎖骨 1	2.8	31	3.0	咽頭骨 1 問鎖骨 1	0.2	61	1.6	カナガシラ頭骨折 1 カジカ椎体 1	0.1 0.1	41.9	62.1
	〃	11	7	1.4	169 1腹4	2.4	383 1腹4	2.9			耳骨 134 擬耳骨 1 主上顎骨(R) 1 (L) 1 歯骨(R) 1 角骨 (R) 1 舌骨片 1	14.2	19.5	9 (150)	5.8	咽頭歯 1 7	0.1 0.3	1 歯骨(L) 1 副擬骨 1 前鰓蓋骨片 1	0.2 0.6	100 主鰓蓋骨 1	2.6 0.1	18	0.9	6	6.9	前上顎骨(R) 1 歯 1 方骨(R) 1 (L) 1 前鰓蓋骨(R) 1 擬鎖骨(R) 1 下尾骨 1	11.3	49	3.8	鋤骨 1 歯骨 1 舌顎骨(R) 1 方骨(R) 2 問鎖骨 1 第一血管問線 1	3.0	80	2.9			64.9	124.3
	〃	12	1	0.1	261 1腹1	3.4	296 1腹11	2.1			耳骨 40 擬耳骨 1 主上顎骨(R) 1 舌骨 1	1.3	6.8	3 (181)	3.3	7	0.4	鎖骨(L) 1 片骨(R) 1 角骨 1 副擬骨 1 前上顎骨(L) 1	2.4	63 副擬骨 1 前上顎骨(R) 1	1.8 0.1	.45 歯骨(L) 1	1.4	5	1.5	前上顎骨(R) 1 主上顎骨(R) 2	2.1	56	4.9	副擬骨 1 角骨(R) 1 上鎖骨(L) 1 問鎖骨 1 擬鎖骨片 1	0.9	60	2.4			51.8	79.9
	〃	13			48 1腹5	0.4	67 1腹4	0.4			耳骨 4	0.1	0.9	(46)	0.6	1 咽頭歯 1	0.1 0.1			18	0.4	1	0.1			副擬骨 1 前鰓蓋骨(R) 1 前上顎骨(R) 1	2.0	10	0.8	問鎖骨 1	0.1	15	0.5			8.4	14.0
	〃	14							1	0.1			0.1	10	0.1												1	0.1			1	0.1			0.5	0.9
	〃	15			106	1.7	127 1腹7	1.1			耳骨 4 主上顎骨(R) 1	0.3	3.1	55 (26)	1.5	6	0.4	1 歯骨(L) 1	0.2 0.2	75	1.5	1	0.1	4	0.7	方骨 1	0.3	23	1.4	主上顎骨(L) 1 第1血管問線 1	0.2	30	0.9			14.4	24.9
	〃	16			123	1.3	90 1腹3	0.4			耳骨 5 主上顎骨(L) 1	0.2	1.9	(62)	1.0	2	0.1	主上顎骨(R) 1 方骨(L) 2 角骨(R) 1	0.6	39	1.0	5	0.2	5	1.2	問鎖骨(L) 1 擬鎖骨(L) 1 第1血管問線 1	4.7	25	1.0	角骨(R) 1	0.1	26	0.8			16.2	28.8
	〃	17	1歯	0.1	22	0.2	12	0.2			耳骨 1	0.1	0.5	(39)	0.7	咽頭歯 1	0.1			3	0.2	1	0.1					2	0.1			6	0.4			3.1	5.3
	〃	18			6	0.1	8	0.1					0.2	(22)	0.2					3	0.1											マダイ角骨(R) 1	1.4	3.4	5.3

ブロック	発掘区	小	サメ・エイ類		ニシン科								サケ科		コイ科・マルタ		カサゴ類		ホッケ		アイナメ		ヒラメ			カレイ類			不明		その他・不明		魚骨	総重量
					大		小		極小		部位	g	総重量												部位	g								
			個	g	個	g	個	g	個	g				個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	椎骨 個	椎骨 g		椎骨 個	椎骨 g					
	F-24	19			3	0.1	9	0.1					0.2	(7)	0.1					4	0.2			1	0.3	擬鎖骨片 1	1.3	1	0.1					2.5	4.7
	〃	20	1	0.4	18	0.3	33	0.3					0.6	5 (27)	0.8	咽頭歯 1	0.1	方骨 (R) (L) 1	0.3	21	0.7	2	0.1			前上顎骨 1 擬鎖骨 1	1.4	2	0.1			22	0.7			6.2	11.4
	〃	21					1	0.1					0.1	(2)	0.1					2	0.2													0.1	0.5
	〃	22												(7)	0.2																3	0.1			0.2	0.5
	〃	23			3	0.1	4	0.1					0.2	2 (6)	0.5			前上顎骨(L) 1	0.1	2	0.1			2	0.4					擬鎖骨 1	0.2	4	0.2			1.2	2.9
	〃	24			27	0.6	32	0.3			耳骨 2	0.1	1.0	(9)	0.2					27	0.6							12	0.9							4.8	7.5
	〃	26					1	0.1					0.1															1	0.1							0.1	0.3
	〃	27			15	0.2	11 1版1	0.1			耳骨 10	0.1	0.4	(9)	0.1					4	0.1			5	3.7			11	0.9			5	0.2			5.2	10.6
	〃	28												(3)	0.1									2	1.3						1	0.1			2.0	3.5
	〃	29																主鰓蓋骨(R) 1	0.3							舌顎骨(L) 1 前鰓蓋骨(L) 1	1.7									1.1	3.1
	〃	30			12	0.1	9 1版1	0.1			耳骨 1	0.1	0.3	1 (5)	0.3									4	2.8			4	0.2			1	0.1			2.3	6.0
	〃	31												(1)	0.1									4	2.6	下尾軸骨 11	2.3								0.1	5.1
	〃	32																								前上顎骨(L) 1 舌顎骨(R) 1	1.0	2	0.1							4.1	5.2
	〃	36					2	0.1					0.1																						0.1	0.2
	〃	37												(3)	0.1																				0.1	0.2
	〃	45			1	0.1	3	0.1					0.2															1	0.1							0.2	0.5
	計		13	2.4	1,138 1版13 2版1	15.4	1,589 1版34 2版3	11.7	1	0.1	耳骨 408	22.8	50.0	157 (1,079)	25.8	31	2.5	6	6.8	527	14.2	103	4.3	62 (1)	33.8		42.6	298	22.5		5.6	409	13.5		5.2	300.0	529.2

表Ⅳ—38　FSb—5 魚類一覧

ブロック	発掘区	小	サメ・エイ類		ニシン科								サケ科		コイ科・マルタ		カサゴ類		ホッケ		アイナメ		ヒラメ			カレイ類			不明		その他・不明		魚骨	総重量
					大		小		極小		部位	g	総重量												部位	g								
			個	g	個	g	個	g	個	g				個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	椎骨 個	椎骨 g		椎骨 個	椎骨 g					
FSb-5	F-24	38			8 1版1	0.2	5	0.1					0.3	(12)	0.2					1	0.1									前上顎骨(L) 1	0.1					2.3	3.0
	〃	39			27	0.3	22	0.2					0.5	(11)	0.2					12	0.3	2	0.2	5	2.1	前上顎骨(L) 1　翼状骨(R) 1 方骨(L) 1　主鰓蓋骨(R) 1	2.1	11	1.0	上鎖骨 1 第一血管間棘 1	0.9	6	0.4			15.3	23.0

ブロック	発掘区	小	サメ・エイ類		ニシン科									サケ科		コイ科・マルタ		カサゴ類		ホッケ		アイナメ		ヒラメ				カレイ類				不明		その他・不明		魚骨	総重量
					大		小		極小		部位		総重量												椎骨	部位		椎骨		部位		椎骨					
			個	g	個	g	個	g	個	g		g		個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g		g	個	g		g	個	g		g		
FSb-5	F-24	40			10	0.2	23	0.3			耳骨 1	0.1	0.6	2 (10)	0.7					8	0.3						8	0.5			1	0.1	スズキ主鰓蓋骨 1	0.7	1.7	4.6
	〃	46	1	0.1			2 1版1	0.1					0.1	(1)	0.1					1	0.1				前鰓蓋(R) 1	1.1	1	0.1							0.2	1.8
	〃	47			21	0.1	32	0.1			耳骨 8	0.1	0.3	(11)	0.2	1	0.1			12	0.1			1	0.1		4	0.1			7	0.1		0.1	4.0	5.1
	〃	48			66	0.9	127	0.9			耳骨 2	0.1	1.9	1 (72)	1.6	咽頭歯 1	0.1	1 前鰓蓋骨 (L) 1	0.1 (R) 1 0.3	23	0.5	6	0.3	1	0.1	翼状骨(R) 1 前鰓蓋骨(L) 2 問鎖骨 1	3.0	6	0.6	鋤骨 1 角骨(R) 1	0.4			スズキ主鰓蓋骨(L) 1 スズキ角骨(R) 1 メバル類方骨(L) 1	4.2	14.1	27.3
	〃	54					1	0.1					0.1							1	0.1			1	0.2								メバル類舌顎骨(R) 1	0.1	0.1	0.6
	〃	55			2	0.1	7	0.2			耳骨 1	0.1	0.4	1 (4)	0.1					1	0.1									2	0.2			1.7	2.5
	〃	56					7 2版1	0.1					0.1	(2)	0.1					1	0.1									3	0.1			1.7	2.1
	〃	62					3	0.1					0.1																				0.1	0.2
	〃	63			2	0.1	2	0.1					0.2	(2)	0.1							1	0.1				1	0.1			1	0.1			0.4	1.0
	〃	64			36	0.5	89	0.7			耳骨 2	0.3	1.5	4 (18)	0.5	咽頭歯 1	0.1			11	0.6	2	0.1			擬鎖骨(R) 1	0.7	12	0.7			7	0.2			5.1	9.5
	F-25	57					1	0.1					0.1							1	0.1													0.2	0.4
	G-24	4			8	0.2	4	0.1					0.3							1	0.1									4	0.1			0.5	1.0
	〃	5					8	0.1					0.1	(4)	0.1	2	0.1										2	0.2					1.1	1.6
	〃	6			2	0.1	6	0.2			耳骨 1	0.1	0.4	1 (12)	0.3									2	1.0	翼状骨(L) 1 前鰓蓋骨(R) 1	1.2	4	0.5	第1血管間棘 1	0.2			3.2	6.8
	〃	7			11	0.1	9 1版1	0.1			耳骨 4	0.1	0.3	(1)	0.1	2	0.1			4	0.1						1	0.1			1	0.1			0.9	1.7
	〃	8			12	0.2	16	0.1					0.3	1 (5)	0.3					1	0.1			1	1.2		1	0.2			2	0.1			2.6	4.8
	〃	12			20	0.3	24 2版2	0.2			耳骨 4	0.1	0.6	(13)	0.4			方骨 (L) 1	0.3	3	0.1			4	2.6	主上顎骨(R) 1 角骨(R) 1 前鰓蓋骨(R) 1 擬鎖骨(L) 1 (L) 1	2.8	4	0.2			8	0.4	カナガシラ頭頂骨の一部 1	0.2	4.5	12.1
	〃	13			6	0.1	21	0.1			耳骨 4	0.1	0.3	1 (16)	0.3					5 主上顎骨(L) 1	0.2 0.1			13	14.3	歯骨(R) 1 (L) 1 擬鎖骨(L) 1	2.6	7	0.9	尾椎骨 1	0.1	2	0.2			7.1	26.1
	〃	14	1	0.2										1	0.1					1	0.1			2	0.6	擬鎖骨(L) 1	1.5	2	0.1			7	0.4			2.8	5.8

ブロック	発掘区	小	サメ・エイ類		ニシン科								サケ科		コイ科・マルタ		カサゴ類		ホッケ		アイナメ		ヒラメ				カレイ類				不明		その他・不明		魚骨	総重量
					大		小		極小		部位	g											椎骨		部位	g	椎骨		部位	g	椎骨					
			個	g	個	g	個	g	個	g			個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g			個	g			個	g				
Fsb-5	G-24	15	1	0.1	48 1歯1 2歯2	0.7	82 1歯4	0.5			耳骨 5	0.3	1.5	(50)	0.8			尾椎骨 1 主鰓蓋骨(R)1 (L) 1 上鎖骨(R) 1	0.5	6	0.1					口蓋骨 1	0.1					29	0.6			9.6	13.3
	〃	16	1	0.1			6	0.1			耳骨 3	0.1	0.2	(10)	0.1	1	0.1	1	0.1					1	0.3	方骨(R) 1	0.6	2	0.1							4.3	5.9
	〃	21			3	0.1	3	0.1			耳骨 3	0.1	0.3	(2)	0.1							前上顎骨(L) 1	0.1									2	0.1	メバル類 方骨(L) 1	0.1	1.4	2.1
	〃	23					1	0.1					0.1	(4)	0.1					2	0.2			1	0.5	歯骨(R) 1 舌顎骨(L) 1	1.7					3	0.1			1.3	4.0
	〃	24					1	0.1					0.1	(4)	0.2											歯骨片(R) 1	0.1					1	0.1			0.9	1.4
	G-25	1												(3)	0.2					1	0.1											1	0.1			0.2	0.6
	計		4	0.5	282	4.2	502	4.9			耳骨 38	1.6	10.7	12 (267)	6.9	6	0.6	2	1.3	96	3.6	11	0.8	32	23.0		17.5	66	5.4		1.7	87	3.5		5.4	87.3	168.3

表Ⅳ—39　FF—20 魚類一覧

ブロック	発掘区	小	サメ・エイ類		ニシン科								サケ科		コイ科・マルタ		カサゴ類		ホッケ		アイナメ		ヒラメ				カレイ類				不明		その他・不明		魚骨	総重量
					大		小		極小		部位	g											椎骨		部位	g	椎骨		部位	g	椎骨					
			個	g	個	g	個	g	個	g			個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g			個	g			個	g				
FF-20	G-24	29																																	0.1	0.1
	〃	30					3	0.1						(5)	0.1																					0.8	1.0
	〃	37																																	0.1	0.1
	計						3	0.1						(5)	0.1																					1.0	1.2

表Ⅳ—40　FF—21 魚類一覧

ブロック	発掘区	小	サメ・エイ類		ニシン科								サケ科		コイ科・マルタ		カサゴ類		ホッケ		アイナメ		ヒラメ				カレイ類				不明		その他・不明		魚骨	総重量
					大		小		極小		部位	g											椎骨		部位	g	椎骨		部位	g	椎骨					
			個	g	個	g	個	g	個	g			個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g			個	g			個	g				
FF-21	G-24	39												(18)	0.1																					0.5	0.6
	〃	40												(2)	0.1																					0.1	0.2
	計													(10)	0.2																					0.6	0.8

表Ⅳ—41　FF—22 魚類一覧

ブロック	発掘区	小	サメ・エイ類		ニシン科								サケ科		コイ科・マルタ		カサゴ類		ホッケ		アイナメ		ヒラメ				カレイ類				不明		その他・不明		魚骨	総重量
					大		小		極小		部位		総重量												椎骨		部位		椎骨		部位		椎骨					
			個	g	個	g	個	g	個	g		g		個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g		g	個	g		g	個	g		g		
FF-22	G-24	6			16	0.1	38 2皮3	0.2	77	0.3	耳骨 1	0.1	0.7	(73)	0.4					6	0.2	3	0.1			方骨(R) 1 前鰓蓋骨(R) 1	1.0	2	0.2			14	0.4			22.5	25.5
	〃	7			12 2皮2	0.1	11	0.1	25	0.1			0.3	(36)	0.3					10	0.2							1	0.2							5.7	6.7
	〃	13			21	0.3	66	0.3			耳骨 5	0.1	0.7	3 (113)	1.5	1	0.1			12	0.3			1	0.3	角骨(R) 1	0.6	8	0.6	角骨 1	0.1	6	0.4	タラ前上顎骨	0.2	24.0	28.8
	〃	14	2	0.6	41 1皮1 2皮2	0.5	166	0.8			耳骨 2	0.1	1.4	(245)	1.3			1	0.1	32	0.7					鰓骨 1 前上顎骨(L)破片 1 翼状骨(R) 1 間鰓骨 1	2.6	7	0.4			10	0.2	不明 前鰓蓋骨 1	0.1	38.9	46.3
	〃	15			26	0.3	71 1皮4 2皮1	0.4	112	0.4	耳骨 3	0.2	1.3	(84)	0.4			1	0.1	14	0.4	2	0.1	5	0.8			9	0.6			14	0.4			74.4	78.5
	〃	16			4	0.1	20 1皮2	0.1	69	0.2	耳骨 1	0.1	0.5	(171)	0.7					13	0.2							3	0.3			4	0.1	ボラ椎骨 1	0.5	11.8	14.1
	〃	21			15	0.2	34	0.2			耳骨 1	0.1	0.5	(72)	0.4					2	0.1			1	0.6			2	0.1			2	0.1	歯骨片(R) 1	0.1	10.3	12.2
	〃	22			16	0.2	89	0.2			耳骨 4	0.2	0.6	(139)	0.4					7 歯骨 (R) 1	0.2 0.1	1	0.1	1	0.5					主上顎骨(L) 1	0.1	5	0.2	メバル類方骨(R) 1 不明上鰓骨 1	0.2	34.4	36.8
	〃	23					7	0.1	6	0.1			0.2	(54)	0.2																				7.8	8.2
	〃	24					8	0.1					0.1	(17)	0.1					2	0.1	1	0.1							2 0.2				2 0.1		3.5	4.2
	〃	31												(7)	0.1																			0.3	0.4
	〃	32																																	0.1	0.1
	計		2	0.6	151 1皮1 2皮4	1.8	510 1皮6 2皮4	2.5	289	1.1	耳骨 17	0.9	6.3	3 (1,011)	5.8	1	0.1	2	0.2	98	2.5	7	0.4	8	2.2		4.2	34	2.6		0.2	57	1.9		1.1	233.7	261.8

表Ⅳ—42　FF—24 魚類一覧

ブロック	発掘区	小	サメ・エイ類		ニシン科								サケ科		コイ科・マルタ		カサゴ類		ホッケ		アイナメ		ヒラメ				カレイ類				不明		その他・不明		魚骨	総重量
					大		小		極小		部位		総重量												椎骨		部位		椎骨		部位		椎骨					
			個	g	個	g	個	g	個	g		g		個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g		g	個	g		g	個	g		g		
FF-24	F-24	30												(36)	0.1																					1.6	1.7
	G-24	38							5	0.1			0.1	(47)	0.1									1	0.1											2.0	2.3
	計								5	0.1			0.1	(83)	0.2									1	0.1											3.6	4.0

表Ⅳ—43　貝塚魚類一覧

ブロック	発掘区	小	サメ・エイ類		ニシン科							総重量	サケ科		コイ科・マルタ		カサゴ類		ホッケ		アイナメ		ヒラメ				カレイ類				不明		その他・不明		魚骨	総重量
					大		小		極小		部位												椎骨		部位		椎骨		部位		椎骨					
			個	g	個	g	個	g	個	g		g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g		g	個	g		g	個	g		g		
FSb-1A			1	0.4	63	0.6	238	1.4	173	0.9	耳骨30	0.7	3.6	3 (432)	2.8	3	0.2	3	0.3	20 (11)	1.0	2	0.3				0.6	15	0.9		0.2	93	1.5		1.3	46.4	59.6
FSb-1B			3	0.2	8	0.2	29	0.1	16	0.1	耳骨1	0.3	0.7	(31)	0.2				0.5	26	0.4	2	0.3	22 (1)	2.5		1.8	6	0.5		0.2	3	0.1			33.4	40.8
FSb-2				0.2	173 1版1	2.6	677 1版5	5.0	159	0.6	耳骨19	0.5	8.7	7 (711)	6.4	2	0.2			64	2.2	14	0.7	5 (1)	2.7		22.6	40	4.1		2.8	44	1.6		2.4	127.9	182.5
FSb-3			2	0.4	329 1版7	4.6	511 1版12	5.2	376	1.3	耳骨22	0.8	11.9	13 (532)	5.6	1	0.1	5	1.8	107	3.0	8	0.5	14 (3)	10.0		6.1	35	2.3		0.1	105	4.7			178.6	225.1
FSb-4			13	2.4	1,138 1版13 2版1	15.4	1,589 1版34 2版3	11.7	1	0.1	耳骨408	22.8	50.0	157 (1,079)	25.8	31	2.5	6	6.8	527	14.2	103	4.3	62 (1)	33.8		42.6	298	22.5		5.6	409	13.5		5.2	300.0	529.2
FSb-5			4	0.5	282	4.2	502	4.9			耳骨38	1.6	10.7	12 (267)	6.9	6	0.6	2	1.3	96	3.6	11	0.8	32	23.0		17.5	66	5.4		1.7	87	3.5		5.4	87.3	168.3
FF-20							3	0.1						(5)	0.1																				1.0	1.2
FF-21														(10)	0.2																				0.6	0.8
FF-22			2	0.6	151 1版1 2版4	1.8	510 1版6 2版4	2.5	289	1.1	耳骨17	0.9	6.3	3 (1011)	5.8	1	0.1	2	0.2	98	2.5	7	0.4	8	2.2		4.2	34	2.6		0.2	57	1.9		1.1	233.7	261.8
FF-24									5	0.1			0.1	(83)	0.2								1	0.1											3.6	4.0
	総計		25	4.7	2,144 1版22 2版5	29.4	4,059 1版57 2版7	136.2	1,019	4.2	耳骨535	27.7	92.0	195 (4,161)	54.0	44	3.7	18	10.9	938 (11)	26.9	147	7.3	144	74.3		95.4	494	38.3		10.8	798	26.8		15.4	1,012.5	1473.3

表Ⅳ—44　FSb—1A 貝類一覧

ブロック	発掘区	小発掘区	層位	フジツボ	ウニ	イガイ(g)						ヤマトシジミ(g)						マガキ		オオウヨウラク		コベルトフネガイ		コタマガイ		ウチムラサキ		ヒザラガイ		微小貝		巻貝片		二枚貝片		その他		重量総計(g)
						右	左	不明	重量	破片重量	総重量	右	左	不明	重量	破片重量	総重量	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g		g	
FSb-1A	G-24	13	混土貝	11.8	0.1	13	42	4	74.0	794.1	868.1					3.0	3.0			1	0	3 (65)	2.9					(1)	2.7	(1)	0.1	87 (15)	0.7	(20)	2.3		1.6			893.3
	〃	14	〃	24.2		39	61	27	121.5	2,968.9	3,090.4		1		0.1	0.3	0.4			1 (2)	0.1	1 (76)	3.5					1 (5)	0.1	355 (170)	1.4	(41)	1.4		4.4			3,125.9
	〃	15	〃	0.4	0.1	30	24	3	47.1	238.1	285.2													1	1.5					4 (2)	0							287.2
	〃	16	〃																											10	0							0
	〃	22	〃	0.1	0.1	5	4	8	3.5	85.2	88.7					0.3	0.3					2 (48)	3.6	1	2.5			1	0.1	25	0.3	(5)	0.3			不明(1)	0.2	96.2
	〃	23	〃	0.7	0.1	8	1	5	2.8	361.1	363.9	1	1		1.1	1.1	2.2													16	0							366.9
	計			37.2	0.4	95	132	47	248.9	4,447.4	4,696.3	1	2		1.2	4.7	5.9			2 (2)	0.1	6 (189)	10.0	2	4.0	(1)	2.7	2 (6)	0.3	497 (187)	2.4	(66)	4.0		6.0	不明(1)	0.2	4,769.5

表Ⅳ—45　FSb—1B 貝類一覧

ブロック	発掘区	小発掘区	層位	フジツボ	ウニ	イガイ(g)						ヤマトシジミ(g)						マガキ		オオウヨウラク		コベルトフネガイ		コタマガイ		ウチムラサキ		ヒザラガイ		微小貝		巻貝片		二枚貝片		その他		重量総計(g)
						右	左	不明	重量	破片重量	総重量	右	左	不明	重量	破片重量	総重量	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g		g	
FSb-1B	G-24	13	混貝土			2	3	1	3.1	39.7	42.8																												42.8
	〃	14	〃							158.8	158.8																			3	0							158.8
	〃	15	〃	0.8		17	20	3	48.8	159.6	208.4																											209.2
	計			0.8		19	23	4	51.9	358.1	410.0																			3	0							410.8

表Ⅳ—46　FSb—2 貝類一覧

ブロック	発掘区	小発掘区	層位	フジツボ	ウニ	イガイ(g)						ヤマトシジミ(g)						マガキ		オオウヨウラク		コベルトフネガイ		コタマガイ		ウチムラサキ		ヒザラガイ		微小貝		巻貝片		二枚貝片		その他		重量総計(g)
						右	左	不明	重量	破片重量	総重量	右	左	不明	重量	破片重量	総重量	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g		g	
FSb-2	F-24	40	混土貝				1		0.3		0.3																											0.3
	〃	47	〃	2.9	0.1	46	45	58	111.5	2,105.7	2,217.2					7.3	7.3					(31)	2.0					(12)	0.3	36 (10)	5.0	(24)	1.7			不明巻貝 5	4.8	2,241.3
	〃	48	〃	10.1	0.1	33	33	36	46.0	2,144.8	2,190.8	12	6		13.7	7.3	21.0	2	5.4	5	1.0	4	0.4							162 (23)	0.6	14	3.0					2,232.4
	〃	55	〃	11.0		29	41	35	36.1	2,262.5	2,298.6	3	3	1	7.4	0.7	8.1					(18)	0.7							97 (17)	0.8	(57)	4.7	(36)	0.6			2,324.5

ブロック	発掘区	小発掘区	層位	フジツボ	ウニ	イガイ(g) 右	左	不明	重量	破片重量	総重量	ヤマトシジミ(g) 右	左	不明	重量	破片重量	総重量	マガキ 個	g	オウヨウラクオオ 個	g	コベルトフネガイ 個	g	コタマガイ 個	g	ウムラサキチ 個	g	ヒザラガイ 個	g	微小貝 個	g	巻貝片 個	g	二枚貝片 個	g	その他	g	重量総計(g)
FSb-2	F-24	56	混土貝	5.0	0.2	6	4	9	5.8	556.9	562.7	3	2		2.2	3.5	5.7			1	0.1	(9)	0.4							68	1.1	(27)	2.0			不明巻貝 1 不明	0.8 0.1	578.1
	計			29.0	0.4	114	124	138	199.7	7,069.9	7,269.6	18	11	1	23.3	18.8	42.1	2	5.4	6	1.1	4 (58)	3.5					(12)	0.3	363 (50)	7.5	14 (108)	11.4	(36)	0.6	不明巻貝 6 不明 1	5.7	7,376.6

表Ⅳ—47　FSb—3 貝類一覧

ブロック	発掘区	小発掘区	層位	フジツボ	ウニ	イガイ(g) 右	左	不明	重量	破片重量	総重量	ヤマトシジミ(g) 右	左	不明	重量	破片重量	総重量	マガキ 個	g	オウヨウラクオオ 個	g	コベルトフネガイ 個	g	コタマガイ 個	g	ウムラサキチ 個	g	ヒザラガイ 個	g	微小貝 個	g	巻貝片 個	g	二枚貝片 個	g	その他	g	重量総計(g)
FSb-3	F-24	63	混土貝	3.3	0.1	9	8	8	17.7	439.8	457.5											8	0.1							11	0.1	10	0.4					461.5
	〃	64	〃	0.1			1	1	0.2	10.7	10.9	4			2.6	3.2	5.8													2	0.1	2	0.3					17.2
	G-24	5	〃	5.9		4	6	5	7.5	89.1	96.6	1		1	0.7	0.5	1.2					4	0.1	1	1.3					26	0.1							105.2
	〃	6	〃	18.5		35	31	37	99.9	946.6	1,046.5									1	0.5									9 (1)	0.5	(4)	0.1			不明巻貝 1	0.5	1,066.6
	〃	7	〃	77.8	0.9	92	89	119	352.3	6,246.2	6,598.5											1 (23)	3.6					(4)	0.1	59 (6)	0.2	(17)	1.2					6,682.3
	〃	8	〃	2.1		9	11	8	13.8	228.1	241.9	1		1	0.6		0.6					(20)	0.5					(12)	0.3	6 (1)	0.1	(2)	0.1					245.6
	〃	12	〃							3.7	3.7																							(10)	0.4			4.1
	〃	13	〃	0.7		3	5	1	4.5	30.4	34.9	2	3	2	18.7	0.4	19.1															(4)	0.5					55.2
	〃	14	〃							16.7	16.7																							(5)	0.9			17.6
	〃	16	〃	6.0		32	29	60	54.4	808.7	863.1					0.6	0.6	3	5.5	4	2.0	4	0.5	1	8.6			10	0.2	25 (10)	0.9	35	3.6			不明巻貝 2	0.6	891.6
	〃	24	〃	0.1			2		0.3	0.7	1.0																											1.1
	計			114	1.0	184	182	239	550.6	8,820.7	9,371.3	8	3	4	22.6	4.7	27.3	3	5.5	5	2.5	17 (43)	4.8	2	9.9			10 (16)	0.6	138 (18)	2.0	47 (27)	6.2	(15)	1.3	不明巻貝 3	1.1	9,548.0

表Ⅳ—48　FSb—4 貝類一覧

ブロック	発掘区	小発掘区	層位	フジツボ	ウニ	イガイ(g) 右	左	不明	重量	破片重量	総重量	ヤマトシジミ(g) 右	左	不明	重量	破片重量	総重量	マガキ 個	g	オウヨウラクオオ 個	g	コベルトフネガイ 個	g	コタマガイ 個	g	ウムラサキチ 個	g	ヒザラガイ 個	g	微小貝 個	g	巻貝片 個	g	二枚貝片 個	g	その他	g	重量総計(g)
FSb-4	F-23	15	混貝土							2.3	2.3																											2.3
	〃	16	〃							10.7	10.7																											10.7
	〃	23	〃							0.3	0.3																											0.3
	〃	24	〃							1.2	1.2																											1.2

ブロック	発掘区	小発掘区	層位	フジツボ	ウニ	イガイ(g)						ヤマトシジミ(g)						マガキ		オオウヨウラク		コベルトフネガイ		コタマガイ		ウチムラサキ		ヒザラガイ		微小貝		巻貝片		二枚貝片		その他		重量総計(g)
						右	左	不明	重量	破片重量	総重量	右	左	不明	重量	破片重量	総重量	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g		g	
FSb-4	F-24	3	〃 焼土混り							6.1	6.1																											6.1
	〃	4	混貝土				1		2.1	18.7	20.8													(9)	4.3													25.1
	〃	5	焼土			3	3		6.0	34.3	40.3							(1)	1.0													(3)	0.3					41.6
	〃	6	混貝土			1	2		2.4	3.7	6.1																											6.1
	〃	7	〃 (黒色土)	0.2				4	3.0	16.1	19.1																											19.3
	〃	9	〃	1.7	0.2	25	25	8	104.9	696.7	801.6	5	6	2	17.2	2.8	20.0					(1)	0.1	(2)	4.4					5	0.2	(8)	2.1					830.3
	〃	10	〃	0.8		7	8	2	8.1	322.4	330.5		1	1	1.1		1.1													1	0							332.4
	〃	11	〃	0.4	0.1	2	4		2.8	129.2	132.0													(8)	3.6					5 (1)	3.2	(1)	0.3	(2)	3.2			142.8
	〃	12	〃	0.3		2	5	1	10.2	85.1	95.3																											95.6
	〃	13	〃			1	2		4.0	12.4	16.4																											16.4
	〃	14	混貝土							0.3	0.3																											0.3
	〃	15	〃	0.4		5	2	5	3.2	142.9	146.1		1		1.3		1.3													1	0.1							147.9
	〃	16	混貝土	0.4			2	1	1.1	35.2	36.3																							(1)	2.8	(4)	0.2			39.7
	〃	17	〃				4	1	9.1	26.9	36.0																					2	0.1	(2)	0.1					36.2
	〃	18	〃							16.0	16.0													2	2.4									(1)	0.1					18.5
	〃	20	〃							0.9	0.9							1	6.8																					7.7
	〃	22	II b							0.1	0.1																													0.1
	〃	23	混貝土							0.1	0.1																													0.1
	〃	24	〃	1.7						17.7	17.7					0.6	0.6																	1	1.6					21.6
	〃	26	〃							0.1	0.1																													0.1
	〃	27	〃	0.4			1		0.1	21.9	22.0																													22.4
	〃	28	II b							0.2	0.2																													0.2
	〃	30	混貝土			2	1		2.3	102.7	105.0	1			0.2		0.2															4	0.5					105.7
	計		〃	6.3	0.3	48	60	22	159.3	1,704.2	1,863.5	6	8	3	19.8	3.4	23.2	1 (1)	7.8			(1)	0.1	2 (19)	14.7					14 (1)	3.6	5 (16)	7.8	(6)	3.4			1,930.7

表Ⅳ—49　FSb—5 貝類一覧

ブロック	発掘区	小発掘区	層位	フジツボ	ウニ	イガイ(g)						ヤマトシジミ(g)						マガキ		オオウヨウラク		コベルトフネガイ		コタマガイ		ウチムラサキ		ヒザラガイ		微小貝		巻貝片		二枚貝片		その他		重量総計(g)
						右	左	不明	重量	破片重量	総重量	右	左	不明	重量	破片重量	総重量	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g		g	
FSb-5	F-24	38								2.6	2.6																											2.6

ブロック	発掘区	小発掘区	層位	フジツボ	ウニ	イガイ(g)						ヤマトシジミ(g)						マガキ		オオウロウラク		コベルトフネガイ		コタマガイ		ウチムラサキ		ヒザラガイ		敲小貝		巻貝片		二枚貝片		その他		重量総計(g)
						右	左	不明	重量	破片重量	総重量	右	左	不明	重量	破片重量	総重量	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g		g	
FSb-5	F-24	39	混貝土(焼土)							10.2	10.2																											10.2
		40	II b 混土貝							1.8	1.8																											1.8
	〃	46	混土貝				1		0.8	13.8	14.6																											14.6
	〃	47	〃				1	1	0.3	2.7	3.0	8	4		14.3		14.3													1	0							17.3
	〃	48	〃	0.8						4.1	4.1																			13 (2)	0.3	(3)	0.2					5.4
	〃	54	〃							0.1	0.1																											0.1
	〃	55	混貝土					4	0.9	8.8	9.7																											9.7
	〃	56	焼土							1.2	1.2																							(2)	0.9			2.1
	〃	63	〃							7.5	7.5																											7.5
	〃	64	混土貝・下			4	2	6	21	23.6	25.7	1		6	1.7		1.7																	(2)	0.1			27.5
	F-25	57	黒色土							0.1	0.1																											0.1
	G-24	5	〃	0.1		1	2	1	6.8	8.8	15.6																											15.7
	〃	6	混貝土(黒色土)							0.2	0.2																											0.2
	〃	7	〃	0.1						5.1	5.1																							(1)	0.1			5.3
	〃	8	〃							0.9	0.9																											0.9
	〃	12	〃							3.3	3.3																											3.3
	〃	13	〃	1.7		5	10	3	16.3	44.9	61.2																							(4)	0.2			63.1
	〃	14	〃			10	5		16.5	211.1	227.6		1		0.3	3.8	4.1	1 (13)	16.1	3	2.7	14 (58)	3.6	(16)	9.0					45 (3)	0.8	26	4.6			不明(3)	1.6	270.1
	〃	15	〃	0.8		3	2	9	14.1	28.6	42.7	1			1.0		1.0					(1)	0.1							5	0.2	3	1.4					46.2
	〃	16	〃	0.3		1	1	5	2.2	6.2	8.4							2	8.5													2	0.1					17.3
	〃	21	〃							0.2	0.2																											0.2
	〃	23	〃	0.1			1		0.2	4.9	5.1																											5.2
	〃	24	混貝土(黒色土)	0.4						1.5	1.5																											1.9
	計			4.3		24	25	29	60.2	392.2	452.4	10	5	6	17.3	3.8	21.1	3 (13)	24.6	3	2.7	14 (59)	3.7	(16)	9.0					64 (5)	1.3	31 (8)	6.6	(4)	1.0	不明(3)	1.6	528.3

表Ⅳ—50　FF—22 貝類一覧

ブロック	発掘区	小発掘区	層位	フジツボ	ウニ	イガイ（g）						ヤマトシジミ（g）						マガキ		オウヨウラクオオ		コベルトフネガイ		コタマガイ		ウムラサキチ		ヒザラガイ		数小貝		巻貝片		二枚貝片		その他		重量総計（g）
						右	左	不明	重量	破片重量	総重量	右	左	不明	重量	破片重量	総重量	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g		g	
FF-22	G-24	6		0.1		1		2	0.9	72.3	73.2											1	0.1														73.4
	〃	7		10.0		13	4		14.4	147.2	161.6																										171.6
	〃	13		0.3		20	11	7	25.2	43.9	69.1																										69.4
	〃	14								73.7	73.7																										73.7
	〃	15		4.7		42	49	71	148.9	1,649.7	1,798.6											1	0.1	1	7.3					9	0.3	2	0.2				1,811.2
	〃	16						2	0.5	24.1	24.6																										24.6
	〃	21						1	0.3	37.3	37.6																			4	0.2						37.8
	〃	22		0.1						19.6	19.6																										19.7
	〃	23		0.3						2.9	2.9																										3.2
	〃	24						1	0.1	5.8	5.9																										5.9
	〃	31								0.1	0.1																										0.1
	計			15.5		76	64	84	190.3	2,076.6	2,266.9											2	0.2	1	7.3					13	0.5	2	0.2				2,290.6

表Ⅳ—51　FF—24 貝類一覧

ブロック	発掘区	小発掘区	層位	フジツボ	ウニ	イガイ（g）						ヤマトシジミ（g）						マガキ		オウヨウラクオオ		コベルトフネガイ		コタマガイ		ウムラサキチ		ヒザラガイ		数小貝		巻貝片		二枚貝片		その他		重量総計（g）
						右	左	不明	重量	破片重量	総重量	右	左	不明	重量	破片重量	総重量	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g		g	
FF-24	G-24	38								0.1	0.1																										0.1
	計									0.1	0.1																										0.1

表Ⅳ—52　貝塚貝類一覧

ブロック	発掘区	小発掘区	層位	フジツボ	ウニ	イガイ（g）						ヤマトシジミ（g）						マガキ		オオウヨウラク		コベルトフネガイ		コタマガイ		ウチムラサキ		ヒザラガイ		微小貝		巻貝片		二枚貝片		その他		重量総計（g）
						右	左	不明	重量	破片重量	総重量	右	左	不明	重量	破片重量	総重量	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g	個	g		g	
FSb-1A				37.2	0.4	95	132	47	248.9	4,447.4	4,696.3	1	2		1.2	4.7	5.9			2 (2)	0.1	6 (189)	10.0	2	4.0	(1)	2.7	2 (6)	0.3	497 (187)	2.4	(66)	4.0		6.0	不明 (1)	0.2	4,769.5
FSb-1B				0.8		19	23	4	51.9	358.1	410.0																		3	0							410.8
FSb-2				29.0	0.4	114	124	138	199.7	7,069.9	7,269.6	18	11	1	23.3	18.8	42.1	2	5.4	6	1.1	4 (58)	3.5					(12)	0.3	363 (50)	7.5	14 (108)	11.4	(36)	0.6	不明巻貝 6 不明 1	5.7	7,376.6
FSb-3				114.5	1.0	184	182	239	550.6	8,820.7	9,371.3	8	3	4	22.6	4.7	27.3	3	5.5	5	2.5	17 (43)	4.8	2	9.9			10 (16)	0.6	138 (18)	2.0	47 (27)	6.2	(15)	1.3	不明巻貝 (3)	1.1	9,548.0
FSb-4				6.3	0.3	48	60	22	159.3	1,704.2	1,863.5	6	8	3	19.8	3.4	23.2	1 (1)	7.8			(1)	0.1	2 (19)	14.7					14 (1)	3.6	5 (16)	7.8	(6)	3.4			1,930.7
FSb-5				4.3		24	25	29	60.2	392.2	452.4	10	5	6	17.3	3.8	21.1	3 (13)	24.6	3	2.7	14 (59)	3.7	(16)	9.0					64 (5)	1.3	31 (8)	6.6	(4)	1.0	不明 (3)	1.6	528.3
FF-22				15.5		76	64	84	190.3	2,076.6	2,266.9											2	0.2	1	7.3					13	0.5	2	0.2					2,290.6
FF-24										0.1	0.1																									0.1
	計			207.6	2.1	560	610	563	1,460.9	24,869.2	26,330.1	43	29	14	84.2	35.4	119.6	9 (14)	43.3	16 (2)	6.4	43 (350)	22.3	7 (35)	44.9	0 (1)	2.7	12 (34)	1.2	1,092 (261)	17.3	99 (225)	36.2		12.3	不明巻貝 6(3) 不明 1(4) 計 7(7)	8.6	26,854.6

V　ま　と　め

1　遺　　構

発見された遺構は，住居跡39軒，土壙150基，貝塚5ブロック，焼土24ヵ所，それぞれの概要については，第III章でふれている。また，貝塚の内容については第III章3(3)で詳しく述べられているので，ここでは住居跡について，その概要を整理する。

住居跡　標高7～8mの南北にのびる沖積低地に集中し，重複が著しい。39軒のうち35軒は縄文時代前期末～中期初頭・「フゴッペ式」，4軒は縄文時代中期末・「トコロ6類」の時期のものである。前者は調査区域の中央付近で重複が著しく，後者は調査区域の北側に集中している。以下に前者「フゴッペ式」の35軒の住居跡について，平面形，床面積，溝，柱穴，炉，附帯施設，炭化材等について特徴をまとめる。

平面形　形状がわかるもの26軒でみると，円形3軒，楕円形13軒，隅丸長方形6軒，隅丸五角形2軒，不整形2軒で，楕円形が最も多い。また，全体の形状が不明のものも楕円形とみられるものが多い。二段構造の住居跡は3軒（FH—12・26・35），そのうち全体の状況の明らかなFH—12をみると，平面形は隅丸五角形，下段の床面の形状も隅丸五角形で，幅1m程の段が全周ある。いわゆる「日ノ浜型住居址」（高橋　1974）に近いが，平面形，主柱穴の状況が異なっている。しかし，関連性の強いものであろう。道内における二段構造の床面は前期後葉以降の4～6本主柱の住居跡に現われる（宮本　1984）状況と矛盾するものでない。また，出土土器の状況からみても，FH—12は該期の住居跡群の中でも古く位置付けされるものと思われる。

床面積　全体の形のわかる24軒（FH—2～12・16・18・19・22～25・28～30・34・36・38）について床面積の平均を求めると15.50m²となる。これは縄文時代全期を通してみた北海道の住居跡の平均18.8m²より小さい(宮本　1984)。規模別にみると，10m²以下11軒(FH—4～6・8・11・18・22～24・30・34)，10～20m²は7軒（FH—2・7・9・10・25・36・38），20～30m²は4軒（FH—3・19・28・29），30～40m²はなし，40～50m²は1軒（FH—12），50m²以上は1軒(FH—16)で，10m²以下が約半数を占めている。また，20m²以下の小型住居の割合は75%を占め，北海道における縄文時代全期を通してみた小型住居の割合67.2%（宮本　1984）よりわずかに多い。

溝　壁際にみられるいわゆる周溝がみられたのは35軒中1軒（FH—4）のみで，中期の周溝保有の割合21.7%（宮本　1984）とは対照的である。また，FH—8・12の床面中央にみられる溝については，性格の確定は困難であるが，排水，湿気取り等の機能が考えられる。

柱穴　床面で確認された小ピットのうち，位置，深さなどから主柱穴の状況を推定したものは21軒である。その内訳をみると，4本は10軒（FH—4～6，8・10・21・23・25・29・34），4本または5本は4軒（FH—2・3・7・19），4本または6本は1軒（FH—26），6本は5軒（FH—1・9・12・22・35），6本または8本は1軒（FH—16）である。したがって，大まかには4～6本といえる。明確な4本例はFH—4・8・10・25・29などで，FH—10のみは壁に接して主柱がみられる。明確な6本例のうちFH—12・35は二段構造のもので，段の境目に柱穴がみられる。主柱1～2本がほとんどでなく，4～6本が主体である状況は道内の前期後葉の住居跡の傾向（宮本　1984）と一致し，他の主柱が明確でないものも，

基本的には4～6本の可能性が強い。

炉　炉跡が確認できたのは7軒，全体の2割である。すべて地床炉で，中期末のものが，すべて石組炉であるのと対照的である。炉跡が1ヵ所のものが4軒（FH—2・8・11・18）と多く，他は3ヵ所が1軒（FH—12），4ヵ所が1軒（FH—16），10ヵ所が1軒（FH—1）である。複数発見されているものは，すべて大型である。また，焼土や灰は確認できなかったが，附属の浅い小ピットで炭化物が層を成して確認されている住居跡が4軒（FH—3・4・14・35）ある。いずれも床面の中央近くのピットで，炉的な性格をもっているものかもしれない。

附属施設　FH—12・26・35に二段構造がみられる。いずれも段が全周する「O形住居（宇田川　1979）のタイプである。

柱穴以外の浅いピットもいくつかにみられるが，確実に貯蔵穴といえるものはなく，いわゆる「中央ピット」（高橋　1974）的なものが，いくつかみられる。

炭化材　FH—29は火災住居で，上屋の構造材と考えられる炭化材が確認できた。しかし，覆土中では焼土とともに炭化材は細片となっているものが多く，比較的良好な状態で確認できたのは北西部の床面である。

炭化材は119点のサンプリングを行い，観察，樹種の同定などを行った。材の状態は丸太と割材があり，丸太は5・10cmのほか1～4cm程の小径のものもみえる。割材は半割材がいくつかみられたが，詳しい状況は不明である。樹種はクワ属が多く，次にシナノキ属，そしてわずかにニレ属，カエデ属，クルミ属などがみられた（IV1(4)参照）。三野氏も指摘しているように，クワ属の多用は例がなく，近接している小樽市忍路土場遺跡出土の建材中にもクワ属の材は全くみられない。1例だけでは，何ともいえないが，今後，注意する必要がある。

2　土　　器

今回の調査で多量の土器片が出土した。いくつかの新事実がわかった。この新事実を述べまとめとする。

(1)　フゴッペ遺跡出土の土器

今回の調査では，量の多少はあるものの縄文時代早期から晩期，続縄文時代，擦文時代に属す土器が出土している。そして，その総数は255,940点で，内訳はI群A類4点，I群B1類437点，I群B2類1,686点，II群A1類4点，II群A2類1,342点，II群B1類1,053点，II群B2a類3,659点，II群B2b類4,793点，II群B2c類4,434点，II群B類140,347点，III群A1類411点，III群A2類715点，III群B1類6,344点，III群B2類110点，III群B3類55,175点，IV群A類740点，IV群B類1,242点，V群a類823点，V群b類10,880点，V群80点，VI群28点，VII群118点，陶器1,676点，不明19,836点である。主体は縄文時代前期末葉から中期初頭に位置付けられると思われるII群B2b類・II群B2c類・II群B類と，中期末葉のIII群B3類である。

なお，II群B類としたものは，II群B2b類・II群B2c類の粗製土器ないし体部破片・底部破片で，器形・文様的特徴が不明なものである。

I群　A1類は尖底の具殻文土器，B1類は東釧路III式，B2類は東釧路IV式に相当する。前者は旧河道部斜面から，後者は調査区全域から出土している。

II群　A1類は網文土器，A2類は中野系土器に相当する。A2類はC地区氾濫原部分斜面の縁辺からまとまって出土している。復原個体は少ない。器形は底部が尖る円錐状で，体部はやや内湾気味にストレートに立ち上がることから新しい段階のものと思われる。口縁部に化粧土が施されたものもある。

B1類は円筒土器下層a～c式に相当する。道南部の椴川式やサイベ沢I式とされるものや道央部の植苗式・大麻V式である。C地区全域から出土している。口縁部に縄線文・綾絡文・貼付帯が，体部に粗い斜行縄文・単軸撚糸回転文が施されているものがある。近年の調査で，道南部での出土例は増加したが，道央においては類例が少なく，この様にまとまって出土したことは注目される。分布範囲が広い円筒土器下層d式が日本海側の積丹半島以北では断片的な出土ないし，やや変容し出土するのに比べ，II群B1類がよりストレートに道央部まで北進したことが分かった。

B2a類は円筒土器下層d式に相当し，体部に単軸撚糸回転文が施されたものと，多軸撚糸回転文・結束羽状縄文が施されたものとに大きく分けられる。前者は，口縁部にくびれをもたず，口唇部断面形は尖がる。器面調整は丁寧である。道南部の円筒土器下層d1式に類似する。出土量は少ない。後者はくびれの強い口頸部に縄線文が施され，円筒土器下層d2式に類似する。しかし，口唇部断面形は切り出し状のものが多く，器面調整はやや粗雑で，道南部の円筒土器下層d2式とはやや異なる特徴をもつ。このことから，B2b類と明確に分離できなかったものもある。また，B2a類は，土器の胎土分析の結果において，道南部の円筒土器下層d式とはやや異なる胎土が用いられていることがわかった。

B2b類・B2c類・B類はC地区全域に分布し，各類ごとの分布域の違いは認められなかった。なお，各土器群ごとの包含層分布密度がC地区南側で薄いのは，包含層が耕作で削られたためである。これらの土器群の特徴・時期については別項で詳しく述べる。

III群　A1類は円筒土器上層a・b式に相当する。旧河道部北側にややまとまりが認められる。口頸部には撚糸文が加えられた太い貼付けがある。頸部文様には縄線文のみのものと，縄線文と縄端圧痕文が組み合わされたものがある。前者にはII群B2b類と同様な文様構成をもつものがあり，文様構成においてII群B2b類の一部に類似する。B1類は天神山式に相当する。A地区・C地区から出土し，A地区においてはV群土器とともに主体を占める。口縁部突起部や文様構成が未発達である。文様構成は半截竹管状工具による刺突文と縄線文・絡条体圧痕文が組み合わされたものが多い。萩ケ岡2式に類似し，天神山式の古い段階のものと思われる。B3類はa類の北筒式（トコロ6類）とb類の煉瓦台式に相当するものとに分けられる。a類はC地区全域から出土しているが調査区北側に濃い分布密度が認められる。これは当該期の住居跡・貝塚がC地区北側に集中することと符号する。器形は体部上半部に強いくびれをもち外反気味なものと，体部上半部が比較的ストレートに立上りくびれの弱いものとがある。前者には押引文が加えられた太い貼付帯が施されたものが多い。頸部文様帯は幅が狭く，頸部文様帯下端は体部最大径にあるものが多い。地文は結節羽状縄文で，裏面にも加えられているものが多い。後者は押引文が加えられた細い貼付帯が施されたものや押引文が施されたものが多い。頸部文様帯は幅広で，頸部文様帯下端は体部最大径下位にあるものが多い。地文として斜行縄文が施され，裏面への施文は

少ない。肥厚帯直下に押引文が加えられたものが多い。a類は器形において「強いくびれをもち外反気味なもの」と「ストレートに立上りくびれの弱いもの」とに分けられ，文様構成においても明確な違いが認められる。この違いが時間差を示すものか不明である。このことについては稿を改め論ずるつもりである。

Ⅳ群　A類はa類の余市系土器群，b類の手稲山式・ニセコ式，c類の大湯系土器群とに分けられ，C地区北側に濃い分布密度が認められる。a類はさらにタガ状の貼付帯が口縁部・体部にも加えられたものと，口唇直下口縁部にのみ貼付帯を施し，口縁部に無文帯を作出し縄線文と組合わされているものとに分けられる。前者は体部上半にややくびれをもち余市系土器群の古い段階のものと思われる。後者は縄線文の多用されており道南部の涌元Ⅰ式との関連が想定される。b類は文様構成が多様で，沈線文・指頭圧痕文・裏面縄文・貼付帯・ボタン状貼り付け等を特徴とする手稲砂山式・ニセコ式に相当するものと，道南部の「8」字状の貼り付け・沈線文等を特徴とするトリサキ式に類似するものがある。c類は後期前葉に位置付けられる大津式と後期中葉に位置付けられるウサクマイC式に相当するものとがある。大津式としたものは体部があまり張り出さないこと，口縁部の幅が広いこと，口縁部に鋸歯状や連弧状が施されること等から木古内町新道4遺跡（遠藤1988）の盛土5類に類似した特徴をもつ。B類は少量であるがC地区全域から出土している。ほとんどが手稲式で，少量のホッケマ式がある。

Ⅴ群　本類は大洞系土器群と在地系土器群があり，前者は大洞C2式から大洞A式に，後者はタンネトウL式に相当する。いずれもA・B・C地区全域から出土し，A地区の当該期の土壙が検出されている台地部分とC地区旧河道部が多い。いずれも胎土に海綿骨針を含む。

Ⅵ群　すべて後北式で，後北C2式と後北D式とがある。C地区氾濫原の縁辺部から出土している。後北C2式には細い白色粘土紐の貼り付けが認められる。

Ⅶ群　北大式，須恵器，土師器，擦文土器がある。C地区氾濫原の縁辺部から出土している。須恵器については前田野目産の可能性がある。擦文土器は口頸部に横走沈線や鋸歯状工具による沈線文が加えられるものが多く古い段階のものと思われる。また，櫛歯状工具による刺突文が羽状に加えられたものも認められた。

以上のように，今回の調査では土器群毎の多少や一部土器群の欠落した空白の時期が認められるものの縄文時代から擦文時代までの各時代の土器が得られた。空白の時期は縄文時代後期後葉から晩期前半，続縄文時代前半である。本遺跡は調査範囲外にも広大な広がりが知られており，本遺跡の周辺でこれらの時期の遺構・遺物が確認される可能性がある。また，後期後葉の土器群は小樽市忍路土場遺跡から，晩期前半の土器群は余市町沢町遺跡から，Ⅵ群・Ⅶ群は余市町フゴッペ洞窟遺跡・小樽市蘭島餅屋沢遺跡・同蘭島遺跡等から多量に出土しており，空白の時期の土器群を余市湾沿いに立地した比較的狭い範囲の周辺遺跡に求めることができる。このことは余市湾に面した比較的狭い範囲が，縄文時代から擦文時代までの各時代の人々にとって安定した場所であったことを窺わせる。そして，今回の調査で得られた資料は，余市町・小樽市周辺の土器変遷の概略を知る上で貴重な手掛かりになるものと思われる。

(2) 押型文が施された土器について

押型文が施された土器片が21点出土した。そのうち1点はくびれの強い口頸部破片で，II群 B2a 類(円筒土器下層 d2 式)である。口頸部には繩線文が，体部には回転押型により連続山形文が施されている。押型文が施された土器は，現在のところいくつかの段階が想定され，円筒土器下層式の古い段階の影響によって尖底押型文土器から平底押型文土器へ移行したと考えられている。今回，この様な資料が確認されたことは，円筒土器下層 d2 式の頃に東北北部・道南の円筒土器と道北・道東部の影響が強いと考えられている押型文が施された土器とが道央で接触したことを示すとともに，押型文が施された土器の変遷中で，確実に円筒土器下層 d2 式の頃に共伴が認められる段階があることを示すものである。これは今後，道北・道東部の押型文が施された土器を考える上で重要なものと思われる。

また，回転押型により連続山形文が施された土器片が FH—12の覆土中から出土している。FH—12は覆土上面から床面まで多量のII群 2a 類，II群 B2b 類，II群 B2c 類，が数十個体押し潰された状態で出土し，覆土中にII群 A2 類・II群 B1 類等の古い段階の土器片が含まれるものの，新しい時期の遺物の混入は認められなかった。このことは押型文のみが施された土器についても出土状況からII群 B2a 類・II群 B2b 類，II群 B2c 類，II群B類との関連を想定させ，同時期ないし，より古く位置付けられる可能性を示すものと思われる。

(3) 刺突文が施された土器について

刺突文が施された土器は道央の出土例は初めてである。これらの資料は道北・道東部のシュブノツナイ式に相当するものと思われる。筆者はシュブノツナイ式を「刺突文（櫛目文）が施された土器」を「刺突文土器」と「押引文が施された土器」を「押引文土器」と呼称し，文様構成・施文具・胎土等から細分を試みたことがある（熊谷1991)。今回の調査で出土した資料を，その細分に対比すると図III—327—227は士別市多寄遺跡出土の資料に類似し，地文上に3本一組の櫛歯状工具による刺突文が施され，胎土に多量の繊維を含むことから第1a類土器に，図III—327—225・226は常呂町トコロチャシ南尾根遺跡出土資料に類似し，半截竹管状工具内面や棒状工具による下方からの刺突文が施され，胎土には多量の小礫を含み，繊維を含まないことから第1b類土器に，図III—327—228・229は富良野市鳥沼遺跡出土の資料に類似し，棒状工具による「横ハ」字状の短刻文が施され，胎土には砂粒が多く，小礫を含まないことから第2類土器に対比されるものと思われる。

第2類土器に含まれると思われる刺突文土器が押型文が施された土器片とともに FH—12の覆中から出土している。押型文が施された土器と同様にII群 2a 類・II群 B2b 類，II群 B2c 類と同時期ないし，より古く位置付けられる可能性を示すものと思われる。また，これまで分布が道北・道東部に限られ，地域的要素の強いと考えられていた各段階の刺突文土器がフゴッペ貝塚で出土し，比較的広い分布をもつことが分かったことは，今後，刺突文土器の成立要因を考える上で再検討されなければならないものと思われる。

(4) 無文の土器について

無文の口縁部破片が2点出土している。器形は上半部でやや内湾する。口唇部は平坦で，口縁部上端部から約2cm程に削りが施された様に薄い凹帯があり，部分的に縦位に削り

残しがある。器厚は約1.5cmと厚手である。器面調整は内外とも丁寧で，口唇部は角型に調整が加えられている。胎土は粒子が極めて細かく，細角礫・砂粒を含まない。多量の繊維を含む。この様な特徴は旭川市末広7遺跡のII1類土器群の一部・深川市納内6丁目遺跡出土の資料に類似する。末広7遺跡の報告者の瀬川はII1類土器群を「網走式」に比定し，網走式のいくつかのステージを想定しながらも縄文時代前期後半に属す道央の植苗式並行と位置付けている。しかし，本遺跡の植苗式に相当するII群B1類は，胎土には多量の繊維混入が認められず，また器面調整も粗雑なものがほとんどである。したがって，本遺跡出土の資料については，ミガキ調整は中野式の新しい段階にも認められるが，円筒土器下層d式の器面調整にミガキが認められること，胎土に繊維を多量に含むこと，凹帯は円筒土器下層d式の口頸部のくびれに類似したものと考えることもできること等から，円筒土器下層土器の古い段階の影響を考えるよりむしろ円筒土器下層d式の段階の影響を想定することが妥当の様に思われる。

網走式について久保勝範・菅野友世によって整理され，その特徴は口縁部に貼付帯をもち，胎土には稀に多少の繊維を含むとされている。しかし，フゴッペ貝塚出土の無文土器・旭川市末広7遺跡のII1類土器群の一部・深川市納内6丁目遺跡出土の資料は，胎土に多量の繊維の混入が認められること，口縁部の沈線・凹線（凹帯）の多用されること等，これまでの「網走式」とはやや異なる特徴をもつ。このことから，網走式は文様構成・胎土の違いによって，網走市向陽ヶ丘出土の資料にみられるように口縁部に貼付帯が施され，胎土に小礫を含み，稀に繊維を含むものと，フゴッペ貝塚出土の無文の土器・旭川市末広7遺跡のII1類土器群の一部等にみられる口縁部に沈線・凹線（凹帯）等が多用され，胎土に小礫を含まず，砂粒や繊維を含み，器面調整は丁寧でミガキが施されているものとに大きく2段階に分けられるべきものと思われる。そして，前者は円筒土器下層の古い段階の影響が窺えることから円筒土器下層式の古い段階に相当するものと思われ，道央部の植苗式・大麻V式の頃に，後者は円筒土器下層d式の頃に相当するものと思われる。

(5) フゴッペ式土器の設定

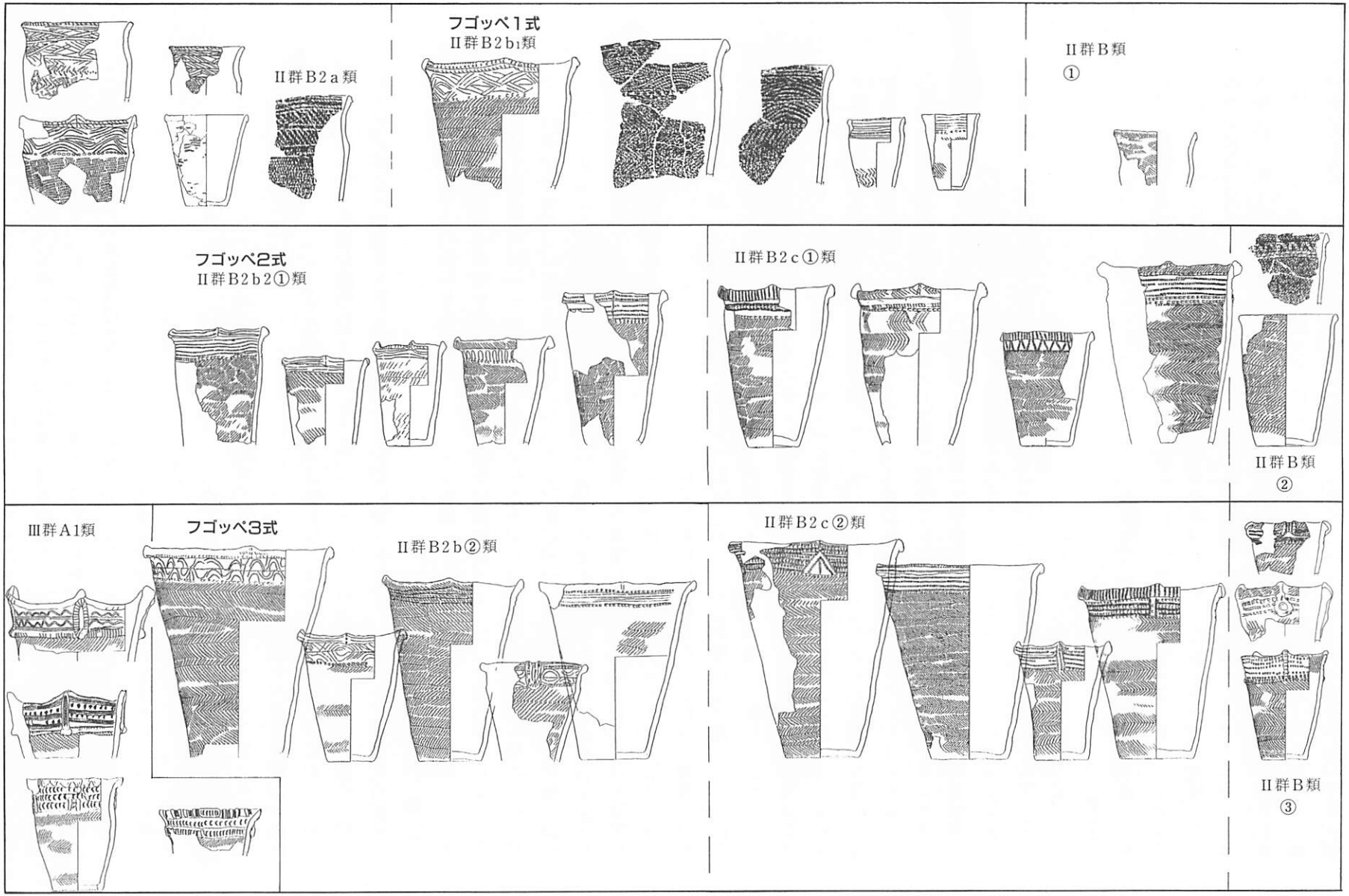
II群B2b類・II群B2c類・II群B類はC地区から多量に出土し，多くの復原土器が得られた。これらの土器群は石狩町花畔E遺跡・江別市萩ヶ岡遺跡・岩内町東山遺跡等で出土しているが，類似資料が少なく先述のようにこれまでほとんど詳細が知られていなかった土器群である。しかし，今回の調査において多量の土器片を得るとともに石器類や当該期の住居跡，墓壙，土壙，焼土等の遺構が検出された。このことから，これらの土器群は道央部において，一型式として正しく位置付けられるべきものと思われる。本稿においてこれらの土器群の特徴をまとめるとともに編年的位置付けを試みる。

II群B2b類の器形と文様の特徴

II群B2b類は本文において細分したように器形・文様構成から大きく3つに分けられ，それぞれの特徴は次のようにまとめられる。

b1類

体部が筒形で，幅広のくびれの強い口頸部をもち，上半部が外反する。口縁部は緩やかな小波状ものと，部分的に4箇所に貼り付けによる小突起が加えられているものとがある。口唇部断面はやや間延びした切り出し状である。口唇部文様は横位の縄線文と縦位の縄圧



図V—1　フゴッペ式土器模式図

痕文が格子目状に組み合わされるものが多い。頸部区画文様として縄線文・半截竹管状工具による刺突文・押引文・円形刺突文が加えられた薄い貼付帯が多く用いられるが，縄圧痕文が加えられているものもある。頸部文様は円筒土器下層 d2 式に類似し，斜行状・菱目状・曲線状・連弧状・格子目状等の縄線文が加えられている。また，口頸部文様帯を2条一組の縄線文で上下を区画した多段のものもある。口頸部を分割する縦位の縄線文は認められない。体部には結束羽状縄文や結束斜行縄文が施される。底部は平底ないし揚げ底である。胎土には砂粒が多く，繊維は少ない。内面調整は丁寧である。

b2 類

器形によってさらに2つに分けられる。

① 筒形で，体部上半で内湾気味に立ち上がる。口縁は平縁で，4箇所に貼り付けによる小突起が加えられているものが多い。小突起には縦位に縄圧痕文が加えられたものが多い。口唇部断面は切り出し状である。口唇部には縄線文・縄圧痕文・結束羽状縄文や斜行縄文が施されたものがある。口唇部端部や口唇部下端部に半截竹管状工具による刺突文や押引文が加えられているものもある。頸部文様帯は b1 類に比べやや狭い。頸部文様は比較的単純で，横位の縄線文が施されているものが多いが，鋸歯状・馬蹄形の縄圧痕文が施されたものもある。頸部区画文様として縄線文・刺突文・押引文・円形刺突文が加えられた薄い貼付帯が横環するものもあるが，縄線文・刺突文・押引文・円形刺突文のみが加えられたものが多い。少量ではあるが口頸部を分割する縦位の縄線文が認められる。体部には，結束羽状縄文や結束斜行縄文が施される。底部は平底ないし揚げ底である。胎土には砂粒が多く，繊維は少ない。内面調整は丁寧である。

② 底部からストレートに外反気味に立ち上がる。口唇部断面・頸部区画文様等は①類に類似する。頸部文様には横位の縄線文・連弧状・メガネ状・曲線状（波状）のものがあり，頸部文様帯の多段化が認められる。縄線文は2本一組で用いられることが多い。また，少量であるが半截竹管状工具による刺突文や押引文と組み合わされているものもある。口頸部を4分割する口唇部の突起部から垂下する2本一組・「逆U」字状の貼付帯や縄線文が加えられている。体部には，結束羽状縄文や結束斜行縄文が施される。底部は平底ないし揚げ底である。胎土には砂流が多く，繊維は少ない。内面調整は丁寧である。

b3 類

本類は文様構成が単純で，縄線文・縄圧痕文が口唇部・突起部・口頸部・口唇部直下等に部分的に施されたものである。器形から b1 類・b2 ①類・b2 ②類の粗製土器と思われるものや，器形・文様構成等が不明な破片資料を一括して本類に含めた。

II群 B2c 類の器形と文様の特徴

II群 B2c 類は本文において細分したように器形・文様構成から大きく2つに分けられ，それぞれの特徴は次のようにまとめられる。

c1 類

器形によってさらに2つにわけられる。

① 筒形で，体部上半部で内湾気味にたちあがる。口唇部断面は切り出し状で，口唇部・頸部には絡状体圧痕文・円形刺突文・押引文・刺突文が施されている。口頸部文様帯には横位の絡条体圧痕文が多用され，文様構成は比較的単純なものが多い。口頸部を4分割する縦位の絡条体圧痕文や半截竹管状工具による刺突文・押引文が組み合わされた例は少な

い様である。体部文様には結束羽状縄文・結束斜行縄文・斜行縄文が多用される。底部は平底ないし揚げ底である。胎土には砂粒が多く，繊維の混入は少ない。内面調整は丁寧である。

② 底部から外反気味にストレートに立ち上がる。口唇部断面は切り出し状である。口唇部・頸部には絡状体圧痕文・円形刺突文・押引文・刺突文が施されている。突起部直下に口頸部を4分割する縦位の2本一組や山形の絡条体圧痕文・2本一組や「逆U」字状の貼付けが加えられているものが多い。口頸部区画文様として半截竹管状工具による刺突文・押引文が用いられる。頸部文様には連弧状・横位等の絡状体圧痕文と円形刺突文・半截竹管状工具による刺突文・押引文とが組み合わされたものが多い。体部には結束羽状縄文・結束斜行縄文・斜行縄文が施されている。底部は平底ないし揚げ底である。胎土は砂粒が多く，繊維の混入は少ない。内面調整は丁寧である。

c2類

本類は文様構成が単純で，絡状体圧痕文が口唇撃・突起部・口頸部・口唇部直下等に部分的に施されたものである。器形からc1①類・c1②類の粗製土器と思われるものや，器形・文様構成等が不明な破片資料を一括して本類に含めた。

II群B類の器形と文様の特徴

II群B類は，縄線文・縄圧痕文・絡条体圧痕文が認められず縄文のみのもの，半截竹管状工具による刺突文・押引文が単独で施されたもの，無文のものである。器形から3つに大別される。

①：筒形で，くびれの強い幅広の口頸部をもち，体部上半で外反するもの

②：筒形で，やや頸れが弱い幅の狭い口頸部をもち，体部は体部上半部で内湾気味である。

③：やや頸れが弱い幅広の口頸部をもち，体部は底部から外反気味にストレートに立ち上がるもの。

いずれも体部文様として結束羽状縄文や結束斜行縄文が施されている。底部は平底ないし揚げ底である。胎土は砂粒が多く，繊維は少ない。内面調整は丁寧である。

II群B類の器形の違いはII群B2b類・II群B2c類の器形・文様構成による細分に対応し，①はb1類に，②はb2①類とc1①類，③はb2②類とc1②類とに類似する。また，II群B類の体部文様・胎土等においてもII群B2b類・II群B2c類に類似する。このことからII群B類は，II群B2b類・II群B2c類の粗製土器と思われる。

II群B2b類・II群B2c類・II群B類の相互関係について

II群B2b類の一部とII群B2c類は，器形・文様構成において類似する特徴をもつものがある。

b1類に類似した特徴をもつものはII群B類の一部に認められた。II群B2c類には類似した特徴は認められなかった。b1類の幅広でくびれの強い口頸部や口頸部文様帯の縄線文・縄圧痕文の構成は，II群B2c類よりはむしろII群B2a類の多軸撚糸回転文が施されたグループに多く類似点が認められた。

b2①類とc1①類はいずれも器形が筒形で，体部上半で内湾気味に立ち上がる。また，口頸部文様の文様構成は，比較的単純である。施文原体が縄・絡条体と異なるが，横環・鋸歯状等の同様な文様が認められた。また，II群B類においても半截竹管状工具で同様な文

様が描かれたものがあった。

b2②類とc1②類はいずれも底部から外反気味にストレートに立ち上がる器形である。口頸部文様帯はやや広い。口頸部文様は，縄線文が単独で用いられ，絡条体圧痕文は半截竹管状工具による刺突文・押引文と組合わされ，やや異なった文様構成をもつ。しかしながら，いずれも文様の多段化，口頸部を縦位の縄線・絡条体圧痕・貼付帯で4分割する傾向が認められる。

この様にb1類を除き，II群B2b類の一部とII群B2c類の器形や文様構成等に細分毎に類似が認められほぼ同様な変遷が窺える。また，土器の胎土に含まれる一次鉱物組成において類似した特性が得られている。このことからII群B2b類・II群B2c類・II群B類は同一の土器型式と思われる。そして，これらは器形・文様構成の違いから大きく3段階に分けられそうである。

第一段階はb1類が相当する。口頸部は幅広で，くびれをもつ。口唇部断面はやや間延びした切り出し状である。口頸部文様はII群B2a類の多軸撚糸回転文が施されたグループに類似し，鋸歯状・弧線状・連弧状・菱目状等に施されたものが多い。口頸部を分割する縦位の縄線文は認められない。体部には結束羽状縄文・結束斜行縄文・斜行縄文が施されている。底部は平底ないし揚げ底である。胎土は砂粒が多く，繊維の混入は少ない。内面調整は丁寧である。

第二段階　b2①類•c1①類が相当する。器形が筒形で，体部上半部で内湾気味に立ち上がる。口唇部断面は切り出し状である。口頸部はやや狭く，くびれが弱い。頸部文様帯の文様構成は比較的単純で，横位の縄線圧痕文・絡条体圧痕文が施されているものが多い。そして，少量ではあるが口頸部を分割する縦位の縄線文・絡条体圧痕文が加えられているものがある。体部文様・底部・胎土・器面調整は第1段階と同様である。第二段階は器形・文様構成において第一段階・第三段階の中間的要素が強い。

第三段階　b2②類•c1②類が相当する。器形は底部からストレートに外反気味に立ち上がる。口唇部断面は切り出し状である。口頸部文様帯やや幅広である。口頸部文様は縄線文や絡条体圧痕文で連弧状・メガネ状・曲線状（波状）に施したものがある。絡条体圧痕文は刺突文・押引文と組み合わされているものが多い。縄線文は2本一組で用いられ，多段化が認められる。また，口頸部を4分割する縦位の2本一組ないし「逆U」字状の貼付帯や縄線文・絡条体圧痕が加えられているものが多い。

これらの土器群を「フゴッペ式」と仮称し，第一段階を「フゴッペ1式」，第二段階をフゴッペ2式」，第三段階を「フゴッペ3式」とし，今後の検討に備えたい。

「フゴッペ式」の編年的位置付け

本遺跡において層位的に確認できなかった。また，共伴関係の分かるものは少ない。FH—12の床面と覆土からフゴッペ1式•フゴッペ2式•フゴッペ3式が出土している。フゴッペ1式（図—79—4）は主柱穴中（HP—14）からフゴッペ2式のうち縄線文が施されたものが覆土中から，また，フゴッペ3式（図—81—20）は覆土上面から出土している。このことからフゴッペ1式とフゴッペ3式には明確な時間差が認められ，フゴッペ3式よりフゴッペ1式が古く位置付けられるべきものと思われる。

フゴッペ1式はII群B2a類土器の多軸撚糸回転文が施されたグループに類似する器形や頸部文様が認められる。また，フゴッペ式の特徴的な切り出し状の口唇部は，円筒土器

下層式には認められない。この口唇部形態は，大麻V式にみられる角型の口唇端部に施された縄線文が多条化し，幅広になり形成されたもの思われる。そして，口唇部直下に横環する1～3条の縄線文は大麻V式のなごりとして考えることができる。また，口頸部文様帯が幅広で文様帯が多段のものが認められる。このことから，フゴッペ1式は，大麻V式に後続し，II群 B2a 類土器の多軸撚糸回転文が施されたグループと同時期ないしやや新しい頃に位置付けられ，前期末葉の円筒土器下層 d2 式の段階の頃に相当するものと思われる。

フゴッペ3式はFH—12の出土状況からフゴッペ1式より新しい段階の頃に位置付けられるものと思われる。器形・口頸部文様構成等において違いが認められるが，フゴッペ2式の段階に初現が認められる口頸部を分割する縦位の2本一組の縄線文や絡条体圧痕文や「逆U」字状貼付帯は，円筒土器上層a式の特徴的文様要素である。また，フゴッペ3式の口頸部文様には，円筒土器上層a式と同様な文様構成をもつものがある。このことから中期初頭円筒土器上層a式の段階の頃に相当するものと思われる。

まとめ

II群 B2b 類・II群 B2c 類・II群B類・は「フゴッペ式」として包括される。フゴッペ式は縄文時代前期末葉から中期初頭に位置付けられる。さらに器形・文様構成から3つに分けられる。フゴッペ1式は，大麻V式の名残りが認められ，器形や頸部文様がII群 B2a 類土器の多軸撚糸回転文が施されたグループに類似することから，大麻V式に後続し前期末葉の円筒土器下層 d2 式の段階の頃に相当するものと思われる。フゴッペ2式は器形・文様構成においてフゴッペ1式とフゴッペ3式の中間的な様相をもつことから，これらの間に位置付けられるものと思われるが今後検討されなければならないものと思われる。フゴッペ3式は円筒土器上層a式の特徴的文様要素である口頸部を分割する縦位の2本一組の縄線文や絡条体圧痕文や「逆U」字状貼付帯をもつことから，中期初頭円筒土器上層a式の段階の頃に相当するものと思われる。

これまで，道央部において前期末葉から中期初頭に位置付けられる土器群は不明であったが，「フゴッペ式」は，この時期を埋める土器群と思われる。その成立については，円筒土器下層式の古い段階の土器群（植苗式・大麻V式も含む）や円筒土器下層d式との関連が窺える。日本海側において円筒土器下層式の古い段階の土器群は比較的ストレートに北進し，道央部において植苗式や大麻V式を成立させたものと思われる。そして，前期末葉から中期初頭の頃には円筒土器下層d式の影響を受けながらも，植苗式や大麻V式を祖形とし，東北北部や道南部の円筒土器下層d式・円筒土器上層a式とはやや異なった「フゴッペ式」が成立したと考えられる。しかし，その後，円筒土器上層b～d式の北進によって，道央部は，再度，円筒土器文化に組み込まれたものと思われる。

3 石　　器

本遺跡から出土した石器の総数は表I—2に示してある。自然礫を除いた796,094点の内訳と割合は，剝片石器が7,607点で0.95%，石斧片を除いた礫石器は12,413点で1.55%，コア，U・Rフレイクを含むフレイク・チップ類が751,287点で94.37%[註1)]，石斧片，R礫，有意の礫，焼礫，原石等が24,787点で3.11%となり，フレイク・チップ類が圧倒的に多い。

石器組成においては，縄文時代の貝塚を伴う集落跡として欠落した器種はないものの，

その点数にかなりの偏りが認められる。剝片石器では石鏃が2,572点で33.8%を占めており，またスクレイパー類は通常どの遺跡においても多数を占めているが，本遺跡も例外ではなく2,736点とその35.9%を占めている。ただ特筆すべきはそのうちエンドスクレイパーが481点を数え，スクレイパー類の17.5%を占めていることである。礫石器ではいわゆる北海道式石冠を含むすり石が1,954点で15.7%，くぼみ石が423点で3.4%，たたき石が4,550点で36.6%，石皿・台石が2,918点で23.5%となっており，たたき石が1/3強，石皿・台石が1/4弱を占めている。これとは逆に海岸に近いという立地や貝塚の形成にもかかわらず，漁業に関すると考えられる石錘がきわめて少ないことが指摘できよう。

礫石器の一部については，すでに多くの研究者が指摘しているように，1個の礫がひとつの機能（使用）を果たしたとは限らず，後の時代・時期における転用は措くとして，複数の機能を果たしたことは間違いない。本遺跡においても，とくにすり石・たたき石・くぼみ石等は複合的に用いられている。したがって，これらの分類については便宜的に出土点数の多寡に拠った。すなわち，もっとも点数の少ないくぼみ石としての機能を果たしたものを最優先し，次いですり石，たたき石の順とした。ただ，石材をみると珪岩・石英岩・強変質酸性火山岩など緻密で大きさの割に重量のある石材のものはたたき石に限られている。

なお，剝片石器の石材には赤井川産の黒曜石が多用されており，したがってコア，フレイク・チップ類においても黒曜石が圧倒的である。

以下，本遺跡の特徴的な石器について簡単ではあるがまとめておきたい。

石　鏃

2,572点出土しているが，Ⅳ類（不明）を除いた2,228点の内訳はⅠ類が110点（4.9%），Ⅱ類が1,799点（80.7%），Ⅲ類が319点（14.3%）で，Ⅱ類がもっとも多い。このうち有茎凸基のもの（Ⅱc）が1,498点を数え，Ⅱ類の83.2%，Ⅰ～Ⅲ類の67.2%，全体の58.2%を占めている。有茎凸基の形態は様々であるが，FH—12出土資料においては（図Ⅲ—88）164～168のように茎部がやや太くて末端が両側に張り出すもの，170～172のように茎の基部が内湾するもの，173～181のように三角形状の短い茎部を有するものなどが特徴的である。これらは仮称フゴッペ式を含む前後の時期，時間幅を長めに考えても前期後半から中期前半に位置づけられよう。とくに164～168のようなものは，深川市納内3遺跡（北海道埋蔵文化財センター1989）の知見からも，本遺跡のⅡ群B2a類土器（押型文・刺突文を特徴とする円筒土器下層d式併行）に伴うものと考えられる。

石　錐

317点出土しており，このうち黒曜石以外（主として珪質頁岩）の剝片の一端に機能部を作出した小型のもの（Ⅲa）は216点（68.1%）である。とくに貝塚では（図Ⅲ—301—18～64，図版165）では114点中105点で92.1%を，C地区包含層では154点中90点で58.4%をそれぞれ占めている。この種の石錐は貝塚と同時期（北筒式）のものであり，同様（石材・石質においても）の資料は本遺跡から約2kmに位置し，同年度に発掘調査を実施した登町2遺跡（北海道埋蔵文化財センター1990）からもまとまって出土している。

なお，仮称フゴッペ式土器に伴う石錐の特徴については言及できない。

エンドスクレイパー

スクレイパー全体におけるエンドスクレイパー（ラウンド状を含む）の占める割合は，

先述したように17.5%であり，とくにFH—12では66点中15点で22.7%，FH—16では155点中30点で19.3%と，これらの住居跡ではかなり高い割合を占めている。

この器種はこれまでに円筒土器上層式に伴出することが指摘されている（吉崎1965）ものの，その後とくに注目されたとは言い難い。後・晩期に多出する篦状石器を別とすれば，現段階では仮称フゴッペ式を含む前期後半から中期前半に限定できそうである。しかしながら，その消長については，篦状石器との連関を含めてまだ不明な点が多く，今後の課題としておきたい。

北海道式石冠

すり石の一種である北海道式石冠は極小のものや未成品もしくは製作途中のものを含めて622点出土しており，すり石全体の31.8%を占めている。その握り部の形状から円頂，平頂，尖頂の三つに分けられ，とくに尖頂を呈するもの(FH—12，図III—93—274～278など)は全道的に見ても類例は少なく，仮称フゴッペ式土器に伴うものと考えられる。製作工程については，寿都町寿都3遺跡の資料から復元されたように(内山1980)，本遺跡においても大異なくほぼ同様の工程が確認できた。ただ本遺跡の場合，素材のひとつに石皿・台石が用いられることが指摘できよう。

用途については植物性食料の調理加工に用いられたとするのが一般的である(羽賀1983)が，FH—16出土の3点について残存脂肪の分析をおこなった結果，それを使用したヒトの体脂肪の検出はもちろんのこと，ハイイヌガヤ・オニグルミ・ミズナラ等の堅果植物のほかにイノシシ等の動物，キジ・マガモ等の野鳥，オットセイ・イルカ等の海産動物に対しても使用されたことが明らかにされた。本遺跡の例が一般的なのかあるいは特殊なのか今後の分析例を増やすとともに，セットである石皿についても残存脂肪の分析が必要であろう。また，従来否定的であった皮鞣具説（大場1961）[註2)]についても再考の余地があるように思われる。

球　石

球状を呈する礫で，956点出土している。肉眼では使用痕が判然とせず，石器か自然礫かの識別は非常に困難であるが，一応すり石と考えられる。しかし，北海道では球状のものはきわめて少なく，今後検討を要する石器であろう。

なお，石球・石弾（bola—stone）と区別するためにこの名称を用いたが，この機能・用途をまったく否定するものではない。

有孔石鋸

FH—16からは12点の石鋸が出土しているが，このなかに有孔（双孔）のものが1点ある（図III—122—242)。孔部から破損しているが二孔とも両面からの穿孔で，刃部の断面はV字形を呈し，破損後も再使用もしくは転用された可能性がある。石材は砂岩である。

類例としては木古内町新道4遺跡（北海道埋蔵文化財センター1987，1988）から出土した3点があり，このうち2点はCH—7およびDH—4と呼称された住居跡から出土している。CH—7の時期は，それらを決定する遺物が出土していないので不定であるが，他の住居跡との切り合い関係から中期前葉から後期末葉と考えられ，DH—4の時期は前期後葉である。これに基づいて有孔石鋸の時期は一応前期から後期と幅広く位置づけられた（千葉1990)。しかしながら，本資料によってその時間幅が前期後半から中期前半へとさらに限定されるものと考えられる。

註

1) 砥石については小破片も含めているので個体数とはいえないが，一応この点数に拠る。なお，図Ⅰ—12下の礫石器総数13,385点となっているのは，表の礫石器計13,299点とR礫86点の合計である。

2) ただ，皮礫具（一種の整調具）としては軽石や軟らかい石質のものが用いられたとしている。

引用・参考文献

猪木幸男・垣見俊弘　1954　5万分の1地質図幅「小樽西部」　および同説明書　北海道開発庁

宇田川洋　1979　北海道縄文時代中期の住居址」　『茅沼遺跡群』　標茶町教育委員会

内山真澄　1980　「寿都3遺跡」　『寿都町文化財調査報告書II』

大場利夫　1961　「北海道式石冠の用途と意義」　『考古学雑誌』　46—4日本考古学会

大場利夫他　1958　『岩内遺跡』　岩内町教育委員会

小樽市教育委員会　1985　『忍路11遺跡』

清野謙次　1969　「後志国余市郡余市町畚部字大谷地貝塚」　『日本貝塚の研究』　岩波書店

熊谷仁志　1991　「シュブノツナイ式に関する一考察」　『北海道考古学』　第27輯　北海道考古学会

河野広道　1958a　「先史時代」　『小樽市史』

河野広道　1958b　「小樽・余市附近の重要史跡」　『北海道学芸大学考古学研究会連絡紙』　8

佐々木清一・北川芳男・松野　正・近堂裕弘・佐久間敏雄　1964　「北海道の古土壌」　『第四紀研究』　第3巻第4号　第4紀研究会

佐藤一夫他　1976　『植苗遺跡』　苫小牧市教育委員会

佐藤利雄　1977　「余市町登川流域丘陵より出土の石棒について」　『北海道考古学』　第13輯　北海道考古学会

瀬川拓郎　1991　『末広7遺跡』　旭川市教育委員会

高橋正勝　1974　「日ノ浜型住居址」　『北海道考古学会』　第10輯　北海道考古学会

高橋正勝他　1982　『萩ヶ岡遺跡』　江別市教育委員会

千葉英一　1990　「北海道木古内町新道4遺跡出土の石庖丁形石器」　『伊東信雄先生追悼考古学古代史論攷』

中村斉他　1970　『大麻Ⅴ遺跡』　江別市教育委員会

名取武光・峰山　巌　1968　「登の土偶とホリカップの土偶」　『北海道の文化』　15　北海道文化財保護協会

西田彰三　1932　「北海道の石器時代」　『北海道郷土史研究』

登郷土誌作成委員会　1986　「登町の先史時代」　『登郷土誌』　余市町登町区会

羽賀憲二　1983　「北海道式石冠」　『縄文文化の研究　7　道具と技術』　雄山閣

北海道教育委員会　1981　「北海道石狩高等学校建設用地内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書」

㈶北海道埋蔵文化財センター　1987　『建川2遺跡・新道4遺跡』　㈶北海道埋蔵文化財センター調査報告　第43集

㈶北海道埋蔵文化財センター　1988　『新道4遺跡』　㈶北海道埋蔵文化財センター調査報告　第52集

㈶北海道埋蔵文化財センター　1989　『忍路土場遺跡・忍路5遺跡』　㈶北海道埋蔵文化財センター調査報告書　第53集

㈶北海道埋蔵文化財センター　1989　『納内3遺跡』　㈶北海道埋蔵文化財センター調査報告　第60集

㈶北海道埋蔵文化財センター　1990　『栄町5遺跡』　㈶北海道埋蔵文化財センター調査報告　第66集

㈶北海道埋蔵文化財センター　1990　『登町2遺跡・登町3遺跡』　㈶北海道埋蔵文化財センター調査

報告　第67集
松下　亘　1973　「北海道余市町大浜中遺跡の遺物―特に一括出土した青磁について―」『北海道考古学』　第9輯　北海道考古学会
松下　亘・氏家　容等　1977　「酢の古い容器〝酢徳利〟について―とくに北海道開拓記念館資料を中心に―」『北海道開拓記念館研究年報』第5号　北海道開拓記念館
松下　亘・氏家　容等　1981　「駄知産三五皿について」『北海道開拓記念館研究年報』第9号　北海道開拓記念館
峰山　巌・久保武夫　1965　『西崎山』　郷土研究7　余市町教育教育会・余市町郷土研究会
三宅徹也　1974　「青森県における円筒下層式土器群の地域展開」　『北奥古代文化6』
1982　「円筒土器」　『縄文文化の研究3』　雄山閣
宮本長二郎　1984　「縄文時代の竪穴住居―北海道地方の場合―」　『季刊考古学』7号　雄山閣
山内清男　1929　「関東北に於ける繊維土器」　『先史学雑誌』　1―2
1930　「斜行縄紋にかんする二三の観察」　『先史学雑誌』　2―3
余市町教育研究所編集委員会　1982　「余市の先史文化」『余市文教発達史』　余市郷土史第3巻
吉崎昌一　1965　「縄文文化の発展と地域性―北海道」　『日本の考古学　II　縄文時代』pp. 30―63　河出書房

表1　住居跡一覧(1)・規模

番号	地区	発掘区	平面形	規模				重複関係	備考
				確認面(m)	床面(m)	深さ(m)	面積(m²)		
1	C	L・M・N-27・28・29	楕円形？	—	10.48×6.60	—	(60.45)	上部削平 柱穴の分布状況から範囲を推定	
2	C	P・Q-26・27	楕円形	5.15×4.65	4.60×4.13	0.20	17.43		
3	C	N・O-25・26	〃	6.25×4.50	5.86×4.25	0.32	22.29		
4	C	O-24	〃	2.94×2.72	2.71×2.47	0.25	6.38	FH-7より新しい	
5	C	N-24・25	円形	3.14×3.10	3.04×2.98	0.16	7.72	FH-6より新しい	
6	C	N-24・25	隅丸長方形	3.22×2.88	2.97×2.53	0.20	7.99	FH-5より古い	
7	C	N・O-25・26	楕円形	4.83×4.42	4.69×4.28	0.22	16.57	FH-4より古い	
8	C	N-26	〃	2.80×2.40	2.59×2.10	0.22	5.38		
9	C	L・M-26・27	円形	3.76×3.50	3.61×(3.17)	0.12	10.11	FH-10より新しい FH-11より古い	
10	C	L・M-26・27	隅丸長方形	4.85×3.80	4.80×3.75	0.08	16.15	FH-9・11より古い	
11	C	L・M-26	楕円形	2.50×2.26	2.15×1.92	0.13	4.48	FH-9・10より新しい	
12	C	J・K-26・27・28 L-27・28	隅丸五角形	7.70×6.56	7.48×6.14	0.36	41.90		二段構造
13	C	欠番							
14	C	F-21・22・23	楕円形？	(4.54)×5.32	(4.37)×5.03	0.23	(15.94)	FH-15より新しい	
15	C	F・G-22・23	〃 ？	(4.42)×(4.21)	(4.30)×(4.04)	0.11	(5.10)	FH-14より古い	
16	C	G・H・I-22・23・24	楕円形	9.86×6.80	9.40×6.40	0.36	55.34	FH-28より古い FH-25・37・38より新しい	
17	C	L-24・25	—	(3.46)×(1.48)	(3.40)×(1.40)	0.08	(2.25)	FH-19より古い	
18	C	K-24	不整形	2.90×2.67	2.70×2.53	0.20	5.79	FH-21より新しい	
19	C	K・L-24・25	〃	5.84×5.26	5.36×4.92	0.25	24.21	FH-17・21・30より	
20	C	J-24・25	—	(3.85)×(2.74)	(3.50)×(2.63)	0.14	(5.37)	FH-21・26・31より古い	
21	C	K-24・25	楕円形	4.70×3.75	4.20×3.50	0.18	(13.54)	FH-18・19より古く FH-20・26・31より新しい	
22	C	J・K-25	隅丸長方形	2.62×2.22	1.78×1.75	0.26	4.82	FH-26より新しい	
23	C	I-23	〃	2.80×2.68	2.43×2.30	0.14	5.50	FH-24・34より新しい	
24	C	I・J-23	〃	3.58×3.05	2.90×2.40	0.38	8.69	FH-23より古い FH-34より新しい	
25	C	I-23	円形	3.70×3.60	3.30×3.26	0.31	10.17	FH-16より古い	
26	C	J・K-24・25・26	楕円形	4.80×4.38	4.68×4.28	0.24	(17.35)	FH-19・20・21・22・30より古い	二段構造
27	C	H・I-21	隅丸長方形	3.56×(2.12)	3.26×(2.00)	0.17	(7.94)		
28	C	H・I-24・25	〃	6.38×5.02	6.10×4.68	0.16	28.53	FH-16・29・39より新しい	
29	C	H・I・J-25・26	〃	6.18×5.72	5.54×5.10	0.30	29.53	FH-28・39より古い	火災住居
30	C	L-23・24	楕円形	2.85×2.60	2.65×2.39	0.18	6.13	FH-18・19より古い	
31	C	J-24・25	—	(2.50)×(1.78)	(2.37)×(1.72)	0.09	(1.92)	FH-20より新しく FH-21・26より古い	
32	C	G・H-28・29	円形？	4.50×(2.70)	4.24×(2.50)	0.38	(18.28)		
33	C	F-25・26	卵形？	(3.65)×4.50	(3.55)×4.20	0.20	(13.20)	FH-35・40より新しい	
34	C	I-23・24	隅丸長方形	2.66×2.05	2.38×1.78	0.14	(4.78)	FH-23・24より古い	
35	C	F-23・24・25	隅丸五角形	8.45×(3.36)	8.30×(3.20)	0.20	(23.32)	FH-33・40より古い FH-38より新しい	二段構造
36	C	F-26 G・H-25・26	卵形	5.34×4.20	5.19×4.05	0.16	15.47	FH-38・39より新しい	
37	C	G・H-25	—	3.80×(2.53)	3.74×(2.33)	0.17	(10.91)	FH-16より古い FH-38より新しい	
38	C	F・G・H-24・25・26	隅丸長方形	(8.06)×(6.00)	(8.06)×(5.90)	0.22	16.67	FH-16・35・36・37・39より古い	
39	C	G・H-25・26	楕円形	(5.20)×4.73	(5.00)×4.62	0.20	(22.65)	FH-28・36より古い FH-38より新しい	
40	C	F-25・26	—	(3.83)×(1.00)	(3.62)×(0.90)	0.25	(3.03)	FH-33より古い FH-35より新しい	

表2　住居跡一覧(2)・遺物

FH-13は欠番

住居跡番号	土器				石器																													総計
	II群	III群	その他	計	石鏃	石錐	石匙・ナイフポイント	きナイフつまみ付	スクレイパー	楔形石器	石斧	石斧薄片	すり石	北海道式石冠	球石	たたき石	くぼみ石	石錘	砥石	台石石皿	石錘	コア	フレイク	U・Rフレイク	R礫	礫△	焼礫	原石	礫	土製品	石製品	計	
FH-1	A1(1), B1(1), B2a(7) B2b(1), B2c(2) B(89)		IB2(1) IA(1) IVA(1) その他(1)	105	2		1	2	1	1		2	4	1		12			3	2		4	396	9	1	24	4		276			745	850
FH-2	B1(3), B2a(2) B2b(10), B2c(4) B(286)		IB2(3)	308	13		2	1	9	1	2	2	1	1		8			9	2	1	4	755	9		47	8	2	567	1		1445	1753
FH-3	B2b(33), B2c(70) B(992)		IB2(3) 陶磁器(13)	1111	14		2	3	13		2	2	4	3	2	27	1		13	7		7	2016	6		112	24	1	1286			3545	4656
FH-4	B2a(4), B2b(7) B2c(13), B(531)		IB2(10)	565	5		2	1	9	1	1		4	4	1	9			3	6		11	1182	30		59	2		1088			2418	2983
FH-5	B2a(1), B2b(3) B2c(10), B(49)		IB2(4)	67									2	2		2			1			8	572	12		7	1		155			762	829
FH-6	B(1)			1												5				2			3			1			9			20	21
FH-7	B2a(1)			1									2			1										2			1			6	7
FH-8	A2(2), B1(1), B2a(2) B2b(1), B(42)			48										4		29				3		1	180	3		26	4		120			370	418
FH-9	B2a(2), B2b(9) B2c(1), B(95)	IIIB1(1)		108			1	3	2			1	2		1	6						1	258	1		25	1		151	4		457	565
FH-10	B2a(33), B2b(2) B(11)			46	1											2						1	44	1		3			21			73	119
FH-11	B2a(1), B2b(3) B2c(1), B(49)		IB2(2)	56			1		1					2		5			1	3		1	147	4	1	9			140	1		316	372
FH-12	A2(1), IIB1(285) B2a(245), B2b(343) B2c(137), IIB(9426)	A(1), B1(3) B3(5)	IB2(46) その他(1) 不　明(3)	10496	95	8	28	35	66	2	19	14	35	60	19	98	16	4	27	59	1	32	8239	65	7	925	257	1	5938	21		16071	26567
FH-14	B1(1), B2a(9) B2b(9), B2c(22) B(381)	A1(1), A(3) B3(1)	IB2(12)	439	24		7	7	5	1		1	1	1	2	17	1	1	43			14	827	20	1	99	3	1	956	2		2034	2473
FH-15	B2a(3), B2c(38) B(86)		IB2(5)	132	3			1	3				1		1	9	1		3	3			191	3		17	3		204	1		444	576
FH-16	B1(180), B2a(111) B2b(120), B2c(273) B(8898)	A1(25), A2(7) B4(224)	IB2(10)	9848	131	8	33	20	155	3	14	29	64	26	6	132	20	12	108	69	2	107	23823	178	8	1260	145	1	13936	21	1	40312	50160
FH-17	B(50)	B1(2)	IB2(1)	53	1											2				1		2	102	3		12			115			238	291
FH-18	B2a(1), B2b(1) B(136)	B3(19)		157	1		1	2	2						2	6			4			3	365	10		40	2		397			835	992
FH-19	B1(2), B2a(6) B2b(22), B2c(10) B(473)	A(1), B2(1)	IB2(7)	522	19		6		14		3	1	4	2	1	5	2		14	4		14	718	26		68	11		932	1		1845	2367
FH-20	B1(1), B2a(3) B2b(4), B2c(2) B(35)	B1(1)	IB2(2)	48	3				1					1					1	1		3	100	1		9			88	1	2	211	259
FH-21	B2b(3), B2c(1) B(183)		IB2(4)	191	2		1	2	3		1					8			5	2		3	369	5		27	3		288			719	910
FH-22	A2(2), B2a(7) B2b(28), B2c(28) B(721)	A2(1), A(7), B1(6) B3(53)	IB2(10) 陶磁器(1)	864	10	1	4	2	10		2	1	9	6	10	42	6	1	11	27		17	888	13		179	22		1495	1		2757	3621

住居跡番号	土器				石器																															総計
	II群	III群	その他	計	石鏃	石錐	ポイント・ナイフ	つまみ付ナイフ	スクレイパー	楔形石器	石斧	石斧薄片	すり石	北海道式石冠	球石	たたき石	くぼみ石	石錘	砥石	台石石皿	石匙	コア	フレイク	U・Rフレイク	R礫	礫△	焼礫	原石	礫	土製品	石製品	計		
FH-23	B2b(1), B(20)		IB2(1)	22					1		1			2		2	1			5			6	2		4			31	1		56	78	
FH-24	B1(2), B2a(5) B2b(17), B2c(1) B(542)		IB2(16)	583	1				1	1		1		6		19	2		11	5		7	115	12		41	3		337	1	1	564	1147	
FH-25	B2a(6), B2b(5) B2c(68), B(218)		IB2(4)	301	3		5	1	5				1	3	1	5			4	5		12	849	14		24	4		436	1		1373	1674	
FH-26	B2a(13), B2b(2) B2c(2), B(65)		IB2(3)	85	1				7		1	3		1		5			2	2		2	2873	7		10			109			3023	3108	
FH-27	B1(1), B2a(1) B2b(27), B2c(109) IIB(89)	B1(3)	IB1(3) IB2(15)	248	1		2	1	4					4	2	10				2		12	64	9		27	2		264	1		405	653	
FH-28	B1(2), B2a(9) B2b(17), B3(30) B(1175)	A1(1), A2(6), B1(9) B3(124), B(332)	IB2(2) その他 (16)	1723	16	2	7	6	18		5	12	12	5	5	20	9	2	22	26		30	13326	30	1	455	14		2509	13		16545	18268	
FH-29	A2(3), B1(2) B2a(40), B2b(87) B2c(42), B(1897)	A1(2), B1(6) B2(2), B3(1) B(43)	IB(1) IB2(28) その他 (11)	2165	26	3	13	9	30	1	5	4	13	17	8	67	3	1	13	29		30	2330	50		312	14		3348	9		6335	8500	
FH-30	B(28)			28					1					1	1	3			1	1		5	85	1		10			84			193	221	
FH-31	B2b(9), B(39)	A(1)		49	1			1	1			1	1	1		1			4	1		5	184	2		16	1		129			349	398	
FH-20 FH-31	B(43)		IB2(1)	44			1					1	1					1	2			3	56		1	5			102			173	217	
FH-32	B1(4), B2a(50) B2b(8), B2c(2) B(212)	B3(10)	IB2(7) IVA(2)	295	7		2	1	3			1	2			4				2		1	177	6		23	3		94	6		332	627	
FH-33	B1(2), B2a(36) B2b(25), B2c(26) B(780)	A1(3), B1(3), B2(3) B3(411), B(7)	IB2(1) その他(16)	1313	5	1	3	2	10		5	8	13	6	2	25	2	1	11	20		12	21292	23		212	10	1	1276	1		22941	24254	
FH-34																1				1						1	2		2			7	7	
FH-35	B2a(18), B2b(16) B2c(14), B(569)	A1(6), A2(1) B2(1), B3(464)	IB2(11) その他 (9)	1109	8	4	13	1	13			14	11	2	5	24	4	1	10	33		19	19779	24		248	17	1	887	3		21121	22230	
FH-36	A2(1), B1(4) B2a(37), B2b(43) B2c(35), B(1284)	A1(2), B1(2) B2(1), B3(475)	IB2(14) IVA(1) Va(1) Vb(2)	1902	16	10	10	6	21	1	3	10	8	2	2	13		2	6	13		14	1581	50		229	18	1	1628	4		3648	5550	
FH-37	B2c(1), B(62)			63	2		1	2	1				1	1		2			1	3		1	70	1		15			61	1		163	226	
FH-38	B1(6), B2a(18) B2b(114), B2c(140) B(2118)	A1(3), B1(12) B2(5) B3(31), B(3)	IB2(13) Vb2(1)	2464	25	4	13	11	41	2	7	17	16	7	3	48		2	25	15		34	5310	76		451	43		3623	1		9774	12238	
FH-39	B1(1), B2a(3) B2b(2), B2c(1) B(55)	B1(1), B2(1) B3(27)		91			1		1				6	1	1	9	2			18			5	4		62	3		59			172	263	
FH-40	B2c(1), B(8)	B3(4)		13				1						1		2			1	2			3			2			11			23	36	
計	A1(4), A2(6) B1(498), B2a(674) B2b(972), B2c(1084) B(31738)	A1(43), A2(15) A(13), B1(49) B2(14), B3(1849) B(385)	IA(1), IB1(4), IB2(236), IVA(4), Va(1) Vb(3), その他(54) 不明(3) 陶磁器(14)	37664	436	41	160	121	452	14	71	125	218	173	75	686	70	27	359	374	4	420	109280	710	20	5098	624	9	43153	96	4	162820	200484	

表3　土壙一覧

（　）は点数

遺構	地区	発掘区	平面形	規模（m）			出土遺物				総計	分類
				確認面	壙底面	深さ	土器	計	石器等	計		
FP- 1	A	S-11	円形	0.62×0.61	0.45×0.35	0.15	Vb(3)	3	すり石(2), 砥石(1), 石皿・台石(9) フレイク(27), 礫△(2), 礫(11)	52	55	II
- 2	〃	Q-13	〃	0.68×0.70	0.60×0.58	0.11	Vb(58)	58	コア(1), フレイク(16), 礫(2)	19	77	〃
- 3	〃	P･Q-13	楕円形	0.98×0.65	0.85×0.48	0.21	IIIB1(2), Vb(6)	8	くぼみ石(1), 石皿・台石(5) フレイク(67), 礫△(2), 礫(7)	82	90	〃
- 4	〃	T-10	〃	1.12×0.72	0.56×0.28	0.27	Va(1), Vb(5), V(5)	11	フレイク(18), 礫△(1), 礫(5)	24	35	〃
- 5	〃	Q-11	〃	1.04×0.86	0.70×0.55	0.35	IIIB1(5), Vb(21)	26	石鏃(1), スクレイパー(1), すり石(1) たたき石(1), 砥石(1), 石皿・台石(3), コア(1) フレイク(101), Uフレイク(1), 礫△(2) 焼礫(1), 礫(7)	121	147	〃
- 6	〃	Q･R-12	〃	0.90×0.78	0.43×0.38	0.40	IIB(1), IIIA(1) IIIB1(2) Vb(36), V(1)	41	たたき石(1), 砥石(3), 石皿・台石(5) コア(2), フレイク(81) 礫△(3), 焼礫(2), 原石(11) 礫(23), 軽石(1)	132	173	〃
- 7	〃	X-12	〃	0.99×0.74	0.90×0.63	0.12	V(1)	1	石皿・台石(2), 焼礫(1), 礫(1)	4	5	〃
- 8	〃	U-12	〃	0.67×0.60	0.22×0.21	0.19	IIIA(1), Vb(6), V(2)	9	くぼみ石(1), 石皿・台石(2), コア(1) フレイク(1), 礫△(13), 焼礫(3) 礫(11)	32	41	〃
- 9	〃	X-10	〃	0.72×0.54	0.40×0.25	0.19	IIIB(1), Vb(22)	23	石皿・台石(5), 礫△(2), 焼礫(2)	9	32	〃
- 10	〃	〃	〃	0.83×0.57	0.72×0.30	0.16	Vb(30)	30	たたき石(1), フレイク(7), Rフレイク(1) 礫△(1), 焼礫(1), 礫(4)	15	45	〃
- 11	〃	V･W-12	〃	0.94×0.87	0.69×0.80	0.50	Va(12), Vb(69) V(1)	82	たたき石(1), 砥石(1), 石皿・台石(8) コア(1), フレイク(12) Uフレイク(1), 礫△(3), 焼礫(5) 原石(2), 礫(4)	38	120	〃
- 12	〃	W･X-11	〃	0.72×0.48	0.60×0.25	0.17	Vb(15)	15	石皿・台石(3), フレイク(1) 礫△(2), 礫(5)	11	26	〃
- 13	〃	X･Y-12	〃	(0.49)×(0.47)	(0.38)×(0.36)	0.17	Vb(28)	28	コア(1), フレイク(11), 礫(2)	14	42	〃
- 14	C	Q-27	〃	0.97×0.88	0.65×0.39	0.13	IIB2b(1) IIB(17)	18	石皿・台石(1), フレイク(24), Uフレイク(2) 礫△(10), 礫(14)	51	69	I2
- 15	〃	P-24	〃	0.84×0.75	0.75×0.56	0.17	IIB2c(1), IIB(17) Vb(1)	19	ポイント(1), フレイク(35), Uフレイク(1) 礫△(20), 礫(51)	108	127	II
- 16	〃	O-26	〃	0.91×0.84	0.84×0.75	0.22	IIB1(1), IIB2b(2) IIB2c(1), IIB(23) IIIA2(1)	28	石斧(1), たたき石(1), 砥石(2) 石皿・台石(1), フレイク(30), 焼礫(2) 礫(28)	65	93	〃
- 17	A	O-7	〃	0.72×0.66	0.15×0.18	0.28		0	礫△(1), 礫(1)	2	2	〃
- 18	〃	P･Q-8	円形	0.57×0.54	0.36×0.28	0.13	Va(8)	8		0	8	〃
- 19	〃	P-8	〃	0.59×0.58	0.29×0.30	0.15	Vb(3)	3	礫△(4)	4	7	〃
- 20	C	P-26	楕円形	1.60×1.05	1.26×0.43	0.27	IIB2b(20), IIB2c(1) IIB(48)	69	ポイント(1), スクレイパー(1), 石斧(1) たたき石(5), 石錘(1), 砥石(5), 石皿・台石(3) コア(3), フレイク(179) Uフレイク(2), 礫△(15), 礫(105), 軽石(1)	322	391	I2
- 21	C	P-25	〃	1.32×1.11	0.82×0.69	0.27	IIB(24)	24	すり石(1), たたき石(1), 砥石(1) フレイク(35), 礫△(1), 礫(55) 土製品(1)	95	119	〃
- 22	〃	K-25	〃	1.63×1.13	1.23×0.73	0.20	IB2(7), IIB2a(4) IIB2b(4), IIB2c(5) IIB(136), IIIA2(1) IIIB3(3)	160	石鏃(2), スクレイパー(1), すり石(1) 北海道式石冠(2), たたき石(2), コア(2) フレイク(287), Uフレイク(2), Rフレイク(1) 礫△(14), 礫(176)	490	650	〃
- 23	〃	P･Q-26	〃	1.61×1.37	0.80×0.47	0.24	IIB1(5), IIB2a(2) IIB2b(6), IIB2c(2) IIB(62), IIIA1(2)	79	つまみ付ナイフ(1), 北海道式石冠(1) たたき石(4), 砥石(2), 石皿・台石(4), コア(4), フレイク(144) 礫△(15), 焼礫(1), 礫(178)	354	433	〃
- 24	〃	P-24	〃	1.27×0.81	0.76×0.50	0.19	IIB2c(4), IIB(43) IIIB3(12)	59	石鏃(1), すり石(1), 砥石(1) 石皿・台石(1), フレイク(51), 礫△(5) 礫(65)	125	184	〃
- 25	〃	P･Q-24	〃	(1.66)×1.32	1.45×0.85	0.33	IIB2b(13) IIB2c(75) IIB(119)	207	石鏃(3), つまみ付ナイフ(1), すり石(1) たたき石(2), 砥石(3), フレイク(48) Uフレイク(3), 礫△(6), 礫(105)	172	379	〃
- 26	〃	N-24･25	〃	0.82×0.76	0.60×0.58	0.23	IIB2c(21), IIB(28)	49	砥石(1), フレイク(39), Uフレイク(2) 礫△(3), 礫(42)	87	136	〃
- 27	〃	L-25	〃	0.62×0.52	0.47×0.41	0.23	IIB(15), IIIA(2) IIIB3(1) IVA(2)	20	北海道式石冠(1), たたき石(1) フレイク(28), Uフレイク(3), 礫△(6) 焼礫(1), 礫(45)	85	105	II
- 28	〃	M-25	円形	0.53×0.51	0.48×0.44	0.10	IIIA(2)	2	たたき石(2), フレイク(32) 礫△(3)	37	39	〃
- 29	〃	L･M-26	楕円形	0.75×0.69	0.50×0.45	0.22	IIB2a(1), IIB2b(4) IIB2c(1), IIB(8) IIIA2(1), IIIA(21) IIIB3(1), Va(1) V(16)	54	スクレイパー(1), たたき石(1) コア(1), フレイク(131) Rフレイク(1), 礫△(9), 礫(68)	212	266	〃
- 30	〃	L･M-25	〃	0.78×0.70	0.70×0.68	0.20	IIB(3), IIIA(1) IIIB1(4), IIIB3(1) IVA(1)	10	フレイク(60), 焼礫(2), 礫(20)	82	92	〃

遺構	地区	発掘区	平面形	規模 (m) 確認面	規模 (m) 壙底面	規模 (m) 深さ	出土遺物 土器	計	出土遺物 石器等	計	総計	分類
- 31	C	P-25・26	楕円形	1.06×0.93	0.83×0.71	0.14	IIB2b(2), IIB(18)	20	すり石(1)北海道式石冠(1) たたき石(1), 石皿・台石(1), フレイク(20) 礫△(4), 礫(24)	52	72	I2
- 32	〃	〃	〃	(1.10)×(1.20)	(0.70)×(0.80)	0.29	IIB2b(2), IIB2c(2) IIB(18)	22	ポイント(1), 北海道式石冠(4) 石皿・台石(1), すり石(1), フレイク(10) 礫△(4), 礫(11)	32	54	〃
- 33	〃	M-21	〃	1.08×1.00	0.83×0.72	0.39	IIB2a(1), IIB(7) IVA(9), V(2)	19	コア(1), フレイク(38), Uフレイク(3) 礫△(1), 礫(23)	66	85	II
- 34	〃	N-21	〃	(0.66)×(0.50)	(0.30)×(0.21)	0.20	IIB(1)	1	ポイント(1), スクレイパー(1) フレイク(2), 礫(4)	8	9	〃
- 35	〃	〃	〃	0.68×0.53	0.57×0.43	0.13		0	フレイク(3), 礫(2)	5	5	〃
- 36	〃	O-25	円形	0.59×0.58	0.20×0.15	0.10	IIB2b(1), IIB(13)	14	ポイント(1), コア(1), フレイク(49) 礫(7)	58	72	I2
- 37	〃	P-26	楕円形	(0.58)×0.38	0.46×0.26	0.12	IIB(8)	8	コア(1), フレイク(23), 礫△(1) 礫(7)	32	40	〃
- 38	〃	O-21	円形	0.88×(0.76)	0.72×(0.65)	0.37	IIB(2)	2	石皿・台石(4), フレイク(29) 礫△(6), 焼礫(3), 礫(25)	68	70	II
- 39	〃	N・O-21	〃	0.68×0.66	0.58×0.55	0.15	IIB(1)	1	フレイク(14), 礫(2)	16	17	〃
- 40	〃	P-25	楕円形	1.58×1.04	1.20×0.64	0.32	IIA2(1), IIB2a(2) IIB2b(1), IIB(74)	78	ポイント(1), つまみ付ナイフ(1) スクレイパー(1), すり石(2), たたき石(8) 石錘(1), 砥石(1), 石皿・台石(5) フレイク(139), 礫△(20), 焼礫(1), 礫(137)	317	395	I2
- 41	〃	O-24・25	〃	1.07×0.98	0.64×0.52	0.26	IIB2b(1), IIB2c(2) IIB(120)	123	石錐(1), 石斧(1), たたき石(1) 石皿・台石(1), コア(2), フレイク(157) 礫△(13), 焼礫(1), 礫(131)	308	431	〃
- 42	〃	P-25	〃	1.15×(1.03)	0.65×0.37	0.34	IIB2b(2), IIB(60)	62	石錐(1), たたき石(1), フレイク(45) Uフレイク(4), 礫△(1), 礫(45)	97	159	〃
- 43	〃	N-25	〃	0.80×0.65	0.52×0.31	0.18	IIB(3)	3	たたき石(2), 石皿・台石(1) フレイク(6), Uフレイク(1), 礫(16)	26	29	〃
- 44	〃	Q-25	〃	1.10×(0.95)	0.87×(0.80)	0.17	IIB(8)	8	ポイント(1), フレイク(5) Uフレイク(2), 礫△(2), 焼礫(1) 礫(22)	33	41	〃
- 45	〃	P-24	〃	1.77×1.63	1.43×1.42	0.32	IIB1(1), IIB2a(2) IIB(39)	42	石錐(1), スクレイパー(3), たたき石(4) くぼみ石(1), 石皿・台石(1), コア(1) フレイク(276), Uフレイク(2), 礫△(13) 焼礫(2), 礫(122)	426	468	〃
- 46	〃	O・P-24・25	〃	1.04×(0.83)	0.90×(0.75)	0.17	IIB(1)	1	くぼみ石(1), フレイク(6), 原石(1) 礫(11)	19	20	〃
- 47	〃	P-24	円形	1.09×1.08	0.98×0.94	0.22	IIB2a(1), IIB2b(2) IIB2c(8), IIB(94)	105	たたき石(1), 砥石(1), フレイク(10) Uフレイク(1), 礫△(12), 礫(34)	59	164	〃
- 48	〃	O-29	楕円形	0.94×0.77	0.44×0.43	0.43	IIB2a(1), IIB(16)	17	石錐(1), 石錐(1), スクレイパー(3) 石斧(1), 石斧薄片(1), 砥石(3) コア(1), フレイク(50), Uフレイク(2) 礫△(1), 礫(20)	84	101	〃
- 49	〃	O-23	〃	1.39×1.07	1.01×0.77	0.35	IIB(17)	17	石皿(1), フレイク(3), 礫△(3) 礫(32)	39	56	〃
- 50	〃	N-23・24	〃	1.32×1.16	0.97×0.68	0.36	IB2(1), IIB1(1) IIB2a(3), IIB2b(5) IIB2c(5), IIB(94) IIIB3(1)	110	石錐(4), ポイント(1), つまみ付ナイフ(1) スクレイパー(1), たたき石(5), 石皿・台石(5) コア(38), フレイク(10,945), Uフレイク(6) Rフレイク(6), 礫△(12), 礫(249)	11,273	11,383	〃
- 51	A	C-7	〃	0.67×0.62	0.36×0.37	0.20	V(1)	1	礫(1)	1	2	II
- 52	〃	E-7	〃	0.76×0.72	0.60×0.45	0.23	IIB(1)	1	フレイク(2), 礫(1)	3	4	〃
- 53	〃	D-7	—	0.82×(0.44)	0.52×(0.32)	0.24	Vb(1)	1	礫△(3), 礫(1)	4	5	〃
- 54	〃	D-6	—	0.79×(0.47)	0.64×(0.36)	0.21		0	たたき石(1), 礫△(2), 礫(2)	5	5	〃
- 55	〃	A-8	楕円形	0.97×0.92	0.84×0.74	0.25	Vb(1), V(4)	5	石皿・台石(1), フレイク(37), 礫(6)	44	49	〃
- 56	〃	B-8・9	〃	0.91×0.86	0.55×0.56	0.27	IIB(1), Vb(5) V(2)	8	フレイク(10), 礫△(5), 礫(2)	17	25	〃
- 57	〃	A・B-9	〃	(1.16)×(1.05)	0.92×0.77	0.42	IIB(2), IIIB2(1) Va(4), Vb(7) V(1)	15	たたき石(1), コア(1), フレイク(53) 礫△(1), 焼礫(1), 礫(1)	58	73	〃
- 58	〃	B-7	円形	0.52×0.50	0.37×0.32	0.12	Va(1)	1		0	1	〃
- 59	〃	D-6	〃	0.82×0.78	0.56×0.52	0.18		0	フレイク(5), 礫(4)	9	9	〃
- 60	〃	I-5・6	〃	0.69×0.67	0.50×0.46	0.19		0	フレイク(12)	12	12	〃

遺構	地区	発掘区	平面形	規模 (m) 確認面	規模 (m) 壙底面	規模 (m) 深さ	出土遺物 土器	計	出土遺物 石器等	計	総計	分類
FP-61	A	H-6・7	—	0.77×(0.45)	0.35×0.29	0.29	Vb(7)	7	フレイク(8), 礫(1)	9	16	II
- 62	〃	C-7・8	円形	0.88×(0.76)	0.33×0.33	0.34	IIIB2(2), Vb(10)	12	石皿・台石(2), フレイク(9), 礫△(4) 焼礫(1), 礫(6)	22	34	〃
- 63	〃	B-9	〃	0.97×(0.82)	0.70×(0.68)	0.30	Va(1), Vb(4)	5	石皿・台石(2), フレイク(7), 礫△(5) 礫(5)	19	24	〃
- 64	〃	C-9	〃	0.97×(0.92)	0.71×0.66	0.32	Vb(5)	5	たたき石(1), フレイク(9), 礫△(1) 礫(2)	13	18	〃
- 65	〃	B-9	—	(0.68)×(0.42)	(0.47)×(0.28)	0.26	Vb(9)	9	フレイク(4)	4	13	〃
- 66	〃	G-8	円形	0.72×0.68	0.52×0.47	0.28	IIB(3), Vb(34)	37	スクレイパー(1), フレイク(30), Uフレイク(1) 礫△(1), 礫(10)	43	80	〃
- 67	〃	K-8	楕円形	0.87×0.80	0.58×0.56	0.31	Va(1)	1	フレイク(3), 礫(1)	4	5	〃
- 68	〃	H・I-9	円形	0.60×0.57	0.50×0.47	0.13	IIB(2), IVA(1) Va(1)	4	石錐(1), フレイク(2), 礫△(2) 礫(2)	7	11	〃
- 69	〃	K-8	楕円形	0.53×0.48	0.36×0.35	0.14	Vb(2)	2	フレイク(9)	9	11	〃
- 70	C	M-24	〃	0.74×0.65	0.55×0.30	0.11		0	礫2点	2	2	I2
- 71	〃	M-23・24	〃	1.17×0.91	0.76×0.60	0.23	IB2(1), IIB2b(1) IIB2c(12), IIB(80)	94	石錐(2), スクレイパー(1), すり石(1) 球石(1), コア(2), フレイク(77) 礫△(4), 焼礫(1), 礫(81)	170	264	〃
- 72	〃	M・N-23	〃	(2.21)×1.74	(2.10)×1.67	0.20	IB2(16), IIA2(8) IIB1(1), IIB(30)	55	石錐(2), つまみ付ナイフ(1), たたき石(2) 石皿・台石(1), コア(1), フレイク(91) Rフレイク(1), 礫△(10), 焼礫(2), 礫(120)	231	286	〃
- 73	〃	N-24	〃	1.45×0.98	1.19×0.64	0.17	IIB2b(1) IIB(9)	10	つまみ付ナイフ(1), たたき石(1), フレイク(12) Uフレイク(1), 礫△(7), 礫(36)	58	68	〃
- 74	〃	M-25	〃	1.17×0.85	0.86×0.51	0.18	IIB(4)	4	たたき石(2), フレイク(24), 礫△(5) 焼礫(1), 礫(8)	40	44	〃
- 75	〃	M-26・27	〃	1.46×1.06	1.21×0.88	0.19	IIB2a(1), IIB2b(4) IIB2c(1), IIB(72) IIIA2(1), IIIB1(1) IIIB3(3), IVA(1) Vb(4)	89	石錐(1), つまみ付ナイフ(1), 北海道式石冠(1), たたき石(3), くぼみ石(1), 石皿・台石(1) フレイク(107), Uフレイク(3), 礫△(19) 焼礫(9), 礫(132)	278	367	II
- 76	〃	M-26	〃	(1.02)×(0.66)	(0.70)×0.51	0.14	IIB(28)	28	石錐(1), フレイク(33), Uフレイク(2) Rフレイク(1), 礫△(1), 焼礫(3) 礫(43)	84	112	I2
- 77	〃	M・N-26	〃	0.85×0.57	0.76×0.43	0.23	IIB(10)	10	フレイク(19), 礫(7)	26	36	〃
- 78	〃	〃	〃	1.95×1.62	1.53×1.08	0.30	IIB2b(4), IIB2c(3) IIB(142), IIIA2(4) IIIA(29), IIIB1(7) IIIB2(3), IIIB3(28) IIIB(18), IVA(6)	244	石錐(1), つまみ付ナイフ(1), 石斧(1) すり石(1), たたき石(10)石皿・台石(6) コア(3), フレイク(1,298), Uフレイク(5) 礫△(47), 焼礫(5), 礫(390), 有孔石(1)	1,769	2,013	〃
- 79	〃	M-26	〃	1.55×1.34	1.10×0.88	0.30	IIB2a(2), IIB2b(6) IIB(92)	100	石錐(3), ポイント(2), スクレイパー(1), 北海道 式石冠(1), たたき石(4), 球石(1), コア(2) フレイク(127), Uフレイク(1), Rフレイク(1) 礫△(26), 焼礫(7), 原石(1), 礫(145)	322	422	〃
- 80	〃	H-21	〃	1.58×1.10	1.25×0.74	0.23	IB2(1), IIB2b(1) IIB(16)	18	北海道式石冠(1), コア(1), フレイク(55) Uフレイク(2), 礫△(6), 礫(97) 有孔石(1)	163	181	〃
- 81	A	J-7	〃	0.65×0.46	0.47×0.35	0.12		0	フレイク(1), 礫(1)	2	2	II
- 82	〃	E-9	円形	0.34×0.31	0.21×0.18	0.12	IIIB1(2), Vb(66)	68		0	68	〃
- 83	〃	J-9	〃	0.89×0.86	0.56×0.60	0.32	IIB(5), IIIB2(3) Va(9)	17	石錐(1), すり石(1), 石皿・台石(2), フレイク(57) Uフレイク(3), 礫△(2), 焼礫(2), 礫(4)	72	89	〃
- 84	〃	L-8	〃	0.55×0.52	0.29×0.25	0.21		0	フレイク(2), 礫(2)	4	4	〃
- 85				欠番								
- 86	A	D-9	円形	0.37×0.36	0.24×0.20	0.15	IIIB(2), Va(9)	11	フレイク(14)	14	25	II
- 87	〃	G-7	〃	0.39×0.36	0.26×0.23	0.10		0	フレイク(1), 礫(1)	2	2	〃
- 88	〃	〃	〃	0.31×0.30	0.14×0.14	0.13		0	フレイク(2)	2	2	〃
- 89	〃	C-8・9	〃	0.29×0.28	0.15×0.15	0.06	Va(1)	1	フレイク(2)	2	3	〃
- 90	〃	K-5・6	〃	0.68×0.66	0.48×0.52	0.11		0	焼礫(1)	1	1	〃

遺構	地区	発掘区	平面形	規模（m）			出土遺物				総計	分類
				確認面	壌底面	深さ	土器	計	石器等	計		
FP-91	A	J-8	楕円形	0.70×0.56	0.45×0.36	0.10	Va(18), Vb(30)	48	フレイク(4), Rフレイク(1), 礫△(4) 焼礫(2), 礫(14)	25	73	II
-92	〃	K-7・8	〃	0.73×0.57	0.57×0.35	0.09	Va(13)	13	石皿・台石(2), 礫△(3), 礫(2)	7	20	〃
-93	C	I-19	〃	(0.73)×(0.30)	(0.65)×(0.28)	0.44	IIIB1(4)	4	石皿・台石(4), フレイク(9), Rフレイク(1) 礫△(2), 礫(11)	27	31	I2
-94	〃	I-20	円形	1.23×1.21	0.87×0.78	0.18	IIB2c(1), IIB(5) Va(1)	7	たたき石(1), コア(2), フレイク(11) Uフレイク(2), 礫△(5), 焼礫(1) 礫(90)	112	119	〃
-95	〃	〃	楕円形	1.16×0.93	0.67×0.50	0.21	IIB(1), IIIA(4) IIIB(25)	30	コア(1), フレイク(7), 礫△(1) 礫(25)	34	64	〃
-96	〃	G・H-22	〃	1.84×1.60	0.85×0.61	0.24	IB2(24), IIB2b(3) IIB2c(1), IIB(27)	55	つまみ付ナイフ(1), 石斧(1), たたき石(5) 砥石(1), コア(2), フレイク(604) Uフレイク(3), 礫△(10), 焼礫(1), 礫(109)	737	792	〃
-97	〃	F・G-23	〃	(2.22)×(2.00)	1.89×1.81	0.26	IIB1(2), IIB2a(2) IIB(12)	16	石皿・台石(2), フレイク(11), 礫△(5) 焼礫(2), 礫(19)	39	55	〃
-98	〃	N・O-24	〃	1.00×0.72	0.44×0.31	0.29	IIB2b(1), IIB(5)	6	たたき石(1), 石皿・台石(1), フレイク(1) 礫△(3), 焼礫(1), 礫(4)	11	17	〃
-99	〃	G-21	〃	1.48×1.07	0.66×0.45	0.33	IIB2b(2), IIB2c(2) IIB(45)	49	石錐(2), たたき石(1), コア(2) フレイク(299), Uフレイク(1), 礫△(4) 焼礫(6), 礫(140)	455	504	〃
-100	〃	I-25	—	(0.75)×(0.38)	(0.59)×(0.29)	0.25	IIB2c(1), IIB(4)	5	石錐(1), ポイント(1), たたき石(1) 砥石(1), 石皿・台石(1), フレイク(4) 礫△(1), 礫(26)	36	41	〃
-101	〃	I-26	〃	1.00×0.90	0.72×0.55	0.13	IB2(3), IIB2b(1) IIB2c(1), IIB(44) IIIA1(1), IIIA(3) IIIB3(25)	78	スクレイパー(1), すり石(1), たたき石(1) 石皿・台石(2), コア(1), フレイク(80) Rフレイク(1), 礫△(6), 焼礫(1), 礫(63)	157	235	〃
-102	〃	J-26	〃	0.94×0.82	0.83×0.70	0.10	IB2(1), IIB2a(1) IIB(22)	24	すり石(1), 石皿・台石(2), フレイク(4) 礫△(3), 焼礫(1), 礫(19)	30	54	〃
-103	〃	〃	〃	0.74×0.58	0.68×0.50	0.17	IB2(6), IIB2c(2) IIB(14)	22	すり石(1), フレイク(3), 礫△(4) 礫(25)	33	55	〃
-104	〃	I・J-26・27	〃	0.98×1.00	0.83×0.41	0.55	IIB2a(5), IIB2b(2) IIB(45)	52	スクレイパー(1), すり石(1), コア(2) フレイク(2,110), Uフレイク(2), 礫△(1) 礫(18)	2,135	2,187	I1
-105	〃	J-25	〃	1.30×1.13	0.67×0.62	0.37	IIB2b(1), IIB2c(4) IIB(97), IIIB1(1) IIIB2(1), IIIB3(17)	121	石錐(3), 石斧薄片(1), すり石(2), たたき石(4) 砥石(1), 石皿・台石(2), 球石(1), コア(1) フレイク(240), Uフレイク(5), Rフレイク(1) 礫△(25), 焼礫(6), 礫(128), 有孔石(2)	422	543	I2
-106	〃	〃	〃	1.55×1.34	0.80×0.61	0.36	IIB2b(2), IIB2c(11) IIB(85), IIIB3(39) IIIB(1)	138	スクレイパー(1), すり石(1), 北海道式石冠(2) たたき石(4), くぼみ石(4), 石皿・台石(1) フレイク(100), 礫△(27), 焼礫(3), 礫(84)	227	365	〃
-107	〃	I-24	〃	0.78×0.65	0.39×0.36	0.39	IB4(1), IIB2c(1) IIB(17)	19	ポイント(1), フレイク(15), 礫△(4) 焼礫(2), 礫(39)	61	80	〃
-108	〃	〃	〃	1.41×0.83	1.13×0.56	0.18	IIB(1)	1	フレイク(2), 礫△(1), 焼礫(1) 礫(9)	13	14	〃
-109	〃	L-25	〃	1.39×0.90	1.21×0.76	0.20	IIB2b(1), IIB2c(1) IIB(24)	26	たたき石(1), フレイク(9), 礫△(2) 礫(56)	68	94	〃
-110	〃	J・K-23	〃	1.07×0.83	0.52×0.32	0.60	IIB2b(1), IIB(34)	35	たたき石(4), フレイク(3), 礫△(4) 礫(20)	31	66	I1
-111	〃	I-24・25	不整形	2.03×1.15	1.66×0.85	0.17	IB4(1), IIB2c(1) IIB(56), IIIA(1) IIIB3(44)	103	ポイント(1), スクレイパー(2), 石斧薄片(2) たたき石(4), 砥石(1), 石皿・台石(3) フレイク(60), 礫△(30), 焼礫(1) 礫(152), 有孔石(2)	258	361	I2
-112	〃	I-22	楕円形	0.89×0.70	0.46×0.23	0.32	IIB2c(24), IIB(30)	54	フレイク(5), 焼礫(1), 礫(31)	37	91	〃
-113	〃	K-22・23	〃	2.40×2.05	1.98×1.78	0.26	IB2(3), IIB2b(4) IIB2c(1), IIB(107)	115	石錐(1), ポイント(1), スクレイパー(1), すり石(2)北海道式石冠(1), たたき石(6), 砥石(1)球石(3), コア(11), フレイク(136), Uフレイク(2), 礫△(22)焼礫(7), 礫(174)	368	483	〃
-114	〃	K-23	円形	0.68×0.67	0.63×0.61	0.66	IB2(1), IIB(2)	3	コア(2), フレイク(12), Uフレイク(1) 礫(11)	26	29	I1
-115	〃	〃	楕円形	0.67×0.62	0.57×0.46	0.12	IB2(1), IIB(4)	5	コア(1), フレイク(5), 礫(4)	10	15	I2
-116	〃	〃	〃	1.05×0.77	0.98×0.67	0.44	IB2(3), IIB(1)	4	フレイク(1)	1	5	I1
-117	〃	L-25	円形	0.84×0.82	0.72×0.65	0.30	IIB(7)	7	たたき石(2), 砥石(1), 石皿・台石(1) コア(2), フレイク(1), 礫△(2), 焼礫(1) 礫(8)	18	25	I2
-118	〃	I・J-21	楕円形	0.78×0.55	0.48×0.32	0.25	IIB(15)	15	北海道式石冠(1), たたき石(1), コア(2) フレイク(25), 礫△(6), 焼礫(3) 礫(116)	154	169	〃
-119	〃	I・J-22	〃	1.70×1.15	1.10×0.75	0.26	IIB2b(2), IIB2c(2) IIB(88), IIIB3(1)	93	石斧(1), 北海道式石冠(1), たたき石(3) 砥石(1), 石皿・台石(1), コア(3) フレイク(70), Uフレイク(2), 礫△(12) 焼礫(4), 礫(204), 土製品(1)	303	396	〃
-120	〃	K-23	〃	(1.50)×(1.07)	(1.20)×(0.85)	0.18	IIB2b(2), IIB(86)	88	ポイント(1), すり石(1), たたき石(3), 石錐(1) 砥石(1), 石皿・台石(4), コア(2) フレイク(148), 礫△(6), 焼礫(3), 礫(152)	322	410	〃

遺構	地区	発掘区	平面形	規模(m) 確認面	規模(m) 底面	深さ	出土遺物 土器	計	出土遺物 石器等	計	総計	分類
FP-121	C	K-23	楕円形	(1.53)×1.35	1.23×0.78	0.25	IB2(1), IIB2b(1) IIB2c(6), IIB(55)	63	ポイント(1), たたき石(3), 砥石(1) コア(4), フレイク(46), Uフレイク(3) Rフレイク(1), 礫△(10), 焼礫(3), 礫(106)	178	241	I2
-122	〃	K-25	—	(1.14)×(0.87)	(0.93)×(0.92)	0.26	IB2(2), IIB2c(1) IIB(12)	15	石錐(1), スクレイパー(1), 石斧薄片(1) たたき石(2), フレイク(11), 礫△(12) 礫(48)	76	91	〃
-123	〃	K-24	楕円形	0.89×0.75	0.76×0.62	0.64	IB2(1), IIB2a(1) IIB2c(13), IIB(32)	47	たたき石(1), コア(6), フレイク(50) Uフレイク(1), 礫△(1), 焼礫(3) 礫(48)	110	157	I1
-124	〃	〃	〃	0.95×0.60	0.80×0.50	0.64	IIB2b(1), IIB(7)	8	砥石(2), フレイク(25), 礫△(3) 焼礫(1), 礫(48)	79	87	〃
-125	〃	F-23・24	〃	1.61×1.36	1.40×1.16	0.15	IIB2a(1), IIB2b(84) IIB(82)	167	つまみ付ナイフ(1), すり石(1), たたき石(3)砥石(1), 石皿・台石(1), フレイク(9) Uフレイク(1), 礫△(4), 礫(38)	59	226	I2
-126	〃	I-26	不整形	(1.52)×1.40	1.14×(1.12)	0.18	IIB2a(1), IIB2b(4) IIB2c(14), IIB(107) IIIA2(1), IIIB3(1)	128	石錐(2), つまみ付ナイフ(1), スクレイパー(2) 北海道式石冠(2), たたき石(3), くぼみ石(1) 石皿・台石(1), 敲石(1), フレイク(48), Uフレイク(1), 礫△(20), 焼礫(8), 礫(135), 土製品(1)	226	354	〃
-127	〃	K-25・26	楕円形	0.74×0.72	0.53×0.53	0.30		0	北海道式石冠(1)	1	1	〃
-128	〃	K-24	〃	0.76×0.67	0.73×0.63	0.38		0	北海道式石冠(1), 礫(1)	2	2	I1
-129	〃	G-27	〃	1.01×0.80	0.83×0.62	0.12	IIB(2), IIIB3(1)	3	石皿・台石(4), フレイク(15) 礫△(13), 焼礫(2), 礫(10)	44	47	I2
-130	〃	〃	〃	1.03×0.88	0.95×0.83	0.57	IIB2a(5), IIB2b(2) IIB2c(2), IIB(51) IIIB1(2), IIIB3(12) IVA(2)	76	石錐(2), ポイント(1), スクレイパー(1) コア(2), フレイク(125), Uフレイク(2) 礫△(14), 焼礫(1), 礫(121), 石製品(1)	270	346	I1
-131	〃	H・I-26	〃	(0.50)×0.63	(0.50)×0.57	0.16	IB2(1), IIB(3)	4	フレイク(14), 礫△(2), 礫(4)	20	24	I2
-132	〃	H-26	〃	(1.13)×0.79	1.01×0.55	0.14	IIB2b(1), IIB(6)	7	石錐(1), フレイク(4) 礫△(2), 焼礫(1), 礫(9)	17	24	〃
-133	〃	J-26	〃	0.96×0.60	0.82×0.51	0.08	IIB(1)	1	石皿・台石(1), コア(1), フレイク(22) 礫△(1), 礫(10)	35	36	〃
-134	〃	J・K-26	〃	(1.37)×(0.97)	(1.15)×(0.95)	0.15	IB2(3), IIB2b(11) IIB(7)	21	たたき石(1), フレイク(28), Uフレイク(1) 礫△(4), 礫(17)	51	72	〃
-135	〃	H-26	〃	(0.64)×0.63	(0.51)×0.40	0.15	IIB(4)	4	コア(1), フレイク(5), 礫(9)	15	19	〃
-136	〃	J・K-24・25	〃	(0.72)×0.68	0.63×0.50	0.32	IB2(3), IIB(1)	4	フレイク(27), 礫△(1), 焼礫(1) 礫(17)	46	50	〃
-137	〃	F-25	—	(1.07)×(0.59)	(0.70)×(0.40)	0.15	IB2(1), IIB(10)	11	フレイク(29), Rフレイク(2), 礫(14)	45	56	〃
-138	〃	F-21	楕円形	(0.85)×(0.84)	(0.46)×(0.42)	0.20	IIA2(1), IIB(2)	3	フレイク(2), 礫(27)	29	32	〃
-139	〃	F-25・26	〃	0.83×0.64	0.74×0.53	0.35	IIB2a(17), IIB(7)	24	フレイク(6), Uフレイク(1), 焼礫(1) 礫(47)	55	79	I1
-140	〃	Q-26	〃	1.34×1.05	1.20×0.91	0.15	IIB2b(2), IIB2c(4) IIB(42), IIIB2(2)	50	すり石(1), たたき石(1), 砥石(1), 石皿・台石(1) コア(4), フレイク(71), Uフレイク(1) 礫△(10), 焼礫(3), 礫(72)	165	215	I2
-141	C	G-25	〃	0.76×0.63	0.70×0.58	0.33	V(1)	1	砥石(1), 礫△(2), 礫(2)	5	6	I1
-142	〃	I-22	〃	0.90×(0.58)	0.71×0.45	0.32	IIB2b(1)	1	焼礫(1), 礫(2)	3	4	I2
-143	〃	H-25	〃	0.76×0.66	0.55×0.47	0.18	IB2(4), IIA2(1) IIB2b(1), IIB(6) IIIB3(12)	24	フレイク(8), Uフレイク(2), 礫△(1) 礫(36), 土製品(1)	48	72	〃
-144	〃	H-26	〃	1.33×1.17	1.04×0.98	0.15	IIB2a(1), IIB(4) IIIB3(2)	7	たたき石(1), 石皿・台石(3), 礫△(6) 礫(9)	19	26	〃
-145	〃	I-26	円形	0.74×0.71	0.66×0.64	0.30	IIB(4)	4	つまみ付ナイフ(1), スクレイパー(1) たたき石(1), コア(1), フレイク(4) 礫△(4), 礫(22)	34	38	I1
-146	〃	I・J-25・26	楕円形	0.75×0.52	0.63×0.39	0.48	IIB(6)	6	石錐(1), たたき石(1), くぼみ石(1) フレイク(5), 礫△(1), 礫(4)	13	19	〃
-147	〃	I・J-25	〃	0.90×0.66	0.84×0.61	0.40	IIB2c(1), IIB(4)	5	北海道式石冠(2), フレイク(1) 礫△(1), 礫(2)	6	11	〃
-148	〃	H-23	〃	1.31×(1.03)	1.20×0.85	0.41	IIB(81)	81	石錐(3), 石斧薄片(2), たたき石(1) コア(1), フレイク(361), Uフレイク(4) 礫△(12), 焼礫(10), 礫(154)	548	629	I2
-149	〃	L-25	〃	0.61×0.43	0.50×0.39	0.22	IIB(3)	3	フレイク(27), Uフレイク(11), 礫△(6) 焼礫(1), 礫(10)	55	58	I1
-150	〃	I-25	〃	0.88×0.48	0.57×0.25	0.40		0	礫(2)	2	2	I2
-151	〃	〃	〃	0.63×0.57	0.45×0.26	0.34		0	フレイク(1), Uフレイク(1)	2	2	〃

表4　A地区土壙掲載実測土器一覧

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	大きさ(cm)			分類	破片数	文様と特徴					備考
						口径	底径	器高			口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III−24	98	5	FP-2	1	覆土	(24.0)	11.4	(21.3)	Vb	40				斜縄(＼),沈線 半竹刺突文	丸味をもつ	深鉢(?)
III−25	〃	9	FP-5	3	〃	28.5	(23.2)	(7.7)	Va	8	切り出し状 沈線	幅広無文帯	B状突起後 沈線	斜縄(＼)		浅鉢
〃		10	FP-5	6	〃	(18.3)	6.1	(7.2)	Vb	9			沈線文	斜縄(＼)	揚げ底	〃
〃	98	22	FP-6	53	〃	10.7	5.4	12.2	Va	13	切り出し状	沈線文,刻みの ある貼付帯		斜縄(＼)	揚げ底	鉢
III−26	〃	35	FP-9	12	〃	11.1	(16.9)	(7.0)	〃	5	切り出し状 沈線文	無文帯				壺形
〃		40	FP-11	34	〃	(20.6)	11.4	(4.6)	〃	5				斜縄(＼)	揚げ底	浅鉢
III−28		60	FP-18	2	〃	(20.7)	11.5	(8.5)	〃	5				斜縄(／)	台付	台付浅鉢
III−29		76	FP-58	1	床面	(2.4)	8.6	(3.4)	〃	1					台付，B状 突起後沈線	〃
〃	98	97	FP-82	1	上面	21.6	(20.1)	(22.2)	Vc2	24	切り出し状,貼付帯 沈線,円形刺突,半竹刺突	無文帯	半竹刺突	斜縄(＼)		深鉢

表5　A地区土壙掲載拓本一覧

挿図	図版	番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III−24		6	FP-3	11	覆土	IIIB1	肥厚帯,角型 半竹刺突文					天神山
〃		8	FP-4 V-9	1 15	〃 III層	Va	無文	無文,横ナデ				壺形
III−25		11	FP-5	11	覆土	IIIB1				貼付帯,斜縄(／) 半竹刺突文		
〃		12	〃	9	〃	〃	切り出し状 沈線文					
〃		13	〃	14	〃	Vb				単節斜行縄文(／)		不明
〃		14	〃	4	〃	〃				〃　(／)		不明
〃		15	〃	36	〃	〃				〃　(／)		不明
III−26		32	FP-8	8	〃	〃				単節斜行(＼), 沈線文		
〃		33	〃	6	〃	〃				縦位縄文(＼)		
〃		36	FP-9	16	〃	〃	単節斜行縄文 沈線文,刺突文					
〃		37	FP-10	14	〃	〃	貼付小突起			単節斜行縄文		
〃		38	〃	8,9,24	〃	〃						
III−27		41	FP-11	25	〃	〃						椀
〃		42	〃	15	〃	Va		無文		単節斜行縄文 沈線	単節斜行縄文(?)	
〃		43	〃	44	〃	Vb	貼付小突起 刻月文	細い沈線文と 太い沈線文				深鉢
〃		44	〃	21	〃	〃	切り出し状			無文		椀
〃		45	〃	44	〃	〃	撚糸圧痕文 棒状工具の圧痕文			単節斜行縄文		深鉢
〃		46	〃	2	〃	〃	撚糸圧痕文 貼付小突起			無文(?)		〃
〃		47	〃	16	〃	〃				単節斜行縄文	平底	炭化物付着(底面)
〃		48	〃	44	〃	〃				〃	〃	?
III−27		49	〃	44	覆土	Vb					揚底ぎみ	?
〃		54	FP-12	7,12	〃	〃	撚糸圧痕文・突起 棒状工具圧痕文			単節斜行		浅鉢
〃		55	〃	12	〃	〃				〃		深鉢
III−28		58	FP-13	7	〃	〃				単節斜行縄文		?
〃		59	〃 X-12	2,3,4,6, 8,15	〃 III層	〃				単節斜行縄文 ・擦痕		壺形?
〃		61	FP-18		覆土	Va	突起部,三叉状の 沈線文					
〃		62	FP-19	3	〃	〃	丸味			横ナデ無文		浅鉢 全面炭化物付着
〃		63	〃	4	〃	〃	丸味,肥厚	無文,横ナデ				壺形
〃		64	FP-51	1	〃	Vb				無文		炭化物付着
〃		65	FP-52	1	〃	IIB				不明		胎土，砂礫を多量 含む(磨滅著しい)
〃		66	FP-53	2	〃	Vb		区画文 沈線文・刺突文				
〃		68	FP-55	10	〃	〃					台付,沈線文	台付浅鉢
〃		69	FP-56	8	〃	〃				沈線文・半竹刺突 文・無文地		
〃		70	〃	8	〃	〃				無文		
〃		71	FP-57	6	〃	Va	切り出し状,小突起, 内外面に沈線文	無文(?)				台付浅鉢
〃		72	〃	6	〃	〃	切り出し状 沈線文	無文				鉢形
〃		73	〃	6	〃	〃			沈線文	不規則な縄文		壺形
〃		74	〃	6	〃	Vb		沈線文	沈線文・刺突文	?	?	深鉢?

挿図	図版	番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III−29		77	FP-62	11	覆土	IIIB1			貼付・押引文 斜縄文(＼)			混入？
〃		78	〃	6		Vb				縦位縄文		深鉢
〃		79	〃	11	覆土	〃				単節斜行縄文		浅鉢？
〃		81	FP-63	12	覆土	Vb				無文，横ナデ		82と同一個体
〃		82	〃	14	〃	〃				〃		81と同一個体 表面炭化物付着
〃		83	FP-64	1, 3, 7	〃	〃				撚もどし 複節縄文？(＼)		深鉢
〃		85	FP-65	1	〃	Va	沈線文	無文		単節斜行(＼)		浅鉢
〃		86	〃	1	〃	〃			浅い沈線文	〃 (＼)		深鉢，55と同一？
〃		87	〃	1	〃	〃				〃 (＼)		〃 54と同一
〃		88	FP-66 G-7	16 26	〃 I層	〃				〃 (＼)	平底 沈線刺突文	〃
〃		89	FP-66	12	覆土	Vb	小突起			〃 (＼)		〃
〃		90	〃	3	〃	〃				〃 (＼)		〃
〃		92	FP-67	1	〃	〃				沈線文，斜縄(＼)		
〃		93	FP-68	4	〃	IVA	地文(／) 「乙」状沈線文					
〃		94	〃	2	〃	Vb				連繋入組文		壺形
〃		96	FP-69	2	〃	〃						
III−30		98	FP-83	11	〃	〃	沈線文	くびれ				
〃		99	〃	〃	〃	〃	角型			単節斜行(／)		
〃		102	FP-91 J-8	4, 5, 13 11	〃 I層	〃				単節斜行(｜)	平底	浅鉢
〃		103	FP-91 J-8	18, 20, 23 11	覆土 I層	〃	切り出し・刻目文	沈線文(横縦)	刺突文	単節斜行(＼)		深鉢
〃		104	FP-91	17	覆土	〃	切り出し・沈線文			単節斜行(｜)		〃
〃		105	FP-92	7	〃	〃	切り出し			単節斜行(＼)		浅鉢 炭化物付着

表6　A地区土壙掲載石器一覧

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	名称	分類	重量(g)	石材	挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	名称	分類	重量(g)	石材
III−24		1	FP- 1	20	覆土	すり石		1,020	And	〃		31	FP-7	4	覆土	石皿・台石		5,000	And
〃		2	〃	2	〃	〃		1,430	〃	〃		34	FP-8	1	〃	くぼみ石		720	〃
〃		3	〃	12	〃	砥石		900	Sa	〃		39	FP-10	20	〃	たたき石		580	〃
〃		4	〃	13	〃	石皿・台石		1,680	And	III−27		50	FP-11	30	〃	〃		460	〃
〃		7	FP-3	4	〃	くぼみ石		430	〃	〃		51	〃	29	〃	石皿・台石		2,600	〃
III−25		16	FP-5	38	〃	石錘	IIc	0.4	Obs	〃		52	〃	11	〃	〃		2,700	〃
〃		17	〃	30	〃	スクレイパー	IIa	6.4	Sh	〃		53	〃	19	〃	〃		5,100	〃
〃		18	〃	18	〃	すり石		1,050	And	〃		56	FP-12	3	〃	石皿・台石		3,500	〃
〃		19	〃	25	〃	たたき石		860	Qua	〃		57	〃	5	〃	〃		3,400	〃
〃		20	〃	17	〃	砥石		150	Sa	III−28		67	FP-54	2	底面	たたき石		840	Sa？
〃		21	〃	20	〃	石皿・台石		1,900	And	〃		75	FP-57	5	覆土	〃		1,230	And
〃		23	FP-6	29	〃	たたき石		370	And	III−29		80	FP-62	1	〃	石皿・台石		3,000	〃
〃		24	〃	17・50	〃	砥石		240	Sa	〃		84	FP-64	5	〃	たたき石		640	〃
〃		25	〃	15	〃	〃		1,150	〃	〃		91	FP-66	13	〃	スクレイパー	IV	15.6	Obs
III−26		26	〃	20	〃	石皿・台石		7,100	And	〃		95	FP-68	5	〃	石錘	IIc	0.5	Obs
〃		27	〃	16	〃	〃		8,500	〃	III−30		100	FP-83	16	〃	〃	IIa	0.6	Obs
〃		28	〃	19	〃	〃		6,800	〃	〃		101	〃	1	〃	すり石		890	And
〃		29	〃	18	〃	〃		6,400	〃	〃		106	FP-92	3	〃	石皿・台石		7,400	〃
〃		30	〃	22	〃	〃		1,900	〃	〃		107	〃	2	〃	〃		3,800	〃

表7　A地区包含層掲載実測土器一覧

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	大きさ(cm)			分類	破片数	文様と特徴					備考
						口径	底径	器高			口唇部	頸部	区画部	体部	底部	
III−34	101	83	P-7	13	II	15.7	8.9	9.5	Vc1	7	切り出し状	幅広無文帯	沈線文	ナデ調整 無文	台付坏	
〃	〃	84	H-7	6	II	23.5	—	9.7	Vc1	10	切り出し状 口唇内面刻目文	3条沈線文		斜縄(＼)	浅鉢(？)	

表8　A地区包含層掲載拓本一覧

挿図	図版	番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III−32	130(下)	1	J- 7	8	I	IIB1				撚り戻斜縄(＼)		砂粒，小礫多い 調整粗雑
〃	〃	2	J- 7	8	I	IIB2b	切り出し状，縄線文，縄圧痕文			斜縄(＼)		〃 調整丁寧　脆弱
〃	〃	3	F- 7	15	II	〃	切り出し状 縄線文	縄線文				〃 〃　〃
〃	〃	4	D- 8	11	I	IIB2c	切り出し状，半竹刺突文，絡状体圧痕文					〃 〃　〃

挿図	図版	番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
Ⅲ−32	130(下)	5	J-7	8	Ⅰ	ⅡB2c	切り出し状 半竹刺突文	鋸歯状絡条体圧痕文				砂粒，小礫多い 調整丁寧　脆弱
〃	〃	6	G-8	7	Ⅱ	〃	切り出し状，半竹刺突文，斜縄(／)	絡条体圧痕文		斜縄(／)		〃 〃　〃
〃	〃	7	C-7	21	Ⅰ	〃	切り出し状，絡条体圧痕文，半竹刺突文					〃 〃　〃
〃	〃	8	P-12	5	Ⅰ	ⅢB1	切り出し状 縄線文	半竹押引のある貼付紐 沈線文				〃 〃　〃
〃	〃	9	F-7	16	Ⅲ	〃	丸味をもつ口唇 縄線文	刻目文のある貼付紐 斜縄(／)				〃 調整粗雑
〃	〃	10	I-7	28	Ⅰ	〃	切り出し状 縄線文	斜縄(／) 沈線文				〃 調整丁寧　〃
〃	〃	11	F-6	19	Ⅰ	〃	切り出し状 縄線文	斜縄(／)，３本一組沈線文				〃 〃
〃	〃	12	W-6	11	Ⅱ	〃	切り出し状，貼付帯，半竹押圧	斜縄(／)，貼付紐縄線文，３本一組沈線文				〃 〃
〃	〃	13	K-6	36	Ⅲ	〃	切り出し状 絡条体圧痕文	斜縄(／) 貼付紐				〃 〃
〃	〃	14	P-10	23	Ⅱ	〃	切り出し状，絡条体圧痕文，棒状刺突文	斜縄(／) 貼付紐				〃 〃
〃	〃	15	O-5	11	Ⅰ	〃	切り出し状，絡条体圧痕文，棒状刺突文	貼付帯，半竹刺突文 絡条体圧痕文				〃 〃
〃	〃	16	F-7	18	Ⅰ	〃	切り出し状，貼付紐 斜縄(＼)，半竹刺突文	貼付紐，半竹刺突文 斜縄(／)				〃 〃
〃	〃	17	K-6	36	Ⅱ	〃	切り出し状，半竹刺突文，斜縄(／)，円形刺突文	斜縄(／)，貼付帯，半竹刺突文				〃 〃
〃	〃	18	I-6	35	Ⅱ	〃	切り出し状 斜縄(／)，円形刺突文			斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	19	L-6	11	Ⅱ	〃	切り出し状 半竹刺突文	斜縄(＼) 半竹押引のある貼付帯		斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	20	O-11	63	Ⅱ	〃	切り出し状 刻目文	半竹刺突文のある貼付紐				〃 〃　脆弱
〃	〃	21	A-8 B-8	9 3	Ⅰ	〃	切り出し状 半竹押引文，刺突文	斜縄(／) 半竹刺突文のある貼付帯				〃 〃　〃
〃	〃	22	P-10	23	Ⅱ	〃	切り出し状 刻目文	斜縄(／) 半竹刺突文のある貼付紐				〃 〃　〃
〃	〃	23	P-10	51	Ⅱ	〃	丸味をもつ口唇 半竹刺突文	斜縄(＼) 半竹押引文のある貼付紐				〃 〃　〃
〃	〃	24	A地区	1	不明	〃	切り出し状 沈線文，半竹刺突文			斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	25	D-7	18	Ⅰ	〃	切り出し状 半竹刺突文			斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	26	E-6	23	Ⅰ	〃	切り出し状 刻目文	斜縄(／) 半竹押引文のある貼付紐				〃 〃
〃	〃	27	O-5	11	Ⅰ	〃	角形 刻目文	斜縄(＼)，沈線 半竹押引文のある貼付紐				〃 〃
〃	〃	28	C-8	31	Ⅰ	〃	切り出し状 刻目文	斜縄(＼) 刻目文のある貼付紐				〃 〃
〃	〃	29	O-8	31	Ⅱ	〃	切り出し状 半竹刺突文					〃 〃
〃	〃	30	J-7	20	Ⅱ	〃	切り出し状 半竹刺突文			斜縄(／)		〃 〃　脆弱
〃	〃	31	C-9	3	Ⅱ	〃	切り出し状	斜縄(＼)，沈線文 半竹押引文のある貼付紐				〃 〃　〃
〃	〃	32	Q-14	8	Ⅱ	〃	切り出し状 半竹内面沈線文	斜縄(／)，半竹刺突文のある貼付紐，沈線文		斜縄(／)		〃 〃　〃
〃	131	33	F-6	1	Ⅱ	〃	切り出し状，裏面縄文，斜縄(／)			斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	34	L-6	11	Ⅱ	〃	切り出し状 斜縄(＼)			斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	35	I-7	20	Ⅱ	〃	切り出し状 無文			斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	36	D-5	8	Ⅰ	〃	丸味をもつ口唇 斜縄(＼)			斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	37	L-6	1	Ⅰ	〃	切り出し状 斜縄(／)			斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	38	I-8	15	Ⅱ	〃	切り出し状(／) 斜縄(／)			斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	39	J-7	8	Ⅰ	〃	切り出し状 斜縄(／)			斜縄(／)		〃 〃
Ⅲ−33	〃	40	H-6	55	Ⅱ	〃		斜縄(＼)，半竹内面の沈線文 半竹刺突文のある貼付紐				〃 〃
〃	〃	41	T-13	1	Ⅰ	〃		半竹刺突文のある貼付瘤 貼付紐				〃 〃　脆弱
〃	〃	42	P-10	23	Ⅱ	〃		半竹刺突文のある貼付帯		結束羽状(＞)		〃 〃　〃
〃	〃	43	I-7	28	Ⅰ	〃		半竹刺突文のある貼付帯 斜縄(＼)				〃 〃　〃
〃	〃	44	C-8	21	Ⅱ	〃		半竹刺突文のある貼付帯 半竹内面刺突文，斜縄(／)				〃 〃
〃	〃	45	L-5	27	Ⅰ	〃		半竹押引文のある貼付紐 複節斜縄(＼)				〃 〃
〃	〃	46	H-6	18	Ⅰ	〃		半竹刺突文のある貼付紐 半竹内面沈線，斜縄(／)				〃 〃
〃	〃	47	C-6	1	Ⅱ	〃		半竹刺突文のある貼付紐 半竹内面沈線，斜縄(／)				〃 〃　脆弱
〃	〃	48	G-6	28	Ⅱ	〃		刻目文のある貼付紐 斜縄(／)				〃 〃
〃	〃	49	F-7	18	Ⅰ	〃		貼付紐 半竹内面沈線文，斜縄(＼)				〃 〃
〃	〃	50	C-6	1	Ⅱ	〃		半竹押引文のある貼付紐 斜縄(／)				〃 〃

挿図	図版	番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III—30	131	51	K- 7	12	III	IIIB1		半竹刺突文のある貼付帯，沈線斜縄(／)				砂粒，小礫多い 調整丁寧
〃	〃	52	J- 6	18	II	〃		貼付紐 半竹内面沈線文，斜縄				〃 〃
〃	〃	53	G- 7	26	I	〃		半竹内面沈線文 棒沈線文，斜縄(／)				〃 〃
〃	〃	54	F- 8	15	I	〃		2本一組沈線文，斜縄(／)				〃 〃
〃	〃	55	D- 5	8	I	〃		2本一組押引文，斜縄(／)				〃 〃
〃	〃	56	G- 5	5	I	〃		「S」字状に垂下する沈線文，斜縄(／)				〃 〃
〃	〃	57	F- 8	15	II	IIIB2		縦位貼付帯，円形刺突文 斜縄(／)				〃 〃
〃	〃	58	G- 8	4	I	IIIB3	切り出し状，篦押引文 斜縄(＼)	肥厚帯直下篦押引文 裏面結束羽状(<)				粗雑な調整 小礫，砂粒多い
〃	〃	59	E- 7	9	I	〃	角形 口唇斜縄(／) 半竹押引文					〃 〃
〃	〃	60	F- 7	16	III	〃				斜縄(＼) 半竹押引文		〃 〃
〃	〃	61	F- 7	16	〃	〃				半竹押引文 結束羽状(<)		〃 〃
〃	〃	62	D- 5	8	I	〃		裏面縄文(／)		縄文のある貼付紐 円形刺突文，斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	63	E- 8	7	II	IVA	角形 貼付帯，刺突文			斜縄(／)		砂粒，小礫多い 内面調整丁寧
〃	〃	64	Q-12	7	〃	〃	やや角型，縄線文のある貼付帯			斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	65	E- 5	7	〃	〃	角形 貼付帯			斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	66	D- 6	4	I	〃	丸味をもつ口唇 口唇直下沈線文(?)			斜縄(／)		〃 〃 脆弱
〃	〃	67	C- 8	31	〃	〃				貼付帯 羽状(>)?		〃 〃
〃	〃	68	D- 5	8	〃	〃				貼付帯 羽状(<)		〃 〃
〃	〃	69	D- 5	8	〃	〃				貼付帯 斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	70	O- 5	14	II	〃	角型，斜縄(／) 沈線文					〃 〃
〃	〃	71	H- 5	2	〃	〃	角型，斜縄(／) 波状沈線文					〃 〃
〃	〃	72	I- 8	4	I	〃	角型，斜縄(／) 蛇曲状沈線文					〃 〃
〃	〃	73	K- 5	2	〃	〃				「●」状沈線 斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	74	E- 6	10	〃	〃				磨消縄文 曲線状		〃 〃
〃	〃	75	D- 7	18	〃	〃				磨消縄文 曲線状		〃 〃
〃	〃	76	O- 5	9	〃	〃				沈線文 不規則な縄文		〃 〃
〃	〃	77	P- 8	45	II	〃	角型	「>」状の沈線文 刻目文，沈線文				〃 〃
〃	〃	78	O- 6	1	I	IIIB1				不規則な縄文	やや揚げ底ぎみ 底面縄文	砂粒，小礫多い 内面調整粗雑
〃	〃	79	O- 8	31	II	〃				斜縄(／)	平底 底面縄文	〃 〃 脆弱
〃	〃	80	G- 9	6	〃	〃				斜縄(＼)	揚げ底 底面縄文	〃 〃 〃
〃	〃	81	G- 8	4	I	〃				斜縄(／)	張り出しぎみ 平底	〃 〃
〃	〃	82	K- 6	29	〃	〃				斜縄(／)	平底 張り出しが強い	〃 〃
III—34	〃	85	J- 7	1	II	Va	角型	3条の沈線文		[C][X]字状の沈線文 縦位縄文		砂粒少ない 内面調整比較的丁寧
〃	〃	86	G- 7	10	I	〃				連繋入組文		壺形 砂粒・小礫を含む 調整丁寧 脆弱
〃	〃	87	W-10	9	〃	〃	角型，2条沈線文 「V」字状貼付	幅広無文帯	貼付帯，沈線文 刻目文の組合せ			没鉢 〃 〃
〃	〃	88	L- 7	15	〃	〃	丸味をもつ口唇 「逆V」字状貼付 3条沈線文	幅広無文帯				〃 〃 〃
〃	〃	89	W- 9 W-10	9 9	〃	〃	尖がる口唇 2条沈線文	幅広無文帯	沈線文			〃 〃 〃 脆弱
〃	〃	90	P- 8	39	II	〃	尖がる口唇 沈線文			横位連続工字文		〃 〃 外面赤色 〃 〃 顔料付着
〃	〃	91	T-10	6	II	〃	切り出し状 内面沈線文			無文地 横位連続工字文		〃 〃 〃
〃	〃	92	N-16	73	I	〃	切り出し状，貼付瘤 内面沈線文	沈線文				〃 〃 〃
〃	〃	93	Q-11	36	II	〃	切り出し状，内面沈線文，縄文?	沈線文				〃 〃 〃 脆弱
〃	〃	94	Q-11	2	I	〃	切り出し状 内面沈線文，刻目文	無文帯(?)				〃 〃 〃
〃	〃	95	X- 9	8	〃	〃	切り出し状，貼付瘤， 内面沈線文					〃 〃 〃
〃	〃	96	X-10	19	II	〃	角型，斜縄(＼)， 沈線文	斜縄(＼) 沈線文				〃 〃 〃
〃	131	97	F- 8	15	II	〃	切り出し状，斜縄(＼) 刻目文，内面沈線文	沈線文，斜縄(＼)	沈線文 貼付瘤			没鉢 〃 内外面赤色顔料 〃 〃 付着 脆弱
〃	〃	98	F- 6	27	I	〃	切り出し状 刻目文 内面沈線文	幅狭，無文帯	沈線文	斜縄(／)		〃 〃 〃

挿図	図版	番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
Ⅲ−34	32	99	G- 7	26	〃	Va	尖がる口唇	3条沈線文		斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	100	K- 6	29	〃	〃	尖がる口唇	3本沈線文		斜縄(＼)		〃 〃 〃
〃	〃	101	N-18	1	〃	〃	切り出し状 沈線文	沈線文				〃 〃 〃
〃	〃	102	I- 7	20	Ⅱ	〃		無文帯(?)	貼付瘤 沈線文	磨消縄文		〃 〃 〃
〃	〃	103	E- 6	41	Ⅰ	〃		無文帯	A状突起 斜縄(／)	斜縄(／)		〃 〃 〃
〃	〃	104	P- 9	50	〃	〃		無文帯	A状突起，沈線文，斜縄(＼)	斜縄(＼)		〃 〃 〃 脆弱
〃	〃	105	L- 5	15	Ⅱ	〃	沈線文	幅狭無文帯	A状突起，沈線文，無文地			〃 〃 〃
〃	〃	106	G- 8	4	Ⅰ	〃	切り出し状 内面沈線文			斜縄(＼)		〃 〃 〃 脆弱
〃	〃	107	W- 9	9	〃	〃	切り出し状，「逆Ｖ」字状貼付，沈線文	幅広無文帯	沈線文	縦位縄文(｜)		深鉢 〃 〃
〃	〃	108	D- 9	8	〃	〃	切り出し状，A状突起，口唇縄圧痕，内面沈線文	沈線文				〃 〃 〃
〃	〃	109	P-10	24	Ⅱ	〃	切り出し状，斜縄(＼) 内外沈線文	幅広無文帯	A状突起? 沈線文，斜縄(＼)			〃 〃 〃
〃	〃	110	B- 8	1	〃	〃	丸味をもつ口唇，斜縄(＼)，沈線文	幅広無文帯				〃 〃 〃 脆弱
〃	〃	111	N-18	1	Ⅰ	〃	切り出し状，斜縄(＼) 外面刻目文	幅狭無文帯	沈線文，斜縄(＼)			〃 〃 〃
〃	〃	112	B- 8	8	Ⅲ	〃	丸味をもつ口唇，無文地，沈線文	幅狭無文帯		無文		〃 〃 〃 脆弱
〃	〃	113	O-10	84	Ⅱ	〃	切り出し状 無文地	沈線文	B状突起 沈線文			浅鉢 砂粒少ない 四脚丁寧
〃	〃	114	G- 6	28	〃	〃	切り出し状，斜縄(＼)，沈線文	沈線文				深鉢 砂粒多い 四脚丁寧
〃	〃	115	O- 8	32	〃	〃	切り出し状，斜縄(／)，内面沈線文	3条沈線文	貼付帯，斜縄(／)，横位刻目文(A状突起)	斜縄(／)		浅鉢 砂粒少ない 四脚丁寧
〃	〃	116	V-10	13	Ⅰ	〃	角型 斜縄(＼)	沈線文，斜縄(＼)				深鉢 砂粒多い 四脚丁寧
〃	〃	117	V-10	26	Ⅰ	〃	角型 斜縄(＼)	沈線文，斜縄(＼)				〃 〃 〃 Na116と同一?
〃	〃	119	L- 5	27	〃	〃	尖がる口唇，斜縄(＼) 外面刻目文	3条沈線文		斜縄(＼)		〃 〃 〃
〃	〃	118	L- 6	14	Ⅱ	〃	尖がる口唇，斜縄(＼)	3条沈線文		斜縄(＼)		〃 〃 〃
〃	〃	120	N-18	14	Ⅰ	〃	角型，縦位縄文(｜)	3条沈線文		「(」・「)」状沈線文 縦位縄文(1)		〃 〃 〃
〃	〃	121	O-10	64	Ⅰ	〃	角型 沈線文	幅狭無文帯	沈線文			〃 〃 〃 脆弱
〃	〃	122	O- 6	13	Ⅱ	〃	尖がる口唇	沈線文				〃 〃 〃
〃	〃	123	T-10	6	Ⅱ	〃	尖がる口唇 斜縄(＼)	3条沈線文		斜縄(＼)		〃 〃 〃
〃	〃	124	P- 6	22	Ⅱ	〃	切り出し状，斜縄(／)，内面沈線文	2条沈線文		斜縄(／)		〃 〃 〃
〃	〃	125	O- 6	4	Ⅰ	〃	角型 斜縄(／)	3条沈線文		斜縄(／)		〃 〃 〃 脆弱
〃	〃	126	S-11	25	〃	〃		沈線文		条痕文		〃 〃 〃 〃
〃	〃	127	N-17	9	Ⅰ	〃				連弧入組文		浅鉢 砂粒少ない 四脚丁寧
〃	〃	128	D- 8	11	〃	〃		斜縄(＼) 沈線文	刺突文	斜縄(＼)		深鉢 砂粒多い 四脚丁寧
〃	〃	129	F- 8	15	Ⅱ	〃		沈線文				〃 砂粒，小礫を含む 四脚粗雑
〃	〃	130	W- 9	9	Ⅰ	〃	沈線文	幅広無文帯	沈線文	縦位縄文(｜)		〃 〃 〃
〃	〃	131	V- 9	15	Ⅲ	〃		沈線文	棒状工具下方からの刺突文			〃 砂粒少なく，繊維多い，四脚丁寧，新しい，可能性ある
〃	〃	132	G- 5	1	Ⅱ	〃		沈線文		斜縄(＼)		〃 砂粒，小礫多い 四脚粗雑
〃	〃	133	P- 8	19	〃	〃		沈線文		斜縄(／)		〃 〃 〃
〃	〃	134	L- 7	15	Ⅰ	〃		無文帯	沈線文	条痕文		鉢? 砂粒少ない 四脚丁寧
Ⅲ−35	〃	135	L- 9	2	〃	〃	切り出し状 無文	無文帯				壺形 砂粒多い 四脚丁寧
〃	〃	136	B- 8	3	〃	〃	切り出し状 浅い沈線文	無文帯				〃 〃 〃
〃	〃	137	G- 6	28	Ⅱ	〃			沈線文 刺突文	斜縄(＼)		〃 砂粒多い 四脚粗雑
〃	〃	138	N-16	13	Ⅰ	〃			沈線文 斜縄(／)	斜縄(／)		〃 砂粒多い 四脚丁寧
〃	〃	139	J- 8	11	〃	〃				縦位縄文(｜)		〃 〃 〃
〃	〃	140	P- 8	39	Ⅱ	Vb	切り出し状，沈線文，縄圧痕文，円形刺突文					浅鉢 〃 〃
〃	〃	141	N-16 N-18	3, 13 1	Ⅰ	〃	切り出し状	沈線文	刺突文			深鉢 〃 〃
〃	〃	142	J- 6	18	Ⅱ	〃	切り出し状，沈線文，縄線文，円形刺突文	無文帯	刺突文	斜縄(＼)		〃 〃 〃
〃	132	143	X-10	24	Ⅲ	〃	切り出し状 無文地	斜縄(＼) 沈線文				深鉢 砂粒多い 四脚丁寧
〃	〃	144	W- 9	9	Ⅰ	〃	切り出し状	縄線文 沈線文				〃 〃 〃

挿図	図版	番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III—35	〃	145	N- 6	29	〃	Vb	切り出し状，口唇円形刺突文	斜縄(＼) 沈線文				浅鉢 砂粒多い 調整丁寧
〃	〃	146	K- 6	36	III	〃	切り出し状 無文地	斜縄(＼) 沈線文，半竹刺突文				〃 〃
〃	〃	147	B- 6	3	II	〃	尖がる口唇，沈線文，棒P状刺突文					〃 〃
〃	〃	148	I- 6	11	I	〃	角型，縄線文 円形刺突文					〃 〃
〃	〃	149	P- 8	45	II	〃	尖がる口唇，無文地，山形状刻目文，沈線文					〃 〃
〃	〃	150	G- 8	4	I	〃		横走沈線文				浅鉢 〃 〃
〃	〃	151	N- 5	18	II	〃		沈線文	半竹刺突文			深鉢 〃 〃
〃	〃	152	I- 7	20	II	〃		沈線文，半竹刺突文 斜縄(＼)				深鉢 〃 〃 Na146と同一
〃	〃	153	Y-12	6	III	〃	切り出し状 撚糸圧痕文			斜縄(＼)		浅鉢 〃 〃
〃	〃	154	F- 7	18	I	〃	切り出し状 撚糸圧痕文			無文地(?)		〃 〃 〃 脆弱
〃	133	155	K- 5	13	II	〃	切り出し状 撚糸圧痕文			斜縄(＼)		〃 〃 〃
〃	〃	156	W-12	7	III	〃	切り出し状 頂部撚糸圧痕文			斜縄(＼)		〃 〃 〃
〃	〃	157	D- 6	18	II	〃	切り出し状 撚糸圧痕文			斜縄(＼)		〃 〃 〃
〃	〃	158	C- 7	7	I	〃	切り出し状 撚糸圧痕文			斜縄(＼)		〃 〃 〃
〃	〃	159	K- 7	27	〃	〃	切り出し状，撚糸圧痕文，刻目文	突起直下円形穿孔文		斜縄(＼)		〃 〃 〃
〃	〃	160	P-14 Q-13	30 13	I II	〃	切り出し状，頂部撚糸圧痕文，刻目文			斜縄(＼)		〃 〃 〃
〃	〃	161	K- 6	36	III	〃	切り出し状，頂部円形刺突，撚糸圧痕文			斜縄(／)?		〃 〃 〃
〃	〃	162	V-11	14	I	〃	角型，撚糸圧痕文，刻目文			斜縄(＼)		〃 〃 〃
〃	〃	163	V-11	14	〃	〃	切り出し状，撚糸圧痕文，刻目文			斜縄(＼)		〃 〃 〃
〃	〃	164	V-11	14	I	〃	角型，撚糸圧痕文，刻目文			斜縄(＼)		〃 〃 〃 Na160と同一?
〃	〃	165	P- 6	14	〃	〃	切り出し状，撚糸圧痕文，刻目文			斜縄(＼)		〃 〃 〃
〃	〃	166	C- 7	7	〃	〃	切り出し状，外面刻目文，撚糸圧痕文，円形刺突文			斜縄(＼)		〃 〃 〃 脆弱
〃	〃	167	G- 6	14	〃	〃	切り出し状 沈線刻目文			斜縄(＼)		〃 〃 〃
〃	〃	168	N-16	3	〃	〃	切り出し状，突起部撚糸圧痕文			斜縄(＼)		〃 〃 〃 脆弱
〃	〃	169	F- 7	15	II	〃	切り出し状，突起部，刻目文			斜縄(／)		〃 〃 〃
〃	〃	170	K- 7	15	I	〃	切り出し状，突起部，刻目文			斜縄(＼)		〃 〃 〃 脆弱
〃	〃	171	C- 6	12	〃	〃	丸味をもつ口唇			斜縄(＼)		〃 〃 〃 脆弱
〃	〃	172	L- 8	9	〃	〃	丸味をもつ口唇 縄圧痕			斜縄(＼)		深鉢 〃 〃
〃	〃	173	D- 5	8	〃	〃	切り出し状 斜縄(／)			斜縄(／)		〃 〃 〃
〃	〃	174	K- 6	29	〃	〃	切り出し状 撚糸圧痕文			斜縄(／)		〃 〃 〃
〃	〃	175	J- 7	17	〃	〃	切り出し状 刻目文			斜縄(＼)		〃 〃 〃
〃	〃	176	K- 6	36	III	〃	切り出し状			縦位縄文(｜)		〃 〃 〃 脆弱
〃	〃	177	J- 7	1	II	〃	丸味をもつ口唇			斜縄(＼)		〃 〃 〃
III—36	〃	178	L- 7	15	I	〃				条痕文		砂粒，小礫，海綿骨針多い 調整丁寧
〃	〃	179	J- 6	22	〃	〃				擦痕		〃 〃
〃	〃	180	L- 7	5	II	〃				やや斜位(＼) 擦痕		〃 〃
〃	〃	181	C- 6	1	II	〃	切り出し状 撚糸圧痕文	無文帯	刺突文	斜縄(＼)		浅鉢 砂粒多い 調整丁寧
〃	〃	182	C- 6	12	I	〃	丸味をもつ口唇	沈線文				壺形 〃 〃
〃	〃	183	N-13	6	〃	〃		無文帯		刺突文		壺形 〃 〃
〃	〃	184	D- 7	6	II	V	丸味をもつ口唇 口唇外面刻目文	浅い沈線文 浅い刺突文		縦位縄文		砂粒多い 調整丁寧
〃	〃	185	C- 9	3	〃	〃	丸味をもつ口唇 口唇外面刻目文	浅い沈線文 浅い刺突文		縦位縄文		〃 〃
〃	〃	186	G- 6	28	〃	〃					揚げ底	砂粒多い 調整粗雑
〃	〃	187	I- 7	20	〃	〃				斜縄(＼)	揚げ底 底付近に沈線	砂粒多い 調整比較的丁寧
〃	〃	188	X-10	19	〃	〃				無文	丸底ぎみ 底付近に沈線	〃 〃
〃	〃	189	S-11	25	I	V				無文	張り出しが強い 揚げ底	砂粒多い 調整比較的丁寧
〃	〃	190	P- 8	38	II	〃				斜縄(／)	平底	砂粒多い 調整丁寧

挿図	図版	番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III−36	133	191	V-11	14	I	V				斜縄(＼)	丸底	砂粒多い 調整丁寧
〃	〃	192	P- 8	38 45	II	〃					丸底	〃 〃
〃	〃	193	C- 8	17	II	VI				細い貼付紐，縄縄文，三角刺突文		〃 〃
〃	〃	194	X- 9	10	I	VII	角型	微隆起，円形刺突文	横位微隆起	鋸歯状微隆起		北大式，小型土器，砂粒，小礫を含む。調整丁寧
〃	〃	195	P- 9	38	I	〃	切り出し状	横走沈線		無文，ヘラ調整		小型(?)，砂粒，小礫を含む。調整比較的丁寧
〃	〃	196	E- 7	9	〃	〃		横走沈線				砂粒，小礫を含む 調整比較的丁寧
〃	〃	197	P- 8	40	II	〃	尖がる口唇 ナデ調整					坏，内黒
〃	〃	198	L- 6	5	I	〃	尖がる口唇 ナデ調整					砂粒多い
〃	〃	199	K- 6	36	III	〃				条痕文		砂粒，小礫を含む 調整比較的丁寧
〃	〃	200	N-16	3	I	〃				条痕文		〃 〃
〃	〃	201	K- 7	15	I	〃				無文	やや張り出す平底	砂粒，小礫多い

表9　A地区包含層掲載石器一覧

挿図	図版	番号	出土区	遺物番号	層位	名称	分類	重量(g)	石材	挿図	図版	番号	出土区	遺物番号	層位	名称	分類	重量(g)	石材
III−37	169	1	D- 8	17	I	石鏃	Ib	0.9	Obs	III−37	169	35	O-11	90	II	石鏃	IIc	3.1	Obs
〃	〃	2	J- 5	4	〃	〃	〃	0.9	〃	〃	〃	36	J- 6	12	I	〃	〃	0.5	〃
〃	〃	3	O-12	34	〃	〃	〃	1.0	〃	〃	〃	37	J- 5	4	〃	〃	〃	0.8	〃
〃	〃	4	R-10	29	II	〃	〃	1.1	Sh	〃	〃	38	I- 7	8	〃	〃	〃	1.0	〃
〃	〃	5	O-11	105	I	〃	〃	1.3	Obs	〃	〃	39	P-12	12	〃	〃	〃	1.2	〃
〃	〃	6	I- 8	20	II	〃	〃	1.5	〃	〃	〃	40	Q-11	46	〃	〃	〃	1.4	〃
〃	〃	7	P-11	20	〃	〃	〃	6.1	〃	〃	〃	41	C- 7	20	I	〃	〃	1.4	〃
〃	〃	8	I- 7	3	I	〃	IIb	0.4	〃	〃	〃	42	D- 8	17	〃	〃	〃	1.6	〃
〃	〃	9	H- 6	12	II	〃	〃	1.2	〃	〃	〃	43	C- 5	6	II	〃	〃	1.0	〃
〃	〃	10	O- 9	47	I	〃	〃	0.4	〃	〃	〃	44	P-12	13	I	〃	〃	1.0	〃
〃	〃	11	T- 9	22	II	〃	〃	0.4	〃	〃	〃	45	T- 9	21	II	〃	〃	1.1	〃
〃	〃	12	U-11	14	I	〃	IIc	0.9	〃	〃	〃	46	T-11	10	〃	〃	〃	0.8	〃
〃	〃	13	I- 7	21	II	〃	〃	0.5	〃	〃	〃	47	O-17	16	I	〃	〃	1.4	〃
〃	〃	14	G- 6	25	I	〃	〃	0.4	〃	〃	〃	48	P-18	9	〃	〃	〃	1.7	〃
〃	〃	15	N-12	8	〃	〃	〃	0.6	〃	〃	〃	49	N-10	20	〃	〃	〃	1.9	〃
〃	〃	16	N- 6	26	〃	〃	〃	0.7	〃	〃	〃	50	N-18	31	〃	〃	〃	2.8	〃
〃	〃	17	Q- 9	13	〃	〃	〃	0.4	〃	〃	〃	51	O-12	33	〃	〃	〃	1.2	Sh
〃	〃	18	S-12	16	〃	〃	〃	0.7	〃	〃	〃	52	L- 9	15	〃	〃	〃	2.3	Obs
〃	〃	19	N-18	24	〃	〃	〃	0.6	〃	〃	〃	53	L- 5	6	〃	〃	〃	0.4	〃
〃	〃	20	〃	32	〃	〃	〃	1.7	〃	〃	〃	54	O- 7	12	III	〃	〃	0.8	〃
〃	〃	21	O-11	15	〃	〃	〃	0.5	〃	〃	〃	55	D- 7	1	I	〃	〃	0.8	〃
〃	〃	22	N- 9	5	〃	〃	〃	0.5	〃	〃	〃	56	O- 5	3	〃	〃	〃	1.2	〃
〃	〃	23	L- 5	23	〃	〃	〃	0.8	〃	〃	〃	57	F- 6	30	II	〃	〃	3.5	〃
〃	〃	24	O- 8	23	II	〃	〃	2.3	〃	〃	〃	58	F- 5	10	I	〃	IId_2	1.0	〃
〃	〃	25	P-10	40	〃	〃	〃	1.0	〃	〃	〃	59	P-10	15	II	〃	〃	1.3	〃
〃	〃	26	〃	39	〃	〃	〃	1.1	〃	〃	〃	60	F- 8	11	〃	〃	〃	2.6	〃
〃	〃	27	P- 9	93	〃	〃	〃	1.6	〃	〃	〃	61	F- 7	2	I	〃	IId_3	0.2	〃
〃	〃	28	H- 6	21	I	〃	〃	1.4	〃	〃	〃	62	E- 7	28	〃	〃	IIc	1.6	〃
〃	〃	29	E- 5	6	II	〃	〃	1.7	〃	〃	〃	63	R-13	28	II	〃	IIIb	1.6	〃
〃	〃	30	O-11	17	I	〃	〃	2.3	〃	〃	〃	64	O-11	18	I	〃	IIIb	1.0	〃
〃	〃	31	〃	16	〃	〃	〃	1.2	〃	〃	〃	65	N-18	22	〃	〃	IIIa	1.1	〃
〃	〃	32	I- 8	19	II	〃	〃	1.2	〃	〃	〃	66	K- 5	9	II	石錐	IIb	1.2	〃
〃	〃	33	H- 8	4	〃	〃	〃	2.3	〃	〃	〃	67	B- 6	11	〃	〃	〃	2.7	〃
〃	〃	34	S-12	32	III	〃	〃	1.9	〃	〃	〃	68	D- 8	22	〃	〃	〃	3.3	〃

挿図	図版	番号	出土区	遺物番号	層位	名　称	分類	重量(g)	石材	挿図	図版	番号	出土区	遺物番号	層位	名　称	分類	重量(g)	石材
III—37	169	69	E- 6	14	II	石　錐	IIb	11.8	Sh	III—39	169	117	C- 8	19	II	楔形石器		9.1	Obs
III—38	〃	70	T-12	1	I	ポイント・ナイフ	Ia_1	5.3	Obs	〃	〃	118	I- 8	7	III	〃		5.6	〃
〃	〃	71	D- 8	10	〃	〃	〃	11.3	〃	〃	〃	119	F- 8	8	II	〃		8.2	〃
〃	〃	72	I- 6	4	〃	〃	〃	17.0	〃	〃	〃	120	N-12	10	I	〃		8.1	〃
〃	〃	73	P- 9	20	〃	〃	Ia_2	10.7	〃	III—40	170	121	S-12	19	〃	石　斧	Ib_1	17.0	Gr-Mud
〃	〃	74	E- 8	11	〃	〃	〃	7.4	〃	〃	〃	122	F- 6	33	II	〃	I—	87.2	La-Ba
〃	〃	75	〃	18	II	〃	II	14.2	Sh	〃	〃	123	N-14	34	I	〃	〃	88.4	Sch
〃	〃	76	Q-14	57	〃	〃	〃	28.9	Obs	〃	〃	124	D- 6	5	〃	〃	II—	68.5	Gr-Mud
〃	〃	77	D- 6	2	III	〃	〃	64.1	〃	〃	〃	125	N- 9	26	〃	〃	〃	32.2	〃
〃	〃	78	D- 5 G- 6	26 5	I	〃	IVa	14.0	〃	〃	〃	126	O-13	16	〃	〃	IIa_2	29.1	Ser
〃	〃	79	O-17	1	〃	〃	〃	24.6	Sh	〃	〃	127	P-12	4	〃	〃	IVc_2	30.2	Gr-Mud
〃	〃	80	G- 7	23	〃	つまみ付きナイフ	Ic	12.1	Obs	〃	〃	128	K- 6	13	II	〃	IVb_2	17.8	Ser
〃	〃	81	D- 6	16	II	〃	Ib	4.0	Sh	〃	〃	129	W-12	3	I	〃	IIa_2	150.2	Sch
〃	〃	82	B- 7	28	〃	〃	〃	7.5	〃	〃	〃	130	J- 7	28	〃	〃	$IIIa_2$	560	La-Ba
〃	〃	83	L- 5	9	〃	〃	〃	6.4	〃	III—41	〃	131	〃	28	〃	〃	$IIIc_2$	640	〃
〃	〃	84	D- 7	3	攪乱	〃	〃	13.6	〃	〃	〃	132	O- 9	6	〃	すり石		320	And
〃	〃	85	Q-11	7	I	〃	〃	8.2	〃	〃	〃	133	O-10	55	II	〃		580	〃
〃	〃	86	O-13	15	〃	〃	Ia	11.1	〃	〃	〃	134	P-10	5	〃	〃		740	〃
〃	〃	87	L- 6	25	〃	〃	〃	6.2	〃	〃	〃	135	B- 7 O- 8	19 9	III II	〃		1040	〃
〃	〃	88	T-13	21	II	〃	IIa	14.9	〃	〃	〃	136	V-11	1	III	すり石		710	And
〃	〃	89	T-12	2	I	スクレイパー	EII	28.9	Obs	〃	〃	137	N-16	29, 42	I	〃		190	〃
〃	〃	90	T-14	6	〃	〃	〃	6.1	〃	〃	〃	138	T- 9	5	II	〃		90	〃
〃	〃	91	A- 8	10	I	〃	〃	9.3	〃	〃	〃	139	N-14	40	I	〃		470	〃
〃	〃	92	T-11	9	II	〃	〃	9.2	〃	〃	〃	140	P- 7	4	II	球　石		250	〃
〃	〃	93	C- 7	19	I	〃	〃	9.0	〃	〃	〃	141	N-16	7	I	〃		210	〃
III—39	〃	94	C- 8	26	II	〃	〃	11.1	〃	〃	171	142	O-10	14	〃	たたき石		310	〃
〃	〃	95	R-12	18	I	〃	〃	11.4	〃	〃	〃	143	〃	82	II	〃		420	〃
〃	〃	96	E- 6	28	II	〃	〃	9.2	〃	〃	〃	144	N- 9	25	I	〃		610	〃
〃	〃	97	Q- 13	29	I	〃	IIa	14.0	〃	III-42	〃	145	N-14	37	〃	〃		320	Sh?
〃	〃	98	N-18	20	〃	〃	〃	18.4	〃	〃	〃	146	O- 8	5	III	〃		450	And
〃	〃	99	C- 6	16	〃	〃	III-	11.1	〃	〃	〃	147	N-17	51	I	〃		1280	Qua
〃	〃	100	A- 8	10	〃	〃	IIa	6.8	Sh	〃	〃	148	N-18	36	〃	〃		610	〃
〃	〃	101	O- 8	25	II	〃	〃	7.4	〃	〃	〃	149	G- 6	13	〃	〃		510	〃
〃	〃	102	G- 8	5	〃	〃	IV	11.8	Obs	〃	〃	150	P- 8	14	II	〃		590	〃
〃	〃	103	R-11	3	I	〃	〃	19.3	〃	〃	〃	151	J- 6	40	I	くぼみ石		100	And
〃	〃	104	O- 9	46	〃	〃	V	35.2	〃	〃	〃	152	L- 5	17	II	〃		590	〃
〃	〃	105	N-11	26	〃	〃	〃	55.8	〃	〃	〃	153	N-16	47	I	〃		430	〃
〃	〃	106	B- 8	17	II	〃	IIIa	4.6	Sh	〃	〃	154	X-11	20	III	〃		320	〃
〃	〃	107	Q-13	25	I	楔形石器		2.4	Obs	〃	〃	155	D- 7	13	I	〃		650	〃
〃	〃	108	C- 8	25	II	〃		4.2	〃	〃	〃	156	N-12	2	III	砥　石		140	Sa
〃	〃	109	T-12	13	I	〃		3.9	〃	〃	〃	157	P- 8	20	II	〃		140	〃
〃	〃	110	X-12	1	〃	〃		6.0	〃	III—43	〃	158	S-12	28	I	R　礫		40	Mud
〃	〃	111	O-10	7	〃	〃		11.0	〃	〃	〃	159	N-13	57	〃	〃		290	Qua
〃	〃	112	T-12	13	〃	〃		5.0	〃	〃	〃	160	Q-12	16	〃	石　錘		30	And
〃	〃	113	X-11	14	〃	〃		6.7	〃	〃	〃	161	O-11	39	〃	〃		70	〃
〃	〃	114	G- 7	19	III	〃		4.5	〃	〃	〃	162	O-12	13	〃	〃		300	〃
〃	〃	115	W-12	8	III	〃		10.8	Obs	〃	〃	163	P- 9	100	〃	石皿・台石		18100	〃
〃	〃	116	H- 6	5	I	〃		3.7	〃	〃	〃	164	〃	99	〃	〃		15300	〃

表10　住居跡掲載実測土器一覧

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	大きさ(cm)			分類	破片数	文様と特徴					備考
						口径	底径	器高			口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III-51	88	1	FH-2 HP-22	1	覆土	24.0	10.1	28.7	IIB2b	44	切り出し状 縄線文，円形刺突文	多段弧状縄線文	薄い貼付 円形刺突文	上半一結束羽状(>) 下半一結束羽状(<)	揚げ底	
III−55	〃	〃	FH-3	290	〃	24.8	11.2	25.9	〃	38	切り出し状 縄線文			斜縄(＼)		
〃	〃	2	〃	337	〃	29.75	(15.3)	(34.7)	IIB2c	49	切り出し状結束体羽状(<)，半竹押引	絡条体圧痕文	半竹押引	結束羽状		
〃	〃	3	〃	239	〃	20.5	9.5	25.7	IIB	17				斜縄(＼)	揚げ底	
〃	〃	4	〃	140	〃	(24.7)	16.6	(19.8)	〃	26				結束斜縄(／)	揚げ底	
〃	〃	5	〃	175	〃	(11.4)	10.0	(5.5)	〃	10				結束斜縄(＼)	平底	
〃	〃	6	〃	182	〃	(11.2)	8.0	(10.4)	〃	5				結束斜縄(＼)	揚げ底	
III−60	〃	1	〃	89	〃	38.5	16.0	47.0	IIB2c	28	切り出し状，半竹刺突，絡条体圧痕文	絡条体圧痕文 半竹刺突	半竹刺突	結束羽状		
〃	〃	2	FH-4	62	〃	30.0	(19.0)	(21.5)	〃	13	切り出し状 半竹押引	絡条体圧痕文	半竹押引	結束斜縄		
III−79	89	1	FH-12	1689	覆5	16.95	(15.5)	(10.25)	IIB2a	9	丸味をもつ口唇 縄圧痕	多段縄線文	円形刺突文	結束羽状(>)		
〃	〃	2	〃	738	覆土	12.7	(7.6)	(15.4)	〃	16	切り出し状 縄圧痕	縄線文	薄い貼付帯 縄線文	上半一無文 下半一結束羽状(>)		
〃	〃	3	〃	3338	〃	13.0	5.6	16.6	〃	5	丸味をもつ口唇	縄線文	半竹刺突	斜縄(＼)		
〃	〃	4	〃	1270	覆5	34.8	(21.8)	(29.0)	IIB2b	31	間延した切り出し状 縄線文，縄圧痕，半竹刺突	菱目状縄線文	半竹刺突	結束斜縄(／)		
〃	〃	5	〃	1395	〃	25.2	13.0	33.6	〃	21	切り出し状 縄線文	無文地 縄線文	半竹押引	結束羽状	平底	
〃	〃	6	〃	874	覆土	17.7	(15.8)	(5.2)	〃	11	丸味をもつ口唇 斜縄(／)	結束のある縄線文 原体約8cm	貼付帯	斜縄(／)		
〃	90	7	〃	1231	〃	15.2	8.1	17.7	〃	36	切り出し状 斜縄(＼)	結束のある縄線文		不規則な結束羽状	やや揚げ底	
〃	〃	8	〃	F-2576	〃	21.9	(17.8)	(7.6)	〃	6	切り出し状，結節のある縄線文，原体約5cm	肥厚帯直下縄線文		結束羽状(<)		
〃	〃	9	〃	1959	〃	22.4	(11.2)	(26.0)	〃	67	切り出し状 斜縄(＼)，縄線文	無文地 縄線文		上半一結束斜縄(／) 下半一結束羽状(>)		
〃	〃	10	〃	874	〃	22.2	(17.4)	(15.0)	〃	30	間延びした切り出し状 縄線文，縄圧痕文	不規則な縄線文		不規則な結束羽状縄文		ベルト
〃	〃	11	〃	1392	〃	16.2	10.2	22.4	〃	9	切り出し状 縄圧痕，縄線文	肥厚帯直下 縄線文		結束斜縄(／)	平底	
III−80	〃	12	〃	1679	〃	25.0	10.6	27.7	〃	99	切り出し状 縄線文	肥厚帯直下縄線文		間隔のある斜縄(／) 自縄自巻(?)		
〃	91	13	〃	1689	覆5	16.95	(15.5)	(10.25)	〃	9	切り出し状 縄線文			斜縄(＼)		
〃	〃	14	〃	841	覆土	31.5	13.8	40.1	〃	62	切り出し状 ゆるやかな波状	4条縄線文 原体約6cm		上半一結束斜縄(＼) 下半一結束斜縄(／)	揚げ底	
〃	〃	15	〃	1740	覆6	22.0	(11.8)	(25.8)	〃	25	切り出し状，無文地 縄線文	肥厚帯直下無文 ナデ調整		斜縄(＼)		
〃	〃	16	〃	874	覆土	29.2	(22.6)	(14.3)	〃	12	切り出し状 斜縄(＼)	結束のある縄線文 原体約8cm		結束羽状 (>)		
〃	〃	17	〃	739	〃	16.7	(10.9)	(19.5)	〃	17	切り出し状 斜縄(＼)，縄線文	ナデ調整後 縄線文		結束斜縄(＼)		
〃	〃	18	〃	1575	〃	(16.4)	11.3	(20.8)	〃	14		くびれをもつ 縄線文		結束斜縄(＼)	揚げ底	
〃	92	19	〃	1431	覆5	28.0	13.6	38.0	〃	47	切り出し状，斜縄(／) 半竹刺突文	肥厚帯直下 縄線文		結束羽状(<)		
III−81	〃	20	〃	1408	覆5	37.0	16.8	42.6	IIB2c	146	切り出し状 絡条体圧痕文	絡条体圧痕文 原体約5cm	半竹刺突	細かい結節羽状	やや揚げ底ぎみ	
〃	〃	21	〃	1347	覆5	21.2	(11.5)	(33.0)	〃	24	切り出し状 絡条体圧痕文	絡条体圧痕文	半竹もしくは三裁竹2段	結束斜縄(／)		
〃	〃	22	〃	1709	覆土	(19.0)	10.9	(24.7)	〃	15		絡条体圧痕文 原体約5cm		結束斜縄(／)	揚げ底	
〃	〃	23	〃	1469	覆5	(31.2)	(20.8)	(29.5)	〃	20	切り出し状 絡条体圧痕文	絡条体圧痕文		結束斜縄(／)		
〃	〃	24	〃	1714	覆4	16.7	8.0	17.7	IIB	15	切り出し状 斜縄(／)			結束羽状(>) 最下段原体上下変える	揚げ底	
〃	93	25	〃	1397	覆土	14.8	8.0	22.5	〃	14	切り出し状 無節斜縄(＼)			無節斜縄(＼)	揚げ底	
〃	〃	26	〃	1464	覆6	16.0	9.1	19.8	〃	33	切り出し状 斜縄(／)			結束羽状，原体の上下を変える	やや揚げ底	
III−82	〃	27	〃	1486	覆4	15.0	8.6	18.0	〃	33	切り出し状 不規則な斜縄			不規則な結束羽状	平底	
〃	〃	28	〃	2006	覆土	16.0	15.0	24.5	〃	54	切り出し状 斜縄(／)			斜縄(／) 部分的なナデ調整	揚げ底	
〃	〃	29	〃	1709	〃	26.9	(14.5)	(26.4)	〃	96	切り出し状 結束羽状(<)			不規則な結束羽状 原体の上下変える		
〃	〃	30	〃	758	〃	24.6	(14.7)	(25.0)	〃	22	切り出し状，斜縄(＼) 口唇ナデ調整			斜縄(＼)		
〃	94	31	〃	1872	覆6	17.4	(12.5)	(12.8)	IIB2b	4	切り出し状 口唇外面縄圧痕文			羽状縄文		
〃	〃	32	〃	1293	〃	(18.4)	11.2	(19.4)	IIB	29				羽状縄文(<)	平底	
〃	〃	33	〃	1468	覆4	19.3	(15.8)	(9.1)	〃	15	切り出し状 先端三角棒状刺突文	無文地 半竹刺突文		結束斜縄(／)		
〃		34	〃	1737	覆土	(16.1)	8.1	(15.5)	〃	15				結束羽状(>)	平底	
〃		35	〃	1256	覆4	(22.6)	14.3	(20.2)	〃	61				結束斜縄(／)	平底	
〃	〃	36	〃	747	覆土	23.7	(12.8)	(21.5)	〃	18	切り出し状，縄線文，縄圧痕，半竹刺突	「U」字状貼付帯 多段弧状縄線文	薄い貼付帯 半竹刺突文	結束斜縄(／)		
III−101	〃	1	FH-14	35	〃	28.0	(16.5)	(30.5)	IIB2c	5	切り出し状，斜縄(／) 半竹刺突文	絡条体圧痕文 原体約5cm	半竹刺突文	結束斜縄(／)		
III−103	〃	57	FH-14 FH-15	66 285	〃	21.5	11.5	25.5	〃	38	切り出し状 絡条体圧痕文	絡条体圧痕文	〃	結束羽状(>)一部原体上下変える		
III−111	95	1	FH-16	1092	〃	22.0	(13.1)	(25.6)	IIB2b	24	角形 口唇端部複節縄線文	複節縄線文		羽状		大麻V式

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	大きさ(cm) 口径	底径	器高	分類	破片数	文様と特徴 口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	備考
Ⅲ—111	95	2	FH-16	324	覆土	22.3	(11.3)	(23.0)	ⅡB2b	11	切り出し状 斜縄(＼)	馬蹄形縄線文		結束羽状(＞)		
〃	〃	3	〃	923	〃	37.0	(22.7)	(39.0)	ⅡB2c	19	切り出し状，不規則な斜縄，絡条体圧痕文	絡条体圧痕文 原体約4cm	半竹刺突文	結束羽状(＞)		
〃	〃	4	〃	877	〃	20.5	11.2	24.6	〃	17	切り出し状 絡条体圧痕文	鋸歯状 絡条体圧痕文	絡条体圧痕文	結束羽状(＞)	揚げ底	
〃	〃	5	〃	427	〃	25.3	(21.2)	(17.0)	ⅡB	8	切り出し状 斜縄(＼)			結束斜縄(＼)		
〃	〃	6	〃	545	〃	12.5	(7.1)	(13.4)	〃	18	切り出し状 指頭押圧			不規則な斜縄		
〃	96	7	〃	1126	〃	20.5	12.5	28.8	〃	54	切り出し状 斜縄(／)			結束斜縄(／)	揚げ底	
〃	〃	8	〃	E-2803	覆2	13.2	(9.9)	(13.8)	〃	6	尖る			無文地 指頭圧痕		
〃	〃	9	FH-16 FH-38	B-1916 C-821	覆1 覆土	11.95	(9.9)	(9.4)	〃	3	丸味をもつ口唇			櫛歯状工具擦痕		
Ⅲ—112	〃	10	FH-16	459	覆土	(15.8)	(9.5)	(18.7)	〃	21				結束羽状(＜)		
〃	〃	11	〃	1166	〃	(16.2)	9.7	(17.5)	〃	21				結束斜縄(／)	やや揚げ底	
〃	〃	12	FH-22	20	Ⅱb	22.8	(16.1)	(10.0)	ⅢA1	18	切り出し状，貼付紐，撚糸圧痕文，縄馬蹄形圧痕文			斜縄(／)		
Ⅲ—130	〃	1	FH-19	33	覆土	20.2	(10.8)	(14.95)	ⅡB2b	11	切り出し状 斜縄(／)	鋸歯状縄線文	縄線文	不規則な斜縄		
Ⅲ-136	〃	1	FH-21	43	床直	(12.8)	7.6	(15.9)	ⅡB	26				結束羽状(＞)	平底	
Ⅲ—146	〃	1	FH-24	85	覆土	27.5	13.2	30.0	ⅡB2b	29	切り出し状 縄圧痕			結束斜縄(／)	平底	
Ⅲ—150	〃	1	FH-25	7	〃	35.6	18.0	40.5	ⅡB2c	29	切り出し状 縄文	絡条体圧痕文		羽状縄文	揚げ底	
〃	97	2	〃	3	〃	33.3	(19.6)	(30.4)	〃	24	切り出し状 絡条体圧痕文	絡条体圧痕文 半竹刺突文	半竹刺突文	結束羽状		
Ⅲ—155	〃	1	FH-27	18	〃	34.5	14.8	38.2	ⅡB2b	15	切り出し状 下端部半竹刺突	縄線文	半竹刺突	結束斜縄(／)	平底	
Ⅲ—167	〃	1	FH-29	C-728	〃	19.1	(13.4)	(18.8)	〃	11	切り出し状 縄線文	縄線文		斜縄(＼)		
〃	〃	2	〃	677	覆2	28.1	(23.0)	(20.0)	ⅡB	17	切り出し状 斜縄(／)			結束羽状(＜)		
〃	〃	3	〃	C-419	覆土	(16.3)	9.2	(21.0)	〃	20				結束羽状(＜)	平底	
Ⅲ—180	〃	1	FH-33	305	〃	(26.4)	11.7	(39.8)	ⅢB3	79		押引のある貼付帯 結節羽状(＞)		結節羽状(＞)	平底	
〃	〃	2	〃	293	〃	(17.4)	10.0	(17.5)	〃	25				結節羽状(＜)	揚げ底	
Ⅲ—197	〃	1	FH-38	44	〃	20.0	(16.1)	(25.2)	ⅡB2b	10	切り出し状 縄線文	縄線文	半竹刺突			
〃	98	2	FH-38 FH-25	528 352	覆土 Ⅱb	25.5	11.0	34.8	Ⅱb2c	45	切り出し状 絡条体圧痕文	絡条体圧痕文(原体4cm)，半竹刺突文	半竹刺突文	結束斜縄(／)	揚げ底	
Ⅲ—303	〃	1	FH-36	C-433	覆土	20.6	(17.1)	(15.3)	ⅢB3	9	切り出し状，合撚縄文(／)，半竹押引	円形刺突文 合撚縄文(／)		合撚縄文		

表11　住居跡掲載拓本一覧

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	分類	文様と特徴 口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	備考
Ⅲ- 47		1	FH- 1 HSP- 1	1	覆土	IA				貝殻文 条痕文		
〃		2	〃 FSP-15	1	〃	ⅡA1				不規則な斜縄(／)		胎土に繊維混入
〃		3	〃 FSP-32	4	〃	ⅡB1		綾絡文状縄文		〃		繊維を含む
〃		4	〃 HP- 9	9	〃	ⅡB2a	丸形 調整丁寧	幅広，2本一組の縄線と区画された斜行縄文				〃（円筒下層C式?）
〃		5	〃 HP- 8	4	〃	〃	丸形	太い縄線文(?)				〃 摩滅が著しい
〃		6	〃 HP- 1	6	〃	〃		撚糸文(?)				〃
〃		7	〃 HP- 8	4	〃	〃				単軸絡条体回転文		胎土，繊維が少なく，小礫の混入が著しい
〃		8	〃 HP- 7	16	〃	〃				多軸絡条体回転文		少量の繊維混入
〃		9	〃 FSP-32	4	〃	〃				〃		〃
〃		10	〃 HP-13	1	〃	ⅡB				結束羽状縄文		〃 砂粒混入が多い
〃		11	〃 〃	1	〃	〃				斜行縄文(?)		〃
〃		12	〃 HP- 9	5	〃	〃				結束羽状縄文		〃 丁寧な内面調整光滑がある
〃		13	〃 HP- 4	9	〃	ⅡB1					底面にも不規則な縄文	多量の繊維混入
Ⅲ- 51		2	FH- 2	114	〃	〃	やや丸味がある 表裏施文	幅狭い 不規則な綾絡文		節の大きな斜縄(／)		砂粒が多く，繊維少ない 粗雑な器面調整
〃		3	〃	63	〃	〃	角型	上端，沈線による区画(?)，不規則な綾絡文	沈線文(?)			〃
〃		4	FH- 2 HP-32	1	〃	〃		撚り戻しの不規則な綾絡文		斜行縄文(／)		〃 内面，多量の炭化物付着
〃		5	〃 〃	141	〃	ⅡB2a		縄線文(?)	薄い粘土貼付 強いくびれ	多軸絡条体回転文		砂粒，繊維多く，脆弱 外面に多量の炭化物付着
〃		6	FH- 2	251	〃	〃				〃		〃 外面に炭化物付着
〃		7	〃	36	〃	ⅡB2b	切り出し状(丸味?)，半截竹管による刺突文	曲線的な縄線文	縄線文(?)			〃 内面少量の炭化物
〃		8	〃	62	〃	〃	切り出し状 2条の縄線文	横走する縄線文				砂粒，繊維多く，脆弱
〃		9	〃	22	〃	〃	〃	〃				〃

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III-51		10	FH-2	134	覆土	IIB2b	1条の縄線文					砂粒，繊維多く，脆弱
〃		11	FH-2 HP-31	3	〃	IIB3	切り出し状 縄文(?)	くびれが強い 絡条体と半竹刺突文	半竹刺突文	結束羽状		粗雑な器面調整 胎土に繊維，砂粒に混入
〃		12	〃 HP-51	2	〃	〃	切り出し状 絡条体・半竹刺突文	絡条体圧痕文				〃 脆弱
〃		13	FH-2	246	〃	IIB2b	切り出し状，縄文・ 突起部，縦縄線文			斜縄文(／)		〃 〃
〃		14	〃	23	〃	IIB			半竹押引文	結束斜縄(?／)		〃 〃
〃		15	FH-2 HP-32	1	〃	〃				〃 (〃)		〃 〃
〃		16	FH-2 HP-5	1	〃	〃				粗い斜縄(／)		〃 〃
〃		17	FH-2	B-226	〃	〃	丸味，斜縄(／) 粗雑な調整					胎土，小礫を含む IIB1の可能性あり
〃		18	FH-2 HP-12	1	〃	〃				結束羽状		内面調整比較的丁寧，胎土 に少量の繊維・小礫を含む
〃		19	FH-2	181	〃	〃				斜行縄文(＼)		〃
III-55		7	FH-3	200	〃	IIB2a	切り出し状 縄線文・半竹刺突文	幅広，くびれをもつ 10条の縄線文	半竹刺突文	斜縄(／)?		繊維・小礫を含む。脆弱 比較的丁寧な内面調整
〃		8	〃	E-55	〃	〃	切り出し状 2～3条の縄線文	肥厚帯直下に縄線文				〃
〃		9	〃	B-512	〃	〃		弧状の縄線文	円形刺突文	結束羽状		〃
〃		10	〃	84	〃	IIB2c	切り出し状，突起 縦位の絡条体圧痕文	原体3cm程度 3条の絡条体圧痕文	半竹の押引文			〃
〃		11	〃	236	〃	〃	〃	絡条体圧痕文，補修孔				〃 表裏炭化物付着(少量)
〃		12	〃	F-645	〃	〃	切り出し状，結束羽状 下端半竹刺突，竟押引文	絡条体の押圧 篦状工具の押引文				〃 表面炭化物付着(少量)
〃		13	〃	86	〃	〃	切り出し状，縄文 (?)，半竹押引文	絡条体・半竹刺突文				〃
〃		14	〃	E-584	〃	〃		絡条体圧痕文	半竹押引文			〃 内外炭化物多量に付着
〃		15	〃	B-457	〃	IIB	切り出し状，斜縄， 上下端半竹押引文			結束羽状		〃 外面少量の炭化物付着
〃		16	〃	E-558	〃	〃	〃 斜行(／)			〃		〃 〃
〃		17	〃	390 385	〃	〃	〃 斜行縄文			結束斜行縄文		〃 外面炭化物付着
III-60		3	FH-4	A-166	〃	IIB2a (?)	切り出し状 斜行縄線文(＼)	斜行縄線文(＼)	縄線文			少量の繊維・砂粒を含み， 脆弱。外面炭化物付着
〃		4	〃	97	〃	IIB2b	〃 下端半竹押引文	羽状の縄線文	半竹押引文	斜行縄文(／)		〃
〃		5	〃	B-210	〃	〃	切り出し状，突起から 垂下する押引，下端半 竹押引文，2条縄線文	縄線文				砂粒多く，脆弱 繊維少量
〃		6	〃	28	〃	〃	切り出し状 2条の不規則な縄線文			結束羽状		〃 外面炭化物付着
〃		7	〃	8	〃	〃	〃 下端半竹押引文	縄線文				〃 外面多量の炭化物付着
〃		8	〃	43 P-286	〃	IIB2c	〃 縦位絡条体圧痕文	絡条体圧痕文・円形刺 突文	半竹押引文	結束羽状		〃 外面少量の炭化物付着
〃		9	〃	3	〃	〃	斜縄文(／)，突起部 分絡条体圧痕文	3条の絡条体圧痕文		斜縄文(／)		繊維，小礫を含む 内面調整丁寧光沢あり
〃		10	〃	132	〃	〃		絡条体圧痕文・補修孔	斜位円形刺突文	結束羽状		〃
〃		11	〃	137	〃	〃		〃	斜行半竹刺突文	〃		繊維を含む。小礫少ない 外面炭化物付着(少量)
〃		12	〃	A-166	〃	IIB	切り出し状，2条の 左方向からの刺突文					繊維少量，砂粒が多い 脆弱
〃		13	〃	124.36 123 D-279	〃	〃	直角に外反 上部縄文			斜行縄文(＼)		〃 〃
〃		14	〃	98	〃	〃	切り出し状 斜行縄文			結束斜行(／)		〃
〃		15	〃	21	〃	〃				結束羽状(?)		摩滅が著しく，体部不明， 内面，底面に炭化物付着
〃		16	〃	D-300 D-306	〃	〃			斜行縄文(?)	揚底ぎみ		胎土小礫，繊維を含む 内面黒色
III-65		1	FH-5	10	〃	IIB2a	切り出し状 斜縄文	斜位単軸絡条体回転文				外面炭化物付着 繊維，砂粒多い。脆弱
〃		2	〃	C-59	〃	IIB2b	半竹刺突文	縄線文				繊維，砂粒多く，脆弱
〃		3	〃	C-59	〃	〃	斜行縄文	〃				〃
〃		4	〃	1	〃	IIB				結束羽状		
〃		15	FH-7	4	〃	IIB2a				単軸絡条体回転 文	大きく，外 傾する	少量の繊維を含む 砂粒が多い
III-67		1	FH-8	D-93	〃	IIA2	尖がる口唇 円孔刺突文			斜行縄文(＼)		繊維を多量に含む。外面に 炭化物付着，トビ／式?
〃		2	〃	27	〃	IIB1	裏面縄文	不規則な 綾絡文・半竹刺突文		〃 (／)		
〃		3	〃	21	〃	IIB2a		撚糸文				内面調整が丁寧，光沢あり 砂粒，繊維多く，脆弱
〃		4	〃	60	〃	IIB				結束羽状		薄手，内面調整丁寧
〃		5	〃	24	〃	〃				斜行縄文(／)		内面調整が丁寧，光沢あり 砂粒，繊維多く，脆弱
III-70		1	FH-9	D-80	〃	IIB2a		縄線文				繊維を含む
〃		2	〃	〃	〃	〃		〃				〃
〃		3	〃	86	〃	〃		〃				〃

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III-70		4	FH-9	1	覆土	IIB2b		縄線文	半竹刺突文2段	不明		繊維を含む
〃		5	〃 HP-21	6	〃	IIB	切り出し状 斜行縄文(＼)			斜縄(／)		〃 砂粒が多い
〃		6	FH-9	D-8	〃	IIIB1				貼付帯，沈線文(3本一組)		天神山式，砂粒が多い
〃		20	HP-7 FH-10	4	〃	IIB1	丸型	無文地，幅広6条の縄線文		斜行縄文		円筒下層b式？
III-72		1	FH-11	22	〃	IIB2a		くびれ強い縄線文菱目文		多軸絡条体回転文		少量の繊維 砂粒多い，脆弱
〃		2	〃	39	〃	IIB2b	切り出し状 上下端半竹刺突文	縄線文・半竹刺突文				砂粒多い，脆弱
〃		3	〃	16	〃	〃	切り出し状 縄線文			結束羽状		繊維 砂粒 } 多く，脆弱 外面炭化物付着
〃		4	〃	39	〃	〃	〃					〃 脆弱
〃		5	〃	39	〃	IIB2c		絡条体圧痕文	半竹刺突文			繊維，砂粒少量
〃		6	〃	56	〃	IIB				内面調整丁寧 結束羽状		小礫が混入 繊維，砂粒少ない
〃		7	〃	39	〃	〃					揚げ底ぎみ	繊維多い 内面調整丁寧
III-83	123	37	FH-12	200 530	〃	IIB1	調整粗雑	表裏に絞絡文状	貼付帯，指頭による押圧	斜行撚り戻し縄文		繊維，砂粒が多い
〃	〃	38	〃	3284	〃	〃	口唇端部縄文	絞絡文状，裏面斜縄(／)	〃	斜縄(／)		〃
〃	〃	39	〃	1885	〃	〃	口唇端部縄圧痕	表裏不規則な撚り戻し縄文(＼)	〃	斜撚り戻し縄文		繊維，砂粒が多く，調整比較的丁寧
〃	〃	40	〃	D-2237	〃	〃		撚糸文	〃	単軸絡条体回転文		〃
〃	〃	41	〃	3224	〃	〃		撚り戻し斜縄	沈線と区画された貼付帯，指頭圧痕	撚り戻し縄文		繊維，小礫，砂粒多い
〃	〃	42	〃	538	〃	〃	丸味をもつ不規則	絞絡文状，裏面にわずかに縄文あり(／)		斜縄(／)		〃
〃	〃	43	〃	1663	〃	〃	斜位に調整 口唇部無文	〃		〃(／)		〃 (No49と同一個体？)
〃	〃	44	〃	1799	〃	〃	角型 口唇部に撚糸文	〃				〃
〃	〃	45	〃	2679	〃	〃	丸味をもつ	裏面斜縄(／) 縄線文	貼付帯をもたず指頭圧痕のみ	斜縄(／)		〃
〃	〃	46	〃	1325	床面	〃	〃	絞絡文状		〃(／)		〃
〃	〃	47	〃	1619	覆土	〃	〃	幅が狭い不規則な絞絡文，裏面斜縄(／)		(L)の縦位施文		〃
〃	〃	48	〃	82	〃	〃	強く外反する口縁文 端部，口唇に斜縄文	絞絡文が1条施される		斜縄(／)		〃
〃	〃	49	〃	1848 1682	覆土 覆4	〃	丸味をもつ	絞絡文状		〃(／)		〃 (No43と同一個体？)
〃	〃	50	〃	1835	覆土	〃	〃	〃		不規則な縄文		〃
〃	〃	51	〃	E-2422	〃	〃	〃	斜縄(／)	縄線文			〃 比較的調整丁寧
〃	〃	52	〃	1767	〃	〃	〃	縄線文		不規則な縄文		〃
〃	〃	53	〃	3306	床面	〃		絞絡文状		斜縄(／)		〃
〃	〃	54	〃	770 896	覆土	〃	切り出し状，口唇に縄線圧痕文	縄線文		不規則な羽状，内面にわずかに集疎文		器面調整丁寧，小礫を含まず多量の繊維を含む。大麻V式
III-84	〃	55	〃	1802	覆6	〃	内側に向って斜状 口唇に斜状に縄圧痕文	〃		菱目状撚糸文		砂粒多く，繊維少ない
〃	〃	56	FH-12 HP-14	1	覆土	〃	丸味をもつ	絞絡文状		〃		小礫，砂粒，繊維多い
〃	〃	57	FH-12	1255	〃	IIB1	丸味をもつ 口唇に縄文	絞絡文状		不規則な撚糸文		小礫，砂粒，繊維多い (No61と同一個体？)
〃	〃	58	〃	1355	覆6	〃	丸味をもつ	斜位の撚糸文	縄線文(？)			〃 内面調整丁寧
〃	〃	59	〃	95	覆土	〃		鋸歯状の縄線文	縄線文	不規則な撚糸文		小礫，砂粒を多量に含む
〃	〃	60	〃	507	〃	〃				菱目状撚糸文		〃
〃	〃	61	〃	2458 2484	〃	〃				菱目状撚糸文		(No57と同一個体？) 小礫，砂粒，繊維が多い
〃	〃	62	〃	1696	〃	〃				不規則な撚糸文		〃
〃	〃	63	〃	1332	〃	〃				菱目状撚糸文		〃
〃	〃	64	〃	1378	覆4	〃				〃		〃
〃	124	65	〃	1719	〃	〃				不規則な撚糸文		器面調整粗雑 砂粒，小礫が多い
〃	〃	66	〃	1157	覆土	〃				〃		小礫，砂粒，繊維が多い
〃	〃	67	〃	707	〃	IIB2a				撚糸文		〃 内面調整丁寧
〃	〃	68	〃	1755	〃	〃				撚り戻しの撚糸文		〃 粗雑な器面調整
〃	〃	69	〃	974	〃	〃				撚糸文		〃 〃
〃	〃	70	〃	192	床面	〃				斜位撚糸文		〃 器面調整丁寧
〃	〃	71	〃	1004	覆土	〃						砂粒，小礫が多い。IIB1(？)
〃	〃	72	〃	E-2985	床面	〃				撚糸文		小礫，砂粒少ない 器面調整丁寧
〃	〃	73	〃	132	覆土	〃				組紐状撚糸文		〃 〃

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III-84	124	74	FH-12	H-2694 G-2981	覆土	IIB2a	切り出し状 縄線文，半竹刺突文			多軸絡状体回転文		小礫，砂粒少ない 器面調整丁寧
〃	〃	75	〃	251 3216	〃	〃		くびれが強い 縄線文	薄い粘土貼付	〃		〃 〃
〃	〃	76	〃	92	〃	〃		〃 〃	貼付帯 縄圧痕文	〃		〃 〃
〃	〃	77	〃	899	〃	〃				〃		小礫，砂粒小ない 器面調整丁寧 補修孔あり
〃		78	〃	1477	覆6	〃				〃		〃 〃
〃	〃	79	FH-12 HP-14	19	覆土	〃				〃		〃 〃 〃
〃	〃	80	FH-12	754	〃	IIB1	角型 斜縄(／)	表面縄文		羽状縄文(＜)		器面調整粗雑 砂粒，小礫が多い
〃	〃	81	〃	619	〃	〃	〃 縄線圧痕			羽状縄文		砂粒，小礫，繊維が混入 補修孔あり
〃	〃	82	〃	1441	覆4	〃	丸味をもつ	表裏撚糸文(／) (2本一組?)		撚糸文(2本一組)，斜行(／)		〃
〃	〃	83	〃	1062	覆土	〃	〃	口縁部に縄線文		撚り戻し斜縄(＼)		砂粒，小礫，繊維が混入 内面調整が丁寧
〃	〃	84	〃	1400	覆6	〃	〃 口縁部が強く外反			〃		〃 〃
〃	〃	85	〃	795	覆土	〃	〃 〃					砂粒，小礫，繊維が混入
〃	〃	86	〃	156	〃	〃	〃 〃					〃 補修孔あり
III-85	〃	87	〃	904	覆4	IIB2b	切り出し状 縄線，半竹刺突文	頸部幅広 曲線縄線文	半竹刺突文	斜縄(／)		砂粒，小礫，繊維多く，内面調整丁寧
〃	〃	88	FH-12 HP-9〜 HP-13〜	1129 3 5	覆土	〃	〃	くびれが強い 曲線縄線文	〃	結束羽状(＞)		〃
〃	〃	89	FH-12	未注記	〃	〃	口唇縄圧痕文	入れ子鋸歯状縄圧痕文				〃
〃	〃	90	〃	1623	〃	〃	〃	2段の入れ子鋸歯状縄圧痕文				〃
〃	〃	91	〃	D-3355	〃	〃	〃	縄線文	半竹刺突文	斜縄(／)		〃
〃	〃	92	〃	742	〃	〃	切り出し状 口唇縄圧痕文	〃	貼付帯，縄線圧痕文，下部ナデ	〃 (／)		〃
〃	〃	93	〃	1959	〃	〃	〃 〃	〃				〃
〃	〃	94	〃	1556	〃	〃	切り出し状，2本一組の縄圧痕文・口唇縄圧痕文	2本一組の縄圧痕文		結束斜行縄文(／)		〃
〃	125	95	〃	786	〃	〃	切り出し状 縄線文	縄線文		不規則な羽状縄文		〃
〃	〃	96	〃	920	〃	〃	薄い切り出し状 縄線文	〃		〃		〃
〃	〃	97	〃	763 1641 814	〃	〃	切り出し状 縄線文	縄線文		斜縄(＼)		砂粒，小礫，繊維多く，内面調整丁寧
〃	〃	98	〃	809	〃	〃	〃 〃			複節斜縄(／)		〃
〃	〃	99	FH-12 HP-19	4	〃	〃	〃 〃	縄線文		結束羽状(＜)		〃
〃	〃	100	FH-12	3255	〃	〃	丸味をもつ 縄線による刻目文	2本一組の縄線文		斜縄(＼)		〃
〃	〃	101	〃	695	〃	〃	切り出し状 縄線圧痕文	縄線文		結束斜縄		内面調整丁寧 砂粒，小礫，繊維を含む
〃	〃	102	〃	1277	覆4	〃	〃 〃	撚り戻し撚糸文 縄線文		〃 (＼)		〃 〃
〃	〃	103	〃		覆土	〃	〃 〃	縄線文		〃 (＼)		〃 〃
〃	〃	104	〃	1745	覆4	〃	〃 〃	〃		斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	105	〃	625	覆土	〃	縄線文，下端半竹刺突文	〃		結束羽状(＜)		〃 〃
〃	〃	106	FH-12 HP-14	18	〃	〃	〃 〃 〃			斜縄(／)		〃 〃
III-86	〃	107	FH-12	700	〃	〃	切り出し状 縄線文			結束斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	108	〃	496	〃	〃	切り出し状，縄線文，突起部下方からの刺突文			結束羽状(＜)		〃 〃
〃	〃	109	〃	3242 128	〃	〃	切り出し状 縄線文，半竹刺突文			〃 (＜)		〃 〃
〃	〃	110	〃	1039	〃	〃	切り出し状 縄線文，縄圧痕文			〃 (＜)		〃 〃
〃	〃	111	〃	1538	〃	〃	〃 斜縄(＼)	縄線文		結束斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	112	〃	926	〃	〃	切り出し状 〃 (＼)	〃		〃 (＼)		〃 〃
〃	〃	113	〃	102	〃	〃	〃 〃 (＼)	〃		結束羽状(＜)		〃 〃
〃	〃	114	〃	2152	〃	〃	〃 〃 (／)	〃		結束斜縄(／)?		〃 〃
〃	〃	115	〃	80	〃	〃	切り出し状，斜縄(／)，半竹押引文	〃		〃 (／)		〃 〃
〃	〃	116	〃	738	〃	IIB2c	切り出し状 絡条体，半竹刺突文	絡条体 半竹刺突文		〃 (／)		〃 〃
〃	〃	117	〃	1803	覆6	〃	切り出し状 斜縄(＼)	鋸歯状絡条体圧痕文	縄線文	斜行縄文(＼)		内面調整丁寧 砂粒，小礫，繊維を含む
〃	〃	118	〃	1964	覆土	〃	〃 斜縄(／)，半竹押引文	絡条体圧痕文	半竹刺突文	結束斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	119	〃	667 737	〃	IIB	〃 斜縄(／)	半竹刺突文		〃 (／)		〃 〃
〃	〃	120	〃	502 541	〃	〃	〃 斜縄(＼)，半竹刺突文	斜縄(／) 半竹押引文		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	121	〃	1033	〃	〃	〃 半竹押引文			結束羽状(＜)		〃 小礫，砂粒，繊維が多い

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III-86	125	122	FH-12		覆土	IIB	切り出し状 斜縄(＼), 半竹刺突文			結束羽状(>)		〃 小礫, 砂粒, 繊維が多い
〃	126	123	〃	1267	覆5	〃	丸味をもつ 半竹押引文			〃 (>) 半竹刺突文		〃 〃
〃	〃	124	〃	1393	〃	〃	切り出し状 半竹刺突文			結束羽状(<)		〃 〃
〃	〃	125	〃	1973	覆土	〃	切り出し状, 斜縄(＼) 円形刺突文			〃 (>)		〃 〃
〃	〃	126	〃	217	〃	〃	〃 〃 (＼) 半竹刺突文			斜縄(＼)		〃 〃
III-87	〃	127	〃	783	〃	〃	切り出し状 〃			結束羽状 (原体上下を変る)		〃 〃
〃	〃	128	〃	1777	覆5	〃	切り出し状, 斜縄(／) 半竹刺突文			結束羽状(<)		〃 〃
〃	〃	129	〃	2368 2409	覆土	〃	切り出し状 半竹刺突文			斜縄(＼)?		〃 〃
〃	〃	130	〃	1465	覆6	〃	〃 無文, 半竹刺突文			結束羽状(<)		〃 〃
〃	〃	131	〃	1941	覆土	〃	〃 半竹押引文			半竹押引		〃 〃 脆弱
〃	〃	132	〃	2337	〃	〃				〃		〃 〃 〃
〃	〃	133	〃	810	〃	〃				横走条痕文		〃 〃 〃
〃	〃	134	〃	201	〃	〃				横走撚糸文?		〃 〃 〃
〃	〃	135	〃	3208 791	〃	〃	切り出し状 斜縄(／)			斜縄(／)		〃 〃 〃
〃	〃	136	〃	1291	覆5	〃	〃 無文地	縄線文(?)		斜縄(／) 無節(＼)		〃 〃
〃	〃	137	〃	1286	覆6	IIB	切り出し状 無文地			結束斜縄(／)		内面四整丁寧 小礫, 砂粒, 繊維が多い
〃	〃	138	〃	1656	覆土	IIB2b	切り出し状, 口唇縄 圧痕, 斜縄(＼)	縄線文 結束羽状(>)	貼付帯(タガ状) 縄線圧痕文	結束羽状		〃 〃
〃	〃	139	〃	822	〃	〃			〃	〃		〃 〃
〃	〃	140	〃	3092	〃	IIB2a				棒状工具による 刺突文		〃 〃シコブノツナイ式
〃	〃	141	〃	240	〃	〃				回転押型文 縦位連続山形文		押型文土器
〃	〃	142	〃	3310	床面	〃				〃 〃		〃
〃	〃	143	〃	1890	覆土	IIB1				斜縄(／)	やや揚げ底 裏面縄文	砂粒, 繊維多い
〃	〃	144	〃	1751	覆6	IIB				結束斜縄(／)	やや揚げ底	〃
〃	〃	145	〃	118	床面	IIB2a				多軸絡条体回転 文		〃 脆弱
〃	〃	146	〃	1279	覆5	IIB				結束羽状(<)	やや揚げ底 ぎみ	〃
〃	〃	147	〃	1454	覆6	〃				斜縄(／)		〃 脆弱
〃	〃	148	〃		覆土	〃				結束羽状(<)	やや揚げ底 ぎみ	〃 〃
〃	〃	149	〃	1166 684 1488	覆4	〃				結束斜縄(／)	〃	
〃	〃	150	〃	1713	覆土	〃				不規則な斜縄 (＼)	〃	砂粒, 繊維多い
〃	〃	151	〃	1028	覆土 上	IIIB3	切り出し状 半竹押引文	肥厚帯直下 円形刺突文		斜縄(／)		砂粒, 小礫多い。脆弱
〃	〃	152	〃	1027	覆土	IVA?				渦巻 磨消文		器面四整丁寧である。 十腰内式
III-101		22	FH-14	103	〃	IIIB3	薄い切り出し状 斜縄文			羽状縄文		小礫, 砂粒多く, 繊維を含まない。内面四整は粗雑である
〃		2	〃	285	〃	IB4	裏裏絡条体圧痕文					薄手 内面黒色
〃		3	〃	B-195	〃	IIB1	角型 縄文	格子目縄線文 刺突文充填				円筒下層b～c式(?)
〃		4	〃	C-246	〃	IIB2b	切り出し状 縄線圧痕文			羽状(?)		内面四整丁寧 繊維少なく, 砂粒多い
〃		5	HP-27	1	〃	〃		縄線文	半竹押引文	結束斜行縄文		〃 〃
〃		6	FH-14	90	〃	IIB2c	切り出し状 縦位絡状体圧痕文	無文地 鋸歯状絡条体圧痕文	絡条体圧痕文(?)	斜行縄文(?)		〃 〃
〃		7	〃	C-235	〃	〃	〃 〃	鋸歯状絡条体圧痕文(?)				〃 〃
〃		8	〃	112	〃	〃	〃 鋸歯状絡状体圧痕文	半竹刺突 絡条体圧痕文				〃 〃
〃		9	〃	C-213	〃	〃	〃 斜行縄文(／)	斜位絡状体圧痕文				内外とも炭化物付着 内面四整は丁寧
〃		10	〃	82	〃	〃		鋸歯状絡条体圧痕文	半竹押引文	斜縄		
〃		11	〃	40	〃	〃		絡条体圧痕文	円形刺突文	結束斜行縄文?		内外とも炭化物付着 繊維少なく, 砂粒多い
〃		12	〃	298	〃	IIB	切り出し状 縄文(?)	円形刺突文		斜行縄文?		繊維, 砂粒多く, 脆弱
〃		13	〃	C-213	〃	〃	丸味 強く外反					堆積資料 FH-4-13 繊維, 砂粒多く, 脆弱, 内面多量の炭化物付着
〃		14	〃	C-246	〃	〃	切り出し状 斜行縄文(／)			肥厚帯直下ナデ 斜行縄文(?)		繊維, 砂粒多く脆弱
〃		15	〃	100	〃	〃				結束羽状(<)		内面四整丁寧, 炭化物少量付着。小礫, 繊維少量含む
〃		16	〃	116	〃	〃				〃 (<)		少量の繊維を含む
〃		17	〃	50	〃	〃				〃 (<)	やや揚げ底	砂粒, 繊維を含む

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III-101		18	FH-14	115	覆土	IIB				斜行(?)	揚げ底	内外面炭化物付着 砂粒，繊維を含む
〃		19	〃	103 104	〃	〃				結束羽状		多量の小礫を含む
〃		20	〃	C-243	〃	〃				結束斜行縄文		内面調整丁寧 多量の砂粒を含む。脆弱
〃		21	〃	B-189	〃	IIIA2	切り出し状，半竹刺突文，貼付(細目)	半竹刺突，撚糸文圧痕文，細い貼付帯				砂粒が多い。炭化物付着
III-103		58	FH-15	66	〃	IIB2b	切り出し状	肥厚帯直下縄線文の押捺				少量の繊維，砂粒を含む
III-112	127	13	FH-16	D-2398	IIb	IIB1	角型 ナデ後縄線文	縄線文		不規則な羽状		大麻V式 礫粒，繊維多い
〃	〃	14	〃	3711	〃	〃	角型，斜縄(／) 縄線文	不規則な羽状 縄線文		〃		円筒下層b式相当？ 〃
〃	〃	15	〃	1074	覆土	〃	角型 斜縄文(／)	綾絡文状 裏面縄文(／)		斜縄(／)		礫粒，繊維多い，脆弱
〃	〃	16	〃	163	〃	〃	丸味をもつ 斜縄	〃 〃 (／)		〃 (／)		円筒下層b式相当 砂粒，繊維多い
〃	〃	17	〃	C-1471	覆1	〃(?)	丸味をもつ	貼付，橋状把手 上下を穿孔する				礫粒，繊維多い，脆弱
〃	〃	18	〃	D-2295	IIb	〃(?)				付加条縄文(／)		〃 〃
〃	〃	19	〃	D-2297	〃	IIB2a				撚糸文		〃 〃
〃	〃	20	〃	3704	覆2	〃				〃		砂粒，繊維多く，脆弱
〃	〃	21	〃	D-2507	〃	〃		菱目状文 縄線文	縄圧痕文	多軸絡条体回転		内面調整丁寧 砂粒，小礫が多い
〃	〃	22	HP- 1	21	覆土	〃				撚糸文		〃 脆弱
〃	〃	23	FH-16	167	〃	IIB2b	切り出し状 縄線文，半竹押引文	斜行縄線圧痕文	薄い貼付帯 半竹刺突文			〃 〃
〃	〃	24	〃	488	〃	〃	〃 〃 〃	曲線状，縄線圧痕文	円形刺突文	斜縄(＼)		〃
〃	〃	25	〃	D-2398	IIb	〃	〃 縄線文	鋸歯状縄線圧痕文	半竹押引文			〃
〃	〃	26	〃	920	覆土	〃	〃 〃	縄線文		結束斜縄(／)		〃
〃	〃	27	〃	865	〃	〃	切り出し状	無文地，縄線文		斜縄(＼)		〃 脆弱
〃	〃	28	〃	1111	〃	〃	〃 縄線文	縄線文				〃
〃	〃	29	〃	G-3753 3744	覆3	〃	切り出し状，突起部縄線文，斜縄(＼)			結束羽状(>)		〃 脆弱
III-113	〃	30	HP- 1	21	覆土	IIB2c	切り出し状，無文地 鋸歯状絡条体圧痕文	絡状体圧痕文 半竹刺突文				〃
〃	〃	31	FH-16	G-3434	覆2	〃	〃 〃 絡条体圧痕文	鋸歯状絡条体圧痕文？				〃 脆弱
〃	〃	32	HP- 1	1	覆土	〃	切り出し状 斜縄文(／)	絡条体圧痕文	半竹刺突文	斜縄(／)(?)		〃 脆弱
〃	〃	33	FH-16	402	〃	〃	切り出し状，突起，縄圧痕，斜縄(／)，半竹押引文	半竹押引文 絡条体圧痕文				砂粒，小礫が多い
〃	〃	34	〃	467	〃	〃	切り出し状 斜縄文(／)	絡条体，圧痕文	半竹押引文	斜縄(／)		〃 脆弱
〃	〃	35	〃	F-3049— 247—	覆2 覆土	〃	切り出し状，斜縄(＼) 下端半竹押引文	〃	〃	結束羽状(<)		〃
〃	〃	36	〃	D-2610	覆2	〃	切り出し状 斜縄(／)	〃	〃	結束斜縄(／)		〃
〃	〃	37	〃	1009 1195	覆土	〃	絡条体圧痕文，半竹押引文	〃		〃 (＼)		〃 脆弱
〃	〃	38	G-23 FH-16	37 270	〃	〃	丸味をもつ 縄圧痕文	強いくびれ。絡条体圧痕文，円形刺突文		不規則な斜縄(／)		〃 〃
〃	128	39	FH-16	2616	覆2	〃	切り出し状 斜縄(／)	無文地 鋸歯状絡条体圧痕文	円形刺突文	縄文		〃 〃
〃	〃	40	〃	935	覆土	〃	〃 半竹押引文	絡条体圧痕文	半竹押引文	結束斜縄(／)		〃
〃	〃	41	〃	367	〃	〃	〃 縄線文，半竹刺突文	絡条体圧痕文 縄線文				繊維，砂粒多い。 脆弱
〃	〃	42	〃	246	〃	〃	〃 斜縄(＼)	〃 〃	縄線文	結束斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	43	〃	785	〃	〃		〃 半竹押引文	円形刺突文	斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	44	〃	C-2338	覆1	〃		絡条体圧痕文	篦状工具押引文	〃 (＼)		砂粒多く，脆弱。厚手
〃	〃	45	HP-20	1	覆土	〃	切り出し状 縄線文，刺突文	〃		結束斜縄(／)		繊維，砂粒多い
〃	〃	46	FH-16	D-2524 1081	〃	〃		〃		結束斜縄(／) 絡条体圧痕文		〃 内面赤色顔料付着？
III-114	〃	47	〃	168	〃	IIB	切り出し状 斜縄(／)	鋸歯状半竹押引文	半竹押引文(2列)	結束斜縄(／)		砂粒，繊維多い
〃	〃	48	-	G-3744— 966 969>	覆2 覆土	〃	〃 〃 (／)	〃 〃 (2列)	〃	〃 (／)		〃
〃	〃	49	〃	238	覆土	〃	切り出し状，斜縄(／) 半竹押引文	半竹押引文，半竹内面押引文		斜縄(／)		〃
〃	〃	50	HP- 1	21	〃	〃	〃 半竹刺突文	半竹刺突文				〃
〃	〃	51	FH-16	D-2295	IIb	〃	切り出し状，斜縄(／) 突起部縄線文			結束羽状(>)		〃
〃	〃	52	〃	1065	覆土	〃	口縁部強く外反 丸味をもつ	裏面斜縄(／)		結束斜行(／)		〃 脆弱
〃	〃	53	〃	3696	覆3	IIIA1 (?)	丸味をもつ	縄線文，裏面斜縄(／) 瓜篇形の貼付帯				砂粒，繊維多い。 脆弱 IIB1の可能性あり
〃	〃	54	〃	927	覆土	〃		太い貼付帯(縄圧痕あり)		斜縄(／)		砂粒，繊維多い。 脆弱
〃	〃	55	〃	998，950 921，1197	〃	IIB				不規則な結束羽状		〃 〃

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III-114	128	56	FH-16	E-2790	覆2	IIB				結束斜行縄文		砂粒，繊維多い
〃	〃	57	〃	1054	覆土	〃				斜縄文(／)		〃
〃	〃	58	〃	3711	IIb	IIIB3	角型 縄文(／)	斜縄(／)，施文後ナデ 円形刺突文，裏面縄文 (／)				小礫が多い
〃	〃	59	〃	D-2389	〃	〃	切り出し状，幅狭の 篦状押引文	肥厚帯直下，棒状工具 による刺突文		斜縄(／)		〃
〃	〃	60	〃	D-1605	〃	〃	〃 篦状工具押引文	〃 円形刺突文・裏面に結 節斜行(＼)		結節斜行(＼)		〃
III-127		1	FH-17	4	床面	IIB				結束斜行		少量の繊維，砂粒が多く脆弱
〃		2	〃	16	〃	〃				斜行(＼)？		〃
〃		7	〃	A-79	覆土	IIB2a				多軸絡条体回転文		少量の繊維，砂粒を含む
〃		8	〃	C-91	〃	IIB	切り出し状 斜縄(＼)			結束羽状(>)		〃
〃		9	〃	44	〃	IIB				〃		少量の繊維，砂粒多く脆弱
〃		10	FH-18	146	〃	IIIB3				斜行縄文 半竹押引文		繊維なく，砂粒多い。脆弱
III-130		2	FH-19	D-561	覆土 (IIb)	IIB1	丸味をもつ 綾絡文状(？)	表裏綾絡文状				繊維少なく，砂粒多い 円筒下層b式
〃		3	〃	D-561	〃(〃)	IIB2a				撚糸文(？)		円筒下層c～d式相当？ 繊維少ない
〃		4	〃	D-561	〃(〃)	〃	丸味をもつ 撚糸文	撚糸文				外面に炭化物付着 少量の繊維を含む
〃		5	〃	B-527	覆土	〃				多軸絡条体回転文		〃 〃
〃		6	〃	165	〃	IIB2b	貼付状の肥厚帯 縄線の圧痕文	肥厚帯直下，縄線圧痕文		斜縄文(？)		〃 〃 粗雑な調整
〃		7	〃	B-626	〃	〃	切り出し状 斜縄文	無文地に 鋸歯状の縄線文				小礫を含む 脆弱
〃		8	〃	D-561	覆土 (IIb)	〃		横走縄線文				〃
〃		9	〃	B-649	覆土	IIB2c	切り出し状 縦位絡条体圧痕文	横走絡条体圧痕文				少量の繊維を含む 砂粒多く脆弱
〃		10	〃	D-731	〃	〃	斜縄文(＼)，突起？ 絡条体圧痕文	鋸歯状の絡状体圧痕文	半竹刺突文			〃 〃
〃	〃	11	〃	275	〃	〃	切り出し状	突起から垂下する半竹 絡条体圧痕文				砂粒多く，内面調整丁寧
〃		12	〃	B-640	〃	〃		横走する絡条体圧痕文				繊維，砂粒多い
〃		13	〃	B-640	〃	〃	切り出し状 斜縄文(＼)	〃				〃 脆弱 外面に炭化物付着
〃		14	FH-19 HP-12	1	〃	IIB	切り出し状 〃 (／)			斜縄文(／)		砂粒，繊維多く，脆弱
〃		15	FH-19	408	〃	〃	〃 〃 (／)			結束斜縄(＼)		〃
〃		16	〃	B-527	〃	〃	〃 斜縄(／)			結束羽状(>)		〃 内面，口唇部に炭化物付着
〃		17	〃	533 451	〃	〃	〃 結束羽状縄文	不明				外面摩滅が著しく不明 繊維が多い
〃		18	〃	491	床面	〃				結束羽状(<)		砂粒多く，脆弱 外面に炭化物多量に付着
〃		19	〃	539 134 191	覆土	〃				〃 (<)		小礫，砂粒が多い，脆弱 内外炭化物付着
〃		20	〃	272	〃	〃				〃		〃 内面炭化物付着
〃		21	FH-19 HP-6	1	〃	〃				〃 (<)		〃 内外炭化物付着
〃		22	FH-19 HP-25	1	〃	〃				斜縄？	挿底ぎみ	少量の繊維，砂粒多く，やや脆弱
〃		23	FH-19	427	〃	〃				〃 ？	平底	〃
III-133		1	FH-20	63	〃	IIB1	丸味をもつ	綾絡文状				少量の繊維で，砂粒が多い 脆弱
〃		2	FH-20 Cベルト	53	〃	IIB2b	切り出し状 半竹刺突文	斜縄(＼) 縄線文				〃 〃
〃		3	〃 〃	57	〃	〃	丸味をもつ 斜位に縄線文	縄線文		結束羽状		繊維，砂粒が多い 〃
〃		4	FH-20 Bベルト	28	〃	〃	丸味をもつ	〃		〃		〃 〃
〃		5	FH-20	58	〃	〃		孤状の縄線文	半竹刺突文	〃		〃 外面多量の炭化物付着 〃
〃		6	〃	C-50	〃	IIB2c	切り出し状，2条横 走絡条体圧痕文					〃 外面炭化物付着
〃		7	〃	B-25	〃	IIB	斜縄文			斜縄文(＼)？		〃 〃
〃		8	〃	D-115	〃	〃			円形刺突文			〃 小礫を多量に含む
〃		9	〃	29	〃	〃				結束斜縄(＼)		砂粒多く，調整粗雑 IIB1？
〃		10	〃	52	〃	〃				斜縄(＼)		砂粒，繊維多く，脆弱
〃		11	〃	50	〃	IIIB3		裏面縄文		押引のある細い 貼付帯，斜縄文		砂粒多く，繊維なし，脆弱
III-136		2	FH-21	210	床直	IIB2b	切り出し状 縄線文	縄線文				砂粒多く，脆弱
〃		3	〃	203	覆2	〃	角型 刺突文	〃				〃
〃		4	〃	16	床直	〃		曲線状の縄線文	半竹刺突文	不明		〃
〃		5	〃	203	覆2	IIB2c	切り出し状 斜縄文？	絡条体圧痕文				〃

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III-136		6	FH-21	210	床直	IIB	切り出し状 半竹刺突文	半竹刺突文		組紐回転文		文様，器形IIIB3に類似，しかし器面調整等からIIBとする
〃		7	〃	36	〃	〃				結束羽状(＜)		砂粒を多く含む，脆弱
〃		8	〃	14	〃	〃				結束斜状(＼)		〃
〃		9	〃	125	〃	〃				結束羽状		〃
〃		10	〃	36	〃	〃					やや揚げ底	〃
III-139		1	FH-22	288	覆土	IIB2b	切り出し状 縄線文	くびれが強い 曲線的な縄線文				砂粒，繊維が多く，脆弱 内面に炭化物付着
〃		2	〃	B-624	〃	〃	丸味をもつ 斜縄文	〃 縄線文				IIB2aの可能性あり。砂粒，繊維が多い。調整丁寧
〃		3	〃	A-753	〃	〃	角型？ 縄線圧痕文	曲線縄線文				〃 〃 脆弱
〃		4	〃	B-578	〃	〃	丸味をもつ 斜縄文	〃				〃 〃
〃		5	〃	104	〃	IIB2a		くびれが強い 鋸歯状の縄線文				繊維多い 器面調整丁寧
〃		6	〃	B-595	〃	IIB2b		〃 鍛絡文状				砂粒，繊維多いが，脆弱 〃
〃		7	〃	C-736	〃	〃	切り出し状，斜縄 突起部から縦位縄線文	半竹押引文				小礫，砂粒多く脆弱
〃		8	〃	840	〃	〃	〃 ，〃 〃	下端半竹刺突文 縄線文				少量の繊維 小礫，砂粒が多い
〃		9	〃	739	〃	IIB2c	切り出し状，絡条体， 下端半竹刺突文	絡条体圧痕文 半竹刺突				多量の炭化物付着 繊維，砂粒，小礫が少量
〃		10	〃	753	〃	〃	〃 突起部絡条体圧痕文 下端半竹刺突文	半竹刺突文				繊維，砂粒多く，脆弱
〃		11	〃	61	〃	〃	〃 突起絡条体圧痕文斜縄文	絡条体圧痕文		斜縄		内面調整丁寧，炭化物付着 繊維多い
〃		12	〃	114	〃	〃	〃 斜縄下端半竹刺突文	2本一組の 鋸歯状絡条体圧痕文				
〃		13	〃	A-748	〃	〃	〃 斜縄文(＼)	絡条体圧痕文				繊維，砂粒多い
〃		14	〃	534	〃	〃	〃 斜縄下端半竹刺突文	貼付帯(2本一組)，絡条体圧痕文半竹刺突文		斜縄(／)？		IIA1に類似 繊維，砂粒多く，脆弱
〃		15	〃	527	〃	〃	丸味をもつ	2本一組の貼付帯 鋸歯状の絡条体圧痕文		多軸絡条体回転文		内面炭化物付着 小礫，砂粒多く，脆弱
〃		16	〃	840	〃	〃	切り出し状，斜縄，突起部から絡条体圧痕文	絡条体圧痕文				砂粒，繊維多く，脆弱
〃		17	〃	D-825	〃	〃	絡条体圧痕文	〃				〃
〃		18	〃	D-825	〃	IIB	切り出し状 斜縄文	肥厚帯直下半竹押引文		斜縄(／)		〃
〃		19	〃	30 547 D-816	〃	〃	〃 〃	半竹刺突文				〃
〃		20	〃	26	〃	〃	〃 斜縄下端半竹刺突文			斜縄？		〃
〃		21	FH-22	338	〃	〃	切り出し状，斜縄， 下端半竹刺突文			斜縄？		少量の繊維，砂粒多く脆弱
〃		22	〃	559	〃	〃	〃 斜縄，裏面縄文			斜縄		内面調整丁寧 繊維少量，砂粒多い
〃		23	〃	513	〃	〃	〃 斜縄(／)			〃 (／)		繊維多い，脆弱
〃		24	〃	47	〃	〃	〃 ，裏面縄文 斜縄(＼)			〃 (＼)		内面調整丁寧 少量の繊維
〃		25	〃	B-637	〃	〃	〃 〃			無文？		繊維多く外面不明
〃		26	〃	454	〃	〃	〃 〃(＼)			斜縄(／)？		内面調整丁寧 口唇部に炭化物付着
〃		27	〃	A-753	〃	〃	丸味をもつ			不規則な縄文		薄手，繊維少ない 少量の炭化物付着
〃		28	〃	C-739	〃	〃	〃 急外傾			結束羽状(＜)		砂粒，繊維多い，脆弱
〃		29	〃	340	〃	〃				〃 (＜)		〃 〃
〃		30	〃	B-647	〃	IIIA2				細い貼付帯 羽状縄文		砂粒多く，脆弱 外面炭化物付着
〃		31	〃	312 A-780	〃	IIIB3	切り出し状，結節羽状，爪押引文，円形刺突文	肥厚帯直下円形刺突文		貼付帯 結節羽縄文		小礫多い。表面赤色顔料付着
〃		32	〃	D-808	〃	〃	切り出し状 浅い押引文	〃		斜縄文		砂粒多く，脆弱
III-146		2	FH-24	213	〃	IIB1			貼付帯 円形刺突文	粗い斜縄？		繊維多く，脆弱
〃		3	〃	B-163	〃	〃				網目状撚糸文		〃
〃		4	〃	A-139	〃	IIB2a				撚糸文		〃
〃		5	〃	96	〃	IIB2b	切り出し状 縄線文	2段の曲線状縄線文	薄い貼付 半竹刺突文	斜縄(／)		〃 外面多量の炭化物付着
〃		6	〃	98 100	〃	IIB				結束羽状(＜)		繊維，砂粒多く脆弱
〃		7	FH-24 HP-55	1	〃	〃				斜縄(＼)？		繊維少なく，砂粒多い
III-150		3	FH-25	A-73	〃	IIB2a				撚糸文		繊維，砂粒多く脆弱
〃		4	〃	110	〃	〃				〃		〃
〃		5	〃	D-127	〃	IIB2b	切り出し状 貼付帯半竹押引文	縄線文				〃
III-153		1	FH-26	25	〃	IIB2a	切り出し状 縄線文，半竹刺突文	肥厚帯直下2条の縄線文		多軸絡条体回転		外面炭化物付着 砂粒，繊維多く，脆弱
〃		2	〃	B-41 50, 55	〃	〃				〃		内面調整丁寧 〃

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III-153		3	FH-26	55	覆土	IIB2b		縄線文		斜縄(／)?		内面調整丁寧 砂粒，繊維多く，脆弱
〃		4	〃	A-38	〃	IIB2c	切り出し状 縦位絡条体圧痕文	絡条体圧痕文				小礫，砂粒多い。脆弱
〃		5	〃	55	〃	IIB	〃 2段の半竹刺突文	半竹刺突文				〃
〃		6	〃	23	〃	〃				結束斜縄		〃　No.4と同一?
III-155		2	FH-27	B-62	〃	IIB1				撚糸文		砂粒，繊維多く，脆弱
〃		3	〃	〃	〃	IIB2a				多軸絡条体回転文		〃 外面炭化物付着
〃		4	〃	〃	〃	IIB2b	丸味をもつ	縄線文				IIB1の可能性あり 砂粒多く，脆弱
〃		5	〃	B-ベルト74	〃	〃	切り出し状 斜位縄線文			結束羽状(＜)		外面炭化物付着 砂粒多く，脆弱
〃		6	〃	C-124	〃	IIB2c	〃 斜縄?	絡条体圧痕文				内外炭化物付着 多量の繊維，脆弱
〃		7	〃	C-101	〃	IIB	〃 〃　(＼)			結束羽状(＜)		小礫，繊維多く脆弱
〃		8	〃	124	〃	〃	〃 〃　(／)			斜縄(／)		繊維，砂粒多く脆弱
III-159		1	FH-28	A-392	〃	IIB1	丸味をもつ	太い縄線圧痕文				調整粗雑 砂粒多い。脆弱
〃		2	〃	B-407	〃	〃				粗い撚糸文		粗雑な内面調整 砂粒多い
〃		3	〃	C-504	〃	〃		竹管文状		無節撚糸文		〃 〃
〃		4	〃	9	〃	〃		細い縄線文		不規則な撚糸文		〃 〃
〃		5	〃	57	〃	IIB2a	切り出し状 縄線文(2条)	肥厚帯直下2条縄線文		回転撚糸文		〃 外面炭化物付着
〃		6	〃	C-513	〃	〃	切り出し状，縄線文， 下端半竹押引文	〃				砂粒繊維多い，脆弱
〃		7	〃	B-476	〃	IIB2b	切り出し状	肥厚帯直下 細い縄線圧痕文，くびれが強い				〃　〃
〃		8	〃	B-529	〃	〃		曲線縄線文	半竹刺突文			〃 小礫も含む
〃		9	〃	B-421	〃	〃		縄線文				〃 〃
〃		10	〃	C-382	〃	〃		太い縄線文		斜縄(?)(／)		繊維，砂粒を含む
〃		11	〃	C-513	〃	IIB2c	切り出し状 絡条体圧痕文 半竹刺突文	絡条体圧痕文				砂粒多い。少量の繊維
〃		12	〃	B-459	〃	〃	切り出し状 縦位の絡条体圧痕文	絡条体圧痕文				〃
〃		13	〃	B-563	〃	〃	切り出し状 横走絡条体圧痕文	絡条体圧痕文				〃
〃		14	〃	D-727	〃	〃	切り出し状，突帯縦位，その他，横走絡条体圧痕文	絡条体圧痕文				〃
〃		15	〃	C-497	〃	〃	切り出し状 横走絡条体圧痕文	絡条体圧痕文				繊維を含む 小礫を多量に含む
〃		16	〃	43	〃	〃	切り出し状 斜縄(＼)	〃　(原体3cm)				〃 〃
〃		17	〃	B-421	〃	〃	〃 〃　(＼)	肥厚帯直下，絡条体圧痕文				〃 〃　脆弱
〃		18	〃	D-727	〃	〃	〃 〃　(＼) 下端半竹押引文	絡条体圧痕文	半竹刺突文	結束羽状		〃 〃　〃
〃		19	〃	C-448	〃	〃	切り出し状 2段の半竹刺突文	〃				小礫，繊維が多い
〃		20	〃	B-554	〃	〃	切り出し状 斜縄(＼)	鋸歯状，絡条体圧痕文				繊維を含む 小礫を多量に含む
〃		21	〃	B-600	〃	IIB2c	切り出し状 斜縄(＼)	比較的くびれ強い 絡条体圧痕文				〃 〃
〃		22	〃	C-382	〃	〃		絡条体圧痕文		結束羽状		薄手，内面調整丁寧 砂粒多い
〃		23	〃	A-440	〃	〃		〃 半竹刺突文				器面調整丁寧 少量の砂粒，繊維を含む
〃		24	〃	B-407	〃	〃		絡条体圧痕文	半竹刺突文	結束羽状?		内外炭化物付着 砂粒が多い
〃		25	〃	C-344	〃	IIB	切り出し状 斜縄文	半竹押引文(地文上)		斜縄		砂粒，小礫多い。少量の繊維
〃		26	〃	D-727	〃	〃	切り出し状，斜縄 半竹押引文	半竹押引文				砂粒が多く，脆弱
〃		27	〃	A-777	〃	IIIB3	丸味をもつ，口端， 半竹刺突文			斜縄(＼)		粗雑な調整 小礫，砂粒が多い
〃		28	〃	B-212	〃	〃	切り出し状 2段半竹押引文			〃(／)		薄手，内面調整丁寧 小礫が多い
〃		29	〃	B-407	〃	〃	切り出し状 3段半竹押引文			結束羽状		〃 粗雑な器面調整
〃		30	〃	C-448	〃	〃	切り出し状 2段半竹押引文 斜縄(／)	肥厚帯直下 押引後円形刺突文				〃 〃
〃		31	〃	A-615		〃	切り出し状，口唇縄 半竹押引文，斜縄	肥厚帯直下 押引後円形刺突文		斜縄(＼)		〃 〃
〃		32	〃	D-529	〃	〃	切り出し状，口唇押引文，2段押引文	裏面縄文 円形刺突文		結束羽状(＜)		〃 〃
〃		33	〃	C-657	〃	〃	切り出し状 2段押引文	肥厚体直下，円形刺突文，裏面縄文		押引文 結束羽状(＜)		〃 〃
〃		34	〃	268	〃	〃	切り出し状 斜縄	〃　〃 〃		〃　(＜)		〃 〃
〃		35	〃	A-636	〃	〃	〃 〃	〃　押引後円形刺突文，裏面縄文		斜縄(／)		砂粒多く，脆弱 多量の炭化物付着
〃		36	〃	B-600	〃	〃	〃 〃	〃　ナデ後 〃　〃				〃
〃		37	〃	C-513	〃	〃	〃 〃	肥厚帯直下，押引後円形刺突文，裏面縄文		結節羽状		多量の炭化物付着 砂粒多く，脆弱

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III-159		38	FH-28	90	覆土	IIIB3				篦押引文 結束羽状(?)		砂粒多く，脆弱
〃		39	〃	186	〃	IIB				斜縄	揚げ底	内面調整丁寧
〃		40	〃	D-529	〃	〃				結束羽状	やや揚げ底	
〃		41	〃	C-382	〃	IIIB3				不規則な斜縄		粗雑な器面調整
III-167		4	FH-29	902	〃	IIA1				横走縄文		繊維，砂粒が少ない。小礫が多い
〃		5	〃 Bベルト	460, 466	覆3	IIB2a	切り出し状 縄線文			多軸絡条体回転文		砂粒が多い
〃		6	〃 〃	659	〃	〃	丸味をもつ　小波状 縄線文	縄線文	薄い貼付帯	〃　(?)		小礫が多量に含む
〃		7	FH-29	850	覆土	〃			撚糸文			小礫を含む。外面炭化物付着
〃		8	〃	728	〃	〃			〃			〃　内外面炭化物付着
〃		9	〃	205	〃	〃		横位刺突文(棒状工具) 縄線文，くびれが大きい	刺突文	多軸絡条体回転文		繊維，砂粒，小礫を含む 器面調整粗雑
〃		10	〃	466	〃	〃				〃		砂粒が多い
〃		11	〃 Bベルト	826	〃	〃				〃		砂粒，繊維が多い
〃		12	FH-29	C-638	〃	IIB2b	切り出し状 縄線文	縄線文				外面炭化物付着 砂粒，繊維が多い。脆弱
〃		13	〃 Bベルト	823	覆2	〃	〃 〃	〃				〃 外面炭化物付着
〃		14	FH-29	850	覆土	〃	角型 縄線圧痕文	幅広の頸部 縄線文				〃 内面調整丁寧，IIB2a?
〃		15	〃	140, 191 518, 880 C-795	〃	〃	切り出し状 縄線，半竹刺突文	曲線縄線文	半竹刺突文	結束羽状(>)		砂粒，小礫多い
〃		16	〃	258, 518	〃	〃	切り出し状 縄線文	〃	〃	斜縄(?)		〃
〃		17	〃	880	〃	〃	切り出し状 縄線押捺	縄線文				内面調整丁寧 砂粒，小礫多い
〃		18	〃	826	〃	〃	切り出し状，縄線 下端，半竹刺突文	〃				〃 〃
〃		19	〃	390	〃	〃	〃　〃 〃	〃				〃 〃
〃		20	〃	625	〃	〃	薄い切り出し状 斜縄(＼)，下端刺突文	〃		斜縄(＼)?		〃 〃
〃		21	〃	B-899	〃	〃	切り出し状 斜縄	〃				小礫，繊維多い
〃		22	〃	664	覆3	〃	切り出し状 半竹刺突文	〃 突起下位湾曲する				〃
〃		23	〃	21	覆土	〃		縄線文，体部の原体を用いている	半竹刺突文	結束羽状(?)		小礫を多く含む 外面炭化物付着。補修孔あり
〃		24	〃	826	〃	IIB2c	切り出し状 絡条体圧痕文	鋸歯状絡条体圧痕文				
〃		25	〃	D-549	〃	〃	〃 〃	絡条体圧痕文				内面調整丁寧 砂粒多い
〃		26	〃	92	〃	〃	斜縄(＼) 下端半竹刺突文	絡条体圧痕文 原体3cm				多量の繊維，砂粒を含み，脆弱。補修孔あり
〃		27	〃	C-795	〃	IIB2b	切り出し状 斜縄(／)	縄線文 篦状工具の刺突文		結束羽状(<)		器面調整丁寧 小礫，繊維を少量含む
〃		28	〃	317	〃	IIB2c	切り出し状 半竹押引文	絡条体圧痕文		斜縄(／)		〃 〃
〃		29	〃	625	〃	〃	切り出し状，斜縄(＼) 下端半竹刺突文	絡条体圧痕文 半竹刺突文				〃 〃
〃		30	〃	C-518	〃	〃	切り出し状，斜縄 (＼)	絡条体圧痕文		斜縄(＼)		〃 〃
〃		31	FH-29 Bベルト	460	覆3	〃	内湾切り出し状 絡条体圧痕文			〃 (＼)		小礫，砂粒多く，脆弱
〃		32	FH-29	236	覆土	〃	切り出し状，斜縄 (／)	絡条体圧痕文 原体3.5cm				砂粒多い。薄手
〃		33	〃	826	〃	〃	〃　〃 (＼)	絡条体圧痕文				繊維，砂粒，小礫多く，脆弱
〃		34	〃	683	覆1	〃	斜縄(／)	絡条体圧痕文，裏面縄文				壺形土器，粗雑な器面調整
〃		35	〃	C-802	覆土	〃	切り出し状(?)	鋸歯状絡条体圧痕文				小礫，砂粒多く，脆弱
〃		36	〃	C-570	〃	〃		絡条体圧痕文		斜縄(／)?		〃
〃		37	〃	638	〃	〃		絡条体圧痕文				
〃		38	〃	180	〃	IIB	切り出し状 斜縄(／)	半竹押引文		斜縄		器面調整粗雑 小礫，繊維を含み，脆弱
〃		39	〃	60	〃	〃	切り出し状 斜縄(＼)			結束斜縄(＼)		内外炭化物を含む 小礫，砂粒，繊維を含む
〃		40	〃	C-880	〃	IIB2c		絡条体圧痕文	薄い貼付帯，押引文	結束羽状		小礫，砂粒多く，脆弱
〃		41	〃	C-802	〃	IIB	切り出し状 斜縄(／)，半竹刺突文					
〃		42	〃	C-518	〃	〃	切り出し状，斜縄(＼)			結束斜縄(＼)		内外炭化物を含む 小礫，砂粒，繊維を含む
〃		43	Bベルト	466	覆3	〃	〃　〃 (＼)			斜縄(＼)		〃 〃　脆弱
III-168		44	FH-29	814	覆2	〃	切り出し状 斜縄(／)			斜縄(／)		内外炭化物を含む 小礫，砂粒，繊維を含む
〃		45	〃	826	〃	〃			半竹押引	結束羽状		〃 〃
〃		46	〃	22	〃	IIIA1	丸味をもつ	縄線文，貼付帯 円形貼付帯	貼付帯，縄線圧痕文			〃 〃
〃		47	〃	174, 180	〃	〃	〃	〃 円形刺突文	貼付帯，円形刺突文	斜縄(／)		〃 〃

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III-168		48	FH-29 Aベルト	630 826	覆3 覆土	IIB				結束斜縄(／)		内外調整丁寧，小礫，繊維，砂粒，赤色顔料付着(内面)　脆弱
〃		49	FH-29	105	〃	〃				結束羽状		小礫，繊維，砂粒多く，脆弱
〃		50	〃	850	〃	IIIB1				貼付帯，半裁突斜縄(／)		砂粒が多い
〃		51	〃	61	〃	IIB				斜縄(＼)	揚げ底	繊維，砂粒多く，脆弱
III-174		1	FH-30	17	〃	〃				？		摩滅が著しい 繊維，砂粒多い
〃		2	〃	6	床直	〃				斜縄(？)		繊維，砂粒多い
〃		3	〃	A-32	覆土	〃				結束斜縄(？)		砂粒が少ない 繊維多い
〃		4	〃	〃	〃	〃				斜縄(？)		繊維，砂粒少ない 小礫を含む
〃		5	〃	C-40	〃	〃				〃		繊維，砂粒少ない 小礫を含む
III-176		1	FH-32	29	覆1	IIB1				タガ状の貼付帯 羽状縄文		円筒下層b式相当か
〃		2	〃	〃	〃	〃		綾絡文状		粗雑な斜縄		器面調整粗雑，外面に炭化物付着，砂粒多く，繊維少ない
〃		3	〃	34	〃	IIB2a	切り出し状 縄線文	肥厚帯直下 3条の縄線文		多軸撚糸文回転文		〃
〃		4	〃	63	覆2	〃		曲線状縄線文	円形刺突文	〃		外面炭化物付着
〃		5	〃	63	〃	〃				撚糸文		繊維，砂粒が多く，脆弱
〃		6	〃	29	覆1	IIB2b		曲線状縄線文	半竹刺突文			内面調整丁寧 繊維，砂粒が多い
〃		7	〃	63	覆2	〃		縄線文	半竹押引文	斜縄(？)(＼)？		〃 〃
〃		8	〃	10	覆1	IIB2c	切り出し状，斜縄(＼) 下端，半竹刺突文	絡条体圧痕文				繊維，砂粒が多い
〃		9	〃	29，63	覆2	IIIB3	切り出し状，縄文施文後押引文(篦状工具)	肥厚帯直下円形		結節，羽状？(<) 篦押引文		粗雑な調整 砂粒が多い
〃		10	〃	29	覆1	〃	切り出し状 半竹押引文	肥厚帯直下，円形刺突文		斜縄(＼)		砂粒が多く，脆弱
〃		11	〃	29	〃	〃	丸味をもつ			粗雑な斜縄(＼)		粗雑な器面調整 小礫が多い
〃		12	〃	45	〃	IVA	角型，縄線が施こされた貼付帯	無文(磨消)	縄線文	斜縄(＼)		砂粒が多い
III-180		3	FH-33	D-434	覆土	IIB2a				無文地 篠状工具刺突文		砂粒多く，繊維を含まないシュブノッナイ式
〃		4	〃	141	〃	IIB1	丸味をもつ	縄線による菱目文	縄線文	斜縄(＼)？		内外多量の炭化物付着 少量の砂粒，繊維を含む
〃		5	〃	D-434	〃	〃	丸味をもつ，口唇部に不規則な縄文(＼)	節の大きい斜縄(／) 縄線文，裏面縄文				少量の繊維 小砂，砂粒多い
〃		6	〃	502	〃	IIB2a	丸味をもつ 縄線圧痕文	幅広の頸部 矢羽根状の縄線文				外面多量の炭化物付着 繊維を含む，調整丁寧
〃		7	〃	D-462	〃	〃	丸味をもつ	縄線文				繊維を含む，調整丁寧
〃		8	〃	487	〃	〃		〃				〃
〃		9	〃	D-462	〃	〃		〃		多軸絡条体回転文		〃
〃		10	FH-33 HP- 9	1	〃	〃				〃		砂粒，小礫多く，脆弱
〃		11	FH-33	32	〃	IIB2b	切り出し状，縄線文	鋸歯状(？)縄線文				少量の繊維砂粒 器面調整丁寧
〃		12	〃	D-434	〃	〃	〃 下端円形刺突文					器面調整丁寧
〃		13	〃	D-462	〃	〃	切り出し状斜縄(／) 下端，半竹刺突文 突起部に縄圧痕文	縄線文		結束斜縄(／)		〃
〃		14	〃	C-450	床面	〃		〃	半竹刺突文			小礫，砂粒，繊維が多い
〃		15	〃	B-331	〃	〃		〃				器面調整丁寧 少量の繊維，砂粒を含む
〃		16	〃	D-349	覆土	〃		無文地，縄線文		結束羽状		外面に多量の炭化物付着 繊維が多い。内面調整丁寧
〃		17	〃	A-325	床面	〃		細い縄線文		〃 (>)		砂粒，小礫を含む
〃		18	〃	D-349	覆土	IIB2c	切り出し状 絡条体圧痕文	絡条体圧痕文 半竹刺突文				少量の繊維，砂粒 小礫を多く含む
〃		19	〃	269	〃	〃	切り出し状 絡条体，半竹押引文	半竹押引，鋸歯状，絡条体圧痕文	絡条体圧痕文(？)			繊維多く，脆弱
〃		20	〃	518	〃	〃	切り出し状，斜縄(／)	絡条体圧痕文				少量の砂粒，繊維が多い
〃		21	HP- 5	1	〃	〃	切り出し状，斜縄	〃		斜行縄文(／)		〃 20と同一個体
〃		22	FH-33	101，102	〃	〃	切り出し状，突起部分，絡条体圧痕文，斜縄(＼)	くびれが強い。絡条体圧痕文	半竹刺突文	結束羽状(<)		
〃		23	FH-33	87	〃	IIIB3	切り出し状，縄文(／)施文後，篦状工具，押引文	肥厚帯直下，円形刺突文 内面縄文		斜縄，細い貼付帯		小砂，砂粒が多い 粗雑な調整
〃		24	〃	502	〃	〃	〃 〃 〃	肥厚帯直下，円形刺突文		斜縄(？)		〃 〃
〃		25	〃	416	〃	〃	〃 〃 〃	〃		斜縄(／)		〃 〃
〃		26	〃	487	〃	〃	〃 〃 〃	〃 裏面縄文		〃 細い貼付帯		〃 〃
〃		27	〃	455，487 502	〃	〃	切り出し状 円形刺突文	肥厚帯直下，円形刺突文 裏面縄文		羽状縄文，綾絡文，押引文，円形刺突文		〃 〃
〃		28	〃	30	〃	〃	切り出し状 結束羽状			結束羽状(>)		〃 〃
〃		29	〃	502	〃	〃	丸形，円形刺突文 口唇，半竹外面押引文	円形刺突文		不規則な縄文 押引文		〃 〃

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	分類	文様と特徴 口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	備考
III-180		30	FH-33	C-450	床面	IIIB3	丸型	円型刺突文		斜縄(＼)，綴絡文		小砂，砂粒が多い 粗雑な調整
III-185		1	FH-35	182	覆土	IIB2a	丸味，縄線による押捺	縄線文				内面調整が丁寧 砂粒が多い
〃		2	〃	235	〃	〃	切り出し状 縄線文	曲線状縄線文				〃
〃		3	〃	132	覆1	〃	〃 〃	〃				繊維，砂粒が多い
〃		4	〃	244	〃	〃				撚糸文 結束羽状		小礫，砂粒，繊維が多い
〃		5	FH-35 HP-16	1	覆土	〃				撚糸文		砂粒，繊維が多い
〃		6	FH-35 HP-13	B-286 B-325	覆2	〃				多軸絡条体回転文		〃
〃		7	〃	1	覆土	〃				〃		〃
〃		8	FH-35 HP-11	1	〃	〃				撚糸文		〃
〃		9	FH-35	5	〃	〃						〃
〃		10	〃	B-258	覆2	IIB2b	切り出し状 縄線文，縄圧痕文	曲線縄線文				砂粒，小礫，繊維が多い
〃		11	HP- 8	1	覆土	〃	切り出し状 斜縄(／)	縄線文		結束斜縄(／)		内面調整丁寧，砂粒，小礫，繊維が多い，補修孔あり
〃		12	FH-35	B-325	覆2	〃	切り出し状 縄線文			結束斜縄(＼)		繊維多い。脆弱，補修孔あり
〃		13	〃	132	覆1	〃	丸味をもつ 縄線文					砂粒が多い
〃		14	FH-35 HP-18	1	覆土	〃	〃 〃					繊維が多い
〃		15	FH-35	B-352	覆2	〃	切り出し状，縄線文 先端部刺突文			斜縄(＼)		砂粒が多い
〃		16	〃	244	覆1	〃		曲線縄線文	半竹刺突文	結束羽状(＜)		〃
〃		17	FH-35 HP- 8	1	覆2	IIB2c	切り出し状 斜縄(／)	半竹押引 絡条体圧痕文	半竹押引文	結束羽状		〃
〃		18	FH-35	154	覆1	〃	〃 撚糸文	鋸歯状の絡条体圧痕文				砂粒，小礫が多い
〃		19	〃	105	〃	〃		〃	貼付帯 円形刺突文			〃
〃		20	〃	154	〃	〃				斜縄(／) 絡条体圧痕文		〃
〃		21	FH-35	105	覆1	IIB	切り出し状 結束羽状	円形刺突文				繊維，砂粒多い
〃		22	〃	196	床直	〃	切り出し状 斜縄(＼)			結束羽状(＜)		小礫，繊維が多い
〃		23	〃	281	覆2	〃	〃 〃 (／)					〃
〃		24	〃	31	覆土	〃	〃 〃 (＼)			結束羽状(＜)		〃 No.22と同一個体
〃		25	〃	286 B-325	覆2	〃				不規則な結束羽状		小礫，砂粒，繊維が多い
〃		26	FH-35 HP- 2	281 1	〃 覆土	〃				結束羽状(＜)	揚げ底	〃
〃		27	FH-35	132	〃	IIIB3	切り出し状 篦状工具押引文	円形刺突文 裏面縄文，(「L」縦位施文)		貼付帯，押引文 斜縄(／)		砂粒多く，無繊維
〃		28	〃	244	覆1	〃	〃 〃	〃 〃		斜縄(／)		〃
〃		29	〃	154	〃	〃	〃 斜縄(＼) 〃	〃 〃		〃 (＼)		〃
〃		30	〃	244	〃	〃	斜縄(／) 篦状工具押引 半竹刺突文	篦状工具押引文		〃 (／)篦押引文		〃
〃		31	〃	154	〃	〃	斜縄(／)	肥厚帯直下，円形刺突文		斜縄		〃
〃		32	〃	132	〃	〃	綴絡文 撚糸文(＼)	綴絡文 裏面撚糸（縦位）		撚糸文(＼)		〃 小礫，粗雑な調整
〃		33	〃	105	〃	〃	口唇端部 篦状押引文	〃 円形刺突文		斜縄(／) 綴絡文		〃 〃
〃		34	〃	136	〃	〃	丸味をもつ			斜縄(＼)		〃 〃 補修孔
〃		35	〃	132	〃	〃	〃			無文		小型土器 小礫，砂粒が多い
〃		36	〃	154	〃	〃				貼付 押引文，結束羽状，円形刺突文		〃 〃
〃		37	〃	57	覆土	〃				半竹押引文 斜縄(／)		〃
〃		38	〃	244	覆1	〃				綴絡文 斜縄(＼)		〃
III-190		1	FH-36	144	覆土	IIB1	丸味をもつ	縄線文		裏面条痕文 斜縄(＼)		少量の繊維 砂粒が多い(大麻V式)
〃		2	〃	D-563	〃	IIB2a		菱目状，縄線文		多軸絡条体回転文		内面調整丁寧 繊維多い
〃		3	〃	C-515	〃	〃				〃		〃 〃
〃		4	〃	F-292	〃	IIB2b	切り出し状 縄線文	縄線文		斜縄(＼)？		〃 〃 小礫も含む
〃		5	〃	44	〃	〃	切り出し状 下端竹刺突文	〃		〃 (／)?		〃 〃
〃		6	FH-36 HP-35	1	〃	〃	切り出し状 斜縄(＼)	曲線状縄線文				〃 〃
〃		7	FH-36	623	〃	〃	切り出し状 斜縄(／)，縄線文			斜縄(／)		〃 〃
〃		8	〃	D-563	〃	〃	切り出し状 斜縄(／)	縄線文		〃 (／)		〃 〃
〃		9	〃	509	〃	〃	切り出し状，縄線文 斜縄(／)下端半竹押引文	半竹押引文，縄線文				小礫，砂粒が多い

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	分類	文様と特徴 口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	備考
III-190		10	FH-36	H-490	覆土	IIB2b		縄線文	半竹押引文	結束斜縄(＼)		内面調整丁寧 繊維多い　小礫含む
〃		11	〃	A-262	〃	〃		半竹刺突文 縄線文	棒状刺突文	斜縄文(／)		〃 〃　〃
〃		12	〃	D-563	〃	〃		縄線文	半竹刺突文	〃（／）		〃 〃
〃		13	〃	122	〃	〃	下端半竹押引文 縄線文	縄線文	半竹押引文	斜縄(＼)？		〃 〃　小礫含む
〃		14	〃	26	〃	IIB2c	切り出し状 斜縄(＼)	絡条体圧痕文		〃（＼）		〃 〃　〃
〃		15	〃	D-586	〃	〃	〃 〃（＼）	〃				〃 〃
〃		16	〃	509	〃	〃		〃	縄線文	結束斜縄(＼)		〃 内外炭化物付着
〃		17	〃	C-448	〃	〃		〃	半竹刺突文	斜縄(＼)		多量の繊維混入 砂粒，小礫少ない
〃		18	〃	543	〃	〃		〃	貼付帯 半竹刺突文	羽状(＞)？		〃
〃		19	〃	C-441	〃	〃		鋸歯状，絡条体圧痕文	円形刺突文	斜縄(／)？		小礫，砂粒多い
〃		20	〃	64	〃	IIB	切り出し状 斜縄(／)	半竹刺突文		〃（／）？		〃
III-190		21	〃	509	覆土	IIB	切り出し状 結束羽状(＞)			結束羽状(＞)		小礫，砂粒多い
〃		22	〃	C-448	〃	〃	切り出し状 斜縄(＼)			斜縄(／)		〃
〃		23	〃	C-448	〃	〃	〃 〃（＼）			結束羽状(＞)		〃
〃		24	〃	63	〃	IIIB3	切り出し状，斜縄(／) 押引文，篦状工具	肥厚帯直下円形刺突文 裏面縄文，結束羽状		〃　（＞）		〃
〃		25	FH-36 HP-18-1	1	〃	〃	角型 端部半竹押引文	押引文(半竹外面)		無節(r)		〃
〃		26	FH-36	G-397	〃	〃	薄い切り出し状 篦押引文	裏面斜縄(＼)，「L」を縦位。円形刺突文		斜縄(／)		〃
〃		27	〃	623	〃	〃						
〃		28	〃	H-490	〃	〃	角型	篦押引文 結束羽状(＞)		結束羽状(＞)		小礫，砂粒多い。薄手
〃		29	〃	61	〃	〃	〃 半竹押引文			斜縄(「L」の縦位施文)		〃
〃		30	〃	16	〃	〃	切り出し状 縄端部の押引文	肥厚帯直下 円形刺突文				〃
〃		31	〃	CF-368	〃	〃				貼付帯，半竹刺突文，斜縄(＼)		〃
〃		32	〃	F-606	〃	〃				貼付帯，押引文，羽状(＞)，鍛絡文		〃
〃		33	〃	409	〃	〃		裏面斜縄(／)		不規則な羽状(＞)，篦押引文		〃
〃		34	〃	623	〃	〃			斜縄(＼)	平底，張り出しぎみ		〃
III-194		1	FH-37	13	〃	IIB2c	切り出し状 斜縄	絡条体圧痕文				丁寧な器面調整
〃		2	〃	13	〃	IIB		棒状工具による刺突文		結束羽状。同一原体で上下を変えて文状を表現		粗雑な内面調整 小礫を多く含む
〃		3	FH-37 HP-2	1	〃	〃				斜縄(？)		〃 〃
〃		4	FH-37	7	〃	〃				〃		粗雑な内面調整，小礫を多く含む。多量の炭化物付着（内外とも）
〃		5	〃	6	〃	〃				結束羽状 同一原体の上下を変えている		粗雑な内面調整，小礫を多く含む
III-197		3	FH-38	714	〃	IIB1	角型 端部，撚糸圧痕文	横位撚糸文		撚糸文		砂粒，小礫を多く含む 繊維少ない，円筒下層C式
〃		4	〃	F-438	〃	〃	丸味をもつ	無文地，縄線文		斜縄(／)		円筒下層(b～c式) 繊維，砂粒，小礫多い
〃		5	〃	F-438	〃	〃		鍛絡文状	貼付帯，指頭の圧痕文	〃		〃 円筒下層b式
〃		6	〃	F-438	〃	〃				不規則な撚糸文		（　〃　c式？） 繊維，砂粒，小礫多い
〃		7	〃	604 F-549 C-622	〃	IIB2a(？)	切り出し状 縄線文	幅広 2段縄線文		多軸絡条体回転文		薄手，内外炭化物付着(円筒下層c式)，砂粒が多い
〃		8	〃	763	〃	IIB2b	〃 〃			結束羽状(＞)		砂粒，繊維，小礫多い
〃		9	〃	D-705	〃	〃	切り出し状 縄線文	縄線				〃
〃		10	〃	21	〃	〃	薄い切り出し状 斜縄(／)	肥厚帯直下 縄線文		斜縄(／)		内面赤色顔料付着 多量の小礫繊維を含む
〃		11	〃	649	〃	〃	切り出し状 斜縄(＼)	〃		結束羽状(＜)？		砂粒，繊維，小礫多い
〃		12	〃	F-647	〃	〃	切り出し状 縄線文(＼)	貼付帯(太い) 斜位縄圧痕文		斜縄(＼)		〃
〃		13	〃	F-454	〃	〃	切り出し状，細い縄圧痕文，下端半竹刺突文	細い縄圧文				〃 器面調整丁寧，補修孔あり
〃		14	〃	49	〃	〃	切り出し状，突起部縄圧痕文，下端半竹刺突文	半竹刺突文 （半截～「4」截）		結束斜縄(／)		砂粒，繊維，小礫多い 器面調整丁寧
〃		15	〃	C-805	〃	〃	縄線文	縄線文	半竹刺突文	斜縄(＼)？		〃 〃
〃		16	〃	514	〃	IIB2c	切り出し状 絡条体圧痕文	絡条体圧痕文，半竹押引文		結束羽状(＜)		〃 〃　補修孔あり
〃		17	〃	F-583	〃	〃	切り出し状 絡条体圧痕文，下端半竹刺突文	絡条体圧痕文				〃 〃
〃		18	〃	232	〃	〃	切り出し状 絡条体圧痕文	絡条体圧痕文，半竹刺突文				〃 〃
〃		19	〃	F-282	〃	〃	切り出し状(？) 斜縄(／)	無文地 鋸歯状，絡条体圧痕文				〃 〃
〃		20	〃	528？	〃	〃	切り出し状 斜縄(／)	円形刺突文，絡条体圧痕文		結束鋸歯(／)		〃 〃

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	分類	文様と特徴 口唇部	文様と特徴 頸部	文様と特徴 区画帯	文様と特徴 体部	文様と特徴 底部	備考
III-197		21	FH-38	592, 763	覆土	IIB2c				無文地 絡条体圧痕文		内外調整丁寧 繊維多い
III-198		22	〃	C-821	〃	IIB	切り出し状 斜縄(＼)，下縁半竹刺突文	半竹刺突文		斜縄		〃 〃
〃		23	〃	C-821	〃	〃	切り出し状 半竹刺突文	半竹刺突文				〃 〃
〃		24	〃	679	〃	〃	切り出し状 斜縄(＼)			結束羽状(＞)		〃 〃
〃		25	〃	C-821	〃	〃	〃 〃			〃 (＞)		〃 〃
〃		26	〃	C-814	〃	〃	斜縄(＼)			〃 (＞)		〃 〃
〃		27	〃	749	〃	IIIA1		2本一組撚糸圧痕文		〃 (＞)		〃 〃
〃		28	〃	104	〃	IIIB1	切り出し状 刻目文			3本一組，沈線 不規則な斜縄 指頭押捺		砂粒多く，無繊維
〃		29	〃	256	〃	IIIB3	薄い切り出し状 頭部，斜縄(／)	不規則な斜縄文，棒状工具による円形刺突文		結束羽状		〃
III-203		2	FH-36	262	〃	IIB1	角型，斜縄(＼) 縄線文	縄線文，裏面縄文		羽状		少量の繊維 砂粒が多い(大麻V式)
〃		3	〃	137	〃	IIB2a				多軸絡条体回転		内面調整丁寧 繊維が多い
〃		4	〃	152	〃	IIIB3	半竹押引文	肥厚帯直下 棒状工具刺突文		斜行(＼) 綾絡文，鼎押引文		小礫，砂粒多い
〃		5	HP- 8	1	〃	IIB				結束羽状		少量の繊維混入 小礫が多い
〃		6	HP- 6	1	〃	〃				斜縄(＼)		〃
〃		7	HP- 7	1	〃	IIIB3				押引文 斜縄(＼)		〃
〃		8	FH-36	175, 183	〃	〃				斜縄(／)		〃
〃		9	〃	182	〃	〃				結束羽状縄文(＜)		〃
III-206		1	FH-40 HP- 2	1	覆土	IIB2c		半竹刺突文 絡条体圧痕文				薄手
〃		2	HP- 2	1	〃	IIB	切り出し状，結束羽状，先端刺突文			結束羽状(＞)		円型，内面調整丁寧 補修孔あり
〃		3	〃	1	〃	〃				斜縄(／)		内面調整丁寧
〃		4	〃	1	〃	〃				〃 (＼)		
〃		5		7	〃	IIIB3	切り出し状，縄文(／)施文後，半竹押引文	肥厚帯直下円形刺突文 裏面縄文		〃 (／)		小礫を含む 内外炭化物付着
〃		6		10	〃	〃	切り出し状 半竹押引文	裏面縄文				小礫を含む
〃		7		10	〃	〃				斜縄(／)		〃

表12　住居跡掲載石器一覧

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	名称	分類	重量(g)	石質	挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	名称	分類	重量(g)	石質
III- 47		14	FH- 1	HP- 4	覆土	つまみ付ナイフ	Ia	8.3	Sh	III- 51		30	〃	163	覆土	石　斧	I	11.4	Gr-Mud
〃		15	〃	HP- 7	〃	楔形石器		8.8	Obs	〃		31	〃	88	〃	〃	〃	32.5	〃
〃		16	〃	HP- 9	〃	北海道式石冠		1,160	Por	〃		32	〃	HP-29	〃	すり石		360	And
〃		17	〃	HP- 7	〃	すり石		300	And	III-52		33	〃	183	〃	たたき石		390	Qua
〃		18	〃	HP- 5	〃	たたき石		430	〃	〃		34	〃	105	〃	〃		470	Sh
〃		19	〃	HP-14	〃	〃		430	〃	〃		35	〃	151	〃	〃		600	Qua
〃		20	〃	HP- 7	〃	〃		630	〃	〃		36	〃	196	〃	〃		750	〃
〃		21	〃	HP- 9	〃	〃		650	Qua	〃		37	〃	190	〃	砥　石		1,090	Sa
〃		22	〃	HP- 7	〃	〃		480	〃	〃		38	〃	HP-52	〃	石　錘		172.1	And
〃		23	〃	HF- 3	〃	〃		480	〃	〃		39	〃	32	〃	石皿・台石		1,090	〃
III- 48		24	〃	HP- 4	〃	〃		340	〃	〃		40	〃	156	〃	〃		3,200	〃
〃		25	〃	HP-10	〃	〃		400	〃	III- 56		18	FH- 3	458	〃	石　鏃	Ib	2.5	Obs
〃		26	〃	HP- 1	〃	〃		1,040	〃	〃		19	〃	531	〃	〃	IIc	0.9	〃
〃		27	〃	HP- 4	〃	〃		390	〃	〃		20	〃	404	〃	〃	〃	1.8	〃
〃		28	〃	HP- 9	〃	〃		660	〃	〃		21	FH- 3	519	〃	〃	IIIb	0.9	Obs
〃		29	〃	HP- 4	〃	砥　石		3,500	Sa	〃		22	〃	226	〃	〃	〃	0.8	〃
III- 51		20	FH- 2	158	〃	石　鏃	IIc	1.5	Obs	〃		23	〃	639	〃	〃	〃	1.4	〃
〃		21	〃	287	〃	〃	〃	2.6	〃	〃		24	〃	20	〃	〃	〃	2.0	〃
〃		22	〃	60	〃	〃	IId$_1$	0.8	〃	〃		25	〃	309	〃	ポイント・ナイフ	II	26.6	Sh
〃		23	〃	67	〃	〃	IId$_2$	1.6	〃	〃		26	〃	514	〃	つまみ付ナイフ	Ia	6.0	〃
〃		24	〃	34	〃	〃	IIIb	1.3	〃	〃		27	〃	585	〃	〃	〃	7.0	〃
〃		25	〃	HP-21	〃	ポイント・ナイフ	Ib	10.9	〃	〃		28	〃	439	〃	スクレイパー	EII	10.5	Obs
〃		26	〃	220	〃	つまみ付ナイフ	Ib	10.2	Sh	〃		29	〃	125	〃	〃	〃	10.6	〃
〃		27	〃	107	〃	スクレイパー	EII	36.7	Obs	〃		30	〃	310	〃	〃	〃	8.7	〃
〃		28	〃	205	〃	〃	IV	1.3	〃	〃		31	〃	152	〃	〃	I	75.8	〃
〃		29	〃	288	〃	楔形石器		3.6	〃	〃		32	〃	158	〃	石　斧	I	212.7	Sch

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	名称	分類	重量(g)	石質	挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	名称	分類	重量(g)	石質
III- 56		33	FH- 3	10	覆土	石斧	I	10.1	Gr-Mud	III- 70		8	〃	4	〃	つまみ付ナイフ	Ib	8.3	Sh
〃		34	〃	135/535	〃	すり石		30	And	〃		9	〃	45	〃	〃	〃	12.7	〃
〃		35	〃	166	〃	〃		410	〃	〃		10	〃	53	〃	〃	Ic	10.3	Obs
〃		36	〃	498/283	〃	北海道式石冠		360	Por	〃		11	〃	25	〃	スクレイパー	IIIa	16.7	Sh
〃		37	〃	12	〃	球石		480	And	〃		12	〃	36	〃	すり石		240	And
〃		38	〃	254	〃	たたき石		620	〃	〃		13	〃	HP- 1	〃	〃		250	〃
〃		39	〃	110	〃	〃		440	〃	〃		14	〃	35	〃	球石		460	〃
III- 57		40	〃	278	〃	〃		470	〃	〃		15	FH- 9	19	〃	たたき石		330	Qua
〃		41	〃	277	〃	〃		530	〃	〃		16	〃	11	〃	〃		420	〃
〃		42	〃	284	〃	〃		1,230	〃	〃		17	〃	30	〃	〃		650	〃
〃		43	〃	153	〃	〃		1,120	〃	〃		21	FH-10	HP- 5	〃	〃		450	〃
〃		44	〃	252	〃	〃		580	Qua	〃		22	〃	HP- 2	〃	〃		1,980	〃
〃		45	〃	224	〃	くぼみ石		1,130	And	III- 72		8	FH-11	5	〃	ポイント・ナイフ	IVb	14.0	Obs
〃		46	〃	128	〃	砥石		2,400	Sa	〃		9	〃	57	〃	スクレイパー	V	10.7	Sh
〃		47	〃	130	〃	石皿・台石		13,000	And	〃		10	〃	14	〃	北海道式石冠		770	Por
〃		48	〃	122	〃	〃		9,000	〃	〃		11	〃	8	〃	たたき石		560	Qua
III- 61		17	FH- 4	111	〃	石鏃	IIc	1.0	Obs	〃		12	〃	3	〃	たたき石		460	〃
〃		18	〃	HP-28	〃	〃	IIIa	1.4	〃	〃		13	〃	27	〃	〃		550	〃
〃		19	〃	26	〃	ポイント・ナイフ	Ia_2	12.9	〃	III- 88	156	153	FH-12	3109	〃	石鏃	Ia	0.5	Obs
〃		20	〃	HP-16	〃	〃	Ia_1	4.8	〃	〃	〃	154	〃	2080	覆6	〃	〃	1.8	〃
〃		21	〃	167	〃	つまみ付ナイフ	Ib_1	8.0	Sh	〃	〃	155	〃	HP- 9	覆土	〃	Ib	1.0	〃
〃		22	〃	211	〃	スクレイパー	EII	7.4	Obs	〃	〃	156	〃	3032	覆5	〃	〃	1.0	〃
〃		23	〃	307	〃	〃	〃	6.6	〃	〃	〃	157	〃	468	覆土	〃	IIc	0.9	〃
〃		24	〃	314	〃	〃	EI	7.9	〃	〃	〃	158	〃	2942	覆4	〃	〃	1.1	〃
〃		25	〃	101	〃	石斧	Ia_2	126	Sch	〃	〃	159	〃	477	覆土	〃	〃	1.1	〃
〃		26	〃	100	〃	すり石		270	And	〃	〃	160	〃	2578	〃	〃	〃	1.0	〃
〃		27	〃	117	〃	〃		610	〃	〃	〃	161	〃	3231	〃	〃	〃	1.6	〃
〃		28	〃	12	〃	〃		260	〃	〃	〃	162	〃	3002	覆4	〃	〃	1.1	〃
〃		29	〃	59	〃	北海道式石冠		1,170	〃	〃	〃	163	〃	476	覆土	〃	〃	1.6	〃
〃		30	〃	86	〃	〃		560	〃	〃	〃	164	〃	2487	〃	〃	〃	3.0	〃
〃		31	〃	5	〃	たたき石		480	Qua	〃	〃	165	〃	207	床面	〃	〃	3.2	〃
〃		32	〃	9	〃	〃		430	〃	〃	〃	166	〃	23	覆土	〃	〃	3.9	〃
〃		33	〃	66	〃	〃		730	〃	〃	〃	167	〃	1139	〃	〃	〃	4.5	〃
〃		34	〃	163	〃	石皿・台石		7,500	And	〃	〃	168	〃	52	〃	〃	〃	4.5	〃
〃		35	〃	58	〃	〃		3,000	〃	〃	〃	169	〃	1387	覆6	〃	〃	2.6	〃
III- 65		5	FH- 5	2	〃	すり石		120	〃	〃	〃	170	〃	1273	覆5	〃	〃	1.2	〃
〃		6	〃	11	〃	〃		650	〃	〃	〃	171	〃	3103	〃	〃	〃	3.9	〃
〃		7	〃	10	〃	たたき石		600	Qua	〃	〃	172	〃	2791	床面	〃	〃	1.5	〃
〃		8	〃	12	〃	〃		580	〃	〃	〃	173	〃	612	覆土	〃	〃	0.6	〃
〃		9	FH- 6	5	〃	〃		420	〃	〃	〃	174	〃	〃	〃	〃	〃	0.7	〃
〃		10	〃	9	〃	〃		720	〃	〃	〃	175	〃	〃	〃	〃	〃	0.8	〃
〃		11	〃	HP- 2	〃	〃		940	And	〃	〃	176	〃	〃	〃	〃	〃	0.7	〃
〃		12	〃	3	〃	〃		880	Qua	〃	〃	177	〃	〃	〃	〃	〃	1.5	〃
〃		13	〃	2	〃	石皿・台石		2,000	And	〃	〃	178	〃	2661	〃	〃	〃	0.8	〃
〃		14	〃	1	〃	〃		2,100	〃	〃	〃	179	〃	3072	覆5	〃	〃	0.9	〃
〃		16	FH- 7	6	〃	すり石		250	〃	〃	〃	180	〃	3109	覆土	〃	〃	1.7	〃
〃		17	〃	1	〃	〃		250	〃	〃	〃	181	〃	3246	床面	〃	〃	2.2	〃
〃		18	〃	3	〃	たたき石		690	Qua	〃	〃	182	〃	2254	覆6	〃	IId_1	0.5	〃
III-67		6	FH- 8	14	〃	北海道式石冠		1,260	And	〃	〃	183	〃	3239	覆土	〃	〃	0.4	〃
〃		7	〃	40	〃	〃		1,220	〃	〃	〃	184	〃2811	覆6	〃	〃	IId_2	0.5	〃
〃		8	〃	23	〃	たたき石		600	〃	〃	〃	185	〃	2661	覆土	〃	〃	0.7	〃
〃		9	〃	34	〃	〃		480	Qua	〃	〃	186	〃	2942	覆4	〃	〃	0.5	〃
〃		10	〃	3	〃	〃		600	〃	〃	〃	187	〃	2768	床面	〃	〃	0.7	〃
〃		11	〃	39	〃	〃		630	〃	〃	〃	188	〃	2336	覆6	〃	IIIb	1.2	〃
〃		12	〃	37	〃	〃		810	〃	〃	〃	189	〃	2164	〃	〃	〃	1.1	〃
〃		13	〃	55	〃	〃		790	〃	〃	〃	190	〃	3022	覆4	〃	〃	1.4	〃
〃		14	〃	17	〃	〃		450	And	〃	〃	191	〃	27	床面	〃	〃	1.3	〃
〃		15	〃	28	〃	石皿・台石		820	〃	〃	〃	192	〃	2107	覆6	〃	〃	1.5	〃
〃		16	〃	57	〃	〃		2,600	〃	〃	〃	193	〃	2958	覆2	〃	IIIa	2.7	〃
〃		17	〃	33	〃	〃		6,500	Qua	〃	〃	194	〃	2108	覆土	石錐	I	3.0	Sh
III- 70		7	FH- 9	2	〃	ポイント・ナイフ	Ia_1	6.8	Obs	〃	〃	195	〃	3195	〃	〃	〃	3.6	〃

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	名称	分類	重量(g)	石質	挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	名称	分類	重量(g)	石質
III- 88	156	196	FH-12	261	床面	〃	IIb	7.2	Sh	III- 91	156	257	FH-12	842	覆土	石斧	IIa$_2$	149.7	Gr-Mud
〃	〃	197	〃	3110	覆土	〃	〃	7.0	Obs	〃	〃	258	〃	925	〃	〃	II-	97.2	〃
〃	〃	198	〃	2088	〃	〃	IV	2.5	〃	〃	〃	259	〃	259	〃	〃	〃	291.8	〃
〃	〃	199	〃	2145	〃	〃	IIb	4.0	〃	〃	〃	260	〃	203	床面	〃	〃	309.6	Sch
〃	〃	200	〃	215	〃	〃	〃	3.9	〃	III- 92	〃	261	〃	1396	覆6	〃	IIa$_2$	144.7	Gr-Mud
〃	〃	201	〃	3016	〃	〃	〃	4.1	Sh	〃	157	262	〃	1361	〃	〃	Ia$_2$	144.7	Sch
〃	〃	202	〃	1186	床面	ポイント・ナイフ	Ia$_1$	25.3	Obs	〃	〃	263	〃	156	床面	〃	Ic$_1$	173.6	Gr-Mud
〃	〃	203	〃	916	覆土	〃	Ia$_2$	7.9	〃	〃	〃	264	〃	1315	覆6	〃	I-	183.7	〃
〃	〃	204	〃	3257	〃	〃	〃	8.1	〃	〃	158	265	〃	2830	覆2	すり石		80	And
〃	〃	205	〃	3257	〃	〃	〃	6.5	〃	〃	〃	266	〃	365	覆土	〃		230	〃
〃	〃	206	〃	1754	覆6	〃	II	18.6	Sh	〃	〃	267	〃	905	〃	〃		260	〃
〃	〃	207	〃	2024	覆土	〃	〃	45.4	〃	〃	〃	268	〃	340	〃	〃		450	〃
〃	〃	208	〃	6	〃	〃	Ib	105.4	〃	〃	〃	269	〃	233	〃	〃		450	〃
III- 89	〃	209	〃	2201	〃	〃	II	43.9	〃	〃	〃	270	〃	2785	床面	〃		330	〃
〃	〃	210	〃	528	〃	〃	〃	47.4	〃	〃	〃	271	〃	HP-38	覆土	〃		860	〃
〃	〃	211	〃	1931	〃	〃	〃	95.8	〃	III- 93	〃	272	〃	85	〃	〃		340	〃
〃	〃	212	〃	3217	覆土	つまみ付ナイフ	Ia	5.8	〃	〃	〃	273	〃	889	覆土	北海道式石冠		1,720	〃
〃	〃	213	〃	2793	床	〃	〃	4.3	〃	〃	〃	274	〃	475	〃	〃		800	Por
〃	〃	214	〃	2087	覆土	〃	〃	15.2	〃	〃	〃	275	〃	1257	覆4	〃		640	And
〃	〃	215	〃	3363	〃	〃	〃	4.4	Obs	〃	〃	276	〃	1805	覆6	〃		630	〃
〃	〃	216	〃	1895	〃	〃	〃	9.9	Sh	〃	〃	277	〃	1212	覆土	〃		820	Por
〃	〃	217	〃	3045	覆4	〃	〃	7.7	Sch	〃	〃	278	〃	1077	〃	〃		930	〃
〃	〃	218	〃	2064	覆土	〃	〃	17.2	Sh	〃	〃	279	〃	2655	〃	〃		520	〃
〃	〃	219	〃	2154	〃	〃	〃	39.2	〃	〃	〃	280	〃	596	〃	〃		1,230	And
〃	〃	220	〃	2959	覆2	〃	〃	14.8	〃	〃	〃	281	〃	734	〃	〃		900	〃
〃	〃	221	〃	239	覆土	〃	〃	22.1	〃	〃	〃	282	〃	1360	覆6	〃		600	〃
〃	〃	222	〃	2849	床面	つまみ付ナイフ	Ib	11.2	〃	〃	〃	283	〃	1457	〃	〃		1,390	Por
〃	〃	223	〃	1674	覆5	〃	〃	16.5	〃	III- 94	159	284	〃	1804	〃	球石		550	And
〃	〃	224	〃	2109	覆土	〃	〃	15.2	〃	〃	〃	285	〃	2874	床面	〃		670	〃
〃	〃	225	〃	3243	〃	〃	Ic	6.0	〃	〃	〃	286	〃	1323	覆土	〃		720	〃
〃	〃	226	〃	3087	覆5	〃	〃	11.8	〃	〃	〃	287	〃	1731	覆5	〃		570	〃
〃	〃	227	〃	220	床面	〃	〃	12.6	Obs	〃	〃	288	〃	1009	覆土	たたき石		390	〃
〃	〃	228	〃	3111	覆土	〃	IIb	18.7	Sh	〃	〃	289	〃	556	〃	〃		400	Che
〃	〃	229	〃	3205	〃	〃	〃	16.6	〃	〃	〃	290	〃	157	床面	〃		250	Qua
III- 90	157	230	〃	1334	覆5	〃	〃	24.1	〃	〃	〃	291	〃	155	〃	〃		280	〃
〃	〃	231	〃	1430	覆6	〃	〃	45.7	〃	〃	〃	292	〃	1847	覆6	〃		520	〃
〃	〃	232	〃	2857	〃	〃	〃	10.9	〃	〃	〃	293	〃	53	床面	〃		320	〃
〃	〃	233	〃	3205	覆土	〃	IIIa	2.9	〃	〃	〃	294	〃	1493	覆6	〃		360	And
〃	〃	234	〃	2599	〃	スクレイパー	EII	10.6	Obs	〃	〃	295	〃	1312	〃	〃		330	Qua
〃	〃	235	〃	2753	〃	〃	〃	18.4	〃	〃	〃	296	〃	HP-15	覆土	〃		530	〃
〃	〃	236	〃	2506	〃	〃	〃	15.9	〃	〃	〃	297	〃	2025	〃	〃		270	And
〃	〃	237	〃	2620	〃	〃	〃	12.6	〃	III-95	〃	298	〃	1559	〃	くぼみ石		560	〃
〃	〃	238	〃	2460	〃	〃	〃	30.3	〃	〃	〃	299	〃	1150	〃	〃		520	〃
〃	〃	239	〃	2381	〃	〃	〃	27.2	〃	〃	〃	300	〃	1174	〃	〃		390	〃
〃	〃	240	〃	3003	覆4	〃	〃	47.8	〃	〃	〃	301	〃	1684	覆5	〃		910	Qua
〃	〃	241	〃	3232	覆土	〃	I	33.4	〃	〃	〃	302	〃	941	覆土	〃		830	And
〃	〃	242	〃	2287	〃	〃	IIIa	15.1	〃	〃	〃	303	〃	3105	覆5	〃		180	〃
〃	〃	243	〃	2497	〃	〃	IIa	43.5	〃	〃	160	304	〃	448	覆土	石錘?		247.3	〃
〃	〃	244	〃	2461	〃	〃	IV	44.3	Sh	〃	〃	305	〃	2699	〃	石鋸		40	Sa
〃	〃	245	〃	142	床面	〃	〃	5.6	Obs	〃	〃	306	〃	1645 2640	〃	〃		50	〃
〃	〃	246	〃	2488	覆土	〃	〃	14.5	Sh	〃	〃	307	〃	1664	〃	〃		180	And
〃	〃	247	〃	2411	〃	〃	〃	26.3	〃	〃	〃	308	〃	1349	覆6	砥石		380	Sa
III- 91	〃	248	〃	634	〃	〃	IIIa	120.3	〃	III-96	〃	309	〃	1491	〃	〃		6,600	〃
〃	〃	249	〃	3048	覆4	〃	IIIb	120	And	〃	〃	310	〃	1765	〃	石皿・台石		11,000	And
〃	〃	250	〃	2352	覆土	楔形石器		6.1	Obs	〃	〃	311	〃	1489	覆5	〃		18,400	〃
〃	〃	251	〃	2837	〃	〃		5.9	〃	〃	〃	312	〃	1717	覆6	〃		21,500	Por
〃		252	〃	2763	床面	石斧	Ib$_1$	0.9	Sch	〃	〃	313	〃	1425	〃	〃		18,000	And
〃		253	〃	2191	覆土	〃	IIb$_1$	3.0	Gr-Mud	〃	〃	314	〃	1346	〃	〃		22,500	〃
〃		254	〃	2580	〃	〃	〃	5.4	Sch	〃	〃	315	〃	1448	覆5	〃		27,000	Por
〃	156	255	〃	19	〃	〃	II-	108.3	Gr-Mud	III-102		23	FH-14	25	覆土	石鏃	IIc	0.2	Obs
〃	〃	256	〃	658	〃	〃	〃	56.3	〃	〃		24	〃	247	〃	〃	〃	1.2	〃

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	名称	分類	重量(g)	石質	挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	名称	分類	重量(g)	石質
III-102		25	FH-14	140	覆土	石鏃	IIc	1.7	Obs	III-115	161	78	FH-16	2347	覆土	石鏃	IIc	2.4	Sh
〃		26	〃	113	〃	〃	〃	3.0	〃	〃	〃	79	〃	1332	〃	〃	〃	1.2	Obs
〃		27	〃	102	〃	〃	〃	3.0	〃	〃	〃	80	〃	1128	〃	〃	〃	1.9	〃
〃		28	〃	26	〃	〃	〃	1.0	〃	〃	〃	81	〃	2347	〃	〃	〃	1.4	〃
〃		29	〃	75	〃	〃	〃	1.6	〃	〃	〃	82	〃	777	〃	〃	〃	1.5	〃
〃		30	〃	2	〃	〃	〃	1.2	〃	〃	〃	83	〃	100	〃	〃	〃	2.0	〃
〃		31	〃	139	〃	〃	〃	0.8	〃	〃		84	〃	1036	〃	〃	〃	1.6	〃
〃		32	〃	30	〃	〃	〃	1.5	〃	〃	〃	85	〃	1127	〃	〃	〃	1.6	〃
〃		33	〃	247	〃	〃	IId_1	0.9	〃	〃	〃	86	〃	2876	〃	〃	〃	2.1	〃
〃		34	〃	16	〃	〃	〃	1.4	〃	〃	〃	87	〃	3169	覆2	〃	〃	2.4	〃
〃		35	〃	248	〃	ポイント・ナイフ	Ib	7.6	〃	〃	〃	88	〃	3505	覆1	〃	〃	0.9	〃
〃		36	〃	309	〃	〃	II	75	And	〃	〃	89	〃	1577	覆2	〃	〃	0.9	〃
〃		37	〃	179	〃	つまみ付ナイフ	Ia	8.2	Sh	〃	〃	90	〃	2717	〃	〃	〃	2.1	〃
〃		38	〃	HP-16	〃	〃	Ib	17.0	〃	〃	〃	91	〃	299	覆土	〃	〃	1.9	〃
〃		39	〃	37	〃	〃	〃	18.6	〃	〃	〃	92	〃	2618	覆2	〃	〃	1.1	〃
〃		40	〃	265	〃	〃	IIb	18.7	〃	〃	〃	93	〃	1221	覆土	〃	〃	2.2	〃
〃		41	〃	249	〃	〃	IIa	6.1	〃	〃	〃	94	〃	676	〃	〃	〃	3.0	〃
〃		42	〃	122	〃	〃	IIIa	6.7	〃	〃	〃	95	〃	36	〃	〃	〃	3.2	〃
〃		43	〃	22	〃	〃	〃	7.2	〃	〃	〃	96	〃	HP-23	〃	〃	〃	2.1	〃
〃		44	〃	128	〃	すり石		110	And	〃	〃	97	〃	2347	〃	〃	〃	1.8	〃
〃		45	〃	93	〃	北海道式石冠		2,200	Por	〃	〃	98	〃	1973	覆2	〃	〃	2.2	〃
〃		46	〃	46	〃	球石		200	And	〃	〃	99	〃	186	覆土	〃	〃	2.5	〃
〃		47	〃	31	〃	〃		260	〃	〃	〃	100	〃	1269	〃	〃	〃	2.4	〃
〃		48	〃	6	〃	たたき石		420	Che	〃	〃	101	〃	677	〃	〃	〃	3.1	〃
〃		49	〃	94	〃	たたき石		640	Qua	〃	〃	102	〃	2548	覆3	〃	〃	3.3	〃
III-103		50	〃	206	〃	〃		270	And	〃	〃	103	〃	565	覆土	〃	〃	2.7	〃
〃		51	〃	96	〃	〃		820	Qua	〃	〃	104	〃	133	〃	〃	〃	1.9	〃
〃		52	〃	159	〃	〃		370	And	〃	〃	105	〃	498	〃	〃	〃	2.9	〃
〃		53	〃	107	〃	くぼみ石		280	〃	〃	〃	106	〃	HP-28	〃	〃	〃	1.5	〃
〃		54	〃	68	〃	石錐		70	Sa	〃	〃	107	〃	946	〃	〃	〃	1.5	〃
III-104		59	FH-15	28	〃	石鏃	Ib	1.0	Obs	〃	〃	108	〃	1459	覆1	〃	〃	1.0	〃
〃		60	〃	27	〃	つまみ付ナイフ	Ia	21.5	Sh	〃	〃	109	〃	888	覆土	〃	〃	3.9	〃
〃		61	〃	32	〃	スクレイパー	EII	8.1	Obs	〃	〃	110	〃	1997	覆2	〃	〃	0.8	〃
〃		62	〃	2	〃	すり石		1,170	And	〃	〃	111	〃	1155	覆土	〃	〃	1.0	〃
〃		63	〃	HP- 2	〃	球石		260	〃	〃	〃	112	〃	2441	〃	〃	〃	0.8	〃
〃		64	〃	20	〃	たたき石		400	Qua	〃	〃	113	〃	3488	覆2	〃	〃	1.1	〃
〃		65	〃	HP- 9	〃	〃		570	〃	〃	〃	114	〃	1459	覆1	〃	〃	1.4	〃
〃		66	〃	〃	〃	〃		520	〃	〃	〃	115	〃	1973	覆2	〃	〃	1.4	〃
〃		67	〃	HP- 2	〃	〃		270	〃	〃	〃	116	〃	2920	〃	〃	〃	1.3	〃
〃		68	〃	HP- 9	〃	〃		1,110	〃	〃	〃	117	〃	2347	覆土	〃	〃	1.3	〃
〃		69	〃	23	〃	〃		560	And	〃	〃	118	〃	HP- 2	〃	〃	〃	1.2	〃
〃		70	〃	19	〃	くぼみ石		660	〃	〃	〃	119	〃	1223	〃	〃	〃	1.3	〃
〃		71	〃	21	〃	石皿・台石		1,840	〃	〃	〃	120	〃	899	〃	〃	〃	2.3	〃
〃		72	〃	1	〃	〃		11,600	Por	〃	〃	121	〃	1973	覆2	〃	〃	1.1	〃
III-115	161	61	FH-16	3060	覆2	石鏃	Ia	1.3	Aga	〃	〃	122	〃	2845	〃	〃	〃	2.1	〃
〃	〃	62	〃	1560	覆土	〃	〃	1.2	Obs	〃	〃	123	〃	925	覆土	〃	〃	2.4	〃
〃	〃	63	〃	1965	覆2	〃	〃	1.7	〃	〃		124	〃	1965	覆2	〃	〃	0.3	〃
〃	〃	64	〃	666	覆土	〃	IIc	0.5	〃	〃	〃	125	〃	2724	覆土	〃	IId_1	0.9	〃
〃	〃	65	〃	699	〃	〃	〃	0.3	〃	〃	〃	126	〃	2367	〃	〃	〃	0.2	〃
〃	〃	66	〃	3130	覆3	〃	〃	0.5	〃	〃	〃	127	〃	2876	〃	〃	IId_2	0.7	〃
〃	〃	67	〃	1806	覆土	〃	〃	0.7	〃	〃	〃	128	〃	1806	〃	〃	IIIa	0.7	〃
〃	〃	68	〃	822	〃	〃	〃	0.5	〃	〃	〃	129	〃	1790	〃	〃	IIIb	1.4	〃
〃	〃	69	〃	HP-20	〃	〃	〃	0.7	〃	〃	〃	130	〃	104	〃	〃	〃	1.3	〃
〃	〃	70	〃	2700	〃	〃	〃	1.1	〃	〃	〃	131	〃	3133	〃	石錐	I	4.2	Sh
〃	〃	71	〃	88	〃	〃	〃	1.3	〃	〃	〃	132	〃	2072	覆2	〃	〃	2.8	Obs
〃	〃	72	〃	209	〃	〃	〃	1.3	〃	〃	〃	133	〃	3133	覆土	〃	〃	2.7	Sh
〃	〃	73	〃	2876	〃	〃	〃	1.5	〃	〃	〃	134	〃	3691	覆1	〃	〃	3.0	〃
〃	〃	74	〃	1225	〃	〃	〃	1.0	〃	〃	〃	135	〃	2006	〃	〃	IIIa	2.4	〃
〃	〃	75	〃	169	〃	〃	〃	1.3	〃	〃	〃	136	〃	2740	覆2	〃	IIIb	2.2	Obs
〃	〃	76	〃	423	〃	〃	〃	1.2	〃	〃	〃	137	〃	3499	〃	〃	IIIa	24.8	Sh
〃	〃	77	〃	949	〃	〃	〃	1.6	〃	III-116	〃	138	〃	913	〃	ポイント・ナイフ	Ia_1	10.6	Obs

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	名称	分類	重量(g)	石質	挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	名称	分類	重量(g)	石質
III-116	161	139	FH-16	233	覆2	ポイント・ナイフ	Ia_1	9.1	Obs	III-119	163	200	FH-16	623	覆土	すり石		370	And
〃	〃	140	〃	2972	〃	〃	Ia_2	22.6	And	〃	〃	201	〃	523	〃	〃		380	〃
〃	〃	141	〃	2955	〃	〃	Ib	6.1	Obs	III-120		202	〃	1010	〃	〃		1,010	〃
〃	〃	142	〃	HP-56	覆土	〃	〃	7.0	〃	〃	〃	203	〃	1836	覆1	〃		610	〃
〃	〃	143	〃	1066	〃	〃	Ia_2	19.1	Sh	〃	〃	204	〃	283	覆土	〃		166.5	〃
〃	〃	144	〃	1181	〃	〃	〃	21.7	〃	〃	〃	205	〃	1021	〃	〃		490	〃
〃	〃	145	〃	2543	〃	〃	〃	170	And	〃	〃	206	〃	HP- 2	〃	すり石?		840	〃
〃	〃	146	〃	519	〃	〃	II	33.6	Sh	〃	〃	207	〃	3054	覆2	北海道式石冠		150	〃
〃	〃	147	〃	396	〃	〃	〃	40.5	Obs	〃	〃	208	〃	1661	覆1	〃		1,380	〃
〃	〃	148	〃	1024	〃	〃	〃	34.2	Sh	〃	〃	209	〃	2247	〃	〃		480	Por
〃	〃	149	〃	1460	覆1	つまみ付ナイフ	Ia	15.2	〃	〃	〃	210	〃	462	覆土	〃		580	And
〃	〃	150	〃	624	覆土	〃	Ib	6.4	〃	〃	〃	211	〃	981	〃	〃		870	〃
〃	〃	151	〃	1222	〃	〃	〃	11.8	〃	〃	〃	212	〃	2070	覆3	〃		320	〃
〃	〃	152	〃	3623	〃	〃	〃	9.6	〃	〃	〃	213	〃	852	覆土	〃		510	〃
〃	〃	153	〃	1091	〃	〃	〃	19.3	〃	〃	〃	214	〃	990	〃	〃		760	Por
〃	〃	154	〃	3170	覆2	〃	IIb	16.4	〃	〃	〃	215	〃	895	〃	〃		1,450	And
〃	〃	155	〃	18	覆土	〃	〃	7.9	〃	〃	〃	216	〃	450	〃	〃		770	〃
〃	〃	156	〃	2581	覆3	〃	IIa	13.2	〃	〃	〃	217	〃	1	〃	〃		1,620	〃
〃	〃	157	〃	992	覆土	〃	〃	23.2	〃	〃	〃	218	〃	702	〃	〃		1,380	〃
〃	〃	158	〃	1193	〃	〃	IIb	53.1	〃	III-121	164	219	〃	988	〃	球石		380	〃
III-117	162	159	〃	2647	覆3	スクレイパー	EII	7.1	Obs	〃	〃	220	〃	1043	〃	〃		450	〃
〃	〃	160	〃	3559	覆2	〃	〃	7.9	〃	〃	〃	221	〃	551	〃	〃		650	〃
〃	〃	161	〃	2525	覆2	〃	〃	10.5	〃	〃	〃	222	〃	1038	〃	たたき石		210	Che
〃	〃	162	〃	756	覆土	〃	〃	17.3	〃	〃	〃	223	〃	2149	覆2	〃		260	And
〃	〃	163	〃	2430	覆3	〃	〃	18.2	〃	〃	〃	224	〃	3248	〃	〃		200	〃
〃	〃	164	〃	755	覆土	〃	〃	27.8	〃	〃	〃	225	〃	1400	覆土	〃		145	〃
〃	〃	165	〃	594	〃	〃	〃	16.4	Sh	〃	〃	226	〃	344	〃	〃		510	〃
〃	〃	166	〃	2893	覆2	〃	〃	15.8	Obs	〃	〃	227	〃	2794	覆2	〃		330	〃
〃	〃	167	〃	1472	覆1	〃	〃	25.4	〃	〃	〃	228	〃	1265	覆土	〃		500	〃
〃	〃	168	〃	3011	覆2	〃	〃	27.6	〃	〃	〃	229	〃	1571	覆2	〃		590	Qua
〃	〃	169	〃	484	覆土	〃	〃	5.8	〃	〃	〃	230	〃	95	覆土	〃		720	And
〃	〃	170	〃	2628	覆2	〃	EI	3.6	〃	〃	〃	231	〃	571	〃	〃		890	Qua
〃	〃	171	〃	2799	覆3	〃	I	24.7	〃	III-122	〃	232	〃	334	〃	〃		530	〃
〃	〃	172	〃	2261	覆1	〃	〃	30.4	Sh	〃	〃	233	〃	128	〃	〃		490	And
〃	〃	173	〃	3721	覆土	〃	IIa	6.9	Obs	〃	〃	234	〃	262	〃	〃		720	Qua
〃	〃	174	〃	3178	覆2	〃	IIIa	10.4	〃	〃	〃	235	〃	1697	〃	〃		80	Gr-Mud
〃	〃	175	〃	HP- 5	覆土	〃	〃	17.1	〃	〃	〃	236	〃	2689	覆1	くぼみ石		390	And
〃	〃	176	〃	2525	覆2	〃	〃	28.4	Sh	〃	〃	237	〃	161	覆土	〃		650	〃
〃	〃	177	〃	85	覆土	〃	〃	11.2	Obs	〃	〃	238	〃	970	〃	〃		250	〃
〃	〃	178	〃	1609	〃	〃	〃	15.5	〃	〃	〃	239	〃	2870	〃	石錐		21.5	Sa
〃	〃	179	〃	516	〃	〃	〃	11.5	〃	〃	〃	240	〃	424	〃	〃		42.7	〃
〃	〃	180	〃	3388	覆1	〃	IIIb	16.3	Sh	〃	〃	241	〃	2044	覆2	〃		50.6	And
III-118	〃	181	〃	1578	覆2	〃	〃	38.1	Obs	〃	〃	242	〃	2523	〃	〃		56.6	Sa
〃	〃	182	〃	3182	覆土	〃	IV	17.1	〃	〃	〃	243	〃	1473	覆1	〃		19.6	〃
〃	〃	183	〃	463	〃	〃	〃	15.3	〃	〃	〃	244	〃	900	覆土	〃		149.7	〃
〃	〃	184	〃	2455	〃	〃	〃	9.2	Sh	〃	〃	245	〃	2093	覆1	R礫		320	Por
〃	〃	185	〃	3178	覆2	〃	〃	9.1	〃	〃	〃	246	〃	2792	覆2	〃		3,400	And
〃	〃	186	〃	3375	覆土	〃	〃	7.4	Obs	〃	〃	247	〃	653	覆土	石錘		590	〃
〃	〃	187	〃	3367	〃	〃	〃	13.5	Sh	〃	〃	248	〃	711	〃	〃		476.6	〃
〃	〃	188	〃	3217	〃	楔形石器		6.0	Obs	III-123	165	249	〃	2851	〃	石皿・台石		6,250	〃
〃	〃	189	〃	1837	覆1	〃		10.9	〃	〃	〃	250	〃	1298	〃	〃		21,200	〃
〃	〃	190	〃	812	覆土	コア		730	Sh	〃	〃	251	〃	2	〃	〃		24,500	〃
〃	〃	191	〃	3378 121	〃	〃		207.4	〃	〃	〃	252	〃	1281	〃	〃		12,700	〃
III-119	〃	192	〃	975	〃	石斧	IIb_2	51.6	Gr-Mud	〃	〃	253	〃	4	〃	〃		17,000	〃
〃	〃	193	〃	1610	〃	〃	IIa_2	79.8	Gr-Sch	〃	〃	254	〃	3	〃	〃		21,800	〃
〃	〃	194	〃	3000	〃	〃	〃	108.8	Sch	〃	〃	255	〃	1280	〃	〃		26,900	〃
〃	〃	195	〃	2283	〃	〃	〃	98.5	〃	III-127		3	FH-17	56	〃	石錐	IIc	1.8	Obs
〃	〃	196	〃	916	〃	〃	I-	195.9	〃	〃		4	〃	13	床面	たたき石		1,080	Qua
〃	〃	197	〃	936	〃	〃	III-	254.3	Mud	〃		5	〃	11	〃	〃		880	〃
〃	163	198	〃	2562	覆2	すり石		140	And	〃		6	〃	52	覆土	石皿・台石		1,800	And
〃	〃	199	〃	599	覆土	〃		210	〃	〃		11	FH-18	20	〃	石錐	IIc	0.9	Obs

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	名称	分類	重量(g)	石質	挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	名称	分類	重量(g)	石質
III-127		12	FH-18	67	床面	つまみ付ナイフ	Ib	16.2	Sh	III-140		45	FH-22	505	覆土	すり石		110	And
〃		13	〃	159	覆土	球石		580	And	〃		46	〃	305	〃	北海道式石冠		1,000	〃
〃		14	〃	104	〃	〃		730	〃	〃		47	〃	451	〃	〃		1,220	〃
〃		15	〃	157	〃	たたき石		660	〃	〃		48	〃	307	〃	たたき石		290	Che
〃		16	〃	74	〃	〃		470	Qua	〃		49	〃	69	〃	〃		1,120	Qua
〃		17	〃	99	〃	〃		690	〃	〃		50	〃	406	〃	〃		540	And
III-130		24	FH-19	641	〃	石鏃	IIc	0.6	Obs	III-141		51	〃	470	〃	〃		590	Qua
〃		25	〃	415	〃	〃	〃	0.9	〃	〃		52	〃	13	〃	〃		550	And
〃		26	〃	438	〃	〃	〃	1.5	〃	〃		53	〃	400	〃	くぼみ石		750	〃
〃		27	〃	324	〃	〃	〃	1.8	〃	〃		54	〃	143	〃	〃		530	〃
〃		28	〃	308	〃	〃	〃	1.8	〃	〃		55	〃	314	〃	〃		512	〃
〃		29	〃	376	〃	〃	〃	1.2	〃	〃		56	〃	688	〃	石錐		17.7	Rhy
〃		30	〃	650	〃	〃	IId$_2$	1.6	〃	〃		57	〃	483 484	〃	砥石		800	Sa
〃		31	〃	HP-29	〃	〃	IIIa	1.6	〃	〃		58	〃	6	〃	〃		1,960	Qua
〃		32	〃	323	〃	ポイント・ナイフ	IVb	23.0	Sh	〃		59	〃	35	〃	石皿・台石		5,180	And
〃		33	〃	541	〃	スクレイパー	I	0.6	Obs	〃		60	〃	58	〃	〃		10,400	〃
〃		34	〃	678-①	〃	〃	〃	0.6	〃	〃		61	〃	392	〃	〃		11,800	〃
〃		35	〃	547	〃	〃	EII	13.2	〃	III-143		1	FH-23	14	〃	北海道式石冠		1,820	And
〃		36	〃	488	床面	〃	〃	27.4	〃	〃		2	〃	6	〃	たたき石		500	〃
〃		37	〃	520	覆土	〃	IV	4.4	〃	〃		3	〃	8	〃	〃		650	Qua
III-131		38	FH-19	334	〃	石斧	Ib$_1$	12.6	Gr-Mud	〃		4	〃	25	〃	くぼみ石		80	And
〃		39	〃	381	〃	〃	Ia$_2$	50.2	〃	〃		5	〃	1	〃	石皿・台石		3,300	〃
〃		40	〃	570	〃	すり石		120	And	III-146		8	FH-24	220	〃	石鏃	IIc	1.2	Sh
〃		41	〃	469	床面	北海道式石冠		1,610	〃	〃		9	〃	175	〃	スクレイパー	EII	15.0	Obs
〃		42	〃	306	覆土	たたき石		600	Qua	〃		10	〃	189	〃	楔形石器		3.6	Sh
〃		43	〃	463	床面	〃		540	〃	〃		11	〃	27	〃	北海道式石冠		1,250	And
〃		44	〃	507	〃	〃		850	〃	〃		12	〃	39	〃	〃		1,480	〃
〃		45	〃	621	覆土	くぼみ石		150	And	III-147		13	〃	17	〃	たたき石		370	Qua
〃		46	〃	325	〃	〃		600	〃	〃		14	〃	136	〃	〃		440	〃
III-133		12	FH-20	126	〃	石鏃	IIIb	1.7	Obs	〃		15	〃	90	〃	〃		570	〃
〃		13	〃	54	〃	〃	IIc	5.4	〃	〃		16	〃	112	〃	〃		740	〃
〃		14	〃	14	〃	北海道式石冠		540	And	〃		17	〃	21	〃	〃		670	And
〃		15	〃	3	〃	石皿・台石		2,100	〃	〃		18	〃	104	〃	〃		750	Che
〃		19	FH-$\frac{20}{31}$	93	〃	ポイント・ナイフ	II	7.4	Obs	〃		19	〃	7	〃	くぼみ石		610	And
〃		20	〃	113	〃	すり石		85	And	〃		20	〃	103	〃	〃		220	〃
〃		21	〃	180	〃	たたき石		720	Qz	〃		21	〃	$\frac{50}{209}$	〃	砥石		455	Sa
〃		22	〃	162	〃	R 礫		560	And	III-150		6	FH-25	74	〃	石鏃	IIIb	0.8	Obs
III-136		11	FH-21	204	覆2	石鏃	IIc	0.3	Obs	〃		7	〃	81	〃	ポイント・ナイフ	Ia$_1$	17.6	〃
〃		12	〃	HP-6	覆土	〃	〃	1.2	〃	〃		8	〃	111	〃	つまみ付ナイフ	Ib	9.0	Sh
〃		13	〃	211	床面	つまみ付ナイフ	Ib	2.6	Sh	〃		9	〃	112	〃	スクレイパー	IIIa	10.6	Obs
〃		14	〃	173	覆1	〃	〃	8.1	〃	〃		10	〃	63	〃	〃	IV	6.7	〃
〃		15	〃	154	覆土	スクレイパー	IIIa	8.4	Obs	〃		11	〃	100	〃	すり石		300	And
〃		16	〃	212	床面	〃	IV	5.9	Sh	〃		12	〃	36	〃	北海道式石冠		2,000	〃
〃		17	〃	5	〃	石斧	Ic$_2$	35.0	Gr-Mud	〃		13	〃	30	〃	たたき石		580	〃
〃		18	〃	33	〃	たたき石		660	Sa	〃		14	〃	27	〃	〃		630	Qua
〃		19	〃	64	〃	〃		1,130	Qua	〃		15	〃	15	〃	石皿・台石		6,000	And
〃		20	〃	62	〃	〃		830	〃	III-153		7	FH-26	42	〃	石鏃	IIc	0.6	Obs
〃		21	〃	60	〃	〃		940	〃	〃		8	〃	43	〃	スクレイパー	EII	10.3	〃
〃		22	〃	61	〃	石皿・台石		6,000	And	〃		9	〃	1	〃	〃	IIIa	8.2	〃
III-140		33	FH-22	467	覆土	石鏃	IIc	2.0	Obs	〃		10	〃	18	〃	石斧	IIa$_2$	109.6	Gr-Mud
〃		34	〃	506	〃	〃	〃	1.7	〃	〃		11	〃	3	〃	たたき石		230	Qua
〃		35	〃	471	〃	〃	〃	1.9	〃	〃		12	〃	60	〃	〃		390	〃
〃		36	〃	131	〃	〃	〃	2.4	〃	〃		13	〃	9	〃	〃		530	〃
〃		37	〃	831	〃	石錐	IIb	3.5	Che	〃		14	〃	13	〃	砥石		6,000	Sa
〃		38	〃	405	〃	ポイント・ナイフ	Ia$_1$	5.4	Obs	III-155		9	FH-27	20	〃	石鏃	IId$_1$	1.8	Obs
〃		39	〃	528	〃	つまみ付ナイフ	Ib	15.4	Sh	〃		10	〃	63	〃	ポイント・ナイフ	Ia$_2$	11.4	〃
〃		40	〃	491	〃	スクレイパー	I	7.6	Obs	〃		11	〃	54	〃	つまみ付ナイフ	Ia	6.2	Sh
〃		41	〃	717	〃	〃	IIIa	28.8	〃	〃		12	〃	64	〃	スクレイパー	EII	5.0	〃
〃		42	〃	802	〃	石斧	IIb$_1$	48.8	Sch	〃		13	〃	37	〃	〃	IIIa	9.8	Obs
〃		43	〃	297	〃	すり石		110	And	〃		14	〃	4	〃	北海道式石冠		2,200	And
〃		44	〃	4	〃	〃		310	〃	〃		15	〃	3	〃	たたき石		530	〃

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	名称	分類	重量(g)	石質	挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	名称	分類	重量(g)	石質
III-155		16	FH-27	5	覆土	たたき石		600	Qua	III-169		67	FH-29	451	覆3	つまみ付ナイフ	Ia	10.2	Sh
〃		17	〃	33	〃	〃		520	〃	〃		68	〃	589	覆土	〃	IIIa	13.0	〃
〃		18	〃	46	〃	石皿・台石		3,400	And	〃		69	〃	119	〃	〃	IIa	24.2	〃
〃		19	〃	52	〃	〃		6,200	〃	〃		70	〃	401	〃	スクレイパー	EII	8.0	Obs
III-160		42	FH-28	505	〃	石鏃	Ia	0.8	Obs	〃		71	〃	868	〃	〃	〃	9.4	〃
〃		43	〃	137	〃	〃	IIc	0.8	〃	〃		72	〃	712	〃	〃	〃	10.3	Sh
〃		44	〃	616	〃	〃	〃	0.9	〃	〃		73	〃	797	〃	〃	〃	17.9	Obs
〃		45	〃	488	〃	〃	〃	1.8	〃	〃		74	〃	486	〃	〃	〃	18.6	〃
〃		46	〃	616	〃	〃	〃	1.7	〃	〃		75	〃	510	〃	〃	IIa	17.6	〃
〃		47	〃	662	〃	石錐	IIIa	0.9	Sh	〃		76	〃	289	〃	石斧	I-	43.9	Gr-Mud
〃		48	〃	414	〃	〃	〃	1.7	〃	〃		77	〃	109	〃	〃	〃	52,3	Gr-Sch
〃		49	〃	383	〃	ポイント・ナイフ	Ia_2	5.9	Obs	〃		78	〃	HP- 6	〃	〃	〃	63.0	〃
〃		50	〃	613	〃	〃	〃	55	And	III-170		79	〃	175	〃	すり石		230	And
〃		51	〃	463	〃	〃	〃	55	〃	〃		80	〃	165	〃	〃		390	〃
〃		52	〃	139	〃	〃	Ib	4.9	Obs	〃		81	〃	595	〃	〃		320	〃
〃		53	〃	8	〃	〃	II	70.4	Sh	〃		82	〃	777	覆2	〃		200	〃
〃		54	〃	HP- 1	〃	つまみ付ナイフ	Ia	24.8	〃	〃		83	〃	203	覆土	〃		210	〃
〃		55	〃	652	〃	〃	〃	20.7	Aga	〃		84	〃	740	覆2	〃		170	〃
〃		56	〃	27	〃	〃	IIb	21.5	Sh	〃		85	〃	28	覆土	北海道式石冠		1,100	〃
〃		57	〃	142	〃	〃	IIIa	20.8	〃	〃		86	〃	12	〃	〃		640	〃
〃		58	〃	506	〃	スクレイパー	EII	15.2	Obs	〃		87	〃	295	〃	〃		980	〃
〃		59	〃	337	〃	〃	I	16.2	〃	〃		88	〃	320	〃	球石		590	〃
〃		60	〃	694	〃	〃	IIIa	2.8	〃	〃		89	〃	322	〃	〃		560	〃
〃		61	〃	626	〃	〃	〃	4.4	〃	〃		90	〃	134	〃	たたき石		620	〃
〃		62	〃	145	〃	石斧	Ia_2	33.0	Sch	〃		91	〃	215	〃	〃		460	Qua
〃		63	〃	386	〃	すり石		230	And	〃		92	〃	257	〃	〃		750	And
〃		64	〃	193	〃	〃		1,070	〃	〃		93	〃	188	〃	〃		790	Qua
III-161		65	〃	738	〃	〃		200	〃	III-171		94	〃	HP- 6	〃	〃		1,730	〃
〃		66	〃	108	〃	〃		480	〃	〃		95	〃	207	〃	〃		640	〃
〃		67	〃	20	〃	〃		340	〃	〃		96	〃	122	〃	くぼみ石		410	And
〃		68	〃	264	〃	北海道式石冠		1,700	〃	〃		97	〃	370	覆3	石錘		90	Sa
〃		69	〃	239	〃	球石		500	〃	〃		98	〃	78	覆土	石皿・台石		11,000	And
〃		70	〃	159	〃	〃		550	〃	〃		99	〃	246	〃	〃		4,500	〃
〃		71	〃	524	〃	たたき石		120	〃	III-174		6	FH-30	12	床面	スクレイパー	IIIa	22.0	Obs
〃		72	〃	68	〃	〃		650	Qua	〃		7	〃	24	覆土	北海道式石冠		800	And
〃		73	〃	244	〃	〃		680	〃	〃		8	〃	31	〃	球石		280	〃
〃		74	〃	263	〃	〃		540	And	〃		9	〃	23	〃	たたき石		470	Qua
〃		75	〃	196	〃	くぼみ石		100	〃	〃		10	FH-30	28	〃	〃		660	〃
〃		76	〃	153	〃	〃		340	〃	〃		11	FH-31	43	〃	石鏃	Ia	5.8	Obs
〃		77	〃	273	〃	〃		550	〃	〃		12	〃	60	〃	つまみ付ナイフ	IIa	9.5	Sh
III-162		78	〃	697	〃	石錘		11.0	Sa	〃		13	〃	53	〃	スクレイパー	IIIa	5.7	Obs
〃		79	〃	597	〃	〃		24.8	〃	〃		14	〃	38	〃	たたき石		610	Qua
〃		80	〃	HP- 2	〃	砥石		190	〃	〃		15	〃	94	〃	北海道式石冠		3,000	And
〃		81	〃	587 247	〃	〃		790	〃	〃		16	〃	53	〃	石皿・台石		9,800	Qua
〃		82	〃	335	床面	石皿・台石		10,200	And	III-176		13	FH-32	65	覆2	石鏃	Ib	1.0	Obs
〃		83	〃	249	覆土	〃		12,000	〃	〃		14	〃	12	覆1	〃	IIc	0.6	〃
III-169		52	FH-29	788	〃	石鏃	Ia	0.5	Obs	〃		15	〃	12	〃	〃	〃	1.7	〃
〃		53	〃	503	〃	〃	〃	4.0	〃	〃		16	〃	52	覆2	〃	IIIb	2.0	〃
〃		54	〃	631	覆3	〃	IIc	0.7	〃	〃		17	〃	13	覆1	つまみ付ナイフ	Ia	2.0	〃
〃		55	〃	468	〃	〃	〃	1.7	〃	〃		18	〃	14	〃	スクレイパー	IIa	47.8	Sh
〃		56	〃	796	覆土	〃	〃	1.9	〃	〃		19	〃	66	覆2	〃	IV	13.8	〃
〃		57	〃	753	〃	〃	IId_1	1.7	Sh	〃		20	〃	59	〃	すり石		290	And
〃		58	〃	803	〃	〃	IId_2	1.5	Obs	〃		21	〃	2	覆土	〃		240	〃
〃		59	〃	746	〃	石錐	I	9.2	Sh	〃		22	〃	25	覆1	たたき石		390	Qua
〃		60	〃	551	〃	〃	IIIa	1.5	Aga	〃		23	〃	60	覆2	〃		530	And
〃		61	〃	584	〃	〃	〃	1.6	Sh	〃		24	〃	61	〃	〃		580	〃
〃		62	〃	294	〃	ポイント・ナイフ	Ia_1	5.0	Obs	〃		25	〃	1	覆土	石皿・台石		6,500	〃
〃		63	〃	225	〃	〃	〃	19.5	〃	III-181		31	FH-33	238	覆土	石鏃	IIc	1.2	Obs
〃		64	〃	619	覆4	〃	II	28.3	〃	〃		32	〃	488	〃	〃	〃	1.8	Sh
〃		65	〃	229	覆土	〃	〃	24.3	Sh	〃		33	〃	352	〃	石錐	IIIa	0.8	〃
〃		66	〃	693	〃	つまみ付ナイフ	Ia	5.5	〃	〃		34	〃	353	〃	つまみ付ナイフ	Ic	5.2	〃

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	名称	分類	重量(g)	石質	挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	名称	分類	重量(g)	石質
III-181		35	FH-33	261	覆土	つまみ付ナイフ	Ia	7.6	Sh	III-191		44	FH-36	374	覆土	石錐	IIIa	1.6	Sh
〃		36	〃	519	〃	スクレイパー	EII	11.0	Obs	〃		45	〃	HP-23	〃	〃	〃	2.1	〃
〃		37	〃	504	〃	〃	IV	50.5	Rhy	〃		46	〃	545	〃	〃	〃	1.2	〃
〃		38	〃	489	〃	〃	I	14.0	Sh	〃		47	〃	374	〃	〃	〃	1.8	〃
〃		39	〃	545	〃	〃	IIIa	15.8	Obs	〃		48	〃	405	〃	〃	〃	2.6	〃
〃		40	〃	545	〃	〃	IV	14.4	〃	〃		49	〃	598	〃	〃	IIb	13.7	Che
〃		41	〃	512	〃	石斧	IIa$_2$	80	Gr-Mud	〃		50	〃	410	〃	ポイント・ナイフ	Ia$_1$	4.5	Obs
〃		42	〃	422	〃	〃	II-	350	La-Ba	〃		51	〃	615	〃	〃	Ia$_2$	8.8	〃
〃		43	〃	36	〃	すり石		320	And	〃		52	〃	491	〃	〃	II	70.0	Sh
〃		44	〃	427	〃	〃		820	〃	〃		53	〃	605	〃	つまみ付ナイフ	Ib$_1$	6.7	〃
〃		45	〃	215	〃	〃		160	〃	〃		54	〃	468	〃	〃	Ib	8.2	〃
〃		46	〃	62	〃	〃		960	〃	〃		55	〃	HP-26	〃	〃	Ia	16.1	〃
〃		47	〃	396	〃	〃		290	〃	〃		56	〃	319	〃	〃	〃	14.5	〃
〃		48	〃	68	〃	北海道式石冠		730	Poy	〃		57	〃	434	〃	〃	〃	16.4	〃
〃		49	〃	235	〃	〃		1,260	And	〃		58	〃	469	〃	スクレイパー	EII	14.5	Obs
III-182		50	〃	7	〃	たたき石		690	Qua	〃		59	〃	450	〃	〃	〃	23.3	〃
〃		51	〃	107	〃	〃		1,330	〃	〃		60	〃	300	〃	〃	IIa	14.2	〃
〃		52	〃	377	〃	〃		1,460	〃	〃		61	〃	371	〃	〃	IIIa	17.8	〃
〃		53	〃	130	〃	〃		800	〃	〃		62	〃	263 512	〃	〃	I	111.5	〃
〃		54	〃	229	〃	くぼみ石		350	And	〃		63	〃	619	〃	〃	V	4.6	〃
〃		55	〃	473	〃	石鋸		26.0	Sa	〃		64	〃	421	〃	楔形石器		16.6	〃
〃		56	〃	376	〃	砥石		1,830	〃	III-192		65	〃	376	〃	石斧	I-	113.7	Sch
〃		57	〃	45	〃	石皿・台石		19,400		〃		66	〃	101	〃	すり石		400	And
〃		60	FH-34	5	〃	たたき石		850	Qua	〃		67	〃	528	〃	たたき石		240	Qua
〃		61	〃	7	〃	石皿・台石		1,570	And	〃		68	〃	73	〃	石皿・台石		22,500	And
III-186		39	FH-35	44	〃	石鏃	IIc	0.8	Obs	〃		69	〃	60	〃	〃		15,000	〃
〃		40	〃	354	覆1	〃	〃	0.7	〃	III-194		6	FH-37	26	〃	石鏃	IId$_1$	0.5	Obs
〃		41	〃	310	〃	〃	〃	1.8	〃	〃		7	〃	21	〃	ポイント・ナイフ	Ia$_2$	7.8	〃
〃		42	〃	44	覆土	〃	〃	1.2	〃	〃		8	〃	9	〃	つまみ付ナイフ	Ib	31.8	Sh
〃		43	〃	259	覆2	〃	IId$_1$	1.4	〃	〃		9	〃	1	床面	すり石		380	And
〃		44	〃	30	覆土	石錐	IIIa	2.6	〃	〃		10	〃	8	覆土	北海道式石冠		1,460	〃
〃		45	〃	40	〃	〃	〃	0.9	〃	〃		11	〃	HP- 4	〃	たたき石		780	Qua
〃		46	〃	382	覆1	〃	〃	0.8	Sh	〃		12	〃	18	〃	〃		750	And
〃		47	〃	19	覆土	〃	〃	0.9	〃	III-198		30	FH-38	593	〃	石鏃	IIc	0.7	Obs
〃		48	〃	19	〃	ポイント・ナイフ	Ia$_2$	3.0	Obs	〃		31	〃	670	〃	〃	〃	0.7	〃
〃		49	〃	355	覆1	〃	〃	20.6	〃	〃		32	〃	829	〃	〃	〃	2.6	〃
〃		50	〃	374	〃	〃	II	20.2	〃	〃		33	〃	229	〃	〃	〃	2.9	〃
〃		51	〃	321	〃	つまみ付ナイフ	Ia	6.7	〃	〃		34	〃	751	〃	〃	〃	1.9	〃
〃		52	〃	24	覆土	スクレイパー	EII	6.1	〃	〃		35	〃	606	〃	〃	〃	1.4	〃
〃		53	〃	224	覆1	〃	IV	27.5	〃	〃		36	〃	238	〃	〃	〃	2.4	〃
〃		54	〃	169	〃	すり石		710	And	〃		37	〃	HP- 8	〃	〃	〃	0.9	〃
〃		55	〃	35	覆土	〃		752	〃	〃		38	〃	706	〃	〃	〃	0.7	〃
〃		56	〃	49	〃	〃		710	〃	〃		39	〃	515	〃	〃	IId$_1$	0.6	〃
〃		57	〃	213	覆1	〃		390	〃	〃		40	〃	529	〃	〃	IIIb	0.4	〃
〃		58	〃	HP-11	覆土	たたき石		580	Qua	〃		41	〃	402	〃	〃	IId$_2$	1.1	〃
〃		59	〃	2	〃	〃		650	〃	〃		42	〃	327	〃	石錐	IIIa	1.4	Sh
〃		60	〃	298	覆1	〃		460	And	〃		43	〃	327	〃	〃	〃	1.5	〃
〃		61	〃	85	覆土	〃		580	Qua	〃		44	〃	830	〃	〃	〃	3.2	〃
III-187		62	〃	35	〃	くぼみ石		210	And	〃		45	〃	715	〃	〃	IIc	7.2	〃
〃		63	〃	64	〃	〃		290	〃	〃		46	〃	831	〃	ポイント・ナイフ	Ia$_1$	5.2	Obs
〃		64	〃	30	〃	砥石		1,420	Sa	〃		47	〃	753	〃	〃	II	25.3	Sh
〃		65	〃	74	〃	〃		1,980	And	〃		48	〃	822	〃	つまみ付ナイフ	Ib$_1$	8.9	〃
III-191		35	FH-36	588	〃	石鏃	IIa	1.3	Obs	〃		49	〃	790	〃	〃	I b	10.2	〃
〃		36	〃	449	〃	〃	IIc	0.9	〃	〃		50	〃	353	〃	〃	Ia	6.6	〃
〃		37	〃	286	〃	〃	〃	2.0	〃	〃		51	〃	456	〃	〃	IIIa	9.6	〃
〃		38	〃	HP-13	〃	〃	〃	1.5	〃	〃		52	〃	295	〃	スクレイパー	EII	17.4	Obs
〃		39	〃	544	〃	〃	IIc	1.8	〃	〃		53	〃	439	〃	〃	〃	5.9	〃
〃		40	〃	607	〃	〃	〃	2.0	〃	〃		54	〃	430	〃	〃	〃	10.8	〃
〃		41	〃	622	〃	〃	IId$_3$	1.3	〃	〃		55	〃	648	〃	〃	〃	12.4	〃
〃		42	〃	414	〃	石錐	IIIa	1.2	Sh	〃		56	〃	457	〃	〃	IIIa	8.2	〃
〃		43	〃	405	〃	〃	IIIa	1.2	〃	〃		57	〃	741	〃	〃	〃	48.6	〃

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	名称	分類	重量(g)	石質	挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	名称	分類	重量(g)	石質
III-199		58	FH-38	649	覆土	スクレイパー	IIIa	7.1	Sh	III-200		83	FH-38	65	覆土	たたき石		350	Qua
〃		59	〃	757	〃	〃	IV	13.4	Obs	〃		84	〃	56	〃	〃		840	〃
〃		60	〃	516	〃	〃	〃	6.2	〃	〃		85	〃	309	〃	〃		450	And
〃		61	〃	807	〃	〃	〃	7.5	〃	〃		86	〃	209	〃	〃		1,070	Qua
〃		62	〃	490	〃	〃	〃	11.4	Sh	〃		87	〃	265	〃	〃		190	And
〃		63	〃	587	〃	楔形石器		2.9	Obs	〃		88	〃	653	〃	〃		110	Mud
〃		64	〃	442	〃	〃		8.0	〃	〃		89	〃	145	〃	石皿・台石		10,000	And
〃		65	〃	818	〃	石斧	IIa$_2$	40.2	Gr-Mud	III-203		10	FH-39	144	〃	ポイント・ナイフ	Ia$_2$	4.5	Obs
〃		66	〃	767	〃	〃	Ib$_1$	7.4	Gr-Sch	〃		11	〃	108	〃	すり石		690	And
〃		67	〃	175	〃	〃	IIa$_2$	284.2	Sch	〃		12	〃	212	〃	〃		490	〃
〃		68	〃	167	〃	〃	〃	124.5	〃	〃		13	〃	201	〃	〃		570	〃
〃		69	〃	602	〃	すり石		30	And	〃		14	〃	164	〃	北海道式石冠		2,200	Por
〃		70	〃	787	〃	〃		170	〃	III-204		15	〃	141	〃	たたき石		540	And
〃		71	〃	50	〃	〃		290	〃	〃		16	〃	148	〃	〃		580	Qua
〃		72	〃	448	〃	〃		130	〃	〃		17	〃	208	〃	〃		1,040	〃
〃		73	〃	7	〃	〃		600	〃	〃		18	〃	162	〃	くぼみ石		480	And
〃		74	〃	602	〃	〃		730	〃	〃		19	〃	163	〃	〃		460	〃
〃		75	〃	91	〃	北海道式石冠		740	〃	〃		20	〃	259	〃	石皿・台石		15,000	〃
〃		76	〃	67	〃	〃		860	〃	〃		21	〃	194	〃	〃		18,400	〃
III-200		77	〃	44	〃	〃		620	〃	III-206		8	FH-40	HP- 1	〃	つまみ付ナイフ	IIIc	5.1	Obs
〃		78	〃	141	〃	〃		820	〃	〃		9	〃	1	〃	北海道式石冠		1,610	And
〃		79	〃	643	〃	球石		610	〃	〃		10	〃	4	〃	たたき石		600	Qua
〃		80	〃	776	〃	たたき石		180	〃	〃		11	〃	9	〃	〃		540	And
〃		81	〃	14	〃	〃		480	Che	〃		12	〃	2	〃	砥石		220	Sa
〃		82	〃	413	〃	〃		210	Qua	〃		13	〃	5	〃	石皿・台石		3,800	Qua

表13　C地区土壙掲載実測土器一覧

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	大きさ(cm)			分類	破片数	文様と特徴					備考
						口径	底径	器高			口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III-215	99	7	FP-110	7	覆土	14.0	7.5	15.5	IIB	15	切り出し状 半竹押引文			無文地 半竹押引文	揚げ底	
III-262	〃	41	FP- 25	1	〃	32.0	(18.0)	(39.1)	IIB2c	12	切り出し状, 斜縄(／) 半竹押引文	絡条体圧痕文 原体約5cm	半竹押引文	結束羽状		
〃	〃	42	FP- 25	19	〃	28.0	(18.6)	(25.2)	IIB2c	54	切り出し状 絡条体圧痕文	絡条体圧痕文		結束斜縄(／)		
〃		43	FP- 25 FP- 47	61 21	〃	(23.8)	14.7	(25.6)	IIB	37				結束斜縄(／)	平底	
III-263	99	55	FP- 26	2	〃	32.0	16.0	37.7	IIB2c	92	切り出し状 絡状体圧痕文	絡条体圧痕文 半竹刺突文	半竹刺突文	結束羽状(>)	平底	
III-265		74	FP- 40 FP- 42	51 2	〃	(25.2)	15.0	(25.0)	IIB	21				結束羽状(<)	揚げ底	
III-267		105	FP-45	39	〃	(11.4)	7.1	(8.9)	〃	9				斜縄(／)	やや揚げ底	
〃	99	112	FP-24 FP-47	10	〃	20.8	(16.2)	(13.5)	〃	8	切り出し状 斜縄(／)	半竹押引文		結束斜縄(／)		
III-269	〃	145	FP-50 FP-71	104 58	〃	28.3	(16.8)	(32.7)	IIB2c	37	切り出し状, 斜縄(＼) 絡条体圧痕文	絡条体圧痕文		結束斜縄(＼)		
III-275		252	FP-105	38	〃	(13.8)	8.7	(15.6)	IIB	9				斜縄(／)		
III-277	100	295	FP-111	54	〃	21.0	(13.7)	(37.2)	IIIB3	23	切り出し状 篦押引文	肥厚帯直下押引後円形刺突文		斜縄(／)		
III-278	〃	304	FP-112	1	〃	29.2	(18.2)	(24.7)	IIB2b	27	切り出し状 縄圧痕文	無文地 絡条体圧痕文		結束羽状(>)		
III-280	〃	325	FP-119	23	〃	18.4	9.7	23.7	IIB	31	丸味をもつ口唇 内面縄文(>)	無文地, 貼付帯 円形刺突文	貼付帯 円形刺突文	結束羽状(>)	揚げ底	
III-281	〃	354	FP-125	21	〃	25.0	12.2	29.8	IIB2b	49	切り出し状 斜縄	縄線文 原体約5cm	半竹刺突文	上半一大節結束斜縄(＼) 下半一小節結束斜縄(／)	揚げ底	
〃		355	FP-125	2	〃	(14.9)	9.5	(14.2)	IIB	15				結束羽状	平底	
〃		356	FP-125	21	〃	(21.0)	9.5	(26.4)	IIB(?)	14				不規則な斜縄	平底	IIB1の可能性あり
III-282	100	362	FP-126	17	〃	18.4	(12.6)	(11.6)	IIB2c	11	切り出し状 斜縄(／)	貼付帯, 絡条体圧痕文, 半竹押引文	半竹押引文	斜縄(／)		

表14　C地区土壙掲載拓本一覧

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III-215		1	FP-104	5	覆土	IIB2a		縄線文(山形)		多結絡条体回転		
〃		2	〃	1	〃	〃		〃	刺突文	〃		
〃		3	〃	22	〃	〃				〃		
〃		4	〃	2	〃	〃				〃		
〃		8	FP-110	1	〃	IIB2b	切り出し状 縄線文	縄線文				
〃		12	FP-114	2	〃	IIB				結束羽状(<)		
〃		13	FP-116	1	床直	〃				〃 (<)		
III-216		14	FP-123	6	覆土	IIB2a				単結絡条体回転文		
〃		15	〃	8	〃	IIB2c	切り出し状 斜縄文・半竹刺突文	絡条体圧痕文	半竹刺突文	結束斜状(／)		
〃		16	〃	8	〃	〃	〃 〃	無文地 鋸歯状絡条体圧痕文		結束羽状(>)		FP-113-75と接合
〃		18	FP-124	3	床直	IIB2b	〃 縄線文・半竹刺突文	鋸歯状縄線文	半竹押引文			
〃		19	〃	8	覆土	IIB				無文		
〃		20	〃	8	〃	〃				結束斜縄(／)		
〃		21	FP-130	15	覆土下	IIB2a				単結絡条体回転文		
〃		22	〃	5	覆土	〃				多結絡条体回転文		
〃		23	〃	31	〃	IIB2c	切り出し状 絡条体圧痕文	絡条体圧痕文				
〃		24	〃	5	〃	〃		〃		結束羽状(<)		
〃		25	〃	31	〃	IIB	切り出し状 斜縄文(＼)	半竹刺突文				
〃		26	〃	2	床面	〃				結節？		
〃		27	〃	5 15	覆土下	〃				羽状縄文		
〃		28	〃	5	覆土	〃				斜縄(／)	張り出し	
〃		32	FP-139	1	〃	IIB2a	角型 半竹刺突文	縄線文，山形文				
〃		33	〃	1	〃	〃	切り出し状 撚糸圧痕文	多段縄線文				
〃		34	〃	1	〃	〃	尖る			無文		
〃		35	〃	1	〃	〃				2本一組の撚糸文 ＋結束羽状		
〃		36	〃	1	〃	〃				多結絡条体回転文		
〃		37	〃	1	〃	〃					やや揚げ底	
III-259		1	FP-14	7	〃	IIB2b	切り出し状 縄線文・半竹刺突文					
〃		2	FP-20	84	〃	〃	切り出し状 斜縄(／)に縄線文 ＋刺突文(下端)	復節の縄線文		斜縄(＼)？		
〃		3	〃	88	〃	〃		無文地・縄線文	半竹刺突文	結束羽状(>)		
〃		9	FP-21	8	〃	IIB				〃		
〃		10	〃	10	〃	〃				斜縄(／)		
III-260		14	FP-22	56	〃	IIB2a		多段縄線文		多結絡条体回転文		砂粒多く，脆弱
〃		15	〃	25	〃	IIB2b	切り出し状 斜縄文(／)	無文地に縄線文				
〃		16	〃	30	〃	IIB2c	切り出し状，突起羽状＋絡条体圧痕文	曲線的な絡条体圧痕文				
〃		17	〃	83	〃	〃	〃 下端半竹刺突文	無文地，絡条体圧痕文・半竹刺突文				
〃		18	〃	57	〃	IIB		無文地，2条の半竹刺突文		外一斜縄文(＼) 内一 〃		内外に繊維痕が認められる
〃		19	〃	68	〃	〃	切り出し状 斜縄文(＼)			結束羽状縄文(>)		
〃		20	〃	83	〃	IIIA2	〃，縄文(＼) 地に撚糸圧痕文のある細い貼付帯			斜縄文(＼)		
III-261		27	FP-23	4	〃	IIB1		綾絡文状	貼付帯 指頭による押捺			円筒土器下層b式
〃		28	〃	90	〃	IIB2a				多結絡条体回転文		〃 d式
〃		29	〃	84	〃	IIB2c		絡条体圧痕文	薄い貼付帯円形刺突	斜縄文？		
〃		30	〃	95	〃	IIIA1	突起部 撚糸圧痕文	2条一単位 撚糸圧痕文				円筒土器上層a式，突起部
〃		31	〃	37	〃	IIB				結束斜縄文(／)		底部付近
〃		32	〃	102	〃	〃				斜縄文(／)？		底部

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III-261		38	FP-24	37	覆土	IIIB3				結節羽状(>)		
III-262		44	FP-25	69	〃	IIB2b	切り出し状 3条の縄線文	縄線文				
〃		45	〃	41,44 69,72	〃	IIB2c	切り出し状 斜縄文	5条の結条体圧痕文		結束羽状(>)		
〃		46	〃	8	〃	IIB			円形刺突文	結束斜縄文(＼)		内面赤色顔料付着
〃		47	〃	28	〃	〃				結束羽状縄文(>)	やや拠げ底	
III-263		56	FP-26	24	〃	IIB2c	切り出し状 半竹刺突文	結条体圧痕文				
〃		57	〃	24	〃	IIB	〃 斜縄文					
〃		58	〃	10	〃	〃				斜縄文(＼) 綻位施文		
III-264		59	FP-31	5 6 7	〃	IIB2b	切り出し状 斜縄文	2条縄線文		結束羽状(>)		
〃		60	〃	25	〃	IIB				〃 (>)		底部
〃		64	FP-32	23	〃	IIB2b		6条の縄線文				
〃		65	〃	2	〃	IIB	切り出し状 2本の半竹刺突文			結束?		
〃		66	〃	4	〃	〃				斜縄文(＼)		底部
〃		67	〃	5 6	〃	IIB2c	切り出し状 斜縄(／)	無文地 3条の結条体圧痕文	半竹刺突文	結束斜縄文(／)		
〃		71	FP-36	3	〃	IIB2b	切り出し状 斜縄・縄圧痕文	無文地 鋸歯状縄線文				口唇，突起から垂下する縄線文
〃		72	〃	3	〃	IIB	口唇，ナデ，角型			斜縄文?		
III-265		75	FP-40	10	〃	IIB2b	切り出し状 2条の縄線文	縄線文				
〃		76	〃	17	〃	IIB				結束羽状(<)		補修孔あり
〃		77	〃	58	〃	〃				結束斜縄(／)		底部
〃		78	〃	不明	〃	〃				結束羽状(<)	平底	
III-266		90	FP-41	4	〃	IIB2b	切り出し状 縄圧痕文	縄線文				
〃		91	〃	5	〃	IIB2c	〃 斜縄文	結条体圧痕文				
〃		92	〃	4	〃	IIB	切り出し状 斜縄文(＼)			結束斜縄		
〃		93	〃	29 48	〃	〃	薄手，角型			斜縄文(／)		FP-36のNo72と同一?
〃		94	〃	20	〃	〃				〃 (／)		
〃		97	FP-42	1	〃	IIB2b	切り出し状 縄線＋下端半竹刺突文	無文地 複節縄線文				
〃		101	FP-44	6	〃	IIB				結束羽状(>)		
〃		102	〃	7	〃	〃				〃 (>)		
III-267		106	FP-45	23	〃	〃				結束羽状(<)		脆弱
〃		113	FP-47	30	〃	IIB2a				単軸結条体回転文		円筒土器下層c式? 胎土砂粒が多い
〃		114	〃	5 6	〃	IIB2b	切り出し状 斜縄文	無文地 複節縄線文		斜縄文?(＼)		
〃		115	〃	FP-24 -29	〃	IIB2c		結条体圧痕文		〃 ?(＼)		FP-47へ移動
〃		116	〃	FP-24 -13	〃	IIB	切り出し状 不規則な斜縄(＼)			〃 ?(＼)		〃
〃		117	〃	FP-24 -21	〃	〃	〃 突起あり，斜縄(＼)			〃 ?(＼)		〃
〃		118	〃	28	〃	〃				結束羽状(<)		
〃		119	〃	FP-24 -30	〃	〃				斜縄文?(／)		FP-47へ移動
〃		121	FP-48	9	〃	IIB2a	丸型	外反が強い 縄線文				円筒土器下層d式?
〃		122	〃	9	〃	IIB	角型 縄文	外反が強く， 内外面に縄文(＼)				〃 相当か?
〃		123	〃	9	〃	〃				粗い斜縄?(／)		底部に近い部位
III-268		126	FP-49	9	〃	〃	切り出し状			撚糸文?		
〃		127	〃	14	〃	〃				斜縄文(＼)		
〃		129	FP-50	28	〃	IIB2a	切り出し状 半竹押引文			多軸結条体回転文		
〃		130	〃	30	〃	IIB2a		無文地 矢羽根状縄線文				
〃		131	〃	46	〃	〃		無文地 鋸歯状縄線文	竹管刺突文	多軸結条体回転文		
〃		132	〃	22 130	〃	IIB2b	切り出し状 斜縄文(＼)	太い複節縄線文		斜縄文(＼)		
〃		133	〃	49	〃	〃		複節縄線文		結束斜縄文(／)		

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III-268		134	FP-50	27	表土	IIB2b	切り出し状，突起から縄線文垂下 斜縄文	無文地？				
〃		135	〃	122	〃	〃	〃 斜縄文(＼)	無文地 絡条体圧痕文				
〃		136	〃	130	〃	IIB	〃 〃	無文地				
〃		137	〃	10	〃	IIB2c		無文地 鋸歯状絡条体圧痕文	半竹押引文			
III-269		146	FP-71	43	〃	IIB	切り出し状 斜縄文(／)			結束斜縄文(／)		
〃		148	FP-72	35	〃	IIA2				表裏斜縄文(／)		
〃		149	〃	13	〃	IIB				結束羽状(＜)		
〃		155	FP-73	9	〃	IIB2b		縄線文	貼付帯・半竹刺突文			
〃		156	〃	9	〃	IIB					平底	
〃		162	FP-77	4	〃	〃	切り出し状 結束羽状					
III-270		163	FP-78	44	〃	IIB2b	切り出し状，縄線文＋突起部に円形刺突文	無文地 曲線の縄線文(メガネ状)				
〃		164	〃	170	〃	〃	切り出し状 口唇・下端縄線圧痕文	不明				
〃		165	〃	178	〃	IIB2c	〃 絡条体圧痕文	肥厚帯直下 縄線文		結束羽状？		
〃		166	〃	A-151	〃	IIIB2	折り返し，切り出し状鍵曲状の貼付（縄文あり）					
〃		167	〃	188	〃	IIIB1	角型，貼付(縄圧痕文)			斜縄文 2本一組の沈線文		
〃		168	〃	23	〃	IIIB3	切り出し状 2段押引文			肥厚帯直下 押引文＋刺突文		
〃		169	〃	45 91	〃	IIIB3	丸味をもつ 2段押引文	貼付帯上に円形刺突文		無節 斜縄文(＼)		
〃		170	〃	10	〃	〃	切り出し状			肥厚帯直下，円形刺突文，結節斜縄文		
〃		171	〃	188	〃	〃	丸型 2段，半竹外面押引文			斜縄文＋半竹刺突文		炭化物多量に付着
〃		172	〃	A-151	〃	〃				無節斜縄文(／)？		
III-271		182	FP-79	49	〃	IIB2a	丸型 先端部欠失	縄線文				
〃		183	〃	17	〃	〃				多結絡条体回転文		
〃		184	〃	65	〃	IIB2b	切り出し状 縄線文	肥厚帯直下 縄線文		結束羽状(＜)		
〃		185	〃	19	〃	〃	〃 〃	〃 〃		斜縄文？(＼)		
〃		186	〃	4	〃	〃	〃 ，突起 〃	〃 〃				
〃		187	〃	65	〃	IIB	〃 2段半竹刺突列	半竹刺突列				
〃		188	〃	56	〃	〃	〃 縄文？			結束羽状(＜)		
〃		198	FP-80	12	〃	〃	〃 斜縄文(／)			斜縄文(／)		
〃		199	〃	5	〃	〃	切り出し状 縄文不明					
〃		200	〃	5	〃	〃		半竹刺突(区画帯？)				
III-272		202	FP-93	6	〃	IIIB1				3本一組の沈線文 斜縄文(／)		
〃		203	〃	6	〃	〃				斜縄文(＼)		
〃		206	FP-94	15	〃	IIB2c	切り出し状	絡条体圧痕文				
〃		208	FP-95	1	〃	IIIB				斜縄文(／)		
〃		209	FP-96	2	〃	IIB2b	切り出し状	2条の縄線文		〃 (／)？		
〃		210	〃	5	〃	〃		無文地 縄線文		斜縄文(＼)		
〃		211	〃	20	〃	IIB				付加条縄文(＼)		
〃		212	〃	17	〃	〃				結束斜縄文(／)		
III-273		218	FP-97	3	〃	IIB2a				多結絡条体回転文		
〃		219	〃	18	〃	〃		多結絡条体回転文		〃		
〃		220	〃	10	〃	IIB	切り出し状，無文地棒状刺突文					
〃		221	〃	11	〃	〃	切り出し状 斜縄(／)			斜縄文(／)		
〃		222	〃	6	〃	〃				結束羽状(＞)		
〃		223	FP-98	10	〃	IIB2b		縄線文	貼付半竹刺突文			
〃		224	〃	3	〃	IIB				結束斜縄(／)		
〃		225	〃	12	〃	〃				斜縄文？(＼)		
〃		227	FP-99	41	〃	IIB2b	丸型 口唇上端半竹押引文	縄線文				

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III-273		228	FP-99	31	覆土	IIB2c	切り出し状 下端半竹押引文	絡条体圧痕文				
〃	○	229	〃	9	〃	〃		〃		斜縄文?		
〃		230	〃	47	〃	IIB	切り出し状 斜縄文			〃 ?		
〃		234	FP-100	6	〃	IIB2c		絡条体圧痕文		結束羽状(>)		
〃		235	〃	6	〃	IIB				結束斜縄(＼)		
〃		236	〃	6	〃	〃				斜縄文(＼)		
III-274	○	238	FP-101	27	〃	IIB2b		縄線文		〃 (／)?		
〃		239	〃	34	〃	IIB	切り出し状 斜縄文(／)			結束羽状(>)		
〃		240	〃	27	〃	IIIA1	丸型 貼付帯斜縄文			斜縄文(＼)		
〃		241	〃	15	〃	IIIB3	切り出し状 半竹押引文	肥厚帯直下，円形刺突文 貼付帯・押引・円形刺突文				
〃		242	〃	39	〃	〃				結束斜縄文		
〃		243	〃	9	〃	IIB				〃 (＼)		
〃		246	FP-102	17	〃	IIB2a	丸型 縄線文					
〃		247	FP-103	27	〃	IIB2c	切り出し状 絡条体斜縄文			斜縄文(＼)		
〃		248	〃	22	〃	〃		絡条体圧痕文				
〃		249	〃	15	〃	IIB				結束斜縄文(＼)		
〃		250	〃	11	〃	〃				結束羽状(>)		
III-275		253	FP-105	78	〃	IIB2b	切り出し状 2段半竹押引文	縄線文(曲線)				
〃		254	〃	57	〃	IIB2c	〃 斜縄文(／)下端竹押引	無文地 細い絡条体圧痕文				
〃		255	〃	58	〃	.	〃 斜縄文(／)	〃				
〃		256	〃	58	〃	〃	〃 絡条体圧痕文	半竹刺突文				
〃		257	〃	78	〃	IIB	〃 斜縄文(＼)			結束羽状(>)		
〃		258	〃	46	〃	〃	丸型			斜縄文(＼)		
〃		259	〃	78	〃	IIIB3	切り出し状 押引文	肥厚帯直下 押引文・円形刺突文				
〃		260	〃	72	〃	〃	〃 斜縄文	〃 円形刺突		表裏とも斜縄文(／)		
〃		261	〃	58	〃	〃	丸型 斜縄文	口縁部中空工具による円形刺突文				
〃		262	〃	27	〃	〃				斜縄文(／) 貼付帯・押引文		
〃		263	〃	39	〃	〃					粗雑な調整 揚げ底ぎみ	
III-276		270	FH-106	53	〃	IIB2c	切り出し状 斜縄(／)・半竹刺突文	絡条体圧痕文	半竹刺突	斜縄文(／)		突起
〃		271	〃	95	〃	〃	切り出し状，絡条体圧痕文・半竹刺突文	絡条体圧痕文				
〃		272	〃	13	〃	〃	〃 斜縄文(／)	〃				
〃		273	〃	95	〃	〃	〃 ，絡条体圧痕文，半竹刺突文	〃				
〃		274	〃	95	〃	〃		〃	棒状工具刺突文			
〃		275	〃	12	〃	IIB	切り出し状 斜縄文(＼)			結束斜縄文(＼)		FP-105のNo262と同一?
〃		276	〃	78	〃	IIIB3	〃 篦状工具押引文	肥厚帯直下円形刺突文 貼付帯・押引文		表裏斜縄文(／)		
〃		277	〃	38	〃	〃	〃 斜縄文＋半竹押引文	肥厚帯直下 押引文・円形刺突文		結束羽状(>)		
〃		278	〃	20	〃	〃	〃 篦状工具押引文	〃 ナデ・円形刺突文				
III-277		287	FP-107	13	〃	IIB2c		絡条体圧痕文		結束羽状(>)		
〃		288	〃	20	〃	IIB				斜縄文(＼)		
〃		290	FP-108	2	〃	〃				結束斜縄(／)		
〃		291	FP-109	44	〃	IIB2b	切り出し状 縄線文	縄線文				
〃		292	〃	29	〃	IIB2c		絡条体圧痕文	半竹押引文	斜縄文		
〃		293	〃	29	〃	IIB	切り出し状 斜縄文(＼)					
〃		296	FP-111	3	〃	IIB2c	切り出し状 斜縄文(／)	無文地 鋸歯状絡条体圧痕文				
〃		297	〃	104	〃	IIB	〃 〃 (＼)	〃 円形刺突文・半竹刺突文				
〃		298	〃	99	〃	〃	〃 下端半竹刺突文					

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III-277		299	FP-111	43	覆土	IIIB3 (?)				無文	無文 組織	底部(小型土器)
III-278		305	FP-113	119	〃	IIB2b	切り出し状 半竹刺突文	無文 縄線文				
〃		306	〃	119	〃	IIB2c		結条体圧痕文 半竹押引文				
〃		307	〃	44	〃	IIB	切り出し状 半竹押引文			斜縄文(／)		
〃		308	〃	114	〃	〃	〃 斜縄文(＼)			〃 (＼)		
〃		317	FP-115	2	〃	〃	〃 〃 (＼)					
III-279		321	FP-118	9 16	〃	IIB				結束斜縄文(／)		
〃		332	〃	8	〃	〃				〃 (／)		
III-280		326	FP-119	60	〃	IIB2b	切り出し状 半竹刺突文・縄線文	縄線文				
〃		327	〃	64	〃	IIB2c		結条体圧痕文	半竹刺突文	斜縄文(／)		
〃		328	〃	15	〃	〃	切り出し状 斜縄文	結条体圧痕文		結束斜縄文(／)		結条体原体，3cm 程度
〃		334	FP-120	46	〃	IIB2b	〃 〃 (／)	縄線文		斜縄文(／)?		
〃		335	〃	7	〃	IIB	〃 〃			結束羽状(>)		
〃		336	〃	16	〃	〃	〃 〃 (＼)			斜縄文(＼)		
〃		337	〃	46	〃	〃	〃 〃 (／)			〃 (／)		
III-281		344	FP-121	14	〃	IIB2b	角型，切り出し状	縄線文				
〃		345	〃	42	〃	IIB				結束羽状		
〃		346	〃	39	床面	〃				無文?		
III-282		363	FP-126	107	覆土	IIB2a	丸型 燃糸圧痕文	縄線文				
〃		364	〃	56	〃	IIB2b	切り出し状 縄線＋半竹刺突文	無文地 縄線文				
〃		365	〃	55	〃	〃	〃 〃			結束羽状(>)		
〃		366	〃	12	〃	IIB2c		鋸歯状結条体圧痕文		斜縄文?(／)		
〃		367	〃	13	〃	〃		〃				
〃		368	〃	41	〃	IIB2c		結条体圧痕文		結束羽状(<)		
〃		369	〃	54	〃	IIB	切り出し状 裏返斜縄文					
〃		370	〃	114	〃	〃				無文		
〃		371	〃	114	〃	〃				斜縄文(＼)	揚げ底ぎみ	
〃		372	〃	23	〃	〃				〃 (／)		
III-283		386	FP-129	29	〃	IIB3				斜縄文(／)＋篦押引文		
〃		387	〃	29	〃	IIB				結束斜縄(／)		
〃		388	FP-131	1	〃	〃				結束羽状(<)		
〃		389	FP-132	1	〃	IIB2b	切り出し状 縄線文					
〃		391	FP-134	3	〃	IIB				斜縄文(／)		
III-284		393	FP-135	1	〃	〃				無節斜縄文(＼)		
〃		394	FP-136	6	〃	〃				斜縄文(＼)		
〃		395	FP-138	1	〃	IIA2				〃 (／)		
〃		396	FP-140	13	床面	IIB2b	切り出し状 縄線文	縄線文				
〃		397	〃	15	〃	IIB2c	〃 結条体圧痕文	結条体圧痕文				
〃		398	〃	27	覆土	〃	〃 〃	鋸歯状結条体圧痕文				
〃		399	〃	27	〃	〃		結条体圧痕文		結束羽状(<)		
〃		400	〃	1	床面	IIB				斜縄文(／)		
〃		401	〃	3	〃	IIB				〃 (／)		
〃		405	FP-143	9	覆土	IIA2				〃 (／)		
〃		406	〃	2	〃	IIB2b		縄線文	貼付半竹刺突文	斜縄文(／)		
〃		407	〃	3	〃	IIB				結束斜縄(／)		
〃		408	〃	FH-36-78 FH-38, 108 F-421	〃	IIIB3				斜縄文(＼)		

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III-290		1	FP-15	27	覆土	IIB2c	切り出し状 斜縄	2条の結条体圧痕文				
〃		2	〃	11	〃	Vb	内側に大きく張り出す 外凹，3条沈線文	無文				壺形
〃		3	FP-16	7	〃	IIB1	端部外反 内外に鋸結文状					円筒土器下層a～b？
〃		4	〃	7	〃	IIB2c	切り出し状 3条の結条体圧痕文					
〃		5	〃	7	〃	IIIA2				2本一対の細い貼付帯 結束羽状		
〃		7	FP-27	14	〃	IIIB3				結束羽状縄文？		
〃		8	〃	2,3 25	〃	IVA	波状，角型 斜縄(／)	連弧状沈線				ウサクマイC式
〃		11	FP-30	5	〃	IIIB3	切り出し状 斜縄					裏面縄文
〃		12	〃	8	〃	IVA				細い貼付 羽状縄文		炭化物付着
〃		13	FP-29	19	〃	IIB2a				多軸絡条体回転		
〃		14	〃	48	〃	IIB2b		縄線文				
〃		15	〃	42	〃	IIB	斜縄文(＼) 下端半竹刺突文			結束斜縄		
〃		16	〃	38,39	〃	〃				斜縄(＼)		内面調整丁寧
〃		17	〃	48	〃	IIIB3	切り出し状 3条の半竹押引	肥厚帯直下押引文円形刺突文		〃(?)		炭化物多量に付着
〃		18	FP-33	6	〃	IIB				斜縄(／)		
〃		19	〃	6	〃	IVA				無文地と沈線文(曲線)		
III-291		21	FP-75	51	〃	IIB1	丸型	表 3～4条の縄線文 裏 斜縄(／)				突起あり
〃		22	〃	9	〃	IIB2b	切り出し状 斜縄・縄線文					
〃		23	〃	51	〃	〃	切り出し状 突起から垂下する縄線文			斜縄(＼)		
〃		24	〃	34	〃	〃		無文地 復帰縄線圧痕文		結束羽状(＜)		
〃		25	FP-75	46	〃	IIB	切り出し状 斜縄					
〃		26	〃	28	〃	IIIB3	2段の半竹内面の押引文			肥厚帯直下 押引文・刺突斜縄(＼)		
〃		27	〃	51	〃	〃	〃			肥厚帯直下 刺突文，斜縄(＼)		
〃		28	〃	51	〃	IIIB1	角型 刻目文			斜縄(／)・半竹内面の沈線文		

表15　C地区土壙掲載石器一覧

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	名称	分類	重量(g)	石材	挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	名称	分類	重量(g)	石材
III-215		5	FP-104	17	覆土	スクレイパー	IIIa	14.3	Obs	III-261		35	FP-23	6	覆土	たたき石		460	Qua
〃		6	〃	18	〃	すり石		200	And	〃		36	〃	71	〃	〃		630	〃
〃		9	FP-110	22	〃	たたき石		460	Por	〃		37	〃	5	〃	石皿・台石		24000	And
〃		10	〃	22	〃	〃		610	Qua	〃		39	FP-24	36	〃	石鏃	IIc	1.5	Obs
〃		11	〃	18	〃	〃		790	And	〃		40	〃	1	〃	すり石		250	And
III-216		17	FP-123	4	〃	〃		420	〃	III-263		48	FP-25	62	〃	石鏃	IId_1	1.0	Obs
〃		29	FP-130	32	〃	石鏃	IIc	1.5	Obs	〃		49	〃	43	〃	〃	IIc	3.3	〃
〃		30	〃	6	〃	〃	〃	2.8	〃	〃		50	〃	55	〃	つまみ付きナイフ	Ic	8.2	〃
〃		38	FP-145	8	〃	つまみ付きナイフ	IIa	5.0	〃	〃		51	〃	29	〃	たたき石		490	And
III-217		39	FP-146	4	〃	石鏃	IId_2	1.4	〃	〃		52	〃	34	〃	〃		650	Qua
〃		40	〃	2	〃	くぼみ石		480	And	〃		53	〃	5	〃	砥石		810	Sa
〃		41	FP-147	4	〃	北海道式石冠		1550	Por	〃		54	〃	7	〃	〃		1030	〃
III-259		4	FP-20	31	〃	たたき石		780	Qua	III-264		61	FP-31	16	〃	すり石		330	And
〃		5	〃	103	〃	〃		570	〃	〃		62	〃	28	〃	たたき石		830	Qua
〃		6	〃	16	〃	〃		490	〃	〃		63	〃	1	〃	石皿・台石		4800	And
〃		7	〃	113	〃	石鋸		20	Rhy	〃		68	FP-32	12	〃	北海道式石冠		1000	〃
〃		8	〃	71	〃	石皿・台石		6550	And	〃		69	〃	7	〃	〃		2100	〃
〃		11	FP-21	12	〃	すり石		390	〃	〃		70	〃	22	〃	すり石		260	〃
〃		12	〃	1	〃	たたき石		480	Qua	〃		73	FP-36	2	〃	ポイント・ナイフ	IVa	6.4	Obs
III-260		21	FP-22	48	〃	石鏃	IIc	4.0	Obs	III-265		79	FP-40	9	〃	〃	II	43.1	〃
〃		22	〃	78	〃	スクレイパー	IIIa	7.4	Sh	〃		80	〃	30	〃	つまみ付きナイフ	IIa	23.6	Sh
〃		23	〃	63	〃	すり石		160	And	〃		81	〃	14	〃	スクレイパー	IV	34.9	〃
〃		24	〃	31	〃	北海道式石冠		320	〃	〃		82	〃	4	〃	すり石		440	And
〃		25	〃	60	〃	〃		1690	〃	〃		83	〃	42	〃	〃		490	〃
〃		26	〃	8	〃	たたき石		670	Qua	〃		84	〃	22	〃	たたき石		530	Qua
III-261		33	FP-23	34	〃	つまみ付きナイフ	Ia	11.8	Sh	〃		85	〃	11	〃	〃		680	〃
〃		34	〃	52	〃	北海道式石冠		1340	And	〃		86	〃	39	〃	〃		530	〃

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	名称	分類	重量(g)	石材	挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	名称	分類	重量(g)	石材
III-265		87	FP-40	12	覆土	たたき石		500	Qua	III-272		215	FP-96	18	覆土	たたき石		710	Qua
〃		88	〃	2	〃	石鋸		10	Sa	〃		216	〃	22	〃	〃		770	〃
〃		89	〃	1	〃	石皿・台石		12400	And	〃		217	〃	15		〃		670	〃
III-266		95	FP-41	50	〃	石錐	IIc	1.5	Obs	III-273		226	FP-98	4	覆土	〃		380	〃
〃		96	〃	11	〃	たたき石		700	And	〃		231	FP-99	5	〃	石錐	IId_3	1.0	Obs
〃		98	FP-42	6	〃	〃		630	Qua	〃		232	〃	1	〃	〃	IIc	2.0	〃
〃		99	FP-43	1	〃	〃		980	〃	〃		233	〃	32	〃	たたき石		600	Qua
〃		100	〃	3	〃	〃		1100	〃	〃		237	FP-100	3	〃	〃		400	〃
〃		103	FP-44	14	〃	ポイント・ナイフ	Ia_3	4.8	Obs	III-274		244	FP-101	25	〃	スクレイパー	EII	11.7	Obs
〃		104	FP-46	1	〃	くぼみ石		390	Qua	〃		245	〃	19	〃	すり石		550	And
III-267		107	FP-45	59	〃	石錐	IIc	1.2	Obs	〃		251	FP-103	29	〃	〃		130	〃
〃		108	〃	64	〃	たたき石		670	And	III-275		264	FP-105	59	〃	石錐	IIc	1.0	Obs
〃		109	〃	34	〃	〃		730	Qua	〃		265	〃	79	〃	〃	IIIa	1.1	〃
〃		110	〃	7	〃	くぼみ石		130	And	〃		266	〃	15	〃	すり石		470	And
〃		111	〃	32	〃	石皿・台石		9200	〃	〃		267	〃	33	〃	〃		1280	〃
〃		120	FP-47	27	〃	たたき石		670	Qua	〃		268	〃	13	〃	たたき石		540	〃
〃		124	FP-48	2	〃	石錐	IIb	2.2	Sh	〃		269	〃	11	〃	〃		1000	Qua
〃		125	〃	2	〃	スクレイパー	EII	14.4	〃	III-276		279	FP-106	92	〃	スクレイパー	EII	13.3	Obs
III-268		128	FP-49	15	〃	石皿・台石		10000	And	〃		280	〃	80	〃	すり石		200	And
〃		138	FP-50	136	〃	石錐	IIc	0.9	Obs	〃		281	〃	72	〃	北海道式石冠		1190	Por
〃		139	〃	135	〃	ポイント・ナイフ	Ia_1	15.2	〃	〃		282	〃	76	〃	たたき石		450	Qua
〃		140	〃	61	〃	つまみ付きナイフ	Ia	17.5	Sh	〃		283	〃	79	〃	〃		720	〃
〃		141	〃	73	〃	スクレイパー	EII	23.6	Obs	〃		284	〃	55	〃	〃		590	〃
〃		142	〃	57	〃	たたき石		420	And	〃		285	〃	9	〃	くぼみ石		330	And
〃		143	〃	19	〃	〃		700	Qua	〃		286	〃	66	〃	〃		520	〃
〃		144	〃	14	〃	石皿・台石		7600	And	III-277		289	FP-107	11	〃	ポイント・ナイフ	Ib	7.5	Obs
III-269		147	FP-71	5	〃	すり石		310	〃	〃		294	FP-109	30	〃	たたき石		870	Qua
〃		150	FP-72	36	〃	石錐	Ib	0.5	Obs	〃		300	FP-111	90	〃	スクレイパー	IIIa	10.7	Obs
〃		151	〃	29	〃	〃	Ia	2.8	〃	〃		301	〃	107	〃	たたき石		600	And
〃		152	〃	25	〃	つまみ付きナイフ	Ic	18.2	Sh	〃		302	〃	10	〃	〃		710	〃
〃		153	〃	26	〃	たたき石		450	Qua	〃		303	〃	69	〃	石皿・台石		5000	〃
〃		154	〃	27	〃	〃		710	〃	III-278		309	FP-113	121	〃	スクレイパー	EII	15.8	Obs
〃		157	FP-73	5	〃	つまみ付きナイフ	Ic	13.0	Sh	〃		310	〃	45	〃	すり石		570	And
〃		158	〃	2	〃	たたき石		590	Qua	〃		311	〃	65	〃	〃		440	〃
〃		159	FP-74	5	〃	〃		340	〃	〃		312	〃	2	〃	たたき石		490	〃
〃		160	〃	1	〃	〃		660	And	〃		313	〃	10	〃	〃		380	Qua
〃		161	FP-76	2	〃	石錐	IIc	0.9	Obs	〃		314	〃	52	〃	〃		910	〃
III-270		173	FP-78	72	〃	石錐	I	7.8	Sh	〃		315	〃	20	〃	〃		700	〃
〃		174	〃	71	〃	つまみ付きナイフ	IIa	9.6	Obs	〃		316	〃	94	〃	砥石		940	Sa
〃		175	〃	46	〃	たたき石		390	Qua	III-279		318	FP-117	1	〃	たたき石		490	Qua
〃		176	〃	39	〃	〃		500	〃	〃		319	〃	4	〃	〃		600	〃
〃		177	〃	22	〃	〃		310	〃	〃		320	〃	3	〃	石皿・台石		21000	And
〃		178	〃	16	〃	〃		650	〃	〃		323	FP-118	17	〃	北海道式石冠		160	〃
〃		179	〃	99	〃	〃		1340	〃	〃		324	〃	29	〃	たたき石		720	Qua
〃		180	〃	118	〃	石皿・台石		11500	And	III-280		329	FP-119	31	〃	北海道式石冠		860	And
〃		181	〃	62	〃	〃		15500	〃	〃		330	〃	88	〃	たたき石		980	Qua
III-271		189	FP-79	29	〃	石錐	IIc	0.9	Obs	〃		331	〃	52	〃	砥石		710	Sa
〃		190	〃	38	〃	〃	〃	2.0	〃	〃		332	〃	6	〃	石皿・台石		6500	And
〃		191	〃	27	〃	〃	〃	3.8	〃	〃		338	FP-120	47	〃	ポイント・ナイフ	IVa	4.4	Obs
〃		192	〃	30	〃	ポイント・ナイフ	Ia_3	9.4	〃	〃		339	〃	8	〃	すり石		660	And
〃		193	〃	44	〃	〃	II	29.9	Sh	〃		340	〃	53	〃	たたき石		160	Qua
〃		194	〃	47	〃	スクレイパー	IIIa	18.0	Obs	〃		341	〃	36	〃	〃		630	〃
〃		195	〃	37	〃	北海道式石冠		90	And	〃		342	〃	54	〃	石鋸		22	Sa
〃		196	〃	18	〃	たたき石		440	Qua	〃		343	〃	40	〃	石皿・台石		8000	And
〃		197	〃	41	〃	〃		360	And	III-281		347	FP-121	51	〃	ポイント・ナイフ	II	16.0	Obs
〃		201	FP-80	1	〃	北海道式石冠		1470	〃	〃		348	〃	4	〃	たたき石		270	Sh
III-272		204	FP-93	5	〃	石皿・台石		19000	〃	〃		349	〃	13	〃	〃		770	Qua
〃		205	〃	3	〃	〃		21500	〃	〃		350	FP-122	35	〃	石錐	IIc	3.3	Obs
〃		207	FP-94	27	〃	たたき石		670	Qua	〃		351	〃	9	〃	スクレイパー	IIIa	20.2	〃
〃		213	FP-96	27	〃	つまみ付きナイフ	Ia	8.3	Sh	〃		352	〃	12	〃	たたき石		840	Qua
〃		214	〃	8	〃	石斧	I_{-2}	154.3	Sch	〃		353	〃	3	〃	〃		980	〃

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	名称	分類	重量(g)	石材	挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	名称	分類	重量(g)	石材
III-282		357	FP-125	19	覆土	つまみ付きナイフ	IIa	19.8	Sh	III-284		402	FP-140	21	底面	すり石		860	And
〃		358	〃	13	〃	すり石		500	And	〃		403	〃	26	覆土	たたき石		820	〃
〃		359	〃	16	〃	たたき石		950	Qua	〃		404	〃	17	〃	石皿・台石		3800	〃
〃		360	〃	14	〃	〃		910	〃	〃		410	FP-148	2	〃	石鏃	IIc	0.6	Obs
〃		361	〃	18	〃	石皿・台石		11500	And	〃		411	〃	2	〃	〃	〃	1.1	〃
〃		373	FP-126	108	〃	石鏃	IIc	1.7	Obs	〃		412	〃	17	〃	たたき石		390	Qua
〃		374	〃	103	〃	〃	〃	3.1	〃	III-290		6	FP- 16	11	〃	〃		210	And
〃		375	〃	32	〃	つまみ付きナイフ	Ia	4.7	〃	〃		9	FP- 27	17	〃	〃		690	Qua
〃		376	〃	111	〃	スクレイパー	IIIa	11.0	Sh	〃		10	FP- 28	3	〃	〃		150	And
〃		377	〃	89	〃	〃	〃	30.1	Obs	〃		20	FP- 34	5	〃	ポイント・ナイフ	Ib	3.1	Obs
III-283		378	〃	24	〃	北海道式石冠		920	Por	III-291		29	FP- 75	38	〃	石鏃	IIc	2.7	〃
〃		379	〃	63	〃	〃		530	And	〃		30	〃	12	〃	つまみ付きナイフ	Ib	16.0	Sh
〃		380	〃	88	〃	たたき石		1070	Qua	〃		31	〃	11	〃	北海道式石冠		1910	And
〃		381	〃	1	〃	〃		1150	〃	〃		32	〃	4	〃	たたき石		1780	Qua
〃		382	〃	31	〃	〃		440	〃	〃		33	〃	31	〃	〃		890	〃
〃		383	〃	84	〃	くぼみ石		550	And	〃		34	〃	16	〃	〃		740	〃
〃		385	FP-127	1	〃	北海道式石冠		890	And	〃		35	〃	8	〃	くぼみ石		240	And
〃		390	FP-132	6	〃	石鏃	IIc	1.4	Obs	〃		36	〃	1	〃	石皿・台石		5500	〃
〃		392	FP-134	7	〃	たたき石		550	Qua										

表16　貝塚掲載実測土器一覧

挿図	図版	番号	小出土区	遺物番号	層位	大きさ(cm)			分類	破片数	文様と特徴					備考
						口径	底径	器高			口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III-298	101	1	F-24	131		18.2	(7.7)	(20.0)	IIIB3	30	丸味をもつ			斜縄(＼)	剝離不明	

表17　貝塚掲載拓本一覧

挿図	図版	番号	小出土区	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III-298	129	2	G24-22	28	貝土5	IIB1	角型・縄線圧痕					円筒土器下層b～c式相当,補修孔あり
〃	〃	3	F24-15	7	〃4	〃	丸味を持つ	縄線文				〃　〃　(?)
〃	〃	4	F24-48	1	土貝2	〃				斜縄(／)	裏面縄文	砂粒小礫多い。少量の繊維
〃	〃	5	F24-29	17	貝土4	IIB2b	切り出し状	縄線文		斜撚糸文(＼)		内面調整丁寧 IIB1の可能性あり
〃	〃	6	F24-21	1	〃 〃	〃	切り出し状 縄線文，縄刻目文	幅広 曲線，縄圧痕文				調整丁寧 砂粒，小礫多い
〃	〃	7	F24-39	38	土貝2	〃	切り出し状 端部刺突文，縄線入	2段 羽状の縄線文				〃 〃
〃	〃	8	F24-11	19	貝土4	IIB2a				撚糸文 結束羽状(?)		〃 〃
〃	〃	9	F24-23	6	〃5	IIB2b	角型 縄線文	太い縄線文，斜状				〃 〃
〃	〃	10	F24-29	40	〃4	〃	切り出し状 鋸歯状縄線文		縄線文	斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	11	G24-39	5	焼土21	〃	切り出し状 縄線文	縄線文				〃 〃
〃	〃	12	G24-29	1	〃20	〃		縄線文(4本組紐)				〃 〃
〃	〃	13	G24-31	12	〃22	〃	切り出し状斜線(／) 縄線文			縄文 原体不明		〃 〃
〃	〃	14	G24-21	18	土貝1A	〃	切り出し状 斜縄(／)	縄線文		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	15	G24-23	6	貝土5	IIB2c	切り出し状 絡条体圧痕文	絡条体圧痕文				〃 〃
〃	〃	16	G24-24	4	土貝1A	〃	〃 〃	平行絡条体圧痕文 鋸歯状絡条体圧痕文	半竹刺突文			〃 〃
〃	〃	17	G24-13	74	貝土5	〃	〃 〃	絡条体圧痕文 半竹押引文				〃 〃
〃	〃	18	F24-16	12	貝土4	〃	切り出し状，上斜縄 下絡条体圧痕文	絡条体圧痕文 半竹刺突文				調整丁寧 砂粒，小礫多い
〃	〃	19	G24- 5	35	〃5	〃	無文地絡条体圧痕文 下端半竹刺突文	半竹刺突文 絡条体圧痕文	半竹刺突文	結束羽状(>)		〃 〃
〃	〃	20	F24-47	24	土貝2	〃		鋸歯状絡条体圧痕文	〃	結束羽状(>) 結束部に絡条体圧痕文		
〃	〃	21	F24-55	10	〃 〃	〃	切り出し状 斜縄(／)	絡条体圧痕文	〃	斜縄(／)		内面調整丁寧。 繊維，砂粒，小礫多い。
〃	〃	22	F24-20	15	貝土4	〃	切り出し状絡条体圧痕文，下端半竹刺突文	鋸歯状絡条体圧痕文				内面調整丁寧 繊維，砂粒，小礫多い
〃	〃	23	G24-20	9	〃5	〃	切り出し状 斜縄(＼)	絡条体圧痕文				〃 〃　脆弱
〃	〃	24	G24-16	8 29	土貝3	〃				撚糸文(自縄自巻) 斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	25	G24-15	36	〃1A	〃	切り出し状，絡条体圧痕文，半竹刺突文	肥厚帯直下縄線文 絡条体圧痕文，半竹刺突文	半竹刺突文			〃 〃
〃	〃	26	F24-32	16	貝土4	IIB	切り出し状 半竹刺突文	斜縄	〃			〃 〃
〃	〃	27	G24-13	13	土貝1A	〃	切り出し状 口唇半竹刺突文			斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	28	G24- 8	25	〃3	〃	切り出し状 無文			櫛歯状工具刺突文		〃 〃
〃	〃	29	G24-23	6	貝土5	〃	〃 斜縄(／)			無節斜縄(＼)		〃 〃

挿図	図版	番号	小出土区	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
Ⅲ-298	129	30	G24-39	5	焼土21	ⅡB	切り出し状 斜縄(／)			結束斜縄(／)		内面四整丁寧 繊維，砂粒，小礫多い
〃	129	31	F24-40	35	土貝2	ⅡB	切り出し状 斜縄(＼)			結束斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	32	G24-31	33	焼土22	ⅢA1	丸味をもつ 縄圧痕文	無文地 鋸歯状縄線文	貼付帯縄圧痕文	斜縄(／)？		〃 〃
〃	〃	33	F24-21	1	貝土4	ⅢA2			細い貼付帯 燃糸圧痕文あり	結束羽状		〃 〃 脆弱
〃	〃	34	F24-64	17	〃5	ⅢB1			半竹縄線 貼付帯刺突文			〃 〃
Ⅲ-299	〃	35	F24-32	17	〃4	ⅢB3	切り出し状 斜縄(／)半竹押引文	肥厚帯直下押引後，棒状円形刺突文，斜縄(／)		斜縄(／) 半竹押引文		繊維を含まない 砂粒，小礫多い
〃	〃	36	F24-39	43	土貝2	〃	切り出し状 斜縄(／)半竹押引文	棒状工具，円形刺突文 裏面不規則な縄文(／)		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	37	F24-17	15	貝土4	〃	〃 縄線(＼) 竹状工具押引文	円形刺突，裏面不規則な縄文(／)		結束羽状		〃 赤色顔料付着
〃	〃	38	F24-23	28	〃 〃	〃	〃 〃 (＼) 〃	〃		貼付帯押引文 斜縄(＼)		繊維を含まない 砂粒，小礫多い
〃	〃	39	F24-15	32	〃 〃	〃	〃 斜縄(／)半竹押引文	肥厚帯直下押引後，円形刺突文棒状工具，斜縄(／)		斜縄(／)		〃 No35と同一個体？
〃	〃	40	F24-17	15	〃 〃	〃	〃 〃 (／) 〃	〃 〃				〃
〃	〃	41	F24-12	19	〃 〃	〃	〃 半竹押引文	円形刺突文		斜縄(／)		砂粒多い。少量の繊維を含む
〃	〃	42	F24-30	1	貝土4	〃	切り出し状，斜縄(＼) 篦状工具押引文	円形刺突文		斜縄(／)		砂粒，小礫を多く含む
〃	〃	43	F24-30	48	〃 〃	〃	〃 〃 (／) 〃	〃		〃 (／)		〃
〃	〃	44	F24-29	40	〃 〃	〃	〃 〃 (＼) 〃	〃		〃 (＼)		〃
〃	〃	45	G24-22	46	〃5	〃	〃 斜縄(／) 篦状押引刺突文 篦状工具押引文	篦状工具の円形刺突文		貼付帯，篦状工具押引文，斜縄(／)		〃
〃	〃	46	F24-24	1	〃4	〃	〃 〃 (／) 半竹外面押引文	押引施文後，篦状工具の刺突文		斜縄(／)？		〃
〃	〃	47	G24-13	1	〃5	〃	〃 〃 (＼) 縄線文	縄線施文後，円形刺突文		結束羽状(>)(？)		〃
〃	〃	48	F24-38	1	〃 〃	〃	〃 〃 (／) 縄端部の押引文(？)	裏面不規則な縄文 篦状工具の刺突文		斜縄(／)		〃
〃	〃	49	F24-24	1	〃4	〃	〃 斜縄(／)	円形刺突文		〃 (／)		〃
〃	〃	50	F24-28	25	〃 〃	〃	〃 斜縄(＼)	裏面斜縄(＼) 半竹刺突文		〃 (＼)		〃
〃	〃	51	F24-39	21	土貝2	〃	〃 端部縄文(＼) 結束羽状(<)	裏面結束羽状 半竹刺突文		結束羽状(<)		〃
〃	〃	52	F24-30	48	貝土4	〃	〃 斜縄(＼)	裏面斜縄(＼) 円形刺突文		斜縄(＼)		〃
〃	130(上)	53	G24-39	1	焼土21	〃	〃 〃 (＼)	篦状工具円形刺突文		〃 (＼)		〃
〃	〃	54	G24-21	23	〃22	〃	〃 〃 (＼)	半竹刺突，円形刺突		〃 (＼)		〃
〃	〃	55	F24-11	2	貝土4	〃	角型，斜縄(／)	〃 〃		〃 (／)？		〃
〃	〃	56	F24<24> 31	4 9	〃 〃	〃	角型 細い貼付帯	円形刺突文		〃 (＼)		砂粒，小礫を多く含む 赤色顔料付着。No60と同一？
〃	〃	57	G24-32	4	焼土22	〃	端部半竹押引文	〃		〃 (／)		砂粒，小礫を多く含む
〃	〃	58	F24-17	16	貝土4	〃	角型。口唇半竹押引文・半竹押引文	裏面縄文 円形刺突文		〃 (／)		〃
〃	〃	59	F24-16	1	〃 〃	〃	斜縄(／)半竹押引文	〃 〃		〃 (／)		〃
〃	〃	60	F24-48	12	〃5	〃	角型 細い貼付帯	円形刺突文				〃 赤色顔料付着 No56と同一？
〃	〃	61	F24-12	28	〃4	〃	丸味をもつ斜縄(／) 篦状工具による刺突文	半竹による刺突文 円形刺突文		半竹刺突文 斜縄(／)		繊維なし 砂粒，小礫を多く含む
〃	〃	62	F24-23	28	貝土4	〃	丸味をもつ斜縄(／)	円形刺突文		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	63	G24-21	23	焼土22	〃	〃 斜縄(＼)	〃		撚糸文 斜縄(＼)		〃
〃	〃	64	F24-9	15	貝土4	〃	切り出し状，斜縄(＼) 半竹押引文	〃		結束羽状(>)		〃
〃	〃	65	F24-5	6	〃 〃	〃	斜縄(／) 半竹外面押引文			斜縄(／) 半竹刺突文(縦方向)		〃
〃	〃	66	F24-32	17	〃 〃	〃	丸味のある 半竹外面押引文			半竹両面押引文 斜縄(／)		〃
〃	〃	67	F24-12 F24-5	36 10	〃 〃	〃	丸味をもつ			不規則な斜縄(／)		〃
〃	〃	68	F24-48	12	〃5	〃				貼付帯押引文 不規則な斜縄(／)		〃 赤色顔料付着
〃	〃	69	G24-39	13	焼土21	〃	やや切り出し状 斜縄(／)			結節斜縄(／) 斜縄		砂粒，小礫が多い
〃	〃	70	F24-40	26	土貝2	〃				貼付帯(粘押引文) 斜縄(／) 撚糸文・裏面縦位縄文		〃
〃	〃	71	F24-29	17	貝土4	〃				貼付帯(縄文) 結節羽状一裏面縦位縄文		〃
〃	〃	72	G24-15	46	〃5	〃					自縄自巻の斜縄(／)	〃

表18　貝塚掲載石器一覧

＊層位欄の数字は貝塚ブロックまたは焼土番号，「土貝」は「混土貝層」，「貝土」は「混貝土層」の略

挿図	図版	番号	出土区	小出土区	層位	名称	分類	重量(g)	石材	挿図	図版	番号	出土区	小出土区	層位	名称	分類	重量(g)	石材
Ⅲ-301	166	1	G-24	7	4貝土	石鏃	Ia	0.7	Obs	Ⅲ-301	166	5	F-24	27	4貝土	石鏃	Ⅱc	1.0	Obs
〃	〃	2	F-24	11	5貝土	〃	Ⅱc	0.5	〃	〃	〃	6	〃	47	2土貝	〃	〃	2.2	〃
〃	〃	3	〃	22	4貝土	〃	〃	1.0	〃	〃	〃	7	〃	55	〃	〃	〃	1.6	〃
〃	〃	4	〃	55	2土貝	〃	〃	1.7	〃	〃	〃	8	〃	38	5貝土	〃	〃	2.0	〃

挿図	図版	番号	出土区	小出土区	層位	名称	分類	重量(g)	石材	挿図	図版	番号	出土区	小出土区	層位	名称	分類	重量(g)	石材
III-301	166	9	G-24	22	5貝土	石鏃	IIc	1.7	Obs	III-302	166	72	F-24	10	4貝土	ポイント・ナイフ	II	10.9	Sh
〃	〃	10	F-24	56	2土貝	〃	〃	1.7	〃	〃	〃	73	〃	6	〃	つまみ付きナイフ	Ib	15.2	〃
〃	〃	11	G-24	16	3土貝	〃	〃	0.8	〃	〃	〃	74	G-24	8	3土貝	〃	Ia	7.7	〃
〃	〃	12	F-24	15	4貝土	〃	〃	1.1	〃	〃	〃	75	F-24	30	4貝土	〃	〃	2.9	〃
〃	〃	13	〃	14	〃	〃	IId$_2$	0.7	〃	〃	〃	76	G-24	15	5貝土	〃	IIIa	7.0	〃
〃	〃	14	〃	39	5貝土	石鏃	IIb	2.3	Sh	〃	〃	77	〃	16	3土貝	スクレイパー	EII	14.2	Obs
〃	〃	15	〃	〃	〃	〃	IIc	3.1	〃	〃	〃	78	〃	14	5貝土	〃	〃	7.7	〃
〃	〃	16	G-24	4	〃	〃	I	8.4	〃	〃	〃	79	F-24	9	4貝土	〃	〃	21.1	〃
〃	〃	17	〃	24	3土貝	〃	IIc	7.3	Obs	〃	〃	80	G-24	39	21焼土	〃	〃	6.9	〃
〃	〃	18	〃	14	22焼土	〃	IIIa	3.5	Sh	〃	〃	81	F-24	16	4貝土	〃	〃	3.2	〃
〃	〃	19	F-24	23	4貝土	〃	〃	3.4	〃	〃	〃	82	G-24	6	5貝土	〃	〃	15.0	Sh
〃	〃	20	〃	56	2土貝	〃	〃	2.5	〃	〃	〃	83	F-24	39	〃	〃	IIIa	7.5	Obs
〃	〃	21	〃	6	4貝土	〃	〃	2.5	〃	〃	〃	84	〃	17	4貝土	〃	〃	24.0	〃
〃	〃	22	〃	32	〃	〃	〃	2.4	〃	〃	〃	85	G-24	24	3土貝	〃	IV	4.6	〃
〃	〃	23	〃	22	〃	〃	〃	2.4	〃	〃	〃	86	F-24	39	5貝土	〃	IIIa	11.7	〃
〃	〃	24	〃	10	〃	〃	〃	1.4	〃	III-303	〃	87	〃	38	〃	コア		21.2	〃
〃	〃	25	〃	14	〃	〃	〃	1.8	〃	〃	〃	88	〃	21	4貝土	〃		21.8	〃
〃	〃	26	G-24	22	5貝土	〃	〃	1.6	〃	〃	〃	89	〃	30	〃	〃		30.4	〃
〃	〃	27	F-24	38	〃	〃	〃	2.6	〃	〃	〃	90	〃	46	5貝土	〃		14.5	〃
〃	〃	28	〃	47	〃	〃	〃	2.4	〃	〃	〃	91	F-24	23	4貝土	〃		21.5	〃
〃	〃	29	〃	31	4貝土	〃	〃	1.6	〃	〃	〃	92	G-24	16	22焼土	〃		17.4	〃
〃	〃	30	G-24	22	1A 土貝	〃	〃	1.9	〃	〃	〃	93	F-24	23	4貝土	棒状原石		2.3	〃
〃	〃	31	F-24	30	4貝土	〃	〃	1.2	〃	〃	〃	94	〃	29	〃	石斧	IIa$_2$	228.2	Gr-Sa
〃	〃	32	〃	〃	〃	〃	〃	1.1	〃	〃	〃	95	G-24	5	3土貝	〃	I-	87.8	Gr-Mud
〃	〃	33	G-24	31	22焼土	〃	〃	0.8	〃	〃	〃	96	〃	〃	〃	〃	〃	121.8	〃
〃	〃	34	F-24	10	4貝土	〃	〃	1.3	〃	〃	〃	97	F-24	39	5貝土	〃	〃	75.5	Sh
〃	〃	35	〃	20	〃	〃	〃	1.5	〃	III-304	167	98	〃	29	4貝土	すり石		450	And
〃	〃	36	F-23	16	〃	〃	〃	1.1	〃	〃	〃	99	G-24	13	5貝土	〃		400	〃
〃	〃	37	F-24	11	〃	〃	〃	0.7	〃	〃	〃	100	F-24	10	4貝土	〃		140	〃
〃	〃	38	〃	38	5貝土	〃	〃	1.1	〃	〃	〃	101	〃	20	〃	〃		160	〃
〃	〃	39	F-23	15	4貝土	〃	〃	1.1	〃	〃	〃	102	〃	29	〃	〃		510	〃
〃	〃	40	G-24	〃	5貝土	〃	〃	0.8	〃	〃	〃	103	〃	30	〃	〃		340	〃
〃	〃	41	F-24	14	4貝土	〃	〃	1.2	〃	〃	〃	104	〃	15	〃	〃		440	〃
〃	〃	42	G-24	〃	3土貝	〃	〃	0.9	〃	〃	〃	105	〃	23	〃	〃		200	〃
〃	〃	43	F-24	47	5貝土	〃	〃	1.2	〃	〃	〃	106	〃	30	〃	北海道式石冠		790	〃
〃	〃	44	〃	30	4貝土	〃	〃	0.8	〃	〃	〃	107	〃	29	〃	〃		750	〃
〃	〃	45	〃	40	5貝土	〃	〃	0.4	〃	〃	〃	108	〃	4	〃	〃		780	Por
〃	〃	46	F-24	32	4貝土	〃	〃	0.5	〃	〃	〃	109	〃	13	〃	〃		780	〃
〃	〃	47	F-24	19	〃	〃	〃	1.0	〃	〃	〃	110	〃	14	〃	〃		1130	And
〃	〃	48	〃	39	5貝土	〃	〃	0.5	〃	〃	〃	111	〃	20	〃	〃		600	〃
〃	〃	49	〃	31	4貝土	〃	〃	0.6	〃	〃	〃	112	〃	12	〃	球石		680	〃
〃	〃	50	〃	11	〃	〃	〃	0.6	〃	〃	〃	113	〃	17	〃	〃		350	Por
〃	〃	51	〃	38	24焼土	〃	〃	0.7	〃	〃	〃	114	〃	39	5貝土	〃		330	And
〃	〃	52	〃	12	4貝土	〃	〃	0.8	〃	III-305	〃	115	〃	44	4貝土	たたき石		610	Qua
〃	〃	53	〃	38	5貝土	〃	〃	1.1	〃	〃	〃	116	G-24	5	5貝土	〃		660	〃
〃	〃	54	〃	3	4貝土	〃	〃	0.6	〃	〃	〃	117	F-24	37	4貝土	〃		510	〃
〃	〃	55	〃	47	2土貝	〃	〃	0.8	〃	〃	168	118	〃	38	5貝土	〃		470	〃
〃	〃	56	〃	14	4貝土	〃	〃	0.8	〃	〃	〃	119	〃	〃	〃	〃		350	〃
〃	〃	57	〃	39	5貝土	〃	〃	0.6	〃	〃	〃	120	〃	56	I	〃		370	〃
〃	〃	58	〃	12	4貝土	〃	〃	0.5	〃	〃	〃	121	〃	13	4貝土	〃		290	〃
〃	〃	59	G-24	31	22焼土	〃	〃	0.6	〃	〃	〃	122	〃	22	〃	〃		840	And
〃	〃	60	F-24	11	4貝土	〃	〃	0.4	〃	〃	〃	123	G-24	14	5貝土	〃		970	〃
〃	〃	61	〃	13	〃	〃	〃	0.6	〃	〃	〃	124	F-24	47	〃	くぼみ石		300	〃
〃	〃	62	G-24	16	22焼土	〃	〃	0.4	〃	〃	〃	125	G-24	16	3土貝	〃		260	〃
〃	〃	63	F-24	30	4貝土	〃	〃	0.3	〃	〃	〃	126	F-24	22	4貝土	〃		500	〃
〃	〃	64	〃	14	〃	〃	〃	0.2	〃	III-306	〃	127	〃	37	〃	砥石		1360	Sa
III-302	〃	65	G-24	31	22焼土	ポイント・ナイフ	Ia$_2$	1.7	Obs	〃	〃	128	〃	30	〃	〃		320	〃
〃	〃	66	F-24	47	5貝土	〃	Ia$_1$	3.6	〃	〃	〃	129	G-24	22	1A 土貝	〃		40	〃
〃	〃	67	〃	15	4貝土	〃	〃	8.6	〃	〃	〃	130	F-24	20	4貝土	〃		340	〃
〃	〃	68	〃	10	〃	〃	〃	12.4	〃	〃	〃	131	G-24	7	3土貝	石皿・台石		13500	And
〃	〃	69	〃	48	5貝土	〃	〃	6.0	〃	〃	〃	132	F-24	30	4貝土	〃		15000	〃
〃	〃	70	G-24	24	3土貝	〃	Ib	6.6	〃	〃	〃	133	〃	29	20焼土	〃		4500	〃
〃	〃	71	〃	31	22焼土	〃	〃	5.2	〃	〃	〃	134	G-24	24	1A 土貝	〃		6000	〃

表19　貝塚・遺構掲載骨角製品一覧

挿図	図版	番号	遺構・発掘区・遺物番号	層位	名称	大きさ 長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	材質	備考
III-295	184	1	F-24-10-1	4貝土	銛頭	6.6× 1.2 ×0.9	3.7	海獣骨	肋骨
〃	〃	2	G-24-12-1	〃	釣針未成品	(12)×(20)× 4	(0.7)	鹿角	
〃	〃	3	F-24-12-4	〃	ヘラ状骨製品	(47)×(10)× 4	(1.6)	鹿骨	四肢骨片
〃	〃	4	G-24-13-2 G-24-21	5貝土	針状骨製品	(60)× 4 × 2	(0.6)	鳥骨	
〃	〃	5	F-24-13	4貝土	不明骨製品	(26)×(13)× 4	(1.0)	海獣骨	
〃	〃	6	F-23-16	〃	〃	(23)×(6)×(7)	(0.7)	〃	
〃	〃	7	F-24-11	〃	〃	(23)×(8)× 7	(0.9)	〃	
〃	〃	8	G-24-15	1土貝	銛頭?	(12)× 7 × 3	(0.2)	〃	
〃	〃	9	G-24-15	5貝土	未成品	(27)×(6)×(2)	(0.3)	鳥骨	
〃	〃	10	F-24-39	〃	管状骨製品	25 ×(7)×(2)	(0.3)	〃	
〃	〃	11	F-24-9	4貝土	不明骨製品	(10)×(7)× 2	(0.1)	海獣骨	
〃	〃	12		表採	貝製平玉	21 × 20 × 7	4.1	ビノスガイ	
〃	〃	13	F-24	I	〃	(12)× 16 ×(4)	(0.7)	〃	
III-296	〃	14	F-24-10-2	4貝土	折断痕のある鹿角	116× 38 × 52	69.0	鹿角	奇形を利用
〃	〃	15	FH-33-472	覆土	銛頭	(15)× 9 × 2	(0.1)	?	

表20　C地区焼土掲載拓本一覧

挿図	図版	番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	文様と特徴 口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	備考
III-315		1	FF-18	9	覆土	IIB2c	水平に切られ上端縄文	絡条体圧痕文				多量の繊維混入
〃		2	〃	9		IIIA1		鋸歯状，縄線圧痕文?	貼付帯，縄圧痕文	撚糸文		〃
〃		3	〃	1		IIB				結束羽状?		〃
〃		4	〃	22		IIIB3	切り出し状2段押引文	肥厚帯直下押引後，円形刺突文		斜縄文?		裏面縄文，少量の繊維
〃		5	〃	22		〃	〃 2段押引後，楕格文	貼付(帯状)肥厚帯直下，円形刺突文		結節羽状		〃 . 〃
〃		6	〃	22		〃	〃 斜縄文	肥厚帯直下，円形刺突文		斜縄文		〃
〃		7	〃	9		〃	角型，肥厚帯なし焔部縄文	円形刺突文		羽状縄文		少量の繊維混入
〃		8	〃	9		IIB	切り出し状	刺突文なし		斜縄文		裏面縄文，少量の繊維混入
〃		9	〃	22		IIIB3					わずかに張り出す	胎土少量の繊維混入
〃		13	FF-19	1		〃				細い押引のある貼付帯，結束羽状		繊維なし
〃		14	〃	1		〃		円形刺突文		結束羽状		
〃		15	〃	1		〃				斜縄文		

表21　C地区焼土掲載石器一覧

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	名称	分類	重量(g)	石材	挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	名称	分類	重量(g)	石材
III-315		10	FF-18	10	—	石錐	IIC	0.7	Obs	〃		12	〃	27	—	コア	—	14.3	Obs
〃		11	〃	23	—	スクレイパー	IIa	4.7	〃	〃		16	FF-19	2	—	スクレイパー	IV	4.1	Sh

表22　C地区包含層掲載実測土器一覧

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	大きさ(cm) 口径	底径	器高	分類	破片数	文様と特徴 口径部	頸部	区画帯	体部	底部	備考
III-316	101	1	N-27	73	IVB	35.7	(19.0)	(20.8)	IB2	104	尖がる口唇6条縄線文			自縄自巻羽状	実底	
〃	〃	2	F-29	256	I	26.0	— (尖底)	30.8	IIA2	22	尖がる口唇			斜縄(／)	〃	
〃	〃	3	E-29 F-29	74 232	IIC	37.6	— (尖底)	47.5	〃	34	角型裏面縄文			〃	〃	
〃		4	F-29	20	I	(31.5)	(9.5)	(22.9)	〃	13				〃		
〃	102	5	F-29	239	IIC	(21.2)	— (尖底)	(19.6)	〃	12				〃	〃	
〃	〃	6	E-29 F-29	20 55	〃	(18.0)	— (尖底)	(17.2)	〃	10				〃	〃	
〃	〃	7	E-29	49	〃	38.0	(26.0)	(21.2)	〃	15	丸味をもつ口唇裏面縄文			〃		

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	大きさ(cm) 口径	底径	器高	分類	破片数	文様と特徴 口縁部	頸部	区画帯	体部	底部	備考
III-317	102	8	E-28	1	IIb	24.5	(22.3)	(17.0)	IIB2a	17	丸味をもつ口唇 縄圧痕文	2段縄線文	縄線文	上半 結束羽状(<) 下半 多軸絡状体回転文		
〃	〃	9	G-27	103	I	25.7	(19.3)	(21.3)	〃	22	間延した切出し状 縄線文, 縄圧痕	曲線縄線文	円形刺突文	多軸絡条体回転文		
〃	〃	10	F-29	101	IIb	(13.0)	(10.6)	(12.9)	〃	12		多段縄線文	縄線文	〃		
〃	103	11	H-27	99	I	17.5	8.8	19.7	〃	37	切り出し状 口縁部無文			〃	やや揚げ底	
〃	〃	12	N-23	324	IIb	26.2	(21.3)	(13.5)	IIB2b	9	切り出し状	結束部のある縄線文	半竹刺突文	斜縄(／)?		
〃	〃	13	G-23	63	〃	14.0	8.0	18.0	〃	22	切り出し状 結束羽状(<)	肥厚帯直下縄線文 半竹刺突文		結束羽状(<)	平底	
〃	〃	14	田中	15		41.8	(21.0)	(46.2)	〃	43	切り出し状 斜縄(＼), 半竹刺突文	多段縄線迂弧文	半竹刺突文	結束羽状(>)	〃	
III-318	〃	15	N-25	23		29.2	(20.0)	(26.5)	IIB2c	29	切り出し状 絡条体圧痕文	無文地 鋸歯状絡条体圧痕文	絡条体圧痕文	上半一斜縄(／) 下半一結束羽状(>)		
〃	〃	16	I-32 I-33 N-27	289 37 433	I	19.8	(16.0)	(8.4)	〃	4	切り出し状 無文地, 絡条体圧痕文	無文地に絡条体圧痕文		結束羽状(<)		
〃	104	17	Q-25	24	IIb	32.9	(23.7)	(17.25)	〃	25	切り出し状 斜縄(＼)	無文地 絡条体圧痕文	円形刺突文	結束羽状		底体5cm前後
〃	〃	18	I-22	46	〃	(34.5)	(22.3)	(32.1)	〃	42	切り出し状 縄文, 突起部で方向変化	無文地 絡条体圧痕文	円形刺突文	結束羽状 底部から口縁へ施文		
〃	〃	19	O-32	10	I	18.9	8.2	20.6	IIB	17	やや角型 内面縄文(／)			羽状(>)	平底 底面縄文	
〃	〃	20	F-29	301	〃	11.2	6.5	14.8	〃	13	切り出し状 斜縄(＼)	肥厚帯直下ナデ		結束斜縄(＼)	張り出す やや揚げ底	
〃	〃	21	N-22 N-21	12 30	II	15.0	8.5	16.3	〃	15	丸味をもつ口唇			斜縄(＼)	やや揚げ底ぎみ	
〃	〃	22	F-26	145		16.6	10.0	23.0	〃	9	丸味をもつ口唇			無文 粗雑な整形		胎土繊維を含まず、砂粒多い
III-319	105	23	F-22	92	II	25.5	(15.9)	(20.6)	〃	10	切り出し状 斜縄(／)			結束羽状(>)		
〃	〃	24	F-23	66	IIb	17.9	(14.6)	(12.0)	〃	5	切り出し状 斜縄(＼)	くびれをもつ 不規則な羽状		斜縄(＼)		
〃	〃	25	F-28	3	I	11.0	(6.0)	(12.4)	〃	5	尖がる口唇			斜縄(／)		
〃	〃	26	J-20	50	IIb	16.5	(10.1)	(15.8)	〃	5	切り出し状 斜縄(／)			結束羽状(<)		
〃	〃	27	P-26	56	〃	18.8	(13.9)	(19.6)	〃	9	切り出し状, 斜縄(／) 口唇端部へラ状工具で角をもつ。					
〃	〃	28	J-26	182	〃	13.7	(11.7)	(11.7)	〃	3	切り出し状 斜縄(＼)	肥厚帯直下軽いナデ		結束斜縄(／)		
〃		29	K-23	229	〃	(14.5)	8.7	(15.0)	〃	18				結束羽状(>)	平底	
〃		30	Q-25	24	〃	(20.95)	15.4	(14.45)	〃	21				〃	平底	
〃		31	J-20	50	IIb	(13.8)	(9.5)	(8.0)	〃	10				結束羽状(<)	平底	
〃		32	F-22	92	II	(15.5)	(13.0)	(12.7)	〃	11				結束羽状(<)	やや揚げ底	
〃		33	H-24	239	IIb	(19.1)	12.0	(20.7)	〃	23				結束羽状(>)	〃	
〃		34	I-26	121	〃	(21.0)	9.8	(22.4)	〃	16				〃 (>)	平底	
〃		35	F-23	39	II	(20.5)	11.2	(19.4)	〃	9				斜縄(＼)	やや揚げ底	
III-320	106	36	G-22 F-24	2 64-8	〃	20.5	(14.2)	(12.0)	〃	8	切り出し状 斜縄(／)	貼付帯 半竹刺突文		結束羽状(>)		
〃	〃	37	H-20	48	IIb	26.0	(20.0)	(14.5)	IIIA1	4	切り出し状 擬状組紐, 撚糸文	貼付帯, 擬状組紐 縄端圧痕文	貼付帯 撚糸文			
〃	〃	38	I-22	88	〃	32.5	(24.9)	(16.8)	〃	10	切り出し状 縄圧痕文	貼付帯 多段縄線文	貼付帯 縄圧痕文	羽状		
〃	〃	39	I-22 H-22	59 1	〃	21.0	10.8	24.5	〃	28	切り出し状 鋸歯状貼付紐	貼付紐 縄端による馬蹄形圧痕文	貼付紐	結束羽状(<)		
〃	〃	40	H-20 I-20 I-22	21 6 44	II IIb	18.05	(11.6)	(21.4)	IIIA2	16	切り出し状 貼付紐	結束羽状(>) 貼付紐	〃	〃 (<)		
〃	〃	41	H-20 G-25	246 161	IIb	19.8	(12.5)	(19.3)	IIIB1	9	切り出し状 貼付紐, 縄線文	貼付紐, 縄線文, 沈線文 半竹押引, 刺突文, 斜縄(／)		斜縄(／)		
〃	107	42	H-22	56	II	24.0	(17.95)	(12.6)	〃	12	切り出し状, 円形刺突文, 半竹刺突, 貼付紐	橋状把手, 不規則な縄文 貼付紐, 半竹押引文		不規則な縄文		
〃	〃	43	L-21	32	〃	(18.5)	(11.9)	(20.9)	〃	12	切り出し状 半竹刺突文, 押引			上半一不規則な斜縄 下半一結束羽状(<)		
III-321	〃	44	F-24	37-1	IIb	28.0	(12.8)	(33.0)	IIIB3	11	切り出し状 篦押引文	肥厚帯直下押引後円形刺突文, 細い貼付帯		結束羽状(>)		
〃	〃	45	H-24	146	II	30.5	(23.6)	(14.0)	〃	7	切り出し状 半竹刺突	肥厚帯直下押引後円形刺突, 半竹押引, 斜縄(／)		斜縄(／)		
〃	〃	46	F-24	188	IIb	13.8	7.4	25.5	〃	35	切り出し状, 斜縄(／) 篦状押引文	肥厚帯直下円形刺突文 斜縄(／), 篦押引文		斜縄(／)	揚げ底	
〃	〃	47	J-25	56	I	16.2	(14.7)	8.5	〃	3	切り出し状, 斜縄(／) 半竹押引文	肥厚帯直下押引後 円形刺突文		斜縄(／)		
〃	108	48	F-22	92	II	19.0	(14.65)	(10.7)	〃	5	切り出し状, 無文地 半竹押引文	肥厚帯直下押引後 円形刺突文		斜縄(／)		
〃	〃	49	H-24	1	IIb	29.9	12.5	42.8	〃	57	切り出し状, 無節斜縄(＼), 篦押引文	肥厚帯直下押引後円形刺突文, 無節斜縄(＼)		無節斜縄(＼)	平底	
〃	〃	50	H-24	372	IIb	21.8	10.0	25.6	〃	48	切り出し状 半竹押引文	肥厚帯直下押引後 円形刺突文			やや揚げ底	
〃	〃	51	J-23 I-24	26 66	II	19.0	(16.9)	(10.5)	〃	5	尖がる口唇, 斜縄(／) 半竹外面刺突文	円形刺突文		斜縄(／)		
III-332	〃	52	I-24 K-24	13 101	〃	23.0	(19.4)	(11.4)	〃	8	切り出し状, 斜縄(／) 半竹外面刺突文	肥厚帯直下半竹内面刺突文		斜縄(／)		
〃	〃	53	F-22	22	〃	15.8	(11.5)	(20.5)	〃	7	丸味をもつ口唇	半竹押引文		斜縄(／)		

挿図	図版	番号	遺構	遺物番号	層位	大きさ(cm) 口径	底径	器高	分類	破片数	文様と特徴 口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	備考
III-332	109	54	F-23	40	II	15.7	8.95	22.7	IIB3	25	切り出し状 斜縄(＼)	肥厚帯直下円形刺突文		上半 斜縄(＼) 下半 結束羽状(＜)	平底?	
〃	〃	55	H-24	234	IIb	10.5	(7.5)	(16.3)	〃	35	やや角型	部分的に円形刺突文		結節斜縄(／)		
〃	〃	56	I-20	69	II	10.3	5.3	17.4	〃	10	丸味をもつ口唇			斜縄(＼)	やや揚げ底	
〃	〃	57	I-19	167	IIb	(8.6)	(5.1)	(12.3)	IIIB	1				斜縄(＼), 半竹押引 穿孔のある貼付瘤		
〃		58	J-25	36	I	(13.2)	5.6	(9.5)	IVA	5				複節斜縄(＼) 段格文(?)	平底	
〃	109	59	G-22	100	II	15.5	5.6	11.3	〃	13	丸味をもつ口唇, 斜縄(／), 鋸歯状沈線文			斜縄(／) カニのハサミ状沈線	〃	
〃	〃	60	F-23	54	IIb	15.0	7.5	19.0	〃	33	丸味をもつ口唇 無文地, 鋸歯状沈線文	無文帯		「●」状磨消縄文	〃	
〃	110	61	N-23	146	II	14.7	4.8	6.6	VI	11	丸味をもつ口唇			斜縄(／)	やや揚げ底	坏
〃	〃	62	J-25	41	I	19.0	(11.5)	(6.5)	〃	3	〃			斜縄(＼)		
〃	〃	63	G-27	103	I	19.8	(17.8)	(15.8)	〃	11	尖がる口唇 口唇内面整形			〃 (＼)		深鉢
〃	〃	64	O-30 O-31	246 107	I	26.0	8.0	25.7	VII	11	角型 大きく外反			ハケ調整 調整具幅約1cm	平底 底面木葉痕あり	
〃	〃	65	O-30	253	I	12.8	(6.8)	(11.5)	〃	3	角形 ナデ調整	横走する4条沈線		ヘラ調整 調整具幅約1cm		
〃	〃	66	〃	253	I	9.5	6.0	3.7	〃	1	丸味をもつ口唇			ヘラ調整 無文		小型

表23 C地区包含層掲載拓本一覧

挿図	図版	番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	文様と特徴 口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	備考
III-323	134	67	O-31	135	I	Ia				貝殻腹縁による押引文		
〃	〃	68	F-21	1	IIb	IB1	角型, 縄圧痕文 短縄圧痕文			自縄自巻 斜縄(＼)		
〃	〃	69	G-21	181	〃	〃	角型縄圧痕文			〃 〃 (＼)		
〃	〃	70	F-21	32	〃	〃	角型 縄圧痕文			〃 〃		
〃	〃	71	F-18	28 29	II III	〃				自縄自巻羽状		No72と同一個体
〃	〃	72	F-18	28	II	〃				組紐圧痕文 縄圧痕文		No71と同一個体
〃	〃	73	F-17 F-18	2 11	II II	〃				縄圧痕文 斜縄(＼)	張り出し 縄圧痕文	
〃	〃	74	G-21 H-21 I-22	181 106 47	IIb 〃 〃	IB2	薄く丸味のある口唇					
〃	〃	75	I-22	261	IIC	〃	丸味をもつ口唇			やや厚手 燃糸文(自縄自巻)?		
〃	〃	76	F-29	295	〃	〃	〃			菱目状縄文		厚手, 粗雑な調整 多量の繊維を含む
〃	〃	77	L-29	33	I	〃	〃 縄線文					
〃	〃	78	N-24	82	〃	〃				凝状組紐(?)		
〃	〃	79	G-22	41	IIb	〃				羽状縄文 (自縄自巻)		
〃	〃	80	N-26	32	〃	〃				凝状組紐		
〃	〃	81	M-22	228	IIC	〃				縄端圧痕文		
〃	〃	82	I-19	180	IIb	〃				多軸絡条体圧痕文 羽状自縄自巻		
〃	〃	83	H-22	128	〃	〃				羽状自縄自巻		
〃	〃	84	N-23	105	II	〃				〃		内面多量の炭化物付着
〃	〃	85	G-26	215	III	〃				〃	やや平底ぎみの丸底	
〃	〃	86	H-21	106		〃						No74, 83と同一個体?
〃	〃	87	I-31	145	I	IIA1				横走する縄文(ナデが加えられている)		多量の繊維を含む。綱文式
〃	〃	88	F-25	61	IIb	IIA2	丸味をもつ口唇			斜縄(／)		多量の繊維を含む。丁寧な内面調整
〃	〃	89	F-22	57	I	〃	〃			〃 (＼)		〃 , 礫を含む 粗雑な調整
〃	〃	90	F-29	240	IIc	〃	角型			〃 (＼)		多量の繊維を含む。丁寧な調整
〃	〃	91	G-29	90	I	〃	〃			不規則な斜縄(／)		多量の繊維, 礫を含む
〃	〃	92	I-34	159	〃	〃	〃			〃		〃 比較的丁寧な調整
〃	〃	93	G-29	2	〃	〃	丸味をもつ口唇			〃		〃 〃 薄手である
〃	〃	94	F-29	234	〃	〃	角型			〃 (＼)		〃 〃

挿図	図版	番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III-323	134	95	E-29	49	IIc	IIA2	角型			不規則な斜縄(／)		多量の繊維，礫を含む 比較的丁寧な調整
〃	〃	96	K-28	120	I	〃				〃 (／) 内面貝殻条痕文		少量の繊維，小礫を含む
〃	〃	97	G-29	90	〃	〃				内面菱目状縄文		多量の繊維
〃	〃	98	G-29 F-29	4 234	I I	〃 〃				規則的な斜縄(＼)		〃 ，丁寧な調整
〃	〃	99	E-29	49	IIc	〃				〃 (／)		〃 〃
〃	〃	100	O-24	460	III	〃				斜縄(／)		脆弱である。多量の繊維混入。内面調整粗雑
〃	〃	101	F-29	241 324 256	I	〃				〃 (／)		〃 〃
〃	〃	102	O-34 P-33	4, 8 2	〃	IIA1 (?)				横走する縄線圧痕文		春日町式？
III-324	〃	103	F-29	7	〃	IIB1	角型 内面斜縄(／)	2条縄線文		斜縄(／)		繊維が多く，調整が粗雑。 小礫を含む，内面赤色顔料 が認められる
〃	〃	104	F-29	256	〃	〃	丸味をもつ口唇 内面縦位縄文(｜)	2条の鋭い沈線文		〃 (＼)		〃 〃 〃
〃	〃	105	J-30	55	〃	〃	角型	3条(?)の縄線文				多量の繊維，砂礫，調整粗雑
〃	〃	106	M-32	94	〃	〃	角型 内面斜縄(／)	2条縄線文 体部原体の圧痕文				繊維が多く，小礫を含む 大麻V式の類似
〃	〃	107	K-27	217	〃	〃	〃	4条縄線文		斜縄(／)		〃 〃 調整が丁寧
〃	〃	108	I-24	3	II	〃	丸味をもつ	体部原体の圧痕文(?)		結連羽状		〃 〃 〃
〃	〃	109	H-31	121	I	〃	〃	4条縄線文		斜縄(／)		〃 〃 調整が粗雑
〃	〃	110	N-21	101	IIb	〃	内面斜縄(／)	3条 〃		不明		脆弱。多量の砂粒，繊維 粗雑な調整
〃	〃	111	L-32	33	I	〃	丸味をもつ			斜縄(／)		多量の繊維，砂粒，小礫 〃
〃	〃	112	I-32	278	〃	〃	角型	5条縄線文		〃 (／)		多量の繊維 〃
〃	〃	113	K-27	94	〃	〃	丸味をもつ	4条 〃		縦位縄文		〃 ，砂礫 〃
〃	〃	114	P-32	4	〃	〃	丸味をもつ口唇 内面，横位縄文(—)	2条の鋭い沈線文		斜縄(＼)		〃 小礫を含む 〃
〃	135	115	L-29	33	〃	〃	角型 内面斜縄(／)	殻絡文状		〃 (／)		少量の繊維，砂粒が多い 内面調整粗雑
〃	〃	116	H-33	57	〃	〃	〃 (／)	〃		〃 (／)		〃 〃 〃
〃	〃	117	H-32	1	II	〃	丸味をもつ口唇	〃		〃 (／)		〃 〃 〃 小礫を多く含む
〃	〃	118	H-31	101	I	〃	角型 口唇縄線圧痕文(?)	内面斜縄(／) やや波状ぎみ，殻絡文状		〃 (／)		〃 〃 粗雑な調整
〃	〃	119	L-31	61	〃	〃	〃 内面斜縄(／)	幅狭い殻絡文状		〃 (／)		〃 〃 〃
〃	〃	120	H-33	148	〃	〃	丸味をもつ口唇 〃 (／)	〃		〃 (／)		〃 〃 〃
〃	〃	121	F-30	16	〃	〃	〃 〃 (／)	〃		〃 (／)		多量の繊維，砂粒多い
〃	〃	122	J-27	163	〃	〃	〃 〃 (／)	比較的幅広の殻絡文状		〃 (／)?		〃 〃 粗雑な調整
〃	〃	123	P-32	12	〃	〃	角型 〃 (／)	幅狭い殻絡文状		〃 (／)		〃 〃 〃
〃	〃	124	G-29	2	〃	〃	〃 〃 (／)	〃		〃 (／)		〃 〃 〃
〃	〃	125	M-24	230	IIb	〃	〃	半竹刺突文		〃 (／)		粗雑な調整
〃	〃	126	M-31	1	I	〃	丸味をもつ 斜縄(／)	幅広の殻絡文状		〃 (／)		多量の繊維，砂粒を含む 粗雑な調整
〃	〃	127	P-34	47	〃	〃	〃 〃 (／)	〃 (押型文の可能性あり?)		〃 (／)		〃 〃 〃
〃	〃	128	F-29	231	〃	〃	〃 撚戻し縄文(—)	殻絡文状				〃 〃 〃
〃	〃	129	P-31	15	〃	〃	丸味をもつ口唇	撚り戻し殻絡文状				多量の繊維混入，砂粒多い
〃	〃	130	I-26	6	〃	〃	角型 内面斜縄(／)	幅狭い殻絡文状		斜縄(／)		〃 〃 〃
〃	〃	131	L-32	78	〃	〃	丸味をもつ	幅狭い撚り戻しの殻絡文状		撚り戻し斜縄(＼)		〃 小礫が混る 〃
〃	〃	132	L-24	243	IIb	〃	丸味をもつ口唇 撚糸文(?)	殻絡文状		縦位太い撚糸文		脆弱 〃 砂粒を含む 〃
〃	〃	133	L-32	33	I	〃	〃	〃 (?)		撚糸文(＼)		多量の繊維混入，砂粒が多 い，調整比較的丁寧
III-325	〃	134	F-24	359	〃	〃	〃	半竹刺突文		綱目状撚糸文		〃 〃 粗雑な調整
〃	〃	135	J-31	193	〃	〃	〃	〃		撚糸文		〃 〃 〃
〃	〃	136	N-31	44	〃	〃	〃	殻絡文状		〃		〃 〃 〃
〃	〃	137	G-26	205	IIb	〃	〃	縄線文	貼付，指頭圧痕文	撚糸文(＼)		〃 〃 〃
〃	〃	138	I-31	137	I	〃	角型 内面斜縄(／)	殻絡文状	貼付帯 指頭圧痕文	不規則な斜縄文		繊維がなく，調整が粗雑 内面赤色顔料付着
〃	〃	139	G-20	195	IIb	〃	丸味をもつ口唇 内面斜縄(＼)	〃	〃 〃	不明		脆弱，砂粒が多い

挿図	図版	番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
Ⅲ-325	135	140	F-23	54	IIb	IIB1		無文地	タガ状貼付帯	斜縄(＼)		脆弱砂粒が多い 小礫を含む
〃	〃	141	F-28 G-27	57 88	IIb I	〃	角型 内面斜縄(／)	絞結文状	隆帯＋円型刺突文 沈線で区画			〃 〃
〃	〃	142	G-23	71	IIb	〃		無文地に円形刺突文	貼付帯	羽状(＜)		繊維が多く，調整が丁寧 〃
〃	〃	143	G-29	4	I	〃	丸味をもつ口唇	2条一組の山形圧痕文	2条一組の縄圧痕文			砂粒が多い。調整比較的丁寧，内面赤色顔料付着
〃	〃	144	F-22	47	〃	〃	〃 内面不規則な縄文	縦位の貼付帯 1条の縄線による山形文	縄線圧痕文	斜縄(＼)		砂粒多く，繊維が少ない 調整粗雑，厚手
〃	〃	145	Q-31	11	II	〃	尖る	斜縄(／) 口縁部やや外反ぎみ	2本一組縄線文			〃 〃 〃
〃	136	146	J-23	3	II	〃	丸味をもつ口唇	大きくくびれる	2条一組の縄線文	結束羽状(＜) 口縁部の縄線原体で施文		多量の繊維 調整粗雑
〃	〃	147	F-22	49	I	〃	内面斜縄(／)	絞結文状・沈線文	上下沈線による区画			砂粒が多く，繊維が少ない 調整粗雑，厚手
〃	〃	148	F-29	356	〃	〃	丸味をもつ口唇	くびれをもつ		縦位燃糸文		〃 ，繊維も多い 調整丁寧，内面赤色顔料付着
〃	〃	149	F-29	127	IIb	〃	角型 口唇に縄文	燃糸(横位)		？		〃 〃 調整粗雑
〃	〃	150	I-32	371	I	〃	尖がった口唇	一方撚り戻しの 結束羽状縄文(＞)		一方撚り戻しの 結束羽状縄文(＞)		〃 調整丁寧 IIB2aの可能性あり
〃	〃	151	F-27 F-28	26 3	I I	〃	丸味をもつ口唇			斜縄(／) 縄端		〃 〃 調整粗雑
〃	〃	152	G-27	101 103	I	〃				斜縄(／) 絞結文状		〃 〃 〃
〃	〃	153	I-30 I-31 I-32	198 135・152 370	I I I	〃				撚り戻し斜縄(／)		〃 〃 No170と同じ 〃 外面赤色顔料付着
〃	〃	154	I-34	181	I	〃				斜縄(／) 内面条痕文		〃 〃 〃 〃
〃	〃	155	I-32	497	〃	〃				不規則な斜縄(＼) 〃		〃 〃 〃
〃	〃	156	H-24	48	〃	〃				撚り異なる付加条文(？) (／)		〃 〃 〃
Ⅲ-326	〃	157	H-33	54	〃	〃	丸味をもつ	3条縄線文		燃糸文		多量の繊維，砂礫 調整粗雑
〃	〃	158	H-24	170	II	〃	切り出し状 縄線文，縄圧痕文		円形刺突文	〃		砂粒，小礫を含む，繊維少ない 〃
〃	〃	159	F-28	44	I	IIB2a		縄線文	隆起帯	〃		砂粒，小礫少ない 調整丁寧，多量の繊維
〃	〃	160	O-24	453	IIb	IIB1		無文(？)	縄線文	網目状燃糸文		砂粒，小礫多い 調整粗雑，脆弱
〃	〃	161	J-26	330	I	〃				〃		〃 〃
〃	〃	162	H-33	58	〃	〃				〃		〃 〃 ，赤色顔料付着
〃	〃	163	J-28	103 108	〃	〃				〃		〃 〃
〃	〃	164	I-32	449	〃	〃				〃		〃 〃 赤色顔料付着
〃	〃	165	H-33	65	〃	〃				〃		〃 〃
〃	〃	166	H-32	1	〃	〃				〃		砂粒，小礫多い 調整粗雑
〃	〃	167	L-32	29	〃	〃				〃		〃 〃
〃	〃	168	J-22	140	IIb	〃(？)			貼付帯，縄線文	2本一組，網目状燃糸		砂粒，小礫少ない 調整丁寧，脆弱
〃	〃	169	Q-35	4	I	〃				亀甲状燃糸文		〃 〃 ，多量の繊維
〃	〃	170	I-31	140 137	〃	〃				撚り戻し斜縄(／)		No153と同一
〃	〃	171	J-20	37	II	〃				網目状燃糸文	丸味がある	脆弱。砂粒，繊維多い 調整粗雑
〃	〃	172	M-23	110	IIb	〃	角型 口唇に縄圧痕文	2条(？)の縄圧痕文 (体部の原体に類似)		結束羽状縄文(？)		砂粒多く，繊維多い 〃 大麻V式
〃	〃	173	G-29	4	I	〃	〃 ，内面条痕文 〃	3条の縄圧痕文 (〃)		結束羽状		〃 〃 〃 〃
〃	〃	174	O-29	13	〃	IIB2a		くびれが強い 多段縄線圧痕文		多軸絡条体回転文		多量の繊維，少量の砂粒 内面調整丁寧，脆弱
〃	〃	175	I-31	86	〃	〃	尖る口唇 縄圧痕文	くびれが強い 多段の縄線文	縄圧痕文	〃		砂粒多い，繊維少ない 調整丁寧
〃	〃	176	I-32	371	〃	〃	角型 縄圧痕文	〃 多段縄線圧痕文	竹管状刺突文	複節の多軸絡条体回転文		砂粒少ない，多量の繊維 内面調整丁寧赤色顔料付着
〃	〃	177	J-27 K-27	89 217	I I	〃	〃 ，横走縄線文 端部縄圧痕文	〃 多段の縄線文	縄圧痕文	多軸絡条体回転文		〃 〃 調整丁寧
〃	〃	178	H-31 H-32	101,198 5	〃 〃	〃	切り出した横走 縄線圧痕文	〃 〃 縄圧痕文	棒状工具刺突文	〃		〃 〃 内面調整丁寧赤色顔料付着
〃	〃	179	I-31 H-32	139 1	I	〃	尖る口唇 縄圧痕文	条痕文		〃		砂粒多い，繊維少ない 調整丁寧
〃	〃	180	H-32	1	〃	〃		縄線圧痕文	縄圧痕文	〃		砂粒，小礫を含む 〃 〃
〃	〃	181	I-32	497	〃	〃		〃		〃		〃 〃 〃
〃	〃	182	K-29	9	〃	〃		〃	竹管状工具刺突文	〃		〃 〃 〃
〃	〃	183	F-24	190	IIb	〃		多軸回転文	〃	〃		〃 〃 〃
〃	137	184	F-28	118	〃	〃		縄線圧痕文	棒状工具刺突文	間延びした多軸絡条体回転		繊維多い，砂粒少ない 〃

挿図	図版	番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
Ⅲ-326	137	185	O-23	38	Ⅱ	ⅡB2a		縄線圧痕文	撚糸圧痕文	多軸絡条体回転文		繊維多い。砂粒多い 調整丁寧
〃	〃	186	H-25	231	Ⅱb	〃		棒状工具刺突文 縄線圧痕文，刺突文				繊維少ない。砂粒，小礫が多い。調整粗雑
〃	〃	187	G-27	104	Ⅰ	〃	切り出し状 横走縄線文			多軸絡条体回転文		〃，小礫が多い 調整丁寧
Ⅲ-327	〃	188	H-27	42	〃	〃	〃 縄線文，縄圧痕文	3条縄線文		〃		〃，小礫少ない 〃
〃	〃	189	M-31	45	〃	〃	〃 縄圧痕文	2条 〃		〃		〃 〃 〃
〃	〃	190	I-34	181	〃	〃	尖る口唇部	4条 〃		〃		〃，砂粒，小礫多い 〃
〃	〃	191	M-29	31 37	〃	〃	切り出し状 貼付縄線文，半竹刺突文	縄線文		〃		〃，砂粒，小礫少ない 〃
〃	〃	192	H-33	65	〃	〃	〃 縄線文，円形刺突文			〃		繊維多い 〃 〃 内面赤色顔料付着
〃	〃	193	M-21	184	Ⅱ	〃	丸味をもつ	撚糸文(?)	貼付帯	〃		〃，砂粒，小礫多い 脆弱
〃	〃	194	H-23	246	Ⅱ	〃	切り出し状 縄線文，縄圧痕文	肥厚帯直下円形刺突文		〃		繊維少ない。砂粒多い 〃 ，調整粗雑
〃	〃	195	F-29	23	Ⅰ	〃		棒状工具による横位刺突文				繊維多い。砂粒，小礫を含む 調整丁寧，赤色顔料付着
〃	〃	196	K-28	118	〃	〃	尖る2本一組の縄線文			?		〃 。小礫含まない 〃
〃	〃	197	K-27	19	〃	〃	尖る縄線文			撚糸文 結束羽状		〃 〃 〃
〃	〃	198	N-36	36	〃	〃	〃			結束斜縄(＼)		〃 〃 〃
〃	〃	199	L-32	78	〃	〃				2本一組撚糸文 結束羽状		砂粒，小礫多い。少量の繊維 〃 ，内面赤色顔料付着
〃	〃	200	J-33	65	〃	〃				〃 綾絡文		砂粒，小礫少ない 〃
〃	〃	201	J-27	168	〃	〃			縄圧痕文	〃 〃		脆弱，砂粒，繊維多い 調整丁寧
〃	〃	202	Q-28	56	Ⅱ	〃				3本一組で撚糸文		〃 〃 調整不明
〃	〃	203	J-23	155	Ⅰ	〃				細い撚糸文		砂粒，小礫多い 調整丁寧
〃	〃	204	P-33	77	〃	〃				太い 〃		〃 繊維少ない 調整丁寧
〃	〃	205	J-28	103	〃	〃				撚糸文 結束羽縄文		〃 〃
〃	〃	206	P-33	16	〃	〃				撚糸文 (縦，横両方向から)		繊維多い 調整丁寧
〃	〃	207	H-28	16	〃	〃				撚糸文		小礫，砂粒多い。繊維少ない 〃
〃	〃	208	H-28	10	〃	〃				条痕文(?)		繊維多い 〃
〃	〃	209	L-31	25	〃	〃				撚糸文	やや張り出しぎみ	小礫，砂粒多い。繊維少ない
〃	〃	210	L-29	6	〃	〃				2本一組 組紐状撚糸文	ストレートに立ち上る	繊維多い 調整きわめて丁寧
〃	〃	211	K-31	89	〃	ⅡB2b	尖る口唇 縄圧痕文	多段縄線文	馬蹄形圧痕文	縄文(?)		砂粒，小礫，繊維が多い 内面調整丁寧
〃	〃	212	G-29	4	〃	〃	〃 〃	〃 撚糸文		絡条体圧痕文(?)		〃 〃
〃	〃	213	F-28	57	Ⅱb	〃		〃 矢羽根状縄線文	縄圧痕文	結束羽状縄文		繊維多い 〃
〃	〃	214	K-33	1	Ⅰ	〃		〃 山形縄線文		〃		〃 〃
〃	〃	215	P-26	56	Ⅱb	ⅡB	尖る口唇	くびれが強い 無文				砂粒，小礫，繊維を含む 〃 円筒下層d式相当
〃	〃	216	J-28	6	Ⅰ	ⅡB2a		くびれをもつ		無文		砂粒，小礫を含む 調整丁寧，円筒下層d式
〃	〃	217	G-23	56	Ⅱb	ⅡB	尖る口唇	楕円型押型文(?)				〃 調整粗雑，円筒下層a～c式(?)
〃	〃	218	J-27	96	Ⅰ	ⅡB2a (押型文)		くびれをもつ 縄線文		縦位迂続山形文		砂粒，小礫，繊維が多い。内面調整丁寧。外面赤色顔料付着
〃	〃	219	L-33	144	〃	〃 (〃)				〃		〃 〃 〃
〃	〃	220	J-31 M-29	4 35	Ⅰ Ⅰ	〃 (〃)				〃		〃 〃 〃
〃	〃	221	L-32	82	Ⅰ	〃 (〃)				〃		〃 〃 〃
〃	〃	222	L-33	29	〃	〃 (〃)				〃		〃 〃
〃	〃	223	L-32	78	〃	〃 (〃)				〃	やや丸味をもち立ち上る	〃 〃
〃	〃	224	L-32	60	〃	〃 (〃)				〃		〃 〃
〃	〃	225	J-31	32 192	〃	ⅡB2a (刺突文)				円形刺突文 半竹刺突文		繊維を含む 調整丁寧
〃	〃	226	K-22	139	ⅡB (下部)	〃 (〃)				棒状工具刺突文		砂粒，小礫を多量に含む 調整粗雑，脆弱
〃	〃	227	Q-25	51	Ⅱ	〃 (〃)				縄文上に3本一組の櫛歯状工具による刺突文		繊維多い 調整丁寧
〃	〃	228	Q-25	24	Ⅱb	〃 (〃)	切り出した 矢羽根状短刻文			矢羽根状短刻文		砂粒多く，繊維含まない No229と同一
〃	〃	229	Q-25	70	Ⅱ	〃 (〃)				〃		No228と同一個体

挿図	図版	番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III-327	137	230	H-31	114	I	IIB2a	角型 口縁部尿い溝をもつ(?)			無文		繊維多く，砂粒，小礫を含まない。No231と同一個体
〃	〃	231	F-22	47	〃	〃	〃 〃			〃		〃 〃 No230と同一個体
〃	〃	232	J-20	334	IIb	IIB2a (?)				〃	やや丸底ぎみの平底	繊維，砂粒が多い
〃	〃	233	F-28	44	I	〃				〃	〃	
III-328	138	234	I-32	267 455	〃	IIB2b	切り出し状縄線文 半竹刺突文	鋸歯状縄線文	貼付帯 半竹刺突文	結束羽状縄文		砂粒，小礫，繊維が多い 内面調整丁寧
〃	〃	235	F-23	127	IIb	〃	切り出し状 縄線文	曲線的な縄線文				〃 〃
〃	〃	236	K-23	217	I	〃	〃 斜縄(＼)	〃	半竹押引文			〃 〃
〃	〃	237	L-24	243	IIb	〃	〃 縄線文	鋸歯状縄線文				〃 〃
〃	〃	238	J-24	172	II	〃	〃 縄線文，半竹刺突文	曲線的な縄線文				〃 〃
〃	〃	239	K-33	34	I	〃	〃 〃	多段 斜位縄線文				〃 〃
〃	〃	240	I-29	1	〃	〃	〃 半竹刺突文	〃				〃 〃
〃	〃	241	F-19	23	IIb	〃	〃 縄文(?)	鋸歯状縄線文	半竹刺突文	斜縄(＼)		〃 〃 脆弱
〃	〃	242	J-33	60	I	〃	〃 縄線文 半竹刺突文，縄圧痕文	縄線文				〃 〃
〃	〃	243	I-32	313	〃	〃	角型 縄線文	曲線，縄線文				〃 〃
〃	〃	244	H-24	163	II	〃		鋸歯状縄線文	薄い貼付帯 棒状工具刺突文	結束羽状(>)		〃 〃
〃	〃	245	Q-26	31	IIb	〃	切り出した縄線文	蕨目状縄線文	貼付帯	〃 (>)		〃 〃
〃	〃	246	I-31	137 152	I	〃	切り出した縄線文，縄圧痕文	多段，斜位縄線文				砂粒，小礫，繊維が多い 内面調整丁寧
〃	〃	247	J-27	129	〃	〃	〃	〃				〃 〃
〃	〃	248	J-26	80	IIb	〃	切り出し状，下端半竹刺突文，縄線文	多段，曲線縄線文				繊維多い 内面調整丁寧
〃	〃	249	F-23	53	〃	〃	〃 斜縄(／)	〃 〃 (メガネ状)	半竹刺突文			〃 〃
〃	〃	250	P-33	76	I	〃	〃 縄線文	〃 〃 (〃)	縄線文			〃 〃
〃	〃	251	O-24	345	IIb	〃	切り出し状，縄線文 下端部半竹刺突文	〃 〃 (〃)	半竹刺突文	斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	252	O-24	378	〃	〃	〃 〃 〃	〃 〃 (〃)	〃	縄文 結束羽状(?)		〃 〃
〃	〃	253	H-33	57	I	〃	切り出し状 斜縄(＼)	〃 〃 (〃)				〃 〃
〃	〃	254	F-25	28	〃	〃	〃 縄線文	〃 〃 (〃)	縄線文	無節斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	255	J-31	135	〃	〃	切り出し状，縄線文 下端部半竹刺突文	〃 〃 (〃)				〃 〃
〃	〃	256	Q-32	15	〃	〃	切り出し状，結束羽状縄文(>)，下端縦状刺突文	〃 弧線状				〃 〃
〃	〃	257	P-22	56	〃	〃	〃，縄線文，下端部半竹刺突文	〃 縦位貼付帯(メガネ状)	半竹刺突文	結束羽状縄文		〃 〃
〃	〃	258	G-23	260	IIb	〃	〃 〃 縄圧痕文，半竹刺突文	〃 (〃)	貼付帯 棒状工具刺突文	斜縄文(＼)		〃 〃
〃	〃	259	P-32 Q-35	10, 40 4	I I	〃		〃 (?) (〃 ?)	〃 半竹刺突文	結束羽状縄文(◇)		〃 〃
〃	〃	260	J-20	47	II	〃		〃 弧線状	2段半竹刺突文			〃 〃
〃	〃	261	G-25	150	〃	〃		〃 〃	半竹刺突文	結束斜縄文(／)		〃 〃
〃	〃	262	G-26	75	I	〃		〃 (メガネ状)	〃	〃 (＼)		〃 〃
III-329	〃	263	K-28	118	〃	〃	切り出し状，縄線文，縄圧痕文，円形刺突文	縄線文	円形刺突文	斜縄文(／)		〃 〃
〃	〃	264	F-24	190	IIb	〃	〃 3段半竹刺突文	〃	2段半竹刺突文	貼付帯 斜縄文(＼)		〃 〃
〃	〃	265	I-34	148	I	〃	〃，縄線文，縄圧痕文，半竹刺突文	縦位貼付帯(2本一組) 縄線文				
〃	〃	266	F-19	24	II	〃	切り出し状縄線文，半竹刺突文	縄線文				内面調整丁寧 少量の繊維，砂粒を含む
〃	〃	267	J-32	18 162	I	〃	切り出し状，縄線文，縄圧痕文，半竹刺突文	半竹刺突文の施された貼付帯，縄線文	薄い貼付帯 半竹刺突文	斜縄文(＼)		〃 〃
〃	〃	268	P-24	79	II	〃	切り出し状，縄線文	貼付帯 不規則な縄線文	貼付帯			〃 〃
〃	〃	269	B-34	2	I	〃	切り出し状 縄線文	2本一組の半竹刺突のある貼付帯，縄線文	半竹刺突のある貼付帯			〃 〃
〃	〃	270	L-26	54	〃	〃	尖る口唇部 半竹刺突文	「J」字状の貼付帯 縄線文				〃 〃
〃	〃	271	K-24	176	IIb	〃	切り出し状 縄線文	2本一組の半竹刺突のある貼付帯，縄線文	半竹刺突文			〃 〃
〃	〃	272	J-26	9	〃	〃	切り出し状 縄線文	2本一組の半竹刺突文のある貼付帯，縄線文				〃 〃
〃	〃	273	H-23	236	II	〃	弱い切り出し状 斜縄文(／)	縄線文	半竹刺突が施された貼付帯	斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	274	I-32	214	I	〃	切り出し状 斜縄(／)	縄線文	半竹刺突文	結束羽状縄文(◇)		〃 〃

挿図	図版	番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
Ⅲ-329	138	275	O-24	310	Ⅱb	ⅡB2b	切り出し状 斜縄(／), 半竹刺突文	羽状縄線文	半竹刺突文	結束斜縄文(／)		内面四整丁寧 砂粒, 小礫多い 脆弱
〃	139	276	F-23	123	〃	〃	切り出し状 縄線文	縄線文	棒状工具刺突文	結束羽状縄文(＞)		〃 砂粒, 小礫多い 脆弱
〃	〃	277	H-21	106	〃	〃	切り出し状 縄線文	縄線文	半竹刺突文	結束斜状縄文(／)		〃 〃 〃
〃	〃	278	Q-29	22	Ⅰ	〃	切り出し状 縄線文, 半竹刺突文	縄線文	半竹刺突文	斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	279	O-26	281	〃	〃	切り出し状 縄線文	〃縄線文 半竹刺突文	半竹刺突文	結束羽状(＜)		〃 〃
〃	〃	280	G-26	8	〃	〃	角型	円形刺突文のある縦位貼付帯, 縄線文		斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	281	I-22	59	Ⅱb	〃	切り出し状 結束羽状縄文	縄線文のある縦位貼付帯 円形刺突文				〃 〃
〃	〃	282	G-23	41	〃	〃	切り出し状 縄線文	肥厚帯直下縄線文		結束羽状縄文(＞)		〃 〃
〃	〃	283	I-34	180	Ⅰ	〃	切り出し状 縄線文	〃		斜縄文(／)		〃 〃
〃	〃	284	G-23	57	Ⅱb	〃	切り出し状 縄線文	縄線文		結束羽状縄文(＜)		〃 〃
〃	〃	285	J-31	135	Ⅰ	〃	切り出し状 縄線文, 縄圧痕文	肥厚帯直下2条の縄線文		斜縄文(／)		〃 〃
〃	〃	286	G-23	57	Ⅱb	〃	切り出し状 縄線文	肥厚帯直下3条縄線文		結束羽状縄文(＜)		内面四整丁寧 砂粒, 小礫, 繊維を含む
〃	〃	287	H-33	141	Ⅰ	〃	切り出し状 半竹刺突文, 縄線文	肥厚帯直下2条縄線文		斜行縄文(＼)		〃 〃
〃	〃	288	J-33	29	〃	〃	切り出し状, 縄線文, 刻目文, 円形刺突文	肥厚帯直下縄線文		?		〃 〃
〃	〃	289	J-28	61	〃	〃	切り出し状, 縄線文, 円形刺突文	肥厚帯直下2条縄線文		結束羽状縄文(＜)		〃 〃 赤色顔料付着
〃	〃	290	K-27	242	〃	〃	切り出し状 縄線文	ナデ調整後, 3条の縄線文		結束羽状縄文(＜)		〃 〃
〃	〃	291	O-25	62	Ⅱb	〃	切り出し状, 縄線文, 半竹刺突文	ナデ調整後, 3条縄線文				〃 〃
〃	〃	292	Q-28	12	Ⅰ	〃	切り出し状, 縄線文, 円形刺突文	ナデ調整後, 2条縄線文		結束斜縄文(／) 縄線文		〃 〃
Ⅲ-330	〃	293	I-20 21	179 280	ⅡB下 ⅡB下	〃	切り出し状 斜縄文(／)	ナデ調整後, 縄線文		結束斜縄文(／)		〃 〃 脆弱
〃	〃	294	Q-31	49	Ⅰ	〃	切り出し状 斜縄(＼)	ナデ調整後, 縄線文		斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	295	L-28	35	〃	〃	切り出し状 斜縄(／)	ナデ調整後縄線文		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	296	J-25	135	〃	〃	切り出し状 斜縄(＼)	ナデ調整後縄線文		斜縄(＼)		〃 〃 脆弱
〃	〃	297	F-25	61	Ⅱb	〃	切り出し状 斜縄(＼)	ナデ調整後縄線文		斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	298	K-24	38	Ⅱ	〃	切り出し状 斜縄(＼)	ナデ調整後縄線文		結束斜縄文(＼)		〃 〃 脆弱
〃	〃	299	I-24	14	Ⅱb	〃	切り出し状 斜縄(／)?	ナデ調整後縄線文		斜縄(／)		〃 〃 脆弱
〃	〃	300	J-23	117	〃	〃	切り出し状 斜縄(＼)	縄線文		斜縄(／)		〃 〃 多量の炭化物付着
〃	〃	301	O-24	310	〃	〃	切り出し状 斜縄(／)	肥厚帯直下縄線文		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	302	F-25	1	Ⅰ	〃	切り出し状 斜縄(／)	肥厚帯直下縄線文		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	303	I-20	70	Ⅱ	〃	切り出し状 斜縄(＼), 縄圧痕文	ナデ調整後縄線文		斜縄(＼)		〃 〃 脆弱
〃	〃	304	H-27	45	Ⅰ	〃	切り出し状 斜縄(／), 縄圧痕文	ナデ調整後, 縄線文		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	305	I-20	72	Ⅱb	〃	切り出し状 斜縄(＼), 半竹刺突文	ナデ調整後縄線文		結束羽状縄文(＞)		〃 〃 脆弱
〃	〃	306	O-32	10	Ⅰ	〃	切り出し状 斜縄(／), 半竹刺突文	ナデ調整後縄線文		斜縄文(／)		砂粒, 小礫多い 内面四整丁寧
〃	〃	307	K-31	65	〃	〃	切り出し状 斜縄(／), 半竹刺突文	ナデ調整後縄線文		結束羽状縄文(＜)		〃 〃
〃	〃	308	F-25	63	Ⅱb	〃	切り出し状 縄線文			結束羽状縄文(＜)		〃 〃
〃	〃	309	J-26	330	Ⅰ	〃	切り出し状 縄線文			斜縄文(＼)		〃 〃
〃	〃	310	H-23	235	Ⅱb	〃	切り出し状 縄線文			結束羽状縄文(＜)		〃 〃 内面赤色顔料付着
〃	〃	311	F-28	118	〃	〃	切り出し状 縄線文			結束斜縄文(＼)		〃 〃
〃	〃	312	I-30	169	Ⅰ	〃	切り出し状 縄線文, 結条体圧痕文			斜行縄文(／)		〃 〃
〃	〃	313	G-27	102	〃	〃	切り出し状 縄線文, 半竹刺突文			結束羽状縄文(＞)?		〃 〃
〃	〃	314	J-26	286	Ⅱb	〃	切り出し状 縄線文, 半竹刺突文			結束羽状縄文(＞)		〃 〃 No.313と同一?
〃	〃	315	H-23	244	Ⅱ	〃	切り出し状 縄線文	ナデ調整		斜縄文(＼)		〃 〃
〃	〃	316	L-29	32	Ⅰ	〃	切り出し状 縄線文, 縄圧痕文			結束羽状縄文(＜)		〃 〃
〃	〃	317	Q-35	4	〃	〃	切り出し状 縦位縄線文	ナデ調整		不明		〃 〃 脆弱
〃	〃	318	I-34	149	〃	〃	切り出し状 縄線文			結束羽状縄文(＜)		〃 〃 脆弱
〃	〃	319	Q-33	85	〃	〃	切り出し状 縄線文	円形刺突文		斜縄(＼)		〃 〃

挿図	図版	番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III-330	139	320	H-33	141	I	IIB2b	切り出し状，斜縄(＼)突起部縄圧痕文	ナデ調整		結束羽状縄文(＜)		砂粒，小礫多い 内面調整丁寧
〃	〃	321	G-23	234	IIb	〃	切り出し状，斜縄(／)突起部縄圧痕文			結束羽状縄文(＜)		〃 〃
〃	〃	322	F-29	324	I	〃	丸味をもつ口唇 縄圧痕文	半竹刺突文 縄線文				〃 〃
〃	〃	323	O-34	13	〃	〃	切り出し状 縄線文　半竹押引文			斜縄文(／)		〃 〃
〃	〃	324	P-30	22	〃	〃	切り出し状，縄線文， 棒状工具刺突文	ナデ調整				〃 〃　脆弱
〃	〃	325	L-33	146	〃	〃	切り出し状 縄線文，半竹刺突文			斜縄文(／)		〃 〃
〃	140	326	J-26	268	〃	〃	切り出し状 斜縄(＼)	ナデ 縄線文，円形刺突文				繊維が多い 内面調整丁寧
III-331	〃	327	J-32	43	〃	IIB2c	切り出し状，結条体圧痕文，半竹刺突文	鋸歯状結条体圧痕文	半竹刺突文			砂粒が多く，繊維を含む 内面調整丁寧
〃	〃	328	F-22	60	II	〃	切り出し状 結条体圧痕文	〃		斜縄(／)		〃 〃　脆弱
〃	〃	329	K-22	12	〃	〃	切り出し状，結条体圧痕文，半竹刺突文	〃				〃 〃
〃	〃	330	O-33	33	I	〃	切り出し状 斜縄(＼)，半竹刺突文	〃	半竹刺突文			〃 〃　赤色顔料付着
〃	〃	331	L-32	33	〃	〃	切り出し状 斜縄(＼)，円形刺突文	〃	円形刺突文			〃 〃　〃
〃	〃	332	J-26	292	〃	〃	切り出し状 斜縄(／)	〃	半竹押引文			〃 〃　〃
〃	〃	333	F-29	296	IIb～IIc	〃	切り出し状 斜縄(＼)	〃	半竹刺突文			〃 〃
〃	〃	334	H-21	105	IIb	〃	切り出し状 斜縄(＼)	〃				〃 〃　脆弱
〃	〃	335	L-32	33	I	〃	切り出し状 斜縄(＼)，円形刺突文	〃	円形刺突文			〃 〃　赤色顔料付着
〃	〃	336	G-22	2	II	〃	切り出し状 斜縄(＼)	〃	結条体圧痕文	斜縄(＼)		〃 〃　脆弱
〃	〃	337	G-23	37	IIb	〃	切り出し状 鋸歯状結条体圧痕文	結条体圧痕文				〃 〃
〃	〃	338	P-33	32	I	〃	切り出し状，鋸歯状結条体圧痕文，半竹刺突文					〃 〃
〃	〃	339	J-26	281	〃	〃		鋸歯状結条体圧痕文	半竹刺突文	結束斜縄文(＼)		〃 〃
〃	〃	340	J-32	159	〃	〃		〃	結条体圧痕文 縄線文	斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	341	J-26	74	IIb	〃		鋸歯状結条体	半竹刺突文	結束斜縄(／)		〃 〃　脆弱
〃	〃	342	J-26	80	〃	〃	切り出し状 結条体圧痕文(?)	曲線結条体圧痕文				〃 〃
〃	〃	343	F-27	90	〃	〃	切り出し状 結条体圧痕文，半竹押引	半竹押引文 結条体曲線，縦位組合せ	半竹押引文			〃 〃
〃	〃	344	I-26	260	〃	〃	切り出し状 結条体圧痕文	曲線結条体圧痕文 半竹刺突文	半竹刺突文			〃 〃
〃	〃	345	J-25	293	〃	〃	切り出し状 結条体圧痕文	曲線結条体圧痕文				〃 〃
〃	〃	346	O-25	75	〃	〃	切り出し状 結条体圧痕文	曲線，縦位結条体圧痕文				小礫，砂粒，繊維多い 内面調整粗雑　脆弱
〃	〃	347	P-24	79	II	〃	切り出し状，結条体圧痕文，半竹刺突文	縦位結条体圧痕文	半竹刺突文	結束羽状縄文(＞)		小礫，砂粒，繊維多い 内面調整丁寧　脆弱
〃	〃	348	P-25	8	IIb	〃	切り出し状，結条体圧痕文，円形刺突文	縦位・横位結条体圧痕文	円形刺突文	結束斜縄文(＼)		〃 〃
〃	〃	349	F-20	40	II	〃	切り出し状，結条体圧痕文，半竹刺突文	横位結条体圧痕文	〃			〃 〃
〃	〃	350	J-26	286	IIb	〃	切り出し状 結条体圧痕文	横位・縦位結条体圧痕文	半竹刺突文	縄文		〃 〃
〃	〃	351	G-27	101	I	〃	切り出し状 結条体圧痕文	横位結条体圧痕文		撚糸文(?)		〃 〃　赤色顔料付着
〃	〃	352	F-22	53	II	〃	切り出し状 結条体圧痕文	横位結条体圧痕文		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	353	H-33	141	I	〃	切り出し状 結条体圧痕文	横位結条体圧痕文施文後細い沈線を加える	半竹押引			〃 〃
III-332	〃	354	O-26	324	〃	〃	切り出し状 結条体圧痕文	横位結条体圧痕文	半竹刺突	結束羽状縄(＜)		〃 〃　脆弱
〃	〃	355	I-32 I-34	382 164	I I	〃	切り出し状，結条体圧痕文，半竹刺突文	〃	〃	結束斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	356	L-24	80	IIb	〃	切り出し状 斜縄(／)	〃		結束斜縄(／)		〃 〃　脆弱
〃	〃	357	P-32	40	I	〃	切り出し状 結条体圧痕文	〃		結束斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	358	J-26	223	IIb	〃	切り出し状，結条体圧痕文，半竹刺突文	〃	半竹刺突文	斜縄(＼)		〃 〃
〃	141	359	O-23	12	II	〃	切り出し状，結条体圧痕文，半竹刺突文	結条体圧痕文 半竹刺突文	〃	結束羽状縄(＜)		〃 〃　脆弱
〃	〃	360	G-24	280	IIb	〃	切り出し状 結条体圧痕文	結条体圧痕文 円形刺突文	半竹刺突文			〃 〃
〃	〃	361	Q-34	10	I	〃	切り出し状，結条体圧痕文，半竹刺突文	結条体圧痕文 半竹刺突文，貼付帯				〃 〃
〃	〃	362	J-26	299	〃	〃	切り出し状 結条体圧痕文	半竹刺突文 結条体圧痕文	半竹刺突文	結束羽状縄(＞)		〃 〃
〃	〃	363	J-23	117	IIb	〃	切り出し状 結条体圧痕文，半竹刺突文	結条体圧痕文 半竹刺突文	半竹押引文			〃 〃
〃	〃	364	F-24	359	I	〃	切り出し状 結条体圧痕文	結条体圧痕文 円形刺突文		縄文		〃 〃

挿図	図版	番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
Ⅲ-332	141	365	H-28	16	Ⅰ	ⅡB2c	切り出し状，絡条体圧痕文，半竹刺突文	絡条体圧痕文 半竹刺突文	半竹刺突文			砂粒，小礫，繊維が多い。 内面四整丁寧
〃	〃	366	N-23	18	Ⅱ	〃	切り出し状 不明	くびれが強い 鋸歯状絡条体	半竹刺突文			〃 〃 脆弱
〃	〃	367	L-24 L-25	61 1,22	Ⅰ Ⅰ,Ⅱb	〃	切り出し状 斜縄(／)，半竹刺突文	くびれが強い，横位絡条体圧痕，半竹刺突文	〃	結束羽状縄(＜)		〃 〃 脆弱
〃	〃	368	F-26	155	Ⅰ	〃	切り出し状 斜縄(＼)	横位絡条体圧痕文	〃	斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	369	O-25	76	Ⅱb	〃	切り出し状 斜縄(／)，半竹刺突文	縦位，横位絡条体圧痕文	〃	結束斜縄(／)		〃 〃 脆弱
〃	〃	370	K-32	185	Ⅰ	〃	切り出し状，斜縄(／) 絡条体圧痕文	縦位・横位絡条体圧痕文				〃 〃
〃	〃	371	I-31	88	〃	〃	切り出し状 斜縄(／)	横位絡条体圧痕文	半竹押引文	結束斜縄(＼)		〃 〃 赤色顔料付着
〃	〃	372	G-23	15	〃	〃	切り出し状 斜縄(＼)	くびれ強い 横位絡条体圧痕文		斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	373	Q-25	17	Ⅱ	〃	切り出し状 斜縄(／)	〃 〃				〃 〃 脆弱
〃	〃	374	P-33	32	Ⅰ	〃	切り出し状 斜縄(／)	〃 〃		斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	375	J-26	40	Ⅱ	〃	切り出し状 結束斜縄(＼)？	横位絡条体圧痕文		斜縄(／)		〃 〃
Ⅲ-333	〃	376	Q-32	26	Ⅰ	〃	切り出し状 絡条体圧痕文	〃	円形刺突文	斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	377	I-26	121	Ⅱb	〃	切り出し状 絡条体圧痕文	〃		結束羽状縄(＜)		〃 〃
〃	〃	378	J-23	108	〃	〃	切り出し状 絡条体圧痕文	〃		斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	379	G-23	56	〃	〃	切り出し状 斜縄(／)	〃		結束斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	380	G-23	260	〃	〃	切り出し状 斜縄(／)	横位・縦位絡条体圧痕文	半竹押引文	結束羽状縄(＜)		〃 〃
〃	〃	381	F-27	258	Ⅲ	〃	切り出し状 斜縄(／)	横位絡条体圧痕文		結束羽状縄文(＞)		〃 〃
〃	〃	382	K-32	185	Ⅰ	〃	切り出し状 斜縄(／)	〃		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	383	P-25	8	Ⅱb	〃	切り出し状 斜縄(＼)	〃		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	384	L-31	25	Ⅰ	〃	切り出し状 斜縄(＼)	〃		斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	385	F-22	53	Ⅱ	〃	切り出し状 斜縄(／)，縄圧痕文	〃		斜縄(／)		〃 〃
〃	142	386	N-23	77	〃	〃	切り出し状 斜縄(／)	〃		斜縄(／)		内面四整丁寧 繊維，砂粒，小礫を含む
〃	〃	387	N-27	51	〃	〃	切り出し状 斜縄(／)	〃	半竹刺突文	結束斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	388	J-26	395 406	Ⅰ Ⅱ	〃	切り出し状(／) 斜縄(／)，半竹押引文	〃	〃	結束斜縄(／)		〃 〃 赤色顔料付着
〃	〃	389	F-28	142	Ⅲ	〃	切り出し状 斜縄(＼)，縄圧痕文	〃	棒状工具刺突文	斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	390	M-23	288	〃	〃	切り出し状 斜縄(／)，縄圧痕文	〃	半竹刺突文	斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	391	I-34	95	Ⅰ	〃	切り出し状 斜縄(＼)	〃	〃	結束斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	392	K-24	86	〃	〃	切り出し状 斜縄(＼)	半竹刺突文 横位絡条体圧痕文	〃	斜縄(＼)		〃 〃 脆弱
〃	〃	393	M-21	240	Ⅱb	〃	切り出し状 絡条体圧痕文	横位絡条体圧痕文 半竹刺突文	〃	斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	394	I-31	6	Ⅰ	〃	切り出し状 絡条体圧痕文			結束羽状縄(＞)		〃 〃
〃	〃	395	H-28	10	〃	〃	切り出し状 斜縄(＼)，半竹刺突文	縄線文と横位絡条体の併用 半竹刺突文				〃 〃
〃	〃	396	H-21	108	Ⅱ	〃	切り出し状 斜縄(／)	貼付帯，半竹刺突文，絡条体圧痕文	貼付帯			〃 〃
〃	〃	397	K-27	92	Ⅰ	〃	切り出し状 絡条体圧痕文	貼付帯 絡条体圧痕文	絡条体圧痕文			〃 〃
〃	〃	398	J-26	403	〃	〃	切り出し状 絡条体圧痕文	〃		結束羽状縄(＞)		〃 〃 脆弱
〃	〃	399	P-33	27	〃	〃		貼付帯，絡条体圧痕文，半竹刺突文	貼付帯 絡条体圧痕文			〃 〃 脆弱
〃	〃	400	J-25	42	〃	〃		貼付帯 横位絡条体圧痕文	〃 〃			〃 〃 No401と同一，脆弱
〃	〃	401	N-24	106 55	Ⅱb	〃		〃 〃	〃 〃	結束斜縄(／)		〃 〃 No400と同一，脆弱
Ⅲ-334	〃	402	N-25	20	〃	ⅡB	切り出し状 半竹刺突文	半竹刺突文	半竹刺突文			〃 〃 脆弱
〃	〃	403	H-23	303	〃	〃	切り出し状 半竹刺突文	〃		斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	404	F-23	44	Ⅱ	〃	切り出し状 篦状工具刺突文	〃		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	405	K-23	70	〃	〃	尖る口唇	半竹内面沈線		斜縄(／)		〃 〃 脆弱
〃	〃	406	G-23	41	Ⅱb	〃	切り出し状 斜縄(／)	半竹刺突文				砂粒，小礫，繊維多い 内面四整丁寧
〃	〃	407	G-21	221	Ⅲ	〃	切り出し状 斜縄(＼)	円形刺突文				〃 〃 脆弱
〃	〃	408	P-35	8	Ⅰ	〃	切り出し状 斜縄(＼)，半竹刺突文	半竹刺突文				〃 〃
〃	〃	409	J-26	182	Ⅱb	〃	切り出し状 斜縄(／)，半竹刺突文	〃				〃 〃

挿図	図版	番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III-334	142	410	H-33	54	I	IIB	丸味をもつ切り出し状 斜縄(／)，半竹刺突文	半竹刺突文				砂粒，小礫，繊維多い。内面調整丁寧，赤色顔料付着
〃	〃	411	H-22	1,3	IIb	〃	切り出し状 斜縄(／)，半竹刺突文	円形刺突文	半竹刺突文	結束羽状		砂粒，小礫，繊維多い 内面調整丁寧
〃	〃	412	I-23	26	II	〃	切り出し状 結束羽状縄(＜)	半竹刺突文				〃 〃
〃	〃	413	M-21	35	IIb	〃	切り出し状 斜縄(／)	〃		結束羽状縄(＞)		〃 〃 脆弱
〃	〃	414	J-26	270	II	〃	切り出し状 斜縄(＼)	円形刺突文				〃 〃
〃	〃	415	J-26	292	I	〃	切り出し状 斜縄(／)	半竹刺突文		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	416	J-23	3	II	〃	切り出し状 結束羽状縄(＜)	〃		結束羽状縄(＞)		〃 〃
〃	〃	417	J-20	194	〃	〃	切り出し状 不明	〃		結束羽状縄(＞)		〃 〃 脆弱
〃	〃	418	F-22 I-23	52 67	II I	〃	切り出し状 斜縄(＼)	円形刺突文				〃 〃 脆弱
〃	〃	419	O-24	279	II	〃	切り出し状 斜縄(＼)	半竹刺突文		？		〃 〃 脆弱
〃	〃	420	H-30	38	I	〃	切り出し状 斜縄(＼)	爪形文 半竹刺突文				〃 〃
〃	〃	421	J-26	286	IIb	〃	切り出し状 斜縄(＼)	半竹刺突文				〃 〃
〃	〃	422	H-27	109	II	〃	切り出し状，結束羽状 (＜)，半竹刺突文			結束羽縄文(＞)		〃 〃
〃	143	423	J-26	402	II	〃	切り出し状，半竹刺突 文，結束羽状縄文(＞)			結束羽状縄文(＞)		〃 〃
〃	〃	424	Q-26	1	I	〃	切り出し状 斜縄(＼)，半竹刺突文			結束羽状縄(＞)		〃 〃 脆弱
〃	〃	425	O-34	8	〃	〃	切り出し状，半竹刺突 文，結束羽状縄(＞)			結束羽状縄(＞)		〃 〃
〃	〃	426	Q-35	6	〃	IIB2b	角型貼付帯，半竹刺突 文，端部縄線文			結束羽状縄(＜)		内面調整丁寧 砂粒，小礫，繊維多い
〃	〃	427	P-33	42	〃	IIB	切り出し状 円形刺突文			斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	428	O-23	12	II	〃	切り出し状 棒状工具刺突文			斜縄(＼)		〃 〃 脆弱
〃	〃	429	J-28	102	I	〃	切り出し状 半竹刺突文			結束斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	430	O-26	333 322	IIb	〃	切り出し状 結束羽状(＜)，半竹刺突			結束羽縄(／)		〃 〃
〃	〃	431	G-25	106	II	〃	切り出し状 斜縄(／)，半竹刺突文			斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	432	G-26	204	IIb	〃	切り出し状 斜縄(／)，半竹刺突文			結束羽状縄文(＜)		〃 〃
〃	〃	433	Q-29	19	I	〃	切り出し状 斜縄(／)，円形刺突文			結束羽状縄文(＜)		〃 〃
〃	〃	434	F-25	65	IIb	〃	切り出し状 斜縄(／)，半竹押引	ナデ調整後 半竹刺突文				〃 〃
III-335	〃	435	K-32	185	I	〃	切り出し状 斜縄(／)	肥厚帯直下無文帯		結束羽状縄文(＜)		〃 〃
〃	〃	436	G-26	8	〃	〃	切り出し状 斜縄(＼)	肥厚帯直下軽くナデ		結束斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	437	I-25	234	IIb	〃	切り出し状，斜縄(＼)			結束羽状(＜)		〃 〃
〃	〃	438	L-33	138	I	〃	切り出し状 斜縄(／)			結束羽状縄(＞)		〃 〃
〃	〃	439	P-32	10	〃	〃	切り出し状 斜縄(／)			結束羽状縄(＜)		〃 〃
〃	〃	440	I-33	38	〃	〃	切り出し状 斜縄(＼)			肥厚帯直下のみ斜縄 (／)，斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	441	K-25	386	IIb	〃	切り出し状 斜縄(＼)			結束羽状(＜)		〃 〃
〃	〃	442	Q-34	2	I	〃	切り出し状 斜縄(＼)			結束羽状(＜)		〃 〃 内外赤色顔料付着
〃	〃	443	Q-29	19	〃	〃	切り出し状 羽縄(＜)			結束羽状(＞)		〃 〃 内赤色顔料付着
〃	〃	444	K-27	不明	〃	〃	切り出し状 斜縄(／)			結束羽状(＜)		〃 〃
〃	〃	445	P-32	12	〃	〃	切り出し状 斜縄(／)			結束羽状(＜)		〃 〃
〃	〃	446	H-23	270	IIb	〃	丸味をもつ口唇			結束羽状(＞)		繊維，砂粒，小礫を含む 内面調整丁寧
〃	〃	447	F-24	359	I	〃	切り出し状 斜縄(＼)			結束羽状(＜)		〃 〃
〃	〃	448	Q-33	89	〃	〃	切り出し状 斜縄(／)			結束羽状(＜)		〃 〃
〃	〃	449	G-23	56	IIb	〃	切り出し状 斜縄(／)			結束羽状(＞)		繊維，砂粒，小礫を含む 内面調整粗雑
〃	〃	450	J-26	395	I	〃	切り出し状 斜縄(＼)			結束羽状(＞)		繊維，砂粒，小礫を含む。内 面調整丁寧，赤色顔料付着
〃	〃	451	J-25	322	IIb	〃	切り出し状 斜縄(＼)			結束羽状(＞)		〃 〃
〃	〃	452	I-26	121	〃	〃	切り出し状 斜縄(＼)			撚り戻し結束羽状(＞)		〃 〃
〃	〃	453	H-23	268	〃	〃	やや丸みのある切り出 し状，斜縄(／)			結束羽状(＞)		〃 〃
〃	〃	454	J-31	60	I	〃	切り出し状 斜縄(／)			結束羽状(＞)		〃 〃 赤色顔料付着

挿図	図版	番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
Ⅲ-335	143	455	P-31	19	Ⅰ	ⅡB	切り出し状 斜縄(＼)			結束羽状(＞)		繊維，砂粒，小礫を含む。内面調整丁寧
〃	〃	456	I-25	324	Ⅱb	〃	切り出し状 斜縄(＼)			結束羽状(＞)		〃 〃
〃	〃	457	F-22	20	Ⅱ	〃	切り出し状 斜縄(＼)			結束羽状(＞)		〃 〃
〃	〃	458	P-25	135	Ⅱb	〃	切り出し状 斜縄(／)			結束斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	459	H-26	54	Ⅰ	〃	切り出し状 斜縄(／)			斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	460	Q-34	20	〃	〃	切り出し状 斜縄(／)			斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	461	L-31	61	〃	〃	切り出し状 斜縄(＼)			斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	462	J-25	56	〃	〃	切り出し状 斜縄(＼)			斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	463	L-31	2	〃	〃	切り出し状 斜縄(＼)			結束斜縄(＼)		〃 〃
〃	144	464	I-32	449	〃	〃	切り出し状 斜縄(／)			結束斜縄(／)		〃 〃 赤色顔料付着
〃	〃	465	I-26	78	〃	〃	切り出し状 斜縄(＼)，自縄自巻			斜縄(＼) 自縄自巻		〃 〃 赤色顔料付着
〃	〃	466	K-27	82	〃	〃	切り出し状 斜縄(＼)			不規則な結束羽状(＜)		
〃	〃	467	I-26	84	Ⅱb	〃	角型			斜縄(＼)		砂粒，小礫，繊維を含む 内面調整丁寧
〃	〃	468	H-25	70	Ⅱ	〃				無節斜縄(＼)		砂粒，小礫が多い，少量の繊維混入。ⅢB4の可能性もある
Ⅲ-336	〃	469	田中家	33	Ⅰ	ⅢA1	尖る口唇 縄圧痕文	貼付帯，結条体圧痕文，縄線文，半竹刺突文	貼付帯 円形刺突文	結束羽状(＜)		砂粒，小礫，繊維を含む 内面調整丁寧
〃	〃	470	K-20	100	Ⅱb	〃	丸味をもつ口唇	貼付帯 3本一組の撚糸文	貼付帯			〃 〃 脆弱
〃	〃	471	K-32	175	Ⅰ	〃	切り出し状 斜縄(／)	〃 結条体圧痕文	〃 結条体圧痕文			〃 〃 〃
〃	〃	472	H-24	146	Ⅱ	〃		ドーナツ状の貼付帯 結条体圧痕文，半竹刺突文		結束羽状(＜)		〃 〃
〃	〃	473	田中家	33	Ⅰ	〃	丸味をもつ口唇 縄線圧痕文	縄線圧痕文のある貼付帯 曲線，直線の撚糸圧痕文				〃 〃
〃	〃	474	F-28	406	Ⅱb	〃	〃 〃	鋸歯状縄線文				〃 〃
〃	〃	475	O-34	13	Ⅰ	〃	撚糸圧痕文	撚糸圧痕文	貼付帯 撚糸圧痕文			〃 〃
〃	〃	476	K-29	23	〃	〃	〃 〃	撚糸圧痕文(2本一組) 半竹押引文				〃 〃
〃	〃	477	I-20	79	Ⅱ	〃	〃 2本一組の撚糸圧痕文	結条体圧痕文 5本一組の撚糸圧痕文	貼付帯	結束羽状(＞)		〃 〃
〃	〃	478	田中家	33	Ⅰ	〃	〃 〃	4本一組の 〃	貼付帯 結条体圧痕文			〃 〃
〃	〃	479	G-27	165	〃	〃	貼付 撚糸圧痕文	2本一組の 〃				〃 〃
〃	〃	480	H-27	40	〃	〃	丸味をもつ口唇 波状撚糸圧痕文	貼付帯(鎖状把手) 結条体圧痕文，撚糸圧痕文	貼付帯 撚糸圧痕文	斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	481	G-23	41	Ⅱb	〃	切り出し状，口唇 波状貼付帯，縄圧痕	結条体圧痕文				〃 〃
〃	〃	482	O-28	60	Ⅰ	〃	〃 〃 〃 〃			斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	483	Q-33	22	〃	〃	角型 口唇上端斜縄(／)			〃 (／)		〃 〃
〃	〃	484	J-25	25 43	〃	〃	〃 ナデ調整			〃 (／)		〃 〃 内面赤色顔料付着
〃	〃	485	F-24	355	Ⅱ	〃			2本一組撚糸圧痕，施された貼付帯，撚糸圧痕文			
〃	〃	486	F-29	308	Ⅰ	〃		結条体圧痕文 渦巻状撚糸圧痕文	半竹刺突文	斜縄(／)		砂粒，繊維多い 内面調整丁寧
〃	〃	487	F-28	406	Ⅱb	〃		貼付帯 撚糸圧痕文		結束羽状(＞)		〃 〃
〃	〃	488	M-31	1	Ⅰ	〃		無文地に縄端による馬蹄形圧痕文	撚糸圧痕のある細い貼付帯	結束羽状(＞)		〃 〃
Ⅲ-337	〃	489	F-29	231 308	〃	ⅢA2	切り出し状，撚糸文の施された細い貼付紐	撚糸文の施された細い貼付紐 半竹刺突文				〃 〃
〃	〃	490	F-29	301	〃	〃	尖る口唇，撚糸文の施された細い貼付	撚糸文の施された細い貼付帯 円形刺突文		斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	491	H-27	70	〃	〃	切り出し状，撚糸文の施された細い貼付紐	撚糸文の施された細い貼付紐 斜縄(／)				〃 〃
〃	〃	492	F-27	90	Ⅱb	〃	切り出し状，撚糸文の施された細い貼付紐	撚糸文の施された細い貼付紐 半竹刺突文				〃 〃 赤色顔料付着
〃	〃	493	J-26	129	〃	〃	切り出し状，撚糸文の施された細い貼付紐	撚糸文の施された細い貼付紐 結束羽状(＞)				〃 〃
〃	〃	494	M-26	105	Ⅰ	〃	切り出し状，撚糸文の施された細い貼付紐	撚糸文の施された細い貼付紐 櫛状工具刺突文				〃 〃
〃	〃	495	L-31	61	〃	〃	切り出し状，撚糸文の施された細い貼付紐	撚糸文の施された細い貼付紐 斜縄(＼)		斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	496	F-24	359	〃	〃	丸味をもつ口唇	撚糸文の施された細い貼付紐 櫛状工具刺突文，撚糸文				〃 〃
〃	〃	497	H-24	15	Ⅱ	〃	切り出し状，撚糸文の施された細い貼付紐	撚糸文の施された細い貼付紐 結束羽状(＞)				〃 〃
〃	〃	498	N-29	34	Ⅰ	〃	切り出し状，撚糸文の施された細い貼付紐			結束羽状(＞)		〃 〃
〃	〃	499	M-30	100	〃	〃	切り出し状，撚糸文の施された細い貼付紐			結束羽状(＞)		〃 〃

挿図	図版	番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III-337	144	500	F-29	300	I	IIIA2	切り出し状，撚糸文の施された細い貼付紐			結束羽状(＜)		砂粒，礫雄多い 内面調整丁寧
〃	〃	501	L-24	80	IIb	〃	切り出し状，撚糸文の施された細い貼付紐			結束羽状(＜)		〃 内面赤色顔料付着 〃 脆弱
〃	〃	502	K-32	185	I	〃	切り出し状 細い貼付紐			結束羽状(＜)		〃 〃 〃 〃
〃	〃	503	N-31	49	〃	〃	切り出し状，撚糸文の施された細い貼付紐			斜縄(＼)		
〃	〃	504	Q-34	15	〃	〃	切り出し状，撚糸文の施された細い貼付紐			結束羽状(＞)		
〃	〃	505	F-27	86	IIb	〃	切り出し状，撚糸文の施された細い貼付紐	撚糸文の施された細い貼付紐 結束羽状(＜)				
〃	〃	506	I-26	84	〃	〃		結束羽状(＜)？	撚糸文の施された細い貼付紐	結束羽状(原体を上下逆転)		砂粒，礫雄，小礫を含む 内面調整丁寧
〃	145	507	L-23	1	〃	〃		細い貼付帯 結束羽状(＜)		結束羽状		〃 〃 脆弱
〃	〃	508	I-21	24	II	〃	丸味をもつ口唇 口唇刻目文	「S」字状貼付紐 沈線文				〃 〃
〃	〃	509	F-20	40	〃	IIIB1	切り出し状，貼付帯 縄線文	貼付帯 斜縄(／) 縄線文，半竹押引		斜縄(／)		〃 〃 脆弱
〃	〃	510	G-20	21	〃	〃	切り出し状 貼付帯，縄線文	貼付帯，縄線文				内面調整粗雑
〃	〃	511	O-24	261	I	〃	切り出し状 刻目文	斜縄(／) 半竹刺突，貼付帯，沈線		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	512	I-19	112	IIb	〃	切り出し状 縄圧痕文	半竹刺突のある貼付帯 沈線文，斜縄(／)		斜縄(／)		〃 内面調整粗雑
〃	〃	513	K-20	8	〃	〃	切り出し状 刻目文	半竹刻突ある貼付帯 沈線文，斜縄(／)		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	514	K-22	2	II	〃	切り出し状 縄線文	半竹刺突のある貼付帯 斜縄(／)		斜縄(／)		〃 〃 脆弱
〃	〃	515	G-20	55	〃	〃	切り出し状 縄線文	半竹押引のある貼付帯 沈線文，斜縄(／)				〃 〃 〃
〃	〃	516	G-？	？	？	？	切り出し状 縄線文	半竹刺突のある貼付帯 沈線文		複節斜縄(＼)		〃 内面調整丁寧 〃
〃	〃	517	L-24	60, 61	I	〃	切り出し状 複節斜縄(＼)					〃 〃 〃
III-338	〃	518	G-19	28	II	〃	切り出し状，貼付紐，半竹状刺突文(外面)	貼付帯，鋸状刺突文 複節斜縄(＼)				〃 〃
〃	〃	519	M-21	185	〃	〃	切り出し状 2段鋸状刺突文	貼付紐，爪形文，沈線文(半竹内面)，斜縄(／)		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	520	J-19	167	IIb	〃	角型，刻目文 貼付紐	半竹刺突のある貼付紐(半竹内面)，斜縄(＼)		斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	521	K-27	87	II	〃	切り出し状 刻目文(半竹内面)	半竹刺突のある貼付紐(半竹内面)，沈線文(半竹内面)，斜縄(／)		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	522	J-20	30	〃	〃	切り出し状 刻目文(半竹内面)	半竹押引のある貼付紐(半竹内面)，沈線文，斜縄(／)		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	523	G-27	88	I	〃	切り出し状 刻目文	半竹押引のある貼付紐 沈線文，斜縄(＼)		斜縄(＼)		〃 〃 見晴町の可能性あり
〃	〃	524	E-28	1	IIb	〃	切り出し状，貼付瘤，半竹押引文(半竹内面)			斜縄(／)		〃 内面調整粗雑
〃	〃	525	F-22	60	II	〃	切り出し状 刻目文	半竹刺突文のある貼付紐（半竹内面），斜縄(／)		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	526	I-19	167	IIb	〃	切り出し状 沈線文(半竹内面)	半竹押引文のある貼付紐(半竹内面)，斜縄(／)		斜縄(＼)		砂粒多い。 脆弱 内面調整丁寧
〃	〃	527	F-27	326	I	〃	切り出し状 半竹刺突文(半竹内面)	半竹押引のある貼付紐，貼付瘤(半竹内面)，沈線文，斜縄(＼)		斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	528	L-25	35	II	〃	切り出し状 半竹刻目文(半竹内面)	半竹刺突のある貼付紐(半竹内面)，斜縄(／)		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	529	H-19	52	〃	〃	切り出し状 半竹刻目文(半竹内面)	半竹押引文(半竹内面) 斜縄(／)		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	530	I-19	64	〃	〃	切り出し状 半竹刺突文(半竹内面)	半竹押引文(半竹内面) 斜縄(＼)		斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	531	J-19	63	I	〃		半竹押引のある貼付紐(半竹内面)，沈線文(半竹内面)，斜縄(／)		斜縄(／)		〃 内面調整粗雑
〃	〃	532	J-19 I-18	1 57	〃	〃		半竹押引のある貼付紐，沈線文(半竹内面)，斜縄(／)		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	533	I-25	183	IIb	〃		半竹押引のある貼付帯(半竹内面)，沈線文(半竹内面)，複節斜縄(＼)		複節斜縄(＼)		〃 内面調整丁寧 No534，535
〃	〃	534	F-29	27	I	〃		沈線文(半竹内面) 複節斜縄(＼)		〃		〃 〃 No533，535
〃	〃	535	F-29	27	〃	〃				複節斜縄(＼)	揚げ底，裏面縄文	〃 〃 No534，535
〃	〃	536	M-21	180	II	〃	丸味をもつ口唇	曲線的な沈線文 不規則な斜縄(＼)		不規則な斜縄(＼)		砂粒多く，脆弱 内面調整丁寧
〃	〃	537	K-32	102	I	〃	角型 矢羽根状刻目文	斜縄(／) 沈線文(半竹内面)		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	538	I-25	144	〃	〃				不規則な斜縄(＼)，円形刺突文，沈線文(半竹内面)		〃 内面調整粗雑
〃	〃	539	O-24	378	IIb	〃	切り出し状 沈線文(渦巻状)					〃 内面調整丁寧
〃	〃	540	N-31	82	I	〃	切り出し状 沈線文，斜縄(／)	沈線文 斜縄(／)，殺格文		斜縄(／)，殺結文		〃 〃
〃	〃	541	M-21	184	II	〃	切り出し状 頂端部刺突，沈線文			斜縄(／)		砂粒多く脆弱 内面調整丁寧
〃	〃	542	P-34	1	I	IIIB2	角型，貼付帯 半竹外面押引文	貼付帯円形刺突文 結束羽状(＜)，内面縄文(—)				砂粒多く，脆弱 内面調整粗雑
〃	〃	543	P-34	4	〃	〃		貼付帯円形刺突文 結束羽状(＜)		結束羽状(＜)		〃 〃
III-339	146	544	田中家	14	〃	IIIB3	切り出し状 篦状押引文，内面縄文	肥厚帯直下円形刺突文，幅広貼付帯，篦状押引文，円形刺突		結節羽状(＜)		砂粒，小礫多い，内面調整粗雑，外面赤色顔料付着

挿図	図版	番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III-339	146	545	I-25	226	I	IIIB3	切り出し状，円形刺突文，篦状押引後結節斜縄(<)	肥厚帯直下円形刺突文，貼付帯，篦押引文，結節羽状(<)		結節羽状(<)		砂粒，小礫多い。内面四整粗雑，外面赤色顔料付着
〃	〃	546	F-29	56, 356 101	I IIb	〃	切り出し状 結節羽状後篦押引	肥厚帯直下円形刺突，内面縄文(V)，貼付帯押引文，結節羽状(>)				砂粒，小礫多い。内面四整粗雑，外面赤色顔料付着
〃	〃	547	L-20	22	I	〃	切り出し状 篦状押引	肥厚帯直下円形刺突，内面結節羽状(?)，貼付帯篦押引文，結節羽状(<)				〃 脆弱 〃 No548と同一？
〃	〃	548	I-20	42 71, 72	IIb	〃	切り出し状 篦状押引	肥厚帯直下円形刺突，内面結節羽状(?)，貼付帯篦押引文，結節羽状(<)				〃 脆弱 〃 No547と同一？
〃	〃	549	I-31	152	I	〃	丸味をもつ口唇 内外結節羽状(>)	円形刺突文，結節羽状(>)，縄文の施されたモール状貼付帯				〃 〃 内面からの軽い刺突
〃	〃	550	G-20	110	IIb	〃		縄文の施された貼付帯 結節羽状(>)		結節羽状(>)		〃 〃
〃	〃	551	F-26	139 145	I	〃		篦状押引のある貼付帯 結節羽状(>)		結節羽状(>)		〃 〃
III-340	〃	552	F-22 H-25	23 129 231	II I IIb	〃	切り出し状，結束羽状(<)，篦状押引	肥厚帯直下円形刺突，押引のある貼付帯，結束羽状(<)				〃
〃	〃	553	F-25	355	IIb	〃	切り出し状 篦状押引，斜縄(＼)	肥厚帯直下円形刺突，篦状押引のある貼付帯，斜縄(＼)				〃 〃 内面赤色顔料付着
〃	〃	554	G-19	28	II	〃	切り出し状，突起端部刺突文，篦状押引，円形刺突	肥厚帯直下円形刺突文，押引の施された貼付帯，結束羽状(>)		結束羽状(?)		〃 〃
〃	〃	555	J-26	182	IIb	〃	切り出し状 篦状押引	くびれが強い，円形刺突，篦状押引のある貼付帯，結束羽状(<)		結束羽状(<)		〃 〃
〃	147	556	H-25	73, 92 177, 350 他	I IIb	〃	切り出し状 斜縄(＼)後，篦状押引	肥厚帯直下円形刺突，篦状押引のある貼付帯，斜縄(＼)				〃 〃
〃	〃	557	H-25 I-26	60, 84 121, 122 他	II IIb	〃	切り出し状，結束羽状(<)後篦状押引	肥厚帯直下円形刺突 篦状押引，結束羽状(>)		結束羽状(<)		〃 〃 外面赤色顔料付着
〃	〃	558	I-25	142	I	〃	切り出し状，結束羽状(<)後篦状押引	肥厚帯直下押引後円形刺突，篦状押引のある貼付帯，結束羽状(<)				〃 〃
〃	〃	559	K-26	125	〃	〃	切り出し状 結束羽状後半竹押引	肥厚帯直下押引後円形刺突，半竹内面押引のある貼付帯，不規則な結束羽状				〃 〃 内外面赤色顔料付着
〃	〃	560	J-25	42	〃	〃	切り出し状 縄文(／)後篦押引	肥厚帯直下押引後円形刺突，篦状押引のある貼付帯，斜縄(／)				〃 〃
〃	〃	561	I-25	338	IIb	〃	切り出し状 縄文(／)後篦押引	肥厚帯直下押引後円形刺突，篦状押引のある貼付帯，斜縄(／)				〃 〃
III-341	〃	562	H-24	145 146	〃	〃	切り出し状 斜縄(＼)後篦押引	肥厚帯直下押引後円形刺突 斜縄(＼)，篦押引		斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	563	G-24	41	〃	〃	切り出し状 斜縄(＼)後篦押引	肥厚帯直下押引後円形刺突，結束斜縄(＼)，篦押引，円形刺突		結束斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	564	H-25	350	〃	〃	切り出し状 結束羽状(>)半竹押引	肥厚帯押引後，円形刺突文 結束羽状(>)，半竹押引		結束羽状(>)		〃 〃
〃	148	565	F-21	19	〃	〃	切り出し状 斜縄(／)，篦押引	肥厚帯直下押引後円形刺突文 斜縄(／)，篦押引		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	566	F-22	20	II	〃	切り出し状 半竹押引	肥厚帯直下半竹押引後円形刺突文，斜縄(／)，半竹押引文		斜縄(／)		砂粒，小礫多い 四整粗雑 脆弱
〃	〃	567	O-30	46	I	〃	切り出し状 斜縄(／)，半竹押引	肥厚帯直下半竹押引後円形刺突文，斜縄(／)，半竹押引文		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	568	I-26	100	IIb	〃	切り出し状 斜縄(／)，篦押引文	肥厚帯直下円形刺突文 斜縄(／)，篦押引文		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	569	J-26	156	I	〃	切り出し状 斜縄(／)，篦押引文	肥厚帯直下円形刺突文 結節羽状(>)，篦押引文		結節羽状(>)		〃 〃
〃	〃	570	J-19	32	II	〃	切り出し状，裏面縄文(／)，篦押引文	肥厚帯直下円形刺突文 結節羽状(<)，篦押引文		結節羽状(<)		〃 〃
〃	〃	571	J-25	24	I	〃	切り出し状，裏面縄文(＼)，結束羽状(>)，篦押引文	肥厚帯直下円形刺突文		結束羽状(>)		〃 〃 脆弱
〃	〃	572	L-28	35	〃	〃	切り出し状，裏面縄文(<)，篦押引文	肥厚帯直下円形刺突文 結束羽状(<)，篦押引文		結節羽状(<)		〃 〃
〃	〃	573	I-23	162	IIb	〃	尖る口唇 斜縄(／)，半竹押引文	斜縄(／)，円形刺突文 半竹押引文		斜縄(／)		〃 〃 脆弱
〃	〃	574	J-25	24	I	〃	切り出し状 斜縄(／)，半竹押引文	肥厚帯直下円形刺突，半竹押引文，羽状(<)		羽状(<)		〃 〃 〃
〃	〃	575	H-24	260	IIb	〃	切り出し状，裏面縄文(／)，結節羽状(<)，半竹押引文	肥厚帯直下円形刺突文 結節羽状(<)		結節羽状(<)		〃 〃
〃	〃	576	F-29	301	I	〃	切り出し状，裏面縄文(／)，結束羽状(<)	肥厚帯直下円形刺突文 結束羽状(<)		結束羽状(<)		〃 〃
〃	〃	577	F-24	190	IIb	〃	切り出し状 半竹刺突文	肥厚帯直下円形刺突文 結束斜縄(／)		結束斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	578	H-26	31	I	〃	切り出し状，裏面縄文(／)，結束羽状(>)，篦押引文	肥厚帯直下円形刺突文 結束羽状(>)		結束羽状(>)		〃 〃
〃	〃	579	F-20	6	II	〃	切り出し状 斜縄(＼)，半竹押引文	肥厚帯直下円形刺突文 斜縄(＼)		斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	580	K-25	172	〃	〃	切り出し状 斜縄(＼)，半竹刺突文	肥厚帯直下円形刺突文 斜縄(／)，綾結文		斜縄(／)		〃 〃
III-342	〃	581	F-23	23, 39 106, 53	II IIb	〃	切り出し状 半竹外面押引文	肥厚帯直下円形刺突文 単軸撚糸文，複節斜縄(＼)		単軸撚糸文 斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	582	F-29	69	IIb	〃	切り出し状，不規則な縄文，篦押引文	肥厚帯直下円形刺突文 結束羽状(<)				〃 〃
〃	〃	583	H-25	60	II	〃	切り出し状 縄文，半竹押引文					〃 〃
〃	〃	584	H-19	49	〃	〃	尖る口唇 斜縄(＼)，半竹押引文	円形刺突文 斜縄				〃 〃
〃	〃	585	F-22	20	〃	〃	切り出し状 篦状刺突文	肥厚帯直下円形刺突文 斜縄(／)				〃 〃
〃	〃	586	F-22	22	〃	〃	切り出し状 半竹押引	肥厚帯直下円形刺突文 斜縄(／)		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	587	J-24	74	IIb	〃	切り出し状，裏面縄文(＼)，斜縄(／)，半竹押引文	肥厚帯直下円形刺突文 斜縄(／)		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	588	I-26	51	〃	〃	やや切り出し状，斜縄(／)，半竹外面刺突文	斜縄(／)，円形刺突文		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	589	J-25	36	I	〃	切り出し状，斜縄(／)，幅広爪形刺突文	肥厚帯直下円形刺突文 斜縄(／)		斜縄(／)		〃 〃

挿図	図版	番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
Ⅲ-342	149	590	H-24	34	Ⅱb	ⅢB3	切り出し状，斜縄(＼)，半竹押引文	肥厚帯直下押引後円形刺突文 斜縄(＼)		斜縄(＼)		砂粒，小礫多い 調整粗雑
〃	〃	591	H-24	48	Ⅰ	〃	切り出し状，裏面斜縄(／)，半竹押引文	肥厚帯直下押引後円形刺突文 斜縄(／)		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	592	H-26	31	〃	〃	切り出し状，結束羽状(＞)，半竹押引文	肥厚帯直下押引後円形刺突文 結束羽状(＞)		結束羽状(＞)		〃 〃
〃	〃	593	I-24	66	Ⅱ	〃	切り出し状 斜縄(／)，半竹押引文	肥厚帯直下押引後円形刺突文 斜縄(／)		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	594	G-21	40	〃	〃	切り出し状 斜縄(＼)，篦押引文	肥厚帯直下押引後円形刺突文 斜縄(＼)		斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	595	I-24	157	Ⅰ	〃	尖る口唇，斜縄(／)?，半竹押引文	肥厚帯直下押引後円形刺突文 斜縄(／)?		斜縄(／)?		〃 〃 脆弱
〃	〃	596	H-24	146	Ⅱ	〃	切り出し状 斜縄(／)，半竹押引文	肥厚帯直下押引後円形刺突文 斜縄(／)		斜縄(／)		〃 〃 多量炭化物付着
〃	〃	597	F-22	20	〃	〃	切り出し状，斜縄(／) 篦押引文	肥厚帯直下押引後円形刺突文 斜縄(／)		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	598	J-27	174	〃	〃	尖る口唇 斜縄(／)	押引後円形刺突文 斜縄(／)		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	599	H-24	415	Ⅱb	〃	尖る口唇 斜縄(＼)，半竹押引文	押引後円形刺突文 斜縄(＼)		斜縄(＼)		〃 〃
Ⅲ-343	〃	600	G-25 G-26	159 27	Ⅱ Ⅰ	〃	切り出し状，裏面縄文 結節羽状(＞)	肥厚帯直下円形刺突文 結節羽状		結節羽状(＞)		〃 〃
〃	〃	601	F-25	119 377	Ⅰ	〃	切り出し状，裏面縄文 斜縄(／)	肥厚帯直下円形刺突文 斜縄(／)		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	602	田	16	〃	〃	切り出し状，裏面縄文 (／)，斜縄(／)	肥厚帯直下円形刺突文 斜縄(／)		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	603	G-26	19	〃	〃	丸味をもつ口唇 不規則な羽状，綾絡文	円形刺突文 不規則な羽状		不規則な羽状，綾絡文		〃 〃
〃	〃	604	F-25	27	〃	〃	尖る口唇 不規則な羽状	円形刺突文 不規則な羽状，綾絡文		不規則な羽状，綾絡文		〃 〃
〃	〃	605	F-25	33 62	Ⅰ Ⅱb	〃	切り出し状，裏面縄文 結束羽状(＞)	肥厚帯直下円形刺突文 結束羽状(＞)		結束羽状(＞)		〃 〃
〃	〃	606	J-20	31	Ⅱ	〃	切り出し状，裏面縄文 (八)，結束羽状(＞)	肥厚帯直下円形刺突文 結束羽状(＞)		結束羽状(＞)		〃 〃
〃	〃	607	G-24	128	〃	〃	丸味をもつ口唇 結束羽状(＞)	円形刺突文 結束羽状(＞)		結束羽状(＞)		〃 〃
〃	150	608	H-19	49	〃	〃	切り出し状，裏面縄文 (＞)，結束羽状(＜)	肥厚帯直下円形刺突文 結束羽状(＜)		結束羽状(＜)		〃 〃
〃	〃	609	H-24	50	Ⅰ	〃	切り出し状，裏面縄文 不規則な結束羽状	肥厚帯直下円形刺突文 不規則な結束羽状		不規則な結束羽状		〃 〃 No.611と同一個体
〃	〃	610	G-26	27	〃	〃	切り出し状，裏面縄文 結束羽状(＞)	肥厚帯直下円形刺突文 結束羽状(＞)		結束羽状(＞)		〃 〃
〃	〃	611	J-26	383 395	〃	〃	切り出し状，裏面縄文 ナデ調整	肥厚帯直下円形刺突文 結束斜縄(／)		結束斜縄(／)		〃 〃 No.615と同一個体
〃	〃	612	F-28	154	Ⅲ	〃	切り出し状 斜縄(／)	肥厚帯直下棒状刺突文 斜縄(＼)		斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	613	J-25	42	Ⅰ	〃	切り出し状 斜縄(＼)	肥厚帯直下円形刺突文 斜縄(＼)		斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	614	J-25	126	Ⅱb	〃	切り出し状 斜縄(／)	肥厚帯直下円形刺突文 斜縄(／)		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	615	I-26	85, 86 120	Ⅰ	〃	切り出し状，内面縄文 ナデ調整	肥厚帯直下円形刺突文 結束斜縄(／)		結束斜縄(／)		〃 〃
Ⅲ-344	〃	616	J-24	55	〃	〃	丸味をもつ口唇 斜縄(＼)	円形刺突文 斜縄(＼)		斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	617	I-25	183	Ⅱb	〃	丸味をもつ口唇 ナデ調整	円形刺突文 斜縄(／)		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	618	I-25	142	Ⅰ	〃	切り出し状，裏面縄文 (＼)，斜縄(／)	肥厚帯直下円形刺突文 結束羽状(＜)		結束羽状(＜)		〃 〃
〃	〃	619	H-25	129	〃	〃	尖る口唇 斜縄(／)	円形刺突文 斜縄(／)		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	620	I-23	26	Ⅱ	〃	尖る口唇 半竹押引文，斜縄(／)	斜縄(／)		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	621	K-25	146 156	Ⅰ Ⅱ	〃	切り出し状 半竹押引文	斜縄(／)		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	622	I-25	186 204	Ⅱb	〃	切り出し状，斜縄(＞) 半竹押引文			羽状(＜)		〃 〃
〃	〃	623	J-25	293	〃	〃	切り出し状 半竹刺突文			斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	624	O-30	252	Ⅰ	〃	尖る口唇 斜縄(＼)，篦押引文			斜縄(＼)		〃 〃 脆弱
〃	〃	625	J-22	4	Ⅱb	〃	切り出し状 斜縄(＼)，半竹押引文			斜縄(＼)		〃 〃 脆弱
〃	〃	626	F-25	3 63	Ⅰ Ⅱb	〃	尖る口唇 結束羽状(＞)，篦押引文			結束羽状(＞)		〃 〃
〃	〃	627	K-25	43	Ⅱb	〃	切り出し状，斜縄(＼) 篦押引文	肥厚帯直下押引文 篦押引		斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	628	H-24	163	Ⅱ	〃	切り出し状 半竹押引文	肥厚帯直下押引文 結束斜縄(／)		結束斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	629	P-34	47	Ⅰ	〃	角型 半竹刺突文			結束斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	630	G-27	88	〃	〃	角型 篦押引文			斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	631	F-24	10	〃	〃	角型，結束羽状(＞)， 半竹押引文			結束羽状(＞)		〃 〃
〃	〃	632	J-26	177	〃	〃	角型 斜縄(＼)，半竹刺突文			斜縄(＼)，綾絡文(?)		〃 〃
〃	〃	633	N-30	81	〃	〃	切り出し状 斜縄(／)			斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	634	F-25	119 63, 69	Ⅰ Ⅱb	〃	切り出し状，裏面縄文 斜縄(／)			斜縄(／)		〃 〃

挿図	図版	番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III-344	151	635	F-22	57	II	IIIB3	切り出し状 無文			無文		砂粒，小礫多い 調整粗雑
〃	〃	636	H-24	108	〃	〃	丸味をもつ口唇 斜縄(／)			斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	637	J-25	293	IIb	〃	丸味をもつ口唇，裏面縄文，斜縄(＼)			斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	638	H-24	16	II	〃	丸味をもつ口唇 斜縄(／)			斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	639	H-24	140	IIb	〃	尖る口唇，斜縄(／) 貼付帯，ロ形刺突文	貼付帯，円形刺突文 斜縄(／)		斜縄(／)		〃 〃 IV群A類の可能性あり
〃	〃	640	I-24	3, 89	II	〃		円形刺突文 幅3cm前後の爪形文		無文		〃 〃
〃	〃	641	F-25	33	I	〃		結束羽状(＜)，貼付帯，円形刺突文，櫛状工具押引文		結束羽状(＜)		〃 〃
III-345	〃	642	L-21	73	II	〃	やや丸味のあるロ唇 半竹外面刺突文			斜縄(／)		砂粒を多く含む，調整は比較的丁寧，レンガ台式~653迄
〃	〃	643	P-33	77	I	〃	切り出し状 半竹外面刺突文			斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	644	G-24	256	IIb	〃	切り出し状 半竹外面刺突文			斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	645	F-27	68	I	〃	角型 半竹刺突文			斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	646	J-32 K-32	162 142	〃	〃	角型 貼付帯刺突文			斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	647	F-20	42	II	〃	角型 貼付帯刺突文			斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	648	I-27	41	I	〃	やや丸味をもつロ唇 不規則な結束羽状(＞)			不規則な結束羽状		〃 〃
〃	〃	649	田中家	13		〃	角型 斜縄(＼)			斜縄(＼)		〃 丁寧な調整
〃	〃	650	F-21	32	IIb	〃	丸味のあるロ唇 斜縄(＼)			斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	651	H-26	4	I	〃				半竹刺突 斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	652	G-25	159	II	〃				貼付帯 斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	653	田	1	I	〃				貼付帯半竹刺突 羽状(＞)		〃 〃
〃	〃	654	J-25	163	〃	IVA	角型，斜縄(／) 貼付帯，縄線文	無文（ナデ調整）	縄線文	斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	655	H-23	246	II	〃	角型，斜縄(／) 貼付帯，縄線文	無文(ナデ調整)	縄線文	斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	656	I-29	356	I	〃	角型，貼付帯 斜縄(＼)	貼付帯直下縄線文 無文(ナデ調整)				〃 〃
〃	〃	657	H-26	1	I	〃	角型，貼付帯 斜縄(＼)	無文(ナデ調整)，縄線文	縄線文			〃 〃
〃	〃	658	F-28	144	IIb	〃	角型，貼付帯 斜縄(＼)	無文(ナデ調整)，縄線文	縄線文			〃 〃
〃	〃	659	F-28	52	I	〃	角型，貼付帯 斜縄(／)	無文(ナデ調整)	縄線文	羽状(＞)		〃 〃
〃	〃	660	F-22	52	II	〃	角型，貼付帯 斜縄(＼)	無文	縄線文	斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	661	I-24	13	〃	〃	角型，貼付帯 斜縄(／)，縄線文	幅狭い無文帯		結束斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	662	G-20	35	〃	〃	角型，貼付帯 斜縄(／)，縄線文			結束羽状(＜)		〃 〃
〃	〃	663	I-21	34	〃	〃	角型，貼付帯 斜縄(＼)，縄線文	幅狭い無文帯		斜縄(＼)		〃 〃 脆弱
〃	〃	664	O-23	12	〃	〃	角型，貼付帯 斜縄(／)，縄線文			斜縄(／)		〃 〃 脆弱
〃	〃	665	I-24	3	〃	〃				貼付帯，縄文 縄線文		〃 〃
〃	〃	666	I-24	125	〃	〃				貼付帯，縄線文 羽状		〃 〃
〃	〃	667	G-22	2	〃	〃				貼付帯，羽状 縄線文(原体5cm)		〃 〃
〃	〃	668	F-28	3	I	〃				貼付帯，羽状 縄線文		〃 〃
〃	〃	669	I-24	14	IIb	〃	斜位，貼付帯，斜縄(／)	肥厚帯直下 沈線による無文帯		結束羽状(＞)		〃 〃
〃	〃	670	L-31	78	I	〃	斜位，貼付帯，斜縄(／)	肥厚帯直下 沈線による無文帯		斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	671	F-22	65	IIb	〃	斜位，貼付帯，斜縄(／)	無文帯				〃 〃
〃	〃	672	H-24	154	II	〃	斜位，貼付帯，斜縄(＼)			斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	673	I-19	9	〃	〃	斜位，貼付帯，斜縄(＼)	幅狭い無文帯		斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	674	H-22	22	II	〃	斜位，貼付帯，斜縄(＼)	幅狭い無文帯(？)		羽状(＞)		〃 〃
〃	〃	675	I-24	90	〃	〃	角型，貼付帯，斜縄(＼)			斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	676	G-26	75	I	〃	丸味をもつロ唇 無文	無文	縄線文	斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	677	H-26	220	IIb	〃				貼付帯 羽状(＜)		〃 〃
〃	〃	678	F-29	162	I	〃				貼付帯 羽状(＞)		〃 〃
〃	〃	679	H-28	168	〃	〃				貼付帯 羽状(＜)		〃 〃

挿図	図版	番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	文様と特徴 口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	備考
III-345	151	680	H-24	122	II	IVA					張り出しをもつ斜縄(＼)	砂粒多い 丁寧な調整
〃	〃	681	F-28	52	I	〃					張り出しをもつ斜縄(＼)	〃 〃
〃	〃	682	F-28	129	IIb	〃					張り出しをもつ斜縄(／)	〃 〃
III-346	〃	683	I-23	67	I	〃	丸昧をもつ口唇			横位曲線沈線文 斜縄(／)		砂粒を多く含む 内面調整粗雑
〃	〃	684	I-20	79	II	〃	尖がる口唇 裏面縄文(—)			横位曲線沈線文 斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	685	H-24	170	II	〃	尖がる口唇	無文地，2本一組の鋸歯状沈線文				〃 〃
〃	〃	686	R-32	2	I	〃	丸昧をもつ口唇 円形刺突文	不規則な縄文 曲線的な沈線文				〃 〃
〃	152	687	O-24	13, 17 261	II	〃	丸昧をもつ口唇 円形刺突文	貼付帯，沈線文 円形刺突文，縄線文，斜縄(／)				〃 〃
〃	〃	688	J-20	38	〃	〃		指頭圧痕のある貼付帯 沈線文				〃 〃 No.689と同一
〃	〃	689	〃	〃	〃	〃		沈線文，半竹刺突 無節斜縄(／)				〃 〃 No.688と同一
〃	〃	690	I-25	127	〃	〃	頂端部指頭圧痕文(?)	貼付帯，縄線文 沈線文(?)				〃 〃 No.691，692と同一
〃	〃	691	G-20	55	〃	〃		貼付帯，縄線文 木葉状沈線文，斜縄(／)				〃 〃 No.690，692と同一
〃	〃	692	F-27 G-27	3, 68 3	〃	〃		貼付帯，縄線文 木葉状沈線文，斜縄(／)				〃 〃 No.690，691と同一
〃	〃	693	I-31	86, 88	〃	〃		貼付帯，半竹押引 半竹内面沈線，不規則縄文				砂粒，小礫が多い。 内面調整丁寧
〃	〃	694	F-26	138	IIb	〃	丸昧をもつ口唇 端部指頭圧痕文	貼付帯，くびれをもつ オオバコ回転文		オオバコ回転文 貼付帯		砂粒，小礫が多い 内面調整丁寧 No.695と同一
〃	〃	695	F-27	197	III	〃				オオバコ回転文 貼付帯		〃 〃 No.694と同一
〃	〃	696	I-32	298	I	〃	波状，丸昧をもつ口唇，端部指頭圧痕，裏面縄文	ボタン状貼付，くびれをもつ 2本一組沈線文，斜縄(／)	沈線文			〃 〃 No.697，698同一個体
〃	〃	697	L-27	30	〃	〃	波状，丸昧をもつ口唇，端部指頭圧痕，裏面縄文	ボタン状貼付，くびれをもつ 2本一組沈線文，斜縄(／)	沈線文			〃 〃 No.696，698同一個体
〃	〃	698	K-25	131 134	II	〃	波状，丸昧をもつ口唇 端部指頭圧痕，裏面縄文	ボタン状貼付，くびれをもつ 2本一組沈線文，斜縄(／)	沈線文			〃 〃 No.696，697と同一
〃	〃	699	F-28	52	I	〃				ボタン状貼付，2本一組の半竹内面沈線文		砂粒，小礫が多い 内面調整粗雑
〃	〃	700	H-19	49	II	〃				斜縄(／) 2本一組沈線文		砂粒，小礫が多い 内面調整丁寧
〃	〃	701	K-27	94	I	〃	丸昧をもつ口唇	無文地 2個一対の貼付瘤，沈線文				砂粒，小礫が多い 内面調整粗雑
〃	〃	702	H-25	452	〃	〃	角型 内面縄文(—)	無節斜縄(／) 「8」字状貼付帯		無節斜縄(＼)		多量炭化物付着 砂粒，小礫多い
〃	〃	703	H-24	25	II	〃	角型 裏面縄文(＼)			斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	704	H-26	4	I	〃	角型			無節斜縄(＼)		多量の炭化物付着，砂粒，小礫多い。内面調整丁寧
〃	〃	705	F-22	90	IIb	〃	丸昧をもつ口唇 円形刺突文	無文地 円形刺突文，2本一組沈線文				砂粒，小礫が多い 内面調整丁寧
〃	〃	706	K-25	134	II	〃	角型 縄線文	斜縄(／)，縄線文 曲線的な沈線文				砂粒，小礫多い 内面調整粗雑
〃	〃	707	H-20	13	II	〃	角型 端部指頭圧痕文	斜縄(＼) 曲線的な沈線文				〃 〃
III-347	〃	708	H-24 H-25 I-25	57, 139 69 46	II II IIb	〃	角型，斜縄(／) 鋸歯状入子燃糸文	斜縄(／) 「逆く」字状沈線	沈線文	「乚」状沈線文 斜縄(／)		砂粒多い 内面調整丁寧
〃	〃	709	H-24 I-25	155 127	II II	〃	丸昧をもつ口唇，斜縄(／)，鋸歯状入子沈線文	斜縄(／) 「逆く」字状沈線	沈線文			〃 〃
〃	〃	710	H-24	76	II	〃	丸昧をもつ口唇 下位斜縄(／)		沈線文	斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	711	H-24	48	I	〃	角型，斜縄(／) 「乙」字状沈線文	斜縄(／) 「乚」状沈線文	沈線文			〃 〃 IVAの新しいものか?
〃	〃	712	K-25	134	II	〃	内得する切り出し状			磨消文，曲線的 斜縄(／)		〃 〃 IVAの新しいものか?
〃	〃	713	F-28	144	IIb	〃	角型，斜縄(／) 鋸歯状沈線文	無文帯	沈線文			砂粒，小礫多い。 内面調整丁寧
〃	〃	714	I-25	124	I	〃	角型 山形状沈線文	無文帯	沈線文			砂粒多い。 内面調整丁寧
〃	〃	715	J-21	42	II	〃	斜縄(＼) 曲線的沈線文	無文帯	沈線文			砂粒，小礫多い。 内面調整丁寧
〃	〃	716	J-26	23	I	〃	尖がる口唇 斜縄(＼)，沈線文	無文帯	沈線文			砂粒，小礫多い 調整粗雑 脆弱
〃	〃	717	H-24	155	II	〃	角型，斜縄(／) 鋸歯状沈線文					砂粒，小礫多い。 内面調整丁寧
〃	〃	718	N-23	107	〃	〃	角型 沈線文	無文帯	沈線文			変形。砂粒，小礫多い。 内面調整粗雑 脆弱
〃	〃	719	L-21	69	〃	〃		無文帯?		ややくずれた「乙」字状沈線，斜縄(＼)		砂粒多い，内面調整丁寧 IVAの新しいものか?
〃	〃	720	M-23	106	〃	〃	丸昧をもつ口唇 鋸歯状入れ子	無文帯	沈線文			砂粒多い。 内面調整丁寧
〃	〃	721	M-31	45	I	〃		鋸歯状沈線文，斜縄(／)		「乚」状沈線文，斜縄(／)，下位無文(?)		〃 〃 脆弱
〃	〃	722	M-23	106	II	〃				「乚」状沈線文，斜縄(／)，下位無文		〃 〃 〃
〃	〃	723	M-23	30	II	〃				直線的磨消文		〃 〃 〃
〃	〃	724	H-25	62	II	〃				「く」字状沈線文 無文地		〃 〃

挿図	図版	番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
III-347	153	725	H-24	26 54	II I	〃				「┐└」字状沈線文，斜縄(／)，下位無文		砂粒多い 内面四整丁寧
〃	〃	726	I-25	142 144	I	〃				直線的磨消文		砂粒多い 内面四整丁寧
〃	〃	727	F-23	44	II	〃				磨消縄文 曲線的		〃 〃　No728と同一
〃	〃	728	F-23	44	〃	〃				〃 〃		〃 〃　No727と同一
〃	〃	729	I-31	133	I	〃				重文状磨消文 斜縄(／)		砂粒多い 内面四整粗雑
〃	〃	730	J-26	379	〃	〃				磨消縄文 曲線的		砂粒，小礫多い 内面四整丁寧
〃	〃	731	I-32	477	〃	〃				〃 〃		〃 〃
〃	〃	732	F-27	75	〃	〃	角型，斜縄(＼) 曲線的沈線					〃 〃　No733と同一
〃	〃	733	M-27	37	〃	〃				斜縄(＼) 沈線文		砂粒多い 内面四整丁寧 No732と同一
〃	〃	734	G-26	1	〃	〃				磨消文，斜縄(＼) 棒状刺突文		〃 〃　No735と同一
〃	〃	735	F-22	24	II	〃				磨消文，斜縄(＼) 棒状刺突文		〃 〃　No734と同一
〃	〃	736	I-34	152	I	IVB	角型，斜縄(／) 沈線					砂粒，小礫多い 内面四整丁寧
〃	〃	737	O-24	58	〃	〃	角型，斜縄(／) 沈線文，刻目文			無文		〃 〃
〃	〃	738	H-24	58	II	〃	角型，斜縄(／) 沈線文					〃 〃
〃	〃	739	F-23	44 54	II IIb	〃	角型，斜縄(＼) 「S」字状垂下する沈線文			斜縄(＼) 沈線文		〃 〃
〃	〃	740	K-25	421	I	〃	角型，斜縄(／) 沈線文			磨消縄文		〃 〃
〃	〃	741	I-32	304	〃	〃	角型，斜縄(／) 沈線文			磨消縄文		〃 〃
〃	〃	742	L-27	48	〃	〃	角型，斜縄(／) 沈線文			斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	743	J-25	23	〃	〃				斜縄(／) 沈線文(／)		〃 〃
〃	〃	744	I-32	497	〃	〃				磨消縄文		〃 〃
〃	〃	745	I-32 J-31	363 36	I I	〃				磨消縄文		〃 〃
〃	〃	746	G-27	103	I	〃	丸味をもつ口唇 刻目文			無文		砂粒，小礫多い 四整は粗雑
〃	〃	747	Q-32	50	〃	〃			沈線文，刻目文			砂粒，小礫多い。内面四整丁寧。銭溝式の可能性あり。
III-348	〃	748	I-20	69	II	Va				横位連弧入組文 縦縄文		鉢形，四整丁寧
〃	〃	749	I-20 K-25	70 155	II II	〃	角型 貼付帯，沈線文	無文帯				〃　〃
〃	〃	750	I-20	29	II	〃	角型，裏面縄文，沈線文 斜縄(＼)，沈線文	〃				〃　〃
〃	〃	751	F-19	1	I	〃	切り出し状，斜縄(＼) 沈線文	〃	貼付瘤 斜縄(＼)，沈線文			〃　〃
〃	〃	752	J-32	20	〃	〃	切り出し状，刻目文 斜縄(／)	幅狭い無文帯		斜縄(／)		〃　〃
〃	〃	753	I-18	84	II	〃	角型，刻目文	3条の沈線文	半竹刺突文	斜縄(／)		〃　〃
〃	〃	754	G-19	34	〃	〃	切り出し状，裏面沈線	縦位縄文(｜)，4条の沈線文		縦位縄文(｜)		〃　〃
〃	〃	755	F-29	295	IIc	〃	切り出し状 口唇端部刻目文	3条沈線文		条痕文		〃　〃
〃	〃	756	I-25	142	I	〃	角型	斜縄(／)，3条沈線文	刺突文	斜縄(＼)		〃　〃
〃	〃	757	F-19	24	II	〃	丸味のある口唇			斜縄(＼)		〃　〃
〃	〃	758	O-23	12	〃	〃				磨消文 連弧入組文		〃　〃
〃	〃	759	I-20	69	〃	〃				〃 〃		〃　〃
〃	〃	760	M-21	166	I	〃				〃 工字文		〃　〃
〃	〃	761	P-35	7	〃	〃				条痕文		〃　〃
〃	〃	762	H-26	4	〃	〃	角型(?)，裏面沈線文 沈線文			斜縄(＼) 沈線による工字文		〃　〃
〃	〃	763	J-20	37	II	〃	角型，斜縄(＼) 裏面沈線文	3条沈線文	貼付瘤，斜縄(＼) 沈線文	斜縄(＼) 沈線による工字文		〃　〃
〃	〃	764	G-20	90	〃	〃	尖がる口唇，裏面沈線 文，斜縄(＼)，沈線文	〃	貼付瘤 沈線文			〃　〃
〃	〃	765	F-29	24	I	〃	尖がる口唇 無文地，沈線文	沈線文				〃　〃
〃	〃	766	J-20	37, 38	II	〃				沈線による工字文		〃　〃
〃	〃	767	L-22	34	〃	〃	丸味をもつ口唇	2条沈線文	貼付瘤	無文地		深鉢，四整丁寧
〃	〃	768	I-19	167	IIb	〃	切り出し状 口唇端部刻目文	無文帯	刻目文 沈線文			〃　〃
〃	〃	769	I-20	357	II	〃	切り出し状 口唇端部刻目文	2条沈線	刺突文	斜縄(＼)		〃　〃

挿図	図版	番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	文様と特徴					備考
							口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	
Ⅲ-348	153	770	I-18 K-27	8 91	I	〃	切り出し状 無文地	2条沈線文		無文		深鉢，調整丁寧
〃	〃	771	O-24	57	I	〃	角型 斜縄(＼)，刻目文	3条沈線文，縄文		不規則な縄文		〃　〃
〃	〃	772	L-21	67	II	〃	角型 縦位縄文(｜)，刻目文	3条沈線文，斜縄(＼)		縦位縄文(｜)		〃　〃
〃	〃	773	H-19	49	〃	〃	尖がるロ唇 斜縄(＼)，刻目文	5条沈線文，斜縄(＼)		斜縄(＼)		深鉢　〃
〃	〃	774	H-20	20	〃	〃	切り出し状 無文地	3条沈線文，斜縄(＼)		斜縄(＼)		〃　〃
〃	〃	775	K-27	11	I	〃	切り出し状 斜縄(＼)	5条沈線文，斜縄(＼)		斜縄(＼)		〃　〃
〃	〃	776	N-21	46	〃	〃	切り出し状，裏面沈線文，無文地	4条沈線文，斜縄(＼)		斜縄(＼)		〃　〃
〃	〃	777	I-19	167	IIb	〃		沈線文	半竹刺突文	斜縄(＼)		〃　〃
〃	〃	778	G-26	75	I	〃		無文帯		斜縄(／)		〃　〃
〃	〃	779	H-19	48	II	〃		沈線文，斜縄(＼)		縦位縄文(｜)		〃　〃
〃	〃	780	J-20	38	〃	〃		沈線文，斜縄(＼)		斜縄(＼)		〃　〃
〃	〃	781	I-19	10	I	〃		沈線文，斜縄(＼)		斜縄(＼)		〃　〃
〃	〃	782	N-21	38	I	〃		沈線文，斜縄(＼)		斜縄(＼)		〃　〃
〃	〃	783	G-19	43	IIc	〃	突起，貼付	無文帯				変形，調整丁寧 外面赤色顔料付着
〃	〃	784	J-20	38	II	〃	丸味をもつロ唇 3条の沈線文	斜縄(／)				変形，粗雑な調整
〃	〃	785	N-21	38	I	〃	沈線文	無文帯	沈線文			〃　調整丁寧
〃	〃	786	I-19	10	I	〃		無文帯	沈線文，貼付瘤	連弧入組文		〃 〃　No.787，788と同一
〃	154	787	H-19	49	II	〃				〃		〃 〃　No.786，789と同一
〃	〃	788	H-20	254	〃	〃				〃		〃 〃　No.786，787と同一
〃	〃	789	I-20	5	II	〃				横位連続工字文		〃　〃
〃	〃	790	H-20	254	〃	〃				〃		〃　〃 赤色顔料付着
〃	〃	791	F-20	6	〃	〃				沈線文，斜縄(＼)		〃　〃
〃	〃	792	Q-34	10	I	〃		無文帯	沈線文	縦位縄文(｜)		〃　〃 脆弱
Ⅲ-349	〃	793	P-22	50	II	Vb	角型，沈線 斜縄(＼)					砂粒多い 鉢形，調整粗雑　脆弱
〃	〃	794	I-20	5	〃	〃	切り出し状 撚糸圧痕文			斜縄(＼)		〃 鉢形　〃
〃	〃	795	H-19	53	I	〃	切り出し状 刻目文			〃(／)		〃　〃
〃	〃	796	H-19	49	II	〃	〃 〃			〃(／)		〃　〃
〃	〃	797	N-21	38	I	〃	切り出し状 撚糸圧痕文			〃(＼)		〃　〃
〃	〃	798	L-21	67	II	〃	角型 撚糸圧痕文，棒刻目文			条痕文(｜)		〃　〃
〃	〃	799	I-33	37	I	〃	切り出し状 撚糸文，円形刺突文	貼付帯，沈線文		縦位縄文(｜)		〃　〃
〃	〃	800	N-22	12	II	〃	切り出し状 撚糸圧痕文			斜縄(＼)		〃　〃
〃	〃	801	J-21	18	II	〃	切り出し状 撚糸圧痕文			〃(＼)		〃　〃
〃	〃	802	L-28	37	I	〃	切り出し状 撚糸圧痕文			縄線文 斜縄(＼)		〃　〃
〃	〃	803	I-24	125	II	〃	切り出し状 撚糸圧痕文，刻目文			斜縄(＼)		〃　〃
〃	〃	804	I-20	79	II	〃	切り出し状 撚糸文，刻目文			斜縄(＼)		〃　〃
〃	〃	805	I-19	10	I	〃	切り出し状 撚糸文，刻目文			斜縄(＼)		〃　〃
〃	〃	806	Q-33	40	I	〃	切り出し状 撚糸文，刻目文	無文帯	刺突文			〃　〃
〃	〃	807	P-22	64	II	〃	切り出し状 撚糸文，刻目文			斜縄(＼)		〃　〃
〃	〃	808	P-21	13	IIb	〃	切り出し状 撚糸文，刺突文			斜縄(／)		〃　〃
〃	〃	809	〃	31	I	〃	切り出し状 撚糸文，刺突文			斜縄(／)		〃　〃
〃	〃	810	I-19 H-20	10 20	I II	〃	切り出し状 撚糸文，刻目文	無文帯	半竹刺突	斜縄(＼)		〃　〃
〃	〃	811	M-21	40	II	〃	切り出し状 撚糸文，刻目文			斜縄(／)		〃　〃
〃	〃	812	J-21	21	〃	〃	切り出し状 貼付瘤，刻目文，刺突文			斜縄(＼)		〃　〃
〃	〃	813	M-30	101	I	〃	角型 突起頂点に刻目			斜縄(／)		〃　〃
〃	〃	814	N-22	65	II	〃	切り出し状 刻目文			斜縄(／)		〃　〃

挿図	図版	番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	文様と特徴 口唇部	頸部	区画帯	体部	底部	備考
III-349	154	815	G-20	55	II	Vb	切り出し状，斜縄(＼)縄圧痕文			斜縄(＼)		砂粒多い 浅鉢，調整粗雑
〃	〃	816	M-26	100	I	〃	突起部，切り出し状 縄圧痕文，円形刺突文			斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	817	I-20	29	II	〃	切り出し状 縄線文			斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	818	H-20	20	II	〃	切り出し状 斜縄(＼)，外面刻目文			斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	819	H-19	49	〃	〃	切り出し状 斜縄(＼)，縄圧痕文			斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	820	K-20	1	〃	〃	突起部，縄線文			斜縄(／)		〃 〃
〃	〃	821	H-27	42	I	〃	丸味をもつ口唇，貼付瘤，刻目文，沈線刺突文			斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	822	I-31	11	〃	〃	切り出し状	斜縄(＼) 曲線的な沈線文				〃 〃
III-350	〃	823	P-22	68	II	〃	丸味をもつ口唇	指頭による円形圧痕，沈線文，半竹刺突文，斜縄(＼)		斜縄(＼)		〃 深鉢 〃
〃	〃	824	P-24	79	〃	〃	角型	横走，鋸歯状沈線文	刺突文			〃 〃
〃	〃	825	F-23	18	〃	〃	切り出し状 外面刻目文	横走，鋸歯状沈線文	刺突文			〃 〃
〃	〃	826	I-19	167	IIb	〃	切り出し状 撚糸圧痕，外面刻目文	斜縄(＼) 沈線文				〃 〃
〃	〃	827	P-22	68	II	〃	角型 撚糸文，外面刻目文	斜縄(＼) 5条沈線文				〃 〃 No.828と同一？
〃	〃	828	L-25	77	I	〃	〃 〃	斜縄(＼) 〃		斜縄(＼)		〃 〃 No.827と同一？
〃	〃	829	K-27	89	I	〃	角型	斜縄(＼) 鋸歯状の沈線文		斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	830	J-19	32	II	〃	尖る口唇，外面刻目文，撚糸文，鋸歯状沈線	無文帯	刺突文			〃 〃
〃	〃	831	N-23	18	〃	〃	角型 撚糸文，半竹刺突	〃	半竹刺突			〃 〃
〃	〃	832	G-20	35	〃	〃	角型，縄文 指頭圧痕，半竹刺突	〃	〃			〃 〃
〃	〃	833	J-21	42	〃	〃	尖る口唇，斜縄(＼) 刻目文，沈線文	〃	〃	斜縄(＼)		〃 〃
〃	〃	834	G-27	88	I	〃	切り出し状 鋸歯状撚糸文，刻目文			縦位縄文(｜)		〃 〃
〃	〃	835	F-20	6	II	〃				撚糸文，沈線文 刺突文		〃 〃
〃	〃	836	P-34	47	I	〃		無文	貼付瘤	沈線文		〃 壺形 〃
〃	〃	837	J-27	98	〃	〃	角型	沈線文	沈線文			〃 〃
〃	〃	838	P-23	5	I	〃				沈線文	揚げ底	〃 鉢 〃
〃	〃	839	L-28	34	〃	VI	尖る口唇 刻目文			結縄文 貼付紐，刺突文		砂粒多い，貼付紐白色粘土使用，器面調整丁寧
III-350	154	840	I-31	138	〃	〃	尖る口唇 刻目文			結縄文 貼付紐		砂粒多い，貼付紐白色粘土使用，器面調整丁寧
〃	〃	841	N-30	28	〃	〃	尖る口唇 貼付紐，刻目文			結縄文		〃 〃 〃
〃	〃	842	L-28	34	〃	〃				結縄文 貼付紐		〃 〃
〃	〃	843	F-29	300	〃	〃				〃 〃		〃 〃
〃	〃	844	〃	〃	I	〃				結縄文		〃 〃 〃 No.845，846と同一？
〃	〃	845	〃	〃	〃	〃				〃		〃 〃 〃 No.844，846と同一？
〃	〃	846	〃	〃	〃	〃				結縄文	揚げ底	〃 〃 〃 No.844，845と同一
〃	〃	847	O-23	32	II	VII				細い矢羽根状沈線		粒子細かい胎土 No.847～849同一個体
〃	〃	848	〃	12	〃	〃				貼付帯，半竹押引		〃 〃
〃	〃	849	〃	32	〃	〃				細い矢羽根状沈線		〃 〃
〃	〃	850	E-28	13	I	〃				外面，ヘラ調整 内面回転横ナデ	平底，底径9.2cm程度	長頸壺，須恵器，小穴，砂粒を含む。前田野目産(？)
〃	〃	851	O-30	277	〃	〃	尖る口唇，口径15cm程度，ヘラミガキ			ヘラミガキ 下位に肩部をもつ		坏，器面調整丁寧
〃	〃	852	〃	246	〃	〃	尖る口唇，口径20cm程度，ヘラミガキ	くびれをもつ 無文帯		不規則な擦痕		坏 〃
〃	〃	853	不明			〃		縦位擦痕 横走沈線，内面条痕				深鉢，器面調整丁寧
〃	〃	854	G-24	280	IIb	〃		縦位擦痕 鋸歯状沈線文				深鉢 〃
〃	〃	855	N-22	65	II	〃	尖る口唇			縦位擦痕		砂粒，小穴を多く含む 調整粗雑，No.855～859同一個体
〃	〃	856	O-22	34	〃	〃				縦位擦痕 櫛歯状工具刺突文		〃 〃
〃	〃	857	〃	〃	〃	〃				縦位擦痕		〃 〃
〃	〃	858	〃	〃	〃	〃				〃		〃 〃
〃	〃	859	〃	〃	〃	〃				〃	平底 張り出しをもつ	〃 〃
〃	〃	860	F-27	26	I	〃					揚げ底	〃 〃 内面赤色顔料付着

表24　C地区包含層掲載石器一覧

挿図	図版	番号	出土区	遺物番号	層位	名称	分類	重量(g)	石材	挿図	図版	番号	出土区	遺物番号	層位	名称	分類	重量(g)	石材
III-356	172	1	O-23	83	IIc	石鏃	Ia	0.5	Obs	III-357	172	61	K-25	352	II	ポイント・ナイフ	II	31.3	Sh
〃	〃	2	H-21	25	IIb	〃	Ib	0.6	〃	〃	〃	62	P-25	37	〃	〃	〃	26.1	〃
〃	〃	3	F-21	50	〃	〃	Ia	0.5	〃	〃	〃	63	〃	38	〃	〃	〃	50.4	〃
〃	〃	4	F-22	160	〃	〃	〃	0.9	〃	〃	〃	64	I-25•32	219•398	IIb	〃	〃	37.1	〃
〃	〃	5	P-21	19	IIc	〃	Ib	0.8	〃	〃	〃	65	I-19	195	〃	〃	III	31.1	〃
〃	〃	6	G-20	129	IIb	〃	〃	0.9	〃	〃	〃	66	M-21	31	〃	〃	Ia_2	46.1	And
〃	〃	7	F-29	160	IIc	〃	〃	1.4	〃	〃	〃	67	G-21	64	〃	〃	Ia_1	56.8	〃
〃	〃	8	J-24	12	IIb	〃	Ia	2.9	〃	III-358	〃	68	J-25	78	I	〃	II	80	〃
〃	〃	9	F-25	385	〃	〃	Ib	0.5	〃	〃	〃	69	F-29	63	〃	〃	〃	190	〃
〃	〃	10	E-29	36	IIc	〃	〃	1.4	〃	〃	〃	70	F-25	327	IIb	〃	〃	30	〃
〃	〃	11	F-29	136	IIb	〃	〃	1.7	〃	〃	173	71	H-22	48	〃	つまみ付きナイフ	Ib_1	7.9	Sh
〃	〃	12	N-24	83	〃	〃	〃	1.1	〃	〃	〃	72	P-25	45	II	〃	Ib	20.2	〃
〃	〃	13	E-29	38	IIc	〃	〃	0.7	〃	〃	〃	73	F-29	223	IIb	〃	〃	28.5	〃
〃	〃	14	F-29	287	〃	〃	〃	0.8	〃	〃	〃	74	I-23	40	〃	〃	〃	26.9	〃
〃	〃	15	E-29	47	〃	〃	〃	1.0	〃	〃	〃	75	H-20	231	IIc	〃	Ic	24.3	Obs
〃	〃	16	F-29	289	〃	〃	〃	7.9	〃	〃	〃	76	J-20	56	IIb	〃	〃	23.9	Sh
〃	〃	17	I-25	42	II	〃	IIc	0.9	〃	〃	〃	77	I-25	232	〃	〃	〃	12.1	〃
〃	〃	18	I-20	271	〃	〃	〃	1.6	〃	〃	〃	78	J-21	296	〃	〃	Ia	25.7	〃
〃	〃	19	I-25	41	〃	〃	〃	1.5	〃	〃	〃	79	I-21	70	〃	〃	IIa	7.0	〃
〃	〃	20	K-24	107	〃	〃	〃	2.5	〃	〃	〃	80	M-22	349	〃	〃	IIb	20.2	〃
〃	〃	21	N-23	160	IIb	〃	〃	1.5	〃	〃	〃	81	H-21	121	〃	〃	〃	23.7	〃
〃	〃	22	F-21	48	〃	〃	IId_1	1.4	〃	〃	〃	82	P-25	44	II	〃	IIa	17.8	〃
〃	〃	23	H-20	10	II	〃	IId_2	0.9	〃	〃	〃	83	J-22	46	IIb	〃	IIIb	29.0	〃
〃	〃	24	J-26	239	〃	〃	〃	1.3	〃	III-359	〃	84	P-23	41	II	〃	IIIa	44.8	〃
〃	〃	25	G-28	62	III	〃	〃	1.7	〃	〃	〃	85	K-21	228	IIc	スクレイパー	I	27.0	Obs
〃	〃	26	I-25	148	IIb	〃	〃	1.6	〃	〃	〃	86	F-24	59	II	〃	EI	32.3	Sh
〃	〃	27	J-21	377	〃	〃	〃	2.4	〃	〃	〃	87	G-26	100	IIb	〃	EII	11.6	〃
〃	〃	28	L-21	183	〃	〃	IIIa	0.8	〃	〃	〃	88	K-23	83	II	〃	I	7.8	〃
〃	〃	29	F-18	22	II	〃	〃	0.7	〃	〃	〃	89	H-23	263	IIb	〃	V	29.1	〃
〃	〃	30	I-19	150	IIb	〃	IIIb	1.0	〃	〃	〃	90	H-22	47	〃	〃	IIIa	44.1	〃
〃	〃	31	N-23	63	〃	〃	〃	2.3	〃	〃	〃	91	K-25	336	II	〃	IV	50	Mud
〃	〃	32	N-24	112	〃	〃	〃	1.8	〃	〃	〃	92	O-24	442	〃	異形石器		0.7	Obs
〃	〃	33	L-23	23	II	〃	〃	2.2	〃	〃	〃	93	F-25	359	IIb	〃		2.7	Sh
〃	〃	34	F-29	135	IIb	〃	IId_1	1.6	〃	〃	〃	94	K-23	9	〃	〃		1.8	Obs
〃	〃	35	G-21	85	〃	〃	〃	1.7	〃	〃	〃	95	M-25	77	〃	〃		1.8	〃
〃	〃	36	P-22	28	〃	〃	IId_2	2.0	〃	〃	〃	96	F-23	79	I	〃		15.3	〃
〃	〃	37	J-20	314	〃	〃	IIIa	2.6	〃	〃	〃	97	K-21	188	IIc	石斧	IIa_1	14.7	Gr-Mud
〃	〃	38	I-31	120	I	〃	〃	3.8	〃	〃	〃	98	M-32	137	I	〃	IIb_1	14.4	Sch
〃	〃	39	H-22	106	II	〃	IIc	1.7	〃	〃	〃	99	O-25	21	IIb	〃	〃	15.7	〃
〃	〃	40	G-24	16	IIb	石錐	I	1.5	Sh	〃	〃	100	E-28	81	〃	〃	〃	25.9	Mud
〃	〃	41	O-24	221	〃	〃	〃	4.9	Aga	〃	〃	101	I-32	406	I	〃	〃	31.9	Gr-Sch
〃	〃	42	G-23	89	〃	〃	IIb	3.9	Sh	〃	〃	102	O-29	3	〃	〃	〃	32.8	Gr-Mud
〃	〃	43	M-24	226	〃	〃	〃	6.5	〃	III-360	〃	103	P-24	73	II	〃	Ib_2	3.3	〃
〃	〃	44	H-25	179	〃	〃	IIIa	1.5	〃	〃	〃	104	J-25	162	I	〃	IIc_2	4.4	〃
〃	〃	45	I-25	40	II	〃	〃	1.1	〃	〃	〃	105	I-32	405	〃	〃	IIb_2	16.5	Sch
〃	〃	46	I-23	41	IIb	〃	〃	1.5	〃	〃	〃	106	K-31	40	〃	〃	IIa_2	18.6	〃
〃	〃	47	F-26	44	〃	〃	IIb	17.2	Obs	〃	〃	107	N-22	64	II	〃	〃	28.3	Gr-Mud
〃	〃	48	F-24	221	〃	ポイント・ナイフ	Ia_2	5.2	〃	〃	〃	108	J-33	8	I	〃	Ic_2	15.7	Sch
〃	〃	49	G-22	67	〃	〃	Ia_1	3.9	〃	〃	〃	109	P-24	39	〃	〃	Ia_1	18.8	Gr-Mud
〃	〃	50	F-23	117	II	〃	〃	7.4	〃	〃	〃	110	J-29	33	〃	〃	Ic_2	70.4	〃
〃	〃	51	J-26	359	IIb	〃	〃	7.0	〃	〃	〃	111	J-31	171	〃	〃	Ia_2	60.5	Sch
〃	〃	52	J-21	40	II	〃	〃	4.4	〃	〃	〃	112	F-23	266	〃	〃	Ia_1	33.4	〃
〃	〃	53	I-26	145	IIb	〃	Ia_2	11.0	〃	〃	〃	113	H-32	11	〃	〃	〃	79.9	Gr-Mud
〃	〃	54	G-27	73	II	〃	Ia_1	12.8	〃	〃	〃	114	F-23	199	II	〃	Ia_2	108.3	〃
〃	〃	55	F-25	342	IIb	〃	〃	10.0	〃	〃	174	115	H-33	154	I	〃	〃	203.4	〃
III-357	〃	56	P-25	43	II	〃	Ia_2	8.9	〃	〃	〃	116	J-21	92	IIb	〃	Ia_1	114.1	〃
〃	〃	57	G-21	65	IIb	〃	Ib	30.8	Sh	III-361	〃	117	N•O-23	340•334	IIb•II	〃	$IIIa_2$	665	La-Ba
〃	〃	58	N-22	37	〃	〃	II	27.9	〃	〃	〃	118	O-24	111	II	〃	II-	45.0	Gr-Mud
〃	〃	59	F-20	9	II	〃	〃	19.2	Obs	〃	〃	119	P-25	29	〃	〃	I-	82.0	〃
〃	〃	60	J-21	91	IIb	〃	〃	23.9	Sh	〃	〃	120	I-19	339	IIb	〃	〃	127.7	〃

挿図	図版	番号	出土区	遺物番号	層位	名称	分類	重量(g)	石材
III-361	174	121	H-24	420	IIb	石斧	I-	95.7	Gr-Mud
〃	〃	122	H-25	161	I	〃	〃	189.3	〃
〃	〃	123	G-20	133	IIb	〃	〃	218.1	〃
III-362	〃	124	F-26	121	〃	たたき石		390	Qua
〃	〃	125	I-21	207	〃	〃		285	〃
〃	〃	126	N-23	411	IIc	〃		390	And
〃	〃	127	K-24	207	IIb	〃		725	Qua
〃	〃	128	K-21	276	〃	〃		570	And
〃	〃	129	H-20	125	〃	〃		685	〃
〃	〃	130	J-21	241	IIc	〃		550	〃
〃	〃	131	I-20	289	II	〃		235	〃
〃	〃	132	H-21	177	IIc	〃		240	〃
〃	〃	133	H-20	206	IIb	〃		500	Qua
〃	〃	134	O-34	18	I	〃		235	Gr-Mud
〃	〃	135	H-21	85	II	〃		165	〃
〃	〃	136	I-20	122	〃	〃		260	Gr-Sa
III-363	175	137	L-22	159	〃	すり石		390	And
〃	〃	138	H-23	115	IIb	〃		305	〃
〃	〃	139	F-22	308	II	〃		285	〃
〃	〃	140	J-26	21	IIb	〃		225	〃
〃	〃	141	F-26	103	I	〃		440	〃
〃	〃	142	I-20	103	IIb	〃		320	〃
〃	〃	143	F-23	232	II	〃		290	〃
〃	〃	144	L-25	145	〃	〃		310	〃
〃	〃	145	K-20	63	IIb	〃		530	〃
〃	〃	146	J-20	403	〃	〃		410	〃
〃	〃	147	〃	295	〃	〃		430	〃
〃	〃	148	I-23	109	〃	〃		110	〃
〃	〃	149	J-34	1	I	〃		93	Gr-Mud
〃	〃	150	F-22	290	II	〃		505	And
〃	〃	151	O-24	144	I	北海道式石冠		95	〃
〃	〃	152	P-22	80	II	〃		140	〃
〃	〃	153	O-23	272	IIb	〃		90	〃
〃	〃	154	G-29	32	I	〃		210	〃
〃	〃	155	I-24	124	II	〃		275	〃
〃	〃	156	F-22	363	〃	〃		780	〃
〃	〃	157	I-19	345	IIb	〃		840	〃
III-364	175	158	J-26	437	IIb	北海道式石冠		420	And
〃	〃	159	I-19	259	II	〃		785	〃
〃	〃	160	O-23	221	〃	〃		1695	〃
〃	〃	161	Q-32	1	I	〃		1400	〃
〃	176	162	J-20	175	〃	〃		525	〃
〃	〃	163	I-19	102	IIb	〃		7100	〃
〃	〃	164	H-21	38	〃	〃		2550	〃
〃	〃	165	J-24	150	〃	くぼみ石		235	〃
〃	〃	166	H-23	98	II	〃		250	〃
〃	〃	167	G-26	153	IIb	〃		240	〃
III-365	〃	168	I-21	151	〃	〃		310	〃
〃	〃	169	I-24	286	〃	〃		270	〃
〃	〃	170	〃	263	〃	〃		270	〃
〃	〃	171	F-27	140	〃	〃		625	〃
〃	〃	172	F-25	285	〃	石鋸		25	Sa
〃	〃	173	P-30	111	I	〃		35	〃
〃	〃	174	M-31	120	〃	〃		50	〃
〃	〃	175	K-25	62	II	砥石		170	And
〃	〃	176	〃	408	IIb	〃		140	Sa
〃	〃	177	I-20	142	〃	〃		160	Mud
〃	〃	178	K-22	28	I	〃		365	Sa
〃	〃	179	H-19	84	IIb	〃		380	〃
〃	〃	180	F-27	306	〃	〃		395	Mud
〃	〃	181	I-19	257	IIb	〃		900	Sa
〃	〃	182	O-25	137	I	石錘		540	And
〃	〃	183	I-31	227	〃	〃		30	〃
〃	〃	184	G-24	153	〃	〃		115	〃
〃	〃	185	G-23	214	IIb	R 礫		105	〃
〃	〃	186	H-23	131	I	〃		140	〃
〃	〃	187	O-25	145	IIb	礫 △		1055	〃
III-366	177	188	H-20	217	〃	石皿・台石		7600	〃
〃	〃	189	G-20	1	II	〃		13700	〃
〃	〃	190	P-22	1	I	〃		20500	〃
〃	〃	191	J-23	42	IIb	〃		18600	〃
〃	〃	192	O-26	155	〃	〃		29700	〃
〃	〃	193	I-21	75	〃	〃		30800	〃

表25　遺構・包含層掲載土製品・石製品一覧

挿図	図版	番号	遺構・発掘区・遺物番号	層位	名称	大きさ 長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	備考
III-367	179	1	FH-16-	床面	土偶	5.7 × 5.0 × 1.2	21.4	両腕貫通孔
III-368	〃	2	P-22-26	IIb	有孔土製品	(2.5)×(4.5)× 1.2	(9.8)	IIB
〃	〃	3	FH-23-393	覆土	棒状 〃	(3.1)× 1.6 × 1.5	(6.5)	〃
〃	〃	4	FH-35-342	〃	有孔 〃	2.1 × 2.2 × 1.6	4.6	〃
〃	〃	5	E-29-20	I	擦切板状 〃	(7.4)× 4.5 × 1.5	48.6	IIb・2a
〃	〃	6	I-31-168	〃	台	2.4 ×(3.3)× 3.2	(22.2)	IIB
〃	〃	7	F-29-20	〃	把手	(4.9)×(3.6)×(1.9)	(22.0)	IIB・2c
〃	〃	8	J-31-138	〃	杓子形土製品	(4.0)×(5.8)×(7.3)	(71.1)	IIB?
〃	〃	9	K-32-32	〃	〃	(5.3)×(2.5)× 2.5	(29.9)	IIB
〃	〃	10	F-24-22	〃	〃	(6.9)×(4.8)×(3.6)	(45.0)	IIB?
〃	〃	11	I-31-146	I	再生土製円盤	2.7 × 2.8 × 0.9	6.4	周縁スリ IIB
〃	〃	12	FH-16-2764	覆土	〃	3.0×(1.6)× 0.8	(3.7)	IIB
〃	〃	13	N-29-31	I	〃	(2.7)× 3.2 × 0.7	(5.4)	IIB
〃	〃	14	FH-22-541	覆土	再生土製円盤	3.3 ×(2.3)× 1.0	(4.8)	IIB
〃	〃	15	FH-16-2215	覆2	〃	(3.3)×(2.4)× 0.8	(4.7)	〃
〃	〃	16	FH-32-64	覆土	〃	3.3 × 3.6 × 0.9	10.4	〃
〃	〃	17	F-25-122	I	〃	3.8 × 3.7 × 0.8	12.9	IIB 周縁スリ
〃	〃	18	I-32-328	〃	〃	(2.5)×(3.6)× 1.0	(4.7)	IIB・2b
〃	〃	19	I-32-315	〃	〃	4.3 ×(3.5)× 1.1	(13.3)	IIB
〃	〃	20	K-33-37	〃	〃	4.4 × 4.4 × 1.0	17.2	〃
〃	〃	21	O-24-201	II	〃	4.4 × 4.6 × 0.9	17.4	〃
〃	〃	22	I-32-309	I	〃	(4.0)× 4.6 × 1.1	(15.9)	〃
III-369	〃	23	G-27-116	覆土	〃	(3.2)× 4.6 ×0.9	(12.5)	〃
〃	〃	24	P-34-3	I	〃	(4.3)×(2.2)× 1.4	(8.6)	〃
〃	〃	25	G-19-34	II	〃	4.9 × 4.7 × 1.2	26.1	IVA
〃	〃	26	Q-26-10	I	〃	(3.0)×(5.1)× 1.0	(12.6)	IIB

挿図	図版	番号	遺構・発掘区・遺物番号	層位	名称	大きさ 長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	備考	挿図	図版	番号	遺構・発掘区・遺物番号	層位	名称	大きさ 長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	備考
III-369	179	27	O-25-74	I	再生土製円盤	5.1 × 4.6 × 0.9	(16.8)	IIB	III-371	180	70	FH-32-64	覆土	再生土製円盤	(2.0)× 3.4 × 1.0	(4.6)	IIB
〃	〃	28	L-25-36	II	〃	5.3 × 5.1 × 1.0	(18.1)	〃	〃	〃	71	FH-12-2121	〃	〃	3.4 ×(1.9)× 0.7	(4.1)	〃
〃	〃	29	I-32-381	I	〃	5.5 × 5.5 × 1.2	32.9	〃	〃	〃	72	F-22-68	IIb	〃	3.1 × 3.5 × 0.9	8.8	〃
〃	180	30	G-27-47	〃	〃	5.7 ×(3.6)× 1.0	(15.5)	〃	〃	〃	73	K-24-177	〃	〃	3.5 × 3.3 × 0.8	6.0	〃
〃	〃	31	O-23-93	〃	〃	(2.8)× 5.6 × 1.0	(13.9)	〃	〃	〃	74	O-31-30	I	〃	(3.3)× 3.5 × 1.2	(10.2)	〃
〃	〃	32	FH-16-2170	覆2	〃	(3.6)×(5.7)× 1.3	(16.7)	〃	〃	〃	75	FH-20-89	覆土	〃	3.8 ×(2.9)× 0.9	(6.1)	〃
〃	〃	33	FH-36-587	覆土	〃	(4.3)×(3.8)× 1.1	(14.2)	周縁スリ IIB	〃	〃	76	O-20-88	耕土	〃	3.7 × 3.5 × 0.7	8.7	〃
〃	〃	34	FH-12-3266	〃	〃	6.3 ×(4.5)× 1.2	(23.4)	IIB	〃	〃	77	FH-12-2056	覆土	〃	3.8 × 3.7 × 0.9	10.6	IIB2b
〃	〃	35	J-21-22	II	〃	(6.1)×(3.1)× 1.1	(14.6)	〃	〃	〃	78	FH-19-436	〃	〃	3.5 × 3.8 × 0.9	7.5	IIB
〃	〃	36	J-32-49	I	〃	(7.4)×(4.0)× 1.1	(28.6)	〃	〃	〃	79	FH-32-11	覆1	〃	(2.2)×(3.9)× 0.8	(5.9)	周縁スリ IIB
〃	〃	37	I-32-316	〃	〃	(5.1)×(3.9)×(1.0)	(18.0)	〃	〃	〃	80	FP-126-102	覆土	〃	(2.3)× 3.8 × 1.0	(8.6)	〃
〃	〃	38	H-26-229	IIb	〃	(7.0)×(4.3)× 1.1	(24.7)	IIIB3	〃	〃	81	FH-16-2154	覆2	〃	3.6 × 3.9 × 1.0	11.1	IIB
〃	〃	39	FH-12	覆土	〃	8.6 × 8.2 × 1.1	(76.7)	IIB	〃	〃	82	F-26-141	I	〃	(3.2)× 3.9 × 1.2	(14.3)	〃
III-370	〃	40	G-24-114	II	〃	2.6 × 3.0 × 1.1	8.0	〃	〃	〃	83	FH-29-321	覆土	〃	(3.6)× 3.9 × 0.9	(11.1)	〃
〃	〃	41	FH-28-727	覆土		2.9 × 3.3 × 1.3	9.2	〃	III-372	〃	84	P-33-27	I	〃	3.9 × 3.7 × 1.7	18.5	〃
〃	〃	42	F-25-353	IIb	〃	3.5 × 3.5 × 1.5	14.3	〃	〃	〃	85	G-21-30	IIb	〃	3.7 × 4.0 × 1.1	13.2	〃
〃	〃	43	FH-29-691	覆土	〃	3.7 × 3.5 × 0.7	9.8	〃	〃	〃	86	M-32-92	I	〃	(3.7)×(3.6)× 1.2	(14.8)	〃
〃	〃	44	J-31-9	I	〃	4.1 × 3.9 × 1.0	15.7	IIB2b	〃	〃	87	FH-16-3728	覆土	〃	(3.5)×(2.5)× 0.8	(5.4)	〃
〃	〃	45	FH-36-564	覆土	〃	4.0 × 4.1 × 0.7	13.0	IIB	〃	〃	88	J-21-100	IIc	〃	(3.6)×(4.1)× 1.0	(10.5)	周縁スリ IIB
〃	〃	46	〃	〃	〃	3.8 × 4.2 × 0.8	12.7	〃	〃	181	89	J-27-96	I	〃	(2.3)×(3.6)× 1.1	(7.4)	IIB2a
〃	〃	47	FH-28-486	〃	〃	4.2 × 4.2 × 1.3	24.6	IIIB3	〃	〃	90	I-23-69	IIb	〃	4.0 ×(2.7)× 0.8	(7.5)	IIB
〃	〃	48	N-24-94	IIb	〃	4.4 ×(3.8)× 1.0	(18.6)	IIB	〃	〃	91	FH-24-127	覆土	〃	(2.9)×(2.6)×1.0	(5.6)	〃
〃	〃	49	FH-16-486	覆土	〃	(3.2)× 4.6 × 1.0	(14.2)	〃	〃	〃	92	FH-12-299	床面	〃	(3.1)×(2.9)× 0.9	(5.7)	IIB2b
〃	〃	50	K-27-196	I	〃	(3.9)× 4.4 × 1.0	(15.5)	〃	〃	〃	93	H-32-32	I	〃	4.1 × 4.0 ×0.8	13.0	擦痕 IIB2a
〃	〃	51	J-21-385	IIb	〃	4.6 × 4.9 × 0.9	17.0	〃	〃	〃	94	FH-12-590	覆土	〃	4.1 × 4.1 × 0.9	13.8	周縁スリ IIB
〃	〃	52	J-33-64	I	〃	5.1 ×(4.6)× 1.1	(21.3)	〃	〃	〃	95	I-32-252	I	〃	(2.9)× 4.3 ×1.0	(9.3)	IIB
〃	〃	53	FH-12-2605	覆土	〃	5.4 × 5.1 × 1.0	26.7	〃	〃	〃	96	FH-28・HP-2-3	覆土	〃	(2.5)× 3.8 × 0.8	(6.5)	〃
〃	〃	54	FH-12-202	床面	〃	5.5 × 5.7 × 0.9	30.5	周縁スリ IIB	〃	〃	97	H-24-183	II	〃	(3.0)× 3.7 × 0.8	(7.2)	〃
〃	〃	55	G-27-106	覆土	〃	(3.6)× 5.6 × 1.2	(22.5)	IIB	〃	〃	98	FH-12・HP-1-2	覆土	〃	4.1 × 4.2 × 0.9	12.7	周縁スリ IIB
〃	〃	56	J-26-230	IIb	〃	(3.1)×(5.5)× 1.0	(18.0)	周縁スリ IIB	〃	〃	99	FH-9-23	〃	〃	4.2 × 4.2 × 0.9	(13.8)	IIB
〃	〃	57	FH-25-28	覆土	〃	6.0 × 5.7 × 1.0	36.1	IIB	〃	〃	100	F-25-26	I	〃	(3.3)× 3.7 × 0.8	(7.6)	〃
〃	〃	58	F-23-128	IIb	〃	6.5 ×(4.3)× 0.9	(18.3)	〃	〃	〃	101	FH-9・B-52	覆土	〃	(2.5)× 4.2 × 0.9	(7.5)	〃
III-371	〃	59	J-29-1	I	〃	6.7 × 6.7 × 1.0	45.4	〃	〃	〃	102	O-24-347	IIb	〃	4.2 × 4.3 × 1.0	(14.8)	〃
〃	〃	60	I-23-70	IIb	〃	7.2 × 6.0 × 1.3	56.5	〃	〃	〃	103	O-22-328	IIIc		(4.3)×(4.2)× 1.1	(14.0)	〃
〃	〃	61	G-21-222	III	〃	8.0 × 8.7 × 1.2	71.5	IIB底部	〃	〃	104	G-26-199	IIb	〃	(2.9)×(2.3)×0.9	(4.0)	〃
〃	〃	62	M-22-332	IIb	〃	2.3 × 2.5 × 0.6	2.8	IIB	〃	〃	105	M-21-239	〃	〃	4.5 × 3.7 × 0.8	12.9	〃
〃	〃	63	FH-2-167	覆土	〃	2.5 × 2.7 × 0.8	4.2	〃	〃	〃	106	I-22-89	〃	〃	4.2 × 4.5 × 1.0	(15.8)	〃
〃	〃	64	O-25-74	II	〃	(2.5)× 2.8 × 0.8	(3.6)	〃	〃	〃	107	FH-29-731	覆土	〃	(3.4)×(2.8)× 0.8	(6.3)	〃
〃	〃	65	FH-12-3269	覆土	〃	2.9 ×(2.2)× 0.9	(3.9)	〃	〃	〃	108	I-21-39	II	〃	(2.2)×(4.7)× 1.0	(11.4)	〃
〃	〃	66	F-26-17	IIb	〃	3.2 × 3.1 × 0.8	(7.9)	〃	〃	〃	109	FH-15-57	覆土	〃	(2.5)× 4.4 × 0.9	(9.7)	〃
〃	〃	67	I-25-200	〃	〃	(2.6)×(3.2)× 0.7	(4.2)	〃	〃	〃	110	L-25-45	I	〃	(3.1)×(4.0)× 1.1	(8.0)	〃
〃	〃	68	FH-29-HP-2-2	覆土	〃	(1.7)× 3.2 × 1.0	(4.4)	〃	III-373	〃	111	FH-12	焼E	〃	(3.8)×(2.7)× 1.0	(6.4)	〃
〃	〃	69	FH-29-361	〃	〃	3.4 × 3.1 × 0.9	6.4	〃	〃	〃	112	J-26-297	I	〃	(4.5)×(3.4)× 0.7	(10.3)	〃

挿図	図版	番号	遺構・発掘区・遺物番号	層位	名称	大きさ 長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	備考
III-373	181	113	I-18-65	II	再生土製円盤	(3.0)×(4.0)× 0.9	(7.9)	IIB
〃	〃	114	FH-12-309	床面	〃	4.4 × 4.6 × 1.4	21.8	〃
〃	〃	115	G-21-26	II	〃	4.6 × 4.3 × 1.4	23.3	〃
〃	〃	116	FH-29-824	覆2	〃	4.6 ×(3.3)× 0.8	(11.2)	〃
〃	〃	117	P-33-78	I	〃	(3.1)×(4.5)× 1.0	(9.9)	周縁スリ IIB
〃	〃	118	J-31-146	〃	〃	(2.4)×(4.5)× 1.1	(9.8)	〃
〃	〃	119	F-21-22	IIb	〃	(2.3)×(4.1)×0.9	(5.5)	IIB
〃	〃	120	G-24-93	I	〃	4.7 × 4.7 × 0.9	19.3	〃
〃	〃	121	O-29-2	〃	〃	4.6 × 4.7 × 1.1	22.7	〃
〃	〃	122	F-29-4	〃	〃	4.7 × 3.7 × 1.1	19.7	〃
〃	〃	123	L-31-112	〃	〃	(2.8)×(4.7)× 0.9	(9.6)	IIB2a
〃	〃	124	FH-32-58	覆2	〃	(3.0)× 2.7 × 0.8	(11.1)	周縁スリ IIB2a
〃	〃	125	I-31-79	I	〃	(3.2)× 4.7 × 0.9	(12.2)	IIB
〃	〃	126	L-32-80	〃	〃	4.3 ×(3.2)× 1.0	(12.0)	IIB
〃	〃	127	FH-12-34	床面	〃	4.8 × 4.6 × 1.0	16.7	IIB2a
〃	〃	128	FP-119-32	覆土	〃	4.8 × 4.5 × 1.1	22.4	IIB
〃	〃	129	G-19-26	II	〃	(3.8)× 4.8 × 1.1	(20.2)	〃
〃	〃	130	J-22-211	IV	〃	4.8 ×(4.0)× 1.3	(20.9)	〃
〃	〃	131	FH-28-486	覆土	〃	4.6 × 4.8 × 0.9	12.6	〃
III-374	〃	132	F24-45-16	FH-35 覆2	〃	(4.0)×(4.5)× 1.0	(15.1)	〃
〃	〃	133	FP-21-14	覆土	〃	(3.6)× 4.8 × 1.0	(10.9)	〃
〃	〃	134	I-32-223	I	〃	(2.3)× 4.3 × 1.2	(8.9)	〃
〃	〃	135	P-30-22	I	〃	(3.9)×(4.8)× 1.5	(24.1)	〃
〃	〃	136	G-23-71	IIb	〃	4.3 ×(3.3)× 1.1	(11.8)	〃
〃	〃	137	L-32-16	I	〃	(2.6)×(4.5)× 1.1	(10.4)	〃
〃	〃	138	H-33-64	〃	〃	(4.9)×(4.5)× 1.0	(20.4)	周縁スリ IIB
〃	〃	139	FP-143-5	覆土	〃	(3.3)× 4.9 × 0.9	(14.0)	IIB
〃	〃	140	FH-36-516	〃	〃	(2.9)× 4.6 × 0.9	(11.6)	IIB2a
〃	〃	141	FH-14-196	〃	〃	(3.2)×(4.0)× 0.8	(6.3)	IIB
〃	〃	142	F-24-197	I	〃	4.9 ×(2.8)× 0.7	(8.6)	周縁スリ IIB
〃	〃	143	K-28-100	〃	〃	5.0 × 4.8 × 1.1	27.0	〃
〃	〃	144	FH-12-133	床面	〃	4.7 × 5.0 × 0.9	18.8	IIB2a
〃	〃	145	F-26-142	I	〃	5.0 × 5.0 × 1.2	26.3	IIB
〃	〃	146	P-26-57	IIb	〃	4.5 ×(2.8)× 1.3	(11.9)	〃
〃	〃	147	O-24-455	II	〃	(4.4)×(2.9)×(1.2)	(13.9)	〃
〃	〃	148	FH-16-368	覆土	〃	5.1 × 4.9 × 1.2	27.8	〃
〃	〃	149	H-31-84	I	〃	(4.6)× 5.1 × 1.0	(21.9)	〃
〃	182	150	F-23-52	II	〃	(4.9)× 5.1 × 1.0	(22.6)	〃
〃	〃	151	I-23-77	IIb	〃	(4.3)× 5.1 ×1.4	(28.9)	〃
III-375	〃	152	K-23-85	II	〃	(3.7)× 5.2 × 1.0	(13.8)	〃
〃	〃	153	H-25-193	IIb	〃	(3.2)×(5.1)× 0.8	(14.2)	〃
〃	〃	154	H-25-212	〃	〃	(4.5)×(3.5)× 1.0	(10.8)	〃
〃	〃	155	O-34-9	I	〃	(2.5)×(4.9)× 1.3	(12.2)	〃
III-375	182	156	F-24-180	I	再生土製円盤	(4.0)×(3.0)×0.8	(8.5)	周縁スリ IIB
〃	〃	157	FH-12-30	床面	〃	4.8 × 5.3 × 1.0	24.8	IIB
〃	〃	158	FH-35-326	覆2	〃	5.1 ×(3.5)× 0.9	(14.8)	〃
〃	〃	159	H-32-33	I	〃	(4.7)× 5.3 × 1.0	(23.9)	〃
〃	〃	160	G-24-39-31	焼土下	〃	5.2 × 5.3 × 0.8	20.9	〃
〃	〃	161	FH-23-20	覆土	〃	5.3 ×(4.1)× 1.0	(16.3)	〃
〃	〃	162	FH-32-58	覆2	〃	(2.3)×(2.9)×0.9	(5.7)	周縁スリ IIB
〃	〃	163	FH-12-3039	覆6	〃	(3.1)×(5.3)× 0.8	(12.7)	〃
〃	〃	164	FH-33-351	覆土	〃	(2.8)×(3.4) 1.0	(8.2)	IIB
〃	〃	165	P-24-75	II	〃	(2.8)×(5.3)× 0.7	(18.4)	〃
〃	〃	166	F-24-55-31		〃	(4.5)×(4.7)× 1.0	(13.4)	〃
〃	〃	167	Q-32-49	I	〃	(4.7)×(3.8)× 0.7	(11.6)	〃
〃	〃	168	O-29-1	〃	〃	5.5 × 5.3 × 1.0	30.0	IIB2a
〃	〃	169	Q-33-1	〃	〃	5.5 × 5.4 × 1.3	38.9	IIB
〃	〃	170	I-32-352	〃	〃	(2.6)×(5.3)× 1.0	(10.7)	〃
〃	〃	171	F-25-31	〃		(2.9)×(2.6)× 0.9	(6.7)	周縁スリ IIB
〃	〃	172	K-22-131	IIb	〃	5.7 × 4.5 × 0.9	19.0	IIB
〃	〃	173	FH-29-467	覆3	〃	(3.7)× 5.7 × 1.2	(22.1)	〃
〃	〃	174	F-25-121	I	〃	(3.1)×(4.9)× 0.8	(12.5)	周縁スリ IIB2a
〃	〃	175	J-33-85	〃	〃	(4.6)×(3.1)× 1.0	(9.0)	IIB
〃	〃	176	FH-14-246	覆土	〃	(4.6)×(3.0)× 0.9	(9.6)	〃
〃	〃	177	F-25-58	IIb	〃	(3.6)×(2.9)× 0.8	(7.8)	〃
〃	〃	178	I-32-251	I	〃	5.5 × 5.8 × 1.2	33.8	〃
〃	〃	179	I-26-100	IIb	〃	5.2 × 5.8 × 0.9	30.3	〃
〃	〃	180	I-31-8	I	〃	5.9 × 5.7 × 0.9	33.9	〃
〃	〃	181	L-31-111	〃	〃	5.9 × 5.1 × 1.0	32.3	〃
〃	〃	182	FH-12-444	覆土	〃	(5.5)×(3.4)× 1.3	(16.5)	〃
〃	〃	183	I-20-75	II	〃	(4.7)×(2.9)× 1.1	(12.6)	〃
〃	〃	184	FH-29-209	覆土	〃	6.0 ×(5.2)× 1.1	(25.3)	〃
〃	〃	185	FH-27-75	〃	〃	(3.1)×(3.7)× 1.0	(9.4)	〃
〃	〃	186	N-29-18	I	〃	(2.4)×(5.1)× 1.2	(12.9)	〃
〃	〃	187	F-29-119	〃	〃	(5.7)×(3.3)× 1.5	(21.4)	〃
〃	〃	188	FH-12-1224	覆土	〃	5.7 × 6.4 × 0.9	32.9	〃
〃	〃	189	FH-12-3256	〃	〃	6.4 ×(4.8)× 0.9	(23.6)	周縁スリ IIB
III-377	〃	190	I-32-258	I	〃	(3.8)×(3.1)× 1.0	(11.1)	〃
〃	〃	191	J-24-53	IIb	〃	6.2 × 6.7 × 0.9	32.1	〃
〃	〃	192	FH-35-326	覆2	〃	(3.9)×(3.5)× 0.9	(11.2)	周縁スリ IIB
〃	〃	193	FH-32-64	覆土	〃	(3.2)×(3.2)× 0.9	(7.1)	〃
〃	〃	194	F-29-126	IIb	〃	(3.3)×(6.2)× 1.2	(20.5)	〃
〃	〃	195	FH-12-2360	覆土	〃	(5.7)×(5.0)× 0.9	(22.4)	IIB
〃	〃	196	N-24-62	IIb	〃	6.9 × 6.5 × 1.1	45.8	〃
〃	〃	197	FH-16-3181	覆土	〃	7.1 × 6.7 × 1.4	52.9	〃

表26　遺構・包含層掲載石製品一覧

挿図	図版	番号	遺構・発掘区・遺物番号	層位	名　称	大きさ 長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石質	備　考
III-378	183	198	FH-20-1	覆土	玦状耳飾	4.7 × 4.2 ×0.4	14.1	Ser	
〃	〃	199	FH-24-105	〃	〃	(3.5)×(3.2)×0.5	(7.2)	Ta	200と同質
〃	〃	200	FH-20-2	〃	〃 ?	3.9 × 2.1 ×0.4	(7.0)	〃	199と同質
〃	〃	201	FP-130-1	壙底	垂　飾	2.4 × 1.9 ×0.9	5.7	Jad	
〃	〃	202	J-28-1	I	〃	2.9 × 2.9 ×0.7	6.4	Ta	
〃	〃	203	I-32-1	I	玉	2.0 × 1.4 ×1.4	5.8	Per	
〃	〃	204	G-24-30-7	II	有孔石製品	(2.4)×(2.9)×1.9	(6.7)	We-Tu	未貫通
III-379	〃	205	N-13-10	I	三角形石製品	2.4 × 2.7 ×0.6	3.0	Sa	
〃	〃	206	L-21-212	IIc	垂飾原石	4.3 × 2.2 ×0.9	12.7	Ser	加工なし
III-379	183	207	F-22-366	I	小型北海道式石冠	3.1 × 3.6 ×2.4	26.5	Sa	下面磨沢
〃	〃	208	FH-16-2348	覆土	小型石斧	2.6 × 1.3 ×0.6	2.2	〃	
〃	〃	209	FH-12-2763	床面	〃	1.9 × 1.1 ×0.3	1.0	Gr-Sch	剝片再加工
〃	〃	210	FH-12-2191	覆土	〃	2.0 × 1.7 ×0.5	3.0	Gr-Mud	〃
〃	〃	211	J-25-162	I	〃	3.5 × 1.7 ×0.5	4.4	〃	〃
〃	〃	212	P-24-73	II	〃	3.6 × 1.7 ×0.4	3.3	〃	〃
〃	〃	213	FH-12-2580	覆土	〃	4.2 × 1.9 ×0.6	5.5	〃	〃
III-380	〃	214	L-31-119	I	石棒	(19.8)× 10.5 ×9.6	2500	And	

表27　金属製品一覧

挿図	図版	番号	発掘区	遺物番号	層位	名　称	直径cm	重量(g)	材質	製造年	備　考
	192	1	I-30	197	I	寛永通宝	22.9	2.3	銅	寛文8～	変形
	〃	2	F-24	40	〃	〃	24.8	3.0	〃	〃	〃
	〃	3	K-28	90	〃	〃	23.4	2.3	〃	〃	
	〃	4	I-28	24	〃	天保通宝	48.8×32.6	19.6	〃	天保6年	
	〃	5	G-27	84	〃	菊5銭白銅貨	20.6	3.9	白銅	明治22～30年	年号読みとれず
	〃	6	F-29	245	〃	稲1銭青銅貨	27.0	6.2	青銅	大正2年	
	192	7	J-28	95	I	桐1銭青銅貨	23.0	2.9	青銅	大正7年	
	〃	8	I-29	31	〃	小型5銭白銅貨	18.8	2.1	白銅	大正11年	
	〃	9	N-30	53	〃	10銭白銅貨	21.7	2.8	〃	大正12年	
	〃	10	P-21	39	〃	カラス1銭アルミ貨	17.6	0.9	アルミ	昭和14年B	
	〃	11	G-18	3	〃	菊10銭アルミ貨	21.8	0.9	〃	昭和18年	

財団法人北海道埋蔵文化財センター調査報告書　第72集

余市町
フゴッペ貝塚

－北後志東部地区広域営農団地農道整備事業用地内埋蔵文化財発掘調査報告書－

本文編

平成3年3月29日発行

編集・発行　財団法人北海道埋蔵文化財センター
〒064 札幌市中央区南26条西11丁目
Tel (011)561－3131
印　　刷　興国印刷株式会社
〒063 札幌市西区西町南13丁目1番40号
Tel (011)665－4155

この報告書は後志支庁のご了解を得て増刷したものです。